續々群書類從

第二

續々群書類從第二

例言

一本篇は、史傳部の首巻として、續皇年代略記以下七種を收む。

一續皇年代略記は、名稱の如く皇年代略記の續篇として、後水尾天皇より光格天皇に至る十一代の事蹟を略記す。明和、寛政頃の和學者小野齋宮高潔の編纂なり。本會は初め、同名の書にして本書よりも數層詳密なる者を收むる豫定なりしも、子細に檢閲するに及び、其錯簡誤謬多くして、多くの月日を費やすに非されば一書の體裁を具備するに至らざる事を發見し、止むを得ず本書を以て之に代ふることゝせり、本書は黑川眞道氏の藏本にして、高潔の記せる本文に後人の頭註を加へたる者なり。詳細の事は巻尾に記し置けるを以て就きて見る可し。

一本朝歷代法皇外紀は、寛文年中山城葛野郡衣笠山地藏院の住僧釋元策の著はせる者にして、聖武帝以降歷代入道し給へる帝王の佛法關係事蹟を述べ、卷末に附するに皇族、貴族、武家等にして出家薙髮せる者の人名表三則を載せたり。別に右外紀と相待ちて歷代佛法の開發と崇信の事蹟を發揮せん爲め、百濟聖明王の佛像貢納の表を始め、我諸帝の遺文を書史塔碑より恰ねく採摭して一卷と爲せる者を緇門鴻寶とす。緇門鴻寶を本部に收むるは稍、其處を得ざるの觀なきに非ざるも、右に述べたる理由よりして外紀の後に列し置けり。此等二書は今善本を得ざるを以て暫らく内閣本に據り、日本紀以下の史書を以て校訂し所々今案等を加ふ。

一議奏歷は、延寶六年より弘化三年に至る間議奏となりたる人の任免年月日及び享年等を記し、傳奏次第は一に武家傳奏次第と

云ひて、慶長八年初めて傳奏を置きてより寛政五年に至る間、之に任じたる四十一人の任免歿の年月及在職年數等を記す。以上二書は內閣本に據る。處々缺字等あるも、他に類本を得ざるを以て補ふこと能はず。

一辨官補任は、一條帝の寬弘以降左右辨の任轉免の次第を記したる者にて、其完本世に少し。本編收むる所の萩野博士藏十二卷本は、光格天皇享和二年に至る迄を記し、最も全備せる者なり。但し鳥羽帝の建久八年以前は塙氏の群書類從既に是を載せたるを以て、本編は其後を採れり。是を校合するには圖書寮本、黑川眞道氏本と、內藤廣前の校本を以てせしも、孰れも中間及近代の部を缺くが故に、此等の箇處は公卿補任及其他諸書を以て校訂を遂げ、猶本書最後の目錄を缺きたるを以て、今便宜上是を補へり。其他體裁前後或は一致せざる者あれど、原本の面目を存して本書

編纂の由來を知るの一助たらしめん爲め、わざと之を改めず。

一天台座主傳三卷は、天台座主記の後を繼ぎて、第八十八代道玄僧正建治二年天台座主に補してより、一百二十三代二品尊寶親王に至る迄百三十六世間、職事政事の次第を諸家及青蓮院の記錄に據りて記せる者にて、青蓮院の諸大夫進藤加賀守爲善の撰なり。又天台要略第六は尊寶親王より明治三年座主廢止に至る迄の事を記し、何人の手に出づるかを詳にせずと雖も、其續錄と見る可き者なるを以て今是を附錄として添ふることゝせり。此二書は共に内閣本に據る。所々誤字缺文なきに非ざるも、類本を得ざるを以て一々之を正す能はず。

一東寺長者補任は、弘仁十四年空海東寺を給はりしより寛永十一年長者増孝に至る間、寺務繼承の次第を記し、傍歷世の治亂興廢諸寺院の盛衰等に及ぶ。世東寺長者補任と稱する者三種あり、其

一は塙氏群書類從に收めたる者、其二は續群書一覽に解題して杲寶撰と稱する者是也、本編收むる所は內閣所藏に係り是等とは又別本にして、最も詳密なる者なり。是亦類本を得て校合する能はず、只誤謬顯著なる者は是を改め、疑はしき者は傍注又は割注を以て今按を加へたり。

一興福寺別當次第は、天平勝寶年中より元龜元年に至る別當補任の次第を記し、傍世上の事に及ぶ。年會五師の記錄掛の撰述に係り、其前半は文明以前より存し、後半は文明十四年に書續きたる者なること、奥書を見て知らる。本書原本は往年一時大槻如電翁の手に歸しありしを興福寺再興の際是を還附せられ、別に一本を寫して校訂を加へ置かれたるを、黑川眞道氏更に複寫して祕藏せらるゝ者にて、今般本會是を請ひ得て本編中に收めたる也。

一本編纂輯に就きては、文學博士萩野由之氏親しく材料選擇の勞

を執られ、又鷲尾順敬氏よりは有益なる助言を得たり、茲に是を謝す。

明治四十年一月

續々群書類從第二史傳部

目録

新撰座主傳

東寺長者補任

興福寺別當次第 原本無卷名

續々群書類從第二史傳部目錄終

續々群書類從第二

史傳部　一

續皇年代略記

平高潔纂

後水尾天皇（御諱政仁、〇慶長十八年迄之事實已見前編、）

元和六年六月二日以准后為中和門院、（皇妣諱前子、關白前久公女、）十年三月廿五日行幸仙院、寛永三年九月三日幸右大臣二條堀川第、十日還幸、五年正月三日殿上淵醉有舞、六年十一月八日讓位、同日太上天皇尊號、延寶三年十一月十四日八十御賀被行、八年（庚申）八月十八日寅刻崩、御寶算八十五、閏八月八日亥刻奉葬于泉涌寺邊、

（首書）△慶長十七年四月廿四日雨雹、同十九年四月十六日大佛殿鑄鐘、自九月至十月畿內近國風流踊、同冬將軍攻大坂城、果為和睦、同十月十五日大地震、翌年五月七日重將軍秀忠公以諸國軍兵攻大坂城、落城、神社佛閣民屋等多以燒拂耳、秀賴伏誅、元和二年四月十七日大相國家康公薨、日光山崇神號為東照大權現、同三年五月朔日大雹降、同四年八月六日六角堂燒失、同五年自夏至冬於東南之天每夜有白氣、如牛角如虹數百丈、又彗星如火炎、同六年二月晦日上京火、同三月四日又上京大燒亡、諸人周章、同九年七月十五日家光公任征夷大將軍、寛永元年三月廿五日行幸於國母仙院、幸路左右餝風流、設假屋置市廛物、供奉公卿殿上人行粧殊盡善美、同三年夏秋大旱井渴、同九月六日行幸於相國二條亭、同十日還御、同六年九月十日清水寺堂塔坊舍回祿、同月廿一日太神宮正遷宮、

明正天皇（御諱興子、〇寛永十九年迄之事實已見前編、）在位十四年、

寛永二十年十月三日朝覲行幸、（一云行幸新殿、）同日讓位、十二日尊號、元祿九年（丙子）十一月十日崩、御寶算七十四、二十五日奉葬于泉涌寺邊、

寛永尙十四、七年到ニ二十年一、

首書△寛永七年十月四日夜高野山大塔炎上、同八年二月廿二日淸水寺再興、同四月於ニ甲斐國山里一、大雹數日降、麥菜或山鳥野鷄兎狐狸類被レ打ニ氷雹一死、荷ニ擔彼禽獸一獻ニ大樹一充レ糧云々、奇怪之事也、同九年正月廿四日外戚相國薨、號ニ大德院一、同年秋冬之間有ニ日月赤氣一、同十年正月九日知恩院堂塔佛閣不レ殘回祿、同十一年四月十三日雹降埋レ地、同十二年九月十六日行ニ幸于仙洞一、同十二月七日東寺塔炎上、同十四年春夕陽赤氣如レ虹、至ニ夏秋一、而自ニ日出一以來東有ニ赤氣一、連續至レ冬、同冬於ニ肥前國島原一一揆起、皆異國吉利支丹之宗旨也、以ニ筑紫軍兵一追罰、翌年二月廿八日賊悉滅、同十七年三月十五日行ニ幸仙洞一、同年六月十三日巳刻許、奥州松前俄暗冥、而無ニ晝夜差別一、至ニ同十五日巳刻許一僅見ニ人形貌一、午刻許如ニ夜明一、而物色鮮明也、夷嶋同レ之云々、同刻自ニ松前城一相隔行程八日許之地、於ニ於宇地浦一大波興、號ニ津波一云々、高鹽之類歟、滔天陸地十里許波瀾激發、又同所之山燒破而入レ海、件山燒之時如ニ鞠勢石一同ニ木根等一飛ニ散空中一、或被レ打溺レ水死亡者千人許、魚鳥之類不レ勝レ計、彼近邊灰燼降埋レ地七尺許、至ニ松前志摩守某城邊一少石木飛來、灰燼又同、其深三尺許、至ニ八月廿二日一燒未レ止云々、亦燒破山入レ海之後猶海中大山湧出、其大如ニ土峰一、同年牛多死、同十八年八月三日家綱公誕生、同十九年自レ春至レ夏飢饉餓死、同年七月三日迎ニ中和門院十三回忌一、於ニ仙洞一修ニ行結緣灌頂一、大阿闍梨大覺寺宮、

首書○寛永廿年四月廿九日皇子穩仁誕、

後光明天皇 御諱紹仁、後水尾天皇第三皇子、御母壬生院京極局園子、園基任公女、

寛永十年癸酉三月十二日降誕、奉レ號ニ素鵞宮一、十九年十一月十五日爲ニ親王一、二十年九月二十七日御元服、加冠攝政康通公、理髮頭右中辨綏光朝臣、十月三日受禪、今日先自ニ仙洞一渡ニ御內裏一、十一月十五日御讀書始、二十一日御卽位、慶安四年二月二十五日行ニ幸于院一、二十九日還幸、承應二年六月二十三日內裏炎上、行ニ幸仙洞一、三種神器同渡御、七月三日內侍所奉レ遷ニ假殿一、三年三月十二日內裏木作始、九月二十日崩御依ニ疱瘡一也、寶算二十二、十一月十五日奉レ葬ニ于泉涌寺邊一、在位十一年、

正保四、元年甲申、慶安四、元年戊子、承應三、元年壬辰、首書
△寛永廿一年五月廿九日伊勢兩太神宮造替山口祭、同七月廿九日夜伊勢國疾風甚雨、兩太神宮山松杉多顛倒、正殿萱葺高欄等破損、風宮被レ壓大木顛倒、御正體奉レ遷二御倉一、依レ之仰二禰宜一一七日有二御祈一、同年自二九月三日一、於二吉田社一、七ヶ日神道護摩○正保元年八月廿九日東御所皇女薨、十月二日皇女賀子爲二內親王一、△正保二年正月廿三日愛宕山炎上、同十一月三日改二日光山東照社一授二宮號一、同三年日光山東照宮奉幣、自二今年一永代毎年可二發遣一之由、有二宣命一、同九月十一日例幣再興、仍被レ下二公卿敕使一、同廿一日山門大會、○四年九月十一日伊勢例幣使再興、△慶安四〇今按元之誤年四月依二東照宮卅三回忌一、於二日光山一准二勅會一有二御八講一五ヶ日、同二年八月十八日迎二後陽成院卅三回聖忌一、於二仙洞一有二懺法一、日光宮爲二導師一、同年九月廿五日伊勢內宮正遷宮、同廿七日外宮正遷宮、○慶安二年十月十一日近衛信尋公薨、△同三年三月十六日有二春日社里神樂一、同月廿日於二因幡堂一有二曼供一、同十一日朔旦冬至平座、○三年十月十五日女一宮生、孝子、△同四年二月廿五日行二幸于仙洞一、同廿九日還幸、同三月廿三日八幡宮一社奉幣、大樹依二不例一也、同四月十六日武州東叡山東照宮正遷宮、同月八日〇今按廿日歟大樹薨、號二大猷院一、同五月三日大猷院贈二正一位太政大臣一、○四年五月十五日昭子內親王薨二十七、△同七月十三日源家綱卿將軍宣下、同廿六日將軍任槐、同五年六月十一日春日社上遷宮、○承應二年七月十日將軍轉二任右大臣一、同十一月廿六日、七日、八日、三ヶ夜內侍所御神樂、

後西院天皇御諱良仁、後水尾天皇第六皇子、御母逢春門院隆子、櫛笥隆致公女、

在位八年、寛永十四年丁丑十一月十六日降誕、奉レ號二秀宮一、正保四年九月十五日爲二親王一、十一月二十七日渡二御花町殿一、慶安四年十一月二十五日御二元服於院御所一、加冠尚嗣公、理髮頭右大辨俊廣朝臣、卽日敍二三品一任二式部卿一、承應二年正月二十一日敍二一品一、三年十一月二十八日御踐祚、同日劍璽渡二御子花町第一、此間御二座仙洞一、明曆元年內裏造畢、十一月十日遷二幸土御門內裏一、十四日內侍所渡二御于新殿一、二年正月二十三日御卽位、萬治四年正月十五日內裏炎上、行二幸照高院道晃親王白川第一、內侍所同渡御、二月十八日遷二幸近衛基熙公第一、

寛文二年五月二日内裏造營木作始、十一月五日上棟、三年正月二十四日警固々關、二十六日讓二位於皇太弟一、二月三日蒙二尊號一、四年新院造畢、貞享二年乙丑二月二十二日崩、御寶算四十九、三月七日奉レ葬二于泉涌寺邊一、

明曆三元年乙未、萬治三元年戊戌、寛文尚二、元年辛丑、首書

○明曆元年五月十四日皇子長仁生、十月十四日皇子穩仁爲二親王一、二年三月十五日皇子幸仁生、△明曆元年十一月十一日内裏安鎭、同廿一日紫宸殿上棟、同廿七、八、九、三ヶ夜内侍所御神樂、同二年八月廿二日武州江戸大風、同三年正月十八、九、兩日江戸大火、城郭武士家民家屋過半燒亡、人馬燒死不レ可二勝計一、同四年正月十日江戸大火、同二月廿二日大火、同八月三日夜大風大雨、賀茂川堤切、東川原洪水、寛治○今按萬治之誤元年十二月三十日伊勢内宮炎上、荒祭宮風日祈宮拂レ地爲二灰燼一、御正體神寶等奉レ遷二山中一、依レ之廢朝五ヶ日、同後十二月廿九日夜内宮宇治鄉中村燒失、馬燒死、兩宮七ヶ夜觸穢、同二年正月廿五日午下刻自二室町二條押小路邊一火事出來、至二四條坊門一燒止、于レ時戌刻許也、同四月十八日太神宮假殿遷宮、有二一社奉幣一、同十九日太神宮臨時造營山口祭、同十一月廿五日太神宮正遷宮、有二一社奉幣一、同十二月十九日荒祭宮正遷宮、同廿一日風日祈宮正遷宮、同廿七日對馬國大火、家千五百戸燒亡云云、同三年正月十四日申刻江戸火事、及二翌日巳刻一止、人多燒死、尾州名護屋火事、同廿四日江戸火事、同二月六日尾州火事、同十日以後至二十五日一朝日赤、同十四日曉月赤、入日赤、同日仙洞有レ犬喰レ人、院中卅ヶ日穢、同年六月十八日戌刻計大坂雷電大雨落二于城中一、焔硝倉城廓築地殿舍橋石懸數ヶ所顚倒、桁梁火口砕散二五六町一而止、或不レ知二行方一、死人百餘人有レ之云、又天主三許尺南方傾、又大石飛來打二破天主三重目屋上横一止二引物之木一件石不レ得二取出一、令レ砕二取之一、又東方樹木悉顚倒、同七月廿九日洛中川邊之小社二三社、禰宜館、不レ殘流、宇治橋落、上下之町中二百五十餘、宇治六鄉中大小家、悉破損、同八月廿日自二丑刻一大風大雨、洛中洪水、淀横大路三栖堤切、淀大橋流、木津宇治邊洪水、越二宇治橋一、諸國所々洪水、同日於二仙洞一爲二後光明院七回忌一有二曼供一九月廿日自二卯刻一大風甚雨、

同江戸大風、同日爲後光明院七回聖忌一於ニ禁中清涼殿一有ニ御八講一、五ヶ日四ヶ寺勤レ之、同四年正月十五日巳下刻自ニ二條關白家一火事出來、禁裡仙洞諸家、其外寺院佛閣町家等燒亡、近衞殿、一條殿、伏見宮、菊亭、烏丸、日野、觀修寺、五辻、小川坊城亭、相殘、禁裡仙洞寶庫燒亡、累代寶物悉滅、主上行ニ幸照高院白河亭一、內侍所同渡御、御燈自ニ吉田社一供レ之、新院仙洞女院御ニ幸岩倉御所一、（女院御領）御同宿、同二月五日仙洞合レ移ニ伏見宮一給、雖レ可レ有ニ御ニ座於一條前右大臣亭一、未ニ經營一之間、先今日御ニ幸彼亭一、同九日新院御ニ幸烏丸大納言資慶卿亭一、同廿三日女院女三宮自ニ岩倉御所一御ニ幸一條前右大臣亭一、仙洞御同宿也、同三月十日春日祭、同四月十五日自ニ今夜一三ヶ夜內侍所御神樂、同五月十九日大霰降、（自ニ未下刻一至ニ申二點一）寬文二年四月中旬夕日赤、月又赤、同五月一日巳刻大地震有レ聲、築地土藏顚倒、晝夜動搖不レ休、今日以後及ニ數日一、其餘震逾レ年、同三日酉刻光物飛行、同月八日酉刻巽方怪異雲二筋立、長一丈許、橫一尺餘、如レ虹、同六月十三日日光山大洪水、イナカ川邊在家二百軒餘流、死人百七十餘人、馬九疋流死云々、同十一月十九日於ニ紫宸殿一始ニ安鎭法一、同十二月內宮別宮瀧原宮同並宮造營正遷宮、同三年七月十八日內宮別宮伊雜宮正遷宮、同十二月六日戌刻地震、所々築地少々顚倒、

靈元天皇（諱識仁、後水尾天皇第十五皇子、御母新廣義門院國子、園基音公女、）

在位二十四年、承應三年（甲午）五月二十五日降誕、（奉レ稱ニ高貴宮一、）明曆四年正月二十八日爲ニ親王一、同日敍ニ一品一、寬文二年十二月十一日於ニ仙洞假御殿一（一條房輔公第、）御元服（加冠光平公、理髮頭右大辨昭房朝臣、）同年內裏造畢、三年正月二十一日渡ニ御新造內裏一、二十六日御受禪、劍璽渡御、二十七日內侍所渡御、二月十一日御讀書始、（侍讀淸三位相賢卿、）十二日和歌御會始、（題鶯有ニ慶音一、）四月十三日禮服御覽、二十二日由奉幣、二十七日御卽位、十三年五月九日內裏炎上、行ニ幸上御靈社一、三種神器同渡御、同日遷ニ幸近衞基熙公第一爲ニ假皇居一、七月十二日內侍所假御殿渡御、延寶三年正月十九日內裏御造營木作始、十一月十六日上棟、二十五日假皇居炎上、行ニ幸卜部兼連吉田第一、二十七日遷ニ幸新造內裏一、（但御[illegible]傳、密々之儀、）十二月五日內侍所渡御、天和二年四月二十二日自ニ新院一古今御傳受、貞享四年三月二十一日御讓位、二十五

日蒙ニ尊號一、享保十七年壬子八月六日子刻崩、御寶算
七十九、八月二十九日酉刻奉レ葬ニ于泉涌寺邊一、
寛文尙十、三年癸卯到ニ十二年壬子一、延寶八、元年癸丑、天和三、元年辛酉、貞享
三、元年甲子、首書
△寛文四年六月十九日豐受太神宮正殿千木顚倒、
同九月朔日外宮東寶殿千木顚倒、同十月中旬以來
至ニ臘月一、巽方彗星出現、同月十八日戌刻光物飛行、
其聲如レ雷、○寛文四年十一月十三日常子内親王嫁ニ
基熙公一、△同十二月三日外宮假殿遷御、同八日正殿
修理、同十三日正殿遷御、同五年正月二日亥刻許大
阪城天主爲ニ雷火一燒亡、同年自ニ二月中旬一至ニ三月
上旬一彗星寅方出現、同四月東照宮依ニ五十年忌一
於ニ日光山一准ニ勅會一有ニ法事一、公家院宮被レ立ニ贈經
使一、十六日恒例奉幣、十七日臨時奉幣、十八日於ニ神
前一有ニ經供養一、十九日於ニ藥師堂一有ニ蔓茶羅供一、○
五年十月三日八條穩仁親王薨三十二、△同十二月廿六
日石淸水八幡宮假殿遷宮、同十二月廿七日申下刻
越後國大地震、于レ時降積雪丈餘四五尺、高田城廓
民家數ヶ所顚倒、死人千四百人餘、未レ知ニ其數一云
云、又火事出來云々、同六年後陽成院五十年聖忌、

於ニ法皇御所一御法事、八月七日召ニ相國寺僧侶一被レ
修ニ觀音懺法一、同十九日召ニ智積院僧侶一有ニ論義一、
題三密具闕新義、同廿一日理趣三昧、安井門跡爲ニ
導師一、同廿六日曼供、照高院宮導師、同日法皇於ニ
般舟院一爲ニ同御忌一被レ修ニ法華懺法一、八月十八日伊
勢兩太神宮山口祭、九月後光明院十三年聖忌、於ニ
法皇御所一御法事三日、召ニ相國寺僧侶一被レ修ニ觀音
懺法一、同十五日召ニ智積院僧侶一有ニ淨土法問一、同十
七日法皇於ニ般舟院一爲ニ同御忌一被レ修ニ法華懺法一、
同十八日公家爲ニ同御忌一於ニ般舟院一被レ修ニ法華懺
法一、同廿日公家爲ニ同御忌一於ニ泉涌寺一被レ修ニ曼供一、
同日御經供養供、曼珠院宮爲ニ導師一、同廿六日奉ニ爲
後陽成院後光明院聖忌一被レ行ニ免者一、十月三日於ニ
法皇御所一爲ニ八條宮一周忌一被レ修ニ法華懺法一、梶井
宮爲ニ導師一、十二月十四日石淸水八幡宮正遷宮、○
七年長仁親王八條殿御相續、△同七年二月十四日
卯刻南都二月堂炎上、自ニ内陣佛壇一出火、如意輪觀
音像御手珠數佛舍利、聖武天皇光明皇后御眞筆花
嚴經、牛玉板香水壺等、在ニ火中一不ニ燒損一云々、三月
十日未刻大雨雹降、同廿三日相國寺開山堂供養、法

皇御經營、今年夏洛中堀池水龜多死、九月十八日神嘗祭廊宿之次、外宮御太刀六腰紛失之事見付之、後日盗人令露顯及成敗、同廿七日多武峯大織冠神殿假殿遷宮、十月三日於法皇御所、爲八條宮三回忌被修懺法、梶井宮爲導師、同十八日越後國村上城爲雷火燒失、十一月廿一日北野宮假殿遷宮、同八年自正月下旬至二月上旬申酉方白氣立、長五丈許、如白布、二月朔日同四日兩日、武州江戸大火、同六日又火事、同廿七日戌刻比叡山文珠樓祖師堂燒亡、善學院出火、三月十六日攝政復辟、不及上表勅答之儀、於陣宣下有詔書、四月廿七日夜光物飛行、氣暫時殘云々、五月八日光物飛行、八月廿九日多武峯大織冠正遷宮、同九年二月四日北野社正遷宮、同十八日爲新上東門院五十年忌、於泉涌寺、法皇被修曼供、〇九年二月廿五日長仁爲親王、八月廿九日皇子幸仁爲親王、十一月五日長仁親王元服移新殿、賜花町第、十一年十一月九日皇子尚仁生、十二年二月十二日一條昭良公薨、六十八、延寶元年八月廿三日皇女榮子生、二年十二月九日清子內親王薨、三年閏四月廿六日顯子內親王薨、四十七、六月十八日貞子內親王薨、廿五日八條長仁親王薨、二十一、八月十六日尚仁皇子八條殿相續、六年四月十一日幸仁親王叙一品、八年八月十六日皇子文仁生、天和三年十月三日孝子爲內親王、十二月三日憲子爲內親王、十一日嫁家凞公、貞享元年十一月廿七日八條尚仁親王叙二品、三年七月廿三日誠子爲內親王、廿五日益子內親王嫁九條輔實公、九月晦日福子榮子並爲內親王、

東山天皇 諱朝仁、靈元天皇第五皇子、御母敬法門院皇太后藤原宗子、中御門內大臣宗條卿女也、

在位二十三年　延寶三年乙卯九月三日降誕、天和二年三月二十五日爲儲君、六月二十三日渡御于新殿、後水尾院御在所也、依吉方昨夜先渡御于池尻共孝卿第、十二月二日親王宣下、三年二月九日立爲皇太子、東宮節會被行、十四日行啓于禁中、十五日大納言典侍叙三位、皇妣、三月二十八日御紐直、五月御讀書始、侍讀清原相賢、貞享元年四月五日東宮坊炎上、渡御鷹司房輔公第、二年二月十日入御于新御殿、四年正月十六日入御于禁中、二十三日御元服、加冠一條冬經公、理髮頭中將基勝朝臣、三月二十一日御受禪、劔璽渡御、二十五日上皇尊號、二十六日入御仙洞、四月朔日仙洞布衣始、三日御幸始、七日禮服御

覽、十四日由奉幣、十七日和歌御會始、(題禁庭松久、)二十八日御卽位、(一條冬經公爲ニ攝政一、左大臣基熙公、右大臣兼熙公、)五月十六日仙洞御會始、(題鶴伴ニ仙齡一、)八月二十三日國郡卜定、二十七日行事所始、九月六日上皇御ニ幸于禁中一、十月二十八日御禊、十一月六日由奉幣、十六日大嘗會、(二百年來中絕、今度御再興、)元祿六年四月九日朝覲行幸、十年二月二十五日女御入內、(有栖川幸仁親王御女幸子、)寶永五年(戊子)三月八日內裏仙洞並炎上、天皇行ニ幸加茂社一、上皇御ニ幸妙法院宮大物御所一、六年六月十一日上皇新殿御移徙、二十一日天皇於ニ近衞家久公第假皇居一御ニ讓位皇太子一、二十四日新院尊號幷布衣始、七月二日新院御殿御移替、十二月十七日新院崩御、寶算三十五、明年正月十日奉レ葬ニ于泉涌寺邊一、

貞享尙一、元祿十六、(元年戊辰、九月晦日改元、)寶永尙六、(元年甲申、三月二十二日改元、)

首書

○元祿二年八月六日八條尙仁親王薨、九月十日伊勢內宮正遷宮、十三日外宮正遷宮、三年正月十三日基熙公爲ニ關白一、兼熙任ニ左大臣一、十二月朔仙洞姬宮御深曾岐、五年正月朔日蝕、六月大祓再興、六年六月廿三日皇子降誕、七年四月十八日加茂葵祭再興、勅使野々宮定基卿、五月今宮再興、六月十日一皇子薨、十一月稻荷再興、△元祿七年四月葵祭再興、專爲ニ關東沙汰一進ニ三千石一、爲ニ兩社及諸司以下料一、○八年十二月十四日伏見邦永親王宣下、九年四月十日攝州多田社再興、五月五日皇子降誕、十一月十日本院崩、今年改ニ古金銀一爲ニ新正一、十年二月廿八日皇子降誕、五月十一日京極文仁親王宣下、△同十一年九月東叡山中堂供養、去月十八日被レ遣ニ勅額於關東一、十二年六月廿五日第二皇子薨、七月廿五日幸仁親王薨、十一月朔旦冬至、至賀、十三年正月十一日房輔公薨、三月十五日壽宮誕生、當年北野社造營、△同十三年九月十六日仙洞被レ講ニ百人一首一、○十四年六月十九日洛中大雷所々落、十一月二日六孫王社遷宮、八日贈ニ正一位一、勅使藤波德忠卿、九日壽宮薨、十二月七日皇子長宮降誕、十五年正月十四日兼熙公爲ニ關白一、二月廿五日菅公八百年忌、勅使廣橋兼廉卿、△同十五年二月十八日藤森社正遷宮、同年十二月十三日赤穗侍夜討ニ殺吉良上野介一、○十六年八月三日皇女福宮生、寶永元年正月家熙公爲ニ左大臣一、二月輔實公任ニ右大臣一、九月九日秀

宮誕生、兼熈公從一位、△寶永元年塞ニ大和川ヲ、疏ニ新川住吉堺之間ニ、同年十二月五日甲府黄門移ニ于西丸ニ、將軍家養君云々、十一日奏聞、同二年二月大樹綱吉公轉ニ右大臣ニ、家宣卿轉ニ大納言ニ、○寶永二年二月十三日自ニ將軍家一被レ增ニ奉御料地一萬石一所司代參內申レ之、○二年四月廿七日福宮薨、九月十日前攝政從一位冬經公薨、△同三年正月廿九日自ニ將軍家一被レ進ニ院御料三千石ヲ、同年七月九日再鑄ニ改錢ヲ、○四年正月家熈公爲ニ關白ト、五年二月立后立防、輔實公爲ニ左大臣ト、綱平公爲ニ右大臣ト、六年二月廿九日賀子贈ニ准后ヲ、九月二日伊勢兩宮御遷宮、十月廿五日基熈公任ニ太政大臣ニ、

中御門天皇 御諱慶仁、東山天皇第七皇子、御母新崇賢門院贈皇太后宮賀子、櫛笥隆賀公女也、

在位二十五年　元祿十四年辛巳十二月十七日降誕、奉レ稱ニ長宮ト、寶永四年(三月廿二日爲ニ繼體儲君ト、七歲、同四月十八日自ニ林丘寺宮里坊一移ニ御于假殿ニ、有栖川殿、)四月二十九日爲ニ親王ト、八月東宮御殿新始、五年閏正月東宮御殿造成、二月十一日移ニ御于新殿ニ、十六日立爲ニ皇太子ト、立ニ女御一幸子爲ニ中宮ト、二十四日東宮行啓始、(于禁裏、同年三月八日坊御所回祿、所ニ啓于關白第一爲ニ假殿一)二十七日立后、六年六月二十一日御受禪、劍璽渡ニ御于禁中ニ、二十三日以ニ家熈公一爲ニ攝政ト、十一月十六日天皇渡ニ御新造內裏ニ、寶永七年庚寅十一月十一日御卽位、正德元年正月朔日御元服、加冠(近衞攝政)家熈公、理髮(九條左大臣)輔實公、能冠(山科內藏頭)堯言朝臣、二年十月家熈公女入內宣下、三年十二月二十六日紀傳道御書始、享保元年十一月十三日女御入內、十八年六月三日內侍所御假殿新始、八月上棟、二十四日御假殿遷宮、十一月十八日內侍所奉レ遷ニ于本殿ニ、三夜御神樂、○一本代始同十一年二月廿一日入木道御傳受同之廿九字、享保元年以下至此文以享保三年二月十六日御神樂二十年三月十九日警固々關、二十一日御讓位、二十三日蒙ニ尊號ヲ、開關解陣、閏三月四日上皇御幸始、元文二年四月十一日亥刻崩、御寶算三十七、五月八日奉レ葬ニ于泉涌寺邊ニ、

寶永尚一、正德五、元年辛卯代始、四月二十五日改元、享保尚十九、元年丙申、六月二十二日改元、

首書

○寶永七年三月廿一日中宮御所號ニ承秋門院ト、廿六日從二位准后新崇賢門號定、八月十一日新立ニ閑院家ヲ、一品彈正尹直仁親王始稱ニ閑院殿ト、被レ進ニ家領千石ヲ、十二月廿五日家熈公太政大臣拜賀、正德元年

正月輔實公叙ニ從一位ニ、〔江戸大火、九月朝鮮來聘〕○二年四月十四日女院崩御、號ニ新上東門院ニ、七月輔實公爲ニ攝政一、綱平公爲ニ左大臣ニ、〔十月十四日將軍源家宣薨、〕○三年六月廿五日師孝公薨、永寶〔今按正德之誤〕五年正月綱平公從一位氏長者、家久公任ニ右大臣ニ、享保元年十一月朔日輔實公改ニ攝政一爲ニ關白ニ、廿四日有栖川正仁親王薨、二年十一月十五日閑院新造、直仁親王御移徙、三年正月廿三日直仁親王宣下、于レ時十五、五年正月朔皇子降誕、十九日女御薨、二月六日葬ニ泉涌寺ニ、五月廿日准后薨、號ニ新中和門院ニ、十一月女院崩御、六年九月廿七日法皇御幸、七年三月十三日法皇御ニ幸林丘寺ニ、綱平公爲ニ關白ニ、家久公左大臣、吉忠公右大臣、廿七日法皇御ニ幸九條殿ニ、四月十五日中宮薨、八年二月朔日柿本神階宣下、依ニ千年一也、四月六日法皇御ニ幸林丘寺ニ、九月十四日前關白太政大臣基熈公薨、七十五、九年二月十三日京極宮二品宣下、十年六月廿五日女一宮准后宣下、號ニ禮成門院ニ、同日薨、十一月十七日女五宮薨、廿二日前關白左大臣兼熈公薨、六十七、十一月廿一日勅從一位藤原家熈准ニ三后ニ、年官年爵封三千戸、十一年正月法皇御ニ幸林丘寺ニ、十一月廿八日八十宮宣ニ下親王ニ、有栖川、家久公爲ニ關白ニ、十二年三月二日有栖川宮元服、五月朔日立防御治定、十三年五月廿六日前關白幸敎薨、二十九、六月廿六日新中和門院贈ニ皇太后ニ、十四年四月廿六日象御覽、九月六日九日伊勢兩宮御遷宮、十一月八日閑院宮一品宣下、十二月十二日輔實公薨、六十二、十五年四月廿四日房熈公薨、十六年正月十一日主上上皇御痲疹、御ニ酒湯ニ、十一月十三日甘露下、十七年二月十日前關白綱平公薨、六十一、三月三宮四宮親王宣下、八月六日法皇崩、晦日敬法門院崩、九月廿日葬ニ淨花院ニ、十八年正月廿五日家久公太政大臣拜賀、廿年三月十二日上皇御所祈始、十九日大殿祭、院鎭守遷宮、

櫻町天皇 御諱昭仁、中御門天皇第一皇子、御母新中和門院贈皇太后藤原氏、前太政大臣家熈公女也、

在位十二年、享保五年庚子正月朔日降誕、十月二十六日爲ニ儲君ニ、十一月四日爲ニ親王ニ、六年八月二十四日御髮置、七年十一月十八日御紐直、九年十一月御讀書始、五月朔日勅問立坊御治定有レ之、八月二十三日新御殿木作始、十三年三月二十一日御柱立、二十四日依レ可レ有ニ立坊一密々被レ定ニ坊官ニ、傅右大臣兼香公、大夫左大將藤原房

熙卿、六月二日新御殿御移徙、時辰、十一日立爲二皇太子一、二十三日拜覲、七月二十八日大殿祭、十月二十三日行啓始、法皇御所、十八年二月朔日御元服、加冠家久公、理髮春宮大夫實憲卿、二十三日御會始、題梅度レ年香、九月二十八日御息所御治定、二條吉忠公御女舍子、十一月御息所參殿、二十年三月二十一日御受禪、二十七日御移徙、晦日詔書覆奏、閏三月十五日御報書、二十四日勅答、二十七日御會始、十一月三日御卽位、于レ時關白太政大臣家久公、左大臣吉忠公、右大臣兼香公、元文元年十一月十五日女御入內、三年六月二十六日大嘗會被二仰出一、八月七日檢校行事辨等被レ定、御屛風和歌被二仰出一、二十八日國郡卜定、悠紀近江國志賀郡村、主基丹波國桑田郡村、九月二日行事所始、晦日荒見河祓、十月二十九日御禊、十一月朔日忌火御飯幷和歌詠進、烏丸光榮卿、日野資時卿、三日由奉幣、十九日大嘗會、二十日悠紀節會、二十一日主基節會、御神樂、二十二日豐明、五年十一月二十四日新嘗會、今度御再興、自二二十三日一被レ禁二僧尼鐘鉦一、延享元年五月奉二幣大社七所一、十八日古今御傳授、九月二十五日宇佐香椎奉幣、使飛鳥井中納言雅重卿、○今度御再興、四年五月二日御讓位、先遷二幸櫻町御所一、奉レ渡二劒璽於禁中一、九日御幸始、寬延三年四月二十三日崩、御寶算三十一、

五月十八日奉レ葬二于泉涌寺邊一、

享保倘一、元文元年丙辰、四月二十八日改元、寬保三元年辛酉、二月二十六日改元、延享倘三、元年甲子、二月二十一日改元、

首書

○元文元年二月廿六七日御能有レ之、八月十七日家久公薨、廿七日以二吉忠公一爲二關白一、十月三日前關白太政大臣准三后家熙公薨、七十、二年八月三日關白吉忠公薨、四十九、以二兼香公一爲二關白一、十一月十一日女一宮誕生、號二美喜宮一、三年正月二條宗熙公任二右大臣左大將從二位一、六月十八日薨、四年二月四日九條植基爲二內大臣一、于レ時右大將正二位、五年三月廿八日聖護院忠譽法親王宣下、六月廿八日女一宮盛子、內親王宣下、八月三日、女二宮降誕、號二緋宮一、寬保元年二月廿六日改元陣儀、廿八日小赦、廿九日皇子降誕、三月後白川帝五百五十年、勅使庭田重熙卿、十一月廿四日新嘗會、三年二月神宮御造替木作始、廿二日九條植基公薨、五月養子尙實相續、于レ時二十七、叙二正五位下一、一條道香公叙二從一位一、延享元年〔八月十五日板倉修理殺二細川越中守於殿中一〕

○二年正月十三日兼香公左大臣辭表、二月廿九日西園寺致季爲二左大臣一、三月四日辭表、廿三日道香

公任二左大臣一、冬熙公任二右大臣一、〔九月廿五日右大臣源吉宗辭職、授二世子右大將家重一〕〇三年二月兼香公太政大臣拜賀、六月廿五日盛子內親王薨、十一月道香公爲二關白一、

桃園天皇 御諱遐仁、櫻町天皇第一皇子、御母開明門院藤原定子（佐內侍局姉）姉小路宰相實武卿女也、

在位十五年　寬保元年辛酉二月二十九日降誕、奉レ稱二八穗宮一、

延享三年三月十六日爲二親王一、四年三月十五日御元服、加冠太政大臣兼香公、理髮頭右中辨俊逸朝臣、十六日立爲二皇太子一、節會見レ行、五月朔日警固々關、二日卯刻舊帝遷二幸櫻町殿一、是卽爲二仙洞一、今日被レ行二讓位節會於洞中一、同未刻劔璽渡御、是亦自二櫻町殿一所三以渡二禁中一也、卽日御受禪、于レ時七歲、關白道香公爲二攝政一、〔三日院中布衣始、四日開關解陳、七日尊號宣下、九日御幸始、十日詔書覆奏、二十七日立后節會、是以二國母舍子女御一爲二皇太后宮一也、六月五日晴御幸、同日行啓始、八月十四日由奉幣日時定、九月二十一日卽位、大儀始二午刻許一、終二未半刻許一、寬延元年閏十月二十八日御禊、十一月十七日大嘗會、寶曆五年十月二十九日藤原富子敍從〔三〕位、十一月二十六日女御入內、故太政大臣兼香公女、富子、于レ時十四、九年三月二十一日女御准三后宣下、十二年七月二十一日崩御、寶算二十二、八月二十二日奉レ葬二于泉涌寺邊一、

延享尙一、寬延三、元年戊辰、七月十二日改元、寶曆十二、元年辛未、十月二十八日改元、

首書

〇延享四年十月廿六七日御能、寬延元年〔四月朝鮮來聘〕〇二年二月十二日大嘗會御禊儀御能、〔三月五日閑院姫宮關東下向、〕〇三年三月廿八日皇女智子爲二內親王一、六月廿六日皇太后宮奉レ號二青綺門院一、九月伊勢正遷宮、十一月十六日新嘗會、寶曆元年八月兼香公薨、六十一、六月十二日諒闇後和歌御會始、題緣松臨レ池、三年六月三日一品直仁親王薨、四年十月十九日改曆宣下、五年二月十九日道香公攝政辭表、九月六日音仁親王薨、二十六、七年三月十六日內前公爲二關白一、九年二月廿八日智子內親王敍二一品一、六月二日一品兵部卿邦忠親王薨、十年〔二〕月〔廿四〕日第二皇子降誕、六月伏見御相續、寶曆十二年七月十一日御不豫、同月十九日御太功若被レ及二御異變一者、直親王御方英仁踐祚御沙汰可レ有之處、未御幼稚故、緋宮御方智子內親王踐祚可レ有之旨、叡慮御治定、

〔後櫻町〕

太上天皇 御諱智子ノリコ、櫻町天皇第二皇女、御母青綺門院贈准后藤原舍子、二條故關白吉忠公女也、

在位八年　元文五年（庚申）八月三日降誕、（奉稱緋宮、始以茶宮、）寛延三年三月二十八日爲內親王、寶曆九年二月二十八日敍一品、十二年七月二十七日御踐祚、十三年二月十日先帝御親母定子爲開明門院、十一月二十七日御卽位、明和元年十月二十九日御禊、十一月二十日大嘗會、（悠紀近江國滋賀郡松本村、主基丹波國桑田郡西田村、）四年二月二十日古今御傳受竟宴、七年十一月二十四日御讓位、二十五日御所御移徙、二月十六日御幸始、聖壽萬々歲

寶曆尙一、（首書）　明和七、（元年甲申、六月四日改元、）

○寶曆十三年九月廿五日左大臣內前公攝政拜賀、十一月二十七日御卽位日、白鳥飛來紫宸殿上、明和元年二月四日五日御能、八月六日靈元天皇三十三回御忌、五年十二月六日式部卿家仁親王薨、（六十五、）六年九月三日內宮正遷宮、六日外宮正遷宮、十月二十二日職仁親王薨（五十七、）七年六月二十二日公仁親王薨、（三十八、）七月二十九日天變密奏、△明和六年五月三日物降如砂、其色淡白、其味鹽帶苦辛、遍洛中洛外、自未明朝已望之屋上、草木似霜、同七八月之間彗星出、（至冬又出西、其氣甚濃、四五日而消滅、）同九月十月疫疾流行、自西國至東國、老弱死者不少、同七年六月自二十日孛星出、同年夏秋旱魃百餘日、自六月朔日至閏六七八月中旬、同七月廿八日夜亥刻至、北方有赤氣蓋天、其色如火、其中有赤數條之靑白氣、長短不一、長者四五丈、至中天、短者丈餘、至夜明、古來未曾有之天變、同年冬大小寒中煖如春、同年九月廿四日北野天滿宮正遷宮、

後桃園天皇（御諱英仁、桃園天皇第一皇子、御母准三后藤原富子、一條故關白兼香公女也、）

在位十年　寶曆八年（戊寅）七月二日降誕、九年五月十五日爲親王、明和五年二月十九日立爲皇太子、八月九日御元服、（加冠太政大臣內前公、理髮春宮大夫賞季卿、）七年十一月二十四日御受禪、八年四月二十八日御卽位、五月九日立准后（富子）爲皇后、七月九日皇后爲恭禮門院、十月二十八日御禊、十一月十九日大嘗會、安永元年十一月二十八日藤原維子（准三后藤內前公女、）敍從三位、十二月四日女御入內、（于時十四、）八年六月三日女御爲准三宮、九年十一月九日崩御、寶算二十二、十二月十日奉葬于泉涌寺邊、

明和尙一、（首書）　安永九、（元年壬辰、十一月十六日改元、）

△同八年春麥熟、畿內近國優、同年自二月諸國參伊勢兩宮、日々數萬人、及京師浪華之人數十萬

人ニ元始ニ丹後田邊ニ四月中旬及ニ京師ニ同下旬及ニ浪華ニ其後中國北國西國等參詣、去寶永二年如レ此云云、雖レ然不レ及ニ今年之夥多ニ同年自ニ五月上旬ニ不レ雨五十餘日、畿內近國不レ植レ苗過半、同年七月廿二日洪水、淀大橋漂流、去年新造、○安永元年六月十七日二品貞行親王薨、卄三、十月依ニ關東大風大火ニ內侍所御祈禱樂被レ行、二年三月上御疱瘡、御ニ酒湯ニ三年四月稻荷祭御再興、六年五月上御痲疹、御ニ酒湯ニ同年加茂社造營、八年正月廿四日皇女御誕生、同九年二月江戸過半燒失、

〔光格〕今上皇帝御諱兼仁、後桃園天皇皇子、實東山天皇御曾孫、直仁親王御孫典仁親王御子也、御母准后藤原維子、內前公女也、明和八年辛卯八月十五日降誕、奉レ稱ニ祐宮ニ安永八年十一月八日爲ニ儲君ニ入ニ御禁中ニ二十五日御踐祚、九年十二月四日御卽位、十三日以ニ先帝第一皇女欣子ニ爲ニ內親王ニ天明元年正月元日御元服、三月十五日尊ニ准三后藤原維子ニ爲ニ皇太后宮ニ六年十一月朔旦冬至、賀表并旬儀、三百年來中絕、今度御再興、十一月二十一日新嘗會、七年正月有ニ白鳥瑞ニ召ニ諸道勘文ニ十月卄日御禊、十一月十五日大嘗會、八年正月二日小朝拜、晦日夜內裏炎上、天皇行ニ幸下加茂社ニ又幸ニ上加茂社ニ二月朔日寅刻行ニ幸聖護院宮御所ニ爲ニ假皇居ニ內侍所同渡御、仙洞渡ニ御白川照高院ニ二月四日仙洞遷ニ御粟田口靑蓮院ニ三月十八日又遷ニ御知恩院宮ニ五月十一日內侍所假殿渡御、宮北東方、寬政二年十一月二十二日遷ニ幸新造內裏ニ二十六日上皇御所遷幸、

○天明元年四月二日改元、三年十月恭禮門院崩、〔首書〕九州奧州饑饉、津輕領死者無數、父子夫妻相食、同六年九月右大臣源家治薨同七年春夏饑饉、〕○寬政元年〔正月廿五日〕改元、元年九月伊勢正遷宮、二年正月廿九日大女院崩、六月廿二日皇子降誕、哲宮、十二月四日女院御所還御、五日女一宮一品宮同還御、

皇年代略紀は神代より後柏原天皇の御宇までゑるされたり其後たれ人か增補して明正天皇の御宇まであり夫より已後の事實を補はん事をねがひて此一篇をつゝるやつかれもとより邊鄙に生れ皇都に遠き國に

住居しぬれば御近來の御儀はかへりて御記録の拜見もかなはざれば考索及びがたくかつは賢き御事なれども速水氏の著はせる續紹運録家父のあめる正統續録などにより其外の事は見聞の及ぶ所をいさゝかゑるしてかくつゞり侍るなりゑかしながら田舍人のあつめたるなればさこそ誤謬もおほからめ時しありてこれを搢紳先生にたくさん事をこひねがひ侍るのみ

寛政四年八月朔日　　平高潔謹識

（黑川氏所藏之本書頭註蓋出於二人之手一者今附以〇印者元是御厨子所預紀宗孝本所載他以△印者係大澤氏本頭書云今畧正年月之次第併記之於各本文之後又文中附〔 〕□者據異本等所補也　　野南溟識）

續皇年代略記終

本朝歷代法皇外紀序

笠山沙門釋　元策撰

竊惟大覺世雄捨金輪寶位、苦行林中、成等正覺、偏愍群昏、敷演正法、彼方王臣士庶、普蒙法施、粤陳如等五臣圓顱伽黎、始示異體、優樓身子目連等相次投寄、瓶沙王、及八萬婆羅門、大臣九十六萬共證法眼、淨柳山純眞王、摩竭弗沙王、迦毘羅父飯王、勸請慇懃、咨詢玄要、世雄至此一十九年、檢約徒衆、擬置戒律也、是則嚮所謂度弟者、有剃染者、有冠章者、不必以一類于林下品藻物類、矧以四部攝收群生、矧以我神洲、三十葉

聖朝、

欽明天皇十有三年冬十月、百濟國主奉表貢獻佛像經論、盛奏乾篤支那三韓諸國有微妙流通之慈化、　天皇大悅之、臣等物尾輿中鎌子惑時候之有災、抱褚劉之曲迷、賴以蘇稻目齊楚王之賢明、改向原宅奉持蕃貢、未幾　譽田聖神垂跡宇佐、表八正菩薩之靈蹤、　豐聰太子挺生王宮、應大悲救苦懸讖、悉使知驅癡朴之民問微妙之敎、韃部嶋女之薙染者、陽城候王嬺妤之陛辭漢廷也、古人王子之推寶位於輕大叔者、安息世子安淸之捨國也、　孝德之造千佛者、彷彿齊主之歸依寺也、　天武之明夷于吉野者、依俙唐宣之遁鹽官也、　聖武之稱三寶奴者、梁主之捨身於同泰也、　孝謙之落髮於法華寺者、寧比則天之在感業耶、　淸和之灌頂於圓珍者、如玄宗之於不空也、　宇多之入阿闍梨位者、無畏之拋皇統而演遮那之敎也、　花園之留御容於玉鳳者、宋仁之贈大覺也、　寬元　寶治　文應　正慶之間、轉持正法輪於惠日龍峰寶山龜嶠之祖統者、雖使唐　之肅代宋之高孝並駕所未逮也、開成恒貞高岳　齊世之高蹈煙霞絕跡塵纓者、巴陵秦孝龍淵瀛國之謝貴裔也、至夫宰臣賢士蘇馬子藤鎌足之臨病而受具者、唐有杜鴻漸、宋有王文正也、定嗣之授大毘丘者、劉節度之夏臘也、藤房之領雄席者、吳元卿之會布毛也、如其佗笠朝臣宗貞義懷定基、豈以劉薩訶劉䝤鄭廷　德操之人物比量雅德哉、嗚呼彼六萬恒河沙菩薩、於佛滅後、護持正法者、誠我聖王賢臣名儒碩彥、悉示現權迹於豐秋津之洲者耶、余粗檢中華書、自漢法本內傳一出已來、佛運興隆、歷代編纂與世書並行者、充棟汗牛、帝王宰臣士庶百家有補吾道者、皆收入編集、此又妙堪付囑之遺意也、顧我本朝緇門盛作、藏山倭傳燈錄、中岩日本紀者、吾未見、

虎關元亨釋書一編、特與諸史相上下而已、自有佛法已往、有道文華之士、間多含蓄恪言至于此、其故何耶、學國護持雖賤隷提孩、僉知有敬、況賢明聖哲豈預採拾美惡之選、若又揮毫建言者、非狂而愚、故懼者不爲也、雖然余想中華諸君直　饒雖有捨身奉　齋受戒灌頂之淨修、未及我　寬平　花山　後宇多　光嚴之出家修學成正覺道、此我不獲已而所以撰歷代法皇外紀也、其所附世子宰臣權貴碩彥之名標、不能人無品評、虎關嘗曰、迫捕逮而來投、漏擧收而寄歸、佩刀而剃、褻服而不染、是等之類吾法之凶也、然則如重仁惟康賴家氏經者、果可不采乎、曰否也、古人曰、釋氏敎以清淨恬虛爲禪定、以柔謙退讓爲忍辱、故怨爭可得而息、以菲薄勤苦爲修行、以窮達壽夭爲因果、故貴賤可得而安、怨爭息則干戈盜賊之不興、貴賤安則君臣民庶之可別、此佛聖人所以救世之道也、不有釋氏安救之哉、攻彼迫捕逮與漏擧收者、怨爭不息貴賤不安之樞機、終無所委、此我所以附傳之因設也、昔日毘離耶城賢者資財無量、攝諸貧民、奉戒淸淨、攝諸毀禁、雖處居家不着三界、示有妻子、常修梵行、現有眷屬、常樂遠離、入治政法、救護一切、只如編中之權貴、多是在家修證和光履俗、與毘耶賢者殆其庶幾乎、博雅君子點檢將來、恐有楚辭遺梅之誚者也、漢劉向撰列仙傳、收黃帝廣成子與隱逸鬼怪之人爲列、識者指其虛矯荒唐、如今於此編豈免衆之鑠金哉、若又信得國王大臣受佛付囑　奉持正法底本願我釋氏之徒豈不無四恩報答之一端耶、於是識之、寬文丁未孟春日、

本朝歷代法皇外紀後序

本朝國史之外、野無逸史其故何也、官無偸視事多嫌忌、虛辭貲非則文人恥之、往言涉怪則達士侮之、甚哉散才鬼園生洒眼於箐膏之下、攪腸於竹殺之間、睥睨彼酉陽之整軸、嗚嗟於村校之古帋紬欲言之口、於博識倒欲寫之筆、於傍觀搜索其本根、則只在昧事于國史慚誚於衆口也、余常痛恨之、暇日嘗閱親房正統紀、詞簡而要多、忽見逸史之便、考古纂其後宇多帝聖業、校擧　本朝落髮修道之帝者、幾得二十聖、於是撫卷初有意撰法皇外紀、顧想石門通論、一菴通鑑、辰峰貲鑒、博涉事編、不立帝紀、雷庵普燈僅收一

世君臣、至岱宗金湯編、蒐括古今、特冠諸作、以故竊欲効顰于此、賚諸宰臣於編末、玆　本朝元亨朝、虎關錬師撰資治表、立言於　欽明元年庚申、絕筆於　順德禪位辛巳、歷代五十五君、歲月已得六百八十四、裨補吾道者僉擧載矣、南北敎律之事跡粲然昭於其間、錬師者苗于禪者也、不最負於此、深潤色于彼、故以世不比鎧庵志磐有黨于筆力也、或議曰、如今所編外紀、　後嵯峨已前偏據資治表、故述事公且確也、　後深草以後言事出禪者一家、豈取信於衆目哉、余曰嗚呼善哉議也、夫吾道者一也、敎律禪者迹也、若以其迹議取舍、太非通論也、凡王者之皈　吾道者、以人則有法　師律師禪師也、至其所期者一大覺也、一至善也、豈有二致哉、今禪宗之高踞于諸流者、無他、當中古騷亂之際、兵于北嶺、火于南寺、東西之敎苑盡罹鬱厄、故夫所期之大覺、所樂之至善、人以無由依憑、於此時、榮西圓爾專倡玄義、蘭溪無學次演心宗、於是嚮迷昧屈曲者、大知超化之有方、萬壽南禪者、　白河　龜山之所菱也、天龍妙心者、　嵯峨　花園之所憩也、建仁大德者、　土御門　後醍醐之所命也、東福相國者、道家義滿之所施也、　都督王世良之捨臨川、內大臣師繼之革妙光、東疆之五刹與朝曦爭輝、西陲之諸寺與夕耀聯暉、辭其龍稱者、高峰無文明江無極海門松蔭崇山之諸師也、在衆則擔負作務、唱道則人天渴仰、雖然委貴於浮雲、以與艸木同腐爲懷、此所以禪宗遲出而晚盛也、況　龜山帝南禪遺勅曰、長老職選器量卓拔僧者、不必以貴人爲尊、乃至雖吾子孫不可以勢住持、其護惜禪門如此、伏値

當代太上法皇仁明叡智、慈化覃洽、追聖轍於往車、麾慧日於釋天、高乘權化之願輪、深愍衆苦之溺浪、天根連蘗、覆蔭四方之梵苑、　玉潢分流、煽沸八宗之祖源、造立殿宇、施至善之善、淸修妙道、證大覺之覺、明曆中委寶刹於　戒師、祝　紺髮於　仙殿、莊嚴袞服忽換梵衣、紫磨金床退代蒲團、萬年祖燈挑慈照於將絕、三會勝緣膽補處在此日、重降佛性本源之寵諡、回古道顏色於禪林、然則我以禪宗誇耀此編、豈容衆議於其間哉、於是議者唯々而退、仍以爲後序云爾、丁未寬文七年正月日釋元策識、

上柳原藤亞相書

元策啓、嚮使某氏辱稟鈞旨、爾來因作務紛擾奉伺之儀於今不果、遼緩之愆至于此、謝々、伏惟、閣下雅量如海、豈措芥蔕之譴於其間耶、爰考、走所管地藏院舊誌、家祖一品忠光公曾在永和朝、降敷　勑諭於山中、以准擬　勑寺、祝延　寶祚爲論至今三百年、永承厥賜、走承乏於開山碧潭祖者十一葉、於閣下再修通家之好、夙緣可知、雖未接風彩、識荆已就、故不慚瞽者誚、于此碧潭者夢窓國師弟子也、初從仁和寺禪助僧正受密灌、與後宇多法皇敎門伯仲也、應安朝賜宗鏡禪師勑諡、觀法之暇有倭歌之唱、爲遠所撰新後拾遺載宗鏡禪師一首、此我祖之詠也、年代深遠、我人遺忘、太堪漢息矣、去冬走偶讀北畠正統紀、始有意撰法皇外紀、雖然襪線樗散之才豈揭聖德洪業於禿筆之下哉、所謂蚍蜉撼大樹可笑不量力者也、凡釋氏與帝紀者、尋繹舊例、乃虎關師文應皇帝外紀是也、然則人物雖殊、事有所根、且又地藏院三世祖仙英者、伊勢國司族北畠正嫡之裔也、如今據本正統紀、蓋於我祖宗全有因緣者乎、頃得禪餘外紀之草藁粗成、仍封呈左右、先告所志、若經乙夜之叡吹、以爲此生之鴻幸、至其首尾一編、偏運郢斧、大手盡磨礲礪節、補苴罅漏、何賜加焉、只如此書之成敗、則係在閣下取與舍之間耳、往年三條相公且辱蒙睠眷、雖未揖高儀、定有知顧、鵷列之次致意以及此編、必有被敎乎、不知歸京何日耶、今也　聖明之朝文物禮典悉復舊條、搢紳碩彥皆好古道、如走方外枯槁生、亦仰慕前朝護法聖勅、愈傾葵忱於夙夜、捧恩曦於山林、所著外紀、上祝　皇帝萬歲、下祈宰臣千秋、　皇圖永安、法輪無已、則豈翅報家祖一品公宣勅於三百年後而已哉、所冀閣下昭察走素情、以尋常名利之間勿竢我也、好臨褚多想茲不委細、佗日恭詣政廳嚴拜芝眉以申所思、不宣、

回書笠山元策禪子

柳原藤資行

迦文西天月遼來耀輝、妙祥五臺雲篤簇飯𩝐、一朝芳訊、數條簡編、化薰而以誦、廻環尚未休、吁嗟吾子履破乎妙湛靈明之地、高居于溫潤春風之席、人皆讜言弘說耳、故拙素聞在元德秀、而今眞得元策子也、幸々、楮以

所載固無也、予之笠山宗鏡師永德撰詠兒童唱之、懷慕損益於當初之世焉、予也日野忠光祖、永和蕭給走卒知是兢愼進退諸奕葉之間矣、越俾壁中倭皇紀、新拔要粹言、自改漢語、而題號法皇外紀、已就寄以値密曝涼之一、攤之法統畢陳、不是搜校之捷徑、緇家者流之崇道也、貴院祖英之宿因、以正統紀爲本據、良有以也、孔夫子曰、有大名以顯 聞四方流聲後裔者、豈非學者之效也、故君子不可以不學、源准后者 南朝俊豪卓躒之器也、豈有以加於此哉、況古人之遺逸耶、莫不紀事整齊而無空誤、玉潤而金聲矣、如拙雞群雖猥厠鶴班、又惡乎言、然而暫滯在床頭、希竢浴暇以再電矚之、佗日須早反璧之、予儻無忿則絷拚祇懼、公務迫冗、何方應晤、而獲日閑芳施及通好、從其文師其道則向來一瓣香、祝爲元釋氏而已、敢問城西幽絕處、予住幾年、臨川度橋畔、所謂步月憐淸景、眠松愛綠陰、詩思道情多坐此外有留心否、惟時仲春中旬日下引睡堂某答、

本朝歷代法皇外紀

帝王標目、自二聖武一至二建治一專據二親房之作一、自二正應一至二永亨一偏收二小槻之續一、玆考二國史一、承和帝嘉祥不豫之日落髮受戒、此日皇子宗康源多同入二釋門一、後二一日帝昇遐矣、如今於二外紀一舉二延喜天曆永延延久一、而獨遺二筆於承和一何耶、親房之不レ記故也、下至二貴胤出家之名目一、收二宗康源多一、而使下人知上承和朝有二此盛典一、帝之淵德仁政著二見于良房國史及師鍊資治表一、故不二悉述一、

目錄

聖武皇帝

帝文武之太子、養老八年二月卽位、享國二十五年、嗣膺之初延六百僧於內殿、轉大般若、放生度人、頒金光明經於諸州、天平元年修仁王會、設蘭盆供、且因尙書省奏、以法華最勝二經許擧度、九年詔每州造丈六釋迦及菩薩、幷寫般若、九月兩京五畿僧尼二千三百七十餘員、賜綿帛各有差、十月道慈講最勝經於太極殿、百僚皆集、又勅天下諸州每月六齋禁漁獵、十二年遷都山州山階恭仁宮、十三年詔諸州安四天王像、及寫最勝法華二經各一部、宸書最勝經一部、每州構七級塔安之、十五年正月轉最勝經於四十九大刹、遣橘諸兄往諸大刹諭布誥命、十月於紫香樂京創金銅十六丈佛像、帝親製翰疏降尙書省宣示天下、明年十一月作大像模、帝引繩助役、十七年遷都和州平城、八月移大像於平城、帝以衮袖裹土築壇、二十二年正月就行基受菩薩戒、卽日賜基以大菩薩號、二月大像鑄成、安置東大寺、七月禪位皇太女、居習識寺修道、法諱稱勝滿、十二月幸東大寺拜大像、卅日宇佐靈神託入寺而拜大像、天平勝寶四年四月幸東大寺慶讚法會、六年正月就唐僧鑑眞登壇受菩薩戒、七年五月初二日崩、壽五十八、葬於佐保山陵、御葬之儀專如奉佛云、

孝謙皇帝

帝聖武之皇太女、天平廿一年七月卽位、前後聽政十五年、天平勝寶四年（正月カ）育詔放生、天下沿海之民以漁爲活者數戶給米、四月供養東大寺、鑾輿臨幸、百官扈從、延請隆尊延福及一萬沙門、五年唐僧鑑眞來、勅於東大寺建戒壇、八年五月設國忌於東大寺齋、（○南溟按續日本紀東大寺設齋係翌年五月）千五百沙門結安居、八月詔曰（○南溟按此詔宜係天平寶字元年閏八月）軌（設カ）持佛法、無尙木叉、尸羅之制協我禮經、自今諸寺勤行布薩、以故天下寺院講梵綱行布薩、寶字元年遜位東宮、四年構淨土院於法華寺、安丈六阿彌陀像、及造彌陀像於天下國分尼寺、築戒壇於野筑二州、各化東西民、五年六月于法華寺祝髮爲尼、法諱法基、十月嗣皇後國璽行淡路州、因此再登臨朝扆、改元天平神護、正月建西大寺、鑄四天王、二像不成、改鎔六度、帝幸治所誓以御手搔洋銅、於是像乃成、景雲元年修吉祥懺於天下尼寺、西宮設六百僧齋、繪彌勒淨土變相於西大寺、四年不

豫、造ニ三級小塔百萬箇ノ八月四日崩、五十二歲、

大同皇帝

帝諱安殿、桓武之太子、延曆二十五年五月卽ニ位北京平安城ノ治世四年、桓武帝以三月ヲ崩ニ于位ノ四月詔ニ十五大寺及國分寺ヲ創ニ安居講ノ以ニ仁王護國經ヲ度レ人、立爲レ式、資荐（薦カ）ニ先帝ノ八月禁ニ官吏掠レ寺、檀家管收ノ大同四年禪ニ位皇太弟ノ還ニ幸南京平城ノ偶因ニ孌倖仲成等爲ニ亂、祝髮出家、幸ニ熊野三山ヲ巡ニ禮勝跡ヲ者五囘、弘仁十三年從ニ空海ヲ入壇灌頂、此乃王者密灌之始也、天長元年七月五日崩、五十七歲、

貞觀帝

帝諱惟仁、文德之第四子、天安二年十一月卽位、治世十八年、貞觀六年定ニ國典僧階ノ眞雅始聽ニ輦車ノ仁壽殿設ニ灌頂壇ノ就ニ圓珍ヲ受レ法、依ニ相應奏ヲ始降ニ傳敎慈覺二大師諡號ノ十六年革創ニ貞觀寺ノ大設ニ僧齋ノ十八年十一月禪ニ位皇太子ノ幸ニ水尾山ヲ營ニ構佛宇ヲ以當ニ寢陵ノ屢幸ニ名山大寺ノ東大香山神野勝尾海印、畿甸靈區巡幸殆遍、元慶三年五月就ニ宗睿ヲ受レ戒、落髮入ニ兩部灌頂壇ノ後還ニ水尾ノ或兩三日一齋、六時苦修一心禪念、風儀端麗如ニ神仙中之人ノ四年十二月四日崩、三十一歲、臨ニ大漸際ヲ勅ニ侍僧ヲ誦ニ金輪咒ノ向レ西跏趺定印而崩、遺詔不レ立ニ山陵ノ茶ニ毘中野ヲ

寬平皇帝

帝諱定省、光孝之第三子、仁和三年十一月卽位、治世十年、帝幼不レ御ニ葷腥ノ志慕ニ三寶ノ十七歲白ニ母太后ヲ求ニ出家ノ終無ニ允可ノ於レ是登ニ大寶ノ寬平元年八月供ニ養仁和寺ニ二年七月頒ニ盂蘭盆供于諸寺ヲ荐ニ先皇ノ十二月石淸水八幡靈神託欲レ得ニ菩薩服色道具ノ勅贈ニ瓔珞香爐念珠等ノ三年四月宮中設ニ灌佛會ノ十年七月禪ニ位皇太子ノ昌泰二年十月從ニ益信ヲ祝髮、法諱空理、受ニ戒於東大寺ノ幸ニ高野山ノ延喜元年十月詔ニ增命ヲ慶ニ淨福寺大藏經ノ十二月從ニ益信ヲ灌ニ頂于東寺ノ稱ニ號於金剛覺ノ七年春營ニ室於仁和寺側精修禪寂建圓堂ノ而安ニ置金剛界會三摩耶形ノ十年幸ニ叡山ノ從ニ增命ヲ受ニ菩薩戒及瑜伽旨ノ便構ニ室於千光院ノ入壇受戒ノ之日感壇上現ニ紫金色ノ十八年在ニ大覺寺ヲ躬行ニ灌頂事ノ登壇受法者多、承平元年七月十九日崩、六十五歲、

昌泰皇帝

帝諱敦仁、寬平之太子ノ寬平十年七月卽位、治世三十三年、登極之初修ニ吉祥懺於天下ノ檢ニ諸寺比丘老者ヲ

施綿、宮中設灌佛會、召增命於仁壽殿受金剛法華二經、又傳如意輪軌、賜空海圓珍以大師諡號、於勸修寺延請一百沙門、薦太后、施南北京十四大刹、祝上皇、延長四年慶醍醐寺、八年六月詔尊意入內陪侍常寧殿、加持雷神之激怒、九月禪位太子、就尊意受戒落髮、法諱金剛寶、廿九日崩、四十六歲、

承平皇帝

帝諱寬明、昌泰之第十一子、延長八年十一月卽位、治世十六年、承平六年十一月行試經度、天慶中東賊寇虐甚熾、詔淨藏明達及諸寺修降伏法、孽賊果亡、九年四月禪位皇太弟、天曆六年祝髮出家、居佛陀寺、構法華堂於醍醐寺、八月十五日崩、三十歲、

天曆皇帝

帝諱成明、昌泰之第十四子、天慶九年四月卽位、治世二十一年、天曆七年二月詔修天下廢寺、寫大藏經、薦先帝、講法華於弘徽殿、薦母太后、勅王子公卿、親行僧嚫、應和元年禁闕災、冬新宮成矣、詔延昌修安鎭法、併供養一萬沙門、三年三月駕幸雲林院、慶寶塔落成、八月召良源法藏及南北講師二十人於清涼殿、設法華講筵者立日、康保四年五月不豫、禪位太子、祝髮出家、法諱覺貞、廿五日崩、四十二歲、

天祿皇帝

帝諱守平、天曆之第五子、安和二年九月卽位、治世十五年、天延二年詔置讀誦論義於宮中、運源勸綜仁幹光休奝然源信禪詮玄明賀秀眞義輪次待詔、永觀元年圓融寺成、賜一百封戶、明年八月禪位皇太子、寬和元年八月從寬朝落髮、法諱覺如、居圓融院、二年受戒東大寺、巡幸南京諸寺、正曆元年三月就寬朝灌頂于東寺、二年二月十二日崩、三十三歲、

寬和皇帝

帝諱師貞、安和之長子、永觀二年十月卽位、治世二年、六月密逃玉宸出家、行花山寺薙髮、法諱入覺、時聖壽十九歲、帝初亡弘徽殿妃藤恒子、自此厭世相、以故脫屣去、不受太上尊號、偏奉僧儀、勝地靈區龍轍殆遍、入紀之那智山、苦修者三年、神龍獻瑞、岩屋之如意珠、千手院之念珠、瀧下之寶貝等、當時所感得也、後還花山寺、專倡密學、寬弘五年二月八日崩、四十一歲、

永延皇帝

帝諱懷仁、天祿之長子、寛和二年七月卽位、治世二十五年、正暦中定ニ僧正權正位次ヲ、長保三年春天下疫、修ニ仁王會ヲ、命ニ一千沙門ニ轉ニ壽命經於太極殿ヲ、寛弘六年六月延ニ諸僧於內殿ニ講ニ論最勝王經ニ五日、詔曰、先代或行或止、自レ今立爲レ式、八年五月慶ニ讃大藏經於一條院ヲ、六月不豫、禪ニ位東宮ニ、落髮出家、法名精進覺、廿五日崩、三十二歳、大漸之際詔ニ慶圓院源ニ令レ唱ニ聖號祕咒ニ云、

延久皇帝

帝諱尊仁、長暦之第二子、治暦四年七月卽位、治世四年、延久改正登御之初、詔御厨正ニ躬膳ヲ、駕ニ。幸石淸水八幡宮ニ大修ニ放生會ヲ、二年十一月贈ニ佛舍利於天下神祠ヲ、十二月圓宗寺已成、駕幸親營ニ佛事ヲ、明年正月延ニ一千沙門於尙書省ニ轉ニ觀音經ニ除ニ攘時疫ヲ、四年十月置ニ法華講會於圓宗寺ヲ、賴增賴眞應レ詔預レ會、鑾輿臨幸、聳ニ宸聽於講筵ヲ、十二月禪ニ位皇太子ニ、承保元年五月祝髮出家、同七日崩、臨ニ大漸ニ專心念佛、此夕有下夢ニ彩雲笙笳往生之相ニ者上、上果晏駕、

承保皇帝

帝諱貞仁、延久之長子、延久四年十二月卽位、治世十四年、承暦元年法勝寺已成、駕幸慶讃矣、明年十月修ニ大乘會於法勝寺ニ、帝駕幸以ニ講師暹斅ニ爲ニ僧綱ニ、永保三年二月贈ニ仁和寺性信ニ以ニ二品ニ、冬法勝寺九層塔成、詔ニ良直ニ修ニ慶讃之儀ヲ、鑾輿臨幸、應德二年五月召ニ增譽於內寢ニ受ニ法華經ヲ、翌年十一月禪ニ位皇太子ニ、幸ニ南京ニ巡ニ禮諸寺ヲ、登ニ金剛峰寺ニ供ニ養空海定塔ヲ、三年齋ニ宿叡山彥根淸水等諸道場ニ者各一七日、又幸ニ金峰ニ勑ニ隆命ニ慶ニ讃宸書金字法華及五部大乘經ヲ、以ニ百頂袈裟ニ布ニ施百僧ヲ、永長元年八月皇女郁芳門院媞子薨、帝不レ堪ニ嗟悼ニ祝髮出家、法名圓寂、受ニ沙彌戒於隆命ヲ、革ニ皇女遺宮ニ造ニ佛宇ヲ、號ニ之六條御堂ヲ、帝親書ニ（後カ）願文ヲ、滴ニ紅乳ニ押ニ手痕ヲ、至其彼熊野駒山法勝寺大藏慶讃之勝會、遠騰ニ仙駕ニ厚攄ニ叡願ヲ、又幸ニ白河ニ慶ニ阿彌陀堂之輪奐ヲ、大治四年七月七日崩、七十七歳、

天仁皇帝

帝諱宗仁、寛治之長子、嘉承二年十二月卽位、治世十六年、天永元年駕ニ幸法勝寺ヲ、慶ニ讃金字大藏經ヲ、又慶ニ最勝等新成ヲ、六宮百官扈從、保安四年正月禪ニ位皇太子ヲ、幸ニ金剛峯ニ巡ニ禮勝跡ヲ、長承元年三月得長壽院成、安ニ置一千大悲像ヲ、幸ニ鳥羽ニ慶ニ勝光明院ヲ、保延四年

齋宿叡山者一七日、永治元年從信證受戒落髮、法諱空覺、重登南京北都戒壇、巡幸熊野三山者八度、久安三年八月營佛宇于鳥羽宮、安彌陀九像、四年六月講宸書法華於鳥羽宮、保元々年七月二日崩、五十四歲、

天治皇帝

帝諱顯仁、天仁之長子、保安四年二月卽位、治世十八年、天治之初放生于天下、莊嚴光明成勝之諸寺供養之日、鑾輿嚴蒞慶讚法會、永治元年十二月禪位皇太弟、久安三年幸叡山、勅行玄修藥師法、保元々年七月偶因騷亂落髮出家、遷幸讚州、於行在所日宸書五部大乘經、長寬二年八月二十六日崩、四十六歲、閣維白峰、藏仙骨於金剛峰、

保元皇帝

帝諱雅仁、天仁之第四子、久壽二年十月卽位、治世三年、保元三年八月禪位皇太子、長寬二年幸蓮華王院、慶讚法會、永萬元年齋宿叡山者一七日、嘉應元年三月幸金剛峰、六月從覺忠受戒落髮、法諱行眞、受戒東大及叡山、巡禮熊野三山者三十餘度、立塔婆於那智瀧下、宸筆自書曰、智證門流阿闍梨、承安二年十月平大師清盛營道場於福原、修法華會、帝稱阿闍梨、治承元年慶讚蓮華王院寶塔、文治三年從公顯灌頂于天王寺、建久三年三月十三日崩、壽六十六、

元曆皇帝

帝諱尊成、嘉應之第四子、壽永二年七月卽位、治政十五年、建久六年鑾輿臨幸南京、慶讚東大寺復舊觀、百僚扈從、源頼朝監護法會、冬詔藤相國徵問榮西禪法、九年正月禪位皇太子、承元中幸熊野山兩度、召俊芿於賀陽宮受菩薩戒、榮西獻香繡佛像、建保六年奏泉涌寺化疏、降施甚渥、勅昇官寺、承久三年七月落髮、法諱良然、居高陽院、同月際騷亂遷幸隱州、延應元年二月二十二日唱彌陀聖號感祥雲異香而崩、六十歲、

寬元皇帝

帝諱邦仁、正治之第二子、仁治三年三月卽位、在治四年、寬元々年賜承天崇福二寺於圓爾爲官寺、四年禪位皇太子、建長二年幸熊野山、七年再幸詔覺仁令前導、正嘉元年召圓爾受禪門菩薩戒、留宮七日、敷宣法要、親賜金扇、幸金剛峰瞻禮空海遺

塔、文永三年四月幸蓮華王院慶讚法會、四年幸春日社供養宸書唯識論、五年落髪、法諱素覺、召見宋僧道隆於宮中、隆奏一偈曰、夙緣深厚到扶桑、忝主名藍十五霜、大國八宗今鼎盛、建禪門廢仰賢王、帝嚮其志、九年不豫、召圓爾於內寢受菩薩戒、且陪龍床、二月十七日崩、五十三歲、帝尋常飫閱宗鏡錄、宸筆題於卷末曰、朕得此錄見性了、

寶治皇帝

帝諱久仁、寬元之第二子、寬元四年三月卽位、治政十三年、正元々年三月皇母藤氏慶讚西園寺大藏經、鑾輿臨幸、十一月禪位皇太弟、文永三年幸蓮華王院讚佛事、建治二年召叡尊受菩薩戒、又從圓爾受戒、弘安二年十一月叡尊入內講梵網經、廿五日受叡尊三衣及菩薩戒、翌日賜宋本大藏經於淨住寺、四年正月納宸書最勝經護國品一卷於石淸水八幡宮、乃攘夷寇、二月落髪、法諱素實、七月詔南北兩京持齋僧五百六十餘員轉經于八幡宮、專壓蒙古、又轉大藏經於神宮、帝親臨幸敬禮法會、七年二月從叡尊受菩薩戒、四月詔于大乘院轉大藏經、呪願之日凌晨臨幸隨喜法儀、嘉元二年七月十六日崩、六十二歲、

文應皇帝

帝諱恒仁、寬元之第六子、正元々年十一月卽位、在治十五年、弘長元年爾一湛照革六條御堂號萬壽禪寺、文永三年四月供養蓮華王院、鑾輿臨幸、百官扈從、十年召圓爾受戒、明年正月禪位皇太子、建治元年召見圓爾說三敎要旨、弘安四年詔覺心居禪林寺咨問禪要、奏對愜旨、優禮、迎請躬親、扶輿揭簾以罄師資之禮、七年閏四月召叡尊受菩薩戒幷三衣、從處謙受密部灌頂、正應三年九月落髪、法稱金剛眼、居東山福地離宮、忽遭怪魅荐作、厭禳肯不已、四年勅普門安居宮中、怪魅果弭、帝益欽歆禪宗、捨宮爲禪苑、號南禪寺、禮普門爲始祖、頂受衣盂、茲冬普門病、帝幸寢室親問安否、及已寂、勅祖圓居宮寺、爲第二祖、於是興作土木營構殿宇、築大殿基址之日、親擔簣助衆役、既而迎普門小祥忌、預繪肖像題宸讚曰、叢林老作人天眼、電卷星馳追也難、三尺竹篦三尺鐵、末會動着逼人寒、際正當日延招都下禪律諸僧於宮寺諷呪齋嚫、帝在住持位大展三拜、蹤修叢林祖忌之禮典、永仁三年僧堂成矣、帝就其側闢小堂、鉢架

被單皆備、四時禪坐、開忩共衆九旬安居擎盂、伴僧齋給侍、貴族以諸僧供役爲言、帝曰朕與諸僧形服無異、況四河入海無復本名、僧寧有王臣之異哉、自此諸臣服膺矣、東福惠雲此歲開堂、臨幸法會、帝雅好偈句、以故警向(句カ)儘多、達磨忌御和曰、江浪激奔嵩雪寒、棲匕南北不安閑、當時若得親相見、不在魏梁庸主間、又病中懷寄規庵曰、一室寥々金粟身、毘耶城裏啓重關、本來本住本心處、槃走珠兮珠走槃、嘉元三年秋居城西龜山壽量院不豫、祖圓師錬陪侍御榻、九月十五日崩、五十七歲、闍維之後藏灰骨於淨金剛院南禪寺金剛窟三所、蓋以顧命也、

建治皇帝

帝諱世仁、文應之太子、文永十一年三月卽位、在治十三年、弘安元年始賜大覺禪師謚於宋僧道隆、七年召叡尊於內殿受菩薩戒幷三衣、講梵綱於宮中、八年勅叡尊補天王寺主務、十年十月禪位皇太子、正應中先皇革東山離宮創禪苑、時々親幸陪夜坐枯禪、又洒宸奎寫太平興國南禪々寺八字賜祖圓、德治二年七月祝髮、法名金剛性、從禪助受密灌於東寺、降宸書於宋僧子曇、咨問心要、子曇獻法語一段、應長元年東大寺凝然撰三國佛法緣起十重唯識心要義鑑等之書、獻于仙院、帝大賞之、勅凝然令講十重唯識、正安二年詔宋僧一寧住南禪、屢幸親問法要、文保元年秋一寧寢、帝蹕于廟塔院(南禪)、日夕問候、既得訃告遺表、倉皇幸寢室慟哭、便灑宸奎賜謚號詔源、有房作文祭之、重賜宋地萬人傑本朝一國師之勅讚、召德儉住南禪、屢渥禮遇、元亨元年四月創建大覺寺金堂、專倡導密宗、四年六月廿六日崩、壽五十八、

正應皇帝

帝諱熈仁、寶治之長子、弘安十年十月卽位、治政十一年、永仁二年勅忍性補天王寺主務、六年七月禪位皇太子、正和二年十月落髮、登極之初召湛然入內、咨詢宗要、賜萬壽寺產莊等、文保元年九月三日崩、五十三歲、

正安皇帝

帝諱胤仁、正應之太子、永仁六年七月卽位、在治三年、正安二年閏七月特謚叡尊以興正菩薩之寵徽、叡尊之弟子、東國有忍性、南京有信空、自建治至嘉曆歷朝有受戒尊師之儀、嘉曆辰己之間忍性蒙菩薩

之論、信空賜和尚之號、正安三年禪位東宮、嘉元三年召紹明入內、奏對稱旨、特差住持萬壽寺、正和元年賜加州租貢於萬壽寺、充祈禱齋供、元弘元年祝髮、法諱行覺、勅紹臨創報恩寺、薦永嘉門院瑞子、延元々年四月六日崩、四十九歲、

延慶皇帝

帝諱富仁、正應之第二子、德治三年十一月卽位、治政十一年、正和元年始論圓爾以聖一國師號、文保二年二月禪位東宮、嘉曆元年召妙超入內、除一重御座着袈裟、對榻有王法佛法相對不思議之勅問、妙超詞辯大愜皇情、終昇大德寺爲朝廷祈禱道場、建武二年落髮、法諱行遍、三年妙超寢、遣中使問疾、且欲捨花園離宮作禪苑、預建寺號選住持、妙超稟旨、回奏正法山妙心之牓號、弟子惠玄之住持、於是革離宮構禪苑、召惠玄住持、帝亦別創一院以安居、扁曰玉鳳、又崇尙道皎道望、或延皇居、或幸梅山、參扣厚講師資之禮、貞和四年十一月十一日崩、五十二歲、

正慶皇帝

帝諱量仁、正安之太子、元弘二年三月卽位、在治二年、正慶二年五月遜謝玉扆、曆應二年詔師錬住南禪、召對詢法要、未幾再召見、使講所著十勝論、由是始向禪宗、冬勅源尊氏創建天龍寺、薦元應皇帝、請疎石爲開山祖、四年詔元僧竺仙（諱梵仙）住南禪中、使繕錄法語、有旨昇南禪於五山第一刹、康永元年四月幸西芳寺、從疎石受衣盂、七月勅疎石慶八坂塔、二年五月幸南禪、梵仙對御說法、帝大悅之、賜饌龍床、梵仙辭以雲水無威儀、帝曰、師其加殮母視朕也、又降綸誥於鎌倉縣司迎故實朝所奉北天子佛牙舍利於京城、貞和元年八月慶天龍寺左梁右櫳誌文、諸堂榜額悉洒奎翰、詔疎石開堂、賜金襴紫伽梨、廿九日幸天龍寺、疎石陞座演法感二星降、二年二月幸天龍寺、疎石說法、齋罷使講傳心法要、三年二月詔志玄住天龍寺、帝又臨幸、觀應元年二月召疎石於內道場受戒、授法名勝光智道號無範、二年八月賜疎石以心宗國師宸奎、九月疎石寢、親幸燕居、視問安否、三年蒙塵吉野、八月落髮河州行在所、延文二年還故都、隱於小倉山、未幾麻衲藤杖巡禮金剛峰等諸名山、後入丹州山國縣開創大雄山常照寺、召通徹（號倩溪）商量碧岩古則、

仍牓禪室曰碧岩、一日至猿抱子鳥啣花之禪語、豁爾有省、通徹附與伽梨以表法信、海珠堂圓通殿怡雲庵茆宇竹簷聊準擬叢林、貞治三年六月賜手勅於妙葩預告遺命、寄賜天龍寺坐禪僧（常牧寮安十六員僧）齋供、建壽塔於天龍之東、曰金剛院、又遺囑文和帝曰、夫爲人主踐萬乘、必資十善宿熏、是故聖德太子治國家之法、必以歸敬三寶爲先、這囘若不依賴三寶、焉保聖祚於萬代、況當々來世之報乎、諺謂種豆不得穀、眞有故哉、秋七月不豫、自題御容曰、謝有爲報、披無相衣、行住坐臥、千佛威儀、又貽遺誡數條於山中、七月七日崩、五十二歲、

曆應皇帝

帝諱豐仁、正安之第二子、建武三年八月卽位、在治十二年、貞和元年八月太上皇慶天龍寺、賜宸奎諸額、二年疎石入內受戒、展師資之勝、次日差中使賜夢窓正覺國師宸翰、四年禪位東宮、觀應元年二月從疎石受衣盂法名、二年幸天龍寺問疎石疾、三年蒙塵吉野、延文二年還舊都、隱伏見落髮、法號眞常智、貞治二年七月幸西芳寺拜瞻佛舍利、勘計得二萬三千餘顆、又勅周皎（號碧潭）開光大光明寺本尊、降手詔於元光（號寂室）請問開示、光懇辭、再賜宸書、仍奉大梅卽心卽佛公案、三年七月幸丹州常照寺、修先皇葬儀、自昇神柩送藏山阿、康曆二年六月廿四日崩、壽六十歲、

觀應皇帝

帝諱興仁、正慶之太子、貞和四年十二月卽位、治政三年、二月鑾輿狩吉野、神璽遷南方、延文二年二月囘駕故都、入伏見離宮、三年幸三會院頂受國師衣盂、賜宸翰於門徒僧曰、朕以、敎化之廣莫若佛法、佛法博孰勝禪宗、朕居潛位侍上、嘗親炙國師、今以聞法之好、永以不諼、特詣三會塔下頂戴衣盂以表師資之禮、仍加號曰夢窓正覺心宗普濟國師、四年賜志玄以佛慈之謚、明德四年祝髮、應永五年正月十三日崩、六十五歲、

至德皇帝

帝諱幹仁、永和之太子、永德二年十二月卽位、在位三十年、永德三年源義滿建相國寺、住持妙葩推疎石爲始祖、妙葩嚮在文和永和兩朝入內說戒、重師資之禮、旌國師之號、朝旨特任天下僧錄司、至德元年差中使信方詔周信（號義堂）住南禪寺、明年陞南禪

寺位於五山之上一、依二義滿奏一班二定五山十刹之甲乙一、明德二年八月慶二相國寺一、三年八月召二明應於內殿一、受二衣盂一、賜二佛日常光國師之勅翰一、應永十六年降二宸奎一賜二中津（號二絕海一）、周及（號二愚中一）大謚一、十九年八月禪二位皇太子一、三十二年四月修二法華講於仙院一、薦二先皇國忌一、又幸二相國寺一、住持中欸對二御說法一、永亨三年祝髮法名素行智、五年十月廿日崩、五十七歲、

永亨皇帝

帝諱彥仁、觀應之曾孫貞成王之子、永亨元年十二月卽位、在治三十六年、十二年四月勅二英文一慶二八坂塔一、寶德元年四月南禪寺一慶（號二雲章一）繪二普門像一請レ賜二宸贊一、卽洒二天筆一寫二龜山先皇舊題一、書二其尾一曰、龜山上皇御製南禪開山大明國師眞贊、依二住持雲章和尙求一書レ之、又聞三妙心寺麟德殿有二先華園帝尊容一、詔而迎二之宮中一、七日供養、仍題二宸贊一曰、傳二如來正法一、坐二玉鳳禪宮一、稽首華園帝、萬年鎭二日東一、召二宗深（號二雪江一）賜二之永鎭妙心一、重勅二藤兼顯一降下再二興妙心寺一綸詔上、二年八月召二三會院塔主等連（號二竺雲一）迎下受疎石所二遺留一衣盂上、自灑二御翰一加二賜佛統國師之謚號一、康正二年十二月賜二相圓寺惠嚴一以二國師之謚一、勅使入レ寺、伶官奏レ樂、住持周鳳奉レ迎二聖旨一、寬正五年七月禪二位皇太子一、應仁元年祝髮、法名圓滿智、文明二年十二月不豫、遺詔曰、莫レ厚二葬儀一、只用二僧法一荼二毘曠野一、朕常慕三光嚴法皇獨神二棲丹山一、收二朕灰骨一安三置之於常照寺之祖堂一、此平素之至願也、官田小鹽莊租貢幷賻二常照一助二香燈之資一、廿七日崩、五十二歲、廷議順二遺詔一、命二天龍寺住持（春叡）一、修二薦安骨佛事於丹州常照寺一、

太上法皇

當今太上法皇尊諱政仁、文祿皇帝之皇太子、慶長十六年四月登二膺寶圖一、

貴胤碩臣出家標目

古人王子 天武兒　開成王子 桓武兒
高岳親王
源明 嵯峨之子 素然　滕 由蓮 ○今按勝歟　啓　生　效 ○今按嵯峨之子無此人　鎮
基貞親王 淳和之子　恒貞太子
人康親王 仁明之子　宗康親王
源多　常康親王 文德之子
國康親王　惟喬親王
每有王子　時有王子
敦實親王　齊世親王
重仁親王 白河之子
鞍多須奈 德齋
笠朝臣麻呂 滿誓
船連天子　中臣正棟 壹演僧正
良岑宗貞 遍照僧正　橘百枝
橘安雄　下道門繼
藤安方
義懷 中納言　惟成 左中辨　顯基 中納言
俊房 寂俊　時範 定惠　時信 寂源

國輔 行圓　行能 定然　江爲基
定基 寂照　親光　盛遠 文覺
則清 圓位　季政 西住　敦光
舉周　顯綱　高光 如覺
元任 能因　永愷 古曾部　保胤 寂心
秀能 如願　俊平 禪信　資長 中納言 如舜
維盛 淨蓮　行房 道全
秀長 如淨　長延 寂延　資業
知家 蓮性　信綱 叡覺　重經 素意
道注 蓮寂　敦頼 道因　爲經 寂超
頼業 寂然　隆行 覺蓮　時元 安性
成定 蓮上　能盛 能蓮　親行 勝命
有季 淨意　時家 道圓　良俊 行蓮
宗信 興信　時賢 見性　範光 寂惠
泰尋 感空　貞俊 俊阿　公義 元可
季衡 右大臣　寶親　師賢
定嗣 中納言 定慧　惟繼 宴儀　藤房 宗弼
長親 子晉

貴胤執政幷諸名家入道薙髮目錄

守貞親王 諡後高倉院
貞成親王 諡後崇光院 法名道欽
宗尊親王 覺慧　惟康親王
守邦親王
蘇馬子
大織冠 鎌足　文室邑珍
師輔 右大臣
兼家 法興院攝政　道隆 關白
道長 法成寺關白　賴通 宇治關白
師實 京極關白　忠實 知足院關白
忠通 法性寺關白　基房 松殿關白
兼實 月輪關白　道家 光明峰寺攝政
兼經 岡屋關白攝政　良實 普光園關白
實經 圓明寺關白　基平 深心院關白
忠家 一音寺關白　兼平 照心院關白
基忠 圓光寺關白　師忠 香園院關白
房實 後一音寺關白　忠教 報恩院關白
道教 三緣院關白　經教 後報恩寺關白

師良 是心院關白　師嗣 後香園關白
兼良 後成恩寺攝政　公房 淨土寺關白
前久 〔東求院相國〕
信尋 本源自性院關白
雅定 久我相國　賴實 六條相國
公經 西園寺相國　良平 醍醐相國
信長 大宮相國　實氏 常盤井相國
通雅 花山相國　實基 德大寺相國
實兼 後西園相國　公守 山本相國
實重 三條相國　公賢 中園相國
通相 千種相國　忠雅 花山相國
實冬 後三條相國　具通 久世相國
公俊 後野宮相國　公名 青觀寺相國
師長 〔妙音院〕相國　公孝 後德大寺相國
實淳 德大寺相國
兼宣 准宮　親房 北畠准后
定雅

實雄 山階左府　實房 三條左府
善成 四辻左府 松岩寺　爲衡 竹林院左府
實量 三條左府　公衡 左府
實照 洞院左府
實親 右府
雅通 中院右府　家定 右府
兼季 今出河右府　賴宗 堀川右府
宗忠 中御門右府　公條 稱名院右府
通成 土御門內府
通顯 如法三寶院內府
公親 三條內府　通重 中院內府
公秀 八條內府　實繼 後八條內府
公豐 稱名院內府　滿季 西山內府
公保 後稱名院內府　實雅 靑蓮華院內府
實宗 大宮內府　師繼 妙光寺內府
實隆 逍遙院內府　兼秀 廣橋內府
實枝 三光院內府　通勝 中院內府
高良臣　忠信 大納言 信覺　公任 大納言　俊成

光忠 大納言　定家 明靜　爲家 融覺
基俊　定長 寂蓮　爲氏 覺阿　爲世 明釋
光俊　公雄 頓阿　師員　爲宗
爲顯 明覺　定親 繁祐　雅永 中納言 淨空

武將家落髪標目

滿仲 慶滿　賴義　義重 上西
淸盛 淨海　重盛 證空
賴朝　賴家　賴經
時賴　時宗　高時
義滿 大相國 天山鹿苑院　義持 大相國 顯山勝定院　義政 大相國 喜山慈照院
義視 大相國 久山大智院　義昭 大納言 昌山靈陽院
直義 惠源　滿詮 大納言　義嗣 權大納言 道純
氏經 斯波氏　賴之 細川氏　滿家 畠山氏

法皇外紀緇門鴻寶

法皇外紀既成、猶慽歷代　聖主金湯我道、煥燁正法之事跡、舍而不摭、仍采自東漸已來迄于當今歷代崇信褒章散在書史塔碑行牒等者每聖一篇、集曰緇門鴻寶、至于夫延喜順德等二十餘君之　宸奎、闕而不存、想此間不可無盛典、只余搜索不足薄知所徵也、昔日梁祐律師撰弘明集、大有裨補、後來唐南山道宣廣續之、於是幽明隨喜無不讚說、後人若亦依南山懿蹤、庶幾獲天人之感通亦不可測也、元策識、

目錄

道皎謚　後光嚴帝
賜妙葩勅書　後圓融帝
智及謚　後小松帝
重陽佛智謚　稱光帝
宗曇謚　後花園帝
靈彥謚　後土御門帝
義亨謚　後柏原帝
惠玄謚　後奈良帝
紹喜謚　正親町帝
玄興謚　後陽成帝
賜崇傳勅書　太上法皇
顯晫謚　太上新院

欽明天皇十三年十月

上貢釋迦銅像幡蓋經論表　百濟聖明王

是法於二諸法中一最爲二殊勝一、難レ解難レ入、周公孔子尙不レ能レ知、此法能生二無量無邊福德果報一、乃至成二辨無上菩提一、譬如下人懷二隨意寶一逐レ所二須用一盡依上レ情、此〔妙〕法寶亦復然、所レ願依レ情無レ所レ乏、且夫遠自二天竺一爰洎二三韓一、依レ敎奉持無レ不二尊敬一、由レ是百濟王臣明謹遣二陪臣怒唎斯致一、奉二傳帝國一流二通畿內一、果二佛之所レ記我法東流聖識不レ徒、

大化元年詔　孝德帝

磯城嶋宮天皇欽明十三年、百濟明王奉三傳佛法於我大倭一、是時群臣俱不レ欲レ傳、而蘇稻目宿禰獨信二其法一、天皇乃詔二稻目宿禰一使レ奉二其法一、譯田宮天皇敏達之世、蘇馬子宿禰追二遵考父之風一、猶重二能仁之敎一、而餘臣不レ信、此典幾亡、天皇詔二馬子宿禰一而使レ奉二其法一、小墾田宮天皇推古之世、馬子宿禰奉二爲天皇一造二丈六繡像銅像一、顯二揚佛法一恭二敬僧尼一、朕更復思下尊二崇正敎一光中啓大猷上、故以二狛大法師福亮惠雲常安靈雲惠至寺主僧旻道登惠隣一而爲二十師一、別以二惠妙法師一爲二百濟寺主一、此師等宜下能敎二導衆僧一修二行釋敎一要使上レ如レ法、凡自二

天皇㆒至㆓于伴造㆒所㆑造之寺不㆑能㆑營者、朕皆助作、令㆑拜㆔寺司等〔與〕㆓寺主㆒、巡㆓行諸寺㆒驗㆓僧尼婢奴田畝之實㆒、而盡顯奏、卽以㆓來目臣三輪色夫君額田部連甥㆒、爲㆓法頭㆒、

諸沙門看病養老詔〔八年九月〕　天武帝

凡諸僧尼者、常住㆓寺內㆒以護㆓三寶㆒、然或及㆑老、或患㆑病、其永臥㆓狹房㆒久苦㆓老病㆒者、進止不便、淨地亦穢、是以自今已後、各就㆓親族及篤信者㆒、而立㆓一二舍屋于間處㆒、老者養㆑身、病者服㆑藥、

祈晴詔〔五年六月〕　持統帝

此夏陰雨過㆑節、懼必傷㆑稼、夕惕迄㆑朝憂懼、思㆓厥愆㆒、其令㆘公卿百寮人等禁㆓斷酒肉㆒攝㆑心悔㆖㆑過、京及畿內諸寺梵衆、亦當㆓五日誦經㆒、庶有㆑補焉、

慶雲二年詔　文武帝

朕以㆓菲薄之躬㆒、託㆓于王公之上㆒、不㆑能㆘德感㆓上天㆒仁及㆗黎庶㆖、遂令㆘陰陽錯謬㆒水旱失㆑時年穀不㆑登民多㆗菜色㆖、每㆑念㆓於此㆒惻㆓怛於心㆒、宜㆑令㆘五大寺㆒讀㆗金光明經㆖、爲㆑救㆓民苦㆒、天下諸國勿㆑收㆓今年擧稅之利㆒、幷減㆓庸半㆒、

優賞神叡道慈詔　元正帝

朕聞優㆑能崇㆑智有㆑國者所㆑先、勸㆑善獎㆑學爲㆑君者所㆑務、於㆑俗旣有、於㆑道宜㆑然、神叡法師、幼而卓絕、道性夙成、撫㆓翼法林㆒濡㆓鱗定水㆒、不㆑踐㆓安遠之講肆㆒、學達㆓三空㆒、未㆑漱㆓澄什之言阿㆒智周㆓二諦㆒、由㆑是服膺請㆑業者已知㆓實歸㆒、函丈挹㆑教者悉成㆓宗匠㆒、道慈法師、遠涉㆓蒼波㆒覈㆓異聞於絕域㆒、遐游㆓赤縣㆒研㆓妙機於祕記㆒、參㆓跡象龍㆒旅㆓莫秦漢㆒、並以、戒珠如㆑懷㆓滿月㆒、惠水若㆑瀉㆓滄溟㆒、儻使天下桑門智行如㆑此者、豈不㆘殖㆓善根㆒之福田渡㆓苦海㆒之寶筏㆖、朕每嘉歎不㆑能㆑已也、宜㆘施㆓食封各五十戶㆒幷標揚優賞用彰㆗有德㆖、

天平十三年詔　聖武帝

朕以㆓薄德㆒忝承㆓重任㆒、未㆑弘㆓政化㆒、寤寐多慚、古之明主皆能㆓先業㆒、國泰人樂、災除福至、修㆓何政化㆒能臻㆓此道㆒、頃者年穀不㆑豐、疫癘頻至、慙懼交集、唯勞罪㆑己、是以廣爲㆓蒼生㆒遍求㆓景福㆒、故前年馳㆑驛增㆓飾天下神宮㆒、去歲普令㆘天下造㆓釋迦牟尼佛尊金像高一丈六尺各一鋪㆒幷寫㆗大般若〔經〕各一部㆖、自㆓今春㆒〔已來〕至㆓于秋稼㆒、風雨順序、五穀豐穰、此乃徵㆑誠啓㆑願、靈貺如㆑答、載惶載恐無㆓以自寧㆒、〔案〕經曰、若有㆘國土講宣讀誦恭敬供養流㆓通此經㆒王㆖者、我等四王常來擁

護、一切災障皆使二消殄一、憂惱疫疾亦令二除差一、所願逐レ心、恒生二歡喜一者、宜レ令下天下諸國各敬造二七重塔一區一并寫中金光明最勝王經妙法蓮華經各十部上、朕又別擬寫二金字金光明最勝王經一每塔各令レ置二一部一、所レ冀聖法之盛與二天地一而永流、擁護之恩被二幽明一而恒滿、其造塔之寺、兼爲二國〔花〕一、必擇二好處一實可二長久一、近人則不レ欲二薰臭所レ及、遠人則不レ欲二勞レ衆歸集一、國司等各宜下務在二嚴飾一兼盡中潔淸上、近感二諸天一、庶幾臨護、布二告遐邇一令レ知二朕意一、

轉讀般若經詔　孝謙帝

朕荷二負重任一履レ薄臨レ深、上不レ能二先レ天奉レ時、下不レ能二養レ民如二子、常有レ慚レ德、實無二榮心一、撤レ膳菲レ躬、日愼二一日一、禁殺之令立レ國、宥罪之典班レ朝、而猶疫氣損レ生、變異驚レ物、永言疚懷不レ知レ所レ措、唯有二佛出世遺敎應感一、苦是必脫、災則能除、故仰二彼覺風一拂二斯祲霧一、謹於二京內諸大小寺一、始レ自二今月十七日一、七日之間、屈二請緇徒一轉二讀大般若經一、因レ此智慧之力忽壞二邪嶺一、慈悲之雲永覆二普天一、既往幽魂通二上下一以證覺、來今顯識及二尊卑一而同榮、宜レ令下普告二天下一斷二辛肉酒一各於二當國諸寺一奉上レ讀、國司國師共知、檢二校所レ讀經卷幷僧尼數一、附レ使奏上、其內外文武官屬、亦同二此制一、稱二朕意一焉、

天下念摩訶般若詔　光仁帝

如聞、天下諸國疾疫者衆、雖レ加二醫療一猶未二平復一、朕君二臨宇宙一子二育黎元一、思言念レ此、寤寐爲レ勞、其摩訶般若波羅密者諸佛之母也、天子念レ之則兵革災害不レ入二國中一、庶人念レ之則疾疫癘鬼不レ入二家內一、思下欲レ憑二此慈悲一救中彼短折上、宜下告二天下諸國一不レ論二男女老少一、起座行步、咸令上レ念二誦摩訶般若波羅密一、其文武百官間レ朝赴レ曹道次之上、及公務之餘常必念誦、庶使下陰陽叶レ序寒溫調レ氣國無二疾疫之災一人遂中天年之壽上、普告二遐邇一知二朕意一焉、

僧籍詔　桓武帝

釋敎深遠、傳二其道一者緇徒是也、天下安寧蓋亦由二其神力一矣、然則惟僧惟尼、有レ德有レ行、自レ非二褒顯一、何以弘レ道、宜乙仰二所司一擇下其修行傳灯無二厭倦一者上景迹齒名具注申送甲、

禁宮吏掠寺詔〔南溟按是蓋據大同元年八月之官符著者所改作〕　平城帝

營レ寺構レ院大小雖レ殊、種レ德植レ功尊卑不レ異、故天下

大小寺宇、其始檀越之者皆能納二田畝一充二資產一累世崇敬、傳至雲仍、近聞權豪官吏放二逐檀胤一改二換僧耽寺田刹囿一恣事二侵掠一朕九重深密、或缺レ聽二外事一有司有レ知急奏不レ匿、聽而不レ言罪在レ不レ赦、

賜靈安寺官稻詔〔弘仁七年十月〇南溟按是異原文蓋係著者改作〕　嵯峨帝

靈安寺徒有二伽藍一未レ修二法事一蓋因二寺寡二產業一也、以二官稻四千束一納レ寺、自今子母利計充二春秋法事及修造一

弔空海法師勅書〔承和二年三月〕　淳和帝

眞言洪匠、密教宗師、邦家憑二其護持一動植荷二其攝念一豈圖崦嵫未レ逼、無常遽侵、仁舟廢レ棹、弱喪失レ歸、嗟吁哀哉、禪關僻左、凶問晚傳、不レ能三使者奔赴相二助茶毘一言レ之爲レ恨、悵恨曷已、思二忖舊窟一悲涼可レ料、今者遙馳二草〔單イ〕書一弔レ之著錄、弟子入室、桑門悽愴奈何、兼以達レ旨、

禁寺邊殺生詔〔承和八年二月〕　仁明帝

勅、天平勝寶四年騰二勅符一曰、先禁二斷寺邊殺生一畢、今如レ聞、時序稍遠、禁斷遂薄、若違犯者、即以二違勅一論者、春蒐秋狩、鈞而不レ網、事不レ得レ已、期二兮止殺一況乎仁祠之邊、精舍之前、從來解脫之界、非二是漁獵之地一如レ聞、勢家豪民無レ憚二憲章一國宰講師不レ存二檢校一遂使二寺內馳レ馬佛前屠レ禽、如レ此淫濫不レ可二勝言一夫妖孼之臻、不二必自一レ天、民自取レ焉、可レ爲二太息一宜下重下二知五畿七道諸國司一嚴令禁中斷寺邊二里殺生上如有二犯者一六位已下科二違勅罪一五位已上錄レ名言上、不レ得二阿容一

賜眞濟法師勅書〔天安元年十月〇南溟按文德實錄所載頗異此蓋本文著者所改作〕　文德帝

天皇詔、僧正眞濟大法師上レ表稱、故大僧都空海大法師、昔延曆中渡海求法、三密法門從レ此發揮、〔諸〕宗之中、功無二與二一所レ願將二僧正號一將レ讓二于先師一者、雖レ知二師資一其志既而在二於朕情一未レ有二許容一仍今賜二先師大僧正官一眞濟大法師任二僧正一如レ舊、

供養東大寺毘盧遮那佛詔〔貞觀三年正月〕　清和帝

詔、山城河內和泉攝津及七道諸國司、近來奉レ修二理東大寺大毘盧遮那佛〔像〕一功夫既成、仍來三月十四日、當下設二無遮之大會一極中莊嚴之妙態上宜下自二十一日一至二廿日一禁中斷殺生上至二於會日一國分二寺各開二齋會一

請二集部内僧尼一、〔普爲二〕供養一、其料物使レ用二正税一、其太宰府於二觀音寺一修レ之、令三導師具演二事由一、兼令三會集僧尼倶稱二讀毘舍那佛號一、乃至無知小民敎レ作二是念一、我等知識所レ奉、修二理毘盧舍那一、今日至心應レ奉二供養一、我亦運レ心、專念同就、廣作二功德一、但先帝准二據本願一、天皇之弘願、以二八幡大菩薩一爲レ主、天下名神及萬民、爲二知識衆一、初行二修理一、今至二當時一、此事遂成、始終雖レ殊、德業惟一、然則使三八幡大菩薩別得二解脱一、令三諸餘名神々力自在一、本願天皇、及先帝御靈、乃至開闢已來登遐聖靈、同賴二薰修一早開二覺花一、爰及二當今一、表裏夷晏、風雨順レ時、年穀豐稔、以レ此爲レ基、當下遍二法界一不レ論二自佗一修中證菩提上焉、

仁王經百座咒願文〔元慶二年四月〕　陽成帝

南閻浮提日本國主、位纂二洪緒一、業字二黎民一、忘二己之勞一、求二人之逸一、歸二心冥護一、莫レ過二仁王一、回二音幽慈一、唯記二般若一、人中師子吼說精微、佛前口光景仰讚嘆、名二天地鏡一、屢照不レ疲、號二摩尼珠一、傍映無レ盡、諸天聖衆是尊是重、一切國王爲レ父爲レ母、青龍在レ戌、朱雀司レ辰、禮撤二肥羞一、禁及二魁膾一、起レ自二京師一遍二於州府一、敷二設百座一、延二屈高僧一、如來寫レ眞、羅漢遺レ像、花與レ霞亂、香逐レ烟薰、糅腹置言、饒舌吐辭、天曉唄響、祇夜偈詞、大小鬼神左右賢聖、淨信男女都鄙〔耳レ鱗〕、事已辨張、限以二七日一、分二于前後一、訖二于二時一、上忍中行、下忍中行、幷證二功德一、兼察二因緣一、放二千光明一、消二七灾難一、鯨海不レ限、花茂實繁、鴈塞歛レ塵、歌罷二折柳一、鴻休罔レ極、撫運年長、鳳曆無レ疆、承平日久、令二我赤縣上和下和一、令三我白藏多レ黍多レ稌、悠々萬物、蠢々群生、共養二聖胎一同開二慧眼一、

答遍昭辭職表勅書〔仁和元年三月〕　光孝帝

公之於レ朕也、外結二香火一、內投二膠漆一、非二中路之傾蓋一、據二前生之宿因一、不レ意寄二事乞骸一、解二綱維於澗戶一、矯二詞知足一、停二影向於瑣窓一、彼白衣之忌二夜行一、昔日聞二諸有識一、緇侶之告二歸老一、朝章闕以無レ存、公之有二此言一、朕未レ得二其意一、若非二君子之戲一、卽忌レ我之甚乎、況運繫二澆風一、待二方便智之安レ國、〔命含二寒露二〕〇四字據三代實錄補思二神通力之養レ民、道不二虛行一、人能弘レ道、當三朕新馭二秋駕一、願公暫鎭二玄門一、自レ今閣レ筆、勿レ傷二朕懷一、

仁和寺圓堂發願文　寬平帝

昔爲二人君一、百姓作レ惡皆歸レ我、今成二佛子一、一身修レ善普利レ佗、

六條御堂發願文　　　白河帝

世漸及二澆季一、雖レ屬二末法一、不レ可レ改、我此願遠可レ期二三會曉一、我速證二九品一、天眼監レ之、我暫留二三有一、怨念罰レ之、何世聖君非二我後裔一、誰家賢臣非二我舊僕一、一事一言違レ之背レ之、國主皇帝殊可レ加二炳誡一矣、仍留二手痕一而表レ信、

賜御室勅書　　　崇德帝

昔乎槐門崇廟之窓、安二玉體遊宴之心一、今也離宮外土之浪、添二江南浮沈之哀一、山風拂レ松獨莚見レ月、爭奈再還二舊都一、自成二玉壘之氣一、月傾二西山一想二像都城仙宮之曉詠一、日出二宸岳一難レ忘二龍樓竹園之佳興一、早息二民烟蓬屋之悲一、必昇二三佛菩提之妙位一、

創立南禪寺願文　　　龜山帝

朕聞、古云、人身難レ逢、佛法難レ聽、吾被レ催二十善餘熏一、辱踐二萬乘之帝祚一、雖レ有二亢龍之悔一、猶待二金仙之樂一、竊思何奈法逢二大乘禪一開二南禪處一、於二五百世之間一、如レ在二三百餘會之砌一、爰以建レ寺度レ僧、有漏善根雖レ非二本望一、利生悲願化レ物要路也、吾子々孫々宜レ知二吾所思一、當寺繁昌者、蘿圖永固、玉葉永茂、若背二吾所思一廢亡旋レ踵、若在二天界一、以二天眼一照レ之、若在二佛界一、以二佛眼一鑑レ之、思レ之思レ之、

叡尊諡　　　後伏見帝

叡尊者、一天四海之大導師、濁世末代之生身佛也、以二濟度衆生一爲二己任一、以二大悲闡提一爲二我願一、仍王公卿士之歸二智行一也、皆約二現當之値遇一、勇猛精進之住二堅固一也、誠續二佛法之壽命一、是以九十年之化機暗彈二四八相之妙果一、遂就思二其德一、更匪二直人一、方贈二寵輝一宜レ加二崇飾一、故號二興聖菩薩一、

賜道皎勅書　　　花園院帝

昨夜受業之儀感悦無レ極、縱雖レ隔二萬里之波濤一、同風之旨何有二遠近一、義同二國師一、後日必可レ有二其號一、當時非二自專一、尤以遺恨、併期二再會之時一者也、

信空諡　　　後醍醐帝

律以禁レ惡、南山之宗旨斯著、論以明レ善、東漢之史籍聿宣、信空法師重修差積、德行已高、是以後宇多院者儼二苾蒭木叉之律儀一、談天仙院者專二菩薩具足之軌則一、共依二和尚之德一、令レ重二師資之禮一、何況授二十重之禁一、及二六代朝一、感二其遺德一、追二號慈眞和尚一、

天龍寺佛殿梁牌　　　光嚴帝

虔革二故嵯峨離宮一昇二建精舍一、伏冀諸障併消、頓超二昇

陛之區域一、洪慈恭爲二後醍醐聖廟資一、陪二善根一、均二被普化怨親之品彙一、太上天皇量仁謹書、

賜疎石勅書　光明帝

夙生二結緣一、得レ聽二正宗一、昨日授衣既畢、爲レ旌二祖道繁興宗門標準一、特號二夢窓正覺國師一、

志玄諡　崇光帝

朕切追二慕法恩一、而去秋特詣二三會靈塔一、頂二戴衣鉢一、以伸二弟子儀一、于レ時無極和尚爲二院主一、爲レ之證二明臘邵德高一、先帝問二厥世系一、實爲二順德天皇四葉之聖裔一、朕親二臨禪床一、仰爲二天龍第二之住持一、國師已逝、恰如三一木之支二大厦一、今荐示レ化、宗門又誰賴哉、不レ堪二喟然一、特謚二佛慈禪師一、

道皎諡　後光嚴帝

琴絃絕兮清音尚遺、蘭叢凋兮德馨不レ盡、綱二永泰之濫觴一、宜レ資二追崇之准的一、道皎和尚經二緯三乘之心地一、導二達萬行之直路一、扇二宗風於大宋一、揚二聲譽於中華一、寔是智海之津涯、惠林之杞梓也、是以花園太上皇荐凝二叡襟一、專有二受衣一、陽祿仙院忽皈二宗旨之法一、今重二師資之禮一、就二彼禪扃一立二其寢廟一、旁感二重寄之儀一、宜下加二賁飾之典一、謚曰中普光大幢國師上、

賜妙葩勅書　後圓融帝

天下太平興國南禪々寺住持春屋和尚者、乃爲二正覺國師之上足一也、親受二國師付囑一、深明二心法根源一、道著二一代一、德被二萬邦一、所レ謂僧中之龍、法中之王者也、朕辱迎二內殿一、受二付衣之儀一、而執二弟子之禮一、間法恩大皇天罔レ極、爰加二智覺普明國師之號一、以旌二皇天之下一人之上之尊一云、

智及諡　後小松帝

晦レ跡韜レ光、以安二心空門一、是道人之本志、立レ號易レ名以褒寵旌異、是王者之良規、丹州路金山愚中和尚者、睿靈山單傳二正音一、得二少室一寄付二的旨一、雖レ寄二身於林岳一、而名喧二宇宙一、其道甚尊顯、心切慕レ之、謚曰二佛德大通禪師一、

中津諡　稱光帝

朕聞、昔在二曆應康永之間一、發二大願力一、痛救二末法之弊一、具二大辯才一、普應二十方一、而無レ礙者夢窓正覺國師而已、升二其堂一、入二其奧一、親獲二本有清淨之心印一、定二萬象於方寸陰一、翊二四海同文之聖治一、乃佛智廣照國師也、玆恨生晚不レ及レ瞻二其光儀一矣、昨迎二慈像於內殿一、頂二戴衣盂於眞前一、自レ非三特立下稱號上、以表二示天下一、無下以

昭中慕レ道欽レ德之意上、先レ是己丑歲 上皇旣賜二大諡一、今加二徽號一曰二淨印翊聖國師一、

宗曇諡　後花園帝

德者依レ道自彰、名者隨レ行惟貴、天之成レ美世之所レ恭、爰華叟和尙受二大灯的傳之宗旨一、興二臨濟正脈之玄風一、寔是法海之靈珠、禪林之翹楚、肆錫二稱譽於舊碑一、揚二徽號於新塋一、諡曰二大機弘宗禪師一、

靈彥侍者諡　後土御門帝

存二喬木之故家一、創二聽松之洪業一、不レ謬二禪居令嗣一、足レ興二愚極先宗一、措二其身於山林一、馳二其名於宇宙一、斯道出レ震、惟德重レ維、才高智高、智次蟠二三千風月一、禪熟詩熟、夢中閱二八十春秋一、朕所レ聞克傳二佛心一、衆所レ知丕承二祖業一、忘二官品一而持二鐵船之全機一、授二徽號一而復二寶鑒之玄跡一、諡曰二惠鑑明照禪師一、

義亨諡　後柏原帝

百丈前無二寸土一、畜創以二獅叢一、五岳外有二佗山一、尊名曰二龍寶一、自レ非二英衲雲集一、爭得二緇禮日新一、徹翁和尙幷二吞四海空門一、豁二開一條正路一、談玄對御、匹似三與化酹二莊宗一、離文傳心嚴三於斷際接二裴相一、眼中無二佛祖一、喝下分二賓主一、露香二東山薔薇一舊址宛爾、雪寒二南浦梅蘂一祖風凜然、慈悲時雷轟旱地峻嶮處、春回二陰谷一不レ忘二靈山懸記（起カ）一具瞻二大灯的傳一、諡曰二大祖正眼禪師一、

惠玄諡　後奈良帝

朕召二本光國師一、大休之號、參二得關山祖拈得底本有圓成之公案一得二大機大用一、而今當二祖忌二百年一、勅諡二本有圓成國師一以酬レ恩報レ德云爾、

紹喜諡　正親町帝

快川和尙、天下師表、世上優曇、令三子令レ孫刷二惠林祥鳳羽翼一、大機大用露二德山獅子爪牙一、擬二道昧於東海百年鐵一、祝二國運南岳八字碑一、朕遙聞二師道風一、叡感有レ餘、揭二大通智勝國一、

玄興諡　御陽成帝

朕迎二南化禪師一入內、參二得卽心卽佛之公案一、令レ得二大機大用一、不レ堪二叡感一、生前雖レ可レ稱二國師一、不レ遂二其志一、故任二在日之旨一、特賜二定慧圓明國師之號一、以報レ恩謝レ德珍重、

賜崇傳勅書

太上法皇

大覺叫二天下獨尊一、茲開二西竺勝會一、達磨現二濁末優跋一忽抽二東土初支一、呈二放光動地之祥一、具超二宗越格之眼一、

見住南禪以心大和尚、法門領袖、苦海艤航董、南禪名藍冠諸宗、鼓吹一代司街左僧錄、統承千歲光被六幽、講說群書吞翻波瀾、開示萬法口盡江水、朕特加圓照本光國師號、以酬師範之恩、更渉多辭却汚其德者耶、

賜顯晫謚

太上新院

夢窓爲一國師負斗岳星辰、瞻西佛慧領萬年之衆仰、人天龍象集交、欽崇眷慕浴皇恩、委曲截經垂活手、爰昕叔大和尚丞董東京雄席、晚建南禪法幢、端的籍却達磨眼睛、驀直消得臨濟骨髓、對御普說馬祖提唱睦州峻機、亞聖大才子游文學、顏淵德行詞源衮々得法、淸規井々陷人、

太上法皇往年表師資之儀落節特受法名玄盂矣、朕今感其德化、謚佛性本源國師、以旌天下之獨尊云、

議奏歴

延寶六年
靈元院

延寶七年
藤公規
同實通
同季定
權大納言從二位藤經慶 三十六 八月三十日爲、

延寶八年
權大納言從二位藤經慶 三十七
同實通 三十一
權中納言 同方長 三十三 三月廿七日爲、

延寶九年 爲天和元
權大納言正二位藤公規 四十九 右大將、
從二位同經慶 三十八
權中納言 同實通 三十二
同方長 三十四 民部卿、十一月廿一日任權大納言、(卿如元、)

天和二年
權大納言正二位藤公規 五十 右大將、
從二位同經慶 三十九
同實通 三十三
同方長 三十五 民部卿、十一月十八日辭官、
同頼孝 三十九 月　日加歟、

天和三年
權大納言正二位藤公規 五十一 左大將、　月　日免、
從二位同頼孝 四十
同經慶 四十
同實通 三十四 二月十四日兼中宮大夫、
前權大納言 同方長 三十六 民部卿、正月廿五日還任、十一月廿七日爲武傳、
參議正三位源有維 四十六 右中將、十一月廿七日加、

天和四年 爲貞享元
權大納言從二位藤頼孝 四十一 正月廿日辭官、同日蟄居、同日止歟、

同經慶 四十一 十二月廿三日辭官、
同實通 三十五 中宮大夫、
參議正三位源有維 四十七 右中將、正月十一日辭官、
權大納言從二位藤資廉 四十一 九月廿八日爲武傳、二月廿三日爲、十二月廿七日爲武傳、
非參議正三位源通廉 五十五 二月廿三日爲、九月廿二日辭歟、同日薨、
前參議 同通福 五十一 十月二日爲、
藤基量 三十二 十一月十八日加、十二月廿三日任權中納言、

貞享二年
權大納言從二位藤實通 三十六 中宮大夫、七月廿三日兼右大將、
前權大納言 同經慶 四十二
權中納言正三位同基量 三十三
前參議 源通福 五十二

貞享三年 十二月八日可稱議奏、被仰下、（是役、年來年寄衆、或御側衆と稱之、）
權大納言從二位藤實通 三十七 右大將中宮大夫、
前權大納言 同經慶 四十三
權中納言正三位同基量 三十四
前參議 源通福 五十三
權中納言從三位同重條 三十七 十一月廿四日加、

貞享四年 三月廿一日御讓位、
權大納言從二位藤實通 三十八 右大將中宮大夫、三月廿五日止大夫、
前權大納言 同經慶 四十四 即位傳奏、
權中納言正三位同基量 三十五 三月廿一日爲院傳奏、
從三位源重條 三十八 二月廿九日正三位（去二年正五分）三月廿一日爲院傳奏、十月七日任權中納言、
前參議正三位同通福 五十四
前權大納言從二位菅豐長 六十三 三月廿一日爲、
非參議從三位藤永貞 四十八 三月廿一日爲、

東山院

貞享五年（爲元祿元）
權大納言從二位藤實通 三十九 右大將、
前權大納言 同經慶 四十五
菅豐長 六十四 式部大輔、
權中納言正三位源通福 五十五 三月九日辭官、
非參議從三位藤永貞 四十九

元祿二年
權大納言從二位藤實通 四十 右大將、十二月廿九日改實治、

前權大納言　同經慶 四十六
　　　　　　菅豐長 六十五 式部大輔、
前權中納言正三位源通福 五十六
非參議從三位藤永貞 五十五 月　日辭歟、

元祿三年
權大納言從二位藤實治 四十一 右大將、
前權大納言　同經慶 四十七
　　　　　　菅豐長 六十六 式部大輔、
前權中納言正三位源通福 五十七

元祿四年
權大納言從二位藤實治 四十二 右大將、
前權大納言　同經慶 四十八
　　　　　　菅豐長 六十七 式部大輔、
前權中納言正三位源通福 五十八

元祿五年
權大納言從二位藤實治 四十三 右大將、
前權大納言　同經慶 四十九
　　　　　　菅豐長 六十八
前權中納言正三位源通福 五十九

元祿六年
權大納言從二位藤實治 四十四 右大將、八月七日免、
前權大納言　同經慶 五十
　　　　　　菅豐長 六十九 月　日辭歟、
前權中納言正三位源通福 六十
權大納言正二位藤資凞 五十九 九月十二日加、
　　　　從二位源通誠 三十四 九月十二日加、
　　　　正三位藤實業 四十六 九月十二日加、

元祿七年
權大納言正二位藤資凞 六十 二月十二日正二位、(去正五分)
　　　　從二位源通誠 三十五 二月十二日從二位、(去正五分)四月六日免、
　　　　正三位藤實業 四十七 二月十二日正二位、(去正五分)四月六日免、
前權大納言從二位同經慶 五十一 二月十二日從二位、(去正五分)十二月十九日任、權大納言、(推任)
前權中納言正三位源通福 六十一

元祿八年

權大納言正二位藤資熈 六十一
源通誠 三十六
從二位同通福 六十二 十一月十六日辭官、

元祿九年

權大納言正二位藤資熈 六十二
源通誠 三十七
從二位同通福 六十三

元祿十年

權大納言正二位藤資熈 六十三
源通誠 三十八
前權大納言從二位同通福 六十四
權大納言正二位藤伊季 三十八 八月十三日加、
參議正三位同保春 四十八 八月十三日加、十二月十四日辭三木、

元祿十一年

權大納言正二位藤資熈 六十四
同伊季 三十九
源通誠 三十九
前權大納言從二位同通福 六十五
前參議正三位藤保春 四十九 十二月二十七日叙從二位、(去正五分)

元祿十二年

權大納言正二位藤資熈 六十五 月 日止歟、
同伊季 四十 十一月一日兼右大將、
源通誠 四十
前權大納言從二位同通福 六十六 九月 日辭、
前參議藤保春 五十
非參議從三位同實陰 三十九 月 日加歟

元祿十三年

權大納言正二位藤伊季 四十一 右大將、
源通誠 四十一
前參議從二位藤保春 五十一 六月廿八日爲武傳、
非參議從三位同實陰 四十
權中納言正三位同勝房 五十一 八月廿五日加、同月廿九日辭官、
非參議平行豐 四十八 宮内卿、十一月廿五日加、

元祿十四年

權大納言正二位藤伊季四十二 右大將、

源通誠四十二

前權中納言正三位藤勝房五十二 十二月廿三日從二位、

非參議　平行豐四十九 宮内卿、十月廿四日任右衞門督、十二月廿六日任三木、（督如元、）

藤實陰四十一

元祿十五年

權大納言正二位藤伊季四十三 右大將、

源通誠四十三

前權中納言從二位藤勝房五十三

參議正三位平行豐五十 右衞門督、

非參議從三位藤實陰四十二 十二月廿三日任三木、同日兼右中將、

元祿十六年

權大納言正二位藤伊季四十四 右大將、

源通誠四十四

前權中納言從二位藤勝房五十四

參議正三位平行豐五十一 右衞門督、

藤實陰四十三 右中將、十二月二十三日正三位、

元祿十七年 爲寶永元

權大納言正二位藤伊季四十五 右大將、

源通誠四十五

前權中納言從二位藤勝房五十五

參議正三位平行豐五十二 右衞門督、

藤實陰四十四 右中將、

寶永二年

權大納言正二位藤伊季四十六 右大將、

源通誠四十六

前權中納言從二位藤勝房五十六

參議正三位平行豐五十三 右衞門督、十二月十八日從二位、（去正五分）

藤實陰四十五 右中將、

寶永三年

權大納言正二位藤伊季四十七 右大將、

源通誠四十七

前權中納言從二位藤勝房五十七

參議　平行豐五十四 右衞門督、十二月十五日辭兩官、

正三位藤實陰四十六 右中將、

寶永四年
權大納言正二位藤伊季 四十八 右大將、
　　　　　　源通誠 四十八
前權中納言從二位藤勝房 五十八
參議正三位同實陰 四十七 右中將、十月二日辭兩官、
前參議從二位平行豐 五十五

寶永五年
權大納言正二位藤伊季 四十九 正月廿一日免、
　　　　　　源通誠 四十九 二月廿七日兼中宮大夫、十二月十九日兼右大將、
前權中納言從二位藤勝房 五十九
前參議　　平行豐 五十六
　　正三位藤實陰 四十八 正月六日從二位、（去五分）
前權大納言正二位同篤親 五十三 正月廿九日加、

寶永六年
權大納言正二位源通誠 五十 右大將、中宮大夫、三月十八日免、
前權大納言　藤篤親 五十四
前權中納言從二位同勝房 六十 六月廿一日爲新院傳奏、
前參議　　平行豐 五十七 廿一日爲新院傳奏、
權大納言　　藤實陰 四十九 二月廿八日辭、
　　　　　　同公全 三十二 二月二十八日加、
前參議正三位源具偈 四十四 三月十八日加、
權中納言　　藤隆長 三十八 六月廿一日加、
非參議從三位同基顯 四十 六月廿一日加、

中御門院

寶永七年
權大納言從二位藤公全 三十三
前權大納言正二位同篤親 五十五 爲御即位傳奏、
權中納言正三位同隆長 三十九
前參議　　源具偈 四十五
非參議從三位藤基顯 四十一

寶永八年（爲正德元）
權大納言從二位藤公全 三十四 十二月廿三日正二位、
前權大納言正二位同篤親 五十六
權中納言正三位同隆長 四十 十二月廿三日從二位、
前參議　　源具偈 四十六

非参議従三位藤基顯 四十二 二月廿八日正三位、十月三日治部卿、

正德二年

権大納言正二位藤公全 三十五 六歟 月 廿六歟 日爲武傳

前権大納言　同篤親 五十七

権中納言従二位同隆長 四十一

前参議正三位源具偈 四十七

非参議　藤基顯 四十三 治部卿

位第一
権大納言従二位同經晉 三十一 七月七日加、同日免神宮上卿、十二月廿五日正二位、

正德三年

権大納言正二位藤經晉 三十二

前権大納言　同篤親 五十八

権中納言従二位同隆長 四十二 五月十二日賀茂傳奏、

前参議正三位源具偈 四十八 九月廿五日權中納言、十二月廿三日從二位

非参議　藤基顯 四十四 治部卿、

正德四年

権大納言正二位藤經晉 三十三 四月廿三日辭、同日薨、

前権大納言　同篤親 五十九

権中納言従二位同隆長 四十三 五月十二日權大納言、

源具偈 四十九

非参議正三位藤基顯 四十五 治部卿、六月廿六日三木、

平行康 四十二 右衛門督、六月二日加、

正德五年

権大納言従二位藤隆長 四十四

前権大納言正二位同篤親 六十

権中納言従二位源具偈 五十 八月六日辭權中、

参議正三位藤基顯 四十六

非参議　平行康 四十三 右衛門督、

正德六年 爲享保元

権大納言従二位藤隆長 四十五 六月廿七日辭賀茂傳奏、

前権大納言正二位同篤親 六十一 七月四日免、

前権中納言従二位源具偈 五十一

参議正三位藤基顯 四十七

非参議　平行康 四十四 右衛門督、

在具偈上
権中納言従二位藤兼親 三十六 七月四日加、(父卿免替)九月六日薨(父)、七月廿六日除服復任、

享保二年

權大納言從二位藤隆長 四十六 五月廿五日止役遠慮、
權中納言　同兼親 三十七
前權中納言　源具偈 五十二
參議正三位藤基顯 四十八 十一月廿五日兼刑部卿、
非參議　平行康 四十五 右衛門督、三月八日任參議、(右衛門督如元)

享保三年

權中納言從二位藤兼親 三十五
前權中納言　源具偈 五十三 十二月廿一日免
參議正三位藤基顯 四十九 刑部卿、五月七日任權中納言、十二月八日辭權中納言、
　平行康 四十六 右衛門督、
權中納言(在兼親次)從二位藤兼廉 四十一 二月廿八日加、
(在兼廉次)從三位同基香 二十八 十二月廿一日加、

享保四年

權中納言從二位藤兼親 三十六 三月二日權大納言、十二月廿三日爲武傳、
　同兼廉 四十二 三月二日權大納言、
從三位同基香 二十九 正月六日爲賀茂傳奏、二月十一日辭賀傳、
前權中納言正三位同基顯 五十 十二月廿六日從二位、
參議　平行康 四十七 右衛門督、九月十五日辭兩官、

享保五年

權大納言從二位藤兼廉 四十三
權中納言從三位同基香 三十
前權中納言從二位同基顯 五十一
前參議正三位平行康 四十八
參議(在行康上)從三位藤隆成 四十五 左中將、十月十九日加、

享保六年

權大納言從二位藤兼廉 四十四
權中納言從三位同基香 三十一 十月十二日正三位、
前權中納言從二位同基顯 五十二
參議從三位同隆成 四十六 左中將、
前參議正三位平行康 四十九

享保七年

權大納言從二位藤兼廉 四十五
權中納言正三位同基香 三十二
前權中納言從二位同基顯 五十三

參　　議從三位同隆成 四十七 左中將、十二月五日任權中納言、
前　參　議正三位平行康 五十

享保八年

權大納言從二位藤兼廉 四十六
權中納言正三位同基香 三十三
　　　　從三位同隆成 四十八
前權中納言從二位同基顯 五十四
前　參　議正三位平行康 五十一 十一月廿六日權中納言、

享保九年

權大納言從二位藤兼廉 四十七 二月廿二日辭、
權中納言正三位平行康 五十二 二月八日辭官、
　　　　　　　藤基香 三十四 九月七日任權大納言、
　　　　從三位同隆成 四十九 後四月二日正三位、十二月廿六日辭官、
前權中納言從二位同基顯 五十五

享保十年

權大納言正三位藤基香 三十五
前權中納言從二位同基顯 五十六
　　　　　　　平行康 五十三
　　　　正三位藤隆成 五十

享保十一年

權大納言正三位藤基香 三十六 九月廿一日爲武傳、
前權中納言從二位同基顯 五十七
　　　　　　　平行康 五十四
　　　　正三位藤隆成 五十一
第一權大納言 在惟通次 正二位源惟通 四十 二月五日加、
　　　　從二位藤常雅 二十七 十一月廿五日加、

享保十二年

權大納言正二位源惟通 四十一 十二月十四日兼右大將、
　　　　從二位藤常雅 二十八 四月廿九日辭神宮上卿、
前權中納言　　同基顯 五十八
　　　　　　　平行康 五十五
　　　　正三位藤隆成 五十二 七月廿一日辭、
非　參　議　　同宗建 三十一 侍從、七月廿三日加、

享保十三年

權大納言正二位源惟通四十一　右大將、
　　　　從二位藤常雅二十九　立坊傳奏、十月廿日服解、(父)、十二月十一日除服復任、
前權中納言　同基顯五十九
　　　　　　平行康五十六
非參議正三位藤宗建三十二　侍從、

享保十四年
權大納言正二位源惟通四十二　右大將、
　　　　從二位藤常雅三十　十二月廿四日正二位、
前權中納言　同基顯六十
　　　　　　平行康五十七　三月一日辭、
非參議正三位藤宗建三十三　侍從、
在基顯上
權中納言從二位同公尹五十五　四月八日加、

享保十五年
權大納言正二位源惟通四十四　右大將、七月廿二日免、
　　　　　　藤常雅三十一　十月三日兼右大將、
權中納言從二位同公尹五十六　五月廿六日辭官、
前權中納言　同基顯六十一
非參議正三位同宗建三十四　侍從、十月三日任三木、十一月廿七日兼侍從、
在常雅次
權大納言從二位同公福三十四　七月廿八日加、

享保十六年
權大納言正二位藤常雅三十二　右大將、
　　　　從二位同公福三十五　九月二日爲武傳、
前權中納言　同基顯六十二
　　　　　　同公尹五十七
參議正三位同宗建三十五　侍從、
在基顯上
權大納言從二位同治房四十二　九月四日加、十月三日辭神宮上卿、十二月廿五日辭官、

享保十七年
權大納言正二位藤常雅三十三　右大將、
前權大納言從二位同治房四十三
前權中納言　同基顯六十三　十二月廿七日免、同日正二位、(推敍)
　　　　　　同公尹五十八
參議正三位同宗建三十六　侍從、
在治房次
權中納言正三位同賴胤三十六　太宰權帥、十二月廿八日加、(重服中)

享保十八年
權大納言正二位藤常雅三十四　右大將、

前權大納言從二位同治房 四十四 九月廿九日辭、同日薨、
權中納言正三位同賴胤 三十七 太宰權帥、
前權中納言從二位同公尹 五十九
參議正三位同宗建 三十七 侍從、
在宗建上 參議 同公野 四十六 右中將、十月十八日加、十二月十九日辭兩官、

享保十九年

權大納言正二位藤常雅 三十五 右大將、
權中納言正三位同賴胤 三十八 太宰權帥、正月八日權大納言、十一月六日爲武傳、七月八日辭、
前權中納言從二位同公尹 六十
參議正三位同宗建 三十八 侍從、六月十九日權中納言、
前參議 同公野 四十七
在公野上 參議從三位同實全 三十五 右中將、七月八日加、

享保廿年 三月廿一日讓位、十一月三日卽位、

權大納言正二位藤常雅 三十六 右大將、三月廿一日爲院執權、(讓位日)
權中納言正三位同宗建 三十九 三月廿一日爲院傳奏、(御讓位日)
參議從三位同實全 三十六 右中將、四月五日任權中納言、十月十九日辭、
前參議正三位同公野 四十八
在常雅次 前權大納言正二位源重孝 四十四 三月廿一日加、(受禪日)
在公野上 前參議正三位藤兼重 五十二 三月廿一日加、(受禪日)
在兼重上 參議從三位同資敬 四十一 十一月十四日加、

櫻町院

享保廿一年 爲元文元

權大納言正二位藤常雅 三十七 右大將、正月廿三日免、
前權大納言 源重孝 四十五
參議從三位藤資敬 四十二 正月八日辭、
前參議正三位同兼重 五十三
同公野 四十九 十二月十二日權中納言、(推任、自前朝以有役儀勤勞被推任、)
在重孝上 權大納言從二位源通兄 二十八 正月廿三日加、五月十二日服解、(母)七月三日除服復任、
在重孝次 權中納言正三位藤隆兼 四十一 正月廿三日加、

元文二年

權大納言從二位源通兄 二十九
前權大納言正二位同重孝 四十六
權中納言正三位藤公野 五十
前參議 同隆兼 四十二 二月十九日辭官、九月十日辭、
同兼重 五十四

（在公野次）前權中納言從二位同永房　五十　十月十六日加、

元文三年　十一月十九日大嘗會、

權大納言從二位源通兄　三十
前權大納言正二位同重孝　四十七
權中納言正三位藤公野　五十一
前權中納言從二位同永房　五十一　九月三十日服解、（父）、十二月三日除服復任、同月十六日辭官、
前參議正三位同兼重　五十五

元文四年

權大納言從二位源通兄　三十一
前權大納言正二位同重孝　四十八
前權中納言從二位藤永房　五十二
正三位同公野　五十二
前參議同兼重　五十六　十二月廿八日辭、

元文五年

權大納言從二位源通兄　三十二
前權大納言正二位同重孝　四十九
前權中納言從二位藤永房　五十三
正三位同公野　五十三
參議從三位同隆英　三十九　正月廿六日加、

元文六年（爲寛保元）

權大納言從二位源通兄　三十三　九月十九日爲武傳、
前權大納言正二位同重孝　五十
前權中納言從二位藤永房　五十四
正三位同公野　五十四
參議從三位同隆英　四十（在永房上）
權中納言正三位同光綱　三十一　左兵衛督、十月一日加、

寛保二年

前權大納言正二位源重孝　五十一
權中納言正三位藤光綱　三十二　左兵衛督、
前權中納言從二位同永房　五十五　十二月廿四日正二位、
正三位同公野　五十五
參議從三位同隆英　四十一

寛保三年

前權大納言正二位源重孝五十二
權中納言正三位藤光綱三十三　左兵衛督、
前權中納言正二位同永房五十六　六月廿九日任權大納言、
正三位同公野五十六　六月廿九日從二位、十二月五日辭、同六日薨、
參（在光綱上）議從三位同隆英四十二　六月廿三日辭官、
前權大納言從二位同俊將四十五　十二月十五日加、(重服中)、

寛保四年（爲延享元）

權大納言正二位藤永房五十七　三月廿三日辭官、十一月廿八日免、
前權大納言源重孝五十三　十一月廿八日免、
從二位藤俊將四十六
權中納言正三位同光綱三十四　左兵衛督、八月三日遷左衛門督、同月廿九日補檢非違使別當、
前參議從三位同隆英四十三

延享二年

前權大納言從二位藤俊將四十七　三月廿三日正二位、
權中納言正三位同光綱三十五　左衛門督使別當、三月廿三日從三位、
前參議從三位同隆英四十四　三月廿三日正三位、
（在光綱次）權中納言正三位同兼胤三十二　太宰權帥、正月十四日加、三月廿三日從二位、

延享三年

前權大納言正二位藤俊將四十八　三月廿九日辭、
權中納言從二位同光綱三十六　左衛門督使別當、
同兼胤三十二　太宰權帥、
前參議正三位同隆英四十五　十二月廿四日聽直衣、

延享四年　五月二日讓位、九月廿一日即位、

權中納言從二位藤光綱三十七　左衛門督使別當、十二月十九日爲武傳、
同兼胤三十三　太宰權帥、五月十日爲院司執權、
前參議正三位同隆英四十六　五月二日爲院傳奏、
參議正三位同公文三十五　右中將近江權守、五月二日爲(受禪日元三卿、)
非參議同重豐四十五　大藏卿、五月二日爲、(同上)
源通積四十　五月二日爲、(同上)
權大納言正二位藤榮親三十九　十二月廿七日加、

桃園院

延享五年（爲寛延元）　十一月十七日大嘗會、

權大納言正二位藤榮親四十　八月十五日辭神宮上卿、

寶暦九年
前權大納言正二位藤公文 四十七 本座、
權大納言從二位同賴要 四十五
非參議正三位源盛仲 五十五 治部卿、
權中納言 藤賴言 三十八 太宰權帥、二月十五日加、十二廿四從二位、
參議 平時行 四十六 右衛門督、二月十五日加、

寶暦十年
前權大納言正二位藤公文 四十八 十月十九日爲武傳、
權大納言從二位同賴要 四十六 八月廿四日服解、(養母)、十月十四日餘服復任、
權中納言 同賴言 三十九 太宰權帥、
參議 源盛仲 五十一 治部卿、

寶暦十一年
權大納言從二位藤賴要 四十七
權中納言 同賴言 四十 太宰權帥、
參議 平時行 四十八 右衛門督、二月十六日任權中納言、
非參議正三位源盛仲 五十二 治部卿、
前權大納言正二位藤雅香 五十九 五月二日加、

寶暦十二年 七月廿七日踐祚、
權大納言從二位藤賴要 四十八 九月廿四日叙正二位、
前權大納言正二位同雅香 六十
權中納言從二位同賴言 四十一 太宰權帥、
平時行 四十九
非參議正三位源盛仲 五十三 治部卿、九月廿四日辭、
前參議從二位同賞雅 五十八 九月廿八日加、

仙洞 後櫻町院

寶暦十三年
權大納言正二位藤賴要 四十九 十二月四日辭官、同日聽本座、
前權大納言 同雅香 六十一
權中納言從二位同賴言 四十二 太宰權帥、二月十日辭官、(權帥如元、)
平時行 五十
前參議 源賞雅 五十九

寶暦十四年 爲明和元
前權大納言正二位藤賴要 五十 本座、

同雅香 六十 二

権中納言 藤頼言 四十 三 太宰権帥、

前参議 源賞雅 六十

明和二年

前権大納言正二位藤頼要 五十 一 本座、

同雅香 六十 三 十二月十九日辞、

権中納言従二位平時行 五十 二

前権中納言 藤頼言 四十 四 太宰権帥、二月八日叙正二位、

前参議 源賞雅 六十 一 十月二十五日辞、

参議従三位藤隆望 四十 一 左衛門督、十月廿五日加、

前参議正三位源重度 四十 一 十二月廿二日加、

明和三年

前権大納言正二位藤頼要 五十 二 本座、

権中納言従二位平時行 五十 三

前権中納言正二位藤頼言 四十 五 太宰権帥、七月廿五日辞、

参議従三位同隆望 四十 二 左衛門督、

前参議正三位源重度 四十 二

在重度上 平行忠 五十 一 七月廿七日加、十二月十九日従二位、

明和四年

前権大納言正二位藤頼要 五十 三 本座、

権中納言従二位平時行 五十 四 八月五日辞官、

参議従三位藤隆望 四十 三 左衛門督、十一月三十日任権中納言、

前参議従二位平行忠 五十 二

正三位源重度 四十 三

明和五年

前権大納言正二位藤頼要 五十 四 本座、

権中納言従三位同隆望 四十 四

前権中納言従二位平時行 五十 五

前参議 同行忠 五十 三 二月三日任権中納言、

正三位源重度 四十 四

明和六年

前権大納言正二位藤頼要 五十 五 本座、

権中納言従二位平行忠 五十 四 正月八日辞官、

従三位藤隆望 四十 五 正月九日叙正三位、

前権中納言従二位平時行 五十 六

前参議正三位源重度 四十五 正月九日任権中納言、同月十八日辞官、

明和七年 十一月廿四日譲位、

前権大納言正二位藤頼要 五十六 本座、

権中納言正三位同隆望 四十六

前権中納言従二位平時行 五十七 十一月廿四日為院伝奏、

同行忠 五十五

正三位源重度 四十六

前権中納言正二位同有美 四十九 十一月廿四日為、

後桃園院

明和八年

前権大納言正二位藤頼要 五十七 本座、

権中納言正三位同隆望 四十七

前権中納言正二位源有美 五十 按察使、十一月十四日辞、

従二位平行忠 五十六

正三位源重度 四十七

権大納言正二位藤隆前 四十二 民部卿、十一月十四日加、

明和九年 為安永元

前権大納言正二位藤頼要 五十八 本座、

権大納言 同隆前 四十三 民部卿、

権中納言正三位同隆望 四十八 八月廿五日従二位、十月十七日辞官、

前権中納言従二位平行忠 五十七 二月十六日辞、

正三位源重度 四十八 三月六日辞、

権大納言従二位同信通 二十九 二月十八日加、

権中納言正三位藤實理 四十七 六月一日加、

安永二年

前権大納言正二位藤頼要 五十九 本座、

権大納言 同隆前 四十四 民部卿、

従二位源信通 三十 正月九日正二位、

権中納言正三位藤實理 四十八 正月九日従二位、

前権中納言従二位同隆望 四十九

安永三年

前権大納言正二位藤頼要 六十 本座、十二月十五日辞、

権大納言 同隆前 四十五 民部卿、十月十八日為武伝、

源信通 三十一

權中納言從二位藤實理 四十九
前權中納言 同隆望 五十
前權大納言正二位同政房 四十六 十月廿三日加、
參議正三位同爲榮 三十七 侍從、十二月十八日加、

安永四年
權大納言正二位源信通 三十二 後十二十一院執權、
前權大納言 藤政房 四十七
權中納言從二位同實理 五十 正九正二位、(推叙、)
前權中納言 同隆望 五十一 正九正二位、(推叙、)後十二二權大納言、
參議正三位同爲榮 三十八 侍從、後十二二權中納言、

安永五年
權大納言正二位源信通 三十三 院執權、十二月廿五日爲武傳、
藤隆望 五十二
前權大納言 同政房 四十八
權中納言 同實理 五十一
正三位同爲榮 三十九 十二月十九日從二位、
參議正三位同定和 三十五 右衛門督使別當、十二月廿八日加、

安永六年
權大納言正二位藤隆望 五十三 九月十四日辭官、
前權大納言 同政房 四十九
權中納言 同實理 五十二 九月十四日任權大納言、十二月二日辭官、
從二位同爲榮 四十
參議正三位同定和 三十六 右衛門督使別當、八月廿日任權中納言、

安永七年
前權大納言正二位藤政房 五十
同隆望 五十四 七月十五日辭、
權中納言從二位同爲榮 四十一
正三位同定和 三十七
前權中納言正二位源有榮 五十二 七月十五日加、(元院評定)

安永八年
前權大納言正二位藤政房 五十一
同實理 五十四
權中納言從二位同爲榮 四十二 五月四日正二位、
正三位同定和 三十八 五月四日從二位、
前權中納言正二位源有榮 五十三

今上光格天皇

安永九年　十二月四日卽位、

前權大納言正二位藤政房五十二　二月二日聽本座、

同實理五十五

權中納言　同爲榮四十三

從二位同定和三十九　二月四日辭、

前權中納言正二位源有榮五十四

權大納言正二位藤伊光三十六　二月四日加、

安永十年 爲天明元

前權大納言正二位藤政房五十三　本座、

權大納言　同伊光三十七

前權大納言　同實理五十六

權中納言　同爲榮四十四　十二月二日辭官、同日聽本座、

前權中納言　源有榮五十五

天明二年

前權大納言正二位藤政房五十四　本座、

權大納言　同伊光三十八

前權大納言　同實理五十七

前權中納言　同爲榮四十五　本座、九月三日辭、

源有榮五十六

在實理上 前權大納言　藤愛親四十二　九月八日加、

天明三年

前權大納言正二位藤政房五十五　本座、

權大納言　同伊光三十九

前權大納言　同愛親四十三

同實理五十八　十二月廿七日辭、

前權中納言　源有榮五十七

權中納言正三位藤經逸三十六　十二月廿七日加、

天明四年

前權大納言正二位藤政房五十六　本座、

權大納言　同伊光四十　十二月三日辭官、同日聽本座、

前權大納言　同愛親四十四　十二月三日還任、

權中納言正三位同經逸三十七

前權中納言正二位源有榮五十八

天明五年

權大納言正二位藤愛親 四十五 正月廿五日辭官、同日聽本座、

前權大納言　同政房 五十七 本座、

同伊光 四十一 本座、

權中納言正三位同經逸 三十八 二月廿五日從二位、八月十七日兼左衛門督、同日補使別當、

前權中納言正二位源有榮 五十九 八月十七日任權大納言、

天明六年

前權大納言正二位藤愛親 四十六 本座、

同政房 五十八 本座、

權大納言　源有榮 六十 八月廿二日辭官、

前權大納言　藤伊光 四十二 本座、

權中納言從二位同經逸 三十九 左衛門督使別當、

天明七年

前權大納言正二位藤愛親 四十七 本座、

同政房 五十九 本座、

同伊光 四十三 本座、

源有榮 六十一 六月九日聽本座、(明日宣、)同月十日辭、

權中納言從二位藤經逸 四十 左衛門督使別當、

參議　源有政 四十五 左中將、九月一日加、

天明八年

前權大納言正二位藤愛親 四十八 本座、

同政房 六十 本座、正月十一日爲武傳、

同伊光 四十四 本座、

權中納言從二位同經逸 四十一 左衛門督使別當、

參議　源有政 四十六 左中將、

權中納言　藤篤長 四十 三月廿四日加、

天明九年（爲寛政元）

前權大納言正二位藤愛親 四十九 本座、

同伊光 四十五 本座、

權中納言從二位同經逸 四十二 左衛門督使別當、五月廿二日任權大納言、十二月十九日叙正二位、

同篤長 四十一 五月廿二日兼按察使、

參議　源有政 四十七 左中將、

寛政二年

前權大納言正二位藤愛親 五十 本座、
同伊光 四十六 本座、
權大納言 同經逸 四十三
權中納言從二位同篤長 四十二 按察使、
參議 源有政 四十八 左中將、

寛政三年

前權大納言正二位藤愛親 五十一 本座、
同伊光 四十七 本座、
權大納言 同經逸 四十四 十一月廿八日兼按察使、十一月四日爲院執權、
權中納言從二位同篤長 四十三 按察使、十一月廿八日任權大納言、
參議 源有政 四十九 左中將、十一月廿八日任權中納言、

寛政四年

前權大納言正二位藤愛親 五十二 本座、
同伊光 四十八 本座、
權大納言 同經逸 四十五 按察使院執權、十月廿七日辭、(使如元、)同日本座、
從二位同篤長 四十四 正月五日正二位、
權中納言 源有政 五十 十月廿五日辭官、

寛政五年

前權大納言正二位藤愛親 五十三 本座、三月七日於關東閉門、六月十九日台命出仕、同日免役、
同伊光 四十九 本座、三月十一日依武命差扣、四月二日台命出仕、
同經逸 四十六 按察使院執權、本座、七月廿六日爲武傳、
權大納言 同篤長 四十五
前權中納言從二位源有政 五十一 七月廿六日爲武傳、
權大納言正二位藤實種 四十 內教坊別當、七月廿八日加、
前權大納言 同隆建 五十三 七月廿八日加、

寛政六年

權大納言正二位藤實種 四十一 內教坊別當、
前權大納言 同伊光 五十 本座、
權大納言 同篤長 四十六
前權大納言 同隆建 五十四
權中納言 源有庸 四十三 院別當、四月廿二日加、(元院傳奏、)

寛政七年

權大納言正二位藤實種 四十二 內教坊別當、
前權大納言 同伊光 五十一 本座、
權大納言 同篤長 四十七

前權大納言　同隆建五十五
權中納言　源有庸四十四　院別當、

寛政八年
權大納言正二位藤實種四十三　內教坊別當、
前權大納言　同伊光五十二　本座、
權大納言　同篤長四十八　四月廿四日辭官、同日聽本座、
前權大納言　同隆建五十六
權中納言　源有庸四十五　院別當、四月廿四日辭官、

寛政九年
權大納言正二位藤實種四十四　內教坊別當、
前權大納言　同伊光五十三　本座、
同篤長四十九　本座、
同隆建五十七
前權中納言　源有庸四十六　院別當、

寛政十年
權大納言正二位藤實種四十五　內教坊別當、十二月一日免、
前權大納言　同伊光五十四　本座、
同篤長五十　本座、
同隆建五十八
前權中納言　源有庸四十七　院別當、

寛政十一年
前權大納言正二位藤伊光五十五　本座、
同篤長五十一　本座、
同隆建五十九
前權中納言　源有庸四十八　院別當、
前權大納言　藤資矩四十四　四月二日加、

寛政十二年
前權大納言正二位藤伊光五十六　本座、
同篤長五十二　本座、
同隆建六十
同資矩四十五
前權中納言　源有庸四十九　院別當、

寛政十三年（爲享和元）
前權大納言正二位藤伊光五十七　本座、四月廿五日還任、

同篤長 五十三 本座、十月廿八日辭、
同隆建 六十一
同資矩 四十六
前權中納言 源有庸 五十 院別當、
權大納言 藤愛德 四十七 右大將、十月三十日加、

享和二年

權大納言正二位藤伊光 五十八 正月十日辭官、同日本座、
同愛德 四十八 右大將、
前權大納言 同隆建 六十二
同資矩 四十七
前權中納言 源有庸 五十一 院別當、

享和三年

前權大納言正二位藤伊光 五十九 本座、十二月廿二日爲武傳、
權大納言 同愛德 四十九 右大將、
前權大納言 同隆建 六十三
同資矩 四十八 六月十一日免、
前權中納言 源有庸 五十二 院別當、四月廿五日喪母、六月十七日除服出仕、
權中納言從二位藤忠言 四十二 右衞門督使別當、六月十三日加、

參議正三位同實秋 四十五 十二月廿六日加、

享和四年 爲文化元

權大納言正二位藤愛德 五十 右大將、
前權大納言 同隆建 六十四 二月十日辭、
權中納言從二位同忠言 四十三 右衞門督使別當、正月廿三日叙正二位、
前權中納言正二位源有庸 五十三 院別當、
參議正三位藤實秋 四十六 正月廿三日叙從二位、
權大納言正二位同祖定 四十三 五月十六日加、

文化二年

權大納言正二位藤愛德 五十一 右大將、
同祖定 四十四
權中納言 同忠言 四十四 右衞門督使別當、
前權中納言 源有庸 五十四 院別當、
參議從二位藤實秋 四十七 十二月十八日辭官、

文化三年

權大納言正二位藤愛德 五十二 右大將、
同祖定 四十五 三月十日辭官、

權中納言　同忠言 四十五 右衛門督使別當、
前權中納言　源有庸 五十五 院別當、
前參議從二位藤實秋 四十八 十二月二日辭退、
前權大納言正二位同忠尹 五十一 十二月廿五日加、

文化四年

權大納言正二位藤愛德 五十三 右大將、
前權大納言　同忠尹 五十二
同昶定 四十六
權中納言　同忠言 四十六 右衛門督使別當、二月十三日辭督別當等、
前權中納言　源有庸 五十六 院別當、

文化五年

權大納言正二位藤愛德 五十四 右大將、
前權大納言　同忠尹 五十三
同昶定 四十七
權中納言　同忠言 四十七
前權中納言　源有庸 五十七 院別當、

文化六年

權大納言正二位藤愛德 五十五 右大將、
前權大納言　同忠尹 五十四 十月廿日辭、同日薨、
同昶定 四十八 十二月廿二日辭、
權中納言　同忠言 四十八
前權中納言　源有庸 五十八 院別當、八月七日任權大納言、
權中納言正三位藤資董 三十八 十月廿四日加、
參議　同國長 三十九 左大辨中宮亮、十二月廿五日加、

文化七年

權大納言正二位藤愛德 五十六 右大將、
源有庸 五十九 五月廿二日爲武傳、
權中納言　藤忠言 四十九
正三位同資董 三十九
參議　同國長 四十 左大辨中宮亮、十一月廿二日任權中納言、
非參議　同和資 四十七 大藏卿、五月廿二日加、

文化八年

權大納言正二位藤愛德 五十七 右大將、
權中納言　同忠言 五十
從二位同資董 四十

正三位同國長　四十一　八月十七日叙從二位、
非參議　同和資　四十八　大藏卿、

文化九年
權大納言正二位藤愛徳　五十八　右大將、
權中納言　同忠言　五十一　三月廿三日任權大納言、十二月十三日辭、
從二位同資董　四十一
同國長　四十二
非參議正三位同和資　四十九　大藏卿、

文化十年
權大納言正二位藤愛徳　五十九　右大將、
前權大納言　同忠言　五十二　九月十五日爲武傳、
權中納言從二位同資董　四十二　六月四日任權大納言、
同國長　四十三
非參議正三位同和資　五十
前權大納言正二位同胤定　四十四　九月十五日加、

文化十一年
權大納言正二位藤愛徳　六十　九月十三日免、
從二位同資董　四十三　五月二十日辭、
前權大納言正二位同胤定　四十五　四月五日聽本座、
權中納言從二位同國長　四十四　五月廿五日任權大納言、十二月十九日叙正二位、
非參議正三位同和資　五十一　大藏卿、
在胤定次　前權大納言正二位平時章　六十一　五月二十日加、
權中納言正三位藤資愛　三十五　右衛門督使別當、十月七日加、

文化十二年
前權大納言正二位藤胤定　四十六　本座、
權大納言　同國長　四十五
前權大納言　平時章　六十二
權中納言正三位藤資愛　三十六　右衛門督使別當、正月三十日辭督別當等、
非參議　同和資　五十二　大藏卿、二月廿六日任參議、三月廿五日辭、

文化十三年
前權大納言正二位藤胤定　四十七　本座、
權大納言　同國長　四十六
前權大納言　平時章　六十三
權中納言正三位藤資愛　三十七　正月五日叙從二位、
前參議　同和資　五十三

文化十四年　三月十二日御讓位、九月廿日御卽位、

前權大納言正二位藤胤定 四十八 本座、八月十二日爲武傳、
權大納言　同國長 四十七
前權大納言　平時章 六十四 三月廿二日爲院傳奏、
權中納言從二位藤資愛 三十八 三月廿二日爲院傳奏、
前參議正三位同和資 五十四 二月廿五日叙從二位、
在國長上
權大納言正二位同實光 四十一 三月廿二日加、(元三卿) 十一月廿日辭役、
前參議從二位同公翰 五十三 三月廿二日加、(元三卿)
權中納言從二位同爲訓 五十四 八月十九日加、
在國長次
權大納言正二位同實堅 二十八 十二月廿一日加、

今上　仁孝天皇

文化十五年
爲文政元

權大納言正二位藤國長 四十八
同實堅 二十九 院御廐別當、
權中納言　同爲訓 五十五 五月廿八日辭官、
前參議從二位同公翰 五十四
同和資 五十四

文政二年

權大納言正二位藤國長 四十九 八月十六日辭官、同日聽本座、
同實堅 三十
前權中納言　同爲訓 五十六
前參議從二位同公翰 五十五
同和資 五十六 四月十三日辭、同日薨、
在爲訓次
前權中納言正二位同暉房 五十八 四月二十日加、

文政三年

前權大納言正二位藤國長 五十 本座、
權大納言　同實堅 三十一 院御廐別當、十月廿六日爲內教坊別當、
前權中納言　同爲訓 五十七 十二月廿三日爲院傳奏、
同暉房 五十九
前參議從二位同公翰 五十六
權大納言從二位同隆純 四十六 十二月廿六日加、(元評定)

文政四年

前權大納言正二位藤國長　五十一　本座、
權大納言　同實堅　三十二　內教坊別當、院御厩別當、
從二位同隆純　四十七
前權中納言正二位同陣房　六十
前參議從二位同公翰　五十七

文政五年
前權大納言正二位藤國長　五十二　本座、六月十三日爲武傳、
權大納言　同實堅　三十三　內教坊別當、院御厩別當、
從二位同隆純　四十八
前權中納言正二位同陣房　六十一
前參議從二位同公翰　五十八
同延光　五十二　七月九日加、

文政六年
權大納言正二位藤實堅　三十四　內教坊別當、院御厩別當、
從二位同隆純　四十九　七月廿七日敍正二位、(去年正廿五分)八月廿六日辭官、
前權中納言正二位同陣房　六十二
前參議從二位同公翰　五十九　十二月十九日任權中納言、
同延光　五十三

文政七年
權大納言正二位藤實堅　三十五　內教坊別當、院御厩別當、六月四日兼皇太后宮大夫
前權大納言　同隆純　五十
權中納言從二位同公翰　六十
前權中納言正二位同陣房　六十三　正月十二日任權大納言、二月廿九日辭官、八月十一日任權中納言、十二月六日辭官、
前參議從二位同延光　五十四

文政八年
權大納言正二位藤實堅　三十六　皇太后宮大夫、內教坊別當、院御厩別當、
前權大納言　同陣房　六十四
同隆純　五十一
權中納言從二位同公翰　六十一　正月十七日辭官、五月廿四日敍正二位、(推叙)
前權中納言　同延光　五十五

文政九年
權大納言正二位藤實堅　三十七　皇太后宮大夫、內教坊別當、院御厩別當、
前權大納言　同陣房　六十五
同隆純　五十二
前權中納言　同公翰　六十二

從二位同延光 五十六

文政十年

權大納言正二位藤實堅 三十八 皇太后宮大夫、内教坊別當、院御厩別當、

前權大納言 同暉房 六十六

同隆純 五十三

前權中納言 同公翰 六十三

從二位同延光 五十七

文政十一年

權大納言正二位藤實堅 三十九 皇太后宮大夫、内教坊別當、院御厩別當、

前權大納言 同暉房 六十七

同隆純 五十四

前權中納言 同公翰 六十四

從二位同延光 五十八

文政十二年

權大納言正二位藤實堅 四十 皇太后宮大夫、内教坊別當、院御厩別當、

前權大納言 同暉房 六十八

同隆純 五十五

前權中納言 同公翰 六十五

從二位同延光 五十九

文政十三年 爲天保元

權大納言正二位藤實堅 四十一 皇太后宮大夫、内教坊別當、院御厩別當、

前權大納言 同暉房 六十九

同隆純 五十六

前權中納言 同公翰 六十六

從二位同延光 六十 十二月廿五日叙正二位、

天保二年

權大納言正二位藤實堅 四十二 皇太后宮大夫、内教坊別當、院御厩別當、正月二十日爲武傳、

前權大納言 同暉房 七十

同隆純 五十七 九月六日辭、

前權中納言 同公翰 六十七 五月十九日任權大納言、六月十八日辭官、

同延光 六十一

權大納言 同建房 五十二 按察使、正月廿三日加、(元評定)四月十七日辭官、(使如元)

同實萬 三十 皇太后宮權大夫、九月十四日加、

天保三年

權大納言正二位藤實萬 三十一 皇太后宮權大夫、
前權大納言　同輝房 七十一
　　　　　　同建房 五十三 按察使、
　　　　　　同公翰 六十八 十月十一日辭、
前權中納言　同延光 六十二
前參議從二位同資善 五十五 十月十一日加、

天保四年
權大納言正二位藤實萬 三十二 皇太后宮權大夫、
前權大納言　同輝房 七十二
　　　　　　同建房 五十四 按察使、
前權中納言　同延光 六十三
前參議從二位同資善 五十六

天保五年
權大納言正二位藤實萬 三十三 皇太后宮權大夫、
前權大納言　同輝房 七十三
　　　　　　同建房 五十五 按察使、
前權中納言　同延光 六十四
前參議從二位同資善 五十七

天保六年
權大納言正二位藤實萬 三十四 皇太后宮權大夫、
前權大納言　同輝房 七十四 四月一日辭、
　　　　　　同建房 五十六 按察使、十二月十八日聽本座、
前權中納言　同延光 六十五
前參議從二位同資善 五十八
權中納言正二位同光成 三十九 院別當、四月一日加、

天保七年
權大納言正二位藤實萬 三十五 皇太后宮權大夫、
前權大納言　同建房 五十七 按察使、本座、
權中納言　　同光成 四十 院別當、
前權中納言　同延光 六十五 六月廿三日辭、
前參議從二位同資善 五十九
前權大納言正二位同俊明 五十五 院別當、六月廿三日加、（在建房次）

天保八年
權大納言正二位藤實萬 三十六 皇太后宮權大夫、
前權大納言　同建房 五十八 按察使、本座、

同俊明 五十六 院別當、
権大納言 同光成 四十一 院別當、
前參議從二位同資善 六十

天保九年
権大納言正二位藤實萬 三十七 皇太后宮権大夫、
前権大納言 同建房 五十九 按察使、本座、
同俊明 五十七 院別當、
権中納言 同光成 四十二 院別當、
前參議從二位同資善 六十一

天保十年
権大納言正二位藤實萬 三十八 皇太后宮権大夫、
前権大納言 同建房 六十 按察使、本座、
同俊明 五十八 院別當、
権中納言 同光成 四十三 院別當、
前參議從二位同資善 六十二 十一月一日辭、
參議 同雅久 四十 左兵衛督、十一月一日加、

天保十一年
権大納言正二位藤實萬 三十九 皇太后宮権大夫、九月七日服解、(父)十月廿九日除服出仕復任、
前権大納言 同建房 六十一 按察使、
同俊明 五十九 院別當、
権中納言 同光成 四十四 院別當、
參議從二位同雅久 四十一 左兵衛督、

天保十二年
権大納言正二位藤實萬 四十 皇太后宮権大夫、後正月廿二日止権大夫、(依院號、)九月廿九日服解、(母)十一月廿日除服出仕復任、
前権大納言 同建房 六十二 按察使、本座、
同俊明 六十
権中納言 同光成 四十五
參議從二位同雅久 四十二 左兵衛督、

天保十三年
権大納言正二位藤實萬 四十一
前権大納言 同建房 六十三 按察使、本座、三月二日辭、
同俊明 六十一
権中納言 同光成 四十六 九月六日爲賀茂傳奏、

參議從二位同雅久 四十三 左兵衛督、

權中納言 同實久 五十三 三月二日加、

天保十四年

權大納言正二位藤實萬 四十二

前權大納言 同俊明 六十二

權中納言 同光成 四十七

從二位同實久 五十四 六月十八日叙正二位、

參議 同雅久 四十四 左兵衛督、六月十八日任權中納言、(督如元)、

天保十五年 爲弘化元

權大納言正二位藤實萬 四十三

前權大納言 同俊明 六十三

權中納言 同光成 四十八

同實久 五十五

從二位同雅久 四十五 左兵衛督、九月十五日叙正二位、同月廿八日辭督、

弘化二年

權大納言正二位藤實萬 四十四

前權大納言 同俊明 六十四 十月廿二日爲武傳、

權中納言 同光成 四十九 二月十八日任權大納言、

同實久 五十六

同雅久 四十六

參議正三位菅聰長 四十七 十月廿二日加、

弘化三年 二月十三日踐祚、

權大納言正二位藤實萬 四十五

同光成 五十

權中納言 同實久 五十七

同雅久 四十七

參議正三位菅聰長 四十八 四月四日叙從二位、

議奏歴終

傳奏次第

廣橋大納言正二位兼勝卿　在役二十年、
慶長八年二月十二日爲、元和四年十一月十四日任內大臣、同五年二月十七日辭內大臣、元和八年辭、十二月十八日薨、(六十五)、

勸修寺宰相從三位光忠〔豐〕卿　在役十年
慶長八年二月十二日爲、慶長九年六月廿九日任權中納言、同十七年十月廿六日任權大納言、同年辭、十月廿八日薨(二十八)贈內大臣、(按公卿補任廿五日任權大納言廿六日薨)

三條西大納言從二位實條卿　在役十九年、
慶長十七年　月　日爲代光豐卿、寬永六年十一月六日任內大臣、同七年辭、同八年十二月六日辭內大臣、同十七年右大臣從一位、同年十月九日薨、(六十六)

中院中納言從二位通村卿　在役四年、
寬永元年　月　日爲代兼勝公、元和四年辭、正保四年內大臣正二位、承應二年三月廿九日薨、(六十七)

今出川大納言正二位經季卿　元宣季　在役廿六年、
寬永四年八月十三日爲代通村卿、同十六年正月十四日辭權大納言、承應元年辭、慶安五年二月九日任右大臣、(元前大納言)同日薨、(五十九)

日野大納言正二位資勝卿　在役十年、
寬永七年九月十五日爲代實〔條カ〕勝卿、同十六年辭、六月十五日薨、(六十三)

飛鳥井前大納言正二位雅宣卿　在役十三年
寬永十六年十二月廿八日爲代資勝卿、慶安四年二月十六日敍從一位、慶安四年辭、同年三月廿一日薨、(六十六)

淸閑寺前大納言正二位共房卿　在役十一年
慶安四年　月　日爲代雅宣卿、萬治四年五月廿三日任內大臣、同年七月廿四日辭內大臣、同年辭、七月廿八日薨、(七十三)

野々宮中納言從二位定逸卿　在役七年
慶安五年(承應元年也)　月　日爲代經季卿、同年十一月十二日任權大納言、承應二年二月三日辭權大納言、明曆四年(萬治元年也)辭、同年二月十五日薨、(四十九)

勸修寺前大納言正二位經廣卿　在役七年、
明曆四年(萬治元年也)　月　日爲代定逸卿、寬文四年辭、貞享五年九月十三日薨、(八十三)

飛鳥井前大納言正二位雅章卿　在役十年、
萬治四年(寬文元年也)十月廿五日爲代共房卿、寬文十年辭、從一位、延寶七年十月二日薨、(六十九)

正親町大納言正二位實豐卿　在役七年、
寬文四年十月六日爲代經廣卿、同十年辭、元祿十六年二月三日薨、(八十五)

日野前大納言正二位弘資卿　在役六年、
寛文十年九月十六日爲代雅章卿、延寶三年辭、貞享四年九月廿九日薨、(七十一)

中院大納言從二位通茂卿　在役六年、
寛文十年九月廿五日爲代實豐卿、延寶三年辭內大臣、從一位、寶永七年三月廿一日薨、(八十)

花山院大納言正二位定誠卿　在役十年、
延寶三年二月十日爲代弘資卿、同年二月十九日辭權大納言、天和二年十一月十八日還任、兼右大將、貞享元年一月十二日任內大臣、(大將如元、)同年辭、元祿五年入道、寶永元年十月廿一日薨、(六十五)

藪前大納言正二位嗣孝卿　在役
延寶三年　月　日爲代通茂卿、同年辭、天和二年五月廿七日薨、(六十四)

千種前中納言從二位有能卿　在役九年、
權大納言正二位、延寶三年五月十八日爲代嗣季卿、天和三年十一月廿七日辭、貞享十四年三月朔日薨、(四十七)

甘露寺前大納言正二位方長卿　在役二年、
天和三年　月　日爲代有能卿、貞享元年辭、元祿七年二月廿日薨、

千種宰相權大納言從二位有維卿　在役五年、
(貞享元年也)
天和四年九月十八日爲代定成卿、元祿五年十一月廿三日辭、同年同月廿九日薨、(五十五)

柳原大納言正二位資廣卿　從一位　在役廿三年、
(貞享元年也)
天和四年十二月廿七日爲代方長卿、寶永三年辭、正德二年九月廿五日薨、(六十八)

持明院中納言從二位基時卿　在役二年、
元祿五年十二月十二日爲、同六年八月十六日辭、元祿十七年三月十日薨、(七十)

正親町中納言從二位公通卿　從一位　在役八年、
元祿六年八月十六日爲代基時卿、同十三年辭、享保十八年七月十八日薨、(八十一)

高野中納言保春卿　權大納言正二位　在役十三年、
元祿十三年六月廿八日爲代公通卿、正德二年五月廿四日辭、同年同月廿六日薨、(六十三)

庭田前大納言正二位重條卿　從一位　在役十三年、
寶永三年十二月十三日爲代資廣卿、享保三年後十月一日辭、同十年七月十六日薨、(七十六)

德大寺大納言正二位公全卿　在役八年、
正德二年六月廿六日爲代保春卿、正德三年七月三十日兼右大將、享保四年十一月廿九日辭、同年同月卅日內大臣、同年三月二日薨、(四十二)

中院大納言正二位通躬卿　在役九年、

享保三年・後十月一日爲代重條卿、同十一年九月十五日辭、右大臣從一位、元文四年十一月三日薨、(七十二)

中山大納言正二位兼親卿　在役十六年、

享保四年十二月廿三日爲代公全卿、同十九年十月廿四日辭、同年同月日任准大臣、叙從一位、翌日廿五日薨、(五十一)

園大納言正二位基香卿　在役六年、

享保十一年九月廿一日爲代通躬卿、同十六年　月　日辭、延享二年五月十七日薨、(五十五)

三條西大納言正二位公福卿　在役四年、

享保十六年九月二日爲代基香卿、翌三日辭權大納言、同十九年十一月七日辭、延享二年九月十七日薨、(四十九)

葉室大納言正二位賴胤卿　在役十四年、

享保十九年十一月七日爲代兼親卿、同廿一年正月廿三日從二位、延享四年十二月十九日辭、

冷泉前中納言(正二位)爲久卿（民部卿權大納言正二位）　在役八年、

享保十九年十一月廿二日爲代公福卿、享保廿一年正月廿三日權大納言、同年十二月十二日辭大納言、元文六年（寬保元）八月廿九日辭、同年同月同日薨、(五十二)

久我大納言正二位通兄卿　在役十年、

元文六年（寬保元）九月十九日爲代爲久卿、寬延三年六月廿一日辭、同年八月十日任內大臣、

柳原中納言從二位光綱卿（左衛門督）　在役十四年、

延享四年十二月十九日爲代賴胤卿、寶曆十年九月廿八日辭、

廣橋大納言　兼胤卿　在役廿七年、

寬延三年六月廿七日爲代通兄卿、安永五年十二月廿五日辭、同年同月日任准大臣、

姉小路大納言　公文卿　在役十五年、

寶曆十年十月十九日爲代光綱卿、安永三年十月十八日辭、

油小路大納言正二位隆前卿　在役十五年、

安永三年十月十九日爲代公文卿、天明八年正月十一日辭、

久我大納言正二位信通卿　在役十六年、

安永五年十二月廿五日爲代兼胤卿、寬政元年十月廿 五日任右大將、同三年十二月廿三日辭、同年同月廿八日任內大臣、(大將如元、)

萬里小路前大納言正二位政房卿　在役六年、

天明八年正月十一日爲代隆前卿、議奏ノ中聽本座、座次信通卿上、寬政五年四月十三日辭、

正親町前大納言正二位公明卿　在役三年、

寬政三年十二月廿五日爲代信通卿、院傳奏ノ中聽本座、同五年四月廿八日辭、

勸修寺按察使前大納言正二位經逸卿　在役

寬政五年七月廿六日爲代政房卿、

千種前中納言　有政卿　在役

寬政五年七月廿六日爲代公明卿、

前書
此一帖者公卿補任或西都職官表水戸本也月日不註之等引合
正德以後考佗記令書寫畢

傳奏次第終

辨官補任

土御門院
建久九 同十正治元 正治二 同三建仁元 建仁二 同三 同四元久元 元久二 同三建永元 建永二承元元 承元二 同三 同四
順德院
承元五建暦元 建暦二 同三建保元 建保二 同三 同四 同五 同六 同七承久元 承久二 同三
後堀河院
承久四貞應元 貞應二 同三元仁元 元仁二嘉祿元 嘉祿二 同三安貞元 安貞二 同三寛喜元 寛喜二 同三 同四貞永元
四條院
貞永二天福元 天福二文暦元 文暦二嘉禎元 嘉禎二 同三 同四暦仁元 暦仁二延應元 延應二仁治元 仁治二 同三
後嵯峨院
仁治四寛元元 寛元二 同三 同四
後深草院
寛元五寶治元 寶治二 同三建長元 建長二 同三 同四 同五 同六 同七 同八康元元 康元二正嘉元 正嘉二 同三正元元

土御門院
建久九年戊午 正月十一日新帝受禪、〔建久八年以前既出群書類從故今略之以下至龜山院文永七年圖書寮內藤本黑川本皆缺之〕

左大辨 從三位 藤宗頼 參木造東大寺長官勘解由長官正月卅日兼讃岐權守十二月九日權中納言
正四位下同宗隆 參木十二月九日轉任
右大辨 正四位下同親經 造興福寺長官文章博士十二月九日補藏人頭任左京權大夫去辨
正四位下同資實 十二月九日轉任
左中辨 從四位上同宗隆 修理左宮城使氏院別當正月卅日藏人頭二月廿六日正四位下十二月九日參議同日轉左大辨
從四位下同公定 十二月九日轉任
右中辨 從四位下同資實 二月廿六日從四位上〔御即位宣陽門御給〕十一月九日近江權介同月廿一日正四位下〔大嘗會國司賞〕十二月九日右大辨
正五位下同長房 十二月九日轉

左少辨　從四位下同公定 十二月九日轉左中辨
　　　　正五位下平親國 十二月九日轉
權左少辨正五位下藤長房 中宮大進十二月九日轉右中辨
右少辨　正五位下平親國 三月五日皇后宮大進十二月九日轉左
　　　　正五位下藤範光 四十 十二月九日任 丹後守如元
　　故從三位刑部卿範兼卿男、母前伊勢守源俊重女、
長寛元、二、十九、給學問料、年九、同二、二、二、文章得業生、永萬元、正、廿三、丹波大掾、仁安元、獻策、十二、二、掃部助、承安元、五、廿九、藏人、十二月八、式部少丞、同二、正、五、叙爵、策勞、同三、七、七、紀伊守、範季卿辭上野介申任、安元、元、十二、八、遷下野守、日前國縣社遷宮之間、依祖母服改任之、治承四、正、廿八、重任、壽永元、三、八、從五位上、十一月、廿三、正五位下、同二、八、十六、遷紀伊守、十二月日昇殿、元暦元、九、十八、兼式部權少輔、範季讓之、文治元、六、十、轉正輔、同二、十一、廿一、解守、建久六、十二、九、遷勘解由次官、同八、三、九、加者儒、七月四 辭官、依病也、十二月十七丹後守、同九、正、十一、新帝昇殿、補院司、

建久十年己未　四月廿七日改元爲正治、

左大辨　正四位　藤宗隆 廿日參議、三廿六兼勘解由長官備前權守
右大辨　同　　　同資實 十二九補藏人頭
左中辨　從四位下同公定 九廿三左宮城使十一廿七從四位上
右中辨　正五位下同長房 九廿三左宮城使十一廿七從四位下
左少辨　同　　　平親國
右少辨　同　　　藤範光 十一廿七從四位下

正治二年庚申

左大辨　正四位下藤宗隆 參木勘解由長官備後權守 正五從三位大辨勞
右大辨　同　　　同資實 藏人頭
左中辨　從四位上同公定 左宮城使
右中辨　從四位下同長房 右宮城使四十五聽春宮昇殿
權右中辨從四位上同範光 三六轉任四一遷大藏卿
左少辨　　正五位下平親國
權左少辨同　　　　藤長兼 四一任藏人大進如元 四十五兼春宮權大進
　　故入道權中納言長方卿二男、母入道少納言通憲女、
安元二三十八叙位、本名頼房、文治二十一廿七甲斐守、同三十一八從五上、朝覲行幸院司賞、建久元四廿六兼中宮大進、同二正五下、殷富門院御給、五二後任爻、同六十一十二補藏人、

右少辨　從四位下同範光　正五從四上中宮御給三六任四一止左衞門權佐五十六復任
正五位下同光親
故權中納言光雅卿男、母入道右大辨重方朝臣女、
壽永二八廿藏人、八歲、同月廿五日叙位、文治三正
廿三豐前守、同四十十四兵部權大輔、建久元正五
從五上、同二二一正五位下、辭任國、同八十一十五兼
左衞門佐、正治元五廿三防鴨河使、

正治三年辛酉　二月廿三日改元爲建仁、
左大辨　從三位　藤宗隆　二四十參議勘解由長官備後權守八十九權中納言
正四位下同資實　八十九參議同日轉任
右大辨　同　同資實　藏人頭
同　同公定　八十九轉同日補藏人頭
左中辨　從四位上同公定　正五〔六イ〕正四位下（故中納言資信卿久安四四平野大原野行幸行事賞）
同　同長房　正廿三從四位上（朝覲行幸春宮御給）八十九轉左
右中辨　從四位下同長房
正四位下平親國　八十九轉任十二廿二從四位下（皇后宮建久九年御卽位御給）
左少辨　同　同親國　八十九轉右中
同　藤長兼　八十九轉任十二廿二辭藏人
權左少辨同　同長兼　藏人八八十九轉左少

右少辨　同　同光親　八十九轉任
位在光親上同　同光親　同日補藏人
同　同淸長　八十九轉權左少
八十九任去藏人權佐
故參議勘解由長官定長卿男、母
年月日叙位、壽永二八十六河內守、元曆元十六
淡路守、文治元六廿九更河內守、同三正五從五
上、院養和元年給、同五七十勘解由次官、建久元七十八正
五下、同六十二二十五復任、同八十二二十七藏人、

建仁二年壬戌
左大辨　正四位下藤資實　一四十參木十廿九正（從敍）三位閏十廿四勘解由長官造東大寺長官
右大辨　同　同公定　藏人頭正廿一阿波少權守七廿三參議
左中辨　從四位上同長房　十廿九補藏人頭閏十廿四左宮城使十一十九正四位下
右中辨　從四位下平親國　閏十廿四右宮城使
權右中辨正五位下藤長兼　閏十廿四轉任十一十九從四位下
左少辨　同　同長兼
同　同光親　壬十廿四轉任
權左少辨同　同光親　藏人閏十廿四轉左少
右少辨　同　同淸長

建仁三年癸亥

左大辨　從三位　藤資實　參木勘解由長官、十二廿正三位、東大寺供養長官并行事賞

右大辨　正四位下　同公定　參木阿波權守、十廿四從三位

左中辨　同　同長房　藏人頭、左宮城使

右中辨　從四位下　平親國　右宮城使……　……從五位上　十一廿「卅イ」

權右中辨　同　藤長兼　從四位上

左少辨　正五位下　同光親　藏人十二廿四正五位上、東大寺供養行事賞、越源兼定

右少辨　同　同清長　位光親上

建仁四年甲子　二月廿日改元爲元久、

左大辨　正三位　藤資實　位資實上　參木勘解由長官

同　同親經　三六權中納言　參議備前權守、三六兼任、同廿九造東大寺長官、四十二勘解由長官

右大辨　從三位　同公定　參議阿波權守

左中辨　正四位下　同長房　藏人頭、四十二參木、十二廿八從三位

從四位上　同長兼　四十二轉、同日補藏人頭

右中辨　同　平親國　正五、正四位下、四十二補藏人頭、同日任皇后亮、去辨

正五位上　藤光親　四十二轉任

權右中辨　從四位上　同長兼　四十二轉左中

正五位下　同清長　四十二轉任、十一十四從四位下、八幡賀茂行幸行事賞、三六左衛門權佐、藏人辨如元、四十三轉右中、從四位下

左少辨　正五位上　同光親

正五位下　源兼定　四十二任木工頭、如元、廿四辭藏人

故前權中納言雅頼卿男、母

保元々十一廿八叙位、應保元正廿三民部大輔、改雅能爲兼房、治承元十一十五復任母、改房爲定、壽永二正五正五下、高松院安元二御給、建久元十九木工頭、同五正卅兼越前權介、同八卅藏人、

右少辨　正五位下　同清長　四十二轉權右中

同　同盛經　四十二任

故從三位俊經卿男、母

治承四二十四文章生、十二廿一式部兼、元暦元正六從五下、三廿七美乃權守、文治元四三伊與守、同二二卅宮內權少輔、辭任國任也、五三一復任、同三十一四從五上、父卿嘉暦元八幡賀茂行幸行事賞、建久五正六正五下、辭所帶叙之、同六二二薩摩守、正治元十二二五治部權少輔、

元久二年乙丑

左大辨　正三位　藤親經　參木勘解由長官、正廿五周防權守、四十六式部大輔　參議

右大辨　從三位　同公定

左中辨　從四位上　同長兼　藏人頭、正廿九正四位下、三九左宮城使

右中辨　從四位下　同光親　正十九從四位上（朝覲行幸院司）、三九右宮城使、七十一中宮亮、同廿正四位下、中宮入內賞

權右中辨同　同清長

左少辨　正五位下源兼定
正五位從
四位下

右少辨　同　藤兼定

元久三年丙寅　四月廿日改元爲建永、

左大辨　正三位　藤親經
參木勸解由長官造東大寺長官
周防權守式部大輔三廿八權中
納言

同　同公定
四三轉任六十六勘解由長
官九十八解官配流佐渡國

正四位下同長兼
十廿參議

右大辨　從三位上同公定
同日轉任
參木正六正三位同十
三備前權守四三轉左

正四位下同長兼
四三轉任
十廿轉左

同　同光親
十廿轉任同
日藏人頭

左中辨　同　同長兼
四三轉
右大

同　同光親
四三轉任十
廿轉右大

從四位下同清長
十廿轉任十廿
三從四位上
右宮城使中宮
亮四三轉左中

右中辨　正四位下同光親
四三轉
任轉左

從四位下同清長
十廿轉任十廿三從四
位上十二五右宮城使

同　同範朝
四三轉
右中

權右中辨同　同清長
四三任守如元六十六

同　同範朝
春宮亮十廿轉右中

入道前中納言範光卿男、母故從三位範季卿女、
建久八五給字〔○南按學歟〕問料、勸學院、正治元二輔文章得業生十九歲、同二正廿二任出雲大掾、建仁元正六獻策、同五敍爵、同廿九春宮少進、同二正五從五上、春宮御給、同三十二廿四聽內昇殿、元久元四十二右衞門權佐、停少進、卽蒙使宣旨、十一正五下、同二四十從四下、美乃守、

從四位上源兼定

左少辨　從四位下同兼定
木工頭二五從四位
上十十轉權右中

正五位下藤盛經

右少辨　同　同盛經
十十轉左
十廿任大
進如元

同　同顯俊
故權中納言光雅卿二男、母同頭右大辨光親朝臣女、
文治二五廿八敍位、同日佐渡守、建久四正廿九遷安房守、改忠方爲顯俊、同五正卅從五上、宗賴朝臣治國賞、同八卅重任、同九三五皇后宮權大進、守如元、建仁元三十一出雲守、十一廿一、藏人、止守、同二三十一轉大進、元文元四十二遷春宮大進、

建永二年丁卯　十月廿五日改元爲承元、

左大辨　正四位下藤長兼　參木正十三伊豫權守四十勘解由長官十廿九從三位

右大辨　同　同光親　廿三藏人頭

左中辨　從四位上同清長

右中辨　同　同範朝　春宮亮右宮城使十一三正四位下辭辨

同　源兼定

權右中辨同　同兼定　木工頭十廿九日轉右中木工頭如舊

正五位下藤盛經　十廿九轉任十廿從四位下

左少辨　同　同盛經　十廿九轉右中

同　同顯俊　十廿九轉任

右少辨　同　同顯俊　春宮大進十廿九轉大進如元

同　平親輔　十廿九任止藏人

故內藏頭信基朝臣男、實刑部權大輔信季子、母

安元三正廿四左近將監、同年一院判官代、壽永三正七補藏人、八九十二從五下、先朝藏人左近將監、元曆元十六兵部少輔、文治三正五從五上、五廿復任、同五正十八長門介、兵部少輔兼國、建久元十廿六正五下、辭少輔叙之、正治二正一勘解由次官、建仁三正十三越後權介、建永元十廿藏人、廿二禁色、

承元二年戊辰

左大辨　從三位　藤長兼　參議勘解由長官伊豫權守

右大辨　正四位下同光親　藏人頭七九參木近中宮亮十二九從三位

從四位上同清長　七九轉任十二九正四位下

左中辨　同　同清長　七九轉右大

同　源兼定

右中辨　同　同兼定　七九轉左中十二九正四位下

從四位下藤盛經　七九轉任

權右中辨同　同盛經　七九轉右中

正五位下同顯俊　七九轉任（大進如元）十二九從四位下

左少辨　同　同顯俊　七九轉權右中春宮大進

同　平親輔

右少辨　同　同親輔　十二轉左少

同　藤宣房　七九任止藏人

故前參議光長卿三男、母同參議長房卿女、

承元三年己巳

左大辨　從三位　藤長兼　參議勘解由長久（官カ）伊豫權守四十六權中納言

從四位下同盛經　四十四轉任十卅從四位上

右大辨　正四位下同清長　正十三去辨

補藏人頭

從四位下同盛經　正十三轉任

左中辨　正四位下源兼定　十三去辨木工頭等治部卿以男家兼申任左少將
同　同顯俊　四十四轉任
從四位下藤顯俊　正十三轉任
同　平親輔　四十四轉廿一爲裝束使廿七左宮城使

右中辨　藤盛經　正十三轉右大
同　正五位下平親輔　正廿七從四位下
同　藤宣房

權右中辨從四位下同顯俊　正十三轉左中
正五位下同宣房

同　同宗行　四廿七造東大寺長官

左少辨
同　平親輔　正十三轉右中
同　藤宗行　正十三任藏人大進如元

故左大辨行隆五男、母典藥助行兼女、

建久五正卅叙爵、同日安藝守、宗頼朝臣申任之、同六七十六中宮少進、同九正五從五上、中宮御給、同十二九遷和泉守、正治元七十三土左守、建仁元正廿九刑部權大輔、十二廿二出雲守、同二十廿九伊豫守、同三正五下、辭大輔叙之、元久元正十三少納言、四廿四藏人、同二七十一中宮權大進、建永正〔元歟〕十廿一辭少納言、

右少辨
同　同定高　四十四正五位上
同　同宣房　正十三轉權右中
同　同定高　正十三任大進如元父卿辭參木申任之四十四轉左

前參議長房卿男、母入道兵部大輔朝親女、

建久九正補藏人、名字爲定、廿四從五下、建仁二正廿一近江守、藏人巡名藤經光、同四正五從五上、白川院態徳三元久二八九伊賀守、示近江守三木長房卿給、同三四三越後守、上源兼時任之、元伊賀守之給、建永二正五五下後白川院嘉應元御給、承久〔元カ〕十二九肥前守、前越前守、同二八八皇后宮權大進兼之、

同　同親房　四十四任
位定高上

前參議親雅卿男、母故大膳大夫平信業女、

文治二十十一從五位下、同日豐前守、親雅朝臣可被造閑院申沙汰之給、十二二十五筑前守、建久四四十四上總介、同五卅從五上、上西門院文治四御給、同九正廿下野守、正治二三六中宮權大進、建久元八十九右衞門權佐、父卿辭參木申任之、同二十一廿二正五下、元久元四十二轉左、同二三九防鴨河使、七十一轉大進、承元々十一三藏人、

承元四年庚午

左大辨　從四位上藤盛經　十二十七正四位下

右大辨　從四位下同顯俊　正五位從四位上十二十七補藏人頭

左中辨　同　平親輔　裝束使左宮城使正十四伊勢權守八十二從四位上春日行幸賞

右中辨　同　藤宣房

權右中辨正五位下同宗行　造東大寺長官

左少辨　同　同定高

右少辨　同　同親房　藏人五廿三服解(父)十二十二止辨

同　位定高上　平範時　十二廿二任增(僧カ)官賞

故從二位範季卿男、母伯父範能法師女、(法印、播磨國住人號野入道、)

嘉應三四六院非藏人、養和二三三給穀倉院學問料、元暦元正廿九文章得業生、文治二二卅但馬大掾、同五十廿獻策、詳西北叙符、正五下行大內記兼安藝權介菅長守問依父勅勘、五年間被抑獻册也、廿五日判、十一十三修理亮、十九二宮藏人親王始日也、年廿五、建久三七廿六藏人、大業、同十一廿六轉左衛門少尉、同十二卅使宣旨、同四二一從五下、策勞、同七正廿八淡路守、範季卿始、同二四十五兼東學士、立坊日、建仁三正七正五下、臨時、十三兼式部權少輔、元久元正十一任國補範周、舍弟、同二正十服解、父八十六服任、承元四十一廿五上學士、依受禪也、今夜即聽昇殿、

順德院

承元五年辛未　三月九日改元爲建曆、

左大辨　正四位下藤盛經　正五從三位去辨

同　從四位上平親輔　(九八轉任(玉葉))十十二藏人頭去辨治部卿

同　藤宣房　十十二轉

同　同顯俊　藏人頭九八參木去辨(越頭中將公氏朝臣)

同　同宣房　九八轉十十二轉左大

同　同宗行　十十二轉

右中辨　同　同親輔　[正十八轉左大(公卿補任如此)]

同　同宣房　正十八轉九八轉右大

同　同宗行　九八轉十一十二轉右大

從四位下同定高　十十二轉

左中辨　從四位上同宣房

同　同宗行　正十三轉九八轉左中

從四位下同定高　九八轉十十二轉左中

正五位下平範時　十十二轉廿九從四位下

權右中辨從四位下藤宗行　造東大寺長官率分所別當正五從四位上

正五位上同定高　正十二轉十九從四位下九八轉右中宗行朝臣院司賞讓

左少辨　正五位下平範時　九八轉十十二轉右中
同　同經高　十十二轉廿九從四位下
正五位上藤定高
正五位下平範時　正十八轉同十補者儒盛經卿替九八轉權右中
同　同經高　九八轉十十二權右中
同　藤家宣　十十二轉
同　平範時
同　同經高　正十八任去佐九八辭藏人轉左

故治部大輔行範入道男、故從三位範家卿孫、
文治三五四大舍人助、于時伊房卿猶子云々、同六正廿四五位、皇大后給于時平、建久二二一紀伊守、同六二二重任、同九正五從五上、後白川院承安四御給、同十十一〔十五公〕皇后宮權大進、建仁三正十三正五下、元久十廿六春宮權大進、同二四十右衛門權佐、權大進如元、承元三四十四藏人、佐大進如元、

同　藤家宣　九八任去職十十二轉左少
入道前中納言資實卿一男、母八條院播磨守、
建久九六十四給穀倉院學問料、十四歳、正治三正卅補文章得業生、建久二正、兼但馬少掾、同三正九獻策、拔任轉帝王作獻、十日藏人、十三右衛門尉、郎蒙使宣旨、同三十敍爵、元久元三五兵部權大輔、十二廿九從五上、父卿造內裏行事賞讓、建永元二廿六聽內昇殿、承元々正十三武藏權介、同四正六正五下、策勞、建曆元正十六〔十八公〕藏人、聽禁色、

同　同長資廿　十十二任父卿辭權中納言申任之
前權中納言長兼卿男、母

建曆二年壬申
左大辨　從四位上藤宣房
右大辨　同　同宗行
左中辨　從四位下同定高
右中辨　同　平範時　十二卅補藏人頭五廿九左宮城使五廿九右宮城使
權右中辨同　同經高
左少辨　正五位下藤家宣
右少辨

建曆三年癸酉　改元爲建保元闕歟不審〔此一行書入〕

建仁年甲戌　保二歟〔書入〕
左大辨　從四位上藤宣房　月日正四位下……堯也

右大辨　正四位　同宗行　參議
　　　　從四位上同宗行　藏人頭正五正四位下十二十一參木同日轉左
　　　　同　　同定高　藏人頭
左中辨　同　　同定高　十二十一補藏人頭同日轉右大
　　　　同　　平範時
右中辨　從四位下同範時　正五從四位上（建暦二八幡賀茂行幸行事賞）十二十一轉左
　　　　從四位上平經高
權右中辨從四位下平經高　正五從四位上十二十一轉正
　　　　正五位上藤家宣
左少辨　同　　同家宣　十二十一轉
　　　　正五位下同資頼　十二十一任
　　　　故權大納言宗頼卿孫、故正五位下右衞權佐宗方男、母前參議光長卿女、
　　　　正治二九十四叙爵八條院給、建仁元正廿三從五位上、朝覲行幸一品内親王給、廿九土左守、同二正五正五下祖父大納言去、建仁元朝覲行幸院司賞讓、元久元正十三止守、承元三正十三春宮權大進、同四十一廿五藏人、受禪日、十二廿七民部權大輔、
右少辨

建保三年乙亥
左大辨　正四位下藤宗行　參議造東大寺長官正十一美作權守
右大辨　從四位上同定高　藏人頭正五位正四位下（法勝守御給）供養行幸讓
左中辨　同　　平範時　十二十五正四位下
右中辨　同　　同經高
權右中辨同　　藤家宣　正十五從四位下
左少辨　正五位下同資頼
右少辨

建保四年丙子
左大辨　正四位下藤宗行　參木美作權守造東大寺長官月日從三位
右大辨　同　　同定高　藏人頭三廿八中宮亮
左中辨　同　　平範時
右中辨　從四位上同經高　正五位正四位下春日行幸賞
權右中辨從四位下藤家宣
左少辨　正五位下同資頼
右少辨

建保五年丁丑
左大辨　從三位　藤宗行　參議美作權守造東大寺長官
右大辨　正四位下同定高　藏人頭中宮亮

左中辨　同　平範時
右中辨　正四位下同經高
權右中辨從四位下藤家宣
左少辨　正五位下同資賴
右少辨

建保六年戊寅

左大辨　從三位　藤宗行　參議正十三權中納言
　　正四位下同定高　參議
右大辨　同　同定高　藏人頭正十三參議轉左大
　　同　平範時
左中辨　同　同範時　正十三轉右大
　　同　同經高　十二二十二左宮城使
右中辨　同　同經高　正十三轉左十二二十右宮城使
　　從四位下藤家宣　正十三轉右中
權右中辨同　同家宣
　　正五位下同資賴
左少辨　同　同資賴　正十三轉權左(權右中歟)同日從四位下十一廿六無春宮亮正十三任廿七辭藏人
右少辨　同　同資經　佐十一廿六春宮大進
故參議定房卿男、母民部卿親範女、

文治四十十九從五下、上西院給、建久(元)正廿四信乃守、同四八廿五遷參河守、熊野神宮(公補作賓)川途功、同六三十三從五上、祖父東大寺供養行事賞、建仁二正七正五下、元久三七十一中宮權大進、承元三四四左衛門權佐、建曆二五廿九防鴨河使、建保二十二十五藏人、

建保七年己卯　四月十二日改元爲承久、依去年之合并變異、

左大辨　正四位下藤定高　參木五從三位臨時廿二讚岐權守
右大辨　同　平範時　正廿二從三位
　　同　同經高
左中辨　同　同經高　左宮城使正廿二轉右
　　從四位上藤家宣　十五正四位下(稻荷祇園行幸行事賞)
右中辨　從四位下同家宣　右宮城使正五從四位上正廿二轉左九七內藏頭十二十三止頭亮如元
　　同　同資賴　春宮亮正十二轉右中
權右中辨同　同資賴　正十三從四位下(去年日吉行幸行事賞)
　　正五位下同資房　正十二轉權右中
左少辨　同　同資房　十一十三轉任
　　同　同賴資　藏人正廿二轉止
右少辨　同　同賴資　佐二廿五止藏人
故權中納言兼光卿男、母法印院尙女、民部卿光範卿

為子、

建仁元五廿九登省、同二十一廿七方略、同十七策、同三〔○公補作二〕十廿四縫殿助、十二廿八五位、元久元四十二皇后宮權大進、建永元十少納〔○三字依公補〕言、承元々正五從五上、少納言勞、月日昇殿、宇佐使、同四十二廿七木工頭、同五正十八但馬頭、陽明門御給、守カ 建暦元廿九正五下、九八 止頭叙之、建保二正十三止守、同三七十二右衛門權佐、即使、同五十二廿七藏人、

正五位下同成長　位賴資上　十十二轉任

故參議左大辨定長卿三男、母故兵部卿信範卿女、

文治四三廿二大膳亮、建久元正廿四備後守五位、同六十二十五復任、父、建仁二正五從五上、宣陽門院御給、建永二正五正五下、鳥羽院永治二大嘗會御給、承元二八八皇后宮權大進、同三正十七轉大進、四十四兼右衛門權佐、即使、建保二十二卅藏人、同三七十二遷刑部大輔、同六正十二木工頭、同七正廿三還補藏人、

承久二年庚戌

左大辨　從三位　藤定高　參木讃岐權守正廿二任權中納言

正四位下同家宣　正廿二轉

右大辨　同　平經高　正廿二去辨

從四位下藤資賴　十二十五從四位上坊官賞

左中辨　正四位下同家宣　正十二轉左大餘官如元

從四位下同資經　正廿二轉

右中辨　從四位下同資賴　春宮亮正廿三轉左〔右歟〕大

正五位下同賴資

權右中辨從四位下同資經　正廿二轉左中

正五位下同成長　正廿二轉

左少辨　同　同賴資　正廿二轉右中從四位下廿三還昇

右少辨左少歟　同　位賴資上　同成長　正廿二轉權右中去藏人

同　同宗房　正廿二任止藏人

故權中納言宗隆卿一男、母左衛門佐平業房女、

建久十二十七位、皇大后宮給、三廿三甲斐守、元久元十二廿七從五上、臨時、同三去守、永元々十廿九中宮權大進、同四正六正五下、中宮給、建保五正廿八藏人、即任民部權少輔、

右少辨　同　同光俊　〔正廿二任歟〕

承久三年辛巳　四月八日讓位、

左大辨　正四位下藤家宣　正五從三位十三日長門權守八廿九參木氏院別當

右大辨　從四位上同資賴　四十七補藏人頭七廿八止內藏頭八廿五止藏人頭

左中辨　從四位下同資房　八廿四補藏人頭十一十六從四位上十二一皇后宮亮

右中辨　同　　同賴資

權右中辨正五位下同成長　正五位從四位下

左少辨　同　　同宗房

右少辨　同　　同家光　閏十一八佐

故太宰府資實卿三男、母故右中辨平棟範女、

元久四五文章生、承元二二一、〔二公補〕院非藏人、同三正、秀才、同四正、越中大掾、建暦元三四策成信問、題褒賀崇禮、四一右衛門尉、同二正、藏人、四九使、建保元正十六五位、〔○公補作從五下〕月〔○公補爲五月〕日昇殿、四七宮內權大輔、同三正六從五上、同五正廿八廿、公大閤守、藏人巡、大輔如元、同六十二十六學士、玄坊、承久元正十二止守、閏二廿五藏人、同二正卅五〔○公補作廿六〕正五下、同三四廿止學士、踐祚辨カ、同日藏人、八月日新殿昇殿、服解、母、

後堀河院　去年十二月朔即位、

承久四年壬午　四月十五日改元爲貞應、

左大辨　從三位　藤家宣廿六　參木長門權守勸學院別當十廿七出家同日薨

正四位下同資經四十二　參木十二廿一轉

右大辨　從四位上同資賴　正卅四解右大辨

正四位下同資經　四十三轉十一三參木辨亮如元

同　　同賴資　十二廿一轉

左中辨　從四位上同資經　藏人頭皇后宮亮正十四四位下〔皇后宮入內賞〕

同　　同賴資　四十三轉十一十二藏人頭廿三正四位下

同　　同成長　十二廿一轉

右中辨　同　　同賴資　四十三轉

同　　同成長　十二廿一轉同廿九右宮城使

同　　同宗房　正廿九從四位上

權右中辨從四位下同成長　四十三轉十一十五近江介同廿二從四位上〔下食國司〕月日氏

同　　同宗房　院別當

正五位下同家光　十二廿轉同日從四位下

左少辨　同　　同宗房　正廿從四位下朝覲行幸

同　　同家光　四十三轉

同　　平親長　十二廿轉

右少辨　同　藤家光　藏人
　位家光上　同　平親長　四十二任

故中納言親宗卿二男、母同宗宣卿女、
安元二二十八五位、新院嘉應二御給名字親季、壽永二八十六越中守、十一廿解官、廿八、公元曆元卅七還任、文治元十二廿九止守、建久元正廿四上總介、改親長、同四廿五治部權大輔、同五正六正五下、七條院、正治元正廿三右衛門權佐、使、郎九廿三復任、父、建仁元八十九轉左佐、七、公元久元二一解官、建曆元九木工頭、同二正六從四下、九月止位記、承久元九廿中宮大進、同三八廿九藏人、

正五位下平範輔　十二廿一任

故從三位治部卿親季卿一男、母
建久元十一、藏人、七日叙爵、承元四正十七治部少輔、建曆二十十八遷兵部權少輔、建保元正六從五上、同六正五正五下、家宣春日行幸行事賞、正六勘解由次官、承久三閏十十八右衛門權佐、使、郎十二一皇后宮權大進、貞曆元五藏人、

貞應二年癸未

左大辨　正四位下藤資經　四十三参木皇后宮亮正十遠江權守三造東大寺長官四十止亮
右大辨　同　同賴資　藏人頭
左中辨　從四位上同成長　二二正四位下
右中辨　同　同宗房　四十皇后宮亮
權右中辨從四位下同家光
左少辨　正五位下平親長
右少辨　同　同範輔　藏人右衛門權佐皇后宮權大進四十轉大進

貞應三年甲未　十一月廿日改爲爲衍カ元仁、依天下疾疫也、
左大辨　正四位下藤資經　四四十参木近江權守造東大寺長官正廿三從三位十十六太宰大貳止
　同　同賴資　三四十大辨長官權守等十十七轉廿九造東大寺長官十十二十七参木兩官如元藏人頭
右大辨　同　同賴資
　同　同成長
左中辨　同　同成長　十二十六轉
　從四位上同宗房　十一十六轉十二十七藏人頭越成長朝臣
右中辨　同　同宗房　八四止亮
　從四位下同家光　十十六轉十右宮城使
權右中辨同　同家光
　同　平親長　十十六轉

左少辨　正五位下同親長　二廿九從四位下
同　同範輔　十十六轉
右少辨　同　同範輔
同　藤頼隆　藏人
入道前中納言顯俊卿一男、母石見守能頼入道女、
承元四正六五位、（齋宮御給、于時光宗、）建保六三六兵部權大
輔、正久二正七從五上、（父坊官讓賞、）同三八廿八藏人、貞
應元三十二正五下、同二二廿五兼中宮大進、

元仁二年乙酉　四月廿日改元爲嘉祿、
左大辨　正四位下藤頼資　四十四參木遣東大寺長官正廿三遠江權守七六從三位十二七一（按公補廿二日也）權中納言
從四位上同家光　廿七十二廿二轉
右大辨　正四位下同成長　四十五十二廿二轉三位左大辨
從四位上平範輔　卅四十二廿二轉
左中辨　同　藤宗房　藏人頭四廿六正四位下七六參議
同　同家光　藏人頭七六轉十二十二參議同日轉左大
從四位下平親長　十二廿二轉
右中辨　從四位上藤家光　右宮城使四廿七從四位上七六藏人頭越成長朝臣
從四位下平親長　七六轉
正五位上藤頼隆　十二廿二轉同日從四位下
權右中辨從四位下平親長
同　同範輔　十二八從四位上（兩社行幸行事賞、）同廿二藏人頭轉右大
正五位下同有親　十二廿二轉
左少辨　同　同範輔　正五從四位下十二八轉權右中
同　同頼隆　七六轉八十四氏院別當九十七正五位上
同　同親俊　十二廿一任
前權中納言顯俊卿二男、母故權中納言實守卿女、
承元四正六從五下、氏、建保六十二一九淡路守、承
久三八廿九備後守、十一十九從五上、十二一一皇后
宮權大進、貞應二正十七右衞門權佐、使宣旨、元
仁元四七正五下、八四止權大進、依院號也、嘉祿
元四廿六藏人止守、
右少辨　正五位下藤頼隆
位頼隆上
同　平有親
故從三位親國卿二男、母入道太宰權帥光隆卿女、
建仁元正六敘位、（女御琮子給、）十二廿二皇后宮少進、同二
四十五轉權大進、同三十二廿八復任、建保三四十
一中宮權大進、同四正五從五上、（簡一、二二〔○公補作三〕）廿
八辭權大進、承久三八廿九勘解由次官、閏十月藏

八、貞應元四十三正五下、同三正廿三但馬介、次官勞、

從五位上藤爲經 十六十二廿二任

入道前參議資經卿一男、母從四位上藤親綱朝臣女、

建保五四廿八叙爵、同六十二九肥前守、承久三十一十六從五上、修明門院朔旦御給、貞應元四十三皇后宮權大進、嘉祿元七六勘解由次官、

嘉祿二年丙戌

左大辨　從四位上平範輔 廿八參木正廿三丹波權守廿七造東大寺長官四十九正四位下十一四從三位

右大辨　同　同範輔 藏人頭七廿四正四位下

左中辨　從四位下同親長 正五從四位上左宮城使

右中辨　同　藤賴隆 正廿七右宮城使七廿四從四位上十二十六藏人頭（越親長朝臣）

權右中辨正五位下平有親 藏人正五從四位下

左少辨　同　藤親俊 藏人右衛門權佐正廿三遷左廿七防鴨河使十月日勸學院別當十一月、辭藏人佐

右少辨　從五位上同爲經 正五正五位下十二十七從四位下（春日行幸行事賞）

嘉祿三年丁亥　十二月十日改元爲安貞、依疱瘡也、

左大辨　從三位　藤家光 廿九參木造東大寺長官丹波權守

右大辨　正四位下平範輔 卅六參木中宮亮遠江守正五從三位正五正四下十四藏人頭去辨

左中辨　從四位上同親長 十四轉十二廿五從四位上

從四位下同有親

右中辨　從四位上藤賴隆 廿六藏人頭正五正四位下（中宮給）十一月四參木

正五位下同親俊 十四轉同日從四位下

權右中辨從四位下平有親 十四轉左

同　藤爲經 同日轉

左少辨　正五位下同親俊 藏人十四任去職十二廿七從四位下

同　平時兼

故少納言信國男、故大納言時忠卿猶子、母

治承二八廿九縫殿權助、十二二十五東宮權少進、同四四廿一叙爵、六廿九伊豆守、坊官賞、年月日得替、承元四正七從五上、高陽院天養元給、建曆元十廿九正五下、建保四三廿五兵部權少輔、承久三八廿九日向守、舊吏、嘉祿元四三勘解由次官、

右少辨　從四位下藤爲經 十四轉權右中廿一十四任

正五位　同光俊

故入道前權中納言光親卿男、母

、、、右衛門權佐、年月日正五位下、承久二三、補藏人、年月日中宮大進、嘉祿二十一四還藏人、

廿歳、

安貞二年戊子

左大辨　從三位　藤家光　參木
右大辨　同　平範輔　參木
左中辨　從四位上　同有親　二、武藏介(裝束使勞)七左宮城使
右中辨　從四位下　藤親俊　二七右宮城使十二月辭　氏院別當三廿從四位上
權右中辨　同　同爲經　三廿七從四位下　十二月氏院別當
左少辨　同　平時兼　三廿從　四位上
右少辨　正五位下　藤光俊　藏人正五正五　位上去藏人

安貞三年己丑　三月五日改元爲寛喜、

左大辨　從三位　藤家光　卅一參木正卅勘解由次(長歟)官
右大辨　同　平範輔　參木四十八止中宮亮(依院號也)
左中辨　從四位上　同有親
右中辨　同　藤親俊　九廿一復任(父)
權右中辨　同　同爲經
左少辨　同　平時兼
右少辨　正五位上　藤光俊

寛喜二年庚寅

左大辨　從三位　藤家光　參議
右大辨　同　平範輔　參議
左中辨　從四位上　同有親　二廿三正四位下
右中辨　同　藤親俊
權右中辨　同　同爲經
左少辨　同　平時兼
右少辨

寛喜三年辛卯

左大辨　從三位　藤家光　卅三參木造東大寺長官勘長官周防權守正六正三位(辨官)四廿六　權中納言
同　平範輔　參木加賀權守四廿　九轉十十二勘長官
右大辨　同　同範輔　參議四廿　一轉左
從四位上[正カ]　藤親俊　四廿　九轉
左中辨　從四位上[下カ]　平有親　三廿五還內藏　頭補藏人頭　同日
同　藤親俊　轉　四廿九轉十廿
同　同爲經　一左宮城使　三廿五
右中辨　同　同親俊　轉左
同　同爲經　二廿　九轉
權右中辨　同　同爲經

同　平時兼　三廿五轉

左少辨　同　同時兼

正五位上藤信盛　四廿九轉

右少辨　同　同信盛　藏人正廿九任

故入道從三位盛經卿男、母正五位下小槻廣房女、

承元二七十文章生、去五廿九方略宣旨、六廿六獻策、十廿九大膳亮、建曆二七十叙爵、去亮、建保二正五從五上、七條院御給、同四三十〔廿、公補〕八中宮權大進、承久二正六正五下、同三四〔四三公補〕廿五止大進、貞應二四廿藏人、廿七日宮內少輔、嘉祿二正廿七遷右衛門權佐藏人如元、十一四輔左、安貞二正五正五上、策勞、寬喜三正廿九兼出羽介、

正五位下藤忠高　藏人四十九任（佐大進等如元）十廿防鴨河使廿八春宮大進

權中納言定高卿男、母故前參議親雅卿女、

承久元正五叙位、元仁二正廿三伊賀守、十二廿二勘次官、安貞元正五從五上、東一條院御給、同二正五正五下、臨時、寬喜二二十六中宮大進、

寬喜四年壬辰　四月改元爲貞永、十月四日讓位、

左大辨　從三位　平範輔　四十二勘長官加賀權守正五正三位八廿一造東大寺長官

右大辨　從四位上藤親俊　十二二正四位下藏人頭廿一聽禁色

左中辨　同　同爲經

右中辨　同　平時兼　四廿九轉十廿右宮城使

權右中辨同　同時兼

左少辨　正五位下同信盛　藏人正廿文章博士

右少辨　同　藤忠高　藏人十月四止大進受禪日同日藏人

四條院　去年十二月四日受禪、

貞永二年癸巳　四月十五日改元爲天福、

左大辨　正三位　平範輔　四十二參木勘長官造東大寺加賀權守

右大辨　正四位下藤親俊　藏人頭

左中辨　從四位上同爲經

右中辨　同　平時兼　六十八正六正四位下廿八從三位推叙成怨不出仕

權右中辨

正五位上藤信盛　正廿八轉二十八賜文章博士兼字四八從四位下十二廿二辭博士文章博士出羽介

左少辨　同　同信盛

同　同忠高　藏人十二二博去藏人佐

右少辨　同　同忠高　藏人左衛門權佐十二轉左少

同　　同經光　正廿八任父頼資卿止權中納言申任之去少輔兼右衛門權佐

權中納言頼資卿男、母從五位下源兼賢女、

建保六十一十六東宮藏人、今日懷成親王立坊、承久三正九穀倉院學問料、同四廿藏人、今日太子受禪、七九止藏人、依療事也〔○按當作依廢帝也〕同四正六文章得業生、超上﨟二人範氏俊貲、貞應二正廿七因幡少掾、二七獻策、次序播壁、辨輪多少、式部大輔忠倫問、九日判、三一叙爵、四七治部權少輔、嘉祿二七七昇殿、安貞二四廿從五上、九十六藏人、寛喜元十五正五下、北白川院御給、同三十廿八兼春宮權大進、貞永元十四藏人、先帝藏人、今日止大進、

天福二年甲午　十二月五日改元爲文曆、依天變地妖也、

左大辨　正三位　平範輔　參木勘長官造東大寺長官十二廿一權中納言

　　　　從四位上藤爲經　十二廿一轉同日藏人頭

右大辨　正四位下同親俊　廿八藏人頭十二廿一參議

左中辨　從四位上同爲經　十二廿一轉左大

　　　　從四位下同實雄　十一廿一任少將如元

入道前太政大臣公經公三男、母故權中納言親宗卿女、七條院女房、

嘉祿三二一叙爵、同三四廿侍從、安貞三正卅從五上、寛喜元四十八左少將、同二正廿四備後介、同三正五正五下、貞永二正六從四下、

右中辨　從四位下同信盛　十二廿一轉

權右中辨同　同信盛

左少辨　正五位下同忠高　十二廿一正五位上四二去藏人辨權佐等

右少辨　同　同經光

權右少辨同位經光上　同兼高　藏人十二廿一任

故權中納言長方卿四男、母江口遊女木姫、〔イ隱岐守師高朝臣女〕

建久五正廿二叙爵、太皇太皇后宮建久三御給、同九四廿一從五上、皇后宮御入内賞、建仁四正五正五下、皇后宮御給、承元二十二九宮内權大輔、同四七廿一輔大輔、同五正廿二中宮大進、建保二十二廿九於殿上與解勘由次官宗宣闘諍事、卅配流土佐國、依打宗宣科也、寛喜元十二廿九復本位、同三三廿五更任宮内權大輔、補藏人、同廿八禁色、十卅兼中宮大進、永元十二四更補藏人、受禪日、

文曆二年乙未　九月十九日改元爲嘉禎、

左大辨　從四位上藤爲經　藏人頭正廿五正四位下六十一造東大寺長官

右大辨
左中辨　從四位下同實雄　正廿三加賀介（少將重兼國）廿八從四位上二六禁色閏六十一右宮城使
右中辨　同　同信盛　正廿八從四位上閏七十一右宮城使
權右中辨正五位上同忠高　六十七轉同日從四位下
左少辨　同　同忠高
　　正五位下同兼高　六十七轉
右少辨　同　同經光
權右少辨同　位經光上　同兼高

嘉禎二年丙申
左大辨　正四位下藤爲經　藏人頭二月卅日任參木（大辨長官如元）七月廿日叙從三位
右大辨
左中辨　從四位上藤實雄　二月廿日任左中將去辨同日補藏人頭
　　同　同信盛　二月卅日轉任
右中辨　同　同信盛　右宮城使
　　從四位下同忠高　二月卅日轉任十二月卅日叙從四位上補藏人頭
權右中辨同　同忠高
　　同　同兼高　二月卅日轉任十二月十八日叙從四位上十九日辭辨次男顯嗣申補藏人

左少辨　正五位下同季賴　十二月十九日轉任同日叙從四位下
　　從四位下同兼高
　　正五位下同季賴　十二月卅日任藏人左衞門權佐
　　權中納言資賴卿男、母按察使光親卿女、
承久二正六從五位下、同三四十六備前守、寬喜二正廿四從五位上、同三四廿九兵部大輔、十卅東宮權大進、貞永元十二五正五位下、中宮御給、文曆二八十二藏人禁色、
　　正五位下同經光　十二月十五日轉任
右少辨　同　同經光　二月卅日遭父喪五月六日復任
　　位經光上　同　同長朝　十二月十九日止藏人
　　入道前權中納言長兼卿男、母參議雅長卿女、
承元五閏正十從五位下、春葉門院給爵、建保四十二十七中宮少進、承久二十二十五從五位上、元仁二正五正五位下、安嘉門院當年御給、天福二四二藏人、十廿九皇后宮大進、

嘉禎三年丁酉
左大辨　從三位　藤爲經　參木造東大寺長官正月廿四日近江權守
右大辨　正四位下同信盛　正月廿四日轉任

左中辨　從四位上同信盛　正月五日叙正四位下

同　同忠高　正四轉二廿一左宮城使四廿正下（若清水賀茂行幸行事賞）

右中辨　同　同忠高　藏人頭

從四位下同季頼　正廿四轉二廿一右宮城使

權右中辨同　同季頼

正五位下同經光　正廿四轉同日叙從四下

左少辨　同　同經光

同　同長朝　正廿四轉同日叙從四位下

右少辨　同　同長朝

同　同高嗣　藏人正廿四任二廿八叙正五上今日去權佐

故權中納言光親卿男、母入道參議定經卿女、

建保二七十三叙爵、于時光綱、同五十二二十三但馬守、〔一、公補〕于時高嗣、同六正十六遷美乃守、〔廿公補〕安貞二二二三從五上〔三、公補〕皇嘉門院康治三〔元公補〕年未給、寛喜二二十卅中宮權大進、同三四十四正五下、天福二正廿一得替、四二二右衛門權佐、十二廿一藏人、嘉禎二四十四左權佐、

嘉禎四年戊戌　十一月廿三日甲午改元爲暦仁、依天變也、

左大辨　從三位　藤爲經　廿九正廿三叙正三位閏二廿七權中納言

右大辨　正四位下同信盛　閏二廿七轉三七内藏頭四十八辭辨補藏人頭頭如元

同　同忠高　廿六四七轉廿二勘解由長官

同　同信盛　正廿遠江權守

同　同忠高　閏二廿七轉四廿任參議

左中辨　從四位上同季頼　四廿轉七廿止大辨

同　同經光　七廿轉長官等如元

正四位下同忠高　藏人頭左宮城使正廿二喪、（父）十五喪（母）閏二六復任

從四位下同季頼　閏二十七轉三廿九叙從四上

從四位上同經光　四廿轉廿九奉分所勾當五廿廿三左宮城使

同　同長朝　七廿轉

右中辨　從四位下同季頼

同　同經光　閏二廿七轉三廿九從四上四六造東大寺長官

從四位上同長朝　四廿轉

從四位下同高嗣　十廿轉同日從四位上

權右中辨同　同經光

同　同長朝　閏二廿七轉三廿八從四上

正五位上同高嗣　四廿轉同日從四下

正五位下平時高　七廿轉同日從四下

左少辨　從四位下藤長朝

正五位下平時高　四廿轉
同　藤顯朝　七廿轉
右少辨　正五位下同時高　閏二廿七任
故入道從三位親輔卿男、母前權中納言實教卿女、
承元三六、藏人、九十八從五位下藏人、建保三十二十五刑部權大輔、于時範實、同二正五從五位上、于時知時、貞應三四七中宮權大進、于時時高、嘉祿二正五正五位下、廿三轉大進、貞永二四八備中守、嘉禎三二廿八皇后大進、二廿八藏人、
正五位下藤顯朝　四廿任
故參議宗房卿男、母左京大夫清長女、
承久三閏十十八從五位下、貞應三十六安藝守、父卿知行、寛喜二三十六中宮權大進、同三四廿九從五位上、先之遷守、同十一廿八中宮權大進、天福元四十九正五位下、院司、嘉禎二八十六補藏人禁色、十二十九宮內權大輔、同三二廿八左衛門權佐、
正五位下同定頼　七廿任右衛門權佐如元
故中宮權大進長宗男、母
年月日叙爵、嘉禎二二卅兵部大輔、三十九從五位上、同三正五正五位下、從一位藤原朝臣去年給、廿九日右兵衛權佐、七十三〔二、公補〕轉、同四二十兼皇后宮權大進、四廿兼右衛門權佐、〔同日〕蒙使〔宣旨〕、〔〇〇據公補〕

暦仁二年己亥　二月七日改元爲延應、
左大辨　正四位下藤忠高　廿七參議、勘解由長官、正廿四叙從三位
右大辨　從四位上同經光　正廿四兼阿波權守、廿七正四位下、十一十六補藏人頭
左中辨　同　同長朝　正廿四播磨權守、卅七正四位下
右中辨　同　同高嗣　四廿八正四位下
權右中辨從四位下平時高　正廿七從四上、十廿八正四位下
左少辨　正五位下藤顯朝　藏人、四八正五上
右少辨　同　同定頼　四廿七正五上、八廿九備後守

延應二年庚子　七月十六日改元爲仁治、依天變也、
左大辨　從三位　藤忠高　廿八參議、勘解由長官、正廿六播磨權守
右大辨　正四位下同經光　藏人頭、阿波權守
左中辨　同　同長朝　播磨權守
右中辨　同　同高嗣
權右中辨同　平時高
左少辨　正五位上藤顯朝　藏人、左衛門權佐、使宣、

右少辨　同　同定頼　右衛門權佐使宣

仁治二年辛丑　正月五日天皇御元服、七日後宴賀表、

左大辨　正五位　藤忠高　廿九　參議勘長官播磨權守二一權中納言

正四位下同經光　廿九　藏人頭二一參議同日轉八日勘長官下名次十十二從三位

右大辨　同　同經光　藏人頭二一參木

同　同長朝　三轉同日藏人頭

左中辨　同　同長朝

同　同高嗣　廿四　三轉改定嗣同日補藏人頭

右中辨　同　同高嗣

同　平時高　二一轉十八日右宮城使

權右中辨同　同時高

正五位上藤顯朝　三轉同日從四下

左少辨　同　同顯朝　藏人左衛門權佐使宣

同　同定頼　二一轉同日補藏人權佐如故四廿三轉權佐

右少辨　同　同定頼　右衛門權佐使宣

正五位下同親頼

前權中納言親俊卿、母親部成茂女、

仁治三年壬寅　正月廿日新帝踐祚、

左大辨　從三位　藤經光　卅　參議造東大寺長官勘長官阿波權守

右大辨　正四位下同長朝　藏人頭三七從三位守如元同日但馬權守

左中辨　同　同定嗣　卅五　藏人頭三七參議去辨

同　平時高　三七轉四九補藏人頭

右中辨　同　同時高

從四位上藤顯朝

權右中辨從四位下同顯朝

正五位上同定頼　十二廿五轉同日從四位下

左少辨　同　同定頼　正七止藏人

正五位下同親頼　十二廿五轉歟

右少辨　同　同親頼

平時繼　同日任

後嵯峨院

仁治四年癸卯　二月廿六日改元爲寬元、依代始也、

左大辨　從三位　藤經光　卅一　參議造東大寺長官勘長官二二兼讚岐權守

右大辨　從三位　同長朝　四十七　但馬權守

左中辨　正四位下平時高　四十九　藏人頭閏七廿七左宮城使八九兼中宮亮

右中辨　從四位上藤顯朝　七廿七右宮城使三五正四位下

權右中辨從四位下同定賴
左少辨　正五位下同親賴
右少辨　　平時繼

寛元二年甲辰
左大辨　從三位　藤經光（廿二）參議勘長官造東大寺長官讚岐權守正五正三位
右大辨　同　同長朝　但馬權守
左中辨　正四位下平高時　藏人頭左宮城使中宮亮
右中辨　從四位下（上イ）藤顯朝　右宮城使
權右中辨從四位下同定賴　正五從四位上（宣仁門院御給）
左少辨　同親賴
右少辨　平時繼

寛元三年乙巳
左大辨　正三位　藤經光（廿三）參議勘長官造東大寺長官讚岐權守
右大辨　從三位　同長朝　伊與權守
左中辨　正四位下平時高　藏人頭六廿三從三位去辨
同　藤顯朝　六廿六轉藏人頭、、率分所勾當八十一中宮亮九七左宮城使
右中辨　同　同顯朝
從四位上同定賴　六廿轉九七右宮城使
權右中辨同　同定賴
從四位□同親賴　同日轉使
左少辨　同親賴
右少辨　平時繼
正五位下藤顯雅　六廿六任止藏人次官
故前參議親房卿男、母法印成清女、
年月日勘解由長官、年月日正五位下仁治三三七
藏人、

寛元四年丙午　正月廿七日讓位、
左大辨　正三位　藤經光（廿四）參議勘長官造東大寺長官讚岐權守
右大辨　從三位　同長朝（五十）
左中辨　正四位下同顯朝　藏人頭率分所勾當中宮亮左宮城使
右中辨　從四位上同定賴　正五正四位下右宮城使
權右中辨從四位□同親賴
左少辨　正五位□平時繼
右少辨　正五位下藤顯雅
同　同經俊　藏人月日任
入道前參議資（經）卿男、母親綱卿女、

後深草院

寛元五年丁未　改元爲寶治、

左大辨　正三位　藤經光 卅五 參議勘長官造東大寺長官讃岐權守月日任權中納言

從三位　同長朝 月日轉

右大辨　同　同長朝 五十一

正四位下　同顯朝 十二八轉

左中辨　同　同顯朝 藏人頭率分所勾當中宮亮左宮城使

同　同定頼 十二八轉

右中辨　同　同定頼 右宮城使

權右中辨

左少辨

正五位下　同經俊 十一八轉

右少辨　同　同經俊 藏人

寶治二年戊申

左大辨　從三位　藤長朝 五十二 七月日辭

正四位下　同顯朝 廿七 十廿九轉十二十七造東大寺長官

右大辨　同　同顯朝 藏人頭十廿九任參議轉左

左中辨　同　同季頼 十廿九還任

右中辨　同　同定頼

權右中辨

左少辨　正五位下　藤經俊 正十辭藏人權佐等

右少辨

寶治三年己酉　改元爲建長、

左大辨　正四位下　藤顯朝 廿八 參議造東大寺長官正五從三位廿四近江權守

右大辨　同　同季頼

左中辨　同　同定頼

右中辨

權右中辨　平時繼

左少辨

右少辨

建長二年庚戌

左大辨　從三位　藤顯朝 卅五 參議造東大寺長官近江權守正十三任權中納言

同　同季頼

右大辨　正四位下　同季頼 正十三從三位轉左

同　同定頼　正十三轉十一九造東大寺長官 廿二(七イ)從三位〔按公補叙從三位事在來年〕

左中辨　同　同定頼

同　同親頼　正十三轉歟

右中辨　同　同親頼

權右中辨

左少辨　正五位下同高雅

故右大辨光俊男、母侍從盛季女、

右少辨

建長三年辛亥

左大辨　從三位　藤季頼

右大辨　正四位下同親頼　正廿二補藏人頭

左中辨　平時繼

右中辨　藤顯雅　六廿七叙從四位

權右中辨

左少辨　正五位下藤高雅　二廿二補藏人三十六止藏人佐

右少辨　正五位下藤宗雅　正廿二任

入道前參議從二位宗平卿男、母

天福二正廿六叙爵、于時宗基、十月廿九日侍從、嘉禎二二四從五位上、同三十廿七正五位下、暦仁元四廿藏人、父辭參木申之、寛元四二廿三補藏人、寶治二二改名宗雅、

建長四年壬子

左大辨　從三位　藤季頼

右大辨　正四位下同親頼　十二四任參議

左中辨　從四位上同時繼　十二四補藏人頭辭行〔辨カ〕

右中辨

權右中辨

左少辨　正四位下藤高雅

正五位下同宗雅　十二四轉

權左少辨　同　同光國　十二四任 去藏人

故權中納言資實卿四男、(爲家光卿子、)母

貞應三十四十三給勸學院學問料、嘉祿元八一補文章得業生、同二正廿三因幡權守、安貞元正四獻策、次序父兄分別銅銀、正四位下左京權大夫藤原長倫問、八月判、廿一歳、同廿六日右衞門尉、同三月五日叙爵、同二月八日佐渡守、寛嘉三二十二中宮少進、十月廿日轉權中進、同四二七從五位上、同十一月口昇

殿、貞永二四五止權大進、依院號也、嘉禎三正五正五
位下、寛元々八七美作守、同九月春宮權大進、同
四四十民部大輔、建長元五廿八皇子始讀書、

右少辨　同　正五位下同宗雅
同　同資定　十二去藏人

建長五年癸丑

左大辨　從三位　藤季頼　月日辭
正四位下同顯雅
右大辨　同　同顯雅
左中辨
右中辨
權右中辨
左少辨　正五位下同宗雅　藏人
權左少辨同　同光國　藏人
右少辨　同　同資定

建長六年甲寅

左大辨　正四位下藤顯雅　正十三補藏人頭止辨
同　同經俊
右大辨　同　同經俊
同　同高定
左中辨　同　同高定
從四位下同宗雅　正十三轉十六左宮城使三八從四位上二ヶ度
右中辨　正五位下同光國　藏人正十三轉同廿一從四位下廿六右宮城使
左少辨　同　同宗雅　藏人正十三從四位下轉左中
同　平成俊　廿七正十三任
故藏人正五位下行木工頭棟基男、母
嘉禎三正廿四任豐後守、同日敍爵、于時藤原宗俊爲子故也、仁
治四正五從五位上、寛元々九九兼春宮少進、于時平、
同二三六任宮內少輔、寶治二正廿三勘解由次官、
同三十廿九正五位下、建長三三十六補藏人、
權左少辨正五位下藤光國
右少辨　同　同資定
同　源カ同雅言　正十三任父卿辭權中納言申之
前權中納言雅具卿男、母宮仕女房、（土御門院播磨局、）
嘉禎四六七敍爵、仁治元九廿六侍從、同三三十五
從五位上、簡二、寛元々正廿三左少將、同四正七正五
位下、寶治二正廿三甲斐權守、建長五正十三兼讚

岐守院方、

建長七年乙卯
左大辨　正四位下藤經俊　十二十三補藏人頭
右大辨　同　同高定
左中辨　從四位上同宗雅　左宮城使廿三紀伊權守十廿一正四位下
右中辨　從四位下同光國　右宮城使十廿二正四位上
權右中辨
左少辨　正五位下平成俊　藏人
右少辨　同　源雅言

建長八年丙辰　改元爲康元、
左大辨　正四位下藤經俊　藏人
右大辨　同　同高定
左中辨　同　同宗雅　左宮城使紀伊權守
右中辨　從四位上同光國　右宮城使正六正四位下
權右中辨
左少辨　正五位下平成俊　二廿二正五位上
右少辨　同　源雅言　二廿二正五位上

康元二年丁巳　改元爲正嘉、
左大辨　正四位下藤經俊　藏人頭
右大辨　同　同高定　十一十九補藏人頭止辨
同　同宗雅　十一十九轉
左中辨　同　同宗雅　左宮城使
正四位下同光國　十一十九轉同日補勸學院別當
右中辨　同　同光國　右宮城使
權右中辨正五位上平成俊　十一十九轉同日從四位下
左少辨　正五位下同成俊　藏人
正五位上源雅言　十一十九轉
右少辨　同　同雅言
正五位下平高輔　藏人十二十九轉止藏人

正嘉二年戊午

正嘉三年己未　改元爲正元、
左大辨　正四位下藤經俊　十一任參議(辨如元)
右大辨　同　同宗雅
左中辨　同　同光國　右宮城使正十三八七兼宮學士廿日轉左宮城使

右中辨　從四位下平成俊　正十三轉、七九從四位上、八廿右宮城使

權右中辨同　同成俊

正五位上源雅言　正十三轉、同日從四位下、十一六從四位上、二ヶ度

左少辨　同　同雅言

右少辨　正五位下平高輔

同　藤忠方　正十三任、七廿九正五位上

前權中納言顯朝卿男、母故權中納言定高卿女、

嘉禎元十一十九叙爵、寛元三八五備中守、同四正五從五位上、簡一、寶治三正廿四備前守、建長二正五正五位下、大宮院當年御給、正嘉二正十三右少辨、文卿辭權中納言申佐之、

龜山院

正元二元文應　文應二元弘長　弘長二　同三　同四元文永

文永二　同三　同四　同五　同六　同七　同八

同九　同十　同十一

後宇多院

文永十二元建治　建治二　同三　同四元弘安　弘安二

同三　同四　同五　同六　同七　同八　同九　同十

伏見院

弘安十一元正應　正應二　同三　同四　同五　同六

永仁元永仁　永仁二　同三　同四　同五　同六

後伏見院

永仁七元正安　正安二　同三

後二條院

正安四元乾元　乾元二元嘉元　嘉元二　同三　同四元德治

德治二

花園院

德治三元延慶　延慶二　同三　同四元應長　應長二元正和

正和二　同三　同四　同五　同六元文保　文保二

龜山院

正元二年庚申　四月十三日改元爲文應、依代始也、

左大辨　從三位　藤經俊　四十三　造東大寺長官讃岐權守　九二正三位

右大辨　正四位下　同宗雅　三廿九兼備後權守

左中辨　同　同光國　東宮博士　左宮城使

右中辨　從四位上　平成俊　右宮城使　正六正四位下　四十七兼春宮亮　正六正四位下正親町院當年御給　後十十五兼左京大夫

權右中辨　同　源雅言

左少辨

右少辨　正五位上　藤忠方

文應二年辛酉　二月廿日改元爲弘長、

左大辨　正三位　藤經俊　參議　造東大寺長官讃岐守

右大辨　正四位下　同宗雅　三廿七還任右中將補藏人頭

同　同光國　三廿七

左中辨　同　同光國　轉任　東宮學士　左宮城使

同　平成俊　三廿七轉任四七補藏人頭九廿六左宮城使八廿皇后宮亮

右中辨　同　同成俊　春宮亮右宮城使八八中宮亮

同　源雅言　三廿七轉任（服假中）九廿六右宮城使

權右中辨　同　同雅言　左京大夫　三廿七轉任同日勸學院別當八（八月公補）補藏人（與經業和與）九月廿六日兼左衞門權佐蒙使宣旨（三事兼帶）

左少辨　正五位上　藤忠方

同　同忠方

正五位下　同資宣　藏人三廿七任去藏人權補（服解中）

故前權中納言家光卿二男、母故正四位下忠綱朝臣女、

天福二三三給氏院學問料、嘉禎三正廿七補文章得業生、同（公補作四年）正廿三加賀權大掾、延應元三七獻策、題（次序將吏、分別珠鏡、）正四位下行文章博士兼讃岐權守藤原朝臣光兼問、同廿八日判、（中上第、年十六、）四月十三日修理權亮、同十五（○公補作廿五）日叙爵、仁治元四五治部權少（大公補）輔、閏十廿八日　從五位上、（十七歲、實光保安二八八幡賀茂行事賞、）同三十一八昇殿、寬元々九九中宮權大進、同三十廿九正五下、（臨時、廿二歲、）同（○四公補）十廿兼中宮權大進、十二廿一辭權大輔、建長六正十三補藏人、（前中宮權大進、）同十六日宮內權大輔、正嘉二八七兼春宮大進、正元々十一廿六新帝藏人、止大進、（依受禪也、）文應元五五服解、母、八月三日復任、

弘長二年壬戌

左大辨　正三位　藤經俊四十五　參議、長官、權守等、正廿六任權中納言

右大辨　同　正四位下同宗雅四十六　正廿六任、三一從三位、大辨如元、同兼造東大寺長官

左中辨　同　同光國　今年補藏人頭、去大辨歟、

同　平成俊四十六　藏人頭、皇后宮亮、左宮城使、十二廿一任參議、十二廿一直任右大辨、同日正四位上、石淸水賀茂行幸賞、廿六右京大夫如元之由宣下

同　源雅言　右宮城使

同　同雅言　二廿一轉任

正五位上藤忠方　從四位下、十二廿一轉任、從四位下、廿六皇后宮亮、三一防鴨河使、四八辭藏人、左衞門權佐、藏人十二廿二任

權右中辨正五位下藤資宣

左少辨　正五位上同忠方

正五位下同高俊

前中納言忠高卿男、母白拍子、

年月日勘解由次官、年月日正五位下、康元々十二十三藏人、弘長二四十七右衞門權佐、

右少辨　正五位下藤資宣

同　同經任

故中納言爲經卿二男、母大宮院半女、

寬元五正五敍爵、臨時、于時經嗣、寶治二十廿九民部權少輔、同三正廿四從五位上、于時經嗣〔任カ〕、建長三四三若狹守、同四十廿四〔○公補作十二四〕正五位下、同八七十四復任、正嘉元十一十九勘解由次官、同二八七兼春宮權大進、正元々十二止大進、弘長二四八左衞門權佐、五十六兼防鴨河使、六七皇后宮大進、

弘長三年癸亥

左大辨　從三位　藤宗雅四十七　造東大寺長官

右大辨　正四位下同光國

左中辨　正四位上源雅言

右中辨　從四位下藤忠方　正廿六從四位下、二二右宮城使

權右中辨同　同資宣

左少辨　正五位下同高俊　正廿八辭藏人、右衞門權佐、皇后宮大進、左衞門權佐、正廿八補藏人(三事)、十廿六辭藏人佐等

右少辨　同　同經任

弘長四年甲子　二月廿八日改元爲文永、

左大辨　從三位　藤宗雅　造東大寺長官

右大辨　正四位下同光國　月日補藏人頭、學士賞

同　平高輔　月日任歟、六六補藏人頭、辨大夫如元

左中辨　正四位上源雅言

右中辨　從四位上藤忠方
權右中辨從四位下同資宣
左少辨　正五位下同高俊　六十八從四位上
右少辨　同　同經任

文永二年乙丑
左大辨　從三位　藤宗雅　閏四廿九任參議去辨
正四位上源雅言　閏四廿五轉任五廿六造東大寺長官
右大辨　正四位下平高輔
左中辨　正四位上源雅言
正四位下藤忠方　閏四廿五轉任五廿一裝束使幷正藏率分所勾當等事宣下廿六左宮城使正廿正四位下
右中辨　從四位上同忠方　閏四廿五轉任五廿六右宮城使九四止寃
同　同資宣
權右中辨同　同資宣
左少辨　正五位下同高俊
正五位上同經任　二四廿五轉任正六正五位上
右少辨　正五位下同經任
同　同俊國　閏四廿五任

文永三年丙寅
左大辨　正四位上源雅言　藏人頭辨如元二一任參木去大夫
右大辨　同　平高輔
左中辨　正四位下藤忠方　二一補藏人頭（遭父喪）十十九復任
右中辨　從四位上同資宣
權右中辨正五位上同經任　十二十九轉任從四位下
左少辨　同　同經任
正五位下同賴親　十二十五轉任止藏人
從三位季賴卿男、（祖父故入道前中納言資賴卿爲子、）母故入道正三位家持卿女、
年月叙爵、仁治二二正五從五上、加叙、于時時賴、寶治二十一二丹波守、院御分、于時賴親、建長元正五正五下、承明院御給、同四十二四右衛門權佐、康元々二廿六復任、祖父資賴卿依爲子也、正嘉元十一十九轉左衛門權佐、同二八廿防鴨河使、弘長元四七藏人、八廿兼中宮大進、同三十廿六辭權佐、
右少辨　正五位下藤俊國
同　同經業　十二十五任
前參議信盛卿男、母
嘉禎元十二廿七給穀倉院學問料、九歲、同三正廿一

文章得業生、同四正廿三越後權少掾、同三廿七獻策題、序龍詞・辨恩寵・正四位下行文章博士藤原朝臣經範問、同廿八、丁判、十三四、延應元四十三大膳亮、同廿五從五下、同十一五聽昇殿、同六近江守、仁治元閏十廿八還任甲斐守、左府分國、同二正五從五上、簡一、同三四九得替、寬元々九九任中宮權大進、同二七六辭權大進、十二十七美作守、寶治二六十八停權大進、依院號也、同二八八兼皇后宮權大進、守如元、建長元正五正五下、正親町院御給、同二正十三得替、同三三廿七停權大進、依院號也、同六正十三讚岐守、院御給、正嘉元十一十九補藏人、父信盛卿辭申補之、同廿二治部大輔、同十二二中宮權大進、同二正十三止守、同八四辭權大進、同二八七東宮學士、正元々十一廿六止學士、依受禪、弘長元二八中宮大進、同廿九辭大輔、同八廿轉皇后宮大進、依中宮轉也、同二正辭藏人、四八還補藏人、同六七辭大進、同十月六左京大夫、同三正廿八任左衞門權佐、即蒙使宣旨、文永二十二廿三服解、母、同三三廿七復任、

文永四年丁卯

左大辨　從三位　源雅言　四十參議二一、一兼備中守
右大辨　正四位上　平高輔
左中辨　正四位下　同忠方
右中辨　從四位上　同資宣　二五正四位下
權右中辨　從四位下　同經任　正五從四位上、五七正四位下、十二、勸學院別當
左少辨　正五位下　同賴親
右少辨　同　同經業

文永五年戊辰

左大辨　從三位　源雅言　參議備中權守、十二二任權中納言
　正四位下　藤忠方　十二二任參木、轉左大、卅日造東大寺長官
右大辨　正四位上　平高輔
左中辨　正四位下　藤忠方　藏人頭
　同　同資宣　十二二轉任、補藏人頭、裝束司、正藏率分所勾當
右中辨　同　同資宣
　同　同經任　十二二補任藏人頭（別當如元）
權右中辨　同　同經任
　正五位下　同賴親　勸學院別當、十二二轉任、從四位下
左少辨　同　同賴親
　同　同經業　十二二轉任、從四位下

左中辨　正四位下同親朝卅八　修理左宮城使美作權介裝束使率分所別當記六勾當五月日氏院別當
右中辨　正四位下同光朝　修理左宮城使氏院別當三月廿六日率日來所勞也
　　　　正四位下同經長廿五　四月十二日轉任七月一日右宮城使
權右中辨正四位下同經長　御祈願所
左少辨　正五位上同兼頼　三月廿四日爲氏院別當（光朝朝臣所勞辭退替也）
右少辨重服任例　正五位下平棟望
權右少辨正五位下藤定藤　四月十二日藏人左衛門權佐如元父服內也同五月辭藏人權佐兩職
　　故入道權中納言定嗣卿長男、母春日神社主時繼女
　　〔以上七字書入〕

文永十一年甲戌

左大辨　從三位　藤資宣五十一　參議造東大寺長官美作權守正月五日叙正三位九月十日任權中納言
　　　　正三位　源具房卅六　九月十日任參議如元十二月廿日兼侍從
　　故大納言通忠卿二男、母家女房、〔以上十三字書入〕
右大辨　正四位下藤頼親　藏人頭三月廿日叙正四位上四月五日任參議
　　　　正四位下同親朝卅九　四月五日轉任七月廿五日遷任內藏頭補藏人頭
　　　　正四位下同經長卅六　九月十日轉任
左中辨　正四位下同親朝　修理左宮城使美作權介氏院別當
　　　　正四位下同經長　四月五日轉任七月廿九日復任母
　　　　從四位下同兼頼　九月十日轉任
右中辨　正四位下同經長
　　　　從四位下同兼頼　四月五日轉任今日叙從四位下七月廿九日復任父
　　　　從四位下平棟望　九月十日轉任今日叙從四位下
權右中辨正五位下藤定藤　九月十日轉任
左少辨　正五位上同兼頼
　　　　正五位下平棟望　四月五日轉任
　　　　正五位下源雅憲　九月十日轉任
右少辨　正五位下平棟望
　　　　正五位下藤定藤　四月五日轉任六月補氏院別當九月十日任元藏人左衛門權佐
　　　　正五位下平忠世
　　前權中納言時繼卿男、母故從二位修理大夫經隆卿女、〔以上十二字書入〕
權右少辨正五位下藤定藤
　　　　正五位下源雅憲　四月五日元藏人左衛門佐
　　前中納言雅言卿二男、母

後宇多院

建治元年乙亥

左大辨　正三位　源具房　参議侍従正月十八日兼勘解由長官二月一日兼造東大寺長官十二月廿二日任權中納言

正四位下藤經長　十二月廿六日轉任

右大辨　正四位下同經長　十月八日補藏人頭

從四位下同兼頼　十二月廿六日轉任

左中辨　從四位下同兼頼　二月一日兼左宮城使

從四位下平棟望　十二月廿六日轉任

權左中辨從四位下同棟望　十月八日轉任

右中辨　從四位下同棟望　二月一日兼右宮城使十月八日轉任權左中〔以上九字諸本無〕

從四位下藤定藤　十月八日轉任今日叙從四位下氏院辨所元

權右中辨正五位下同定藤

從四位下源雅憲　十二月廿六日轉任今日叙從四位下

左少辨　正四位下同雅憲

正五位下平忠世　十二月廿六日轉任

右少辨　正五位下平忠世

正五位下藤經頼　十二月廿六日任元藏人勘解由次官

故中納言爲經卿四男、母故藏人木工頭平棟基女〔以上十字書入〕

建治二年丙子

左大辨　正四位下藤經長　藏人頭正月廿三日兼造東大寺長官

右大辨　從四位下同兼頼　正月五日叙從四位上〔臨時〕同廿三日兼近江權守

左中辨　從四位下平棟望　正〔諸本作三〕月五日叙從四位上〔臨時〕同廿三日兼左宮城使

右中辨　從四位下藤定藤　正月廿三日兼右宮城使氏院別當

權右中辨從四位下源雅憲　二月二日兼〔同日〕內藏〔人〕頭

左少辨　正五位下平忠世

右少辨　正五位下藤經頼

建治三年丁丑

左大辨　正四位下藤經長　藏人頭造東大寺長官九月十三日兼参議

右大辨　從四位上同兼頼　九月十三日藏人頭十月十六日復任

左中辨　從四位上平棟望　左〔諸本作右〕宮城使五月十四日辭退所職依所勞也

從四位下藤定藤　五月十四日轉任同日從四位上九月十三日兼左宮城使

右中辨　從四位下同定藤　右宮城使氏院別當

從四位下源雅憲　五月十四日轉任同日叙從四位上九月十三日兼右宮城使

權右中辨從四位下同雅憲

正五位下平忠世　五月十四日轉任同日叙從四位下

左少辨　正五位下同忠世　正月廿四日叙正五位上朝覲行幸賞〔以上五字書入〕

右少辨　正五位上藤經頼　五月十四日轉任、八〔五〕月日辭退（替）〔ナシ〕、爲氏院別當、（定藤朝臣）八月廿〔十〕七日造興福寺長官
　　　　正五位下同經頼　十二月廿四日叙正五位上、朝覲行幸賞也
　　　　正五位下平信輔　五月廿四日任、元藏人宮内少輔
　　　　故藏人頭内藏頭兼皇后宮亮高輔朝臣男、

弘安元年戊寅　二月廿九日改建治四年爲弘安元、
左大辨　正四位下藤經長　參木、七月十七日叙從三位
右大辨　從四位上同兼頼　藏人頭、四月十七日叙正四位下
左中辨　從四位上同定藤　四月九日叙正四位下
右中辨　從四位上源雅憲
權右中辨從四位下平忠世
左少辨　正五位上藤經頼
右少辨　正五位下平信輔

弘安二年己卯
左大辨　從三位　藤經長　參議
右大辨　正四位下同兼頼　藏人頭
左中辨　正四位下同定藤
右中辨　從四位上源雅憲　正月五日叙正四位下
權右中辨從四位下平忠世　正月五日叙從四位上
左少辨　正五位上藤經頼　正月五日叙從四位下
右少辨　正五位下平信輔

弘安三年庚辰
左大辨　從三位　藤經長　參議
右大辨　正四位下同兼頼　藏人頭、月日卒
　　　　正四位下同定藤　二月十六日轉任
左中辨　正四位下同定藤
　　　　正四位下源雅憲　二月十六日轉任、四月六日兼左宮城使
右中辨　正四位下同雅憲
　　　　從四位上平忠世　二月十六日轉任、四月六日兼右宮城使
權右中辨從四位上同忠世
　　　　從四位下藤經頼　二月十六日轉任、三月十二日叙從四位上
左少辨　從四位下同經頼
　　　　正五位下平信輔　二月十六日轉、三月十二〔六〕日叙從四位下
右少辨　正五位下同信輔
　　　　正五位下藤爲方　廿六二月十六日任、藏人春宮大進右衛門權佐
　　　　權大納言經任卿長男、母

弘安四年辛巳

左大辨　從三位　藤經長　參議造東大寺長官正月五日叙正三位
右大辨　正四位下同定藤
左中辨　正四位下源雅憲　三月廿五日兼伊勢權守
右中辨　從四位上平忠世　四月六日叙正四位下
權右中辨從四位上藤經頼　四月六日叙正四位下
左少辨　從四位下平信輔
右少辨　正五位下藤爲方　五月六日叙正五位上藏人右衛門佐春宮大進〔以上十字書入〕

弘安五年壬午

左大辨　正三位　藤經長　參議造東大寺長官
右大辨　正四位下同定藤
左中辨　正四位下同雅憲　修理左宮城使裝束使率分所勾當記錄所勾當御祈願所伊勢權守
右中辨　正四位下平忠世　修理右宮城使
權右中辨正四位下藤經頼　造興福寺長官勸學院別當
左少辨　從四位下平信輔
右少辨　正五位上藤爲方　春宮大進藏人右衛門佐〔以上六字書入〕

弘安六年癸未

左大辨　正三位　藤經長　參議造東大寺長官三月廿八日任權中納言
正四位下源雅憲　三月廿八日轉任五月廿九日兼造東大寺長官七月廿日叙從三位
右大辨　正四位下藤定藤　三月廿八日去辨補藏人頭
正四位下平忠世　三月廿八日轉任
左中辨　正四位下源雅憲
正四位下藤經頼　三月廿八日轉任四月十九日爲裝束使幷率分所記錄所學勾當五月廿九日兼左宮城使
右中辨　正四位下平忠世
從四位下平信輔　三月廿八日轉任同日叙從四位上五月廿九日兼左宮城使造興福寺長官十二月卅〔廿〕日轉任
權右中辨正四位下藤經頼
從四位下同爲方
左少辨　從四位下平信輔
正五位上藤爲方　三月廿八日轉任十二月廿四日叙從四位下十二月卅日轉任
正五位上同俊定　春宮大進藏人右衛門佐三月廿八日轉左去藏人佐等〔以上十八字書入〕
右少辨　正五位上同爲方
正五位下同俊定　故治部卿經俊卿二男、　三月廿八日任元藏人右衛門權佐七月廿日叙正五位上
權右少辨正五位下藤爲俊　前權大納言經任卿三男、母同爲方女、　三月廿八日任元勘解由次官十二月卅日轉正父經任卿罷大納言申任元

弘安七年甲申

左大辨　從三位　源雅憲　造東大寺長官〔以上書入〕

右大辨　正四位下平忠世　正月六日叙正四位上同十三日遷任大藏卿補藏人頭

正四位下藤經頼　三月十三日轉任三月九日叙正四位上造興福寺長官左宮城使

左中辨　正四位下同經頼

從四位上平信輔

右中辨　從四位上同信輔

從四位下藤爲方　正月十三日轉任五(二一イ)月六(八)日叙同日兼右宮城使

權右中辨從四位下同爲方

正五位上同俊定　正月十三日轉任同十六日叙從四位下七月廿六日叙從四位上

左少辨　正五位上同俊定

正五位下同爲俊　正月十三日轉任七月廿六日叙五位上

右少辨　正五位下同爲俊

正五位下同雅藤　正月十三日任元藏人勘解由次官

故前參議大藏卿顯雅卿男、

弘安八年乙酉

左大辨　從三位　源雅憲　造東大寺長官

右大辨　正四位上藤經頼　三月六日任宮內卿補藏人頭

正四位下平信輔　三月六日轉任四月十日叙正四位上從一位藤原朝臣九十賀院司賞

左中辨　正四位下同信輔　三月六日轉任同八日補氏院別當同廿六日兼造興福寺長官〔二月六日轉任同八日補氏院別當同廿六日兼造興福寺長官〕四月十日轉任左宮城使八月十九日兼皇后宮亮同廿七日叙正四位上(皇后宮行啓賞)

正四位下藤爲方

右中辨　從四位上同爲方　正月五日叙正四位下

從四位上同俊定　三日十日叙正四位下同六日轉任四月十日兼右宮城使

權右中辨從四位上同俊定　三月一日叙正四位下

正五位上同爲俊　三月六日轉任七月十日叙從四位下

左少辨　正五位上藤爲俊

正五位下同雅藤　三月六日轉任九月卅(廿ク)日補氏院別當十一月十九日兼造興福寺長官

右少辨　正五位下同雅藤

位在雅藤上正五位下平仲兼　三月六日任元藏人兵部權大輔

故入道兵部卿時仲朝臣男、母

弘安九年丙戌

左大辨　從三位　源雅憲　造東大寺長官三月九(五)日叙正三位

右大辨　正四位上平信輔　正月十三日遷任治部卿補藏人頭

正四位上藤爲方　正月十三日轉任卽補藏人頭九月二日兼參議父權大納言經任卿閏十二月四日叙從三位今日去職被申仰云々

左中辨　正四位上同爲方
　　正四位下同俊定　正月十三日轉任二月廿五日兼左宮城使
右中辨　正四位下同俊定　正月十三日轉任二月廿五日兼右宮城使四月一日叙正四位下（春日行幸賴宮行幸賞）
　　從四位上同爲俊　正月五日叙從四位上
權右中辨從四位上同爲俊　中辨任例
　　從四位上同冬季　位在爲俊上　正月（十）三日父權中納言實冬卿辭職申右近權少將如元三月九日叙正四位下
　　權中納言實冬卿男、母
左少辨　正五位下藤雅藤　氏院別當
右少辨　正五位下平仲兼　位雅藤上　七月十一日叙正五位上

弘安十年丁亥
左大辨　正三位　源雅憲　十二月一（十イ）日任參議去辨（以上二字諸本無）
　　從三位　藤爲方　十二月十日轉任
右大辨　從三位　同爲方　參議九月三日造東大寺長官
　　正四位上同俊定　十二月十日轉任
左中辨　正四位下同俊定　正月二日叙正四位上朝覲行幸院司（以上二字諸本無）賞同十三日補藏人頭
　　正四位下同爲俊　十二月十日轉任
右中辨　正四位下同爲俊
　　正四位下同冬季　十二月十日轉任
權右中辨正四位下同冬季　右少將
　　正五位上同雅藤　十二月十日轉任同日叙從四位下氏院別當
左少辨　正五位下同雅藤　正月七日叙正五位上朝覲行幸院司賞
　　正五位上平仲兼　十二月十日轉任同日叙從四位下
右少辨　正五位上同仲兼
　　正五位上藤兼仲　十二月十日任元藏人頭治部少輔
　　故前中納言民部卿經光卿二男、母

伏見院
弘安十一年戊子　四月廿八日改正應元年、
左大辨　從三位　藤爲方　參議造東大寺長官近江權守皇后亮八月廿五日轉任同權大夫十月廿七日任權中納言
　　正四位上藤俊定　十月廿七日轉任十一月八日叙從三位十二月廿五日兼造東大寺長官
右大辨　正四位上同定俊　藏人頭七月十一日兼參議
　　正四位下同爲俊　十月廿七日轉任
左中辨　正四位下同爲俊　二月廿一日兼修理左宮城使十月廿七日轉任十（二）月廿五日兼左宮城使月日裝束使率分所
　　正四位下同冬季　二月廿一日兼修理右宮城使八月廿五日兼皇后宮亮
右中辨　正四位下同冬季　位在爲俊上

從四位上同雅藤　十月廿七日轉任十二月廿五日叙正四位下、兼右宮城使十一月廿一日叙正四位下

權右中辨從四位下同雅藤　二月十日叙從四位上（春日社造宮賞云々越仲兼）造興福寺長官

從四位下平仲兼　十月廿七日轉任十一月八日叙從四位上

左少辨　從四位下同仲兼　〔諸本位在雅藤上五字傍注有〕

正五位下藤兼仲　十月廿七日轉任十一月八日叙從四位下

右少辨　正五位下同兼仲

正五位下同顯世　十月廿七日任元藏人兵部權大輔十一月八日辭藏人

故前權中納言按察使高定卿男、母

正應二年己丑

左大辨　從三位　藤俊定　參議造東大寺長官

右大辨　正四位下同爲俊　正月十三日補藏人頭去辨

正四位下同雅藤　正月十三日轉任三月廿六日叙正四位上朝覲行幸院司賞十月十八日去辨補藏人頭任春宮亮

正四位下平仲兼　十一月十八日轉任同月廿七日叙正四位上臨時宣下

左中辨　正四位下藤冬季　正月十三日去辨補藏人頭

從四位上平仲兼　正十三日轉任即叙正四位下同廿三日裝束使幸分所記錄所二月廿四日兼左宮城使

正四位下藤兼仲　十月十八日轉任閏十月十四日兼造興福寺長官左宮城使十月廿一日氏院同廿九日裝束使幸分所記錄所勾當

右中辨　正四位下藤雅藤

從四位下同兼仲　正月十三日轉任即叙從四位上(越經親)二月廿四日兼右宮城使六月二日叙正四位下

從四位上同顯世　十月十八日轉任即兼皇后宮亮閏十月十四日兼右宮城使

權右中辨從四位上平仲兼

正五位下藤顯世　正月十三日轉任即叙從四位下四月二日叙從四位上十月十八日轉任

從四位上平經親

左少辨　從四位下藤兼仲

從四位下平經親　三月十三日任元左衞門權佐中宮亮如元三月廿六日叙從四位上朝覲行幸院司賞

前權中納言時繼卿二男、母從二位高階經雅卿女、

正五位下藤賴藤　十月十八日轉任

右少辨　正五位下同顯世

正五位下同賴藤　正月十三日任元藏人皇后宮大進如元三月廿六日叙正五位上朝覲行幸院司賞

前權中納言按察使賴親卿男、母遊女、

正五位下藤俊光　十八日任藏人右衞門權佐春宮大進如元十二月十一日辭藏人佐等

前權中納言民部卿資宣卿長男、母賀茂神主能繼女、

正應三年庚寅

左大辨　從三位　藤俊定　參議造東大寺長官紀伊權守六月八日遷右衞門督爲檢非違使別當

補藏人頭去辨例
正四位上平仲兼　六月八日轉任同十八日兼造東大寺長官九月廿一日兼中宮亮十一月廿一日補藏人頭去辨十一月廿一日轉任〔以上八字ナ本無〕

正四位下藤兼仲　十一月廿一日轉任

右大辨　正四位下平仲兼

正四位下藤兼仲　六月八日轉任同日兼春宮亮十一月廿一日轉任同廿七日兼造東大寺長官造興福寺長官勸學院別當裝束使率分所勾當記錄所勾當修理左宮城使正月十三日兼備前權介

正四位下同顯世

左中辨　正四位下同兼仲

正四位下藤顯世　六月八日轉任同十八日兼左宮城使七月四日爲裝束使并率分所記錄所勾當

正四位下平經親　十一月廿一日轉任十一月十一日轉任同廿六日爲裝束使并率分所記錄所勾當十二月八日叙正四位下石賀兩社行幸賞

權左中辨從四位上藤賴藤　皇后宮亮右宮城使正月十三日叙正四位下

右中辨　從四位上同顯世　六月八日轉任同十八日兼右宮城使九月五日停中宮亮

正四位下平經親　十一月廿一日轉任同

正五位上藤俊光　十七日叙從四位下

權右中辨從四位上平經親　中宮亮正月十三日叙正四位下

從四位下藤賴藤　六月八日轉同日叙從四位下同〔十月クツ十一月ナ〕十九日叙從四位上〔天皇禪門院還御富小路殿同院司賞〕

左少辨　正五位上同賴藤　皇后宮大進

正五位上同俊光　六月八日轉

正五位下同光泰　十月廿一日轉

右少辨　正五位下同俊光　春宮大進正月五日叙正五位上

正五位下同光泰　六月八日任元藏人中宮大進

故右中辨元〔光〕朝朝臣男。母

正五位下藤顯家　十一月廿一日任元藏人兵部權大輔

前權中納言親賴卿男、母

正應四年 辛卯

左大辨　正四位下藤兼仲　造興福寺長官勸學院別當春宮亮備前權守正月六日叙正四位上七月廿九日去辨補藏人頭

正四位上同顯世　七月廿九日轉八月十二日止皇后宮亮依本院々號也

右大辨　正四位下同顯世　造東大寺長官皇后宮亮三月廿五日叙正四位上

正四位下同賴藤　七月廿九日轉

左中辨　正四位下平經親　三月廿五日辭退自去年不出仕恐懼

正四位下藤賴藤　三月廿五日轉四月十一日兼修理左宮城使

正四位下同俊光　七月廿九日轉今日叙正四位下八月十四日爲裝束使并率分所記錄所勾當九月九日兼修理左宮城使

權左中辨正四位下藤賴藤　裝束使率分所勾當記錄所勾當

右中辨　從四位下同俊光　越中介正月三日叙從四位上（朝覲行幸院司賞）四月十一日兼右宮城使

從四位下同光泰　十〔七〕月十〔廿〕九日轉　九月九日兼右宮城使

權右中辨〔正五〕從四位下同光泰　三月廿五日轉四月六日叙從四位下

從四位下同顯家　七月廿九日轉今日叙從四位下

左少辨　正五位下同光泰　中宮大進

正五位下同顯家　三月廿五日轉四月六日叙正五位下

正五位下同經守　七月廿九日轉九月九日兼防鴨河使四〔十〕月日辭藏人權佐同十五日叙從四位下

右少辨　正五位下同顯家

正五位下同經守　三月廿五日任藏人皇后宮大進如元六月六日更兼左衛門權佐同月日補氏院別當七月十七日兼造興福寺長官八月十二日止大進（依本宮院號）

正五位下藤爲行　太宰權帥經任卿三男、母同爲方卿女、　七月廿九日任元左衛門權佐春宮權大進如元

權中納言爲方卿男、母

正應五年壬辰

左大辨　正四位上藤顯世　二月五日去

正四位上同賴藤　辨補藏人頭　二月五日轉（宣下）同十五日兼造東大寺長官十〔一〕月五〔十一〕日補藏人頭

右大辨　正四位下同賴藤

正四位上平經親　二月五日轉（宣下）元前左中辨十一月五日補藏人頭

左中辨　正四位下藤俊光　四月七日喪父六月卅日復任　左宮城使裝束使率分所記錄所

右中辨　從四位下同光泰　右宮城使

權右中辨　從四位下同顯家　五月五日喪父　六月卅日復任　十一月十日喪父同廿三日改任辨官藏人（同日重服依無例也）十一月廿三日轉十二月廿五日兼造興福寺長官月日爲氏院別當

左少辨　從四位下同經守

正五位下同爲行　春宮權大進四月十二日辭權大進

右少辨　正五位下同爲行

正五位下平仲親　位爲行上　十一月廿三日任元藏人春宮大進大進如元

故入道兵部卿時仲朝臣二男、母侍故筑後守惟宗行貞女、

正應六年癸巳　八月五日改元爲永仁元、

左大辨　正四位上藤賴藤　造東大寺長官中宮亮藏人頭（以上三字書入）

右大辨　正四位上平經親　藏人頭（以上書入）二月十八日任參議

正四位上藤兼仲　二月十八日還任（經親替參議如元）三月十四日從三位十二月十三日任權中納言

正四位下同俊光　十二月十三日轉

左中辨　正四位下同俊光　左宮城使裝束使率分所月日如元爲記錄所勾當六月〔廿〕四日補藏人頭

從四位上同光泰　十二月十三日轉月日爲裝束使率分所

右中辨　從四位下同光泰　右宮城使正月五日叙從四位上月日爲記錄所勾當十二月十三日轉
　　　從四位上同顯家
權右中辨從四位下同顯家　正(二)月十三日叙從四位上
　　　從四位上同經守　十二月十三日任元前左少辨
左少辨　正五位下同爲行　造興福寺長官氏院
右少辨　位在爲行上　正五位下平仲親　春宮大進

永仁二年甲午

左大辨　正四位上藤賴藤
　　　正四位下同俊光
右大辨　正四位下同俊光
　　　正四位下同光泰
左中辨　從四位上同光泰
　　　正四位下同顯家
右中辨　從四位下同顯家
　　　從四位上同經守
權右中辨從四位上同信經
故前參議經業卿男、

造東大寺長官中宮亮三月廿七日任參議
三月廿七日轉四月十三日兼造東大寺長官同卅(廿)日叙正四位上
藏人頭(以上書入)
十二(三)月廿七日轉今日兼越中權介
右宮城使裝束使率分所記錄所正月六日叙正、位下
三月廿七日轉四月十三日兼左宮城使
正月六日叙正四位下
三月廿七日轉四月十三日兼右宮城使同月日爲記錄所勾當同廿日叙正四位下
三月廿七日任元刑部卿

左少辨　正五位下藤爲行　造興福寺長官氏院
右少辨　正五位下平仲親　春宮大進

永仁三年乙未

左大辨　正四位上藤俊光
右大辨　正四位下同光泰
　　　正四位下同顯家
左中辨　正四位下同顯家
　　　正四位下同經守
右中辨　正四位下同經守
　　　從四位上同信經
權右中辨從四位下同信經
　　　正五位下同爲行
左少辨　正五位下同爲行
　　　位在爲行上　正五位下同雅俊
前參議雅藤卿男、實定雄朝臣男、
右少辨　正五位下平仲親
　　　正五位下藤定房
前中納言經長卿男、母入道中納言定嗣卿女、

藏人頭(以上書入)造東大寺長官中宮亮六月廿三日任參議十二月九日叙從三位
越中權介六月十三(廿三ック廿二ナ)日補藏人頭去辨
六月十三(廿三ック廿二ナ)日轉十二月廿九日叙正四位上
左宮城使裝束使率分所記錄所
六月廿三日轉月日裝束使率分所八月五日爲左宮城使
右宮城使記錄所
六月廿三日轉八月五日爲右宮城使
三月四日叙從四位上
六月廿三日轉八月五日叙從四位下
造興福寺長官氏院
九月廿三日任元藏人治部少(大イ)輔
春宮大進四月八日辭大進六月十三日叙從四位下任刑部卿去辨
六月廿三日任元藏人中宮權大進如元五月一日辭藏人

永仁四年丙申

左大辨　從三位　藤俊光　參議造東大寺長官中宮亮四月十三日止亮八月廿一日兼修理大進

右大辨　正四位上　同顯家

左中辨　正四位下　同經守　左宮城使

右中辨　從四位上　同信經　右宮城使十二月卅日叙正四位下　造興福寺長官氏院

權右中辨　從四位下　同爲行

左少辨　正五位下　同雅俊

右少辨　正五位下　同定房　中宮權大進四月十三日任中宮大進

永仁五年丁酉

左大辨　從三位　藤俊光　參議造東大寺長官修理大夫五〔二〕月廿九日叙正三位六月七日依權中納言

正四位上　同顯家　六月七日轉同日補藏人頭　七月一日爲造東大寺長官

右大辨　正四位上　同顯家

正四位下　同經守　六月七日轉同日補藏人頭〔重服〕同十月廿三日叙正四位上止藏人頭服解之間五節出仕不可叶之故云々

左中辨　正四位下　同經守　左宮城使正月十九日服解父五月十六日復任

正四位下　同信經　六月七日轉七月十八日爲左宮城使八月廿五日爲造興福寺長官

右中辨　正四位下　同信經　右宮城使〔諸本無〕

從四位下　同爲行　六月七〔十九〕日轉七月廿二日叙從四位上同日爲右宮城使　造興福寺長官氏院

權右中辨　從四位下　同爲行

正五位下　同雅俊　六月七日轉同廿五日叙從四位下

左少辨　正五位下　同雅俊

正五位下　同定房　六月七日轉七月廿二日叙從四位下　春宮大進

右少辨　正五位下　同定房

正五位下　同定資　六月七日任元藏人左衞門權佐如元七月廿二日辭藏人佐等

前中納言俊定卿男、

永仁六年戊戌

左大辨　正四位上　藤顯家　造東大寺長官二月十日服解父三月廿四日止頭依服解歟六〔九〕月八日轉從三位去辨

正四位上　同經守　六月八日轉同日爲造東大寺長官　三月廿四日還補藏人頭

右大辨　正四位上　同經守

正四位下　同信經　六月八日轉造興福寺長官　八月廿八日叙正四位上

左中辨　正四位下　同信經　左宮城使造興福寺長官

從四位上　同爲行　六月八日轉同廿二日叙正四位下〔宣下〕七月廿一日爲左宮城使

右中辨　從四位上　同爲行　右宮城使氏院

從四位上　同雅俊　六月八日轉七月廿一日爲右宮城使　正月五日叙從四位上

權右中辨　從四位下　同雅俊

服中任辨官例
從四位下同定房　六月八日轉　重服中也

左少辨　從四位下同定房　春宮大進三月十二日遭母喪月日復任五月廿三日止大進依服解也

正五位上同定資　六月八日轉八月十日兼春宮大進　正月五日叙正五位上　正應四年朝覲行幸賞

右少辨　正五位下同定資

正五位下平忠顯　六月八日任元前藏人前右衞門權佐超依階上臈藏人賴房信忠等任之七月廿七日出家依所勞危急也

故入道前中納言忠世卿男、母邦經卿女、

正五位下藤賴房　七月廿一日任（元藏人中宮大進如元）八月廿一日止大進依本宮院號也

權大納言賴親卿二男、

後伏見院

永仁七年己亥　四月廿五日改元爲正安、

左大辨　任參議去辨例　正四位上藤經守　造東大寺長官藏人頭春宮亮六月六日任參議

正三位　平經親　六月六日任參議駿河權守七月廿七日叙從二位同日造東大寺

右大辨　補頭日去辨例　正四位上藤信經　造興福寺長官播磨權介六月六日補藏人頭

正四位下同爲行　六月六日轉元左中左宮城使

左中辨　正四位下同爲行　左宮城使

正安二年庚子

左大辨　從二位　平經親　參議駿河權守造東大寺長官四月七日任權中納言

從三位　藤爲行　四月七日轉元右越後權守左宮城使十一月廿九日造東大寺、

右大辨　正四位下同爲行　左宮城使正月五日叙從三位三月六日越後權守

正四位下同雅俊　四月七日轉元左中左宮城使造興福寺長官

左中辨　正四位下同雅俊　左宮城使造興福寺長官率分所勾當記錄所勾當

正四位下同定房　四月廿日轉任元右五月廿八（九ヵ六ツ）日左宮城使

右中辨　從四位上同定房　正月五日正四位下

正四位下同雅俊　六月六日轉元右中右宮城使同六日興福寺長官

右中辨　從四位上同雅俊　右宮城使正月五日正四位下

從四位上同定房　六月六日轉

權右中辨　從四位上同定房　元權右中　四月廿六日叙從四位上

正五位上同定資　六月六日轉元左少辨今日叙從四位下止大進

左少辨　正五位上同定資　春宮大進

正五位下同賴房　六月六日轉元右少七月八日叙從四位下超經雄

右少辨　正五位下同賴房

正五位下同經雄　位賴房上　六月六日任東宮學士故俊國朝臣子九月廿日止辨叙從四位下

正五位下同光方　九月廿日任元藏人三左權佐故爲俊卿子

從四位上同定資　四月七日轉元權右中五月廿九日宮城使十二月廿二日正四位下

權右中辨從四位下同定資　正月十一日從四位上朝覲行幸院司賞

左少辨從四位下同賴房　七月十一日叙從四位上

權左少辨正五位上同光定　四月七日任元治部少輔藏人如元五月廿九日止藏人定藤卿子

右少辨正五位下同光方　正月十一日正五位上朝覲行幸院司賞

正安三年辛丑

左大辨 大辨直任例 從三位藤爲行　越後權守造東大寺三月十四日可返、

正三位源有房　三月十四日任四月五日兼參議四月十一日造東大寺長官

右大辨正四位上藤雅俊　造興福寺長官八月廿〔十〕四日春宮亮

左中辨正四位下同定房　左宮城使四月五日藏人頭

右中辨正四位下同定資　右宮城使二月一日內藏〔人〕頭

權右中辨從四位下同光定　四月五日轉元權左少

左少辨從四位上同賴房　四月五日止辨

正五位上同光方　四月五日轉元右

權左少辨 叙四品已 正五位上同光定　藏人

右少辨正五位上同光方

正五位上平惟輔　四月五日任元藏人兵部少輔

故參議信輔卿男、

後二條院

正安四年壬寅　十一月廿一日改元乾元々、

左大辨正三位源有房　參議造東大寺長官正月廿日周防權守正月十四日侍從

右大辨 大辨直任例 正四位上藤雅俊　春宮亮造興福寺長官三月廿三日還藏人頭

正四位下同經繼　三月廿三日任同日任參議大藏卿元藏人頭七月廿一日止大藏卿

中納言經俊卿男、母宮內卿平業光朝臣女、

弘長二正五從五位下、文永五正五從五位上、同七正五正五位下、同八七二治部大輔、建治二十二廿九復任、父、弘安七正十三勘解由次官、同八三八從四位下、同年九廿一從四位上、同十一二十正四位下、去弘安九三春行幸舍兄俊定朝臣行事賞讓、永仁六八十春宮亮、正安三正廿一補藏人頭、同年三三十四大藏卿、同三三廿三任參議、卿如元、同年七廿一兼右大辨、去卿、

左中辨 自中辨任參議例 正四位下藤定房　左宮城使藏人頭〔三月廿三日〕任參議止辨

正四位下同定資　三月廿三日轉元右中同日補藏人頭右宮城使四月十七日左宮城使十一月十八日內藏頭

右中辨正四位下同定資　右宮城使內藏頭正月廿日止頭

從四位下同光定　三月廿三日轉元權右中四月十七日右宮城使十二月十四日從四位上

權右中辨從四位下同光定
從四位上同經雄　七月廿一日任元東宮前學士前右少辨
左少辨　正五位上同光方
右少辨　正五位上平惟輔

嘉元元年癸卯　八月五日改元、

左大辨　正三位　源有房　參議侍從周防權守造東大寺長官正月廿八日任權中納言
正四位下藤經繼　正月廿八日轉元右同日備中權守參議二月六日造東大寺長官八月廿八日叙從三位
右大辨　正四位下同經繼　參議
正四位下同定資　正月廿八日轉元左中同日任參議止內藏頭
左中辨　正四位下同定資　內藏頭藏人頭左宮城使
從四位上同光定　正月廿八〔五〕日轉元右氏院別當二月二〔六〕日左宮城使七月五日正四位下同日藏人頭八月廿八日遷治部卿
正四位下同經雄　八月廿八日轉元右同日左宮城使九月廿一日記六所勾當御書所別當
右中辨　正五位上平惟輔　八月廿八日轉元左少同日從四位下同日右宮城使九月廿四日中宮亮同廿八日從四位上中宮今日
權右中辨從四位上藤經雄　位光定上
正五位上同光方　正月廿八日轉元左八月廿八日止辨叙從四位下
正五位下同宣房　八月廿八日元右少十月廿九日從四位下十二月卅日大藏卿

左少辨　正五位上同光方　正月廿八日轉元右
正五位下藤經世　位宣房上　八月八日任藏人元兵部大輔十月廿九日從四位下〔止藏人〕
故經俊卿三男、
右少辨　正五位上平惟輔
正五位下藤宣房　四十五　正月廿八日任元藏人兵部少輔
入道資通卿男、
正五位下平仲高　八月廿八日任元藏人右京權大夫
太宰大貳仲兼卿男、

嘉元二年甲辰

左大辨　從三位　藤經繼　參議備中權守造東大寺長官
右大辨　正四位下同定資　參議三月七日近江權守十月廿一日從三位
左中辨　正四位下同經雄　左宮城使記錄所勾當御書所別當三月七日備前權守
右中辨　從四位上平惟輔　右宮城使
權右中辨從四位下藤宣房　四十六　大藏卿六月七日從四位上超經世
左少辨　從四位下同經世
右少辨　正五位下平仲高

嘉元三年乙巳

左大辨　從三位　藤經繼　參議備中權守造東大寺長官十二月廿日任權中納言
從三位　同定資　十二月廿日轉元右參議近江權守同日修理大夫閏十二月十七日造東大寺長官
右大辨　從三位　同定資　參議近江權守
從三位　同經雄　十二月廿日
左中辨　正四位下　同經雄　任元左中辨左宮城使備前權守記六所勾當御書所別當四月五日止辨叙從三位
自中辨任參木例
從四位上　同宣房　四月五日元權大藏人頭四月十九日左宮城使十一月十六〔五〕日任參議
正四位下　平仲親　十一月十六日轉元權右宮城使閏十二月十七日左宮城使
權左中辨　從四位上　藤宣房　三月十八日任藏人頭大藏卿
中辨直任例
正四位下　平仲親　四月廿一〔五〕日任元前刑部卿同日右宮城使
故入道時仲朝臣二男、
右中辨　從四位上　平惟輔　右宮城使三月八日遷藏人頭
從四位下　藤經世　三〔正〕月八日轉元左少十一月十六日右京大夫閏十二月十一七日右宮城使
權右中辨　從四位上　同宣房　大藏卿遷藏人頭〔以上諸本注右行右宮城使下〕
左少辨　從四位下　同經世
正五位下　同隆長　三月八日任藏人中宮大進
經長卿二男、
權左少辨　正四位下　源親房　十一月六日任伊豫守權介元右中將父師重卿罷權大納言申任之
右少辨　正五位下　平仲高　十一月十六日止辨
正五位下　藤冬定　十一月十六日任元藏人左中將父宗〔家〕冬卿罷權中納言申任之

德治元年　丙午

左大辨　從三位　藤定資　參議修理大夫近江權守造東大寺長官十二月廿二日任權中納言
右大辨　從三位　同經雄　十二月廿二日任參議大藏卿彈正大弼出雲權守
正四位下　同宣房　三月卅日長門權守十二月廿二日任參議
正四位下　平仲親　十二月廿二日轉元左中左宮城使
左中辨　正四位下　平仲親　左宮城使
正四位下　藤公賢　十二月廿二日任左少將陸奧權介〔實泰卿男〕
右中辨　從四位下　同經世　左京大夫右宮城使五月五日叙從四位上
權右中辨　從四位下　同隆長　十二月廿三〔二〕日轉元左少今日止中宮大進
左少辨　正五位下　同隆長　藏人中宮大進九月廿八日止藏人叙從四位下
正四位下　源親房　十二月廿四〔二〕日轉元權左少伊豫權介〔守〕
權左少辨　正四位下　同親房　伊豫權介
右少辨　正五位下　藤冬定　藏人左中將

德治二年　丁未

左大辨　正四位下藤宣房　参議大藏卿彈正大弼出雲權守八月四日止大藏卿十一月一日大弼三月二日兼造東大寺長官左宮城使九月十七日遷治部卿同日補藏人頭

右大辨　辭辨遷治部卿補頭例　正四位下平仲親

大辨直任例　正四位下藤賴俊　故經賴卿子、　九月十七日任今日止大藏卿

左中辨　正四位下藤公賢　左少(中イ)將陸奥權介三月二日左宮城使

右中辨　從四位下同經世　左京大夫右宮城使

權右中辨　從四位下同隆長　四月三日從四位上

左少辨　正四位下源親房　伊豫權介十一月遷彈正大弼

正五位下藤冬定　十一月一日轉元右

右少辨　正五位下同冬定

位冬定上　正五位下同雅任　十一月一日任春宮大進元藏人

前權中納言雅藤卿、前参議雅俊卿爲子之、

花園院

延慶元年戊申

左大辨　正四位下藤宣房　参議出雲權守九月十七日辭辨

正四位下同賴俊　九月十七日轉元右十月十二日造東大寺長官十二月十日遷治部卿

從四位上同經世　十二月一日轉元右同日造東大寺長官

右大辨　正四位下同賴俊　九月十七日轉元右中右宮城使

從四位上同經世　十二月十日轉元左春宮亮同日補藏人頭止左宮城使

從四位上同隆長　左少將陸奥權介左宮城使閏八月八日服解母

左中辨　正四位下同公賢　九月十七日轉元權右中今日止内藏頭九月十九日春宮亮十月十二日右宮城使十一月廿二日

中辨直任例　從四位下同隆長　裝束使率分所勾當

位隆長上　從四位上源雅康　十二月十日任元前右少將同日左宮城使雅憲卿男

右中辨　從四位上藤經世　左京大夫右宮城使

中辨直任例　位經世上　從四位上同國房　入道俊定卿二男、　九月十七日任元前左馬頭十月十二日右宮城使

權右中辨　中辨直任例　從四位上藤隆長　四月五日内藏頭

從四位上同藤朝　九月十七日任元前春宮亮故親朝卿子

左少辨　正五位下同冬定　二月七日從四位下超雅任

右少辨　位冬定上　正五位下同雅任　春宮大進二月七日止大進

延慶二年己酉

左大辨　從四位上藤經世　造東大寺長官正月六日叙正四位下二月十九日遷刑部卿

從四位上同隆長　二月十九日轉元右春宮亮藏人頭同日叙正四位下超雅康同日造東大寺長官六月八日服解(父)八月十日正四上超國房九月廿六日止[illegible][illegible]復任

右大辨　從三位　藤公賢
九月廿六日任左中將如元十月十五日任參議春宮亮藏人頭
從四位上同隆長
從四位上源雅康
二月十九日轉元中左宮城使三月廿三日右京大夫四月十四日正四位下七月廿五日造東大寺長官九月廿六日止大夫同日正四位上左宮城使
左中辨　從四位上同雅康
正四位下藤國房
二月十八日轉元右裝束使右宮城使正月六日正四位下
右中辨　從四位上同國房
從四位上同藤朝
二月十九日轉元權三月廿九日右宮城使十月十三〔一〕日正四位下
權右中辨從四位上同藤朝
從四位上同冬定
左少辨　從四位　同冬定
二月十九日轉元左少氏院別當正月二〔六〕日從四位上
正五位下同雅任
右少辨　正五位下同雅任
正五位下同光經
二月十九日任藏人春宮大進今日止左衛門權佐三月廿三日止藏人三〔十一〕月十九日止大進故定光子

延慶三年庚戌
左大辨　從三位　藤公賢廿
參議左中將正月五日敍正三位〔院御給〕三月九日任權中納言三月九日轉元右造東大寺長官同日從三位十二〔一〕月十一日止辨
正四位上源雅康

正四位上藤冬定
十二月十一日轉元右造東大寺長官如元
造東大寺長官轉左
右大辨　正四位上源雅康
三月九〔五〕日轉元右中右宮城使四月十三日止右宮城使四月廿八日造東大寺八月二日正四位上九月四日遷藏人頭去辨遷治部卿
補藏人頭去辨例
正四位下藤藤朝
正四位下藤冬定
九月四日轉元左中右宮城使同月十三日造東大寺長官十二〔ナシイ〕月二日正四位上十二
從四位上同雅任
左中辨　正四位下同國房
十一月轉左
十二月十一日轉元左中左宮城使
正四位下同冬定
左宮城使三月九日遷宮內卿補藏人頭去辨
三月九日轉元權右中氏院別當
從四位下同雅任
四月七日爲裝束使幷率分所勾當同十五日左宮城使九四轉右
大
從四位下同光藤
九月四日轉元右宮城使同月十三日從四位上同日左宮城使十廿五使率分所勾當、轉右大
權左中辨正五位下同公敏
十二月十一日轉元右元少納言九四任彈正少弼侍從
九月四日任彈正少弼侍從元少納言大納言實泰卿二男九月十三日右宮城使十月二日從四位下今日止卿同月侍從如元十二月十一日遷藏人頭
右中辨　正四位下同藤朝
右宮城使
轉右大
從四位下同雅任
三月九日轉元右少四月十五日右宮城使
九月四日轉元權右中
正五位下同光藤
十月二日從四位下
十二月十一日轉元
正五位下同光經
左少同日從四位下

權右中辨從四位上同冬定
中辨直任例

正五位下同光藤 正月五日叙正四位下三四轉右中 三月九日任元中宮權大進前藏人轉正

正五位下藤長隆 前權中納言故爲世卿子、 從四位下イ 十二月十一日轉元右少同日從四位下

左少辨 四位少辨例 正五位下同雅任 正月五日叙從四位下轉右中

正五位下同光經 三月九日轉元右

三事〔諸本注光經上一〕

正五位下平親時 前權中納言經親卿男、母 十二月十一日任藏人左衛門權佐如元防鴨河使超藏人藤賴定

右少辨 正五位下藤光經 春宮大進轉左

正五位下同長隆 前權中納言賴藤卿男、母按察二位、 三月九日轉任藏人右部大輔如元四七去辨八二去藏人轉右中

三事 儒 正五位下藤資名 前權中納言俊光卿二男、母從二位公寬卿女、 十二月十一日任藏人左〔右イ〕衛門權佐文章博士如元超賴定 十二月廿七日辭佐

延慶四年辛亥 四月廿八日改爲應長元、

左大辨 直任大辨例 儒 正四位下藤冬定 造東大寺長官正十九服解父二三止長官六廿復任閏九九止辨

正三位 菅在兼 故參議菅在嗣卿男、母 閏六九任勘解由長官十二廿一止辨

正四位下藤冬定 十二廿一還任

右大辨 越兩貫首加級例 從四位上同雅任

左中辨 從四位下同光藤

右中辨 從四位下同光經

權右中辨 從四位下同長隆

左少辨 四位少辨例 三事 正五位下平親時

右少辨 三事 儒 正五位下藤資名

左宮城使二三兼造東大寺長官 去使正五正四下八七正四上超 藏人源貲榮藤信言 正卅爲氏院別當二三爲左宮城 使同日補率分所勾當閏六廿九 從四位上 二三爲右宮城使 十二九御祈願所 十廿七 復任母 藏人左衛門權佐防鴨河使正十 七止藏人左衛門權佐等同日從四位下 藏左衛門權左文章博士正十七 止藏人佐同卅日兼越前權介二 三正五上越五位藏人三八藤賴 定同顯親平仲定等五十三五去博 士

應長二年壬子 三月廿日改爲正和元、

左大辨 補藏人頭去辨例 正四位下藤冬定

正四位上同雅任

右大辨 正四位上同雅任

從四位上同光藤

左中辨 從四位上同光藤

從四位上同光經

右中辨 從四位下同光經

十十二補藏人頭 去辨還右兵衛督 十二轉造東 大寺長官 造東大寺 長官轉左 十十二轉左宮城使氏院別當十 一十八正四位下十二廿九止宮 城使 左宮城使氏院別 當裝東使轉右大 十十二轉右宮城使十二廿九正 四位下轉左宮城使同卅日爲裝 東使率分所勾當 右宮城使正三〔五〕 從四位上轉左

從四位上同長隆　十十二轉十一廿五御祈願所十二九爲右宮城使同廿四日正四下

權右中辨從四位下同長隆　正上三(七)從四位上轉正

從四位上平親時　十十二轉

從四位下同親時　二十三從四上

左少辨（四位少辨例）正五位上藤資名　十二轉同日從四下越中權介

儒右少辨　正五位上同資名　越中權介轉左

正五位下同賴定　十十二任元藏人兵部權大輔

故權中納言經賴卿二男、母

正和二年 癸丑

左大辨　正四位上藤雅任　造東大寺長官九廿從三位辨如元

右大辨（越上首補藏人歌例　補頭去辨例）正四位下同光藤　八月七日補藏人頭越雅任去辨氏院別當

正四位下同光經　八月七日轉左宮城使九廿止使

左中辨　正四位下同光經　左宮城使轉右大

〔越上首補藏人頭例〕正四位下同長隆　八月七日轉右宮城使同廿七日裝束使率分所勾當九六補藏人頭越光經同廿日左宮城使

右中辨　正四位下同長隆　右宮城使轉左

正四位下平親時　八七轉九廿右宮城使

權右中辨從四位上同親時　正十六正四下轉正

從四位下藤資名　八七轉越中權守同九日爲氏院別當九(五ヶツ)六從四上

儒左少辨（四位辨例）從四位下同資名　越中權介轉權右中

正五位下同賴定　八七轉十一七從四下

右少辨　正五位下同賴定　轉左

正五位下同顯親　八七任藏人民部大輔藏人如元九六去藏人

故前參議顯家卿一男、

正和三年 甲寅

左大辨（任參議日去大辨例）從三位　藤雅任　造東大寺長官十一十九任參議去辨

正四位上同光經　十一十九轉藏人頭十二二爲造東大寺長官閏三廿三(五)正四上九廿

右大辨　正四位下同光經　一補藏人頭十一十九轉十一・十九轉

（越左右大辨任參議例）正四位下平親時　頭左宮城使九十(廿)一任參木(越左右大辨)九廿一轉同廿九日爲裝束使并率分所勾當同、爲左宮城使轉

左中辨　正四位下藤長隆

正四位下平親時

正四位下藤資名　右大十一十九轉左中越中權介十二二爲左宮城使同十二日裝束使并率分所勾當右宮城使轉左

右中辨　正四位下平親時

正四位下藤資名　九廿一轉越中權介十廿一爲右宮城使

從四位上同賴定　十一十九轉十二二爲右宮城使

儒
權右中辨從四位上同資名　越中權介正四位下朝覲行幸院司賞轉正
從四位上同賴定　九廿一轉氏院別當轉正
正五位下同顯親　十一十九轉

四位少辨例
左少辨　從四位下同賴定　氏院別當正五日從四位上
正五位下同顯親　九廿一轉十一十九轉權右中
正五位下同仲定　十一十九轉

右少辨　正五位下同顯親　轉左
正五位下平仲定　九廿一任元藏人少納言
入道參議仲親卿一男、
正五位下藤成隆　十一十九任元藏人民部少輔
前權中納言賴藤卿二男、母同長隆、

正和四年乙卯

任參木日去大辨例
同例
左大辨　正四位上藤光經　頭造東大寺長官二廿一任參木去辨
正四位上平親時　二廿一轉同日補藏人頭三廿二爲造東大寺長官四十任參木去大辨
正四位上藤資名　四十轉藏人頭同十七日爲東大寺長官八廿六兼參木

右大辨　正四位下平親時　正六正四位上轉左
正四位下藤資名　二廿一轉同日補藏人頭三廿二正四位上、轉左

補藏人頭去辨例
正四位下同賴定　四十轉氏院別當六十三正四位上八廿六補藏人頭去辨
正四位上平親時　八月廿六日更任元藏人大辨參木

左中辨　正四位下藤資名　左宮城使越中權介（秩滿）轉右大
正四位下同賴定　二廿一轉氏院別當三廿二左宮城使同廿八日御祈願所并裝束使轉右大
依官次越上首加階例但後日俊實被下同日位記
從四位下同顯親　四十轉同十七左宮城七十三爲裝束使并率分所勾當同廿一（五）日從四上越俊實九八氏院別當

右中辨　從四位上同賴定　右宮城使氏院別當正六正四下轉左
從四位下同顯親　二廿一轉三廿二爲右宮城使
從四位下平仲定　四十轉同十七日爲右宮城使九卅從四上

權右中辨　正五位下藤顯親　正六從四下轉正
正五位下平仲定　二廿一轉三十三從四下轉正
直任中辨例
位顯親上
從四位下藤俊實廿　四十任元民部大輔七廿一從四上後日賜今日位記
兵部卿定資卿二男、

四位少辨例
左少辨　正五位下平仲定　轉權右中
正五位下藤成隆　二廿一轉十廿八從四下

右少辨　正五位下同成隆　轉左
儒
正五位下同光業　二廿一任藏人左衛門權佐
故前中納言兼仲卿二男、母下野守源親時女、

正和五年丙辰

儒 左大弁　正四位下藤資名　參木造東大寺長官五廿八従三位

位資名上 右大弁　正四位下平親時　參木正五叙従三位同十三日兼備中權守

越位次上首補頭 左中弁　従四位上藤顕親　左宮城使率分所勾當正十一補藏人頭越俊實五廿八正四下七、止弁

正四位下平仲定　七廿二轉同日正四下八五服解閏十十九還任（元藤左中弁宮內卿）藏人頭

正四位下藤顕親　右宮城使轉左

右中弁　従四位上平仲定　七十二轉同日正四下十六補裝束司率分所勾當

正四位下藤俊實

位顕親上 權右中弁　従四位上同俊實　轉正

従四位上同成隆　七廿二轉十一廿五正四下

左少弁　従四位下同成隆　正五従四上轉權右中

四位弁例 正五位下同光業　七廿二轉八十二従四下

儒 右少弁　正五位下同光業　正五正五上轉左

正五位下同光繼　七廿二任元藏人兵部大輔

參議光泰卿男、母

正和六年丁巳　二月二日改爲文保元、

儒 左大弁　従三位　藤資名廿一　參議造東大寺長官三廿七兼越中權守四六遷左兵衛督補檢非違使別當去弁

直任大弁 従三位　同師賢廿七　四六任左中將如元廿二爲東大寺長官十二廿二兼參木

大納言師信卿男、母

右大弁　従三位　平親時　參木備中權守二五任權中納言

正四位下藤顕親　二五轉同日従三位六一辭

左中弁　正四位下同俊實廿二　六轉紀伊權守同廿一日正四上十二廿一補藏人頭

正四位下同顕親　藏人頭二廿一轉右大

正四位下同俊實　二五轉三廿七兼紀伊權守（裝東司兼園）四六爲左宮城使六一轉右大

正四位下同成隆　六一轉同廿一日正四上（造內裏行事賞）十二十六爲裝束司幷率分所勾當

右中弁　正四位下同俊實　轉左

正四位下同成隆　二五轉四六爲右宮城使轉左

従四位上同光業廿二　六一轉

權右中弁　正四位下同成隆　轉正

従四位下同光業　二五轉四六従四上轉正

従四位下同光繼　十二廿二轉同日従四下

儒 左少弁　従四位下同光業　轉權右中二五轉、

正五位下同光繼　轉權右中

正五位下同資朝　十二廿二轉

權左少辨正五位下平顯棟　六一任元前左衛門權佐十二廿二辭
故從三位棟望卿男、母

右少辨　正五位下藤光繼　轉左
兄弟幷辨官例
正五位下同資朝 廿八　儒　二五任元藏人左衛門佐十二廿二轉左
前權中納言俊光卿三男、母同資名卿、
正五位下同顯敎　十二廿二任元藏人兵部少輔
從三位賴房卿男、母

文保二年戊午

左大辨　從三位　藤師賢 廿八　參木左中將造東大寺長官正廿二兼土左權守七七任權中納言
從三位　同俊實 廿二　七七轉參木八二爲造東大寺長官

右大辨　正四位下同俊實　藏人頭紀伊權守二十一兼參木五十一從三位轉左
正四位上同隆長 四十　七七任元前左大辨藏人頭八廿四兼參木十廿二造東大寺長官

左中辨　正四位上同成隆　四十四爲左宮城使八十〔廿〕四紀六所勾當九廿一御祈願所

儒 右中辨　從四位上同光業 卅三　四十四右宮城使七七正四下九廿四放氏仍十、七去辨
直任中辨例
正四位下同經宣 卅九　十六任元春宮亮十一九兼近江權介同廿一日兼近江守
兄弟幷辨例
前權中納言經〻卿一男、母左馬頭隆敎女、

權右中辨從四位下藤光繼　十六從四上八廿四記六所寄人十一三去辨
從四位上同資朝 廿九　十一三任元前左少辨文章博士如元

四位少辨例
左少辨　正五位下同資朝　儒　正廿二從四下五廿八兼文章博士八廿四爲記六所寄人十六從四上同日去辨
正五位下同冬方　十六轉

右少辨　正五位下同顯敎　三廿九去辨
正五位下同冬方　三廿九任前坊大進八廿四記六所寄人轉左
前大納言經長卿三男、母
正五位下同藤房　十六任元藏人木工頭如元同日爲氏院別當
前參議宣房卿一男

後醍醐院
文保三（元應元）　元應二　同三（元亨元）　元亨二　同三　同四（正中元）　正中二　同三（嘉曆元）　嘉曆二　同三　同四（元德元）　元德二　同三（元弘元）
光嚴院
元弘二（正慶元）　正慶二
後醍醐院（重祚）
元弘四（建武元）　建武二　同三（延元元）　延元二（爲建武四）
光明院
建武五（曆應元）　曆應二　同三　同四　同五（康永元）　康永二　同三　同四（貞和元）　貞和二　同三　同四
崇光院
貞和五　同六（觀應元）　觀應二
後光嚴院
觀應三（文和元）　文和二　同三　同四　同五（延文元）　延文二　同三　同四　同五　同六（康安元）　康安二（貞治元）　貞治二　同三　同四　同五　同六　同七（應安元）　應安二　同三　同四
後圓融院
應安五　同六　同七　同八（永和元）　永和二　同三　同四　同五（康曆元）　康曆二　同三（永德元）　永德二
後小松院
永德三　同四（至德元）　至德二　同三　同四（嘉慶元）　嘉慶二　同三（康應元）　康應二（明德元）　明德二　同三　同四　同五（應永元）　應永二　同三　同四　同五　同六　同七　同八　同九　同十　同十一　同十二　同十三　同十四　同十五　同十六　同十七　同十八　同十九

後醍醐院
文保三年（己未）　四月廿八日改爲元應元、
左大辨　從三位　藤俊實　（參木造東大寺長官紀伊權守）
右大辨　正四位　同隆長　（參木三九遷右兵衛督爲檢非違使別當）
　（三九轄近江守春宮亮近江守如元同日正四上（大嘗會國司賞））
　　正四位下同經宣　（四廿一正爲造東大寺長官四月爲記錄所寄人五十五補藏人頭）
左中辨（補藏人頭去辨例）　正四位上同成隆　（閏七五廿亮　左宮城使御祈願所二九補藏人頭遷宮內卿去辨）
　儒　正四位下同光業　（三九任元前左中辨四四爲裝束司幷率分勾當同廿一日爲左宮城使記六所勾當）
右中辨　正四位下同經宣　（春宮亮近江守轉右大）

從四位上同資朝　三九轉文章博士、四廿一爲右宮城使、八五兼春宮亮

儒權右中辨從四位上同資朝　文章博士轉正

正五位上同冬方　三九轉閏七五從四下正五正五上

左少辨　正五位下同冬方　轉權右中

正五位下同藤房　三九轉四七記錄所爲寄人八七兼中宮大進閏七五正五上八十六從四下（中宮入內賞）

右少辨　正五位下同藤房　轉左

正五位下平成輔　三九任元藏人兵部少輔同十七日兼皇太后宮大進

前權中納言惟輔卿男、母

元應二年庚申

左大辨　直任大辨例　從三位　藤俊實　參木紀伊權守三廿四去兩職以舍弟經顯被任右少辨

從三位　同公明 四十　三廿四任參議修理大夫土佐權守等如元四十二爲東大寺長官

從二位實仲卿一男、母故中納言經俊卿女、

右大辨　正四位上藤經宣 四十二　藏人頭造東大寺長官近江守三廿四任參木同日遷右兵督補使別當

從四位下同冬方　三廿四轉同日從四上八一正四下

左中辨　補藏人例　去辨例　正四位下同光業 儒 卅四　左宮城使亮兼近江權介同廿四日補藏人頭還修理權大夫去辨

從四位下同藤房　三廿四轉同日兼中宮亮四十二右（左）宮城使五廿一率分所勾當弁裝束七十四從四上右宮城使文章博士春宮亮三廿四補藏人頭去辨博士

右中辨　從四位下同資朝

正五位下平成輔　三廿四轉四十二從四下右宮城使轉右大

權右中辨從四位下藤冬方

從四位下平行高　九五轉中宮大進

左少辨　從四位下藤藤房　中宮大進轉左中

位成輔上　正五位下平行高　三廿四任元藏人兵部權少輔同日兼中宮大進四十二從四下轉權右中

入道右少辨仲高男、

正五位下藤資明　九五轉藏人中宮權大進如元　同廿三日轉大進十二九去藏人

權左少辨正五位下同資明 卅四　三廿四任藏人左衛門權佐中宮權大進攝津權守等如元（但去權佐歟）轉正

前權大納言俊光卿四男、母

右少辨　正五位下平成輔　轉右中

正五位下藤經顯 廿三　三廿四任元前藏人前左衛門權佐五〔十一〕廿三去辨

權中納言定資卿二男、母

正五位下藤資房 十七　五廿三任元左衛門權佐

權大納言定房卿男、實祖父經長卿四男、

元應三年辛酉　二月三日改爲元亨元、

左大辨　從三位　藤公明　參木修理大夫造東大寺長官三十一正三位

補藏人頭去辨例

右大辨　正四位上同冬方　四六補藏人頭去辨修理權大夫

左中辨　正四位下同藤房
四六轉中宮亮阿
波介六六正四上

從四位上同藤房
左宮城使正十三兼阿波介裝束
司兼三十一正四下轉右大

右中辨　從四位上平成輔
四六轉六六左宮城使同
日爲裝束司率分所勾當

從四位下同成輔
右宮城正五
從四上轉左

權右中辨　從四位上同行高（位成輔上）
四六轉六六右宮城
使同日率分所勾當

從四位下同行高
正五從四
上轉正

從四位下藤資明
六六轉大進權守氏院
別當九十七從四上

左少辨（四位少辨例）　正五位下同資明
中宮大進攝津權守氏院別當正
五從四下同六日左衛門權佐如
元之由被仰下

正五位下同資房
六六轉七廿
六正正五上

右少辨　正五位下同資房
轉
左
六六
轉

正五位下同經躬
四六任元藏人中
宮權大進轉正

權右少辨　正五位下同經躬
故前中納言經守卿一男、母

元亨二年 壬戌

左大辨　正三位　藤公明
參木修理大夫土佐權守四五兼
勘解由長官十一九記六所寄人
中宮亮阿波介正廿六兼相
模權守正九爲記六所寄人
左宮城使裝束司率分所
勾當正九爲記六所寄人

右大辨　正四位上同藤房

左中辨　從四位上平成輔

右中辨　從四位上同行高
右宮城使正九記六所寄
人同廿六日兼備中介

權右中辨　從四位上藤資明
中宮大進攝津權守左衛門佐
氏院別當正九記六所寄人

左少辨（四位少辨例）　正五位上同資房（十九）
正五從下同九日
爲記六所寄人

右少辨　正五位下同經躬
春宮權大進正五正五上
同九日爲記六所寄人

元亨三年 癸亥

左大辨　正三位　藤公明
參木造東大寺長官勘解由
長官修理大夫土佐權守

右大辨（補藏人頭去辨例）　正四位上同藤房
相模權守正十三
補藏人頭去辨

正四位上同冬方
正十三還任同日兼參木元藏人
頭大藏卿二三爲記六所寄人

左中辨　從四位上平成輔
左宮城使
備中介

右中辨　從四位上同行高
右宮
城使
八七
辭辨
十一十
三轉

權右中辨　從四位上藤資明

從四位下同資房
正十三兼因幡
守轉權右中

左少辨　從四位下同資房
十二十
三轉

正五位下同經躬
八七兼中宮
大進轉左

右少辨　正五位下同經躬
三三轉藏人

正五位下同季房
能登權守

權右少辨　正五位下同季房
權中納言宣房卿二男、母
八七任元藏人少納言勘解由次
官能登權守藏人如元同廿九日
爲記六所寄人轉正

元亨四年甲子　十二月十日改爲正中元、

左大辨　正三位　藤公明

大辨直任例　從二位　同實任　故前右中將公種朝臣男、母

正四位上藤藤房

右大辨　正四位上同冬方

兄弟辨官相並例　正四位上同藤房

參木修理大夫造東大寺長官勘解由長官四廿七任權中納言

四廿七任參木刑部卿彈正大弼當後權守十廿九任權中納言

十廿九轉參木相模權守

參木正十三兼美乃權守四廿七〔諸本無〕遷左衞門督補使別當

去大辨

四廿七還任元前右大辨藏人頭中宮亮相模權守同日兼參木(去辨如元)五四記六所寄人同廿六爲造東大寺長官轉左

十廿九轉

正四位下平行高

左中辨　補藏人頭去辨例　從四位上同成輔

正四位下同行高

從四位上藤資房

右中辨　從四位上平行高

從四位上藤資房

直任中辨例　位行高上　正四位下同清忠

入道左中將俊輔朝臣男、

權右中辨從四位下藤資房廿一

左少辨　正五位下同經躬卅六

左宮城使四十七正四下(兩社行幸行事賞)同廿七日去辨補藏人頭遷中宮亮

四廿七轉五廿六爲左宮城使十、轉右大

十廿九轉

右宮城使

二十八復任(父)四十七正四下轉左

四廿七轉五廿六爲右宮城使九七爲後院別當同十二日爲率分所勾當轉左

十廿九任元右京大夫前左中將大夫如元十一十七爲記六所寄人

正五從四上轉正

九十三兼中宮大進十二廿四止大進

右少辨　正五位下同季房

權右少辨正五位下平忠望　故右少辨忠顯男、母

位季房上　儒　本名親信　正五位下藤有正四十八　故大內記親顯男、母從二位茂範卿女、

藏人四廿七兼中宮大進五一爲記六所寄人十二四爲後院別當

四廿七任藏人左衞門佐去之

九廿三還補藏人十一一出家

十廿九文章博士如元十一十七爲記六所寄人

正中二年乙丑

左大辨　正四位上藤藤房　參木相模權守

右大辨　正四位下平行高　四九辭職爲近衞大納言使下向關東故也

從四位上藤資房廿二　十二十八轉

左中辨　從四位上同資房　右宮城使正廿九爲左宮城使八廿裝束司轉右大

正四位下同清忠　十二十八轉

右中辨　正四位下同清忠　右京大夫正廿九爲右宮城使八一止大夫十二十八轉左中十九爲記六所勾當

從四位上同光繼　十二十八任元前權右中

權右中辨正五位下同經躬　正廿九轉、正五上

左少辨　正五位下同經躬　正廿九轉權右中

正五位下同季房　正廿九轉藏人能登權守二卅記六所勾當

右少辨　正五位下同季房　正廿九轉左藏人

儒　正五位下同有正　正廿九轉文章博士十廿四卒四十九才

儒　正五位下同正經　十廿六任元藏人東宮學士如元

故前參議經雄卿二男、

權右少辨正五位下藤有正　文章博士轉正

正中三年丙寅　四月廿六日改爲嘉曆元、

左大辨　正四位上藤藤房　參木造東大寺長官相模權守正五從三位二十九權中納言

正四位下同資房 廿三　二十九轉同日補藏人頭兼中宮亮三八造東大寺長官

右大辨　從四位上同資房　正五正四下轉左大左宮城使

正四位下同清忠　二十九轉

左中辨　正四位下同清忠　氏院別當右宮城使二十九轉右大

直任中辨例

正四位下同實治 廿五　二十九任元少納言內藏頭讚岐守(頭守如元)三八左宮城使七四爲記六所勾當同七日裝束司

入道前民部卿實仲卿二男、公明卿爲子、

權左中辨正四位下藤光繼　六廿二轉右宮城使

右中辨　從四位上同光繼　正五正四下追被仰三八右宮城使同日記六所寄人

正五位下同季房　六廿三轉藏人中宮大進能登權守

權右中辨正五位　同經躬 卅八　正五從四下六十八卒

左少辨　正五位下同季房　藏人能登權守二十六兼中宮大進二卅爲記六所勾當轉右中

正五位下同光顯　六廿三轉大膳大夫

儒　右少辨　正五位下同正經　東宮學士三八爲記六所寄人四廿二〔三〕從四下同日去辨任左京權大夫

正五位下同光顯　四廿二任藏人右衛門權左大膳大夫如元五七爲記六所寄人轉左

三事　正五位下同長光 十八　六廿三任藏人左衛門權佐中宮權大進等如元八三記六所寄人十二廿一止權佐兼加賀權守

前權中納言長隆卿男、母

嘉曆二年丁卯

任參木去大辨例

左大辨　正四位下藤資房 廿四　藏人頭中宮亮造東大寺長官七十六任參木去辨七十六還任前左大辨參議大藏卿備後權守八一兼造東大寺長官十一十兼侍從同八日記六所寄人氏院別當去別當更爲氏院別當〔以上十三字一本註清忠條下〕

三ヶ度任去左大辨例

正三位　同冬定　正五正四上七十六從三位上〔閏〕九〔六〕同造東大寺長官

右大辨　正四位下同清忠

左中辨　正四位下同實治 廿六　左宮城使內藏頭讚岐守六十一爲率分所勾當七十六補藏人頭十一辭辨

從四位下同季房　十一十轉同日兼中宮亮十二十一裝束司同十六日爲左宮城使幷御祈願所

權左中辨正四位下同光繼　右宮城使三廿四兼左京大夫九四廿爲後院別當十一十去辨

右中辨　正五位下同季房　藏人中宮大進正五正五上三廿四兼備前守五廿三從四下七十六兼中宮亮八一止守轉左

中辨直任例
正四位下平範高
十一十任元前春宮亮
十二十六爲右宮城使
故前中納言仲兼卿二男、母

同例
權右中辨正五位下藤實世廿
十一十任藏人
彈正少弼如元
大納言公賢卿一男、

左少辨　正五位下藤光顯
大膳大夫、爲氏院別
當、去之閏二止大夫

右少辨　正五位下同長光十九
藏人中宮權大進七十六轉
大進同廿三藏人加賀權守

嘉暦三年戊辰

左大辨　正三位　藤冬定
參木造東大寺長官大藏卿備後
權守侍從三十六任權中納言

直任大辨例
正三位　平惟繼
三十六任參木刑部卿勘長官太
宰大貳等如元四三爲造東大寺
長官
故從二位高兼卿二男、

右大辨　從三位　藤清忠
造東大寺長官氏院別當三十
六兼參木九廿三兼右京大夫

左中辨　從四位下同季房
左宮城使中宮亮正五從
四上九廿三補藏人頭

右中辨　正四位下平範高
右京
城使

可列左右少辨上之由正月一日被仰之
年中三ヶ度加級例
權右中辨正五位下藤實世廿一
藏人彈正少弼正五正五上六六
從四下九廿三從四上十一廿七
任參木
十一廿
七轉

四位少辨例
從四位下同光顯
位實世上

左少辨　正五位下同光顯
七廿兼大膳大夫九廿
三從四下轉權右中

右少辨
正五位上同長光廿
十一廿
七轉
正五位下同長光
中宮權大進九廿三正五上
加賀權守三十六去守轉左
正五位下同經季
十一廿七任元
藏人兵部少輔
故權大納言經繼卿二男、

嘉暦四年己巳　八月廿九日改爲元德元、

左大辨　正三位　平惟繼
參木刑部卿勘長官太宰大貳
造東大寺長官正五從二位

右大辨　從三位　藤清忠
參木右京大夫造興福寺長官正
十三兼因幡〔周防〕權守二十二
去參木幷辨

左中辨
正四位下同實世
二十二任前權右中辨參木九
廿六正四上十一九從三位
左宮城使裝東司藏人頭中宮亮
從四位上同季房
正五正四下同十三日兼阿波權
介八四去辨
從四位上同光顯
八四轉右京大夫九廿六
左宮城使十一九正四下

補藏人頭去辨例
權左中辨正四位下平範高
正十一轉右宮城使二十三補
藏人頭遷左京權大夫去辨

右中辨　正四位下同範高
右宮城使
轉權左中
從四位下藤光顯
正十三轉大膳大夫二十二右宮
城使同日從四上五廿六兼右京
大夫去大膳轉左

直任中辨例
正四位下平宗經
故入道大納言經親卿二男、母
八四任元前左馬頭
九廿六右宮城使

權右中辨從四位下藤光顯
大膳大
夫轉正
正五位上同長光
六廿八轉中宮大
進九廿六從四下

左少辨　正五位上　同長光　中宮權大進　轉權右中

　　　　正五位下　同經季　六廿八轉氏院別當造興福寺長官今日去藏人九廿六正五上

權左少辨正五位下　同經季　二十二轉藏人四一爲造興福寺長官正

右少辨　正五位下　同經季　轉權右

　　　　正五位下　同冬長　二十二任藏人如元勘解由次官去之四廿八去藏人

入道前權中納言冬方一男、母

元德二年庚午

左大辨　從二位　平惟繼　參木造東大寺長官刑部卿勘解由長官太宰大貳正十三止造長官二廿六任權中納言

　　　　從三位　藤實世　三一轉造東大寺長官同廿二日任權中納言

儒　　　從三位　同資明　三廿二轉同日爲東大寺長官十二廿一參木去辨

大辨直任例　從三位　菅在登　十廿五任勘解由長官筑前權守如元十二十四去辨

故從二位在輔卿男、母

右大辨　正三位　藤實治廿九　十二十四任前左中辨參木修理大夫信乃權守

　　　　從三位　同實世　參木正十三兼美作權守爲東大寺長官三一轉左

　　　　從三位　同資明　三一任元前權右中辨同廿二日轉左

　　　　正四位下　同季房　三廿二任元前左中辨藏人頭中宮亮四七兼參木十一廿一爲造東大寺長官

左中辨　正四位下　同光顯　左宮城使右京大夫三廿六止大夫四六補藏人頭十五任左兵衛督去辨

　　　　正四位下　源顯家十五　轉

中辨直任例　十五未滿任辨官例

權左中辨正四位下　同顯家十三　四六任元中宮亮左近權少將轉正

入道大納言親房卿一男、母

補藏人頭去辨例

右中辨　正四位下　平宗經　右宮城使四六補藏人頭遷宮內卿去辨

　　　　從四位上　藤長光廿二　四六轉同日爲右宮城使

權右中辨從四位下　同長光　正五從四上轉正

　　　　從四位下　同經季　十五轉十六一去辨

　　　　從四位下　同冬長　十一十六轉今日從四下也

左少辨　正五位上　同經季　三廿七從四下延曆寺講堂供養行事賞十五轉權右中

　　　　正五位上　同冬長　十一十六轉權右中

　　　　正五位下　同俊基　十一十六轉

右少辨　正五位下　同冬長　藏人、正五上轉左

　　　　正五位下　同俊基　十五任元前藏人少納言轉左

故正二位種範卿男、母　三イ

位俊基上

　　　　正五位下　同宗兼廿三　十一十六任藏人右近少將藏人如元

前權中納言冬定卿男、母

元德三年辛未　八月十日改爲元弘元、九月廿日新帝踐祚、

左大辨　正三位　藤實治卅　參木尾張權守十廿八辭兩職

正四位下同長光 廿三 十廿八轉藏人頭十二廿正四上

右大辨

正四位下同季房 參木中宮亮十五辭兩職

正四位下同長光 廿三 十五任元前右中辨藏人頭右兵衛督去督轉左

從四位下同宗兼 廿四 十廿八轉十一八兼春宮亮同廿日爲造東大寺長官

左中辨

正四位下源顯家 十四 正五正四上（中宮當年御給）同十二日任參木去辨

從四位下藤冬長 正十三轉同日補藏人頭九廿去職

從四位下同宗兼 十五轉廿五日爲裝束司

正四位下同賴敎 十廿八轉十一十七爲裝束司

右中辨

從四位上同長光 右宮城使正五正四下同十三日補藏人頭（去辨）

正五位上同俊基 正十三轉三十八從四下七去辨

從四位下同宗兼 七十一轉左

正四位下同賴敎 十五任元前右少辨左京大夫去也轉左

從四位上同經季 卅三 十廿八任元前權右中辨

權右中辨從四位下同冬長 轉左中

儒 左少辨

正五位下同俊基 正五正五上轉右中

正五位上同宗兼 正十三轉藏人三十八從四下轉右中

正五位下同宣明 卅 七十一任元元藏人勘解由次官

前參議經宣卿男、母

權左少辨正五位下藤爲治 七（正）十三任元藏人宮內大輔

前權中納言爲行卿男、母

右少辨 三事

儒 正五位下藤宗兼 藏人正五正五上轉左

正五位下同房光 正十二（三ナツ）任藏人右衛門權佐如元三十八去藏人權佐

前權中納言資名卿一男、母

光嚴院

元弘二年 壬申 四月廿八日改元爲正慶、

左大辨

正四位上藤長光 頭十月廿一日任三木去辨兼左兵衛督

正三位平行高 十月廿一日任

右大辨

從四位下藤宗兼 十月廿日補頭去辨

從三位菅公時 十二月廿一日任

左中辨

正四位下藤賴敎 三月十二日左宮城使十月廿一日補藏人頭遷刑部卿止辨

右中辨

從四位上同經季 三月十二日敘從四位下去辨

左少辨

正五位下同宣明

同 同爲治 三月十二日轉十月十五日敘從四位下

同 同定親 十月廿一日轉廿五日敘從四位下

權左少辨

同 同爲治 三月十一日轉左少

同 同房光

同 同光守 七五任

同 同定親 十十二轉

右少辨　同　同房光　三十二轉權左（少歟）

同　同定親　三十二任十十二轉權左少

權中納言賴定卿男、母

、、叙爵元應二十二廿一和泉守、同三正五從五上、元亨三九廿八右兵衛權佐今日去守、正中二十廿六去權佐、十二卅中宮權大進、嘉曆元十一廿二兼右衛門佐、十二十一正五下、元德元十十勘次官二三一去佐、元弘元三十八藏人去次官、八七左衛門佐、十廿八去佐、十一五兼勘次官、

同　同國俊　十十五任去藏人兵部少輔十一十二正五上

故前參議國房卿男、母

正慶二年癸酉　六月五日先帝復位、爲元弘之事、

左大辨　正三位　平行高　五十七詔復從三位

同　藤實治　參木五十七爲左大辨

右大辨　從三位　菅公時　六月、還本位正四位下、前宮內卿

位實治上　正三位　藤淸忠　前參議木六十二現任兼右大辨九廿三造興福寺長官

左中辨　從四位上同經季　六十二轉九十任宮內卿同日補頭

同　同宗兼　九十位同日左宮城使

右中辨　同　同經季　六十二轉左

同　同房光　六十二轉歟八二被誅

同　正五位上同宣明　九十轉十六日左宮城使十二七中宮大進

左少辨　從四位下同定親　六六還本位本官右左衛門佐正五位下

正五位下同宣明　六六正四品位記如元爲藏人佐少辨同十二日正五上九十轉右中

權左少辨同　同房光　六、轉右中、

同　同爲治　六、返權辨十二日史四品七五止辨

右少辨　正五位上同國俊　六六還本位本官兵部少輔正五下

正五位下同藤長　七五位于時左衛門佐十一日皇大后宮權大進九十六防鴨河使十十二止權大進十一八藏人十九日去權佐

入道前權中納言隆長卿男、母

後醍醐院重祚、

元弘四年甲戌　正月廿九日改元爲建武、

左大辨　正三位　藤實治　參造東大寺長官十二十七兼中務大輔參造興福寺長官正十三兼信乃權守九四兼大藏卿廿八日叙從二位十六十七止卿

右大辨　同　同淸忠　二廿三補頭

左中辨　從四位上同宗兼　遷左中轉

從四位下同宣明　二廿三轉頭九廿八從四上

右中辨　正五位上同宣明　正七從四下廿三日春宮亮

正四位下同頼敎　二廿三任三十五止辨
權右中辨從四位上同實夏　三十五任
右大臣公次男、母

左少辨
右少辨　正五位下藤藤長　藏正廿三春宮大進五月日去藏人

建武二年乙亥

左大辨　正三位　藤實治　參正十三兼備前權守
右大辨　從二位　同清忠　參
左中辨　從四位上同宣明　十一十九正四下
權左中辨正四位下同實夏　五廿三轉同日右宮城使
右中辨
權右中辨從四位上藤實夏　二十四正四下三十六爲記錄所寄人五廿三轉權左中
左少辨　正五位上同藤長　五廿三轉同日造補藏人
右少辨　正五位下同藤長　正五正五上十三日中判事

建武三年丙子　三月二日改元爲延元、八月十五日親王踐祚、自去六月復建武、

左大辨　正三位　藤實治四十五　正廿五兼大判事
右大辨　從二位　同清忠
左中辨　正四位下同宣明　三二補頭五廿七止頭
權左中辨同　同實夏　十六辭
右中辨　從四位下同爲治　八十五任
權右中辨同　同定親　十六任
左少辨　正五位上同藤長　三月日去藏人十一十二從四下去中判事大進十四日春宮亮
右少辨　正五位下同國俊　八廿五任同日藏人

光明院

建武四年丁丑　十二月廿八日卽位、

左大辨　正三位　藤實治　參正七止大辨
從二位　同清忠　參正七轉三廿九辭
從三位　同頼敎　參廿九任
右大辨　從二位　同清忠　參正七轉左
正四位下同宣明　正七轉三廿九還補藏人頭
左中辨　同　同宣明　正七轉右大
同　同實夏　正七更任左少將如元七十二參木去辨少將
從四位上同爲治　七少轉
右中辨　從四位下同爲治　正七從四上
權右中辨同　同定親　三廿九從四上七廿右宮城使
左少辨　同　同藤長
右少辨　正五位下同國俊　四廿五止藏人七廿正五上

同　源雅顯　廿七任

前權中納言雅康卿男、母

延慶廿九從五下、同四正十七從五上、正和三六三

正五下、文保元四十六侍從、嘉曆二三廿四阿波介、

建武五年戊寅　爲曆應元、

左大辨　從三位　藤賴敎　十二二十二任參木去辨

正四位下同宣明　同日轉

右大辨　同　同宣明　頭

同　同爲治　十二十二轉

左中辨　從四位上同爲治　正廿一正四下臨時

正四位下同定親　十二十二轉

權左中辨從四位上同藤長　十二十二轉

右中辨　同　同藤長　二十九更任元春宮亮

同　同國俊　十二十二轉

權右中辨同　同定親　正五正四下

從四位下同國俊　二十七轉十一十八從四上

左少辨　同　同藤長　二十七去辨

正五位下源雅顯　同日轉

權左少辨從四位下藤國俊　正五任

右少辨　正五位下源雅顯　二十七轉左少

同　平親名　二十七任去藏人

父　母

正五位下藤顯藤

曆應二年己卯

左大辨　正四位下藤宣明　四八三木去辨

同　同定親　四十轉五七造東大寺長官

右大辨　同　同爲治　二二補頭四十八遷春宮亮去辨

從四位上同國俊　四十八轉五七造興福寺長官十二正四下

左中辨　正四位下同定親　四十轉左大

從四位下源雅顯　四十八轉同日裝束使并率分所勾當

權左中辨從四位上藤藤長　四十八止辨マヽ

右中辨　同　同國俊　四十八轉右大

同　同顯藤　八十二轉

左少辨　正五位下源雅顯　四十八轉右中

同　藤顯藤　四十八轉歟

正五位下同宗光　八十二轉

權左少辨同　平行兼　藏四十八任止職八十二十止辨歟

正五位下藤長顯　八十二任

右少辨　正五位下同顯藤　四十八轉左歟藏四十八任
同　同宗光　位宗光上
正五位下同朝光　八十二兼子時藏人左衛門權佐十十八止藏人

曆應三年庚辰
左大辨　正四位下藤定親
右大辨　同　同國俊
左中辨　從五位口源雅顯　四廿四左宮城使
權左中辨
右中辨　藤顯藤
左少辨　正五位下同宗光　藏四一兼左兵衛權佐同日使宣旨
權左少辨正五位下同長顯　藏三廿七去職
右少辨　同　同朝光

曆應四年辛巳
左大辨　正四位下藤定親
右大辨　同　同國俊
左中辨　從四位下源雅顯　正六從四位上
權左中辨
右中辨　藤顯藤

權右中辨從四位下同宗光　三十九轉
左少辨　正五位下同宗光　三十九從四下同日轉權左中
同　同長顯　三十九轉歟
權左少辨同　同長顯
右少辨　同　同朝光

曆應五年壬午　月日改元爲康永元、
左大辨　正四位下藤定親　十二二補頭佐宮內卿去大辨
同　同國俊　十二廿二補同日補卿
右大辨　同　同國俊
同　源雅顯　十二廿一補
左中辨　從四位上同雅顯　三廿備中權守裝束使方九七正四下
正四位下藤藤長　十二廿一任
右中辨　從四位上同顯藤　十二廿一去辨
同　同經隆　十二廿一任
權右中辨從四位下同宗光
左少辨　正五位下同長顯
右少辨　同　同朝光　十二廿一去辨歟
同　同仲房　藏十二廿一任

康永二年 癸未

左大辨　正四位下藤國俊　八十二闕 十二廿二三木去辨
同　源雅顯　八十二轉十二 廿二從五位
右大辨　同　同雅顯
同　藤藤長　八十二轉十 二廿二補頭
左中辨　同宗光　八十 二轉
右中辨　從四位上同經隆　十一十六 正四位下
權右中辨從四位下同宗光
左少辨　正五位下同長顯
右少辨　同　同仲房　正廿去 藏人

康永三年 甲申

左大辨　從三位　源雅顯　正廿四造東大寺長官 十二月十九日任三木
右大辨　正四位下藤藤長　頭正廿四造興福寺 長官九廿三正四下
左中辨　同　同宗光　正廿四任宮城 使七廿九補頭
右中辨　同　同經隆　正廿四右 宮城使
左少辨　正五位下同長顯
右少辨　同　同仲房廿三　正五正 五上

康永四年 乙酉　月日改元爲貞和、

左大辨　從三位　藤國俊　參四十 六兼任
右大辨　正四位上同藤長　辨四十六參 木辨如元
左中辨　正四位下同宗光
權左中辨從四位下平行兼　十一十 五轉
右中辨　正四位下藤經隆　十十四還宮 內卿去辨
從四位下平行兼　十十四敍任十一 十五轉權左中
正五位下藤長顯　十一十五轉同日從 四下同廿三日拜賀
左少辨　同　同長顯
正四位上同仲房　十二十 五轉
右少辨　同　同仲房
正五位下同朝房　十一十五任同廿 七日拜賀藏人
故入道權大納言光經卿男、母

貞和二年 丙戌

辨　從三位　藤國俊　參
右大辨　正四位上同藤長廿八　參正六 從三位
左中辨　正四位下同宗光　頭月日 正四上
權左中辨從四位下平行兼
右中辨　同　藤長顯　十二五 從四上
左少辨　正五位上同仲房

右少辨　正五位下同朝房　二廿二止藏人

貞和三年丁亥

左大辨　從三位　藤國俊　參

右大辨　同　同藤長　參

左中辨　正四位上同宗光　頭六十二卒

　　　　從四位上同長顯　十二廿七轉同日補頭

權左中辨　平行兼　月日去辨歟（正四下歟闕太記之）貞和四十七叙從三位

右中辨　從四位上藤長顯　十二廿七轉左中

　　　　從四位下同仲房　十二廿七轉

左少辨　正五位上同仲房　十二廿七從四位下同日轉右中

　　　　正五位下同朝房　十二廿七轉

權左少辨同　同兼綱　同日轉

右少辨　同　同朝房

　　　　同　同俊冬　藏十二廿七任

入道權中納言俊實卿男、

　　　　正五位下同兼綱　七十五任十一十六止藏人

故入道權中納言光業卿男、母

貞和四年戊子

左大辨　從三位　藤國俊　參筑前守四十二權中納言

　　　　正四位下同宗重　三十任元左中將七十正四上

故權中納言冬定卿男、母

右大辨　從三位　同藤長　參四十二權中納言

　　　　從四位上同長顯　頭四十二轉十（七歟）廿七遷治部卿

　　　　同　同仲房　八十轉、從四上

左中辨　同　同長顯　四十二轉右大

　　　　從四位下同仲房　三廿轉八十轉右大

　　　　同　同朝房　八十轉歟十二日卒

　　　　同　平親明　十二廿轉除目

右中辨　同　藤仲房　三廿轉任

　　　　同　同朝房　四十二轉八十轉左也

　　　　同　平親朝　八十轉十二卅轉左

　　　　同　藤兼綱　十二卅轉

權右中辨同　同兼綱　八十一轉十二卅轉右中

　　　　正五位下同俊冬　十一卅轉

左少辨　同　同朝房　四十二轉右中同日從四下

　　　　同　平親明　四十二任八十轉右中

　　　　正五位下藤俊冬　八十轉十二卅轉權右中

　　　　同　同敎光　十二卅轉

權左少辨同　同兼綱　八十一轉權右中同日從四下

右少辨　同　同俊冬　藏八十轉左少

同　同敎光　藏八十任十廿七更補藏人十二廿轉左少

正五位下同經方　十二廿轉

前權大納言經顯卿男、母

崇光院

貞和五年己丑　十二月廿六日卽位、去年十月廿七日受禪、

左大辨　正四位下藤宗重　九十三補頭止辨　九十三任追賜勘解由長官兼受

從三位　菅在成

故前參議正二位在兼卿二男、實者從四位上東宮學士在俊朝臣男今以孫爲子、母

延應二三廿七給穀倉院學問料、同三四廿八文章生、同五月廿日蒙方略宣旨、同六月二日獻策贈問以同三日到、廿九日從五下、同十二月廿八日兵部權少輔、正和二七十二去權少輔、同三四廿七從五上賜去十二日位記、同五二廿九式部權少輔、元應元六十四去權少輔、同去七五三河守、同二四十五正五下賜去月廿四位記、嘉應二正五從四下、同三六廿九大學頭、元德三正五位四上、同十三東宮學士、同日紀伊介、同七月十一文章博士、同日去頭、同九月廿去學士依受禪也、建武二正十三式部少輔云博士、同三十一廿五還任大學頭、同四七廿去少輔、同五八十三東宮學士、曆應二正五正四位下、同十三治部卿、同日越後介、同五月七去頭、同四四十六去卿、康永二八十二勘解由長官、同三正廿四武藏權介、同四四十六從三位長官如元、

右大辨　從四位上藤仲房　正五正四下九十三補頭

左中辨　位在仲房上　正四位下平親明

右中辨　從四位下藤兼綱　九月日氏院別當十二廿二從四位上

權右中辨正五位下同俊冬　藏三廿五正五上十一廿五從四下

左少辨　同　同敎光　藏廿二廿一正五上

右少辨　同　同經方　二十五兼左衞門權佐同日使宣旨

貞和六年庚寅　二月廿七日改元爲觀應、

左大辨　從三位　菅在成　五十三勘解由長官三廿九能登權守八十六去辨

正四位上藤仲房

右大辨　正四位下同仲房　頭正五正四上八十六轉左

左中辨　從四位上同氣綱　十十二正四位下
同四位下平親明　六十九叙三位
從四位上藤氣綱　田口轉八十六轉右大
從四位下同俊冬　八十六轉任
右中辨　從四位上同氣綱　六十九轉左
從四位下同俊冬　同日轉任、八十六轉左
同　同敎光　八十六轉任
權右中辨　同　同俊冬　八十六轉右中
正五位上同敎光　六十九轉任、同日叙從四下
同　同經方　八十六轉任、十廿八辭藏人、非權佐
左少辨　同　同敎光　二六解藏人、六十九轉權右中
同　同經方　六十九轉任、同日防鴨河使、八十二轉權右中
正五位下平時經　八十六轉任
右少辨　同　藤經方　左衞門權佐、二六補藏人、三廿九正五上、六十九轉左
同　平時經　六十九任、八十六轉左
同　藤時光　藏八十六任、十二辭職
故按察大納言資名卿三男、母

觀應二年辛卯
左大辨　正四位上藤仲房　頭春宮亮

右大辨　正四位下同氣綱　八十三補頭、去辨
從四位下同俊冬　八十二轉任、廿九日從四上
左中辨　同　同俊冬　同日轉右大
同　同敎光　同日轉任
右中辨　同　同敎光
同　同經方　同日轉任
權右中辨　正五位上同經方　三廿一從四下、八十三轉右中
左少辨　正五位下平時經
右少辨　同　藤時光
權右少辨　同　平行時　藏八十三任、去藏
故從三位行高卿二男、母

後光嚴院　八月十七日踐祚、今年八月八日太上天皇於賀生離宮御落飾、
觀應三年壬辰　九月廿七日改元爲文和、依代始也、
左大辨　正四位上藤仲房　頭正十三自南方爲左少辨
右大辨　從四位下同俊冬　頭八廿九從四上
左中辨　同　同敎光
右中辨　同　同經方
左少辨　正五位上平時經　參南方爲藏人勘解由次官

右少辨　同　藤時光

權右少辨同　平行時　故前中納言親時卿男、母

文和二年癸巳

左大辨　正四位上藤仲房卅一　七廿三參議辨如元

右大辨　從四位上同俊冬卅五　四廿三正四下七二補頭十一廿三正四下

左中辨　從四位下同敎光　四十六裝束使幷正藏率分所勾當四廿三從四上七廿七服解父

右中辨　同　同經方　十二十二復任

權右中辨正五位上同時光　四廿三從四上十二十七

左少辨　同　同時光　轉任、

正五位下平親顯　四廿三轉任、轉權右中歟十二十

右少辨　正五位上藤時光　三轉任四廿三

正五位下平行時　轉任四廿三轉任十

同　同親顯　一廿三止名歟十十一廿三轉左

同　同信兼　二十三轉三十藏人廿二廿三任

故入道從三位範高卿男、母

權右少辨正五位下平行時　四廿三轉正

同　同親顯　藏四廿三任十一廿三轉正

文和三年甲午

左大辨　正四位上藤仲房　參正七叙從三位

右大辨　同　同俊冬　頭

左中辨　從四位上同敎光　正六正四下六(二歟)廿九左宮城使十一十一兼近江守大嘗會國司

右中辨　同　同經方　正六正四下二廿九右宮城使

權右中辨正五位上同時光

左少辨　正五位下平親顯　藏、正五上歟

右少辨　同　同信兼　三十一辭藏人辨等

同　藤忠光　廿一六廿九任十一十四正五上

按察大納言資明卿四男、母

康永二三廿七文章生、同七月八獻策、廿日後五下九歲、同三七廿九　春宮權大進、同四十六從五上、貞和三正十一正五下、十廿七左兵衞權佐、

文和四年乙未

左大辨　從三位　藤仲房　八十三位權納言參木八十三任

正四位上同兼綱

右大辨　同　同俊冬　八十三任參木辨如元十廿四母喪不復任
　　　　正四位下同經方　十二八轉
左中辨　同　同敦光　八十三遷左兵衞督補頭
　　　　同　同經方　八十三補頭同日轉十二八轉右大
　　　　同　同時光　十二十八轉
右中辨　同　同經方　八十三補頭轉左
　　　　同　同時光　同日轉敍正四下十二八轉左
　　　　從四位下同保光　十二八轉月日從四上
權右中辨從四位上同時光　八十三轉正
　　　　正五位上同保光　同日任、從四下

觀應二四十三補藏人、同三八十七止之、　故按察大納言資明卿三男、母
　　　　正五位上平親顯　十二八轉敍從四下
左少辨　同　同親顯　藏十二八轉
　　　　同　藤忠光　同日轉
右少辨　同　同忠光　藏同日轉左
　　　　正五位下平信兼　同日還補藏人任右少辨

文和五年丙申　三月廿八改元爲延文、
左大辨　正四位下藤兼綱　參大藏卿造東大寺長官正七從三位廿八阿波權守

右大辨　正四位下同經方　廿二頭正廿八參議辨如元十二廿五從三位
左中辨　同　同時光　正廿八轉頭十二廿五正四十二
右中辨　同　同保光
權右中辨從四位下平親顯
左少辨　正五位下藤忠光　藏十二廿五從四下
右少辨　正五位下平信兼　藏

延文二年丁酉
左大辨　從三位　藤兼綱　參
右大辨　同　同經方　參
左中辨　正四位上同時光　頭二十二十二被放氏、續氏九二十二被仰直奏
右中辨　正四位下同保光
權右中辨從四位上平親顯
左少辨　從四位下藤忠光
右少辨　正五位下平信兼　藏

延文三年戊戌
左大辨　從三位　藤兼綱　參八十二任權中納言
　　　　同　同經方　參八十三轉十一廿七去辨
右大辨　同　同經方　參八十二轉左

正四位上同時光　八十二轉同參木辨如元

左中辨　同　同時光　八十一轉左

正四位下同保光　同日轉

權左中辨從四位上平親顯　同日轉補頭

右中辨　正四位下藤保光　同日轉左

從四位下同忠光　同日轉補頭從四上

權右中辨從四位上平親顯　四十二　同日轉權左中

左少辨　從四位下藤忠光　同日轉右中

正五位下平行時　八十二還任

右少辨　同　同信範

延文四年己亥

左大辨　從三位　藤經方　參三廿一復任廿五日權中納言

同　同時光　參三廿五轉四廿一任右衛門督補檢非違使別當

正四位下同保光　四廿一轉

右大辨　正四位上同時光　參正月五日從三位

正四位下同保光　三十五轉

同　平親顯　頭四廿一轉

左中辨　同　藤保光　三廿五轉右大

同　平親顯　頭三廿五轉四廿一轉右大

同　藤忠光　頭四廿一轉同日左宮城使

權左中辨從四位上平親顯　頭正五正四下三廿五轉正

右中辨　同　藤忠光　頭正五正四下四廿一轉左

同　平行時　四廿一轉同日正四下右宮城使

權右中辨從四位下同行時　三廿五轉四廿一轉正

從四位上藤資定　四廿一轉

左少辨　正四位下平行時　三廿五轉權右中從四下

從四位上藤資定　三廿五任四廿一轉權右中

故參議左大辨資房卿男、母

正五位下平信範　藏四廿一轉

右少辨　同　同信範　四廿一轉左

同　同行知　藏四廿一任

故從二位行兼卿男、母

延文五年庚子

左大辨　正四位下藤保光

右大辨　同　平親顯　頭四十六任參木去辨

左中辨　同　藤忠光　頭

右中辨　同　平行時

權右中辨從四位上藤資定

左少辨　正五位下平信兼　藏八十三從四下
右少辨　同　同行知　藏

延文六年辛丑　三月廿九日改元爲康安、
左大辨　正四位下藤保光　三廿七叙從三位任治部卿參四十五造東大寺長官
同　同忠光
右大辨　從四位下同資定　三廿七轉左
左中辨　正四位下同忠光　頭三廿七轉左大辨同日參議
從四位下平信兼　三廿七轉任
右中辨　正四位下同行時　三廿七補藏人頭還宮內卿
正五位下同行知　藏同日轉任
權右中辨從四位下藤資定　三廿七轉右大辨
左少辨　同　平信兼　同日轉左中
右少辨　正五位下同行知　三廿七轉右中
同　藤嗣房廿一　同日任
權中納言仲房卿男、母
貞和三正五從五下七歲、觀應九四日從五上、八十六美作守、文和三三廿八民部少輔、同四八十三正五下、同五正十八右兵衞佐、延文二四十五藏人、十七歲、

康安二年壬寅　九月廿三日改元爲貞治、
左大辨　正四位下藤忠光　參木五七叙從三位
右大辨　同　同資定　五七補藏人頭
左中辨　從四位下平信兼
右中辨　正五位下同行知　藏
左少辨　正五位上藤嗣房
右少辨　正五位下同嗣房　藏五廿七正五上九九轉左
同　同宣方十三　九九任
權大納言宣明卿男、母
年月日叙位、文和三三十兵部大輔五歲、、、從五上、延文四、、正五下、十歲、

貞治二年癸卯
左大辨　從三位　藤忠光　參四廿二任權中納言
右大辨　正四位下同資定　頭造東大寺長官四廿三任參木去辨
左中辨　從四位下平信兼　四廿四補藏人頭任宮內卿
同　同行知　四廿四轉任
右中辨　正五位下同行知　四廿四叙從四位下
正五位上藤嗣房

權右中辨正五位下同宣方　四廿四轉任

左少辨　正五位上同嗣房　藏四月四補右中辨

　正五位下同資康　四廿四任

　權中納言時光卿男、母

右少辨　正五位下同宣方

　同　同仲光廿三　藏四廿四任

　權中納言兼綱卿男、母

延久三十一廿六衣服十七歲、十二廿三對策、廿六日從五下、同四正五從五上、廿四日治部少輔、同五四十五藏人、貞治二正五正五下、

貞治三年甲辰

左大辨

右大辨

左中辨　從四位下平行知

右中辨　正五位上藤嗣房　藏

權右中辨同　同宣方

左少辨　正五位下同資康

右少辨　同　同仲光　藏

貞治四年乙巳

左大辨

右大辨

左中辨　從四位上平行知　八廿補藏人頭去辨任左京大夫

右中辨　正五位上藤嗣房　藏

權右中辨同　同宣方

左少辨　正五位下同資康

　同　同仲光　藏

貞治五年丙午

左大辨

右大辨

左中辨　從四位下藤嗣房　藏四十九轉左叙從四位下

右中辨　正五位上同嗣房　四十九轉任七廿七補藏人

　同　同宣方

權右中辨同　同宣方

　同　同資康　四十九轉任敍正五正五上敍

左少辨　正五位下同資康　藏四十九轉

　正五位上同仲光　藏正五叙正五位上超宗顯

右少辨　正五位下同仲光　藏四十九任

　同　同宗顯

故前權大納言長顯卿男、母

、、左兵衞權佐、、、正五下、貞治七廿九藏人、

貞治六年丁未

左大辨

右大辨　從四位上藤嗣房　八十四叙正四位下

左中辨　從四位下同嗣房　頭四十三轉任正五叙從四位上三十三補頭

右中辨　正五位下同宣方　藏

權右中辨正五位上同資康

左少辨　同　同仲光　藏

右少辨　正五位下同宗顯　藏正五叙正五位上

貞治七年戊申　改元爲應安、

左大辨

右大辨　正四位下藤嗣房

左中辨　同　同長宗

故前權大納言長光卿男、母

曆應正五從五下、同五正五從五上、康永四八十六

正五下、

右中辨　正五位上藤宣方　藏

權右中辨同　同資康

左少辨　同　同仲光　藏

右少辨　同　同宗顯

應安二年己酉

左大辨

右大辨　正四位下藤嗣房　頭正五叙正四上

左中辨　同　同長宗

右中辨　正五位上同宣方　藏

權右中辨同　同資康

左少辨　同　同仲光　藏十二廿五服解母止藏人

右少辨　同　同宗顯

應安三年庚戌

左大辨　正四位上藤嗣房　參議

右大辨　正四位上同嗣房　頭八十四任參議八十四轉左大

正四位下同長宗　轉任

左中辨　同　同長宗

正五位上同宣方

右中辨　同　同宣方　藏八十四轉任十廿四叙從四位下

同　　同資康　八十四轉任
權右中辨同　同資康
左少辨　同　同仲光　十二十八還補藏人
右少辨　同　同宗顯
權右少辨正五位下同俊任　廿四藏八十四任
故權中納言俊冬卿男、母
、、從五下、、、右衞門佐、、、正五下、應安元十二卅藏人廿三歲、同二四兵部大輔、

應安四年辛亥
左大辨　正四位上藤嗣房　參四十四叙從三位正五叙正四位上
右大辨　正四位下同長方
左中辨　從四位下同宣方
右中辨　正五位上同資康
左少辨　同　同仲光　藏
右少辨　同　同宗顯　藏
權右少辨正五位下同俊任　藏正五叙正五位上

後圓融院　去年三月廿三日受禪、

應安五年壬子
左大辨　從三位　藤嗣房　參議
右大辨　正四位上同長宗
左中辨　從四位下同宣方
右中辨　正五位上同資康
左少辨　同　同仲光　藏
右少辨　同　同宗顯　藏
權右少辨同　同俊任　藏

應安六年癸丑
左大辨　從三位　藤嗣房　參議
右大辨　正四位上同長宗　四廿六補藏人頭正六叙從四位上四廿六補藏人頭十一廿五叙正四位下
左中辨　從四位下同宣方
右中辨　正五位上同資康
左少辨　同　同仲光　藏
右少辨　同　同宗顯　藏
權右少辨同　同俊任　藏

應安七年甲寅
左大辨　從三位　藤嗣房　參木九廿八任權中納言

從二位　菅長綱　參木十二十三任
故正三位治部卿茂長卿男、母
、、文章生、元德、、藏人、同年七十禁色、同二三五少內記、廿二日參宮權少進、、、彈正忠、同年十五左衛門尉、元弘三十二七中宮權少進、建武九九四西市正、同月十四民部兼內、、、大內記、藏人市正、權少進、同三二二釆女正、曆應、、從五下、同五、、權守、康永元十一六還任大內記、同日正五下、同二正、、東市正、、從四下、文和二四廿三從四上、同年十廿九大學頭、、、十正四下、同四八十三文章博士、延文三八十二從三位、同日刑部卿、同六三廿七大大藏卿、貞治二正廿八去卿、同六二十二越中權守、同七二廿一正三位、應安六正六從二位、

右大辨　正四位上藤長宗　頭
左中辨　正四位下同宣方　頭十二廿正四位上
右中辨　正五位上同資康
權右中辨同　同仲光　藏九廿八轉任
左少辨　同　同仲光　藏
同　同宗顯　左廿八轉任
右少辨　同　同宗顯
同　同俊任　藏九廿八轉任
權右少辨同　同俊任　藏

應安八年乙卯　二月廿七日改元爲永和、

左大辨　從二位　菅長綱　參三廿九兼周防權守八五造東大寺長官十二任兵部卿去辨
同　正四位上藤宣方　頭十二轉任
右大辨　同　同長宗　頭十二還大藏卿去辨
同　正四位下同資康　十二轉任
左中辨　正四位上同宣方　頭十二轉左大
從四位上同仲光　十二轉任十一十一叙正四位下
右中辨　正四位下同資康
正五位上同宗顯　十二轉任
權右中辨同　同仲光　藏正十三叙從四位下三廿九叙從四位上
左少辨　同　同宗顯
同　同俊任　藏十二轉任
右少辨　同　同俊任　藏
正五位下同經重　藏十二轉任
後勸修寺前內大臣經顯公男、母右少將隆氏女、
延文、、叙爵、應安七十二十九左衛門權佐使宣

旨、、從五位上、、正五下、同八正五補藏人、
權右少辨正五位下同資敎　藏十二任
故權大納言時光卿二男、母
、、右衞門權佐、、正五下、應安四十一藏人、

永和二年丙辰
左大辨　正四位上藤宣方　頭二十二任參議去辨
從三位　同宗泰　參二十二兼任
故前權中納言宗重卿男、母
應永六四廿六參木、同七八十六從三位、同八三廿
九備前權守、
右大辨　正四位上同資康　二十二補藏人頭
左中辨　正四位下同仲光　二十三補藏人頭
右中辨　同宗顯
左少辨　正五位上同俊任　藏
右少辨　位經重上　正五位下同經重　藏正六敍正五位上
權右少辨同　同資敎　藏正六敍正五位上去權佐

永和三年丁巳
左大辨　從三位　藤宗泰　參備前權守造東大寺長官八十四任權中納言

右大辨　正四位上同資康　頭
左中辨　正四位下同仲光　頭正五敍正四位上
右中辨　同宗顯
權右中辨從四位下同俊任　三十六轉任
左少辨　正五位上同俊任　藏三廿六轉權右中敍從四下
同　同經重　三廿六轉任
右少辨　同　同經重　藏
同　同資敎　藏三廿六轉任歟
權右少辨同　同資敎　藏

永和四年戊午
左大辨　正四位上藤資康　三廿四轉任同日任參議十二十三任權中納言敍從三位
同　同資敎　十二十一轉任同日任參木
右大辨　同　同資康　頭三廿四轉任左
同　同仲光　三廿四轉任同日任三木十二十三任權中納言敍從三位
正四位下同俊任　十二十三轉任同日補藏人頭
左中辨　正四位上同仲光　頭
正四位下同宗顯　三廿四任、同日補藏人頭十二十三任參木去辨
從四位上同經重　十二十三任
右中辨　同宗顯

從四位上同俊任 三廿七轉任四十七叙正四位下十二十三轉右大

權右中辨從四位下同俊任 正五叙從四位上

正五位上同資敎 三廿四轉任同日補藏人頭叙從四位下十二十三補左大

左少辨　同　同經重 藏、去左衞門權佐四十四叙從四位下、、從四位上十二十三

正五位下同氏房 轉左中藏十二十三還任

右少辨　正五位上同資敎

正五位下同兼長廿三 十二十三任

故權中納言藤長卿男、母

、、從五位下、貞治三正五從五上八歲、、、右兵衞佐、

權右少辨正五位下同賴房 藏十二十三任

從一位按察前大納言仲、卿三男、母

、、右衞佐、、、正五下、永和四四十七藏人、

永和五年己未　三月廿六日改元爲康曆、

左大辨　正四位上藤資敎 正六叙從三位六五任右衞門督

從三位　菅長衡 九六任

右大辨　正四位下同俊任廿四 頭正六叙正四位上十二七任參木

左中辨　從四位上同經重廿五 正六叙正四位下五六補藏人頭

右中辨　正五位上同資衡 左衞門權佐四廿七復任

故從一位權大納言忠光卿男、母

左少辨　正五位下同氏房 藏三廿一叙正五位上

右少辨　同　同兼長 三廿一叙正五位上

權右少辨同　同賴房 藏三四三被止召名

康曆二年庚申

左大辨　從三位　菅長衡 十二廿二辭

正四位上藤俊任 參十二廿一轉任

右大辨　同　同俊任 參

同　同經重 頭十二廿二轉任

左中辨　正四位下同經重 頭正、正四位上

正五位上同資衡 藏十二廿二轉任

右中辨　同　同資衡 十一二補藏人

從四位下同氏房 藏十二廿二轉任

左少辨　正五位上同氏房 藏十一二叙從四位下

同　同兼長 十二廿二轉任

右少辨　同　同兼長

正五位下平知輔 十二二任

故權中納言行知卿男、母

康曆三年辛酉　二月四日改元爲永德、

左大辨　正四位上藤俊任 卅六　六十七叙從三位
右大辨　同　同經重 卅七　頭八十四任參木
左中辨　正五位上同資衡　藏五卅叙從四位下
權左中辨同　同兼長　、轉任、叙從四位下
右中辨　從四位下同氏彥　八十四補藏人頭任右兵衛督去辨
　　　　正五位上同兼長　八十四轉任、任、叙從四位下
　　　　同　同親房
左少辨　同　同兼長
　　　　同　平知輔　八十四轉任
右少辨　正五位下同知輔　藏六十七叙正五位上
　　　　正五位上藤家房　藏八十四任
　　　　故參議資定卿男、母

康曆元六十七補藏人、同二十二十三正五位上、

永德二年壬戌

左大辨　從三位　藤俊任　參十二廿叙正三位
右大辨　正四位上同經重
左中辨　從四位下同資衡　十一六補藏人頭 二五廿三補藏人頭、從四位上十一十五任參木
權左中辨從四位下同兼長

右中辨　同　同賴房　十一六補藏人頭
左少辨　正五位上平知輔　藏
右少辨　同　藤家房　四十一新帝藏人

後小松院

永德三年癸亥

左大辨　正三位　藤俊任 卅八　參三廿八任權中納言
　　　　從四位上同兼長 廿七　參右兵衛督三廿一兼左大辨止 督同日兼近江權守十二十五叙從三位正四位下日不見十二十〔補任ナシ〕五裏母
右大辨　從三位　同經重　參正五叙正三任三 廿八任權中納言
　　　　同　菅秀長 四十六　三廿八任十二廿止辨
　　　　兵部卿長綱卿男、母
左中辨　正四位上藤資衡　頭
右中辨　位資衡上　同　同賴房　藏十十六
左少辨　正五位上平知輔　辭〔辨歟〕十六 藏十十六
　　　　同　藤家房　去職轉任
　　　　位在知輔上
右少辨　同　同家房

永德四年甲子 二月廿七日改元爲至德、
左大辨 從三位 藤兼長 十八 參近江權守
右大辨
左中辨 正四位上同資衡 頭
右中辨 同 位在資衡上 同賴房 頭
左少辨 正五位上同家房
右少辨

至德二年乙丑
左大辨 正三位 藤兼長 廿九 參近江權守
右大辨
左中辨 正四位上同資衡 頭
右中辨 同 同賴房 頭
左少辨 正五位上同家房
右少辨

至德三年丙寅
左大辨 從三位 藤兼長 卅 參近江權守正六叙從三位八廿七任權中納言
右大辨
左中辨 正四位上同資衡 頭
右中辨 同 同賴房 頭
左少辨 正五位上同家房
右少辨

至德四年丁卯 八月廿三日改元爲嘉慶、
左大辨
右大辨
左中辨 正四位上藤資衡 頭
右中辨 同 同賴房 頭
權右中辨從四位下同資藤 四十三任
故從一位權大納言忠光卿男、母
、、左兵衛權佐、、、正五下、永德二十二九藏
人、十七歲、至德三正六正五上、嘉慶元四廿三從四下
任權右中辨、
左少辨 正五位上同家房 月日辭(辨歟)
正五位下同資國 、位月日叙正五位上
故權大納言時光卿三男、母
右少辨

嘉慶二年戊辰

左大辨　正四位上藤資衡　五廿六轉任同日任參議
右大辨位資衡上　同　同賴房　五廿六轉任同日任參議兼遠江權守
左中辨　同　同資衡　頭
同資藤　五廿六轉任歟
右中辨　同　同賴房
權右中辨從四位下同資藤
正五位上同資國　五廿六轉任廿七日補藏人十一六止藏人
左少辨　同　同資國
同　同兼宣　藏十一四轉任
右少辨　同　同兼宣　藏五廿六任月日文章博士
權中納言仲光卿男、母
貞治七正廿五給學問料三歲、應安三十二廿五元服七歲、同六八十九對策、同月廿八從五下八歲、十一廿五治部權少輔、、、從五上、、、正五下、、、右兵衞佐、永德元、禁色十六歲、同三十六藏人十八歲、
正五位下宣俊　十一四任
權中納言宣方卿男、母
永和三正五下七歲、三廿六兵部權少輔、、、右兵衞佐、

嘉慶三年己巳　二月九日改元爲康應、
左大辨　正四位上藤資衡　參
右大辨位在資衡上　同　同賴房　參遠江權守四廿六薨
左中辨　從四位下同資藤
右中辨　同　同重光　正廿任
前權大納言資康卿男、母
、、左衞門權佐、、、正五下、至德三三廿六藏人、嘉慶三正廿從四下、
權右中辨正五位上同資國　廿四正廿三還補藏人
左少辨　同　同兼宣　藏
右少辨　正五位下同宣俊　藏

康應二年庚午　三月廿六日改元爲明德、
左大辨　正四位上藤資衡　參二一兼加賀權守四一叙從三位十二廿四辭辨
同資藤　十二廿四轉任
右大辨　從四位下同重光
左中辨　同資藤
正五位上同資國　十二廿四轉任叙從四位下
右中辨　同　同兼宣　藏十二廿四轉任博士如元
權右中辨同　同資國　藏

左少辨　同　同兼宣　藏文章博士

正五位下同宣俊　十二廿四轉任

右少辨　同　同宣俊　藏

從五位上同資家廿　十二廿四任同廿七補藏人

前權大納言按察使保光卿男、

月日從五上、

權右少辨正五位下同經豐　十二廿四任

故權大納言經重卿男、母

、、月日右衞權佐、

明德二年辛未

左大辨　正四位上藤資藤

右大辨　同　同重光

左中辨　從四位下同資國　、從四位上、正四位下敍

右中辨　正五位上同兼宣　藏

左少辨　正五位下同宣俊　藏

右少辨　同資家　藏

權右少辨同　同經豐

明德三年壬申

左大辨　正四位上藤資藤廿七　八廿二補藏人頭十二十六任參議造東大寺長官長門權守

右大辨　正四位上同重光廿二　八廿二補藏人頭十二廿六任參議造興福寺長官遠江權守

左中辨　正四位下同資國　十二廿六補藏人頭、、正四位上越頭中將隆信、朝臣

右中辨　正五位上同兼宣　藏

左少辨　正五位下同宣俊　藏

右少辨　同資家　藏十二九服解母

權右少辨正五位下同經豐　十二卅補藏人資家服解替

明德四年癸酉

左大辨　正四位上藤資藤廿八　參長門權守造東大寺長官十一廿五敍從三位

右大辨　同　同重光廿四　參遠江權守造興福寺長官十二廿五敍從三位

左中辨　同　同資國　頭

右中辨　正五位上同兼宣　藏四廿五敍從四位下十二廿五從四位上二ヶ度

左少辨　正五位下同宣俊　藏

同　同資家

權右少辨正五位下同經豐　藏

明德五年甲戌　七月五日改元爲應永、

左大辨　從三位　藤資藤　參長門權守造東大寺長官

右大辨　同　同重光　參近江權守興福寺長官十二廿五任權中納言

正四位上同資國 廿九 頭十二廿五任 參木同日轉任
左中辨 同 同資國 頭
正四位下同兼宣 十二卅補藏人 頭同日轉任
右中辨 從四位上同兼宣 十二十五敍 正四位下
正五位上同宣俊 十二卅 轉任
左少辨 正五位下同宣俊 十二十九敍 正五位上
正五位上同資家 十二卅 轉任敕
右少辨 正五位下同資家 十一四還補藏人十二 十九敍正五位上敕
正五位上同經豐 十二卅 轉任
權右少辨正五位下同經豐 十一十九敍 正五位上

應永二年 乙亥
左大辨 從三位 藤資藤 參造東大寺長官三廿九兼 丹波權守六三任權中納言
右大辨 正四位上同資國 卅 參正五敍從三位三廿九 兼備中權守月日被止職
同 同兼宣 六十三 轉任
左中辨 正四位下同兼宣 六五敍正 四位上
正五位上同宣俊 六十三 轉任
右中辨 同 同宣俊 藏
同 同資家 藏六十 三轉任
左少辨 同 同資家 藏

同 同經豐 六十三 轉任
右少辨 同 同經豐 藏
權右少辨

應永三年 丙子
左大辨
右大辨 正四位上藤兼宣 卅 頭
左中辨 正五位上同宣俊 藏三月日左宮城使八廿五 藏從四位下、、從四位上
右中辨 同 同資家 藏
左少辨 同 同經豐 藏

應永四年 丁丑
左大辨 正四位上藤兼宣 頭三廿 九轉任
同 同兼宣 頭
從四位上同宣俊 三廿九轉任、、正四 位下、、正四位上
左中辨 同 同宣俊
正五位上同資家 廿七 三廿九 轉任
右中辨 同 同資家 藏
同 同經豐 三廿九 轉任

左少辨　同　同經豐　藏
右少辨

應永五年戊寅
左大辨　正四位上藤兼宣　頭
右大辨　同　同宣俊
左中辨　正五位上同資家　廿八藏二五敍従四位下
右中辨　同　同經豐　藏
左少辨　同　同重房　十二廿四補藏人
右少辨

應永六年己卯
左大辨　正四位上藤兼宣　頭
右大辨　同　同宣俊
左中辨　従四位下同資家　廿九月日従四位上敍
右中辨　正五位上同經豐　藏三十一敍従四位下、従四位上二ヶ度
左少辨　正五位上同重、　藏
右少辨

應永七年庚辰
左大辨　正五位上藤兼宣　頭十二廿任參議
右大辨　同　同宣俊
左中辨　従四位上同資家
右中辨　同　同經豐
左少辨　正五位上同重、　藏
右少辨

應永八年辛巳
左大辨　正四位上藤兼宣　參三十四任權中納言同日敍従三位
　同　同宣俊　三十四轉任
右大辨　同　同宣俊
　正四位下同資家
左中辨　従四位上同資家　、、正四位下敍
　正四位下同經豐
右中辨　従四位上同經豐
　正五位上同重、
左少辨　同　同重、
　正五位下同定顯　藏
　入道權大納言宗顯卿男、母
　、、正五下應永三十廿藏人、

右少辨　正五位下同淸長　藏
前權中納言兼長卿男、母
、、右兵衛權佐、、、從五位上、應永六三廿七藏人、

應永九年壬午
左大辨　正四位上藤宣俊　七廿二補藏人頭月日爲宮領
右大辨　正四位下同資家　、、正四位上敍
左中辨　同　同經豐　十一、敍正四位上
右中辨　正五位上同重、　藏二廿三敍從四位下
左少辨　正五位下同定顯　藏十一廿四敍從四位下
右少辨　同　同淸長　藏
權右少辨同位在淸長上　同有光　二廿二補藏人
權大納言資敎卿男、母
、、權右少辨、、、左衛門佐巳事、□、、正五位下、

應永十年癸未
左大辨　正四位下藤宣俊　頭
右大辨　同　同資家廿三六廿三補藏人頭
左中辨　同　同經豐
右中辨　從四位下同重、
左少辨　同　同定顯
右少辨　正五位下同淸長　藏
權右少辨同　同有光　藏

應永十一年甲申
左大辨　正四位上藤宣俊廿四頭十二十七任參議
　同　同資家　頭十二十七轉任敍
右大辨　同　同資家　頭
　同　同經豐　三十七轉任同日補藏人頭伊勢權守
左中辨　同　同經豐
　從四位下同重、
右中辨　同　同重、
　同　同定顯
左少辨　同　同定顯
　正五位上同有光　藏轉任敍
右少辨　正五位下同淸長　藏
權右少辨正五位上同有光　藏

應永十二年乙酉
左大辨 正四位上藤資家 頭三十七任参議長門權守
右大辨 同 同經豐 頭三十七任参議伊勢權守
左中辨 從四位上同豐、 三十七補藏人頭
右中辨 從四位下同定顯
左少辨 正五位上同有光 十九藏七八叙從四位下
右少辨 同 同淸長 藏

應永十三年丙戌
左大辨 正四位上藤資家 参正六叙從三位三廿四遷美作權守八十七任權中納言
從四位上同重、 八十一任参議轉任左大辨紀伊權守
右大辨 正四位上同經豐 参正六叙從三位伊勢權守八十七任權中納言
左中辨 從四位上同重、
同 同定顯 八十七補藏人頭同日轉任、、叙從四位上
右中辨 從四位下同定顯
同 同有光 轉任已後如此歟轉不分明也
左少辨 同 同有光
正五位上同淸長 藏四廿三辭職
右少辨 同 同淸長 藏
同 同家俊 藏八十七任

参議家房卿男、母
、、從五位上、應永九十一廿五藏人、于時肥前守、十六任右衛門權佐、
權右少辨正五位上同淸房 藏八十七任
故前權中納言民房卿男、母
、、勘解由次官、、、從五位上、應永十二九十藏人、

應永十四年丁亥
左大辨 從四位上藤豐、 参紀伊權守正五叙正四位下
右大辨 正四位下同定顯 頭三廿九轉任
左中辨 從四位上同定顯 頭正五正四位下歟
同 同有光
右中辨 同 同有光
同 同淸長
左少辨 同 同淸長
正五位上同家俊 藏
右少辨 同 同家俊
同 同淸房 藏三廿九轉任止職
權右少辨同 同淸房 藏

應永十五年戊子

左大辨　正四位下藤豐、　參二廿三叙從三位同月四日止大辨兼左衞門督檢別當

正四位上同豐光　二月四任歟四九補藏人頭十二廿任參議遠江權守

故從一位前權大納言資康卿三男、母

右大辨　正四位下同定顯　頭

左中辨　從四位上同有光

右中辨　從四位下同淸長

左少辨　正五位上上歟同家俊　藏

右少辨　正五位下同宣輔　藏二廿四任

參議宣俊卿男、母

應永、、從五下于時宣資、、、從五上、同十三四廿三藏人、、、正五下、、、正五上、

應永十六年己丑

左大辨　正四位上藤豐光　參遠江守

右大辨　正四位下同長親本定顯　頭七廿三任參木去辨

同　同宗量　參七廿三轉任

故權中納言宗泰卿男、母

左中辨　從四位上同有光　七廿三補藏人頭

右中辨　同淸長

左少辨　正五位上同家俊　藏

右少辨　同　同宣輔　藏

應永十七年庚寅

左大辨　正四位上藤豐光　參正五叙從三位

右大辨　同　同宗量　參正五叙從三位廿八日兼美作守

左中辨　同　同有光　頭

右中辨　正四位下同淸長

左少辨　正五位上同家俊　藏正五叙從四位下

右少辨　同　同宣輔　藏

應永十八年辛卯

左大辨　從三位　藤豐光　參正五叙正三位廿八日兼丹波權守閏十九任權中納言

正三位　同宗量　參閏十九轉任十一廿四任權中納言

正四位上同有光　頭十一廿五轉任今日任參議

右大辨　從三位　同宗量　參美作權守正五叙正三位

正四位下同淸長　十一廿五轉任、、正四位上

左中辨　正四位上同有光　頭

從四位下同家俊　十一廿五轉任補藏人頭叙從四位上十六日正四位下

右中辨　正四位下同淸長

正五位上同宣輔 藏十一 轉任

權右中辨正五位下同信長 藏十一廿 五轉任

左少辨 從四位下同家俊

正五位上同宣輔 藏十一廿五轉任 同月日轉右中

同 同時、 同月日 轉歟

右少辨 同 同宣輔

正五位下同時、 十八藏十一 廿五任

故前内大臣嗣、公息、母家女房、

應永、、誕生、同八正五從五下、同、從五上、同

、、右兵衞佐、同十八正月日藏人、、、正五下、

正五位下同資光 同月日 轉歟

權右少辨同 同信長 藏閏十 九任

正五位下同資光 藏十一 廿五任

權大納言兼宣卿二男、母

應永十九年壬辰

左大辨 正四位上藤有光 參正六叙從三位 廿八日兼美作守

右大辨 同 同清長 頭

左中辨 同 同家俊 頭

右中辨 同 同宣輔 藏七廿七叙從四位 下、、從四位上

權右中辨正五位下同信長 藏五十三叙從 四位下六四卒

左少辨 同 同時、 藏正、叙正五位上 八廿九新帝藏人

右少辨 同 同資光 藏正、叙 正五位上

稱光院
應永廿　同廿一　同廿二　同廿三　同廿四　同
廿五　同廿六　同廿七　同廿八　同廿九　同卅
同卅一　同卅二　同卅三　同卅四　同卅五（正長元）

後花園院
正長二（永享元）　永享二　同三　同四　同五　同六
同七　同八　同九　同十　同十一　同十二　同
十三（嘉吉元）　嘉吉二　同三　同四（文安元）　文安二　同
三　同四　同五　同六（寶德元）　寶德二　同三　同
四（享德元）　享德二　同三　同四（康正元）　康正二　同三
（長祿元）　長祿二　同三　同四（寛正元）　寛正二　同三
同四　同五

稱光院

應永廿年（癸巳）　去年八月廿九日當今受禪、

左大辨　從三位　藤有光　參木二月一日辭兩宮
　　　　正四位上同清長　參木五月一日從三位廿日被仰傳奏六月廿四日被止出仕
右大辨　同　同清長　頭二月一日參木轉左
　　　　同　同家俊
左中辨　同　同家俊　頭二月一日轉右大
右中辨　從四位上同清房　二月一日任歟
　　　　同　同宣輔
左少辨　正五位上同時房　藏
右少辨　正五位上同資光

應永廿一年（甲午）　十二月十九日卽位、

左大辨　從三位　藤清長　參木三月十六日兼近江權守付廿八日任權中納言
　　　　從四位下同時房　十一月四日補藏人頭
右大辨　正四位上同家俊　頭三月十六日參木去辨十月廿日從三位
　　　　正三位　菅長遠　大藏卿三月十六日任四月十六日辭右大辨
　　　　故前參議秀長卿男、母
　　　　正四位下藤宣輔　頭
左中辨　從四位上同清房　三月十六日補藏人頭去辨任右兵衞督
　　　　同　同宣輔　三〔四イ〕月廿六日轉右大辨同月日正四位下
　　　　正五位上同時房　四月十六日轉左大同日從四位下
　　　　從四位下同義資　三月十六日補藏人頭同日轉左
右中辨　從四位上同宣輔　三月十六日轉
　　　　正五位上同時房　四月十六日轉同日從四位下
　　　　同　同資光
權右中辨同　同義資（廿一）　藏四月十六日任十九日辭權佐十一月廿八日從四下
　　　　故從一位前大納言重光卿男、

應永十五正五從五位下、同廿一三十六補藏人、

于時右衛門權佐、

左少辨　正五位上同時、　藏

同　同資光　藏三月十六日轉歟

正五位上同藤光　廿五四月十六日轉歟十一月廿八日補藏人

右少辨　正五位上同資光　藏

正五位下同藤光　三月十六日任歟

故權大納言資藤卿男、

正五位下同盛光　四月十六日轉歟

權右少辨從五位上同盛光　三月十六日任歟月日正五位下

故權大納言資國卿男、（康富記云廿二年五月十六日正五下右少辨經貞權右大辨盛光）

正五位上同經興　藏

故權大納言經豐卿男、母

應永七五五叙爵八（五イ）、同、、右衛門佐、同十九七廿九藏人、十七歲、八月廿九日新帝藏人、同廿一十一四左衛門權佐使宣旨、同日權右少辨、

應永廿二年乙未

左大辨（位在時、上）　從四位下藤時、　廿二頭月日從四位上月日正四位下同日正四位上三ヶ度

右大辨　正四位下同宣輔　廿四頭三月廿八日任參木去辨

同　同資光　廿四三月廿八日轉歟十一月補藏人頭

左中辨　從四位下同義資　廿二

右中辨（位在義資上）　同　同資光　、從四位上、正四位下

正五位上同藤光　三月廿八日轉

左少辨　同　同藤光　藏

同　同行光　藏三月廿八日任歟

故入道權大納言資衡卿男、母

應永廿二四廿四藏人、同月廿六日辭左衛門權佐、

右少辨　正五位下同經興　三月廿八日轉、正五位歟（康富記十月一日平座見參正五位上云々）

權右少辨同　同經興　藏

同　同盛光　三月廿八日任

故權大納言資國卿男、母

應永廿三年丙申

左大辨　正四位上藤時、　頭十一月四日任參木左大辨如元

右大辨　同　同資光　廿五頭十一月四日任參木兼右大辨山城權守

左中辨　從四位下同義資　十一月四日補藏人頭

右中辨　正五位上同藤光　藏

左少辨　同　同行光　藏

右少辨　同　同經興　藏
權右少辨正五位下同盛光　傳云三月廿五日補藏人

應永廿四年丁酉
左大辨　正四位上藤時、　參月日長門權守
右大辨　同　同資光　參山城權守
左中辨　同　同義資　頭
右中辨　正五位上同藤光　藏
左少辨　同　同行光　藏
右少辨　同　同經興　藏
權右少辨正五位下同盛光

應永廿五年戊戌
左大辨　正四位上藤時、　廿五參長門權守正月五日敍從三位
右大辨　同　同資光　廿七參山城權守正月五日敍從三位
左中辨　同　同義資　廿二頭
右中辨　正五位上同藤光　十一月廿七日從四位下十一月二日補藏人頭、從四位上
左少辨　同　同行光　藏四月廿一日從四位下
右少辨　同　同經興　藏
權右少辨正五位下同盛光　傳云三月廿七日從四下于時右中辨廿六卒〔正カ〕五位三十五轉右中見康富記

應永廿六年己亥
左大辨　從三位　藤時、　參長門權守三月十日任權中納言除目
・正四位上同義資　廿三參四月廿六日敍從三位八月七日補使別當同日右兵衛督十二月五日任權中納言
右大辨　同　同資光　參山城權守三月十日任權中納言
從四位上同藤光　頭三月十日參木同日兼右大辨十五日辭辨歟
從四位下同行光　三月十五日轉月日從四位上
左中辨　正四位上同義資
從四位下同行光　三月十日補藏人頭
同　同經興　三月十五日轉月日從四位上
右中辨　從四位上同藤光　頭
正五位上同經興　三月十日轉同日敍從四位下補藏人頭
同　同盛光　三月十五日轉
左少辨　從四位下同行光
正五位上同盛光　藏三月十日轉
正五位下同宗豐　藏三月十五日轉月日正五位上歟
右少辨　正五位上同經興　藏
正五位下同宗豐　藏三月十日任
故前參議定顯卿男、母
年月日左兵衛權佐、年月日正五位下、應永廿五三

廿七補藏人、

權右少辨同　正五位下同秀光　三月十五日轉、、正五位上敍

同　同盛光　藏、

同　同秀光　三月十日任

入道儀同三司資敎公二男、母

正五位下同宣光　藏三月十五日任四月去權佐十一月廿七日叙正五位上

權大納言兼宣卿男、母

應永十五十廿三文章生、五歲、同十七二廿二對策、三三從五位下、同十八十一八元服、十一歲、十二月卅日治部少輔、同十九八廿三侍從、十二歲、同廿二九廿三右衞門權佐、十五歲、同廿三正七從五位上、同月卅日左權佐、同廿四正五正五位下、十七歲、同廿五三廿八補藏人、十五歲、

應永廿七年庚子

左大辨　從四位上藤行光　廿八閏正月十日任參木同日轉十二月卅日敍正四下

右大辨　同　同行光

同　同經興　廿五閏正十日任參木同日轉十、任右衞門督補別當止大辨、閏正月十三日補藏人頭、、從四位上、、正四位下

從四位下同盈光

左中辨　從四位上同經興

右中辨　同　同宗豐　月日轉敍

從四位下同盛光

同　同宗豐　閏正月十三日轉、、從四位上敍

正五位上同秀光　月日轉敍

左少辨　同　同秀光

同　同宣光　閏正月廿八日轉

右少辨　同　同秀光

同　同宣光　閏正月十三日轉

正五位下同房長　閏正月十三日任敍三月廿三日補藏人于時右少辨

權大納言兼長卿男、

應永廿四正六正五位下、宣光右少辨任日、房長補藏人日、右少辨、、江、岡之宗豐秀光左右中辨轉任也、

權右少辨正五位上同宣光　藏

正五位下同俊國　藏閏正月十三日任

故、、、俊繼男、

月日右衞門佐、應永廿六三十補藏人、八月十日辭權佐、

應永廿八年辛丑

左大辨　正四位下藤行光 廿九　參三月廿四日兼周防權守、十二月廿一日任權中納言
　同　同盛光　參十二月六日轉任
右大辨　同　同盛光　頭七月五日任參木右大辨長門權守如元
　同　同宗豐　頭十二月廿一日轉歟
左中辨　從四位上同宗豐　七月五日補藏人頭、正四位下
　從四位下同秀光　十二月廿一日轉歟、從四位上
右中辨　正五位上同秀光　月日從四位下歟
　同　同宣光　十二月廿一日任
左少辨　同　同宣光　藏
　正五位下同房長　藏十二月廿一日轉歟
右少辨　同　同房長　藏
　同　同俊國　十二月廿一日轉
權右少辨同　同俊國　藏
　從五位上同經直
　權大納言經豐卿次男、

應永廿九年壬寅
左大辨　正四位下藤盛光　參正月五日叙從三位美作權守
右大辨　同　同宗豐　頭正月五日叙正四位上十月廿八日任參木辨如元十二月十八日叙從三位
左中辨　從四位下同秀光　正月五日從四位上十月廿八日補藏人頭十二月十八日叙正四位下
右中辨　正五位下同宣光　藏三月廿六日叙從四位下十二月十八日叙從四位上
左少辨　同　同房長　藏
右少辨　同　同俊國　藏
權右少辨同　同經直　三月廿九日補藏人

應永卅年癸卯
左大辨　從三位　藤盛光　參八月廿七日任權中納言
　同　同宗豐　八月廿七日轉
右大辨　同　同宗豐　參
　正四位上同宗繼 廿四　八月廿七日任
　前權中納言宗宣卿男、母
左中辨　正四位下同秀光　頭
右中辨　從四位上同宣光　三月五日補藏人頭八月廿四日正四位下
左少辨　正五位上同房長　藏
右少辨　正五位下同俊國
權右少辨同　同經直

應永卅一年甲辰

左大辨　從三位　藤宗豐　參美作權守三月十七日任權中納言
同　同藤光　卅五　參三月十七日兼任
右大辨　正四位上同宗繼　參正月五日從三位三月十七日兼能登權守十月十一日辭參木辨等
左中辨　正四位上同秀光　頭
右中辨　正四位下同宣光　頭八月五日正四位上
左少辨　正五位上同房長　藏
右少辨　正五位下同俊國　藏
權右少辨同　同經直　藏

應永卅二年乙巳
左大辨　從三位　藤藤光　參正月五日叙正三位六月七日任權中納言
正四位上同秀光　六月七日參木同日轉紀伊權守十一月廿七日拜賀
右大辨　同　同秀光　正月卅日轉歟
同　同宣光　六月十七日參木同日兼任
左中辨　同　同秀光　頭
同　同宣光　頭正月卅日轉
正五位上同房長　六月七日轉
右少辨　正四位上同宣光　頭
正五位上同房長　正月卅日轉
同　同俊國　六月七日轉歟
權右中辨同　同俊國　正月卅日轉
正五位下同忠長　六月七日任元左衛門佐
故權中納言清長卿男、母權大納言時光卿女、
左少辨　正五位上同房長　藏
從五位下同資親　正月卅日任六月七日補藏人
從一位有光卿男、母
右少辨　正五位上同俊國　藏
正五位下同經直　正月卅日轉歟
權右少辨從五位上同經直　藏、正五位下六月七日辭藏人十二月二日還補卅日拜賀

應永卅三年丙午
左大辨　正四位上藤秀光　參三月廿九日兼讚岐權守
右大辨　同　同宣光　參三月廿五日裹母六月三日除服宣下
左中辨　正五位上同房長　藏五月十五日叙從四位下
右中辨　同　同俊國　藏六月廿一日卒
正五位下同忠長　十二月十八日轉
權右中辨正五位下同忠長
左少辨　同　同資親　藏
右少辨　同　同經直　藏

權右少辨從五位上同政光 十五十二月八日任、同日補藏人
權中納言義資卿男、

應永卅四年丁未
左大辨 正四位上藤秀光 參讃岐權守
右大辨 正四位下同宣光 參
左中辨 從四位下同房長
右中辨 正五位下同忠長 六月七日補藏人
左少辨 同 同資親 藏
右少辨 同 同經直 藏六月七日止職歟
權右少辨從五位上同政光 藏正月五日敍正五位下

應永卅五年戊申 四月廿七日改元爲正長、七月廿八日
新帝踐祚、
左大辨 正四位上藤秀長 參讃岐權守正月日裏父月日敍從三位十一月三日任權中納言
從四位上同房長 十一月三日轉同日補藏人頭
右大辨 正四位上同宣光 參三月日改親光十月日敍從三位十一月三日任權中納言
從四位下同忠長 十一月三日轉同日補藏人
左中辨 同 同房長 月日從四位上
正五位下同資親 藏十一月三日轉

右中辨 同 同忠長
左少辨 同 同資親 藏
同 同經直 十一月三日轉公卿補任文安六任參木元前左少辨
右少辨 同 同經直
從五位上同明豊 十一月三日任同日補藏人
權中納言俊輔卿男、母
永、、從五位下、五歲、同廿五十二二三元服、同、、
從五位上、同卅二正卅治部少輔、十二歲、
權右少辨正五位下同政光 藏

後花園院
正長二年己酉 九月五日改元爲永享、
左大辨 從四位上藤房長 頭
右大辨 從四位下同忠長 頭
左中辨 正五位下同資親 藏十月十六日兼左衞門權佐十二月十三日敍從四位下
右中辨 同 同幸房 十一月廿一日轉歟
左少辨 同 同幸房 月日任歟三月廿四日左少將歟
前權大納言家俊卿男、母
從五位上同明豊 十一月廿一日轉同月日正五位下、正五上

右少辨　同　同明豐　藏

正五位下同政光　藏十一月廿一日轉改名重政

權右少辨同　同政光

從五位上同嗣光　十一月廿一日同日補藏人

權大納言兼按察使資家卿男、母

年月日從五位上、

永享二年庚戌　十月廿六日御禊行幸、十一月十八日大嘗會、

左大辨　從四位上藤房長　頭二月日止官職

正三位　同宗繼　參十二月卅日兼任月日補大嘗會檢校

右大辨　同忠長　頭

左中辨　從四位下同資親

右中辨　同　同幸房

左少辨　正五位上同明豐　藏

右少辨　正五位下同重政　藏正月日正五位上七月十七日左衛門權佐

權右少辨同　同嗣光　藏

永享三年辛亥

左大辨　正三位　藤宗繼　參周防權守

右大辨　同忠長　頭

左中辨　從四位下同資親

右中辨　同幸房

左少辨　正五位上同明豐　藏

右少辨　同　同重政　藏

權右少辨　同嗣光　藏

永享四年壬子

左大辨　正三位　藤宗繼　參六月廿三日任權中納言

同　同淸房　參同日兼任

右大辨　同忠長　頭

左中辨　從四位下同資親

右中辨　同幸房

左少辨　正五位上同明豐　藏

右少辨　同　同重政　藏

權右少辨　同嗣光　藏月日改名長淳

永享五年癸丑

左大辨　正三位　藤淸房　參相模權守

右大辨　同忠長　頭

左中辨　從四位下同資親

右中辨　同幸房

左少辨　正五位上同明豐　藏

右少辨　同重政　藏

權右少辨　同長淳　藏

永享六年甲寅

左大辨　正三位　藤清房　參

右大辨　同忠長　頭

左中辨　從四位下同資親

右中辨　同幸房

左少辨　正五位上同明豐　藏

右少辨　正五位上同重政　藏六月十二日出家依父卿事也

權右少辨　同長淳　藏

永享七年乙卯

左大辨　正三位　藤清房　參

右大辨　同忠長　頭

左中辨　從四位下同資親

右中辨　同幸房

左少辨　正五位上同明豐　藏

右少辨　正五位下同資任　十九三月十一日任

故入道權中納言豐光卿男、母

年月日左（右イ）衛門權佐、永享六十廿九補藏人、

權右少辨正五位上同長淳　藏

永享八年丙辰

左大辨　正三位　藤清房　參

右大辨　同忠長　頭

左中辨　從四位上同資親　十一月十二日補藏人頭

右中辨　同幸房

左少辨　正五位上同明豐　藏

右少辨　同資任　藏

權右少辨　同長淳　藏

永享九年丁巳

左大辨　正三位　藤清房　參

右大辨　同忠長　頭月日卒

從四位上同資親　十月十九日轉

左中辨　同　同資親　頭

同幸房
右中辨　同幸房
正五位上同明豐　十月十九日轉
左少辨　同　同明豐　藏
同資任　十月十九日轉
右少辨　同資任
從五位上同俊秀　十一月廿七日任
故權右中辨俊國男、
權右少辨　同長淳　藏

永亨十年戊午
左大辨　正三位　藤清房　參
右大辨　正四位上同資親　頭三月卅日任
左中辨　從四位下同幸房　參木辨如元三月卅日補藏人頭今日四品
右中辨　正五位上同明豐　藏十二月廿四日叙從四位下
左少辨　同　同資任　藏
右少辨　從五位上同俊秀　十二月廿四日補藏人、正五位下
權右少辨正五位上同長淳　藏

永亨十一年己未
左大辨　正三位　藤清房　參三月十八日辭兩官
右大辨　正四位上同資親　參
左中辨　從四位下同幸房　頭正月十六日止官職
同　同明豐　正月日轉、從四位上、正四位下、左宮城使
右中辨　同　同明豐　頭
正五位上同長淳　正月日轉
權右中辨同　同資任　正月日轉
左少辨　同　同資任　藏
正五位下同俊秀　三月十八日轉、正五位上
右少辨　同　同俊秀　藏
從五位上同資綱　月日任歟
權大納言忠秀卿男、母贈左大臣資國公女、
權右少辨正五位上同長淳　藏

永亨十二年庚申
左大辨
右大辨　正四位上藤資親　參正月六日叙從三位
左中辨　正四位下同明豐　頭、正四位上
右中辨　正五位上同長淳　藏正月六日叙從四位下
權右中辨同　同資任　藏

左少辨　同　同俊秀　藏

右少辨　従五位上同資綱　正月七日補藏人

永享十三年辛酉　二月十七日改元爲嘉吉、依革命也、

左大辨　従三位　菅爲清　八月十九日任止卿

故、、爲守男、母

永享九八廿九従三位、同日大藏卿、同十一三廿八越後權守、

右大辨　従三位　藤資親　参美作權守

左中辨　正四位上同明豐　本嗣光

右中辨　従四位上同長淳　三月十六日補藏人頭　七月七日卒（出家歟）

同　同資任

權右中辨正五位上同資任　正月六日叙従四位下　十二月七日轉

同　同俊秀

左少辨　同　同俊秀

同資綱

右少辨　同資綱

同敎忠

故權大納言長忠卿男、母

嘉吉二年壬戌

左大辨　従三位　菅爲清　正月五日叙正三位十月廿九日任參木去辨同日薨

右大辨　同　藤資親　參

左中辨　正四位上同明豐　頭

右中辨　従四位下同資任　頭

權右中辨正五位上同俊秀　藏

左少辨　同資綱　藏

右少辨　同敎忠　藏

嘉吉三年癸亥

左大辨

右大辨　従三位　藤資親　參

左中辨　正四位上同明豐　頭

右中辨　同　同資任　頭

權右中辨正五位上同俊秀　藏

左少辨　同　同資綱

右少辨　同　同敎忠　廿二　藏

嘉吉四年甲子　二五改爲文安元、

大辨直任例

左大辨　従三位　菅益長　卅八　三廿九任依帝侍讀也（帝以下四字據ヅ、ク、ナ正之）

故參議長遠卿男、母

右大辨　正四位上藤資任廿八　三廿〔八〕轉頭七十兼參議

左中辨　正四位上同明豐廿五　頭左宮城使三廿九任參木去辨

右中辨　正五位上同俊秀廿二　三廿九轉藏人

　　　　正四位上同資任廿九　頭右宮城使轉右大

位俊秀上

　　　　正五位上同資綱廿六　三廿九轉藏人

權右中辨正五位上同俊秀　藏人轉左中

　　　　正五位上同敎忠　同日轉藏人

左少辨　正五位上同資重　藏改名爲資綱轉右中

　　　　正五位上同成房廿二　三廿九任

權大納言時房卿嫡男、母

右少辨　正五位上藤敎忠　藏人轉左

　　　　正五位下同親長廿一　三廿九任

故頭左大辨房長朝臣男、母

文安二年乙丑

左大辨　從三位　菅益長　三廿三兼山城權守

右大辨　正四位上藤資任　參議三廿三兼丹波權守

左中辨　正五位上同俊秀　藏人三廿三爲左宮城使

右中辨　正五位上同資綱　藏人、、爲右宮城使

權右中辨正五位上同敎忠〔房〕　藏

左少辨　正五位上同成、廿三　、、、敘正五位上

右少辨　正五位下同親長廿二

文安三年丙寅

左大辨　從三位　菅益長　山城權守十二七去辨

　　　　從四位下藤俊秀　十二七轉

右大辨　正四位上同資任廿　參議丹波權守五二敘從三位十二七權中納言

　　　　從四位下同資綱廿八　十二七轉

左中辨　正五位上同俊秀　藏人正廿九從四下十二七轉左大左宮城使

　　　　正五位上同敎忠　十二七轉藏人

右中辨　正五位上同資綱　藏右宮城使、、、轉右大正廿八〔ッ、ナ、ク、作廿九〕從四下

　　　　正五位上同成、〔房〕廿四　十二七轉藏

權右中辨正五位上同敎忠　藏轉左中

　　　　正五位上同親長廿三　十二七轉藏

左少辨　正五位上同成、〔房〕　正廿九轉五位藏人十二七轉右中

　　　　正五位上同敎秀　十二七任元左衛門佐

故前權中納言經成卿男、母

右少辨　正五位下藤親長　正廿九補五位藏人、、、正五上

正五位下同勝光 十八十二七任元

故前權中納言義資卿男、實入道右少辨重政卿男、

（卿ノ字如何可勘之、）爲父祖子、

文安四年丁卯

左大辨 從四位下藤俊秀 三十七補藏人頭爲造東大寺長官五、從四上、、正四下

右大辨 從四位下同資綱 廿九 三十七補藏人頭五、從四上、、正四下

位俊秀上

左中辨 正五位上同敎（成イ）忠 藏人三十十七從四下爲左宮城使十二廿四從四上

右中辨 正五位上同冬房 廿五 藏三、爲右宮城使廿九從四下十廿六從四上

權右中辨正五位上同親長 藏

左少辨 正五位下同敎秀 三十七補五位藏人

右少辨 正五位下同勝光 十九（三十七イ）四廿九補五位藏人

文安五年戊辰

左大辨 正四位下藤俊秀 頭造東大寺長官正六敍正四上

右大辨 正四位下同資綱 頭正六敍正四上

左中辨 從四位上同敎忠 左宮城使

右中辨 從四位上同冬、〔房〕 廿六 右宮城使

權右中辨正五位上同親長 藏正五從四下十一六從四上

左少辨 正五位下同敎秀 藏正五敍正五上

右少辨 正五位下同勝光 廿 藏正五敍正五上

文安六年己巳 七廿八改爲寶德元、

左大辨 正四位上藤俊秀 頭造東大寺長官三八兼參木

右大辨 正四位上同資綱 頭三廿八兼參木

左中辨 從四位上同敎忠 左宮城使正七正四下三廿八補藏人頭、、、正四上

右中辨 從四位、同冬、〔房〕 廿七 右宮城使正七正四下三廿八補藏人頭、、、正四上

權右中辨從四位上同親長

左少辨 正五位上藤敎秀 廿八 藏人、、從四下

右少辨 正五位上同勝光 廿一 藏

寶德二年庚午

左大辨 正四位上藤俊秀 參木造東大寺長官正六敍從三位四廿六任權中納言

正四位上同冬、 四廿六轉參木

右大辨 正四位上同資綱 參木正六從三位四十二任權中納言

正四位上同冬、〔房〕 四十二轉同日兼參木同廿六轉左

年中三ヶ度加級例

從四位上同勝光 四廿六轉（越親長）六廿九正四下（越親長）十七兼參木

越上首轉任并加級例

左中辨 正四位上同敎忠 頭左宮城使三廿九任參木去辨

正四位上同冬、〔房〕 三廿九頭四十二轉右大

從四位上同親長 四十三〔諸本作十二〕轉十、補藏人頭同十九日正四下

權左中辨從四位上同親長〔房〕 三廿九轉、轉左中

右中辨　正四位上同冬、 頭右宮城使轉左中

〔越上首轉任并加階例〕諸本

從四位下同勝光 三廿九轉越敎秀朝臣同日從四下補藏人頭四從四上(越敎秀)同廿六轉右大

從四位下同敎秀 四十六〔諸本廿六〕轉十一廿四從四上十二廿九正四下轉權

權右中辨從四位上同親長 左

從四位下同敎秀 四十二轉同廿六日轉右中

正五位上同綱光廿 四廿六轉藏

左少辨　從四位下同敎秀 四十二轉權右中

正五位下同綱光 四十二轉藏同廿六日轉權右中

從四位下同資世 四廿六轉

右少辨　正五位上同勝光 藏人三廿五叙從四下同日轉右中辨補藏人頭(越親長敎秀等朝臣)

正五位上同綱光廿三 三廿九任元藏人右兵衛佐(今日去佐) 四十二轉左少

故前權中納言兼鄕卿二男、

從四位下同資世 四十二任元同廿六轉左

前權大納言隆光卿男、

正五位下藤高淸十六 四廿六任九廿一補五位藏人

故權大納言淸房卿男、

寶德三年辛未

左大辨　正四位上藤冬房 參議正五從三位二六任權中納言

從三位　同勝光廿三 二廿六轉參木三廿六任權中

右大辨　正四位下同勝光廿三 參木正五叙從三位、、、轉左

從三位　同敎忠 三廿六兼任參議同日兼遠江權守

左中辨　正四位下同親長 頭二七正四上三、左宮城使

右中辨　正四位下同敎秀 、、爲右宮城使

權右中辨正五位上同綱光 藏

左少辨　從四位下同資世

右少辨　正五位下同高淸 藏人一叙正五上

寶德四年壬申　七廿五改爲享德元、

左大辨　從三位　菅繼長卅九 三廿三任十七辭

前參議長鄕卿男、

從三位　藤親長 十、轉參議

右大辨　從三位　同敎忠 參議二十七任權中納言

正四位上同親長 三廿三轉同日兼參木同廿五從三位十、轉左

左中辨　正四位上同親長 頭左宮城使、、轉右大

正四位下同敎秀 三廿三轉同日補藏人頭、、爲右宮城使

右中辨　正四位下同敎秀 右宮城使、、轉左

正五位上同繼光 三廿三轉藏、、爲右宮城使

權右中辨正五位上同繼光 藏、、轉右中

從四位上同資世 三廿三轉

左少辨 從四位下同資世 正、從四上、、轉權右中

正五位上同高清 十八 三廿三轉藏

右少辨 正五位上同高清 藏、、轉左

正五位上同經茂 廿三 三廿三任(元藏人右兵衛權佐)去佐

故參議經直朝臣男、

享德二年 癸酉

左大辨 從三位 藤親長 參木十八任權中納言

正四位上同敎秀 十八轉參木

右大辨 正四位上同敎秀 三廿五轉同日兼參木十八轉左

正四位上同繼光 十八轉頭

左中辨 正四位上同敎秀 頭轉右大

正四位下同繼光 三廿五轉同日補藏人頭爲左宮城使幷氏院別當十八轉右大辨

一ヶ月兩度加級例
年中三ヶ度加級例

右中辨 正五位上同繼光 藏正五叙從四下同廿九日從四上三五叙正四下越資世同廿五日轉左

從四位上同資世 三廿五轉同日爲右宮城使十、正四下

權右中辨從四位上同資世 十九 轉正

左少辨 正五位上同高清 十九 三廿五轉藏十七從四下九廿七從四上

正五位上同高清 藏轉權右中

正五位上同經茂 廿四 三廿五轉藏

右少辨 正五位上同經茂 藏轉左

十五未滿任辨官例
同補五位藏人例

正五位下同氏光 十四 三廿五任(元侍從)四廿七補五位藏人、改名爲益光

權大納言資任卿一男、

享德三年 甲戌

左大辨 正四位上藤敎秀 參木二十一從三位三廿三爲造東大寺長官同日兼近江權守

右大辨 正四位下同綱光 頭正五叙正四位上三十三兼參木氏院別當

左中辨 正四位下同資世 正廿九轉二〔諸本作一〕廿補藏人頭爲左宮城使同廿八日正四上

右中辨 正四位下同資世 右宮城使、轉左

從四位上同高清 正廿九轉三廿三爲左宮城使

權右中辨從四位上同高清 轉正

正五位上同經茂 正廿九轉藏

左少辨 正五位上同經茂 藏轉權右中

正五位下同益光 正廿九轉藏

右少辨 正五位下同益光 藏轉左

享德四年乙亥　七廿五改爲康正元、

左大辨　從三位　藤敎秀　參木造東大寺長官近江權守三廿八任權中納言

從三位　同綱光　九四轉參議越中權守造東大寺長官

右大辨　正四位上同綱光　參議正五從三位三廿八兼越中權守爲造東大寺長官四九轉左

正四位上同資世　九四轉頭

左中辨　正四位上同資世　頭左宮城使、

右中辨　從四位上同高清　、、轉右大右宮城使、、、正四下

權右中辨正五位上同經茂　藏

左少辨　正五位下同益光

右少辨

康正二年丙子

左大辨　從三位　藤綱光　廿六參議越中權守造東大寺長官三廿九任權中納言

正四位下同高清　廿二十一廿五轉頭

右大辨　正四位上同資世　頭三廿九任參木去辨

左中辨　正四位下同高清　正十九轉同日爲裝束司三廿八〔諸作廿九〕補藏人頭爲左宮城使十一、轉左大

正五位上同經茂　十一廿五轉藏右宮城使轉左

右中辨　正四位　同高清

正五位上同經茂　正廿六轉藏三廿九爲右宮城使十一、轉左

正五位上同益光　十一廿五轉藏右權佐

權右中辨正五位上同經茂　藏轉右中

正五位下同益光　四二轉左〔諸本作藏〕七廿叙正五上同廿二日兼右衞門權佐同日蒙使宣十一廿五轉正

左少辨　正五位下同益光　藏轉權右中

正五位下同宣胤　十一廿三〔諸本作廿五〕轉藏

右少辨　正五位下同宣胤十五　三廿九元右衞門佐、四、補五位藏人

權大納言明豐卿男、

康正三年丁丑　九廿八改爲長祿元、

左大辨　正四位下藤高清廿三　頭正十正四上廿九兼越後權守爲造東大寺長官

右大辨　從四位下同經茂廿八　二九轉今日從四下四九從四上

左中辨　正五位上同經茂　藏二九叙從四下轉右大

從四位下同益光十八　六廿五轉

右中辨　正五位上同益光　藏右權佐三廿九從四下同日爲右宮城使六、轉左

正五位下同宣胤十六　六廿五轉藏

左少辨　正五位下同宣胤　藏轉右中

從五位上同俊顯　六廿五轉藏

右少辨　從五位上同俊顯十五　二十七任（越平時定已下數闕）元左兵衞佐去之同日補藏人六廿五轉左

前權中納言俊秀卿男、

正五位下藤顯任 六廿五任（越平時定已下）元兵部權大輔去之
故權大納言顯時卿男、

長祿二年戊寅
左大辨 正四位上藤高清 廿四 頭越後權守造東大寺長官五十四兼參木七廿（ヲ作廿七）從三位
右大辨 從四位上同經茂 廿九 二十三（ヲ作十二）正四下三十四兼山城權守五十四藏人頭六廿六正四上
左中辨 從四位下同益光 十九 三十四爲左宮城使
右中辨 正五位下同宣胤 十七 藏三十四爲右宮城使
左少辨 從五位上同俊顯 十六 藏
右少辨 正五位下同顯任

長祿三年己卯
左大辨 從三位 藤高清 參木造東大寺長官越後權守
右大辨 正四位上同經茂 頭山城權守
左中辨 從四位下同益光 左宮城使
右中辨 正五位下同宣胤 十八 藏右宮城使正五敍正五上
左少辨 從五位上同俊顯 十七 藏正五敍正五下
右少辨 位俊顯上 正五位下同顯任 三十一正五上

長祿四年庚辰 十二廿一（諸本作廿二）改元爲寬正、
左大辨 從三位 藤高清 廿六 參木越後權守造東大寺長官八廿八任權中納言
正四位上同經茂 卅 八廿八轉頭山城權守十二十五兼參木
右大辨 正四位上同經茂 頭山城權守轉左
從四位下同益光 卅一 九八轉十二廿五補藏人頭
左中辨 從四位下同益光 左宮城使轉右大
正五位上同宣胤 十九 九十三轉藏同廿五日爲裝束司
右中辨 正五位上同宣胤 藏右宮城使轉左
左少辨 正五位下同俊顯 十八 藏正六敍正五上
右少辨 位俊顯上 正五位上同顯任
權右少辨 正五位上同廣光 十七 十二廿任元藏人右兵衞權佐去之
前權大納言從一位資廣卿男、

寬正二年辛巳
左大辨 正四位上藤經茂 卅二 參木山城權守氏院別當三、造東大寺長官
右大辨 年中三ヶ度加級例 從四位下同益光 廿二 頭正五從四上三廿八兼長門權守六十三敍正四下十二一正四上
左中辨 同 正五位上同宣胤 廿 藏、二、爲左宮城使正五從四下同十日藏人頭三五從四上同廿八日兼伊勢權守六十三正四下
右中辨 正五位上同俊顯 十九 三廿六轉爲右宮城使

権右中辨從四位下同顯任 四十 轉

左少辨　正五位、同俊顯 藏轉右中

從四位下同顯任 三廿八轉四、轉權右中

正五位上同廣光 十八 四十三轉藏

右少辨 位俊顯上 正五位上同顯任 正五從四下轉左

正五位上同廣光 三廿八轉藏左

從五位上同氏長 四十、任元左衛門佐去之

權中納言親長卿一男、母

権右少辨正五位下同廣光 藏正五正五上轉正

寛正三年 壬午

左大辨　從三位　藤經茂 參木氏院別當造東大寺長官山城權守(今年秩滿)三廿八兼周防權守

右大辨　正四位上同益光 頭長門權守

左中辨　正四位下同宣胤 頭左宮城使伊勢權守正五叙正四上

右中辨　正五位上同俊顯 藏左宮城使

權右中辨從四位下同顯任

左少辨　正五位上同廣光 藏

右少辨　從五位上同氏長 、補五位藏人

寛正四年 癸未

左大辨　從三位　藤經茂 廿四 參木周防權守氏院別當造東大寺長官

右大辨　正四位上同益光 廿四 頭長門權守三廿八兼參木

左中辨　正四位上同宣胤 廿二 頭伊勢權守左宮城使

權左中辨正五位上同俊顯 十二六轉藏

右中辨　正五位上同俊顯 藏右宮城使轉權左

正五位上同廣光 十二六轉藏、

權右中辨從四位下同顯任 、出家

左少辨　正五位上同廣光 藏轉右中

正五位上同氏長 十二六轉藏

右少辨　從五位上同氏長 藏正五叙正五下十十九正五上、轉左

正五位下同尚光 十六 十二六任(元右兵衛佐去之)同廿日叙正五上

前權大納言資綱卿男、母

寛正五年 甲申　七十九日御讓位、

左大辨　從三位　藤經茂 參木周防權守氏院別當造東大寺長官

右大辨　正四位上同益光 參木長門權守

左中辨　正四位上同宣胤 頭左宮城使伊勢權守七十九補新帝頭

權左中辨正五位上同俊顯 廿二 藏十(諸本作七)十七補新帝藏人十一廿四從四下

右中辨　正五位上同廣光 藏七十九補新帝藏人

左少辨　正五位上同氏長　藏七十九補 新帝藏人

右少辨　正五位下同尙光　十二廿三補 五位藏人

後土御門院

寛正　文正　應仁　文明

長享　延德　明應

後柏原院

明應　文龜　永正　大永

後奈良院

大永　享祿　天文　弘治

後土御門院

寛正六年乙酉

左大辨　從三位　藤經茂　卅六 參木周防權守氏院別當造東大寺長官

右大辨　正四位上同益光　廿六 參議長門權守（今年秩滿）正五 叙從三位三廿四兼丹波權守

左中辨　正四位上同宣胤　廿四 頭左宮城使伊勢權守（秩滿）（ツ本在俊顯下）

權左中辨從四位下同俊顯　廿三（二ク）

右中辨　正五位上同廣光　廿二 藏三廿四爲右宮城使

左少辨　正五位上同氏長　藏

右少辨　正五位上同尙光　十八 藏

寛正七年丙戌　三廿八改元爲文正、

左大辨　從三位　藤經茂 卅六 參木周防權守、造東大寺長官
　　　　正四位上同宗繼 廿四 十二十三任參木
右大辨　從三位　同益光 廿四 參木丹波權守九廿四遷左衞門督爲使別當去大辨
　　　　正四位下同俊顯 廿四 轉頭
左中辨　正四位上同宣胤 廿五 頭左宮城使三廿九任參木去辨
　　　　從四位上同俊顯 廿四 三廿九轉同日補藏人頭、正四下
　　　　從四位下同廣光 十二卅轉、從四上
權左中辨從四位下同俊顯
右中辨　正五位上同廣光 藏右宮城使十二廿九從四下卅日轉左
　　　　正五位上同氏長 十二卅轉藏
權右中辨正五位上同氏長 三廿九轉藏十二卅轉正
左少辨　正五位上同氏長 藏轉權右
　　　　正五位上同尙光 三廿九轉十、兼近江守
右少辨　正五位上同尙光 藏轉左
　　　　從五位上同光忠 廿六 三廿九任
　　　　前權大納言敎忠卿男、

文正二年丁亥　三五改爲應仁元、
左大辨　正四位上同宗綱 廿三 參木二六敍從三三廿七兼因幡權守九、辭兩官
　　　　正四位上同俊顯 廿五 九、轉
右大辨　正四位上同俊顯 頭三十七爲兼參木九、轉左
　　　　正四位下同廣光 十一一轉頭
左中辨　從四位下同廣光 十一一轉同、正四下
　　　　從四位上同春房 清クイ 十一一轉同、正四下本名氏長改春房當家相續ノ故也藏正五從四下同、改名春房同廿八日從四上三廿七右宮城使
　　　　年中三ヶ度加級例
右中辨　正五位上同氏長 十一一轉左
　　　　正五位上同尙光 廿 十一一轉近江守
左少辨　正五位上同尙光 藏近江守十一一轉右中
　　　　正五位上同兼顯 十九 十一一轉藏左權佐十一去權佐
右少辨　從五位上同光忠 十七 正、解官
　　三事
　　　　正五位上同兼顯 正卅任藏人左衞門權佐如元十一一轉左
　　　　正五位下藤季光 十一一任元藏人右衞門佐去佐十二廿九正五上
　　　　權中納言綱光卿男、母
　　　　准大臣資任公二男、母故參議資爲淸卿女、

應仁二年戊子
左大辨　從三位　藤俊顯 參木
右大辨　正四位下同廣光 頭
左中辨　正四位下（上イ）同春房
右中辨　正五位上同尙光 藏近江守

左少辨　正五位上同兼顯　藏

右少辨　正五位上同季光　藏

應仁三年己丑　四廿八改元爲文明元、

左大辨　從三位　藤俊顯廿七　參木十一二任權中納言

　　　　正四位下同廣光　十一二轉同日兼參十同十二日褒父

右大辨　正四位下同廣光　頭十一二轉左

　　　　正四位下同春房　十一二轉同日補藏人頭

左中辨　正四位下同春房　轉右大

　　　　正五位上同尙光　十一二轉藏同廿日從四下

右中辨　正五位上同尙光　位尙光上　藏轉左近江守

中辨直任例

　　　　正四位下同種光　十一二任藏人頭右兵衞督去督

權中納言資世卿男、

權右中辨正五位上藤兼顯　十一二轉藏

左少辨　正五位上同兼顯　藏轉權右中

　　　　正五位上同季光　十一二轉藏文章博士藏三、兼文十博士、轉左

右少辨　正五位上同季光

十五歲未滿任辨官例　位尙光上

　　　　從四位下同資基十四　十一二任元左兵衞佐去之

前內大臣勝光公一男、

文明二年庚寅

左大辨　正四位下藤廣光　參木十二十四從三

右大辨　正四位下同春房　頭三廿三叙正四上十二十八兼參木

左中辨　從四位下同尙光　三廿七從四上十二十八補藏人頭

右中辨　正四位下同種光　頭三廿三正四上十二廿四任參木去辨

權右中辨正五位上同兼顯　藏

左少辨　正五位上同季光　藏文章博士

右少辨　從四位下同資基

文明三年辛卯

左大辨　從三位　藤廣光　參木

右大辨　正四位上同春房　參木五一出家法名春擧

左中辨　從四位上同尙光　頭四十一叙正四位下九六兼文章博士

右中辨　正五位上同兼顯　八廿九轉藏

權右中辨正五位上同兼顯　藏八廿九轉正

左少辨　正五位上同季光　藏文章博士七十卒

右少辨　從四位下同資基十六、出家

　　　　從五位上同政〔季イ〕顯十八　八廿〔九ヶ〕任元右兵衞佐去之同日補五位藏人

前權中納言教秀卿男、母故前中納言雅永卿女、

文明四年壬辰
左大辨　従三位　藤廣光　参木
右大辨
左中辨　正四位下同尚光　頭文章博士正　廿一正四上
右中辨　正五位上同兼顯　藏
左少辨　従五位上同政顯　三二轉藏
右少辨　従五位上同政顯　藏轉左
従五位下同元長十六　三二任元藏人右兵衛佐去佐
前權中納言親長卿男、母

文明五年癸巳
左大辨　従三位　藤廣光　参議
右大辨
左中辨　正四位上同尚光　頭文章博士改名爲量、
右中辨　正五位上同兼顯　藏
左少辨　従五位上同政顯　藏
右少辨　従五位下同元長　藏十三叙従五上

文明六年甲午
左大辨　従三位　藤廣光　参議
右大辨　正四位上同量光　轉頭
左中辨　年中三ヶ度加級例　正四位上同量光　頭文章博士轉右大
右中辨　正五位上同兼顯　藏正廿六叙従四下二四下二四従四上四廿正四下
左少辨　従五位上同政顯　藏閏五、正五下六十九正五上
右少辨　従五位上同元長　藏閏五、正五下六十九正五上

文明七年乙未
左大辨　従三位　藤廣光卅二　参木正廿八兼周防權守爲造東大寺長官三十叙正三位
右大辨　正四位上同量光廿八　頭正廿八兼参木
左中辨　正四位下同兼顯廿七　正廿八轉同日補藏人頭爲左宮城使
右中辨　正四位下同兼顯　轉左
正五位上同政顯廿二　正廿八轉藏
左少辨　正五位上同政顯　藏轉右中
正五位上同元長十五　正廿八轉
右少辨　正五位上同元長　藏

文明八年丙申
左大辨　正三位　藤廣光　参木周防權守造東大寺長官
右大辨　正四位上同量光　参木十二廿九(八イ)被仰敷奏
左中辨　正四位下同兼顯　頭左宮城使正八叙正四上

右中辨　正五位上同政顯　藏
左少辨　正五位上同元長　藏
右少辨
權

文明九年丁酉

左大辨　正三位　藤廣光　卅四　參木周防權守造東大寺長官正六任權中納言八十五轉同日爲造東大寺
　　　　從三位　同量光　卅　長官十二卅任權中納言
右大辨　正四位上同量光　參木正六叙從三位八十五轉左
　　　　正四位上同兼顯　八十十五轉十二卅兼參議
左中辨　正四位上同兼顯　同廿八日爲南都轉奏頭左宮城使閏正十八被仰敷奏同爲武家傳奏八十五轉右大二十四服解父卿、復任
　　　　正五位上同政顯　八十五轉藏
右中辨　正五位上同政顯　藏轉左
左少辨　正五位上同元長　藏
右少辨

文明十年戊戌

左大辨
右大辨　正四位上藤兼顯　卅一　參木
左中辨　正五位上同政顯　藏

右中辨
左少辨　正五位上同元長　藏
右少辨

文明十一年己亥

左大辨
右大辨　正四位上藤兼顯　卅二　參木正五叙從三位二卅任權中納言
左中辨　正五位上同政顯　藏
右中辨
左少辨　正五位上同元長　藏正廿五氏院別當〔以上七字書入〕三卅任元六一補五位藏人九廿三從五上
右少辨　從五位下同俊名
故權中納言俊顯卿男、實權中納言經茂卿男、

文明十二年庚子

左大辨
右大辨
左中辨　正五位上藤政顯　藏六廿六從四下
右中辨　從五位上同光忠　廿　十九任元前右少辨自敵陣參入任之二廿一正五下
　　　　位光忠上
左少辨　正五位上同元長　藏
右少辨　從五位上同俊名　藏三卅正五下

權

文明十三年辛丑

左大辨

右大辨 從四位下藤政顯 九五轉頭

左中辨 從四位下同政顯 八十九補藏人頭九五轉右大

正五位下同光忠 九五轉十一、叙正五上

右中辨 正五位下同光忠 藏轉左

正五位上同元長 九五轉同廿日從四下十二三補藏人頭

左少辨 正五位上同元長 藏轉右中

正五位下同俊名 九五轉十一、正五上

右少辨 正五位下同俊名 藏

從五位上同家幸 九五任元

故前權中納言幸房卿男、

文明十四年壬寅

左大辨

右大辨 從四位下藤政顯 頭、從四上八十五正四下

左中辨 正五位上同光忠 藏

位光忠上

右中辨 從四位下同元長 頭、從四上八十四正四下

左少辨 正五位上同俊名 藏

右少辨 從五位上同家幸 六、補五位藏人

文明十五年癸卯

左大辨

右大辨 正四位下藤政顯 頭二九叙正四上十一十一兼參木

左中辨 正五位上同光忠卅三 藏十一(十イ)九從四下

位光忠上

右中辨 正四位下同元長 頭二九正四上

左少辨 正五位上同俊名 藏

右少辨 從五位上同家幸 藏

權右少辨從五位上同宣房十五 三六任元右衞門佐去之十一九補五位藏人

權中納言宣胤卿男、母

文明十六年甲辰

左大辨 從三位 藤政顯 六廿九轉參木

右大辨 正四位上同政顯 參木六八叙從三同廿九轉左

從四位上同光忠 六廿九轉

左中辨 從四位上同光忠 六六(八イ)從四上同廿九(同日イ)轉右大

正四位上同元長 六廿九轉頭

右中辨 正四位上同元長 頭轉左

中辨直任例　位忠光上
從四位上同政資 十六 六廿九任元侍從去之
故左大臣勝光公二男、
左少辨　正五位上藤俊名　藏
右少辨　從五位上同家幸　藏四九正五下
權右少辨從五位上同宣秀　藏人十二十五正五下

文明十七年乙巳
左大辨　從三位　藤政顯　參木
右大辨　從四位上同光忠
左中辨 位光忠上　正四位上同元長　頭
右中辨　從四位上同政資
左少辨　正五位上同俊名　藏
右少辨　正五位下同家幸　藏
權右少辨正五位下同宣秀　藏

文明十八年丙午
左大辨　從三位　藤政顯　參木八六任權中納言
正四位下同光忠 卅六 八九轉同日補藏人頭
右大辨　從四位上同光忠　六八（四廿九イ）正四位下轉右大
正四位上同元長　八九轉同日兼參木
左中辨　正四位上同元長　頭轉右大
正四位下同政資 十八 八九轉頭十一七正四上
右中辨　從四位上同政資　四廿八正四下八六補藏人頭
從四位下同俊名　八九轉
權右中辨正五位下同家幸　八九轉十一、叙正五上
左少辨　正五位上同俊名　藏、七廿三從四下、轉右中
正五位下同宣秀　八九轉藏十一十五叙正五上
右少辨　正五位下同家幸　藏轉權右中
正五位下同賢房　八十八任元藏人左兵衛權佐去佐
故儀同三司冬房公男、實權大納言教秀卿二男、
權右少辨正五位下同宣秀　藏轉左少

文明十九年丁未　七月廿日改爲長享元、
左大辨　正四位下藤光忠　頭十（廿イ）七叙正四上
右大辨　正四位上同元長　參木七十七從三位
左中辨　正四位上同政資　頭
右中辨　從四位下同俊名
權右中辨正五位上同家幸　藏
左少辨　正五位上同宣秀 十九 藏
右少辨　正五位下同賢房　藏

長享二年戊申

左大辨　正四位上藤光忠 卅八 頭九十七任參木去辨後日有申旨十八日兼大辨

右大辨　從三位　同元長 參木九十七任權中納言

　　　　正四位上同政資 九十七轉同日兼參木

左中辨　正四位上同政資 頭轉右大九十

　　　　從四位下同俊名 七轉

右中辨　從四位下同俊名 轉左

　　　　從四位下同家幸 九十七轉今日從四下

權右中辨正五位上同家幸 藏轉右中

左少辨　正五位上同宣秀 廿 藏

右少辨　正五位下同賢房 藏

長享三年己酉　八月廿一改元爲延德、

左大辨　正四位上藤光忠 參木十二廿三叙從三位

右大辨 位光忠上 正四位上同政資 參木十二廿三從三位

左中辨　從四位下同俊名 三十〔七ッ一ク〕叙從四位上

右中辨　從四位下同家幸 五廿三叙從四上

左少辨　正五位上同宣秀 藏

右少辨　正五位下同賢房 藏三月日隱居云々有子細

　　　　正五位下同守光 三月十任藏人右衞門佐去佐

故權中納言兼顯卿男、實權中納言廣光卿長子、母前權中納言基有卿女、

延德二年庚戌

左大辨　從三位　藤光忠 四十 參木十廿三任權中納言

右大辨 位光忠上 從三位　同政資 廿二 參木十廿三任權中納言

左中辨　從四位上同俊名 二十一補藏人頭三十九正四下

右中辨　從四位上同家幸 閏八廿五正四下

左少辨　正五位上同宣秀 藏人

權左少辨正五位下同守光

右少辨　正五位下同守光 藏人轉左

延德三年辛亥

左大辨

右大辨

左中辨　正四位下同俊名 頭十一廿九正四上

右中辨　正四位下同家幸

左少辨　正五位上同宣秀 藏

權左少辨正五位下同守光 藏

右少辨　正五位下同冬光 正六任藏人右兵衞權佐去佐

故准大臣實任公三男、實故左大臣勝光公三男、

延德四年壬子　七十九改爲明應元、

左大辨
右大辨
左中辨　正四位上藤俊名　頭
右中辨　正四位下同家幸
左少辨　正五位上同宣秀廿四　藏
權左少辨　正五位下同守光　藏正六叙正五上
右少辨　正五位下同冬光　藏正六叙正五上

明應二年癸丑

左大辨
右大辨　正四位上藤俊名　三廿五轉頭
左中辨　正四位上同俊名　頭轉右大
　正四位下同家幸　三廿五轉同日左宮城使
右中辨　正四位下同家幸　轉左
　從四位下同宣秀　三廿五轉同日爲右宮城使今日從四下
左少辨　正五位上同宣秀　藏轉右中
　正五位上同守光　三廿五轉藏
權左少辨　正五位上同守光　藏轉正
　正五位上同冬光　三廿五轉藏
右少辨　正五位上藤冬光　藏轉左
　從五位下同尙顯　三廿五任同日補五位藏人元、佐
　權中納言政顯卿男、母

明應三年甲寅

左大辨
右大辨　正四位上藤俊名　頭
左中辨　正四位下同家幸　左宮城使
右中辨　從四位下同宣秀　右宮城使正六從四上
左少辨　正五位上同守光　藏
權左少辨　正五位上同冬光　藏
右少辨　從五位下同尙顯　藏正六從五上

明應四年乙卯

左大辨　正四位上藤俊名　三十轉參木
右大辨　正四位上同俊名　頭二九叅三木三、轉左
　正四位下同家幸　三十轉
左中辨　正四位下同家幸　轉右大左宮城使

從四位上同宣秀　三十轉頭七廿六正四下十二十六正四上

右中辨　從四位上同宣秀　二九補藏人頭三十轉左右宮城使

正五位上同守光　三十轉藏

左少辨　正五位上同守光　藏轉右中

正五位上同冬光　三十轉藏

權左少辨　正五位上同冬光　藏轉正

正五位下同賢房　三十任元前右少辨去長享三以來八ヶ年有子細隱居

右少辨　從五位上同尙顯　藏正五正五下

明應五年丙辰

左大辨　正四位上藤俊名　參木

右大辨　正四位下同家幸　五廿三正四上

左中辨　正四位上同宣秀　頭

右中辨　正五位上同守光　藏十一從四下六六被仰敕奏但問辭不加之八十七補藏人頭十二十九叙從四上

左少辨　正五位上同冬光　藏

權左少辨　正五位下同賢房　正十一還補藏人十二九叙正五上

右少辨　正五位下同尙顯　藏

明應六年丁巳

左大辨　正四位上藤俊名　參議正十從三位三廿六爲造東大寺長官

右大辨　正四位上同家幸

左中辨　位家幸上　正四位上同宣秀　頭三廿六爲左宮城使

右中辨　從四位上同守光　頭三廿六爲右宮城使

左少辨　正五位上同冬光　藏

權左少辨　正五位上同賢房　藏

右少辨　正五位下同尙顯　藏

明應七年戊午

左大辨　從三位　藤俊名　參木造東大寺長官

右大辨　正四位上同家幸　氏院別當

左中辨　位家幸上　正四位上同宣秀　頭左宮城使

右中辨　從四位上同守光　頭右宮城使

左少辨　正五位上同冬光　藏十二九叙從四下

權左少辨　正五位上同賢房　藏

右少辨　正五位下同尙顯　藏

明應八年己未

左大辨　從三位　同俊名　參木造東大寺長官

右大辨　正四位上同家幸　氏院別當

左中辨　正四位上同宣秀　頭左宮城使四廿六任參木去辨

右中辨　正四位下同守光　五二轉頭
　　　　從四位上同守光　頭二十一敍正四下　五二轉左右宮城使
　　　　從四位下同冬光　五二轉同日補頭九七出奔參前將軍義尹幃幕之處敗北之間不知行方
左少辨　從四位下同冬光　轉右中
　　　　正五位上同賢房　五二轉藏
權左少辨正五位上同賢房　藏
右少辨　正五位上同尙顯　藏

明應九年庚申　九廿八天皇崩十廿五新帝踐祚、
左大辨　從三位　藤俊名　參木造東大寺長官
右大辨　正四位上同家幸　氏院別當
左中辨　正四位下同守光　頭十廿五補新帝頭同卅日正四上
右中辨　正五位上同賢房　轉七八敍從四下十二廿八補藏人頭
左少辨　正五位上同賢房　藏轉右中
右少辨　正五位上同尙顯　藏十廿五補新帝藏人
權右少辨從五位上同伊長　七、任藏人元、佐十二廿六正五下
權中納言元長卿男、母

後柏原院
明應十年辛酉　二月廿九日改元爲文龜、
左大辨　從三位　藤俊名　參議二月廿五日敍正三位
右大辨　正四位上同家幸　氏院別當
　　　　從三位　同宣秀卅三　二月廿七日兼右大元左中辨參議
左中辨　正四位上同守光卅　藏人頭
右中辨　從四位下同賢房卅六　藏人頭二月十五日敍從四位上月日敍正四位下
左少辨　正五位上同尙顯廿四　正月十九日轉藏人
右少辨　正五位上同尙顯　藏人轉左
　　　　正五位下同伊長十八　正月十九日任藏人

文龜二年壬戌
左大辨　正三位　藤俊名　參木八月廿二日任權中納言
右大辨　從三位　同宣秀　參木
左中辨　正四位上同守光卅一　藏人頭
右中辨　正四位下同賢房卅七　藏人頭正月十三日敍正四位上
左少辨　正五位上同尙顯廿五　藏人
右少辨　正五位下同伊長十九　藏人

文龜三年癸亥

左大辨　從三位　藤宣秀 卅五 參議
右大辨
左中辨　正四位上同守光 卅二 藏人頭
右中辨　正四位上同賢房 卅八 藏人頭
左少辨　正五位上同尚顯 廿六 藏人
右少辨　正五位上同伊長 廿 藏人

文龜四年 甲子　二月卅日改元爲永正、

左大辨
右大辨　從三位　藤宣秀 卅六 參議二〔三ツ〕月廿九日任權中納言
左中辨　正四位上同守光 卅三 藏人頭
右中辨　正四位上同賢房 卅九 藏人頭
左少辨　正五位上同尚顯 廿七 藏人
右少辨　正五位上同伊長 廿一 藏人

永正二年 乙丑

左大辨　從三位　藤守光 卅四 十月七日轉參木
右大辨　正四位上同守光 五月六日轉同日兼參木六月十四日叙從三位十月七日轉左
　　　　正四位上同賢房 四十 十月七日同日兼參議十二月廿六日叙從三位
左中辨　正四位上同守光 藏人頭轉左大
右中辨　正四位上同賢房 藏人頭轉右大
　　　　正五位上同尚顯 廿八 十月十九日轉藏人十一月十八〔一九ケツ〕日叙從四位下補藏人
左少辨　正五位上同尚顯 頭藏人轉右中
右少辨　正五位上同伊長 廿二 藏人

永正三年 丙寅

左大辨　從三位　藤守光 卅五 參議
右大辨　從三位　同賢房 四十一 參議
左中辨
右中辨　從四位下同尚顯 廿九 藏人頭正月七日叙從四位上四月十八日叙正四位下十月八日叙正四位上
　　　　年中三ヶ度加級
左少辨
右少辨　正五位上藤伊長 廿三 藏人

永正四年 丁卯

左大辨　從三位　藤守光 卅六 參議
右大辨　從三位　同賢房 四十二 參議九月九日拜賀十月十九日子刻御逝去御法名眞賢〔、資ケツ〕
　　　　從三位　菅章長 卅九 十一月十七日任文章博士帝侍讀
　　　　權大納言長直卿男、母

左中辨　正四位上藤尚顯卅　藏人頭
右中辨　正五位上同伊長廿四　九月六日轉藏人
左少辨　正五位上同伊長　藏人轉左
右少辨　從五位上同秀房十六　九月六日任元左兵衛佐藏人
參議右大辨資房卿長男、

永正五年戊辰
左大辨　從三位　藤守光卅七　參木七月一日拜賀着陣小除目執筆七月廿四日叙正三位
右大辨　從三位　菅章長四十　文章博士正月五日辭退同去博士
　　　　正四位　藤尚顯卅二　正月五日轉同兼任參議六月廿日被仰敷奏同廿四被仰武家傳奏事七月十六日叙從三位
左中辨
右中辨　正四位上同尚顯　藏人頭轉右大
左少辨　正五位上同伊長廿五　藏人氏院別當
右少辨　從五位上同秀房十七　藏人正月六日叙正五位下

永正六年己巳
左大辨　正三位　藤守光卅九　參議四月日被仰敷奏六月廿一日被仰武家傳奏事五月十五日補造東大寺長官宣下十月十日任權中納言
右大辨　從三位　同尚顯　參議
左中辨
右中辨
左少辨　正五位上藤伊長廿六　藏人氏院別當
右少辨　正五位下同秀房十八　藏人十二月廿三日叙五位上九月十七日大德寺入院勅使

永正七年庚午
左大辨　從三位　藤尚顯卅二　正月轉參木
右大辨　從三位　同尚顯　參議轉左
　　　　正四位下同冬光卅八　十一月十四日兼去明應八年止右中辨參議
左中辨　正五位上同伊長廿七　十一月十四日轉藏人氏院別當
右中辨　正五位上同秀房十九　十一月十四日轉藏人
左少辨　正五位上同伊長　藏人轉左中
　　　　從五位上同資定十六　十一月十四日任父喪内元右兵衛佐同廿九〔七グツ〕日補五位藏人
故前中納言量光卿二男、母
右少辨　正五位上藤秀房　藏人轉右中
　　　　從五位上同賴繼十九　十一月十四日任元右兵衛權佐十二月九日叙從五位上
故權大納言光忠卿男、母
永正五六十一元服、十七歳、同年六十一叙正五位下、

同年六十一任右兵衛權佐、同日昇殿、同七十一十四任右少辨、

永正八年 辛未

左大辨 從三位 藤尚顯 卅四 參木

右大辨 正四位下 同冬光 卅九 參木正月十八日叙從三位 一ヶ月中兩度加級例

左中辨 正五位上 同伊長 廿八 藏人十一月十一日叙從四位下 同日補藏人頭同廿八日叙從四位上

右中辨 正五位上 同秀房 廿 藏人

權右中辨 從四位上 同內光 廿三 月日任元侍從十二月廿一日叙正四位下

故權中納言政資卿男、實太政大臣實淳公二男、

左少辨 從五位上 藤資定 十七 藏人未拜賀

右少辨 從五位上 同賴繼 廿 十一月日補藏人

永正九年 壬申

左大辨 從三位 藤尚顯 卅五 參木九月十七日拜賀十月廿三日任權中納言

右大辨 從三位 同冬光 四十 參木

左中辨 從四位上 同伊長 廿九 藏人頭月日叙正四位下四月卅日叙正四位上超內光朝臣

右中辨 正五位上 同秀房 廿一 位在伊長上

權右中辨 正四位下 同內光 廿四

左少辨 從五位上 同資定 十八 藏人十一月廿二日叙正五位下其身在因幡國

右少辨 從五位上 同賴繼 廿一 十一月廿二日叙正五位下

永正十年 癸酉

左大辨 從三位 藤冬光 四十一 參木 十月日轉

右大辨 從三位 同冬光

左中辨 正四位下 同伊長 卅 藏人

右中辨 正四位下 同秀房 廿二 藏人

權右中辨 正四位下 同內光 廿五

左少辨 正五位下 同資定 十九 藏人

右少辨 正五位下 同賴繼 四月十二日叙正五上 藏人三月三日拜賀

永正十一年 甲戌

左大辨 從三位 藤冬光 四十二 參木二月廿六日任權中納言

右大辨

左中辨 正四位上 同伊長 卅一 藏人頭

右中辨 正五位上 同秀房 廿三 藏人

權右中辨 正四位下 同內光 廿六

左少辨 正五位下 同資定 廿 藏人

右少辨 正五位上 同賴繼 廿三 藏人氏院別當

永正十二年乙亥

左大辨

右大辨

左中辨　正四位上藤伊長 卅二 藏人頭

右中辨　正五位上同秀房 廿四 藏人 八月廿八日妙心寺入院勅使

權右中辨正四位下同内光 廿七 位在秀房上

左少辨　正五位下同資定 廿一 藏人

右少辨　正五位上同賴繼 廿四 藏人氏院別當 位在資定上

永正十三年丙子

左大辨

右大辨

左中辨　正四位上藤伊長 卅三 藏人頭

右中辨　正五位上同秀房 廿五 藏人

權右中辨正四位下同内光 廿八 位秀房上

左少辨　正五位下同資定 廿二 藏人 十二月日侍中拜賀上洛

右少辨　正五位上同賴繼 廿五 藏人氏院別當

永正十四年丁丑

左大辨

右大辨

左中辨　正四位上藤伊長 卅三 藏人

右中辨　正五位上同秀房 廿六 藏人 正月十六日叙從四位下 二月十日叙從四位上 越資能季國通俊〔胤クツ〕宗藤資遠朝臣等 十二月十九日叙正四位下 越基親雅繼重親等朝臣 年中三ヶ度加級例

權右中辨正四位下同内光 廿九 位秀房上

左少辨　正五位下同資定 廿二 藏人 月日叙正五位上 賜去永正十年四月十二日位記 賴繼上

右少辨　正五位上同賴繼 廿六 藏人氏院別當

永正十五年戊寅

左大辨　正四位上藤伊長 卅五 六月廿三日轉 同日兼任參木

右大辨　正四位下同内光 卅 七月廿〔九クツ〕日轉 六廿三藏人頭 十月十五日叙正四位上

左中辨　正四位上同伊長 卅五 藏人頭轉左大辨

　　　　正四位下同秀房 廿七 月日轉 月日補藏人頭

右中辨　正四位下同秀房 轉左

　　　　正五位上同資定 廿四 月日轉 藏人

權右中辨正四位下同内光 卅 六月廿三日補藏人頭 七月九日轉右大辨 拜任辨官已後未申拜賀令轉任例

左少辨　正五位上同資定 藏人轉右中

右少辨　正五位上同賴繼 廿七 藏人氏院別當

永正十六年 己卯

左大辨　正四位上藤伊長 卅六 參木十二月廿八日叙從三位

右大辨　正四位上同內光 卅一 藏人頭

左中辨　正四位下同秀房 廿八 藏人頭

右中辨　正五位上同資定 廿八(イ五) 藏人

左少辨　正五位上同賴繼 廿八 月日轉藏人氏院別當

右少辨　正五位上同賴繼 藏人八八日轉左

從五位上同尹豐 十七 八月八日任同日補藏人元左衞門權佐十二月廿七叙正五下

權中納言尙顯卿男、母

永正五十二廿七叙爵六歲、同十一十二廿一元服、同廿三日任左衞門佐、同十三年十二二十叙從五位上、同六八八補藏人(五位)同日任右少辨、

永正十七年 庚辰

左大辨　從三位　藤伊長 卅七 參木

右大辨　正四位上同內光 卅二 藏人頭

左中辨　正四位下同秀房 廿九 藏人頭後六月廿五叙正四位上

右中辨　正五位上同資定 廿六 藏人

左少辨　正五位上同賴繼 廿九 藏人氏院別當

右少辨　正五位下同尹豐 十八 藏人

永正十八年 辛巳　三月廿二日、天皇御卽位、八月廿三日改元大永、

左大辨　從三位　藤伊長 卅八 參木八〔ト六〈クツ〉〕月廿一日權中納言御卽位叙位淸書

正四位上同內光 卅三 七月一日轉參議十月日叙從三位

御卽位行事　右大辨　正四位上同內光 藏人頭五月日任參木七月一日轉左

正四位上同秀房 卅 七月一日轉同日兼任參議

御卽位行事　左中辨　正四位上同秀房 藏人頭轉右大

從四位上同資定 廿七 十二月廿六日轉

年中兩度加級例〔御卽位行事クツ〕

右中辨　正五位上同資定 藏人十一月十三日叙從四位下十二月八日叙從四位上

左少辨　正五位上同賴繼 卅 藏人氏院別當

右少辨　正五位下同尹豐 十九 藏人正月廿日叙正五位上、

大永二年 壬午

叙位除目淸書　左大辨　從三位　藤內光 卅四 參木三月廿五〔九クツ〕日兼越中權守同日補造東大寺長官

除目淸書　右大辨　正四位上同秀房 卅一 參木正月五日叙從三位三月廿九日兼近江權守同補造興福寺長官

左中辨　從四位上同資定 廿八 正月十九日轉叙正四位下三月廿九日補修理左宮城使

右中辨　正五位上同頼繼 卅一 正月十九日轉藏人三月廿九日補修理右宮城使氏院別當

左少辨　正五位上同頼繼 藏人二月十九日轉右中

　　　　正五位上同尹豐 廿 正十九轉藏人

右少辨　正五位上同尹豐 藏人轉左

　　　　正五位上同兼秀 十七 正月十九日任元侍從去之藏人

權大納言守光卿男、母贈内大臣綱光公三女、

永正三四廿九誕生、同七十二五叙從五下 五歳、十四十二廿八任侍從、今日元服則聽昇殿、同卅日叙從五位上 十二歳、同十八五十八叙正五下、同十一月廿補五位藏人、同十二月廿一聽禁色、(今夜侍中拜賀、)同廿九日叙正五位上 十六歳、大永二正十九任右少辨、

大永三年 癸未

左大辨　從三位　藤内光 卅五 參木造東大寺長官越中權守三月九日任中納言

右大辨　從三位　同秀房 卅二 參議造興福寺長官近江權守

左中辨　正四位下同資定 廿九 修理左宮城使八月廿三日叙正四位上

右中辨　正五位上同頼繼 卅一 修理右宮城使氏院別當藏人

左少辨　正五位上同尹豐 廿一 藏人

右少辨　正五位上同兼秀 十八 藏人

大永四年 甲申

左大辨　正三位　藤秀房 十二月廿日轉參木近江權守造興福寺長官

右大辨　從三位　同秀房 參木造興福寺長官近江權守七月十一日叙正三位十二卅轉左

　　　　正四位上同資定 十二月卅日轉藏人頭修理左宮城使

左中辨　正四位上同資定 修理左宮城使正月廿八日補藏人頭重親朝臣昇進替二月廿九日聽禁色今夜拜賀十二月廿轉右大辨

右中辨　正五位上同頼繼 卅三 藏人修理右宮城使正月十二日叙從四位下去藏人

左少辨　正五位上同尹豐 廿二 藏人

權左少辨正五位上同兼秀 十九 七月四日轉藏人

右少辨　正五位上同兼房 藏人轉權左少

不及奏轉任慶左少辨之時不申拜賀之故也是日野家之例也云々不限左少辨轉左之時皆不及奏轉任慶云々

十五歳未滿任辨官例

　　　　正五位下同宣綱 十四 七月四日任元右衛門佐去之

權大納言宣秀卿一男、母從二位卜部兼倶卿女、

永正九三二叙爵、同十六六十一十七任右衛門佐、同日元服 九歳、同十二月十八日叙從五位上、大永三正六叙正五位下 十二歳、同四七六任右少辨 十四歳、去佐、

大永五年乙酉

左大辨　正三位　藤房秀 卅四 參木近江權守造興福寺長官十二月十五日任權中納言

正四位上同資定 卅一 十二月廿六日轉藏人頭（依家說不申轉任、慶任辨官之故也云云）

右大辨　正四位上同資定 藏人頭轉左

從四位上同賴繼 卅四 十二月廿六日轉

左中辨　正五位上同尹豐 卅三 十二月廿六日轉藏人

右中辨　從四位下同賴繼 修理右宮城使氏院別當四月五日去之正月日叙從四上十二月廿六日轉右大

正五位上同兼秀 廿 十二月廿六日轉藏人氏院別當

左少辨　正五位上同尹豐 藏人轉左中

辨官初任不申拜賀以前轉任例

正五位下同宣綱 十五 十二月廿六日轉

權左少辨正五位上同兼秀 藏人四月五日爲氏院別當轉右中

右少辨　正五位下同宣綱 轉左十一月十七日輕服（祖父一位入道宣胤卿薨八十四歲）

大永六年丙戌　四月七日天皇崩御、廿九日新帝踐祚、（二品知仁親王、）

左大辨　正四位上藤資定 卅二 藏人頭四月廿九日新帝頭

正月十六日石淸水遷宮行幸行事也

右大辨　從四位上同賴繼 卅五 二月十日叙正四位下六月六日叙正四位上補同日補藏人頭

左中辨　正五位上同尹豐 藏人四月廿九日補新帝藏人

右中辨　正五位上同兼秀 廿四 藏人氏院別當四月一日喪父准大臣（儀同クツ）守光公薨（五十六歲）五月廿七日除日出仕并復任同日還補五位藏人新帝同日拜賀聽禁色九月廿三日被仰敷奏同日爲武家傳奏事

左少辨　正五位下同宣綱 十六 十二月十七日叙正五位上

十五未滿任辨官例

右少辨　正五位下同光康 十四 正月十日任元左衞門佐美作介

故權中納言冬光卿二男、母同資蔭

永正十十三誕生、同十三五二叙從五下、四歲、同十二六廿三任侍從、同十六十二廿一元服、七歲、（加冠征夷大將軍義稙卿、）同日聽禁色昇殿、同廿三日叙從五上、大永二三廿九兼美作介、同七月廿二日任左衞門佐、（介如元、十歲、）同四正六叙正五下、十二歲、同六正十任右少辨去佐、十四歲、

後奈良院

大永七年丁亥

左大辨　正四位上藤資定 卅三 藏人頭

右大辨　正四位上同賴繼 卅 藏人頭

左中辨　正五位上同尹豐 廿五 藏人

右中辨　正五位上同兼秀 廿二 藏人氏院別當數奏

左少辨　正五位上同宣綱 十七 四月廿三日下向駿河國令供奉父卿（父卿同道クヅ）云々

右少辨　正五位下同光康 十五 三月廿三日叙正五上 四月一日出奔參征夷大將軍義晴卿江州陣

大永八年戊子　八月廿日改元爲享祿元、

左大辨　正四位上藤資定 卅四 藏人頭 四月十三日兼參木 同廿七日叙從三

右大辨　正四位上同頼繼 卅七 藏人

左中辨　正五位上同尹豐 廿六 藏人

右中辨　正五位上同兼秀 廿三 藏人氏院別當

左少辨　正五位上同宣綱 十八

右少辨　正五位上同光康 十六

權右少辨從五位上同晴光 十一 五月三日任元侍從

故權大納言內光卿男、母尾張守源尙順女、

大永四年十二三叙從五下、七歲、同五十二卅任侍從、同七二二十三喪父、同八四廿三叙從五上、同日元服、加冠征夷大將軍義晴、同日昇殿、

享祿二年己丑

左大辨　從三位　藤資定 卅五 參議

右大辨　正四位上同頼繼 卅八 藏人頭 二月五日兼參議 六月廿日叙從三位 七月卅日卒 卅八歲

年中三ヶ度加級例

從四位上同尹豐 八月廿七日轉藏人頭 十一月廿五日奏貫首慶 十二月十七日叙正四位下

左中辨　正五位上同尹豐 廿七 二月廿七日叙從四位下 同日補藏人頭 六月三日叙從四位上 八月廿七日轉右大

正五位上同兼秀 廿四 八月廿七日轉藏人 十一月廿五日叙從四下 同月卅日叙從四位上 十二月七日爲造興福寺長官 同月廿九日叙正四下

右中辨　正五位上同兼秀 藏人氏院別當轉左

正五位上同宣綱 十九 八月廿七日轉左 其身在駿河國

權右中辨正五位上同光康 十七 八月廿七日轉

左少辨　正五位上同宣綱 轉右中辨

正五位上同晴光 十二 八月廿七日轉

右少辨　正五位上同光康 十七 八月廿七日轉

從五位上同惟房 十七 八月廿七日任元藏　左衛佐（未拜賀今日去佐）十二月十七日叙正五位下（十一月廿五日奏五位藏人兼于時藏人右少辨）

權中納言秀房卿男、母畠山播磨守源政熙女、

永正十二廿七誕生、同十二二十二廿一叙爵、三歲、大永八六廿七任左兵衛佐、同日元服、同七月十日叙從五位上、享祿二五廿八補五位藏人、今日任少辨、

権右少弁従五位上藤晴光 正月十日叙正五下八月廿七日転左少弁

享禄三年庚寅

左大弁 従三位 藤資定 卅六 参木

右大弁 正四位 同尹豊 廿八 蔵人頭正月廿日叙正四位上

左中弁 正四位下同兼秀 廿五 氏院別当造興福寺長官正月廿日補左宮城使五月一日補蔵人頭七月九日叙正四位上

右中弁 正五位上同宣綱 廿

権右中弁正五位上同光康 十八

左少弁 正五位下同晴光 十三 九〔六ヘクツ〕月十七日叙正五上

右少弁 正五位下同惟房 十八 蔵人十二月廿八日叙正五位上

享禄四年辛卯

左大弁 従三位 藤資定 卅七 参木

右大弁 正四位 同尹豊 廿九 蔵人頭延暦寺西法花会勅使参向

大弁参向初例
但猶可勤之有子細細事歟

左中弁 正四位 同兼秀 廿六 蔵人頭修理左宮城使造興福寺長官氏院別当

右中弁 正五位上同宣綱 廿一 七月九日喪父従一位宣秀卿九月三日除服出仕但其身在国

権右中弁正五位上同光康 十九 三月、大樹出張仍出京六月七日大樹各没落〔出奔クツ〕江東河下向越前

左少弁 正五位上同晴光 十四 六月大樹引退江東〔令出奔クツ〕出奔江州給之間令供奉云々

享禄五年壬辰 七月廿七日改元為天文元、

右少弁 正五位上同惟房 十九 蔵人

左大弁 従三位 藤資定 卅八 参木

右大弁 正四位上同尹豊 卅 蔵人頭八月八日兼参木八月九日従三位同日被仰敷奏同十日云々

左中弁 正四位上同兼秀 廿七 蔵人頭氏院別当左宮城使造興福寺長官

右中弁 正五位上同宣綱 廿二

権右中弁正五位上同光康 廿

左少弁 正五位上同晴光 十五

右少弁 正五位上同惟房 廿 蔵人

天文二年癸巳

左大弁 従三位 藤資定 卅九 参木

右大弁 従三位 同尹豊 卅一 参木

左中弁 正四位上同兼秀 廿八 蔵人頭造興福寺長官二五去之左宮城使氏院別当（二五去之）二八辞退依在国故歟于後年任勘解由次官、任侍従

右中弁 正五位上同宣綱 廿三

正五位上同光康 廿一 転右中七月十七日転

左少弁 正五位上同晴光 十六

権左少弁正五位上同惟房 廿一 蔵人八月十七日転権左

右少辨　正五位上同惟房　藏人轉權左

　正五位下同資雄 十六 元藏人左兵衛佐九月廿六日任今日去佐十一月、改、轉

　故權大納言廣光卿子、（但外孫也、）實故前中納言菅章長卿二男、母廣光卿女、

　永正十六正卅叙爵、二歲、享祿二十二廿七今日元服、同日宮內大輔、同二十二廿七叙從五位上、同三正廿左兵衛佐、同五三二叙正五下、天文二九廿輔藏人、同廿六日任右少辨、

天文三年 甲午

左大辨　從三位　藤資定 四十 參木

右大辨　從三位　同尹豐 卅二 參木

左中辨　正四位上同兼秀 廿九 藏人頭 左宮城使

右中辨　正五位上同光康 廿二 二月五日叙從四位下 十一月十七日叙從四位上

左少辨 延曆寺會勅使　正五位上同晴光 十七

權左少辨正五位上同惟房 廿三 藏人 七月十九日延曆寺大會勅使

右少辨　正五位下同資將 十七 藏人 正月五日正五位上

天文四年 乙未

左大辨　從三位　藤資定 四十一 參木 二月三日從因州上洛 在國八ヶ年 三六任權中納言

　從三位　同尹豐 卅三 三月廿一日轉參木 十二月四日爲造大寺長官

右大辨　從三位　同尹豐 參木轉左

　正四位上同兼秀 卅 三月廿一日轉藏人頭 十廿七兼參木 十一卅從三位

左中辨　正四位上同兼秀 藏人頭轉右大辨宮城使

　從四位上同光康 廿三 三月廿一日轉 十廿三叙正四下 十一月五補藏人頭 十二四左宮城使

右中辨　從四位上同光康 廿三 轉

　正五位上同晴光 十八 三月廿一日轉 六三叙從四下 十二四右〔左ヵ〕宮城使

權右中辨正五位上同惟房 廿三 三月廿一日轉藏人 轉右中

左少辨　正五位上同晴光

　正五位上同資將 十八 三月廿一日轉藏人 藏人轉權右中

權左少辨正五位上同惟房 藏人轉左

右少辨　正五位上同資將

　正五位上同宣治 十九 三月廿一日任 元藏人右衛門佐 今日去佐 同日爲氏院別當 十二月四日爲造興福寺長官

氏院別當從去年兼秀辭退未補

　故從一位前大納言宣秀卿次男、母同宣綱

　享祿二六三叙爵、同年十一廿九任右衛門權佐、不蒙使宣、同日昇殿、今日元服、同四七九服解、父、同年九三復任、同年十二廿七叙從五上、同五正廿六轉佐、天文二八二叙正五下、同三三九補五位藏人、同年四

廿叙正五上、同三年四月六日奏慶、同四三廿一任
右少辨、同日補氏院別當、

天文五年丙申

二月廿六日天皇御卽位、

左大辨 大辨直任例 従三位 藤尹豊 卅四 參木二月五日任權中納言造東大寺長官
従三位 同宗藤 四十八 三月一日任參木
右大辨 従三位 同兼秀 卅一 參木三月一日任權中納言
正四位上 同光康 廿四 十二月廿九日轉藏人頭〔不經五位藏人クヾ〕
左中辨 御卽位奉行 正四位上 同光康 藏人頭正五叙正四上轉右大左宮城使
従四位上 同晴光 十二月廿九日轉
右中辨 御卽位行事辨左方 従四位下 同晴光 十九 右宮城使十一卅従四位上轉左
従四位下 同惟房 廿四 十二月廿九日轉
權右中辨 御卽位行事辨右方 正五位上 同惟房 藏人十一廿二従四位下（去五位藏人クヾ）十二一従四位上十二廿九轉右中
正五位上 同資將 十九 十二月廿九日轉
左少辨 正五位上 同資將 藏人十一一為氏院別當十二月廿九日轉權右中
正五位上 同宣治 廿 十二月廿九日轉郎奏慶
右少辨 十歲任辨官例 正五位上 同宣治 藏人造興福寺長官氏院別當十二月止別當十二月廿九日轉左
正五位下 同國光 十 十二月廿九日任元侍従
權中納言兼秀卿一男、母故中納言政顯卿女、

大永七五十九誕生、同八正九従五下、二歲、天文三十二廿二治部權少輔、八歲、同日叙従五上、同日元服、同日禁色昇殿、同四正七侍従、九歲、同五二廿一叙正五下、准三后前左大臣尹房卿御給、御卽位叙位、

天文六年丁酉

左大辨 従三位 藤宗藤 四十九 參木十八辭
従三位 同光康 廿五 十月八日轉
右大辨 正四位上 同光康 藏人頭二十九兼參木三十叙従三位
正四位上 同晴光 廿 十月八日轉藏人頭
左中辨 従四位上 同晴光 正八叙正四下三月十四日補藏人頭不經五位藏人六五正四上
正四位下 同惟房 十月八日轉于時在防州
右中辨 従四位上 同惟房 廿五 正月八日叙正四下二一下向防州
正五位上 同資將 十月八日轉藏人
權右中辨 延暦寺會勅使 正五位上 同資將 廿 藏人氏院別當
正五位上 同宣治 十月八日轉藏人
左少辨 正五位上 同宣治 廿一
正五位下 同國光 十月八日轉十二月廿六日叙正五位上
右少辨 正五位下 同國光 十一 轉左十一月春日祭參向

正五位下同晴秀十五 十月八日任元左衛門佐藏人如元十二廿六叙正五上

權中納言尹豐卿男、母加賀(伊勢イ)守平貞遠女、

大永四十二卅叙從五下、二歳、天文三十二廿六元服、同日任左衛門佐聽昇殿、同四正廿從五上、同五十二七補五位藏人、同六正五叙正五下、同年二九奏慶、同年十月八日任右少辨、

天文七年戊戌

左大辨　從三位　藤光康廿六 參木三月八兼丹後權守補造東大寺長官同十八日任權中納言

任參議去辨官例

從三位　菅長淳 三八山城權守三廿任元式部大輔去之十二二十七任參議辨去之

故權大納言和長卿男、母

右大辨　正四位上藤晴光廿一 十二月十九日轉

正四位上同晴光 藏人頭三八美作權守七卅(廿クツ)服解(母)十月廿二復任

正四位下同惟房 十二月十九轉十二月十三補藏人頭十二月廿五叙正四位上

左中辨　正四位下同惟房廿六 三八左宮城使

正五位上同資將 十二月十九日轉

右中辨　正五位上同資將 藏人氏院別當三八左宮城使

正五位上同宣治廿二 十二月十九日轉

權右中辨正五位上同宣治 藏人造興福寺長官

左少辨　正五位上同國光十二

右少辨　正五位上同晴秀十六 藏人

權右少辨正五位下同賴房十二 十二月十九日任元右衛門佐信乃權介去之

故參議右大辨賴繼卿男、母權大納言宣秀卿女、

大永七四十二誕生、享祿二六卅叙爵、三歳、天文四正廿叙從五上、今日元服、九歳、任治部權少輔、同三月廿一日任右衛門佐、天文六正六叙正五下、同七三八兼信乃權介、同年十二十九權右少辨、十二歳、

天文八年己亥

左大辨　正四位上藤晴光廿三 藏人頭美作權守二月十日任參木三廿三造東大寺長官

右大辨　正四位上同惟房廿七 藏人頭十二月廿五日任參木三七廿八兼近江權守

左中辨　正五位上同資將廿二 藏人氏院別當右宮城使二十補藏人頭同日從四位下三一叙從四上三廿三左宮城使

右中辨　延暦寺會勅使七廿三五　正五位上同宣治廿三 藏人造興福寺長官三廿三右宮城使十二廿九補藏人頭同日從四位下

左少辨　正五位上同國光十三

右少辨　正五位上同晴秀十七 藏

權右少辨正五位上同賴房十三 正月十日叙正五位上

天文九年庚子

左大辨　從三位　藤晴光廿三 參木造東大寺長官美作權守

右大辨　正四位上同惟房廿八　參木正六叙從三位近江權守

左中辨　從四位上同資將廿三　藏人頭左宮城使氏院別當正九叙正四下三廿四造興福寺長官六、服解（母）

右中辨　從四位下同宣治廿四　藏人頭右宮城使正六從四上二三正四下

權右中辨正五位上同國光十四　正月十三日補藏人三廿四除目轉權右中辨

左少辨　正五位上同國光　三月廿四日權右中

　　　　正五位上同晴秀十八　藏人三月廿四日轉

右少辨　正五位上同晴秀　三月廿四日轉左少

　　　　正五位上同賴房十四　三月廿四日轉右少

權右少辨正五位上同賴房　三月廿四日轉右少

天文十年 辛丑

左大辨　從三位　藤晴光廿四　參木造東大寺長官三月廿七日任權中納言越五人上首

　　　　正四位下同資將廿四　藏人氏院別當造興福寺長官左宮城使十二月轉左大（在國中在伊豆國）

右大辨　從三位　同惟房廿九　參木三月廿八日任權中納言越上首五人

左中辨　正四位下同資將　〔十二月、轉左大クツ〕

　　　　正四位下同宣治廿五　十二月廿九日轉左中

右中辨　正四位下同宣治　藏人頭右宮城使〔十二廿九轉左中クツ〕

　　　　正五位上同國光　藏人十二廿九轉右中

權右中辨正五位上同國光十五

左少辨　正五位上同晴秀十九　十二月廿九日轉權右中

　　　　正五位上同晴秀　藏人

右少辨　正五位上同賴房十五　十二月廿九日轉左少

　　　　正五位上同賴房　二月廿七日補藏人除目同十二月十二日奏慶

天文十一年 壬寅

左大辨　正四位下藤資將廿五　藏人頭閏二〔三クツ〕十任丹波權守同十日造東大寺長官同十三日正四上

右大辨　正四位下同宣治廿六　藏人頭三月十日轉右大同三月十三日叙正四上同日服解（母）同五月除服復任

左中辨　正四位下同宣治　同五月五日復任

延曆寺二會勅使　七月十九日始行

　　　　正五位上同國光十六　藏人二月廿六日補氏院別當造興福寺長官閏三月十日任之十二廿九爲裝束使閏三月十日修理左宮城使轉左中

右中辨　正五位上同國光

　　　　正五位上同晴秀廿　藏人閏三月十日修理右宮城使同十月十日轉右中

權右中辨正五位上同晴秀

左少辨　正五位上同賴房十六　藏人

右少辨

天文十二年 癸卯

左大辨　正四位上藤資將廿六　藏人頭造東大寺長官丹波權守

右大辨　正四位上同宣治廿七　藏人頭三月廿五日兼備中權守

左中辨　正五位上同國光十七　藏人氏院別當造興福寺長官左宮城使裝束使兼國三月廿五日近江權介

右中辨　正五位上同晴秀廿一　藏人右宮城使

左少辨　正五位上同賴房十七　藏人

右少辨

天文十三年甲辰

左大辨　正四位上藤資將廿七　藏人頭造東大寺長官丹後權守二月廿四任參木三十九從三位

右大辨　正四位上同宣治廿八　藏人頭備中權守

左中辨　正五位上同國光十八　藏人氏院別當造興福寺長官左宮城使裝束使近江權介正十三從四下同二月三日從四上同廿四日藏人頭同十二月十八日正四下

右中辨　正五位上同晴秀廿二　藏人右宮城使七月八日從四位下同八月二日從四上同十一月十八日正四下(三ヶ度)

左少辨　正五位上同賴房十八　藏人

右少辨

天文十四年乙巳

左大辨　從三位　藤資將廿八　參木丹波權守造東大寺長官去年、在國九州

右大辨　正四位上同宣治廿九　藏人備中權守七月廿任參木御推任六月二日氏院別當二〔八ヶヅ〕月九日被仰敷奏十月十三日叙從三位

左中辨　正四位下同國光十九　藏人頭造興福寺長官左宮城使氏院別當忠冬公辭職之間辭之

右中辨　七月廿四日延曆寺大會勅使　正四位下同晴秀廿三　右宮城使七月廿日補藏人頭

左少辨　正五位上同賴房十九　藏人

右少辨

天文十五年丙午

左大辨　除目清書　從三位　藤資將廿九　參木造東大寺長官丹波權守正月五日正三位三月廿四任權中

右大辨　除目清書　從三位　同宣治卅　參木氏院別當三月廿四日任權中

左中辨　正四位下同國光廿　藏人頭造東大寺長官左宮城使近江權介三廿九更〔中將ヶヅ〕氏院別當七廿七被仰敷奏並于父

右中辨　正四位下同晴秀廿四　藏人頭左宮城使

左少辨　十二歲任辨官例　正五位上同賴房廿　藏人

權左少辨從五位上同晴資十一　十二月六日任元侍從美作權介

權中納言晴光卿一男、母

天文十一正三叙爵、童形同十三四廿二元服、九歲、加冠征夷大將軍義晴卿、侍從叙從五位上、同廿六日昇殿、同十四三廿五兼美作權介、同十五十二六任權左少辨、十一歲、

右少辨

天文十六年丁未

左大辨　從三位　菅長雅 卅三 二月廿四日任同日叙從三文章博士如元大内記

除目清書 右大辨　正四位下藤國光 廿一 三廿一轉同日兼參議造興福寺長官氏院別當七從三

左中辨　正四位下同國光 藏人頭造興福寺長官左宮城使近江權介裝束使三廿三轉右大

右中辨　正四位下同晴秀 廿五 藏人頭右宮城使三廿三轉左中七九〔廿クヅ〕叙正四上

左少辨　正五位上同賴房 廿一 藏人三廿三轉右中

權左少辨正五位下同晴資 十二 正月五日叙正五下三廿三轉左少辨

右少辨

天文十七年戊申

左大辨　從三位　菅長雅 卅四 文章博士三廿三任參木去辨

從三位　藤國光 廿二 三月廿三日轉左參木

除目清書 右大辨　從三位　同國光 造興福寺長官氏院別當

除目清書 左中辨　正四位上同晴秀 廿六 藏人頭左宮城使

延暦寺二會勅使 右中辨　正五位上同賴房 廿二 藏人頭右宮城使三十爲裝束使三〔一クヅ〕廿七補氏院別當

左少辨　正五位下同晴資 十三 四十六叙正五上

右少辨

天文十八年己酉

左大辨　從三位　藤國光 廿三 參木三廿五任權中納言

右大辨

左中辨　正四位上同晴秀 廿七 藏人頭左宮城使

右中辨　正五位上同賴房 藏人右宮城使氏院別當裝束使三廿五造興福寺長官同日兼備中權介裝束使勞也

左少辨　正五位上同晴資 十四

右少辨

天文十九年庚戌

左大辨

右大辨　正四位上藤晴秀 廿八 十一月廿六日轉同日兼參木同十二廿三叙從三位

左中辨　正四位上同晴秀 藏人頭左宮城使十二月廿六日轉

從四位上同賴房 廿四 藏人右宮城使造興福寺長官氏院別當備中權介裝束使十月廿三日從四下同卅日從四上十二廿六正四下

右中辨　正五位上同賴房

正五位上同晴資 十五 十二月廿〔卅クヅ〕轉四方拜早參之次奏轉任之慶、補藏人同十月三日奏慶

左少辨　正五位上同晴資 十二月廿〔卅クヅ〕日轉二月、叙正五下

正五位上同將光

十歲任辨官例 權左少辨從五位上同將光 十 、任二月、叙正五下十二月、叙正五上

十五歲未滿任辨官例 右少辨　從五位上同熙長 十七 權中納言資將卿男、母 月日任九月五日叙正五下超輔房（右兵衞佐）十二、叙正五上

按察使伊長卿男、實中山大納言孝親卿嫡男也、伊長卿薨去之砌爲猶子、

天文廿年辛亥

右大辨　從三位　藤晴秀廿七　參議十月十日　被數奏之事

左中辨　正四位上同賴房廿八　九月十四日補藏人頭去年以未頭中將重保朝臣一頭也（有存分遲々クヅ）今日補之

右中辨　正五位上同晴資十六　藏人去夏比依狂氣下向駿河國渡富士河之時沒水中云々後聞依狂氣令自害云々

左少辨　正五位上同將光十一　改淳光柳原相續之故改名云々

右少辨　正五位上同熙長十五　藏人七月廿七日死去依痢所勞也

正五位上同輔房十　八月一日任元右兵衛佐（今日去佐）九月八日叙正五位上辨官之事雖有其例依有所存用捨當春以來遲進也仍今日任之者也

權大納言惟房卿男、母前大隅守源家俊女、

天文十一年壬寅　月日誕生、同十三年正五叙爵、三歲、叙任日 同十六年六廿七元服、六歲、同日禁色昇殿、同廿八日任右兵衛佐叙從五位上、同十七年三月廿三日叙正五位下、同十九年十二月卅日叙正五位上、

權右少辨正五位上藤經元　十一月十三日任元少納言高倉相續之時任之仍去之同十六日補藏人

天文廿一年壬子

左大辨

右大辨　從三位　藤晴秀卅　參木

左中辨　正四位上同賴房廿六　藏人頭

右中辨　大德寺入院勅使　正五位上同將光十二　延暦寺二會勅使　改淳光南曹氏院別當

右少辨　正五位上同輔房十一

權右少辨正五位上同經元十八　藏

天文廿二年癸丑

左大辨

右大辨　正三位　藤晴秀卅一　參木

左中辨　正四位上同賴房廿七　藏人

右中辨

左少辨　正五位上同淳光十三　南曹

從一位伊長卿男、但伊長卿逝去之砌熙長爲相續之處熙長早世一流斷絶仍以經元爲相續經元事實左中將爲豐朝臣三男也故高倉宰相範久卿死去之後令上洛一流相續如首服任侍從少納言等之處有子細甘露寺一家斗相續也、

右少辨　正五位上同輔房十二
權右少辨正五位上同經元十九藏

天文廿三年甲寅
左大辨
右大辨　正三位　藤晴秀卅二 參議右大將(辨カ)任之後同未拜賀仍不及轉任
左中辨　正四位上同賴房廿八頭
右中辨　正五位上同淳光 正月十七日轉
左少辨 南都陪從神未奉幣使未拜賀轉任例　正五位上同淳光十四 正月四日補五位藏人正月廿二日奏侍中慶氏院別當正月十七日轉右中辨
　正五位上同輔房十三 正月十七日轉任
右少辨　正五位上同輔房 正十七轉左少辨右少辨未拜賀轉左
　正五位上同經元廿 正十七轉正藏
權右少辨 十歲任辨官例 正五位上同經元 正十七轉
　從五位上同宣將十 正十七任
　父權大納言宣忠卿男、母右兵衛佐藤原氏直女、

天文廿四年乙卯　十月廿三日改元爲弘治元、
左大辨　正四位上藤賴房 頭(四轉イ)父故賴繼卿不映例也仍不經右大辨可轉左之由申之後日之九廿八轉任改云々〔以上八字ク本ッ本注次行〕
右大辨　〔同クッ〕イ〔同クッ〕イ
左中辨　正四位上同賴房廿六 頭九廿八轉任右大辨
　正五位上同淳光 藏人九廿八轉
右中辨　正五位上同淳光十五 藏人氏院別當九廿八轉左中
　正五位上同輔房 藏人九廿八轉任
左少辨 六月十四日延曆寺二會勅使參向 正五位上同輔房十四 六月廿七日補藏人(六月六日奏左少慶辨官初任已後始也于時侍中未拜賀同年十一月卅日奏慶)九廿八轉任右中
權左少辨正五位上同經元廿一 藏人九廿八轉任
右少辨　正五位上同經元廿一 九廿八轉權右中(年齡馳ママ過之條中辨所望仍任權右中者也)
左少辨 辨官初任之後未拜賀轉任例 正五位上同宣將十一 九廿八轉
右少辨　正五位下同宣將 七月二日喪父九月、復任九月廿八日轉左少
　從五位上同晴豐十二 九廿八任
　權中納言晴秀卿嫡男、母
　天文十四十二廿二叙爵、二歲、廿二年十二月十七日元服、十歲、同日任右兵衛佐叙從五位上、

弘治二年丙辰
左大辨　正四位上藤賴房　頭
右大辨
左中辨　正五位上同淳光十六 藏人氏院別當

右中辨　正五位上同輔房十五藏人
權右中辨正五位上同經元廿三藏人
左少辨　正五位上同宣將十二
右少辨　從五位上同晴豐十三

弘治三年丁巳　九月五日天皇崩御、新帝踐祚、(十月廿七日、)
左大辨　正四位上藤賴房卅一頭補新帝藏人頭
右大辨
左中辨　正五位上同淳光十七藏人補新帝藏人氏院別當
右中辨　正五位上同輔房十六藏人補新帝藏人
權右中辨正五位上同經元廿三藏人
左少辨　正五位上同宣將十三（上イ）（從イ）
右少辨　正五位下同晴豐十四正六正五下

正親町院
　弘治四永祿元　永祿二　同三　同四　同五　同六　同七　同八　同九　同十　同十一　同十二　同十三元龜元　元龜二　同三　同四天正元　天正二　同三　同四　同五　同六　同七　同八　同九　同十　同十一　同十二　同十三　同十四

後陽成院
　天正十五　同十六　同十七　同十八　同十九　同廿文祿元　文祿二　同三　同四　同五慶長元　慶長二　同三　同四　同五　同六　同七　同八　同九　同十　同十一　同十二　同十三　同十四　同十五　同十六

後水尾院
　慶長十七　同十八　同十九　同二十元和元　元和二　同三　同四　同五　同六　同七　同八　同九　同十寛永元　寛永二　同三　同四　同五　同六

明正院
　寛永七　同八　同九　同十　同十一　同十二　同十三　同十四　同十五　同十六　同十七　同

十八　同十九　同二十

正親町院

弘治四年戊午　二月廿八日改元爲永祿元、（代始改元、）

左大辨　正四位上藤頼房卅二頭

右大辨

左中辨　正五位上同淳光十八藏氏院別當

右中辨　正五位上同輔房十七藏
延暦寺大會勅使

權右中辨正五位上同經元廿三藏

左少辨　正五位上同宣將十四

右少辨　正五位下同晴豐十五

永祿二年己未

左大辨　正四位上藤頼房卅三頭

右大辨

左中辨　正五位上同淳光十九藏氏院別當十月十一日從四位下同日補藏人頭同二（十イ）月廿一（二一クヅ）從四上
年中兩度加級例

右中辨　正五位上同輔房十八藏

權右中辨正五位上同經元廿五藏

左少辨　正五位上同宣將十五藏

右少辨　正五位下同晴豐十六十一月十（一イ）日補藏人

永祿三年庚申　二廿七天皇御卽位、

左大辨　正四位上藤頼房卅四頭二月五日兼參議同六日從三位
御卽位奉行

右大辨　正四位上同淳光廿二月十三日轉頭

左中辨　從四位上同淳光頭氏院別當正月十五日正四下同二月六日正四位上同十三日轉右大辨
年中兩度加級例

右同　正イ　從四位下同輔房二月十三日轉頭同三月一日從四上、正四下

右中辨　從四位下同輔房十九二月六日補藏人頭轉左中（藏、從四下三月十三イ）

　正五位上同經元二月十三日轉

權右中辨正五位上同經元廿五藏轉右中

左少辨　正五位上同宣將十六四、逆退爲菅季長希代例也（以上クヅ本）

　正五位下同晴豐七月八日轉

權左少辨正五位下同光宣十二七月八日轉

右少辨　正五位下同晴豐十七藏轉左少

　從五位下同宣敎十八七月八日任元左衞門佐
故權大納言宣忠卿男、母入道前刑部卿氏直朝臣女、

權右少辨正五位下同光宣十二、任七八轉權左少
大納言光康卿男、母

天文十九正五敍爵、二歲、同廿三廿七侍從、三歲、同廿四六廿七從五上、七歲、同日元服昇殿、弘治三八十正五下、十六左衞門佐、
【イ永祿三五二敍爵、十八歲、同日左衞門佐、クヅ】

永祿四年 辛酉

左大辨　從三位　藤賴房 卅五 三木
右大辨　正四位上同淳光 廿一 頭 氏院別當
左中辨　正四位下同輔房 廿 頭 正月五日正四上
右中辨　正五位上同經元 廿六 藏
左少辨　正五位下同晴豐 十八 藏
權左少辨正五位下同光宣 十三
右少辨　從五位下同宣敎 十九

永祿五年 壬戌

左大辨　從三位　藤賴房 卅六 三木
右大辨　正四位上同淳光 廿二 頭 氏院別當
左中辨　正四位上同輔房 廿一 頭
右中辨　正五位上同經元 廿七 藏
左少辨　正五位下同晴豐 十九 藏 正五 正五上
權左少辨正五位下同光宣 十四
右少辨　從五位下同宣敎 廿

永祿六年 癸亥

左大辨　從三位　藤賴房 卅七 三木 六月廿七日任權中納言
　　　　正四位上同淳光 廿三 六月廿七日轉頭 同七月六日三木
右大辨　正四位上同淳光 頭氏院別當轉左大 【イ六廿七轉左クヅ】
　　　　正四位上同輔房 廿二 六月廿七日轉頭 七月六日三木
左中辨　正四位上同輔房 頭轉右大
　　　　從四位上同經元 廿八 六廿七轉七月六日補藏人頭十二月廿五日正四下
年中三ヶ度加級例
右中辨　正五位上同經元 藏正廿五從四下二月一日從四上六廿七轉左中
　　　　正五位上同晴豐 廿 六月廿七日轉
左少辨　正五位上同晴豐 藏轉右中
右少辨　從五位下同宣敎 廿一 二月一日從五上

永祿七年 甲子

左大辨　正四位上藤淳光 廿四 三木氏院別當
右大辨　正四位上同輔房 廿三 三木
左中辨　正四位下同經元 廿九 頭
右中辨　正五位上同晴豐 廿一 藏

左少辨　正五位下同光宣 十六 正二(元イ)任

權大納言光康卿男、母(イ本無)

權左少辨正五位下同輝資 正二任

故權大納言晴光卿男、實權大納言國光卿男、母入道權大納言永家一女、

弘治、正六叙爵、二歲、永祿二四廿三侍從、于時兼、改名輝資、同五十一廿八從五上、同日元服昇殿、八歲、同六正五下、

右少辨　從五位上同宣教 補藏人十二十五正五位下

永祿八年乙丑

左大辨　正四位上藤淳光 廿五 三木氏院別當

右大辨　正四位上同輔房 廿四 三木

左中辨　正四位上同經元 頭

右中辨　正五位上同晴豐 藏

左少辨　正五位下同光宣 十七 正六正五上

權左少辨正五位下同輝資 十一 正六正五上

右少辨　正五位下同宣教 藏正六正五上

永祿九年丙寅

左大辨　正四位上藤淳光 廿六 三木氏院別當九月三日從三位

右大辨　正四位上同輔房 廿五 三木九月三日從三位

左中辨　正四位上同經元 頭

右中辨　正五位上同晴豐 藏

左少辨　正五位上同光宣

權左少辨正五位上同輝資

右少辨　正五位上同宣教 藏

永祿十年丁卯

左大辨　從三位　藤淳光 三木氏院別當

右大辨　從三位　同輔房 三木

左中辨　正四位上同經元 頭

右中辨　正五位上同晴豐 藏

左少辨　正五位上同光宣

權左少辨正五位上同輝資

右少辨　正五位上同宣教 藏

永祿十一年戊辰

左大辨　從三位　藤淳光 廿八 三木十二十八任權中納言

右大辨　從三位　同輔房 廿七 三木十二十八任權中納言

左中辨　正四位上同經元　頭

右中辨　一ヶ月兩度加級例　正五位上同晴豐廿五　藏十二十三從四下同廿七日從四上

左少辨　正五位上同光宣廿　十二十三補藏人

權左少辨正五位上同輝資

右少辨　正五位上同宣敎　藏氏院別當

永祿十二年己巳

左大辨

右大辨　正四位上藤經元　正十轉頭（イ六一正四上クツ）

左中辨　正四位上下イ同經元　頭正十轉右大

　　　　正四位下同晴豐　正（イ十）轉六一正四上

右中辨　從四位上同晴豐　正五正四下同十日轉左中

　　　　正五位上同光宣　正十轉

左少辨　正五位上同光宣　藏正十轉右中

　　　　正五位上同輝資十五　正十轉同日（イ十二十五（三ツ）〕補藏人

權左少辨正五位上同輝資　〔正十轉左少クツ〕

　　　　正五位上同宣敎　正十轉

右少辨　正五位上同宣敎　藏氏別院當正十轉權左少

　　　　正五位下同兼勝十三　正十任

　　　　故權大納言國光卿二男、

永祿二八廿七叙爵、二歲、同五十二二五從五上、五歲、同日侍從禁色昇殿、同六日元服、同八正六正五下、八歲、同十二二正十任右少辨、十二歲、

永祿十三年庚午　四月廿一日爲元龜元、

左大辨

右大辨　正四位上藤經元廿五　頭五廿三兼參木同廿五日從三位

左中辨　正四位上同晴豐廿七　六五補藏人頭

右中辨　正五位上同光宣廿二　藏

左少辨　正五位上同輝資十六　藏

權左少辨正五位上同宣敎廿八　藏氏院別當

右少辨　正五位下同兼勝十三

元龜二年辛未

左大辨

右大辨　從三位　藤經元　三木

左中辨　正四位上同晴豐　頭

右中辨　正五位上同光宣　藏

左少辨　正五位上同輝資　藏

權左少辨正五位上同宣敎　藏氏院別當

右少辨　正五位下(上イ)同兼勝

元龜三年壬申

左大辨　從三位　藤經元　十二廿八(廿イ)轉

右大辨　從三位　同經元　參木十二廿八(廿イ)轉左大

　　　　正四位上同晴豐廿九　十二廿八轉同日兼三木

左中辨　正四位上同晴豐　頭轉右大

右中辨　正五位上同光宣　藏

左少辨　正五位上同輝資　藏

權左少辨正五位上(下イ)同宣敎　藏氏院別當

右少辨　正五位上同兼勝

元龜四年癸酉　十二月廿八日爲天正元、

左大辨　從三位　藤經元　三木

右大辨　正四位上同晴豐　三木

左中辨　正五位上同光宣　正十六轉

右中辨　正五位上同光宣　藏轉左中

　　　　正五位上同輝資　正十六轉

左少辨　正五位上同輝資　藏轉右中

　　　　正五位上同宣敎　正十六轉

權左少辨正五位上同宣敎　藏氏院別當轉左少

　　　　正五位上同兼勝　正十六轉

右少辨　正五位上同兼勝　轉權左少

　　　　從五位上同長敎十三　正十六任亍右衛門佐

權中納言賴房卿男、母中務大輔奏重淸女、

永祿五(八イ)正六叙位五歲、元龜二十一十五從五上十一歲、今日元服昇殿、同日任兵部權少輔、同三閏正九右衛門佐、同四正十六右少辨、

天正二年甲戌

左大辨　從三位　藤經元廿九　三木三廿七去辨閏十二十九權中納言

　　　　從三位　同晴豐卅一　三廿八轉

右大辨　年中三ヶ度加級例　正四位上同晴豐　三木正五從三位轉左大

　　　　從四位下同光宣廿六　三廿八轉六五從四上十二九正四下

左中辨　正五位上同光宣　藏正五從四下

　　　　正五位上同輝資廿　三廿八轉

右中辨　正五位上同輝資　藏轉左中

　　　　正五位上同宣敎卅二　三廿八轉

左少辨　正五位上同宣敎　藏氏院別當轉右中

　　　　正五位上同兼勝十七　三廿八轉

権左少辨正五位上同兼勝　轉左少
右少辨　從五位上同長敎十三　正五正五下
権右少辨從五位下同充房十三　三廿八任十二卅從五上
雅久　故権中納言輔房卿男、實権大納言晴右卿二男、中(クヅ)
天正元十一廿一叙爵、十三歲、同十二月廿八日元服禁色昇殿、同日右兵衛佐、

天正三年乙亥
左大辨　從三位　藤晴豐卅二　三木三
右大辨　正四位　同光宣廿七
左中辨　正五位上同輝資廿一　藏十廿從四下十一五從四上
年中加級兩度例
右中辨　正五位上同宣敎卅三　藏氏院別當
左少辨　正五位上同兼勝十八　十二十一補藏人
右少辨　正五位下同長敎十四
権右少辨從五位上同充房十四

天正四年丙子
左大辨　從三位　藤晴豐卅三　三木十二廿八権中納言
右大辨　正四位下同光宣廿八　二廿七補藏人頭四廿九正四上
左中辨　從四位上同輝資廿二　二廿七補藏人頭正四下十一廿八正四上
年中兩度加級例
右中辨　正五位上同宣敎　藏氏院別當
左少辨　正五位上同兼勝　藏
右少辨　正五位下同長敎十五　九廿五補藏人十二十八正五上
権右少辨從五位上同充房　十二十三正五下

天正五年丁丑
左大辨　正四位下藤宗滿　四七同日賜去年十二卅從三位々記五三辭
從三位　同光宣　五十轉
右大辨　正四位上同光宣廿九　頭正五兼三木同日從三位
從三位　同輝資　五十兼右大
左中辨　正四位上同輝資廿三　頭正五三木同日從三位去辨
年中三ヶ度加級例
正五位上同宣敎　正十八轉藏人同廿八從四下〔上ツ〕同日補藏人頭六十正四
右中辨　正五位上同宣敎　下藏氏院別當
同右　正五位上同兼勝廿　正十八轉藏人同廿八從四位下二八從四位上同日藏人頭十一廿正四下
左少辨　正五位上同兼勝　藏
正五位上同長敎　正十八轉藏人
右少辨　正五位上同長敎　藏
正五位上同充房　十二二轉同日補藏人

權右少辨正五位下同充房十六 轉右少

天正六年戊寅

左大辨　從三位　藤光宣　三木

右大辨　從三位　同輝資　三木

左中辨　正四位下同宣敎　頭正六正四上藏 氏院別當四一﨟

右中辨　正四位下同兼勝　頭正六 正四上

左少辨　正五位上同長敎　藏

右少辨　正五位下同充房　藏正六 正五上

天正七年己卯

左大辨　從三位　藤光宣卅一　三木十一廿七 任權中納言

右大辨　從三位　同輝資廿五　三木十一十七 任權中納言

左中辨

右中辨　正四位上同兼勝　頭

左少辨　正五位上同長敎　藏二十七 改名定藤

右少辨　正五位上同充房　藏

權右少辨從五位下同宣光十二　正十四任元左衞 門權佐氏院別當

故藏人頭左中辨宣敎男、實權大納言重保卿次男、

母故入道前內大臣兼秀公女、

永祿十二五十四誕生、天正六三五叙爵、十歳、同十

八日元服、同日左衞門權佐、同七正十四權右少

辨、十一歳、

天正八年庚辰

左大辨　從三位　藤兼勝廿三　正五轉同日 三木從三位

右大辨

左中辨

右中辨　正四位上同兼勝　左大 轉

正四位上同定藤十九　正五轉二十九從四下 同日補藏人頭、、﨟

左少辨　正五位上同定藤　轉右 中

正五位上同充房　正五 轉

右少辨　正五位上同充房　轉左 少

從五位上同賴宣十　正五任同 日正五下

故權中納言賴房卿二男、母

元龜二、、誕生、天正三六廿六叙爵、五歳、于時經

家、同五六從五上、同日元服昇殿左衞門佐、七歳、同

八正五右少辨、同日正五下、、改賴宣、十歳、

權右少辨從五位下藤宣光十二 氏院別當

天正九年辛巳

左大辨　從三位　藤兼勝　三木

右大辨

左中辨　正五位上同充房廿　十一十一轉同月從四下同十二廿四補藏人頭同日從四上同廿九日正四下

一ヶ月兩度以上年中三ヶ度加級例

右中辨　正五位下同頼宣　十一十一轉

左少辨　正五位上同充房　轉左中

十三歲補藏人例

從五位上同宣光十三　十一十一轉十二廿七補藏人

右少辨　正五位下同頼宣十一　轉右中

權右少辨從五位下同宣光　轉左少、從五上氏院別當

天正十年壬午

左大辨　從三位　藤兼勝廿五　三木正十九權中納言

右大辨

左中辨　正四位下同充房　頭正六正四上

右中辨　正五位下同頼宣十二

左少辨　從五位上同宣光十四　藏氏院別當正五正五下

右少辨

權右少辨

天正十一年癸未

左大辨

右大辨

左中辨　正四位上藤充房　頭

右中辨　正五位下同頼宣十三　十二七正五上

左少辨　正五位下同宣光十五　藏氏院別當十二廿八正五上

右少辨

權右少辨

天正十二年甲申

左大辨

右大辨

左中辨　正四位上藤充房　頭

右中辨　正五位上同頼宣十四　十一十六補藏人

左少辨　正五位上同宣光十六　藏氏院別當

右少辨

天正十三年乙酉

左大辨

右大辨

左中辨　正四位上藤充房　頭

右中辨　正五位上同頼宣　藏

左少辨　正五位上同宣光　藏氏院別當

右少辨　從五位上同光豐 十二、、任

權大納言晴豐卿男、母

天正三十二七誕生、同四二十八叙爵、二歳、同十一十一十元服昇殿、同日左衛門佐從五位上、九歳、同十三、、右少辨、十一歳、

天正十四年丙戌　十一七讓位同日新帝受禪同廿五即位、

左大辨

右大辨　正四位上藤充房　十一四轉頭同七日新帝頭

左中辨　正四位上同充房　頭轉右大

正五位上同頼宣　十一四轉藏同七日新帝藏人

右中辨　正五位上同頼宣　藏轉左中

正五位上同宣光　十一四轉藏同七日新帝藏人

左少辨　正五位上同宣光　藏氏院別當轉右中

正五位下同資勝 十　十一四任

權中納言輝資卿男、母

天正六、、叙爵、二歳、同九正一元服昇殿、同從五上

侍從、五歳、同十三正六正五下、同十四十一四左少辨、十歳、

右少辨　從五位上同光豐 十一　正五正五下 十二(一イ)

權右少辨正五位下同經遠 十一　四任

故大納言經元卿男、實權大納言晴豐卿男、母

後陽成院

天正十五年丁亥

左大辨

右大辨　正四位上藤充房　頭

左中辨　正五位上同頼宣　藏

右中辨　正五位上同宣光　藏氏院別當三十五改、泰

左少辨　正五位下同資勝 十一

右少辨　正五位下同光豐 十三

權右少辨正五位下同經遠 十二

天正十六年戊子

左大辨

右大辨　正四位上藤充房　頭

左中辨　正五位上同頼宣　藏

右中辨　正五位上同宣泰　藏氏院別當

左少辨　正五位下同資勝

右少辨　正五位下同光豐十四　十二廿五補藏人

權右少辨正五位下同經遠

天正十七年己丑

左大辨　正四位上藤充房廿八　三卅轉三木五晦日從三位

右大辨　正四位上同充房　頭正六兼參木轉右大

一ヶ月兩度以上年中二ヶ度加級例

從四位下同頼宣　三卅轉頭四一從四上同廿一日正四下

左中辨　正五位上同頼宣十九　正十五從四下同日藏人頭轉右大

右同　從四位下同宣泰　三卅轉頭四一從四上同廿八日正四位下

右中辨　正五位上同宣泰廿一　正十五從四下同日藏人頭轉左中氏院別當

正五位下同資勝　三卅轉

左少辨　正五位下同資勝　轉右中

正五位下同光豐　三卅轉藏

右少辨　正五位下同光豐　藏轉左少

正五位下同光廣十二　三卅任

權大納言光宣卿男、母

天正九正五叙爵、三歲、同十一十一十三元服昇殿侍

從、五歲、同日從五上、同十四正六正五下、同十七三

卅右少辨、十一歲、

權右少辨正五位下同經遠

天正十八年庚寅

左大辨　從三位　藤充房　三木

右大辨　正四位下同頼宣　頭正五正四上

左中辨　正四位下同宣泰　頭氏院別當正五正四上

右中辨　正五位下同資勝十四　正十六補藏人同七廿五正五上

左少辨　正五位下同光豐　藏七廿五正五上

右少辨　正五位下同光豐十二

權右少辨正五位下同經遠

天正十九年辛卯

左大辨　從三位　藤充房　三木

右大辨　正四位上同頼宣　頭

左中辨　正四位上同宣泰　頭氏院別當

右中辨　正五位上同資勝　藏

左少辨　正五位上同光豐　藏

右少辨　正五位下同光廣

權右少辨正五位下同經遠

天正廿年壬辰　十二月八日爲文祿元、

左大辨　從三位　藤充房　三木
右大辨　正四位上同賴宣　頭
左中辨　正四位上同宣泰　頭氏院別當二十一改資胤
右中辨　正五位上同資勝　藏
左少辨　正五位上同光豐　藏
右少辨　正五位下同光廣
權右少辨正五位下同經遠

文祿二年癸巳

左大辨　從三位　藤充房　三木
右大辨　正四位上同賴宣　頭
左中辨　正四位上同資胤　頭氏院別當
右中辨　正五位上同資勝　藏
左少辨　正五位上同光豐　藏
右少辨　正五位下同光廣
權右少辨正五位下同經遠

文祿三年甲午

左大辨　從三位　藤充房廿三　三木七、任權中納言
　　　　正四位上同賴宣　八月十九轉頭
右大辨　正四位上同賴宣　頭轉左大
　　　　正四位上同資胤　八十九轉頭氏院別當
左中辨　正四位上同資胤　頭轉右大
　　　　正五位上同資勝　八十九轉藏
右中辨　正五位上同資勝　藏轉左中
　　　　正五位上同光豐　八十九轉藏
左少辨　正五位上同光豐　藏轉右中
　　　　正五位下同光廣　八十九轉
右少辨　正五位下同光廣　轉左少
　　　　正五位下同經遠十九　八十九轉、、補藏人
權右少辨正五位下同經遠　轉右少
　　　　正五位下同資淳十五　八十九任
　　　　權大納言淳光卿三男、母

文祿四年乙未

左大辨　正四位上藤賴宣　頭
右大辨　正四位上同資胤　頭氏院別當

年中三ヶ度加級例
左中辨　正五位上同資勝 十九 藏十一四從四下同廿六日從四上同十二廿八正四下
右同
右中辨　正五位上同光豐 廿一 藏十一四從四下同廿六從四上同十二廿八日正四下
左少辨　正五位上同光廣 十七 十一補藏人
右少辨　正五位上同經遠 藏
權右少辨正五位上同資淳 十一十三補藏人

文祿五年丙申　十月廿七日爲慶長元、
左大辨　正四位上藤賴宣 頭
右大辨　正四位上同資胤 頭氏院別當
左中辨　正四位下同資勝
右中辨　正四位下同光豐
左少辨　正五位上同光廣 藏
右少辨　正五位上同經遠 藏
權右少辨正五位下同資淳 藏十廿四卒十七歲
正五位下同總光 十七 十一九任同日(十六(イ))補藏人
權中納言兼勝卿男、母故准大臣光康公女、
天正八八一誕生、同十正六叙位、三歲、同十二十二廿五元服昇殿、同日侍從五上、五歲、同十五正十正五下、八歲、慶長元十一九權右少辨、十七歲、

慶長二年丁酉
左大辨　正四位上藤賴宣 廿七 頭正十四兼三木
右大辨　正四位上同資胤 廿九 頭正十四兼三木氏院別當
左中辨　正四位下同資勝 廿一 正十六正四上同日藏人頭
右中辨　正四位下同光豐 廿三 正十六正四上同日藏人頭
左少辨　正五位上同光廣 藏
右少辨　正五位上同經遠 藏
權右少辨正五位下同總光 十八 藏

慶長三年戊戌
左大辨　正四位上藤賴宣 三木正五從三位
右大辨　正四位上同資胤 三木氏院別當正五從三位
左中辨　正四位上同資勝 頭
右中辨　正四位上同光豐 頭
左少辨　正五位上同光廣 藏
右少辨　正五位上同經遠 藏
權右少辨正五位下同總光 藏正五正五上

慶長四年己亥
左大辨　從三位　藤賴宣 廿九 三木正十一任權中納言
正四位上同資勝 廿三 十一十六轉左大同十一七日兼三木

右大辨　從三位　同資胤 廿一　三木、正十一任權中納言

正四位　同光豐 廿五　十一十六轉右大同十一七日叙三木

左中辨 年中兩度加級例　正四位上　同資勝　頭轉左大

正五位上　同光廣 廿一　十一十六轉藏同十二十一從四下同日補藏人頭

右中辨　正四位上　同光豐　頭轉右大

正五位上　同經遠　十一十六轉藏

左少辨　正五位上　同光廣　藏轉左中

正五位上　同總光　十一十六轉藏

右少辨　正五位上　同資俊 十六　十一十六任十二十三補藏人同十五日正五下

故前大納言從一位淳光卿男、母

從五位上　同經遠　藏轉右中

權右少辨正五位上　同總光　藏轉左少

從五位上　同俊昌 十八　十一十六任

故前中納言俊名卿男、實權大納言晴豐卿三男、母

文祿三十二七叙爵、十三歲、同五四十八元服、十五歲、轉俊房、
同日左兵衞佐、慶長三正五從五上、改名依大臣名
也、同四十二十六權右少辨、十八歲、

慶長五年 庚子

左大辨　正四位上　藤資勝　三木正五從三位

右大辨　正四位上　同光豐　三木正五從三位

左中辨　從四位上　同光廣　頭正五正四下正四上

右中辨 年中三ヶ度加級例　正五位上　同經遠 廿五　藏六十六從四下七二從四上十二廿八正四下

左少辨　正五位上　同總光　藏

右少辨 五位年中兩度加級例　正五位下　同資俊 十七　藏正五正五上

權右少辨從五位上　同俊昌 十九　二十正五下八廿八補藏人十一十四正五上

慶長六年 辛丑

左大辨 除目清書　從三位　藤資勝　三木三月十九日勘解由長官

右大辨 叙位清書　從三位　同光豐　三木

左中辨　正四位上　同光廣　頭

右中辨　正四位下　同經遠 廿六　十一十三補藏人頭

左少辨　正五位上　同總光　藏〔一本三九造興福寺長官書入〕

右少辨　正五位上　同資俊　藏

權右少辨正五位上　同俊昌　藏

慶長七年 壬寅

左大辨　從三位　藤資勝　三木勘解由長官

叙位清書

右大辨　從三位　同光豐　三木

左中辨　正四位上同光廣　頭

右中辨　正四位上同經遠　頭七十四甍廿七歳

正五位上同總光　九四轉藏

左少辨　正五位上同總光　藏轉右中

正五位上同俊昌　九四轉藏

右少辨　正五位上同資俊　藏六五甍十九歳

權右少辨正五位上同俊昌　藏轉左少

慶長八年癸卯

左大辨　從三位　藤資勝　三木勘解由長官

右大辨　從三位　同光豐　三木

左中辨　正四位上同光廣　頭

右中辨　正五位上同總光　藏

左少辨　正五位上同俊昌　藏

右少辨

慶長九年甲辰

左大辨　從三位　藤資勝　三木勘解由長官

右大辨　從三位　同光豐卅　三木六廿六任權中納言

正四位上同光廣　八一轉頭

左中辨　正四位上同光廣　頭轉右大

年中三ヶ度加級例

正五位上同總光廿五　八一轉同日從四下同廿一日補頭、從四上、正四下

右中辨　正五位上同總光　藏轉左中

正五位上同俊昌　八一轉

左少辨　正五位上同俊昌　藏轉右中

從五位上同兼房十三　八一任十二十七改孝、

權大納言充房卿男、母故前内大臣信長公女、

右少辨　從五位上同宣衡十五　八一轉元右衛門佐

權中納言資胤卿二男、母故頭左中辨宣教朝臣女、

天正十八七誕生、慶長三十二十四叙爵、九歳、同五十一十九元服、同日右衛門佐、于時宣衡、十一歳、同七正六從五上、十三歳、同九八一右少辨、十五歳、

慶長十年乙巳

左大辨　從三位　藤資勝　三木勘解由長官

右大辨　正四位上同光廣　頭

左中辨　正四位下同總光　頭正六正四上

右中辨　正五位上同俊昌　頭

左少辨　從五位上同孝房十四

右少辨　從五位上同宣衡十六　五十補藏人

慶長十一年丙午

左大辨　從三位　藤資勝　三木勘解由長官

右大辨　正四位上同光廣廿八　頭正十一兼三木辨如元

左中辨　正四位上同總光　頭

右中辨年中兩度加級例　正五位上同俊昌廿五　藏正廿一從四下同日補藏人頭同三十從四上

左少辨　從五位上同孝房十五　正六正五下越光慶同廿一補藏人

右少辨　從五位上同宣衡十七　藏正六正五下越光慶

權右少辨從五位上同共房十八　正十一任

故刑部卿家幸朝臣男、實櫨中納言資胤卿男、母

天正十七五廿七誕生、慶長七正六敘位、十四歲、同十二日元服、同九八一左衞門權佐、同十一正六從五上、同十一日權右少辨、十八歲、

慶長十二年丁未

左大辨　從三位　藤資勝　三木勘解由長官

右大辨　正四位上同光廣　三木

左中辨　正四位上同總光　頭

右中辨　從四位上同俊昌　頭

左少辨　正五位下同孝房　藏正十七正五上

右少辨　正五位下同宣衡　藏正十七正五上

權右少辨從五位上同共房十九

慶長十三年戊申

左大辨　從三位　藤資勝卅二、三木大辨兩官辭三木正六從三位

右大辨　正四位上同光廣

左中辨　正四位上同總光　頭

右中辨　從四位上同俊昌　頭

左少辨　正五位上同孝房　藏

右少辨　正五位上同宣衡　藏

權右少辨從五位上同共房廿　二〔三クッ〕十七補藏人

慶長十四年己酉

左大辨　從三位　藤光廣　正九轉三木七四勅勘

右大辨　從三位　同光廣　三木轉左大

　　　　正四位上同總光卅　正九轉頭同十一日兼三木

左中辨　正四位上同總光　頭轉右大

　　　　從四位上同俊昌廿八　正九轉同十三日頭辨辭七十九兼三木八月十七日薨

右中辨　正五位上同孝房　正十三轉藏
　　　　從四位上同俊昌　頭轉左中
　　　　正五位上同孝房　正九轉藏人轉左中
　　　　正五位上同宣衡　正十三轉藏
中辨直任例
權右中辨正五位下同兼賢　十五　正十一任侍從
　　參議右大辨一光朝臣男、母
文祿四七廿六誕生、慶長二一正五叙爵、三歲、同七十二廿一元服昇殿侍從、八歲、同九八一從五上、同十四正六正五下、十五歲、同十一一月權右中辨直任、
左少辨　正五位上同孝房　藏轉右中
　　　　正五位上同宣衡　正九轉又右中
　　　　正五位上同共房　正十三轉藏
右少辨　正五位上同宣衡　藏轉左少
　　　　正五位下同共房　正九轉又轉左少
　　　　從五位上同業光　十五　正十三任元左衛權佐
　　故前大納言從一位淳光卿孫、母
慶長八正六叙位、九歲、同十十一元服昇殿、同日春宮權大進、十一歲、同十一正六從五上、十三歲、同十三正十二左兵衛權佐、十四歲、同十四正十三右少辨、十五歲、
權右少辨從五位上藤共房　藏正六五下越光慶轉右少

慶長十五年庚戌
左大辨
右大辨　正四位上藤總光　三木
左中辨　正五位上同孝房　藏
右中辨　正五位上同宣衡　藏
權右中辨正五位下同兼賢　十六　月日勅勘
左少辨　正五位下同共房　藏
右少辨　從五位上同業光　十六　七十九正五下

慶長十六年辛亥　三廿七讓位同日受禪同四十二卽位、
左大辨　從三位　藤光廣　三木四一御免
右大辨　正四位上同總光　三木四廿一從三位
年中三ヶ度加級例
左中辨　正五位上同孝房　廿　藏四廿一從四上十一十一正四下七三從
右同
右中辨　正五位上同宣衡　廿二　藏四廿一從四上十一十一正四下七三從
權右中辨正五位下同兼賢　十七　四十二日御免四廿一補藏人
左少辨　正五位下同共房　藏三廿一正五上越兼賢
右少辨　正五位下同業光　十七　四廿一日補藏人

當今法皇〔以上四字ク本ツ本作院字〕

慶長十七年壬子

左大辨　從三位　藤光廣卅四 三木正十一任權中納言

正四位下同孝房廿一 正十九轉同二、補藏人頭十二七正四上

右大辨　從三位　同總光卅三 三木正十一任權中納言

正四位下同宣衡廿三 正十九轉七廿五補藏人頭同日拜賀十二七正四上

左中辨　正四位下同孝房 轉左大辨

從四位下同共房 正五從四下同十九轉八一從四上十二十一正四下

年中兩度加級例

權左中辨從四位下同光慶廿二 正十九任八一從四上

直任權左中辨例

權中納言資勝卿男、母故准大臣光宣公女、

右中辨　正四位下同宣衡 轉右大

正五位上同兼賢 正十九轉藏人

權右中辨正五位下同兼賢十八 藏人正五正五上轉右中

左少辨　正五位上同共房 藏正五從四下轉左中

正五位上同業光 正十九補藏人

右少辨　正五位下同業光十八 藏正五正五上轉左少

正五位下同光賢十三 正十九任

權中納言光廣卿男、母

慶長七正〔十ツ〕六敍位、三歲、同十三〔二ク〕正十二元服、同日侍從從五上、九歲、同十六十二廿九禁色、

同十七正五正五下、十三歲、同十九右少辨、

慶長十八年癸丑

左大辨　正四位上藤孝房廿二 頭正十二任三木辨如元

右大辨　正四位上同宣衡廿四 頭七十九任三木去辨

正四位上同共房 十一廿一補頭

左中辨　正四位下同共房廿五 正六正四上同廿三補藏人頭轉右大辨

正四位上同光慶 十一廿一補頭

權左中辨從四位上同光慶廿三 正六正四下七廿一補藏人頭〔不經五位藏人〕八十六拜賀十十九正四上左中辨

右中辨　正五位上同兼賢十九 藏人七廿二從四下

少辨四品例

左少辨　正五位上同業光十九 藏十二廿六從四位下同卅日從四上一ヶ月兩度

右少辨　正五位上同光賢十四 六四補藏人

權右少辨從五位上同光長十八 十一廿一任藏人

慶長六年正六敍位、二品親王御給、同十三正廿元服昇殿、

同十四二十一右衞門權佐、十四歲、同十六〔三〕廿一右兵衞權佐、十六歲、同四月廿一從五上、同十八十一九藏人、十八歲、同十一月廿一任權右少辨、

慶長十九年甲寅

左大辨　正四位上藤孝房 廿三 三木正五叙従三位七廿四辞辨

　　　　正四位上同共房 七廿七轉三木

右大辨　正四位上同共房 廿六 頭正十一任三木辨如元七廿七轉左

　　　　正四位上同光慶 廿四 七廿七任三木

左中辨　正四位上同光慶 頭七廿四任三木辞退

　　　　正四位上同兼賢 廿 七廿七轉頭

右中辨　正四位下同兼賢 正五正四上同十四補頭七廿七轉左

　　　　正四位下同業光 廿四 七廿七轉任同十八正四上

左少辨　従四位上同業光 廿 正五正四下七十四補頭同廿七轉右中辨

　　　　正五位上同光賢 十五 七廿七轉藏人左少辨藏

權左少權正五位下同光長 七廿七轉藏人

右少辨　正五位上同光賢 藏人七廿七轉左少辨

　　　　従五位下同總盛 七廿七補

　　　　父權中納言總光卿男、

　　慶長十八四十爵、九歳、同九廿六元服、同日任侍従、

權右少辨従五位上藤光長 十九〔藏人正五正五下轉權左少辨クツ〕

慶長廿年乙卯 七月十三改元爲元和元、

左大辨　正四位上藤共房 三木正五叙従三位十二月十八日辞辨

　　　　従三位　同光慶 十二廿〔十ヵツ〕八任三木

右大辨　正四位上同光慶 參議正五叙従三十二廿八轉左大辨

　　　　正四位上同兼賢 十二廿八補頭

左中辨　正四位上同兼賢 頭十二廿八轉右大辨

　　　　正四位上同業光 十二廿八補頭

右中辨　正四位上同業光 頭十二廿八轉

　　　　正五位上同光賢 十二廿八補藏人

左少辨　正五位上同光賢 藏人十二廿八轉右中辨

　　　　正五位下同光長 十二廿八補藏人

權左少辨正五位下同光長 藏人十二廿八轉左少辨

右少辨　従五位下同總盛

元和二年丙辰

左大辨　従三位　藤光慶 三木

右大辨　正四位上同兼賢 頭

左中辨　正四位上同業光 頭

右中辨　正五位上同光賢 藏人

左少辨　正五位下同光長 藏人二月五日叙正五上

權左少辨正五位下同時長 十一 正十一任、

故頭右中辨經遠朝臣男、實公仲公孫貞秀男、
慶長十一三廿一誕生、同十四二二十一爵、四歳、同十七
十二廿一元服、同日從五上治部大輔、七歳、昇殿、同
廿正五正五下、十歳、
右少辨　從五位下同總盛

元和三年丁巳
左大辨　從三位　藤光慶　三木
右大辨　正四位上同兼賢　頭
左中辨　正四位上同業光　頭
右中辨　正五位上同光賢　藏人
左少辨　正五位上同光長　藏人
權左少辨正五位下同時長
右少辨　從五位下同總盛　正五叙從五上

元和四年戊午
左大辨　正三位　藤光慶　三木
右大辨　正四位上同兼賢　頭
左中辨　正四位上同業光　頭
右中辨　正五位上同光賢　藏人
左少辨　正五位上同光長　藏人
權左少辨正五位下同時長　十三
右少辨　從五位上同總盛

元和五年己未
左大辨　正三位　藤光慶　三木三廿一任權中納言
　　　　正四位上同兼賢　轉任同十三任三木辨如元
右大辨　正四位上同兼賢　頭七十爲左大辨
　　　　正四位上同業光　轉任頭同十三日任三木辨如元
左中辨　正四位上同業光　頭七十轉右大辨
年中兩度加級例
　　　　從四位下同光賢　轉任十二廿五叙從四位上
右中辨　正五位上同光賢　藏人三月廿日叙從四下同七月十日轉左中辨
　　　　正五位上同光長　藏人轉任
左少辨　正五位上同光長　藏人七十轉右中辨
　　　　正五位下同時長　十四　七十轉任同十二日補藏人十二廿五叙正五上
權左少辨正五位下同時長　七十轉左少辨
　　　　正五位下同經廣　八月十四日補藏人
故權大納言光豐卿男、實故三木俊昌朝臣男、母
慶長十一十廿七誕生、同十六四廿九叙位、六歳、俊直、同

十八十一廿一元服、八歲、昇殿任左兵衛權佐、同十九正五從五上、元和元十十二改名經廣、同正六五正五下、十四歲、同七十二(三イ)補藏人權佐、

右少辨　從五位上同總盛

元和六年庚申

左大辨　正四位上藤兼賢　參議正月五日敍從三位
右大辨年中兩度加級例　正四位上同業光　三木正月五日敍從三
左中辨　從四位上同光賢　正五敍正四下六(五イ)月十七補藏人頭同十二月廿七日敍正四上
右中辨　正五位上同光長　藏人
左少辨　正五位上同時長　藏人
權左少辨正五位下同經廣　藏人正六敍正五上
右少辨　從五位上同總盛

元和七年辛酉

左大辨　從三位　藤兼賢　三木正十一任權中納言
右大辨　從三位　同業光　三木
左中辨　正四位下同光賢　頭
右中辨　正五位上同光長　藏人
左少辨　正五位上同時長　藏人
權左少辨正五位上同經廣　藏人
右少辨　從五位上同總盛

元和八年壬戌

左大辨
右大辨　從三位　藤業光　三木
左中辨　正四位上同光賢　頭
右中辨　正五位上同光長　藏人
左少辨　正五位上同時長　藏人
權左少辨正五位上同經廣　藏人
右少辨　正五位下同總盛

元和九年癸亥

左大辨
右大辨　從三位　藤業光　三木
左中辨　正四位上同光賢　頭
右中辨　正五位上同光長　藏人正五廿八從四下
左少辨　正五位上同時長　藏人
權左少辨正五位上同經廣　藏人

右少辨　正五位下同總盛

元和十年甲子　二月晦日改元爲寛永元年、

左大辨

右大辨　從三位　同業光　三木正五叙正三位

左中辨　正四位上同光賢　頭

右中辨　從四位下同光長

左少辨　正五位上同時長　藏人

權左少辨正五位上同經廣　藏人十一廿八兼中宮大進立后庵日

右少辨　正五位下同總盛

寛永二年乙丑

右大辨　正三位　同業光　三木

左中辨　正四位上同光賢　頭

右中辨　從四位下同光長

左少辨　正五位上同時長　藏

權左少辨正五位上同經廣　藏人中宮大進

右少辨　正五位下同總盛

寛永三年丙寅

左大辨　正四位上同光賢　十二廿三更任三木

右大辨　正三位　同業光　三木八十三任權中納言

左中辨　正四位上同光賢　頭八十五〔十二クヅ〕任三木辭辨

右中辨　從四位下同光長　八二叙從四上

左少辨　正五位上同時長　藏人

權左少辨正五位上同經廣　藏人中宮大進

右少辨　正五位下同總盛

寛永四年丁卯　叙位清書

左大辨　正四位上同光賢　三木正五叙從三

右大辨　從四位上同時長　九七補頭

年中兩度加級例

左中辨　從四位下同時長　五廿九轉今日補藏人頭九四叙從四上同七轉右大辨

從四位下同經廣　九七轉

右中辨　從四位下同光長　九七辭辨

正五位上同俊完　九七任元兵部少輔藏人

故三木俊昌朝臣二男、

慶長十四十一廿七誕生、同十六三廿一爵三歳、子時賴豊、同十九三五元服、六歳、同日從五上任兵部少輔、元和二五二改名俊完、同五正六正五下少辨、十一歳、

左少辨　正五位上藤時長　藏人五廿九從四下今日補頭轉左中辨
　　　正五位下同共綱十六　九〔五クツ〕七補〔同十一十七正五上イ〕藏人
　　　　權中納言共房卿一男、
　　　　慶長十七十廿一誕生、同十八七廿二叙爵、二歲、元和二十二十七元服、五歲、昇殿任左衞門權佐、同三正五從五上、六歲、同六正五正五下、九歲、寬永元十一廿八兼中宮權大進立后日、同四七廿七補藏人、
權左少辨正五位上藤經廣　藏人中宮大進六廿一從四下九七轉左中辨同廿從四上
右少辨　正五位下同總盛　十廿五爲氏院別當
權右少辨正五位下同宣順十五　九七任同十一廿〔四ク〕補藏人
　　　　權大納言宣衡卿男、
　　　　慶長十八十廿七誕生、同十九正六叙爵、二歲、元和六十二廿七元服、八歲、昇殿從五位上任左兵衞佐、同九正五正五下、十一歲、

寬永五年戊辰
左大辨　從三位　藤光賢　三木
右大辨　從四位上同時長　頭正月六日正四下叙位十二月廿正四上
左中辨　從四位上同經廣　二月十正四下中宮權大進
右中辨　正五位上同俊完　藏人
左少辨　正五位上同共綱　藏人中宮權大進
右少辨　正五位下同總盛
權右少辨正五位下同宣順十六　藏人三月十二正五上

寬永六年己巳　十一月八日讓位、
左大辨　從三位　藤光賢　三木
右大辨　正四位上同時長廿四　頭七月廿一薨
　　　正四位上同經廣廿四　頭十一月六轉任
左中辨　正四位下同經廣　中宮〔權クツ〕大進九月廿一正四上十月十一補藏人頭十一月六轉右大辨同九日大進去
　　　正五位上同俊完　藏人十一月六轉任
右中辨　正五位上同俊完　藏人十一月六轉左中辨
　　　正五位上同共綱　藏人十一月六轉任
左少辨　正五位上同共綱　藏人中宮權大進十一月六轉右中辨九日權大進去
　　　正五位上同宣順　藏人十一月六轉任
右少辨　正五位下同總盛
權右少辨正五位上同宣順　藏人十一月六轉左少辨
新院明正院
寬永七年庚午　九月十二日即位、

左大辨 從三位 藤光賢 卅一 三木正月十一任權中納言

右大辨 正四位上同經廣 廿五 頭

左中辨 正五位上同俊完 廿二 藏人

右中辨 正五位上同共綱 十九 藏人

左少辨 正五位上同宣順 十七 藏人

右少辨 正五位下同總盛 廿六

權右少辨正五位下同綱房 十九 正月十一任

故參議左大辨孝房卿男、

慶長十七九九誕生、同十九正五敍爵、三歳、元和三七九元服、六歳、同日昇殿右兵衞佐、同五正五從五上、八歳、寬永四正五正五下、十六歳、

寬永八年 辛未

左大辨 正四位上藤經廣 三木十二月十八日轉任

右大辨 正四位上同經廣 廿六 頭正月十二任三木十二月廿八轉左大辨

從四位下同俊完 頭十二月十八轉任

左中辨 正五位上同俊完 藏人十二月十五從四下、同日補藏人頭同十八轉右大辨

正五位上同共綱 藏人十二月十八轉任

右中辨 正五位上同共綱 藏人十二月十八轉左中辨

正五位上同宣順 藏人十二月十八轉任

左少辨 正五位上同宣順 藏人十二月十八轉右中辨

正五位上同綱房 廿 藏人十二月十八轉任

右少辨 正五位下同總盛

權右少辨正五位下同綱房 十二月十八轉左少辨同廿四日補藏人同日正五上

正五位下同綏光 十二月廿七任

權中納言兼賢卿男、

元和二正廿三誕生、同三正五敍爵、二歳、同六五十七元服、五歳、同日侍從五位上、寬永九十一廿八中宮權大進、同正五正五下、十二歳、同六十一九權大進去、

寬永九年 壬申

左大辨 正四位上藤經廣 廿七 三木正月五從三位

右大辨 從四位下同俊完 廿四 年中三ヶ度 頭正月五從四上同二月廿九正四下同四月十一正四上同五月二任三木

左中辨 同 正五位上同共綱 廿七 藏人五月二從四下同日補藏人頭同九月八從四上同十二月十一正四下

右中辨 同 正五位上同宣順 廿 藏人六月五從四下同日去藏人同十月二從四上同十二月十一正四下

左少辨 正五位上同綱房 藏人 六月五去辨

右少辨 正五位下同總盛 藏人六月五轉任

正五位下同綏光

權右少辨　正五位下　同綏光　五月二補藏人、六月五轉右少辨

　　　正五位下　同弘資　六月五任同、十六日補藏人

　　　故權中納言光慶卿男、

　　　元和三正卅誕生、同四正五叙爵、二歳、同七正廿三元服、五歳、同日從五上侍從、寛永四正五正五下、十一歳、

寛永十年 癸酉

左大辨　從三位　藤經廣　三木

右大辨　正四位上　同俊完　三木、正月六從三位

左中辨　正四位下　同共綱　頭、正月六正四上

右中辨　正四位下　同宣順　四月六正四上

左少辨　正五位上　同綱房　藏人

右少辨　正五位下　同綏光 十八　藏人、正月六正五上

權右少辨　正五位下　同弘資　藏人、正月六正五上

寛永十一年 甲戌

左大辨　從三位　藤經廣　三木

右大辨　從三位　同俊完　三木

左中辨　正四位上　同共綱　頭

右中辨　正四位上　同宣順

左少辨　正五位上　同綱房　藏人

右少辨　正五位上　同綏光　藏人

權右少辨　正五位上　同弘資　藏人

寛永十二年 乙亥

左大辨　從三位　藤經廣 卅　三木、正月十一任權中納言

　　　從三位　同俊完　三木、正月十一轉任

右大辨　從三位　同俊完　三木、正月十一轉左大辨

　　　正四位上　同共綱　頭、正月十一日轉任

左中辨　正四位上　同共綱　頭、正月十一轉右大辨

　　　正四位上　同宣順　正月十一轉任

右中辨　正四位上　同宣順　正月十一轉左中辨

　　　正五位上　同綱房　藏人、正月十一轉任

左少辨　正五位上　同綱房　藏人、正月十一轉右中辨

　　　正五位上　同綏光　藏人、正月十一轉任

右少辨　正五位上　同綏光　藏人、正月十一轉左少辨

　　　正五位上　同弘資　藏人、正月十一日轉任

權右少辨　正五位上　同弘資　藏人、正月十一日轉右少辨

正五位下同頼業 廿二正月十一日任
故兵部權少輔頼隆男、實故三木孝房卿次男、
元和元四廿四誕生、同九九廿五叙爵、九歳、寛永四九十三元服、同日從五上兵部少輔、十六歳、同九正五正五下、十八歳、

寛永十三年丙子
左大辨　從三位　藤俊完　三木
右大辨　正四位上同共綱　頭
左中辨　正四位上同宣順
右中辨　正五位上同綱房　藏人
左少辨　正五位上同綏光　藏人
右少辨　正五位上同弘資　藏人
權右少辨正五位下同頼業

寛永十四年丁丑
左大辨　從三位　藤俊完　三木正月五正三位十二月廿辭左大辨
　正四位上同共綱　頭十二月廿轉任
右大辨　正四位上同共綱　頭十二月廿轉左大辨
　正四位上同宣順　十二月廿轉任

左中辨　正四位上同宣順　十二月廿轉右大辨
　正五位上同綱房　藏人十二月廿轉任
右中辨　正五位上同綱房　藏人十二月廿轉左中辨
　正五位上同綏光　藏人十二月廿轉任
左少辨　正五位上同綏光　藏人十二月廿轉右中辨
　正五位上同弘資　藏人十二月廿轉任
右少辨　正五位上同弘資廿一　藏人十二月轉左少辨
　正五位下同頼業　十二月廿轉任
權右少辨正五位下同頼業　十二月廿轉右少辨
　正五位下同資行十八　十二月廿轉任
權中納言業光卿男、
元和六十二二十六誕生、同九正五叙爵、四歳、寛永三二十四侍從、同三月廿七左兵衞權佐、同五二十從五上、同九正五正五下、十三歳、

寛永十五年戊寅
左大辨　正四位上藤共綱　頭
右大辨　正四位上同宣順
左中辨　正五位上同綱房　藏人
右中辨　正五位上同綏光　藏人

左少辨　正五位上同弘資　藏人
右少辨　正五位下同賴業
權右少辨正五位下同資行

寛永十六年己卯

左大辨　正四位上藤共綱 廿八　頭九月十五三木閏十一月廿八從三位
右大辨　正四位上同宣順 廿七　閏十一月十八日補藏人頭
左中辨（年中三ヶ度）　正五位上同綱房　藏人二月廿六從四下同日去藏人六月一從四上閏十一十八正四下同日補藏人頭
右中辨（同）　正五位上同綏光 廿四　藏人閏十一月廿一從四下同日去藏人同廿九日從四上十二月廿正四下
左少辨　正五位上同弘資　藏人
右少辨　正五位下同賴業 廿五　三月二補藏人同日正五位上禁色
權右少辨正五位下同資行 廿　閏十二月廿二補藏人同日禁色同廿九日正五上

寛永十七年庚辰

左大辨　從三位　藤共綱　三木
右大辨　正四位上同宣順　頭
左中辨　正四位下同綱房 廿九　頭正月五正四上
右中辨　正四位下同綏光
左少辨　正五位上同弘資　藏人十二月廿從四下去藏人

右少辨　正五位上同賴業　藏人
權右少辨正五位上同資行　藏人

寛永十八年辛巳

左大辨　從三位　藤共綱　三木八月廿三辭左大辨
正四位上同宣順　頭八月廿三轉任
右大辨　正四位上同宣順　頭八月廿三日轉左大辨
正四位上同綱房 卅　頭八月廿三轉任十二月廿四薨
左中辨　正四位上同綱房　頭八月廿三轉右大辨
正四位下同綏光　八月廿三日轉任
右中辨　正四位下同綏光　八月廿三日轉左中辨
從四位上同弘資　八月廿三轉任
左少辨　從四位下同弘資　正月五從四上八月廿三轉右中辨十一月十三正四下
正五位上同賴業　藏人八月廿三轉任
右少辨　正五位上同賴業　藏人八月廿三轉左少辨
正五位上同資行　藏人八月廿三轉任
權右少辨正五位上同資行　藏人八月廿三日轉右少辨
正五位上同資慶　藏人八月廿三去左衛門佐
故權中納言光賢卿男、
元和八五十一誕生、同十正五從五下、三歲、寛永三

二十四元服侍従、五歳、同五二十従五上、七歳、同九
正五正五下、十一歳、同十六正十一左衛門佐、同十七
十二十〔廿クツ〕六補蔵人同日正五上禁色、十九歳、

寛永十九年壬午
左大辨　正四位上藤宣順卅　頭二月六三木同七月十九従三位
右大辨　正四位下同綏光　正月廿一転任
左中辨　正四位下同綏光廿七　正月廿一転右大辨二月六補蔵人頭六月十正四上
　　　　正四位下同弘資　正月廿一転任
右中辨　正四位下同弘資　正月廿一転左中辨同七月十二補蔵人頭八月十四日正四上
　　　　正五位上同頼業　蔵人正月廿一転任
左少辨　正五位上同頼業　蔵人正月廿一転右中辨七月八従四下辞蔵人十一月廿六従四上
　　　　正五位上同資行　蔵人正月廿一転任
右少辨　正五位上同資行　蔵人正月廿一転左少辨
　　　　正五位上同資慶　蔵人正月廿一転任
権右少辨　正五位上同資慶　蔵人正月廿一転右少辨
　　　　正五位下同嗣長卅二　正月廿一任去左衛門権佐七月十六補蔵人同日正五上
　　　　故頭右大辨時長朝臣男資弟也、
慶長十六八二誕生、元和二十十三叙爵、十三歳、寛永六
九廿八元服、十九歳、同十十二廿六従五上、同日左衛
門権佐、同十三正廿正五下、廿六歳、

寛永廿年癸未　十三日譲位同日受禅同廿一日即位、
左大辨　従三位　藤宣順　三木十月十六辞左大辨
　　　　正四位上同綏光　頭十月十六日転任十一月十五従三位
右大辨　正四位上同綏光　頭十月十六転左大辨同日任三木十一月十五従三位
　　　　正四位上同弘資　頭十月十六日転任十一月十五従三位
左中辨　正四位上同弘資　頭十月十六転右大辨同日任三木
　　　　正四位下同頼業　十月十六転任十二月廿八正四上
右中辨　従四位上同頼業廿九　正月五正四下十月十六日補蔵人頭同日転左中辨〔十一月廿八正四上クツ〕
　　　　正五位上同資行　蔵人十月十六転右中辨同十月廿六従四下去蔵人同十一月十七従四上
左少辨　正五位上同資行　蔵人十月十六転右中辨
　　　　正五位上同資慶　蔵人十月十六転任
右少辨　正五位上同資慶　蔵人十月十六転左少辨
　　　　正五位上同嗣長　蔵人十月十六転任
権右少辨　正五位上同嗣長　蔵人十月十六転右少辨
　　　　正五位下同俊廣十九　十月十六任十一月六補蔵人同十三日正五上
　　　　権中納言俊完卿男、
寛永三十十三誕生、同六正五叙爵、四歳、同十一五九

元服、同日從五上右兵衞權佐、同十五正五下、十三歲、

後光明院

寬永廿一正保元　正保二　同三　同四　同五慶安元

同二　同三　同四　同五承應元　同二　同三

後西院

承應四明曆元　明曆二　同三　同四萬治元　萬治二

同三　同四寬文元　寬文二

靈元院

寬文三　同四　同五　同六　同七　同八　同九

同十　同十一　同十二　同十三延寶元　延寶二

同三　同四　同五　同六　同七　同八　同九天和元

天和二　同三　同四貞享元　貞享二　同三

東山院

貞享四　同五元祿元　元祿二　同三　同四　同五

同六　同七　同八　同九　同十　同十一　同十

二　同十三　同十四　同十五　同十六　同十七

寶永元　寶永二　同三　同四　同五　同六

後光明院

寛永廿一年甲申　十二月十六日改元爲正保元、

左大辨　從三位　藤綏光 廿九 三木十二月廿四日辭左大辨

從三位　同弘資 廿八 三木十二月廿六日轉任

右大辨　從三位　同弘資　三木十二月廿六轉左大辨

正四位上同賴業 卅 頭十二月廿六轉任

左中辨　正四位上同賴業　頭十二月廿六轉右大辨

正四位下同資行　十二月廿六轉任

右中辨　從四位上同資行　正月五正四下十二月十八(九)補藏人頭同廿六轉左中辨

從四位上同資慶 廿五 十二月廿六日轉任

左少辨　正五位上同資慶　藏人八月十一從四下去藏人同十二月十二從四上同廿六轉右中辨

正五位上同嗣長 廿四 藏人十二月廿六轉

右少辨　正五位上同嗣長　藏人十二月廿六轉左少辨

正五位上同俊廣　藏人十二月廿六轉任

權右少辨正五位上同俊廣　藏人十二月廿六轉右少辨

正五位上同資淸　藏人十二月廿六任

故權中納言光賢卿二男、

寛永三十七誕生、同十正六叙爵、八歲、同十六六廿八元服、同日從五上彈正大弼、十四歲、同廿一八十二正五下、同九月廿九左衞門權佐十月三補藏人、同

日禁色正五上、

正保二年乙酉

左大辨　從三位　藤弘資 廿九 三木十二月廿八辭左大辨

正四位上同賴業 卅一 三木十二月廿八轉任

右大辨　正四位上同賴業　頭十月十八三木十二月廿八日轉左大辨

正四位上同資行 廿六 頭十二月廿八轉任

左中辨　正四位下同資行　頭正月六正四上十二月廿八轉右大辨

正四位上同資慶 廿四 頭十二月廿八轉任

右中辨　從四位上同資慶　頭正月六正四下十月十八補藏人頭同廿五日正四上十二月廿八轉左中辨

正五位上同嗣長 卅五 藏人十二月廿八轉任

左少辨　正五位上同嗣長　藏人十二月廿八轉右中辨

正五位上同俊廣 廿 藏人十二月廿八轉任

右少辨　正五位上同俊廣　藏人十二月廿八轉左少辨

正五位上同資淸 十一 藏人十二月廿八轉任

權右少辨正五位上同資淸　藏人十二月廿八日轉右少辨

正五位下同保房 十三 十二月廿八任

權中納言共綱男、

寛永十三廿九誕生、同十一正五叙爵、二歲、同十七

十二廿四元服、八歳、同日從五上左兵衞權佐、同廿一正五正五下、十二歳、

正保三年丙戌

左大辨　正四位上藤賴業 卅二 三木月日（正五イ）從三位

右大辨　正四位上同資行 廿七 頭

左中辨　正四位上同資慶 廿五 頭

右中辨　正五位上同嗣長 卅六 藏十二月廿一從四下去藏人

左少辨　正五位上同俊廣 廿一 藏人

右少辨　正五位上同資清 廿二 藏人

權右少辨　正五位下同保房 十四 十二月廿二補藏人同廿七正五上

正保四年丁亥

左大辨　從三位　藤賴業 卅三 三木十二月卅辭左大辨

正四位上同資行 廿八 三木十二月卅轉任

右大辨　正四位上同資行 頭十二月十九三木同卅轉左大辨

正四位上同資慶 廿六 三木十二月卅轉任

左中辨　正四位上同資慶 頭十二月廿八三木同卅轉右大辨

正四位下同嗣長 廿七 頭十二月卅轉任

右中辨　從四位下同嗣長 六月十六從四上十月廿二正四下十二月廿八補藏人頭同卅轉左中辨

左少辨　正五位上同俊廣 廿二 藏人十二月卅轉任

正五位上同俊廣 藏人十二月卅轉右中辨

正五位上同資清 廿三 藏十二月卅轉任

右少辨　正五位上同資清 藏人十二月卅轉左少辨

正五位上同保房 十五 藏人十二月卅轉任

權右少辨　正五位上同保房 藏人十月廿日氏院別當十二月卅轉右少辨

正五位下同雅房 十四 十二月卅任

故頭右大辨綱房朝臣男、

寛永十一三廿九誕生、同十三正五敍爵、三歳、同十八十二十三元服、八歳、同日從五上左衞門佐、正保二正六正五下、十二歳、

正保五年戊子　二月十五日改元爲慶安元、

左大辨　正四位上藤資行 十九 三木正月五日從三位十二月廿二日勅許

右大辨　正四位上同資慶 廿七 三木正月五日從三位十二月廿二日勅許

左中辨　正四位下同嗣長 卅八 頭正月五日正四上

右中辨　正五位上同俊廣 廿三 藏人

左少辨　正五位上同資清 廿三 藏人

右少辨　正五位上同保房 十六 藏人十二月十四日改名凞｜

權右少辨　正五位下同雅房 十五

慶安二年己丑

左大辨　從三位　藤資行卅　三木、正月十二辭左大辨

從三位　同資慶廿八　三木正月十二轉任

右大辨　從三位　同資慶　三木正月十二轉左大辨

正四位上　同嗣長　頭正月十二轉任七月十七三木辨如元十月四辭兩官

左中辨　從四位上　同俊廣廿四　頭十一月八日轉任十二月廿七正四下

正四位上　同嗣長　頭正月十二轉右大辨

正五位上　同俊廣　藏人正月十二轉任七月廿從四下同日補藏人頭八月十四從四上十一月八轉右大辨同十二廿六正四下

右中辨　正五位上　同資清廿四　藏人十一月八轉任同廿五辭藏人十二月廿二從四下

正五位上　同俊廣　藏人正月十二轉左中辨

正五位上　同資清　藏人正月十二轉任十一月八轉左中辨

左少辨　正五位上　同淵房十七　藏人十一月八轉任

正五位上　同資清　藏人正月十二轉右中辨

正五位上　同淵房　藏人正月十二轉任十一月八轉任右中辨

正五位上　同雅房十六　藏人十一月八轉任

右少辨　正五位上　同淵房　藏人正月十二轉左少辨

正五位下　同雅房　正月十二轉任七月廿補藏人同日正五上十一月八轉左少辨

正五位下　同資淵　十一月八轉任十二月三補藏人月日正五上

權右少辨　正五位下　同雅房　正月十二轉右少辨

正五位下　同資淵十五　正月十二任十一月八轉右少辨

權中納言宣順卿男、

寬永十二十二廿六誕生、同十四正五叙爵、三歲、同十八十二十六元服、同日從五上治部少輔、七歲、正保二正六正五下、同十二一日右兵衛權佐、

從五位上　藤兼茂十四

前參議綏光卿男、

寬永十三七十九誕生、同十五正五叙爵、三歲、慶安元十二廿七元服、同日從五上侍從、

慶安三年庚寅

左大辨　從三位　藤資慶　三木

右大辨　正四位下　同俊廣　頭正月五正四上

左中辨　從四位下　同資清廿五

右中辨　正五位上　同淵房十八　藏人

左少辨　正五位上　同雅房十七　藏人

右少辨　正五位上　同資淵十六　藏人

權右少辨　從五位上　同兼茂十五

慶安四年辛卯

左大辨　從三位　藤資慶卅三 三木

右大辨　正四位上同俊廣廿六 頭

左中辨　從四位下同資清廿六 正月五日從四上翌年十一月勅許也

右中辨　正五位下同凞房十九 藏人

左少辨　正五位上同雅房十八 藏人

右少辨　正五位上同資凞十七 藏人

權右少辨從五位上同兼茂十六

慶安五年壬辰　九月十八日改元爲承應元、

左大辨　從三位　藤資慶卅一 三木十二月七日正三位

右大辨　正四位上同俊廣廿七 頭十一月卅三木辨如元

左中辨　從四位下同資清廿七 十一月宣去年正月五日從四位上

右中辨　正五位上同凞房廿 藏人十一月廿六日從四位下去藏人十二月十日補藏人頭

左少辨　正五位上同雅房十九 藏人

右少辨　正五位上同資凞十八 藏人

權右少辨從五位上同兼茂十七 十二月六日補藏人

承應二年癸巳

左大辨　正三位　藤資慶卅二 三木

右大辨　正四位上同俊廣廿八 三木閏年十二月廿一日宣正月五日從三位

左中辨　從四位上同資清廿八

右中辨　從四位下同凞房廿一 頭

左少辨　正五位上同雅房廿 藏人

右少辨　正五位上同資凞十九 藏人

權右少辨從五位上同兼茂十八 藏人

承應三年甲午　九月廿日天皇崩御、十一月廿八日新帝踐祚、良仁親王、〔〇ク本無此文〇ク本ナ本止於前年〕

左大辨　正三位　藤資慶卅三 參木十二月廿三辭左大辨

　　　　從三位　同俊廣廿九 十二月廿八轉任參議同廿一賜去年正月五日從三位口宣案〔參議以下ク本無〕

右大辨　從三位　同俊廣 參木十二月廿八轉左大

　　　　正四位上同凞房廿二 十二月廿八轉任

左中辨　從四位上同資清廿九 正五正四位下十二月廿八辭辨

　　　　從四位下同雅房廿一 十二月廿八轉任

右中辨　正四位上同凞房 頭十二月廿八右大辨

　　　　正五位上同資凞廿 藏人十二月廿八轉任〔ク本無藏人字〕

左少辨　正五位上藤雅房 藏人十二月廿三從四下去藏人〔ク本三字無〕同十八左中辨

右少辨　從五位上同兼茂十九十二十八轉任同廿一正五下去年正五分同廿八正五上去正月五分

　　正五位上同資凞藏人二十八右中辨

　　從五位上同賴孝十二十二十八任

權中納言賴業卿男、母

寛永廿一九廿八誕生、正保三正五叙爵、三歲、承應九十一十二元服、九歲、昇殿、同日從五位上治部大輔、

權右少辨從五位上同兼茂藏人十二十八轉左少

　　從五位上同經慶十一十二廿一任

前權大納言經廣卿男、母

正保元十二十八誕生、慶安二正五叙爵、六歲、承應元十二四元服 昇殿、九歲、同日從五位上勘解由次官、

後西院

承應四年己未　四月十三日改元爲明暦元、

左大辨　從三位　藤俊廣卅參木正十八〔ク本作廿八〕任權中納言

　　正四位上同凞房廿三正廿九轉任二八從三位

右大辨　正四位上同凞房頭正十一參木〔辨如元〕同廿九轉任

　　正四位下同雅房廿二正廿九轉任三廿三正四上

左中辨　從四位下同雅房正五從四上同十五藏人頭同廿五正四下

　　正五位上同資凞廿一正廿九轉任十月日裝束司同十二十五從四下

右中辨　正五位上同資凞藏人正廿九轉左中

　　正五位上同兼茂廿正廿九轉任

左少辨　正五位上同兼茂藏人正廿九轉右中

　　從五位上同賴孝十二正廿九轉任十二十六補藏人聽禁色同廿五正五下今日奏慶

右少辨　從五位上同賴孝正廿九轉左少

　　從五位上同經慶十二正廿九轉任

權右少辨從五位上同經慶正廿九轉正

位有賴孝上

　　正五位下同照房十八正月廿九任〔元藏人左衞門權佐〕同七廿五正五上

入道從三位宣持卿男、母

寛永十五六八誕生、同十九正五叙爵、五歲、于時資房、慶安三四廿元服昇殿、同日從五上左右イ衞門佐、改昭房、承應三正五正五下、同十二月廿一補藏人、

明暦二年丙申

左大辨　從三位　藤照房卅參木

右大辨　正四位上同雅房廿三頭七十四參木〔辨如元〕

左中辨　從四位下同資凞廿二正五從四上同十一日補藏人頭十一正四下同六十五正四上

右中辨　正五位上同兼茂廿一藏人七月十六日藏人頭同日從四下同九廿九從四上同十一八正四下

左少辨　正五位下同賴孝十三藏人正五正五上
右少辨　從五位上同經慶十一正九正五下七十八補藏人十二二正五上
權右少辨正五位上同昭房十九藏人

明暦三年丁酉
左大辨　從三位　藤凞房廿五參木正廿六辭辨
　　　　從三位　同雅房廿四正廿七轉任
右大辨　正四位上同雅房參木正五從三位
　　　　正四位上同資凞廿二正廿七轉任
左中辨　正四位上同資凞頭正廿七轉右大
　　　　正四位上同兼茂廿三正月廿七轉任
右中辨　正四位下同兼茂頭正廿七正四上去五日分同日轉左中
　　　　正五位上同賴孝十四正廿七轉任
左少辨　正五位上同賴孝藏人正廿七轉右中
　　　　正五位上同經慶十四正廿七轉任
右少辨　正五位上同經慶藏人正廿七轉左少
　　　　正五位上同昭房廿藏人
權右少辨正五位上同昭房藏人正廿七轉右少
　　　　從五位上同國宣十五二月六日任
故左衞門權佐光氏朝臣男、實故權中納言綏光卿男、
寬永廿十二二十五誕生、慶安二十一一敍爵、七歲、承
應三十一十九元服昇殿、同日從五上侍從、

明暦四年戊戌　七月廿三日改元爲萬治元、
左大辨　從三位　藤雅房廿五參木後十二廿三辭辨
　　　　正四位上同資凞廿四後十二廿二轉任
右大辨　正四位上同資凞頭十十九三木辨如元
　　　　正四位上同兼茂廿三後十二廿二轉任
左中辨　正四位上同兼茂
　　　　正五位上同賴孝十五後十二廿二轉任
右中辨　正五位上同賴孝藏人後十二廿二轉左中
　　　　正五位上同經慶十五後十二廿二轉任
左少辨　正五位上同經慶藏人
　　　　正五位上同昭房廿一後十二廿二轉任
右少辨　正五位上同昭房藏人
　　　　正五位下同國宣十六後十二廿二轉任
權右少辨從五位上同國宣正六正五下
　　　　從五位上同光雄十二後十二廿六任
權大納言資慶卿男、母
正保四三十二誕生、慶安四正五敍爵、五歲、明暦二

四廿五元服同日侍從從五上昇殿、

萬治二年己亥

左大辨　正四位上藤資煕 廿五 參木正五 從三位

右大辨　正四位上同兼茂 廿四 頭十二廿二辭藏人頭右大辨等

左中辨　正五位上同賴孝 十六 藏人

右中辨　正五位上同經慶 十六 藏人

權右中辨從四位下同昭房 廿三 頭十二廿五轉任

左少辨　正五位上同昭房 藏人十二廿五從四下同日補藏人頭轉權右中辨

　　　　正五位下同國宣 十七 十二廿五轉任

右少辨　正五位下同國宣 十二廿五 轉左少

　　　　從五位上同光雄 十三

權右少辨從五位上同光雄 十二廿五 轉右少

萬治三年

左大辨　從三位　藤資煕 廿六 參木

右大辨　從四位下同賴孝 十七 十二廿二轉任〔ク本〕

左中辨　正五位上同賴孝 藏人九廿七從四下同日補藏人頭十一十三轉右大

　　　　正五位上同經慶 十七 藏人十一十三轉任

右中辨　正五位上同經慶 藏人十一十三轉左中

　　　　從四位下同昭房 廿三 十一十三轉任

權右中辨從四位下同昭房 頭十一十三轉右中

左少辨　正五位下同國宣 十八 月日改名貞光四十三補藏人聽禁色同廿五正五上

右少辨　從五位上同光雄 十四 正五正五下十廿七補藏人聽禁色

權右少辨從五位上〃同方長 十一（二イ） 十一十三任十二月（正月五日ク本）廿四日正五下（十二月以下

　　　　正五位下八

故參木嗣長朝臣男、母

慶安元十二三誕生、承應元十一十六叙爵、五歳、明曆二十三廿三元服昇殿、同日勘解由次官從五位上、萬治三正五正五下、

萬治四年辛丑　四月廿五日改爲寛文元、

左大辨　從三位　藤資煕 廿七 參木

右大辨　從四位下同賴孝 十八 頭正五從四上同五二正四下

左中辨　正五位上同經慶 十八 藏人同十二廿四正四上三ヶ度

右中辨　從四位下同昭房 廿四 頭正九日（五ク）從四上同五二正四下十二廿（廿ク）四正四上三ヶ度

左少辨　正五位上同貞光 十九 藏人

右少辨　正五位下同光雄 十五 藏人正五正五上

權右少辨正五位下同方長 十四

寛文二年 壬寅

左大辨　從三位　藤資熙 廿八參木

右大辨　正四位上同賴孝 十九頭

左中辨　正四位上同經慶 十九(藏人)十二十四從四下補藏人頭

右中辨　正四位上同昭房 廿五頭十二十四參議(去辨)

　　　　從四位下同貞光 廿

左少辨　正五位上同貞光 藏人十二十四轉任同日從四位下(去職事)

　　　　正五位上同光雄 十六

右少辨　正五位上同光雄 藏人十二十四轉左少

　　　　正五位下同方長 十五

權右少辨正五位上同方長 十二十四轉右少同日補藏人聽禁色

　　　　正五位下同資廉 十九 十二十四任同日補藏人聽禁色

前權大納言資行卿男、母

寛永廿一六卅誕生、慶安三正五叙爵、七歲、明曆三十二廿九元服昇殿、同日侍從從五位上、萬治四正五正五下、

靈元院

寛文三年 癸卯

左大辨　從三位　藤資熙 廿九參木正六正三位八六任權中納言

　　　　正四位上同賴孝 廿八七轉任

右大辨　正四位上同賴孝 頭五十九參木(右大辨如元)

　　　　正四位上同經慶 廿八八任參木(右大辨如元)

左中辨　從四位下同經慶、頭正六(五ク)從四上三七正四下五十七正四上

　　　　從四位下同貞光 廿二頭十一廿從四上十二九正四下同廿六正四上

右中辨　從四位下同貞光 五十九(廿ク)補藏人頭八七轉左中

　　　　正五位上同光雄 十七八七轉任同十從四下補藏人頭十一廿從四上十二十七日正四下

左少辨　正五位上同光雄 藏人八七轉右中

　　　　正五位上同方長 十七八七轉任

右少辨　正五位上同方長 十二イ藏人正十五正五上

　　　　正五位上同資廉 廿八七轉任

權右少辨正五位下同資廉 十五イ藏人正十二正五上

　　　　正五位下同經尙 十八八七任十四補藏人十二二正五上

前權大納言經廣卿二男、母

正保三八十四誕生、承應元十廿六叙爵、七歲、明曆四四廿三元服、同日從五上左兵衞權佐、十三歲、寛文二正五正五下、十七歲、

靈元院

寛文四年丁辰

左大辨　正四位上藤頼孝廿一參木九三從三位

右大辨　正四位上同經慶廿一參木九三從三位

左中辨　正四位上同貞光廿三頭

右中辨　正四位下同光雄十八頭後五三正四上

左少辨　正五位上同方長十七藏人

右少辨　正五位上同資廉廿一藏人

權右少辨正五位上同經尙十九藏人

寛文五年己巳

左大辨　從三位　藤頼孝廿二參木

右大辨　從三位　同經慶廿二參木

左中辨　正四位上同貞光廿三頭

右中辨　正四位上同光雄十九頭

左少辨　正五位上同方長十八藏人

右少辨　正五位上同資慶廿二藏人

權右少辨正五位上同經尙廿藏人十二十七辭歲人權右少辨等同廿七改號穗波任筑前守

　正五位下同資茂十六十二廿三任同日補藏人同廿七日聽禁色

　前權大納言弘資卿男、母

慶安三四廿七誕生、承應三正五叙爵、五歲、萬治二三十二元服昇殿、同日從五上侍從、十歲、寛文三正十三〔二ク〕正五下、十七歲、

寛文六年丙午

左大辨　從三位　藤頼孝廿三參木

右大辨　從三位　同經慶廿三參木

左中辨　正四位上同貞光廿四頭十十七參木辭辨〔十二十七辭參木〔據ク本〕

　正四位上同光雄廿

右中辨　正四位上同光雄頭十一十五轉左中

　正五位上同方長十九

左少辨　正五位上同方長藏人十一十五轉左中

　正五位上同資廉廿二

右少辨　正五位上同資廉藏人十一十五轉左少

　正五位下上イ同資茂十七

權右少辨正五位下同資茂藏人正五正五上十一十五轉右少

　正五位下同意光十五十一十七任

　前參議資淸卿男、母

慶安五二廿六誕生、明曆三五十五元服、同日叙爵侍從、六歲、萬治四正五從五上、寛文五十二廿三正

五下、

寛文七年丁未

左大辨　從三位　藤頼孝 廿四 參木
右大辨　從三位　同經慶 廿四 參木
左中辨　正四位上同光雄 廿一 頭
右中辨　正五位上同方長 廿 藏人
左少辨　正五位上同資廉 廿四 藏人
右少辨　正五位上同資茂 十八 藏人
權右少辨正五位下同意光 十六

寛文八年戊申

左大辨　從三位　藤頼孝 廿五 參木
右大辨　從三位　同經慶 廿五 參木
左中辨　正四位上同光雄 廿二 頭
右中辨　正五位上同方長 廿一 藏人
左少辨　正五位上同資廉 廿五 藏人
右少辨　正五位上同資茂 十九 藏人
權右少辨正五位下同意光 十七

寛文九年己酉

左大辨　從三位　藤頼孝 廿六 參木十一廿三任權中納言
　　　　從三位　同經慶 廿六
右大辨　從三位　同經慶 參木月日轉左大
　　　　正四位上同光雄 廿三 十一廿六（參木辨如元）
左中辨　正四位上同光雄 頭
　　　　從四位下同方長 廿二
右中辨　正五位上同方長 藏人十一廿三轉左中（十二廿七ヵ）從四位下同日補藏人頭
　　　　正五位上同資廉 廿六 十二廿七（八イ）從四下
左少辨　正五位上同資廉 藏人十一廿三轉右中
　　　　正五位上同資茂 廿
右少辨　正五位上同資茂 藏人十一十三（廿三ヵ）轉左少
　　　　正五位下同意光 十八
權右少辨正五位下同意光 十二廿（八イ）補藏人聽禁色同日正五上廿八轉右少
　　　　正五位下同國豐 十七 十二廿八任同日補藏人叙正五上
承應二（三ヵ）七十誕生、萬治二十二廿二（廿三ヵ）叙爵、七歳、于時庸光 同三四廿五元服昇殿、任侍從、改名國豐、八歳、寛文二正五聽禁色、同三正六從五上、十七歳、同七後二十七正五下去正五分、

寛文十年庚戌

左大辨　従三位　藤經慶 廿七 參木九廿九權中納言

従三位　同光雄 廿四 正月廿五轉任

右大辨　正四位上同光雄 參木正五従三位同廿五轉左大

左中辨　従四位上同方長 廿三 十一九正四下十二廿八正四上(年中三ヶ度)

従四位下同方長 頭正五従四上同廿五轉右大

右中辨　従四位上同資廉 廿七 十一九正四下

従四位下同資廉 正五従四上同廿五轉左中

正五位上同資茂 廿一

左少辨　正五位上同資茂 藏人正廿五轉右中

正五位上同意光 十九

右少辨　正五位上同意光 藏人正廿五轉左少

正五位上同國豐 十八

權右少辨正五位上同國豐 藏人正廿五轉右少

正五位下同淳房 十九 正廿五任〔ク本作九月三十日任〕

權大納言雅房卿男、

承應元十二廿七誕生、明暦二正五叙爵、五歳、寛文三正十八元服昇殿、同日左衞門權佐従五上、十二歳、

同七閏二十七正五下去正五分、

寛文十一年辛亥

左大辨　従三位　藤光雄 廿五 參木

右大辨　正四位上同方長 廿四 頭

左中辨　正四位下同資廉 廿八

右中辨　正五位上同資茂 廿二 藏人五(九ク)廿九従四下去職

左少辨　正五位上同意光 廿 藏人

右少辨　正五位上同國豐 十九 藏人

權右少辨正五位上同淳房 廿 九廿九補藏人十七正五上聽禁色

寛文十二年壬子

左大辨　従三位　藤光雄 廿六 參木

右大辨　正四位上同方長 廿五 頭六八參木右大辨如元

左中辨　正四位下同資廉 廿九 六八補藏人頭同日賜去十年十二廿八分正四上口宣案

右中辨　従四位下同資茂 廿三 正六従四上五廿六正四下十二十六正四上(三ヶ度)

左少辨　正五位上同意光 廿一 藏人

右少辨　正五位上同國豐 廿 藏人

權右少辨正五位上同淳房 廿一 藏人

寛文十三年辛丑　九月廿二爲延寶元、

左大辨　従三位　藤光雄 廿七 參木正(二ク)十九辭左大辨

右大辨　正四位上同方長廿六　十二十七賜去正六從三位口宣案
正四位上同方長　木正〔一ヶ〕
正四位上同資廉廿　十九轉左大
左中辨　正四位上同資廉　正〔一ヶ〕十九轉右大同日三木大辨如元
正四位上同資茂廿四
右中辨　正四位上同資茂　正〔一ィ〕十九轉左中同日補藏人頭
正五位上同意光廿二
左少辨　正五位上同意光　藏人正〔一ヶ〕十九轉右中
正五位上同國豐廿四
右少辨　正五位上同國豐　藏人正〔一ィ〕十九轉左少
正五位上同淳房廿二
權右少辨正五位上同淳房　藏人正〔一ヶ〕十九轉右少
職事已前正上例
正五位下同宣基十五　二十九任十二十七正五上
權大納言資熙卿男、母
萬治二三廿七誕生、同四正五叙爵、三歲、寛文五十
二〔三ヶ〕十八元服昇殿、同日從五上右衛門權佐、七歲、
同九正五正五下、十一歲、同十十一九轉左衛門權佐、

延寶二年甲寅
左大辨　從三位　藤方長廿七　參木二八辭左大辨
從三位　同資廉卅一
右大辨　正四位上同資廉　參木正五從三位二八轉左大
正四位上同資茂廿五
左中辨　正四位上同資茂　頭二八轉右大同日參木（辨如元）
從四位下同意光廿三
右中辨　正五位上同意光　藏人二八轉左中同日從四下去職
正五位上同國豐廿二　二八轉任
權右中辨正五位上同淳房廿三　二十五從四下同日補藏人頭六一從四上同廿八〔九ィ〕正四下
左少辨　正五位上藤國豐　〔三ヶ度〕藏人二八轉右中
正五位上同宣基十六　二十九聽禁色
右少辨　正五位上同淳房　藏人二八轉權右中
正五位下同煕定十三　二八任同十五補藏人同廿一聽禁色六一正五上
權中納言煕房卿男、母
寛文二七十三誕生、同三四六叙爵、二歲、同八十二
十元服昇殿、同日從五上治部大輔、七歲、同十十一
六右衛門權佐、九歲、同十一正六正五下、
權右少辨正五位上同宣基　二八轉左少同日補藏人

延寶三年乙卯

左大辨　從三位　藤資廉卅二參木
右大辨　正四位上同資茂廿六參木正五從三位
左中辨　從四位下同意光廿四
右中辨　正五位上同國豐廿三藏人
權右中辨正四位下同淳房廿四頭二廿二賜去正五正四位上口宣案
左少辨　正五位上同宣基十七藏人
右少辨　正五位上同凞定十四藏人

延寶四年丙辰
左大辨　從三位　藤資廉卅二參木十一〔ク作十一〕（十月朔日イ）十九〔ク書入云十月朔日イ〕權中納言
　　　　從三位　同資茂廿七
右大辨　從三位　同資茂參木十二轉左大
　　　　正四位上同淳房廿五頭
左中辨　從四位下同意光廿五正五從四上
右中辨　正五位上同國豐廿四藏人十二廿二〔三ク〕從四下辭藏人辨如元〔辭以下ク無〕
權右中辨正五位上同淳房頭十二轉右大
左少辨　正五位上同宣基十八藏人
右少辨　正五位上同凞定十五藏人
權右少辨正五位下同俊方十五十二任十二十二補藏人同日正五上

前權大納言俊廣卿男、母
寛文二十二三誕生、同六正五叙爵、五歲、同十十一十二元服昇殿、同日從五上勘解由次官、九歲、同十一十二廿四遷右兵衛佐、延寶元十一十七賜去年正六分正五下口宣案、同二七十轉左衛門權佐、十三歲、

延寶五年丁巳
左大辨　從三位　藤資茂廿八三木後十二十一任權中納言
右大辨　正四位上同淳房廿六頭後十二十一參木（右大辨如元）
左中辨　從四位上同意光廿六
右中辨　從四位下同國豐廿五
左少辨　正五位上同宣基十九藏人
右少辨　正五位上同凞定十六藏人
權右少辨正五位上同俊方十六藏人

延寶六年戊午
左大辨　正四位上藤淳房廿七九十六賜去正五從三位口宣案
右大辨　正四位上同淳房參木四十二轉左大
左中辨　從四位上同意光廿七八廿一賜去年正五分正四下口宣案
右中辨　從四位下同國豐廿六八廿二從四上去〔正月五日分〕〔ク本有上五字〕

左少辨　正五位上同宣基 廿一 藏人
右少辨　正五位上同凞定 十七 藏人
權右少辨正五位上同俊方 十七 藏人

延寶七年己未
左大辨　從三位　藤淳房 廿八 參木
右大辨
左中辨　正四位下同意光 廿八
右中辨　從四位上同國豐 廿七 五廿一〔ク本作正六〕正四下去　正五分〔ク本無去正月云々〕
左少辨　正五位上同宣基 廿二 藏人
右少辨　正五位上同凞定 十八 藏人
權右少辨正五位上同俊方 十八 藏人

延寶八年庚申
左大辨　從三位　藤淳房 廿九 參木
右大辨
左中辨　正四位下同意光 廿九
右中辨　正四位下同國豐 廿八
左少辨　正五位上同宣基 廿三 藏人十二廿七卒
　　　　正五位上同凞定 十九 藏人十二廿九轉左少
右少辨　正五位上同凞定
　　　　正五位上同俊方 十九 藏人十二廿九轉右少
權右少辨正五位上同俊方
　　　　正五位下同賴重 十二 十二廿九任
　　　　權大納言賴孝卿男、母
寬文九三十九誕生、同十一正五敍爵、三歲、延寶三三十九元服昇殿、同日從五上右衞門權佐、七歲、同四十二廿一轉佐、同七五廿二正五下、十一歲、去正五分、

延寶九年辛酉　九月廿九日依辛酉改元爲天和元、
左大辨　從三位　藤淳房 卅 參木十一廿一任權中納言
　　　　正四位上同宗顯 廿四 十一廿一任同日任參木〔元藏人頭左中將〕
　　　　前權大納言宗條卿男、母
萬治元十二十誕生、寬文二正五敍爵、五歲、同五三十六從五上、八歲、同十三十八元服昇殿侍從正五下、十三歲、同十一十二廿一左少將同十二正五從四下、十五歲、延寶三正十一左中將、十八歲、同四正五從四上、十九歲、同七正五正四下、廿二歲、同年十二十七補藏人頭、同廿三禁色拜賀、同廿五正四上

右大弁（年中三ヶ度、）天和元十一廿一參木、
左中弁　正四位下藤意光卅　十一廿一從三位去辨
　正四位下同國豐廿九
右中弁　正四位下同國豐　十二廿四轉左中
　正五位上同凞定廿
左少弁　正五位上同凞定　藏人十二十四轉右中
　正五位上同俊方廿
右少弁　正五位上同俊方　藏人十二十四轉左少
　正五位上同賴重十三
權右少弁正五位下同賴重　正廿五補藏人十一廿一正五上十二十四轉右少
　從五位上同秀光十八　十二十四任
　權大納言資廉男、母

天和二年壬戌
左大弁　正四位上藤宗顯廿五　參木十二廿四從三位（去正五分）
右大弁
左中弁　正四位下同國豐廿　四廿七從三位（去正五分）去辨
　正五位上同凞定廿一
右中弁　正五位上同凞定　藏人四廿七轉左中
　正五位上同俊方
左少弁　正五位上同俊方廿二　藏人四廿七轉右中
　正五位上同賴重
右少弁　正五位上同賴重十四　藏人四廿七轉左少
　正五位下同秀光
權右少弁從五位上同秀光十九　二十正五下（去年正五分）四廿七轉右少

天和三年癸亥
左大弁　從三位　藤宗顯廿六　參木正十三任權中納言
右大弁　從四位下同凞定廿二　二二從四上　八二正四下
左中弁　正五位上同凞定　藏人正十三（ヶ十二）從四下同日補藏人頭同十六拜賀同廿六轉右大
　正五位上同俊方廿二　二十四中宮大進藏人正廿六轉左中
右中弁　正五位上同俊方
　正五位上同賴重十五　二九兼春宮大進藏人正廿六轉右中
左少弁　正五位上同賴重
　從五位上同輔長九　二一任（左衛門權佐如元）同九日春宮權大進
　權大納言兼民部卿方長卿男、母
延寶三正十二誕生、同四正五敘爵、二歲、同八十二廿三元服昇殿、同日從五上右衛門權佐、六歲、天和

十十二轉左權佐、
右少辨　正五位下同秀光廿 正十二卒
　從五位上同宣定十三 八八任
　權大納言光雄卿男、母
寛文十二八廿九誕生、延寶五正五叙爵、六歳、天和
三三十二元服、同日侍從々五位上昇殿、十二歳、

天和四年甲子　二月廿一日改元爲貞享元、
左大辨　正四位上同熈定廿三
右大辨　正四位下同熈定廿三 頭正十六正四上（去正五分）十一一參木（右大辨如元）十二十八轉左大
　正四位下同俊方廿三 藏人中宮大進十廿九從四下藏人頭（十一三拜賀）（據ヶ本）同廿九從四上十一二十二正四下同十八轉右大
左中辨　正五位上同俊方
　從四位上同韶光廿二
右中辨　正五位上同頼重十六 藏人春宮大進
權右中辨從四位上同韶光廿二 正廿七任東宮學士十二十八轉左中
　故參議正三位賁忠卿男、（實權大納言光雄卿男）母
寛文三二八誕生、同七正五叙爵、五歳、同十二七元服昇殿侍從々五位上、延寶三十一二正五下、去正五分、同
七正五從四下、天和三正五從四上、同年二九東宮學士、
左少辨　從五位上同輔長十 左衛門權佐春宮權大進
右少辨　從五位上同宣定十三 正廿七補藏人二七拜賀十一一氏院別當

貞享二年乙丑
左大辨　正四位上藤熈定廿四 參木正七從三位（六日分同十六日拜賀）（六日以下ヶ本一）
右大辨　正四位下同俊方廿四 頭正七（六ヶイ）正四上（昨六日分ヶ）
左中辨　從四位上同韶光廿三 東宮學士
右中辨　正五位上同頼重十七 藏人春宮大進
左少辨　從五位上同輔長十一 左衛門權佐春宮權大進
右少辨　從五位上同宣定十四 藏人氏院別當

貞享三年丙寅
左大辨　從三位　藤熈定廿六 參木
右大辨　正四位上同俊方廿五 頭
左中辨　從四位上同韶光廿四 東宮學士正五正四下
右中辨　正五位上同頼重十八 藏人春宮大進
左少辨　從五位上同輔長十二 左衛門權佐春宮權大進正（三イ）十五正五下（去年正五分）

右少辨　從五位上同宣定十五 藏人八八正五下（去年正六分）氏院別當

東山院

貞享四年丁卯

左大辨　從三位　藤凞定廿六 參木十二廿九權中納言

正四位上同俊方廿六

右大辨　正四位上同俊方 頭十二廿九參木（右大辨如元）同卅轉左大

從四位下同賴重十九頭

左中辨　從四位上同韶光廿五 東宮學士三廿一止學士（依受禪也）

右中辨　正五位上同賴重十九 藏人春宮大進三廿一止大進十二三十從四下補藏人頭同日轉右大辨（同日拜賀ヶ）

正五位上同輔長十三 藏人左衛門權佐春宮權大進三廿一止權大進四二補藏人（十二月廿三日正五上ヶ）十二卅轉右中

左少辨　正五位下同輔長

正五位上同宣定十六

右少辨　正五位下同宣定 藏人十二廿二（廿三ヶ）正五上同卅轉左少

從五位上同尹隆十二

權右少辨同　同尹隆 十二十二任同卅轉右少

前權大納言經慶卿男、母

延寶四八十誕生、同五正五敘爵、二歲、貞享元十一

十三元服昇殿從五上、右兵衞佐、九歲、

貞享五年戊辰　九月三十日爲元祿元、

左大辨　正四位上藤俊方廿七 參木正六從三位（同七日奏慶ヶ）六十三出奔入道同（ヶナシ）廿三（廿二ヶ）日辭兩官從三位等

右大辨　從四位下同賴重廿 頭正六（十三ヶ）從四上同廿二正四下二二正四上（三ヶ度）

左中辨　正四位下同韶元廿六

右中辨　正五位上同輔長十四 藏人左衛門權佐十二廿六辭權佐

左少辨　正五位上同宣定十七 藏人四廿四辭藏人（依病氣）氏院別當三廿七辭別當（依病氣以下ヶ本無）

右少辨　從五位上同尹隆十三 正月十三日正五下去正六分十二月廿六日左衛門權佐

權右少辨從五位上同有富十八 四九任十一廿五蟄居（ヶナシ）

故前權中納言資茂卿男、母

寬文十二廿一誕生、延寶四五廿三從五下、七歲、貞享四正十六元服、同日侍從從五上、十九歲、

元祿二年己巳

左大辨

右大辨　正四位上藤賴重廿一頭

左中辨　正四位下同韶光廿七

右中辨　正五位上同輔長十五藏人

左少辨　正五位上同宣定 十八
右少辨　正五位下同尹隆 十四 左衛門權佐
權右少辨從五位上同有富 十五

元祿三年庚午

左大辨
右大辨　正四位上藤賴重 廿二 頭
左中辨　正四位下同韶光 廿八
右中辨　正五位上同輔長 十六 藏人
左少辨　正五位上同宣定 十九
右少辨　正五位下同尹隆 十五 左衛門權佐二廿一補藏人同廿六聽禁色拜賀七十正五上十二廿六辭權佐
權右少辨從五位上同有富 廿一

元祿四年辛未

左大辨　正四位上藤賴重 廿三 十二廿一從三位
右大辨　正四位上同賴重 頭 三二參木(右大辨如元)同六轉左大同廿八日拜賀
　　　　從四位下同輔長 十七 七廿八從四上十二廿一正四下
左中辨　正四位下同韶光 廿九 二月廿四從三位(去正六分)
　　　　正五位上同輔長 十七 三月二日轉任同八從四下藏人頭同廿六日拜賀四十三轉右大

右中辨　從四位下同宣定 廿 十二廿一從四上
　　　　正五位上同輔長 十七 藏人三二轉左中
　　　　正五位上同宣定 廿 四七從四下同十三轉左中
左少辨　正五位上同尹隆 十六
　　　　正五位上同宣定 廿 三月二日轉右中
　　　　正五位上同尹隆 十六 三月二日轉任
　　　　正五位上同俊淸 廿五
右少辨　正五位上同尹隆 十六 藏人三二轉左少
　　　　正五位上同俊淸 廿五 三六任(元藏人左衛門權佐)同日權佐如元四十三轉左少

從一位前大納言俊廣卿男、母

寛文七正三誕生、同十一十二廿一叙爵、五歲、元祿二正七元服昇殿、同日從五上兵部大輔、廿三歲、于時俊淸、元安、同年閏正藏人、同十一禁色拜賀、同三正五下、越有富、同年十二廿六正五上、同廿八左衛門權佐、

　　　　正五位下同宣顯 卅 七廿任元藏人右兵衛佐十二廿一正五上

權大納言資熙卿三男、

寛文二十二二誕生、貞享五六十七從五下、廿七歲、同年八十八元服、同日右兵衛佐昇殿、元祿三正五從五上、廿九歲、同四三十七藏人、

權右少辨　從五位上同有富廿三

元祿五年壬申
左大辨　從三位　藤賴重廿四 參木
右大辨　正四位下同輔長十八 頭十二十三正四上(去正五分)
左中辨　從四位上同宣定廿二 二廿一卒
　　　　正五位上同尹隆十七 十二廿八補藏人頭從四下同廿九日拜賀
右中辨　正五位上同尹隆
　　　　正五位上同俊淸廿六 藏人
左少辨　正五位上同俊淸 藏人左衞門權佐十二十三轉右中(權佐如元)
　　　　正五位上同宣顯卅一
右少辨　正五位上同宣顯 藏人十二十三轉左少
權右少辨從五位上同有富廿三、蟄居御免廿七出仕

元祿六年癸辰
左大辨　從三位　藤賴重廿五 參木
右大辨　正四位上同輔長十九 頭
左中辨　從四位下同尹隆十八 頭正五從四上四十五正四下七三正四上(三ヶ度)
右中辨　正五位上同俊淸廿七 藏人左衞門權佐
左少辨　正五位上同宣顯廿二 藏人

右少辨　從五位上同輝光廿四 四十五正五下七三正五上
權右少辨從五位上同有富 二九改名輝光同十五轉右少同日藏人同廿一拜賀
　　　　從五位上同兼廉十六 四月十五日任
　　　　　前權中納言貞光卿男、
　　延寶六三三誕生、元祿三正五叙爵、十三歲、同五十二
　　十元服昇殿、同日侍從從五上、十五歲、

元祿七年甲戌
左大辨　從三位　同賴重廿六 參木
右大辨　正四位上同輔長廿 頭十二十一辭兩職同日卒
　　　　正四位上同尹隆十九
左中辨　正四位上同尹隆 頭十二廿二轉右大
　　　　正五位上同俊淸廿八 十二廿三從四下
右中辨　正五位上同俊淸 藏人左衞門權佐十二廿二轉左中(權佐如元)
　　　　正五位上同宣顯卅三
左少辨　正五位上同宣顯 藏人十二廿二轉右中
　　　　正五位上同輝光廿五
右少辨　正五位上同輝光 藏人十二廿二轉左少同十四兼左衞門權佐
　　　　從五位上同兼廉十七 十二廿四補藏人廿九拜賀
權右少辨從五位上同兼廉十七 十二廿二轉右少

元祿八年己亥

左大辨　從三位　藤頼重廿七參木五八任權中納言（六ヶ月三日拜賀）

右大辨　正四位上同尹隆廿頭

左中辨　從四位下同俊清廿九頭正廿九從四上五八正四下同廿六正四上（年中三ヶ度）

右中辨　正五位上同宣顯卅四藏人

左少辨　正五位上同輝光十六藏人左衛門權佐

右少辨　從五位上同兼廉十八藏人正廿九正五下（去ヶ正五分）五廿六正五上

元祿九年丙子

左大辨

右大辨　正四位上藤尹隆廿一頭十二廿八參木（大辨如元）

左中辨　正四位上同俊清卅頭

右中辨　正五位上同宣顯卅五藏人十二廿八從四下同日藏人頭（ヶ同廿九日拜賀）

左少辨　正五位上同輝光廿七藏人左衛門權佐

右少辨　正五位上同兼廉十九藏人

元祿十年丁丑

左大辨　正四位上藤尹隆廿二十二廿六從三位

右大辨　正四位上同尹隆參木（正ヶ月十四日奏慶）五十二轉左大

正四位上同俊清卅一五十二轉任

左中辨　正四位上同俊清頭五十二轉右大

正四位下同宣顯卅六五十二轉任六十正四上

右中辨　從四位下同宣顯頭正廿四從四上（去正五分）五六正四下同十二轉左中

正五位上同輝光廿八五十二轉任

左少辨　正五位上同輝光藏人左衛門權佐五十二轉右中（權佐如元）

正五位上同兼廉廿五十二轉任

右少辨　正五位上同尙房十六六十任元藏人侍從十二廿六正五下

前權大納言淳房卿男、實從一位前權大納言凞房卿男、母

天和三六廿六誕生、元祿四正六從五下、十歲、同十正十八元服昇殿、同日侍從從五上、同年二十四藏人、

權右少辨從五位下同尙長十三十二廿四任

故前權大納言方長卿三男ヶ、末子（本家相續）、母家女房、

貞享二十二四誕生、元祿八十二十六從五下、同年十二廿六元服昇殿佐衛門佐、十一歲、

元祿十一年戊寅

左大弁　従三位　藤尹隆 廿三 参木
右大弁　正四位上同俊清 卅二 頭、八十任参議（大弁如元）（ク十二月三日奏慶）
左中弁　正四位上同宣顕 卅七 頭
右中弁　正五位上同輝光 廿九 蔵人左衛門権佐
左少弁　正五位上同兼廉 廿一 蔵人
右少弁　正五位上同尚房 十七 蔵人正九正五上（去五日分）
権右少弁従五位下同尚房 十四 十二十五従五上去正五分

元禄十二年 己卯 〔本年以下諸本無、〕
左大弁　従三位　藤尹隆 廿四 三木
右大弁　正四位上同俊清 卅三 三木二十三従三位
左中弁　同　同宣顕 卅八 正四辞蔵人頭弁等（依父卿事也）
　　　　正五位上同輝光 卅
右中弁　同　同輝光 蔵人左衛門権佐九十七転左中権佐如元
　　　　同　同兼廉 廿二
左少弁　同　同兼廉 蔵人九十七転右中
　　　　同　同尚房 十八
右少弁　同　同尚房 蔵人九十七転左少
　　　　従五位上同尚長 十五 十廿正五下
権右少弁同　同尚長 九十七転右少
　　　　正五位下同益光 十五 閏九十一任
　　　　前権中納言意光卿男、母
　　貞享二三八誕生、元禄二正七従五下、五歳、同〔公補作六〕十二十三元服昇殿、同日侍従従五上、同十正五正五下、十三歳、

元禄十三年 庚辰
左大弁　従三位　藤尹隆 廿四 三木
右大弁　同　同俊清 卅四 三木
左中弁　正五位上同輝光 卅一 蔵人左衛門権佐八九補蔵人頭従四下同廿四従四上九廿正四
右中弁　同　同兼廉 廿三 蔵人
左少弁　同　同尚房 十九 蔵人
右少弁　正五位下同尚長 十六 八十三補蔵人十廿一正五上
権右少弁同　同益光 十六

元禄十四年 辛巳
左大弁　従三位　藤尹隆 廿五 三木正十二正三位（去五分）十廿三任権中納言
　　　　同　同俊清 卅五
右大弁　同　同俊清 三木十廿四転左大
　　　　正四位上同輝光 卅二

左中辨　正四位下同輝光　頭正十二正四位上(去五分)十廿四轉右大
同　正五位上同兼廉廿四
左中辨　同　同兼廉　藏人十廿四轉左中
同　同尚房廿
左少辨　同　同尚房　藏人十廿四轉右中
同　同尚長十七
右少辨　同　同尚長　藏人十廿四轉左少
同　同益光十七
權右少辨同　同益光　十廿四轉右少
從五位上同治房十二　十廿四任十一廿三正五位下(去正五分)
前權大納言凞房卿男、母
元祿三八四誕生、同六正五叙爵、四歳、同十十一廿九
元服昇殿、同日右衛門權佐從五上、八歳、

元祿十五年壬午
左大辨　從三位　藤俊淸卅六　三木
右大辨　正四位上同輝光卅三　頭
左中辨　正五位上同兼廉廿五　藏人
右中辨　同　同尚房廿一　藏人
左少辨　同　同尚長十八　藏人
右少辨　正五位下同益光十八
權右少辨同　同治房十三

元祿十六年癸未
左大辨　從三位　藤俊淸卅四　三木
右大辨　正四位上同輝光卅四　頭十二十一三木辨如元
左中辨　正五位上同兼廉廿六　藏人十二廿三補藏人頭從四下
右中辨　同　同尚房廿二　藏人
左少辨　同　同尚長十九　藏人
右少辨　正五位下同益光十九　十廿五補藏人
權右少辨同　同治房十四

元祿十七年甲申　三月十三日改元爲寶永元、
左大辨　從三位　藤俊淸卅八　三木九廿一任權中納言
同　同輝光卅五
右大辨　正四位上同輝光　三木四三從三位(去二十三分)九廿一轉左大
同　同兼廉廿七
左中辨　從四位下同兼廉　頭正五從四上同廿三正四下二十三正四上十、轉右大
正五位上同尚房廿三
右中辨　同　同尚房　藏人十十九轉左中

左少辨　同　同尙長廿
同　同尙長藏人十十九轉右中
同　同益光廿
右少辨　正五位下同益光藏人正五正五上十十九轉左少
同　同治房十五
權右少辨同　同治房十十九轉正
同　同光榮十六十廿五任
故左中辨宣定朝臣男、母
元祿二八三誕生、同六五六叙爵、五歲、同十十一廿
九元服昇殿侍從従五位上、九歲、同十四十二廿三
正五位下、去正五分十三歲、

寶永二年乙酉
左大辨　從三位　藤輝光卅六三木七廿八任權中納言
正四位上同兼廉廿八
右大辨　同　同兼廉頭八十六轉左大
左中辨　正五位上同尙房廿四藏人
右中辨　同　同尙長廿二藏人
左少辨　同　同益光廿二藏人
右少辨　正五位下同治房十六

權右少辨同　同光榮十七

寶永三年丙戌
左大辨　正四位上藤兼廉廿九頭二十二任三木（辨如元）五廿九從三位
右大辨　從四位下同尙房廿五五十八從四上同月廿九正四下
左中辨　正五位上同尙房藏人二十二補藏人頭從四下同廿轉右大
同　同尙長廿二
右中辨　同　同尙長藏人二廿轉左中
同　同益光廿二
左少辨　同　同益光藏人二廿轉右中
正五位下同治房十七五六正五上
右少辨　同　同治房二十二補藏人二廿轉左少
同　同光榮十八
權右少辨同　同光榮二廿轉正
同　同資敏十三二廿任十二廿三改永資
權中納言輝光卿男、母
元祿七正廿八誕生、同十一正十叙爵、五日分、五歲、同
十三十一六元服昇殿侍從、同十四正從五上、八歲、
同十五正五正五下、十一歲、

寶永四年丁亥

左大辨　從三位　藤兼廉卅 三木

右大辨　正四位下同尚房廿六 頭二十七正四位上

左中辨　正五位上同尚長廿三 藏人

右中辨　同　同益光廿三 藏人

左少辨　同　同治房十八 藏人

右少辨　正五位下同光榮十九

權右少辨同　同永資十四

寶永五年戊子

左大辨　從三位　藤兼廉卅一 三木

右大辨　正四位上同尚房廿七 頭

左中辨　正五位上同尚長廿四 藏人二十六兼春宮大進立坊日十二廿一補藏人頭從四下

右中辨　同　同益光廿四 藏人十二廿一兼春宮大進

左少辨　同　同治房十九 藏人十二廿七兼中宮大進

右少辨　正五位下同光榮廿 十二廿一補藏人

權右少辨同　同永資十五

寶永六年己丑　六月廿一日新帝受禪、

左大辨　從三位　藤兼廉卅二 三木

右大辨　正四位上同尚房廿八 頭

左中辨　從四位下同尚長廿五 頭二九從四上(五日分)三十六正四下四五正四上

右中辨　正五位上同益光廿五 藏人春宮大進六廿一止大進

左少辨　同　同治房廿 藏人中宮大進

右少辨　正五位下同光榮廿一 藏人正九正五上(五日分)

權右少辨同　同永資十六

中御門院
寶永七 同八元正德 正德二 同三 同四 同五
同六元享保 享保二 同三 同四 同五 同六
同七 同八 同九 同十 同十一 同十二 同
十三 同十四 同十五 同十六 同十七 同十
八 同十九 同廿

櫻町院
享保廿一元元文 元文二 同三 同四 同五 同
六元寬保 寬保二 同三 同四元延享 延享二 同三
同四

桃園院
延享五元寬延 寬延二 同三 同四元寶曆 寶曆二
同三 同四 同五 同六 同七 同八 同九
同十 同十一 同十二

仙洞
寶曆十三 同十四元明和 明和二 同三 同四
同五 同六 同七

後桃園院
明和八 同九元安永 安永二 同三 同四 同五
同六 同七 同八

中御門院
寶永七年庚寅
左大辨 從三位 藤兼廉卅三 三木
右大辨 正四位上同尙房廿九 藏人頭
左中辨 同 同尙長廿六 藏人頭
右中辨 正五位上同益光廿六 藏人
左少辨 同 同治房廿一 藏人中宮大進三月廿一日止大進(依院號)
右少辨 同 同光榮廿三 藏人
權右少辨正五位下同永賓十七

寶永八年辛卯 四月廿五日改元爲正德元、
左大辨 從三位 藤兼廉卅四 三木二月十一日敍正三位七月廿四日任權中納言去之于時勞十九年
正四位上同尙房卅 三木七月廿四日轉任
右大辨 同 同尙房 藏人頭二月廿八日任三木(大辨如元)三月廿五日許賀著陣廿日聽直衣七月廿四日轉左大
同 同尙長廿七 七月廿四日轉任九月五日辭氏院別當
左中辨 同 同尙長 藏人頭七月廿四日轉右大
正五位上同益光廿七 七月廿四日轉右大九月五日爲氏院別當

右中辨　同　同益光　藏人七月廿四日轉左中
　　　　同　同治房 廿二 七月廿四日轉任
左少辨　同　同治房　藏人七月廿四日轉右中
　　　　同　同光榮 廿三 七月廿四日轉任
右少辨　同　同光榮　藏人七月廿四日轉左少
　　　　正五位下同永資 十八 七月廿四日轉任
權右少辨同　同永資　七月廿四日轉右少
　　　　同　同資堯 廿 八月三日任
故左兵衛佐資基男、實弟、
元祿五七十四誕生、同十三十二廿五叙爵、九歲、同十七十二廿六爲資基子、寶永二三二一爲資堯、元資義、十一元服昇殿侍從從五上、九二服解、養父、十廿三除服出仕復任、同五二十六春宮權大進、同日奏慶、同六三十六正五下、十八歲、六十一止權大進、

正德二年 壬辰
左大辨　正四位上藤尙房 卅一 參議十二月十八日叙從三位(去正六分)
右大辨　同　同尙長 廿八 藏人頭
左中辨　正五位上同益光 廿八 藏人
右中辨　同　同治房 廿三 藏人
左少辨　同　同光榮 廿四 藏人
右少辨　正五位下同永資 十九 二月二日卒
　　　　同　同資堯 廿二 二月十四日轉任九月廿五日服解(實父)十一月廿日復任
權右少辨同　同資堯　二月十四日轉右少
　　　　同　同敬孝 十八 二月十六日任
前權中納言尹隆卿男、
元祿八七廿一誕生、同九十二廿八叙爵、二歲、寶永二十一十八元服昇殿侍從從五位上、十一歲、同六八廿七正五下、十五歲、同七五一兼左兵衛佐、

正德三年 癸巳
左大辨　從三位　藤尙房 卅二 參議
右大辨　正四位上同尙長 廿九 藏人頭
左中辨　正五位上同益光 廿九 藏人
右中辨　同　同治房 廿四 藏人
左少辨　同　同光榮 廿五 藏人
右少辨　正五位下同資堯 廿二
權右少辨同　同敬孝 十九 三月一日兼左衛門權佐

正德四年 甲午

左大辨　從三位　藤尙房卅三　參議五月廿二日任權中納言(于時去之勞十八年)

正四位上同尙長卅　六廿四轉任藏人頭廿六任參議(于時如故)八廿九(廿五公補)拜賀着陣十二廿八直衣

右大辨　同　同尙長　藏人頭六廿四轉左大

從四位下同治房廿五　七月廿六日轉任藏人頭八月廿日從四上卅日去氏院別當十一九正四下

左中辨　正五位上同益光卅　藏人

右中辨　同　同治房　藏人七月十三日補藏人頭同日從四下同日拜賀從事廿六轉右大

同　同光榮廿六　七月廿六日轉任藏人十二月廿四日爲氏院別當

左少辨　同　同光榮　藏人七月廿六日轉右中

正五位下同資堯廿三　七月廿六日轉任藏人八月廿五日正五上卅日氏院別當十二月廿三日辭別當

右少辨　同　同資堯　七月十四日補藏人廿一日禁色拜賀從事廿六日轉左少

同　同敬孝廿　七月廿六日轉任左衛門權佐如故

權右少辨同　同敬孝　左衛門權佐七月廿六日轉右少

同　同賴胤十八　七月廿日任

故從一位前權大納言賴孝卿二男、(實右中將實松朝臣男、)

元祿十九二誕生、同十四正九敍爵、五歲、去五分、寶永三三廿七當家相續、六(三改賴胤、元公俊、)同四十二廿六元服昇殿侍從從五上、同六八四服解、養父、十十七除服出仕復任、同七後八九正五下、十四歲、去二廿八分、同八正十服解、養母、二卅除服出仕復任、

正德五年乙未

左大辨　正四位上藤尙長卅一　參議二月十五日從三位

右大辨　正四位下同治房廿六　藏人頭正月十一日正四上(去五分)

左中辨　正五位上同益光卅一　藏人十二月廿六日從四下(去藏人)

右中辨　同　同光榮廿七　藏人

左少辨　同　同資堯廿四　藏人

右少辨　正五位下同敬孝廿一　左衛門權佐十二月廿七日藏人(權佐如元)同日禁色廿八日拜賀從事

權右少辨同　同賴胤十九

正德六年丙申　六月廿二日改元爲享保元、

左大辨　從三位　藤尙長卅二　參議

右大辨　正四位上同治房廿七　藏人頭

左中辨　從四位下同益光卅二

右中辨　正五位上同光榮廿八　藏人

權右中辨同　同敬孝廿二　五月六日轉任藏人左衛門權佐如元

左少辨　同　同資堯廿五　藏人四月廿四日辭藏人同日卒

右少辨　同　正五位下同顯胤廿　五月六日轉任藏人廿八正五上

同　同敬孝　藏人左衛門權佐正月十三日正五上（去五分）五月六日轉權右中辨

同　同兼榮廿二　五月十八日任

故前權中納言國豐卿二男、

元祿八十十六誕生、同十二三廿六叙爵、五歲、去正五分、寶永四四六元服昇殿侍從從五位上禁色、十三歲、同七七十七服解、父、後八九除服出仕復任、同八爲正德元十二廿三正五下十七歲、去正五分、

權右少辨同　同顯胤　四月廿八日補藏人五月三日禁色拜賀從事六日轉左少

享保二年丁酉

左大辨　從三位　藤尙長卅三　三木六月廿一日辭兩官（勞廿年）

正四位上同治房廿八　十月十二日轉任三木卅日直衣

右大辨　同　同治房　藏人頭二月廿五日任三木（大辨如元）九月十三日拜賀着陣

從三位　菅總長卅　十月十二日轉左大十二月八日任（文章博士如故）

故少納言長章朝臣男、

元祿元七廿一誕生、同六七十九給料、同十八十十六元服昇殿文章得業生、同十四十一二服解、母、十二廿三除服出仕復任、同十五十二十六獻策、十八叙爵侍從、同十六十二廿二兼文章博士、寶永元正廿三從五上、十七、去五分、同三正廿一正五下、十九、去五分、同五正廿從四下、廿一、去五分、二十六東宮學士、八廿八少納言、侍從博士如元、十二廿九大內記、同六六廿一止學士、同八十二廿三從四上、廿四、去正五分、正德三十二廿六侍讀、同日正四下、侍讀賞、同五七六大內記辭之、同六十二廿五從三位、廿六博士如元、

左中辨　正五位上藤益光卅三

右中辨　同　同光榮廿九　藏人

權右中辨同　同敬孝廿三　藏人左衛門權佐十一月廿五日辭權佐

左少辨　同　同顯胤廿一　藏人十二月八日兼左衛門權佐

右少辨　正五位下同兼榮廿三

享保三年戊戌

左大辨　正四位上藤治房廿九　參議二月十三日從三位四月廿四日任權中納言（于時去之勞十八年）

從三位　菅總長卅一　六月十二日轉任（文章博士如故）

右大辨　同　同總長　文章博士六月十二日轉左大

從四位下藤光榮卅　六月十四日轉任藏人頭廿四日從四位上七月十三日正四下十月十九日辭氏院別當

左中辨　同　同益光卅四　四月廿四日從四上

右中辨　正五位上同光榮　藏人六月四日從四下藏人頭十三日拜賀從事十四日轉右大

同　同敬孝廿四　六月十五日轉任藏人十月廿二日爲氏院別當

權右中辨同　同敬孝　藏人六月十九日轉右中

同　同賴胤廿三　六月十九日轉任（藏人左衛門權佐如元）

左少辨　同　同賴胤　藏人左衛門權佐六月十九日轉權右中

同　同俊將廿　六月廿四日任藏人

權大納言俊清卿男、（實前權中納言尹隆卿末子、）

元祿十二十廿三誕生、寶永三十二廿三敍爵、八、同七九十一爲俊清卿子、十一改俊將、元忠康、正德元三廿六元服昇殿侍從從五上、十三、正德三五十一服解、養母、七三復任、同四十二二正五下、享保三六九藏人、十六禁色拜賀從事、

右少辨　正五位下同兼榮廿四

享保四年己亥

左大辨　從三位　菅總長廿二　文章博士二月十四日正三位十一月廿七日辭（勞三年）

正四位上藤光榮廿一　十二月五日轉任三木十一日直衣

右大辨　正四位下同光榮　藏人頭正月九日正四上（去五分）五月十五日三木（于時如元）十一月廿五日奏慶着陣十二月五日轉左大

同　同資時　十二月五日轉任藏人頭廿六正四上

左中辨　從四位上同益光廿五　二月十二日兼左衛門權佐四月廿四日辭四月廿七日任（直任）九月十五日補藏人頭廿五禁色拜賀從事十月四日正四下十二月五日轉右大

同　同資時卅

故侍從弘昌男、

元祿三八一誕生、同七十二廿五敍爵、五、同十五十一十四元服昇殿侍從從五上、十三、寶永三正十正五下、去五分、十七、二十一宮內少輔、同四正廿四右兵衛佐、十八、同七二卅從四下、去廿八宣、廿一、正德五七七從四上、去年十二廿六宣、廿六、享保三十二十八日野家相續、元豐岡、

從四位下同高顯　十二月五日轉任藏人頭同月八日從四上同月廿六日正四下

右中辨　正五位上同敬孝廿五　藏人正月十日改高顯二月廿四日辭氏院別當六月二日藏人頭從四下拜賀從事十二月五日轉左中

同　同賴胤廿三　十二月五日轉任藏人左衛門權佐如元

權右中辨同　同賴胤　藏人左衛門權佐二月廿四日爲氏院別當十二月五日轉右中

同　同俊將廿一　十二月八日轉任藏人

左少辨　同　同俊將　藏人十二月八日轉權右中

同　同兼榮廿五　十二月八日轉任藏人

右少辨　正五位下同兼榮　六月四日補藏人正五上十三日奏慶從事十二月八日轉左少

同　同宣誠廿九　十二月九日任

從三位宣顯卿男、（實故左中辨宣定朝臣次男、）

元祿四十一誕生、同十一月廿九叙爵、八、去正五分、寶永八正十一爲宣顯卿子、五卅元服昇殿侍從從五上、廿一、六廿四改宣誠、元忠雄、正爵、同十二廿六正五下、廿四、享保四六一任右兵衛佐、

享保五年庚子

左大辨　正四位上藤光榮 卅二參議六月廿一日叙從三位

右大辨　同　同資時 卅一藏人頭

左中辨　正四位下同高顯 廿六藏人頭正月十二日叙正四上(去九分)

右中辨　正五位上同頼胤 廿四藏人左衛門權佐

權右中辨同　同俊將 廿二藏人

左少辨　同　同兼榮 廿六藏人

右少辨　正五位下同宣誠 卅

享保六年辛丑

左大辨　從三位　藤光榮 卅三

右大辨　正四位上同資時 卅二藏人頭

左中辨　同　同高顯 廿七藏人頭

右中辨　正五位上同頼胤 廿五藏人左衛門權佐

權右中辨同　同俊將 廿三藏人

左少辨　同　同兼榮 廿七藏人

右少辨　正五位下同宣誠 卅一

享保七年壬寅

左大辨　從三位　藤光榮 卅四三木四月十四日任權中納言(于時去之勞十九年)

正四位上同資時 卅三四月廿一日轉任藏人頭六月七日任三木(于時如故)廿八日奏慶着陣七月九日直衣

右大辨　同　同資時 藏人頭四月廿一日轉左大

從三位　菅爲範 卅五四月廿四日文章博士如元七月廿三日辭(勞四ヶ月)

故文章博士爲房男、(實爲致男、)

元祿元八廿九誕生、同九十二廿六給料、九、同十四九廿七元服昇殿文章得業生、十四、同十五十二十六獻策、十五、十八叙爵侍從、同十七正廿三從五上、十七、去五分、寶永二正廿二正五下、十九、去五分、同五正廿五從四下、廿一、去九分、正德三二十八從四上、廿六、去年十二廿五分、同日文章博士、十二十八少納言、侍從博士如故、同廿六侍讀、同五二十五正四下、廿八、去正九分、七七大內記、享保四十二廿六從三位、卅二、博士如故、

左中辨　同　同高顯

正四位上藤高顯 卅八七月廿七日轉任藏人頭藏人四月九日服解(父)六月三日除服出仕復任七月廿七日轉右大

正四位下同賴胤 廿六 七月廿七日轉任藏人頭

右中辨　正五位上同賴胤　藏人左衛門權佐六月十一日補藏人頭從四下氏院別當(如元)十三日拜賀從事十四日止別當廿七從四上七廿三正四下廿七轉左中

同　同俊將 廿四 七月廿七日轉任(藏人左衛門權佐如元)

權右中辨同　同俊將　藏人四月九日服解(實父)六月三日除服出仕復任廿二藏人左衛門權佐七月廿七日轉右中

從四位下同光潔 廿五 八月九日任十二月廿五日從四上

前權中納言韶光卿男、

元祿十二二廿一誕生、同十五十一十一叙爵、五、去正五、分、寶永七十二廿二元服昇殿侍從從五上、三十、正德五二十四正五下、十八、去年十一廿六分、享保三七廿八服解、母、八十九除服出仕復任、同四六一從四下、廿二、去年十一三分、

左少辨　正五位上同兼榮 廿八 藏人六月十四日爲氏院別當

右少辨　正五位下同宣誠 卅二 六月十三日補藏人十六日禁色拜賀從事廿七正五上

享保八年 癸卯

左大辨　正四位上藤資時 卅四 三木正月廿三日叙從三位

右大辨　同　同高顯 廿九 藏人二月十三日任三木(于時如元)五月四日奏慶着陣同月七日直衣十二月廿六日叙從三位

左中辨　正四位下同賴胤 廿七 藏人頭正月廿三日正四位上

右中辨　正五位上同俊將 廿五 藏人左衛門權佐五月四日爲氏院別當

權右中辨從四位上同光潔 廿六

左少辨　正五位上同兼榮 廿九 藏人三月廿二日辭氏院別當四日服解(母)五月十三日除服出仕復任七月五日改資敬

右少辨　同　同宣誠 卅三 藏人三月廿二日爲氏院別當五月四日辭氏院別當

享保九年 甲辰

左大辨　從三位　藤資時 卅五 三木二月十八日任權中納言(于時去之勞五年)

同　同高顯 卅 二月廿四日轉任三木四月十六日奏慶着陣五月十一日任權中納言(于時去之勞十二年)

正四位上同賴胤 廿八 四月十八日轉任三木廿三日拜賀着陣

右大辨　從三位　同高顯　三木二月廿四日轉左大

正四位上同賴胤　三月廿五日轉任今日任三木四月七日拜賀着陣十九日直衣七月十八日轉左大

從四位上同俊將 廿六 七月十八日轉任廿三日拜賀從事

左中辨　正四位上同賴胤　藏人頭三月廿五日轉右大

從四位下同俊將　四月一日轉任今日補藏人頭叙從四位下去氏院別當七日拜賀從事五月十一日從四位上七月十八日轉右大

同　同資敬 卅 七月十八日轉任

右中辨　正五位上同俊將　藏人左衛門權佐四月一日轉左中

同　同資敬　四月一日轉任同日爲氏院別當同七日拜賀從事廿四日去別當七月十八日轉左中

同　同宣誠（卅四 七月廿一日轉任廿三日拜賀從事）
權右中辨從四位上同光潔（廿七）
左少辨　正五位上同資敬（藏人四月一日轉右中）
同　同宣誠（四月一日轉任七日拜賀從事廿四日爲氏院別當七月廿一日轉右中）
正五位下同穐房（廿 八月七日任藏人十一日拜賀從事九月四日服解（父）十月廿四日除服出仕復任）
權大納言尙房卿男、
寶永二正廿七誕生、同三十一廿三敘爵、二、正德三十一廿六元服昇殿兵部大輔從五上、九、享保二十二廿五正五下、十三、同九四九藏人、廿、十六禁色拜賀從事、

右少辨　正五位上同宣誠（藏人四月一日轉左少）
正五位下同秀定（十六 後四月廿一日任右衞門權佐如元八月十一日拜賀從事）
權中納言治房卿男、
寶永六六七誕生、同八十二三敘爵、三、正德六十二廿七元服昇殿右衞門權佐從五上、八、享保五十二廿八正五下、

享保十年乙巳

左大辨　正四位上藤賴胤（廿九 三木二月一日從三位廿六日兼勘解由長官）
右大辨　從四位上同俊將（廿七 藏人頭正月六日正四下（去五分）二月十八日正四上）
左中辨　正五位上同資敬（卅一 藏人十一月廿五日從四下 去藏人十二廿五從四上）
右中辨　同　同宣誠（卅五 藏人）（位俊將上）
權右中辨從四位上同光潔（廿八）
左少辨　正五位下同穐房（廿一 藏人二月十八日正五上）
右少辨　同　同秀定（十七 右衞門權佐十一月廿六日補藏人廿八禁色拜賀從事）

享保十一年丙午

左大辨　從三位　藤賴胤（卅 三木勘解由長官）
右大辨　正四位上同俊將（廿八 藏人頭）
左中辨　從四位上同資敬（廿二 五月十二日正四下）
右中辨　正四位上同宣誠（卅六 藏人）（位資敬上）
權右中辨從四位上同光潔（廿九 十二月廿四日正四下（去五十二分））
左少辨　正五位上同穐房（廿二 藏人）
右少辨　正五位下同秀定（十八 藏人左衞門權佐七月廿八日正五上）

享保十二年丁未

左大辨　從三位　藤賴胤（卅一 三木勘解由長官七月廿一日任權中納言（于時去之勞十四年））
正四位上同俊將（廿九 七月廿三日轉任廿五日拜賀從事）

右大辨　同　同俊將　藏人頭七月廿三日轉左大
　正四位下同資敬卅三　七月廿三日轉任八月廿五日拜賀
左中辨　同　同資敬　七月廿三日轉右大
　正五位上同宣誠卅七　七月廿三日轉任廿五日拜賀從事
右中辨　同　同宣誠　藏人七月廿三日轉左中
　位資敬上　正四位下同光潔卅　七月廿三日轉任
權右中辨同　同光潔　七月廿三日轉正
左少辨　正五位上同稙房廿三　藏人
右少辨　同　同秀定十九　藏人左衛門權佐
權右少辨正五位下同光綱十七　七月廿五日任八月八日拜賀從事
故正五位上左少辨資堯男、（實故前權中納言爲綱卿三男、）
正德元十一廿九誕生、同六五廿一爲資堯子、十廿七叙爵、六、享保四九十六元服昇殿侍從、九、十八從五上、同八二十三正五位下、十三、

享保十三年戊申
左大辨　正四位上藤俊將卅　藏人頭十月三日任三木（于時如故）十一月六日拜賀着陣十二月四日直衣
右大辨　正四位下同資敬廿四　六月十一日兼東宮學士（立坊日）
左中辨　正五位上同宣誠卅八　藏人七月三日辭氏院別當十月五日藏人頭從四下九日拜賀從事十一月廿七日從四上十二月廿一日正四下
右中辨　位資敬上　正四位下同光潔卅一
左少辨　正五位上同稙房廿四　藏人六月十一日兼春宮大進（立坊日）七月二日服解（母）八月廿四日除服出仕復任
右少辨　同　同秀定廿　藏人右衛門權佐二月廿三辭權佐
權右少辨正五位下同光綱十八　六月十一日兼春宮權大進（立坊日）七廿三氏院別當十月七日補藏人（辨權大進如元）十一日禁色同日奏慶從事十二廿一正五上

享保十四年己酉
左大辨　正四位上藤俊將卅一　三木二月廿八日從三位
右大辨　位光潔次　正四位下同資敬卅五　東宮學士二月十八日正四上
左中辨　同　同宣誠卅九　藏人頭正月九日正四上去五分
右中辨　位資敬上　同　同光潔卅二　五月十一日服解（父）七月二日除服出仕復任
左少辨　正五位上同稙房廿五　藏人春宮大進
右少辨　同　同秀定廿一　藏人
權右少辨同　同光綱十九　藏人春宮權大進四月一日兼造興福寺長官

享保十五年庚戌

左大辨　從三位　藤俊將 卅二 三木八月十日任權中納言（于時去之勞十三年）

正四位上同宣誠 四十 八月廿日轉任藏人頭九月三日拜賀從事十一月十七日辭左大辨同日卒（勞十一年）

右大辨　同　同資敬 卅六 東宮學士 藏人頭八月卅日轉左大

左中辨　同　同宣誠

正五位上同稙房 廿六 九月十八日轉任藏人春宮大進如元廿一拜賀從事

右中辨　正四位下同光潔 卅三 九月廿五日任式部權大輔（勞九年）

正五位上同秀定 廿三 九月十八日轉任藏人廿一日拜賀從事

左少辨　同　同稙房 藏人春宮大進九月廿八日轉左中

同　同光綱 廿 九月十八日轉任藏人春宮權大進造興福寺長官等如故

右少辨　同　同秀定 藏人九月十八日轉右中

正五位下同兼胤 十六 十月三日任十三日拜賀從事

故前權大納言兼廉卿孫、（故侍從正五位下兼頼男、）

正德五十一十八誕生、享保二十二八敘爵、三、同五十一廿七元服昇殿侍從從五上、六、同七十十服解、母、十二一除服出仕復任、同九正十正五下、十、去六宣、

權右少辨正五位上同光綱 藏人春宮權大進造興福寺長官九月十八日轉左少

正五位下同規長 十八 十月三日任右衞門權佐如故十三日拜賀從事

故前權中納言尙長卿男、（實故前權大納言尙房卿二男、）

正德三六廿三誕生、享保三五廿七爲尙長卿子、八廿二敘爵、同四九廿四元服昇殿民部少輔、七、同六十二廿四從五上、九、同九九廿四服解、實父、十廿四除服出仕復任、同十正十五正五下、十三、去五分、同十三三四右衞門權佐、十六、七二服解、實母、八廿四除服出仕復任、

享保十六年 辛亥

左大辨　正三位　菅爲範 四十 十二月廿八日任三木十二月廿五日任權中納言（于時去之勞十一ケ月）

享保七七廿三辭右大辨、卅五、文章博士如故、同八十二廿四大藏卿、博士如元、同九正十六拜賀、後四廿一正三位、同十二十九三木、卿如元、廿六拜賀着陣、

正四位上藤資敬 卅五 十二月廿五日轉任廿六日東宮學士如元昨日分

右大辨　同　同資敬 東宮學士十二月廿五日轉左大

左中辨　正五位上同稙房 廿七 藏人東宮大進

右中辨　同　同秀定 廿三 藏人

左少辨　同　同光綱 廿一 藏人東宮權大進造興福寺長官

右少辨　正五位下同兼胤 十七

權右少辨同　同規長十九　右衛門權佐。

享保十七年壬子

左大辨　正四位上藤資敬卅八　東宮學士

右大辨　從四位下同穉房廿八　四月廿三日轉任同日拜賀從事九月十日從四上十二月廿七日正四下

左中辨　正五位上同穉房　藏人春宮大進四月廿日叙從四下補藏人頭廿三轉右大

同　同秀定廿四　四月廿五日轉任藏人廿六日拜賀從事

右中辨　同　同秀定　藏人四月廿五日轉左中

同　同光綱廿二　四月廿五日轉任（藏人春宮權大進長官等如故）廿六日拜賀從事

左少辨　同　同光綱　藏人春宮權大進造興福寺長官四月廿日免氏院別當廿五日轉右中

正五位下同兼胤十八　四月廿五日轉任廿六日禁色拜賀從事六月一日正五上十月一日止氏院別當十一月七日爲別當

右少辨　同　同兼胤　四月廿三日補藏人爲氏院別當廿五日轉左少

同　同規長廿　四月廿五日轉任權佐如故

權右少辨同　同規長　右衛門權佐四月廿五日轉正

同　同祐光十六　四月廿六日任五月一日拜賀從事十月一日氏院別當十一月七日辭別當

前權中納言益光卿男、

享保二二十一誕生、同六正廿二叙爵、五、去五分、同十一二六元服昇殿、十、侍從從五上、同十五十二廿六正五下、十四、

享保十八年癸丑

左大辨　正四位上藤資敬卅九　東宮學士

右大辨　正四位下同穉房廿九　藏人頭二月廿四日正四上

左中辨　正五位上同秀定廿五　九月廿九日服解（父）十一月卅日除服出仕復任

右中辨　同　同光綱廿三　藏人春宮權大進造興福寺長官

左少辨　同　同兼胤十九　藏人

右少辨　正五位下同規長廿一　右衛門權佐

權右少辨同　同祐光十七

享保十九年甲寅

左大辨　正四位上藤資敬四十　東宮學士十一月廿四日叙從三位（推叙于時如元去學士）廿七日任參議（于時去之勞十九年）

同　同穉房卅　十二月二日轉任三木同月十八日拜賀

右大辨　同　同穉房　藏人頭正月廿一任三木（于時如故）廿七日拜賀着陣廿八日直衣十二月二日轉左大

從四位上同秀定廿六　十二月二日轉任藏人頭四日拜賀從事廿四日正四下

左中辨　正五位上同秀定　藏人正月廿四日補藏人頭從四下廿七日拜賀從事九月廿四日從四上十二月二日轉右大

同　同光綱廿四　十二月二日轉任（藏人春宮權大進長官等如故）四日拜賀從事

權左中辨同　同兼胤廿　十二月二日轉任藏人四日拜賀從事

右中辨同　同光綱　藏人春宮權大進造興福寺長官十二月二日轉左中

同　同規長廿二　十二月轉任藏人四日拜賀從事

左少辨同　同兼胤　藏人十二月二日轉權左中

正五位下同祐光十八　十二月二日轉任廿二日拜賀

右少辨同　同規長　右衛門權佐正月廿四日補藏人（權佐如元）廿一日禁色拜賀從事二月十六日正五上十月廿一日辭權佐十二月二日轉右中

同　同顯道十八　十二月十四日任廿二日拜賀從事

前權大納言高顯卿男、

享保二九十三誕生、同十十二五叙爵、九、同十二正廿六元服昇殿勘解由次官、十一、同十四正五從五上、十三、去五分、同十八二廿四正五位下、十七、

權右少辨同　同祐光十八　十二月二日轉左少

享保二十年乙卯　三月廿一日受禪、十一月三日卽位、

左大辨　正四位上藤稙房卅一　三木二月十三日從三位

右大辨　正四位下同秀定廿七　藏人頭二月十二日正四上六月廿一日新帝藏人頭同日拜賀從事十一月十二日任參木（于時如元）十二十九拜賀着陣十日直衣

左中辨　正五位上同光綱廿五　藏人春宮權大進造興福寺長官二月廿四日辭藏人權大進等同日從四下從三月七日爲院司九日奏慶四月補藏人頭御推補九日長官如元（昨八日分）十三日拜賀從事五月五日從四上廿四日正四下

權左中辨同　同兼胤廿一　藏人二月廿六日兼春宮權大進三月十一日拜賀廿一日止權大進同日新帝藏人同日拜賀從事同日爲院判官代年預同一日拜賀廿二日爲氏院別當如元十一月十四日補藏人頭從四下十五日辭氏院別當同日辭院判官代年預十八日拜賀從事十二月五日從四上廿四日正四下

右中辨同　同規長廿三　藏人三月廿一日新帝藏人同日拜賀從事十一月十九日爲院判官代年預廿八日拜賀

左少辨　正五位下同祐光十九　十一月十五日補藏人同日爲氏院別當十八日禁色拜賀從事廿六日正五上

右少辨同　同顯道十九　二月廿六日補藏人三月一日禁色拜賀從事廿一日新帝藏人同日拜賀從事廿四日正五上

櫻町院

享保二十一年丙辰　四月廿八日改元爲元文、

左大辨　從三位　藤稙房卅三　三木

右大辨　正四位上同秀定廿八　參議十二月廿九日叙從三位

左中辨　正四位下同光綱 廿六 藏人頭正月五日正四上造興福寺長官
權左中辨同　同兼胤 廿二 藏人頭正月廿三日正四上
右中辨　正五位上同規長 廿四 藏人
左少辨　同 位祐光上 同祐光 卅 藏人
右少辨　同　同顯道 廿 藏人

元文二年丁巳　四月十一日仙洞崩御諒闇、
左大辨　從三位　藤稙房 卅三 三木七月十二日任權中納言（于時去之勞十二年）
同　同秀定 廿九 八月廿一日轉任廿九日拜賀九月十九日任權中納言（于時去之勞十三年）
正四位上同光綱 廿七 五月廿二轉任今日任三木（造興福寺長官如元）廿八拜賀着陣
右大辨　從三位　同秀定　三木八月廿一日轉左大
正四位上同光綱　八月廿一日轉任廿三日拜賀從事九月十三日更爲造興福寺長官廿三日轉左大
同　同兼胤 廿三 九月廿二日轉任廿四日拜賀從事
左中辨　同　同光綱　藏人頭造興福寺長官八月廿一日轉右大去長官
同　同兼胤　八月廿一日轉任九月廿二日轉右大
正五位上同規長 廿五 十月廿三日轉任廿五拜賀從事
權左中辨正四位上同兼胤　藏人頭八月廿一日轉正
右中辨　正五位上同規長　藏人十月廿三日轉左中
同　同祐光 廿一 十月廿三日轉任廿五日拜賀從事
權右中辨同　同顯道 廿一 十月廿三日轉任廿五日拜賀從事
左少辨　同　同祐光　藏人十月廿三日轉右中
正五位下同賴要　十月廿三日轉任（權佐如元）廿五日拜賀從事
右少辨 位祐光上 正五位上同顯道　藏人八月八日服解（父）十月十日除服出仕復任廿三轉權右中
從五位上同清胤 十七 十月廿三日任廿六日拜賀從事十二月廿二日正五下
前權大納言光榮卿男、實前權中納言宣顯卿次男、
享保六六一誕生、同十六十一廿三叙爵、十、同十八十五爲光榮卿子、同十九二四元服昇殿侍從、十四、六十一從五上、
權右少辨正五位下同賴要 廿三 八月廿四日任（左衞門權佐如故）廿七日拜賀從事十月廿三日轉左少
前權大納言賴胤卿男、實從一位前權大納言俊清卿二男、
正德五四廿三誕生、享保四正五叙爵、五、去五分、同十五六十九當家相續、十一廿八元服昇殿侍從從五上、十二廿六改賴要、元俊範、同十六二八左衞門權佐、同廿三二十四正五下、

元文三年戊午　十一月大嘗會、
左大辨　正四位上藤光綱 廿八 三木造興福寺長官正月十八日從三位（去五分）四月十九日直衣五月十八日任權中納言（于時去之勞十二年）

同　同兼胤 廿三 五月廿五日轉任今日任三木六月十八日奏慶着陣十九日直衣九月廿四日兼丹波守十二月廿四日從三位
右大辨　同　同兼胤 藏人頭五月廿五日轉左大
從四位下　同規長 廿六 五月廿八日轉任六月一日拜賀從事七月廿五日從四上十二月廿四日正四下
左中辨　正五位上　同規長 藏人五月廿七日從四下補藏人頭廿八日轉右大
同　同祐光 廿二 六月八日轉任七月四日從四下（去藏人）
右中辨　同　同祐光 藏人二月九日辭氏院別當同日服解（父）三月廿九日除服出仕復任六月八日轉左中
同　同顯道 廿二 六月八日轉任
權右中辨　同　同顯道 藏人六月八日轉正
同　同賴要 廿四 七月二日轉任左衞門權佐如元四日拜賀從事廿一日正五上八月廿七日止氏院別當
左少辨　同　同賴要 藏人左衞門權佐二月九日爲氏院別當五月廿八日補藏人權佐如故六月一日禁色拜賀從事七月二日轉權右中
同　同清胤 十八 七月二日轉任四日補藏人九日禁色拜賀從事廿五日正五上十二月八日爲氏院別當廿四日爲造興福寺長官
右少辨　同　同清胤 七月二日轉左少
從五位上　同豐尙 十七 七月四日任十五日拜賀從事八月廿七日爲氏院別當十二月八日辭氏院別當
故前参議資敬卿男、實故前權中納言平行康卿二男、
享保七正七誕生、同十五四六叙爵、九、同廿一正廿六爲故資敬卿子、九廿七元服昇殿 侍從從五上 十五歳、

元文四年己未

左大辨　從三位　藤兼胤 廿五 三木正月十日任權中納言（于時去之勞十年）
右大辨　正四位下　同規長 廿七 藏人頭三月八日正四上（去五分）
左中辨　從四位下　同祐光 廿三
右中辨　正五位上　同顯道 廿三 藏人
權右中辨　同　同賴要 廿五 藏人左衞門權佐
左少辨　同　同清胤 十九 藏人造興福寺長官
右少辨　從五位上　同豐尙 十八

元文五年庚申

左大辨　正四位上　藤規長 廿八 二月二日轉任今日任三木三月廿八日拜賀着陣廿九日直衣
右大辨　同　同規長 藏人頭二月二日轉左大
從四位上　同顯道 廿四 五月廿三日轉任藏人頭同廿九日拜賀從事十二月廿四日正四下
左中辨　從四位下　同祐光 廿四 藏人二月二日從四下藏人頭七日拜賀從事三月廿二日從四上五月廿三日轉右大
右中辨　正五位上　同顯道
同　同賴要 廿六 六月十日轉任左衞門權佐如元十月七日辭權佐

權右中辨同　　同頼要　藏人左衛門權佐六月十日轉正
同　　同淸胤廿　六月十日轉任造興福寺長官如元十五日拜賀從事
左少辨　同　　同淸胤　藏人造興福寺長官六月十日轉權右中
正五位下同豐尙十九　六月十日轉任八月六日爲氏院別當十七日辭別當
右少辨　從五位上同豐尙　二月三日補藏人七日禁色奏慶從事正月十二日正五下六月十日轉左少
從五位下同宣時十四　七月廿四日任閏七月十六日拜賀從事十二月廿四日從五上
故藏人頭左大辨宣誠朝臣男、
享保十二四六誕生、同十六二廿三叙爵、五、元文三十二十三元服昇殿侍從、同五二二一民部少輔、十四、

元文六年辛酉　二月廿七日改元爲寬保、
左大辨　正四位上藤規長廿九　三木
右大辨　正四位下同顯道廿五　藏人頭二月十六日正四上
左中辨　從四位下同祐光廿五　三月廿四日從四上
右中辨　正五位上同頼要廿七　藏人
權右中辨同　　同淸胤廿一　藏人造興福寺長官
左少辨　正五位下同豐尙廿　藏人三月廿四日正五上
右少辨　從五位上同宣時十五

寬保二年壬戌
左大辨　正四位上藤規長卅　三木正月十日從三位（去五分）
右大辨　同　　同顯道廿六　藏人頭十月四日三木（于時如元）廿七日拜賀着陣十二月廿四日從三位廿八日直衣
左中辨　從四位上同祐光廿六
右中辨　正五位上同頼要廿六　藏人十月五日從四下補藏人頭九日拜賀從事廿九日從四上十二月廿四日正四下
權右中辨同　　同淸胤廿二　藏人造興福寺長官
左少辨　同　　同豐尙廿一　藏人
右少辨　從五位上同宣時十六

寬保三年癸亥
左大辨　從三位　藤規長卅一　三木六月廿九日任權中納言（于時去之勞十四年）
同　　同顯道廿七　六月廿九日轉任七月八日拜賀着陣
右大辨　同　　同顯道　三木六月廿九日轉左大
正四位上同頼要廿九　六月廿九日轉任同日拜賀卅日服解（實父）九月十三日除服出仕復任十五日申告書
左中辨　從四位上同祐光廿七　六月廿九日正四下
位祐光上
右中辨　正四位下同頼要　藏人頭正月十二日正四上（去六分）六月廿九日轉右大
正五位上同淸胤廿三　六月廿九日轉任同月卅日更爲造興福寺長官

權右中辨同　同淸胤　藏人造興福寺長官六月廿九日轉正

同　同豊尙廿二　六月廿九日轉任同日奏慶七月一日從事

左少辨同　同豊尙　藏人六月廿九日轉權右中

同　同俊逸十七　六月廿九日任藏人（左衞門權佐如元）同日拜賀八月十三日申告書

前權大納言俊將卿男、

享保十二二廿三誕生、同十四正五叙爵、三、去五分、元文九十十九元服昇殿左衞門權佐從五上、十四、寛保二十六補藏人、十六、權佐如故、十二一禁色拜賀從事、廿九正五下、十二廿四正五上、

右少辨　從五位上同宣時十七

寛保四年甲子　二月廿一日爲延享元、

左大辨　從三位　藤顯道廿八　三木八月十二日任權中納言（于時去之勞十一年）

正四位上同賴要卅　八月廿三日轉任廿五日拜賀從事

右大辨同　同賴要　藏人頭八月廿三日轉左大

從四位上同淸胤廿四　九月十四日轉任造興福寺長官如故十十六日拜賀從事廿八日正四下十二月改光胤

左中辨　正四位下同祐光廿八

右中辨　正五位上同淸胤　藏人造興福寺長官八月十三日從四下補藏人頭止氏院別當十四日拜賀從事廿三日從四上九月十四日轉右大

同　同豊尙廿三　九月十四日轉任

權右中辨同　同豊尙　藏人九月十四日轉正

左少辨同　同俊逸十八　藏人左衞門權佐八月廿九日爲檢非違使九月六日拜賀從事三月十日正五下八月十四日藏人十七日禁色十八日拜賀從事

右少辨　從五位上同宣時十八　廿六日兼右衞門權佐廿九日爲檢非違使五月六日拜賀從事十月卅日正五上（廿九分）

延享二年乙丑

左大辨　正四位上藤賴要卅一　藏人頭

右大辨同　同光胤廿六　藏人頭造興福寺長官正月五日正四上

位光胤上

左中辨同　同祐光廿九　六月十二日辭辨同日卒（勞十四年）

正五位上同資興廿四　七月一日轉任十二月十二日更爲氏院別當

右中辨同　同豊尙　藏人正月十五日改貴興七月一日轉左中

同　同俊逸十九　七月一日轉任左衞門權佐檢非違使等如元三日拜賀從事

左少辨同　同俊逸　藏人左衞門權佐檢非違使七月一日轉右中

從五位上同說道十七　七月一日轉任藏人同日拜賀從事

右少辨　正五位上同宣時十九　藏人右衞門權佐檢非違使六月五日辭（勞六年）六日卒

從五位上同益房十　七月廿八日任八月四日拜賀從事十月廿二日兼右衞門權佐

權中納言秀定卿男、

元文元九廿七誕生、同三正十八從五下、去五分、寛保

三九廿一元服昇殿兵部少輔從五上、八、
權右少辨從五位上同說道十七 三月廿三日任廿五日拜賀從事六月九日補藏人十三日禁色拜賀從事七月一日轉左少
權大納言稙房卿男、實故前權大納言高顯卿二男、
享保十四三五誕生、元文三十二廿四叙爵、十、延享元十一十三爲稙房卿子、十二七元服昇殿民部權大輔從五上、十六、

延享三年丙寅
左大辨 正四位上藤賴要卅二 藏人頭二月十七日任三木（于時如元）廿七日拜賀着陣三月一直衣
右大辨 同 同光胤廿六 藏人頭造興福寺長官十月九日任參議（于時辨長官如元）十二月十日拜賀著陣十二日直衣
左中辨 正五位上同資興廿五 藏人十二月十二日更爲氏院別當
右中辨 同 同俊逸廿 藏人左衛門權佐檢非違使十月十三從四下藏人頭十六日拜賀從事十一月十六從四上十二月廿四正四下
左少辨 從五位上同說道十八 藏人二月十七正五下
右少辨位說道上同 同益房十二 右衛門權佐二月十七正五下十二月廿四補藏人廿六禁色廿七拜賀從事
權右少辨同 同資枝十 十二月十九日任拜賀從事
故從一位前權大納言資時卿男、實前權大納言光榮卿男、
元文二十一一誕生、寬保二二二十六爲資時卿子、十二廿四叙爵、六、延享三二七元服昇殿侍從從五上、十、

延享四年丁卯 五月二日受禪九月廿一日卽位、
左大辨 正四位上藤賴要卅三 三木正月五日叙從三位。
右大辨 同 同光胤廿七 三木造興福寺長官二月一日叙從三位五月二日爲院司別當同日拜賀
左中辨 正五位上同資興廿六 藏人二月十六日兼春宮權大進五月二日止大進同日補新帝藏人同日拜賀從事同日補院判官代年預同日拜賀同三日氏院別當如元
右中辨 正四位下同俊逸廿一 藏人頭正月五日正四上三月六日兼春宮亮五月二日止亮同日補新帝藏人頭同日拜賀從事同日院司別當同日拜賀
左少辨 正五位下同說道十九 藏人二月一日正五上四月七日兼左衛門權佐九月二日新帝藏人禁色拜賀從事廿七日兼皇太后宮大進
右少辨位說道上同 同益房十二 藏人右衛門權佐二月一日正五上五月二日新帝藏人同日禁色拜賀從事
權右少辨從五位上同資枝十一 五月二日補院判官代十日拜賀

桃園院
延享五年戊辰 七月十二日改元爲寬延、十一月大嘗會、
左大辨 從三位 藤賴要卅四 參議七月廿一日任權中納言（于時去之勞十二年）

同　同光胤 廿八 八月廿二日轉任（長官如元）十一月廿六日辭（勞十二年）
正四位上同俊逸 廿二 十一月廿七日轉任同日拜賀藏人頭同月廿九日從事參木造興福寺長官三月十四日服解（養父）五月六日除服出仕復任八月廿二日轉左大

右大辨　從三位　同光胤
正四位上同俊逸 八月廿二日轉任廿四日拜賀從事十二月廿七日轉左大
從三位　菅爲成 卅三 十二月廿八日任

前權大納言式部大輔爲範卿男、

享保元八一誕生、同九十二十一給料、九、同十三八廿八元服昇殿文章得業生、九廿二課試、廿七日獻策、十七侍從從五下、十三、同十五正五從五上、十五、同十七四廿正五下、十七、同十九十二廿四從四下、同廿五廿四兼文章博士、廿、侍從如元、六二爲尚復、元文二正十四從四上、廿二、同三十二廿七少納言、侍從博士等如元、廿三歲、同四十二二十五大內記、少納言侍從博士等如元、十七日辭博士、同六十二廿一正四下、延享二後十二二十六從三位、廿、

左中辨　正五位上藤資興 廿七 藏人
右中辨　正四位上同俊逸 藏人頭八月廿二日轉右大
正五位上同益房 十三 八月廿二日轉任權佐廷尉等如元廿四日拜賀從事
左少辨　同　同說道 廿 藏人皇太后宮大進左衞門權佐五月廿四日爲檢非違使廿八日拜賀從事

右少辨 位說道上 同　同益房 藏人右衞門權佐五月廿四日爲檢非違使廿八日拜賀從事八月廿二日轉右中
從五位上同資枝 十二 八月廿二日轉任三月十四日服解（實父）五月六日除服出仕復任八月廿二日轉正、
權右少辨同　同資枝
位資枝上 同　同資望 十四 九月廿五日任（重服中）皇太后宮權大進如元、十月卅日拜賀從事、

故從三位光潔卿孫、故侍從音資男、（實故前內大臣光榮公二男、）

享保二十二三誕生、元文四六三爲故音資男、十二廿八叙爵、五、延享三二七元服昇殿兵部大輔從五上、十二、同四四廿一兼美濃權介、五二補院判官代、同日拜賀、同廿七兼皇太后宮權大進、同五三十四服解（實父）、五六除服出仕復任、

寬延二年 己巳

左大辨　正四位上藤俊逸 廿三 藏人頭正月二日服解（父）二月廿二日除服出仕復任
右大辨　從三位　菅爲成 卅四 正月七日拜賀
左中辨　正五位上藤資興 廿八 藏人十月廿一日從四下（去藏人止氏院別當）十一月廿六日從四上
右中辨　同　同益房 十四 藏人右衞門權佐檢非違使
左少辨　同　同說道 廿一 藏人皇太后宮大進右衞門權佐檢非違使五月十三改韶房

右少辨　從五位上同資枝十三 十二月廿六正五下

權右少辨位資枝上同　同資望十五 皇太后宮權大進十月廿四日補藏人廿九日禁色拜賀從事十二月廿六日正五下

寛延三年庚午

左大辨　正四位上藤俊逸廿四 藏人頭

右大辨　從三位　菅爲成卅五 十二月廿四日正三位（去三月四日分）

左中辨　從四位上藤資興廿九 正月十日正四下十一月廿四日兼越前介

右中辨　正五位上同益房十五 藏人右衞門權佐檢非違使三月四日爲氏院別當四月九日辭別當十月十九日爲氏院別當

左少辨　同　同韶房廿二 藏人皇太后宮大進左衞門權佐檢非違使六月廿六日止大進

右少辨　正五位下同資枝十四

權右少辨位資枝上同　同資望十六 藏人皇太后宮權大進正月十正五上六月廿六日止權大進

寛延四年辛未　十月廿七日改元爲寶曆、

左大辨　正四位上藤俊逸廿五 藏人頭

右大辨　正三位　菅爲成卅六

左中辨　正四位下藤資興卅 越前介

右中辨　正五位上同益房十六 藏人右衞門權佐檢非違使

左少辨　同　同韶房廿三 藏人左衞門權佐檢非違使

右少辨　正五位下同資枝十五

權右少辨正五位上同資望十七 藏人

寶曆二年壬申

左大辨　正四位上藤俊逸廿六 藏人頭五月一日任三木（于時如元）十二日拜賀着陣十四日直衣十二月廿二日從三位

右大辨　正三位　菅爲成卅七

左中辨　正四位下藤資興卅一 越前介

右中辨　正五位上同益房十七 藏人右衞門權佐檢非違使五月二日補藏人頭從四下氏院別當如元八日拜賀從事六十三從四上十一廿九正四下

左少辨　同　同韶房廿四 藏人左衞門權佐檢非違使

右少辨　正五位下同資枝十六 五月二日補藏人八日禁色拜賀從事九日右衞門權佐檢非違使十二日拜賀從事六月十日正五上

權右少辨正五位上同資望十八 藏人

寶曆三年癸酉

左大辨　從三位　藤俊逸廿七 三木六月七日爲造興福寺長官

右大辨　正三位　菅爲成卅八 五月十五日任三木（于時如元）廿七日拜賀着陣六月七日直衣十月十二日辭（勞六年）

　　　　從三位　同家長卅九 十月廿二日任三木廿九日拜賀着陣

故前權中納言總長卿男、

正德五十一二誕生、元文元正八給料、五廿六元服

昇殿文章得業生、廿五課試、六八獻策、十一日叙爵侍從、元文三正六從五上、去五分、廿四、同四十二廿五文章博士、同五十二廿四少納言、侍從博士如元、廿六、同六五三服解、(父)、六廿三除服出仕復任、十二廿一正五下、廿七、寬保四正五從四下、卅、延享二後十二十八大內記、同四正五從四上、卅三、三十六兼東宮學士、五二止學士、同五二一辭博士、寬延三四正四下、寶曆元六八爲侍讀、同三正廿二從三位、五十五任三木、廿七拜賀着陣、六月七日直衣、

左中辨　正四位下藤資興 卅二 越前介三月四日去介

右中辨　同　同益房 十八 藏人頭正月五日正四上

左少辨　正五位上同韶房 卅五 藏人左衛門權佐檢非違使

右少辨　同　同資枝 十七 藏人右衛門權佐檢非違使

權右少辨同 位資枝上　同資望 十九 藏人六月七日從四下去藏人廿一日如元去七日宣

寶曆四年 甲戌

左大辨　從三位　藤俊逸 三木造興福寺長官十二月廿六日正三位

右大辨　同　菅家長 四十 三木正月廿六日辭勞二年

正四位上藤益房 十九 正月廿六日轉任卅日拜賀從事七月十七日辭氏院別當

左中辨　正四位下同資興 卅三 二月十九日正四上

右中辨　正四位上同益房 藏人頭正月廿六日轉右大

從四位下同資望 廿 正月廿六日轉任卅日拜賀從事

權右中辨正五位上同韶房 廿六 正月廿六日轉任藏人(權佐檢非違使等如元)廿日拜賀從事

左少辨　同　同韶房 藏人左衛門權佐檢非違使正月廿六日轉權右中

同　同資枝 十八 正月廿六日轉任(藏人權佐檢非違使等如故)七月八日爲氏院別當

右少辨　同　同資枝 藏人右衛門權佐檢非違使正月廿六日轉左少

從五位上同敬明 十五 正月廿六日任藏人二月十九日正五下廿四拜賀從事八月十七日正五上

權大納言顯道卿男、

元文五十十九誕生、寬保三正十二叙爵、去六分、四歲、寬延二十一廿六元服昇殿民部大輔從五上、寶曆三六七補藏人、十五日禁色拜賀從事、

權右少辨從四位下同資望 正月廿六日轉右中

寶曆五年 乙亥

左大辨　正三位　藤俊逸 廿九 三木造興福寺長官正月廿八日任權中納言(勞十三年)

正四位上同益房 廿 二月二日轉任五日拜賀從事

右大辨　同　同益房 藏人頭二月二日轉左大

左中辨　同　同資興 卅四 二月二日轉任五日拜賀

左中辨　同　同資興　二月二日轉右大
　從四位下同資望廿一　二月二日轉任
右中辨　同　同資望　二月二日轉左中
　正五位上同韶房廿七　二月二日轉任(藏人權佐檢非違使等如故)
權右中辨同　同韶房　藏人左衞門權佐檢非違使二月二日轉正
　同　同資枝十九　二月五日轉任(藏人權佐檢非違使等如故)八日拜賀從事
左少辨　同　同資枝　藏人右衞門權佐檢非違使二月二日轉權右中
　同　同敬明十六　二月五日轉任八日拜賀從事
右少辨　同　同敬明　藏人二月五日轉左少
　從五位上同俊臣十六　二月五日任十四日拜賀從事八月九日爲氏院別當
　故藏人右少辨宣時男、實故前權大納言俊將卿男、
元文五十一廿誕生、延享元九十四敍爵、九、同二六廿五爲故宣時子、寶曆三十十九元服昇殿右兵衞權佐從五上、十四、

寶曆六年丙子

左大辨　正四位上藤益房廿　藏人頭五月十任三木同日更兼任同日拜賀着陣十三日直衣六月十三服解(母)八月三除服出仕復任
右大辨　同　同資興卅五　七月廿六日卒
　正四位下同韶房廿八　八月十一日轉任十六日拜賀從事

左中辨　從四位下同資望廿二　十二月廿一日從四上
右中辨　正五位上同韶房　藏人左衞門權佐檢非違使五月五從四下(推敍)十日補藏人頭同日拜賀從事七月四日從四上廿一日正四下八月十一日轉右大
　同　同資枝廿　八月十一日轉任藏人權佐檢非違使等如故
權右中辨同　同資枝　藏人右衞門權佐檢非違使八月十一日轉右中
　同　同敬明十七　八月十一日轉任十六日拜賀從事
左少辨　同　同敬明　藏人五月十八日服解(父)七月九日除服出仕復任八月十一日轉權右中
　正五位下同俊臣十七　八月十一日轉任藏人十六日拜賀從事廿二日氏院別當十月廿九日正五上
右少辨　從五位上同俊臣　九月十日補藏人同日禁色拜賀從事十八日辭氏院別當七月廿一日正五下八月十一日轉左少
　位俊臣上
　正五位下同光世廿一　八月十七日任廿五日拜賀從事
　前權中納言益光卿男、實故前內大臣光榮公末子、
元文元十一十一誕生、延享四七廿三爲益光卿子、十二廿六敍爵、二十、寬延二十二廿四元服昇殿左兵衞佐、十四、同四六廿二從五上、十六、同五五六正五下廿歲、去二廿分、

寶曆七年丁丑

左大辨　正四位上藤益房 廿二 三木十二月廿五日從三位

右大辨　正四位下同部房 廿九 藏人頭三月十日正四上十二月廿五日爲興福寺長官

左中辨　從四位上同資望 廿二

右中辨　正五位上同資枝 廿 藏人右衛門權佐檢非違使

權右中辨同　同敬明 十八 藏人正月廿六兼左衛門權佐爲檢非違使卅日拜賀從事

左少辨　同　同俊臣 十八 藏人三月十五日止氏院別當十六日爲氏院別當

右少辨　正五位下同光世 廿二

寶曆八年 戊寅

左大辨　從三位　藤益房 廿三 三木

右大辨　正四位上同部房 卅 藏人頭造興福寺長官

左中辨　從四位上同資望 廿四 七月廿四日被止左中辨禁色等（蟄居）同九後七廿三卒

正五位上同資枝 廿一 九月十八日轉任（藏人權佐檢非違使等如故）十月廿三日服解（養母）十二月十五日除服復任

右中辨　同　同資枝 藏人右衛門權佐檢非違使九月十八日轉左中

同　同俊臣 十九 九月十八日轉任藏人（權佐檢非違使等如元）廿八日辭氏院別當

權右中辨同　同敬明 十九 藏人左衛門權佐檢非違使三月廿二日辭藏人辨權佐使等同日卒

同　同俊臣 四月一日轉任藏人（權佐使等如故）四日拜賀從事七月廿四日爲氏院別當九月十八日轉正

從四位下同光豫 廿三 九月廿五日任十月八日拜賀從事

故正三位光兼卿男、

元文元三廿一誕生、同五正八叙爵、五、去五分、寬延二五廿八元服昇殿治部權大輔從五上、十四、寶曆三二一廿正五下、十八、十二廿二右衛門佐、同七正六從四下、廿二、

左少辨　正五位上同俊臣 藏人三月廿九日兼左衛門權佐同日爲檢非違使四月一日轉權右中同日辭氏院別當

正五位下同光世 廿三 四月一日轉任同日爲氏院別當七月廿五日辭藏人辨氏院判官等（蟄居）十二九喪（養父）同十年七月廿落飾法名閑禪

同　同伊光 十四 九月十八日轉任同日補藏人廿六禁色拜賀從事廿八日氏院別當十二月廿八日正五上

右少辨　同　同光世 三月廿五補藏人廿九日禁色拜賀從事四月一日轉左少

同　同伊光 四月二日任十六日拜賀從事九月十八日轉左少

前權大納言兼胤卿男、

延享二六十六誕生、同三二十七叙爵、二、寶曆四十十五元服昇殿侍從從五上、同六正九正五下、十一、父卿賞讓、

從五位上同光房 十三 九月廿五日任十月八日拜賀從事

前權大納言光綱卿男、

延享三十一十四誕生、同五廿二廿六叙爵、三、寶曆六十一廿八元服昇殿侍從從五上、十一、

寶曆九年己卯

左大辨　從三位　藤益房 廿四 三木十月廿三日服解（父）十二月十四除服復任

右大辨　正四位上同韶房 卅一 藏人頭造興福寺長官

左中辨　正五位上同資枝 廿二 藏人右衛門權佐檢非違使

右中辨　同　同俊臣 十九 藏人左衛門權佐檢非違使

權右中辨從四位下同光豫 廿四 十二月廿四日兼越中權介

左少辨　正五位上同伊光 十五 藏人

右少辨　從五位上同光房 十四

寶曆十年庚辰

左大辨　從三位　藤益房 廿五 三木

右大辨　正四位上同韶房 卅二 藏人頭造興福寺長官

左中辨　正五位上同資枝 廿三 藏人右衛門權佐檢非違使

右中辨　同　同俊臣 廿一 藏人左衛門權佐檢非違使

權右中辨從四位下同光豫 廿五 越中權介

左少辨　正五位上同伊光 十六 藏人

右少辨　從五位上同光房 十五 八月四日正五下九月廿八日服解（父）十一月廿日除服

寶曆十一年辛巳

左大辨　從三位　藤益房 廿六 三木正月十二日任權中納言（勞十七年）

正四位上同韶房 卅二 正月廿四日轉任（長官如元）廿六日拜賀從事二月十八日任三木（大辨長官如元）六月九拜賀着陣八廿七直衣十二月廿四從三位

右大辨　同　同韶房 藏人頭造興福寺長官正月廿四轉左大

從三位　菅在家 卅三 正月廿日任二月廿八拜賀

故前參議在廉卿二男、

享保十四六七誕生、寬保元八十一給料、十三、十二三元服昇殿文章得業生、寬保三十廿一課試、十一一獻策、十一十一叙爵侍從、延享二三廿七從五上、十七、同四三十六東宮少進、十九、五二去少進、同五二一正五下、寬延三八廿一服解、父、十十二除服出仕復任、同四六十二文章博士、七廿一從四下、寶曆二二廿六兼上總介、同三正廿二少納言、侍從介博士如元、廿四、二八拜賀、同四正五從四上、廿六、五一兼大內記、侍從博士如故、同五十一廿二改名在家、元在富、同六四卅辭博士、同七七十六正四下、同九閏七十四服解、母、九十三除服出仕復任、同十三十從三位、廿二、八四式部權大輔、九十七拜賀、

左中辨　正五位上藤資枝 廿四 藏人右衛門權佐檢非違使二月十九日補藏人頭從四下廿四拜賀從事二月五日從四上廿五正四下

右中辨　同　同俊臣 廿二 藏人左衛門權佐檢非違使

權右中辨從四位下同光豫 廿六 越中權介正月五日從四上

左少辨　正五位上同伊光 十七 藏人二月廿八日兼右衛門權佐爲檢非違使三月四日拜賀從事

右少辨　正五位下同光房 十六 二月廿日藏人廿六日禁色同日拜賀從事廿六日正五上

寶曆十二年壬午　七月廿七日踐祚、

左大辨　從三位　藤韶房 卅四 三木造興福寺長官十一月廿五日任權中納言(勞十八年)

正四位上同資枝 廿五 十一月五日轉任七日拜賀從事

右大辨　從三位　菅在家 卅四

左中辨　正四位下藤資枝 藏人頭正月五日正四上七月廿七日補新帝頭同日拜賀從事十一月五日轉左大

正五位上同俊臣 廿三 十一月五日轉任藏人權佐使等如故七日拜賀從事

權左中辨同　同伊光 十八 十一月五日轉任(藏人權佐使長官等如故)同日拜賀從事

右中辨　同　同俊臣 藏人左衛門權佐檢非違使七月廿七日補新帝藏人同日拜賀從事十一月五日轉左中

從四位上同光豫 廿七 十一月五日轉任(權介如元)十二月十九去權介

權右中辨從四位下同光豫 越中權介十一月五日轉正

左少辨　正五位上同伊光 藏人左衛門權佐檢非違使七月廿七日新帝藏人同日拜賀從事十一月廿五日造興福寺長官十一月七日轉權左中

同　同光房 十七 十一月五日轉任

右少辨　同　同光房 藏人七月廿七日新帝藏人同日拜賀從事十一月五日轉左少

正五位下同光祖 十七 十二月十九日任廿四日拜賀從事

入道前權大納言光胤卿男、

延享三七十九誕生、寶曆元十二廿四叙爵、六、同五十十八元服昇殿侍從禁色、同六十一廿五從五上、同十十二廿五正五下、十五、

仙洞

寶曆十三年癸未　十一月廿七日卽位、

左大辨　正四位上藤資枝 廿七 藏人頭十二月四日任三木(于時知元)廿四日拜賀着陣廿五日直衣

右大辨　從三位　菅在家 卅五

左中辨　正五位上藤俊臣 廿四 藏人左衛門權佐檢非違使

權左中辨同　同伊光 十九 藏人右衛門權佐檢非違使造興福寺長官

右中辨　從四位上同光豫 廿八

左少辨　正五位上同光房 十八

右少辨　正五位下同光祖 十八

寶曆十四年甲申　六月二日改元爲明和、十一月八日大嘗會、

左大辨　正四位上藤資枝 廿八 三木二月八日從三位九月十五日任權中納言（于時去之勞十八年）

正四位下同俊臣 廿五 十月二日轉任藏人頭同九日拜賀從事

右大辨　從三位　菅在家 卅六 十月廿二日任參木（于時去之勞四年）

從四位上藤光豫 廿九 十二月十五日轉任廿四日拜賀

左中辨　正五位上同俊臣 藏人左衞門權佐檢非違使八月七日從四下補藏人頭廿六日從四上九月廿五日正四下十月一日轉左大

從四位上同光豫 十一月二日轉任十二月十五日轉右大

正五位上同伊光 廿、 十二月十五日轉任藏人權佐使長官等如故

權左中辨同　同伊光 藏人右衞門權佐檢非違使造興福寺長官十二月十五日轉正

右中辨　從四位上同光豫 十一月二日轉左中

正五位上同光房 十九 十月二日轉任（藏人權佐使等如元）九日拜賀從事廿一日辭藏人同日服解（母）十二月十一日除服復任

權右中辨同　同光祖 十九 十二月十五轉任廿六日拜賀從事

左少辨　同　同光房 藏人八月七日兼左衞門權佐補檢非違使十日拜賀從事十月二日轉右中

同　同光祖 十月二日轉任十二月十五日轉權右中

正五位下同謙光 廿四 十二月十五日轉任

右少辨　同　同光祖 八月七日補藏人十日拜賀從事廿六日正五上十月二日轉左少

同　同謙光 十月三日任十七日拜賀從事十二月十五轉左少

入道正五位下光世男、實入道從三位實長卿末子、

元文六七廿九誕生、寛延元十二廿六叙爵、八、寶暦九五十五改公圭、元公英、同十五廿七爲光世男、八十三元服昇殿左兵衞佐、從五上十二廿六改謙光、同十四二八正五下、廿四、

從五位上同資矩 九 十二月十五日任後十二月十六日拜賀從事

權中納言資枝卿男、

寶暦六八十二誕生、同八正五叙爵、三、同十三三十廿八元服昇殿侍從、八、十二十九從五上、

明和二年 乙酉

左大辨　正四位下藤俊臣 廿六 藏人頭正月五日正四上六月廿八日參木（于時如元）八月廿六拜賀着陣廿八日直衣

右大辨　從四位上同光豫 卅 正月十日正四下

左中辨　正五位上同伊光 卅一 藏人右衞門權佐檢非違使造興福寺長官六月廿八日從四下藏人頭（長官如元）卅拜賀從事八月一從四上十二月十九正四下

右中辨　同　同光房 廿 左衞門權佐檢非違使六月廿八還補藏人卅日拜賀從事

權右中辨同　同光祖 廿 藏人八月一日兼右衞門權佐檢非違使十日拜賀

左少辨　正五位下同謙光 廿五

右少辨　從五位上同資矩 十 五月十九正五下

明和三年 丙戌

左大辨　正四位上藤俊臣 廿七 參木二月五日從三位十二月十九日兼近江權守
右大辨　正四位下同光豫 卅一
左中辨　同　同伊光 廿二 藏人頭造興福寺長官正月五日正四上
右中辨　正五位上同光房 廿一 藏人左衛門權佐檢非違使
權右中辨同　同光祖 廿一 藏人右衛門權佐檢非違使
左少辨　正五位下同謙光 廿六
右少辨　同　同資矩 十一

明和四年丁亥

左大辨　從三位　藤俊臣 廿八 參木近江權守
右大辨　正四位下同光豫 卅二
左中辨　正四位上同伊光 廿三 藏人頭造興福寺長官
右中辨　正五位上同光房 廿二 藏人左衛門權佐檢非違使六月四日改紀光
權右中辨同　同光祖 廿二 藏人右衛門權佐檢非違使
左少辨　正五位下同謙光 廿七
右少辨　同　同資矩 十二

明和五年戊子

左大辨　從三位　藤俊臣 廿九 參木近江權守十二月四日任權中納言（于時去之勞十四年）
正四位上同伊光 廿四 十二月四日轉任今日參木（長官如元）拜賀着陣同十六日直衣

右大辨　正四位下同光豫 卅三 三月十四日從三位去辨（于時去之勞十一年）
正三位　同宗美 廿九 三月十四日任元參木五月廿九拜賀九月十五日任權中納言
前權大納言宗長卿男、
元文五十十二誕生、寬保三六廿八敍爵、四、延享三十二廿四侍從、七、同四十二廿六從五上、寬延二六四元服昇殿、同三九廿四正五下、十二廿四左權少將、同四二八拜賀、寶曆二正廿二從四下、同四正廿六從四上、五一右權中將、廿一拜賀、同六三廿七正四下、十七、同九五十六服解、母、七九除服出仕復任、同十一二十九藏人頭、昨日宣、廿二、廿二禁色、同日拜賀從事、四四正四上、同十二正廿八從三位、廿三、同十三二十三參木、廿四、四廿四右權中將、八九拜賀着陣、同十四正十直衣、明和十一十一改宗美、元宗濟、
正四位上同伊光　九月廿日轉任同廿五拜賀從事十二月四日轉左大
正三位　菅世長 廿九 十二月四日任
入道前權大納言家長卿男、
元文五十一廿七誕生、延享二八廿二給穀倉院學問料、同五五廿一元服昇殿、同日文章得業生、九十八課試、廿九獻策、十月二日從五下侍從、寬延

三正五從五上、同四六八正五下、父朝臣御侍讀賞、寶曆三正廿八文章博士、同四正五從四下、同七三九從四上、十月廿八少納言、侍從博士如故、十一八拜賀、同十三十九大內記、十二廿六正四下、同十三十二十九從三位、博士如元、明和二十二十九式部大輔、廿九拜賀、同五正九正三位、去五分、

左中辨　正四位上藤伊光 廿四 藏人頭造興福寺長官九月廿日右大辨

從四位下同紀光 廿三 九月廿日轉任今日補藏人頭從四下廿五日拜賀從事十一從四上廿日正四下

右中辨　正五位上同紀光 藏人左衞門權佐檢非違使九月廿日轉左中

同　同光祖 廿三 九月廿日轉任(藏人權佐使大進等如故)

權右中辨同　同光祖 藏人右衞門權佐檢非違使二月十九兼春宮大進九月廿日轉正

左少辨　正五位下同謙光 廿八 九月廿日補藏人同廿五禁色拜賀從事十一正五上

右少辨　同　同資矩 十三 十月一日正五上(去廿經逸同日分)

權右少辨同　同經逸 廿二 九月廿日藏人春宮權大進同日正五上同廿五拜賀從事十月一日兼補左衞門權佐檢非違使同拜賀

故藏人權右中辨敬明男、實弟、

寬延元十六誕生、寶曆八四廿四當家相續、六廿敍爵、十一歲、同九六十五元服昇殿、侍從、同十三十二十九從五上、明和元十廿二補藏人、廿八禁色從事、明和二五十九正五下、同五二十九兼春宮權大進、

明和六年己丑

左大辨　正四位上藤伊光 廿五 三木造興福寺長官正月十四日從三位八月十九日任權中納言(于時去之十二年)

同　同紀光 廿四 八月廿日轉任同廿二日拜賀

右大辨　正三位　菅世長 卅

左中辨　正四位下藤紀光 藏人頭正月五日正四上八月廿日轉左大

正五位上同光祖 廿四 八月廿日轉任兼官如故

右中辨　同　同光祖 藏人右衞門權佐檢非違使春宮大進八月十九日爲造興福寺長官

同　同資矩 八月廿日轉任同廿二拜賀

權右中辨同　同經逸 廿二 八月廿日轉任(權佐使權大進等如元)九廿九拜賀從事

左少辨　同　同謙光 廿九 藏人

右少辨　同　同資矩 八月廿日轉右中

正五位下同篤長 廿一 八月廿日任

前權大納言規長卿男、

寬延二五三誕生、同四十二廿二敍爵、三、寶曆十二十十改訓、以阿津奈賀爲嘉壽奈賀、明和元後十二廿五元服昇殿侍從從五上、十六歲、同四二十六正五下、十九歲、

權右少辨正五位上同經逸 藏人左衞門權佐檢非違使春宮權大進八月廿日轉權右中

明和七年庚寅　十一月廿四日受禪、

左大辨　正四位上藤紀光 廿五 藏人頭十一月廿四日補新帝藏人頭同日拜賀從事

右大辨　正三位　菅世長 卅一

左中辨　正五位上藤光祖 廿五 藏人右衞門權佐檢非違使造興福寺長官春宮大進十一月廿四日補新帝藏人同日爲院判官代年預同日拜賀從事同日止大進十一月七日補藏人同日兼補左衞門權佐檢非違使同十日拜賀從事同廿四日新帝藏人同日拜賀從事

右中辨　同　同資矩 十五

權右中辨同　同經逸 廿三 藏人左衞門權佐檢非違使春宮權大進十一月七日從四下去藏人同日辭權佐使權大進等十二月十三日除服出仕同十九日從四上

左少辨　同　同謙光 卅 藏人十一月七日兼春宮權大進十一十拜賀同廿四日新帝藏人同日拜賀從事同日止權大進

右少辨　正五位下同篤長 廿二

後桃園院

明和八年辛卯　四月廿八日卽位、十一月十九日大嘗會、

左大辨　正四位上藤紀光 廿六 藏人頭十二月四日任參木（大辨如元）同十八日拜賀同廿二日直衣

右大辨　正三位　菅世長 卅二

左中辨　正五位上藤光祖 廿六 藏人造興福寺長官十月三日從四下（去藏人）同日辭右衞門權佐檢非違使院判官代等（長官如元）

右中辨　同　同資矩 十六 藏人左衞門權佐檢非違使正月十日

權右中辨從四位上同經逸 廿四 正四下

左少辨　正五位上同謙光 卅一 藏人五月九日兼皇太后宮大進同日拜賀七月九日止大進九月十三日爲氏院別當同日兼補右衞門權佐爲院判官代十八日拜賀從事

右少辨　正五位下同篤長 廿三 十月三日補藏人同八日禁色同日拜賀從事十二月十一日正五上

明和九年壬辰　十一月十六日改元安永、

左大辨　正四位上藤紀光 廿七 參木三月廿日從三位十一月十八日任權中納言正月一日着陣

　同　同光祖 廿七 十一月十八日轉任藏人頭

右大辨　正三位　菅世長 卅三

左中辨　從四位下藤光祖 造興福寺長官二月十四日補藏人頭從四上（止長官）同十九日拜賀從事五月十五日正四下九月十三日正四上十一月十八日轉左大

　從四位上同資矩 十七 十一月十八日轉任藏人頭十二月十九日正四下

右中辨　正五位上同資矩 藏人二月十四日從四下補藏人頭同十九日拜賀從事五月十五日從四上十一月十八日轉左中

　正四位下同經逸 廿五 十一月十八日轉任

權右中辨同　同經逸 十一月十八日轉正

　正五位上同謙光 卅二 十一月十八日轉任（藏人權佐使判官代等如元）

左少辨　同　同謙光 藏人右衞門權佐檢非違使院判官代十一月十八日轉權右中

同　同篤長廿四 十一月十八日轉任（藏人權佐使長官等如元）十二月十九日止長官

右少辨 同　同篤長 藏人二月十四日兼補左衛門權佐檢非違使同十九日拜賀從事十一月十八日轉左少

正五位下同賴熙廿三 十一月十八日任元藏人侍從十二月十九日爲造興福寺長官

前權大納言賴要卿男、（實前權中納言代長卿二男、）

寬延三誕生、明和二九十三叙爵、十六、爲賴要卿子、十二十九改名賴熙、元榮行、同三二十七元服昇殿侍從從五上、十七、同五服解、實母、十一卅除服出仕復任、同七正五正五下、廿一、同八八十八禁色、同九二十四補藏人、廿三、十九日拜賀從事、

安永二年癸巳

左大辨 正四位上藤光祖廿八 藏人頭

右大辨 正三位 菅世長卅四

左中辨 正四位下藤資矩十八 藏人頭正月五日正四上

右中辨 同　同經逸廿六 三月二日正四上

位資矩上

權右中辨正五位上同謙長卅三 藏人右衛門權佐檢非違使院判官代

左少辨 同　同篤長廿五 藏人左衛門權佐檢非違使

右少辨 正五位下同賴熙廿四 藏人造興福寺長官

安永三年甲午

左大辨 正四位上藤光祖廿九 藏人頭

右大辨 正三位 菅世長卅五

左中辨 正四位上藤資矩十九 藏人頭

右中辨 同　同經逸廿七

權右中辨正五位上同謙光卅四 藏人右衛門權佐檢非違使院判官代

左少辨 同　同篤長廿六 藏人左衛門權佐檢非違使

右少辨 正五位下同賴熙廿五 藏人造興福寺長官

安永四年乙未

左大辨 正四位上藤光祖卅 藏人頭後十二月二日任參木（大辨如元）同六日拜賀着陣同廿五日辭兩官

同　同資矩廿 後十二月廿五日轉任

右大辨 正三位 菅世長卅五 四月十三日任參木去辨

正四位上藤資矩 四月十三日轉任同十六日拜賀從事後十二月廿五日轉左大

同　同經逸廿八 後十二月廿五日轉任同廿八日拜賀從事

左中辨 同　同資矩 藏人頭四月十三日轉右大

同　同經逸 四月十三日轉任同十六日拜賀從事後十二月二日補藏人頭同六日拜賀從事同廿五日轉右大

從四位下同謙光卅五 後十二月廿五日轉任

右中辨 正四位上同經逸 四月十三日轉左中

正五位上同謙光　四月十三日轉任九月廿六日從四下（去藏人權佐使判官代氏院別當等）後十二月廿五日轉左中

同　同篤長廿七　後十二月廿五日轉任

權右中辨同　同謙光　藏人右衛門權佐檢非違使院判官代正月七日爲氏院別當四月十三日轉正

同　同篤長　四月十三日轉任同十六日拜賀從事後十二月廿五日轉正

左少辨　同　同篤長　藏人左衛門權佐檢非違使正月七日辭氏院別當四月十三日轉權右中

正五位下同賴熈廿六　四月十三日轉任同十六日拜賀九月廿六日爲院判官代爲氏院別當十月一日拜賀九日兼補右衛門權佐檢非違使十一日拜賀十一月廿五日正五上

權左少辨正五位上同兼貫廿一　後十二月廿五日任元藏人兵部大輔（去大輔）同廿八拜賀從事

故右大辨資興朝臣男、

寶曆五十三誕生、同九正五敍爵、五、同十三五十九元服昇殿太宰少貳、九、同年十二二十九從五上、同十四二八任兵部大輔、明和四二十六正五下、十三、同八五九兼皇太后宮權大進、十七、同年七五止大進、同九四廿六服解、母、同年六十七除服出仕復任、安永四九廿六補藏人、廿一、同日拜賀從事、同年十一廿五正五上、

右少辨　正五位下同賴熈　藏人造興福寺長官四月十三日轉左少（長官如元）

同　同俊親十九　四月十四日任同廿四日拜賀從事十一廿正五上

入道前權中納言俊逸卿男、

寶曆七誕生、同十七廿七敍爵、四、明和元九廿六元服昇殿侍從、八、同二正十從五上、九、同六正九正五下、十三、

安永五年丙申

左大辨　正四位上藤資矩廿一　藏人頭

右大辨　同　同經逸廿九　藏人頭

左中辨　從四位下同謙光卅六

右中辨　正五位上同篤長廿八　藏人左衛門權佐檢非違使正月十四日爲氏院別當

左少辨　同　同賴熈廿七　藏人右衛門權佐檢非違使造興福寺長官院判官代正月十四日辭氏院別當

權左少辨同　位賴熈上　同兼貫廿二　藏人

右少辨　同　同俊親廿

安永六年丁酉

左大辨　正四位上藤資矩廿二　藏人頭

右大辨　同　同經逸卅　藏人頭

左中辨　從四位下同謙光卅七　六月十六日從四上

右中辨　正五位上同篤長廿九　藏人左衞門權佐檢非違使

左少辨　同　同賴熙廿八　藏人右衞門權佐檢非違使造興福寺長官院判官代

權左少辨同（位賴熙上）　同兼貫廿三　藏人

右少辨　同　同俊親廿一

安永七年戊戌

左大辨　正四位上藤資矩廿三　藏人頭正月十日任參木（大辨如元）同十三日拜賀同十四直衣同十六日着陣同十九日從三位

右大辨　同　同經逸卅一　藏人頭

左中辨　從四位上同謙光卅八　二月三日正四下

右中辨　正五位上同篤長卅　藏人左衞門權佐檢非違使正月十日從四下補藏人頭同十三日拜賀從事同廿五日從四上二月十八日正四下

左少辨　同　同賴熙廿九　藏人右衞門權佐檢非違使造興福寺長官院判官代

權左少辨同　同兼貫廿四　藏人正月十日從四下（去藏人）二月三日從四上

右少辨　同　同俊親　正月十日補藏人兼左衞門權佐補檢非違使同十三日禁色拜賀從事

安永八年己亥　十一月九日天皇崩、同月廿五日新帝踐祚、

左大辨　從三位　藤資矩廿四　參木五月四日任左衞門督使別當去大辨

正四位上同經逸卅二　五月四日轉任同日任參木同日拜賀同六日着陣

右大辨　同　同經逸　藏人頭五月四日轉左大

同　同篤長卅一　五月四日轉任

左中辨　正四位下同謙光卅九　五月四日正四上六月二日服解（實父）七月廿三日除服出仕復任

權左中辨同　同兼貫　五月四日轉任同日拜賀十一月廿五日改勝貫

右中辨　同　同篤長　藏人頭正月五日正四上三月八日辭氏院別當五月四日轉右大

正五位上同賴熙卅　五月四日轉任（藏人長官權佐使等如元）同日拜賀從事

左少辨　同　同賴熙　藏人右衞門權佐檢非違使造興福寺長官院判官代五月四日轉右中

同　同俊親　五月四日轉任（藏人權佐使等如元）同日拜賀從事

權左少辨從四位上同兼貫　三月十九日正四下五月四日轉權左中

右少辨　正五位上同俊親　藏人左衞門權佐檢非違使三月八日爲氏院別當五月四日轉左少

同　同文房　五月四日任元藏人侍從同日拜賀從事

前權大納言政房卿男、（實前權中納言時行卿末子、）

光格天皇〔原本無今補之〕

安永九　安永十天明元　天明二　同三　同四　同
五　同六　同七　同八　同九　同十　同十一
同十二　同十三享和元　同二

當今〔光格天皇〕

安永九年庚子

左大辨　正四位上藤經逸廿三　參木正月十三日從三位
右大辨　同　同篤長廿二　藏人頭七月十九日爲氏院別當
左中辨　同　同謙光四十
權左中辨正四位下同勝貫廿六
右中辨　正五位上同賴熈廿一　藏人造興福寺長官右衛門權佐檢非違使院判官代
左少辨　同　同俊親廿四　藏人左衛門權佐檢非違使
右少辨　同　同文房廿二　藏人七月十九日辭氏院別當

安永十年辛丑　四月二日改元天明、

左大辨　從三位　藤經逸廿四　參木十一月廿六日任權中納言
正四位上同篤長廿三　參木(辨如元)十二月十三日轉任同十四日任同十六日拜賀着陣
右大辨　同　同篤長　藏人頭十二月十三日轉左大
同　同謙光四十一　十二月十三日轉任皇太后宮亮如元三月十五日兼皇太后宮亮〔册命日〕同日拜賀十二月十三日轉右大
左中辨　同　同謙光
正五位上同賴熈廿二　十二月十三日轉任〔長官權佐使等如元〕同十四日從四下補藏人頭〔長官如元〕同十六日拜賀從事同十九日從四上
權左中辨正四位下同勝貫廿七　九月十五日正四上同十六日卒
右中辨　正五位上同賴熈　藏人造興福寺長官右衛門權佐檢非違使院判官代十二月十三日轉左中
同　同俊親廿五　十二月十三日轉任〔權佐使等如元〕同日拜賀從事
權右中辨同　同文房廿三　十二月十三日轉任大進如元同十四日兼右衛門權佐檢非違使同日爲院判官代同十六日拜賀從事
左少辨　同　同俊親　藏人左衛門權佐檢非違使十二月十三日轉右中
正五位下同祠定廿　十二月十三日轉任同十四日補藏人同十五日禁色同十六日拜賀從事同十九日正五上
右少辨　正五位上同文房　藏人三月十五日皇太后宮大進同日拜賀十二月十三日轉權右中
正五位下同良顯十七　十二月十四日任〔皇太后宮權大進如元〕元侍從同十六日拜賀同十七日從事
權中納言經逸卿男、
明和二十二十五誕生、同六十二十八叙爵、五、安永三十一廿七元服昇殿從五上、十、同四四十四侍

從、十一、同五二十五正五下、二十二、同十三十五皇太后
宮權大進、兼、卅命日、同日拜賀、
權右少辨正五位下同䂓定廿 九月廿八日任元侍從十月十四日拜賀十二月十三日轉左少
前權中納言益房卿男、母神祇權大副兼雄卿女、
寶曆十二閏四廿五誕生、同十四正五敍爵、三、明
和六三五元服昇殿從五上、八、同七九三喪母、同
年十廿四除服出仕、明和八正十侍從、十、安永元八
廿五正五下、十一、

天明二年壬寅
左大辨　正四位上藤篤長卅四 參木正月十八日直衣二月七日從三位
右大辨　正四位上同謙光四十二 皇太后宮亮二月廿四日拜賀五月八日從三位
正三位　菅爲俊四十二 六月八日兼任元式部大輔八月廿八日拜賀
故前權中納言爲成卿男、母故前權中納言總長卿女、
元文六三卅誕生、寬延二十二廿四賜穀倉院學問
料、九、寶曆三八廿七元服昇殿、同日文章得業生、
十三、同年九八課試、同月十七從五下、同日侍從、同
五正五從五上、十五、同八正五正五下、十八、同九十廿
二服解、父、同年十二廿四除服出仕復任、同十一
正十二從四下、廿一、去五分、同十三五十七式部權大輔、
廿三、同年十二十九少納言、權大輔如元、明和元正七拜賀、
同年八七兼侍從、廿四、同年十十七兼文章博士、同
月廿兼大內記、同年後十二十九從四上、去正十分、同四
正九正四下、廿七、同年十二十九辭博士、同五二十
九兼東宮學士、同七十一廿四止學士、受禪日、同七十
一廿七從三位、卅、安永二正廿五式部大輔、卅三、同
年八五正三位、同七五八改名爲俊、元爲璞、
左中辨　從四位上藤賴熙卅三 藏人頭造興福寺長官正月五日正四下同月十四日正四上五月廿日兼皇太后亮七月廿四日辭神宮辨
右中辨　正五位上同俊親廿六 藏人左衞門權佐檢非違使七月廿四日辭賀茂下上社奉行
權右中辨同　同文房廿四 藏人皇太后宮大進右衞門權佐檢非違使院判官代七月廿五日爲神宮辨幷賀茂下上社奉行同日止御祈奉行
左少辨　同　同䂓定廿一 藏人七月廿五日爲御祈奉行
右少辨　正五位下同良顯十八 皇太后宮權大進二月十七日正五上

天明三年癸卯
左大辨　從三位　藤篤長卅五 參木十二月廿二日服解(父卿)
右大辨　正三位　菅爲俊四十三 式部大輔五月八日辭兩官同日薨
正四位上藤賴熙卅四 六月十日轉任(亮長官如元)同月十四日拜賀從事十月十二日止亮(因院號)十一月廿八日服解(實父卿)

左中辨　同　同頼熈　藏人頭皇太后宮亮造興福寺長官六月十日轉右大

正五位上同俊親 廿七　六月十日轉任（權佐使如元）同月十四日拜賀從事

右中辨　同　同俊親　藏人左衞門權佐檢非違使五月廿七日爲御祈奉行六月十日轉左中

同　同文房 廿五　六月十日轉任（權佐使大進如元）同月十六日辭氏院別當七月十七日辭藏人辨大進權佐使等同日卒

同　同祠定 廿二　七月廿日轉任同日兼右衞門權佐補檢非違使同月廿四日拜賀十月十二日止神宮辨廿五日辭氏院別當

權右中辨同　同文房　藏人皇太后宮大進右衞門權佐檢非違使院判官代五月廿七日免神宮辨六月十日轉右中

同　同祠定　六月十日轉任同月十四日拜賀從事同月十六日爲氏院別當七月廿日轉右中

左少辨　同　同祠定 廿二　藏人五月廿七日爲神宮辨免御祈奉行六月十日轉權右中

同　同良顯 十九　六月十日轉任（權大進如元）同月十四日拜賀從事七月廿日補藏人轉皇太后宮大進同月廿五日禁色同月廿八日拜賀從事十月十二日止大進（因院號）十二月廿二日爲神宮辨同日爲氏院別當

右少辨　同　同良顯　六月十日轉左少皇太后宮權大進

正五位下同勝陳 十四　六月十二日任（元侍從）七月廿日兼皇太后宮權大進十月十二日止權大進（因院號）十二月廿五日拜賀從事

權大納言伊光卿男、母圖書頭源繼高朝臣女、

明和七十十五誕生、安永三正五叙爵、五、于時兼陳、同四五十五元服昇殿、同日侍從、六、同五正九從五上、七、同年十二廿五禁色、同七正五正五下、九、同八十一廿五改名勝陳、天明二八卅服解、母、同年十月廿一除服出仕復任、

權右少辨正五位下同均光 十二　七月廿日任元侍從十二月廿五日拜賀從事

前權大納言紀光卿男、母故權大納言顯道卿女、

明和九六八誕生、安永三正五叙爵、三、同六五十四元服昇殿、同日侍從 從五上、六、同七正五正五下、七、

天明四年 甲辰

左大辨　從三位　藤篤長 卅六　參木後正十三除服復任

右大辨　正四位上同頼熈 卅五　藏人頭造興福寺長官正月十九日除服復任

左中辨　正五位上同俊親 廿八　藏人左衞門權佐檢非違使院判官代七月七日爲氏院別當

右中辨　同　同祠定 廿三　藏人右衞門權佐檢非違使七月六日爲神宮辨

左少辨　同　同良顯 廿　藏人七月六日辭神宮辨氏院別當等

右少辨　正五位下同勝陳 十五　正月十三日改名胤定

權右少辨同　同均光 十三

天明五年 乙巳

左大辨　從三位　藤篤長 卅七 參木正月五日正三位十二月六日任權中納言

正四位上同頼熙 廿六 十二月十日轉任（元右大）時參木

右大辨　同　同頼熙 藏人頭造興福寺長官八月十七日任參木（大辨長官如元）九月廿五日拜賀同廿六日聽直衣十二月十日轉左大

正三位　菅益良 卅九 十二月廿六日任勘解由長官如元同廿八日拜賀

故前權大納言綱忠卿男、母故從二位廣仲卿女、

（實故准大臣勝胤卿二男、實母故年人正藤正幸女、）

延享四三十誕生、寶暦元十二廿二叙爵、五歳、時名保資、明和二正五爲綱忠卿養子、十九、同月十返上位記、同月廿五賜穀倉院學問料、同年二廿六元服昇殿、同日補文章得業生、同月卅改名益良、同年三四賜課試宣旨、同月十獻策、同月十一任叙侍從從五位下、同年十二二十九兼文章博士、同四正九叙從五位上、廿一、同五二二十九兼東宮學士、博士如元、立坊日、廿二、同日拜賀、同六正九叙正五位下、廿三、同七十一廿四止學士、受禪日、廿四、同日爲院判官代、同月廿八兼大內記、侍從博士如元、同八三廿四叙從四位下、廿五、同年五十九御書始、尙復、安永三正五叙從四位上、廿八、同四五十八任少納言、侍從大內記如元、去十六日分、同年六十七拜賀、同年十一九辭少納言、同日服解、母、同年十二廿九除服出仕復任、同五正九叙正四位下、卅、推叙、同七後七四叙從三位、卅二、同年八九任勘解由長官、同年十一廿四拜賀、同十正十二叙正三位、卅五、天明元六廿六喪父、同年八九喪實父、同年九卅除服出仕復任、同三九五喪實母、同年十二二十三除服出仕復任、

左中辨　正五位上藤俊親 廿九 藏人左衞門權佐檢非違使院判官代正月廿一日辭賀茂下上社奉行御祈奉行氏院別當等八月十七日叙從四位下補藏人頭同日拜賀從事同廿三日叙從四位上同廿八日宿仕始十二月六日叙正四位下

右中辨　同　同昶定 廿四 藏人右衞門權佐檢非違使正月廿一日爲氏院別當八月廿二爲院判官代年預同廿六日拜賀

左少辨　同　同良顯 廿一 藏人正月二十日爲賀茂下上社奉行御祈奉行等八月廿九日兼左衞門權佐補檢非違使九月十三日拜賀十二月廿八日辭賀茂下上社奉行御祈奉行等

右少辨　正五位下同胤定 十六 八月十七日補藏人同日拜賀同二十日從事十二月六日叙正五位上十二月廿八日爲賀茂下上社奉行御祈奉行等

權右少辨同　同均光 十四

天明六年 丙午

左大辨　正四位上藤頼熙 卅七 參木造興福寺長官正月十六日拜賀二月十七日叙從三位同廿五日兼勘解由長官同卅日拜賀著陣

右大辨　正三位　菅益良 四十　勘解由長官二月十七日任式部大輔
　　　　正四位上藤俊親 卅　二月廿五日轉任同卅日拜賀從事九月十八日爲神宮奉行後十月廿一日辭神宮奉行
左中辨　正四位下同俊親　藏人頭正月八日敍正四位上二月廿五日轉右大
　　　　正五位上同祀定 廿五　二月廿五日轉任權佐使等如元同卅日拜賀從事五月十二日辭神宮辨氏院別當等（去十日分）八月廿四日爲神宮辨九月十八日辭神宮辨閏十月廿一日爲神宮辨
右中辨　同　同祀定　藏人右衛門權佐檢非違使院判官代二月廿五日轉左中
　　　　同　同良顯 廿二　二月廿五日轉任（左衛門權佐檢非違使等如元）同卅日拜賀從事五月十二日爲神宮辨氏院別當等（去十日分）七月廿二日辭神宮辨十月三日爲賀茂下上社幷御祈奉行
權右中辨同　同胤定 十七　二月廿五日轉任同廿七日拜賀從事十一月三日辭賀茂下上社奉行幷御祈奉行等
左少辨　同　同良顯　藏人左衛門權佐檢非違使二月廿五日轉右中
　　　　正五位下同均光 十五　二月廿五日轉任
右少辨　正五位上同胤定　藏人二月廿五日轉權右中
　　　　正五位下同宣家　二月卅日任（元侍從）三月十五日拜賀從事
　　　　故前權中納言俊臣卿男、母家女房、
　　明和二九廿七誕生、同八六廿七敍爵、七、安永六十一廿八元服昇殿、十三、同日敍從五位上、同七閏七五任侍從、十四、天明三正十三敍正五位下、十九、
權右少辨正五位下同均光　二月廿五日轉左少

天明七年丁未
左大辨　從三位　藤賴熙 卅八　參木勘解由長官造興福寺長官五月廿六日兼丹波權守（小除目）同日拜賀
右大辨　正四位上同俊親 卅二　藏人頭三月三日爲大嘗會奉行十月十三日辭大嘗會奉行
左中辨　正五位上同祀定 廿六　藏人右衛門權佐檢非違使院判官代四月廿八日爲大嘗會悠紀行事八月十五日辭神宮辨悠紀行事十二月十九日爲神宮辨
右中辨　同　同良顯 廿三　藏人左衛門權佐檢非違使三月一日去氏院別當（依長者辭退）四月廿七日辭御祈奉行同廿八日爲大嘗主基行事八月十五日爲神宮辨九月十五日辭神宮辨主基行事賀茂奉行等十月廿二日爲御祈奉行
權右中辨同　同胤定 十八　藏人三月一日爲氏院別當四月廿七日爲御祈奉行九月十六日爲大嘗主基行事同日免御祈奉行同日爲神宮辨賀茂社奉行等十二月十九日辭神宮辨
左少辨　正五位下同均光 十六　八月十五日爲大嘗會悠紀行事
右少辨　同　同宣家 廿三

天明八年戊申
左大辨　從三位　藤賴熙 卅九　參木勘解由長官丹波權守造興福寺長官

右大辨　正四位上同俊親 廿二 藏人頭
左中辨　正五位上同䘏定 廿七 藏人右衛門權佐檢非違使院判官代
右中辨　同　同良顯 廿四 藏人左衛門權佐檢非違使正月廿六日爲賀茂社奉行氏院別當五月廿二日辭賀茂社奉行御祈奉行氏院別當等
權右中辨同　同胤定 十九 藏人正月廿六日辭賀茂社奉行氏院別當等五月廿二日爲氏院別當同廿三日爲賀茂社奉行御祈奉行等
左少辨　正五位下同均光 十七
右少辨　同　同宣家 廿四

天明九年己酉　正月廿五日改元寬政、

左大辨　從三位　藤賴熙 四十 參木勘解由長官丹波權守造興福寺長官正月十日叙正三位五月廿二日任權中納言
正四位上同俊親 卅三 五月廿二日轉任(右大)同日拜賀同廿六日聽直衣十二月一日叙從三位
右大辨　同　同俊親 藏人頭五月廿二日任參議轉左大
正三位　菅在熙 卅三 五月廿二日任同日拜賀十二月十九日聽直衣(侍讀賞)
前權大納言在家卿男、母甲斐守源長貞女、
寶曆七十一廿八誕生、明和二十二二十九賜穀倉院學問料、明和三三廿八元服昇殿、補文章得業生、十、同年五廿賜課試宣旨、同月廿六獻策、同月廿七叙爵、同五正九叙從五位上、十二、同年三八喪母、同年四廿九除服出仕、同六八廿任侍從、十三、同七正廿九叙正五位下、十四、同九正九叙從四位下、十六、安永四正九叙從四位上、十九、同年五廿六兼文章博士、同七六五任少納言、侍從如元、廿二、同月十五拜賀、同年閏七五兼大內記、侍從博士如元、同八正十一叙正四位下、去五日宣、廿三、天明二十二二十爲侍讀、廿二叙從三位、博士如元、廿六、同五十二廿六任式部權大輔、廿九、同六正十六拜賀、同年二十七叙正三位、去正十四宣、

左中辨　正五位上藤䘏定 廿八 藏人右衛門權佐檢非違使院判官代年預五月廿二日補藏人頭叙從四位下爲造興福寺長官同日拜賀從事同廿六日免神宮辨六月五日叙從四位上同廿八日叙正四位下閏六月十七日爲神宮辨十月十四日辭神宮辨
右中辨　同　同良顯 廿五 藏人左衛門權佐檢非違使五月廿二日補藏人頭叙從四位下同日拜賀從事六月五日叙從四位上同廿八日叙正四位下
權右中辨同　同胤定 廿 藏人五月廿二日兼左衛門權佐補檢非違使同日拜賀同廿四日爲院判官代年預同廿六日初著緋袍出仕同日爲神宮辨同廿七日辭御祈奉行六月二日拜賀(院司度)閏六月十七日辭神宮辨加茂下上社奉行氏院別當等
左少辨　正五位下同均光 十八 五月廿二日補藏人兼右衛門權佐補檢非違使聽禁色同廿七日拜賀從事同日爲御祈奉行六月廿八日叙正五位上閏六月十七日爲加茂下上社奉行氏院別當等

右少辨　同　同宣家 廿五 五月廿二日補藏人、聽禁色、同日拜賀、同廿七日從事、十月十四日爲神宮辨、十二月十九日叙正五位上

寛政二年庚戌

左大辨　從三位　藤俊親 卅四 參議
右大辨　正三位　菅在熙 卅四
左中辨　正四位下藤祀定 廿九 藏人頭、造興福寺長官、正月五日叙正四位上、同卅日爲神宮辭、二月十日止神宮辨、三月廿三日爲神宮辨、十二月廿四辭神宮辨
右中辨　同　同良顯 廿六 藏人頭、正月五日叙正四位上、八月十九日補院別當、同廿五日拜賀、十二月廿四日爲神宮辨
權右中辨正五位上同胤定 廿二 藏人左衞門權佐、檢非違使判官代
左少辨　同　同均光 十九 藏人右衞門權佐、檢非違使
右少辨　同　同宣家 廿六 藏人、正月卅日免神宮辨、十月廿日叙從四位下、去藏人、十二月廿五日辭右少辨(昨日宣)、同日卒
正五位上同賴壽 十四 十二月廿六日任、元侍從、同月廿八日拜賀從事
權中納言賴熙卿男、母
安永六九七誕生、七正五叙爵、二、六、天明二九廿八元服昇殿、六、同日叙從五位上、同年十二廿二任侍從、同四閏正十四叙五位下、寛政二十廿一補藏人、十四、同廿八聽直衣、同年十一三拜賀從事、同年十二十八叙正五位上、

寛政三年辛亥

左大辨　從三位　藤俊親 卅五 參議、十二月廿一日叙正三位
右大辨　正三位　菅在熙 卅五 九月廿九日服解(父卿)、十一月廿二日除服出仕復任
左中辨　正四位上藤祀定 卅 藏人頭、造興福寺長官
右中辨　同　同良顯 廿七 藏人頭、院別當
權右中辨正五位上同胤定 廿二 藏人左衞門權佐檢非違使、院判官代、年預
左少辨　同　同均光 廿 藏人右衞門權佐檢非違使、八月二十日去氏院別當(依長者辭退)
右少辨　同　同賴壽 十五 藏人、八月二十日爲氏院別當

寛政四年壬子

左大辨　正三位　藤俊親 卅六 參議、十月廿七日任權中納言
正四位上同祀定 卅一 十月廿七日轉任(元左中)參議、同日(造興福寺長官如元)同日拜賀着陣、同廿八日聽直衣
右大辨　正三位　菅在熙 卅六 十月廿七日任參議去之
正四位上藤良顯 廿八 十月廿七日轉任(元右中)參議、同日十一月廿七日拜賀着陣、同廿八日聽直衣
左中辨　同　同祀定 卅一 藏人頭、造興福寺長官、十月廿七日任參議、轉左大
從四位下同胤定 廿三 十月廿七日轉任(元權右中)藏人頭、同日、同日拜賀從事、十一月二日補院別當、同十三日拜賀、同廿三日叙從四位上、十二月二日叙正四位下

右中辨　正四位上同良顯 廿八 藏人頭院別當八月廿三日辭神宮辨十月廿七任參議轉右大

　正五位上同均光 廿一 十月廿七日轉任(元左少)同日拜賀從事十一月二日補院判官代年預同十三日拜賀

權右中辨同　同胤定 廿三 藏人左衛門權佐檢非違使院判官代年預八月廿三日爲神宮辨十月廿七日補藏人頭叙從四位下轉左中

同　同頼壽 十六 十月廿七日轉任(元右少)同日兼左衛門權佐補檢非違使同廿八日拜賀從事

左少辨　同　同均光 廿一 藏人右衛門權佐檢非違使八月廿三日辭賀茂下上社奉行御祈奉行等十月廿七日轉右中

　正五位下同延光 廿三 十月廿七日任(元勘解由次官)同日拜賀從事

故權左中辨勝貫朝臣男、母志水管原忠如女、實故前權大納言基康卿次男、母家女房、

明和八九廿六誕生、安永五十二二十九叙爵、九、時豐康、天明元九十六爲勝貫朝臣子、十一、同二十二二五元服聽昇殿、十二、同日任叙民部權少輔從五位上、同年十二廿二改名延光、同六正十四叙正五位下、十六、同年六八服解、母、七廿九除服出仕復任、同年九卅爲院判官代、同年十五拜賀、同九二七任勘解由次官、十九、

右少辨　正五位上同頼壽 十六 藏人八月廿三日爲御祈奉行賀茂下上社奉行等十月廿七日轉權右中

　正五位下同資董 廿一 十月廿七日任(元侍從)同日補藏人叙正五位上同日聽禁色拜賀從事

前權大納言光祖卿男、母家女房、

安永元九十五誕生、同三二正五叙爵、三、天明三六廿七元服聽昇殿、十二、同日叙從五位上、同日奏昇殿慶、同年八五任侍從、同六正十四叙正五位下、十五、

寛政五年 癸丑

左大辨　正四位上藤祠定 卅二 參議造興福寺長官正月五日叙從三位

右大辨　同　同良顯 廿九 參議十二月十九日叙從三位

左中辨　正四位下同胤定 廿四 藏人頭院別當正月五日叙正四位上

右中辨　正五位上同均光 廿二 藏人右衛門權佐檢非違使院判官代年預

權右中辨同　同頼壽 十七 藏人左衛門權佐檢非違使正月八日辭御祈奉行五月九日免賀茂社奉行氏院別當等

左少辨　正五位下同延光 廿三 院判官代

右少辨　正五位上同資董 廿二 藏人正月八日爲御祈奉行五月九日爲賀茂社奉行氏院別當等八月十一日辭賀茂社奉行御祈奉行氏院別當等同十二日爲賀茂社奉行御祈奉行氏院別當等

寛政六年 甲寅

左大辨　從三位　藤祠定 卅二 參議造興福寺長官

右大辨　同　同良顯 卅　參議藏人頭院別當三月七日兼中宮亮(立后日)同日拜賀七月七日止神宮辨(宮中觸穢)

左中辨　正四位上同胤定 廿五　藏人右衛門權佐檢非違使院判官代年預八月廿二日爲神宮辨并賀茂下上社奉行

右中辨　正五位上同均光 廿三　藏人左衛門權佐檢非違使八月廿二日爲御祈奉行氏院別當等十二月四日免同奉行同別當等

權右中辨同　同頼壽 十八　院判官代

左少辨　正五位下同延光 廿四　藏人三月七日兼中宮大進(立后日)同日拜賀八月廿一日辭御祈奉行賀茂奉行氏院別當等十二月四日爲御祈奉行氏院別當等

右少辨　正五位上同資董

寛政七年 乙卯

左大辨　從三位　藤祕定 卅四　參議造興福寺長官

右大辨　同　同良顯 卅一　參議十二月一日辭兩官同日薨

左中辨　正四位上同胤定 廿六　藏人頭中宮亮院別當

右中辨　正五位上同均光 廿四　藏人右衛門權佐檢非違使院判官代年預十一月卅日爲氏院別當十二月十二日止神宮辨(因宮中穢)

權右中辨同　同頼壽 十八　藏人左衛門權佐檢非違使

左少辨　正五位下同延光 卅五　院判官代

右少辨　正五位上同資董　藏人中宮大進十月廿二日更爲氏院別當十一月卅日免氏院別當

寛政八年 丙辰

左大辨　從三位　同祕定 卅五　參議造興福寺長官四月廿四日任權中納言去之

正四位上同胤定 廿七　四月廿四日轉任參議同日(中宮亮如元)五月十日拜賀著宣陽殿陣座等同月十一日聽直衣十一月廿八日敍從三位(亮如元)

右大辨　正四位上同胤定　二月十日轉任(元左中辨中宮亮如元)同月十三日拜賀從事四月廿四日任參議轉左大

正三位　菅福長 卅六　四月廿四日任(文章博士如元)五月廿七日拜賀

前權中納言胤長卿男、母故權中納言爲成卿女、

寶曆十一十十三誕生、安永二三二十七賜穀倉院學問料、十三、同年六五元服昇殿補文章得業生、同三三廿九獻策、同月卅爵、十四、同年九廿五侍從、同五正九從五位上、十六、同七正十正五位下、十八、同日院判官代、同月十四日拜賀、同九六十四從四位下、廿、天明二十二廿二少納言、侍從如元、廿二、同月卅拜賀、同三二二從四位上、廿三、同四正十六兼大內記、侍從如元、同五十二廿六文章博士、侍從內記等如元、同六二三正四位下、廿六、寛政元二二從三位、博士如元、廿九、同年五廿二式部權大輔、博士如元、同年六卅拜賀、同七二四正二位、正廿分、

左中辨　正四位上藤胤定　藏人頭中宮亮院別當二月十日轉右大

正五位上同均光　廿五　二月十日轉任（元右中權佐使等如元）四月廿四日叙從四位下補藏人頭兼造興福寺長官同日拜賀五月八日從事同月十日從四位上同十一日爲院別當同十七日拜賀同廿四日叙正四位下

右中辨　同　同均光　藏人右衞門權佐檢非違使院判官代年預二月一日爲神宮辨同月十日轉左中

同　同頼壽　廿　二月十日轉任（元權右中權佐使等如元）四月廿四日爲賀茂下上社奉行五月十一日補院判官代年預同月十七日拜賀

權右中辨同　同頼壽　藏人左衞門權佐檢非違使二月十日轉右中

正五位下同延光　廿六　二月十日轉任（元左少）同月廿八日拜賀從事

左少辨　同　同延光　院判官代二月十日轉權右中

正五位上同資董　廿五　二月十日轉任（元右少大進如元）四月廿四日兼右衞門權佐補檢非違使同日拜賀同廿八日初著緋袍出仕

右少辨　同　同資董　藏人中宮大進二月十日轉左少

正五位下同國長　廿六　二月十六日任（元侍從中宮權大進如元）同月廿八日拜賀從事四月廿四日補藏人叙正五位上聽禁色同日拜賀五月八日從事九月二日服解（母）十月廿三日除服出仕復任

權中納言篤長卿男、母家女房、

明和八九十誕生、天明四六廿七爵、十四、同五正廿八元服昇殿拜賀、十五、同年八十七侍從、同年九廿五拜賀、同七正廿五從五位上、十七、寛政二正廿八正五位下、廿、同六三七兼中宮權大進、立后日、廿四、

寛政九年丁巳

左大辨　從三位　藤胤定　廿八　參議中宮亮

右大辨　正三位　菅福長　卅七　文章博士

左中辨　正四位下藤均光　廿六　藏人頭造興福寺長官院別當正月四日叙正四位上三月廿一日辭神宮辨氏院別當等七月十四日爲神宮辨

右中辨　正五位上同頼壽　廿一　藏人左衞門權佐檢非違使院判官代年預三月廿一日爲神宮辨七月十四日辭神宮辨賀茂下上社奉行等

權右中辨正五位下同延光　廿七　院判官代

左少辨　正五位上同資董　廿六　藏人中宮大進右衞門權佐檢非違使三月廿一日爲氏院別當七月十四日爲賀茂下上社奉行

右少辨　同　同國長　廿七　藏人中宮權大進

寛政十年戊午

左大辨　從三位　藤胤定　廿九　參議中宮亮五月一日任權中納言去之

正四位上同均光　廿七　五月七日轉任（造興福寺長官如元）同月十日拜賀從事

右大辨　正三位　菅福長　卅八　文章博士

左中辨　正四位上藤均光　藏人頭造興福寺長官院別當二月十八日辭神宮辨五月七日轉左大

正五位上同賴壽廿二　五月七日轉任（元右中權佐使等如元）同月十三日敍從四位下補藏人頭兼中宮亮同十九日拜賀從事六月四日敍從四位上同廿七日敍正四位下

右中辨　同　同賴壽　藏人左衛門權佐檢非違使判官代年預二月十八日爲神宮辨五月七日轉左中

同　同資董廿七　五月七日轉任（元左少大進權佐使等如元）同十日拜賀從事院判官代五月十五日補藏人同十六日院判官代（如元爲年預）同廿五日聽禁色同日拜賀從事

權右中辨正五位下同延光廿八　七月廿二日敍正五位上

左少辨　正五位上同資董廿七　藏人中宮大進左衛門權佐檢非違使五月七日轉右中

同　同國長廿八　五月七日轉任（元右少權大進如元）同十三日兼左衛門權佐補檢非違使（權大進如元）同十九日拜賀從事

右少辨　同　同國長　藏人中宮權大進五月七日轉左少

正五位下同明光廿八　五月十三日任（元勘解由次官）六月三日拜賀從事

前參議謙光卿男、母故祐光朝臣女、

明和八八七誕生、安永四正五爵、五、天明四十二六元服昇殿、兵部權少輔從五位上、同日拜賀、十四、同七四七正五位下、十七、寬政四十廿七勘解由次官、廿二、同年十一十三拜賀、

寬政十一年己未

左大辨　正四位上藤均光廿八　藏人頭造興福寺長官院別當三月十六日任參議大辨賜兼字（長官如元）四月卅日聽直衣

右大辨　正三位　菅福長卅九　文章博士

左中辨　正四位下藤賴壽廿三　藏人頭中宮亮正月五日敍正四位上三月廿五日辭神宮辨

右中辨　正五位上同資董廿九　藏人中宮大進右衛門權佐檢非違使三月十六日補藏人頭敍從四位下同廿日拜賀從事同廿二日爲院別當四月五日敍從四位上五月八日敍正四位下

權右中辨同　同延光廿九　藏人院判官代年預三月十六日爲御祈奉行

左少辨　同　同國長廿九　藏人中宮權大進左衛門權佐檢非違使三月十六日轉大進同日爲賀茂下上社奉行同月廿五日爲神宮辨

右少辨　正五位下同明光廿九

寬政十二年庚申

左大辨　正四位上藤均光廿九　參議造興福寺長官正月四日服解（父）二月廿四日除服出仕復任

右大辨　正三位　菅福長四十　文章博士後四月廿八日任參議去之

正四位上藤賴壽廿四　五月七日轉任（元左中亮如元）同十三日拜賀從事

左中辨　同　同賴壽　藏人頭中宮亮五月七日轉右大

同　同資董廿九　五月七日轉任（元右中）同十三日拜賀從事八月廿七日爲賀茂下上社奉行十二月廿三日辭奉行

右中辨　正四位下同資董　藏人頭院別當正月五日敍正四位上四月廿三日爲神宮辨五月七日轉左中

正五位上同延光卅　五月七日轉任（元權右中）七月九日辭御祈奉行十月三日爲御祈奉行

權右中辨同　同延光　藏人院判官代年預　五月七日轉右中

同　同國長卅　五月七日轉任（元左少大進權佐使等如元）同十三日拜賀從事七月十日爲御祈奉行八月二十日辭賀茂下上社御祈等奉行　十二月廿三日爲同奉行

左少辨　同　同國長　藏人中宮大進左衛門權佐檢非違使四月五日免神宮辨五月七日轉權右中

正五位下同明光卅　五月七日轉任同十三日拜賀從事

右少辨　同　同明光　五月七日轉左少

同　同建房廿一　五月廿五日任（元侍從）六月廿七日拜賀從事

故右中辨文房男、母家女房、

安永九十一廿八誕生、天明二十二廿二爵、三、寬政三十二廿四元服昇殿從五位上、十二、同四十廿七侍從、十三、同六二十五正五位下、十五、去正五宣、

寬政十三年辛酉　二月五日爲享和元、

左大辨　正四位上藤均光卅　參議造興福寺長官二月廿三日敍從三位

右大辨　同　同賴壽廿五　藏人頭中宮亮

左中辨　同　同資董卅　藏人頭院別當神宮辨氏院別當十二月八日辭神宮辨氏院別當等同九日又爲氏院別當

右中辨　正五位上同延光卅一　藏人院判官代年預御祈奉行

權右中辨同　同國長卅一　藏人中宮大進左衛門權佐檢非違使賀茂下上社奉行十二月八日爲神宮辨

左少辨　正五位下同明光卅一

右少辨　同　同建房廿二　十一月廿六日服解（祖父因承重）

享和二年壬戌

左大辨　從三位　藤均光卅一　參議造興福寺長官

右大辨　正四位上同賴壽廿六　藏人頭中宮亮二月一日任參議（大辨亮等如元）三月八日拜賀同十日聽直衣

左中辨　同　同資董卅一　藏人頭院別當氏院別當十二月廿四日辭氏院別當

右中辨　正五位上同延光卅二　藏人院判官代年預御祈奉行二月十七日敍從四位下三月廿七日敍從四位上

權右中辨同　同國長卅二　藏人中宮大進左衛門佐檢非違使神宮辨賀茂下上社奉行二月十七日補藏人頭敍從四位下二月廿日免賀茂下上社奉行同廿二日拜賀從事三月六日敍從四位上（昨日宣）同廿七日敍正四位下十二月廿五日爲氏院別當

左少辨　正五位下同明光卅二　二月廿日補藏人兼中宮權大進爲賀茂下上社幷御祈奉行同廿四日聽禁色同日拜賀從事三月廿七日敍正五位上

右少辨　同　同建房廿三　正月十七日除服出仕復任二月廿日補藏人兼左衛門權佐補檢非違使同廿四日爲院判官代年預同卅日聽禁色同日拜賀從事三月廿七日敍正五位上

享和三年 癸亥

左大辨　從三位　藤均光 廿一 參議造興福寺長官

辨官補任終

新撰座主傳序

天台座主職者、貴種道德之任、而　敕裁之重職也、一宗之徒尊崇、而以爲台家之棟梁、實比叡山延暦寺三千之貫首、而管領天台一宗給、可謂古來當職威耀之盛不可擧論焉、嘗有座主傳、自初代至第八十七代、名曰華頂座主記、載職中政事頗爲一宗之龜鑑、自是以降則闕其傳、於是予竊集諸家之記錄、假立其次第補之、蓋天正乙酉年再興以後至今代、凡五十八世之間、只據我靑門歷代之諸記、私載雜事、然尙恐洩脫、庶幾有後人補焉、嗚呼往年依　德川大將軍家光公台命、新有起立一門、所謂輪王寺宮是也、(門蹟之起立在、)自爾以來、根本比叡山及日本國中台家之諸事總令管領給、殆如舊座主職、於玆无洩彼宮之指揮者、加之據準往昔寺家執事別當之古格、精撰寬永寺之僧侶兩口、更令加執當之稱號焉、不論本寺末寺一宗之僧徒、皆重令旨無不屬彼執當之膝下者、惜今猶雖被補任座主、而似有名無實、誠可悲哉、是偏隨時運勢無奈、故露柔和忍辱之　法界給者乎、我賤族雖非所可論、只密爲令覺知古今歷代、粗載其旨趣、後人觀察之矣、

文化八年仲春書於梅室北窓　　爲善

新撰座主傳第一

加賀守藤原爲善撰

第八十八　道玄僧正(青蓮院又十樂院、)　治山二年、

二條前攝政關白良實公第六男、母從二位原子、師主最守大僧正、

建治二年十一月廿五日補座主、(四十歲、戒廿八、)十一月朔日於十樂院請宣命、執當源全、同月四日補今宮護持僧、同月五日補禁裡護持僧、同月十七日始修長日如意輪法、同月廿五日二間初參、幷爲主上御元服御祈始修大威德法、同日爲仙洞御祈始修同法、

同三年(丁丑)正月十九日始修除目御修法、同月廿七日爲拜堂登山、

御行粧、

專當八人、維那六人、所司六人、房官四人、(恭祐、長順、奉禪、快增、)有職二人、(兵部卿仲助、中納言賴宣、)次三綱二人、(仁眞法橋、兼覺法眼、)次御車、(左大臣家牛諳御車、車副六人、牛童三人、)次御後、(智暹、)中童子二人、(乙石丸、年王丸、)大童子二人、(得壽丸、彌王丸、)列四人力者等、次扈從内大臣實擧法眼、(公親公息、)車、(舍兄三位中將車、)牛童三人、中童壹人、大童子一人、後騎一人等召具、

路次、

宮辻子北行、五條坊門西行、大和大路北行、四條東行、祇園中路北行、三條東行、今朱雀北行、

翌日社頭拜賀、

二月六日爲禁裏御疱瘡御祈、始修藥師法、○同月十日前唐院入堂開一箱、(内陣役敎禪僧都、)○三月廿三日任大僧正、(四十一歲、)○四月八日行初度戒、○七月十五日修仙洞長日不動法、(常磐井殿炎上之間、賊奉請御本尊於愛宕本坊、勤行之、炎魔天供之内、)○十月異國降伏十二社御祈之内日吉社分被修之、○十一月廿三日(三善康有記云、)爲日吉祭之間、守護勅使可全神事之由、依被下院宣、差遣門徒、問答之處、梨下日來立籠衆徒無左右放矢之間、不慮之外及合戰云々、先年不可有確執之由兩門進怠狀之處、今又及此惡行、兩門合戰之條甚以濫吹也、

弘安元年(戊寅)正月十四日辭大僧正、三月廿二日於仙洞尊勝陀羅尼供養勤御導師、四月朔日止座主幷門跡管領、籠居于西山、

第八十九　公豪前大僧正(林泉坊又毘沙門堂、)　治山四年、

左大臣實房公息、母中納言源國信卿息前越中守
某女、師主明禪法印、圓長僧正灌頂弟子、
弘安元年四月朔(ニイ)日補任座主、八十三歲、同五年月日辭座
主、

第九十　寂源僧正本覺院、號閑伽井僧正、　治山十箇月、
太政大臣良平公息、母　　、師主良禪僧正、
聖增僧正灌頂弟子、
弘安五年三月二日補任、五十六歲、于時執當仁惠、同年十
二月廿二日辭、其後不補之、同六年十二月十八日臨
時受戒、和上之事、座主未補之間、尊助親王有和上
宣下、

第九十一　尊助親王青蓮院、　治山
弘安七年九月廿七日還補、第三度、六十八歲、同十月十七日
於三條坊請宣命、于時執當兼覺、役僧綱公什法印執當
祿役于時執事、有職中納言實澄阿闍梨、寺家中次、左衛門督圓親
阿闍梨、坊官泰禪寺主、社家中次、宗舜寺主、寬祐都維那、
御簾役、十一月十六日爲拜堂登山、
御行粧
専當八人、維那六人、所司六人、坊官六人、有職
二人、三綱二人、御輿、上童、毘沙熊丸、僧綱三人、
先於南山坊受印鎰次拜堂、同八年七月廿一日大講
堂供養勤證誠、依此賞、追正應元年八月廿一日以
法眼泰救被叙法印也、同九年六月四日補護持僧、始
修長日如意輪法、寬源僧正辭退替、十月廿六日可被補四天王
寺別當被下院宣、十一月七日四天王寺別當宣下、同
月十四日辭座主、今度無上表之儀、任慈鎭和尙第三
度之例、以御使被申之、

第九十二　無品寂助親王圓融坊、　治山
御嵯峨院皇子、母隆衡卿女、師主　　、澄覺親
王灌頂弟子、
弘安九年十一月廿九日補任、三十四歲、于時重服、于時執當仁
譽、同十一年三月廿一日辭、

第九十三　慈實大僧正青蓮院又妙香院、　治山
東山禪定殿下道家公息、母少納言源重房女、師主
慈源僧正、
正應元年三月廿七日補、五十一歲、四月十日於三條白川
坊受宣命、中次賴賢祿公什法印、御簾役宗舜賴賢、寺家中次快爲阿闍梨、社家中次宗舜寺主、五月廿
五日補法務、八月廿八日爲拜堂登山自槇木野坊御
出門、
御車、八葉御榻鞦諸綱、御牛二頭、一頭一條殿一頭本所、御牛飼四人、

若法師丸若松丸著狩衣、松丸竹若丸著水干、御居箱、被入御車、御水瓶、御恪勤可持之、御
有之、手洗水可御鼻廣、可居御箱、御裏無可有用意之、御茵、雨皮張筵、御
笠、入袋恪勤持之、扈從左大臣公潤法印、西塔院主山階左府息、世間
僧綱中納言實言法眼、神人奉行、房官大夫經秀寺主、
經玄法眼弟子、中納言實榮、實言法眼舍弟、各下絬、兄弟共源大納言雅言卿猶子、已上
連車、御後侍、親昌、大童子長一人、同列五人、御
力者御恪勤等、
御路次、出門東行至出雲路、〻〻〻南行至大原
辻、〻〻〻東行至西坂本、則登山、先著無動寺、
於南山坊受印鎰、鎰二、(前唐院鎰、御經藏鎰、)則如例被渡於中常之長講云々、次拜
堂、
九月朔日前唐院入堂、同二年二月九日辭座主、

第九十四　無品慈助親王青蓮院、　治山一年、

御嵯峨院、　尊助親王入室、受法灌頂弟子、
正應二年三月十三四イ日補任座主、三十六歲、超越淨土寺慈
基僧正妙法院尊教僧正等、四月十三日宣命使登山、
同廿六日請宣命、祿公什法印、寺家申次隆伊僧都、
社家申次實詔、御簾役坊官泰尋良雅、○七月廿日始
修長日如意輪法、○八月三日爲拜堂登山、
供奉坊官十八人、大藏卿經寛、大夫寺主家什、民
部卿寺主兼快、助上座泰尋、辨都維那實紹、大
貳上座宗舜、少輔法眼泰榮、中納言法眼圓聰、
大進法眼泰禪、大夫法眼家耀、有職二人、大納
言眞助阿闍梨、大納言憲基已講、上童一人、幸藤丸、
御後一人定有法橋、扈從僧綱左大臣慈順法印、
路次、出御四足門南行、三條西行、萬里小路北
行、二條東行、御參內右衞門陣、御退出之時者、
富小路南行、二條西行、東洞院北行、一條東行、
出雲路北行、
同日拜堂、○同月五日前唐院入堂、
同三年庚寅二月廿九日後深草院御逆修法事曼荼羅供
御導師勤之、御宿所淨金剛院、
御出行列、御輿令至龜山殿惣門內給、僧綱御輿之
右ニ參テ召御履、門內於中門之外儲腰輿、官史生奉行之、於
門內召腰輿、於中門之下被召御草鞋、自中門莚道敷之、
同月十三四イ五イ日止座主、

第九十五　二品尊助親王青蓮院、　治山八箇月、

正應三年二月十六日還補、第四度、年七十四、
門葉御記云三月十三日還補、第四度、去二月十一日一
院後深草院御出家御戒師之御賞也、

同月廿四日於大成就院西廊請宣命、奉行泰榮法眼、寺家祿役公什法印、(于時執事、)取次寬祐都維那、申次實證僧都、社家申次宗舜寺主、御簾役寬祐經寬、九月御幸天王寺、(十月三日以法眼經祐被叙法印、依讓賜別當御賞也、)十月廿八日依病辭座主、(無拜堂、)十二月朔日子刻薨去、(年七十四歲、)

第九十六　無品慈助親王(青蓮院、)　治二年、

正應三年十一月廿七日還補座主、十二月十六日於粟田口御房請宣命、祿公尋法印、申次隆伊大僧都、

同四年(辛卯)八月朔日於常盤井殿爲法皇御重厄御祈、始修七佛藥師法、奉行藏人右少辨經守、御裝束御淨衣白生御裳、浮織物御平袈裟、

御行粧所司維那專當等如常、前駈八人、御後一人、(盛元已上步儀、)扈從僧綱祇園別當法印公尋、(手輿前駈二人、祇園專當等召具之、)結願被引御馬(上手殿上人、下手御隨身、)於西中門、前駈寬祐取之、賜御童子、次被引御布施、大阿闍梨御分一重、(浮織物龜甲、)帥卿取之、裏物爲雄朝臣取之、次定教卿以下五人次第ニ取番僧布施、其次々ハ殿上人取之、人數不足之所返鼻取之、奉行辨只一反末ニ取之、勸賞以行事僧經胤法眼令叙法印、

同五年(壬辰)十月朔日於禁中爲天變御祈、修如法北斗法、十二月勤　春宮歲末御修法、同月勤　仙洞御修法、

永仁元年三月廿二日於內裡、(二條富小路、)爲異國降伏御祈、始修大熾盛光法、奉行藏人左衞門權佐定資、行事僧大藏卿法印經胤、

御出次第、供奉人參集之後、申斜自三條御坊先入御於御宿所春日萬里小路玄輝門院御所、

先御力者前行、次御牛飼、次御車、次御童子、御力者退紅仕丁、次出世僧綱、次房官僧綱、次凡僧、已上自三條殿入御於御宿所次第也、

次御參次第、奉行人早參催促供奉人、次參集之後、先御力者取松明前行、次御童子二人取松明前行、

次前駈六人(以下﨟爲先、)

信快法眼　玄忠法眼　泰尋上座

寬祐寺主　聽任都維那　有紹都維那

次御輿、

次御後　定暹法橋取松明、

次御童子長　千滿丸取松明、

次御力者等、

次扈從僧綱、
公壽法印（前駈二人召具之、）
自右衛門陣入御於門外、御下輿、立石（内也、）御鼻荒役公壽法印、手長有紹、自棟門入御、（或云四足門、）經長橋殿上口、自西中門御參、脂燭殿上人有此所歟、
御裝束東海老染御袍、浮織物平袈裟、（文菊唐草、）寛圓僧正著香染法服同袈裟、
勸賞以前、權僧正良覺令任大僧正、五月廿日於內裡依御夢想、始修大威德法、六月七日東二條院御出家戒師、七月廿二日依御夢想、於仙洞始修如法北斗法、十二月廿二日於本坊、爲天變御祈、始修如法佛眼法、

第九十七　源惠前大僧正（本覺院、）　治八箇月、
征夷將軍大納言賴經卿男、　尊家法印受法灌頂、
正應五年九月四日（一本八月廿三日、）補座主、

第九十八　慈基前大僧正（金剛壽院、淨土寺、）　治山四年、
鷹司禪定殿下兼平公男、慈禪大僧正入室、
正應六年五月九日補任、于時執當兼覺、永仁四年十二月辭、

第九十九　尊教前大僧正（妙法院、）　治山三年、
冷泉太政大臣公相公男、尊惠權僧正入室、房全尊超等受法灌頂弟子、
永仁四年十二月廿一（十七イ）日補任、（四十九歲、）于時執當兼覺、

第百　無品良助親王（青蓮院、）　治山三年、
龜山院第七皇子、母三條局、（左中將實平朝臣女、）征夷大將軍宗尊親王猶子、尊助親王入室灌頂弟子、
正安元年四月廿三日補任、（三十三歲、）五月廿四日於禪林寺殿請宣命、申次靜寛法印、祿役公壽法印、八月八日爲拜堂登山、十二月廿日二間初參、同月廿一日爲主上御元服御祈、始修大威德法、
同二年二月廿七日御幸（後宇多院、）於日吉社、九月廿四日妙法院門跡管領之、爲敕使爲方卿參入被申之、十一月廿日仰本門跡管領之、十二月廿八日勤惣持院灌頂大阿闍梨、
同三年九月十日於仙洞、（萬里小路、）爲天變御祈、修七佛藥師法、
同四年　月　日辭座主、

第百一　道潤僧正（本覺院、竹林院、大御堂、）　治山一年、（六箇月イ）
二條入道關白良實公男、道玄准后、源惠僧正等弟

子、
正安四年五月十七日補任、三十七歲、
第百二　道玄前大僧正十樂院、青蓮院、　治山二年、
乾元二年四月廿二日還補、六十七歲、同日蒙准三宮宣旨、
嘉元々年十二月十四日准三宮宣下、同二年十一月
九日依病辭座主、十三日薨、六十八歲、
第百三　無品覺雲親王圓融坊、　治山七年、
龜山院第十二皇子、母左中將實平女、澄覺親王入
室灌頂、
嘉元三年四月四日補任、左大辨定資內々被申之云
云、慶長元年六月三日辭座主、依神輿入洛也、
第百四　公什前大僧正般若院、裏築地、　治山二年、
少將公有男、
正和二年正月十二日補任、橫川長吏兼帶云々、二月朔日於靑蓮
院三條坊請宣命、不遂拜堂、
同三年五月二日爲武家沙汰直奉改易座主職畢、仍
不遂拜堂拜賀、放初例歟云々、
第百五　無品慈道親王靑蓮院、十樂院、　治山三年、
龜山院第十七皇子、母帥典侍、兵部卿平時仲朝臣女、　道玄
准后瀉瓶弟子、
正和三年八月一日補任、三十三歲、同月廿九日於本坊三條坊、
受宣命、申次慈祐法印、祿役覺守法印、
同四年二月十八日補護持僧、三月十日於新院衣笠
殿三衣御傳授、同月廿三日始修長日如意輪法、四月
廿四日春宮御息所御帶加持、從今日始修藥師護摩、三七日以後被修供、　同月
廿六日始修水天供、第三日降雨、結願之日被叡感綸
旨、六月十一日拜堂登山、於大乘院受印鎰、同十二
日社頭拜賀、八月廿九日春宮御息所御產御祈修中
藥師法、十月廿九日於今小路殿、廣儀門院御受戒、
十二月廿日二間初參、同日於禁裡、爲彗星御祈、修
五壇法中壇、同五年六月十六日辭座主、
第百六　仁澄大僧正竹林院、　治山四箇月、
嵯峨入道將軍二品惟康親王男、
正和五年六月廿九日補任、同六年九月二日辭、
第百七　二品覺雲親王圓融坊、　治山二年、
正和六年改元文保、三月十一日還補、依新內裏安鎭法賞也、文保二年
十二月十二日上表辭座主、不及拜堂、
第百八　慈勝僧正淨土寺、　治山五年、
近衞殿榊尾關白家基公男、

文保二年十二月十四日補任、二イ

第百九　親源大僧正檀那坊、　治山九箇月、

大納言雅家卿男、

元亨三年三月廿三日補任、十二イ

第百十　澄助大僧正圓乘院、　治山一年、

一條太政大臣實家公男、

元亨三年十一月朔日補任、十本十二月十三日、同四年　月日辭座主護持僧、

第百十一　二品慈道親王靑蓮院、　治山一年、

元亨四年四月十一日還補、五月十一日於無動寺大乘院請宣命、申次慈祐法印、祿役行守法印、同月廿一日於本坊始修長日如意輪法、六月十九日爲法皇後宇多院御樂御祈、於大覺寺殿始修中樂師法、

十二月廿五日爲拜堂登山、先於大乘院受印鎰、御行粧、專當十人、維那六人、御居箱所司六人、三綱二人、御輿、有職二人、里僧綱一人、玄快、法橋、凡僧四人、玄永、祐範、宗深、寛增、御後一人、安昭、中大童子二人、慶王丸、春光丸、列大童子四人、御力者十三人、御格勤十人、扈從僧綱一人、祇園法印、

同月廿六日御拜社、

先鎰取二人、次二人、持幣帛、又一人、荷襖櫃、又一人相副、次專當八人、維那六人、御居箱、禪多持之、次所司六人、三綱二人、兼澄法橋、房仁、御輿、次僧綱一人、祇園法印、有職二人、里僧綱一人、凡僧四人、侍一人、中大童子二人、中間列大童子、力者格勤、退紅仕丁等、

同日於大宮拜殿執行、勅會結緣灌頂勤大阿闍梨、

正中二年乙丑閏正月於禁裏修樂師法、二月於禁中始修文殊八字法、二七日、五月七日辭座主、

第百十二　性守僧正妙法院、　治山十四箇日、

北山太政大臣實兼公男、

正中二年五月八日補任、三十九歲、同月廿一日遷化、不受宣命、不及拜堂、

第百十三　承覺親王二品イ壽量院、又西林院、又菩提院、　治山一年、

後宇多院第三皇子、母談天門院宰相忠繼卿女、尊忠權僧正入室、覺雲親王受法、

正中二年五月廿二日補任、去年六月廿五日後宇多院崩御、雖爲重服有此儀、十二月晦日拜堂拜賀、

同三年二月辭、

第百十四　承鎭親王無品イ圓融坊、　治山二年、

三位中將源彥仁王男、母內大臣藤原公親公女、後

宇多院御猶子、尊忠權僧正入室、承覺親王受法、
實承灌頂弟子、
正中三年二月廿五日二イ一本三月九日、補任、三月九日請宣
命、嘉曆二年正月十三日八瀨童子之事賜綸旨、
山城國八瀨庄住人等所被
免年貢也、得其意可有御下
知之旨、
天氣所候、以此旨可申入座主
宮給、仍執達如件、
正月十三日　右中將判
〆大納言僧都御房

第百十五　無イ二品慈道親王青蓮院、　治山二年、九箇月イ
嘉曆二年四月廿八日還補、第三度、五月十日請宣命、同
月十五日以石泉院僧都令補西塔院主職、座主令旨、九月
十一日於禁中爲御藥御祈、始修尊勝法、修中御平
愈、廿一日浴御也、件日僧事、依此賞以實鑑叙法印、
同月三十日於禁中始修北斗法、十月九日爲中宮御
產御祈、於京極殿始修金輪法、七ヶ日後被成護摩、十一月廿一
日爲同御祈始修藥師法、
同三年正月廿四日於禁中始修北斗法、五月六日爲
御瘧病御祈、於禁裏始修五壇法、中壇則御落居、勸
賞以慈什法印被任權僧正畢、十一月廿四日爲明年
御重厄御祈、於禁中始修尊勝法、十二月二日辭座
主、一本二年、辭護持僧、不及拜堂、

第百十六　無イ三品尊雲親王三イ圓融坊、　治山
後醍醐天皇第六皇子、母民部卿三位、大納言師親卿女、
承覺親王入室、承鎭親王受法、親源灌頂弟子、
嘉曆三年十二月六日補任、二イ二十歲、同四年二月辭、八イ

第百十七　桓守權僧正大イ實乘院、禪定坊、　治山九箇月、
洞院入道大相國公守公男、
嘉曆四年改元元德、二月十一日補任、四十六歲、同年十月八日
辭、

第百十八　二品イ尊雲親王圓融房、十イ　治山二年、
元德元年十二月廿四日還補、廿二歲、同二年三月廿六日
今上行幸後醍醐帝、於日吉社、同月廿七日行幸於山門、以
中堂北禮堂爲御祈、同日被遂行大講堂供養、兒願座主、導師妙法院尊澄親王、同日以座主宮叙二品、同月廿八日行幸于無
動寺、四月辭座主、

第百十九慈嚴法務權僧正大イ曼殊院善法院、　治山八箇月、

洞院左大臣實泰公男、
元德二年四月廿三日座主宣命、三十三歲、五月十五日拜
堂、十一月●日（廿二日イ）辭座主、

第百廿　三品（二イ）尊澄親王 始妙法院、　治山三年、（一イ）
後醍醐院第八（七イ）皇子、母從三位爲子、大納言爲世卿女、尊教
大僧正弟子、
元德二年十二月十四日（イナシ）補任、元弘元年八月廿九日
去山門行啓留山、九月止座主配流讚岐國、

第百廿一　二品（無イ）尊圓親王 青蓮院、　治山二年、
持明院第六（五イ）皇子、母永福門院播磨內侍、三善俊衡朝臣女、
慈深僧正入室、慈道親王受法、桓守僧正灌頂弟
子、
元弘元年十月廿五日補任、廿五歲、（三十四イ）去十二日先賜院宣、十一月十八
日宣命使少納言菅原高嗣登山、執當兼運僧都請取
之、十二月二日補護持僧、勅使藏人少納言平親名來
岡崎坊仰之、同月八日於岡崎坊受宣命、執當僧都兼運持參、寺
家中次賴尋阿闍梨、祿役綾被物一重、隆靜大僧都、鈍色五條袈裟、取
次御前中間承智法師、出納大童子、社家中次印祐、鈍色下括、御簾役泰有、道增、

正慶元年七月廿六日始修長日如意輪法、御登山後初度、八月
九日爲拜堂登山、先法華堂格子上之、又新造常行堂
北華堂兩堂本尊安置之、同十一日於大乘院受印鎰、
次被行政、執事桓豪法印、執當僧都兼運、三綱權都維那尊兼法橋、祿役僧綱賴尋律師、同日安置
中堂十二神將、講堂炎上之時奉取出之、日來爲堂務沙汰、先奉渡瑠璃壇畢、同日拜堂
拜社、同十二日前唐院入堂、幷開御經藏、先帝去々
年臨幸之時、所被召上之靈寶等、自仙洞給預之間、
開兩藏奉返納畢、同日受戒行之、淨土寺慈忠禪師登
壇、同廿五日蒙牛車宣旨、上卿帥中納言俊實卿、奉
行藏人左馬頭平親名、十月十八日於本坊、大乘院、爲御
祈行幸御祈、始修金輪法、

第百廿二　無品（三イ）尊胤親王 圓融坊、
後伏見院第四皇子、母治部卿局、承鎭法親王受
法、
正慶二年正月十四日補任座主、二月十二日請宣命、不及拜堂、執當兼運、六月依先帝還幸、止座主幷梨本梶井管領、
籠居于白豪院、

第百廿三　二品（イ）尊澄親王 妙法院、
元弘三年正慶二年也、六月自讚州歸洛、仍山務每事不可

達、元弘元年之儀、不及重宣下云々、建武元年六月
廿二日拜堂幷拜賀、
同三年正月十日（七イ）依尊氏（以下缺文）
同年二月廿四日賜八瀨駕輿丁等於　綸旨、
八瀨童子等年貢以下之事、
課役一向所被免許也、可被存
其旨者、
天氣如此、悉之、
建武三年二月廿四日　左少辨判

第百廿四　無品尊胤親王（圓融坊、）
建武三年十月（十二イ・十三日）還補、今月十三日以來如元爲座主、
更不及宣下云々、執當兼運、今年夏持明院法皇崩、
雖爲重服、還補被遂拜堂拜賀云々、

第百廿五　性（聖イ）慧前大僧正（本覺院、圓乘院、號大御堂、）　治山二年、
征夷將軍式部卿久明親王男、
曆應元年十二月六日（一本十九日、イ三年ニ載ス）補任、（此條イ百廿六代ニ載ス）同二年正月廿八（三イ）
日於十樂院殿請宣命、四月十九日日吉祭禮貫首、幷
十樂院殿以密儀構御棧敷御拜見、拜賀已前御見物
之初例也、十二月七（二イ）日辭退座主、

第百廿六　尊圓親王（二品イ）（青蓮院、）　治山三年、
曆應二年十月廿六日（十二月八日イ）還補、（四十二歲、）賜院宣、十一月朔日
座主宣下、同十三日宣命使少納言藤原信光登山、執
當兼運僧都、同十六日於岡崎坊請宣命（日次陰陽少允在茂擇申之、）當
日微雪降、自昨日御所裝束、寢殿三箇間垂翠簾、中
央一間懸釣丸、中央奧間敷繧繝端帖三枚、（二枚並敷其上、又敷一帖、）唐繪屛風一雙立廻之爲御座、西中門廊第二間迫
壁敷小文高麗端一枚爲執當座公卿座、後二箇間敷
同帖二枚爲所役僧綱有職等座、天王寺二品親王（私云慈道親王歟）（著御裟袋、）入御、慈靜大僧都參御車後、祐榮快尋參御共、兩
人同車、（鈍色、）次寺家皆參之後御出座、（著御香染法服平袈裟、持五古水精念珠、）
有職慈俊（資朝卿息、）敷座具、今一人公助（季敎朝臣息、）持居箱
置御座左邊、次申次定眞法印出對、作法如例、次御
簾役坊官二人（猷尊、經增、）參進、上中央間御簾、寺家申次參
進（與損）簾、前後之事先々次第、大旨先上簾次案內也、
今度則被載其由於次第了、然而今日寺家申次早速
申案內之間、其後上簾也、但此儀相叶道理也、非無
先規歟、慈能僧都曰、慈嚴僧正請宣命之時、經沙汰
如此令治定云々、次執當兼運僧都參進、獻宣命、即

退下、次寺家祿定熈法印取之、予長經聽寺家則退出、次所役坊官二人參進下御簾、次社家參賀、申次猷尊出對、其作法如例、申入事由之後、社家退出、今日參仕、

執當　權少僧都兼運、

三綱　權上座法眼兼澄、

　寺主法眼昌全、

　都維那法眼尊兼、

　都維那阿闍梨惠全、

社家　禰宜學昌、代宗德、

　小比叡禰宜成國、

明日臨時祭計會之間、祠官參賀人數不多云々、

參會人々

岡崎僧正、鈍色、　禪惠法印、付衣、

隆靜法印、鈍色、　定眞法印、同、

定熈法印、同、　隆曉大僧都、同、

慈能大僧都、付衣、　慈靜大僧都、鈍色、

桓　僧都、鈍色、青蓮院執事、祇園別當、

公助阿闍梨、　慈俊阿闍梨、同、

坊官

良增法眼、鈍色、御出奉行、經全法眼、衣袴、

印祐法眼、同、泰深法眼、鈍色、

泰春法橋、衣袴、泰成、付衣、猷尊、鈍色、下括、增胤、廳務、等身衣裳袈裟、

良舜、等身衣裳袈裟、玄舜、經聽、經增、已上鈍色下括、泰堯、等身衣、不著袈裟、

泰珍、祐榮、快尋、以上鈍色袈裟、上括

兒

瑚子丸、香璣丸、招杜羅丸、

賀々丸、明王丸、辰王丸、

御門徒

　三百人許、

門葉記曰、今日儀大王入御尤希有事也、雖當一日之壯觀、定爲萬代之美談歟、下御之時予雖可參會、今日爲貫長於職、猶可相似聊爾之間、所加斟酌也、仍僧正以下參向畢、大王於門前、北土門、税駕寄御車於北中妻戶下御也、

十二月廿二日於內裏土御門殿、爲修理鎭宅、修尊勝護摩、

同四年三月十一日移住十樂院、五月依公請始修水天供、依勸賞讓追八月十日以良俊令任權少僧都、六月四日征夷將軍權大納言尊氏卿以累代相傳之劔、

奉納日吉社、座主記錄相副納之、同月十八日申賜池
上慈應和尙諡號、今度天王寺別當被補道昭准后之
闕、爲被宥山門欝訴也、(今年四月四天王寺別當親王薨替也、)
八月十五日爲拜堂登山、先上法華堂格子、十六日於
大乘院請印鎰行政、(五箇度、)
初度注記英澄、(杉本坊務也、香海法印弟子、光澄已講眞弟、兼學已入壇、)
立義請所司、轉任中堂執行小寺主准業勾當行事
等被補之、
十七日拜堂、
以此次立改中堂十二神將畢、先度山務正慶安置
之後、建武二年尊澄親王山務之時被立改、其後天
下變革不可然之間、如元又立改了、
次入堂前唐院、內陣役法性寺座主俊禪僧正、今夜
常行堂念佛結願著座、十八日授戒尊道親王、道
聖、良慧等、同日社頭拜賀、十二月十八日辭座主、
令讓補於祐助親王給、

第百廿七　無品祐助親王(桂林院、靑蓮院、)　治山三年、(尊聞イ)
後二條院第三皇子、母中納言公泰卿女、良助親王
入室、慈道親王受法灌頂弟子、良助慈助兩親王受
法、
曆應四年(辛巳)十二月十九日補任、(四十三歲、)同五年二月十
三日補護持僧、康永三年(二イ)(癸未)十二月廿五日拜堂登山、
同三年閏二月辭座主、

第百廿八　無品承胤親王(圓融坊、梨本、)　治山三年、
後伏見院第八皇子、母實明卿女、尊胤親王弟子、
康永三年閏二月廿三日(三月二日イ)(一本三月三日、)補任、同四年五月(四月三日イ)
拜堂、貞和二年(丙戌)(二品イ)(八月十日イ)　月　日辭之、

第百廿九　亮性親王(妙法院、)　治山二年、
後伏見院第九皇子、母實明卿女、性守僧正弟子、
貞和二年八月十七日補任、十二月●(廿一日イ)拜堂、同三年八
月辭之、

第百三十　二品尊胤親王(圓融坊、)(五イ)　治山
貞和三年八月廿五日還補、同四年八月廿一日拜堂、
觀應元年七月●(廿四日イ)辭之、

第百三十一　二品尊圓親王(靑蓮院、)　治山
觀應元年(庚寅)七月廿日(廿四日イ)還補院宣、(第三度、五十三歲、)
天台座主之事
宣下之間、且可有御存知之由、
御氣色所候也、以此旨可令洩申

靑蓮院宮給、仍執達如件、

七月廿日　　宣明

大納言法印御房

同月廿四日座主宣下、上卿源大納言通冬卿、奉行藏人頭右大辨仲房朝臣、少内記盛宣、同月晦日爲地震御祈、於仙洞、持明院殿、始修七佛藥師法、八月七日結願御受戒、御布施錦横皮懸松打枝、自簾中押出之、予時今出川三位中將公直卿直衣下結、取之、置和上前退下、次隆壽法印參進、撤御布施畢、八月十六日宣命使少納言菅原長綱朝臣登山、執當法印兼澄請取之云々、未尅事訖之由執當馳申之、昨日御訪千疋今朝輿幷力者十二人、人夫少々召遣之云々、十月十四日始修長日如意輪法當代初度於本坊修之、

同二年三月廿七日於十樂院受宣命、去年秋以來、山上嗷々、天下又忽々、仍所及延引也云々、

宣命曰、

天皇我詔止止山中乃法師等爾白止佐陪宣勅命乎白久佐、二品尊圓法親王者、智德高照志、年臈相長留勢上爾、慈覺大師乃門徒度志眞言止觀乃業乎兼習利、剩稟天潢之餘流豆、久住台岳之幽溪利勢、故是座主二品尊胤法親胤王乃辭退乃替爾、座主爾重豆治賜布事乎白止佐陪宣勅命乎白、

觀應元年七月廿四日

當日早旦御所裝束、寢殿中央間鋪疊三枚、二枚並敷、一枚重敷之、所役僧綱有職以障子上、雖儲其所、未作之間、以二棟西二間爲其所、南妻戸可開之、西第二箇間御簾可撤之、准殿上故也、高麗端小文二枚角違敷之、所役房官等候御分座、中門廊第三間、寄西壁敷高麗緣小文一枚、爲執當座、中門北妻戸外引幔一帖、祿長櫃可儲其内、廳下部相副也、尅限所役僧綱房官等參集、次寺官參勤、次奉行人皆參之由可申入案内、次出御、赤色袍裳、金襴平袈裟、持水晶念珠、持仵著御草鞋、自西御二間僧綱可開北御障子、御著座以前御草座敷之、御居箱左並也、有職圓顯退下、次御簾坊官二人泰能、泰桓、自東杉障子進出、上階前御簾、上臈可進西、下臈可留東、上畢、經本路退下、次申次經公卿座西椽、從南妻戸前沓脫、下庭上、對執當立、執當兼證法印揖之、申次答揖、然後登自沓脫、入中門南妻戸、經東椽參御前蹲踞、隨御眼路、經本路降自南切妻、於中門下對執當揖之、執當答揖之、後申次自切妻板登、經廊、於南妻戸

經西椽、可候本座、次執當登自切妻、經大床進參
御前、於大床脫草鞋、膝行進宣命、次執當經本路
退下、此時僧綱隆靜法印、入中門廊北妻戶、於執當座前
大床或中門廊、賜祿、御中門取被物、於西椽傳坊官泰恒、泰恒取之、入自北妻戶、於中門廊傳僧綱隆靜法印退
下、　次執當賜祿退出、雖被儲其座不著也、次垂御簾、役人如前、次社
司列參、申次房官、次第如前、但申入後降立、出自中門、
於砌下揖社家、歸登自西沓脫、經本路歸入、次入
御、所役有職如前、
今日參仕、三綱幷所司六人、社家四人、交名兼證
法印、兼快法眼、惠全法眼、快全法橋、
所司六人、不知交名、
社家四人、禰宜長繁、代宗德、
神主成國、代成藤、方執行行親代、小比叡禰宜成
時、衆徒群參二百七十餘人、
今度第三度也、度々經歷之上、依世上機嫌、每事
不副儼儀、如門徒曾不及相催者也、
日記勘出、安倍朝臣有俊、宣命式、良增法印作進、
僧綱有職等執事催之、坊官以下良增法印催之、
同月廿八日爲一院御祈、於持明院殿始修文殊八字
法、十一月奉授十八道於主上、同月十一日止座主、

北朝敗北之間依南朝沙汰也、
第百三十二　慈嚴前大僧正曼殊院イ善法院、
觀應二年十一月十二月十七日イ還補、一本二月、同三年六月止座主、
第百三十三　二品尊圓親王青蓮院、
觀應二年文和元年壬辰、六月廿六日一本九日、又十九日、可爲座主如元
之由、賜廣儀門院宣云々、
依天下一同法也、一本云北朝空位新不及宣命、於茲
不加代數云々、
十月十一日上表辭座主、不及拜堂、
第百三十三本ノマ、　二品尊胤親王圓融坊、　治山四年、九イ
文和元年十月十四日還補、同四年五月辭之、四年五月薨云々、薨、一本延文
第百三十四　無品尊道親王青蓮院、　治山四年、
後伏見院第十一五イ皇子、母入道大納言實明卿女、尊
圓親王瀉瓶弟子、廿五イ
文和四年十月三十日補任、年廿四、戒十五、十一月宣命使登
山、御訪千疋被沙汰遣也、同月九日座主令旨、
日吉社諸座神人幷寄人等奉行大進法眼泰春
感神院別當職　雲林院法印

社家申沙汰人　宰相法印
自山申沙汰人　伊豫法眼
西塔院主職　太政大臣新法印
寺家執當　法眼尊兼
宋人奉行　出雲前司
宣命日次勘文　陰陽少允賀茂在茂

十二月廿五日於十樂院寢殿、受宣命、執當法眼尊兼持參之、

延文元年五月廿五日日吉社大般若料所之事、被仰遣於佐渡導譽入道許之狀云、

日吉社大般若轉讀料所、丹波國今林庄正末名間事、尊兼法眼狀副社頭集會事書具書、如此、子細見于狀候歟、

座主宮　令旨所候也、恐々謹言、

五月廿五日　法眼泰春

謹上佐渡大夫判官入道殿

九月廿三日逢喪、師主二品親王爲座主、當職不及籠居、十月廿三日補護持僧、尊胤親王辭退替、十一月廿七日被渡修長日如意輪法、

同三年三月廿八日如修除目御修法、

六月檢封阿闍梨職解文云、

延暦寺前唐院

請特蒙　天恩、因准先例、以無品尊道親王被補當院檢封阿闍梨職狀、

右謹考舊貫、當院　奉納之法文聖敎道具寶物等者、慈覺大師自斯那國所將來也、是檢封阿闍梨　職以降提渕量而令擧之、下法旨而被授之、　朝家之恒規天台之固實也、爰彼大王銀漢流□酌三密之智浪、瓊樹花芳傳四曼之惠薰、依多生之宗因列大師之遺弟、專守先規所致上奏也、望請　天恩因准先例、以無品尊道親王被補當院檢校阿闍梨職者、令致經藏之守護、仍勤事狀謹請處分、

延文三年六月

出納　權大僧都法眼和尚位專玄
法印大和尚位權大僧都慈俊
預　法印大和尚位權大僧都定照
檢校
別當　法印大和尚位權大僧都尋慶

僧正法印大和尙位光惠
僧正法印大和尙位弟什
僧正法印大和尙位恒豪
權僧正法印大和尙位信嚴
權僧正法印大和尙位隆壽
權僧正法印大和尙位慈能
權僧正法印大和尙位恒覺

勾當

法印大和尙位權大僧都隆靜

同月廿七日被補檢封阿闍梨、

獻上

宣旨

延曆寺前唐院申請特蒙

天恩、因准先例、以無品尊道親王

被補當院檢封阿闍梨職事、(副本解、)

仰依請、

六月廿七日　左權中將隆家奉

右宣旨早可令下知給之狀如件、

謹上三條中納言殿

同月廿九日爲拜堂登山、次拜社、(或去廿八日從十樂院御出、)

泰恒法眼記云京都供奉人扈從僧綱一人隆靜法印(大童子長一人(白張如木)同列二人、(布狩衣)力者四人、恪勤二人、牛飼二人、(狩衣水干)仕丁(白張、唐笠持)從僧(略之)意趣如何、(不可然也、))房官僧綱一人、泰恒法眼(于時御出奉行鈍色裳袈裟、大紋指貫大童子二人、(布狩衣)力者三人、恪勤一人、中間二人、(直垂)牛飼二人、(狩衣水干)仕丁、(白張、唐笠持、))房官九、僧三人、泰祐、泰辨、懷春、(各鈍色裳袈裟、指貫、大童子一人、(布狩衣)力者二人、恪勤一人、中間二人、但泰辨□中間一人、童子一人(直垂)、牛飼一人(狩衣)、仕丁、(白張))已上僧綱乘車、(後車五兩也、)御後侍一人全親、(鈍色裳袈裟指貫、郎等二人、(水干上下同物也、折烏帽子カケ赤革)童一人(水干下ハイス袴スソコ也)當色四人(直垂文遠雁)力者一人仕丁、)已上里僧綱、凡僧、御後鼻荒尻各用意也、隨所著用□騎馬時此外舍人各可有也、(爲後注之、)僮僕皆著藁履、中大童子一人寶光丸、(白張柳裏綾紅單沓襪(白革)、床子敷皮(付裏)、郎等二人(立烏帽子花田布水干下ハ白葛袴ハリウラ文ヒ扇)童一人、(葛袴スソコタボナリ畫ナカク秋、)當色二人(直垂文ヒ扇)今度水干上下同色ナルベシ、カイソヘ舍人略之、各二人可有之、爲後日注之、)御前中間、(持香箱、持居箱、已上火チケス、□鈍色裳袈裟、)列大童子四人、(布狩衣、)力者十三人、恪勤十二人、(三人著□白衣法師□衣皮方盤石法師)四和上ヒ法師二人、(青子□虎著合持御鼻荒未兩人御手洗御定故、、)八瀨十四人、(各可著狩衣、少少著直垂也、不可然、)牛飼三人、毘伽羅、(狩衣萌黄、)普賢、(同ヒハタ、)孫正、(水干裾ナハ切、下ハ長絹□遣手御榻、)

一山上所役、御政內拜堂、

隆靜法印(祿役、手長坊官、)

有職二人、(貞俊、　)印鎰、草座、居箱、

蟲損

侍一人、安宗、祿事取集、
中童子一人、竹壽、染裝束、韈（染革、）沓、於一座取酌、
中間二人、善智禪祐也、明壽祿取繼、
祇園所司、御政之時役送所司陪膳等兼之、堂衆兼日催之、

一前唐院、
脂燭役人、隆靜法印、法服平袈裟、山［　］兼帶也、別人被略之、

一御授戒、
説淨師　扈從兼帶　隆靜法印、法服衲橫皮、持香呂、
羯磨師　　尋念法印、裝束等同前、
敎授師　　敎祐法印、裝束等同前、
唄師
著衣師
六弟子　已上寺家兼催之、八學頭役御留主兼日催之、不居筥香呂箱等、道具持之奉隨者也、
此外受者有職、沙彌用意也、

一御拜賀
奉幣役人隆靜法印、鈍色裳袈裟、役送房官、
祿役同法印、惣官寺家兩人祿取之、自餘有職取之、

一御裝束可有御用意條々、
御鈍色　御袈裟、有文、香五帖、　生御裳、　御表袴、
御大帷、　御赤大口、
京都　坂間
御袍、夏無御裏、赤色文小葵、　御裳、打裳板引也、
御單、綾文菊菱、只袙同也、　御平袈裟、金襴、
衲袈裟、　御念殊、皆水晶、
御檜扇、赤色、　御韈

一御道具
御居箱、在三衣袋、　御香召[illegible]
如意、　御草座、
御座具、　御紐、
御手洗、　御水瓶、
御旱笠、　御革韈、
御鼻荒、　御戒鉢、
御戒表白、　檢符宣旨、前唐院分、
封紙三、二御名、一御判、　御拜堂御諷誦、講堂、中堂、前唐院、
前唐院名香、可有御懷中、

一御出方
御車、　御牛、
御鞦、　御遣綱、

御榻、　御雨皮張筵、有棹結布、
御唐笠、有袋、　御手輿、
御綱、　御輿笠、袋アリ、
同御雨皮、　油單、
御前板、　御辛櫃、
長櫃三合、
懸牛、　人夫、
松明、　召馬、

一御授戒受者御用意條々、
三衣、有袋略箱、　鉢、入加三衣袋、
居箱、　戒牒、
座具、　御袍、黑色、但依人、
打裳、　平袈裟、
大帷、　單、或袙、依時、
檜扇、　鼻高、
草鞋、　韈、
表袴、　小大口、
御登山料灑御鈍色、　五帖袈裟、地顯文紗、
有職一人、　沙彌一人、

一前唐院御用意條々、
檢封宣旨、一［蟲損］
名香、可有御懷中、　紙燭、長講用意、
［蟲損］

御諷誦案、菅三品長保御草、(一本長綱)清書桓信、
中堂、
前唐院、
講堂、今度未作之間、無御參堂、仍不及御諷誦、

中堂御諷誦、
敬白
請諷誦事
三寶衆僧御布施五十端
右天台山者　聖曆延曆達造、仁祠、草創年舊、佛法王法護持之靈地、蕃昌日新、誠是賢聖之所遊化、顯密之所恢弘也、爰出從帝枝帝葉之芳胤、雖勵山修山學之　仰才器殊兮匪用、獨耻潔瓶之智惠炬挑兮頒分、猥掌重機之名、已昇三千淨侶之貫首、偏仰十二願王之慈心履冰之懼涉

日而已、方今林鐘欲暮之天、枝幹相應之日、專抽底露之新誠、初政中堂之難訪、蓋遵舊典率由威儀、先彼金商揚秋分之韻、擲其自越叩景致之賁、伏願常住諸尊諸社善神、鑒魯愚之志、加衞護之力、台嶺風靜遙契樗多梨耶下生之曉會、法水波□、久伴桃源蘭谿 上壽之昔流、乃至 法界平等利益、仍所修如件敬白、

延文三年六月　日

佛子座主阿闍梨尊道親王敬白

御誦經導師咒願等布施、可被儲中堂後戸、被添行事侍也、

前唐院御諷誦、

敬白

請諷誦事、

三寶衆僧御布施麻布三十端、

右諷誦所修如件、

延文三年六月　日

弟子阿闍梨尊道親王敬白

同日入堂前唐院、（内陣役隆靜法印、）今日被行授戒、受者仁惠禪師、（桂林院宮同宿也、小川師跡相續之器也、）

七月廿（廿一イ）日上座主職辭表、（長綱卿草、）以執事隆靜法印表箱持參於殿上、

請被罷延曆寺座主職狀、

石尊道言就日本之叡岳先照一光極維陽之東開天台教門遙伴四明於中堂下三千淨侶之才各、僞中而必詣貫、百十餘輩之先蹤非儀未而皆蒙名容先鰍爰洋行之功獨踈器識之譽未顯猥掌、山繁機之職偏耻宗室庸瑣之質懷冰之懼匪不取、就中當職恩助之　宣下者滿山群訴之最中也兼有神輿之動座不堪心緒之恐怖縱逐運命之涼煩無得訪壖之時子適爲當日之祭禮雖去暫時皈幸卒然之儀者心不叶即今七社皈座立無山神靈之感應一山靜謐卿依衆徒之欝訴爲神爲國不可不悅然間卽遂拜堂拜社之儀專凝敬佛敬神之餘偏以涯分之微力不忘門賁之果跡加之被淨嚴重、芝、詔令補檢封阿闍梨之職忽開天台之一箱然知往代之重寶雖多座主補任之輩此之希有也倩思門跡相續之儀良爲嘉摸乎己帶小、數箇之祟久展重任四廻之序不敢之責無物干喩仍挹謙流於荊溪之秋水荐暮休居持梧岫之

夕雲伏羨玄鑒曲藂丹欵縦在機務也辭遁宜祈寶祚之延長不時懇篤之至修伏以聞尊道誠惶誠恐謹言
延文三年七月日延暦寺座主尊道親王上啓、
此御辭表檀紙ヲ高サ一尺一寸ニ切テ、行忠淸書入表函、上ヲ高檀紙ニ裹ヲ付、職事被進之、可然僧綱持參之、今度隆靜法印持參內裏、其次第綵素同事也云々、
僧綱著鈍色、內裏ヘ持參シテ殿上ノ口ニ儲テ、職事出合ヲ待ホドハ、此表函ヲ大童子ニ持テ職事殿上ノ口ヘ下合時、此函ヲ取テ渡職事、畢テ不聞御左右退出畢、
翌日如元ニテ被返辭表、猶可有御山務之由勅書ニテ別被申畢、
御辭表不收之時ハ如元ニテ被返之、收之時ハ表狀ヲハ被止テ、禮紙許ヲ函ニ入テ函ヲハ被返云々、
後日再三被辭申之間、十二月廿九日以桓豪僧正被補之也、

第百三十五　桓豪僧正（實乘院、禪定房、）　治山三年、（四イ）
洞院右大臣實泰公男、
延文三年十二月廿九日補任、（八イ）于時執當尊兼、

第百三十六　二品承胤親王（無イ）（梨本、）
康安元年十二月（十三日イ）還補、（一本云、二年二月八日任、）貞治元年（二イ）九月廿日辭、（不被遂拜堂拜賀云々、）

第百三十七　無品恒鎮親王（梨本、）
龜山院御猶子、常盤井中務卿恒明親王男、承鎮親王弟子、
貞治元年九月廿一日（九月五日イ）補任、同二年四月七日請宣命、
同四年月日辭、

第百三十八　二品尊道親王　治山十二年、
貞治四年九月八日還補、十二月廿五日請宣命、執當尊兼法印持參之、
同五年四月廿四日於內裡爲疫疾流行御祈、始修尊勝法、修中廿七日陀羅尼祕眞言等有御傳授事、○十二月廿三日於內裡爲修理鎭宅、修祕法、助修十二口、尊玄僧正勤護摩畢、
同六年二月十九日御笙（御遊御所作料、）加持進之、○三月廿九日御笙二管（太子丸二千石、）又加持進之、（中殿御會御遊御所作料云々、）○同日始修如法五種行、明年四月六日相當舊院（後伏見院、）三十

三同、引上而修之、○五月九日於禁中始修廻北斗法、當御代此御修法再興之、○七月廿一日始修水天供、(十壇內)、修中降雨、有叡感綸旨、○十一月十八日爲將軍病祈、於本坊修冥道供、(三箇夜)、同廿日結願日施主子息義滿爲代官參聽聞、○同月廿七日爲同祈、依勅定修尊勝護摩、同月晦日有露地祕密事、是大樹病惱爲吉凶被修畢、有希有事、又有靈夢事等、

應安元年正月廿九日、(貞治七年)、於仙洞(室町殿)、修鎭宅御修法、助修八口、修中二月三日爲御加持、參菊亭御所畢、○二月八日始修除目御修法、○三月六日御笙二管(太子丸、二千石)、加持進之、(御遊御所作料)、○五月三日令移修長日如意輪法、(尊什大僧正辭退之替)、○同月十四日蒙牛車宣旨、上卿三條大納言實音卿、奉行藏人右中辨宣方云々、則日申慶、幷二間初參、又爲持星御祈、於禁中始修七佛藥師法、助修廿口、護摩壇隆壽大僧正也、同廿一日結願、有後加持御參、(伴僧各著袍裳平袈裟、用草鞋、如例)、其後被仰勸賞、(藏人頭公時朝臣)、以道尋任權大僧都、又被寄置阿闍梨二口於西山靑龍院畢、○七月廿三日內々獻座主辭狀、是依南禪寺事、去月廿七日大衆拂當職、依山上嗷々也、同二年四月神輿入洛、○廿八日移住守慶僧正大谷之坊、依神輿入洛可赴邊鄙之由、衆徒申之、仍本坊不可然之故也、且是先規也云々、○九月三日座主可爲如元之由被仰下、勅使藏人右中辨宣方、○十二月廿五日爲御拜堂登山、廿七日拜堂、前唐院內陣役出納亮忠法眼、今夜被行臨時受戒、御受者妙法院亮仁親王、大御堂道惠禪師、淨土寺慈辨禪師等、已上三人也、○廿八日拜賀、

同三年四月朔日爲御重厄御祈、於禁中始修帝釋供、(一月中修之)、○廿二日爲同御祈、於禁中始修如法佛眼法、助修十六口之內、護摩慈濟僧正也、○六月廿五日以能登國衙、被付御祈料所賜之、○廿七日依降伏、爲宸筆御八講御祈、於本坊始修不動法、開闔夜參御加持、○十月十三日爲主上御樂御祈、於本坊始修六字護摩、修中有効驗、○十一月六日爲天下靜謐御祈、於本坊始修文殊八字護摩、當結願又有効驗、賜叡感勅書、

同五年二月十八日有母喪事、服氣之間、座主猶不被及辭退、是依先例也、六月廿五日依勅定除服、○十二月五日於本坊爲神木歸座御祈、始修五大尊合行護摩、(二七日)、○六日爲同御祈、於本坊始修尊勝

法、○十一日參御加持、
同六年五月十二日左少辨仲光朝臣持參勅書、山務固辭不可被用之、又二品事可被宣下、又播州安田庄爲御祈料所拜領之、○十五日叙二品、陣宣下云々、廿五日大內記秀長送位記、
同七年正月廿二日於仙洞爲御疱瘡御祈、始修中藥師法、伴僧八口、○三月十七日依勅命、宸筆御經三卷、四要品、壽量品、寶篋印陀羅尼經、開題供養、是明日舊院御四十九日故也云云、○四月十五日山務謙退幷門跡事、先內々與奪於慈濟僧正、隱遁于西山靑龍院、六月三日出京、是去日持明院中將來、申公武之時宜依難遁也、○九日勅使仲光朝臣來入、山務可爲如元之由被仰之、
同八年改元爲永和元、三月晦日御登山、被安置中堂、十二神幷有道圓親王受戒之事、
永和二年閏七月後七月五日イ辭座主、

第百三十九　二品承胤親王、　治山
永和二年閏七月十五日還補、第三度、執當玄全、同三年四月九日入滅、六十一歲、

第百四十　慈濟僧正權イ青蓮院、妙香院、　治山五年四イ、
一條關白經通公第四男、尊道親王弟子、
永和三年四月十四五イ日補任、六月廿四日於十樂院大成就院、受宣命、執當純全玄全イ、十二月四日イ任大僧正、
同四年七月廿三日辭護持僧、
永德元年四月廿九日於內裡始修佛眼法、○五月廿一日拜堂登山、○廿六日辭座主、

第百四十一　道圓親王無品イ青蓮院、　治山四年、
後光嚴院第六皇子、母伯耆局、尊道親王入室寫瓶弟子、
永德元年六月十七廿九イ日補任、十八歲、超越妙法院堯仁親王、淨土寺慈辨僧正等、先是去九日、山務之事可存知之由、被下綸旨、七月十日宣命使少納言菅原淳嗣朝臣登山、執當法眼玄全請取之、○八月廿五日於十樂院受宣命、申次玄能大僧都、祿執事家、申次秦濟、御簾役秦什、秦圓、
同二年四月廿三日補護持僧、奉行藏人頭公仲朝臣、
同三年正月廿九日武家使者布施民部大輔基連參申云、綾小路大宮法華堂事、依山上訴、爲武家撤釘貫了、以此旨可被仰山上云々、則被仰寺家了、○三月廿四日爲主上御惱御祈、始修藥師護摩、○四月廿三日日吉祭禮無爲、當年無喧嘩、則日還御云々、奉行辨知輔參向、○廿五日武家使者參申云、大宮廻廊

幷七社神輿莊嚴爲戸津開設可被沙汰事、二宮囘廊修理可被仰隆獻事等云々、○十月十日始修長日如意輪法、○十七日爲御禊行幸御祈、於本坊修金輪法、至德元年三月廿日於本坊修除目御修法、（五イ）奉行藏人頭右大辨資衡參會、○四月廿三日爲拜堂登山、○七（六月）月（三十日イ）辭座主、

第百四十二　無品堯仁親王、（妙法院、）　治山四年、

後光嚴院第七皇子、母崇賢門院、（贈左大臣兼綱公女、）亮仁親王弟子、良憲僧正受法、

至德元年七月十七日補任、（廿歲、一本廿二歲、）同日補護持僧、（四イ）嘉慶元年九月廿四日拜堂、同二年正月廿九日辭座主、

第百四十三　無品明承親王、（梨本、）　治山五年、

後光嚴院第十皇子、母伯耆局、承胤覺叡兩親王弟子、承範僧正受法、

嘉慶二年二月廿八日補任、明德三年十二月十三日拜堂、

第百四十四　慈辨僧正（淨土寺、）

近衛太閤道嗣公男、

明德三年十二月（一本十月、）晦日補任、執當尊能、應永二年十二月十九日拜堂、

第百四十五　一品尊道親王（十樂院、）　治山八年、

應永二年十二月廿七日還補、（第三度、）同三年四月廿七日（八イ）於十樂院請宣命、

其儀、寢殿中央間垂御簾、敷大文三枚、（二枚並之、一枚重之、）絹屏風一雙立廻、左右中門廊（自南第三間、）寄西壁、敷高麗緣小文一枚、爲執當座、所役僧綱有職座、一□以障子上雖儲其所、未作之間、以二棟西二間爲其所、南妻戸下閇之、西第二箇間御簾可撤之、准殿上之故也、高麗緣小文二枚角違敷之、所役坊官等候御分座、中門北妻戸外引幔一帖、祿長櫃可儲其內、（政所下部相副之、）御所中每事具之、後奉行人可參列之由可相觸寺家、次三綱等參集門之邊之後、內々可申案內於奉行人、次出御、自東二間出御、僧綱可開北御障子、御著座以前、有職進寄敷草座於御座中央、次置居箱於御座左邊、經本路退下、次御簾役坊官二人從東杉障子進出、上階間御簾、（上臈可進西、下臈可留東、）上畢、經本路退下、次申次經公卿座西緣、從南妻戸前沓脫下庭上、對執當立、執當揖之、申次答揖、然後登自沓脫、入中門南妻戸、經東緣、參御前蹲踞、隨御眼路、經本路降自南切妻於中門下、對執當揖

之、執當答揖之後、申次自切妻歸登、經廊出南妻戶、經西緣、可候本座、次執當登自切妻、經大床、進參御前、於大床脫草鞋、膝行進上宣命、次執當經本路退下、此時僧綱入自中門廊北妻戶、於執當座前大床或中門廊、賜祿、御中間取被物、於西緣傳房官、房官取之、入自北妻戶、於中門前傳僧綱、僧綱取之傳執當、次執當賜祿退出、雖被儲其座不著之、次三綱人中門、於南庭二拜、是今年朝拜延引之間、以此次、可有此義之由、臨時被仰之故也、次所司寺官參進二拜、如前、次社司列參申、次坊官如前經中門西緣、下自沓脫、對社司立、祠官揖、申次答揖、卽歸昇入南妻戶、經中門內緣、參御前、蹲踞申事由之後、如前經中門內緣降自切妻、出中門外揖了、祠官、祠官答揖、申次登從西沓脫、經本路歸入、次祠官入中門、於南庭二拜、如寺家儀、次垂御簾、役人如前、次入御、有職撤物具、

寺家申次　右衞門督法印隆惠
祿役　尊勝院僧都忠慶
手長　經範
社家申次　泰圓
御簾役　泰遍
　經範
有職二人

九月廿日有大講堂供養事、去十八日、今月三日、同十六日等、依雨度々延引、今日天晴、

參會人々、

公卿

關白　左大臣　右大臣
內大臣　右大將　日野大納言
鷹司大納言　今出川大納言　坊城大納言
近衞大納言　左衞門督　二條大納言
德大寺大納言　中院大納言　大宮中納言
權中納言　九條中納言　師中納言
三條中納言　藤中納言　新藤中納言
西園寺中納言　花山院中納言　菅宰相
吉田宰相　京極宰相中將　四辻宰相中將
隆信朝臣　光顯朝臣　實茂朝臣

少納言

長方朝臣

辨

經豐

外記

賴季　師邦　中原重貞

史
兼治宿禰　光夏宿禰　嗣保
圖書寮
允源爲弘　允橘守吉　屬藤原弘安
治部省
丞藤井吉信
雅樂寮
頭中原師勝　助中原師野
玄蕃寮
允和氣助之
堂童子左
惟敎朝臣　俊重　俊經　則秀
同　右
重冬朝臣　泰臣　氏經　行重
御誦經使
內藏頭敎興朝臣
御布施取
左大臣證誠布施、　德大寺大納言呪願布施、
權中納言導師布施、
御誦經　勅使祿

京極宰相中將
呪願執綱
永行朝臣　嗣忠朝臣
同執蓋
知高
導師執綱
俊經地下諸大夫、　氏經
同執蓋
宗岡行言
僧中人々、
證誠
一品法親王
呪願左方、　導師右方、
無品法親王　石泉院法務前大僧正尋源
引頭
毘沙門堂權大僧都　實圓　定法寺權少僧都　尊雅
唄師
檀那房僧正　相嚴　勝林院權僧正　良雄
散華師
安居院大僧都法印　良譽　常樂院法印權大僧都心兼

讃頭
法印權大僧都心尊
梵音頭
尊勝院 權大僧都 忠慶
錫杖頭
功德院 法眼 玄經
堂達
正觀院 已講 勤運
定者
大法師 因全
納衆
青蓮坊 法印權大僧都道藝
佛光坊 、、、、、、桓賀
、、、、、、、光運
大妙房 、、、、、叡宣
南樂房 、、、、、俊藝
寶光坊 、、、、、、祐成
玉藏坊 、、、、、、宗胤

讃頭
知恩院 法印權大僧都隆寛
梵音頭
日嚴院 權大僧都 亮秀
錫杖頭
遍照光院 法眼 仲承
堂達
寶藏坊 已講 幸圓
定者
大法師 緣全
納衆
善戒坊 法印權大僧都尋海
川 禪定坊 、、、、、、盛憲
大藏坊 、、、、、、叡澄
知見坊 、、、、、堯運
覺林坊 、、、、、敎雲
摩尼寶房 、、、、、聖秀
櫻本坊 、、、、、、幸舜

戒光坊 法印權少僧都定全
光聚坊 、、、、、、忠存
榮壽院 、、、、、、俊慶
明泉房 、、、、、、敎聽
阿彌陀房 、、、、、、堯運
成乘房 、、、、、、快秀
蓮光房 、、、、、、益運
大興房 朝心
大藏房 增賀
西 法乘房 宏運
花光房 賢成
川 權大僧都 仲祐

常舜房 、、、、、、敎琛
源泉房 法印權少僧都宗秀
川 常養房 、、、、、、宗俊
川 持寶房 、、、、、、榮勝
西 乘光房 、、、、、、榮成
聖行房 、、、、、、直海
川 圓乘房 、、、、、、晴憲
賢成
西 福成房 覺增
福泉房 寂秀
川 蓮眼房 昌慶
西 香蓮坊 曉範
西 南圓坊中納言 權大僧都 憲隆

安養房權少僧都 猷運
蓮華房 賢瑜
善光房 良秀
雜林房 良叡
光聚房大納言 心能
藤本房權律師 英仙
雅運不參替 承是
岩室坊 春澄
高泉房已講 賢運
木直
讚衆
大法師 嚴英
西 寳源
玄俊
西 盛憲
聖海
重圓
西 能賢

大教院大納言 政智
行光房權少僧都 圓俊
大泉房 心嚴
觀音院 賴全
弘春不參替 實辦
善學院權律師 俊尊
維助
能賢不參替 泉運
十如房已講 澄運
擬講 道賢
讚衆
大法師 快濟
西 崇運
澄慧
賴明
良尊
賢春
棑運

梵音衆
行慶
寂雅
快俊
範慶
川 道堯
西 心俊
川 遲兼
川 祐兼
大法師 救運
尊瑜
川 聰潤
賴宗
慶仙
光藝
西 永聰
增舜
源範
西 木能

梵音衆
全增
慧詮
西 顯秀
充全
川 重賢
川 靜藝
川 救憲
嚴豪
大法師 憲禪
賢重
實清
教範
賴尊
良重
西 遲秀
慶恒
川 俊賢
能賢

西　西

行俊
憲俊
定尋
貞存
憲覺

錫杖衆
大法師

源運
良覺
行祐
長舜
隆玄
敎瑜
寂仙
勢運
豪海
維什
性慶
直秀

西　西　西　川

西　川　川

瑜雲
木健
良存
澄尊
榮直

錫杖衆
大法師

承舜
澄有
救成
直算
弘爲
晴增
祐快
木賢
幸海
仙秀
舜榮
祐秀

西　西　川　川

川　印慧　川

寛藝
秀憲
經全

呪願文
草　菅宰相秀長卿
清書
願文
草　勘解由小路前大納言
清書

同五年四月廿二日於北山殿被修安鎭法、助修廿口、護摩師栢敎僧正、奉行僧顯煕權大僧都、行事僧泰村法眼、承仕六人、善鏡、法行、明勝、禪敎、善壽、常善、

同六年五月十四日以法眼兼忠被補執當職、
令旨幷請文云、

法眼兼忠

右被　座主一品親王仰偁、件人宜令執當寺家雜務者、

應永六年五月十四日法印經聰

右令旨使承仕行向、

謹請　令旨一紙、

右山家雜事宜令執務由、跪以
所請如件、
應永六年五月十四日法眼兼忠請文
同年六月廿三日於北山殿修五壇法、中壇餘壇皆山
門也、
同年八月十九日於北山殿行舍利會、
同年九月六日御教書幷請文云、
來十六日御拜賀料五箇所人夫
百人、任例來十三日京著候樣、
可被催進候由、被
仰下候也、恐々謹言、
九月六日　　泰　村
執當法眼御房
請文云
御拜賀可爲來十六日、任例可令
申沙汰由、謹承候畢、早可令存知
旨、可令披露給候哉、恐々謹言、
九月八日　　法眼兼忠
追申
五箇庄召人夫事、則相觸庄務
輩候、定令下知庄家候歟、次愛
智上下庄御儲用意事、被下
令旨可觸仰候由、可得御意候哉、
來十七日可被遂社頭御拜賀、愛智
以下五箇所御儲、任例可相催候由、
被
仰下候也、仍執達如件、
九月十一日　　法印經聰
謹上執當法眼御房
追申
供奉人人數折紙被遣之候
同月十五日相國寺七重塔婆供養勤大導師、證誠大
施主令勤之給、呪願仁和寺二品永助親王、引頭妙法
院二品堯仁親王、大覺寺無品寛教親王、唄師僧正六
口、散華師僧正十口、讃頭僧正二口、衲衆上乘院二
品乘朝親王以下廿口、甲衆千人、延暦寺園城寺興福
寺東寺云々、檢校三條左大臣實冬公、奉行藏人頭左
大辨兼宣朝臣、以下畧于玆、
同年十月廿九日依武家御願、爲泉州大內入道退治

之御祈、於鞍馬寺修四天王法、助修八口、
同七年四月廿日修如法法華法、
同八年五月十三日康富記云、北山殿日吉社御參籠、可有大宮社御八講、著座公卿、洞院中納言實信卿、日野勘解由小路中納言兼宣卿、中院宰相中將通守朝臣等、自昨日（廿二）被越坂本云々、
供奉注文
御所（四方輿）
青蓮院（同）
上乘院（同）
御昇、廿二人
坊官、伊與法眼、大藏卿法眼、兵部卿少輔法眼、
武家、山名金吾、一色典厩、六角京極、畠山左馬助、
同十九日還御、
同年七月廿四日於北山殿修如法尊勝法、
同年十二月三日以尊勝院忠慶法印、被補祇園社別當職、令旨云、
感神院別當職事、所被補任也、
官牒未到之間、可令存知給者、依
座主一品親王令旨、上啓如件、
十二月三日　法印經豪判
謹上尊勝院法印御房
同九年二月（八年十二月イ）辭座主、
第百四十六　道順僧正（大イ）（曼殊院、）
二條太閤良基公四男、竹中慈昭權僧正附弟、青蓮院尊道親王御弟子、
應永九年二月廿七日補任座主、
異本云、應永十年十月十日云々、按是日令請宣命給歟、可有後勘、
同十一年九月廿四日入滅、（但不遂拜堂云々、）
第百四十七　桓教僧正（實乘院、）
二條太閤良基公男（二イ）（一說師良公男、）
應永十一年十月廿四日補任座主、于時執當兼眞、同十五年十二月廿日拜堂、同十六年月日（二月イ）辭、
第百四十八　良順僧正（大イ）（曼殊院、）
二條太閤良基公男（六イ）（一說師良公三男云々、）（イ作師主慈照）道順大僧正弟子、
應永十六年三月十七日補任座主、于時執當玄全、同十八年五月廿五日拜堂、同年六月（晦日イ）辭、

第百四十九　二品（一イ）堯仁親王（妙法院、）
應永十八年六月十三（八イ）日還補、（四十九歲、）同十九年四月
辭、
第百五十　桓教僧正（大イ）（實乘院、）（禪定院イ）
應永十九年四月十七（六イ）日還補、同廿年十一月（十月三日イ）辭、（不及拜堂）
得替、
第百五十一　實圓僧正（大イ）（毘沙門堂、林泉坊、）
三條內大臣公忠公男、實尊僧正弟子、
應永廿年十一月十六日（イナシ）補任、同月廿八日宣命使登
山、不及拜堂、依大衆訴訟、自山門追放隱遁云々、
第百五十二　相嚴僧正（檀那院、）
應永廿一年九月八日補任、于時執當英兼、
同廿五年四月九日拜堂、
同廿六年十月一日辭
第百五十三　義圓准后（大僧正イ）（青蓮院、）
征夷大將軍入道准后大相國義滿公男、師主尊道（慈照大僧正イ）
親王、
應永廿六年十一月三日宣命、（廿六歲、）去月廿六日上表
云、

上啓

可被補天台座主職事

右叡山三千貫首者、釋門無雙榮華也、
非其人者不猥望、非其才者不令輙授、
爰義圓蒙准三后之朝獎、掌靑蓮院執
權、頻積公請之勞効、鎮致懇切之丁寧、
木刀之膓漸釘、藩岳之位得時、早以今
度之闕、忽遂多日之運、被補吾山之貫
長、欲繼累業之褒擧、以此等之趣、可令
洩奏聞給、義圓頓首誠恐謹言、

十月廿五日　　大僧正義圓

進上廣橋大納言殿

十一月四日拜賀參院、
十二月廿一日於十樂院受宣命、（所役僧綱有職等執事催之、坊官等御出奉行催之、）
當日早旦、御所裝束、寢殿七箇間可垂翠簾、中央敷
繧繝疊三枚、（二枚並敷之、一枚重敷之、）立廻唐繪屛風一雙爲御座、
所役僧綱有職座以障子上雖可被儲其所、未作之間、
以二棟西二門爲其座、南妻戸可閉之、蔀二箇間可撤
御簾准殿上也、高麗小紋紫端可敷之、所役坊官可候

御分座、中門廊第三間、迫西壁敷高麗小文一帖、南北行、為執當座、中門子妻戸外引幔、東西行、北庭寺家祿物被物一重、長櫃可儲其内、廳下部相副之、剋限所役僧綱房官等參集、次寺官列參、次奉行人皆參之由可申入案内、次出御、有職二人取法具可奉相隨、自西御二間、經内九間、從北障子出御、僧綱可開御障子、御著座以前草座御座左置之、兩人共經本路退下、次御簾役房官二人奏兼、奏忍、從東大床參進南面、上階間御簾、上﨟奏兼可進西、下﨟奏忍可進東、上畢、經本路退下、次寺家申次光尋律師、經公卿座西緣、從午妻戸前沓脫、下庭上、對執當立、執當揖之、申次答揖、然後自沓脫入中門午妻戸、經内緣、參御前蹲踞、隨御眼路、經本路降自切妻戸沓脫、於中門下對執當揖之、執當答揖之後、申次自切妻戸歸登、經廊出南妻戸、經西緣可候本座、次執當登從切妻、經大床進參御前、於大床脫草鞋、進上宣命、次執當經本路退下、此時僧綱公慶僧都、入自中門廊子妻戸、執當座前邊立、御中間蓮淨、取被物、於西緣傳坊官、奏忍、坊官取之、入子妻戸、於中門廊傳僧綱、公慶、退下、次執當賜祿退下、雖被儲其座、不著之、次三綱退出、但於庭上列拜、次社司列參、申次房官、經現、次第如寺家、但申入之後、降立出中門、於砌下揖社家、歸登自西沓脫、經本路歸入、次社家皈登自西沓脫、經本路皈入、次社司列拜、次垂御簾、役人如前、次入御、所役如前、室町殿有御見物、御臺樣同御見物、朝程大雨降畢、當時晴畢、

可有用意事

唐繪屏風一雙、但四尺屏風、枚數不定、隨御用從公方被申出也、

長櫃一合、仕丁二人、退紅裝束二具、

綾被物一重、執當祿、廳下部相副云々、仍御恪勤近代相添之、

幔二帖、

出世裝束、鈍色上袴、裳、五帖袈裟、

坊官裝束、鈍色指貫、下括、裳、五帖袈裟、

宣命役人

扈從　良宣律師、出世、

寺家申次　光尋律師、出世、

祿役　公慶僧都、出世、

手長　奏忍、任坊官、

御中間　蓮淨

承仕

社家申次　經現、坊官、

御簾役　泰兼、泰忍、坊官、

有職二人　長雅、□□、出世、

一宣命以後當日十二月廿一日兩座獅子舞、田樂、在之、但今度新座許也、先規新本立相、但御再任以後事歟、獅子祿五百疋被下之、故宮御時者五百疋、扇百本、馬一疋、被下云々、田樂祿二千三百疋被下了、千三百疋者本祿、千疋加增、故宮御時者千三百疋、馬、扇子、被下了、田樂獅子等、御初度之時有之如何、先規可尋、每度房官著座有之云云、但每事御略之間無之、

一宣命之時寺家社家申次用鼻高事、先規不定歟、仍童僕事、用鼻荒之時者可有之、不用時者不可有之歟、今度寺家社家申次用鼻高童僕等、召具了力者一二人大童子中間等歟、御出奉行廳法眼新製裝束、宿老等重衣也、梅賀、著水干、幸榮、龜若、里僧綱新製裝束、鈍色表袴裳袈裟檜扇、

同廿七年三月廿九日執當業兼法印來書以下、

當季受戒和上事、寺解謹進覽之、

此趣可令披露給候哉、恐々謹言、

三月廿九日　法印業兼

謹上大藏卿法眼御房

天台兩法華會當年講師事、寺解謹進覽候、此段可令披露給候哉、恐々謹言、

三月廿九日　法印業兼

謹上大藏卿法眼御房

延曆寺當年春季受戒和上事、寺解如此、可令　奏聞給候由、

青蓮院准后御氣色候也、公慶恐惶謹言、

四月三日　權少僧都公慶

進上廣橋大納言殿

天台兩法華會當年講師事、寺解如此、可令　奏聞給之由、

青蓮院准后所候也、公慶恐惶謹言、

四月三日　權少僧都公慶

進上廣橋大納言殿

兩通御奉書到來候、可披露候、可
得御意候、恐々謹言、
卯月五日　　兼　　宣

三會講師事、解狀如此、可令
奏聞給之由、
青蓮院准后所候也、公慶恐惶謹言、
四月五日　　權少僧都公慶
進上廣橋大納言殿

日吉祭禮參向辨供給事、任例可沙汰
渡之由、可有御下知候、可得此御意候
也、恐々謹言、
四月十三日　　兼　　宣
右大臣僧都御房

日吉祭禮參向供給事、任先例可被申沙
汰渡之由、被　仰下候也、恐々謹言、
四月十二日　　經　　守
執當法印御房

此令旨申付廳務、整狀付執當歟、

日吉祭事、內侍幷辨諸司等參向之
條者、年々恒規不能左右候、至上卿者、
神輿造替初年祭禮之外參行事、若
不詳候哉、仍永德元年以後無其儀候
如何、縱雖可參向候、於今者無日數候
之間不可事行候、能々被經御沙汰、自
後年可有其沙汰歟之由、被　仰下之
由、可令披露給候也、恐々謹言、
四月十七日　　兼　　宣
右大臣僧都御房

日吉祭上卿事、如仰當年者、誠無日數
候間、不可有參向候哉、來年何共可有
嚴重御沙汰候哉、公慶恐惶謹言、
四月十八日　　公　　慶

日吉祭上卿事、昨日委細申入了、參否
可爲如何樣哉之由、可令得御意給候、

也、恐々謹言、

四月十八日　兼　宣

右大臣僧都御房

日吉祭上卿事、雖無餘日候、久我中納言可參向候、就其者、社頭近邊宿所事、可有御下知候、供給事可違先規之樣、同可被下知候、此等趣、得其意可令申沙汰給候也、恐々謹言、

四月廿日　兼　宣

日吉祭上卿參行事、依申御沙汰、御再興之條、就其供給等事、如先規可申付候也、公慶恐惶謹言、

四月廿日　公　慶

日吉祭御參行事、廣橋被申候、仍執當方之狀進之候、於坂本可被召供給等候、同御宿所之事、堅申付候也、公慶謹言、

四月廿日　公　慶

久我中納言殿

日吉祭禮上卿供給事、如先規可被沙汰渡之由、被仰下候也、恐々謹言、

四月廿日　經　守

執當法印御房

六月會一問事、可令勤仕給之由、座主准后御氣色、悉之以狀、

五月廿七日　權大僧都判

圓城坊御房

就清閑寺領事、山門遂參趣、被聞食了、急可被申入公方樣候、然者於安居結願、無爲無事、先可令執行給由、座主准后御氣色如此、仍狀如件、

七月十三日　權大僧都判

執行法印御房

就山門根本法華堂末寺武藏國慈光寺

本寺役年貢間事、堂中集會事書如此、子細見狀候歟、急速可有申御沙汰候哉之旨、衆議候、恐々謹言、

七月廿三日　年預阿闍梨玄眞

謹上大藏卿法眼御房

山門根本法華堂年預玄眞狀集會事書如此、子細見狀候歟、可令沙汰給候由、座主准后御氣色、執達如件、

七月廿三日　權大僧都公慶

謹上心性院御房

三會講匠始行事、自九月十八日可被行候、其分得御意、勅使以下事申沙汰にて恐入候、恐々謹言、

八月廿四日　沖　運判

惣在廳御房

自來月十八日可始行三會之由、沖運狀如此、急可被成下御擧於職事旨、可有御披露候哉、恐々謹言、

八月廿四日

中納言僧都御房

自來月十八日始行大乘會、勅使弁以下事、可令申沙汰給候由、被仰下候也、恐々謹言、

八月廿五日　公　慶

頭辨殿

山門根本中堂末寺越中國里阿保內西念寺惣長吏幷別當職事、任代々支證、岩幢子丸管領不可有子細、且宜佛法興隆可抽天下御祈禱者也、於守護方綺者堅不可□用哉之由、

座主准后御氣色所也、悉之以狀、

應永廿七年八月廿五日　權大僧都判

公方樣御不例之御祈禱事、被仰出候、各可致精誠候由、可被相觸三塔、於根本中堂別而可凝丹誠候由、被仰下候也、謹言、

九月五日　判

執當法印御房

公方樣御不例御祈禱事、被仰出、自今一七ヶ日之間於社頭講□大般若經、各別而可奉祈念之由、被仰出候、恐々謹言、

九月六日　尋祐

祇園執行御房

公方樣御祈禱事、被仰出候趣、於三塔殊可致精誠之由、可相觸旨、公文所可下知仕候、以此趣可有御披露候哉、恐々謹言、

九月五日　業兼

公方樣御違例驚入候、仍御祈禱事、被仰下候、則可相觸飯室谷候、定可致精誠候、以此旨可有御披露候、恐惶謹言、

九月五日　慶覺

被仰下候御祈禱事、則山上ェ可申上候、更々不存懈怠候儀、以此旨可有御披露候、恐惶謹言、

九月五日　般若院

若州本淨山羽賀寺事、自元爲山門末寺之上者、便宜御扶持更不可有御疎略之由、座主准后御氣色所候也、悉之以狀、

應永廿七年九月十六日　權大僧都判

當寺衆徒中

就中橫川山林事、東塔院東北兩谷相□之事候、如被仰下候、於山中□之□兩谷之確執之條不可然候間、爲使節再三雖相宥候、于今不落居候、仍先日任被仰出候旨、於樵夫者、以和睦之儀、可立合彼山地□由、雖達北谷候、如此於事書不能承諾候、無勿體候、此上者、追而入記錄、任三院分地之界畔、可有落居候哉、以此旨可被御披露候、恐々謹言、

九月十一日

月輪　法印慶賢判

杉　法印暹春判

金輪　法印辨證判

大藏卿法眼御房

東北両谷就山林相論事、先日被成令旨候
處、樵夫等無承諾儀候條無勿體候、爲使節
中可相宥候由、重可被成令旨候也、恐々謹言、
九月十九日　公慶
大藏卿法眼御房

忠海注記竪者請事、望申入候、內々可令存
知給候由、
座主准后御氣色所也、仍狀如件、
十月廿三日　權大僧都判
執當法印御房

延曆寺當季受戒和上事、寺解如此、可令
奏聞給候由、
青蓮院准后所候也、公慶恐惶謹言、
十一月四日　權大僧都
進上廣橋大納言殿

延曆寺當季受戒和上事、寺解如此、可令
奏聞給候由、
青蓮院准后所候也、仍執達如件、
十一月四日　權大僧都公慶
謹上中山頭中將殿

延曆寺當季受戒和上事、謹奉候訖、早可令
奏聞候也、以此旨可令申入給候、恐々謹言、
十一月四日　左中將定親請文

戒和上事、謹承候訖、則令披露、去四日被
宣下候了、上卿三條大納言候、宣旨未到
哉、重可被仰遣候也、以此旨可令申入給候、
恐惶謹言、
十一月七日　定親請文

同廿八年三月十六日爲拜堂登山、○同月十七日依
所望被成下、
阿闍梨充秀
右充秀宜敍法橋、解文未到之間、
且可令存知旨、依
准后御氣色、以下、
應永廿八年三月十七日權大僧都公慶奉

光增、祐賢、永藝、成眞等、依望申、如此書下、

四月五日辭座主、

第百五十四　持辨僧正大イ淨土寺、

大將軍義持公男實鑑左大臣滿詮公男云々、淨土寺（イ寶篋院一品左大臣義詮公孫）

慈辨僧正入室、

應永廿八年四月十日廿八イ任座主イ宣命、十九歲、

同廿九年四月廿二日日吉祭、上卿權大納言源淸通卿、外記康富、右大史安倍盛久、召使宗岡行秀、參向、右少辨俊國遲參、大宮社東回廊爲上卿座、一間、外記、史、三間、召使、四間、辨、參向之時二間也、社司六人對外記史著座、端、

同廿九年十二月二日等持寺御八講、五ヶ日、

南都北嶺參仕、公卿殿上人著座、寶篋院義詮公御忌月、

同卅二年九月廿二日廿イ拜堂、廿三三イ歲、

同卅五年四月辭、

第百五十五　義承大僧正圓融坊、號梨下准向、師主僧正相嚴イ

鹿苑院義滿公男、梶井明承親王弟子、

八月辭、

應永卅五年四月五日正長元年四月十日イ廿一日イ宣命、于時執當兼舜、永享三年

第百五十六　良什大僧正曼殊院、准三宮イ

一條關白經嗣公男、異本兼良公男、良順大僧正附弟、忠慶受法、

永享三年八月十六日宣命、同七年　月　日根本中堂燒失、同年四月辭座主、不遂拜堂、

第百五十七　義承大僧正圓融房、准三宮イ

永享七年四月八日廿三イ還補、于時執當堯全、同月廿三日受宣命歟、

嘉吉元年爲准三后、元大僧正、

同三年四月廿三日戊申日吉祭、上卿源中納言有定卿、藏人右少辨藤原敎忠、外記家久、左少史盛時、召使寬繼、內侍等參向、

同年五月廿八日就六月會、藏人權右中辨俊秀登山、乘四方輿、小雜色四人、著白張仕丁等也、於川原口力者雜色等各脫白張、勢多折ニ成、烏帽子バカリ著之、到雲母坂麓不動堂前、四方輿戶棟柱撤之、爲手輿被登山、靑侍馬ヲ歸ス、皆勢多折ニ成ル、宿所東

塔南谷西尊院、
文安元年四月十七日日吉祭、上卿大納言時房、權右中辨敎忠以下參向有、康富記委曲、

第百五十八　公承法務大僧正毘沙門堂、

太政大臣實冬公男、

文安四年二イ正月廿七日補任、四十二歲、于時執當兼祐、三月廿九日受宣命、
同年四月廿三日日吉祭、上卿中納言藤隆夏、奉行左中辨敎忠、少外記康顯、右大史員職、召使寬繼、內侍等參向、
同五年二月申請綸旨、安置根本中堂靈像、佛具寶物等、九日賜綸旨、九月廿二イ一日拜堂、
同六年四月廿二日日吉祭也、上卿久我大納言通尙卿、權右中辨親長朝臣、少外記淸原忠種、左少史安倍盛時、召使宗岡久繼、內侍等參向、
寶德元年八月四日北野祭延引、依日吉神輿動座也、○十二月一日丙子康富記云、延曆寺六月會依山訴于今延引、自今日被行之、權右中辨親長朝臣爲勤仕參向、是日祇園神輿三基令出透廊給、來七日可有御輿迎、十四日可有祭禮之故也云々、去六月祭禮、依日吉神輿動座山門閉籠事等、爲本寺興申之間、令延引了、於山訴者近日落居云々、○六日日吉小五月會、去五月依山門訴事延引、今日有始行云々、○七日壬午晴祇園神輿迎也、如例三基令出、御旅所拾鉾山以下風流如先、先渡四條大路云々、○十二日丁亥晴、北野神輿迎也、去八月祭禮依日吉訴事延引也、今日被遂行之云々、○十四日己丑祇園祭禮如例、風流山笠鉾以下、渡三條大路云々、○十五日庚寅北野祭也、今月十二日出西京御旅所給、
同二年五月十六日自延曆寺根本中堂內陣御佛內、智證大師御作藥師如來像、三尺許歟、此御腹身中ニ金銅藥師三寸許、七佛被作籠之、件金銅小藥師者、自北天竺智證大師被渡申之、件御佛去永亨年中中堂炎上之時燒失了、但腹臟之七佛內纔一佛令殘給之間、其殘六佛今度於座主御坊毘沙門堂被鑄足、去永亨年中中堂炎上之時令燒給、今度仰佛師令造立之、件藥師像、被擬勅作、主上御自身御刀ヲ以御佛ニ被割付者、可爲御祈禱之由、自山門就座主申請公家之處、有勅許、是日自山門持參彼御佛像、天子有勅作之趣云々、廣橋□右中辨綱光五位職事也、取次之、被懸禁裏御

內云々、近臣公卿殿上人參集奉拜彼藥師給云々、六月日延暦寺六月會、參向辨親長朝臣、會中有訴訟事、東塔與西河雙方申分云々、十五日祇園臨時祭也、使法性寺侍從藤原雅保也、奉行藏人右兵衛權佐經茂也、御拜以下如例、宣命少內記康顯作進之、

天皇我詔旨度、掛畏支祇園天神乃廣前爾恐美恐美茂申給波久止申、去天治元年與利始天限以永代天(常遺按此間恐脫每年能今日恒例能祭日爾東遊走馬並神樂之十八字歟)乎調備豆、從五位上行侍從藤原朝臣雅保乎差使豆、禮代乃御幣乎令捧侍天、奉出給布古止乎、掛畏支天神此狀乎平久安久聞食天、天皇朝廷乎寶位無動久、常磐堅磐爾夜守日守爾護幸給比天、國家安穩爾、天下快樂爾、護恤給倍止、恐美恐美毛申給波久止申、

寶德二年六月十五日

八月一日北野神輿令出西京御旅所、四日北野祭也、神幸以下每事如例、臨時祭宣命使[　　]頭右大辨勝光朝臣奉行也、使木幡侍從雅保、

天皇我詔旨度、掛畏岐北野能天滿天神能廣前爾、恐美恐美毛申賜波久止申久、去正應能御代與利始豆、限以永代豆、每年能今日恒例能祭日爾、東遊走馬並神樂乎調備豆、從五位上行侍從藤原朝臣雅保乎差使豆、禮代能御幣乎令捧持豆、奉出給布古止乎、掛畏岐天神此狀乎平久安久聞食豆、天皇朝廷乎寶位無動久、常磐堅磐爾、夜守日守爾護幸賜比豆、國家安穩爾、天下快樂爾、護恤給倍止、恐美恐美毛申賜波久止申、

寶德二年八月四日

享德四年月日（五月三日イ）辭、五十歲

第百五十九　敎覺准三宮（后イ）妙法院、

德大寺右大臣實盛公男、大將軍義敎公猶子、

享德四年五月六日補任、三十二歲、

權大外記康富記云

康正元年十二月十九日庚申雪下、日吉神輿一基客人、爲入洛、既水飲邊奉下之間、山訴忽有御裁許、神輿奉昇返、屬無爲云々、山門東塔領近江國中座事也、圓明房當年秋申賜之故也、退圓明、如元被返付東塔之由、被成奉書之處、不用申、仍御敎書被成、爲無爲云云、今度三塔一味之訴訟也、中庄之外尙有御裁許之條云々、洛中者深雪餘尺之處、山上者雨下、路次之煩更無之、神慮之至也、御裁許之趣尙不敘用、可

奉神輿者、可被防之由、被仰出管領云々、
文明三年四月十二日拜堂、於御經藏被開一箱任准
后云々、同月十五日辭退、
第百六十　尊應准三宮青蓮院、
二條大相國持基公男、　竹中良什僧正受法、
文明三年四月十九日（五月九日イ）補任四十歲、
社家事可令申沙汰給者、依
座主准后御氣色、執達如件、
文明三年四月廿七日　法印經堯奉
謹上　治部卿法眼御房（秦運云々）
千僧供領近江國木津庄領所職事、
如元可被知行者、依
座主准后御氣色、執達如件、
文明三年四月廿七日　法　印判
侍從法橋御房（執當眞全也云々）
西塔院主職事、任符未到之間、且可令
存知給之由、
座主准后御氣色所候也、仍言上如件、
經堯頓首誠恐謹言、
文明三年四月廿七日　法印經堯奉
進上　定法寺大僧正御房
但院主任料五百疋、令旨使　安忠云々、以執務與奪
於附弟善學院公助僧都云々、
感神院別當職事、任符未到之間、且
可令社務給之由、
座主准三宮御氣色所候也、仍執達如件、
文明三年四月廿八日　法印經堯奉
謹上　石泉院御房
但石泉院于時童形、
任料五百疋、令旨使善藏、
赤山禪院別當職事、任符未到之間、且
可令執務給之由、
座主准后令旨如此、仍執達如件、
文明三年四月廿八日　大僧都公助奉
謹上　左衞門督法印御房
但無量壽院法印祐濟云々、

法橋眞全

右被　座主准三宮御傳、件人宜令執當寺務雜務者、

文明三年四月廿八日　大僧都公助奉

所被補長命寺別當職也、可被存知者、依

座主准后御氣色、執達如件、

文明三年四月廿八日　法印經堯奉

常學坊阿闍梨御房

但西塔北谷住侶證運也云々、

下八瀬童子長職事、

補任　播磨頭

右以人爲彼職、宜令存知候狀如件、

文明三年五月九日

奉行法眼和尚位判

同四年三月廿七日宣命使高辻少納言菅原長直朝臣登山、執當眞全法橋依父服穢、栗見庄務兼增法眼請取宣命云々、

十月十二日以下、

就二宮御遷座事、綸旨如此、被達一院愁訴之條、尤以珍重候、依□社家申□遲引了、其以後可被申請宣下之旨、衆議候間、他院前後之不同沙汰、可被得此意由、御沙汰候也、恐々謹言、

十月十二日　法眼經柔判奉

西塔院執行法印御房

去月三日十禪師下殿火災事、所驚思食也、早令遂造替之營功、雖可有皈座之儀式、今度巫女忽傳託宣云々奇語、明神更示和光之嚴旨、此上者如元可奉遷舊殿之由、可令下知山門給者、天氣如此、以此旨可令申入座主准后、仍執達如件、

十月四日　左少辨政顯奉

謹上大納言僧都御房

十禪師宮就御遷宮事、綸旨如此、可被存知之由、

座主准后御氣色所候也、
十一月三日　　法眼經柔判
本院執行法印御房
十一月一日來七日被受宣命之事、三院御留主中ェ被
仰下、
來七日於大宮彼岸、所可被受
宣命之間、可被相催參向大衆事、
□所候也、仍執達如件、
十一月一日　　法　眼判
西塔御留主
本覺院法印御房
東塔南谷御留主
清冷房法印御房
北谷
桂林院法印御房
同五年九月十一日六月會始行、奉行左少辨元長、威
儀師行暹云々、亂後從儀師闕如云々、
同六年正月八日令旨云、
御不斷經自來十一日可被始行、庄々役等
任例可令申沙汰給候由、
座主准三后御氣色所候也、仍執達如件、
正月八日　　法眼經柔奉

謹上執當法橋御房
貫主御不斷經、自來十一日可被始行、御
經十一卷各々三卷、一合被遣之由、被
仰下候、恐々謹言、
正月八日　　法眼經柔奉
謹上執當法橋御房
山務領松本田地事、相續知行、敢不可有
依違之由、依
青蓮院准三宮御氣色候也、執達如件、
文明六年二月七日　　法　眼判
松禪院阿闍梨御房
就西谷事、山上山下可及大儀其聞候、
先不可然、所詮被調老若衆儀、被申宥、
彼谷屬無爲無事候者、可爲
公武忠節之由、
座主准三宮御氣色如此、仍執達如件、
文明六二月十九日　　經　柔奉

南谷宿老御中

同文

西谷、、、

九月廿一日於室町殿被始修六觀音合行法、伴僧六口、奉行廣橋大納言、脂燭殿上人三人、但此法二百年來不被修之、今度再興、珍重云々、供料三千疋、十二月下云、

十禪師神木地戸津濱今津事、當地子以八千疋、重々御口入之上者、速可止違亂候由、衆議候、恐惶謹言、

十二月十七日　學頭代判

使節御坊中

同七年三月六日於日吉大宮拜殿、始行法勝寺大乘會、法勝寺炎上之後、於大宮彼岸所被遂行之、雖然近江守護六角四郎從山上有調伏事、從東塔衆徒參籠之間、於拜殿被行之、奉行甘露寺左少辨元長、于時法勝寺學頭安居院法印隆光云々、又云同月廿七日於大宮彼岸所始行法勝寺大乘會、奉行元長、○四月十日於大宮彼岸所、請座主宣命、執當眞全、依御門徒頭圓明房兼澄與杉生房暹圓爭論、所延引也、而去年暹圓死去之間、被得時節歟、暹恩服穢之間以代參勤了、○六月朔日親長卿記云、六月會自今日始行、藏人右中辨政顯昨日登山、四日就論匠事、番論義、東塔南谷與無動寺有相論云云、七日六月會結願同會遂行云々、八日勅使下山、九日就論匠相論事、自無動寺押寄南谷合戰、南谷敗北云々、

十一月六日武家書云、

江州凶徒退治事、山門訴訟之旨、則雖可有御成敗、一旦爲若輩與行歟之條、始終依難事行、被加御思、按之□以三院一味之連署、載起請文詞、强而歎申之趣、被執申之間、被成御下知訖、然近日御方失合戰之利者哉、最初如申狀、重一山令進發、可散欝憤之處、一向不及其沙汰、剩令追放間衆云々、以外參差之條、併敵同意之族令張行者歟、言語同斷次第也、所詮於今者難拾(捨カ)置之上者、可被差下軍勢、早相談佐々木治部少輔幷佐々木、五郎以下、可被抽戰功之段、可令下知三院衆徒中給之由、所被仰下也、仍執達如件、

文明七年十一月六日　彈正忠判

大和守判

青蓮院門跡雜掌

同八年四月八日親長卿記云、法勝寺大乘會今日始行、十一日左少辨元長參向于坂本、十二日於大宮彼岸所大乘會結願、(初日依故障、今日辨參向、)○十四日法勝寺大乘會今日又始行、於彼岸所着裝束、雜色等自中御門中納言(宣胤)旅店着裝束畢、十八日結願、○十九日法勝寺大乘會又始行如前、廿日皈京無爲自愛々々、

同十年四月五日法勝寺大乘會、於坂本執行如例、○六月三日親長卿記曰、今日下坂本、自明日六月會可登山也、先朝間元長參內、爲奏先奏也、件先奏自綱所許付官務云々、傳奏之仁、參向之辨、由綱所(行遲威儀師、)許之、先々無此儀歟、綱所付參向辨歟、予辨官之時故慶暹威儀師(行遲父、)付辨、今如此令申之、餘不審、卽退出、先下坂、(先自京都登西坂、)手輿、今度自京參向、每事大儀之間、自中御門旅宿出立候也、手輿借用執當、○四日午刻許力者自京都來如先々、元長登山、小雜色四人之例、式供六千疋、自去年半分沙汰之三千疋、仍侍如木等略之、辨侍等雜色也、酉剋許有三度使、七日下坂本、八日歸京、

八月奉書云

藤千代大夫可號日吉座之由、被成奉書畢、早任御成敗之旨、可被申觸院內之由、所候也、恐々謹言、

八月七日　法印經柔(判奉)

執行法印御房

同文言

西塔執行法印御房

同文言

楞嚴院別當法印御房

同十一年四月廿一日親長卿記云、下坂本、明日日吉祭可參向之由、被催元長、先々自京都當日夜中參向、雖然亂後路次等猶以夜行難治之間、今日於坂本令用意、廿二日神事被行祭候、廻廊顚倒之間、於大宮彼岸所被行、○六日二日右少辨俊名六月會登山、五日下山、○同月十四日霜月會、(未遂會、)遂行云々、勅使參向之事自座主被申之、同十八日元長登山、申刻許下山、

同十二年四月廿二日宣胤卿記云、日吉祭也、右少辨俊名參向、上卿内侍等不參、一亂中無勅使參向、自去年再興、

同十三年五月廿五日親長卿記云、六月會供、給金輪院沙汰分、千五百疋、今日千疋沙汰之、於坂本請取之、會行事傳達也、同廿七日、從今日六月會始行云々、依供給半分、近年四箇日仕山、來月朔日可登山也、六月朔日勅使藏人辨元長登山、于時執當眞全、有例講、次有論匠如例、同四日結願、○同五日宣胤卿記云、十月會開闢、同六日藏人辨下山、

同十四年四月十日親長卿記云、元長朝臣下坂本、於大宮彼岸所、依有法勝寺大乘會也、○同月十八日横川中堂炎上、聖眞子神輿燒失、五月九日自今日、於坂本法勝寺大乘會執行、元長朝臣參向、○十二月廿日日吉祭禮、元長朝臣參向、執當眞全、

同十五年五月廿二日探題東塔東谷相林坊證定所望、後闕事第三點分勅許、○六月六日證定已講探題勅許、○十二月朔日六月會延引、自去月廿八日始行、任近年例、今日勅使左中辨光忠參向、

同十六年四月十六日日吉祭禮、頭辨宣秀參向、○十一月十五日依六月會五卷日、頭辨元長朝臣登山、○同十七年三月十一日東塔東谷理性院救昌探題勅許、○四月十六日日吉祭延引、依供給不沙汰也、同廿八日遂行、奉行辨家幸參向、

長享二年四月十四日日吉祭、右中辨俊名朝臣參向、○五月廿七日六月會依觸穢延引、去四月廿八日女院崩御、從六月四日始行、同七日勅使右少辨賢房登山、

同三年六月九日日吉祭、清閑寺辨家幸朝臣參向、供給千疋、

八瀨童子等、自往古諸役免除之旨、被聞食畢、近事退新儀之妨、守先規、可致商賣之由、
天氣所候、以此旨可令下知給、仍上啓如件、

七月廿二日　右中將實胤奉

謹上大藏卿殿

爲善私云、此綸旨一本可爲明應元年云々、可有後勘、

明應二年四月五日親長卿記云、靑蓮院准后座主可遂拜堂處、爲山上可違亂之由有風聞、可被勅裁之由申之、爲座主身上之上者、衆徒中可被成勅裁事如

何、申云先例問勿論之由申了、但座主役年々相積歟、就其儀申達亂歟、先以執當被尋山門時宜可被成勅裁歟、踈骨勅裁如何之由申了、次尋云、二宮可有受戒、持被申除服事、如例或可令除服出給之由、可進一通歟、予云爲御重服除服事、此中儀其例如何、可被成者、可爲宣下歟之由返答、○同月八日(三月四日イ)爲拜堂登山、先於南山坊請印鎰、次被行政事、(以南勝房爲御宿所、)○同月十日拜堂、今日新門主(尊傳親王、)淨土寺殿(政禪、)等有受戒、(八イ)大和上座主勅令勤給、○同月十一日拜社、同月十四日辭座主、

第百六十一　二品堯胤親王(圓融坊、)

伏見貞常親王男、後花園院御猶子、

明應二年四月三十日補任座主、

永正六年七月綸旨云、

八瀨童子等自往古諸役免除之旨被聞食了、近年退新儀之妨、守先規可被商賣之由、天氣如此、仍悉之、

永正六年七月廿二日　右中將判

同九年九月廿三日於淸涼殿勤懺法講導師、

同十四年九月七日西塔南尾上乘院聖村法印補任西塔執行、(八十三歲、)同廿三日爲御禮下山、參大樹、千疋高檀紙十帖扇等進之、

同十五年正月十九日中堂供養、日時定奉行權大納言元長卿、○四月四日有中堂供養、導師座主堯胤親王、(興福寺別當一乘院辭退云々、)咒願仁和寺覺道親王、傳奏甘露寺大納言元長卿、奉行藏人左少辨賁定、(兼行事辨、)公卿右大臣(定香イ)實香公、甘露寺大納言、中御門中納言宣秀卿、右宰相中將實胤卿、辨賁定、堂童子近衞殿諸大夫俊泰朝臣、九條殿諸大夫長盛、近衞殿諸大夫俊永、一條殿諸大夫季久、九條殿諸大夫盛可、二條殿諸大夫久親、御誦經使言綱朝臣、度者使季國朝臣、御布施取殿上人範久、同取次六位藏人橘以緖云々、室町殿有御聽聞、御宿坊圓融坊、○同月六日(十六日イ)拜堂、同日(七日イ)有靑蓮院尊鎭親王受戒、爲和上、○同月九日辭座主、六月三日護持本尊御撫物等返上於禁中給、

第百六十二　無品覺胤親王(妙法院、)(二イ)

伏見式部卿貞常親王五男、母贈一品重有卿女、後土御門院御猶子、

永正十五年四月十三日補任座主、(予時執當言全)、上卿正二位權大納言宣秀卿、奉行、[　　]、宣命使少納言宣賢朝臣登山、〇六月二日加任護持僧、奉行右少辨賴繼、同三日自前座主宮護持御本尊御撫物返上、則日被渡之、御使藏人將監橘以緒、同日二間初參、

大永四年七月十七日至廿一日於內裏御八講、皇太后宮三十三回御追福云々、法會傳奏前權大納言菅原和長卿、

天文四年六月廿七日日吉社司祝部友世叙從三位、

同六年五月十八日同社司祝部成純叙從三位、

同十年正月廿六日辭座主、則遷化、無拜堂云々、

第百六十三　二品尊鎮親王(青蓮院)、

後柏原院第三皇子、母豐樂門院藤子、(勸修寺贈左大臣敎秀公女)、

尊應准后入室、

天文十年五月二日補任座主、(三十八歲)、上卿勸修寺中納言尹豐卿、奉行藏人[　　]、

小比叡社禰宜職事、所被補任資繼也、任符未到之間、且可從社役者、依座主宮御氣色、執達如件、

天文十年四月十五日　法橋判奉

治部少輔殿

小比叡社禰宜職事、被補資繼畢、可被存知之由、被仰下候也、仍執達如件、

四月十五日　法橋判奉

日吉禰宜殿

祇園社目代職事、可有存知旨、座主二品親王御氣色所候也、仍執達如件、

天文十年六月廿八日　法橋判奉

杉生房御房

座主領洛中御服公事御代官職事被仰付訖、任請文御公用無不法懈怠者、不可有御改易候也、仍補任如件、

天文十三年二月廿二日　法橋判奉

福田新次郎殿

同十九年九月十三日薨去、四十七歲、不受宣命無拜堂云云、

第百六十四　無品堯尊親王、(二イ)妙法院、
伏見中務卿貞敦親王男、母太政大臣實香公女、後奈良院御猶子、
天文十九年十(十二イ)月十九日補任、上卿中山大納言孝親卿、
同廿二年七月廿五日辭退、不受宣命、不及拜堂、而辭給云々、

第百六十五　二品應胤親王、梶井、
伏見中務卿貞敦親王男、母太政大臣實香公女、後奈良院御猶子、
天文廿二年七月晦(廿九イ)日補任座主、幷敍二品、上卿中山大納言孝親卿、奉行重保朝臣、
永祿五年　月　日日吉社司從三位祝部友世卒、八十二歲、
同七年二月九日於禁裏小御所行百座仁王講、十五日結願、
同十三年三月　日辭退、

第百六十六　准三宮覺恕、曼殊院、
後奈良院第二皇子、母伊豫局(小侍從イ)小槻雅久宿禰女、(刑部卿親成女イ)
元龜元年三月廿三日補任、上卿大納言藤原實澄卿、
同二年九月十二日爲織田信長軍勢山門滅亡、於玆座主無其謂歟云々、
天正二年正月三日遷化、一本天正廿年遷化、號金蓮院准后、

新撰座主傳第二

第百六十七代二(無イ)品尊朝法親王青蓮院、　治山十三年、
正親町院御猶子、式部卿邦輔親王御子、覺如准后
受法、亮信權僧正灌頂弟子、
天正十三(二イ)年乙酉二(十一イ)月十二日補、再興天台座主、三十(三イ)四歲、
戒二十四、參陣上卿甘露寺大納言經元卿、奉行中御門藏
人辨資胤、同月廿四日被渡護持本尊御撫物等、御使
六位藏人、申次蓮光院祐長僧都、則被始修長日如意
輪法、○四月十八日日吉祭禮未御供、惣兒部千菊丸
持參於中門廊、有御加持、此間昇神供棚、庭上三遍
圍廻、○同月十九日日吉祭禮、奉幣使承仕善曉法師
被差向子社頭、○七月六日回峯行者金光院賜綸旨、
修驗行之滿以後、赤山
苦行令成就、殊今般一百日
大回、遂其先途之由候、院
未之嘉摸、佛法再興之基、
叡感不斜候、彌可抽金輪聖
主寶祚延長天下平安海
內靜寧之懇祈之旨、
天氣所候也、仍執達如件、
天正十三年七月六日　左中將在判
金光院法印御房
同月十五日親王與准后座次之事、以關白秀吉公命
被定之、於紫野大德寺有集會、伏見殿以下各御參會
云々、
同十四年丙戌正月廿二日横川元三大師御歸山、淺
野彈正少弼馳走云々、同廿三日以座主直書有謝儀
于彈正少弼許、同廿四日被經子細奏聞訖、○五月廿
四日可爲仙洞安鎭大將之由、賜宣旨、○六月朔日新
院御所安鎭大法開闢、奉行中御門辨、雜事奉行民部
卿法印玄以、下行米三百石兼日於大津被渡之、
同十六年戊子四月廿七日於禁裡被修百座之不動
法、座主宮以下妙法院常胤親王梨本應胤親王上乘院僧正道順積
善院僧正、出仕云々、○閏五月八日於禁中再被修百
座不動法、○六月廿四日於仙洞爲陽光院贈太上天皇
三回御忌、被行曼荼羅供、勸導師、衆僧十口、著座公
卿三人、散華殿上人口人、奉行中山藏人頭、中將慶
親朝臣、○十一月十七日勝輔親王出家爲戒師、授法

名號覺圓、（曼殊院覺恕附弟、後年改諱號良恕、）
同十七年（己丑）九月十一日延暦寺法華會再興執行、
同十八年（庚寅）九月十七日祇園社寶塔供養敕會、庭儀曼荼羅供勤導師、（衆僧廿口、）○十二月廿二日於禁裏常御所鎭宅不動法、（三箇日七座、）廿四日結願、奉行甘露寺、藏人辨經遠、下行米貳百九十七石、自玄以法印被渡之、
同廿年（壬辰）五月十八日於仙洞大般若讀誦爲導師、○六月廿三日於仙洞御修法、（助修十口、）奉行中御門、藏人辨資胤、下行米百石被渡之、同廿九日結願、○八月十六日爲禁裏若宮御祈、於本坊被修藥師供、○同月廿七日依院宣、紺紙金泥阿彌陀經立筆、九月三日進上之、○十一月廿九日於禁裏黑戸、修百座文殊法、
文祿二年（癸巳）二月廿三日正親町院御葬禮、泉涌寺參會、於御葬場諸門跡平伏、龕近之後、先幡之次各列立、（當門、妙門、梨門、竹門、聖門、）從涅槃門入御子火屋、三返廻之間相隨畢、
同三年（甲午）十二月廿一日於內裡清涼殿、奉爲先皇（正親町院、）第三回御忌、（御正當未正月五日、）被修御八講、四箇大寺僧徒各出仕、
同四年（乙未）十一月十七日於內裏清涼殿、爲太閤秀吉公病祈、修不動法、助修十二口、奉行勸修寺、藏人辨光豐、同廿三日結願、御下行米百石被渡之、○同月（此條イ慶長元年十二月三日ニ載ス）廿二日自太閤秀吉公被寄附延暦寺領、
同五年（丙申）三月廿九日於大佛殿有千僧供養、爲懺法導師、○七月廿九日於大佛殿齋會釋迦行法爲導師、○十一月廿五日於大修殿千僧供養爲導師、
慶長二年（丁酉）二月依病辭座主、同月十三日薨、（四十六歲、）號龍池院宮、

第百六十八代二品常胤法親王（妙法院、）　治山十六年、
正親町院御猶子、式部卿邦輔親王御子、（伏見兵部イ）覺胤法親王弟子、（師主尊朝イ）
慶長二年（丁酉）四月廿二日（二月三日イ）補座主、
同六年九月延暦寺領三千石自關東家康公被寄附之、（三千四百二十七石加増通前五千石云々イ）
同八年　月　日如先例賜八瀨童子綸旨云々、
同十二年十二月七日（十日イ）於仙洞修安鎭大法、
同十五年（庚戌）九月●南光坊權僧正天海補探題、
同十七年（壬子）四月十九日南光坊天海參府、依台命住職武州仙波北院、賜寺領三百石、十二（一イ）月辭座主、

此條イ百六十九代ニ載ス
元和七年辛酉（正イ）六月十一日薨、號雲龍院宮、

第百六十九代二品寂胤法親王梶井、號圓明院宮、　治山廿八年、
正親町院御猶子、邦輔親王御子、仙忠灌頂弟子、
慶長十七年壬子十二月廿六日補座主、
同十八年十一月十二日於禁裏修安鎮大法、
元和四年戊午正月三日元三會執行、毛利中納言入道秀就卿勤仕云々、
同五年己未八月廿日奉爲後陽成院第三回御忌、於淸凉殿勤法華懺法講導師、初中結引導有出御、七ヶ日、
同七年辛酉正月三日元三會執行、嶋津相公勤仕云々、
寛永元年　月　日如先例賜八瀬童子綸旨云々、
同七年十一月十二日於仙洞修安鎮法、
同十六年正月辭座主、同月十三（六イ）日薨去、追號圓明院宮、

第百七十代二品良恕親王曼殊院、　治山二年、
陽光院第三御子、母新上東門院晴子勧修寺贈左大臣晴秀公ノ女、
尊朝親王受法灌頂之弟子、
寛永十六年己卯三月十八日補座主、年六十五、（六イ）戒五十二、　上卿奉行共綱朝臣、四月二日根本中堂立柱日時定、
上卿中院中納言通純卿、同十七年庚辰（六月十八日イ）七月辭座主、
同二十年癸未七月十五日薨、六十九歲、（七十一歲イ）號龍華院宮、

第百七十一代入道二品堯然親王妙法院、　治山三年、
後陽成院第六皇子、母勾當內侍孝子（大納言典侍基子イ）持明院中納言基孝卿女、
常胤親王資、
寛永十七年庚辰七月十一日補座主、年三十九、戒　上卿大納言業光卿、奉行萬里小路辨綱房朝臣、十二月十三日根本中堂遷座日時定陣儀、上卿業光卿、奉行宣順朝臣、
同十九年壬午六月於內裏修安鎮大法、奉行烏丸辨資慶、十二月（廿五日イ）辭座主、

第百七十二代入道二品慈胤親王梶井、　治山
後陽成院第十六（四イ）皇子、母土佐局春日神主大中臣時廣女、入道寂胤親王資、
寛永十九年壬午十二月廿八日補座主、年二十六、戒十三、　上卿按察大納言業光卿、奉行甘露寺藏人嗣長、
同廿年癸未九月十八日於內裏修安鎮法、奉行甘露寺

辨嗣長、同廿一年甲申七月十三日十一月三日イ辭座主、

第百七十三代無品イ尊純法親王青蓮院、　治山二年一イ、

後陽成院御猶子、良恕親王受法灌頂弟子、

寛永廿一年甲申十一月五日補座主、年五十四歲、戒四十二、上卿

德大寺大納言公信卿、奉行裏松左衞門權佐資淸、宣

命使　　　、宣旨使　　　、

宣命云、

天皇我詔旨良萬止山中乃法師等爾白止佐倍宣勅命乎白

久、佐無品尊純法親王者慈覺大師乃英徒度志底、起天台

之宗風支漲靑蓮之智水須、照佛日於精舍支發聲名

於江城利多、故是以座主爾治賜布事乎宣御命乎白、

寛永廿一年十一月　日

今年八瀨童子賜綸旨、

正保二年乙酉二月十一日十五イ於仙洞有論義、講師惠心院

大僧都、十二月廿四日辭座主、

第百七十四代入道二品堯然親王妙法院、　治山四箇月、

正保二年乙酉十二月廿四日還補座主、上卿西園寺中納

言、奉行小川坊城藏人俊廣、同三年丙戌二月。廿二日イ。辭座主、

第百七十五代入道無品良尙親王曼殊院、　治山四年五イ、

後水尾院御猶子、此間一本有八條二字一品式部卿智仁親王

御子、母京極丹後守源高知國イ女、良恕法親王弟

子、

正保三年丙戌三月廿二日補座主、年戒　　、上卿西園

寺中納言、奉行烏丸藏人資慶朝臣、

同四年丁亥八月正覺院權僧正豪慶補探題、○九月十

日叙二品、○同月廿一日法華會執行、奉行左少辨俊

廣登山、

慶安元年戊子十月惠心院權僧正等譽補探題、○同三年

庚寅正月。廿八日イ。辭座主、

第百七十六代入道二品慈胤親王梶井、

慶安三年庚寅正月廿九日還補座主、上卿三條大納言、

奉行淸閑寺藏人凞房、同四年辛卯四月三日臨時元三

會執行、正二位大納言家綱卿勤仕、承應二年癸巳正月

。廿日イ。辭座主、

第百七十七代二品イ尊純法親王靑蓮院、

承應二年癸巳正月廿日還補座主、上卿大納言公信卿、

奉行右中辨藤原凞房、五月依病辭座主、同月廿六日

薨、六十三歲、號圓智院宮、

第百七十八代入道堯然親王（一品イ）妙法院、

承應二年癸巳六月十四日還補、第三度、上卿

奉行　　、同四年乙未三月十二日於清涼殿爲　　、

天變御祈、修□□法、奉行藏人辨（清閑寺歟）凞房、十月三日辭

座主、寛文元年辛丑閏八月廿二日薨、六十六歲、號慈恩院

宮、葬于法住寺、

第百七十九代入道一品尊敬親王輪王寺祖、

治山一（三イ）箇月、

後水尾院第十二（ナシイ）皇子、母京極局（東福門院秀忠公女イ）贈左大臣基任公

女、大將軍家光公猶子、尊純親王弟子、

承應四年乙未十月八日補座主、年二十二、戒十二、上卿

、奉行藏人基賢朝臣、同月十一日於內裏修安鎭

法、奉行藏人辨凞房、同年十二月辭座主、

第百八十代入道二品慈胤親王梶井、

明曆元年乙未十二月廿五日還補、第三度、上卿

、奉行萬里小路藏人雅房、同二年丙申九月十八日

至二十日、於清涼殿爲懺法講導師、奉行

照房、

頭註云、三月桓武天皇八百五十年忌

萬治二年己亥正月三日橫川元三會執行、眞田右衛佐勤仕、寛文

二年壬寅十一月十九日於內裡修安鎭大法、廿五日結

願、

同三年癸卯六月仙洞安鎭法、照高院道晃親王爲大將、

於玆山門蜂起、三御門主有登山、宥衆憤、十月辭座

主、

第百八十一代入道無品堯恕親王妙法院、　治山六（七イ）年、

後水尾院第十（九イ）皇子、母新廣儀門院國子、園贈左大臣基音公女、

堯然親王弟子、

寛文三年癸卯十月十日補座主、年二十四、戒十四、上卿

、奉行　　、宣命使　　、同四年甲辰

八月十日於新院御祈修安鎭大法、同五年乙巳七月十

二日敍二品、

同八年戊申二月廿七日夜自東塔北谷僧房出火、文殊

樓前唐院等燒失、

同九年　月　日根本中堂下遷座爲導師、九月（十日イ）辭座

主、

第百八十二代入道無品尊證親王青蓮院、　治山四（五イ）年、

後水尾院第十五（三イ）皇子、母新廣儀門院、　良尙親

王受法灌頂弟子、

寛文九年己酉九月十三日補座主、年十九、戒十、上卿今出川大納言公規卿、奉行日野藏人右少辨資茂、宣命使伏原少納言宣幸、宣旨使壬生官務重房、○同月廿九日拜堂登山、○閏十月十八日根本中堂本尊上遷座爲導師、○十二月十五日日吉社上遷宮、

或記曰、去十日八王子社遷宮、勅使柳原辨資廉參向云々、

同十年庚戌十一月十五日補護持僧、奉行日野西藏人辨國豐、○十二月三日江戶觀理院申任大僧都、奉行日野西辨、○十二月三十日被渡護持本尊幷御撫物等、則被始修長日如意輪法、同十一年辛亥六月二日傳敎大師八百五十年遠忌、於淨土院法華懺法、導師梶井盛胤親王、兩法華會執行、七ヶ日如例、奉行職事登山、同三日於淨土院曼茶羅供、導師尊證親王、

同十二年五月廿五日山門明王院、談山學頭、住心院等、各申任權僧正、

同十二年壬子九月三日臨時元三會執行、土屋鶴千代丸勤仕、

同十三年癸丑三月廿八日叙二品、廿三歲、四月十日辭座主、

第百八十三代入道無品盛胤親王梶井、　治山三年、

後水尾院第十六皇子、母權中納言局、四辻大納言季繼卿女、

慈胤親王資、

寛文十三年四月十日補座主、年二十三、戒十四、上卿、奉行

、○九月廿二日年號改元爲延寶元年、○同月惠心院、、申任權僧正、○十月廿二日自輪王寺宮、以圓覺院被仰合山門住侶大僧都之事、先年被停止候處、歎申之間、上座十人可被申任大僧都哉、住侶大僧都與院家大僧都座牌之事、於同位同官者、院家可爲上座候、官位戒臈共院家卑者、住侶大僧都之次座可有列居哉云々、○十二月七日於法皇御所修安鎭大法、

延寶二年甲寅正月三日元三會執行、輪王寺尊敬親王勤仕、○九月六日於新造女院御所修安鎭法、以山門覺林坊、、令兼梶井院室四王院之號、

同三年乙卯十月以日吉社司生源寺備後、被召出于禁裏非藏人、○十一月十六日新內裏修安鎭大法、○同月廿四日新院御所修安鎭法、十二天壇尊勝院慈純僧正、○十二月廿五日辭座主、雖有勅許、無新補之間、可爲在職同樣之旨、以淸閑寺辨更被仰出云々、○同四年二月二

日再辭座主、

第百八十四代入道二品堯恕親王妙法院、　治山七箇月、

延寶四年丙辰二月四日還補座主、上卿　、奉行　、八月六日十イ辭座主、

第百八十五代入道二品尊證親王青蓮院、

延寶四年丙辰八月十日還補座主、上卿今城中納言定淳卿、奉行淸閑寺右少辨熈定、宣命使五條少納言爲維、宣旨使壬生左大史小槻季連、○同月廿二日依勅、於本坊修不動法、助兒三口、護摩師尊勝院僧正慈純、奉行淸閑寺藏人熈定、廿五日結願、昨日依御衰日延引、○十月二日於新造本院御所修安鎭大法、衆僧廿口、奉行熈定、同八日結願、御下行米三百石、於大津被渡之、護摩師尊勝院慈純僧正、八月廿日イ

同五年丁巳五月辭座主、

第百八十六代入道二品盛胤親王梶井、

延寶五年丁巳五月七日還補座主、八月廿一日イ

同七年己未三月山門幷東叡山日光山等之住侶老僧可被許木蘭色衣哉、自輪王寺宮被仰合于三門跡之後、被定之云々、○七月就戒壇院受戒之事、自三門跡菅谷大輔、大谷民部卿、寺家宰相等、連判書翰云々、上野執當宛紫返書云々、○八月山門領與八瀨山堺相論之事、自一山於江戸寺社奉行所申立、依之自三門跡被仰遣所司代戸田越後守幷町奉行兩家等云々、

第百八十七代入道二品堯恕親王妙法院、　治山經十三年、五イ

延寶七年己未十一月二日八イ還補、第三度、

天和元年辛酉十二月二日於內裏、爲革命御祈、修不動大法、七ヶ日、

貞享元年甲子三月十日當今識仁、第六皇子六宮、爲附弟入室、九歲、○十月法華會執行、勅使小川坊城、藏人辨登山、

同二年乙丑正月十八日於春宮新造殿、舊年炎上、今度新造、修安鎭大法、廿四日結願、○六月八日無動寺玉泉院回峯千日行滿、賜綸旨

專修宗門之行業遂一千日大回之由、被聞食訖、寔爲佛法功隆三塔威嚴、彌可抽聖體安全四海泰平之懇祈者、

天氣如此、仍執達如件、

貞享二年六月八日　　右大辨在判

玉泉院法印御房

同三年丙寅十一月日吉神體彫刻被仰出、賜綸旨于大佛師法印左京同右京、同四年十月十一日事始云々、今度就彫刻、三門跡令旨賜候樣雖申請、無御許容、但天正年中尊朝親王令旨經孝法橋奉行之一通令所持云々、

同四年丁卯十二月日（一日イ）吉山王遷宮、

元祿六年六月。辭退、

第百八十八代入道一品公辨親王輪王寺、　治山經五箇月、

後西院第六皇子、母六條局贈正三位藤原定子、梅小路大納言定規卿養女、實佛光寺新坊治部卿堯庸女、　大僧正公海弟子、

元祿六年癸酉六月九日補座主、年廿五、戒十六、　上卿廣橋大納言、奉行左少辨宣顯、〇九月廿三日（三イ）聽牛車、上卿清水谷大納言、辨宣顯、奉行輔長朝臣、〇十月十四日辭座主、同十六日立京、下向於東武、

第百八十九代入道無品堯延親王妙法院、　治山十五年、

靈元院第六皇子、母菅中納言局庸子、五條大納言爲庸卿女、號少將內侍、　堯恕親王弟子、

（職前）元祿五年八月十九日於仙洞奉爲後水尾院御十三回御忌、御經供養、爲御導師、衆僧十二口參勤、于時座主堯恕親王、

同六年癸酉十月十八日補座主、年十八、戒八、　上卿裏松中納言意光卿、奉行小川坊城藏人俊淸、〇十二月日吉二宮早尾大行事上遷宮、依爲小破修理無勅使參向、

同七年甲戌五月三日臨時元三會執行、水野美作守勤仕、

同十年丁丑四月十九日德王院亮潤戒十八、年三十、申任大僧都、〇十月兩法華會執行、大會後、正覺院前大僧正豪鎭辭探題、

同十一年戊寅正月三日元三會執行、中根善太郞勤仕、〇七月二日（廿五イ）叙二品、

同十三年庚辰三月十八日下向日光山、爲大猷院殿五十會法會導師、六月朔日上京、〇十月法華會執行、當會訖而竹林院僧正元超辭探題、

同十五年五月十八日正覺院轉正御禮參內、

同年十月於橫河別請竪義執行、題者正觀院僧正、

頭註云、寶永二年三月桓武天皇九百年忌

寶永四年丁亥六月。（一日イ）辭座主、

第百九十代入道一品公辨親王輪王寺、　治山經六箇月、

寶永四年丁亥六月三日還補、今年依座主奏聞、被加探

題二口爲七口、勘例曰、（異本享保三年八月勅許覺王院正觀院等欵狀奏上云々、）

法華會竪義探題口數勘例、

最初一口、　座主慈惠大師、

康保四年五月九日　宣下、以禪藝已講可爲法華會探題、官班記、安和三年遂精義了、

二口、　座主慶命、

長元々年以敎圓法眼 遍救僧都被補探題、一會之內二人相並初例也、

三口、　座主明雲、

嘉應承安之頃被定置三口、

四口、　座主全玄、

文治五年 夏澄憲 源實靜嚴 覺什四人 相並初例也、

五口、　座主

永享嘉吉之頃爲五口、

十一月六日蒙准三宮宣旨、同月十六日辭座主、

第百九十一代入道二品堯延親王、妙法院、　治山經二年、五箇月イ

寶永四年丁亥十一月十九日（六イ）還補、第二度、上卿　　、

奉行　　、〇十二月八瀨童子賜綸旨、

同五年戊子閏正月正覺院□□任權僧正、〇同年二月二日於東宮坊修安鎭法、七箇日、〇六月根本中堂遷座之囘章、以元三會之例、可被備叡覽之事奏聞、有勅許、〇同月二十（一イ）日辭座主、

第百九十二代入道二品良應親王、曼殊院、　治山經二（一イ）箇日、

後西院第十皇子、母六條局、大納言定矩卿養女、良尙親王弟子、

寶永五年戊子六月廿一日補座主、年三十一、戒二十二、消息宣下云云、同月廿二日辭座主、不及拜堂、則日薨、三十一歲、號圓妙（明イ）院宮、

第百九十三代入道二品堯延親王、妙法院、　治山經二箇年、

寶永五年戊子六月廿三（二イ）日還補、第三度、同月廿七日根本中堂上遷座導師、九月廿四日授兩部灌頂於梶井道仁親王、〇十月實藏坊權僧正實觀（貞イ）補法華會探題、〇同月法華會被遂行、〇同六年三月（廿一日イ）辭座主、

第百九十四代入道無品道仁（二イ）親王、梶井、　治山經六年、

靈元院御養子、實貞致親王御子、准母新大納言局、藤谷中納言爲條卿女、

慈胤親王弟子、

寶永六年己丑三月廿二日補座主、年二十一、戒十二、上卿　　、奉行　　　、四月廿六日叙二品、五月廿一日（五イ）於仙洞修安鎮大法、六月十二日於新　院御所修安鎮大法、

正德元年辛卯十月法華會執行、新題者雞頭院、已講相住坊、擬講德王院、會行事密嚴院、奉行職事烏丸辨登山、四日靑門登山、內々大會御聽聞、御宿坊竹林院、

同二年壬辰四月就　新上西門院御事、爲座主宮仰日吉祭禮延引、追而六月廿日被遂行、○同月新上西門院御中陰法會、開結兩度御經供養被仰出、

同三年癸巳正月十四日就慈覺大師八百五　十年遠忌、於東塔、、、曼荼羅供執行、十二日十三日修法華八講、○八月十六日（八日イ）仙洞識仁御落餝御年六十、爲御戒師、○

同四年十月●辭座主、

第百九十五代入道無品尊祐親王青蓮院、　治山經五年、

　靈元院御養子、實邦永親王御子、准母帥局、東久世宰相通廉卿女、　上

　乘院大僧正尊　通受法師、靜慮院僧正良侄灌頂弟

子、

正德四年甲午十月八日補座主、年十七、（八イ）戒五、上卿日野權中納言輝光卿、奉行藏人左少辨藤原敬孝、宣命使五條少納言爲範朝臣、宣旨使官務小槻章弘、同月廿日補護持僧、勅使柳原左少辨資堯參入于門跡仰事由、○十二月廿七日善學院權大僧都子　曉任大僧都、奉行柳原左少辨資堯、

同五年乙未三月十九日下向　日光山、爲東照宮百回忌法會導師也、五月廿四日上洛、○四月八日日吉宮仕正榮宗仙各申叙法橋、奉行裏松辨、○同月日吉祭之事於前座主梶　井宮有御下知、當座主宮依日光下向也、○八月十六日被定法華會、奉行人柳原藏人左少辨資堯、○同月廿四日理性　院、、王照　院、、各申任大僧都、奉行裏松辨、　○同月廿　六日覺林　坊補探題、常照院補講師、長壽院補擬講、奉行柳原左少辨資堯、○九月廿九日爲拜堂登山、○同月理性院大僧都移轉武州川越大安寺、○十月兩法華會執行、座主宮有御聽聞、○十二月十　四日華德　院燒亡、○同月廿八日龍城院、、申任　大僧都、奉行柳原左少辨資堯、

同六年丙申三月十　日惠心院　嚴覺申　任僧正、奉行柳原

左少辨、松禪院台俊申任權僧正、（後號清淨林院後年改名寂眞）同廿八日各御禮參內、同日大智院、、申任大僧都、奉行柳原左少辨、○六月二日西塔勸學會（元亀以後退轉也）、再興執行之事、并同章准法華會可被備叡覽之事、御執奏之處今日勅許之由、奉行烏丸辨言上、○同月廿二日年號改元爲享保元年、

享保元年七月六日勸學會同 章被備叡覽、同月十一日令旨云、

昨夜自烏丸辨殿被召（經卿）、被申渡候者、今般就勸學會再興、奉行職事登山之事、遂奏聞候處、此儀年久令中絕、官家御記ニモ聢無之候、殊會再興同章奏覽之兩條、首尾能被仰出候上者、今般之願指扣、重而奉願時節可有之事ニ思召候段、攝政殿御命候、且綸言茂相加候間、此旨從 座主宮可被仰渡之由候條、右件被存知、重而被願上可然旨、座主宮御命如此候也、恐惶謹言、

七月十一日　烏居小路法眼（名判）

執行代

會行事

五役者中

八月十九日勸學會再興執行、座主宮御登山、爲證誠御著座、（廿日）、同廿一日御下山、○十二月廿三日樹下釆女資光、生源寺主膳業明、生源寺縫殿行侶、樹下左近友治、生源寺式部業德、各叙位宣下、奉行烏丸辨、○同月廿六日龍城院、、寶積院、、各申任大僧都、奉行勸修寺辨、

同三年（戊戌）二月廿 日唯心院智燈申任大僧都、奉行葉室左少辨賴胤、○四月廿四日吉祥院、、圓龍院、、各申任大僧都、奉行同人、○五月二日覺王院、、申任權僧正、奉行同人、同月廿五日參內、○自今年三箇年之間爲仙洞御所御願、日吉社和歌御法樂被爲有、依之於社頭御祈念之義被仰下、○六月十二（三イ）日辭座主、

第百九十六代入道一品公寛親王（輪王寺）

治山經五箇月、

東山院第三（四イ）皇子、母春日局（水無瀨宰相兼豐卿養女、實冷泉中納言爲經卿女）、公辨親王弟子、

享保三年戊戌六月十三日補座主、年二十二、七月廿一日異本廿三日聽牛車、八月　日吉山王社遷座、十月廿二日六イ辭座主、

第百九十七代入道二品道仁親王梶井、　治山經五年、

享保三年戊戌十月廿六日還補座主、上卿　　、奉行　　、宣命使　　、

同四年三月廿四日横川中堂正遷座之囘章被備叡覽、○六月廿五日日吉社司生源寺祝部行茂六十七歲、敍從三位、奉行藥室藏人辨賴胤、

同五年五月仙洞御願日吉社御法樂和歌、自享保三年至今年、三箇年御滿御祈念結願、○十二月廿三日敍一品、

同六年五月廿七日自青門以東久世入道、被問合、滋野井亞相五條三位兩卿勘出文曰、

天子玉璽、往古者多有之、近來少納言預御請印ニ、而內印外印共ニ一ツニ而相調、位記官符共ニ被押　御請印之時、少納言中務等列座、內竪頭持參御請印ノ封ヲ、少納言切候、而被押候、此外勅印近來無之、永補任之事者、子細有之由聞及候、有增者仁和寺ェ被下候永補任之例ニ、而他ノ御門跡ェモ被下候ト相聞候、御門跡號無之寺ニ者、多分無之事ニ候、延曆寺抔座主宮ノ外ヨリ被出補任候事、未考事候、

同七年十二月。十九日イ辭座主、

第百九十八代入道二品尊祐親王青蓮院、　治山九十イ箇年、

享保七年壬寅十二月十九日還補座主、上卿久我權大納言惟通卿、奉行勘解由小路權右中辨光潔、宣命使西洞院少納言範篤朝臣、同八年八月廿四日拜堂登山、

同十年乙巳三月十九日日吉宮仕惠昌、四十二歲、號伊勢園松光、同行邊、四十一歲、號同菊流、各申法橋、勅許、奉行中御門藏人辨宣誠、參賀之時經寅尋問松光、卽答曰、

宮仕家員數、十三家、

當時人數、十七人、

當時僧綱人數、九人、加兩僧合十一人、

申法橋年齡、四十歲以上、

申法眼哉、中絕、

衣體、凡僧黃衣白袴、僧綱以後着黑直綴、
任僧綱御禮ヶ所、披露職事之外ハ無行向、
十月兩法華會執行三日、奉行中御門辨有登山、○十
二月廿五日敎王院權大僧都、詔眞申任大僧都、奉行
坊城藏人頭辨後將朝臣、
同十一年丙午二月十七日眞藏院千葉院列參、就來八
月勸學會執行、被準法華會之例、可有勅使登山之樣
申請、享保元年再興之後、今度第二會也、同二十日被附奉行職事坊城頭
辨許、兩僧幷御使法橋業廣參向、同五月廿七日無勅
免之由、坊城頭辨申渡、六月廿四日被入回章叡覽、
○五月十二日戒善院、、申任權僧正、同月廿六日、參內、
祝部行侶四十歲、號生源寺宮內大輔、申叙正四位下、
祝部友治二十五歲、號樹下刑部少輔、申叙正五位下、
祝部業德二十五歲、號生源寺式部少輔、申叙正五位下、
祝部資信號樹下兵部少輔、申叙從五位上、
以上奉行坊城頭辨、
同月廿八日千手院、、申任大僧都、奉行坊城頭辨、
○七月五日於仙洞、奉爲新廣義門院五十回御忌、被
修御經供養、爲導師、法會傳奏園大納言基香卿、奉
行清閑寺左少辨秀定、下行米五拾石被渡之、○八月
勸學會執行、十九日有座主登山、廿日爲證誠著座、
廿一日御下山、○同月廿九日延命院惠嚴申任大僧
都、奉行坊城頭辨、○十月廿一日御實父邦永親王
薨、不及座主御籠居、○十二月三十日如恒例、今上
護持御本尊御撫物等六位藏人持參、則夜被始修長
日如意輪供、
同十二年丁未閏正月十五日正覺院僧正、、申任大僧
正、奉行坊城頭辨二月十六日參內、○三月廿一日惠
心院僧正高嶽申任大僧正、奉行頭辨四月二日參內、
○同日眞覺院大僧都、、申任權僧正、奉行同人、四
月二日參內、○同日千葉院權大僧都、、申任大僧
都、奉行同人、○五月二日五智院權大僧都、、申任
大僧都、奉行同人、○六月十一日正觀院權僧正子曉
今度依懺法講參勤、任僧正、吉祥院義麟理性院祖辨
各任大僧都云々、非座主執奏、稱別勅也、○十一月
廿四日什善坊重華申任大僧都、奉行同人、
同十三年戊申四月五日金勝院海旭申任大僧都、奉行
同人、○五月十九日以女房奉書、可有來月二日親王
御移徙、同十一日立坊等之御祈、於日吉社可勤仕之
由、被仰出、御壇料白銀三枚被出之、自親王御方同

御料白銀貳枚被出之、則日被仰下于社家、○同月廿二日春宮坊安鎮被修不動法、咒僧八口、奉行淸閑寺左少辨秀定、行事僧民部卿法印經寅、廿四日結願、下行米百石於二條倉被渡之、○　月　日別請竪義執行、○十二月廿日遺敎院、、申任大僧都、奉行頭辨、

同十四年己酉三月日吉社司生源寺從三位行茂、以成國（年月不知叙正三位）、友世（天文十五年之頃叙正三位）、之先例、申正三位之事、被仰合關白殿之後、被附今城頭中將許之處、無勅許、同廿七日被仰遣其由於輪王寺宮、（執當宛、坊官奉書如常、）○五月二日溪廣院眞藏院列參、明年勸學會執行之節、奉行職事登山之事再願申、同二日被附柳原辨許、（御使刑部卿、）被及奏聞、十二月十六日可有奉行登山之由、內々柳原辨被申渡、○六月十二日等覺院僧正惠順申任大僧都、奉行今城頭中將定種朝臣、○同日寺家宰相豪全病死、無子、依之富小路刑部卿言上、八月三日以富小路刑部卿、法眼養昌可有寺家相續之由、依梶井宮令旨、被定之趣言上、○八月十日戒定院、、申任大僧都、奉行今城頭中將、○同月晦日可有今年大會執行之儀、勅許被定、奉行人萬里小路左少辨、則日被仰下於會行事吉祥院大僧都義麟許、奉行法印經寅、○九月廿二日行泉院僧正、、（兼日光山修學院、）補探題、本覺院大僧都、、（兼號海龍王院、）補探題、本住院大僧都德潤補擬講師、奉行萬里小路左少辨植房、○十一月十日惠雲院義盤申任大僧都、奉行今城頭中將定種朝臣、○同月廿六日本覺院、、申任權僧正、奉行同人、十二月巳刻參內、

同十五年庚戌四月六日松林院權大、、淵泉任大僧都、奉行今城頭中將、○六月二日就來八月西塔勸學會、奉行職事可有登山之事御執奏、今日勅許、自今以後每勸學會可差向奉行人之旨也、則日被仰下于會行事、○八月十八日勸學會執行、今度座主宮無登山、奉行柳原右少辨光綱登山、大學頭正覺院、前大僧正、、、會行事溪廣院、威儀師高橋大藏卿、（仁和寺坊官、）從儀師一條式部卿、（同上、）有登山、同廿四日座主御禮會、行事五、役者一人、寺家等列參、白銀一枚御菓子一箱獻上、則日奉行亭有行向、被添御使渡邊采女、○十月三日正觀院僧正子曉轉任大僧正、奉行今城藏人頭中將、○十二月七日爲仙洞御痲疹御祈、於粟田口本坊始修不動護摩、九日結願、被進卷數、○同月十九日辭座主、同月廿五日可爲座主如元之旨、以萬里小路右中辨被仰出、

同十六年辛亥正月廿五日溪廣院、、申任大僧都、○二月八日正觀院子曉舊冬轉大之御禮、今日參內、（于時兼住談山學頭竹林坊、）○同月十六日辭座主、○四月七日日吉社司樹下刑部友治、生源寺式部業德、樹下兵部資信等申加級、勅許、奉行柳原右少辨光綱、○同月廿日辭職之事聞召之由、以萬里小路右中辨被仰出、然而不被補新座主之間、山門執行代及訴訟、于時自第一座道仁親王、以傳奏中山前大納言被經奏聞之處、去延寶三年十二月廿六日梶井盛胤親王座主辭退之後、同四年二月迄不被補新座主、其間尙爲前座主梶井宮被申預云々、被任件例、於今度者靑蓮院宮可有御預云々、仍其旨被仰下於延曆寺也、

第百九十九代入道一品公寬親王（輪王寺、）

治山經六（五イ）箇月、

享保十六年五月廿七日還補座主、（今月七日入京、宿所廬山寺、）上卿花山院大納言常雅卿、奉行　　、八月廿七日蒙准三宮宣旨、十月九（八イ）日辭座主、同月十日發駕下向關東、

第二百代入道一品道仁親王（梶井、）　治山經三年、

享保十六年辛亥十月九日還補、（第三度、）上卿　　、奉行　　、宣命使　　、○同十七年壬子四月廿四日別請竪義會執行、探題海龍王院、已講覺林坊、擬講行光坊、○八月十九日御教書曰、（爲善私曰、靈元院尊儀御中陰歟、）

來八日
舊院四七日、於般舟三昧院可被行
御經供養、御導師可令參勤給者、依
天氣、上啓如件、
八月十九日　左中辨秀定
謹々上正覺院前大僧正御房
追申題名僧十口可被奉參候也

同十八年癸丑四月七日日吉宮仕法師潤昌、（四十五歲、）同李仙、（四十一歲、）申叙法橋、○五月十九日薨、（四十五歲、）葬于魚山、追號悉智心院宮、

第二百一代入道二品尊祐親王（靑蓮院、）　治山經四年、

享保十八年癸丑六月十三日還補、（第三度、）上卿高辻中納言總長卿、奉行廣橋左少辨兼胤、宣命使東坊城少納言長誠朝臣、宣旨使壬生官務盈春、○八月廿二日來十月法華會奉行人可爲淸閑寺左中辨之由被定之、同廿八日探題講師等任申請勅許、則日回章被備天覽、

同廿九日被返下、九月廿九日被改奉行人爲廣橋辨、○十月兩法華會執行、奉行藏人辨登山、○十二月九日華藏院、、任大僧都、奉行柳原辨、○十二月十三日爲東山院尊儀廿五回御忌、於禁中請四箇大寺、被修法華八講、十七日結願、

一座　興福寺別當二品尊賞親王、年三十五、戒二十五、
　靈元院第七皇子、一乘院門主、

二座　天台座主二品尊祐親王、年三十七、戒二十四、
　靈元院御養子、青蓮院門主、

三座　不參 東大寺別當無品尊孝親王、年三十三、戒二十一、
　同帝御猶子、勸修寺門主、

四座　不參 園城寺長吏無品義周親王、年二十、戒九、
　同帝御猶子、實相院門主、

奉行　甘露寺右少辨規長。

山門參勤、

正覺院前大僧正、

戒善院大僧都貫統、年 戒
　結願御勸賞可追申請云々、十二月十四日以弟子法印權大僧都義順、申任大僧都、

寶園院大僧都亮顒、年 戒
　同上、追而十二月十四日以弟子法印權大僧都義堂、申任大僧都、

惣持坊大僧都詔眞、
　同上、追而十二月十四日以弟子法印權大僧都義門、申任大僧都、

法曼院大僧都義空、
　同上、追而十二月十四日以弟子法印權大僧都眞了、申任大僧都、

花德院法印權大僧都鷄退權律師玄覺、
　結願之時叙法眼、追而十二月十四日再推任大僧都、

同十九年甲寅正月三日慈惠大師七百五十回忌於四季講堂法會執行、○四月十五日社頭拜賀、十六日拜堂登山、○五月廿九日西塔執行代溪廣院參上、當年勸學會可有執行之處、就御修覆之御沙汰、延引之旨言上、六月十一日龍城院、、德王院、、各申任大僧都カ、奉行柳原辨、○十二月十三日妙音院權大、、仙順申任大僧都、奉行同人、

傍書 十一月廿七日舊來用候護持御古御本尊、此度新寫被仰出、仍古御本尊座主職ヱ御預ヶ、御辭退之砌御返上可有之事、

同廿年乙卯三月十一日以女房奉書、於日吉社御讓位之御祈被仰出、御撫物一合、白銀三枚、幷東宮御撫物一合、白銀二枚等、被出之、爲御受禪之御祈、禁裏御撫物一合、白銀貳枚、春宮御撫物一合、白銀貳枚

等、被出之、御移徙御祈、是亦被仰下也、則此由被仰下于日吉社司、同月廿四日卷數獻上、御撫物返上、○同月三十日御移徙御祈之卷數獻上、御撫物返上、○同月十二日於仙洞被修鎮不動法、(助修十口、)奉行甘露寺右中辨親長、行事僧治部卿法眼業廣、同月十四日結願、御下行米百石被渡之、○同月三十日被補新帝護持僧、被渡御撫物御本尊等、○五月十八日授灌頂於上乘院祐辨、○十月十一日以女房奉書、來月三日可有御卽位、從來十九日於日吉社御祈禱被仰出、御撫物白銀三枚等被出之、廿九日卷數獻上被附長橋局、○同日於延曆寺御卽位御祈、被仰出從來十九日一七箇日可勤修之旨、奉行勸修寺藏人辨執達、則日被仰下于妙音院、同廿九日卷數被附奉行辨亭、御使法橋經州、十一月廿八日樹王院、、申任大僧都、奉行柳原藏人辨、

同廿一年(丙辰)二月被奉授十八道於太上天皇、○四月廿八日有年號改元、爲元文元年、

元文元年六月十二日奉授大日供於上皇同月廿六日辭座主、

頭註云、六月廿六日去年御預リ之護持古御本尊御返上、七月二十五日敕使裏松辨殿御直ニ御渡、

七月廿四日辭職聞召之由、柳原藏人頭辨言上、

第二百二代入道二品堯恭親王(妙法院、) 治山經十年、(三イ)

靈元院第廿二(十六イ)皇子、母右衞門佐局、(松室備中守重篤女、)

堯延親王資、

元文元年七月廿四日補座主、(年廿歲、戌十、) 上卿 、

奉行 、宣命使 、

同二年四月十四日日吉祭禮被遂行、但依仙洞崩御、可有如何哉、內々被仰合關白殿之處、依爲觸穢前、穩便執行可然之由、依之爲座主仰有此儀云々、被停止鳴物也、○同月廿九日中御門院尊儀御中陰御經供養御導師被仰下、

來月十三日

舊院二七日於般舟三昧院可被行

御經供養、御導師可令參勤給者、依

天氣上啓如件

四月廿九日　右中辨規長

謹々上正覺院前大僧正御房

十月止巧安院之號、改爲大興坊、

同三年(戊午)二月十七日日吉社司祝部資光申叙從三位、(年六十二歲、)○六月三日西塔西谷惣代放光院參上、赤

山社當秋冬之內造畢、正遷宮日取之事、先達而地鎭日取、自仙洞御所被成下候處、當時仙洞不被爲有候故、以後水尾院樣以來之御由緒、此度從禁中御日取被成下候樣願出、幷先年御紋付御幕翠簾等被下置候處、不動堂ニ納置、回祿之節燒失仕候ニ付、此度御寄附奉願候旨也、則雖被及內々御沙汰、無勅許、九月廿八日 正遷宮、常智院隱居、皆如院導師勤仕云云、日取之事於院內吉日令治定云々、

同四年己未五月三日臨 時元三 會執行、關東若御所御勤仕、別當惠心院探題前大僧正高嶽、精進代金剛院實恕、別當代覺常院惠順、○七月十日日吉社司祝部業明申叙從三位、六十九歲、○九月永補任之事自禁中被尋下、依之書付被出之、

同五年庚申四月就中 御門院御 國忌、來十一日於般舟院御經供養導師之事、大原佛眼院僧正可被仰付哉、內勅之旨、依之座主幷前座主被御合、妙法院 青蓮院 姉小路頭中將許江被仰立、當時正院家極官人體闕如之故云々、雖有子細、所詮御訴訟聞召、上乘院大僧都導師參勤被仰下也、○十一月廿七日西塔中堂正遷座導師參勤、

寬保元年辛酉十二月十九日 於內裏爲 辛酉 革命御祈、被修不動大法、七ヶ日、

同二年壬戌六月廿八日、來八月勸學會 威儀師從儀師參勤之事、去享保十五年 八月 爲寺家催、蒙座主宮仰、以折紙申達候處、以來堅文之樣、內々望申之旨、寺家伺申座主御氣色之上、寺家認遣、

來八月勸學會就執行、
勅使日野西辨殿登山ニ候、如先年
下役人被召連可有參勤之旨、依
座主宮仰、如此候也、恐々謹言、
六月廿八日 養 昌
惣在廳法印 寺家法印

八月勸學會執行、座主宮登山、爲證誠著座、勅使奉行 、大學頭 、○十月二日慈眼大師百回忌於上坂本慈眼堂法會執行、自青門以使僧被備葩二十葉、

同三年癸亥四月廿六日橫川中堂外遷座、爲尊師、座主宮登山、

同四年甲子三月廿四日橫川中堂正遷座之回章被備叡覽、

延享二年乙丑四ィ四月八日辭座主、四ィ五月廿二日聞召、

第二百三代入道一品公遵親王 輪王寺、 治山經五箇月、

中御門院第二皇子、母權典侍局、（淸水谷大納言實業卿女、）
公寛親王附弟、
延享二年乙丑五月廿六日補座主、（年廿四、戒十五、去十三日上洛、廿二日御內意云々、）六月廿二日聽牛車、○七月十六日松林坊燒失、○同月廿日拜堂登山、廿二日拜堂檢封、着座、六條中納言、冷泉右兵衞督、奉行坊城辨等登山、明曆年中尊敬親王例云々、○九月十三（六イ）日辭座主、同十八日立京、下向于東叡山、
或記云、今年六月之頃、於江戶以梶井宮坊官寺家宰相、被補延曆寺寺家職云々、

第二百四代入道一品尊祐親王（靑蓮院、）　治山經三年、
延享二年乙丑九月廿四（十六イ）日還補、（第四度、）上卿大炊御門大納言經秀卿、奉行烏丸藏人頭辨光胤朝臣、宣命使西洞院少納言、○十月廿九日地福院廣榮任大僧都、（三十八歲、）○閏十二月廿四日聽牛車、（四十八歲、）上卿三條大納言實顯卿、奉行葉室藏人頭辨賴要朝臣、
同三年丙寅二月十三日依儲君御不例、有勅命、令參御加持給、
頭註、四月廿三日護持古御本尊永々御預ヶ萬里小路辨殿持參、
八月十六日爲拜堂登山、十九日西塔勸學會、證誠出仕、○廿八日松林坊大僧都正偏（四十三歲、相州產、）囘峰行者一千日滿行、但中絕之處今度再興云々、追被及奏聞、
○十月六（十イ）日賜綸旨於松林坊、

山門囘峰一千日滿行之事、任先例達叡聞訖、宜專寶祚延長四海安寧之懇祈、建佛法紹隆行門繁興之鴻基者、依天氣、執達如件、
延享三年十月六日　左少辨判
松林坊大僧都御房

同月十日松林坊參內、於淸涼殿勤高加持、次准后親王女御緋宮同令請加持給也、
同四年丁卯三月五日以女房奉書、被仰出於日吉社御元服立坊御祈、御撫物一合、白銀貳枚、親王御撫物一合、白銀一枚等、被出之、同月六日以綸旨、可有來十六日立太子節會、風雨無難之御祈、於延曆寺可令修行、被仰下、奉行萬里小路左少辨、同七日召執行代被仰渡、○同月十日日吉宮仕伊勢園行盤、（號松本、四十三歲、）伊勢園春沼、（號正林、四十一歲、）各申叙法橋奉行正親町藏人頭中將、○同月十七日日吉社御祈滿座卷數二合、御撫

物二合、被附奏者所長橋局、○同日延暦寺一寺一統之御祈滿行之卷數一合、被附奉行萬里小路辨亭、○四月十六日於櫻町御所、被修鎭不動法、助修八口、奉行萬里小路左少辨、同十八日以女房奉書、御下行米百石被渡之、○同月十九日以女房奉書、御讓位御受禪御祈、於日吉社可勤仕、御撫物二合禁裏、東宮、白銀五枚、貳枚、被出之、同廿九日卷數獻上、○同日於延暦寺、同御祈一寺一同可抽丹誠之旨、被仰出、奉行左少辨、○同日於中宮新殿、被修鎭不動法、助修八口、同廿一日結願、追而御下行米百石被渡之、○五月三日被補新帝護持僧、○八月十二日本覺院權大僧都亮潭四十歲、申任大僧都、奉行正親町藏人頭中將、○同月廿八日以女房奉書可有來月廿一日御卽位、於日吉社御祈禱被仰出、御撫物幷御壇料白銀三枚被出之、○同月廿九日以綸旨、同御祈於延暦寺一寺一同可抽丹誠之旨、被仰出、奉行萬里小路左少辨、○九月十六日座主宮病危、十月五日辭座主、同月七日(イ作九月十六日)薨、五十歲、葬粟田山西丘、追號蓮華壽院一品親王、

第二百五代入道二(十イ)品堯恭親王妙法院、　治山經三年、

延享四年丁卯十月廿三日還補座主、寬延元年戊辰八月四日以勅使坊城頭辨、可有修宮御得度戒師之旨、被仰出、同十七日於青蓮院門蹟、修宮御得度勤戒師、同二年己巳四月朔日辭座主、

第二百六代入道一品公遵親王輪王寺、　治山經四箇月、

寬延二年四月四日還補座主、同月十一(イ十日十一日二ケ日ニ作ル)日於仙洞、奉爲中御門院十三回御忌、勤庭儀曼茶羅供導師、御宿忌法華三昧被行之、衆僧八口、五月廿二日拜堂、七月十三日蒙准三宮宣旨、同月廿六日辭座主、八月四日下向武州寬永寺、

第二百七代入道二品堯恭親王妙法院、　治山十四年、

寬延二年八月十日還補、第三度、上卿奉行小川坊城頭辨、宣命使、

同三年四月廿四(三イ)日依仙洞崩御、日吉祭禮延引、追而八月十四日被遂行、○八月勸學會執行、

寶暦元年辛未十二月廿三(四イ)日依大雪、根本中堂屋根崩落、於茲同廿八日座主登山之處、正面之屋根崩落之間、不及御入堂、大講堂入堂、同廿九日下山、

同三年癸酉二(三イ)月十九日於青蓮院門跡、喜久宮得度爲戒師、○四月廿一日午日遂行日吉祭、依來廿三日御

國忌也、
同四年甲戌四月廿三日雖爲日吉祭禮式日、依櫻町上皇御祥忌、被引上、今月廿一日午日被遂行、○八月十六日玉泉院權大僧都法珍囘峯一千日滿行、九月廿二日參內、勤玉體加持、十一月四季講堂正遷座前囘章叡覽、
同五年乙亥五月廿八日叙一品、
頭註、三月植武天王九百五十回忌、山門於院々執行、
八月五日赤山社上遷宮、○九月八日大宮社上遷宮、勅使萬里小路藏人辨參向、○十一月十五日酉尅根本中堂修理訖、本尊正遷座、勤導師、十月廿七日同章天覽、
同六年丙子三月廿七日惠心院權僧正忍達轉任僧正、○同日日吉社司樹下大藏大輔友治申叙從三位五十五歲、○四月十一日被遂行日吉祭、來廿三日依爲御國忌也、○九月十九日明德院權大僧都惠航囘峯千日滿行、閏十一月四日賜綸旨、同八年十一月廿四日參內、天顏拜奉加持、
同七年丁丑三月廿九日日吉社司祝部業德五十六歲、申叙從三位、○十一月十九日入木道被奉傳授於今上皇帝、
同八年戊寅六月十日於惠心院、惠心僧都像再興開眼供養執行、○八月八日自輪王寺宮以御使、惣持坊今度山門安樂院律義復往古、被改大乘戒之旨被仰進、○同月廿九日觀明院大僧都義嚴囘峯一千日滿行、
同十年十一月廿九日參內奉加持、
同十年三月十六日梶井百宮得度戒師、
同十一六イ年辛巳三月廿七日日吉宮仕舜昌四十歲、叙法橋、○同月廿九日横川中堂遷座導師、○八月於東塔南谷三昧流灌頂再興執行、大阿闍梨尊勝院文什僧正、
同十二年壬午三月廿四日日吉社司祝部行雄十五歲、申叙從五位下、○同閏四月十四日聽牛車、○同月廿一日辭座主、被附頭辨、同五月十八月聞召、

第二百八代入道一品公啓親王輪王寺、　治山經七箇月、

中御門院御養子、准母町局、錦小路極﨟丹波賴庸女、實小森宮内權大輔賴季女、實閑院彈正尹眞イ直仁親王子、
寶暦十二年壬午閏四月十六日京著、五月十八日補座主、年三十二、戒十九、六月十九日聽牛車、七月廿九日桃園院尊儀御中陰初七日御導師、正覺院前大僧正豪覺、以御教書被仰下、

來月廿六日
桃園院御中陰初七日、於般舟三昧院可有御經供養、御導師可令參勤給候

由、攝政殿御消息之所候、仍上啓如件、
七月廿九日　右中辨俊臣
謹々上正覺院前大僧正御房
十月四日檢封阿闍梨宣下、同月十日拜堂、十一月長講會囘章每年可有　叡覽之旨、幷來未年正月慈覺大師九百年法會之囘章可有　叡覽之旨等、以元三會之例御奏聞之所、有勅許、同月。十五日イ辭座主、同十九日立京、十二月五日著江戶、

第二百九代入道二品二イ堯恭親王妙法院、　治山三三イ箇年、

寶曆十二年壬午十一月十五日還補、第四度、同十三年七月廿五日於常御殿御祈略鎮歟、大將參勤、九月十六日橫川中堂正遷座爲導師登山、同月十八日西塔釋迦堂正遷座勤導師、○十月八日以女房奉書、來十一月廿七日御卽位御治定、自來十一日一七箇日、於日吉社可有御祈禱、御撫物一合白銀三枚被出之、此由青蓮院宮被仰出、同九日生源寺三位申渡、堯民奉、同十七日社司惣代樹下兵部少輔、樹下掃部、參入于靑蓮宮、御撫物返上、卷數一合持參、卽日被附奏者所御使隱岐堯民、
爲善按于時座主妙門也、不知其故、仍記于茲、可有後勘、

同十四年甲申五月十五日日吉社司祝部業福申敍正五位下、
明和元年甲申八月十七日勸學會、執行大學頭正覺院前大僧正豪覺、會行事觀泉坊、副行事等覺院、○閏十二月四日辭座主、被附今城頭中將、同五日薨、四十九歲、追號三摩地院宮、廿日葬送於日嚴院、有御中陰之儀、

第二百十代入道二品尊眞親王靑蓮院、　治山八九イ箇年、

櫻町院御養子、准母開明門院、姉小路大納言實武卿女、　實伏見一品貞建親王子、
明和元年甲申閏十二月十六日補座主、年二十二歲、戒十二、　上卿中山中納言愛親卿、奉行今城藏人頭中將定興朝臣、宣命使五條少納言爲璞朝臣、○同月十九日大林院權大僧都全徵申任大僧都、同日德王院 權大僧都亮道、四十歲、申任大僧都、奉行廣橋藏人辨伊光、
同二年乙酉二月十一日日吉社拜賀、幷拜堂登山、○三月十八日下向于下野國日光山、爲東照宮百五十回忌　勅會御導師、靑門梨門御同伴、○六月十九日一音院權大僧都觀如年四十一、戒二十八、申任大僧都、奉行廣橋辨、○八月朔日日吉社司樹下兵部少輔祝部成傳十二

五歳、申敘正五位下、奉行廣橋頭辨、○同月九日來十月法華會被定奉行人、○同月廿日以雜足院良議補法華會講師、以乘實院慈周爲來講師、○同月廿四日法華會問章被備　叡覽、
同三年丙戌四月九日被遂行日吉祭、來廿一日二之申依御國忌也、○十二月十九日寶嚴院權大僧都覺邦年四十一、戒三十、申任大僧都奉行廣橋藏人頭辨、
同四年丁亥正月十三日御敎書到來、

來月歎道御灌頂可被遂無爲之節御祈、自來廿八日一七箇日、一寺一等可抽精誠之旨、可令下知延曆寺給者、攝政殿御消息所候、以此旨宜令洩座主宮給、仍執啓如件、

正月十三日　權右中辨光祖

謹上上乘院大僧都御房

御下知之事如例式、○二月廿日日吉社司樹下正五位下祝部成傳（ナリスケ）卒、年廿七歳、○五月朔日日吉社司祝部行雄廿歳、申敘從五位上、奉行廣橋頭辨、○八月七日於准后新殿修安鎭不動法、助修八口、奉行烏丸權右中辨光祖、同九日結願、御下行米百石追而被渡之、○九月四日於東塔別請竪義執行、探題正觀院前大僧正、竪者乘實院、問者雜足院、執事玉照院、○閏九月十三日先年安樂院退散之上公儀出訴之律僧六人、於松平伊賀守家御改制法義願之儀、依背輪王寺宮御下知、山門相構追放被仰付之旨、同月廿二日以彼宮御使、被仰進、

東叡山勸善以下六人云々、或云、山門五智院大僧都海藏以下六人、各退院之上三山御構、惠心院前大僧正忍達退院隱居云々、

十月三日於葛川明王堂、相應和尚八百五十回忌引上法會、北嶺行者勤仕、○十一月二日三日建立大師八百五十回正忌、於無動寺法會執行、被差向座主宮代、拜備白銀貳枚、○同月偏明院前大僧正孝賢轉住惠心院、
同五年戊子正月廿九日御敎書、幷請文、

來月十九日
立太子節會之日時、無風雨難可被遂行無爲之節御祈、從來月八日一七箇日、一寺一等可抽精誠之旨、可令延曆寺給者、攝政殿御消息之所候、以此旨宜令洩申座主宮給、仍執啓如件、

正月廿九日　　權右中辨光祖（爲善私云烏丸殿也）

謹上上乘院大僧都御房

謹請

來月十九日可有

立太子節會之日時、無風雨難可被遂行

無爲之節御祈、從來月八日、一七箇日一寺

一等可抽精誠之旨、可令下知延曆寺由、謹

以所請如件、

正月廿九日　　天台座主判請文

權右中辨殿

則日召執行代執達坊官、申渡於根本中堂三塔僧侶、修法如例、七箇日後卷數獻上、自座主宮以御使、被附奉行烏丸亭也、〇二月四日惠心院前大僧正孝賢、（七十歲、）被許紫衣著用、賜座主令旨、〇同月五日立坊御祈於日吉社勤仕之事、以女房奉書被仰出、御撫物御初穗白銀一枚被出之、從親王御方同御祈御撫物幷白銀一枚等被出之、則日召社司坊官申渡、七ヶ日後御撫物返上、卷數二合持參、被附長橋局、〇同月廿六日十妙院權大僧都觀道（年四十三戒三十、）申任大僧都、奉行廣橋頭辨、同廿九日御禮言上、禁中椙原十帖、末廣一本獻上、（同女中金百疋、）披露職事金百疋、（案内添使青銅廿疋、）上卿金百疋、兩傳奏申御禮、（無進物、）職事烏丸亭迄座主御使望月主計被差添、（青銅廿疋贈之、）座主宮御禮金百疋、（坊官人別青銅三十疋、）〇三月廿六日惠心院前大僧正孝賢於關東遷化、追而四月七日注進、〇六月廿七日鷄足院大僧都良謀轉任惠心院、〇七月五日東宮御元服御祈被仰出、

來月可有

東宮御元服之日時、無風雨難可被

遂行無爲之節御祈、從來廿九日一七

箇日、一寺一等可抽精誠之旨、可令下知

延曆寺給者、攝政殿御消息之所候、以

此旨宜令洩申座主宮給、仍執啓如件、

七月五日　　權右中辨光祖

謹上上乘院大僧都御房

追八月六日滿座執行代白毫院卷數持參、同七日以御使被獻禁中奏者所、〇同月九日依宮中懺法講勸賞、惠光院義遍（五十八歲、）惠心院良謀等任權僧正、〇同月十三日依勅命新寫八卷、（去正月廿六日被蒙仰、今日獻上之、）〇八月十七日來十月兩法華會執行之事勅免、奉行烏丸權右中辨被定之旨被仰下、

來十月就兩法華會執行、奉行職事
參向之事、被遂　奏聞之處、任例被
仰出候、此旨宜被存知之由、
座主宮御氣色所候也、仍執達如件、
　明和五年八月十七日　法眼判奉
　　會行事御房
上包〆
會行事御房　法眼信養奉
來十月就兩法華會執行、奉行職事
參向之事、被遂　奏聞之處、任例被
仰出候、此旨宜存知之由、奉得其意候、
恐惶謹言、
　明和五年八月十七日　會行事判
　　武田法眼
同月十九日四、谷惣代穀王院光聚坊寺家宰相等列參
大會執行　勅許之御禮白銀貳枚進上之、於臺子間
勸盃、於白書院有御對面、則日奉行烏丸辨亭各參向
進物如例、御添使寺家宰相勤之、○同日葛川目代明德院
參殿、今般花藏院滿孝依回峰千日行滿、如先例參內
綸旨頂戴等之儀御執奏願申、則被經奏聞之處、九月
十五日勅許可有、來十九日辰時參內之旨、奉行廣橋
藏人頭辨被申渡、卽賜　綸旨、
　山門回峰一千日滿行之事、任先例達
　叡聞訖、宜專
　寶祚延長四海安寧之懇祈、建佛法紹
　隆行門繁興之鴻基者、依
　天氣執達如件、
　　明和五年九月十五日　左中辨判
　　　華藏院權大僧都御房
右綸旨九月十九日下賜云々、○同月廿七日護心院
權大僧都堯眞年四十、戒廿九、申任大僧都、光聚坊權大僧都
亮中、年四十二、戒廿九、申任大僧都、奉行廣橋藏人頭辨、○同
月廿九日兩法華會竪義探題講師等任、申請宣下、
　　惠光院權僧正義遍補探題、
　　惠心院權僧正良諶補探題、
　　乘實院大僧都慈周補講師、
　　習禪院　補擬講師、
九月十九日華藏院權大僧都滿孝依千日行滿、今日
參內、自諸大夫間昇降、於淸涼殿廣廂二疊目拜　天
顏、奉玉體加持、奉行廣橋藏人頭辨、座主御添使永
原與膳被差向、捧物云、

禁裏御所
檀原十帖、末廣一本、白銀貳枚、
長橋局　引合十帖、
女院御所
檀原十帖、末廣一本、
女中一人　引合十帖、
東宮御所
檀原十帖、末廣一本、
女御准后
檀原十帖、末廣一本、
女中一人　引合十帖、
攝政殿
檀原十帖、末廣一本、
傳奏兩卿　引合十帖宛、
職事　引合十帖、金子貳百疋、
雜掌二人　青銅三十疋宛、
案内一人　同　三十疋、
座主宮
檀原十帖、末廣一本、白銀一枚、
坊官一座六人　金百疋宛、

御添使一人　青銅三十疋、
同六年己丑正月廿九日日吉社司樹下掃部頭祝部成治叙、中叙從五位下、奉行柳原藏人頭辨、○二月朔日廿五來八月勸學大會執行之事、會行事德王院、副行事常樂院、參殿言上、同十七日附長橋局御奏聞、御使渡邊右京少進、
○同廿三日聞召、以烏丸右中辨爲奉行、
來八月就勸學會執行、奉行職事參向之事、被遂　奏聞候處、昨廿三日被　仰出候、烏丸右中辨殿被奉之旨言上候、此段宜被存知之由、依座主宮御氣色、執達如件、
二月廿四日　法眼判奉
會行事御房
來八月就勸學大會執行、奉行職事參向之事、御奏聞之處、奉行烏丸右中辨殿被仰出候旨、敬承仕候、恐惶謹言、
二月廿四日　會行事亮道判
武田法眼御房
追而廿六日會行事副行事寺家等列參、爲御禮白銀

貳枚進獻之、則日各參向烏丸家、御使隱岐兵部卿被差添、○三月廿五日日吉社司生源寺主膳正祝部業福（三十歲）、申叙從四位下、（中四年）、同宮仕伊勢園松山仙榮（四十三歲）、伊勢園嘉吉同榮（四十二歲）、各申叙法橋、奉行柳原藏人辨、○同月廿八日勸學會行事言上、來八月爲御證誠御登山之事、雖申請無許容、○八月十七日西搭勸學會執行、大學頭正觀院大僧正、會行事德王院、奉行烏丸右中辨登山、○九月四日於西搭別請竪義執行、探題惠心院權僧正良讃、問者住心院慈周、竪者習禪院、○十二月、每歲德川公方家御祈禱之卷數、二月十六日被進城中之處、年始之御使者二月朔日登城之事故、同日被差出度之事、於江戸寺社奉行牧野越中守亭、以御使渡邊右京少進被仰入、同七年正月廿七日於土岐美濃守亭、以來二月朔日年始御使之節、可被進候樣、被申渡、○十二月十八日禪林院、權大僧都實乘（年四十五、戒三十二）、申任大僧都、奉行柳原藏人頭辨、○同月日吉社司生源寺主膳正私亭燒失、

同七年（庚寅）二月朔日、關東將軍家每年御祈禱之卷數、自今年今日進之、御使渡邊右京少進、○同月廿八日觀泉坊權大僧都義梁（四十三歲）、申任大僧都、奉行烏丸左中辨光祖、○同月廿九日毅王院大僧都義本轉任愛宕山長床坊之由言上、今日被仰屆鷲尾頭中將柳原頭辨許、○五月二日上乘院權大僧都亮圓（年四十三、戒三十一）、申任大僧都、奉行烏丸左中辨、上卿日野中納言、○六月十日觀泉坊大僧都義梁隱居之由言上、今日被仰遣鷲尾正親町兩頭中將許、○同月十八日樹王院權大僧都秀順（年四十二、戒三十一）、申任大僧都、奉行鷲尾藏人頭中將、○同日日吉社司樹下式部祝部成範（ナリノリ）（三十一歲）、申叙從五位下、奉行裏松藏人左少辨、○閏六月廿四日天下安全寶祚長久東宮延命御祈、從來廿八日到來月五日一七ヶ日、一寺一等可抽精誠之旨、被仰出、如例延曆寺令下知、○十月廿七日可有來月廿四日御讓位日時無風雨難可被遂行、自十一月十八日辰時、一寺一同可抽丹誠、同廿五日可有卷數獻上之旨被仰出、則日被召執行代白毫院被仰渡、開闔刻限如此雖被仰出、不法之間、爲座主宮仰夕座開闔候樣被仰渡也、○十一月十六日、於日吉社御讓位御祈禱、以女房奉書被仰出、禁中御撫物一合、白銀五枚、春宮御撫物一合、白銀貳枚等、被出之、來十八日可有開闔之旨、則被仰下於社司、○同月廿五日被補新帝護持僧、奉行烏

九左中辨光祖、○十二月八日於仙洞修安鎮法、助修廿口、
奉行左中辨光祖、行事僧法眼經隆、同十四日結願、
御下行米三百石被渡之、○同月十九日於日吉社、明
年中仙洞御祈禱、與禁中同樣勤仕、被仰出、御撫物
一合、御初穗白銀三枚、被出之、
同八年辛卯三月十一日惠光院權僧正義遍六十一歲、庭田故大納言猶子、
申任僧正、奉行鷲尾藏人頭中將、惠心院權僧正良諶五十九歲、正親町三條宰相中將猶子、
申任僧正、奉行同上、乘實院兼住心院大僧都慈周補探題、五十八歲、奉行烏丸藏人辨、○同月
十五日、可有來月下旬御卽位御祈、一寺一同可抽丹
誠旨、被仰出、○同月廿四日住心院大僧都慈周五十八歲、
申任權僧正、奉行烏丸藏人辨、○四月十六日可有來
月立后御祈、延曆寺一寺一等可抽精誠之旨、被仰下、
○五月廿日清泉院大僧都德廣補擬講師、奉行烏丸
藏人辨、○六月二日法華會執行、奉行烏丸辨登山、
就傳敎大師九百五十回遠忌、於淨土院曼荼羅供執
行、導師座主宮、依御不例、御名代正覺院前大僧正豪覺勤仕、兼日被備白銀十
枚、今日爲御代拜、無量壽院大僧都卽明登山、追而
十月四日座主御登山、詣淨土院給、○十二月五日圓
乘院權大僧都實道申任大僧都、

同九年壬辰正月十六日無動寺寶珠院燒失、○三月朔
日日吉社司祝部行雄二十五歲、中四年、號生源寺民部少輔、申敘正五位
下、奉行日野藏人頭辨資矩朝臣、○同月廿八日常知
院權大僧都廣實年四十一、戒二十八、申任大僧都、奉行甘露寺右
少辨篤長、○四月廿二日辭座主、

第二百十一代入道二品一イ常仁親王梶井、　經二一イ箇日、

桃園院御養子、准母恭禮門院富子、一條前關白兼香公女、實有
栖川職仁親王子、

明和九年四月廿二日補座主、年廿二、戒十三、同日敘一品直
辭座主、同月廿三日薨、廿二歲、追號無上心院宮、葬魚
山、

第二百十二代入道二品尊眞親王靑蓮院、　治山十五十イ箇年、

明和九年四月廿八日還補座主、上卿淸閑寺中納言
益房卿、奉行烏丸藏人頭左中辨光祖朝臣、宣命使西
洞院少納言信庸朝臣、○五月廿二日、於日吉社仙洞
御所御祈禱、更被仰出、御撫物一合、御初穗金貳百
疋、被出之、卽日御下知、○七月四日爲天下泰平寶
祚長久御祈、延曆寺一寺一同可抽丹誠、自來十二日

主十九日、勤仕之由、奉行甘露寺右少辨篤長一通到來、則召執行代被下知、同月廿二日卷數　禁裏　仙洞奉者所被獻之、御使鳥居小路經隆、○同月晦日華藏院權大僧都湛孝年四十四、戒三十一、申任大僧都、奉行烏丸頭辨光祖朝臣、○十月女御殿略鎮法、金剛院前大僧正實恕參勤、同御下殿略鎮法、持明院權僧正良胤參勤有之、其後再兩殿之略鎮、覺勝院前大僧正報恩院等勤仕之由云々、依之內々被仰尋子細之處、手輕之御祈ニ而非安鎮之法之旨云々、

安永二年癸巳二月十一日、附執當惠恩院大僧都周順、功德院大僧都覺印奉書、同月廿五日到來、安樂院兼學之法儀、先年寂上乘院宮一向大乘之規則御改制之處、傳敎大師之式文相違有之、大明院宮以來靈空御示談之上被建候、法式致齟齬、畢竟圓耳短才淺識之僻解故、今度復本被仰付之旨云々、被仰進、三月四日御承知之旨、坊官連判及返書、

爲善按、天台律宗大乘小乘之論、双方有甚深之旨趣歟、偏牛角之大論也、

三月十六日來八月勸學會執行奉行人、葉室右少辨被定之旨宣下、同十七日被仰下會行事大僧都亮圓之坊、令旨奉行信養、○同月廿三日　今上御疱瘡之御祈、自來廿四日一寺一等可抽精誠之旨被仰出、奉行葉室右少辨一通到來、延曆寺下知如例、同月晦日卷數獻上、御使並河伊豆共喬、○閏三月十五日女御御疱瘡御祈、一寺一等可抽精誠、被仰出、奉行葉室辨賴熙、同月廿二日卷數獻上、御使近習、○七月朔日爲主上御不例御祈、於本坊始修藥師護摩供、七ヶ日、○同廿日自輪王寺宮以御使、精進院律義一件書物被進之、

定

安樂律院者、元祿六年創建以來、大小兼學之道場、而雖一紀籠山之僧、亦於此院令進具、六十年來法義盛行處、寶曆八年於東叡山、依偏見淺識之僧申分有之、輙被致制、雖然傳敎大師式論之文依爲明白、如先規兼學令弘通度旨、今度准后任有其願、令復先規訖、元祿十六年被寄附靈空沙彌之寺領、依先判之旨可令寺務也、先規之法義符開祖式文之上者、彌守其旨、永代不可有相違、向後若企新義輩有之節、後代之門跡不可被取用、永以兼學之定式被取計、違亂之義無之、律法弘通可有之者也、

安永二年五月朔日家治御判

日光准后一品法親王

條々

一山門飯室谷安樂院者、中興以來振起天台眞風、兼傳密敎、爲一宗律院之惣本寺、大小通氣滿双弘之道場也、籠山之一衆亦從宿初一味和合滿紀之後、於此院四分兼學法義一同、六十年來盛行之處、近來有中古邪觀之餘流、以邪說亂正宗、因玆當日光准后有被達旨、全復先規畢、然上者向後於中興法義、妄改妄添之儀、雖爲鎖細不可用之、宜守大明院准后崇保院准后當日光准后之條制事、

一安樂院創建寺領御寄附以來、諸國新建改建之律院、及諸家諸民之素意、亦皆爲兼學弘傳也、然則於靈空之法義、內挾異思、外存異儀者、任其律院著之法、衣食其寺供者、是法中之大奸賊、遂吟味之上、速可擯罰事、

一自今以後、於中興法義式企別義有願出者、後代司僧事者一向不可取上之、若取上之啓達管領親王者、是則嫉正法弘傳、好法義違亂者也、願人同罪可有沙汰事、

右條々永代堅相守、不可令法義違亂、若於違背之輩有之者、速可被處嚴科之旨、依仰執達如件、

安永二年五月朔日

田沼主殿頭名判

板倉佐渡守同

松平周防守同

松平右京大夫同

松平右近將監同

八月十六日拜堂登山、勸學會證誠御出仕、奉行辨賴熈、○九月廿五日三光院權大僧都秀侃年四十五、戒三十二、申任大僧都、奉行甘露寺辨篤長、○十月廿三日別請竪義執行、學頭惠心院僧正良謙、問者淸泉院德廣、講師圓龍院、○同月廿五日方(ミチ)宮保和親王桃園院御養子、實典仁親王子、輪王寺公遵法親王附弟、年十四、於山科鄕毘沙門堂得度、爲勅戒師、授法諱公顯、

同三年甲午正月十五日正覺院僧正慈門改名豪濟之由言上、○同月廿三日正覺院僧正豪濟年七十八、戒六十六、申任大僧正、奉行烏丸藏人頭辨、同月廿八日御禮參內之儀可爲來月五日巳刻之由、被仰出、○二月八日江州滋

賀郡芝村之荒芝ニ、宮御登山御通行之節、自山門御休所建來哉否、自東町奉行加納小十郎內々尋問有之、同十日妙門梨門被御示之後、及返答曰、明和八年以前、當御門主山門御登山之節、芝村御休所自古來仕來、自山門設御休所、獻御茶候旨、○同月十九日正觀院僧正義遍年六十四、戒五十一、申任大僧正、奉行甘露寺藏人辨、同月卅日御禮參內、○三月廿三日日吉社司從四位下祝部業福年三十五、中四年、號生源寺主膳正、申叙從四位上、同社司從五位下祝部成治年三十、中四年、號樹下主計頭、申叙從五位上、奉行日野藏人頭辨、○四月廿一日至廿三日、於仙洞奉爲櫻町上皇廿五回御忌、法華三昧、例時作法、御經供養等御導師參勤、○五月廿四日正覺院前大僧正豪濟遷化、年七十八、六月廿六日爲烈風天變御祈、於延曆寺一寺一等可抽丹誠之旨被御出、奉行葉室右少辨賴熙、○同日淸泉院大僧都德廣年五十八、戒四十五秋、申任權僧正、奉行日野頭辨、七月五日御禮參內參院、○七月四日天下泰平玉體安全之御祈、一寺一同勤修、滿座卷數執行代常智院持參、則日以御使渡邊右京少進常秀被附長橋局、○九月廿四日日吉社司生源寺從三位業德卿薨、年七十三、○十月十四日金藏院權少僧都法眼堯詮年三十七、武藏國產、回峯千日行滿、今日參內、於淸涼殿玉體加持、奉行烏丸頭辨、捧物云、

禁中束本、銀二枚、長橋引合十帖、洞中束本、女中一人同上、女院同上、新女院同上、女御同上、殿下同上、無女中、兩傳奏各引合十帖、披露職事引合十帖、金貳百疋、雜掌二人、鳥目三十疋宛、添使一人同三十疋、座主束本、銀一枚、

十二月十一日於日吉社、長日禁裏仙洞之御祈禱勤仕之事、依從三位業德薨逝、次座生源寺業福樹下行雄之兩人可勤修之旨、爲座主仰坊官執達、○同月十五日日吉社司祝部行雄（ユキタケ）改名號行整（ユキタダ）之旨言上、

同四年乙未三月六日惠心院僧正良講年六十三、戒五十、申任大僧正、上卿柳原中納言、奉行烏丸頭辨下知辨、同月十三日參內、○同月廿五日日吉社司祝部成範年三十六、號樹下式部、申叙從五位上、奉行日野頭辨、○四月廿五日來十月兩法華會執行奉行人、被定下葉室藏人左少辨賴熙、○五月廿六日法華會探題講師等勅許、正覺院權僧正字脫歟豪靖、護心院權僧正詔順等捧欵狀、各補探題、圓龍院大僧都貫剛依寺解補講師、惠光院權僧正海藏依寺解爲擬講師、○六月廿六日夜東塔習禪院白毫院等燒失云々、○九月廿六日於禁中非藏人口、葉室左少辨被申渡、隱岐大輔奉之、就山門大會、寶物勅封

之事、於仙洞之御封者、如申願可被納山門之旨、被
仰出、〇十月兩法華會執行天文廿二年分、會行事寶積院、
同五年丙申六月廿九日本覺院權大僧都義仙年四十五、戒三十三、
申任大僧都、奉行甘露寺藏人辨篤長、〇十月廿二日
榮泉院權大僧都遵海年四十六、戒三十三、申任大僧都、奉行日
野頭辨、
同六年丁酉三月廿八日、來八月勸學會執行之事、以長
橋局被經奏聞之處、四月十五日被定下奉行人甘露
寺右中辨篤長、同月十八日會行事寶嚴院、副行事安
詳院、寺家代富小路大夫、等列參、白銀貳枚進上、〇四月廿
八日日吉社司祝部行整年三十、中四年、號生源寺民部、申叙從四位下、
奉行日野西權左少辨、〇同日日吉宮仕知空年四十四、號太運、
行正年四十、號松承、各申叙法橋、奉行同人、〇六月廿四日勸
學會回章被備叡覽、御添使武田信養、〇八月十七日
勸學會執行、大學頭惠心院前大僧正良諶、會行事寶
嚴院、奉行職事甘露寺辨篤長登山、座主宮無登山、
〇同月回峯行者鴨社拜所一件及公事、〇十月十一
日正覺院豪靖年六十一、戒四十八、轉正、奉行葉室辨、同月廿六
日參內、
同七年戊戌三月三日別請竪義執行、探題正覺院權僧
正豪靖、問者圓覺院、竪者禪林院、〇五月十七日日
吉社司主計頭成治（ナリハル）改名號大藏少輔茂慶（シゲヨシ）之由言上、
〇六月十八日樹王院權大僧都秀順年　戒　、申任大僧
都奉行鷲尾藏人頭中將、〇同月廿二日戒光院權大
僧都義存年五十、戒三十五、申任大僧都、奉行小川坊城藏人右
少辨俊親、〇同月廿五日金光院權大僧都榮範年四十八、戒三
十五、常樂院權大僧都志岸年四十七、戒三十四、各申任大僧都、
奉行坊城藏人右少辨俊親、〇七月十五日變異之御
祈、一寺一等可抽丹誠被仰出、

日來雨澤雖不涉旬、屢有洪水聞、是尤
示變異乎、依之從來廿二日一七箇日、
一寺一同抽丹誠、可奉祈天下泰平、
寶祚長久、此後彌海內無爲、上皇女院
新女院女御等安全之事、可凝懇念之
旨、可令下知延曆寺給之由、
天氣所候、以此旨可令申入、座主宮給
候也、恐惶謹言、

七月十五日　　左少辨俊親

謹上上乘院權僧正御房

御請文

日來雨澤、、、、、、、、、、、、
、、、、、、、、、、、、、、
延暦寺山、謹以所請如件、
七月十五日　天台座主御判請文
右少辨殿

執行代本覺院義仙依召參入、同十六日申渡、同廿八日結願、卷數五合本覺院持參、則被進于御所云々、御使武田刑部卿信養、〇十月廿六日 時宮周翰親王(桃園院御養子、實典仁親王子、妙法院相續、年十一、)於妙法院得度、爲勅戒師、授法諱眞仁、〇十一月廿三日可有明日女御著帶、依之御帶加持、於本坊有其儀、帶使高木因幡守參入、〇十二月廿二日理性院權大僧都覺玄(年四十五、戒三十二、)申任大僧都、奉行甘露寺右中辨篤長、

同八年(己亥)三月廿三日日吉社司祝部業福(年四十、號生源寺主膳正、)申叙正四位下、(中置四年、)奉行萬里小路藏人侍從、祝部茂慶(三十五歲、中四年、號樹下大藏、)申叙正五位下、奉行同人、〇同月廿八日臨時元三會回章被備叡覽、御使勝直、別當代花藏院湛孝同伴、持參禁中奏者所、被附長橋局、〇四月六日日吉宮仕伊勢圓隆元周典、(四十歲、)同宗仙廣盛、(四十歲、)各申叙法橋、奉行萬里小路藏人侍從、同月八日職事亭迄御禮言上、各金百疋、雜掌青銅三十疋持參、御添使中路大炊、則日座主坊御禮引合十帖獻上、執當宛坊官返書如例執達、〇五月三日臨時元三會執行、關東御部屋勤仕云々、別當惠心院前大僧正良謙、別當代花藏院大僧都湛孝、奉行職事　、〇同五日別當代參上、元三會無滯執行之御禮鳥目三百疋(代金三百疋、)獻上、坊官一座(同金三百疋、)承仕金百疋贈之、〇六月十五日、來十月大會執行奉行職事、坊城左少辨俊親被定之旨、被仰下、〇七月九日兩法華會探題講師等之事、以欵狀幷寺解等被經奏聞之處、今日宣下之由、奉行職事小川坊城左少辨言上、則日以令旨被仰下、

今年十月就兩法華會探題職、幷已講師、擬講師之事、各今日勅許之旨、從奉行職事言上候、右件宜被存知之由、依座主宮御氣色、執達如件、
七月九日　法橋判
會行事御房

圓龍院已講權僧正貫剛補探題、
覺林坊大僧都堯端直補探題、

禪林院大僧都實乘補已講、
十妙院大僧都覲道補擬講、
八月善住院寂信死去、追而以東叡山眞覺院守寂、令兼帶善住院之旨言上、龍城院大僧都忍章令兼帶筑後國高良山蓮臺院之旨、執行代言上、○同月十三日大智院權大僧都選順年四十六、戒三十二、申任大僧都、奉行職事甘露寺頭辨篤長、○九月廿三日覺林坊堯端申任權僧正、年六十一、戒四十九、奉行甘露寺辨、○同月廿七日依主上御不豫、爲仰座主宮參內有御加持、自是以後有數度御加持、○同月廿九日爲同御祈、於本坊被修不動護摩、○同日爲同御祈、於根本中堂、一寺一同修藥師護摩、○十月朔日兩法華會執行、會行事光聚坊亮中、第五卷之節奉行職事實物一覽之事、先格雖爲中堂外陣、依今度一寺一同之御祈中、於同所外陣之下落間可有之旨被定之、○同月十八日、十九日、廿日、爲主上御不例御祈、囘峯行者雙嚴院權少僧都寂潤于時第七百日、依別勅臨時參內、於常御所奉御加持、○同月十八日爲同御祈、於延暦寺可抽丹誠之旨、再被仰出、奉行右少辨文房、同十九日開闢、一七箇日、○十一月九日主上崩御、御年廿二、奉追號後桃園院云々、○十二月五日、御中陰御導師之御教書四通、幷請文四通等、

來十四日
後桃園院御中陰間、於般舟三昧院、
可被行御經供養初七日、御導師
可令參勤給者、依
攝政殿御消息、上啓如件、
十二月五日　右中辨賴凞
謹々上正觀院僧正御房私云于時前大僧正也、
追申、題名僧十口可令伴參
給候也、

來十六日
後桃園院御中陰間、於般舟三昧院可
被行御經供養二七日、御導師可令參
勤給者、依攝政殿御消息、上啓如件、
十二月五日　右中辨賴凞
謹々上惠心院僧正御房私云于時前大僧正也、
追申、題名僧十口可令伴參
給候也、

來十八日

後桃、、、、、、、、、、、
被行御經供養三七日、、、、、、
、、、、
十二月五日　右中、、、
謹々上正覺院僧正御房（私云于時僧正也仍此一通不及書改、）
追申、、、、、、、、、
給候也
來二十日
後、、、、、、、、、、
被行御經供養四七日、、、、、
、、、、、
十二月五日　右中、、、
謹々上尊重院僧正御房（私云于時權僧正也、）
追申、、、、、、、
、、、
以上宛所相違之條、被仰遣于葉室辨殿之處、御敎書之書法ニ而、大僧正以下權僧正 以上之輩者、都而書僧正之由返答、仍先例不然之由再應及問答、所詮有書改、夫々之官名被載之也、
謹請

來十八日
後桃園院御中陰間、於般舟三昧院可被行御經供養三七日、御導師可令參勤者、所請如件、
十二月五日　僧正豪靖請文
追申、題名僧十口可令伴參旨、畏存候也、
同文言十六日二七日前大僧正良諶請文
同文言十四日初七日前大僧正義遍請文
同文言二十日四七日權僧正慈俊請文
以上各參勤、御下行、大僧正者白銀五十枚、僧正者白銀三十枚、下賜云々、（追而安永九年五月廿二日被渡下、）同月十日御葬送泉涌寺、座主御參會、
同九年（庚子）正月三日元三會依爲觸穢、以衆議不遂行之旨、兼日華藏院言上、○同月十三日補新帝護持僧、奉行萬里小路右少辨文房、○同月廿四日元三會回章被備叡覽、○二月三日元三會執行、（定日依觸穢中延引、）○三月廿六日、覺林坊權僧正堯端、去年任權僧正之御禮、今日參內參院有之、○五月十二日日吉社司祝部成範、（四十一歲、中四年、號樹下）申叙正五位下、奉行中山藏人頭中

將、〇同月廿一日、於延曆寺舊年御祈勤仕爲御賞、
判金貳枚下賜、以女房奉書被仰下、同月廿二日執行
代善學院被渡下、〇六月十四日寶珠院權大僧都徧
明(年四十三、戒三十二、)申任大僧都、奉行小川坊城藏人辨、〇七
月二日於禁裏非藏人口、冷泉中納言、、卿被申渡
曰、(堯臣參向承之、)舊冬於般舟院、園城寺燒香場所之事、自
長吏宮被申立候趣、般舟院之傳奏萬里小路故一位
植房卿自筆記錄之表符合候間、其通被仰出、事濟、
自般舟院寺社奉行ニ相達候、然處自山門申立有之、
舊年憚御時節、强而不申立條、神妙候、其後申立候
子細、於山門無據筋ニ相聞候共、寂早事濟、於唯今
者、御凶事之儀難被及兎角之御沙汰候條、自座主宮
宜被仰示之旨、攝政殿被命候旨云々、同月三日被仰
渡于執行代、同月四日三執行代申御請之由、〇同月
四日善學院言上、山門領寺門領之境、芝村才川之儀、
及出入、公訴候段、九箇年以前言上候處、先月廿九
日內濟相整、山門寺門等分相極候旨、〇同月六日前
惠心院前六僧正忍達(號心淨坊、年)遷化、〇八月廿日於禁
中常御所、修鎭不動法、(助修八口、)奉行左少辨文房、追而
御下行米六十石、於御倉被渡之、〇九月廿三日禪定
院權大僧都榮照(年四十四、戒三十一、)申任大僧都、奉行葉室藏
人、〇十月廿四日雙嚴院權少僧都法眼寂潤回峰千
日行滿之由、附甘露寺頭辨被經奏聞之處、去廿日勅
許、今日午刻參內被仰出、被添御使並河內藏、

禁裏一束、一本、銀貳枚、　長橋局引合十帖、
仙洞一束、一本、　女中一人引合十帖、
女院一束、一本、　女中一人引合十帖、
新女院一束、一本、　女中一人引合十帖、
准后一束、一本、　女中一人引合十帖、
攝政一束、一本、
兩傳奏引合十帖宛、
職事引合十帖、金貳百疋、
雜掌二人鳥目三十疋宛、添使一人同三十疋、
座主一束、一本、銀一枚、(坊官五人、金百疋宛、御添使一人、青銅三十疋、)

參賀于門室之時、勸盃之後、執當宛奉書遣之、〇十
一月八日園城寺々僧於般舟院燒香席之事、去七月
被仰出之趣、尙又自九條攝政殿被仰進、是亦被仰渡
學頭以下執行代等也、〇同月廿一日御卽位御祈、自
廿三日一寺一等可抽丹誠之旨、奉行文房言上、則令
下知于執行代、十二月朔日、卷數被附非藏人口奉行

許、御使法眼堯臣、○同月廿二日、同御祈於日吉社、自廿四日勤仕之事、以女房奉書被仰出、御撫物白銀三枚被出之、十二月朔日卷數獻上、被附長橋局、御使堯臣、○十二月十三日以御敎書、來年正月御元服御祈、山門一寺一同被仰出、十五日執行代本覺院、被仰渡、廿四日卷數御傳獻、奉行文房、○廿九日以女房奉書、來元日御元服御祈、日吉社、被仰付、自元日三箇日執行被仰出、御撫物一合御撫料銀三枚被出、卽刻御達、

同十年辛丑正月四日日吉社司樹下式部大輔參上、舊冬被仰下候御元服御祈、自元日三箇日勤仕之旨、卷數一合獻上、御撫物一合返上之、同月八日被附長橋局、○二月廿三日自御祈奉行萬里小路辨御敎書御到來、

來月十五日可有立太后、無風雨難可被遂行無爲之節之由、自同月四日一七箇日、一寺一同抽精誠、可申祈請可令下知、延曆寺給攝政殿御氣色所候也、以此旨可令洩申座主宮給、仍執啓如件、

二月廿三日　右少辨文房

謹上大納言僧都御房

來月十一日卷數獻上、御祈始刻限巳刻之事、

御請文

來月十五日可有立太后、、、、、、、無爲、、、、、、、、、一同可抽精誠之旨、可令下知延曆寺由、謹以所請如件、

二月廿三日　天台座主御判

右少辨殿

三月十一日執行代本覺院大僧都義仙御祈滿座卷數一合持參、則日以御使勝直被附奏者所、○同月十五日代執行代慈光院參上、文殊樓外遷座日限伺出、可爲廿一日之旨被仰渡、○同月十九日執行代順性依召參殿、可爲來廿一日文殊樓外遷座戌刻日時勘文、小泉陰陽屬勘進被仰付、一通云、

文殊樓外遷座之日時

今月廿一日甲午　時戌

安永十年三月十九日　有、

同日來廿一日文殊樓外遷座御導師御名代、正覺院僧正可有勤仕之旨、以御使被仰下、○同月廿日惣持坊參上、文殊樓日時御名代等被仰出候御禮言上、依之金子三百疋獻上、外遷座次第作進之、○同月廿一日就文殊樓修造本尊外遷座、導師座主御名代正覺院僧正豪靖參勤、

文殊樓外遷座次第

申下刻大衆參集、次酉上刻法事執行、次座主宮御作法、次導師登壇、次着座讃、次法則、次供養文唱禮、次五大願、次大讃、次甲四智、次回向方便、次隨方回向、次大衆起座、

遷幸次第

先大衆、次洒淨、次薰香、次御案、次御假殿前大衆列立、次本尊奉安壇上、次獻供、次大衆着座、次座主宮御作法、次佛讃、次諸天讃、次神供、次回向、次大衆退出、

同月廿三日執行代惣持坊參上、文殊樓遷座終御禮言上、白銀貳枚獻上之、賜茶菓子退出、○同月廿四日執行代本覺院參上、今度修造之諸堂外遷座之事言上、

法華堂常行堂　廿二日夜外遷座
惠亮堂　廿七日外遷座
相輪樘　廿九日外遷座

同月廿九日、正覺院僧正去廿一日御名代參勤爲御會釋、以御使被遣求肥一箱、○四月二日有年號改元、被號天明、

天明元年辛丑四月九日執行代惣持坊參上、日吉祭未御供、祇園宮仕調進在來之處、依宮仕衰微難相調、依是以有舊例、山王寺調進之儀、申願之旨、言上、然處舊記不分明之間、今年之處、宮仕幷山王寺同道持參可有之樣、被仰出、○同月十六日日吉未御供調進、祇園宮仕仰木隆慶幷山王寺室町山王、列參、於寢殿簾中御加持如例歲、

但例年未御供調進料、玄米三石、自山門執行代令下行之、於東坂本陰山清齋預此事云々、

同月廿八日正覺院僧正豪靖年六十五、戒五十二、申任大僧正、奉行甘露寺頭辨篤長、五月六日御禮參內、○同日乘實院權大僧都岳盛年四十四、戒三十一、申任大僧都、奉行葉室辨、○同日惣持坊權大僧都順性年四十四、戒三十四、申任大僧都、奉行小川坊城左少辨、○五月朔日執行代順性言上、貞

享五年之記曰、未御供調進所烏丸通五條坊門上町云山王町、寛文十二年迄者從此所調進、依有理令免許、今者祇園社幸圓預也云々、

日吉　未日右方神人　貞享五年
承和元年四月　卯月十七日

雖如此言上、寛文三年座主妙法院宮記錄云、未御供宮仕持參云々、依玆執行代言上之舊記不審之旨、再被仰下、○同月十一日、勸學會執行奉行職事坊城左少辨被定下、同十二日以令旨被仰下于會行事許、

來八月就勸學會、執行奉行職事參向之事、被遂奏聞候處、昨十一日被仰出坊城左少辨殿被奉候旨言上候、此段宜被存知之由、依座主宮御氣色、執達如件、

五月十二日　法眼判奉

會行事御房

來八月就勸學會執行、奉行職事參向之事、御奏聞之處、奉行坊城左少辨殿被仰出候旨、敬承仕候、恐惶謹言、

五月十二日　會行事榮範判

鳥居小路法眼御房

來八月於山門勸學會執行之事、御執奏之處、昨十一日先例之通被仰出候、奉行職事坊城辨殿參向之旨御座候、仍申進候以上、

五月十二日　鳥居小路大藏卿

寺家宰相殿

同月十四日坊城家御禮、會行事金光院、副行事中正院等參向、御添使法眼經隆被差向、自會行事白銀二枚進入之、○同日勸學會行事二人、幷寺家等列參、爲御禮白銀貳枚獻上、於臺子間勸盃、於白書院御目見被仰付、○同月十五日同會行事列參、

來八月勸學大會執行之節、御登山御着座御證誠被成下候樣奉願候、以上、

五月十五日　會行事金光院

閏五月廿四日別當代花藏院言上不二門修造出來之旨、并御名代御加持之事申願、〇六月廿四日勸學會回章三通被備天覽、則日被返下、同廿五日被加座主花押賜之、

副行事中正院

僧名

右來、、、、、、、、

、、、、、

天明元年六月廿八日

座主二品御判親王

探題大僧正

以上三通同樣被染御筆也、

相輪橖中納經修理每事新寫可納之云々、

比叡山無垢淨光相輪橖堂基奉

征夷大將軍源朝臣家治公之嚴旨營建之

奉行　土屋伊豫守源朝臣正延

勘定組頭　若林市左衞門源義方

吟味役　廣瀨伊八郎源吉舜

中井主水橘正武

支配勘定　上野勘右衞門眞屋

調役　高橋八十八美貫

土屋與力　手島鄕右衞門東陳

同　砂川猶右衞門信近

同　眞野八郎兵衞邦伸

同　上田喜治郎備綱

赤井與力　四方田重之丞長直

同　本田金右衞門直溫

普請役　村田七郎次欽舍

同　林爲三郎久員

同　中田珍重郎豐朝

上屋組　七加家郡藏良喬

同　千賀與三右衞門應升

同　太田文左衞門爲永

同　久下政右衞門重啓

同　芝八郎助建忠

同　淺賀永左衞門秀周

赤井組　吉竹喜平太好長

同　中川半之助卿好

同　吉岡萬右衞門美矩

棟梁　矢倉直之丞義崇

同取締手付　角井隱岐掾高邦
平棟梁　角井三郎右衛門孝暢
同　塚本平右衛門定利
同　石井平太夫定卿
同　乾左平太則之

奉納諸大乘經五十八卷
法華延命寶幢院衆徒中

奉書寫
妙法蓮華經壹部八卷
佛說觀普賢菩薩行法經一部貳卷
大毘盧遮那成佛神變加持經一部七卷
不增不減經一卷
佛說梵網經一部二卷
請觀音消伏毒害陀羅尼經一卷
無字寶篋經一卷
佛頂尊勝陀羅尼經一卷
梵漢兩字隨求即得大陀羅神咒一卷
不必入定入印經一卷
梵漢兩字大佛頂眞言一卷
大方廣圓覺修多羅了義經一卷
佛說首楞嚴三昧經一部三卷
無垢淨光陀羅尼經梵漢一卷
佛藏經四卷
諸法無行經一部二卷
無量義經二卷
般舟三昧經一部三卷
文殊師利所說經一卷
大乘法界無差別論一卷
集一切福德三昧經一部三卷
金光明經一部四卷
大乘密嚴經一部三卷
佛說仁王護國般若經一部二卷
光明眞言一卷
般若心經一卷
都合五拾八卷
外加寂勝佛頂陀羅圓頓章
惟時天明元辛丑年六月
執行代　本覺院義仙
修理役　乘實院岳盛
同　喜見院寂音
同　大興坊傳雄

同　　溪廣院堯璦

同　　大智院選順

右者御修理每度書改納櫃中云々、

七月五日、來七日不二門加持御名代可有勤仕之旨、被仰下慧心院前大僧正良諶、(鳥居小路法眼以奉書申達、)追而爲御會釋、贈賜煎茶一箱也、○同月七日就勸學會、御登山無之旨被仰下、○八月七日勸學會奉行坊城殿依所勞理、更萬里小路辨被仰出、則被仰下于會行事許、依之御禮菓子一折持參之處、先規相違之由及問答、所詮追而白銀貳枚會行事持參、○同月十七日西塔勸學會執行、奉行職事萬里小路右少辨文房登山着座、大學頭正覺院大僧正豪靖、會行事金光院大僧都榮範、○同月廿三日爲勸學會訖、御禮會行事二人寺家等列參、求肥糖二箱獻上、於臺子間勸盃之後退出、次參向奉行亭、御添使法眼業重、○九月廿八日別當代言上、四季講堂修造來月上旬之頃可有出來、下旬正遷座可有之哉、任例囘章叡覽等之儀願出、○同日圓龍院(粲號圓覺院、)權僧正貫剛(年六十三、戒五十一、)申任僧正、奉行萬里小路左少辨、○同日密嚴院權大僧都覺純囘峯千日行滿、參內之儀被奏聞之處、來月四日巳刻可有參內之旨、甘露寺頭辨被申達、追而更可爲廿四日旨被仰出、○十月十四日別當代言上可有來廿七日四季講堂正遷座之旨、同十六日遷座之囘章持參、入座主宮御內覽、同十七日傳奏代萬里小路前大納言亭へ以御使、來十九日遷座囘章可被備叡覽之旨被仰遣、承知之旨有返答、同十九日囘章(入文匣、)別當代幷御使鳥居小路修理同道持參禁中奏者所、則日天覽之後被返下、其後座主宮御禮金貳百疋進獻、(坊官金百疋贈進、)同二十日被加囘章御判、被返下、

四季講堂正遷座之所

探題以下廿口僧名

右來廿七日可被修正遷座

之狀所唱如件

天明元年十月　日　會行事

座主二品親王(御判)

如此被加御花押而已、○同月十七日執行代惣持坊參上、文殊樓修理出來正遷座日限伺、幷御導師之儀申願、則日小泉陰陽大屬勘出被仰付、同十八日勘文持參、

擇申　文殊樓正遷座之日時

今月廿四日癸巳　時酉

天明元年十月十八日陰陽大屬源朝臣有彝

右勸文賜于執行代、當日御登山之儀宮中懺法講前御繁用之間、御名代正覺院大僧正可被仰付、唱禮發願文屆請人名伺申、○同月十九日、正覺院大僧正、來廿四日御名代勤仕候樣被仰遣、御使　　、同月廿日惣持坊代慈光院參上、唱禮發願文少々被加思食下賜、

唱禮

南無淸淨法身　毘盧遮那佛
南無圓滿報身　盧遮那佛
南無千百億化身　釋迦牟尼佛
南無佛眼部母　菩薩摩訶薩
南無曼荼羅主曼殊師利　菩薩摩訶薩
南無八方妙吉祥童　菩薩摩訶薩
南無縛曰羅熖漫德迦冐地　薩埵波耶摩訶薩埵波耶
南無四大明王冐地薩埵婆耶　摩訶薩埵婆耶
南無大小自在十二宮天諸宿曜等　一切權現天等
南無三部界會　一切菩薩等

發願

主心發願　唯願大日　本尊聖者
大聖文殊　八大菩薩　四大明王
十六大天　三部五部　諸尊聖衆
滿山三寶　還念本誓　金輪聖主
寶祚延長　大樹幕下　武運長久
山上安穩　伽藍安全　決定成就
及以法界　平等利益

同月廿四日密嚴院權大僧都覺純回峯千日行滿之後、今日參內、玉體加持、其儀如例式、御添使並河內藏、同廿五日參賀于門室、杉原十帖、末廣一本、白銀一枚獻上、於黑書院御對面、令請御加持給、○同日圓龍院貫剛轉正御禮參內、御添使並河內藏廣政、則日參賀于門跡、一束一本銀一枚獻上、勸盃之後執當返簡渡之、○同月廿五日西塔執行代本覺院參入、相輪樘修理出來、供養日限伺、幷御登山願申、依宮中懺法講前御名代可被仰付、日限者來月朔日執行候樣被仰下、○同月廿六日執行代參入、去廿四日文殊樓正遷座無滯執行之御禮言上、二種一荷料白銀二枚、獻上、行事坊官金貳百疋持參、○同月廿七日、正觀院前大僧正義遍、來月朔日相輪樘供養御導師御名代勤仕可有之旨、以法印經

隆奉書執達、○十一月朔日別當代湛孝參上、去月廿七日四季講堂遷座無滯相濟候御禮言上、依之金三百疋獻上、行事坊官金貳百疋、幷坊官一座各金百疋贈進之、○同月三日本覺院參上、今月朔日相輪樘供養濟御禮、白銀貳枚獻上、幷法華堂常行堂正遷座相濟候旨言上、○同月五日於禁裏、奉爲後桃園院尊儀三回御忌被行懺法講、五箇日、衆僧十二口、法會傳奏六條前中納言、奉行中山頭中將、任先例、稱御賞、去十月十九日賜官位、

任權僧正　禪林院大僧都實乘年五十七、戒四十四、

任大僧都　安禪院權大僧都亮嶽年四十三、戒三十、

任大僧都　大興坊權大僧都傳雄年四十、戒三十、

任大僧都　華德院權大僧都亮周年四十、戒三十、

任大僧都　妙行院權大僧都義珣年四十三、戒三十、

任大僧都　松禪院權大僧都孝俊年四十二、戒二十九、

叙法印　蓮光院權大僧都法眼詮榮年三十九、戒二十六、

同月廿六日行光坊權大僧都恭副年四十一、戒三十、申任大僧都、奉行中山藏人頭中將、十二月十九日相住坊權大僧都淑徽年四十二、戒三十、申任大僧都、奉行萬里小路藏人權右中辨文房、

同二年壬寅三月三日、於西塔別請竪義執行、探題、○同月六日山門院家住侶等、以戒臈立次第之間、以來於禁中、同樣以戒臈可被立次第之旨、更被仰出、奉行淸閑寺辨被達之、○同月十八日日吉祭未御供調進方之事、自寬文年中至寶曆六年、室町佛光寺下町山王寺名代祇園社藤岡幸圓參勤、自寶曆七年至當時、幸圓代仰木隆慶參勤之旨、寬文以前山王寺勤仕之由、今度山王寺惣持院普門隨心院殿門下福勝寺末寺云々、再三願申云々、執行代言上、同月晦日執行代被仰渡大永年中御記錄曰、未御供祇園宮仕調進云々、今度依再願、以來參勤者、祇園宮仕可罷出調進所之儀、可爲勝手次第之旨、被仰下、○同月晦日執行代惣持坊言上、爲先帝御不例中度々御祈之辛苦料、先年以拜領之判金、奉爲寶祚延長先帝御菩提、每歲不退轉山王放生會新建、自凌雲院、、雲蓋院、、加喜捨貳百餘金、去年九月九日令開闢之旨也、○四月廿一日於仙洞、奉爲櫻町上皇三十三回御忌、有論義、廿二日光明供、廿三日法華三昧等、爲御導師、衆僧九口、法會傳奏姉小路宰相中將公總卿、奉行萬里小路權右中辨文房、○五月八日日吉社司祝部行豎年三十五、號生源寺民部、申

敍從四位上、奉行權右中辨文房、○同月十五日維摩院權僧正去年職法講參勤之御賞權僧正勅許之御禮、今日參內參院、被差添御使、

禁裏　仙洞　女院　新女院　大宮　攝政

以上各一束一本獻上、

上卿　下知辨　官務

以上各金百疋、

職事　金貳百疋、雜掌青銅三十疋、添使同二十疋、

宣旨添使銀十匁、

座主宮　金貳百疋、坊官諸大夫金百疋宛、御添使青銅三十疋、

七月十三日喜見院權大僧都最音年四十三戒三十一、申任大僧都、奉行油小路頭中將、○同月廿五日別當代參上、來辰年慈惠大師八百年相當引上、卯年法會執行仕度旨言上、○八月廿日、於山門一寺一同之御祈被仰出、奉行淸閑寺辨、九月十三日卷數御傳獻、○同月廿七日千葉院權大僧都慈等年　戒　、申任大僧都、奉行油小路頭中將、歡喜院權大僧都昌宗年四十一戒廿八、申任大僧都、奉行同人、○九月廿一日橫川惣代雞足院堯珉、華德院亮周列參、就來辰年慈惠大師八百回遠忌、卯年九月朔日開闢仕度、勅許并奉行職事可被差向樣、九月二日奉行御登山、第三日八講曼供御着座之儀等願申、

第一日　辰刻始行法華八講二座

第二日　辰刻始行法華八講二座

第三日　丑刻始行法華八講二座

辰刻始行合行曼供

第四日　辰刻始行法華八講二座

法華經一部宸筆御奉納之事內願、座主宮證誠御着座之事願申、松風一箱、金貳百疋獻上、坊官一座各金百疋等持參之、○十一月廿七日依橫川衆徒請、靑蓮院門下西國諸末寺、慈惠大師遠忌會料勸化之事、以奉書觸書出之、都合四十二箇寺、

同三年癸卯二月廿一日、來九月慈惠大師遠忌執行勅許、奉行登山之事、以長橋局可被及奏聞之旨、傳奏萬里小路前大納言亭御內談、御使法眼堯臣、○同月廿六日山門一寺一等之御祈被仰出、奉行淸閑寺左少辨視定一通御到來、

天下泰平、五穀豊饒、玉體安穩、寶祚長久御祈之事、從來月三日一七箇日、一寺一同殊可凝懇念之旨、可令下知延曆寺給、

攝政殿御氣色所候也、以此旨可令洩申
座主宮給、仍執啓如件、

二月廿六日　左少辨祠宣

謹上大納言僧都御房

御請文

天下泰平、五穀豐饒、玉體安穩、寶祚長久御祈之事、從來月三日一七ヶ日一寺一同殊可凝懇念之旨可令下知延暦寺之由、謹以所請如件、

二月廿六日　天台座主御判請文

左少辨殿

三月三日圓教院權大僧都靜然年四十、戒廿九、申任大僧都、奉行小川坊城右中辨、○同月十日一寺一同之御祈滿座卷數執行代持參、此旨被仰入于淸閑寺辨亭之上、被附長橋局、御使法眼業重、○四月十四日、來十月兩法華會執行勅許幷奉行職事登山之儀、以長橋局御奏聞、御使法眼堯臣被差向于禁中奏者所、則聞召之由御返答、○五月廿四日、來九月慈惠大師八百回引上正當辰年正月三日法會執行勅許幷奉行職事登山之事、雖非先例、今度依衆徒申請、今日以長橋局御奏聞、御使法印業重、○六月八日日吉未御供調進方之事、寶暦年中二棚調進候故、自今以後仰木隆慶山王寺等一棚宛可調進、附添之儀每年立會、警蹕者隔年可勤仕哉之條、執行代順性被仰談、○七月十三日來九月慈惠大師八百回遠忌法會執行幷奉行職事可有登山之旨被仰出、來十月大會執行幷奉行人如例可有登山之旨被仰出、奉行坊城左中辨俊親被達之、

來十月就兩法華會執行、奉行職事參向之事、被遂　奏聞之處、任例被仰出候、此旨宜被存知之由、
座主宮御氣色所候也、仍執達如件、

天明三年七月十四日　法印判奉

會行事御房

來九月就慈惠大師八百年御忌法會執行、奉行職事參向之事、被遂　奏聞之處、無御別條被仰出候、此旨宜被存知之由、
座主宮御氣色所候也、仍執達如件、

天明三年七月十四日　法印判奉

雞足院御房

華德院御房

來十月就兩法華會執行、奉行職事參向之事、被

奏聞之處、任例被　仰出候旨、宜存知之由、奉得其意候、恐惶謹言、

天明三年七月十四日　會行事亮嶽判

大谷法印

來九月就慈惠大師八百年御忌法會執行、奉行職事參向之事被遂

奏聞之處、無御別條被　仰出候旨、宜存知之由、奉得其意候、恐惶謹言、

天明三年七月十四日　華德院亮周判　鷄足院堯珉判

大谷法印

同月十六日横川惣代雞足華德兩院參上、大師法會勅許御禮、内々白銀三枚獻上、同日更兩院寺家等列參、表向御禮白銀貳枚獻上、於白書院御目見被仰付先兩僧、次寺家、於鱗間各勸盃、次奉行坊城辨亭參向、御使業重被差添也、○同月廿日寂光院權大僧都亮乘年四十三、戒二十九、申任大僧都、奉行油小路頭中將、○同月廿三日大師遠忌法會回章備座主御内覽、同廿四日被備叡覽、先持參坊城辨亭、御使治部卿法印被差添、同廿六日爲申出各參向于坊城殿、則被返下、則日被如御花押、

座主二品(御判)親王

如是被染御筆、爲御禮羊羹十棹獻上、於白書院兩僧次寺家等御目見被仰付、於臺子間勸盃、回章被返渡、○八月朔日禪林院大僧都實乘補探題、金光院大僧都榮範補擬講、奉行小川坊城左中辨、○同月五日習禪院權大僧都韶胤年四十、戒二十八、申任大僧都、奉行油小路頭中將、○同月廿三日六條前中納言内々被達云、來九月二日三日元三大師法會勅會之事、依例幣太神宮、御神事中、日限延引之儀可然云々、則日山門御下知、同廿五日日限言上、

自九月十八日至廿一日法會執行、

廿日御證誠　勅使着座、

右之通被仰遣于六條殿、同廿六日無御別條之旨、六條殿返答、依之更被仰遣于奉行辨亭也、○九月十九日就慈惠大師八百回御忌、於横川勅會爲證誠御登山、奉行職事坊城左中辨俊親登山、○同廿日合行曼

供執行、奉行着座、○自十八日至廿一日法華八講八
座執行云々、○同月廿一日、爲大宮御不例御祈、一
寺一同修行被仰出、自廿三日七箇日可抽丹誠云々、
奉行坊城俊親、三十日卷數獻上、禁中、大宮、御使法橋堯
照、○十月廿八日來月十五日盛化門院御中陰初七
日、於般舟院御經供養、導師正觀院前大僧正義遍被
仰付之旨、凶事傳奏烏丸中納言奉行坊城辨被申渡、

今般
盛化門院七七日御法事、於般舟三昧院
開結御經供養就被執行候、初七日之
御導師山門被仰出、今日凶事傳奏
奉行被仰渡候、此旨可有存知之由、
座主宮仰候也、
十月廿八日　大谷法印 業重判
三執行代

今般
盛化門院御中陰、於般舟三昧院開結
御經供養被執行、初七日御導師被
仰出候間、可有參勤之旨、
座主宮御氣色候也、
十月廿八日　大谷法印 業重判
正觀院前大僧正御房

同月廿九日御教書、并請文云、
來月十五日盛化門院初七日於般舟三昧院可有
御經供養御導師可令參勤給者、依攝政殿御消
息、上啓如件、
十月廿九日　左中辨俊親
謹々上正觀院前大僧正御房
追申題名僧三口可令伴參給候也、

謹請
來月十五日盛化門院初七日、於般舟三昧院可
有御經供養、御導師可令參勤者、所請如件、
十月廿九日　前大僧正義遍請文
追申題名僧三口可令伴參旨畏存候也、

十一月十五日於洛北般舟三昧院、盛化門院御中陰
初七日御法會被行、御經供養御導師正觀院前大僧
正義遍、題名僧三口、金光院法印大僧都榮範、溪廣
院權大僧都法眼堯壂、觀樹院權少僧都法眼宏範、明年五月二十五日被渡御施物、
同四年甲辰正月八日、一山惣代惣持坊參賀之時言上、

供年座主宮御厄年御祈禱一寺一同勤仕之由、卷數一合進上之、御對面之後雜煮勸盃如例年、○同月十八日於禁裏非藏人口、御凶事傳奏烏丸中納言、奉行坊城辨、被申渡、勝直參向承之、於般舟三昧院御經供養之導師引卒弟子從僧童子等座席被定之、

弟子廂、從僧簀子敷、小童下座敷、

右可被示置之旨、同十九日執行代喜見院被仰渡、○同月廿四日蓮光院法印權大僧都詮榮年四十二、戒二十九、申任大僧都、奉行油小路頭中將、○三月八日執行代圓教院大僧都靜然參上、日吉祭未御供調進方之事、昨年被仰渡候通、自當年山王寺御供一式調進可仕、附添之儀者、每歲藤岡幸圓代仰木隆慶立會、警蹕者隔年可參勤之旨、御請言上、○四月廿六日南樂坊權大僧都惠綱年三十九、戒二十八、戒光院權大僧都晃賢年四十一、戒二十八、各申任大僧都、奉行職事油小路藏人頭中將、○六月廿七日溪廣院權大僧都堯璵年三十九、戒二十六、申任大僧都、奉行同人、○同日日吉社司正五位下祝部茂慶年四十、中置四年、號樹下大藏少輔、申叙從四位下、奉行同人、○七月十日大林院權大僧都卽全年三十四、戒二十一、申任大僧都、奉行葉室頭辨、○八月廿五日玉照院權大僧都憲雄回峯千日行滿之後參內等之事、過日御奏聞之處、可有來廿七日巳刻參內之旨、今日勅許、奉行職事油小路頭中將言上、同月廿七日參內、天顏拜奉加持、綸旨頂戴等如例式、御添使入江數馬被遣之、則日爲御禮參殿、一束一本白銀一枚獻上、坊官一座各金百疋、御添使鳥目三十疋贈之、上野執當宛奉書一通如例渡之、○九月廿八日圓龍院僧正貫剛年戒、申任大僧正、奉行葉室頭辨、○十一月十一日覺林坊權僧正堯端、年戒、申任僧正、奉行職事同人、○同日瑞應院權大僧都慈觀年戒、申任大僧都、奉行同人、○同月十七日同人、以座主令旨被許三緒袈裟着用、○十二月四日、以令旨、大林院大僧都卽全被許三緒袈裟着用、○同月十三日日吉社司生源寺主膳正業福四十五歲卒、○同月十六日院宣幷請文云、

母儀青綺門院去年以來聊不豫、救療良雖得其驗、未令平愈給、加之被及老年之間、叡情未安、因玆秡除病災延齡安全之御祈、限一七箇日凝精誠可抽懇祈之旨、可令下知給之由、院御氣色所候、以此旨可令申入座主宮給、仍執達如件、

十二月十六日　參議實紐

大納言僧都御房

右從十八日可有勤行云々、從正月至十二月每月一七ヶ日、御祈禱可勤修旨被仰出、

御請文

青綺門院去年以來聊御不豫、救療良雖得其驗、未令平愈給、加之被及御老年之間、叡情未安、因玆祓除病災延齡御安全之御祈、限一七箇日凝精誠可抽懇祈之旨、可令下知延曆寺之由、謹以所請如件、

十二月十六日　天台座主尊眞請文

宰相中將殿

同月廿一日、圓龍院大僧正覺林坊僧正等、轉任之御禮、今日參內參院、被添御使。入江數馬、○同月廿八日執行代圓教院參入、御祈滿座卷數一合持參、則日被進于大女院御所、御使法眼堯臣、

同五年乙巳二月十七日竹林院權僧正實乘年六十一、戒四十八、申任僧正、奉行油小路頭中將、三月六日御禮參內參院、御添使官物等如例、今日油小路頭中將依所勞、與奪于葉室頭辨云々、依之例式之官物一束一本白銀二枚、幷雜掌添使等音物、皆以持參于油小路殿、仍葉室殿別段金貳百疋持參之、○三月六日、日吉社司生源寺業福去年卒去、依之年中御祈禱被仰付樹下茂慶、奉書云、

御所方御祈禱之事、向後貴殿江被仰付候間、生源寺民部大輔爲兩人可相務之旨、

座主宮仰候也、恐々謹言、

三月六日　大谷法印業重判

樹下大藏大輔殿

四月三日玉照院權大僧都憲雄年戒、申任大僧都、奉行油小路頭中將、○同日日吉社司正五位下祝部成範年四十七、中置四年、號樹下式部少輔、申叙從四位下、奉行同人、○五月十七日、來八月勸學會執行奉行職事、勸修寺左少辨被定之旨、被仰出、○六月十六日東塔執行代密嚴院覺純參上、○今度前唐院法華八講再興仕度、當年十月始而令執行、自今以後五ヶ年目執行之儀、幷囘章叡覽之儀奉願候旨、就再興之儀、自輪王寺宮以執當兩院奉書被仰進也、○七月六日日吉社司從四位

供年座主宮御厄年御祈禱一寺一同勤仕之由、卷數一合進上之、御對面之後雜煮勸盃如例年、○同月十八日於禁裏非藏人口、御凶事傳奏（烏丸中納言、）奉行（坊城辨、）被申渡、（勝直參向承之、）於般舟三昧院御經供養之導師引卒弟子從僧童子等座席被定之、

弟子廂、從僧簀子敷、小童下座敷、

右可被示置之旨、同十九日執行代喜見院被仰渡、○同月廿四日蓮光院法印權大僧都詮榮（年四十二、戒二十九、）申任大僧都、奉行油小路頭中將、○三月八日執行代圓敎院大僧都靜然參上、日吉祭未御供調進方之事、昨年被仰渡候通、自當年山王寺御供一式調進可仕、附添之儀者、每歲藤岡幸圓代仰木隆慶立會、警蹕者隔年可參勤之旨、御請言上、○四月廿六日南樂坊權大僧都惠綱（年三十九、戒二十八、）戒光院權大僧都晃賢（年四十一、戒二十八、）各申任大僧都、奉行職事油小路藏人頭中將、○六月廿七日溪廣院權大僧都堯璵（年三十九、戒二十六、）申任大僧都、奉行同人、○同日日吉社司正五位下祝部茂慶（年四十、中置四年、號樹下大藏）少輔、申叙從四位下、奉行同人、○七月十日大林院權大僧都卽全（年三十四、戒二十一、）申任大僧都、奉行葉室頭辨、○八月廿五日玉照院權大僧都憲雄囘峯千日行滿之後參內等之事、過日御奏聞之處、可有來廿七日巳刻參內之旨、今日勅許、奉行職事油小路頭中將言上、同月廿七日參內、天顏拜奉加持、綸旨頂戴等如例式、御添使入江數馬被遣之、則日爲御禮參殿、一束一本白銀一枚獻上、坊官一座各金百疋、御添使鳥目三十疋贈之、上野執當宛奉書一通如例渡之、○九月廿八日圓龍院僧正貫剛（年　戒　）申任大僧正、奉行葉室頭辨、○十一月十一日覺林坊權僧正堯端（年　戒　）申任僧正、奉行職事同人、○同日瑞應院權大僧都慈觀（年　戒　）、申任大僧都、奉行同人、○同月十七日同人、以座主令旨被許三緒袈裟着用、○十二月四日、以令旨、大林院大僧都卽全被許三緒袈裟着用、○同月十三日日吉社司生源寺主膳正業福（四十五歲）卒、○同月十六日院宣幷請文云、

母儀靑綺門院去年以來聊不豫、救療良雖得其驗、未令平愈給、加之被及老年之間、叡情未安、因玆被除病災延齡安全之御祈、限一七箇日凝精誠可抽懇祈之旨、可令下知給之由、
院御氣色所候、以此旨可令申入
座主宮給、仍執達如件、

十二月十六日　參議實維

大納言僧都御房

右從十八日可有勤行云々、從正月至十二月每月一七ヶ日、御祈禱可勤修旨被仰出、

御請文

青綺門院去年以來聊御不豫、救療良雖得其驗、未令平愈給、加之被及御老年之間、叡情未安、因玆祓除病災延齡御安全之御祈、限一七箇日凝精誠可抽懇祈之旨、可令下知延曆寺之由、謹以所請如件、

十二月十六日　天台座主尊眞請文

宰相中將殿

同月廿一日、圓龍院大僧正覺林坊僧正等、轉任之御禮、今日參內參院、被添御使。入江數馬、○同月廿八日執行代圓教院參入、御祈滿座卷數一合持參、則日被進于大女院御所、御使法眼堯臣、

同五年乙巳二月十七日竹林院權僧正實乘年六十一、戒四十八、申任僧正、奉行油小路頭中將、三月六日御禮參內參院、御添使官物等如例、今日油小路頭中將依所勞、與奪于葉室頭辨云々、依之例式之官物一束一本白銀二枚、幷雜掌添使等音物、皆以持參于油小路殿、仍葉室殿別段金貳百疋持參之、○三月六日、日吉社司生源寺業福去年卒去、依之年中御祈禱被仰付樹下茂慶、奉書云、

御所方御祈禱之事、向後貴殿江被仰付候間、生源寺民部大輔爲兩人可相務之旨、

座主宮仰候也、恐々謹言、

三月六日　大谷法印業重判

樹下大藏大輔殿

四月三日玉照院權大僧都憲雄年戒、申任大僧都、奉行油小路頭中將、○同日日吉社司正五位下祝部成範年四十七、中置四年、號樹下式部少輔、申敍從四位下、奉行同人、○五月十七日、來八月勸學會執行奉行職事、勸修寺左少辨被定之旨、被仰出、○六月十六日東塔執行代密嚴院覺純參上、○今度前唐院法華八講再興仕度、當年十月始而令執行、自今以後五ヶ年日執行之儀、幷回章叡覽之儀奉願候旨、就再興之儀、自輪王寺宮以執當兩院奉書被仰進也、○七月六日日吉社司從四位

下戒範養子樹下中務貢文年廿、申叙從五位下、奉行油小路頭中將、○同月十八日、傳奏月番久我大納言殿、以御使法眼堯臣、就來十日十二日十三日於前唐院法華八講、幷十四日三部曼陀羅供輪轉修行爲慈覺大師報恩、今度再興囘章差定等被備叡覽度之旨被仰入、八月六日勅許之旨傳奏油小路前大納言殿被申渡、同月八日爲御禮行光坊參殿、白銀一枚獻上、坊官一座各金百疋、同月十日行光坊御禮囘勤、御添使並河掃部、

九條關白殿　白銀一枚

傳奏兩卿　金子貳百疋宛

同月廿一日歡喜院大僧都昌宗參上、囘章備座主內覽、同月廿四日被備叡覽、會役者歡喜院、御使法橋堯照同道、持參于禁中奏者所、則刻被返下之後、座主被加座主之御判、賜返之執當返書一通相渡、爲御禮白銀一枚獻上、於白書院御對面、於臺子間有勸盃之後歸山、○八月二日日吉社司祝部業蕃ナリシゲ年十五、號生源寺刑部、申叙從五位下、奉行勸修寺左少辨良顯、○九月十五日延命院權大僧都亮寬年三十七、戒二十四、申任大僧都、奉行同人、○十月十日至十二日、於禁中奉爲盛化門院三囘御忌、爲懺法講導師、衆僧十一口、法會傳奏、、、、、、奉行小川坊城頭辨、任例參勤衆僧賜官位、今月五日宣下、

任大僧正　覺林坊僧正堯端年六十七、戒五十五、

任大僧都　行泉院權大僧都慈存年四十一、戒二十八、

任大僧都　定光院權大僧都觀光年四十、戒二十七、

任大僧都　金藏院權大僧都圓郁年三十九、戒二十六、

任大僧都　雙嚴院權大僧都寂潤年三十七、戒二十五、

叙法印　松林院法眼貫豪年三十四、戒二十一、

同月十二日於東塔前唐院法華八講再興執行、同十三日以座主宮御使本成房、爲御代拜被備白銀一枚、同十四日曼供修行、同十七日以總代不動院爲御禮白銀一枚獻上、○同月廿五日惠日院權大僧都寂印申任大僧都、○十一月五日至九日、於禁中奉爲後桃園帝七囘御忌、爲懺法講御導師、衆僧十二口、法會傳奏廣橋前大納言伊光卿、奉行園頭中將、今度參勤僧侶之內、任例去月廿五日賜一官位之輩、

任權僧正　寶園院大僧都榮範年五十五、戒四十二、

任大僧都　密嚴院權大僧都覺純年四十三、戒二十七、

任大僧都　惠雲院權大僧都寂印年三十六、戒二十三、

叙法印　唯心院法眼權少僧都亮鼎年三十二、戒十九、
叙法印　大乘院法眼權少僧都慈範年二十九、戒十八、

十二月七日、覺林坊大僧正堯端去十月五日爲懺法講御賞轉大之御禮、今日參內參院、

禁裏　仙洞　大女院　女院　關白

右各一束、一本、

上卿　下知辨　官務

右各金百疋、

披露職事

右金貳百疋、雜掌青銅三十疋、添使同二十疋、

召使　白銀十匁

座主宮

右金貳百疋、

同日、寶園院權僧正榮範去十月廿五日爲懺法講御賞任權僧正之御禮、今日參內官物同前、○同月廿七日推叙一品、上卿中院權中納言、奉行小川坊城頭辨、

同六年丙午四月十一日初申被遂行日吉祭、依來廿三日二之申御國忌也、○四月依公遵法親王奏聞賜宸筆慈惠大師之號、則被納置于四季講堂、五月二(三イ)日辭

座主、八日聞召之由、奉行園頭中將言上、

新撰座主傳第三

第二百十三代入道一品公延親王（輪王寺、）

治山經四箇月、

桃園院御養子、准母恭禮門院、（關白道香公女、）實閑院典仁親王子、公遵親王附弟、

天明六年（丙午）五月八日補座主、（年二十五歲、戒九、）〇六月十五日聽牛車、〇七月十九日至廿一日、（十一イ）於仙洞奉爲桃園院廿五回御忌、爲法會導師、〇八月八日辭座主、同十三日立京下向於東武、

第二百十四代入道二品眞仁親王（妙法院、）

治山十年、

桃園院御養子、准母恭禮門院、實閑院典仁親王子、靑蓮院尊眞親王弟子、

天明六年（丙午）八月廿日補座主（年十九、戒九、）〇十二月八日被獻白鳥、諸家賀申內裏、

同七年（丁未）二月十六日至十八日、於飯室谷不動堂、爲慈忍和尙八百回遠忌、法會執行、

同八年（戊申）正月廿九日（三十イ）京都火災、內裏炎上、二月十五日女院女一宮爲假御所（座主移住日嚴院給、自六月住林丘寺、今日還幸、）

寬政元年（己酉）八月二日、西谷相住坊事與北谷總持坊、稱號相似、有間違之間、止相住坊之號、改爲佛乘院之由、執行代言上、〇同月十九日西塔勸學會執行、大學頭竹林坊前大僧正、會行事眞藏院、添行事乘實院、〇十月六日圓龍院貫豪申任大僧都、

同二年（庚戌）五月三日於東塔遂行別請竪義、探題惠心院前大僧正、問者莊嚴院權僧正、竪者總持坊、〇六月、依去二月靑綺門院御中陰中御經供養導師交名任日肩書之事、東塔與西塔橫川及爭論、依玆自座主幷靑門梨門被仰合于輪王寺宮、〇九月廿六日新內裏修安鎭大法、十月二日結願、〇十月六日圓龍院權大僧都貫豪（年三十九、戒二十六、）申任大僧都、〇同月十一日仙洞新殿修安鎭大法、（去月五日有上棟、）〇同月前唐院法華八講執行、〇同月十九日大乘院權大僧都慈範囘峰千日行滿、參內、〇同月廿六日於女院新殿修鎭不動法三ヶ日、〇同月廿九日今度新造內裏安鎭法之節、東塔僧侶無出仕候、於今度者雖可有子細、已來若一塔無出仕之節者、豫其由可被窺定之旨、於非藏人口被申渡、

同三年辛亥 大法臨時元三會再興執行、〇十月廿六日瑞雲院大僧都貞剛回峰千日滿後、參內如例式、

同四年壬子九月二日於坂本慈眼堂、慈眼大師百五十回忌引上法會執行、〇十月兩法華會執行、新題者莊嚴院權僧正光賢、已講總持坊大僧都順性、擬講行光坊大僧都恭副、會行事歡喜院、〇十二月十日莊嚴院權僧正光賢申任僧正、

同五年癸丑二月廿一日自岡本甲斐守傳受筆道、八月勸學會執行、座主宮登山有證誠、著座、大學頭寶園院僧正光賢、會行事本住院、〇十月七日西塔正教坊權少僧都聖諦回峰千日行滿參內、玉體加持勤之、檜笠、小御所母屋之角之柱之下ニ、檜扇ヲ敷テ笠ヲモタセナク云々、

同六年甲寅二月十五日皇后新殿修安鎮、三ヶ日、十七日（十八イ）聽牛車、廿七歲、〇四月六日覺王院大僧都順性申任權僧正、〇九月三日於西塔別請竪義執行、〇同七年乙卯二月廿五日叙一品、二十八歲、〇四月朔日至四日、於橫川四季講堂臨時元三會執行、奉行職事烏丸右少辨資董、登山有著座、會行事唯心院□□、副行事戒光院亮觀、〇同月十六日大仙院豪觀申任大僧都、年戒　、八月八日禪林院實融申任大僧都、年戒　、九月廿三日住心院大僧都孝俊任權僧正、同日嚴王院慈周、行光坊惠含、各申任大僧都、同廿四日常住金剛院大僧都眞應任權僧正、前唐院八講被備回章叡覽、〇十一月（廿六日イ）●辭座主、

文化二年乙丑八月九日薨、三十八歲、葬法住寺、號那羅延院宮、

第二百十五代尊眞親王（一品イ）青蓮院、　治山四年、

寬政七年乙卯十一月廿七日還補、第三度、上卿中山權大納言忠尹卿、奉行正親町頭中將、辨權右中辨賴壽、

宣命

天皇我詔旨良萬止山中乃法師等爾白止佐倍宣勅命乎白久、佐

一品尊眞親王者、法性固高久、學德最遍志、故爾四海泰平爾萬國和樂牟勢事乎祈禮止、所念行志氏奈牟、故是一品眞仁親王乃辭退乃替爾、重氐座主爾治賜布事乎、白止佐倍宣勅命乎白、

寬政七年十一月二十七日

十二月三日元三會回章叡覽之事、任例御執奏之處、就女院御所崩御、難成叡覽之旨、被仰出、其旨被仰下于別當代觀光法印、〇同月四日御凶事傳奏坊城

中納言奉行烏丸辨被申渡、就恭禮門院御中陰、於般舟三昧院御經供養可被行、初詰之導師幷題名僧三口可有伴參之旨也、同月五日被仰下於山門執行代、同月六日權僧正以上現住之交名任日、書差出、則被附傳奏奉行亭、

交名任日書

安永四未年三月六日轉大勅許　惠心院前大僧正良諶
天明元丑年四月廿八日轉大勅許　正覺院前大僧正豪靖
同五巳年十月五日轉大勅許　正觀院前大僧正堯端
寛政四子年十二月十日轉正勅許　莊嚴院僧正光賢
同六寅年四月六日權僧正勅許　覺王院權僧正順性
同七卯年九月廿三日同勅許　住心院權僧正孝俊
同年九月廿四日同勅許　常住金剛院權僧正眞應

同月八日於禁中非藏人口、傳奏奉行被申渡、

御經供養

初七日

正月八日卯刻

御導師惠心院良諶

同月九日惠心院前大僧正ェ、來年正月八日初七日御導師之事以令旨被仰下、(法印業重奉、)○同月十日莊嚴院僧正光賢(年六十三、戒四十九、)轉任大僧正、大興坊權大僧都諒然(年四十、戒廿四、)申任大僧都、奉行廣橋頭辨、○同月十一日定光院參于座主宮、今度御經供養導師惠心院被仰付、西河一同雖有奉存旨、御禮言上、金貳百疋獻上之、題名僧交名書持參、則日被附傳奏奉行御使法橋業延、

題名僧

歡喜院法印大僧都昌宗
覺常院法印大僧都惠琳
大智院權律師　慈賢

御中陰中、於般舟院奉行僧執行代玉泉院、別當代定光院勤仕之由也、

同八年(丙辰)正月八日、於般舟三昧院、恭禮門院御中陰初七日御經供養、導師惠心院前大僧正參勤、○同月十八日別當代參上、般舟院御中陰御法會無滯相濟候御屆、初七日御導師山門被仰出候御禮等言上、自執行代玉泉院、幷別當代定光院、金貳百疋獻上之、○同月廿一日、善光院大僧都慈純儀、武州高田寶泉寺轉住之由言上、同月廿三日被仰屆兩頭亭、同月廿六日恒例元三會回章被備叡覽、別當代幷御使業重

同伴參向禁中、奏者所持參同章、(入文匣、)則日被返下、於御門室被加御花押、爲御禮羊羹五棹獻上、〇二月十日淨國院權大僧都德圓(年三十五、戒二十四、)申任大僧都、奉行廣日頭左中辨胤定朝臣、〇同日來十六日巳刻莊嚴院轉大御禮參內被仰出、則日被仰下其旨、〇同月十一日一音院忍衣 法曼院眞超各任大僧都、依懺法講參勤也、〇同月十六日莊嚴院大僧正御禮參內、御添使入江主膳參勤、

禁裏御所　一束一本、白銀三枚、
　女中三人各金百疋、取次一人銀貳兩、
　小取次一人青銅五十疋、奏者一人青銅三十疋、
仙洞御所　一束一本、白銀貳枚、
　女中三人各金百疋、取次一人青銅三十疋、
中宮御所　一束一本、白銀壹枚、
　女中二人各金百疋、取次一人青銅三十疋、
關白殿　一束一本、
上卿　金子百疋、
兩傳奏　各金子百疋、
職事　一束一本、白銀三枚、
　雜掌一人金百疋、添使一人青銅五十疋、
下知辨　金子百疋、
官務　金子百疋、
添使　白銀十匁、
座主宮　一束一本、白銀壹枚、
　坊官□人　御添使

同月廿三日淨國院大僧都之御禮同勤、御添使 入江主膳參勤、

禁裏御所　一束一本、
　女中一人金百疋、
職事　金子百疋、
　添使青銅二十疋、
上卿　金子百疋、
兩傳奏　無進物、
座主宮　金子百疋、
　坊官諸大夫各青銅三十疋、
　御添使　同廿疋、

座主宮於白書院御對面、賜口祝昆布、於臺子間有勸盃、江府執當宛奉書一通坊官執達、〇三月三日來十月大會執行、願會行事常智院吉祥院列參言上、〇同月十五日行泉院權大僧都祖鎭(年三十八、戒二十四、)申任大僧都、

奉行廣橋頭辨胤定朝臣、同月廿七日拜堂登山社頭拜賀、○四月三日輪王寺宮御使眞覺院參入、于座主宮、山門僧侶參上於中宮御所之節、自車寄昇降之覺悟候處、去二月莊嚴院轉大御禮之節、於奏者所可相勤旨被仰渡、全失山門之規模、大衆一同歎存候、此等之趣可然御奏聞賴思食之由被仰進、○同月廿五日惠心院前大僧正去正月般舟院御經供養參勤被物料、幷題名僧三人被物料等、今日相渡候旨言上、○五月十一日自奉行烏丸左少辨資董以一通、從來十四日一七ヶ日、一寺一同抽精誠、宜奉祈天下泰平玉體安穩、寶祚長久五穀豐饒、萬民安樂御願圓滿、殊凝懇念之旨、延曆寺可有御下知之旨、被仰下、同十二日召執行代、玉泉院參上、法橋經親申達、同廿一日玉泉院持參卷數一合、則日被附奏者所御使並河掃部、○六月十九日南樂坊權大僧都光完三十八歲、申任大僧都、奉行烏丸左少辨資董、但今度申大僧都小折紙、依勸修寺經逸卿命不載戒臈也、○七月六日以一音院爲別當代之旨、自華藏院言上、○同月廿八日來十月兩法華會執行之事勅許、奉行烏丸左少辨資董被定之旨、被申渡、同廿九日以令旨被仰下子會行事許、法印業重奉、

○八月朔日四谷惣代幷寺家等列參、大會勅許御禮、白銀貳枚獻上、於白書院御對面、先兩院家、次寺家、於臺子間有勸盃、職事烏丸家江爲御禮參向御添使之事、寺家兼勤候樣被仰付、○同月三日寺家參上、惣持坊權僧正順性欵狀、鷄足院大僧都亮周□等持參、入御內覽之後、持參于奉行亭之樣被仰付、寫貳通被留於御門室也、○同月七日權僧正順性補探題、己講イ大僧都亮周補擬講之事、勅許、同八日被仰下會行事貫豪法印許、同十二日惣持坊鷄足院列參勅許之御禮、求肥飴各貳箱獻上之、○同月廿一日大會會行事圓龍院貫豪、八役者惣代禪林院實融、幷寺家等列參、囘章貳通入御內覽、同廿二日被備叡覽、被附烏丸左少辨亭、御使大谷法印、幷兩僧寺家等同伴、則日叡覽相濟被返下、同廿三日被加御花押、爲御禮羊羹十棹獻上、於白書院兩僧幷寺家御目見被仰付、於臺子間勸盃之後退出、○同月廿四日會行事寶嚴院大僧都覺永參上、來巳年八月勸學會執行之事言上、依例白求肥貳箱獻上、○同月廿八日、於中宮御所、山門院家昇降場所之事、過日以來、鷹司殿下勸修寺前大納言兩所江被及御內談之處、今日自傳奏衆更〻被仰出候旨、被觸之、

中宮御所江、院家方者從御車寄、諸寺醫師等者奏者所江、參上可有之旨、先達而被仰出候得共、以來者諸寺醫師等入塀重門、諸大夫間代江可有參上旨、更被仰出候事、

九月四日、滋賀院殿江以御使鳥居小路宰相、先般被仰進候於中宮御所山門昇降所之事、此度傳奏觸之趣被仰進、○同月廿七日一山惣代玉泉院大僧都覺千參上、中宮御所昇降所一件、厚御取斗被成下候御禮言上、依之方金三百疋獻上之、十月兩法華會執行、奉行鳥丸左少辨資董有登山、

探題　覺王院權僧正順性 賜昆布五十本 金貳百疋

已講　行光坊大僧都恭副 同上

擬講　鷄足院大僧都亮周 同上

會行事圓龍院大僧都貫豪 賜金貳百疋

右題者惠心院前大僧正以下四人 賜各昆布五十本

右以御使圓乘房、任例自座主宮被遣之、今月二日登山、○同十二日四谷惣代兩院寺家等參上、大會無滯相濟候御禮、銀貳枚獻上、勸盃之後退出、奉行鳥丸辨亭各御禮參向、被添御使大谷法印、其儀如例、○同月十六日逢實母之喪給、不及辭座主、令五旬籠居給也、○十二月九日、自輪王寺宮以御使眞覺院大僧都孝覺、爲中宮御所昇降所一件御挨拶、御菓子一箱被爲進之、

同九年丁巳正月晦日、爲惣代寶積院亮猷寶嚴院覺永列參、天台宗諸院家無堂上地下之差別、朝庭御取扱被爲有候願申、二月七日、此一條先輪王寺宮江申出可然旨被仰渡、○二月十三日自正親町前大納言殿被傳院宣、

天下泰平、寶祚長久、玉體安穩、聖壽無窮、殊因有叡願之趣、延齡安全之御祈、自來十六日限一七箇日、一寺一同凝丹誠可抽懇禱之旨、可令下知延曆寺者、

院宣如此、以此旨可令洩申座主宮給、仍執達如件、

二月十三日　　正二位公明

謹上上乘院僧正御房

天下――以下同文延曆寺之由、

院宣之趣、謹以所請如件、

二月十三日　　天台座主尊眞請文

正親町前大納言殿

召執行代大興坊大僧都諒然被仰渡、廿二日滿座、別當代一音院忍衣持參卷數、則刻被附禁中奏者所、御使法橋業延、○同月十五日、來八月勸學會執行之事可及內談傳奏代今出川殿之後、同廿日以長橋局被經奏聞、御使法眼經親、三月晦日勅許、被定奉行人烏丸左少辨之旨、被仰出、四月朔日以令旨法印業重奉、被仰下於會行事大僧都覺永、○二月十八日五智院大僧都寂深隱居四十四歲、○三月廿二日金光院探題僧正榮範年六十七、戒五十四、號日光修學院、任大僧正云々、○四月五日東塔執行代玉泉院大僧都覺千跡慈光院法印純昌參上、此度當役之御禮、外良餅五棹獻上、○六月廿四日、勸學會回章今日被備叡覽、會行事寶嚴院、副行事行泉院、寺家宰相御使烏居小路經親同道、持參于奉行烏丸辨殿、天覽相濟、即日被返渡、御花押之事如恒例、○七月二日乘實院大僧都眞儁隱居四十二歲、同日寶嚴院大僧都覺永轉住愛宕山威德院、○七月廿三日慈光院權大僧都純昌年三十八、戒二十四、申任大僧都、奉行甘露寺右少辨、同月廿六日御禮回勤、御添使如例式、

禁裏御所　一束一本　女中一人金百疋

仙洞御所　中宮御所　無捧物

以上於奏者所申上、直退出、

上卿金百疋　兩傳奏無進物

職事金百疋　同添使烏目廿疋

座主宮金百疋　坊官各靑銅三十疋御添使同廿疋

右執當返書、如例納白木狀箱執達、○閏七月十日於延曆寺請雨之御祈被仰出、

累月炎旱黎庶之患寂甚、因玆從明日十一日一七ヶ日、殊抽精誠宜奉祈天下泰平四海安穩甘雨遍滿五穀豐饒寶祚長久萬民安樂之旨、可令下知延曆寺給、

天氣所候也、以此旨可洩申座主宮給、仍執啓如件、

閏七月十日　左少辨資董

謹々上上乘院僧正御房

召執行代被仰下、同十一日於根本中堂御修法開闢、十二日白雨下、十八日强雨下、同日結願卷數獻上如例、○同月廿一日金藏院大僧都慈孝轉住東塔寶乘院、○八月七日玉林院權大僧都覺桃年三十五、戒二十四、觀泉

坊權大僧都圓海年三十六、戒二十六、各申任大僧都、奉行中山
頭中將、○同月十八日西塔勸學會執行、學頭覺王院
權僧正順性、會行事淨國院大僧都德圓、○同月廿八
日觀明院權大僧都宣尊年三十四、戒二十三、申任大僧都、奉行甘
露寺右少辨國長、
九月朔日御教書到來、

來月歌道御灌頂可被遂無爲之節
御祈、自來四日一七ヶ日、一寺一同
可抽精誠之旨可令下知延曆寺給、
天氣之所也、以此旨可令洩申
座主宮給、仍執啓如件、

八月三十日　左少辨資董

謹上大納言僧都御房

追卷數來月十三日巳刻可有獻上事、

御請文曰、但今度御代筆云々、

來月――同文言延曆寺由、謹以所請
如件、

九月朔日　天台座主御判請文

左少辨殿

召執行代被仰下、滿座之後卷數獻上如例、○同月二
日執行代慈光院言上、先月廿五日於東町奉行菅
沼下野守自來春山門諸堂社御修覆可有之被仰出云
云、○同月廿五日覺王院權僧正順性年六十一、戒四十八、申任僧
正、奉行葉室右中辨、十月三日御禮參内參院、○十
月八日執行代言上、去八月十八日玉照院僧正憲雄
兼薩州南泉院、寂云々、五十三歲、○十一月十二日自一山捧訴狀、
附勸修寺前大納言經逸卿被及内々奏聞、十二月廿
六日以經逸卿更被仰出云、

正院家輩諸禮幷任官御禮、自今中宮參上之節、自
諸大夫間代昇降、暑寒爲伺御機嫌參上之節者、是
迄之通自車寄昇降之事、

山門院家任官御禮參内、以來正院家可爲別日、若
同日被仰出之節者、可爲別時刻事、

同三學頭年齡及七八十僧、毎年一人宛諸禮參内、
幷御加持可被仰出事、

消息云

山門院家三學頭、及高年僧、毎年一人
宛、依順諸禮參内、可修御加持、被仰
出候、彌抽丹誠、宜奉祈寶祚長久之
旨、三塔可有御下知、關白殿被命候、此

旨宜令申入座主宮給候也、

十二月廿六日　經逸

上乘院僧正御房

學頭正觀院前大僧正、覺王院僧正、執行代慈光院等、依召列參、經親業延出會、被仰出之旨申達、廿九日申御請、○十二月東叡山淩雲院僧正德考兼住山門覺林坊云々、

同十年(戊午)正月四日別當代一音院大僧都忍衣言上、就來月上旬横川中堂修理下遷座、御登山願申云々、御修理掛、覺常院大僧正惠琳、長壽院法印舜章、戒光院權大僧都亮觀、瑞應院權大僧都孝忍、禪定院權少僧都眞敬等、勸仕之旨、言上、○同月十一日傳奏勸修寺經逸卿執達、來廿日辰刻三學頭一人參内被仰出、同十三日仙洞中宮參上之儀被仰出、○同月廿日惠心院前大僧正良諶(年八十六歲)、爲年賀參内於小御所、天顏拜次相進勤御加持、次參院、次參中宮、衣體緋鈍色五條指貫、召具先挾箱二、徒士三人、(麻上下)布衣四人、以下準之、御添使入江主膳、

一禁裏(於鶴間白御添使渡非藏人)仙洞(於北面口渡之)中宮(於奏者所渡奏者番)等各一束一本卷數一枝、挾末廣之上也、一關白殿一束一本、(無卷數)、以上有下札、(延曆寺惠心院前大僧正)

一兩傳奏各扇子(三本)一箱、同雜掌四人各銀十匁、

一禁中取持非藏人羽倉豊前、延紙三束金百疋、

一洞中非藏人松本大隅、中宮松尾安藝、各金百疋、

昇降所、禁中諸大夫間、院中車寄、中宮諸大夫間代悉相濟、參入于青門、御菓子一箱獻上、於御次有勸盃、同月廿四日一山惣代大興坊大僧都諒然參上、學頭參内之御禮、菓子一箱白銀拾枚獻上、(坊宮六人各金貳分)、鷹司殿下菓子一箱眞綿十把、兩傳奏各眞綿五把金三百疋、別段勸修寺殿金五百疋、進入之、御添使渡邊外記、大興坊同伴參入、○同月廿八日、横川中堂外遷座日時勘出之事被仰下、小泉陰陽大屬則勘進、

可被有外遷座日時

來月二十七日辛酉　時亥子

寛政十年正月二十八日　有憲

二月二日觀音堂外遷座之日時被仰下於別當代許、

横川中堂外遷座日時、別紙之通

可相達旨、依

座主宮仰、如斯御座候、恐々謹言、

二月二日　大谷法眼業延判

代別當代御房

別紙中奉書折紙

比叡山横川中堂外遷座日時

二月二十七日辛酉　時酉

爲御請、同三日覺常院參上、菓子一折獻上、同月廿日東塔執行代慈光院參上、根本中堂外遷座御登山願、并日時伺申次第書一通、持參、○同日來廿七日御登山、廿八日御下山之事被仰入于傳奏、○同月廿一日、根本中堂外遷座日時內々勘出、被仰下小泉、

來月廿七日辛卯　時戌子

三十日甲午　時亥子

則以奉書被仰下於執行代、別紙日時云、

根本中堂外遷座日時

三月三十日甲午　時酉

同月廿七日、依横川中堂修理、本尊觀世音菩薩外遷座、爲導師座主宮御登山、宿坊惠心院、廿八日下山、○三月廿二日、來晦日御登山之事被仰入于傳奏月番亭、○同月三十日依根本中堂理、今夜本尊藥師如來以下外遷座、爲御導師座主宮登山、○四月五日横川衆徒請申中堂本尊御損所爲修理開封、御名代寶光院尊海登山、於四季講堂門外下乘、別當代并衆中出迎于護摩堂前、於勅使之間休息、改衣體素絹五條指貫、次入假堂、衆中出迎于外陣、自正面入內陣、法樂畢而解御緘、拜禮之後申其由于修理役者、中休息、此間奉繕損所御臺座、依塗替假奉居白木座、其後尊海參進、如元封之出堂、衆中送于外陣、次有酒饌、下山之時如始衆中送于護摩堂前、於門外乘輿下山、同九日惣代禪定院參上、御名代登山之御禮、白求肥三箱獻上、院家金五百疋贈進之、○五月九日依修理役者請申、根本中堂御本尊損所有無伺申之、來十五日以御名代開封可被仰付之旨、申達于執行代、御名代之儀覺王院僧正被仰付、同十一日召殿中渡御封一枚、同十五日開封、同十六日參殿、損所少々直相整、古御緘返上、同十九日修理役者常智院參上、爲御名代御禮、銀貳枚菓子一箱獻上、覺王院僧正金五百疋贈之云々、自座主宮白銀一枚被遣之、○同月十七日正覺院前大僧正豪靖遷化、○八月廿七日就來十月前八講、回章叡覽、會行事常智院御添使法印業重持參奏者所、則日被返下之後、御花押被加之、會行事參賀、銀一枚獻上、坊官金百疋贈之、於白書院御對面、於臺子間

勸盃之後歸山、○九月六日別當代一音院參上、就川中堂修理出來上遷座、御登山、幷任寶曆十三年之例囘章叡覽之事言上、○同月廿三日蓮華院權大僧都智囊（年三十八、戒二十五）、申任大僧都、奉行職事甘露寺辨國長、○十月十一日根本中堂上遷座之囘章被備叡覽、執行代幷御添使法眼經親持參奏者所、則日被返下之後、被加座主之判、爲御禮白銀貳枚獻上、坊官一座五人各金百疋、御添使同百疋、贈之、○同月十九日就横川中堂上遷座、今朝御登山、今夜被遂行、翌廿日御下山、同廿三日別當代參上、爲御禮三種二荷（代銀三枚）、白銀拾枚獻上、於黑書院御對面、於御次勸盃、御門下之面々贈進物、同人持參之、金三百疋實光院尊海、同三百疋行事僧法眼經親、同百疋供奉坊官業延、同貳百疋賄方堅月縫殿、同百疋右同人別段、同六百疋供奉御近習中、同貳百疋同外樣茶道中、同貳百疋板元以下、

同月十九日、就來月四日日吉社正遷宮、烏丸辨參向被仰出、於非藏人口辨殿被申渡、自傳奏勸修寺前大納言殿日時勘文被渡之、法印業重行向請取之、

陰陽寮

擇申　日吉社正遷宮日時

十一月四日癸亥　時酉

寛政十年十月十八日

大允賀茂朝臣保雅

權助兼木工權頭賀茂朝臣保敎

助兼越前權守賀茂朝臣保敬

刑部權大輔兼曆博士賀茂朝臣保嵩

自法印業重注進于山上、於御宿坊召執行代被仰渡、同月廿六日奉行烏丸殿へ業重持參日吉大宮正遷宮繪圖、幷次第書、衆僧交名、辨殿宿坊圖、諸史宿坊圖、樂人宿坊圖等、○同月廿五日、就東塔根本中堂正遷座、今朝御登山、御宿所東谷正覺院、同廿六日夜被遂行上遷座、同廿七日御下山、○同廿九日執行代幷修理役者等參賀、貳種一荷白銀十枚獻上、於白書院御對面、於雞間勸盃、御門下音物曰、

金五百疋　扈從實光院

同貳百疋　供奉坊官二人

同百疋　上童子一人

同百疋宛　御近習十三人

銀貳兩宛　外樣六人

銀貳兩　茶道一人

金三百疋　行事僧經親
同三百疋　賄方望月縫殿
同貳百疋　板元以下
十一月四日日吉大宮正遷宮被遂行、爲座主御名代、大藏卿法眼經親被差向、○同月十四日一山惣代大興坊參上、日吉大宮以下至小社末社、昨十三日限悉正遷宮相濟候旨言上、依之白銀三枚獻上、於白書院御目見、於臺子間有勸盃、
金百疋宛　坊官一座五人
同百疋　行事僧大藏卿法眼
同月十五日赤山社正遷宮被遂行、日時之事伺之上、兼日被仰下云々、同十六日西谷惣代妙音院參上、爲御禮金貳百疋獻上、○同月十六日、日吉社惣代生源寺業審參上、社頭清秡候ニ付、任先例神供神酒獻、於臺子間勸盃、○同月廿九日、來未年四月朔日橫川大法元三會開闢四箇日法華八講執行之事、幷奉行職事登山之事、依川衆徒請、以傳奏御内慮之後、今日以長橋御奏聞、御使鳥居小路法眼參向、○十二月廿六日執行代慈光院純昌、大興坊諒然、別當代一音院忍衣等列參、日吉祭禮上卿以下參向御再興ノ之捧願書曰、

日吉祭禮上卿以下參向之事、竊檢尋舊記、往昔嚴重之御指揮有之候事、諸記分明御座候、中古以來中絕、社頭一箇之大禮及闕如、大衆年來歎惜此事御座候、依之此般復舊例、先辨以下參向奉願度候、如願於　勅許者、天下安全玉體安穩、叡算無窮、萬民豐樂、神勅倍可著、大衆鑽仰何事過之、此旨宜、
座主宮御執奏偏奉仰高庇候、彌可爲御神忠不堪懇願之至候、誠恐頓首、
寛政十戊午年十二月　日　延曆寺大衆等
以別紙、日吉祭禮之節辨以下參向御再興之事奉願候、右於下行米者、永世無頽顚從當山指出可申、依而爲後證如斯候也、
寛政十戊午年十二月　延曆寺大衆等
如此呈書之旨、同月廿七日以御使法眼經親被仰談傳奏勸修寺前大納言殿許、延久以來上卿以下參向祭祀嚴重被行候諸記錄顯然候、觀應文明之頃辨參向之事、園太曆親長卿記所見候間、以其先觸今度先辨已下參向可被仰出哉、於下行米者、永世無頽顚、自山門取賄候條等、自宮御口上書特參、

天正十七年九月十一日　法華會再興執行
享保元年八月　勸學會再興執行
同十五年八月　勸學會執行奉行
柳原右少辨光綱朝臣登山
寛政三年　大法元三會再興執行
右例依尋被書出、
同十一年己未正月十七日、學頭年始參內可爲來廿日之旨被仰出、同廿日正觀音前大僧正、、參內如去歲、○二月十四日、來四月大法元三會執行敕許、被定奉行職事烏九右中辨、○三月三日於橫川別請竪義執行、新題者總持坊僧正順性、講師行光坊大僧都恭副、擬講雞足院大僧都亮周、○四月三日於橫川四季講堂、大法元三會執行、座主宮代拜登山、被備金子貳百疋、○同月廿三日、於仙洞櫻町上皇五十囘聖忌庭儀曼荼羅供爲御導師、衆僧八口、奉行日野西權右中辨延光、○同月廿六日日吉祭禮辨已下參向之事、舊臘被談申經逸卿之後、依有可然返答、今日更被附傳奏、月番千種前中納言殿亭御使法眼業延可有御奏聞之樣被仰入、追而八月廿九日依尋、祭禮當朝辨參向之式畢而近例之里祭遂行可申之旨、被仰答、其後無御沙汰、寛政十二年閏四月廿九日千種前中納言殿被申渡日吉祭禮辨以下參向再興之事、依有御差支之子細、於今度者難被及御沙汰之由、內々武家江八イ勅問之處、不可然之旨言上云々、○五月十日辭座主、聞食

第二百十六代入道一品公澄親王輪王寺、

治山經四箇月、

後桃園院御養子、准母盛化門院、實伏見兵部卿邦賴親王子、公延親王附弟、

寛政十一年五月十日補座主、年戒　、○同月廿六日聽牛車、○六月十一日五イ拜堂登山、○七月二日雙嚴院堯道任大僧都、○八月四日辭座主、○同月八日立京下向于東叡山、

第二百十七代入道一品尊眞親王青蓮院、

治山十二箇年、

寛政十一年己未八月四日十一イ還補、第四度、○同月十七日陣宣下、上卿坊城大納言俊親卿、奉行裏松右少辨明光、宣命使東坊城少納言、○九月十八日就地福院法印權大僧都堯諄囘峰千日行滿、綸旨頂戴參內玉體加持之事、依行者一統之請、附葉室頭右中辨亭、被及奏聞、十一月十七日勅許、可有來廿一日巳時參內之旨

頭辨言上、則日被仰下于行者中、○同月廿日三執行
代列參、舊例座主　宣下之時　宣命使之儀被差向山
上、於大講堂大衆拜見之後自寺家三綱持參座主宮
之處、再興已來無其儀候、何卒復舊儀御再興之儀、
大衆一同奉願旨云々、同月廿五日被及御內談勸修
寺殿、御使法眼業延參向之後、同月廿九日右御奏聞
之儀、更傳奏月番勸修寺前大納言殿被仰入、御使法
眼業延、十月朔日於傳奏千種前中納言有庸卿亭、自
今以後座主宣命使登山可被仰付條、御奏聞之通聞
食云々、被申渡、同二日以御使大和守重定、昨夜之
御請被仰入、同月三日召三執行代大僧都純昌諒然忍兵、被仰渡、
同月十一日同三人參賀、白銀貳枚羊羹十棹獻上、
坊官一座贈金五百疋、○九月廿七日華王院孝淳不動院德辨戒光
院亮歡各任大僧都、○十一月十六日仙洞六十賀御
祈一寺一同可抽丹誠旨被仰出、

　來二十六日可被奉賀　上皇六十寶算、
　延齡安全無窮之御祈、自來十九日一
　七箇日之間、一寺一同可凝懇禱、可令
　下知延曆寺給、以此旨宜洩申座主宮
　給者、依

天氣執啓如件、
　十一月十六日　權右中辨延光
　謹上大納言僧都御房

御請文料紙小奉書竪書二枚重、表包同紙、
　來廿六日可被奉賀
上皇、、、、、、、、、、、、、、、、、
、、可凝懇祈、可令下知延曆寺之旨、謹以所請
如件、
　十一月十七日　天台座主尊眞請文
　權右中辨殿

召執行代被仰渡、同廿五日執行代光聚坊持參御祈
滿座卷數貳合、則被獻兩御所也、○同月十九日依
勅命、於本坊爲同御賀御祈、被修中延命法、助修六口、奉
行日野西權右中辨延光、廿五日結願、○同月廿一日
地福院權大僧都堯諄囘峯千日滿後今日參內、職事
里亭迄御添使藤木左衛門參向、自是職事之添使有
之、其儀如例式、
　禁裏御所一束一本銀貳枚、　長橋引合十帖、
　仙洞御所一束一本、　女中一人引合十帖、
　中宮御所一束一本、　女中一人引合十帖、

關白殿　一束一本、
兩傳奏　各引合十帖、
職事葉室家　引合十帖、金子貳百疋、
雜掌二人各青銅三十疋、　添使一人同卅疋、

則日參于座主宮、一束一本銀一束一枚獻上、於黑書院令請加持給、於臺子間有勸盃、坊官一座各金百疋、御添使青銅三十疋、執當宛奉書例文渡之、○十二月四日光聚坊權大僧都忍袖年三十七、戒二十四、申任大僧都、奉行日野西權右中辨延光、○同月九日覺常院參上、今度別當代蒙仰候御禮、羊羹五棹扇子五本入一箱獻上、○同月十九日中宮御着帶、御帶加持、於御本坊有其儀、先是日野中宮權大進持參御帶、大僧都覺前請取之、入道場御加持之間、於殿上權大進有勸盃、御加持畢而、如元大僧都覺前渡權大進之後退出、則夜爲御產御祈、被修藥師護摩、同廿五日以葉室頭辨被出中宮御撫物、今夜藥師護摩供結願、被始修訶梨帝母十五童子供、明年正月二日被獻結線、入小辛櫃、同月廿三日若宮降誕之由、持豐卿和資卿以消息御注進、則御修法御結願作法被修之、被進卷數於中宮御所、御使法眼經親、同十二年庚申正月十日中宮御產御祈、自來十六日一七箇日、於延暦寺可修藥師法之旨、以日野西辨被仰出、同十五日於御產屋非藏人口、自奉行辨被渡御撫物、法印業重承仕一人參向請取之、在辛櫃白丁等、則日於御本坊渡三執行代、同廿三日皇子降誕被仰下之后、御撫物卷數等三執行代持參、以御使法印業重被附御產殿、同廿八日賜銀五十枚於傳奏千種殿被渡之、二月四日自山門爲御嘉儀禁裡仙洞中宮若宮昆布百本宛獻上之、惣代光聚坊幷御使藤木左衛門被差添、關白殿兩傳奏同申御賀儀也、○三月十四日眞覺院大僧都孝覺年六十三、戒五十一、申任權僧正奉行葉室頭辨五月三日御禮參內御添使渡邊外記、○四月七日依若宮薨去觸穢、日吉祭延引否之事、被仰合勸修寺經逸卿之上、同九日執行代申渡可爲延引之事、○同十七日依愛宕山本社以下悉燒亡、爲天下泰平玉體安穩除火災御祈、自明十八日一七箇日、一寺一同可抽丹誠之旨、自經逸卿言上、則日被仰下、同廿五日執行代卷數持參、被附奏者所、御使並河掃部良廣、○閏四月廿六日社頭拜賀、廿七日拜堂登山三塔御巡禮、同廿八日還御于粟田口、○同月廿九日日吉祭禮可爲五月十五日哉否被仰合于傳奏之後、五月四日被附長

橋局御奏聞、假名文如例、則日聞召之由有御返章、同月五日以令旨被仰下於執行代如例、但近例宛所書執行代中之處、依內々請申、自今度除中字、書執行代也、○五月七日日吉社司祝部業審三十歲、中置四年、號生源寺刑部少輔、申叙從四位下、祝部希行二十五歲、中四年、號生源寺內藏頭、申叙正五位下、奉行葉室藏人頭辨、○七月廿日、來十月兩法華會執行勅許、被定奉行人甘露寺左少辨、同廿七日歎狀寺解被附奉行亭、同廿八日眞覺院權僧正孝覺、雞足院大僧都亮周等、補任探題、習禪院大僧都韶胤補已講師、法曼院大僧都詮榮補擬講之事、勅許、則日以令旨被仰下於會行事、○同月廿八日御敎書曰、

今曉雷震下侍、霹靂中重偶雖有舊蹤、御座咫尺之所、殊不安宸襟、依之、天下泰平、寶祚長久、宮城靜謐、風雨順時、五穀豐饒、庶民安穩之御祈、一寺一統抽誠精、從來三十日限一七箇日、可凝懇禱之旨、可令下知延曆寺給、天氣候也、以此旨可令申入座主宮給、仍執啓如件、

七月廿八日　　權右中辨國長

謹上大納言僧都御房

御請文、御代筆云々、

今曉、、、、（同文言）

旨可令下知延曆寺由、謹以所請如件、

七月廿八日　天台座主尊眞請文

權右中辨殿

右如例召執行代被仰渡、八月七日滿座卷數一枚持參、光聚坊參上、則日以御使法眼業延被仰入于奉行亭之後、被附長橋局御奏聞、〇同月廿一日甘露寺權右中辨被辭退法華會奉行之由、替奉行可爲日野西右少辨之旨、被仰出、〇同廿四日被備回章叡覽如例、會行事寺家幷御使法眼業延等持參、則日被返下、被加御名判、

座主一品（御判）親王

如此被染御筆也、羊羹十棹獻上、勸盃之後歸山、○同月十一日什善坊大僧都眞超去八月廿二日回峯千日滿行之後、任申請御奏聞之處、來十四日巳刻可有參內之旨、葉室頭右中辨被申達、同十四日參內如例、事訖而參賀、十帖一本銀一枚獻上、於黑書院御對面、有御加持、於御次有勸盃、執當返書例文渡之、

同廿四日行者惣代寶珠院參賀、今度什善坊參內無滯相濟候御禮、昆布五十本一折獻上、○十一月廿四日鷄足院大僧都亮周年五十九、戒四十九、申任權僧正、奉行葉室頭右中辨、十二月十一日御禮參內、○十二月十一日於禁中新造御三間御獻間、被修鎭不動法、奉行日野西權右中辨延光、助児八口、脂燭殿上人通典朝臣、貞隨、丹波賴望、同十二日被納鎭札八枚、行事法眼經親奉行之、同十三日座主宮參內、於常御所有御加持、於御前賜御衣、大典侍局取傳之、今日被進卷數一枚、昆布五拾本被添之、御使法眼業延持參奏者所、追而御下行米五十石被渡之、○同月廿二日覺王院僧正順性年六十四、戒五十一、申任大僧正、奉行葉室左中辨賴壽朝臣、同十三年辛酉正月廿日惠心院前大僧正年八十九、依當年順次年、始參內於小御所奉加持、今度被賞高年下賜帛、縮緬二卷、眞綿五把、於玆追上謝表、

沙門良諶言、三春之初九重之內賜席拜 龍顏、修御加持、此全雖及末法衰運、列傳教慈覺慈惠之法孫、而經台嶺採果寒谷汲水之艱難、禀性魯鈍而闇三觀十乘之旨、無顯密修練之功、幸蒙朝恩而進叡岳之顯職故也、揣分瀆職如養魚鼈於層雲之嶺、棲鳥雀於重淵之底、獨自懸懼、孜々而棲叡川七十五年、首戴霜雪拜 天顏、誠老耄之幸慶何事加之耶、 階下聖德日新、更降 聖詔蒙賜瑤覗、 帝德之尊感重百朋、愉齡九旬戴 皇恩者、伏欽承之銘刻實足爲吾寺光榮、彌可奉抽 天祚永久玉體安穩之丹精、謹奉表陳謝以聞、良諶誠惶誠恐頓首頓首謹言、

寬政十三年正月二十日

延曆寺首楞嚴院前大僧正良諶上表

先是備座主內覽之後、以御使法眼經親、附經逸卿被經奏聞也、○二月五日有年號改元被號享和元年、

享和元年辛酉事脫カ二月十四日來八月勸學會執行奉行等之●附長橋局被及奏聞、○同月廿三日本行院權大僧都亮海、年三十八、戒二十五、申任大僧都、奉行職事葉室頭辨賴壽朝臣、○三月三十日日吉宮仕法師知足四十六歲、號伊勢闍太成、同昌恭四十歲、號同柳泉、申叙法橋、奉行同人、○四月六日勸學會執行勅許、被定奉行日野西延光、六月廿六日回章叡覽、○五月八日松壽院權大僧都圓恕年二十七、戒十六、申任大僧都、號顧王院輪門院室也、是非座主奏也、○同月寶乘院大僧都慈孝移轉于愛宕山長床坊、○八月

十九日西塔勸學會執行、奉行右中辨延光登山、大學頭權僧正亮周會、行事大僧都祖鎭、○十月廿八日白毫院權大僧都觀洞年三十五、戒二十四、申任大僧都、奉行甘露寺辨國長、○十二月十三日於紫宸殿、爲辛酉革命御祈、被修不動大法、助咒廿口、奉行藏人右中辨延光、行事僧法眼經親、同十九日結願追而下行米貳百石被渡之、

同二年壬戌正月廿九日於仙洞小御所、奉爲靑綺門院十三回御忌、法華懺法爲御導師、衆僧九口、奉行日野西延光、傳奏從二位俊資卿、追而下行米五十石被渡之、○三月廿七日祝部成光十五歲、成範男、申叙從五位下、奉行甘露寺頭辨國長朝臣、○五月十七日觀泉坊大僧都圓海寂、四十一歲、○六月觀明院大僧都宣尊依病身退院三十九歲、○七月廿七日惠雲院良延年四十七、戒三十三、申任大僧都、奉行烏丸頭辨、○八月六日總持坊兼覺王院探題前大僧正順性遷化、六十六歲、○同月廿三日本住院堯鄕年三十八、戒二十五、任大僧都、奉行甘露寺頭權右中辨國長朝臣、○九月慈光院大僧都純昌轉住于總持坊、改名號順眞、○十月前唐院八講幷曼供執行、去八月有叵章叡覽、會行事禪林院實融、會役者華王院孝淳、不動院德辨、妙音院惠顯、○十一月三日於東塔別請竪義會執行、探題雞足院亮周、問者習禪院韶胤、竪者法曼院詮榮、執事不動院德辨、○十二月廿一日辭天台座主、以御使被附藏人頭、辨國長朝臣被及奏聞、○同月廿八日可爲座主如元之由、被仰下、勅諚曰、依老年被辭申之旨、雖無據、多年治山有聲譽、山徒歸依無異勤仕、最老年德行之所令然也、因之雖苦勞之儀、尙在職候而可被治山之旨、厚御沙汰候事、右頭辨仰之、再應可被辭之旨被仰入于經逸卿許之處、今度辭退不可有勅許之樣、山徒一同內々奏聞云々、若於被改補眞仁親王者、三千徒不可受座主之命由、言上之間、不及是非云々、於玆可有在職之旨、被及御請也、

同三年癸亥閏正月寶積院大僧都亮猷轉住于紀州陽照院、○二月四日雞頭院權少僧都法眼良圭年二十四、戒十一春、號左中將、惠心院前大僧正眞諡弟子、住職續目申賀儀、扇子一箱獻上之、○同月行光坊大僧都淑徽轉住佛東院、兼號竹林坊、○三月六日執行代光聚坊辭退執行代、以不動院爲其替之旨言上、同廿四日不動院參上、外良餅五棹獻上、○同月廿八日常智院惠舍轉住于行光坊之由言

上、○五月廿九日習禪院已講法印大僧都韶胤寂、○六月佛乘院兼竹林坊大僧都淑徽依武家奏任權僧正云々、○同月廿五日横川別當探題前大僧正法印良諶遷化、行年九十一歲、○七月覺常院大僧都惠琳辭別當代、玉林院大僧都覺桃轉住東叡山常照院之旨言上、八月三日來子年十月爾法華會執行之事行光坊言上、○同月廿五日金臺院權大僧都光純、年三十六、戒二十六、善學院權大僧都眞興、年三十五、戒二十五、各任申大僧都、奉行甘露寺頭辨、○九月大興坊大僧都諒然辭執行代、轉住于三河國松高院、○同廿四日戒光院大僧都亮歡爲別當代之御禮、外郎餅五棹獻上、於黒書院御目見之後退出、○同日功德院權僧正亮周轉住于惠心院之由言上、○十月依宮中懺法講任官之輩、九月二十六日宣下、龍禪院權大僧都理順、無量壽院權大僧都智道、壽量院權大僧都覺融、寶藏坊權大僧都實瑞等各任大僧都、光圓院法眼副宗叙法印、○十一月覺常院大僧都惠琳轉住鷄足院、本住院大僧都堯鄰爲執行代之旨言上、○十二月十九日妙音院權大僧都惠顯、年三十七、戒二十七、玉照院權大僧都孝然、年三十八、戒二十五、各申任大僧都、奉行頭辨國長朝臣、○同吉祥院大僧都實運轉住于西教寺、

同四年甲子正月十八日、山門住侶參內之節、雨儀之時、自公家御門至平唐門內諸大夫軒下、依先例寺格用朱傘之間、來廿日恒例參內之節、雨儀之時相用之旨、傳奏月番千種殿迄被仰入置也、○同月廿日惠心院權僧正亮周參內、退出之時、雪飛之間、自平唐門內至唐門外用朱傘、於唐門透垣之外乘輿云々、御添使入江主膳、今年座主宮六十一歲、依爲御厄年、於一山御祈禱勤仕之旨、執行代言上、卷數一合獻上、自別當代横川院內限同御祈禱之卷數一合獻上之、○二月十一日有年號改元被號文化、

文化元年三月等覺院大僧都甬言六十二歲、去正月八日寂之旨言上、○四月朔日生源寺祝部希烈二十歲、中四年、申叙從五位上、奉行國長朝臣、○六月十七日藥樹院孝覺辭探題、奉行國長朝臣、○七月廿四日、來十月爾法華會執行勅許、被定奉行裏松辨明光、同廿五日被仰下于會行事行光坊惠含、同廿七日改奉行定萬里小路辨建房、同廿八日會役者寺家參賀、御添使進藤爲善、八月五日依款狀寺解探題以下宣下、權僧正淑徽、同詮榮、各補探題、大僧都鎭祐補已講、大僧都惠

琳補擬講、○八月九日法曼院詮榮被許紫衣着用、令
旨云、

兩法華會新題者、一宗嶮難之經營、十題判斷之顯職、而爲衆之師表者、久踏擬已之梯蹬方昇進之事、誠勤功之至矣、今般依勅詔被件職條、猶爲被慰其勞、從　當門紫衣(素絹直綴衣等)、着用被免許畢、愈遮那止觀之研習無倦、可有誘引後進之旨、

青蓮院一品親王　御氣色處候也、仍執啓如件、

文化元年八月九日　法眼判奉

法曼院探題權僧正御房

同日覺林坊前大僧正德考退院、以佛乘院權僧正淑徵爲覺林坊後住職、○同月廿二日法華會囘章二通被備天覽、同廿三日加花押給、○十月朔日兩法華會執行、同十二日四谷惣代大會役者寺家等列參、大會訖、御禮銀貳枚獻上、則日參賀于奉行萬里小路家、御添使進藤爲善被差向、○同月廿四日雞足院大僧都惠琳昨廿三日寂之由言上、○同月廿八日淨泉院繼存任大僧都(年三十七、戒二十四)、奉行甘露寺頭辨、○十二月唯心院光璨轉住于雞足院、

同二年(乙丑)正月廿一日、來三月奉爲桓武天皇千年聖忌、於山上法華八講勅會執行之事、御奏聞之處、今日勅許、傳奏有政卿言上、○三月十四日御登山、(御宿所正覺院、)同十六日於根本中堂、天皇千年聖忌宸筆御八講執行、座主宮幷梶井僧正御出仕、奉行萬里小路左少辨建房、同十七日同前第五卷之時、精義座主宮被遊之、但御精難之時、惠心院亮周發聲不法有異論、終被追放山門也、同十八日御下山、○同月十八日嘗所持井伊掃部頭(江州彦根城主、)嵯峨帝宸翰戒牒一紙、今度備叡覽之後、被納于延暦寺、賜座主證書、

弘仁十四年受戒牒一通、傳爲嵯峨天皇宸翰、筆法最精妙、此牒宜在我山門、不知何時入井伊直中朝臣家、珍襲亦已久矣、今茲乙丑値桓武天皇一千年聖忌之辰、依正覺院前大僧正豪恕喜捨、以納根本中堂、遂經
叡覽、嗚乎神物隱顯有數存其間耶、永

世其寶重之、

文化二年三月十五日

座主一品判親王誌之

四月廿八日勸學會執行勅許、以左少辨建房爲奉行人、○五月十二日勸學會奉行、改爲右中辨明光、自舊冬可被辭座主職之由被仰談于大納言祀定卿之處、于今無御沙汰、然而近日山門大衆歎申之由有其聞、實大衆遂列參于傳奏兩卿亭可奉仰留云々、西塔之大衆雖爲同心、對妙法院宮憚存之間、不加列參之衆徒之由有其聞、於茲以當御門徒內々雖被制止無承引、及五月廿七日終遂列參、於傳奏兩卿仰留座主辭職云々、尋日列參于靑門、不可有御辭退之由堅令言上也、○六月七日三執行代列參、去年來日吉社司爭論之事舊冬粗雖被仰宥不落居、於茲訴申于輪王寺宮之處、爲座主可有御裁判之旨被仰云々、然上者再嚴密可被加御裁許之由被仰渡、○同月十三日惠心院亮周辭探題、奉行裏松辨、同月廿六日勸學會同章叡覽之後被加座主花押、○七月九日止歡喜院之稱號、(在東塔南谷、)改極樂坊、(但復舊號也、)○同月十七日法曼院權僧正詮榮轉住于惠心院、○八月十八日勸學會執行、奉行裏松右中辨明光登山、大學頭權僧正詮榮、會行事嚴王院大僧都慈周、○閏八月十日什善坊大僧都眞超轉住于法曼院、○十月十日金勝院大僧都鎭祐(年五十五、戒四十二、)申任權僧正、奉行庭田頭中將、○同月廿三日內裡新造御學問所鎭不動法被修之、助修八口、奉行右中辨明光、脂燭公隆朝臣、實仲、大江俊常、行事僧宮內卿法眼業延、追下行米五十石被渡之、○十一月廿八日金勝院(兼號惠恩院、)極官御禮參內參院、依爲降雨、平唐門內秉朱傘之處、自武家番所不可用朱傘之由雖留、中先格不然之旨申答云々、重而不答申之樣可被示于武家番所之旨、被仰入、傳奏廣橋殿也、○十二月廿三日就日吉社獻供之事、社司正五位下希聲與東塔大衆爭論、有裁許令落居、大藏卿法眼經親、宮內卿法眼業延、常陸介爲善等奉行之、追而自輪門以御使佛頂院、爲御挨拶白銀五枚、羽二重貳疋被進之、從一山御菓子料銀十五枚獻上、自東塔羽二重貳疋銀五枚、自橫川羊羹十棹金子二百疋獻上、坊官以下賜物贈進物等有之、○同月廿八日、社司一﨟正四位下茂慶(六十一歲、)自廿三日差扣被仰付之處、以有禁裏仙洞之恒例御祈禱被免許之、并大宮社被定開蔀

日數、

大宮社開莭日數定之事　　　社司中

正月朔日　二日　三日　六日　七日　廿六日

三月三日　四月朔日　　舍利會　八日

四月祭禮　未日　申日

五月五日　廿六日　七月七日

八月朔日　九月九日　廿六日

十一月申日　御火焚

右之通可有敬承之旨

座主宮御命候也

文化二年丑十二月

同三年丙寅正日二日日吉社司正四位下成範差扣被免之、同五日執行代不動院被免差扣、同十四日社司正五位下希聲被免遠慮、追而希聲令申、叙從四位下之後、爲自分病身申立令隱居也、〇同月廿日、正觀院前大僧正堯端八十八歳、依順次年賀參內、御添使大賀雅樂、其儀如例歲、但今度八十八歲之餅一重宛獻上三御所之事、兼日內々伺申之後日有此儀、於宮中縮緬二卷眞綿五把拜領之、自仙洞眞綿五把、自中宮同五把等、自座主宮傳達被仰出、門室參賀之時賀餅獻上、爲御返昆布三十本眞綿貳把賜之、同月廿八日、於仙洞小御所、奉爲靑綺門院十七回御忌御逮夜例昨作法、廿九日法華懺法御執行爲御導師、衆僧九口着座、公卿三人、殿上伶倫十人、散華殿上人七人、脂燭殿上人三人、地下樂人十二人、傳奏藤谷中納言、奉行庭田頭中將重能朝臣、行事僧大藏卿法眼經親、御下行米五十石追而被下之、〇二月廿一日、山門住侶兼院室之號之輩、任官申願小折紙、不拘山門之號院室之號等兩稱號、當人申願之儘可差出小折紙之儀、以御使爲善被仰談淸閑寺昶定卿之處、三月朔日申願之通、以來兩樣共無御子細之旨、被達之、同三日被仰渡執行代不動院、

山門住侶申官位之節、院室兼帶之輩、不拘住侶之號或院室之號等、從座主宮御執奏之院號ヲ以自今可有

勅許之旨、以淸閑寺大納言殿改被仰渡候事、

寅三月

則爲御禮同七日一山惣代不動院參殿、御菓子一箱獻上、幷鷹司關白殿江同一箱呈上之旨持參、則以御

使大賀雅樂被傳進之、學頭惣代正覺院前大僧正參殿、同御禮薯蕷一折獻上之、有御對面、清閑寺殿江爲御禮不動院御添使同道參向、菓子一箱金貳百疋進上之、〇三月十六日覺林坊權僧正淑徽年六十七、戒五十五、兼談山竹林坊、申任僧正、奉行日野頭辨、五月廿日御禮參內、御添使大賀雅樂、〇四月廿七日恒例長講會回章被備叡覽、密嚴院權大僧都儼然、御使法橋堯朝同伴、參向禁中奏者所如例、〇六月十三日傳奏廣橋伊光卿被申渡、洛北般舟三昧院事、去年寺社改之節、非山門之末寺之旨申立、不法之由自山門申立、御取調之處、全般舟院不念ニ而、山門末寺無相違旨治定、併彼寺儀者被擬　禁中御黒戸候間、是迄之通於山門取扱候樣願出候、此等之趣輪門幷座主宮江被仰達候旨也、〇同月廿二日禪定院權大僧都良順年四十六、戒三十三、申任大僧都、奉行萬里小路辨建房、〇七月十七日日吉社司祝部業審三十六歲、中五年、號生源寺刑部、申叙從四位上、同祝部希聲三十一歲中五年、號生源寺內藏、申叙從四位下、同祝部茂仲(シゲナカ)十五歲、樹下大藏茂慶男、號同主計、申叙從五位下、奉行職事萬里小路辨建房、同十九日職事亭迄御禮、御添使岡本帯刀被遣之、其後列參、自刑部內藏兩人金百疋獻上、坊官一座中煙管拾本贈進、幷主計儀依爲初位、別段金百疋獻上、坊官一座煙管十本贈進、於白書院御目見、於臺子間有勸盃、執當宛返簡如例渡之、〇八月廿七日前唐院法華八講曼供之回章叡覽、御使法橋堯朝、會行事華王院同伴持參、〇十月廿四日正觀院前大僧正堯端年八十八、戒七十六、遷化、〇十二月五日恒例元三會回章被備叡覽、別當代御使同伴持參禁中奏者所、〇同月十八日依仙洞仰、爲中宮御不例御祈、於本坊修不動法、明年正月廿四日依御快氣不動法結願、〇同月廿九日日吉社司以官名稱呼名之事、自今以後被停止之旨、清閑寺昶定卿被申渡、明年正月四日被仰渡于執行代幷社司中、

同四年丁卯二月十四日、來四月大法元三會執行勅許、奉行裏松右中辨被定之、于時辨輕服云々、〇二月日吉社司生源寺內藏從四位下希聲依願隱居被仰付、舍弟玄蕃希烈家督相續被仰付候旨、御屆申上、〇三月三日於西塔別請竪義會執行、探題惠心院權僧正詮榮、六十五歲、講師大仙院大僧都豪觀、五十二歲、問者正觀院權僧正鎭祐、五十七歲、會行事溪廣院權大僧都堯威、四月朔日大法元三會執行、奉行職事有登山、〇同月九日日吉社司

等依有舊例任官之事願書差上、○六月朔日大慈院權大僧都惠道年三十二、戒二十二、申任大僧都、奉行萬里小路辨建房、宮物、禁中一束一本、長橋局江金百疋、上卿同百疋、職事同百疋、添使青銅二十疋、座主宮金百疋、坊官一座各青銅三十疋、御添使青銅貳十疋、○同日日吉社司從五位下祝部成光二十歳、號樹下采女、中四年、申叙從五位上、奉行辨建房、宮物、職事金百疋、同雜掌青銅廿疋、座主宮金百疋、坊官煙管十本、○同月廿二日、自御祈奉行一通御到來、

霖雨涉數旬、未全屬晴、有洪水屢爲害之聞、偏兆庶之所憂也、早抽丹誠、從明日廿三日一七箇日之間、宜奉祈天下泰平四海靜謐五穀豐饒萬民安樂之旨、可令下知延曆寺給、天氣所候也、此旨可令申入座主宮給、仍執啓如件、

六月廿二日　左少辨建房奉

謹上大納言僧都御房

御請文如例、則召三執行代爲善奉書、被仰渡、廿三日於根本中堂三塔僧出仕勤行、七月朔日卷數持參、卽日以御使常陸介爲善被附長橋局、○七月廿六日惠心院權僧正詮榮年六十五、戒五十二、申轉正、密嚴院權大僧都儼然年四十二、戒廿七、五智院權大僧都晃通、年三十八、戒二十六、各申大僧都之事、兼日以小折紙御奏聞之處、各今日勅許之旨、奉行裏松右中辨言上、則夜被仰下於山門、○八月十一日爲儲君水癧之御祈、自來十三日御修法被仰出、奉行萬里小路左少辨建房、同十三日於本坊被修不動護摩供、幷依座主仰、於無動寺不動供等、可有勤行之旨、被仰下、賜銀三枚於東塔、同壹枚於無動寺、同廿日被進卷數於禁中幷儲君、御使法橋堯朝、同日龍城院明德院各持參卷數、則御傳獻、○同月十二日根本中堂仙洞御代參平松前中納言時章卿于時院傳奏、登山、被備金二百疋、設宿所於正覺院、○九月十五日佛頂院大僧都貫豪年五十六、戒四十三、圓龍院現住、申任權僧正、奉行日野頭辨、○十月朔日溪廣院權大僧都堯成年三十九、戒二十六、松林院權大僧都貫海年三十五、戒二十五、各申任大僧都、奉行萬里小路辨建房、○同月依宮中懺法講、參勤任官之輩、正觀院權僧正鎭祐任僧正、○同月廿日午刻、惠心院僧正、佛頂院權僧正等、任官之御禮今日參內參院、御添使岡本帶刀、惠心院轉正之官物、

禁中一束一本銀貳枚、女中三人金百疋宛、取次一人銀貳兩、小取次一人青銅五十疋、奏者一人同三十疋、
洞中一束一本銀一枚、女中三人金百疋宛、取次一人青銅三十疋、
中宮一束一本銀一枚、女中二人金百疋宛、取次一人青銅三十疋、
鷹司關白殿一束一本、上卿金百疋、
傳奏兩卿(廣橋、千種)、金百疋宛、下知辨金百疋、
職事一束一本銀三枚(二イ)、雜掌金百疋、
添使青銅五十枚、
　但披露職事裏松辨殿持參、然處今日之職事日野頭辨殿也、依之添使青銅者於日野家落手也、
壬生官務金百疋、召使銀十匁、
座主宮一束一本銀一枚、坊官一座各金百疋、
御添使青銅五十疋、
佛頂院權僧正之官物粗同上、
　職事一束一本銀貳枚、雜掌金百疋、
　添使青銅五十疋、小者同二十疋、
　　但立親王已前宣下之官故、於今度者、親王御方江不及獻上之由、兼日頭辨被申渡、
十二月十六日日吉社司茂慶成範業審希烈成光茂仲等、以連署、社司等往古任官之處、元龜大亂之後及中絕、旣他社司多任受領之間、於當社受領拜任奉願之旨、言上、同十八日右願書幷申受領小折紙、傍例書等、關白殿御內覽(以邦定卿有此儀)、之後、被附萬里小路左少辨亭、同十九日勅許、
　正四位下祝部茂慶(六十三歲)、任出羽守、
　正四位下祝部成範(六十八歲)、任豐後守、
　從四位上祝部業審(三十七歲)、任美濃守、
　從五位上祝部希烈(二十三歲)、任紀伊守、
同廿二日御禮、職事萬里小路家參入、御添使出野貢被差向、各金百疋進上、雜掌青銅二十疋宛贈之、則日參賀于座主宮、各金百疋獻上、坊官各青銅三十疋、別段金貳百疋等贈進之、於臺子間有勸盃、執當返書渡之、
同五年(戊辰)正月廿八日、日吉社司下﨟二人受領勅許、
奉行裏松右中辨明光官物如前、
　從五位上祝部成光(二十一歲)、任周防守、
　從五位下祝部茂仲(十七歲)、任但馬守、

自社司一統、淸閑寺大納言殿(于時青門御世話卿)、爲御禮、金貳百疋持參、○四月十七日、日吉祭末御供調進方室町山王寺着色衣之間、自今以後可着黑衣之旨被仰示、同廿五日當住嚴阿詫一札差上、○六月十五日、爲仙洞御代參、平松前中納言殿登山、參詣根本中堂、其儀如去年、○八月、就來十月大會執行勅許、被定奉行中御門右少辨經定、依之同五日款狀寺解被附奉行亭、寺家執當持參之、同七日正觀院僧正鎭祐、佛頂院權僧正貫豪等、依款狀被補探題職、幷寶園院大僧都豪觀依寺解爲講師、禪林院大僧都實融依寺解爲擬講師、今日勅許之旨右少辨經定言上、○九月廿八日當今御養子龜代宮爲輪王寺公證親王附弟、入彼宮里坊御得度、依勅爲戒師授法諱號公猷、(豫伺叡慮被定之、)○十月兩法華會執行、奉行中御門右少辨登山、會行事妙音院大僧都惠顯、○十二月二日、一山惣代正觀院僧正禪林院大僧都參入、今度自本願寺專修寺等、奏聞親鸞聖人大師號之事之由有其聞、於勅免者、高德之大師之御威光薄相成、深以歎敷儀候間、不可有勅許之樣、御奏聞願申、後日被仰入于關白殿之處、今度之儀不容易事故、不可有宣下之由也、同十九日其旨被仰渡于不動院大慈院等也、

同六年(己巳)二月十日覺林坊僧正淑徽(年七十、戒五十八、)申任大僧正、奉行坊城左少辨俊明、三月十日御禮參內、○同月十一日辛丑可有來八月勸學會執行、勅使參向之事、以長橋局被及御奏聞、御使進藤爲善、○三月一日自御祈奉行御敎書御到來、

今月廿四日可有立太子、無風雨難可被遂行無爲之節之由、從來十日一七箇日一寺一統抽精誠可凝懇禱之旨、可令下知延曆寺給、

天氣所候也、以此旨可令申入座主宮給、仍執啓如件、

三月一日　　右少辨經定

謹上大納言僧都御房

御請文

謹請

今月廿四日立太子、無風雨難可被遂行無爲之節御祈、從來十日一七箇日一寺一統可抽精誠之旨、可令下知延曆寺由、謹以所請如件、

三月二日　　天台座主御判請文

右少辨殿

口達

御祈始辰刻之事、

滿座翌十七日禁中親王兩御所卷數獻上之事、

右御下知、如例召三執行代、別當代大慈院參上、同十七日卷數二合御傳獻、御使朝堯、○同月妙音院惠顯轉住于行光坊、千手院守忍轉住武州牛込養仙院屆出、○同月七日同御祈於日吉社勤修之事、以女房奉書被仰出、御撫物御初穗如例被出之、則令下知給、○四月廿六日於春宮新造殿、被修鎭不動法、助咒四口、禪林院實融、玉照院孝然、遺敎院堯謙、雞足院光璨、奉行中御門右少辨經定、脂燭殿上人三人、四位、五位、六位、行事僧法眼業延、同廿七日被納鎭札、被獻卷數昆布等、同日以勅使右少辨經定賜二種一荷饅頭一折、則日御參內、於御三間主上春宮御對面、有御加持、次賜御衣之後、御退出、○同月廿八日日吉社司樹下祝部茂慶六十五歲、中十四年、申叙從三位、紀伊守祝部希烈廿五歲、中四年、申叙正五位下、同宮仕周汐春尙、四十歲、松貞行純、四十歲、各申叙法橋、奉行鷲尾頭中將隆純朝臣、○五月三日來八月勸學會執行勅許、被定奉行八右少辨經定之旨、言上、則賜令旨、料紙中奉書紙、禮紙一枚、上包等同紙、

來八月就勸學會執行、奉行職事參向之事、被遂奏聞候處、昨夕被仰出候、中御門右少辨殿被奉之候旨、言上候、此段宜被存知之由、依

座主宮御氣色、執達如件、

五月四日　　法眼業延判奉

會行事御房

來八月就勸學大會執行、奉行職事參迎之事御奏聞之所、中御門右少辨殿被仰出候旨、敬承仕候、恐惶謹言、

五月四日　　亮忠判

大谷法眼御房

八月　勸學會執行、大學頭正觀院僧正鎭祐、會行事觀泉坊權大僧都亮忠、無座主御登山、○同月廿八日、自來九月至明年十二月、每月一七箇日、爲仙洞御壽命長久之御祈、於本坊御修法之事被仰出、御撫物白銀貳枚被出之、每月被出之也、九月二日被始修

北斗法、○十月廿五日今度就仙洞七十御賀、高年之
蚫賜物、於仙洞自傳奏兩卿(梅小路 平松)被渡之、
眞綿三把　正覺院前大僧正豪恕(七十七歲)、
同　三把　覺林坊前大僧正叡徹(七十歲)、
金子貳百疋　樹下豐後守成範(七十歲)、
召於座主宮下賜之、兩僧正傳奏兩家迄、社家者洞中
奏者所幷兩傳奏迄、御禮參向、御添使木下貢被差
向、○十一月廿五日、就上皇七十御賀、從來廿八日、
七社七箇寺御祈被仰出、奉行萬里小路辨被達之、
來月十四日可被奉賀　上皇七十寶算、彌延
齡長久之御祈、自來廿八日一七箇日之間、一
寺一統可凝懇念之旨、可令下知延曆寺給、
天氣所候也、以此旨可令申入座主宮給、仍執
啓如件、
十一月廿五日　右中辨建房
謹上大納言僧都御房
御請文御代筆、孝友於御花押者被染眞翰、
謹請
來月十四日可被奉賀
上皇七十寶算、彌延齡長久之御祈、自來廿八
日一七箇日之間、一寺一統可凝懇念之旨、可
令下知延曆寺由、謹以所請如件、
十一月廿六日　天台座主御判(請文)
右中辨殿
召三執行代、同廿六日不動院參殿、勅命之趣申渡、
十二月四日滿座卷數二合執行代持參、五日被獻于
仙洞御所、御使業延六日被進禁中、御使爲善、○十
二月四日依勅、爲上皇古稀御賀御祈、於本坊熾盛光
堂、自初夜時被始修普賢延命法、幷金剛壽命經眞
讀、助修六口、圓龍院權僧正貫豪、玉照院孝然、松林
院貫空、鷄足院光琛、長壽院覺圓、十妙院堯運、奉行
職事右中辨建房參入、被渡上皇御撫物、○同十日御
結願、奉行參入被返渡御卷數、御使堯朝、○同月廿八
日本願寺等申請祖師親鸞上人大師號之事、依有御
差支之子細、被返下願書、(一昨日云々、)官武一統此旨被仰
渡之趣、自鷹司關白殿以青木玄蕃頭被仰進、
同七年(庚午)正月廿日年始參內、二月廿八日惠心院僧
正詮榮(年六十八、戒五十八、)申任大僧正、圓龍院權僧正貫豪(年五十九、戒四十六、)申任僧正、奉行藏人頭中將隆純朝臣、三月廿五
日御禮參內、○三月去寬政十一年十月朔日所有勅

許自今以後座主宣命使登山御再興之事、其式次第今度以甘露寺宰相國長卿御内談之上、被附頭中將殿、同十八日召執行代不動院大僧都德辨被仰下御治定之由、

次第

先於大講堂外陣中央之間、設案一脚、置宣命料、案前敷疊、爲勅使座、以堂東方爲探題以下座、北上西面、以西方爲十證誠座、北上東面、但東塔五人、西塔三人、横川二人、以南方右爲三執行代座、東上北面、以南方左爲三綱執當座、西上北面、〇此式本儀者庭上也、雖然爲雨儀及積雪之時、於堂内行、大衆着座畢、案内於宣命使可令參進給之由、次宣命使乘輿行粧、於大講堂庭上下輿、此時史生進置覽筥於案上退、宣命使下輿之時、三執行代三綱寺家參迎階上、而寺家進案内于宣命使之座、此時大衆在座低頭、次宣命使着座、跪而捧宣命披讀之、微音、此時衆在座平伏、謹聽之、讀畢卷宣命、此時寺家進跪而請取宣命、復如元置於案上、卽持案移置于東北之方、取空筥退、返於史生、次宣命使起座、此時三綱寺家各起座送之、但至於參迎之處、揖而退、次三綱寺家復本座、後令大衆拜見宣命畢、寺家納宣命、翌日寺家三綱等持參宣命於座主宮、

條々

一宣命使登山之節、從西谷口先蹕二人案內于宿坊、着後三執行代參賀、素絹五條指貫、有蘇息之間、三綱寺家裝束之儘、參入于宿坊、無程可啓案內之旨申述、卽退、

一出世職幷十證誠着座、座席別在圖、僧正者鈍色袮袈裟、大僧都以下鈍色紫甲、

一大衆着座畢、啓案內於勅使之坊、仲座役之、鈍色五條、

一從宿坊至于大講堂庭之間、先蹕二人先行、

一宣命使下輿之前、三執行代三綱寺家參迎階上、如法華會各鈍色紫甲、下輿、常例之處、此時史生持覽筥進、置筥於案上退、

一宣命使至階上之時、寺家先進案內所設之座、纔而三執行代、幷三綱、各着座、寺家復座、

一宣命使着座之時、大衆各在座揖、

一勅使着座畢、跪而取宣命、披讀之、微音、此時大衆平伏謹聽之、

一讀畢卷宣命、持手、此時寺家進而請取宣命、復如元置於案上、卽取案以移置於東北之方、取空筥退、而返於史生、

一宣命使起座之時、三執行代幷三綱寺家送之、如始、
一乘輿畢、先蹕等如始、此時各復座、
一三執行代等復座畢、寺家使大衆拜見宣命畢、寺家納之、
一宣命之式畢後、三執行代三綱寺 家參賀於勅使之坊、
一出世職之內、惣代兩人參賀、僧正一人、僧都一人、
一十證誠之內、惣代三人參賀、三塔各一人、
一勅使歸京之時、如始先蹕、兩人送之、至于雲母口、

以上

白銀七枚　少納言
同　貳枚　史生
金貳百疋　使部

一手輿幷輿丁、於山門可有儲事、
一次第以下無子細存候、於使作法進退者、依其人所存可有相違之間、難一定存候事、
一奉行被仰出候節、右次第以下可被附候事、
右小折紙兩通以、自國長卿被申渡也、
三月廿五日辭座主、以御使法橋堯 朝被仰入藏人頭中將隆純朝臣許、○四月廿四日正觀院僧正鎭祐年六十、戒四十七、申任大僧正、奉行頭辨建房朝臣、○同日日吉祉司正四位下成範申叙從三位、七十一歲、奉行同人、○同月廿八日辭座主之事聞召之旨、隆純朝臣言上、

第二百十八代二品承眞法親王梶井、　治山四年、

今上兼仁御養子、准母民部卿典侍局、葉室賴熈卿女、實有栖川二品織仁親王子、靑蓮院一品尊眞親王弟子、
文化七年庚午三月廿六日蒙座主內意、○四月廿八日補座主、年二十三、戒　上卿　、奉行　、則日宣命使石井少納言、平行弘朝臣、登山、史生靑木民部丞、宗岡行古、少納言侍山根圖書少屬、藤原輝昌、使部田中伊織於大講堂 外陣賜宣命 於山僧、但今度御再興、其儀如次第書、勅使宿坊實藏坊、

天皇我 詔旨止良萬 山中乃法師等爾 白止佐倍 宣布 勅命乎白久、二品承眞法 親王者慈覺大師乃門徒氏止之學德殊秀氏資性能具利、三觀乃法爾審爾四敎乃旨乎究兔奴、故是以入道一品尊親親王乃辭讓乃隨爾、座主爾作賜布事乎白止佐倍 宣天皇我勅命乎衆聞食止宣、

文化七年四月廿八日

右黃色薄樣一紙也、但今度宣命使登山御再興之儀、靑門當職中被伺定 叡慮之間、可有其式

聽聞之旨、爲前座主宮御、進藤爲善（著直衣、）登山、於大講堂內簾中聽聞之後、內々拜見宣命之次、竊拜寫之、

東方西面之座
　正覺院惠心院　正觀院圓龍院　禪林院以下
西方東面之座
　法曼院以下
東方北面之座
　三執行代
西方北面之座
　三綱敎王院上乘院一音院寺家
同月三十日於鴨河原本坊受宣命、三綱執當持參、五月補護持僧、
同八年辛未四月十九日西塔釋迦堂下遷座導師、五月十八日於横川別請竪義執行、探題正觀院大僧正、講師禪林院、問者寶園院、會行事雞足院光璨、〇七月十九日至廿一日、於洞中桃園帝五十回懺法請導師、〇十月五日至九日、於宮中奉爲先帝三十三回御忌、勤懺法講導師、〇同月廿七日西塔釋迦堂修理終、今夜本尊上遷座爲御導師、〇十月二日聽牛車、
同九年壬申四月一日於四季講堂臨時大法元三會執行、〇八月十三日瑜祇灌頂修行、
同十年癸酉二月十三日十四日、於東塔大講堂慈覺大師九百五十回忌勅會法事爲御導師、〇五月（七日イ）辭座主、

第二百十九代入道一品公猷親王輪王寺、　治山經四（三イ）箇月、

今上兼仁御養子、准母民部卿典侍、實有栖川二品織仁親王子、公澄親王附弟、尊眞親王弟子、
文化十年癸酉五月七日補座主、年戒、〇同月廿六日聽牛車、〇六月十日拜堂登山、〇八月（七イ）五日辭座主、
同七日立京下向於東武、

第二百廿代二品承眞法親王梶井、　治山十六年、

文化十年癸酉八月五日以勅使萬里小路頭辨建房朝臣、可被補座主之由、被仰下、〇同月廿六日還補座主、宣命使　　　　、〇同月廿八日於河原本坊請宣命、
同十一年甲戌四月朔日横川大法元三會執行、〇八月一日申請青蓮院宮令着紫袍裳給、以近藤加賀守被申許容之由、蓋明年於日光山爲可有着用也云々、〇十月於東塔別請竪義會執行、探題正觀院僧正、講師嚴王院、問者禪林院實融、〇同月以鷄足院大僧都光璨、令兼帶青蓮院宮院室金剛壽院之號、

同十二年乙亥四月下向於下野國日光山、勤東照權現二百囘忌勅會御導師、○七月就來十月大會執行、依欵狀寺解等、被補探題講師、探題禪林院權僧正、已講嚴王院、擬講法曼院、十月兩法華會執行、奉行職事　　、○會行事善學院、○十二月廿五日中宮御着帶御帶加持勤之、

同十三年丙子二月三日、來四月大法元三會執行之事勅許、同月十八日囘章叡覽、○四月三日臨時大法元三會執行、奉行職事　　　會行事惠雲院、副行事瑞應院、○六月九日、十日、於四季講堂、惠心僧都八百囘遠忌法華八講執行、三塔屈請、同十一日胎曼供導師惠心院前大僧正詮榮勤之、但今度依橫川大衆請申、爲靑門之沙汰、自本願寺專修寺佛光寺興正寺幷知恩院等一向念佛之宗門、有懇志之捧物、從靑門被傳備之、○七月廿八日玉照院智敬任權僧正、追而文政三年改名周山、○十二月十六日於仙洞修鎭不動法、三箇日、○同月廿二日於中宮新殿修安鎭法、三箇日、

同十四年丁丑三月十九日、於西塔別請竪義執行、探題禪林院權僧正、問者嚴王院、竪者法曼院、三月廿日補新帝護持僧、○八月　　西塔勸學會執行、大學頭正觀院大僧正豪觀、會行事正敎坊大僧都圓如、九月於無動寺南山坊相應和尚九百囘遠忌法會執行、

文政二年十月一日、於仙洞奉爲後櫻町院御七囘御忌、勤懺法講導師、○十一月　　正覺院前大僧正豪恕米賀餠獻上之事、

同三年三月十九日、於橫川別請竪義執行、題者正觀院權僧正、講師光聚坊權僧正、問者覺王院權僧正、會行事妙行院、○四月朔日、於四季講堂大法元三會執行、奉行職事登山如例、

同四年五月廿三日、就今年六月傳敎大師一千年遠忌、自淨土宗本山捧物之事、依靑蓮院宮吹擧、自知恩院方丈白銀十枚奉獻備之、則召壽量院於靑門室被渡之、後日從山門爲會釋贈菓子一箱、是亦自彼御門室被遣之也、○六月朔日、就傳敎大師一千年遠忌相當、於大講堂兩法華會修行、奉行職事柳原左少辨登山、新題者覺王院權僧正、、、講師習禪院大僧都、、、擬講師總持坊大僧都、、、會行事遺敎院大僧都堯謙、○同月二日、於淨土院法華三昧執行、御導師靑蓮院新宮御參勤之事、兼日雖被定之、臨期依御風氣、御名代惠心院前大僧正貫豪參勤、袍裳七條表袴、○同

日諸門跡御名代拜禮、燒香次第、第一青蓮院宮御名代金剛壽院大僧都、第二歡喜心院宮御名代行嚴院大僧都、第三妙法院宮御名代常住金剛院僧正、第四毘沙門堂殿御名代行嚴院兼勤之、第五曼殊院殿御名代光聚坊權僧正、○同月三日、於淨土院曼荼羅供執行、御導師座主二品親王、着座公卿德大寺大納言實堅卿中院中納言通知卿、奉行職事柳原左少辨隆光、九月十八日、於西塔釋迦堂勸學會執行、大學頭正觀院權僧正慈映、會行事樹王院大僧都舜禪、但恒例八月中旬勤行之處、依爲觸穢所及延引也、奉行職事登山着座如例式、○十二月　日吉社司樹下

○同月廿五日、地福院、、回峯千日行滿之後、今日參內其儀如例、

同五年三月十日、紀州雲蓋院實璘任權僧正云々、

同六年五月廿二日、於新皇嘉門院舊殿修光明供、○八月廿四日、於東塔別請竪義執行、題者正覺院僧正豪實、問者總持坊大僧都德辨、竪者惠恩院權僧正詔榮、○十月十五日蓮光院法印豪榮許三緒、青門令旨、○同月十七日覺常院深祐年三十五、戒二十一、申任大僧都、去八月補別當代、

同七年四月、於四季講堂大法元三會執行、○閏八月廿四日、廿五日、於無動寺相應堂、爲慈鎭和尙六百回御忌引上、常行三昧曼荼羅供修行、

同八年七月、西塔星光院前大僧正發起佛足石供養經營、石面銘尊寶親王被染眞筆也、○八月十七日、西塔勸學會執行、大學頭正覺院前大僧正豪實、會行事本覺院大僧都考謙、○十月朔日、東塔兩法華會執行、新題者惠恩院僧正、、、講師總持坊大僧都、、擬講師金剛壽院大僧都光璨、會行事華王院大僧都孝憲、奉行職事登山如例、○同月二日、三日、於仙洞、奉爲後櫻町院御十三回御忌、懺法講勸導師、○同月　光聚坊僧正、、轉任大僧正、

同九年二月　佛頂院、、申任權僧正、○五月日吉社司生源寺美濃守業審申叙從三位、○十一月十日、正敎坊圓如任權僧正、十二月　惠心院大僧都光璨申任權僧正、

同十年四月廿五日、輪王寺新宮公紹得度爲戒師、

同十一年三月十九日、於西塔別請竪義執行、題者惠恩院僧正詔、講師惠心院權僧正光璨、問者佛頂院權僧正、○四月八日華藏院出火、自坊幷祕密道場燒

失、○同月十三日、於客人宮社頭、神輿再建供養修行、此時社司宮仕總出仕、於大床宮仕奏樂之間、候所依無之、雖爲不開殿之場所、神祕不差支樣取計、當日致開殿、於下陣神供獻備、其前社司八人列居可仕候旨、生源寺越前守希烈申出、無滯相濟、○七月十一日瑞雲院舜如（年三十九、戒廿六、）申任大僧都、○十月七日至九日、於仙洞奉爲後桃園院五十囘御忌曼荼羅供修行爲御導師依勸賞賜一品、○同月十九日拜叙一品、（四十二歲、）○十一月（廿九イ）廿八日惠心院大僧都光琛任權僧正、○同月晦日辭座主、

第二百廿一代入道一品公猷親王（輪王寺、）

治山經二（三イ）箇月、

文政十一年十一月晦日還補、（第二度、）宣命使

去月廿四日自東叡山上洛、同月廿八日准后　宣下、同年十二月六日、拜堂登山、○同月廿六日改諱舜仁、同十二年正月元日、今上護持御修法之事、依別勅前座主梶井宮被修行之、○同月十六日辭座主、同廿二日立京下向于江戸、

第二百廿二代一品承眞法親王（梶井、）　治山一年、

文政十二年正月十六日還補、（第三度、）宣命使高辻少納言（以長カ）、、登山、於大講堂前大衆請之、

同年四月二日橫川臨時元三會執行、○同月廿五日入于大原坊、盛胤親王入律舊跡魚山香光庵再建、有移徙久儀、○同月佛頂院權僧正德辨轉任僧正、（年六十五、）○七月廿二日佛頂院僧正德辨補探題、自青蓮院宮賜紫衣、○同日正教坊權僧正圓如補探題、○八月十八日西塔勸學會執行、大學頭光聚坊前大僧正、、、會行事觀泉坊亮恩、○十月朔日兩法華會執行、新題者佛頂院僧正德辨、已講惠心院權僧正光琛、擬講本覺院大僧都考諶、會行事慈光院權少僧都常觀、○同月三日於仙洞爲後櫻町院御十七囘忌、懺法講爲御導師、○同月十五日紀州雲蓋院權僧正實璘兼任南谷吉祥院、○同月、本覺院考諶（五十五歲、）爲仙洞懺法講、參勤賞、任權僧正、○同年十二月五日、爲女御御產之御祈、於本坊修、、法、○同月十三（六イ）日辭座主、

第二百廿三代入道二品尊寶親王（青蓮院、）　治山三年、

今上（兼仁）御養子、養母　民部卿典侍藤賴子、（葉室賴熈卿女、）實伏見兵部卿貞敬親王息、

文政十二年十二月十六日補座主、（年廿八歲、戒十八、）宣命使西洞院少納言信堅今朝登山、上卿醍醐大納言輝弘卿、

奉行職事庭田頭左中將重基朝臣、今日於本坊請宣旨、壬生官務以寧宿禰持參、申次刑部卿法眼爲純、祿役法橋業存、

宣旨云、

應令入道二品尊寶親王補任延曆寺座主職事、

右少辨藤原朝臣光政傳宣

權大納言藤原朝臣輝弘宣奉

勅宜補任彼寺座主者

文政十二年十二月十六日

修理東大寺大佛長官
治部權大輔主殿頭兼左大史小槻宿禰以寧奉

同月十七日被宣命、執當養恕依爲重服、代堯猷并三綱以下持參、申次

宣命云

天皇我詔旨良萬止山中乃法師等爾白佐倍止宣布勅命乎白久、入道二品尊寶親王者、慈覺大師乃門徒止之氏、戒行共秀氏、顯密兼備利、己慈海乃玄淵乎掬比、又覺月乃妙影爾遊比奴、故是以一品承眞法親王乃辭退乃隨爾、座主爾作賜布事乎白佐倍止宣、天皇我敕命乎衆聞食止宣、

文政十二年十二月十六日

祿物、

執當代被物一重料金二百疋、執當三綱中別段金子五百疋、所司二人靑銅百疋充、維那二人同百疋充、專當二人同七十疋充、參陣諸司下行合米、十二石六斗代白銀三百七十八文、目別段金子五百疋等下賜於外記史以上、自座主宮下給、宣命使登山之供給自延曆寺設之、少納言殿白銀七枚、史生同二枚、使部金二百疋、○同月廿四日參內被申山務之慶賀、行粧、前駈諸大夫加賀守爲周、同坊官法橋業孝、法橋隆俊、上童一人、御後侍　○同月晦日被渡護持御本尊御撫物等、六位藏人持參、則日如意輪供御開闢、同十三年正月十八日、舊冬女御御產御祈、於山門修行、御壇料白銀五十枚下賜旨、○同日日吉社司生源寺從三位業審薨六十歲、依之兩御所御祈禱希烈成光勤仕被仰下、○同月廿日年始參內正觀院前大僧正慈映七十歲、○同月廿九日護持如意輪供結願、則日北小路極﨟以下參入、御本尊御撫物被返渡之、以御使被獻卷數一枚、○二月二日慈眼堂別當惠日院大

僧都寂印八十一歲、昨日病死、○三月十一日、執行代不動院德法、注進、護心院詔澄轉住于行光坊之事、藥樹院孝海免滋賀院留主居 跡役極樂坊貫海之事、○同月廿四日 中正院光貫年四十一、戒廿八、申任大僧都、奉行柳原頭右中辨隆光、○同月廿七日德王院 死去屆閏三月三日言上、○閏三月十二日日吉社拜賀、同十三日登山拜堂、供奉法眼爲純、法橋隆俊以下準之、○同月十六日 仙洞御所修學院御茶屋江御幸之砌、赤山社、雲母不動堂、其外末社等へ、御備物 被爲有候旨、追而廿二日 西谷惣代 密嚴院言上、○同月十九日、日吉祭禮之事、自東塔執行代不動院大僧都注進狀云、

日吉祭禮卯月廿一日以式日令執行候
前日未御供幷奉幣役者嚴重參勤有
之候樣被
仰付者可爲 御神忠之旨依衆議令
申之由
座主宮御前宜御披露所仰候、恐惶謹言
閏三月十九日　　執行代德法判
進藤刑部卿法印

同月廿七日御奏聞、先是以傳奏廣橋一位胤定卿被伺時宜之後、被仰入于長橋局、御文如例、則日被聞召之由有返文、○四月十日、金藏院眞全申大僧都小折紙勘例書幷執當奉書等持參、

依輪王寺 准后宮仰、致啓 達候、抑山門
金藏院眞全申大僧都之事、從
座主宮御執奏被成候樣にと思召候、此旨宜
有御披露候、恐々謹言、
閏三月八日　　覺王院廣乘判
　　　　　　　眞覺院實潤判
大谷法印御房
進藤法眼御房
並河法橋御房
隱岐法橋御房
伊丹播磨守殿
梅嶋丹後守殿

則以小折紙御內見之後、被附萬里小路 左少辨許之處、五月十三日勅許、年三十九、戒廿六、同十六日御禮、
禁中杉原十帖末廣一本、女中一人金百疋
奉行職事金百疋同添使 靑銅廿疋

上卿萬里小路大納言建房卿金百疋
兩傳奏御禮計無進物、
座主宮金百疋、坊官諸大夫五人靑銅三十疋充、御
添使靑銅廿疋等、
任例進入之、於御次賜祝酒、執當返書入白木箱渡
之、
依　座主宮仰、致啓達候、抑山門金藏院
眞全中大僧都之事、御執奏之處、去十三日
首尾能　勅許、今日御禮等無滯相濟候、
此段宜有御披露候、恐々謹言、

梅嶋丹後守勝章判
伊丹播磨守重任判
隱岐法橋隆俊判
並河法橋共格判
進藤法印爲純判
大谷法印業延判

五月十六日

眞覺院法印御房
覺王院法印御房

四月十五日、東塔院內役者妙音院以書札、長講會囘
章叡覽日限伺、來廿四五日之內持參候樣及返書、○
同十七日傳奏衆月番里亭迄小奉書四ッ折紙差出、

口上覺

山門東塔長講會囘章、來廿六七日
之內被備
叡覽度候、右御差支無之日限、御問
合被　仰入候、以上、

四月　座主宮御內　進藤刑部橋

追而同廿三日來廿六日可爲叡覽之旨從廿露寺家被
達之、同廿五日妙音院囘章持參、差定寫等御內覽之
後、被返下、同廿六日被備叡覽、御添使隱岐大輔被
差向于禁中奏者所、妙音院同伴、則日被返下之後、
再持參於座主宮、被加御花押被返渡、爲御禮金百疋
進上之、○四月十九日執行代不動院大僧都德法注
進書曰、
松壽院宥海兼住勢州寒松院、號願王院之事、
玉林院大僧都覺道四十四歲、依病身隱居、後住弟子金
了房被仰付之事、
右覺道隱居之事依爲勅任之僧、同月廿三日被屆於

兩頭柳原頭辨庭田頭中將里亭也、小奉書四ッ折各通如例、○同月廿八日執行代注進云、觀明院俊苗轉住常州眞壁最勝寺、安禪院弟子少納言圓諦去廿六日病死、○五月三日吉祥院僧正實礀爲雲蓋院之現住、止吉祥院兼帶、○六月大興坊、、寶嚴院、、吉祥院、、住職繼目參賀、各扇子三本、一箱獻上之、七月二日申時大地震、御祈奉行萬里小路辨消息御到來、

地震及數刻、　叡襟寂不安、因茲、一七箇日、一寺一同抽誠精、宜奉祈天下泰平寶祚長久萬民安穩之事、

右早可令下知于延曆寺給之旨、被仰下候也、

七月二日

大納言僧都御房

追到著次第早々可有御祈始之事、

地震及數刻　叡襟寂不安、因茲、一七箇日、一寺一同抽誠精、宜奉祈天下泰平寶祚長久萬民安穩之事、

右早可令下知于延曆寺旨、被仰下候趣、畏思召候、此旨宜御沙汰被成給候也、

七月二日　　寶海

萬里小路辨殿

別紙之通唯今被仰出候間、一山一同可抽丹誠之旨、

座主宮仰如斯候也、恐々謹言、

七月二日夜寅時　　藤進法印 爲純判

山門

三院執行代中

追而御祈奉行萬里小路辨殿ニ候也、

執行代不動院德法、執行代寂光院亮音代別當代則賢等、連判請文、同三日午時到來、○同月九日執行代寂光院參殿、地震之御祈去三日開闢、今朝結願、卷數一合持參、同十日以御使爲純被附奏者所、

卷數表包云

根本中堂御祈禱之卷數　延曆寺大衆等

同月十日再御被仰出、奉行萬里小路辨消息云、

地震經數日、宸襟愈以不安、去二日已來雖既憑三寶之冥感、靈驗猶未全、因茲、自明日十一日一更一七箇日之間、天下泰平御祈、一寺一同愈可凝丹誠之旨、延曆寺可有御下知之事、

卽刻被及御下知、爲純奉書如例、○同十三日、自禁中以女房侍從內侍局奉書、地震之御祈、於日吉社可勤仕、被仰出、御撫物幷白銀三枚下賜之、御請文有之、同月十四日生源寺大隅守被召出、御撫物一合、白銀三枚被渡之、來十六日可爲開闢之旨、法印爲純申渡、○同十七日執行代不動院參殿、地震御祈今日滿座卷數持參、同十八日以御使大谷法眼被附禁中奏者所、○同廿二日、日吉社御祈滿座卷數一合、樹下但馬守持參、御撫物返上、同月廿三日被附禁中奏者所、○八月二日大慈院 大僧都孝祐止別當職轉住駿州久能山德音院之旨注進、○九月十四日、一音院權大僧都光達爲別當代之旨言上、○同月 大智院、、長壽院、、住職續目參賀、各扇子一箱獻上之、○十月十九日、一音院 光達 申大僧都之事言上小折紙幷執當奉書持參、其儀如例被及御奏聞、○十一月廿二日一音院 光達(年三十六、戒廿二、) 申大僧 都宣下、奉行萬里小路辨正房、同廿七日御禮如例式、○同月 執行代注進云、玉林院覺明日增院 僧正圓阿等遷化之事、

附錄

天台要曆(卷六)

第二百二十三代二品尊寶親王(靑蓮院、) 治山

光格天皇御養子、伏見兵部卿貞敬親王御子、師主尊眞親王、權僧正實璘受法灌頂、

享和二年六月十九日誕生、

文政十二年十二月十六日任座主、(年二十八、)執當養恕、宣命使、

文政十三年 月改元天保、

天保元年 十月廿六日入室徤宮妙法院、(自洞中御出立、)梶井承眞親王 爲戒師得度、稱敎仁親王、山門十一口、(內有職二口、)魚山一口、唄師勝安養院僧正眞海、敎授日嚴院大僧都眞淨、合十四口也、

同二年九月廿三日魚山祖師良忍上人(私諡聖應大師、)七百回遠忌執行法會、(逮夜法花三昧、當日彌陀曼荼羅供、)導師光聚坊大僧正忍袖、其外山門四口、魚山三口、承眞親王爲證誠御登山、於勝林院證誠堂被執行、先是魚山衆徒等取入寺務宮令叡覽回章、殊更可被設勅會之旨被命出、仍之

三院大衆叡覽囘章、限本山末山無其例、殊魚山新法之勅會依無其謂、速可被相止之旨、頻訴之、終止勅會、向來可禁止叡覽囘章之旨被決定、○同十月廿六（十二月十七日）大阿闍梨編典（寶殊院）、依遂一千日大行滿、賜綸旨參內拜天顏加持玉體、

同三年九月六日座主大王遷化號、（年三十一）、號後蓮花壽院、

第百二十四代一品承眞法親王（梶井）、　治山

天保三年十月十五日還補、（年四十五）、執當養恕、宣命使

○同十月十日爲盛化門院五十囘御忌、於洞中御懺法講執行、導師承眞親王、衆僧山門五口、魚山四口、

同四年十一月廿二日妙法院敎仁親王加行護摩始行、敎授法曼院眞純、讃衆山門五口、魚山一口、同十二月晦日ヨリ一七日、西丸內府家慶公四十二御厄除御祈、仍台命於根本中堂御修法始行、

同五年十月廿二日大阿闍梨觀達（十妙院）、仍千日滿行、賜綸旨參內拜天顏、加持玉體、○同十一月廿八日、伏見貞敬親王御子種宮入室曼殊院、得度戒師承眞親王法諱讓仁親王、

同六年十月十四日大阿闍梨堯海（龍城院）、仍一千日行滿、賜綸旨參內拜天顏、加持玉體、

同七年十月廿四日大阿闍梨昭順（明德院）、仍北嶺囘峰行滿、賜綸旨參內拜天顏、加持玉體、

同八年二月十六日慈忍和尚八百年遠忌、於松禪院法會執行、○同十月二日奉爲後櫻町院二十五囘聖忌、於洞中御懺法講執行、導師承眞親王、衆僧山門三口、魚山六口、○同九月內大臣家慶公將軍宣下、堂上宮門跡方等御使參向、一山惣代三光院秀胤仍籌下向江府、○同十二月廿日敎仁親王二品宣下、

同九年四月廿六日二品敎仁親王補一身阿闍梨、於自坊被開密檀、爲承眞親王大阿闍梨、被受法曼流灌頂、敎授師正觀院僧正眞純、讃衆山門十二口、魚山二口、勝安養院敎珍、金剛院眞全（敎カ）爲口受者、奉行坊城俊克朝臣、三摩耶戒式勅會庭儀也、廿七日金夜儀、廿八日合行、有栖川韶仁親王、同實枝宮、同上總太守閑院愛仁親王、同都君御方等預結緣灌頂其外預之者凡及三千人、

同十年八月廿八日有栖川韶仁親王御子佶宮御方爲青蓮院繼嗣、○同十月十四日大阿闍梨眞謙（千手院）、仍囘峰千日行滿、賜綸旨參內、拜天顏加持玉體、

同十一年三月今上皇子（統仁）就立坊、於中堂御修法被
仰出、
來月十四日可有東宮御元服無風雨難可彼（被カ）遂行無
爲之節之旨從來月四日一七箇日一寺一同抽丹精
誠可凝懇祈之旨可令下知延暦寺給　天氣所候也
以此旨可令申入座主宮給仍執啓如件
二月廿八日　　左少辨恭光
同十四日今上（八宮）立坊、大樹奉賀、以松平越中守爲一
山物代、正覺院前大僧正豪敬參賀、奉加持玉體、○
同四月十二日敎仁親王祕密瑜祇灌頂御傳法、大阿
闍梨承眞親王、敎授大僧正眞純、讃衆四口、○同十一
月十八日從座主宮令旨到來云、就仙洞御所御不例、
各別御信仰被爲在、於根本中堂御祈禱心經十萬卷
眞讀可致旨、爲御壇料金拾兩從上皇被下置旨、被相
達四王院僧正順忍、（座主宮院家、）○同十九日（卯刻）令旨到來云
上皇御樂目一昨日更御惱在之、叡念不穩、依佛陀
之加護速復尋給寶算長久御祈之事、一七箇日三
塔一同可抽懇祈之由、可令下知山門給者、天氣如
此、以此旨可令申入座主宮給、仍執達如件、
十一月十九日　　左中辨俊克

同日朝、開白於根本中堂三壇御修法始行之處、同日
酉刻崩御之旨被仰出、仍御修法延引、○同十月廿日
御葬于泉山、奉謚光格天皇、自同日於般舟院勤其御
中陰如例、山門二十五、（內魚山五口、）京師門中二十五口爲
籠僧參勤御經供養、初七日正覺院前大僧正豪敬、二
七日正敎坊前大僧正圓如、三七日惠心院前大僧正
光璨、五七日正觀院已講僧正眞純、延暦寺納經、拜
禮推諸宗爲祖、燒香導師遺敎院權僧正順忍被相勤、
同十二年正月十二日於御本所宸筆光明眞言御塔供
養、勅座主宮被命御導師之處、以病讓敎仁親王、屈
請衆僧、權僧正順忍大僧都豪榮、（法曼、）大僧都顯明、大
僧都普豪、大僧都實雅、大僧都慈快、（千葉、）大僧都貞
純、（安禪、）大僧都秀辨、（魚山實光、）以上八口、○同十二日前座
主承眞法親王遷化、（年五十四、）奉謚如實知王院、葬于魚
山、○同後正月三十日前將軍家齊公薨、（年）　仍御遺
命奉葬于東叡山東漸院、賜勅謚文恭院殿正一位、天
下停止五十日也、仍舊例西溪衆徒（三口）持錫杖、下向東
武勤其御中陰、亦爲一山惣代依先格惣持坊常觀（代執行、）
下向納經拜禮、○同三月十三日奉爲後白河法皇（六百）
囘聖忌、於妙法院室勅會庭儀曼供執行、大阿闍梨敎

仁親王、屈請衆僧十口、着座公卿殿上人奉行職事參向、

第二百二十五代二品敎仁親王妙法院、　治山

光格天皇御養子、閑院孝仁親王御子、師主承眞法親王、同受法灌頂、

文政二年四月廿七日誕生、天保十二年四月十五日任座主、年二十三、執當養怨、宣命使少納言長凞朝臣、同十九日日吉祭御執奏、初度也、○同五月廿三日爲護持僧二間初參、○同十三年六月廿七日曼殊院讓仁親王遷化年十九、號遠壽成院、葬于一條寺山、○同九月廿九日辭職、

第二百二十六代一品舜仁親王輪王寺、　治山

天保十三年九月廿九日還補、執當養怨、宣命使少納言在久朝臣、廿二日上洛、○去八月廿八日多武峯衆徒等取入關東、於談山以一﨟竹林坊、可昇進大僧正有御執奏度旨願之、貫主宮聞召之、卽御執奏相濟、今日口宣相下於御里坊可頂戴旨相聞、仍之滿山大衆老若共騷動、然處當十月御法會御導師仍被命出、近日御上洛故暫延引、九月廿二日御上洛、卽日三學頭世出世役三執八學頭政所代等貫主宮參上、奉訴狀、永止談山大僧正口宣取還可賜之旨、夫談山者我山末山也、若於彼山被免大僧正時者、本末違亂山門瑕瑾何事過之、若於永不被停止者、大衆不堪悲歎、嚴儀御法會恐多難相成出勤、以不得止滿山之大衆悉以可退去之旨願、○同十月十五日奉爲光格天皇三回聖忌、於清涼殿五箇日被行御懺法講、導師座主舜仁親王、衆僧山門六口、魚山六口參勤、當其中日魚山觀心院前大僧正覺雄、梶井宮仍爲御無住、以院家爲御名代、當日座主宮仍所勞止出勤、○同月、滿山大衆一同、談山大僧正永可被禁止之旨重々立願訴之、貫主大王終聞召、抑多武峯大僧正一件不少差障、其上山門願無餘義相聞間、永御停止被仰出、卽被殿下仰進之間、大衆安心之旨、然勅許相濟之上者先差置其儘、御差止口稱筆墨參內

口宣永御預御室、先般談山被下　令旨者、追而以時節御取戻可被爲有之由大衆初安寢食、○同十一月一日着御志賀院、卽日御參社、二日大衆御對顏、被催御論儀、御饗應三日、爲御拜堂登山仍南光坊燒失、以日增院爲御宿坊、東搭御拜堂、從中堂始、西川者執當龍王院法印純海爲御名代、卽日下山、六日還御京都、○同十八日辭職二十日下關、

第二百二十七代二品教仁親王妙法院、　治山
天保十三年十二月四日還補、年二十五、執當養恕、宣命使
少納言在久朝臣、
同十四年六月十三日青蓮院信宮逝、年七、號後知冥
院、○同閏九月十四日夜、無動寺本堂明王堂相應堂
食堂鐘樓堂寶藏、鎮守白山社坊舍善住院寶殊院松
林坊等及燒失、希代珍事也、○同九月輪王寺准后宮
仍願御退職、號自在心院、新宮公紹親王御受職、管領三山
攝統台宗、○同廿八日自在心院准后宮遷化、年五十五、葬
東叡山、
天保十五年元改弘化、
弘化二年八月□日三山貫主輪王寺公紹親王遷化、
年三十一、諡普賢行院、
同三年二月六日今上皇帝崩御、實去月二十六日、奉諡仁孝天
皇、御壽四十六、三月五日御葬于泉山、今夜於般舟院勤御
中陰、山門二十五口、內魚山五口、京師門中二十五口、爲籠
僧參勤御經供養、初七日正覺院前大僧正豪敬、二七
日正觀院前大僧正圓如、三七日惠心院大僧正順忍、
四七日寺門法光院權僧正高瑩、五七日樂樹院權僧正孝海、六
七日寺門法光院、延曆寺納經拜禮、爲祖推諸宗巳講勤
役、極樂坊權僧正昌範被相勤、○同六月十六日大女
院御所崩、御壽六十七、後桃園院御子、御諱欣子、奉諡新淸和院、於般舟院
勤御中陰、山門魚山京師四箇寺參勤、御經供養初中
結三度計、正覺院豪敬、正觀院圓如、寺門、法光院、禁止諸
宗之納經拜禮之處、仍詔延曆寺拜禮、極樂坊巳講參勤、○同七
月十一日有大樹令、大覺寺新宮慈性親王有栖川韶仁親王御子、
去年仍勅命爲輪王寺法嗣、今日入御里坊、十二日就
座主敎仁親王被令受圓頓大戒、○同十七日入室志
賀院、御參社御遶堂、大衆御對顏、執事龍王院法印
純海、御傳法師正覺院大僧正豪敬、御加行引直顯密
御相承、九月十三日下向東台、西町奉行田村伊豫守
護送隨從、○同八月廿日、於新淸和院御本所爲御追
福光明供御執行、導師敎仁親王、伴侶八口、內魚山一口、○
同十月、大樹公以上使堀出雲守、慈性親王輪王寺御
受職被命、管領三山攝統台宗、
同四年二月十日女院御所薨御、御年三十四、御諱祺子、奉諡新朔
平門院、於般舟院山門魚山京師四箇寺勤御中陰御
經供養、初度計、正覺院大僧正仍爲上﨟勤之、○同九月廿三日春宮
統仁親王卽位、御年十五、同二月二十一日、禁裏常御所
御再造、勅而御祈被仰出、大阿闍梨座主宮、伴僧正

觀院前大僧正圓如、法曼院眞諶以下八口、魚山一口參勤、不動法修行、○同十月依勅、青蓮院喜久宮輪王寺慈性親王附弟、伏見入道禪樂親王男滿宮、青蓮院門室可爲繼嗣旨被仰出、○同十二月二十四日輪王寺慈性親王被叙一品、

嘉永元年弘化五改元九月、伏見入道宮男嘉禰宮梶井門室相續、

○同二月四日、奉爲仁孝天皇三回聖忌、於清涼殿五箇日、被行御懺法講、依勅座主敎仁親王勤御導師給、當其中日四王院僧正明道爲調聲、梶井宮依童形爲御名代、當日座主宮依所勞止出仕、山門六口、魚山六口、觀賞如例有差、○同十二月十九日座主宮聽牛車、

同二年十月十三日爲新朔平門院三回御忌、於清涼殿被行御懺法講、導師四王院僧正明道、梶井嘉禰宮爲御名代、衆僧山五口、魚山五口、

同三年四月八日開闢、依勅於根本中堂異國降伏御祈御修法執行、天下不靜謐、依關東奏聞也、

同四年八月二十日座主宮一品宣下、依重病也、

同五年二月四日奉爲仁孝天皇七回聖忌、於清涼殿五箇日、被行御懺法講、御導師梶井宮御名代四王院僧正明道、是御童形、仍如斯、衆僧山五口、魚山七口、勸賞如例有差、○同月十五日天滿宮就八百五十回神忌、於北野聖廟被行法華八講、導師白毫院權僧正覺洞、曼殊院門室依爲御無住、御名代也、山門屈請十口參勤、○同三月十五日依勅梶井嘉禰宮、輪王寺慈性親王附弟、青蓮院滿宮梶井門室移轉、南都一乘院宮尊應親王于時二十九、青蓮院門室移轉之旨、被仰出、○同月二十三日尊應親王入室青蓮院、里坊ヨリ、當日被令受圓頓大戒、傳戒師別當探題惠心院大僧正順忍改名尊融、三執行代八學頭代世出世役等參賀、同五月廿二日開白三昧流加行引直御始行、九月廿三日護摩朝座滿行、同月廿六日着坂本大師堂、三執八學頭代世出世役參賀、廿七日參社、廿八日三塔御遶堂從根本中堂始、廿九日唐崎御參詣、還御京都、○同十一月三日大阿闍梨順忍大僧正三昧流灌頂被授尊融親王、非勅會非例、無著座、敎授師極樂坊大僧都信海、讚衆三塔十六口、魚山二口、○同年十二月座主辭職、

第二百二十八代二品尊融親王青蓮院、　治山

仁孝天皇御養子、伏見兵部卿貞敬親王男、師主尊誠親王、大僧正順忍受法灌頂、

文政七年五月八日誕生、嘉永五年十二月十四日任

座主、（年二十九、）執當養恕、宣命使伏原少納言宣諭、○同月九月前座主妙法院敎仁親王薨、（年三十四、）諡寶莊嚴院葬法住寺、

同六年四月御住山橫川、以鷄足院爲御宿院、廿二日吉祭御拜覽、廿三日大衆御對顏御饗應、二十四日石山御參詣、廿六日還御京都、○同七月廿二日大將軍家慶公薨、停止天下八音五十日、諡愼德院正一位大相國葬增上寺、○同年九月十日、大阿闍梨願海（常樂院、）遂囘峯千日行滿、賜綸旨、十月十四日參內拜天顏加持玉體、○同年十一月廿三日德川家祥公補征夷大將軍、叙從一位任右大臣、堂上堂下宮門跡等以使賀、延暦寺惣代延命院德秀依籌參賀下向東武、

同七年二月十五日、於妙法院室五大尊合行護摩修行、大阿闍梨金剛院權僧正敎珍、助咒十日、○同三月三日開闢、於梶井三千院七佛藥師大法修行、大阿闍梨學林坊僧正編典、助咒十二口、內魚山三口、○去年六月異國亞墨加軍船到來ヨ本浦賀湊滯留、依諸寺諸山御祈被仰出、○同四月六日午刻火起禁裏、准后御所炎上、其餘堂上町家數軒及燒失、洛東聖護院行幸爲行宮、同月十五日更行幸京極宮爲假皇居、

（嘉永七改元）安政二年九月廿一日開闢一七箇日、於新造內裏依勅被行大安鎭法、大將座主宮、伴僧二十一口、（內魚山二口、）外奉行僧二口、（松林院、圓龍院、）廿四日正鎭、夜丑刻受地作法、廿七日朝結願、奉行中御門頭辨下行米貳百石、

同年十一月五日、七箇日於根本中堂御修法修行、

遷幸新　內裏日、無風雨難可被遂無爲之節之旨、從來月五日一七日、一寺一同抽精誠可有祈請之事、

十月　右中辨經之

同十一月廿三日新造內裏遷幸、

同五年二月四日奉爲仁孝天皇十三回聖忌、於淸涼殿（五箇日、）被行御懺法講、御導師梶井滿宮御名代、（依爲御童形也、）本實成院僧正良海（正月廿六日本室於三千院表習禮、着座公卿樂人等參向、童形滿宮勤御導師給、）參勤僧侶山、（八口、）魚山、（四口、）勸賞如例有差、同年八月八日大將軍家祥公薨、御停止天下八音五十日、諡溫恭院、正一位太政大臣、葬東叡山東漸院、○同年十二月朔日宰相家持公（紀州男、）德川爲繼嗣、補征夷大將軍、任內大臣叙正二位、堂上宮門跡方使下向東武、○同十月廿五日梶井滿宮依勅輪王寺移轉、慈性親王爲附弟、同日親王宣下、（能久、）同十一月廿三日入

室里坊、今夜得度戒師靑蓮院尊融親王、同六年正月十八日東武下向、町奉行岡部備後守護送隨從、○同年六月廿一日、圓滿院宮學諄親王伏見貞敬親王御子、梶井門室相續御移轉之旨、被仰出、勅而更被改昌仁、○同七月四日入室、卽日被令受圓頓大戒轉、戒師正覺院僧正豪海、三執八學頭代世出世役參賀參迎、同月十日始行加行引直、引續內々灌頂、阿闍梨法曼院編道、○同八月廿一日御登山御遶堂、廿三日參社、廿五日還御京都、○同九月廿日尊融親王辭職、

第二百二十九代二品昌仁親王梶井、　治山

仁孝天皇御養子、伏見兵部卿貞敬親王男、師主唯仁親王、承眞親王資、同受法灌頂、

文政二年二月一日誕生、安政六年九月廿七日任座主、年四十三、執當養恕、宣命使交野少納言時晃、○同年十月十二十三日、爲新朔平門院十三回御忌、於淸涼殿被行御懺法講、御導師昌仁親王臨後御手代り、大僧正明道相勤、屈請僧侶山、五口、魚山、四口、○同十二月七日前座主靑蓮院尊融親王王命武命依在背、退院於他所謹愼被仰付、同十一日移相國寺寺中華芳軒、自號獅々子カ王院、希代之珍事也、

萬延元年六月八日伏見兵部卿貞敎親王末男敎宮、四歲、妙法院門室相續被仰出、九月廿日當今爲御養子、○同十月十七日輪王寺新宮公現親王被叙二品、京都於里坊請宣命、萬延二改元文久元年辛酉十二月十一日開白一七箇日、於紫宸殿辛酉革命御祈被仰出、大阿闍梨座主昌仁親王、助咒正覺院僧正豪海壽量院大僧都覺寶、奉行僧法曼院大僧都編道以下二十口、魚山二口、參勤、以樂人部屋爲休所、同二年二月四日、奉爲仁孝天皇十七回聖忌、於淸涼殿被行御懺法講、御導師昌仁親王御名代四王院大僧正明道、山、六口、魚山、六口、勸賞如例有差、○同年四月廿六日輪王寺慈性親王御京著、○同五月二日辭職、

第二百三十代一品慈性親王輪王寺、　治山

光格天皇御養子、有栖川一品織仁親王男、師主亮深大僧正、公紹親王資入室、敎仁親王受戒、前大僧正豪敬受法、

文化十年八月廿六日誕生、文久二年五月七日任座主、年四十九、執當養恕、宣命使高辻少納言以長、同月廿二日准后宣下、○同八月一日、獅々王院尊融親王以思召靑蓮院門跡再住被仰付、今日本坊被爲引移、同

八月廿日慈覺大師一千年忌勅會被行御八講於大講堂、廿日開白證誠尊融親王、中日座主宮、結日昌仁親王、著座公卿、(正親町大納言、庭田中納言、清水谷宰相、) 勅使兼奉行葉室右大辨顯孝朝臣、廿四日結願、○翌廿五日本院大衆依曼荼羅供修行、勅而被催舞樂、(納蘇利、陵王、青海波、)大阿闍梨座主宮、御讀經使櫛笥中將、堂童(六角大藏大輔、押小路大夫、石野治部大輔、西四辻大夫、) 樂行事、(東園中將、)執綱、(梅小路讃岐權介、冷泉大夫、) 執蓋、(藤島新藏人、) 會行事圓龍院貫眞、(去永正十五年四月根本中堂供養、將軍義稙公登山、公家武家供奉隨從被行大禮、後中絶六百年餘、)○同年閏八月四日辭職、

第二百三十一代二品昌仁親王(梶井、)　治山

文久二年後八月廿四日還補、執當養恕、宣命使舟橋少納言康賢、

同三年三月四日開闢、依別勅異國降伏御祈於根本中堂三壇御祈御修行、結願後卷數獻上、同日日吉社於大宮拜殿御祈禱社司參籠、

勅書　延暦寺

近來外夷追日跋扈、深被惱　震衷、將釐夷拒絶之期限被決定之處、此頃既英夷之軍艦來橫濱、請求之旨趣必可開兵端之情態顯然、實　天下安危在於是時矣、庶幾依佛陀冥助以奮起　皇國之勇威、國內一和上下齊志、早攘醜夷于汎海之遠、永令絶於覬覦之意念、不汚　神州不損人民、寶祚延長、武運悠久御祈一七日、一寺一同可抽丹誠之由、可令下知給者、天氣如此、以此旨可令申座主宮給、依　執達如件、

三月二日　右少辨俊政

謹上大納言僧都御房

日吉社同斷、(一寺一同作一社一同、)

同月更爲天下泰平　國家安穩外夷降伏、於台山文殊樓大衆修文殊大法、於無動寺明王堂修　五大力明王祕法、尤從開闢日々無限、

同年三月五日大將軍上洛入二條城、(六月廿日歸府、)　同十月三日爲新朔平門院十七回御忌、於清凉殿被行御懺法講、(三日、)御導師昌仁親王御手代リ僧正良海、參勤僧侶山、(五口、)魚山、(四口、)

元治元年正月十五日大樹上洛入二條城、(五月七日發京、)　同年八月十日大阿闍梨覺寶(壽量院)遂回峯千日行滿、賜綸旨、九月廿七日參內拜天顏、加持玉體、

(元治二改元)慶應元年就東照宮二百五十回神忌、於日光法花萬

部被執行、座主宮下向日光、輪王寺准后宮同新宮倶爲導師、其外公卿著座、堂上地下官人等如先規、下向日光、諸國末山末寺納經拜禮參向於坂本讚佛堂如先規十日間五百部讀誦法會、如先規大樹各以施物被賞之、

同年五月十日開白將軍家中國御進發爲御祈禱、於東叡山中堂千座護摩修行、○同六月十九日開白於根本中堂三檀御修法執行、廿五日結願卷數獻上、大樹公中國御進發故也、(毛利氏問罪)、○同閏五月廿三日大樹家上洛入施藥院、卽日參內、翌日大坂御下向、○同九月十六日從大坂城入洛二條城御入、廿日御參內、廿三日大坂御下向、○同年九月廿二日大阿闍梨晃須院(五智院)遂回峯千日行滿、賜綸旨、十二月五日參內拜天顏加持玉體、○同十月四日大樹公從大坂城入洛入二條城、十一月三日御下坂、○同二年八月廿二日征夷大將軍家茂公於大坂城薨御、京都停止八音二七日、九月下向東武、十一月五日葬增上寺、諡照德院、從一位大相國、諸國諸寺止納經拜禮、○同年十一月五日一ッ橋中納言慶喜卿補征夷大將軍、任叙從三位內大臣兼右大將、(於二條城請宣命)、○同年十二月廿五日禁裏御所崩御、(御寶算三十六)、奉稱孝明天皇、

同三年正月廿七日御葬泉涌寺後山營山陵、同日夜於般舟院勤其中陰如例、山門(二十五口)、門中(二十五口)、於同所依勅御經供養、初七日正覺院前大僧正、二七日靈鷲院前大僧正、(三井寺)、三七日正觀院前大僧正、四七日惠心院前大僧正、五七日寶照院僧正、(三井寺)、六七日法光院僧正、(三井寺)、七々日延命院權僧正、二月四日延曆寺納經拜禮、延命院權僧正、(推諸宗爲祖)、○同年八月二日(兩日)、相應和尙(私諡建立大師)、九百五十回忌於葛川明王堂曼供法會行者中執行、導師壽量院覺寶相勤、(千日滿行者)、同九月朔日(三ヶ日)、於無動寺法花八講執行、○同年十月十四日、大樹家(慶喜公)奏聞大政返上將軍職辭退、十六日被聞召、祖宗以來御委任厚御依賴被爲在候得共、方今宇內之形勢考察シ、建白之旨趣尤被思召候間、被聞召候、尙天下ト共々同心盡力、致　皇國護持可奉安宸襟、御沙汰候事、

同年十一月王政復古、神武創業之始ニ被爲基、諸事御一新祭政一致之御制度ニ御回復可被遊之旨被仰出候事、

攝關幕府議奏傳奏之職廢止、總裁議定參與ノ三職ヲ

置、石高ヲ以諸候ヲ三等ニ分ツ、禁神佛混交、大菩薩權現等之神號及佛體以神體ト爲ヲ廢止、
同十二月聖護院宮仁和寺宮梶井宮知恩院宮靑蓮院宮等復飾被仰出、依之座主職發、〇今按將作廢、天長元年辰義眞和尙任座主初、今年迄及一千五十年二百三十一代至テ廢、謹而可惜哉、
明治元年十一月、從太政官延暦寺ヱ御達、
日光輪王寺門跡御廢止ニ付、以來三門跡天台宗御支配之旨被　仰出、
明治三年二月諸門跡ヲ廢、平僧免、住職坊官諸大夫位階廢爲士族、諸國社寺領一般上地トス、僧侶肉食妻帶蓄髪勝手之旨被仰出、
同四月五日御達、
天台宗是迄比叡東叡日光三山ニ管轄罷在候處、今般東叡日光ニ山者本山之名目被止、總而比叡山管轄被仰付候事、
三月　　太　政　官

東寺長者補任

右寺者桓武天皇御願、爲鎭護國家道場、號敎王護國寺額是既奉勅而已、遺告云、去弘仁十四年正月十九日、以東寺永給預於小僧、勅使藤原良房公卿也、于時大納言勅書在別、卽爲眞言密敎遲既畢、師々相傳爲道場者也、豈可非門徒者猥雜哉云々、因之請來法文曼荼羅道具等、幷御願之一切經論、天台法門等、納大經藏預代々長者、遂奏聞申立眞言宗住處、以五十口名僧令常住、坤角立灌頂院、准靑龍寺之風、修每年二度結緣灌頂、代々長者相續可勤修、一人若有障者第二人可勤仕、不及三者、

件灌頂自承和十一年甲子三月十五日始行云々、

弘仁十四年十二月二日官符云、右大臣宣、奉勅、件寺令住眞言宗僧五十人、海公乘坏訪道傳祕密之眞言杖錫安禪持神呪之妙力、又夫東寺者、遷都之始爲鎭國家、柏原先朝所建也、乞察此狀、擇僧徒等護揚眞言敎、轉禍修福鎭國護家者、

又告云、弘仁帝皇給以東寺、不勝歡喜成祕密道場、努努勿令他人雜住、非此狹心護眞課也、雖圓妙法非五千分、雖廣東寺非異類地、以何言之云々、

東寺長者補任卷第一 自弘仁十四年至承保三年

嵯峨天皇
弘仁十四年癸卯 十五年正月五日改元、
四月十七日讓位、淳和天皇受禪、大伴、卅八、同日以嵯峨天皇爲太上天皇、

長者空海
正月十九日勅給東寺、年五十、御歸朝以後十八年、于時凡僧大法師位、寶龜五年誕生、今年六月廿五日大唐大興善寺不空三藏入滅、疑云、高祖大師其後身歟、彼是代力師賢只非一兩度云々、具付法傳等、傳云、眞濟作、故大僧都諱空海、灌頂號遍照金剛、俗姓佐伯直、讃岐國多度郡人、國史云、本姓佐伯直、後賜姓宿禰、貫左京職、其源出天尊、次祖昔日本武尊征毛人有功、因給土地便家之、姓氏錄云、景行天皇之曾孫豐嶋、孝德天皇時初賜佐伯直姓、遺告云、吾父佐伯氏、母阿刀氏人也、父母曰、我子是昔可佛弟子、夢見從天竺國聖人僧來入我等懷生、年五六之間夢常見居座八葉蓮華之中諸佛共語、延曆七年生年十五、入京逢石淵贈僧正、勤操、受大虛空藏等、能滿虛空藏法十二年、遺告云、發向和泉國槇尾山寺、於此剃除鬢髮授沙彌十戒七十二威儀、年廿、名稱敎海、後改稱如空、十四年四月九日於東大寺戒壇院受具足戒、年廿二、遺告、法諱空海、[illegible] 師主勤操戒牒在別、廿三年、五月十二日入唐、乘大使越前大守正三位藤原賀能私云、賀能此年未叙三位、船、遇上都長安青龍寺惠果大阿闍梨、休五智灌頂學兩部祕法諸尊瑜伽悉以瀉瓶、吳殷纂云、今有大日本國沙門來求聖敎、皆令所學可如瀉瓶、此沙門是非凡徒、三地菩薩也、年卅一遺告、內具大乘心、外現小國沙門相云々、大同二年歸我本國、年卅四、元年十月廿四歸朝イ又廿二日イ 從爾以降、帝經四朝、奉爲國家建壇、修法五十一箇度、遺告、弘仁元年補東大寺別當、年卅七、在位四年、二年十一月九日下治部省官符云、僧空卜住山城國高雄山寺、而其處不便、省宜承知令住同國乙訓寺、令別當彼寺、永預脩造事者、三年十月廿九日辭乙訓寺、永住高雄山寺、見傳敎書狀、同十一月十五日於高雄山行金剛界結緣灌頂、受者釋最澄、月、播磨大掾和氣直綱、金實、大學大允和氣仲世、[illegible]喜、美濃種人、實、十二月十四日於同寺行胎藏同灌頂、受者都合一百卌五人、其中大僧廿二人、沙彌卅七人、近事

卅一人、童子卅五人、僧最澄（興福寺賓撞）、泰範（元興寺般若）、光仁（興福寺般若）、光定（般若、具載記録）、七年遺告云、表請紀伊國南山殊爲入定處、作一兩草菴、去高雄舊居移入南山、厥峯絕遙遠阻人氣、吾居住時頻在明神衞護、彼山裏路邊有女神、名曰丹生津姫命、吾上登日詫巫祝曰、妾在神道望威福久也、方今菩薩到此山、妾之幸也、弟子昔現人之時、食國[illegible]命給家地以萬許町、南限南海、北限日本河、東限大日本國、西限應神山、各異也、獻永世表仰信情云々、七月八日限高野四至、賜官符、（如明神詫宣）、大師傳云、大同二年八月趣於本鄉、泛舶之日手執三鈷祈請發願云、我所傳學祕密聖敎有流布相應之地者、早致可點之則、以三鈷向日本投拋之、三鈷遙飛入雲中、弘仁七年以高野山卜入定所、卽登山之中心開草萊之間、彼三鈷今新在斯、（緣起云樹挂三鈷）、知是祕密相應之地、可至三會之曉云々、遺告云、太上天皇有勅、請下安宿中務供養、餘月還更居高雄、（年記可尋決）、十三年平城太上天皇開金剛道場、奉授佛性三昧耶戒灌頂、四衆共以入壇、十四年嵯峨天皇受灌頂、

淳和天皇
天長元年（甲辰）

七月七日平城上皇崩、（年五十、）十一月四日天皇奉賀嵯峨太上天皇五八御齡、（賀初）

長者空海

三月廿六日（甲戌）、依祈雨賞直任少僧都、（五十一、）遺告云、今年依旱災、奉勅於神泉苑池邊修祈雨法、靈驗其明、此池有龍王、名善如、元是无契達池龍王類、有慈爲人不致害心、以何知之、修法之此託人示之、卽敬眞言奧旨、從池中現形々々、時悉地成就、勅使和氣眞綱御幣種々色物供奉龍王眞言道崇從爾彌趁云々、又云天長皇帝卽位任少僧都、再三奏辭不免、在公雖云萬事无遑、春秋之間必一往者、（高野事也、）六月十六日官符云、（是長者始也、）

太政官符造東寺所、
少僧都傳燈大法師位空海、
右被右大臣宣云、奉勅、件人、彼所前別當大僧都傳燈大法師長惠遷任造西寺所別當之替、補任如件者、所宜承知、望請天載（裁カ）如此、參議行正四位下守右大辨勳六等伴宿禰國道、從六位下右大史安道宿禰副雄、
天長元年六月十六日

同月廿六日到來、又聖靈集云、去月十七日任少僧都云々、如何、

同二年乙巳

長者少僧都空海

今年四月廿四日奉勅始建立講堂、勅使參議右大辨直世王、營作早畢、

同三年丙午

三月十日奏狀偁、每年安居講守護國界、經四月八日宣下、

長者少僧都空海

今年十一月廿四日曳東寺塔材木勸進文、大師御筆、有別當二人、先書律師、次書權少僧都、共元名也、僧都者是大師歟、考彼年補任、律師者有五人、脩圓、興福寺法相宗、修哲誓イ施平已上二人木經本宗寺、豐安律宗招提寺、歲榮三輪宗元興寺、但三月十五日任之、等是也、皆非眞言宗、可尋決之、

同四年丁未　五月廿八日山階寺別當修圓律師任少僧都、

長者少僧都空海

五月丙戌依祈雨、令少僧都空海請佛舍利內裏禮拜灌浴、後大陰雨降數刻而止、濕地寺是則舍利靈驗之所感應也、五月廿八日戊子轉大僧都、年五十四、師勤操五月七日戊辰卒替也、于時僧正大一人、少二人、僧都各一人、僧正護命、少僧都修圓、豐安修圓同花者五月廿八日任少僧都云々、修圓于時山階寺別當也、

同五年戊申

長者大僧都空海

同六年己酉

長者大僧都空海

十月十五日イ十一月五日補大安寺別當、今年和氣眞綱同淸麻呂以神願寺奉付屬大師、神護寺是也、

同七年庚戌

長者大僧都空海

同八年辛亥

長者大僧都空海

五月廿八日庚辰辭大僧都上表、五十八、九月廿五日延曆寺圓澄和尙等十八連署可受學眞言於大師之由啓狀、在公卿別當所署、署カ

同九年壬子

長者前大僧都空海

八月廿二日於金剛峯寺爲四恩始萬燈會、遺告云、

自十一月十二日深厭穀味、專好座禪、皆是令法久住(生イ)勝計幷爲末世後世弟子門徒等也、方今諸弟子等諦聽々々、吾生期今不幾、仁等好住愼守敎法、吾永歸山、

同十年癸巳 十一年正月三日改元、

二月廿八日讓位、仁明天皇受禪、正良、廿四、同日以淳和天皇爲太上天皇、四十八、

長者大僧都空海 自今年常住高野、偏以金剛峯寺眞然付屬畢、

仁明天皇

承和元年甲寅 六月十二日山階寺修圓(ケカ)卒、九月十一日護命僧正卒(行基菩薩弟子也、)

長者大僧都空海

奉詔命、於中務省初修後七日御修法、年六十一、此間請申勸解由司廳、建立眞言院、結構堂舍、造立佛像、年中行事僧衆威儀皆悉移青龍寺之風、申置法務職、始令補任護命、今日以三會勞可補僧綱宣下、二月作心經祕鍵、於東大寺眞言院開演也、今年大師告諸弟子等曰、吾有却世之思、明年三月之中也、以金剛峯寺付眞然大德、件寺創造未畢、但件大德自力不厚、實惠大德可加功云々、吾初思、一百歲之間住世流、布密敎、汲引蒼生、雖然禪師等所請時至焉也、吾願又足也、仁等當知、忌命於寸波中、尋法於千里外、統所傳道敎護持之、安鎭國家撫育萬民云々、重遺戒語諸金剛弟子等、夫剃頭著染之願、我大師薄伽梵子呼僧伽、僧伽梵名、翻云一味和合等、意云上下无諍論、長幼有次第、如乳水之无別護持佛法、如鴻雁之有序利益群生、若能悟解已卽名更佛弟子、若違斯義卽名魔弟子、非我及佛弟子者、所謂旃陀羅惡人佛法國家大賊、則現世无自他之益、後生卽入无間之獄、无間重罪人諸佛大慈所不能覆蔭、菩薩大悲所不能救護、何況諸天善神誰人存念、宜汝等二三金剛子等熟顧出家之本意、誰尋之、入道之源由、長兄以寬仁調衆、幼弟以恭順間(○南溟按問歟)道、不得謂賤貴一鉢單衣除煩擾、二三時上堂觀本尊、三味五相入觀卑證大悉地、變五濁之澆風、勤三覺之推訓、酬四恩之廣德、興三寶之妙道、此吾願也、自外訓誡一如顯密二敎莫違越、若故違越者、五大忿怒、十六金剛依法加拾善心長者等依內外法律浪擯而已、以一知十、不煩多言、承和元年五月廿八日、同年八月廿三日、於金剛峯寺勸進諸壇越等、奉建毘盧舍那界體性塔

二基、及胎藏金剛界兩部萬茶羅、具在別、後七日法
毎年可勤修之由、官符云、
太政官符
　應毎年令脩法事、
右被從二位行大納言兼皇太子傅藤原朝臣三守宣
偁、奉　勅、宜依大僧都傳燈大法師位空海表、毎
年宮中金光明會講經一七日間、擇眞言宗解法僧
二七人、沙彌二七人、莊嚴一室、別令修法、同護持
國家、共令成就五穀、
　承和元年十二月廿九日
太政官符
　應以五十僧内宛東寺三綱事、
右大僧都傳燈大法師位空海表偁、謹案太政官去
弘仁十四年十月十日符偁、右大臣宣、奉　勅、自
今以後眞言宗僧五十人令住東寺、若僧有闕者、以
受學一尊法有次第功業僧補之、道是密教、莫令他
宗僧雜住者、伏望三綱之外、鎭知事等、一切省除、
其三綱者擇五十僧内宛用者、從三〇南按當作二、位行大
納言兼皇太子傅藤原朝臣三守宣、奉　勅、依請、
　承和元年十二月廿四日　年分度者官府在別、

同二年乙卯
長者大僧都空海
　正月八日於宮中眞言院被始行後七日御修法、依
重宣下止勘解由司廳、號内道場眞言院、三月十五
日遺告云、吾擬入定來廿一日寅剋也、自今以後不
用人食、仁等莫悲位、〇南按泣歟、又勿著素服、一五入定
間、往知足天而參仕慈尊御前、五十六億餘之後慈
尊下生之時、必隨從而可見吾舊跡此峯勿等閑、顯
者舟生山王可領勸請宮持大神所囑託也、冥者右
佛舊基召集兩部諸尊所安置也、見跡必知其體威
聞音則辨彼慈瞋者也、吾末世資千萬親雖不知吾
顏、見一門長者及此峯寄宿者、必可察吾意、吾法
擬陵遲刻、吾必交緇徒禪僧之中興此法、非我執甚
私法謀耳、遺文云、東寺座主大阿闍梨耶者、吾末
世後生弟子也、吾滅度以後、弟子數千萬之間、長
者之雖門徒數千萬、併吾後生弟子也、雖不見祖師
吾顏、有心之者必聞吾名、號知恩德之由、是吾非
欲白屍之上更人之勞護繼密教壽命可令開龍三華
之三遲謀也、吾閉眼之後、必方往生兜率他天、可
侍彌勒慈尊御前、五十六億餘之後必慈尊御共下

生祇候可問吾 先跡、亦且 末下 之間 見微 雲宮ヨリ
可察信否、是時有勤得祐不信之不幸、努々勿爲後
蹤、文、又云、小僧大同二年歸我本國、從爾以降帝
（經カ）徃四朝、奉爲國家建壇修法五十一個度、文、
三月廿一日丙寅 寅刻於金剛峯寺御入定、年六十二、臈四十一、
其期兼十日四時行法之間、御弟子等唱彌勒寶號、
至時刻止言談、結跏趺坐、作大日定印奄然入定、
雖閇目自餘宛如生身、及七々日御忌、御弟子等皆
以拜見、顏色不變、鬢髮更生、因之加剃除、（整カ）慗衣
裳、穿山頂入底半里許、疊石壇築覆其上、立䜌都
婆、彼山于今无烏鳶之類演譁之獸、兼生前之誓願
也、
可試度宗家年
夫以、件宗今度者須如初思試度東寺、然而欲不令
荒山家更改奏官符欲申下金剛峯寺 者也、敢厭東
寺汲南嶽哉、今須東寺座主大阿闍梨耶 執事欲改
直之、亦簡定諸定額僧中能才童子等於山家試度、
即於東大寺戒壇受具足戒、受戒之後於山家 三箇
年練行、厥後各隨師受學密教云々、金剛峯寺如東
寺宗家大阿闍梨應务務事、右件寺者是 小僧私所
建立也、然而進官爲御願遲者也、宜知是心吾弟子
等中先成立長者東寺座主大阿闍梨耶 一向應管攝
莫遺告誤得一知萬云々、
承和二年春 正月大僧都傳燈 大法師位空海奏曰、
依弘仁十四年詔、欲眞言宗僧五十人 住東寺修三
密門、今堂舍已建修講未創、且亦割入東寺官家、
功德斷對千戶之內二百戶、甲斐五十戶、下總百五
十戶、以宛僧供、爲國家薰修利濟人天、許之、告
云、件寺定供僧元 住官符五十口、今奏定廿四口、
方今伺末代所 有志本願聖靈元遲速崩朱 堪造畢、
加以未入庄田正稅等寺丈料少、回以奏定、就中廿
一口修學練行者三口、即三綱造治雜預者也、是亦
皆用淨行之人、勿用員外人有犯之僧、且有工巧意
操風流可用修理造作莊嚴佛事者不可求淨不淨置
於非入寺之外置權三綱、依之不得猥雜他家穢僧
等、傳云准大唐內道場奏閃眞言院一區申立、官中
以勘解由司廳爲曼荼羅道場、勤修每年 正月後七
日息災增益御修法、幷每月晦三箇日御念誦、亦十
八日御前之觀音供等、皆是唐朝風也、件阿闍梨可
勤修東寺一長者、若有故障可准結緣灌頂也、天安

元年十月廿七日贈大僧正、依眞濟之上表、御入定以後廿一年、贈大僧正始也、貞觀六年三月廿七日贈法印大和尙位、延喜廿一年十月廿七日諡號弘法大師、依觀賢之奏、御入定以後八十六年、綜藝種智院敷地藤大納言施入、年紀可勘記之、天長六年歟、

同三年丙辰

長者權律師實惠梶尾、(東大寺)

五月十日任權律師補長者、五十一、於東寺別當者大師御在世之時仕云々、可勘記之、

同四年丁巳

長者權律師實惠

今年建立觀心寺、河內國、(天長四年建立イ)、月日東寺入寺僧申定、

同五年戊午 常曉入唐歟、

十二月十九日始佛名、導師靜安、

長者權律師實惠

附入唐請益僧圓行、賚持法眼等贈阿闍梨惠果和尙之墳墓、遙申孫弟之禮也、承和三(四イ)年歟、多本今年也、今年轉正歟、

同六年己未 九月五日常曉歸朝、

長者律師實惠

同七年庚申

四月八日始灌佛、五月八日淳和崩、五十五、六月於法琳寺、常曉始行太元師法、

長者律師實惠、九月廿八日轉任少僧都、(五十五、國史)

同八年辛酉

長者少僧都實惠三月日申置高野燈油佛、

權律師眞濟實相寺根本東大寺　高雄、

十一月九日任權律師幷長者、四十二、元內供、二長者初也、僧綱補任同、或本云、十年十一月九日云々、八年誤歟、

同九年壬戌

七月十五日嵯峨天皇崩、五十七、

長者少僧都實惠

權律師眞濟

同十年癸亥

長者少僧都實惠

十一月十六日、於東寺可行傳法職位幷春秋二季結緣灌頂、有勅許、賜官符、大納言正三位上兼行

左近大將良房宣奉勅、十二月十三日、於東寺灌頂院授灌頂於眞紹、內供色衆四十八、樂人卅人、御前俗人多々、嚴重多端、東寺具支灌頂初也、官符云、〔傳法者謂簡人待器而方許之、若衆中有稟學兩部大法及宗義、并五種護摩法等、修練加行堪爲師範者先受阿闍梨位者、覆審試定、錄其名簿、別當相署奏聞、然後待報答、令其宗阿闍梨於東寺授傳法職位、凡物必有條貫、若無貫者亂墜、委當時爲法首者令行之、不聽輙爾他處授與〕〇矢野南溟云傳法者以下之文字原本所無而以文意不通今以三代格補之、傳法位、又受阿闍梨及學一尊契之法師、准諸宗智者帳、明記其年臘及所居之寺、并所學祕法等、加宗俗別當署、牒之所司、不載此牒之類、一切不聽私輙作法、若諸傳法者可他處結緣灌頂、更受執法者之許可、兼經宗俗別當隨宜令行者、大納言正三位兼行右近衞大將民部卿陸奧出羽按察使藤原朝臣良房宣、奉勅依請、宜普告諸寺、嚴加捉搦、若有違犯者、一依養老六年七月十日格科罪、

承和十年十一月十六日

權律師眞濟今年任、

同十一年甲子

菅丞相出來、

長者少僧都實惠

權律師眞濟

同十二年乙丑

長者少僧都實惠

權律師眞濟

同十三年丙寅 太元法始行、常曉、

長者少僧都實惠

太政官符、

應停春節灌頂永成修法事、

右得少僧都傳燈大法師(位略)實惠表偁、依太政官去承和十年十一月十六日符、自去十一年三月十五日、始行春秋灌頂、而寺家之務、觸類繁多、左右兼行、事頗擁隔(滯略)、望停春灌頂、永成修法、卽以灌頂料、充修法具、但秋來一廻、恒行灌頂、敬爲國家修行二法者、大納言正三位兼行左(右略)近衞大將民部卿陸奧出羽按察使藤原朝臣良房宣、奉勅依請、

承和十三年三月十五日

權律師眞濟

同十四年丁卯　十五年六月十三日改元、

長者少僧都實惠　十二月十二日（十一月十三日イ）入滅、(六十二、四十二、)寺務十二年、號檜尾僧都、法禪寺是也、

讃岐國人、俗姓佐伯宿禰、我朝第二阿闍梨、延曆三年誕生、同廿三年受戒、大師寂初付法、初就東大寺（大安イ）泰基法師學法相宗、後隨大師傳眞言敎、遺告云、吾道興然專此大德信力也、他有眼青自在融通人、師國寶之人豈益此大德哉、仍大經藏事一向預此大德云々、但若實惠大德不幸後者眞雅法師處分對納開合、依之未知情、弟子等勿令對開、恐情師々之次長短深淺必語他家歟、可愼々々、承和初補神護寺別當、承和元年依綸言於神護寺三七箇日間勤修祕法得効驗云々、灌頂弟子二人、惠運僧都、眞紹僧都、

權律師眞濟

四月廿三日轉正律師、十一月至一長者、年四十八、或云、不二長者今年始初補長者云々、又東大寺別當云々、可勘決之、又云、今年眞雅同別當云々、共實惠替人、

權律師眞紹　禪林寺根本、東大寺、

四月廿三日任權律師、十一月補二長者、年四十一、或五十二、

或云四月廿三日律師、同日補長者云々、于時道雄僧都雖上不補之、

嘉祥元年戊辰

長者律師眞濟　後七日法行之、

權律師眞紹　六月廿六日（八イ）轉正律師、

同二年

長者律師眞濟

律師眞紹　後七日法行之、

同三年　四年四月廿八日改元、

三月十九日仁明天皇退位落餝、廿一（四イ）日崩、年四十一、號深草帝、

今日文德天皇受禪、年廿四、道康、

長者律師眞濟　後七日法行之、

律師眞紹

文德天皇 仁壽元年辛未

太元法可准眞言院法之旨宣下、正月八日常曉始行之、三月二日大原野祭始、

長者律師眞濟　後七日法行之、

七月十七日任權少僧都、年五十二、僧綱補任少僧都云云、無權字、國史云、文德天皇尊重補之云々、

律師眞紹

同二年

長者少僧都眞濟後七日法行之、

律師眞紹

同三年四年十一月廿九卅イ日改元、

長者少僧都眞濟

十九イ月廿九日任權大僧都、權大僧都初也、元日大僧都許也、

後七日法行之、同日眞雅律師轉僧都、

律師眞紹

齊衡元年甲戌

長者權大僧都眞濟後七日法行之、

律師眞紹

同二年五月日東大寺大佛頭自落在地、

長者權大僧都眞濟後七日法行之、

律師眞紹

同三年四年二月廿一日改元、

三月十四日大佛修理了、以一千三百僧供養、別當齊

棟勤之、

長者權大僧都眞濟後七日法行之、

十廿五僧綱補任月廿七日任僧正、五十七、眞言宗僧正初也、興福寺

長訓僧正卒替、

律師眞紹齊衡年中建立禪林寺云々、

天安元年丁巳

長者僧正眞濟國史云、抗表請以僧正讓先師空海、天皇感激、十月廿七日、贈大僧正、

律師眞紹

同二年三年四月十五日改元、

八月廿七日文德天皇崩、卅二、

長者僧正眞濟

律師眞紹

清和天皇
貞觀元年己卯

十一月七日太政大臣良房攝錄、是初也、始置阿闍梨、

長者僧正眞濟

律師眞紹

同二年

八幡大菩薩移石淸水宮、

長者僧正眞濟二月廿六五日卒、六十一、高雄僧正是也、又號紀僧正、

左京人、紀氏、祖正五位下田長、父巡察彈正六位上御園、大師御弟子也、見國史、天長元年受傳法灌頂、國史云、眞濟少年出家、學大乘道兼通内〇按内字衍歟外傳、從大僧都空海受眞言敎、授兩部大法、爲傳法阿闍梨、于時年廿五、時人奇之、承和三年遣使聘唐、眞濟奉朝命、隨使渡海、途中漂蕩、船舶破裂、眞濟纔駕一筏、隨波而泛々然不知所到、凡在海上廿三日、其同乘者四十餘人、皆悉餓死、所活者眞濟與弟子眞然二人而已、眞濟唯佛是念、自然不餓飢、豈非如來之冥護之所致哉、南嶋人遙望海中、每夜有光、恠而尋之、得著岸、皮膚〔腐〕爛、尸居不動、嶋人憐愍、收而養療、遂得歸朝、國史、承和七年正月六日、爲内供、國史云、眞濟入〔愛〕當護山高尾峯、不出十二年、嵯峨太上天皇憫其苦行、爲内供奉十禪師、同十二月五日補神護寺別當、實惠替、齊衡年中表請、建〔五〕重寶塔於高尾神護寺、造大虛空藏十輪等經、以鎭護國家、國史、置七僧、加度年分三人、春秋二季永設法事、令轉讀虛空藏等經、以鎭護國家也、其遺跡于今不墜、紀家集、又建立實相寺、其地者文德天皇施入之、年記可考之、天安二年八月天皇寢病、眞濟侍看病於冷然院、大漸之夕、時〔論嗷嗷〕、眞濟失志隱居、國史、

律師眞紹

大僧都眞雅 眞觀寺根本東大寺、

眞濟卒後寺務、無官符、或古記云、上代召仰之時有不用官符事云々、十六、執行依官符無、任日不詳、仁海僧正自筆長者補任不入之、但眞濟與宗叡之中間眞雅執行分明也、或云蒙口宣被行之歟、將又押而被行之歟云々、

同三年

長者大僧都眞雅 後七日法行之、

律師眞紹

同四年

高岳親王、眞如、禪林寺宗叡禪念等入唐、七月廿日以嘉祥寺西院可名貞觀寺之由宣下、

長者大僧都眞雅 後七日法行之、

律師眞紹

同五年 十月宗叡入唐、

長者大僧都眞雅 後七日法、

律師眞紹

同六年
長者大僧都眞雅 後七日法、 宗叡歸朝、
二月十六日任僧正、又叙法印大和尚位、依眞雅奏
今度被定僧綱位階也、同日格云、法印大和尚位爲
僧正階、以法眼和尚位爲僧都階、以法橋上人位爲
律師階、同日勅聽乘輦車能出入公門、僧家輦車始
也、
律師眞紹
同日任權少僧都法眼和尚位、同日常曉任權律師、
元興寺任太元根本、七年十二月卅日卒、
同七年
九月五日始置權僧正、九月九日壹演補之、不經律師僧都、
長者僧正眞雅 後七日法、
權少僧都眞紹
同八年
三月丁丑朔、以眞言宗僧任東寺三綱、經階業者任西
寺三綱、永以爲例、七月十二日三イ被下傳敎慈覺兩大師
號、今年神泉雨乞始也、
長者僧正眞雅 後七日法、
律師眞紹

同九年 太元寵壽勤之、
長者僧正眞雅
律師眞紹 權少僧都云々、僧綱補任、
同十年
長者僧正眞雅 後七日法、
律師眞紹
同十一年
長者僧正眞雅 後七日法、
律師眞紹 正月廿七日轉正少僧都、
同十二年
長者僧正眞雅 後七日法、
年滿七十、上表請解僧正、其後抗表再三、優詔遂
不許之、
少僧都眞紹
同十三年 九月廿三日惠運少僧都卒、安祥寺本願東寺入寺、
長者僧正眞雅 後七日法、
少僧都眞紹
同十四年
長者僧正眞雅 後七日法、
三月十四日任法務、東寺法務爲始之、同日興福寺

延壽大威儀任權法務、二人雙例、又爲始、眞雅以前法務五代也、皆南京人也、最初觀勤、（推古天皇廿二年任、）其後鑒眞、行眞、慈訓、護命也、護命卒後、法務中絕卅七年也、而今度任之、記云弘法大師入唐歸朝之後、以不空三藏之例、准俗官被申置、綱所者依解官行事雖被鑄造、綱所官鎰依無其仁所納言也、而今以眞雅令執務賜之云々、

同十五年
長者僧正眞雅（法務、後七日法、）
少僧都眞紹（十一月僧綱補任云々、）
七月七日卒、（年七十九、或七十七、）號禪林寺、根本僧都大師入室、實惠灌頂弟子、承和七年十二月五日補東寺小別當、（在宣旨、）年月日補內供、十年十二月九日爲傳法阿闍梨、（年卅七、臈廿三、實惠僧都學、）同月十三日依宣旨、實惠僧都於東寺授灌頂職位惠運僧都、（仁壽三年任律師、貞觀六年轉僧都、同十一年卒、）壹演僧正貞觀七年一度任僧正、同九年卒、

同十六年
長者僧正眞雅（法務、後七日法、）
二（三イ）月十三日壬午供養貞觀寺、以律師道昌爲導師、以大僧都惠運爲咒願、請宿德僧百八、莊嚴奪眼、舞樂驚聞、公子王孫年少者四十八人時出遞舞、親王公卿百官畢集、京畿士女親者塡堂、事畢後賜導師以下百口之僧度者各一人、（國史、）太上天皇降誕之初、太政大臣忠仁公與眞雅相儀、（讃歎）建立精舍安置尊像、奉爲宸宮修此善云々、

同十七年
六月十五日（丙寅）屈十五僧於神泉苑、修大雲輪請雨經法、十六日申刻黑雲四合、俄而微雨、雷數聲、小選開霽、入夜小雨、卽晴云々、見三代實錄、不注阿闍梨、若眞雅歟、今年東寺僧綱僧正眞雅、權大僧都宗叡（先已）權律師常曉眞然也、
長者僧正眞雅（法務、今年宗叡加任云々、）

同十八年（十九年四月十六日改元、）
四月十一日大極殿燒亡、十一月廿九日讓位、陽成天皇受禪、（九歲、貞明、）同日以淸和天皇爲太上天皇、
長者僧正眞雅（法務、後七日法、）
少僧都宗叡（圓覺寺、）
月日任二長者、（六十八、僧綱補任同、）或本云、元慶三年直一長者、可勘聞之、

陽成天皇
元慶元年丁酉
今年太上天皇遷御清和院、歸佛道深悟苦空、宗叡奉
勅聽學花嚴涅槃大乘經、
長者僧正眞雅法務、後七日法、
少僧都宗叡
同二年
長者僧正眞雅後七日法、
少僧都宗叡
同三年
三月十九日仁明天皇依病落餝、廿一日崩、文德天皇踐作、五月八日清和天皇三十、於圓覺寺落餝法名素眞、入道、戒師宗叡、設灌頂壇、受三摩耶戒、以衣服臥具珍寶車乘、親施宗叡、於是分捨諸寺、一物不入已、三代實錄、
長者僧正眞雅法務、眞雅與延壽法務相雙五箇年、後七日法宗叡行之、
正月三日卒、七十九、寢疾數旬无間(問カ)醫藥、手結智拳仰(印カ)口誦佛號、心地不動、悟然遷化云々、貞觀寺僧正是也、寺務十九年、左京人、佐伯氏、大師舍弟、入室受法灌頂弟子也、延曆廿年誕生、大同四年甫九歲、辭鄕入都、承事兄贈僧正受眞言、年十九、國史、 弘仁十年十九歲受具足戒、承和四年任東寺入寺、年四十、徵侍內裏、於帝御前誦眞言卅七尊梵號、音響清徹、宛如貫珠、聽者莫不絕倒、帝感歎之、任權律師、國史○南溟按任權律師之四字恐衍文、承和十四年任東大寺別當、正進秩滿替、嘉祥元年六月廿八日任權律師、四十八、國史
同九月廿日轉正、同三年自清和 天皇初誕之時未嘗離左右、晝夜侍奉之、國史、 仁壽三年十月廿九日任少僧都、五十三、國史、 齊衡三年 十月十(七イ)八日轉大、五十六、國史、 貞觀元年同日賜年分度者三人、
少僧都宗叡
正月以後寺務、任日可勘決之、十月廿三日任僧正、不經大僧都、宣命云、權少僧都法眼和尙位宗叡波、太上天皇乃幼少仁〔御坐〕○據三代實錄補之、御時與利、護持志奉仕留事毛有利、今亦不怠須奉仕爾依天、故是以殊仁僧正爾任賜云々、○南溟按僧正當作權僧正而本文所々加省略今不敢補之、
同四年
長者僧正宗叡後七日法、十二月四日清和法皇崩、三十一、
同五年
長者僧正宗叡後七日法、

同六年
長者僧正宗叡（後七日法、）
同七年
長者僧正宗叡（後七日法、）（九年二月廿一日改元、）
同八年
二月四日光孝天皇受禪、（五十五、時康、）同日以陽成天皇爲太上天皇、（十六、）
長者僧正宗叡（後七日法、）
三月廿六日卒、（七十イ）號後入唐僧正、又號圓覺寺僧正、水尾法皇灌頂師、寺務五年、左京人、池上氏、年甫十四出家、從內供載鎭、登棲叡山、天長八年受具足戒、就廣岡寺義演法師、稟學法相宗義、數年後歸叡山、廻心向大、（暗三）諳究天台宗、于時叡山主神假託於人告曰、汝之苦行吾將擁護、遠行則雙鳥相從隨、暗夜行火相照、（○南溟按三代實錄此下當有以此可爲徵驗厥後宗叡到越前國白山雙鳥飛隨在於先後夜中有火自然照路之文、）見者奇之後移東寺、就少僧都實惠受金剛界、隨權少僧都眞紹受灌頂位、內藏寮給料物、嘉祥三年淸和太上皇爲儲貳之初、選入侍東宮、貞觀四年隨高丘親王渡海入唐、遇汴洲阿闍梨玄慶（度三）受灌頂、習金剛界法、登五臺山、巡禮聖跡、西臺見五色雲、東臺見聖燈及吉祥鳥、於大花嚴寺供養千僧、卽本朝御願也、至靑瀧（○三作龍、）寺阿闍梨法全、重受灌頂、學胎藏、以金剛杵幷儀軌法門等付屬、更詣造玄智惠輪等阿闍梨、承學祕奧、又入聖善寺善无畏三藏舊院、其門徒以三藏所持金剛杵法門等授之、（已上三代實錄、）貞觀七年十一月十二日却來東寺、（僧正請來目錄、）三代實錄云、八年解覽、三日夜間歸著本朝云々、是實錄之誤歟、十一年正月廿七日權律師、（六十七、）十六年十二月廿九日轉權少僧都、兼東大寺別當、（尻付眞言宗東寺）奉授天皇大毘盧遮那三摩地法觀自在菩薩祕密眞言法等、又奉爲國家造兩界大曼茶羅、安置宮中修法院持念堂柱下、類林有辭法務之表、（任日可勘決之、）
權少僧都眞然（中院大安寺、）
三月以後寺務、（任日可尋決之、）或去年加二長云々、源仁律師同時、東寺別當云々、見僧綱補任、
（光孝天皇）
仁和元年（乙巳）
長者權少僧都眞然（後七日法行之、）
十月廿二日轉正、同日源仁任權少僧都、

同二年

長者少僧都眞然今年源仁僧都加任長者、

同三年

八月廿六日光孝天皇崩、五十八、同日宇多天皇受禪、廿一、定省、

長者少僧都眞然

今年依勅高野山建立一間四面眞言堂一宇、奉安置法身大日一體、四天王像各一體、又建立九丈多寶塔一基、安置八尺大日、五尺四佛金剛界、皆金色、是小松天皇御願也、

權少僧都源仁

件人眞然同時長者也、而任日不詳、但仁和元年加二長者、見附法傳、今年十一月廿二日卒、七十、或云寬平二年十月廿二日卒云々、附法傳又同、同二年十月二日宣命、大僧都第一眞然轉僧正、少僧都第一祥勢補大僧都、若源仁見存祥勢之上薦之、○按有脫誤歟尤可轉大僧都、然者仁和三年入滅實事歟、眞雅受法灌頂弟子、宗叡重受、初入護命僧正室學法相宗、後隨實惠僧都習三密教、更付眞雅宗叡云々、元慶二年十月十七日補內供奉、同七年十月七日任律師、仁和元年十月廿二日任權少僧都、或說今日加二長者云々、寬信法務自筆本同、三密之學行尤高、一朝之歸依殊厚、建立南池院法名成願寺流布眞言教、益信聖寶兩僧正共爲入壇之弟子、仁和醍醐兩門甫分斯人之遺跡、且又號池上僧都、又以南池院號成願寺、

宇多天皇

同四年五年四月廿七日改元、

今年延壽權法務卒、眞雅卒後十一年延壽律師獨法務也、延壽卒後七箇年惣不被補法務、

長者少僧都眞然

四月五日任大僧都、或三月卅日、五月五日任僧綱補任、

權律師益信圓城寺根本東大寺

四月七日イ

三月卅日任權律師補二長者、六十二、三十九、或本寬平三年九月直補一長者云々、

寬平元年己酉

長者大僧都眞然

權律師益信後七日法行之、

同二年

長者大僧都眞然

十月二日任僧正遍照替去正月十九日卒七十六、
十月二日轉正宣命後七日法十二月廿二日轉正、
權律師益信
同三年
長者僧正眞然後七日法、
九月十一日於高野卒、八十四、號後僧正、號中院僧正、寺務七年、讃岐國人、佐伯氏、大師甥、入室御弟子、眞雅僧正灌頂、眞濟受法、貞觀十六年十二月廿九日任律師、十七年三月廿一日以高野付入室門跡狀云、可以金剛峯寺吾入室一門弟子中相承領知事、右吾故大師贈大僧正臨入定之時、命彼此御弟子等宣、此寺雖有建立之志、未及半造、而間我擬入定、實惠禪師受此寺造畢乎如何、答言、隨力及將以勸造云々、大師命宣、禪師者爲國皇之師、德滿天下、私不遑歟、眞如禪師如何、答言隨仰奉仕云々、命宣、在他境意無一住矣、眞雅禪師如何、隨御將進止云々、復已有別心以我願不遂本意歟、眞濟禪師如何、申云、受壇越之語有構企事、雖然將以盡奉仕乎、隨仰廿云々、命宣、已受人契、變改非可叶我願云々、眞紹師如何、占地於洛東之邊、欲建立少道而隨大師仰云々、命宣、此道理也、改非可來我山云々、但眞然師獨在師蹤之念、以此師付屬此山、實惠禪師加德於此師、令建立此云云、仍眞然盡微力、造畢堂舍、以成御願之場、又買備田園爲供佛之資、我一期之後相傳同室一門之中、興隆佛法守護師迹之、同室一門者謂我弟子限而已、元慶三(七イ)年十月十日任權少僧都、貞觀末年興福寺增利僧都相從眞然學眞言敎、眞然之後弟子無空律師高野檢校云々、
律師益信九月以後寺務、六十五、
同四年
長者律師益信後七日法行之、十二月廿九日任權少僧都宣命、
同五年
長者權少僧都益信後七日法、
同六年
長者權少僧都益信
十二月廿九日任東大寺別當、兼法務、眞雅替、同日聖寶律師任權法務、延壽替、東寺兩脱歟人相雙例始也、眞雅僧正去元慶三年入滅之後經十五箇年、此兩人補之、宗叡眞然不補之、

同七年
長者權少僧都益信法務、十月廿六日任權大僧都、
權律師聖寶權法務、醍醐、
十二月廿九日補二長者、六十四、但任日不詳、或宇多
醍醐二代長者云々、後七日法行之云々、
同八年
長者權大僧都益信法務、今年兼任、八幡檢校云々、檢校初也、
權律師聖寶權法務、後七日法、
同九年十年八月十六日改元、（日イ）（廿六イ）
七月三日讓位、醍醐天皇受禪、十三、敦仁、同日以宇多天皇
爲太上天皇、廿九、
長者權大僧都益信法務、後七日法、
權律師聖寶權法務、十二月廿八日任少僧都、六十六、
醍醐天皇
昌泰元年戊午太元命藤勤之、
十月廿四日宇多寬平上皇落飾、卅一、（三イ）金剛覺、戒師益
信、剃髮東大寺叡南法師、十一月於東大寺登壇受
戒、頭註云、長者補任抄以此事係二年可從、
長者權大僧都益信法務、
今年仁和寺被始行布薩、益信爲戒師、觀賢爲維
那、
少僧都聖寶權法務、後七日法、
權律師峯斅後禪林寺、東大寺、
今年月日加任三長者、六十二、三長者初也、或云、寬平
七年十二月廿九日聖寶同日、
同二年
長者權大僧都益信法務、
少僧都聖寶權法務、
權律師峯斅後七日法行之、
同三年四年七月十五日改元、
十月法皇南山御修行、高野詣也、
長者權大僧都益信法務、
三月二日任僧正、七十九、去寬平三年眞然卒、後不被
補僧正、十箇年也、
少僧都聖寶權法務、後七日法、
權律師峯斅
延喜元年辛酉
二月二日齊世親王出家、依天神事、法三御子是也、
長者僧正益信法務、後七日法、
十二月十三日辛卯於東寺灌頂院奉授灌頂於寬平法

皇、色衆八十人、威儀親王公卿侍臣濟々、記錄在別、
少僧都聖寶權法務、
正月十四日轉大僧都、七十四、私記法皇御灌頂記云、
少僧都聖寶云々、可勘決之、
權律師峯斅
同二年
長者僧正益信法務、後七日、
大僧都聖寶權法務、
三月廿三日任權僧正、七十一、東寺正權相雙初例也、
自他宗權僧正第二度例也、元慶三年遍照任後是
也、今年兼東大寺別當、三月廿三日世指凡僧別當
任、
權律師峯斅三月廿三日轉正宣命、
同三年
長者僧正益信法務、
權僧正聖寶權法務、後七日法、
律師峯斅
同四年三月廿六日仁和寺圓堂供養、
長者僧正益信法務、後七日法、
權僧正聖寶權法務、
律師峯斅
月日辭東大寺別當、讓與弟子明寶法師、
同五年
長者僧正益信法務、後七日、
權僧正聖寶權法務、
律師峯斅八月八日轉少僧都、
同六年
長者僧正益信法務、
三月七日卒、八十、號圓城寺僧正、備後國人、品治
氏、石淸水根本口行敎和尚舍弟、初從明詮僧都學
法相宗、後受眞言於宗叡僧正、又隨源仁僧都瀉瓶
祕密、仁和三年正月廿九日爲傳法阿闍梨、源仁峯、年
月日補圓城寺別當、圓城寺者東山椿峯西麓倘侍
桝子山庄也、依師寄壇寄進畢、
權僧正聖寶法務、
三月以後寺務、七十五、法務如元、十月七日轉正僧
正、益信卒之後法務聖寶獨也、
少僧都峯斅後七日法、
律師觀賢般若寺本願、
十月七日加任三長者、五十四、益信卒替云々、

同七年
十月二日法皇御熊野詣、四十一、
長者僧正聖寶權法務、後七日法、
少僧都峯斅
律師觀賢
同八年
五月三日癸酉、法皇四十二、於東寺法三御子、廿二、幷寛蓮、卅五、
會理延儆令授灌頂給云々、
長者僧正聖寶權法務、
七月十九日戊子奏可修祈雨法之由、卽率僧卅二口、
於神泉苑修孔雀經法、第五箇日酉刻、雨快下、廿
六日結願、
少僧都峯斅
四月廿九日卒、七十四、五十二、號禪林寺後僧都、眞紹僧都
入室、眞濟僧正弟子、宗叡僧正灌頂資、年月日補
東寺凡僧別當、寛平七年十二十イ月十四日任權律師、
元法橋、或記云、東寺灌頂院壁梵子峯斅書之云々、不
審、
律師觀賢後七日法、
同九年

長者僧正聖寶權法務、後七日法、
六月日依病辭諸職、七月六日卒、七十八、六十二、於普明寺
卒、醍醐根本門人、號□□尊師、左京人、王氏、父
兵部大丞葛聲王子、田原天皇苗裔、承和十四年隨
眞雅僧正出家得度、廿六、(十八イ) 初屬元興寺圓宗僧都
願曉律師等受學三輪宗、次付東大寺平仁習法相
宗、同寺玄永學花嚴、但雖習諸宗、以三論爲本宗、
貞觀十一年勤維摩竪義等八所、立三乘賢聖義、十
三年隨眞雅僧正授無量壽法、四十、元慶四年隨眞然
僧正受兩部大法、四十九、八年源仁僧都授灌頂職位、
五十三、仁和三年三月九日爲傳法阿闍梨、五十六、源仁僧
都擧狀在官符、寛平二年補貞觀寺座主、五十九、六年
十二月廿三日任權律師、六十七、三イ四十五、同廿九日兼權法
務、益信同日也、年月日補現光寺座主、同九年嬰病之日、
陽城寛平兩上皇同病臨幸、右大臣又臨過、終焉之
日公家遺誦經物、勅使藏人左近將監紀淑人也、僧
正自少至老斗藪爲業、名山靈地久歷經行、昔役行
者開金峯山嶮路、其後絕以不通、而僧正踏顯、于
今傳藏王之威驗、周遊諸寺所造丈六等大像廿餘
體、此外伽藍佛經造寫不知數、就中東大寺中門安

二丈餘二天、卽設大會供養千僧、東寺食堂又造丈六千手、幷一丈四天王、開眼之日太上法皇御幸、又貞觀末年建立上醍醐、弘演顯密二教、南都草創東南院、興隆三論宗、誠是佛法之棟梁、大善根之人也、日藏傳云、夢至兜率天、靜觀觀賢聖寶等共來、執佛子手云、當共入內院禮拜天主、卽相引入內院、莊嚴不可勝計、云々、延喜奉爲法皇被行御賀、僧正其座蒙勸賞、可勘載之、

律師觀賢 七月以後寺務、五十七、 八月廿六日、僧都觀賢於神泉孔雀經法祈雨、限五箇日修之、

同十年

長者律師觀賢 後七日、

三月初行東寺御影供、延喜御記云、四月八日灌佛以律師觀賢爲導師、給白褂右大臣給之云々、六月廿三日任少僧都、五十八、或三月廿五日任云々、

同十一年 太元、舒、隆勤之、

長者少僧都觀賢 後七日、

同十二年

長者少僧都觀賢

十五イ 五月八日兼法務、益信替、歷六箇年補之、同日禪安律師任權法務、一寺二八相雙第二度例也、聖寶替經四箇年、

同十三年

御記云、十二月十九日御佛名、亥一刻法師等參上、而少僧都觀賢依病俄辭導師不參內、仍以景詮法師爲初願導師云々、

長者少僧都觀賢 法務、

同十四年

長者少僧都觀賢 法務、 三イ 三月十三日權法務禪安卒、聖寶替補法務大也、

同十五年

長者少僧都觀賢 法務、 十二月廿五日、大法師會理補凡僧別當、世指卒替、

六イ 五月廿四日 癸丑 於神泉苑請僧廿口修請雨經法、廿八日慰問法師等、兼仰施度者各一人、明日當事、故今夜仰之、只明日結願之後可仰、

同十六年

三月八日、於朱雀院、天皇奉賀法皇五十算、

長者少僧都觀賢 法務、四月六日轉權大僧都、六十四、 五イ 宣命、

同十七年

長者權大僧都觀賢 法務、

同十八年

八月十七日(戊寅)、法皇(五十二)、於嵯峨大覺寺、寛空(卅九)、幷仁元等七八、令授灌頂給、是第二度也、
長者權大僧都觀賢(法務、補東大寺檢校職云々、)
同十九年
長者權大僧都觀賢(法務、)
六月廿八日於神泉苑修請雨經法、限五箇日、九月十七日補醍醐座主、(六十七、)是根本㝡初座主、同十九日補金剛峯寺檢校、峯禪替、(或云、無空律師死替、延喜廿一年卒云々、)此職者以前皆眞然之門跡補之、而今依觀賢奏、永付一長者、
同廿年　(閏六月十七日、玄照大法師補凡僧別當、會理任律師替、)
長者權大僧都觀賢(法務、)
後七日御修法勤之、十四日八省齋會竟、申二刻僧綱法師等參上、論義畢、但眞言宗依御修法未竟內裏有穢不參入、依觸穢無加持香水例也、
同廿一年
長者權大僧都觀賢(法務、)
十月廿七日依觀賢上表賜祖師之謚號、御入定以後八十六年也、觀賢者大師五代之資也、醍醐帝勅、琴絃已絶遺音更淸、蘭菊雖朽、餘芳猶播、故賜大僧正法印大和尚位空海、消疲煩惱拋却驕貪、全三七品(○南溟按扶桑畧記作三十七尊)之修行、斷九十六種之邪見、既而佛日西沒、渡溟海而仰餘輝、法水東流、通陵谷而導淸浪、受密語者多藹山林、習眞趣者自成淵藪、況太上法皇既味其道、追憶其人、誠雖浮天之波濤、何忌積石之源本、宜加崇餝之典謚號弘法大師、
延喜廿一年十月廿七日
外記日記云、延喜廿一年九年廿七日(己卯)天晴、右大臣就左近陣座、是日依權大僧都觀賢申請、授故贈大僧正空海謚號勅書、令賞少納言平惟扶、發遣于紀伊國金剛峯寺、其謚名弘法大師焉、但唯弘仁二年賜遍照僧正勅書、其承和以後日可下請司者是勅語也、史生淺口守行、使部二人依舊例相從、少納言卽辨官奉右大臣宣竝載已了、
同廿二年　(廿三年正月十一日改元、(○南按扶桑畧記閏四月十一日改元))
長者權大僧都觀賢(法務、)
延長元年(癸未)　五月廿九日叡山增命兼法務、(禪安替)、天台宗始例也、禪安卒後觀賢獨法務、
長者權大僧都觀賢(法務、五月卅日(廿三イ)轉大僧都宣命、)
同二年

長者大僧都觀賢法務、

同三年

長者大僧都觀賢法務、已上後七日法行之、增命法務相雙三箇年、

三月廿三日任權僧正、同六月十一日卒、七十三、五十四、般若寺僧正、又號中院僧正、讃岐國伴氏、或云、秦氏、眞雅僧正入室、聖寶僧正灌頂弟子、兼學三論宗、貞觀十四年出家受戒、十九、年月日勸維摩竪義所立嘉祥二諦章、寛平七年十二月十三日爲傳法阿闍梨、即日於東寺受灌頂於聖寶律師、昌泰三年任仁和寺別當、同年補東寺凡僧別當、延喜二年三月廿三日任權律師、見御記、五年八月八日轉正、年月廿四日於神泉苑修祈雨法、廿七日子一刻雨脚滂沱、通宵雨甚不休、廿九日結願也、莫不合賀雨、勅廿口僧從每各給度者一人、年記可考記之、年月補石山座主、

權律師延敒眞言宗、東大寺、

六月十七日被宣下寺務、觀賢卒替、同七月廿四日拜堂、同廿七日補醍醐座主、七十一、八月九日兼法務、或云、同六年任云々、可勘決之、

律師觀宿眞言宗、

八月十日加任、八十二、同廿九日拜堂、依爲上首寺務、去三月廿三日轉正律師、長者以前去 六月十七日補金剛峯寺檢校、觀賢替、

同四年

長者律師觀宿後七日法行之、兼東寺別當、延喜十七年任、十二月天台增命辭、權法務、

權律師延敒法務、

同五年

イ本云、七月五日觀宿率廿口僧、於神泉苑修孔雀經法祈甘雨、七日仰淑光朝臣修法可延二日事、依降雨潤少更可行五穀成就也、十月十九日率廿口僧於承香殿行孔雀經法、依頻有物恠所行、十一（二カ）月廿六日奏延喜式、今年被下智證大師號、

長者律師觀宿

七月八日、於神泉苑始修請雨經、但李部王記不注阿闍梨并結願日、可勘決之、七月廿五日任少僧都、八十四、是勸賞歟、越上﨟三明智證基繼、于時山階寺別當、等也、

權律師延敒法務、後七日法、

同六年

長者少僧都觀宿後七日法、

閏八月廿五日轉大八十五、宣命、十二月十九日卒、大和國人、宗岳氏、眞雅僧正入室弟子、聖寶僧正灌頂資、年月日補貞観寺座主、延喜十七年任東大寺別當十八年本イ二月廿四日任權律師、元内供、十九年十二月七日任東大寺別當、在任四年、延長二年七月一日於神泉苑勸修祈雨法、三日午三點暴雨雷電、及四刻止、七日仰雖降雨潤少、重可祈五穀生熟也、二箇日延行、十一日申刻時々雨降、及中霄止、御記、三年三月廿三日轉正、桂下類林、

權律師延敒法務、

十一月八日任權少僧都、四十七、(六十七イ)越上臈三人、或本、閏八月廿八日任云々、十二月十三日卒、左京人、長統氏、聖寶僧正弟子、兼學三論宗、延喜八年五月三日受阿闍梨職位、禪定法皇授之、十一年維摩講師、五師子如意持之、子細在別、十八年二月廿四日任權律師、六十四、延長二年二月卅日任東大寺別當、在任四年、三年八月十日観宿補長者加上、然者延敒寺務僅六七兩月歟、其間寺務執行不分明、況或本、観宿之後任云云、隨而又古長者次第除之、猶可尋決之、

權律師濟高勸修寺根本別當、眞言宗東大寺、

十二月廿七日任長者、即寺務、七十一、同日任東大寺別當、同卅日補金剛峯寺座主、観宿替、

權律師會理眞言宗東大寺、

同七年己丑　二月八日眞譽大法師(承後弟子)補凡僧、凡僧玄照卒替、

長者權律師濟高後七日法、正月五日拜堂、

權律師會理

同八年　九年四月廿六日改元、

九月廿二日譲位、朱雀天皇受禪、八歳、寛明、同廿九日延喜上皇崩、四十六、

長者權律師濟高

權律師會理後七日法、

九月廿二日於廣隆寺令脩孔雀經法、御藥御祈也、依爲御神事於禁中不修之、彼寺當養者方之故也、請僧廿一口七箇日不斷奉仕、李部重明王記云、延長八年七月十五日主上御惱、自九月廿一日可始行孔雀經法、主上云、發向伊勢幣使不可出七日、齋日在近、不可於禁法事、右少辨公忠奏曰、事已始也、不可停廢、將廣隆寺令奉修、上件寺當養者故也、其法會會理律師爲阿闍梨請僧廿一口、七箇日不斷奉仕、第二日退位、結願次日崩御、

朱雀天皇
承平元年辛卯
七月十九日禪定法皇寬平崩、字多六十五、
長者權律師濟高後七日法、十月廿七日轉正宣命、
權律師會理同日轉正宣命、
同二年
長者律師濟高
律師會理後七日、
太元泰舜、三月七日素運大法師補、凡僧之聖寶弟子貞譽補貞觀寺座主替、
同三年
長者律師濟高後七日、
律師會理
權律師蓮舟眞言宗東寺、
二月廿三日加任三長者、七十三、三人第二度例也、七月十六日卒、左京人、良淵氏、眞雅僧正孫弟子、惠宿內供入室、聖寶灌頂資、泰舜律師之師也、藥師寺別當、貞觀寺座主、年月日補東寺定額、承平元年十月廿七日任權律師宣命、
權律師貞崇眞言院、眞言宗東大寺、十二イ月廿日任三長者(七十)、
同四年
六月初建祇薗社、

長者律師濟高
律師會理
權律師貞崇後七日法、
同五年
長者律師濟高後七日法、十月十三イ二日任少僧都、
律師會理
同日任權少僧都宣命、十二月廿四日卒、八十四、宗叡聖寶兩僧正弟子、禪念律師入壇資、重受、延喜十五年十二月廿五日任東寺凡僧別當、延長六年閏八月廿六日任權律師宣命、木佛繪像共究竟云々、
權律師貞崇十イ十二月十日轉正宣命、
同六年
長者少僧都濟高後七日、
十一イ二月九日貞譽兼任凡僧別當、青蓮卒替、
律師貞崇
同七年
長者少僧都濟高
八年五月廿三イ三日改元、
律師貞崇後七日法、
天慶元年戊戌
平將門初謀反、八月廿七座主尊意補大僧都、同月廿

九兼法務、卽辭退、增命之後經十一年、但無程辭退云々、後同月廿九日山階仁斅律師兼法務、延僘卒後不注法務十年、或云延長六年延僘替如無僧都任云々、

長者少僧都濟高後七日、

律師貞崇

二月十二日補醍醐座主、八月廿十イ七日任權少僧都、超上﨟恩訓仁改□四人、初例也、

同二年

長者少僧都濟高

權少僧都貞崇後七日、

同三年　二月廿三日尊意入滅之後仁斅獨法務云々、

二月十四日平將門爲官軍被討敍、廿五日傳首京師具狀解、廿九日詣闕、藤原秀鄉平貞盛依軍功蒙抽賞云々、十二月貞救補凡僧別當、貞譽任律師替云云、

長者少僧都濟高後七日、十二月十四日轉大僧都、

權少僧都貞崇

同四年　十二月七日貞救補凡僧別當、

純友被誅、

長者大僧都濟高後七日、

權少僧都貞崇

權律師泰舜眞言宗、元興寺、兼東大寺、號小栗栖、

十二月廿八日加任、六十五、超上﨟貞譽、太元法勞濟高辭退替云々、而濟高不注辭狀、太元第四阿闍梨補長者初例也、

同五年

長者大僧都濟高

十一月廿五二イ日卒、九十一、不兼法務、勸修寺根本承俊僧都入室、惠宿受法資、聖寶灌頂弟子、延喜十年八月九日任勸修寺別當、五十九、在官符、延長三五イ年八月廿三日任權律師、勸修寺供養導師賞、經從儀師威儀師大威儀人也、年月日建立高野三昧堂而已、

權少僧都貞崇後七日法、

十一月少後寺務、初書檢校位所人也、十二月十九十イ日補金剛峰寺座主、

權律師泰舜二月九日拜堂、

權律師貞譽

月日加任二長者、寺家無官符、仍任日不詳、泰舜

退爲三長者、

同六年
四月廿日丁卯大法師寛空於禁中勤行孔雀經法、伴僧廿人、今年春呉竹咸實、夏間旱疫、方々有御祈、

長者權少僧都貞崇後七日、
權律師貞譽
權律師泰舜

同七年
長者權少僧都貞崇
七月廿二日卒、七十九、不兼法務、護持僧、藥師寺別當、號眞言院、左京人、三善氏、惠宿內供入室、聖寶灌頂資、延喜二年九月廿二日受灌頂職位、十六日正月六日補內供、御記延長六年六月十七日補東寺入寺、八年二月二日補醍醐座主、在位十四年、承平二年九月十三日任權律師、天慶元年八月廿七日任權少僧都、宣命、律師法橋上人位貞崇波、御卽位興利始天、朕躬乎護持志奉仕留古土有利、亦以至誠天晝夜爾專不怠須救衛爾依天奈利寶位无動久御座須倍支土所念給天奈牟、權少僧都爾任賜云々、超上﨟恩訓仁敎、

權律師貞譽
七月八日卒、七十二、美濃國人、大田氏、延命院承俊僧都入室、受法灌頂資、延長五年八月四日任東寺入寺、七年二月八日任凡僧別當、承平二年三月七日任貞觀寺座主、此日辭凡僧別當去之、承平六年十一月九日復任凡僧別當、天慶三年十二月十四日任律師宣命、同七年六月廿一日補觀修寺檢校、

權律師泰舜後七日、
七月以後獨留寺務、六十八、于時寂末律師也、八月九日補金剛峰寺座主、

同八年　太元泰幽勤之、泰舜讓之、六月一日延鑒法師補凡僧別當、貞敎卒、
長者權律師泰舜
正月十四日夜依煩病不參加持香水、其替臺定巳講奉仕之、見貞信公御記、非長者勤之初例也、十二月卅日廿九イ轉正宣命、

同九年　十年四月廿四日改元、二イ六イ
四月十三日讓位、村上天皇受禪、廿一、成明、同日以朱雀天皇爲太上天皇、

長者律師泰舜後七日、

村上天皇

天曆元年丁未

長者律師泰舜後七日、

權律師壹定眞言宗東寺、三論宗東大寺、

任日不詳、今年卒人也、任而無程卒歟、七十五、聖寶入室、觀賢灌頂資、元果定助等師、廣澤御房受法之師、三論兼學、延長元年二イ十二月廿四日任東寺入寺、天慶元五イ年維摩講師、同七年七月三日補醍醐座主貞崇替、同八年十二月卅廿九日イ日任律師宣命、

同二年

長者律師泰舜後七日、太元圓照勤之、泰舜弟子、

權律師寬空香隆寺、蓮臺寺、眞言宗、東大寺、

十二月四日加任、六十八、同廿九日拜堂、

六月廿二日仁斅法務卒、號嵯峨僧都、定照師匠也、尊意卒後、仁斅獨法務十箇年、

同三年

九月廿九日陽成崩、八十一、

長者律師泰舜

十二月三日卒、七十三、號小栗栖律師、左京人、藤原氏、小栗栖命藤內供、太元第四阿闍梨、命藤者寵壽弟子寵壽入室、蓮舟律師受法者常曉弟子也灌頂弟子、延喜廿一年正月廿一日補東寺入寺、承平元年四月二日補法琳寺別當、延長九年爲太元阿闍梨、天慶三年將門逆亂之時爲太元阿闍梨、行與立劍輪法、彼法有六印、結其印之時、獨古半折而去、此日二月十四日、將門爲官軍被討畢、此時天台尊意和尙獨古同折去、被行不動法云々、同年十二月十四日任權律師、勞在宣命、去二月太元

權律師寬空後七日法、十二月以後寺務、同廿六日任權少僧都、天台延昌月日任、

同四年

長者權少僧都寬空後七日法行之、三月十一日補金剛峯寺座主、

三月十一日圓明大法師補凡僧、凡僧延鑒任之替、

權律師延鑒眞言宗東大寺、三月十一日加任、六十四、同廿七日拜堂、

同五年

長者權少僧都寬空後七日、

權律師延鑒九月十六日灌頂行之、

同六年

同七年

同八年

五月九日遍覺大法師補凡僧別當、十二月一日寬救大法師依勅補凡僧別當、

長者權少僧都寬空三月十九日轉正、九月十六日灌頂行之、

權律師延鑒後七日法行之、同日轉正宣命、

同九年

長者少僧都寛空

律師延鑒後七日法行之、月日任元興寺別當、在位三年、

同十年

長者少僧都寛空後七日、十一年十月廿七日改元、十二月廿九日天台延昌大僧都任權法務、仁敎卒後經七箇年、

十二月廿九日兼法務、去延長六年延僘僧都卒後不補東寺法務廿八箇年也、寛空以後者不絶、

律師延鑒

天德元年丁巳

長者少僧都寛空後七日法務、

律師延鑒

同二年

長者少僧都寛空正月十七日轉大宣命、

律師延鑒同日任權少僧都、(十二月廿七日任イ)、

同三年　月日五壇法始行之、

長者大僧都寛空

權少僧都延鑒後七日、

同四年　五年二月十六日改元、

三月十八日丁巳始自今日於索光寺以千擧法師修孔雀經法、限七日、春秋二季可修之云々、九月廿三日庚申、內裏燒亡、遷都以後經百六十七年、

長者大僧都寛空後七日法務、

自五月八日依炎旱於仁壽殿修孔雀經法、結願御加持之時降雨、八月九日任權僧正、八十同十三日辛亥於同殿修同法、爲息災也、十月十四日庚寅於眞言院修孔雀經法、伴僧廿口限七日爲息災也、

權少僧都延鑒

應和元年辛酉

閏三月十七日庚辰自今夜於東對寛空修孔雀經法、伴僧廿口、

長者權僧正寛空後七日法務、

月日修祈雨法、修中雨不降、結願之日奏卷數之時、殿上稱無靈驗之由、早不執奏、僧正聞此由着法服、捧香呂參內、立庭中深觀念、香煙高昇、大雨卽降、但雨禁闕不落垺外、時人奇之、但年記不分明、可勘決之、

權少僧都延鑒十二月廿八日轉正、

同二年

長者權僧正寛空後七日法務、

少僧都延鑒

同三年　四年七月廿七日改之、(廿六イ・十イ)

長者權僧正寛空後七日法務、

三月廿三日於仁壽殿修孔雀經法、卅日結願、綵伴僧參上、御加持訖、施賜御於阿闍梨始例也、六月廿二日於同殿修同法、伴僧廿口、爲息災也、廿八日結願、綵伴僧參上、加持訖令右近少將賜御於阿闍梨、兼令修僧各度者一人、

少僧都延鑒

康保元年甲子 正月天台延昌法務卒、十一月廿一日淨藏入滅、七十四、

長者權僧正寛空後七日法務、

七月廿日轉正、去正月天台座主延昌卒替、

少僧都延鑒同日轉任權大僧都、

同二年 十二月天台四十算御賀、

長者僧正寛空法務、

三月十六日自今夜於仁壽殿綵伴僧廿口、修孔雀經法、限七箇日、爲息災也、

權大僧都延鑒後七日、

三月廿七日卒、七十五、左京人、秦氏、蓮丹律師弟子、本住元興寺、後住貞觀寺云々、承平元年五月九日任東寺入寺、天慶八年六月一日任凡僧別當、天暦三年十二月廿六日任權律師、

律師救世眞言宗、住嘉祥寺、十二月廿八日加任、七十六、延鑒替、

同三年

長者僧正寛空後七日法務、五月九日、依勅定照大法師補凡僧別當、寛救死替、十一月、依勅授灌頂於元果內供、

律師救世

二月十一日拜堂、（或本十月一日拜堂云々）、十二月廿七（六イ）日任權少僧都、

同四年 五年八月十三日改元、

正月廿五日仁遍大法師補凡僧別當、定照任律師替、

五月二日於仁壽殿令律師寛靜修孔雀經法、限七箇日、伴僧廿口、依物恠地震也、五月廿五日村上帝崩、四十二、同日冷泉天皇受禪、十八、憲平、

長者僧正寛空法務、後七日法行之、

三月十六日、自今夜、於仁壽殿綵伴僧廿口修孔雀經法、限七箇日、爲息災也、凡修此法八箇度、是修床也、

權少僧都救世

權律師定照（十イ）一乘院、眞言宗東寺、

正月廿五日加任、五十六、超上﨟寛靜、第三度例、十一月十九日拜堂、

冷泉天皇
安和元年戊辰
長者僧正寛空後七日法行之、法務、
權少僧都救世三月十一日轉正、十月十五日灌頂行之、
權律師定照同日轉正、三年三月廿五日改元、
同二年
八月十三日冷泉天皇退位、廿、同日圓融天皇受禪、廿一、守平、
長者僧正寛空法務、
少僧都救世後七日法行之、九月十五日灌頂行之、
律師定照
權少僧都寛忠池上眞言宗大安寺、
閏五月十日加任三長者、六十三、長者四人初例也、八
月十一日拜堂、去三月十一日任權少僧都辨法務、
但此日不被載法務、然者法務誤説歟、
圓融天皇
天祿元年庚午
長者僧正寛空法務、
少僧都救世後七日法行之、
權少僧都寛忠
律師定照十二月三日兼任、山階寺別當安秀僧都辭退替、

同二年五月十一日天台良源兼法務、延昌卒後經八箇年、或非法務、イ又天祿三五十一任云々、
長者僧正寛空法務、
月日辭諸職、八十八、號香隆寺僧正、又號蓮臺僧正、左
京人、文屋氏小野僧正、記云、河內國人、圓行幷神日律
師入室、法皇灌頂御弟子、觀賢受法灌頂弟子、或
記云、法皇附屬圓堂院南御室云々、延長八年四月
九日任東寺入寺、天慶三年九月卅日補內供奉、八
年十二月卅日任權律師六十五、宣命、天祿三年二月六
日卒、八十九、
少僧都救世
寛空辭退以後寺務、五月十一日補金剛峯寺座主、
權少僧都寛忠後七日法行之、
十月廿一日灌頂行之、月日兼法務、寛空辭替、此
義正説歟、雙天台良源、或説安和元年三月十一日
任權律師同日兼法務云々、可勘決之、誤説歟、
律師定照山階寺別當蒙探題宣旨、
權少僧都寛靜號西訓寺、東寺眞言宗、元東大寺、
十一月廿八日加任二長者、七十一、寛空辭退替、而四
人第二度例也、天祿天延之間以寛空僧正替補法
務云々、誤説歟、可勘決之、天祿二年五月十一日

天台座主良源兼法務云々、權歟、

同三年　四年十二月廿日改元、閏二月廿三日元杲大法師補凡僧別當、

長者少僧都救世

權少僧都寛靜五月廿七日拜堂、

權少僧都寛忠法務、後七日法行之、十月廿一日灌頂行之、

律師定照山階寺別當、

天延元年癸酉

長者少僧都救世

月日卒、八十四、六十、左京人、源氏、元天台相應和尚弟子、後移興福寺、付晴祐、入寺弟子、寛空僧正受法灌頂、應和元年十二月廿八日任權律師、宣命、同三年七月六日可勤修請雨經法之由、先仰權僧正寛空、申有所煩之由、令問可修阿闍梨、令申慥傳受寛靜之由、仰寛靜之處、又令申障之由、仍請權律師救世、九日於神泉苑始、十六日申刻雨降、入夜風起雨澍、十七日結願、

八月廿九日救世及伴僧各給度者、御記、又凡僧之間、度々修祈雨法得驗云々、康保元年七月廿日轉正律師、任日、宣命、

權少僧都寛靜後七日法行之、

救世卒後、寺務記云、長者任日雖爲下﨟、依爲門徒上首、寛忠定照等仰崇之、令寺務執行云々、

權少僧都寛忠法務、十月廿一日灌頂行之、

律師定照山階寺別當、十二月八イ廿二日十四イ任權少、

權律師千攀十二月廿八日七イ加任、六十三、救世卒替、長者四人第三度例也、東寺眞言素光寺、四月九日仁遍大法師複任、凡僧別當元杲辭退替、

同二年

長者權少僧都寛靜後七日法行之、

二月十九日補高野座主、五月十日轉權大僧都、

權少僧都寛忠法務、閏十月廿三日灌頂行之、十二月廿六日二イ轉正、

權少僧都定照山階寺別當、

權律師千攀六月廿七日拜堂、

同三年　四年七月十三日改元、太元法謇好內供勤之、泰舜弟子、六月十五日感神院祭始、

長者權大僧都寛靜後七日法行之、十月廿四日灌頂行之、

三月十九日補金剛峯寺座主、五月十一日補法務

僧綱、補、云々、猶可勘決之、

少僧都寛忠法務、

權少僧都定照

權律師千攀

貞元々年丙子

五月十一日内裏燒亡、天德以後歷十七年、

長者權大僧都寬靜

少僧都寬忠法務、後七日法行之、十二月十日灌頂行之、

權少僧都定照

權律師千攀

同二年 三年十二イ四月十一イ十五日廿九イ改元、

長者權大僧都寬靜

十月五日廿五イ任僧正、七十七、同日兼法務、イ天台座主良源同日任權僧正、或本寬靜今年卒云々、誤說歟、

少僧都寬忠法務、

四月二日廿一イ卒、七十二、號池上僧都、池上者仁和寺也、寬平法皇孫、兵部卿敦固親王息、法皇入室、淳祐内供受法灌頂弟子、寬空重受、天德四年補内供、康保五年三月十一日任律師、親王息任僧綱初例也、宣命、傳燈大法師寬忠者、東宮之時與利始天、朕躬於護持世利、今毛以至誠天憶念、仍天殊律師法橋上人位爾任賜云々、安和二年三月十一日任權少僧都并法務、但此日宣命不被載、法務僧都行業淸高靈驗殊勝之人也、修千日護摩之日護法置香之火、又度々修孔雀經法、每度施靈驗、就中彗星變恠行切其光之由、普在人之口云々、

權少僧都定照山階寺別當、六月十六日轉正、十二月十三日灌頂行之、

權律師千攀十月五日廿六イ任權少僧都、六イ

權少僧都寬朝法務、廣澤、號遍照寺、東大寺眞言宗、

十一月廿七日廿八イ加任、六十二、寬忠卒替、同日兼任西寺別當、去六月十六日廿イ任權律師、十月五日任權少僧都、同廿日一イ兼法務、雙天台良源、十二月十四日拜堂、廿四日補東寺別當、

天元々年戊寅

長者僧正寬靜

少僧都定照一乘院、後七日法行之、山階寺別當、

權少僧都千攀

權少僧都寬朝法務、

同二年

長者僧正寬靜

十月十一日卒、七十九、此人兼法務云々、誤說也、號西寺僧正、左京人、文屋氏、法皇御弟子、寬空受法灌頂弟子、同舍弟也、或云、嵯峨天皇六代、源氏大納

言定流孫、肥後守 浮子也云々、天暦九年十二月
九日(廿九イ)任東寺入寺、康保元年七月廿日任權律師、
供、(元圓)二年權少僧都、
少僧都定照 後七日法行之、
二月九日補金剛峯寺座主、十月以後寺務、十二月
廿一日(五イ)轉大、或本、今年兼法務云々、誤說也、
權少僧都千攀
十一月六日灌頂行之、十二月廿一日轉正、寛朝轉
大、後退爲三長者、
權少僧都寛朝 法務、
十二月廿一日轉權大僧都、超千攀壽禪等上四人、
同三年
十一月廿三日內裏燒亡、
長者大僧都定照 山階寺別當、後七日法行之、
權大僧都寛朝 法務、
少僧都千攀
正月四日卒、(七十一) 素光寺本願冷泉院護持僧、天德
四年申置二季孔雀經法於素光寺、于今勤仕之、遍
勝內供受法灌頂弟子、遍勝者圓僖法師弟子、圓僖
者簽信僧正弟子也、天德二年五月十八日補東寺
入寺、安和二年五月(三イ)廿八日(十イ)任權律師、護持勞、或云、有
忿怨事、籠居之間、現身天狗道相狂、云々、
同四年
長者大僧都定照 山階寺別當、後七日法行之、八月十六日天台良源兼法務、卽辭退、又輦車、宣云々、イ說也、
八月十四日辭諸職、號一乘院僧都、嵯峨僧都、云
云、又爲大覺寺別當、故云大覺寺僧都、寛平法皇
所頂付東寺也、而僧都傳領南京門跡知行之、左京
人、藤原氏、仁斅僧都入室、寛空受法灌頂弟子、兼
學法相宗、天慶四年勤維摩竪義、同九年正月廿二
日任東寺入寺、應和二年維摩講師、康保三年五月
九日補凡僧別當、同十二月廿六日任權律師、講師
勞宣命、法花驗記云、大威儀師壽蓮、年來誹謗僧
都、而任法務始政之日、賜彼盃酌、捧手絕入、卽以
逝去畢、衆人云罵詈淨聖罪報如斯云々、但此人不
經法務歟、如何、辭東寺長者興福寺別當等狀僞、

謹辭

興福寺東寺金剛峯寺別當職事、

右定照從若年之〇按有脫字誦法花一乘幷修念佛三昧、
先年蒙往生極樂之記、而近曾夢中見可墮惡趣之
由、定知依件等寺務所示現也、如往年告爲往生極

樂、謹辭如件、

天元四年八月十四日　　大僧都定照

件辭狀自筆在興福寺一乘院云々、永観元年三月廿一日卒、（七十八、）僧都長子顯密二道、又專與法利生、東寺爲長者、南都是物官也、三時修念佛、一生誦法花、一乘院庭前有一株木、其樹久成枯木、僧都誦大佛、以咒一遍加持則生花葉、其木于今扶疏、又乘船上洛到于淀河、逆風漂船、爰天童十人出現、荷船着岸、見者流涙、僧都云、十羅刹救吾云云、又不動明王現形擁護、臨修之時、右手時（持カ）五鈷、左手持一乘經、初結密印、次誦法花、至于藥王品、於此命終、即往安樂世界、乃至恒阿沙等、諸佛如來之文、兩三反誦之後、告弟子云、白骨猶誦法花經、須度一切、言畢手結定即（印カ）、乍居入滅、塚内有誦法花經聲、又鈴聲聞之云々、

權大僧都寛朝（法務、）

八月卅日（十六イ）任僧都（正）、即寺務、六十六、（七イ）此日天台良源任大僧正、同時禪任權僧正、

同五年（六年四月十五日改元、）

十一月七日内裏燒亡、

長者僧正寛朝（法務、遍照寺、十月十五日灌頂行之、後七日、）

永観元年（癸未）

長者僧正寛朝（法務、）

三月廿二日圓融院供養導師賞、賜封百戸、件寺地元僧正住室也、件封戸申宛遍照寺理趣三昧料、

權少僧都元杲（後七日十月廿七日拜堂、正月十六日加任、（七イ）十月廿三日灌頂行之イ、）

同二年（三年四月廿四日改元、八月廿六日雅慶法師凡僧別當長救不治替、）

八月廿七日圓融天皇退位、（廿六、）同日花山天皇受禪、（十七、師貞、）

長者僧正寛朝（法務、月日任東大寺別當、十月十八日灌頂行之、）

權少僧都元杲（後七日法行之、）

六月廿二日兼權法務、依寛朝奏、寛靜寛忠例也、天台良源替、經六箇月補之、良源者寛和元年正月卒、然者今年任不審、辭退歟、八月八日轉權大僧都、但任日相違、又祈雨賞云々、

寛和元年（乙酉）

正月三日良源大僧正卒、（七十二、）若永観二年卒歟、可尋決之、或云、永観二不辭法務者、同時三人例也云々、

八月廿九日圓融上皇落餝、（廿七、）同九月十九日自堀

河院移任圓融院、
長者僧正寛朝法務、
月日辭東大寺別當、讓于雅慶律師、閏八月十日被
聽昇殿、餘慶大僧都同、
權大僧都元杲法務、後七日法行之、
六月廿八日、於神泉苑修請雨經法、二箇日延行、
七月五日午後大雨、有法驗、七日結願、給度者、又
可被補僧正、而固申改、以先師內供元方贈大僧
都、十月廿九日灌頂行之、廿二イ
同二年三年四月五日改元、
三月圓融院於東大寺御受戒、六月廿二日夜花山天
皇退位、十九、出家、廿三日一條天皇受禪、七歲、懷仁、
長者僧正寛朝法務、
三月法皇御受戒爲和尙、十二月廿五日轉大僧正、
七十一、去年良源卒替、東寺大僧正初例也、凡大僧正
第三度也、以前二度、行基菩薩良源也、
權大僧都元杲後七日法行之、法務、
法皇御受戒爲羯摩師、十一月一日灌頂行之、前大
僧都云々、僧綱補任、十二月廿五日止職讓元方云
云、
一條院
永延元年丁亥二月十五日熈楪大法師補凡僧別當、雅慶(卒替脫歟)
長者大僧正寛朝法務、
權大僧都元杲後七日法行之、十二月十六日灌頂行之、
同二年三年八月八日改元、
十月廿九日圓融法皇於東大寺御受戒、
長者大僧正寛朝法務、十月十六日灌頂行之、
權大僧都元杲法務、後七日法行之、
二月七日辭諸職、號延命院掃部頭、藤原眞敏孫、雅
樂助晨省子、異本文時三位子云々、初隨臺定律師
明珍僧都等學三論、次受金剛界於本師元方、受胎
藏於臺定律師、後屬內供淳祐窮眞言奥旨、傳云、
勤維摩竪義聽衆、聽衆者天慶八年歟、年卅二云々、但依無世
諦之刀、不遂大乘會竪義、永絕學堂之交、偏守眞
言之道、康保元年十二月九日爲傳法阿闍梨、年五十四、
臈卅五、寛空學在官符、二年十一月十五日隨寛空僧正受具與
灌頂、師主淳祐好隱居之上依勅也、安和元年三月
十一日補內供、五十八、其後爲東宮護持僧、不出宮中、
天祿三年閏二月廿三日任凡僧別當、六十二、今年依炎

旱、於神泉苑修請雨經法七箇日、雨降、天下驚感勸賞、天元四年十一月廿八日任權律師、七十一、同五年七月十八日、於神泉修請雨經法、第五日甘雨、廿七日結願日任權少僧都、七十二、寛和元年六月、於神泉苑修請雨經法、七月五日午後大雨、水潦洽溢、御修法今日結願、而依膏澤未降、延二箇日、今以如此、法之有驗此時而知、七日遣右近少將信輔於神泉苑、御修法僧等依有感應、各給杖取一人、宣孝記、以此祈雨、以先師內供元方贈大僧都、永延二年辭所職、永籠居醍醐山、更無他念、轉讀法花、以之爲日所作、奉念彌陀、以之爲夜勤、入滅之後、弟子之中、若適有慶欲拜賀、當向西方拜極樂、始覺旨、金界之智生人也、長德元年二月廿七日卒、八十五、或云、遷化日與奝然記相違、

律師雅慶勸修寺、東大寺、眞言宗、六月十四日加任、但永延三加任、六十五、云々、

永祚元年己丑二年十一月七日改元、依去年八月十三日大風、

正月十一日、朝覲行幸圓融院、五月廿八日山階眞喜大僧都權法務、元杲替、

長者大僧正寛朝法務、

十一月九日圓融法皇奉授灌頂、於東寺灌頂院也、或云、三月九日庚寅色衆八十三人如寛平僧綱、、、十一月廿九日灌頂行之、十二月二日傳法灌頂、受者濟信、廿六、

律師雅慶

十二月十日拜堂、同廿七日任權少僧都、同日兼法務、三人數爲僧九人初例也、

正曆元年庚寅大元法妙鑒勤之、

長者大僧正寛朝法務、

權少僧都雅慶後七日法行之、

同二年太元法賀仲勤之、

二月十二日圓融法皇崩、三十三、

長者大僧正寛朝法務、

權少僧都雅慶後七日法行之、

同三年

長者大僧正寛朝法務、

權少僧都雅慶後七日法行、

同四年今年智證門人永離山、

長者大僧正寛朝法務、九月廿七日灌頂行之、

權少僧都雅慶後七日法行之、

同五年六年二月廿二日改元、
七月十六日雷火燒失高野大塔、幷大堂僧房等、所殘
御影堂也、
長者大僧正寛朝法務、
八月申置阿闍梨八口、東寺阿闍梨初也、
權少僧都雅慶九月十六日灌頂行之、後七日法行之、
長德元年乙未
長者大僧正寛朝法務、太元法賀仲御修中卒、其替仁、宣下、十一月一日清壽大法師凡僧濫樣卒替、十二月廿二日拜堂、
十二月廿四日牛車宣下、但輦車云々、可尋決、大
僧正寛朝、天台正僧正眞喜、山階寺權僧正還賀相
並初例也、
權少僧都雅慶後七日法行之、九月十六日灌頂行之、
同二年
長者大僧正寛朝法務、太元泉樹勤之、
權少僧都雅慶後七日行之、九月廿八日灌頂行之、
同三年
長者大僧正寛朝法務、
權少僧都雅慶後七日法行之、九月十六日灌頂行之、
同四年五年正月十三日改元、二月廿六日安救大法師補凡僧別當、清壽任律師替、
長者大僧正寛朝法務、

正月廿二日壬午、仁和寺中圓敎寺供養行幸、別當賞
以弟子滿壽任權律師、元東寺入寺、六月十二日
卒、八十四、號廣澤大僧正、又號遍照寺、法皇入室、寛
空受法灌頂弟子、壹定律師受法、圓融法皇灌頂之
師、一品式部卿敦實親王二男、延長四年生年十一、入寛
平法皇室出家、天曆二年三十三、付寛空僧正傳法灌頂
職位、康保四年補仁和寺別當、天延元年任東大寺
別當、貞元二年六月十六日任權律師、十月五日任
權少僧都、廿一日兼法務、寛忠替、
權少僧都雅慶後七日法行之、
六月以後寺務、七十四、八月廿六日兼法務寛朝替、九
月十九日補金剛峯寺座主、十月卅日灌頂行之、
律師濟信眞言院眞言宗東大寺、
十二月廿一日加任、四十五、同廿九日任權少僧都、今
年仁和寺別當三僧如元、
長保元年己亥
六月十四日內裏燒亡、經十八年、
長者權少僧都雅慶法務、後七日法行之、
八月九日任東大寺別當、在位六年、同廿九轉大ィ、去年
十二月廿六日深覺律師任東大寺別當、

權少僧都濟信十月十日灌頂行之、

同二年

二月七日僧正眞喜卒、三十九、永祚元年五月補法務、至今年經十箇年、四月五日觀修補法務、十一月廿五日戌刻東比寶藏燒失、南北二宇北寶藏南北五間東西三間南寶藏各四方三間、

長者權少僧都雅慶法務、後七日法行之、

八月廿九日轉權大僧都、天台勝算同日任、十月十三日灌頂行之、

權少僧都濟信

同三年七月一日觀修辭法務、

十一月十八日內裏燒亡、閏十二月廿二日東三條院崩、

長者權大僧都雅慶法務、後七日法行之、

權少僧都濟信

七月廿九日兼法務、山階眞喜辭退替、今年辭仁和寺別當、或本云、長保二年四月五日蘭城寺觀修任法務、今年七月辭退云々、讓與覺緣律師、九月十六日灌頂行之、

同四年

長者權大僧都雅慶法務、後七日法行之、

七月廿六日任僧正、七十八、明豪轉大替、十月十六日灌頂行、

權少僧都濟信法務、同日轉大、四十九、

同五年六年七月廿日改元、

長者僧正雅慶法務、後七日、

權大僧都濟信法務、

權少僧都深覺禪林寺、

八月七日加任、四十九、九月十三日此人加任之時少僧都歟、然者權字不可有之、十月十五日灌頂行之、

東大寺別當帙滿、凡僧別當仁海、

寛弘元年甲辰

長者僧正雅慶法務、

三月四日東大寺別當、仁和寺別當、十月廿五日灌頂行之、

權大僧都濟信法務、後七日法行之、

權少僧都深覺

同二年太元法圓勤之、十一月十五日內裏燒亡、

長者僧正雅慶法務、後七日法行之、

權大僧都濟信法務、九月十六日灌頂行之、

權少僧都深覺
同三年
長者僧正雅慶法務、後七日法行之、十月十六日灌頂行之、
權大僧都濟信法務、
權少僧都深覺
同四年
長者僧正雅慶法務、後七日法行之、
權大僧都濟信法務、月日補東大寺別當、
權少僧都深覺
同五年
二月花山法皇崩、四十一、
長者僧正雅慶法務、後七日法行之、十月三日灌頂行之、
權大僧都濟信法務、三月辭東大寺別當、
權少僧都深覺
同六年イ本七年云々
六月十九日被始行禁中寂勝講、或云 先々帝時々被行之、而自今年永爲恒例云々、
長者僧正雅慶法務、
或記云、自正月廿五日於眞言院 修去冬季孔雀經法、同三月廿一日於閑院修春季孔雀經法云々、

私云件季孔雀經法事不知之、
權大僧都濟信法務、十二月十七日灌頂行之、
權少僧都深覺後七日法行之、
同七年
長者僧正雅慶法務、三月廿五日觀音院灌頂被始行、胎藏色衆四十五人、
權大僧都濟信法務、後七日、八月廿一日轉正宣命、
權少僧都深覺十月十三日灌頂行之、
同八年
太元法信源勤之、九年十一月十二イ廿五日改元、
四月廿七日山階定證兼法務、濟信替、
六月十三日讓位、三條院受禪、卅六、七イ居貞、同十九日一條上皇落餝、同廿二日崩、卅二、十月廿四日冷泉院上皇崩、六十二、仍天下諒闇、止大嘗會、
長者僧正雅慶法務、四月廿七日轉大、八十六、十月十日灌頂行之、
大僧都濟信法務、後七日法行之、雅慶濟信法務相雙十一箇年、
四月廿七日辭長者大僧都 權法務五十八、以大僧都辭狀讓與于薗城寺 永圓內供任權律師、永圓者濟信之甥也、兵部 卿致平親 王男也、讓官於他門初例也、濟信法務辭退替、定澄僧都補之、
權少僧都深覺四月廿七日轉權大、五十八、
長和元年壬子三條院

長者大僧正雅慶（法務、後七日、）

十月廿五日卒、（八十七、）號勸修寺、式部卿敦實親王息、寛朝受法弟子、同舍弟也、興福寺遍覺大法師入室、天曆九年四月三日補勸修寺別當、（在官符、）天延三年三月廿五日補東寺入寺、（五十一、）永觀二年八月六日補凡僧別當、寛和二年二月日任權律師、但寛和二年法皇御受戒記云、（衍カ）爲凡僧如何、此後任歟、永延元年三月十一日轉正、

權大僧都深覺

十月以後至同二年正月七日、九月十六日灌頂行之、寺務事不分明、可勘決之、

同二年

長者權大僧都深覺

二月日辭長者、讓與盛算云々、或云、長保五年加任之時不經幾程卽辭云々、仁海自筆記云、長和四年後七日大僧都深覺云々、然者今年辭退僻事歟、

前大僧都濟信

深覺大僧都後七日御修法故障之間、後七日法勤行、前長者無官人勤此役、希代之例也、同十四日任權僧正、還任長者幷法務、（六十、）參加持香水、無官人無先例故也、十月十五日灌頂行之、十二月廿六日轉正、記云眞言院御修法勞云々、可尋決之、

權律師盛算（四月五日加任、八十二、十月廿七日拜堂、淸住寺、）

正月十九日仁海補凡僧別當、二月十九日拜堂、

同三年

長者僧正濟信（法務、山階寺定澄相雙、後七日法行之、十月十四日灌頂深覺行之、）

權律師盛算（十月廿八日任權少僧都、八十三、）

同四年（十一月一日定澄卒、（八十一）、）

十一月十七日內裏燒亡、

長者僧正濟信（法務、後七日深覺行之云々、）

權少僧都盛算

七月卒、（八月五日イ）（八十四、）號淸住寺僧都、爲高雄別當、平宿法師入室、寛朝灌頂弟子、正曆五年八月日爲東寺阿闍梨、長保三年八月十五日任入寺、寛弘七年八月廿一日任權律師、中宮護持僧勞、

同五年

正月廿九日讓位、（六年四月廿二日改元、）後一條天皇受禪、（九歲、敦成、）以三條天皇爲太上天皇、同日以式部卿敦明親王爲皇太子、（廿四、）

長者僧正濟信（法務、後七日法行之、）

後一條院

寛仁元年丁巳（十二月十五日深覺大僧都兼法務、定澄替、）

四月十九日三條上皇落餝、五月九日崩、四十二、八月九日皇太子敦明上表、准太上天皇、賜院號小一條院是也、同日以敦良親王爲皇太子、九歳、朱雀院是也、

長者僧正濟信 法務、後七日法行之、八月十五日灌頂行之、

同二年

正月三日天皇御元服、十一月日長和親王於濟信室御出家、十四、先々御室是也、八月日長算大法師補凡僧別當、仁海補律師替、

長者僧正濟信 法務、後七日法行之、十月十五日灌頂行之、

同三年

長者僧正濟信 法務、後七日法行之、

十月廿日轉大、六十六、天台慶圓辭退替、十一月十七日灌頂行之、十二イ

同四年 五年二月二日改元、

長者大僧正濟信 法務、後七日法行之、

二月廿七日聽牛車、僧牛車初例也、長德元寛朝輦車歟、八月八日賜山城國水田五十町、十一月廿三日灌頂行之、

治安元年 辛酉

長者大僧正濟信 法務、後七日法行之、十二月十日灌頂行之、

同二年 十月仁和寺觀音院供養燒失歟、

長者大僧正濟信 法務、後七日法行之、十一月十六日灌頂、

同三年 四年七月十三日廿五イ改元、十二月廿九日天台院源兼法務、濟信替、雙深覺、院源以後叡山人不任法務、

長者大僧正濟信 法務、後七日法行之、

三月七日於仁和寺觀音院、奉授灌頂於法親王、九十色衆三十五口、嘆德仁海、十月十六日灌頂行之、十二月十五日辭諸職、七十、左大臣源雅信息、寛朝僧正灌頂弟子、雅慶僧正入室、永延三年正月十一日任權律師、朝觀行幸賞云々、雖得入寺解文、未被下官符任權律師畢、正暦五年轉正、長和元年十月廿イ任勸修寺別當、雅慶大僧正讓也、長元二年十二月廿日賜封戸、三年六月十二イ一日入滅、七十七、號仁和寺大僧正、又號眞言院、

僧正深覺 法務、

十二月廿九日轉大、復任長者、六十九、法務者寛仁元年三月十五日任云々、相雙濟信七箇年、

權少僧都仁海 小野、

十二月廿九日任權少僧都、宣命、加二長者、七十、（或六

十九)、兼東大寺別當、
權律師成典圓堂、
同日任三長者、一紙官符也、六十六、春宮護持僧也、
萬壽元年甲子
長者大僧正深覺法務、
權少僧都仁海小野、後七日法行之、
五月廿三日拜堂、七十一、十月十日灌頂行之、十一月廿日觀音院灌頂、大阿闍梨入道無品親王、
權律師成典
同二年
長者大僧正深覺法務、
權少僧都仁海後七日法行之、
權律師成典
同三年
長者大僧正深覺法務、五月十一日輦車宣下、
權少僧都仁海後七日法行之、九月廿七日灌頂行之、
權律師成典
同四年五年七月廿五日改元、十月四日灌頂、
長者大僧正深覺法務、二月廿四日奉祈春宮癒病、
權少僧都仁海後七日法行之、十月四日灌頂行之、

權律師成典三月十日任權少僧都、
權律師延尋
八月十四日加任、三十六、先々長者依上臈之擧、被補之、而今以自解補之、四十未滿長者初例、超尋清朝源等長者四人、第四度例、就佳例被成四人、
長元々年戊辰五月院源法務卒(八十)、
長者大僧正深覺法務、
權少僧都仁海後七日法行之、
十月廿五日灌頂行之、十二月卅日轉正、宣命、幷兼法務、七十六、去五月天台院源死替、
權少僧都成典
權律師延尋三月八日拜堂、
同二年
長者大僧正深覺法務、卅イ
十二月廿日賜封七十五戸、臨時朝恩云々、同日前大僧正濟信同賜封戸、
少僧都仁海法務、後七日法行之、六月廿三日補東大寺別當、
權少僧都成典
權律師延尋
同三年

長者大僧正深覺
少僧都仁海（法務、後七日、）
權少僧都成典
權律師延尋
同四年（閏十月廿一日灌頂、）
長者大僧正深覺（法務、）
十二月廿六日辭大、（七十七、）以辭狀弟子深觀內供宣任權少僧都、記云、法務并東寺之務雖不載辭狀、先先無官人不居此等職、仍被止兩職畢、
少僧都仁海（法務、後七日、）
十二月廿六日任權大僧都、宣命、（七十七、）即寺務深覺替、五月八日依祈雨賞、輦車宣旨、又賜封七十戶、
權少僧都成典（十二月廿六日轉權大僧都、七十四、）
權律師延尋
十二月廿六日任權少僧都、記云、去所職之後、仁海須寺務執行之處、深覺猶可知行之由、再三被訴申、未定之間、自長元五年至六年、延尋執行東寺云々、可尋決之、
同五年
長者權大僧都仁海（法務、後七日、）
五月一日於神泉始行請雨經法、同十五日結願、大降雨、十二月十二日灌頂被行之、
權大僧都成典
權少僧都延尋
同六年（自長元三至今年無凡僧云々、）
長者權大僧都仁海（法務、後七日、）
五月十四日、於神泉修請雨經法、十八日甘雨普潤、十九日赤虵現壇下、廿三日結願、十月十一（八イ）日灌頂、十二月廿二日轉正、敘法印、宣命、去五月祈雨賞、貞觀寺僧正後東寺人敘法印爲初云々、
權大僧都成典
權少僧都延尋
前大僧正深覺
十二月廿二日復任長者并法務、輦車宣下、無官人帶此職初例也、此以來爲流例也、但去年十二月復任云々、
同七年
長者前大僧正深覺（法務、）
法印大僧都仁海（法務、後七日、十月廿二日灌頂、）

權大僧都成典
權少僧都延尋十月十七日公家圓敎寺供養別當賞、以念縁補權律師、
同八年
長者前大僧正深覺法務、
法印大僧都仁海法務、後七日、十月十八日灌頂、
權大僧都成典
權少僧都延尋
同九年十年四月廿五日改元、
四月十七日後一條天皇崩、廿九、此日落餝、同日後朱雀天皇受禪、廿八、敎冝、十二月廿八日光慶大法師補凡僧別當、
長者前大僧正深覺法務、
法印大僧都仁海法務、後七日、
權大僧都成典十二月申加阿闍梨八口於東寺西院畢、第二度也、
權少僧都延尋
後朱雀院
長曆元年丁丑
八月十七日立太子親仁親王、十三、後冷泉院是也、
長者前大僧正深覺法務、
法印大僧都仁海法務、後七日、
權大僧都成典五月廿五日賜封七十五烟、護持僧勞、
權少僧都延尋
同二年
長者前大僧正深覺法務、
法印大僧都仁海法務、後七日、
六月十八日任僧正、八十六、宣命、或云、十四日修請雨經法賞云々、明尊轉大、尋覺卒替、
權大僧都成典六月十八日任權僧正、八十一、宣命、
權少僧都延尋大僧都、六月十八日任權大僧都、四十七、
同三年四年十一月十日改元、太元進恩、
六月廿七日內裏燒亡、經廿五年、
長者前大僧正深覺法務、
僧正仁海法務、後七日、
權僧正成典
權大僧都延尋
長久元年庚辰
九月九日內裏燒亡、京極院也、神鏡燒損云々、
長者前大僧正深覺七十六、法務、十月十五日灌頂、
僧正仁海法務、後七日、
權僧正成典十二月加阿闍梨八口於東寺、
權大僧都延尋

同二年
長者前大僧正深覺法務、七月十四日信覺大法師補凡僧別當、光慶卒替、
僧正仁海法務、
權僧正成典後七日、
權大僧都延尋
同三年
十二月八日內裏燒亡、
長者前大僧正深覺法務、
僧正仁海法務、
權僧正成典
權大僧都延尋後七日、
同四年閏月十八イ五年十一月廿四日改元、十二月廿八日明尊大僧正法務、深覺卒替、三井寺法務始例也、
長者前大僧正深覺法務、後七日、深覺仁海法務相雙十一箇年、
九月十四日卒、八十九、禪林寺僧正是也、九條右大臣師輔第十一息、寬朝僧正灌頂弟子、寬忠僧都入室、天元二年十二月七日任東寺入寺、廿五、十六、正曆三年七月八日任東大寺別當、三十八、在任二年、長德四年十月廿四日任權律師、元內供、同十二月十六日復任東大寺別當、在任一年、長保四年七月廿六日任少僧都、僧正夢

記云、長保年中歟年月日右府七十餘日被惱不食也、此間可來訪御消息再三被示、而有所憚早不參、其間夢相石山僧證念來申云、右府御惱他人不可令平愈、又不可令食、依御加持早復尋常哉云々、爰丹波守經國朝臣爲御使到來、今夜內必可來者、使者相共出京參右府之處、加持僧衆多也、弊僧陳云、今日先可修用食之加持、覺緣律師頗有不善之氣、觀修僧正承諾云々、極以佳也、觀修云、已奉仕如意輪觀音、早以彼咒可令奉加持給者、卽以加持、亥時許初食給、此間感悅不遑鏤陳云々、予時觀修大僧正、深覺少僧都、僧都覺緣、律師、兼學持經者、殿下專一云々、長和五年五月十六日復任東大寺別當、在任五年、第三度、記云、今年夏旱魃殊甚、人患愁炎旱、試臨神泉苑爲致祈念、欲率僧十人、諸人間然更不承引、雖然爲遂本意、六月九日隨身請雨經 孔雀經相向神泉苑、先參閑院申件案內之處、制止尤甚、是招朝弄者、尙不信其誡、寅時遂步行趣神泉、星景未沒之間、且唱大日尊孔雀明王、及大師寶號、日出之後轉讀二部之間、已及午刻雲陰覆首、不中炎氣、爰內府被送迎車、蹔出經食時了、甘閑院池邊燒安息香、祈禱之

間、未刻雷電大雨、內府還悔制止、感激寂深云々、
寛仁元年十二月廿(十イ)五日轉大僧都、兼法務、南京定澄卒替、經二年補之、于時非長者、三年十月廿日任權僧正、濟信轉大、明救轉正同日也、四年十二月卅日轉正、治安三年八月廿三日補東大寺檢校、萬壽三年五月六日、近日大內有御藥事、今夜遣左衛門少尉平高本於石 山任房有喚、七日未刻出寺中、申刻到眞言院、暫休息之後參御前、以如意輪小咒奉加持、七八兩日有減氣、九日已以平愈、十日欲罷出之間、入道大相國命云、明日不宜日也、更不可然者、仍其日口欲罷出之間有召、然而依有所思、令奏已退出之由、而無實之旨風聞者、愁參御前、郎仰云、今一兩日可候者、雖然令奏障之由、內大臣被示併、輦車之慶猶可令奏者、雖不甘心、以藏人右衛門尉平以康令 奏退下畢、輦車事雖子細不見、已勸賞歟、萬壽四年二月廿四日春宮令惱瘧病給、從上東門院被仰可奉加持之由、廿六日寅刻、奉內供朝源、東寺定額、深照、神護寺七禪師義盛、聖禪寺、參凝花舍、(春宮御所、)相共奉讀孔雀經、及日午儲君有命云、爪色頗變、奉置經卷更念大日不動如意輪孔雀明王、并大師一心致誠、爰有命云、爪色復常、心神如例、太有感悅御氣色、酉刻給布施於諸僧、權大夫(師房)給裝束一襲、并綾細長、又召御簾中給沈念珠、(納銀菩、)退出之時、大夫(賴重、)中宮大夫(能信、)權中納言、(長家、)左衛門督(兼隆、)左大辨(定賴、)并殿上侍臣相送者有數、至桂芳坊西、引駿馬一疋、是入道大相國之所給云々、帶刀等引輦車、依令旨也、三月十日朝源任權律師、(僧綱補任六、)大僧正奉祈春宮御瘧病賞云々、

僧正仁海(法務、)
五月八日、於神泉苑修請雨經法、十三日赤虵現壇下、午後雨降、十四日猶雨降、十五日結願賜度者、依召參內被聽輦車、十六日宣下、又賜封戶七十五烟、九月以後寺務、(八十九、)

權僧正成典

權大僧都延尋

權大僧都深觀(十二月廿八日加任、四十二(三イ)、去十日轉權大僧都、長者四人第五度例、座禪寺、)

寛德元年(甲申)

長者僧正仁海(法務、後七日行之、)
但加持香水、年來膝病不能行步、不堪昇殿、二長

者依非進退不參、三長者有病不能參勤、法眼覺源正月十三日可勤仕公請之由宣下、去年十二月廿四日依護持僧勞叙法眼、十四日參仕大極殿、結願座卽仁海自准長者之宣旨奏下之後、取出大師御五古授與覺源、令勤仕此役畢、

權僧正成典

十月廿四日卒、八十七、號圓堂僧正、仁海僧正灌頂弟子、成平大法師入室、正曆五年爲阿闍梨、長德四年十二月九日任東寺入寺、寬仁三年十月廿日任權律師、宣命、咒驗無雙之人也、於仁和寺圓堂行法之間、魔緣拏擢誦理趣經、一切諸魔不能壞之文投擲令退散、又云、參賀茂御社轉孔雀經、至讀下卷牛頭山王之勾後山有牛吼大聲、世間所語、未見記文、長和親王傳云、僧正仁海多年祈念云、大師雖入金剛定、多有分身、願見其人、大師告曰、權僧正成典左足心有黑子、卽我身是也、仁海致仁和寺謁成典、先見其足心、實有里子、仁海下庭禮拜、成典大驚亦下扶之、仁海告其夢云々、

權大僧都延詩

五月六日辭長者幷大僧都、自去年十一月中風故

也、五十三、濟信受法灌頂弟子、參議源扶義〔茂イ〕辨三男、長和二年十月十五日任東寺入寺、廿三、十一月十三日任權律師、元內供、治安二年十

權大僧都深觀

同二年

正月十六日讓位、後冷泉天皇受禪、廿一、親仁、同十八日後朱雀院崩、卅七、三年四月十四〔四イ〕日改元、

長者僧正仁海法務、後七日、

七月十三日於小野住房修請雨經法、老闍〔一ヶイ〕九十之間不神泉日廿二日雨降、廿七日結願、二七十日、

○按有錯簡歟

權大僧都深觀後七日、

後冷泉院

永承元年丙戌

長者僧正仁海法務、後七日、明尊仁海法務相雙三箇年、

正月十四日夜八省俄有穢、不參加持香水、以權大僧都詩請令勤其役、非指眞言師之由、關白後日被難申云々、土御門右府記也、五月十六日卒、九十三、號小野僧正、建立萬茶羅寺、稱兩僧正、宮道帷子、元杲僧都受法灌頂弟子、雅〔眞イ〕信公入室、寬和二年六月

十九日任東寺入寺、卅二、長保二年八月廿九日上傳
法阿闍梨舉狀、四十六、卅五、雅慶僧正解文、長和三年正
月十八日任凡僧別當、寛仁二年六月四日、於神泉
苑修請雨經法、第五日降雨、二箇日延引、自第九
日三日三夜大雨、十三日結願、同八月十四日三イ任
權律師、六十四、祈雨賞、凡祈雨法九ヶ度、降雨、其名聞宗
朝見成尋阿闍梨入唐記、七祖御影書寫被安置寶藏、
年記可尋決之、
權大僧都深觀五月以後寺務、四十六、
同二年 太元法尊覺勤之、
十月五日丙午仁和寺 法親王令授灌頂於內 供長信給、卅四、初度 宮、四十三、御弟子、
長者權大僧都深觀後七日、
同三年
同四年
長者權大僧都深觀後七日、
正月十四日兼法務、四十九、仁海以後經二箇年補之、
同五年
長者權大僧都深觀法務、後七日、
六月十五日辛、五十、號座禪院、花山法皇第四御子、

入室灌頂弟子、深覺灌頂資、治安四年七月廿八日
上傳法阿闍梨奏狀、元內供深覺舉、長元四年十二月廿六
日直任權少僧都、深覺辭職申補之、不經律師云々、長曆元年十二月
廿九日任東大寺別當、卅五、在任十四年、東寺灌頂後朝供養
法、此長者之時始之、
法眼覺源醍醐、
十月廿四日直任長者、五十二、超清尋大僧都、同廿六
日任權少僧都、散位人依不居此職被任之、先長者
宣下後任、正貞例始也、十二月八日拜堂、廿五日
灌頂行之、終日降雨、三摩耶戒臨夜無還儀、直留
灌頂院行夜事、灌頂者六十餘、後朝嘆德、阿闍梨
光圓、凡僧別當賴命、
同六年
長者權少僧都覺源後七日、
同七年 八年正月十一日改元、
長者權少僧都覺源後七日、
天喜元年癸巳
長者權少僧都覺源後七日、
同二年
長者權少僧都覺源後七日、五月廿九日轉權大僧都、五十六、

同三年
八月廿三日夜亥刻、爲雷火東寺塔始燒失、或記云、
佛像幷八幡三所御體奉取出之、安置金堂西庇云々、
凡僧別當賴命、執行慶秀、
長者權大僧都覺源後七日、
六月十六日兼法務、五十七、永承五年深覺卒後經六箇
年補之、其間明尊一人也、八月廿七日補東大寺別
當、
權大僧都長信池房、
八月廿九日加任、四十二、去六月十六日轉權大僧都、
十月十日拜堂、凡僧別當時圓、
同四年
長者權大僧都覺源法務、後七日、
權大僧都長信
同五年六年八月廿九日改元、六月五日授灌頂於覺源阿闍梨、色衆十六口、
長者權大僧都覺源法務、十二月廿九日叙法印、
權大僧都長信後七日、
康平元年戊戌今年覺俊補凡僧別當、太元信算勤之、寺僧與信算不快之間追却了、
二月廿六日內裏燒亡、

長者權大僧都覺源法務、後七日、
權大僧都長信
同二年
長者法印權大僧都覺源法務、後七日、今年十二月辭東大寺別當、
權大僧都長信
同三年太元法眞宗勤之、
長者法印權大僧都覺源法務、後七日、
權大僧都長信
同四年太元法源慶勤之、月日明尊大僧正辭法務、在中十九年、
長者法印權大僧都覺源法務、
權大僧都長信
同五年
長者法印權大僧都覺源法務、後七日、五月十九日任權僧正、六十三、覺圓轉正替、
權大僧都長信
同六年
二月十二日源賴義梟貞任等入京
長者權僧正覺源法務、
權大僧都長信
同七年八年八月二日改元、
長者權僧正覺源法務、後七日、

權大僧都長信

治暦元年乙巳

長者權僧正覺源法務、後七日、明尊辭退之後、覺源獨法務五箇年、

八月十八日卒、六十六、號醍醐宮僧正、又號御在所僧正、花山法皇御子、明觀座主入室、深覺仁海兩僧正灌頂弟子、寛仁二年補醍醐座主、年廿許歟、尤不審、但載座主補任、長元三年十月十一月上傳法阿闍梨擧狀、深覺擧、長久四年十二月廿八日叙法眼、護持僧勞、

權大僧都長信

八月以後寺務、五十二、同九月十六日兼法務、覺源替、獨法務五箇年、十二月卅日叙法印、新鳳暦勞云々、

同二年

長者法印權大僧都長信法務、後七日、

正月十四日任權僧正、五十四、天台長 守辭退替、七月十九日辛未於神泉苑有孔雀經御讀經、請僧廿口、其内長者長信、依天下炎旱也、陰雲已絶、雨脚彌止、猶爲仰經王効驗被延行三箇日、是長信被申延云々、殿上人爲行香參向彼所、

同三年

長者權僧正長信法務、後七日、正月廿六日時圓大法師補凡僧別當、

權大僧都濟延華藏院、

六月廿五日加任、五十六、自今日爲祈雨、於東寺修孔雀經法、伴僧十六口、仍補之、不雨降、十月廿六日拜堂、

同四年

四月十九日後冷泉天皇崩、四十四、同日後三條天皇受禪、卅五、尊仁、五年四月十三（十イ）改元、

長者權僧正長信法務、

權大僧都濟延後七日、

後三條院

延久元年己酉

四月廿八日立太子、十七、白河院是也、九月七日庚午大風、東寺灌頂院顛倒、

長者權僧正長信法務、

權大僧都濟延後七日、

同二年

長者權僧正長信法務、後七日、五月九日轉正、行觀辭退替、八月廿三日山階賴信兼法務、

權大僧都濟延十月廿四日卒、五十九、但異說也、

同三年

長者僧正長信法務、池房、六月廿九日賜封廿五烟、圓宗寺行幸別當賞、

權大僧都濟延後七日、
十月十四日卒、六十、號華藏院、右大辨源經賴息、延
尋僧都入室、受法灌頂弟子、年月日補阿闍梨、觀音院、
年月日任東寺入寺、延喜二年五月廿九日任權律
師、元內供、五年十二月廿八日轉權少僧都、治曆二年
十二月廿九日轉權大僧都、
律師成尊小野、
二月廿日加任、六十三、七月五日イ六月廿九日任權少僧都、臨時
朝恩、
同四年
今年斗升寸法被定之、十二月八日讓位、白川天皇受
禪、廿、貞仁、同日以先帝爲太上天皇、三十九、後三條院是也、
長者僧正長信法務、後七日、長信卒之後山階賴信獨法務、
九月卅日卒、五十九、號池房、延尋入室、御室二品親王
性、灌頂弟子、入道大相國道長息、永承四年月日
補東寺入寺、同五年十二月卅日直任權少僧都、
三十七、元內供、東寺入寺、又有一身阿闍梨宣旨、天喜
二年五月廿九日轉少僧都、
權少僧都成尊十月以後寺務、六十一、

白河院
同五年六年八月廿三日改元、
四月廿八日後三條上皇落餝、師仁和寺法親王、五月
七日崩、四十、
長者權少僧都成尊後七日、勤仕式記寛助云々、
承保元年甲寅
成尊康平八年六月十五日於神修請雨經法、伴僧廿
口、十七日降雨、同十六日弟子範俊同修此法、
長者權少僧都成尊
正月七日卒、六十三、五イ號小野僧都、仁海入室、瀉瓶灌頂
弟子、年月日任東寺阿闍梨、仁海解文、延久元年
五月廿五日護持勞、
權少僧都良深石山、
自正月八日依宣旨准長者、先勤仕後七日御修法、
依爲大嘗會以前、不及宣下、三月廿一日御影供々
養法爲未拜堂勤之、十二月廿七日長者宣下、同日
拜堂灌頂、同日或記云、長者未補之間、別當時圓
法橋幷定額許行御影供、不取出御道具、退出之後御影供
幷東寺口可執行之由宣旨到來石山、仍亥刻參東
寺、闍御道具勤仕阿闍梨、定額纔三人許參會云

云、

同二年　八月一日蝕御祈、御室御法驗、

長者權少僧都良深

勤仕後七日法之處、十四日信覺法印權大僧都任長者寺務之間、懷怨捨御修法道具不顧、後夜加持半還石山住室畢、五十一、

法印權大僧都信覺 勸修寺、

正月十四日加任、六十四、兼法務、長信替、經三年、良深 退出之間、加持香水勤之、同日兼仁和寺別當、二月九日拜堂、超一長者初例也、

權少僧都行禪 三井室、

閏四月十八日加任、五十二、先々御室禁中孔雀經法賞云々、同日任圓乘寺別當、

同三年　四年十一月十七日改元、太元法宣慶勤之、六月廿七日懽信法務頓死、六十八、十二月十九日三井覺圓大僧正兼法務、

長者法印權大僧都信覺 法務、

後七日法行之、於加陽殿加持香水、伴僧交名不載法務如何、十二月十九日任權僧正、

權少僧都行禪

權少僧都良深

東寺長者補任卷第二 自承暦元年至元久二年

承暦元年丁巳　十二月十八日法勝寺供養、

長者權僧正信覺 法務、二月廿六日轉正、去正月天台勝範卒替、

權少僧都行禪

後七日法行之、於六條御所加持香水、

權少僧都良深

八月廿四日卒、五十三、號石山僧都、深覺入室、覺源灌頂弟子、深觀更法、彈正弼延信男、件人親王云々、可尋決、或云花山法皇孫、中務卿昭登親王息、永承元年補阿闍梨、同二年補東寺入寺、康平六年十月廿九日任權律師 卅九、延久三年十二月卅日任權少僧都、

同二年

正月二日午刻石山燒亡、觀音像道炎令飛出給、

長者僧正信覺 法務、

後七日法行之、於清涼殿加持香水、

權少僧都行禪

同三年

五月廿七日中宮御産御祈、義範律師修孔雀經法、伴僧十六口、但不應律師淸、〇南溟按蓋請之誤、仍仰綱所被召之、七月九日中宮賢子、右大臣顯房女關白師實猶子、生皇子、堀河院是也、依立願、誕生之後右府參東寺、被啓白宿願成就之由、立願者塔婆造營事也、

長者僧正信覺法務、

後七日法行之、(胎藏界)、於火内加持香水、

權少僧都行禪

同四年 五年二月十日改元、

十月十五日蝕御祈、御室令修孔雀經法給、依宿願右府著東寺、金堂禮堂塔婆修營事始之、造國顯仲朝臣、燒失以後世〇南按廿歟七箇年也、

長者僧正信覺法務、

後七日法行之、於賀院南殿加持香水、

權少僧都行禪 五月廿四日轉權大僧都、五十七、

永保元年辛酉

長者僧正信覺法務、

後七日法行之、

或記云抑東寺寶藏下有死人穢、延喜七年有此事、不能取出道具等者、凡僧別當時圖此旨奏聞之所、可借用圖宗寺若者入道親王舍利道具之由被仰下、依勅定申請御室御道具勤行之、

權大僧都行禪

後七日法行之、信覺僧正依勤仕中宮御修法也云云、

同二年

七月十一日庚寅於神泉苑以廿口僧被行孔雀經御讀經、長者信覺僧正以下率參、十三日壬辰御讀經延行三箇日、十四日癸巳晡時(申時也、)雲起甘雨遍澍、御祈之驗也、仍差藏人右少辨基綱被感仰靈驗之由、十五日御讀經結願、

長者僧正信覺法務、

後七日法行之、於大内裏南殿、加持香水、依御物忌、從承明門院西脇門參入、從左近陣前、登南殿東御橋、七月廿八日丁未尙依炎旱、爲祈雨、於東寺修孔雀經法、初七日雨不降、七箇日延行、仍申請大師御持經孔雀經於仁和寺宮、奉渡之後大雨普潤、八月七日丙辰晡時雨下八專中、八日又以甘澍、仍差藏人辨伊家、遣東寺壇所、被賀仰、十日又降雨、十

三日結願、八月廿一日蒙輦車宣旨（祈雨賞）、又以弟子嚴覺（廿八、護摩壇）令叙法橋、蒙雨賞例也、

權大僧都行禪

十一月十九日（廿九イ）卒、（五十九、）號三井室僧都、先々御室入室受法灌頂弟子、前中納言藤原兼隆男、長元五年月日、任東寺入寺、寬德元年月日、任東寺阿闍梨、治曆四年三月九日任權律師、（四十五、）二品親王孔雀經法賞、延久三年七月五日任權少僧都、圓宗寺、□□□□灌頂堂供養、同親王檢校賞、

同三年（四年二月七日改元、十一月日、法勝寺九重塔、并藥師堂供養、）

長者僧正信覺（法務、）

後七日法行之、於堀河院加持香水、伴僧交名終不載法務、

權少僧都定賢（醍醐、）

正月十四日加任、同日任權少僧都、（六十、）元法眼東大寺別當云々、十二月廿日拜堂、灌頂同日、

應德元年（甲子）

長者僧正信覺（法務、三井覺圓與信覺、法務相雙九箇年、）

九月十五日卒、（七十四、）號勸修寺 濟信、入室覺源灌頂弟子、私師皇（光）慶阿闍梨入室、太政大臣公季男、長久二年七月七日（十イ）、任凡僧別當、（皇慶替、）延久元年五月廿五日叙法眼（五十九、護持勞、）三年二月廿二日叙法印、任東大寺別當（六十一、）承保元年十二月廿七日任權大僧都、

權少僧都定賢

後七日行之、九月以後寺務、

同二年

長者權少僧都定賢

後七日法行之、去年爲大風顛倒□仍□於大膳職被修之、於三條殿加持香水、

同三年（丙寅）（四年四月七日改元、）

十一月廿六日讓位、第二親王受禪、（八歲、善仁、當日爲皇子、）同日以白河天皇爲太上天皇、（卅四、）

長者權少僧都定賢

後七日法行之、於大膳職被行之、於三條殿加持香水、十月廿日（甲辰）東寺塔供養、（造營以後八箇年、）色衆四十三人、內僧綱四人、（法眼覺意、律師賴尊、經範、義範、）導師賞、寬治六年五月十六日、以弟子勝覺申叙法眼、（經七箇年、）應德三、十一月廿一日、兼法務、信覺替（經三箇年、）雙三井覺圓、

權少僧都賴觀（德大寺、十一月廿一日加任、六十四、）

權少僧都義範同日加任、六十四、賴觀一﨟官符也、同任權少僧都、

堀河院
寛治元年丁卯

二月十九日延命法始行之、七月廿九日戊寅於神泉、爲祈雨、被行孔雀經御讀經、一長者定賢、三長者義範、幷寛意以下廿口請僧也、卅日己卯依不降雨、延行二箇日、八月三日壬午午時俄降雨、滿五箇日、依無甘雨又延行請加僧卅口、四日癸未[甘カ]漢雨云□□□□□□忽起殷雷發聲、然不及降雨、五日甲申參神泉、五十口僧徒、仰天伏地祈請甘雨、午後時々小雨降、不及濕池[地カ]、非無効驗、午六日乙酉及八箇日可有結願、與定賢令申云、明日可有結願者仰依請、七日丙戌降雨、御讀經結願賜度口者、ィ

長者權少僧都定賢法務、後七日法行之、

權少僧都賴觀

權少僧都義範

二月十九日被行三壇長日御修法、如意輪法勤之、延命法印仁源、山、不動法印隆命寺[等カ]、八月十日、義範於神泉苑、被行請雨經法、行事藏人盛房、申刻雨降、仍辭申、重遣問之處、令申云、有法前得之文、是則靈驗也、但猶不能勤修云々、重綸言、早猶可奉修者、領狀了、十三日壬辰雨降、以藏人辨爲隆、被奏院云、請雨法、滿三日令可結願之由、頻言上、有法驗間、豈祈晴天哉者、仰云、可間[問カ]人々令者、左大臣民部卿信經被申云、結願何事有哉、又任先例可有勸賞者、但大背會以前依元仰事、追可有恩賞云々、

同二年

二月廿二日白河上皇高野御幸三十六、

長者權少僧都定賢法務、

後七日法行之、伴僧交名不載法務、

權少僧都賴觀

權少僧都義範

三月五日、依病辭所帶等、閏十月五日卒、號遍知院、從五位下藤原如政子、成尊受法灌頂資、御室重受、永保二年七月十六日、於神泉修請雨經法、範俊奏云、義範者吾弟子也、越吾不可修此法云云、或云仁海入室云々、記云、爲遂拜堂、請定額僧居饗膳座之處、依左官符、當日止之、件官符、與賴觀載一紙、仍彼日不隨身云々、年月日任東寺入

寺、承暦三年正月十四日、任權律師、寛治元年八月十日於神泉修祈雨法、十三日雨降、當第三日結願、勸賞、雖蒙大僧都之兼宣旨、大嘗會以後未被行僧事之間卒去云々、

同三年

正月五日、天皇元服、十一、三月覺圓辭法務讓與 増與法印雙定賢三箇年五月十三日壬午於神泉被行孔雀經御讀經、又遣藏人 說長被掃治靈地、十九日天陰雨灌、小選他(池カ)中大虵出來廻島一匝、次島中弁池上雲出來、未刻大雨雹、廿日暴雨滂沱、神泉御讀經今日滿、七箇日延引、佛法靈驗末代猶如此、未時雷雨尤甚如昨日、經王威力衆人信仰天下隨喜、

長者權少僧都定賢法務、

後七日法行之、於眞言院被修之、於堀河院加持香水、五月廿一日、依炎旱、於東寺修孔雀經法、廿二日終日雨降、廿八日又雨降、今日結願勸賞、六月廿一日轉權大僧都、六十六、七月九日、重於 醍醐住房修同法、十一日雷雨響天、十九日雷鳴殊甚、廿二日結願、今度無勸賞、一季中同人兩度勤仕 故云云、

權少僧都賴觀

權少僧都寛意觀音院、十二月卅日加任、三十六、義範資、

同四年

正月廿六日白河院熊野御幸、

長者權大僧都定賢法務、

權少僧都賴觀

後七日法行之、加持香水於堀河院、

權少僧都寛意

八月十九日院御祈修孔雀經法、伴僧廿口、九月四日結願大炊殿、九月十九日轉拜大僧都、上皇孔雀經法勸賞、依御夢想 超賴觀、十一月廿日拜 堂云云、

同五年

二月十七日、上皇御高野詣、卅九、第二度、

長者權大僧都定賢法務、

後七日法行之、於堀河院加持香水、

權大僧都寛意

三月十四日於大炊殿修孔雀經法、廿八日結願、十月十六日、於鳥羽宰相中將仲實宿所修孔雀經法、每時御幸、伴僧饗膳如例、廿三日結願、十一月六

日依所勞辭所帶、十二月廿四日還著、
權少僧都賴觀
同六年
三月十日癸巳仁和宮覺行十八口、一身阿闍梨、依院宣寬意放
解文、十一日宣下、十九日壬寅於觀音院、從大僧都寬
位三十九、令受灌頂給、色衆卅八、
長者權大僧都定賢法務、從後カ七日
權大僧都寬意
月日辭大僧都、長者等隱居高野山、卅九、號觀音院僧
都、式部卿敦貞親王息、二品親王灌頂弟子、永保元イ
三年三月十日叙法眼内供、元應德三年十一月廿一
日、任權少僧都、護持勞、康和三年六月十五六イ日卒四十八、
權少僧都賴觀
權少僧都經範十二月廿九日加任、六十三、寬意替、
同七年　八年十二月十八月一日イ五日改元、
長者權大僧都定賢法務、後七日、
權少僧都賴觀
權少僧都經範
正月廿五日拜堂、十一月廿八九イ日灌頂行之、乞戒忠

緣、嘆德時圓法橋、
嘉保元年甲戌
長者權大僧都定賢法務、
權少僧都賴觀
權少僧都經範後七日、
同二年　三年十二十一イ月十七日廿一イ改元、
長者權大僧都定賢法務、後七日、伴僧十五イ伴僧不載法務、
權少僧都經範六月廿二日、任東大寺別當、慶信法印替、二年十一月
永長元年丙子　廿一日廿八イ改元、
八月九日上皇落飾四十四、
長者權大僧都定賢
後七日法行之、於閑院加持香水、正月十八日、於
御殿二間可被行觀音供者、經範記云、去承暦四年
皇居燒失後、觀音供中絕十六年、門徒之歎何事過
之、自去年方々訴申、今於御殿可被行、藏人少納
言成宗傳宣、件供先例、於仁春殿所被行之、而於
御殿被行之、而於御殿被行之條、慥有證乎如何申
之、初大師此御願始行之時、以仁壽殿爲御殿、而
近來以淸涼殿被用御殿、於二間被改行、尤可爲便

宜者、有勅許被行之、但二月十八日者經範行之、

著束帶參勤之云々、十二月廿一日灌頂、受者二百

九十人、廿九日叙法印、七十三、

權少僧都賴觀十二月九日、轉權大僧都、七十四、

權少僧都經範

五月十三日、於東三條殿修孔雀經法、伴僧廿口、

廿七日結願、

承德元年丁丑　十二月廿九日、林覺大法師、補凡僧別當、

長者法印權大僧都定賢法務、後七日行之、於閑院加持香水、

權大僧都賴觀

權少僧都經範

同二年　三年八月廿八日改元、九月イ

十一月五日御室御參東寺、御共經範以下十二人、壹

四人、於灌頂院御讀經、長者僧都勤之、

長者法印權大僧都定賢法務、

權大僧都賴觀

權少僧都經範

後七日法行之、於賀陽院加持香水、

康和元年己卯　六月忠緣大法師補凡僧別當、林覺辭退替也、

長者法印權大僧都定賢法務、

後七日法行之、於賀陽院加持香水、但依所勞經範

僧都參勤云々、

權大僧都賴觀

權少僧都經範

同二年

七月八日壬寅定賢於石符亭、日イ綠十二口伴僧、修孔雀經

法、限二七箇月、五月廿一日永觀補東大寺別當、

長者法印權大僧都定賢法務、號醍醐法務、定賢與增與、法務相雙十二年、

後七日法行之、於加陽院加持香水、但依所勞、如

去年經範勤之、十月六日卒、七十七、六十八、大納言源隆國

息、覺源受法灌頂弟子、年月日任東寺入寺、康平

五年補醍醐座主、承保三年十二月十九日叙法橋、五十三、承曆三年正月十四日叙法眼、五十六、

權大僧都賴觀

十月廿一日寺務、七十八、十二月廿六日灌頂、

權少僧都經範

十月十日補山階寺別當、十二月廿九日轉大、七十、

同三年

十月卅日三條大納言參詣東寺、奉爲藤子女御、於大

師寶前被立願、任基趾可修造之由、長者經範被申上

御願事、又有諷誦、以忠緣爲導師、
長者權大僧都賴觀 德大寺大僧都、
後七日法行之、於加陽院加持香水、四月廿五去寺務、經範依敘法印也、
權大僧都經範
四月廿五日敘法印、七十一、寺務、御室證金剛院供養導師賞讓、有行幸、七月廿九日於東寺灌頂院、爲祈雨修孔雀經法、伴僧廿口、第二日雷雨、第四日終夜降雨、八月六日結願有賀、兩勅使蒙賞、同八日兼法務、定賢替雙增與、十二月廿五日灌頂、小阿闍梨隆眞、
同四年
八月廿四日、三條大納言幷長者經範、參詣東寺、本意王子誕生御者、前日御願事、不日可令遂之由、重被申上、兼又奉供御燈明、道師忠緣、
長者法印權大僧都經範 法務、
後七日法行之、於加陽院加持香水、十一月廿五日灌頂、小阿闍梨隆眞、
權大僧都賴觀
四月六日卒、八十、號德大寺、先々御室灌頂弟子、賢尋小僧都入室、左大臣賴宗男、延久三年十二月卅日敘法眼、元內供、承保三年十二月卅日任少僧都、
同五年 六年二月十日改元、
正月十六日女御產、皇子降誕、鳥羽院、六月十六日 忠嚴闍梨、於東寺舍利供養、導師勝暹已講、咒願濟暹律師、請僧六十口、
長者法印權大僧都經範 法務、
後七日法行之、香水器一口、略之非例也、依御物忌被行南殿、十一月廿五日高野大塔供養事、可尋決之、十二月十九日灌頂、小灌頂隆眞、三箇年同名如何、
長治元年 甲申 太元法定慶、
三月廿一日御影供、依無長者、濟暹律師供養法勤仕之、三月廿四日始置尊勝寺灌頂、大阿闍梨御室、小灌頂寬智、依爲初度、於當座被補權律師、
長者法印權大僧都經範 法務、經範與法務相雙五箇年、
後七日法行之、於淸涼殿被行之、三月十七日卒、七十四、號遍照寺、先々御室受法灌頂弟子、私師尋源阿闍梨入室、參河守經信男、承曆二年十月六日任權律師、二品親王法勝寺大乘會檢校賞、寬治三年十二月卅日轉權少僧都、今年東寺御影供、一長者

入滅之間、雖經奏聞、寺務仍未補、爲不過廿一日、
爲寺家之沙汰、當參上﨟權律師濟暹勤仕之、
法印權大僧都範俊 鳥羽、
五月十九日廿イ直任長者、六十入、三日イ即寺務、第二度例也、本自兼山
階寺權別當、十一月廿五日拜堂、
權少僧都覺意 大教院、十二月廿九日加任、(五十四)、
同二年 三年四月九日改元、
長者法印權大僧都範俊 五月十九日兼法務、經範替、相雙增與、鳥羽僧正、
權少僧都覺意
後七日法行之、堀河院加持香水、、、器一口略
之、依勅也、三月九日拜堂、官符未到、仍白紙書宣
旨狀追被遂之、是池房僧正例也、五月十九日轉權
大僧都、十二月二日灌頂、
權少僧都寬助
五月十九日加任、四十七、六月十七日イ十月廿日所司初參、十一月
廿二日拜堂、
嘉承元年丙戌 三月廿日、尊勝寺灌頂、賢遍法印、
長者法印權大僧都範俊 法務、
權大僧都覺意

後七日法行之、依御物忌、於南殿加持香水、七月
五日爲祈雨、於東寺灌頂院修孔雀經法、伴僧廿
口、七月雷鳴、十二日延引、十三日暴風雷雨、十六
七日雨降、十九日結願、以弟子舍弟法橋嚴覺叙法
眼、護摩壇、十月廿一日灌頂、小灌頂、
權少僧都寬助
同二年 三年八月三日改元、
十二月廿五日灌頂、七月十九日堀河天皇崩、廿九、同
日親新カ院受禪、五歲、宗任、
長者法印權大僧都範俊 法務、
權大僧都覺意
後七日法行之、於堀河院加持香水、三月廿一日
卒、五十七、號大教院、仁和寺圓教寺別當、參議基平
息、長信入室二品親王弟子、治曆四年三月任東寺
入寺、承保二年十一月廿七九イ日叙法眼、北院供養、
二品親王賞、康和三年正月廿八日任權少僧都、
五十一、仁和寺親王覺、內裏孔雀經法賞、應德三年十
一月廿一日依護持僧勞、轉僧都、イ
權少僧都寬助
三月十四日、長者奉禮講堂御佛、於佛前、別當忠

緣阿闍梨奉開舍利囊、是根本舍利、內三粒申出、
如此參詣之輩爲結緣也、五月廿三日轉權大僧都、
五十一、同日任仁和寺圓敎寺別當、覺意替、七月十日
於堀河前齋院御所修孔雀經、諸伴僧廿口、十七日
結願、

鳥羽院
天仁元年戊子

長者法印權大僧都範俊法務、

權大僧都寬助
後七日勤之、初度、加持香水、於北院大裏北六條殿イ被行之、依
爲御物忌。御殿准南殿、儀作法如常、九月廿六日
院御祈修孔雀經法、伴僧十六口、十月十八日結
願、被引御馬於六條也、十二月廿五日灌頂、三月
廿四日尊勝寺灌頂、小灌頂禪譽、

同二年三年七月十三日改元、

四月廿九日癸卯御室於觀音院、從法印寬助、令受傳法
灌頂給、十九、

長者法印權大僧都範俊法務、三月卅日權僧正、七十三、十二月八日灌頂、小灌頂隆眞、

權大僧都寬助
後七日法行之、於大炊殿加持香水、三月廿七日叙
法印、五十三于時大僧都宣末、法勝寺萬茶羅堂供養導師賞、六
月廿九日壬寅依恠異、於大炊內裏、公家御祈修孔雀
經法、伴僧廿口、第九日七月七日結願、即御修法
御發願之次日、大內裏行幸、仍御結願、日中御加
持、於境所被勤之、今度御修法御代始之事也、無
勸賞遺恨也、

天永元年庚寅

長者權僧正範俊法務、
後七日法行之、依行步不快、加持香水、設以權少
僧都嚴覺爲代官畢、十二月廿四日辭權僧正、

法印權大僧都寬助
正月十日於鳥羽殿修大北斗法、四月十日於同殿
修同法、閏七月五日於同殿修同法、十二日結願、
伴僧廿人、五月十二日彗星現東方、其光五六尺
計、爲此御祈、六月四日、於鳥羽殿修孔雀經法、伴
僧廿口、而經夜其光滅、修中終隱畢、仍十八日結
願、二七箇日、蒙賞隨申請被寄阿闍梨五口、成就
院有御布施之義、十一月日依病辭所職、十二月日
返賜辭狀、十二月廿七日灌頂、

同二年

長者前權僧正範俊法務、正月十一日還任權僧正、

法印權大僧都寬助
後七日法行之、加持香水大炊殿、
十二月十一日灌頂、
同三年 四年七月十三日改元、
三月十二日法皇六十御賀、三月廿二日尊勝寺灌頂、六イ
山座主仁豪行之、而今年當東寺之巡、而綸言已改、
自宗上下愁歎不止、
長者權僧正範俊 法務、
四月廿四日卒、七十四、于時山階寺權別當、號鳥羽僧
正、仁勢大威儀師子、成尊入室瀉瓶灌頂弟子、年
月日勤維摩竪義、年月日任東寺入寺、寬治六年十
二月十六日叙法橋、五十五、院御修法務、嘉保二年十二月廿六イ
八日任權少僧都、五十八、院御修法勞不次賞也、康和三年十月七日
任興福寺權別當、依院宣成氏擧、非成業東寺人、希代之
例也、四年五月十三日轉權大僧都、五年七月廿五
日叙法印、興福寺供養權別當賞、
法印大僧都寬助
後七日法行之、於賀陽院加持香水、四月以後寺 廿五日成寺、吉事
務、五十六、四月十日、於鳥羽殿修大北斗法、閏七月五
日於同御所修同七箇日、十月廿日灌頂、
永久元年癸巳
正月一日天皇御元服、十一、寬助、二月十二日於大炊
殿院御祈、修孔雀經法、伴僧廿口、一七日滿結願、則
賜御馬云々、
長者法印權大僧都寬助
後七日法行之、自今年不召末寺伴僧、於大炊殿加
持香水、正月九日兼法務、範俊替、十二日綱所吉事加
御判、十四日任權僧正、閏三月一日於禁中修五壇
法、於二間有御加持、五月一日爲大衆調伏勤行
大威德法滿、二七箇日結願、五月廿三日修大北
斗法七箇日、卅日結願、被引御馬、八月十八日丙寅
天皇不豫、依勅於內裏大炊御門高倉、修孔雀經、
伴僧廿口、修中御惱平癒、廿五日結願、自同日於
院修同法、九月一日猶可延行之由、被仰下之、七
日結願、自同日於左大辨重資卿中御門宿所、依勅
修尊勝法、廿八日結願、十月廿三日蒙賞、東寺小
灌頂阿闍梨、准二會三會、可補僧綱宣旨、十月廿
三日被下官符、又定額十口被申加、同被下官符、
同廿九日卒、僧綱有職等參關賀申、十二月十七日

甲子灌頂、（小灌頂行遍、八十一、乙叡法橋忠緣、）上卿中納言忠敎、宰相重
資、行事左中辨顯隆、
太政官牒東寺
應以寺家恒例、灌頂勞歷二年、次第補准傍例、以
東寺灌頂勞、行勸賞、次第被補權律師職者、奉祈
萬歲千秋之御願、將爲令法久住之基趾者、正二位
行大納言兼民部卿太皇大后宮大夫源朝臣俊明
宣、奉勅依請者、省宜承知依宣行之者、寺宜承知、
牒到准狀、故牒、
永久元年十月廿三日
修理左宮城判官正五位下行左大史兼播磨介小槻宿禰（在
判）牒、
正四位下行權右中辨藤原朝臣、
太政官牒東寺
應加置寺家定額僧拾口事、
右太政官、今日下治部省符偁、得權僧正法印大和
尙位寬助今月十六日奏狀、偁、謹檢舊貫、東寺供
僧等、本官符所被載五十口也、後被定廿四口、所
謂定額僧廿一人幷三綱也、是則寺大新少故也、爰
寬朝大僧正被申加阿闍梨八人、又成典僧正同申
加阿闍梨八人、前幷四十人也、今寺家繁昌、密敎
興隆、增寺威儀、豈非此時乎、仍更申加十人之定
額僧、奉修萬歲之御祈、然則滿住侶之本數、叶本
官符之旨望、請天恩被加置件十人之定額者、彌奉
祈朝家泰平之御願者、正二位大納言兼民部卿太
皇大后宮大夫源朝臣俊明宣、奉勅依請者、省宜承
知依宣行之者、寺宜承知、牒到准狀、故牒、
永久元年十一月十九日
修理左宮城判官正五位下左大史兼筭博士播磨介小槻宿
禰（判）牒、
〔太政官牒東寺
應以寺家恒例灌頂勞歷貳年次第補任權律師職
事〕
右太政官今日下治部省符偁、得權僧正法印大和
尙位寬助今年九月廿二日奏狀、偁、謹檢案內、東
寺灌頂者、承和聖代爲鎭護國家所被始修也、多歷
年序、久積薰修五智之水利衆生而普霑、三密之風
遍法界而旁扇、誠是朝家泰平之御願、密敎興隆之
本源也、倩思事情、以本寺之勤被行勸賞者、承前
不易之例也、興福寺維摩會講匠補僧綱是也、准件

例不勤尊勝寺灌頂、只以本寺恒例之灌頂、爲其勞、續畢兩部之後、守次第被採擇者、自宗專成歡喜之思、他宗又無訴訟之愁、大師記文云、莫令我敎法與他宗雜亂者、而尊勝寺灌頂自他宗相互勤行之間、頗違彼素意、仍於尊勝寺灌頂者、偏被付天台宗尤穩便歟、抑歷三會二會灌頂御修法勞者各預勸賞、然則以遂灌頂業之輩、同令勤行御修法、被抽賞者、僧綱之員數不增、諸德之昇進相同歟、僉議之處誰謂非據乎、大師遺跡寂可重崇、其故者移靑龍寺以開灌頂堂於東寺、擬內道場以立眞言院於禁中、隨又被修後七日御修法等、嚴重之儀甚深之法也、加之渡如意寶珠於皇朝、請善如龍王於神泉、公家重其勳功、人民蒙其利益、殊勝之趣、超過諸宗、非口所宣、非心所測、望請天恩、〔因准傍例、以東寺灌頂勞行勸賞、次第被補權律師職者、奉祈萬歲千秋之御願、將爲令法久住基趾者、正二位行大納言兼民部卿太皇大后宮太夫源朝臣俊明奉勅、依請者、省宜承知依宣行之者、寺宜承知符到奉行、

永久元年十月廿三日

正四位下行權右辨藤原朝臣〕　左大史小槻宿禰

〇南溪云〔〕內據東寶記補之、

太政官牒東寺

應加補定額僧拾口事

阿闍梨傳燈大法師位行暹、年捌拾貳、臈漆拾、眞言宗東大寺、
阿闍梨傳燈大法師位兼成、年伍拾漆、臈肆拾伍、眞言宗東大寺、
阿闍梨傳燈大法師位定覺、年肆拾陸、臈參拾伍、眞言宗東大寺、
阿闍梨傳燈大法師位觀惠、年伍拾、臈參拾伍、眞言宗東大寺、
阿闍梨傳燈大法師位兼意、年肆拾貳、臈參拾伍、眞言宗東大寺、
阿闍梨傳燈大法師位兼覺、年肆拾陸、臈參拾貳、眞言宗東大寺、
阿闍梨傳燈大法師位範覺、年參拾貳、臈貳拾漆、眞言宗東大寺、
阿闍梨傳燈大法師位永嚴、年肆拾、臈貳拾陸、眞言宗東大寺、
阿闍梨傳燈大法師位寬信、年參拾壹、臈拾珍、眞言宗東大寺、
內供奉十禪師阿闍梨傳燈大法師位覺顯、年貳拾參、臈拾伍、眞言宗東大寺、

右得權僧正法印大和尚位寬助、今月十八日奏狀、偁、謹檢案內、隨申請、被加置諸寺定額僧者、承前之例也、因玆先日注子細、奏聞公家、即依請者、今件禪侶夏臈已長、道法名瑩、然則以件等輩被加補定額者、彌仰宗家繁昌之朝恩、奉祈千秋之寶算者、正二位行大納言兼民部卿太皇大后宮大夫源

朝臣俊明宣、奉勅依請者、寺宜承知、依宣行之、牒到准狀、故牒、

永久元年十一月廿二日、

修理左宮城判官正五位行下左大史兼算博士播磨介小槻宿禰(判)牒、

正四位下行權右中辨藤原朝臣

十二月十七日灌頂、小灌頂行遍八十一、其儀式在此草子之奧、

同二年甲午

五月八日寛助於土御門内裏修孔雀經法、伴僧廿口

同廿一日結願、

長者權僧正寛助

後七日法行之、加持香水大炊殿、四月二十六日於鳥羽殿修大北斗法二七箇日、十月八日延引、廿日灌頂、小灌頂行遍逢兩界了、同廿七日戊辰被任權律師、爲後代冣爲規模耳、廿日辛酉當日上卿檢非違使別當權中納言基綱、參議右大辨長忠、行事右中辨藤爲隆、小外記中原良業、右小史中原章永、

同三年

十月五日增與辭法務、八十四、在任廿七年、東寺法務、定賢、經範、範俊、寛助、相襲、三月廿六日忠縁卒、其替兼覺補凡僧別當、十月十三日拜堂、

長者權僧正寛助法務、

後七日法行之、加持香水小六條殿、二月二日於鳥羽殿修大北斗法七箇日、二月廿二日於土御門内裏修孔雀經法、廿九日結願、三月四日於院御所修同法、伴僧廿口、十一日結願、六月四日於院修孔雀經法、伴僧廿口、一七日滿結願、則被引御馬一匹、十月十三日灌頂、小灌頂隆眞、、嘆德賢尊、供養法覺任、自今年色衆被定三十一人、是以前四十二口也但去々年灌頂三十口也、如何、灌頂十月十三日可爲式日之由、官符宣下、上卿權中納言重資、參議右近中將實隆、行事權右中辨伊通、

同四年

廿九日講堂修正太元兼尊勤之、五月山階覺信兼法務、增與替、

長者權僧正寛助法務、

後七日行之、加持香水大殿、正月十七日於鳥羽殿修大北斗法七箇日、伴僧廿口、八日結願、有御馬、

五月廿二三イ日轉正、六十、同日補廣隆寺別當、去年增與卒替、

十月十三日灌頂小灌頂隆眞、後、イ定覺、康治比三箇年小灌頂、隆眞如何、上卿權中納言源能俊、參議左近中將藤原朝臣通季、行事右少辨源師俊、權小外記大江政國、右大史中原章永、執蓋、五位散位藤原行仲、六位右兵尉紀遠輔、釆女佐藤原貞兼、

同五年六年四月三日改元、

六月廿七日覺信辭法務、八月十一日三井行尊任法務、覺信替、

長者僧正寛助法務、

後七日法行之、加持香水土御門右府家、十三日院尊勝茶羅尼供養御導師、十四日補法勝寺別當、同日行尊權僧正補權別當、廿日於土御門內裏小對修孔雀經法、今度有巡讀經、廿七日經願、三月十三イ二日勤仕白河御塔供養御導師、蒙賞、以弟子源覺阿闍梨令叙法眼、三月廿七日於成就院修孔雀經法、伴僧十二口、

權少僧都嚴覺勸修寺、

四月廿七日加任、六十二、十月十日拜堂、十三日灌頂、小灌頂兼成小、、僧都カ、嘆德可有、明年上卿權中納言宮內卿源重資、參議右近衛中將藤原通季、行事藏人左少辨左兵衛權佐藤實光、權小外記、、、左小史中原任兼、乞戒覺智、誦經導師兼宗、嘆德隆眞、去十二月小灌頂受請、威儀師行秀、五重合袴二絹五十匹、從儀師暹眞、三重合袴一絹卅匹、綱掌鎰取各一重十五匹、副鎰取單衣一領十匹、平鎰五匹、所守三疋、酒肴如例、

元永元年戊戌 太元觀惠、

長者僧正寛助法務、

二月廿一日修大北斗法七箇日、三月廿七日中宮御祈、於成就院修孔雀經法、伴僧十二口、四月四日結願、四月廿八日補東大寺別當、十月十六日拜堂、五月廿八日神泉御讀經、初日降雨、卅日結願、十月十三日灌頂、小灌頂兼成、嘆德濟朝、上卿權中納言源朝臣重資、行事右中辨源朝臣雅兼、少外記三善經仲、右小史大江行友、堂童子執蓋、五位散位藤原朝臣忠時、六位右衛門少尉賴範、中務錄成行、圖書屬助時、

權少僧都嚴覺後七日法行之、初度、加持香水土御門、

同二年三年四月十四イ日改元、

長者僧正寛助法務、

後七日法行之、加持香水土御門、五月廿八日中宮御祈修孔雀經法、伴僧廿口、六月五日結願、被引御馬、十月十三日灌頂小灌頂宗覺小、、嘆德寛信、、兼意、上卿權中納言藤原朝臣實隆、行事右少辨源朝臣師俊、權少外記大江以通、右少史小槻盛親、五位不參、六位玄番允大江泰親、釆女佐定兼、圖書屬助晴、十一月十八日、於土御門殿、修孔雀經法、伴僧廿口、同廿五日結願、被引御馬、

權少僧都嚴覺

保安元年庚子

長者僧正寛助法務、

二月廿六日於土御門殿修大北斗法、七箇日、伴僧廿口、八月廿三日、於禁中修同法、七箇日、十月十三日灌頂、小灌頂宗覺、上卿左衛門督顯通、參議中將雅定、行事右少辨師俊、

權少僧都嚴覺

後七日法行之、加持香水土御門、五月十二日任權大僧都、六十五、御室禁中孔雀經法賞讓、七月十七日乙卯、神泉祈雨御讀經參勤之、

同二年

長者僧正寛助法務、

後七日法行之、加持香水土御門、四月九日於成就院修大北斗法、七箇日、十月六日轉大、六十五、十月十三日灌頂、小灌頂懷俊、嘆德俊譽、供養賴譽、乞戒覺任、

權大僧都嚴覺

閏五月八日卒、六十六、號勸修寺僧都、參議源基平息、信覺僧正入室灌頂弟子、範俊僧正重受入增○南按檀歟資、永保二年八月十三日敍法橋、信覺僧正祈雨孔雀經法賞、嘉承元年七月十九日敍法眼、覺意僧都祈雨孔雀經法賞、天仁二年八月十八日任權少僧都、此長者有所司初參事、三綱京凡、絹各十四、中綱五四、所司職掌各三四、

同三年

長者大僧正寛助法務、

後七日法行之、加持香水土御門、正月十八日於成就院修大北斗法、五月十四日同、二月廿二日於土御門內裏、修孔雀經法、伴僧廿八、廿九日結願、六月廿七日中宮生女一宮、今度其中成就院御祈六月十八日、

廿一日結願、有孔雀經讀經、大僧正、率廿口僧綱大法師等、三箇日夜修三昧行法、被行讀經之、令修供養法初例也、十月十三日灌頂、小灌頂懷俊、上卿中納言能俊、參議伊通、行事右中辨雅兼、

同四年　五年四月三日改元、（六イ）

正月廿八日讓位、今上受禪、（五歲）顯仁

長者大僧正寬助法務、

後七日法行之、加持香水 土御門、正月十九日 土御門殿修大北斗法、八箇日、七月三日甲寅於神泉苑、爲祈雨被行孔雀經御讀經、三箇日、寬助以下廿口、定海律師、兼覺法橋、御導師嚴寬、以下左中辨源雅兼、寬助不被出仕、仍諸僧申子細、三箇日以後不參、雨不降、十三日甲子被始修七壇水天供、寬助大僧正仁、以下雨降　十二月卅日申置阿闍梨二口於眞言院、去二月御卽位日、兩院御幸之時、祗候御前、爲御護被進御筆、此賞云々、天治元年正月九日放解文、源意如覺二人也、十月十三日灌頂、小灌頂觀惠、

崇德院
天治元年甲辰

十月廿一日新院御高野詣、

長者大僧正寬助法務、

後七日法行之、加持香水土御門阿闍梨坊、去御幸之時爲院御所、仍改年來之例、座東小角カ、五月廿一日於三條內裏、中宮御產御祈、修孔雀經法、伴僧廿口、廿九日結願、此法今度十五箇度、蒙賞、以弟子堀河院宮寬曉、申叙法眼、十月廿八日上皇御高野詣、於奥院蒙賞、以弟子信證令叙法眼、十二月廿二日辭法務、法務相雙行尊八箇年、忠相雙信法務事三人也、增輿、覺信、行尊、

權大僧都勝覺三寶院、

正月十四日加任、六十八、十月一日拜堂、十三日灌頂、初度、小灌項、上卿左衞門督通季、參師時、行事右中辨顯賴、

同二年　三年正月廿二日改元、（二イ）

此長者所司初參、三綱鎭面平帖絹各十匹、中綱同絹五匹、北所司識掌等同各三疋、

長者大僧正寬助

正月十五日卒、六十九、號成就院、右中辨源師資息、先先二品親王入室瀉瓶弟子、經範法務入室、承保元（二イ）年十二月補阿闍梨、十九、北院初度、康和元年七月八日任

權律師、四十五、仁和寺宮孔雀經法賞、長治元年正月廿七日、轉權少僧都、四十八、仁和寺宮轉輪院供養導師賞、八月十三日、補遍照寺別當、廿八日拜堂、十月廿二日灌頂、小灌頂林覺、乞戒覺雅、

權大僧都勝覺

後七日法行之、初度、加持香水土御門、正月十四日兼法務、寬助辭退替、十五日以後寺務、五月十九日於三條殿、女院御產御祈、修孔雀經法、伴僧廿口、廿四日皇子降誕勸賞、五月廿八日任權僧正、六十九、不經法印、六月三日結願、七月廿日復任東大寺別當、十月十三日灌頂、小灌頂實緣、位取檢校云々、

大治元年丙子 太元琳覺、

長者權僧正勝覺法務、

後七日法行之、加持香水土御門、十月十三日權頂、小灌頂林覺、乞戒覺任、上卿中納言雅定、參議伊通、行事右中辨師俊、

同二年

三月十五日癸卯夜寶藏燒失、執行定俊之子息俊慶、取出重寶十箱、南寶藏一宇災上、十月廿九日雨上皇御高野詣、

長者權僧正勝覺法務、

後七日法行之、加持香水土御門、十一月四日高野新院御塔供養導師賞、以源覺法眼任權少僧都、十月十三日灌頂、小灌頂範覺、十二月廿七日於三條坊門烏丸宿所能遠朝臣家、太上法皇祈修祕法、

同三年

長者權僧正勝覺法務、正月七日祕法結願、

後七日法行之、加持香水土御門、六月十七日依不吉事隱居醍醐、

權大僧都信證堀池宮、

六月廿四日加任、三十一、廿八日神泉御讀經、七月一日小雨、三日結願、八月十七日所司初參、廿五日拜堂、十二月十八日灌頂、初度、小灌頂範覺、乞戒覺任大、嘆德觀惠、

同四年

七月七日禪定法皇崩、七十七、此長者有所司初參事、三綱長絹各一匹、四丈、中綱各白布一段、麻布二段、小所司職印白布各二段、

長者權僧正勝覺法務、

四月一日辛、七十二、號三寶院左大臣俊房息、定賢法務入室、灌頂弟子義範範俊後、重受入壇資、年月日任東寺入

寺、應德三年補醍醐座主、寛治六年正月十六日叙法眼、三十六、定賢僧都讓、長治元年五月廿九日任東大寺別當、四十八、在位十四年、同二年二月十日修仁王經法、彗星出現御祈也、嘉承二年五月廿三日任權少僧都、五十一、永久五年六月十四日於神泉苑修請雨經法、同十七日雨降、廿一日結願、以阿闍梨定海申任權律師、保安元年十二月卅日轉權大僧都、六十三、年月日任廣隆寺別當、

權大僧都信證

後七日法行之、加持香水土御門、今年御前中綱六人、四月以後寺務、三十三、十月十三日灌頂、小灌頂永嚴、色三十口減、上卿中納言雅定、參議師時、辨宗成、廿八日兼法務、勝覺替、歷六箇月、

同五年 六年正月廿七日改元、

二月廿六日長者法印拜賀、中綱六人、所司二人參勤、

長者權大僧都信證法務、

後七日法行之、於京極殿加持香水、正月廿八日女院御祈、於大炊殿修孔雀經法、二月五日結願賞任法印、七月十三日癸卯依炎旱、信證以下伴僧廿口、被行神泉御讀經、自第三日十五日、於東寺修孔雀經法、第二﨟權少僧都定海、權律師林覺、御導師寂嚴阿闍梨、威儀師維嚴、從從威力師暹眞、猶於神泉讀經、二箇日、小雨降不及濕地、長者不參之旨、五箇日以後、結願大法拜被行之、第五日大降雨、同廿二日勸賞、加置阿闍梨五口於成就院護摩壇、阿闍梨永嚴已講、可成賜持權律師之由、以藏人頭左大辨雅宣被仰了、廿二日結願、

天承元年辛亥 二年八月廿八日改元、

長者法印權大僧都信證法務、

後七日法行之、加持香水土御門、十月十三日灌頂、小灌頂覺智、乞戒忠觀小、、、嘆德覺任、神分廿一所被載之、

長承元年壬子

長者法印權大僧都信證法務、

後七日行之、加持香水土御門、正月十七日修大北斗法、十月廿六日灌頂、小灌頂覺智、乞戒信書、神分同、

權少僧都定海醍醐、

閏四月十四日加任、五十九、自同十四日於堀河院殿、上皇御祈、修孔雀經法、伴僧廿口、同廿一日結願日賞叙法印、依爲散位者長者任中僅七箇日也、

同二年
長者法印權大僧都信證法務、所司初奏、（參カ）綠同寬助例、
後七日法行之、加持香水土御門、十月五日上﨟定
海重任之間、辭寺務法務大僧都、四十六、然而不被許
之、卽又辭退、或本則得替云々、猶被返之、仍爲二長者、十
二月十七日七日イ補廣隆寺別當、
法印權大僧都定海
十月五日復任長者、六十、依爲同官之上﨟、超信證
寺務、去五月廿八日、任權大僧都、護持凡僧別當覺勞、
雅、十月七日執行勝俊參賀、如常、十日所司初參、三
綱各被物一重、三度勸杯、皆有職也、中綱白布二段、勸
杯侍慶寬、小所司職掌各麻布一段、勸杯大童子長
也、十一月廿九日拜堂、御前三綱四人、十二月十
七日灌頂、初年小灌頂覺顯、內供神分日、乞戒院
嚴、誦經導師覺智已講、上卿楊梅大納言顯雅、宰
相辨□□□□、
同三年四年四月廿七日改元、
長者法印權大僧都定海
後七日法行之、加持香水二條殿、御影供々養法勤
之、七月四日兼法務、六十一、信證辭退替、今日待賢門院御產
病御祈、孔雀經御讀經、廿口內一﨟賞云々、第二
寬信奉仕御導師、閏十二月五日灌頂、小灌頂神分同、
法印權大僧都信證法務、
三月廿五日重辭所職、同廿八日被返下辭狀、卽猶
辭、七月四日於法務者可被用闕之由被仰下畢、
保延元年乙卯五月十八日、仁和寺供養、（燒失後修造也）
長者法印權大僧都定海法務、
後七日法行之、加持香水二條殿、御影供々養法勤
之、十月廿七日灌頂、小灌頂覺任、乞戒貞寶、十二月廿八日任
權僧正、東寺四僧正初也、
法印權大僧都信證有所司初參事、
五月廿四日辭大僧都幷長者、四十八、後三條第三御子
輔仁親王息、大僧正寬助灌頂弟子、行意律師入
室、年月日一身、天治元年十月廿八日宣敍法眼、
廿七、大僧正寬助上皇高野御幸賞讓、初度、大治二年
九月十三日、蒙權大僧正兼宣旨、廿二、二品親王待
賢門院御產孔雀經法賞讓、于時重服之間、
除服以後、十一月廿八日宣下東寺人、自法眼轉
大僧正、初例也、保延二年十一月廿一日任正大僧
都云々、保延三年四月八日、任權僧正、女御產御

新、孔雀經法賞、御室御讓、于時壇康護、四年十月十一日
轉正、永治元年正月十一日爲護持僧、康治元年四
月八日卒、五十五、號堀池僧正、

同二年 太元賢覺、

今年天台座主忠尋轉太僧正兼法務、天台法務中絶
百六年也、件兩職覺猷辭退替云々、然者行尊之後、
覺猷補法務歟、

長者權僧正定海法務、

後七日法行之、加持香水二條殿、伴僧交名、今年初被載法務字、五月
廿七日辭長者法務、覺鑁上人依高野執之妨也、而
一門大衆訴之、仍六月日如元被付長者宣下畢、七
月四日依女院御瘧病、被行孔雀經御讀經、依靈驗
被寄置阿闍梨六口於三寶院、又御馬御衣等賜之、
九月廿二日返給辭書寺務、十二月廿六日灌頂、小灌頂神分同、

同三年

二月十一日 華藏院宮御入滅、四十四、

長者權僧正定海法務、

後七日法行之、加持香 水二條殿、正月十四日轉
正、任日上臈超玄覺、仍二月十日山階寺大衆、京
上及訴訟之間、二月十六日玄覺轉正畢、正僧正二人初例也、
十二月廿五日灌頂、小灌頂宗意、乞戒琳助小、、嘆德覺任、神分同、

同四年 十月天台座主忠尋法務卒、

長者僧正定海法務、

後七日法行之、加持香水二條殿、三月十二日廿二イ於鳥
羽殿院、御祈修孔雀經法、伴僧廿口、廿日結願、大
信證轉正、行玄任權僧正、三人同日也、玄覺忠尋死替、十月廿九日
灌頂、小灌頂宗意、乞戒院嚴、神分同、

同五年

五月十四日三位殿、美福門院也、御産御祈、小室令修孔雀
經法給、伴僧廿口、同十八日皇子誕生、勸賞、東寺灌
頂一會、永置仁和寺勸音院、以小阿闍梨可補權律
師、

長者大僧正定海法務、

後七日法行之、加持香水小六條內裏、十二月廿一
日灌頂、小灌頂仁嚴、

同六年 七年七月十日改元、

四月二日石淸水如元造立之、御遷宮、三月廿五日庚子
於勸音院、被行結緣灌頂胎藏、大阿闍梨御室、小灌
頂仁嚴、乙年、乞戒寛遍、色衆卅口、誦經導師覺任、嘆

德觀惠僧都、供養法任覺阿闍梨、去年被置賞、是初
度也、
長者大僧正定海法務、
後七日法行之、加持香水小六條內裏、伴僧交名不載法務字、十
二月廿日灌頂、小灌頂忠觀、乞戒琳助、神分同、
永治元年 二年四月廿八日改元、
三月十日太上天皇落飾、三十九、法名空覺、戒師僧正信證、十
二月七日讓位、廿七日東宮受禪、三歲、體仁、九月十六日
信證於八條殿御產御祈、修孔雀經法、伴僧廿口、五
十二箇日、御產姬宮誕生、勸賞觀惠僧都敘法印、
長者大僧正定海法務、
後七日法行之、十二日於眞言院行綱所朝拜、加持
香水土御門、同十一月廿三日灌頂、小灌頂禎意、乞戒信齋、十二
月廿八日依病辭所職、六十八、同卅日返給辭狀、
康治元年壬戌
三月五日、太上法皇、幷入道大相國、東大寺受戒、和
上仁和寺二品親王、羯摩寬信權少僧都、東大寺、
長者大僧正定海法務、
正月二日猶辭所職、十二月十五日還任所職、仍其
後又寺務執行、

權少僧都寬信勸修寺、
正月五日俄蒙准長者宣、後七日法行之、加持香
水土御門、一長者定海辭退故也、正月十日執行定
俊參賀、眞言院有對面、被物一重、色々布五段賜
之、在酒肴菓子等、十一日參會堂、奉仕問者講師大法師覺珍、法相宗、十
五日檢納御道具、後執行被物一重賜之、在酒肴菓子、幷後料酒肴菓子等、中綱一人白布二段、職掌二人白布各一段、
在各酒肴菓子等、依爲大嘗會以前、爲未拜堂、勤御影供々
養法、第二度例也、十二月十五日長者宣下、十八日所司
初參、三綱名被物一重、初度、勸盃人源寬、宰相阿闍梨、
第二度行海、三位阿闍梨、第三度玄海、淨相房阿闍梨、廿四日拜
堂、導師仁嚴律師、咒願覺雅律師、于時凡僧別當、御前三
綱四人、騎馬寺主暹俊、權寺主勝俊、都維那俊慶、
權都維那嚴俊、上座維嚴、中綱六人、同騎馬、御出
立所三條大宮民部卿亭也、同日灌頂、初度、小灌頂眞助、乞
戒兼賢、誦經々々禎意已講、嘆德覺任權律師、上
卿右衞督重通、新宰相中將教長、頭辨資信、廿八六イ
日轉權大僧都、五十九、任日、官符權上座定俊、吉書成、以○
下恐有闕文、
同二年 三年二月廿三日改元、

長者大僧正定海法務、
後七日法行之、加持香水土御門、六月十日又上辭狀、依宿病增氣也、此後三箇年無寺務之人、依不被下辭狀之、希代之例也、
權大僧都寬信
御影供々養法勤之、十月廿八日灌頂、小灌頂行海、乞戒院殿、

天養元年甲子 二年七月廿三(二ィ)日改元、
長者大僧正定海法務、
權大僧都寬信
後七日法行之、御前三綱二人、御影供 供養法勤之、十二月廿八日灌頂、小灌頂殿覺、

久安元年乙丑
長者大僧正定海法務、有所司初參、
七月十三日、十九日、兩度上辭狀、其被返下之、十月廿五日遂辭大僧正法務東寺東大寺寺務、永籠居、七十二、右大臣源顯房息、勝覺僧正灌頂弟子、義範僧都入室、年月日任東寺入寺、年月日補阿闍梨、永久四年五月廿三日補醍醐座主、五年六月廿一日任權律師、勝覺僧正祈雨賞讓、大治四年五月廿日任東大寺別當、五年正月十四日任權少僧都、任日、久安五年四月日卒、七十五、
權大僧都寬信
後七日法行之、加持香水土御門、本寺所司供奉、御影供々養法勤之、十月十九日奉寺務宣旨云、大僧正頻辭可行今年東寺灌頂事者、藏人木工頭範家奉、同廿日院宣云、任先例可行高野布施沙汰云々、民部卿顯賴奉、廿二日以寬成補高野小別當畢、廿五日定海之辭狀職事下之云々、十二月廿七日灌頂、小灌頂隆勝、乞戒兼賢、
權少僧都永嚴平等房、
正月十四日還任權少僧都、加任三長者、七十一、宣下、二月廿一日於白川殿修大北斗法、

同二年
長者權大僧都寬信天台座主行玄法務、任日可尋之、
後六日法行之、十三日兼法務、定海替、御影供供養法勤之、十二月七日於民部卿九條亭、讓綱所、每事過差先規畢、十二月廿六日灌頂、小灌頂院嚴、乞戒隆成、
權少僧都永嚴十二月日上辭狀、但未被宣下之云々、

同三年 太元眞助律師、初度、
長者權大僧都寬信法務、
後七日法行之、伴僧交名不載法務字、十一日綱所朝拜、十四日

任東大寺別當、御影供々養法勤之、十二月廿四日十一月十四日東大寺拜堂、廿日高野拜堂、
灌頂、小灌頂、琳助、乞戒慶成、自今年供米始之、以讃
岐國善通寺 米被充置之、大阿闍梨 御童子等料、三石、色衆內僧綱、二石、凡僧、一石、威儀師二人、各二名僧綱分、
從儀師二人、各一石凡僧分、寺家三綱、各一名同前、自餘公人等
不被免之、
權少僧都永嚴
同四年
長者權大僧都寬信法務、正月五日民部卿顯賴薨、依服暇辭後七日畢、
權大僧都寬遍忍辱山大夫、又尊壽院、
正月六日、加任二長者、四十九、宣下、後七日法行之、
加持香水土御門、御前三綱四人、權上座勝後俊カ、權
寺主俊慶、都維那嚴俊、中綱六人、堂達良好、同經
實、小寺主增賀、同快實、行賢、經尋、凡僧別當寬
永、十一日執行勝俊、參賀、眞言院有對面、被物一
重、擅紙百帖賜之、十五日檢納御道具之時、被物一
重賜之、二月廿三日所司初參、三綱五人、上座惣
在廳維嚴、權上座還俊、同勝俊、權寺主俊慶、都維
那嚴俊、名各カ着法眼服カ、各被物一重、勸盃人初棧敷大
納言阿闍梨、第二度中納言阿闍梨寬宗、第三度亮
阿闍梨俊曉、中綱勤勸カ杯侍祿白布二段、下部勸盃、
大童子長白布各一段、惣在廳罷申之時、於御前兒
杓有勸盃、被物二重、三月十日拜堂、前駈八人、道師隆
勝已講、咒願仁嚴律師、御前三綱四人、廿一日御
影供供養法勤之、十二月十七日灌頂、初年胎藏
界、小灌頂覺曜、辨上卿不參、然而被行之始例也、乞戒寬
然、誦經琳助已講、嘆德院嚴已講、
權少僧都覺任號式部、
五月廿九日加任三長者、六十三、宣下、四人長者中絕
百六年也、尋佳例被成四人、第六度也、六月三日
執行勝俊參賀、有對面、被物一重、色々布五段賜
之、廿八日所司被參、於白河檀所在此義、三綱七
人皆參、上座惣在廳維嚴、權上座暹俊、同勝俊、寺
主從儀師信舜、權寺主俊慶、都維那嚴俊、權都維
那維實、各被物一重、色々布三段、色革一枚、勸盃
人初度安藝阿闍梨、、、第二度侍從阿闍梨寬豪、
第三度三位阿闍梨、、、上座幷執行罷申之時、有
勸盃、別當二重、中綱勸杯、侍三人、祿白布各二
段、下部如常、八月十日拜堂、前駈八人、導師祐源

淡路阿闍梨、呪願泉生房已講隆勝、

同五年

四月十二日、高野自大塔雷火出來、灌頂堂幷金堂悉炎上、出御影堂者雖爲咫尺之間、免餘焔畢、希代勝事也、

長者權大僧都寛信法務、

權大僧都寛遍十月七日、觀音院灌頂、小灌頂覺耀、

權少僧都永嚴

正月廿四日、於台川殿修大北斗法、十五箇日、二月九日結願、伴僧廿口、

權少僧都覺任

後七日法行之、加持香水四條東洞院内裏、御前三綱二人、權上座俊慶、都維那嚴俊、十五日執行勝俊、御道具檢納、被物一重賜之、在酒肴菓子、幷從料酒肴菓子等、中綱一人、白布二段、職掌二人、白布一段賜之、在酒肴菓子等、二月十八日於押小路殿、修大北斗法、三七箇日、御影供々養法勤之、執事常陸律師眞助、凡一年中、恒例臨時事皆以行之、十月十三日灌頂、小灌頂宗範山城阿闍梨、初年、乞戒慶成、誦經、、明海已講、于時凡僧別當、嘆德覺曜、供米如前々、勸修寺法務御時、以善通寺米、以權寺主俊慶爲沙汰人、于今下行無相遣違カ者也、

同六年七年正月廿六日改元、

正月十九日廣隆拂本ノマヽ法炎上、正月十五日當寺所司下部爲供養、申請佛舍利三粒、此内金色舍利一粒、乙囊安置寶藏、其時可奉迎講堂、

長者權大僧都寛信法務、

後七日法行之、加持香水東三條、被載法務字、二月七日寛遍依敘法印、去寺務爲二長者、

權大僧都寛遍

二月七日敘法印、高野御室法親王孔雀經法賞讓、卽寺務、九日執行勝俊相具、印鎰成寺務吉書之後、被物一重賜之、在酒肴菓子等、中綱一人白布二段、職掌一人白布一段給之、在酒肴、御影供々養法勤之、十一月卅日灌頂、小灌頂禎喜、乞戒慶成、次年觀音院小灌頂勤之、

權少僧都永嚴

五月廿三日敘法印、仍去長者未拜堂、無所司初參、下野守平師季三男、寛助入室灌頂弟子、年月日補阿闍梨、永久元年月日任東寺入寺、大治四年

勤東寺灌頂、長承元年五月廿七日、任權律師、五十八、護持勞、保延元年五月廿四日轉權少僧都、于時前律師、去十八日仁和寺供養檢二品親王、年月日辭所職、申置阿闍梨三口於私堂、爲院御願寺、仁平元年八月十四日卒、

權少僧都覺任

仁平元年辛未

太元眞如少僧都勤之、或眞助勤之云々、天台行玄猶法務朝、六月七日四條內裏燒失、七月十九日六條內裏燒失、

長者法印權大僧都寛遍

後七日法行之、加持香水四條內裏、御影供々養法勤之、十二月十九日灌頂、小灌頂長幸、仁和寺、

權大僧都寛信法務、

權少僧都覺任

同二年

三月七日於鳥羽殿、仙院五十御賀、淸僧六十口、

長者法印權大僧都寛遍

後七日法行之、加持香水近衞殿、御影供々養法勤之、十一月廿四日、觀音院灌頂、小灌頂長幸、十二月廿日灌頂、小灌頂覺任、仁和寺、乞戒祐源、

權大僧都寛信法務、

權少僧都覺任

二月八日於押小路殿修大北斗法、三月一日卒、六十七、式部丞家能息、號式部僧都、覺意大僧都入室、寛助灌頂資、永久元年十二月三日、補東寺定額、保延元年九月廿三日賜小灌頂頂淸、四年十二月廿九日任權律師、五十一、灌頂勞、天養元年十月十七日轉權少僧都、佛母院供養二品親王賞讓、

同三年 四年十月廿八日改元、

八月廿一日依內御惱、法印寛曉修孔雀經法、依驗結願日任權僧正、非長者修此法、初例也、十二月六日二品親王覺法御入滅、六十二、一長者寛遍、不申身暇、入御苑可家遭裴畢、然而寺務無相違、

長者法印權大僧都寛遍

正月十四日、寛信敍法印之間、退爲二長者、三月七日寛信卒、後如本寺務、御影供々養法勤之、

權大僧都寛信法務、

後七日法行之、加持香水近衞殿、加持香水以前可敍法印之由、訴申之間、御願依可及遲怠、忽有勅

許、仍如元寺務、此時不被成寺務之吉書、二月十五日西院不動御光作繼給、三月十七日依痢病卒、七十、號勸修寺法務、大藏卿爲房息、三論宗兼學嚴覺大僧都付法灌頂弟子、康和五年三月日補阿闍梨、共尊勝寺、十二月卅日被下東大寺准得業宣旨、本寺解、喜承元年五月十三日寂勝講聽衆、二十三、其後七箇年勤仕之、永久元年月日任東寺入寺、卅、二年十月廿五日賜維摩講師講、號カ 卅一、元永元年五月十四日寂勝講講師、卅五、其後七箇年勤之、大治元年五月卅日任元興寺別當、四十三、四年十二月廿九日任權律師、四十六、元興寺修理賞、幷明年御齋寂勝兩會講師請、惠曉座事替、長承三年六月廿日任權少僧都、五十一、三會講師勞、

權大僧都元海 醍醐、

十二月 八月イ 十七日加任、十六、宣下、十九日執行勝後 俊カ 參賀、有對面、被物一重、色々布三段賜之、有酒肴等、廿六日所司參、廿八日拜堂、導師隆賢闍梨、咒願寛宗闍梨、廿九日 八イ 灌頂、初年小灌頂行任、仁和寺、寛遍暇之間、被加補行之、醍醐座主如元、十月日灌頂、

久壽元年 甲戌

八月二日待賢門院崩、元海爲後七日阿闍梨之身令供奉、

長者法印權大僧都寛遍

十一月廿七日觀音院灌頂、小灌頂禪壽、行任死替、十二月廿九日灌頂、小灌頂寛宗、仁、于時凡僧別當也、初例也、十一月廿九日、東寺、、

權大僧都元海

後七日法行之、加持香水近衞殿、御前三綱四八、十六日御道具幷佛舍利爲御拜見、奉渡近衞內裏、內影供行之、

同二年 三年四月廿七日改元、太元覺耀、

十一月四日行玄法務卒、七月廿三日天皇體仁依御惱崩、廿七日今宮受禪、雅仁、廿九、八月十五日、中宮依御惱落餝、九月廿三日卯□以天皇一宮爲春宮、二十、十二月十六日、賀陽院非常、六十一、

長者法印權大僧都寛遍

後七日法行之、加持香水近衞殿、後七日次佛舍利、甲乙囊亂稱爲非例、被取寄之、御影供々養法勤之、十二月廿七日灌頂、小灌頂隆忠、仁惠イ、

権大僧都元海

保元元年丙子 三月廿日、三井行慶兼法務、

七月二日禪定仙院崩、五十一、鳥羽、十一日上皇子、今上天皇新院合戰、太上天皇逃脱遂落餝、同廿三日配流讃岐國、

長者法印權大僧都寛遍

後七日法行之、加持香水高松殿、十一日兼法務、四月廿九日、庚子伴僧、載、、寛信以後經四箇年、御影供々養法勤之、高野大塔供養導師勤之、七月十六日於東寺祈雨、修孔雀經法、修中降雨、廿日結願、勸賞牛車宣旨、又寄置阿闍梨吾尊壽院、十月九日勸音院灌頂行之、小灌頂練覺、九月廿五日、任權僧正、五十九、十月十三日灌頂、小灌頂祐嚴、源（イ醍）乞戒度成、上卿右少辨資長、自餘不參、供米自今年半減了、

權大僧都元海

七月十八日卒、大納言源雅俊息、定海灌頂資、長承三年六月廿二日任權律師、定海東大寺修理賞讓、康治元年十月日轉權少僧都、律師、仁平三年八月十九日轉權大僧都、或云、後七日法勤仕之時、非寺務長者開御道具唐櫃、取出佛舍利拾粒、奉送公家、又觀音供御本尊加修飾、此兩條不祥之兆也云々、

權大僧都靜灌

閏九月十八日加任、十一月十日官符宣下、十二日執行勝俊參賀、有對面、被物一重、色々布三段賜之、十六日所司初參、十二月九日拜堂、異說未拜堂誤歟、

同二年 太元寛宗法眼、

長者權僧正寛遍法務、

七月日修大北斗法、七月十六日於東寺爲祈雨、率廿口伴僧修孔雀經法、依法驗第五日結願賞、廿日牛車宣旨、幷私房尊壽院被寄置阿闍梨三口畢、護摩壇琳助律師、十月卅日十三日イ灌頂、小灌頂寂源、（仁）、

權大僧都靜灌

後七日法行之、加持香水高松殿、御影供供養法勤之、今年於灌頂院修孔雀經法云々、可尋決之、八月廿四日卒、七十三、大納言民部卿源俊明息、濟暹僧都付法灌頂資、久安二年二月三日任權律師、高野二品親王孔雀經法賞讓、仁平三年五月十九日轉權少僧都、保元々年九月廿五日轉權大僧都、

二條院
同三年四年四月廿日改元、
三月一日蝕御祈、紫金臺寺御室令修孔雀經法給、御法驗、月日山階覺繼、權僧正兼法務云々、改名惠信、
八月十一日讓位太上天皇、三十二、今上、十六、守仁、
長者權僧正寛遍法務、
後七日法行之、加持香水大內裏、三月廿五日觀音院灌頂、十月廿九日灌頂、小灌頂有眞、仁、嘆德禎喜、乞戒兼賢、
十二月廿九日轉正、
二條院
平治元年己卯二年正月十九日イ十日改元、
正月八日大僧正寛曉卒、五十七、一宗寂上﨟、非長者例也、十二月十一日信賴三條內裏放火、廿六日信賴被召捕畢、主上臨幸六波羅、記云、依亂東寺天台灌頂等不被行之云々、但東寺者行之歟、
長者僧正寛遍法務、
後七日法行之、加持香水大內裏、二月廿三日於住坊修大北斗法、御影供行之、三月廿八日、任東大寺別當、十月十七日灌頂、小灌頂兼嚴、(仁)、
權律師任覺
十二月廿九日加任、五十一、宣下、律師長者中絕六十八箇年也、超宗範覺耀、
永曆元年庚辰二年九月四日改元、琳助律師(宗範律師イ)
長者僧正寛遍法務、三月廿八日、任東大寺別當、
權律師任覺大夫、
正月三日執行勝俊參賀、有對面、被物一重、色々布三段賜之、在酒肴菓子等、中綱一人、白布二段、職掌二人、白布各一段、有酒肴雜菓子等、後七日法行之、加持香水八條內裏、九日所司初參、於眞言院有此義、三綱五人、中綱八人、職掌十三人、鐘突二人、小所司五人也、二月二日任權少僧都、去月十八日後入道親王、於八條內裏修仁王經法勸賞讓、護摩壇勤之、十日拜堂、導師兼賢闍梨、加賀、兕願宗範律師、山城、三月廿一日御影供々養法勤之、十二月廿四日禎喜加任之後退爲三長者、
法眼禎喜圓城寺侍從、
十二月廿日准長者、散位長者第二度例也、宣、廿四日宣下、同日任權少僧都、少僧都十三人初例也、去十月廿三日美福門院崩時、寛遍、任覺、依禁忌被加補之、同日觀音院灌頂行之、小兼賢、廿五日執行勝俊參賀、綾被物一重、色布三段賜之、有酒肴菓子等、廿六所司初參、勸盃初度延

果闍梨、宰相、第二度定眞闍梨、侍從、第三度宗玄闍梨、大納言、廿七日拜堂、導師成助已講、相模、咒願兼毫闍梨、于時凡僧別當、同日灌頂、小灌頂豪海(醍醐)初年、嘆德兼賢闍梨、大阿闍梨歟、

應保元年辛巳

長者僧正寛遍 法務、二月卅日轉大、

權少僧都禎喜

後七日法行之、加持香水淸凉殿、十五日執行勝俊、檢納御道具之後、綾被物一重賜之、有酒肴菓子等、中綱一人、白布二端、段、職掌二人、各白布一段、有酒肴雜菓子等、御影供行之、六月卅日修神泉御讀經、白龍出現、甘雨普潤、可有勸賞之由被宣下畢、以此賞、仁安二年正月十四日公祐阿闍梨叙法眼、御讀經賞初例云々、十月廿五日灌頂、小灌頂俊證、仁、嘆德兼賢、但非初年尤不審也、若小灌頂嘆德歟、

權少僧都任覺

同二年 三年三月廿九日改元、

長者大僧正寛遍 法務、御影供供養法勤之、

權少僧都禎喜

後七日法行之、加持香水大內裏淸凉殿、十二月十八日灌頂、小灌頂顯豪、(仁)、寺家在記六、

權少僧都任覺

十月廿七日轉大僧都、小灌頂勞、超禎喜爲第二、

長寛元年癸未

太元堯眞阿闍梨、十二月十四日觀音院灌頂、小灌頂顯毫、十二月十七日、東寺灌頂寛遍、乞戒寛眞、

長者大僧正寛遍 法務、

七月日、補仁和寺國敎寺別當、御堂御讓、八月廿七日於小野宮、修大北斗法、三七箇日、

權大僧都任覺

後七日法行之、加持香水押小路殿、御影供行之、七月廿七日叙法印、公家御祈、孔雀經法賞、御室御讓、

權少僧都禎喜 十二月十七日灌頂、小賓顯、

同二年甲申 三年六月五日改元、

八月廿六日讃岐院崩、四十六、十二月十三日山階尋範兼法務、惠信替、但仁安二年十月廿日兼法務云々、二月十七日蓮花王院供養、

長者大僧正寛遍 法務、

閏十月十三日辭大僧正、以覺成申叙法眼、於長者

法務如元、是深覺例也、

法印權大僧都任覺

後七日法行之、加持香水押小路殿、廿日於禁中、天變御祈修大北斗法、二七箇日、十二月十八日觀音院灌頂、廿二日東寺同、小章運、乞戒慶成、イ

權少僧都禎喜十二月廿三日灌頂、小章運、(仁)

六條院
永萬元年乙酉 二年八月廿四イ七日改元、

六月廿五日御讓位一皇子、二歲、順仁、七月廿八日太上天皇崩、廿三、二條院、九月日八條內裏燒失、

長者前大僧正寬遍法務、

法印權大僧都任覺

後七日法行之、加持香水押小路殿、御影供行之、

權少僧都禎喜十二月廿六日灌頂、小灌頂覺明、(仁)、

仁安元年丙戌

十月十日庚辰、於東三條殿立太子、七歲、卅七日大嘗會、

十二月廿五日東三條殿燒失、

長者前大僧正寬遍法務、

六月卅日卒、六十七、東大寺別當于今帶之、中宮大夫源師忠息、寬運僧都入室弟子、寬助灌頂資、年月日補阿闍梨、保延五年二月廿二日叙法眼、四十、院鳥羽御塔養(供字脫歟)、御導師二品親王賞讓、永治二年三月廿二日補廣隆寺別當、信證僧正替也、天養元年十月三日任權大僧都、不經少僧都、公家御祈孔雀經法、二品親王賞讓、

法印權大僧都任覺

後七日法行之、加持香水六條殿、御影供行之、寬遍入滅之後、可寺務之處天氣不祥也カ之、

權少僧都禎喜

六月十九日轉權大僧都、院愛染王御修法勞、廿六日於神泉苑修孔雀經法、三箇日延引、滿十箇日、結願日大降雨、天下普潤、即可爲一長者蒙院宣、七月三日、於本坊被成寺務吉書、同五日叙法印、祈雨賞、兩條也、仍超任覺寺務、同日補東大寺別當、十二月廿八日灌頂、小灌頂寬叡、(禪林寺)、太元宗、範僧都、同卅日兼法務、

同二年

十二月九日仁和寺御室、覺性親王、令賜綱所威儀給、

長者法印權大僧都禎喜法務、

後七日法行之、加持香水大內裏、於眞言院成吉書、御影供々養法勤之、十月廿日任權僧正、臨時朝恩、

十二月廿六日灌頂、小灌頂俊曉、(仁)、

法印權大僧都任覺
高倉院
同三年
二月十九日讓位、四月八日改元、尭眞、五歲、憲仁、東宮八歲、
長者權僧正禎喜法務、
後七日法行之、加持香水大內裏、五月日蒙新帝護持僧宣旨、十月五日高野拜堂、十二月廿四日灌頂、小灌頂顯(小野)、于時凡僧別當第二度例也、
法印權大僧都任覺
嘉應元年己丑
三月十四日上皇高野詣、初度、御室幷一長者參會、檢校禪信阿闍梨叙法橋、當山僧綱初例也、宮御勸賞拜領也云云、六月十七日上皇落飾、四十三、自今日五十日御逆修、
十二月十一日二品親王覺性御入滅、四十一、
長者權僧正禎喜法務、
後七日法行之、三月十七日、高野御參賞、以定眞阿闍梨申任權律師、
法印權大僧都任覺
權少僧都長幸四イ鳥羽又素光寺、
六月廿五日准長者宣、禎喜吹擧、自今日神泉御讀經、不雨降、結願畢、十月十四日宣下、同日執行參賀、有對面、綾被物一重、色々布三段賜之、在酒肴如常、十六日所司初參、於鳥羽坊有此義、廿六日拜堂、導師定眞律師、侍從咒願顯嚴阿闍梨、于時凡僧別當、十二月十三日灌頂、小灌頂壹海、(醍醐)初年、
同二年三年四月廿一日改元、
三月廿日、上皇於東大寺御受戒、和尙禎喜、羯摩長幸、別當顯惠法印、蒙賞以實律師任權少僧都、
長者權僧正禎喜法務、
三月八日、補仁和寺圓敎寺別當、五月廿五日、以法眼行海申叙法印、以東寺塔修造隆曉阿闍梨申叙法橋、以房官任祐申叙法橋、右大辨親宗奉行、五月廿八日神泉御讀經、廿九日夕方雨降、天下普潤、卅日、蒙三箇抽賞牛車宣旨、幷申置阿闍梨三口於圓城寺、本ノマヽ童、同十二月卅日、以覺曉阿闍梨叙法眼、八月六日於閑院內裏、天變御祈、被行孔雀經法、伴僧廿口、十三日結願、依法驗、以長幸申任權大僧都、于時護摩壇勤之、十二月廿五日灌頂、小灌頂覺鏡、(醍醐)
法印權大僧都任覺
權少僧都長幸
後七日法行之、加持香水大內裏、檢納御道具之

後、執行勝俊、綾被物一重賜之、在酒肴菓子、從料菓子等如常、中綱
一人、白布二段、職掌二人、名各歟白布一段、在酒肴雜菓子等、
承安元年辛卯
長者權僧正禎喜法務、
後七日法行之、加持香水大内裏、十二月廿五日灌
頂、小灌頂行仁、(仁)、
法印權大僧都任覺
權大僧都長幸
同二年太元尊實法橋、
長者權僧正禎喜法務、
後七日法行之、加持香水大内裏、六月十八日建春
門院御祈、於法住寺南殿修孔雀經法、伴僧廿口、
廿六日結願、當座蒙賞、以隆曉法橋叙法眼、賜御
馬畢、十二月日法勝寺已下補六勝寺別當、
法印權大僧都任覺
權少僧都長幸
法印權大僧都行海本名寛什、
二月廿三日加任、二長者六十五、禎喜吹擧、宣下、去正月十
三日任權大僧都、三月十五日執行勝俊參賀、綾被
物一重、色々布五段賜之、酒肴如常、廿日所司初
參、於梅小路猪熊坊有此義、同日拜堂、導師顯毫
已講、參河、咒願顯嚴、于時凡僧別當、閏十二月九日灌頂、小灌頂任
繼、(仁)、
同三年
長者權僧正禎喜法務、
十月廿三日、補六勝寺正別當、權別當天台座主明
雲卽辭退畢、十二月廿五日灌頂、小灌頂寛舜、(仁) 十二月
廿七日、法勝寺參堂、
法印權大僧都行海
後七日法行之、加持香水閑院内裏、十二日轉大、
十五日執行 勝俊檢納 御道具、綾被物一重賜之、
在酒肴菓子等、中綱一人、白布一段、職掌二人、各白布一
段、在酒肴雜菓子等、
法印權大僧都任覺
權大僧都長幸
八月十三日卒、七十二、藤侍從宗信息、世毫法印受法
灌頂弟子、仁平元年遂東寺小灌頂、永曆元年十月
日任權律師、灌頂勞、仁安二年十月廿日 任權少僧都、
律師一、
同四年五年七月廿八日改元、

長者權僧正禎喜法務、
後七日法行之、加持香水閑院、五月廿三日爲祈雨於東寺修孔雀經法、第三日大降雨、蒙賞、可有東寺造營云々、其上廿七日以延杲闍梨任權律師、八月九日轉正、十二月廿七日灌頂、小灌頂智源、(仁)、
法印權大僧都行海
法印權大僧都任覺
六月、於神泉修祈雨御讀經、雖有法驗、不及抽賞、
安元元年乙未 六月日、一院東寺御幸、
長者僧正禎喜法務、
十月廿三日、最勝寺藥師堂供養導師參勤之、賞以惠任闍梨叙法橋、十二月廿六日灌頂、小灌頂寬幸、(醍醐)
法印權大僧都行海後七日法行之、加持香水閑院殿、
法印權大僧都任覺
同二年 三年八月四日改元、
三月四日己酉 一院五十御賀、六月十四日高松院俄有御惱崩、三十四、七月八日 建春門院崩、十三日主上令著素服給、天下諒闇、十七日新院崩、十三、八月廿九日、後白河院御幸當寺、公卿二人、新大納言成親イ 按察大納言資賢、殿上四 人、修理大夫親信、丹波少將成經、藤井中將實敎、左衞門佐平業房、下北面、大夫判官朝康、左近左衞門尉俊兼、九月十日九條院崩、四十七、
長者僧正禎喜法務、
後七日 法行之、加持香水 閑院殿、五月廿七日轉大、七十八、覺讚替、七月十五日仙院御祈、於東寺西院、修孔雀經法、伴僧廿口、晦日結願、勸賞依申請、十月七日同院被置阿闍梨五口、兼又可修造東寺也、十月九日公家御祈於閑院修同法、伴僧廿口、廿三日結願、滿二七箇日、勸賞、定遍加任四長者、十一月六日、二イ三イ 爲天變御祈、被始行佛眼法、其賞治承元年十二月九日、以任祐叙法眼、
法印權大僧都行海
法印權大僧都任覺
法印權大僧都定遍尊壽院大納言、
十一月廿日十月廿三日イ 加任四十四、宣下、大僧正 禎喜 於禁中修孔雀經法賞讓、加任長者第度例也、○恐有脫字、超乘海隆海等、廿三日執行勝俊參賀、上品黃絹一 匹四丈、紺布三段賜之、在酒肴如常、十二月十一日所司初參、勸盃初度宗遍闍梨、大夫、第二度能遍闍梨、少將、第三度靜親闍梨、辨、廿日拜堂、導師延杲律師、咒願顯嚴律師、廿六日灌頂、小灌頂宗惠、初年、

治承元年丁酉 太元勝遍、

四月廿八日夜、大內裏八省廊、應天門、朱雀門、大膳職神祇官之社、太學寮、勸學院、眞言院燒失、自樋口高倉至二條朱雀、凡三百八十餘丁燒失、

長者大僧正禎喜法務、

十二月六日補東大寺別當、兼惠替、十二日、蓮華王院御塔鎭壇參勤之、十二月廿五日灌頂、小灌頂理範、

法印權大僧都行海

法印權大僧都任覺

法印權大僧都定遍

後七日法行之、加持香水閑院殿、十五日執行勝俊檢納御道具、綾被物一重賜之、在酒肴菓子等、中綱一人、白布二段、職掌二人、各白布一段、在酒肴雜菓子等、

同二年

十月廿五日中宮御産御祈、於六波羅泉殿御所、御室令修孔雀經 法給、十一月十二日御産平安、皇子誕生、則結願、法印覺成任大僧都、兼又東寺眞言院如舊造營、後七日、太元法、如法如說、可被勤行之由被仰下、十二月十五日立坊、

長者大僧正禎喜法務、

後七日法行之、加持香水閑院殿、眞言院去年燒失之間、左少辨兼光朝臣上野國功造之、被行御修法畢、於曼荼羅未造出之間、納東寺寶藏、被渡西院曼荼羅畢、自正月十八日、彗星御祈、於閑院內裏修孔雀經法、伴僧廿口、廿五日結願、蒙賞、以宗元闍梨任權律師、法橋一人追可被仰下云々、閏六月七日以公祐法眼申任權少僧都、春日行幸、風雨難御祈賞也、九月廿日天變御祈、於閑院內裏修同法、伴僧證上生院爲公家御祈願所、被寄置阿闍梨三口畢、一年中二箇度修此法、每度勸賞越于上古、十二月十七日東大寺拜堂、十二月廿六日灌頂胎、小灌頂隆賢、

法印權大僧都行海

法印權大僧都任覺

法印權大僧都定遍

同三年己亥

長者大僧正禎喜法務、

正月十四日以寬守方イ闍梨敍法橋、去年孔雀經賞、五月十四日春宮護持僧宣下、七月十六日於東寺上皇御祈、被行孔雀經法、賞申置阿闍梨口〇今按有脫字於西

院、同被申請東寺修造、十二月十九日灌頂、小灌頂行豪、凡僧別當先任橋（後カ）後以巡叙法眼、
法印權大僧都行海後七日法行之、於閑院加持香水、
法印權大僧都任覺
法印權大僧都定遍
同四年安德天皇 五年七月十四日改元、
二月廿一日讓位、三歲、言仁、先帝爲太上天皇、六月二日遷都、福原京、十一月廿三日還幸平安京、十二月廿八日、東大興福燒亡、東大寺煙上初也、
長者大僧正禎喜法務、
後七日法行之、御影供行之、執事任賢入寺上綱、四月廿八日護持僧宣下、五月十五日、於八條殿新院御祈、五壇法中壇勤仕之、蒙賞、六月廿一日以覺綱權律師以（衍カ）寂寬申叙法眼、七月廿八日同御祈、於東寺西院修孔雀經法、伴僧廿口、修中御惱平癒、八月十二日結願、蒙賞於御加持之座、以任遍闍梨任權律師、十二月十九日同御祈、於同院修同法、廿八日結願、蒙賞一院宮眞禎可叙法眼、又可爲仁和寺圓敎寺別當云々、御馬賜之、十二月廿八日灌頂、小灌頂賢寶、

法印權大僧都行海
十二月十八日卒、七十二、寬信法務入室瀉瓶弟子、大藏卿源行宗息母同任寬、同年見世、仁安元年八月廿八日叙法眼、嘉應二年五月廿五日叙法印、承安二年正月十三日任權大僧都、
法印權大僧都任覺
法印權大僧都定遍
四月日、於神泉修祈雨御讀經、不雨降、六月廿一日、以御祈勞、蒙賞追可申請云々、
法印權大僧都覺成一保壽院中納言、
十二月十九日、加任三長者、五十五、宣下、廿一日執行嚴度參賀、有對面、被物一重賜之、在酒肴菓子等、
養和元年辛丑
長者大僧正禎喜法務、
後七日法行之、高倉院崩御之間、無加持香水幷內論義、三月辭法勝寺別當、五月廿二日辭六勝寺別當、十二月廿五日灌頂、小灌頂寬照、
法印權大僧都任覺
二月十一日卒、七十二、大藏卿行宗息、信證僧正灌頂弟子、仁平三年東寺小灌頂、保元元年九月廿五日

任權律師、去四月熊野御塔供養導師、後入道親王
賞讓、
法印權大僧都覺成
六月十六日神泉御讀經、雨降、廿二日結願、可有
勸賞之由被仰下、十月十一日所司初參、勸盃、初
度隆遍闍梨、辨、第二度覺緣闍梨、大夫、第三度賢淸
闍梨、辨、經緣有召、賜別祿被物一重、十一月八日
拜堂、導師延杲律師、咒願顯嚴律師于時凡僧別當、御前三
綱四人、
法印權大僧都定遍
壽永元年壬寅
長者大僧正禎喜法務、 太元實嚴、
正月十三日辭大、以定遍申任權僧正、希代例也、
廿一日補廣隆寺別當、素光寺圓樂寺別當、任日可尋、七
月三日一院御祈、於法住寺北御所、修孔雀經法、
護摩壇定遍、伴僧廿口、十一日結願、蒙賞、宮法眼眞禎、可
轉權大僧都兼宣旨同廿六日宣下、御馬一匹賜之、法橋一
人追可仰下云々、廿六日、以任耀敍法橋、同日以公源敍法橋、高
倉院御元服御祈賞、十二月廿八日灌頂小灌頂兼勝(仁)、
法印權大僧都覺成

後七日行之、依爲高倉院周忌、無加持香水内論
義、
法印權大僧都定遍
正月十三日任權僧正、五十、超覺成爲第二、
安德天皇
同二年 三年四月十六日改元、 七月廿八イ
七月廿五日、宗盛以下平家一族落都、主上、建禮門
院、幸西海、源義仲行家入洛、月日天皇受禪、四歲、尊成、十
一月十九日、於法住寺殿、上皇與義仲御合戰、法住
寺殿燒失、
長者前大僧正禎喜法務、
正月四日、乘屋形輿、蒙可出入禁中宣旨、十月一日
卒、八十五、號圓城寺侍從、藤原宗信息、法印世豪灌頂
資、久安六年東寺小灌頂、次年觀音院、保元三年
十二月廿九日、直敍法眼灌頂、
權僧正定遍
後七日法行之、去年大極殿眞言院燒失云々、今年造畢歟、九月廿九日可補
東寺々務東大寺別當之由、被下院宣、十月二日成
寺務、吉書執行勝俊、被物一重賜之、十一月一日
補東大寺別當、十二月廿九日灌頂、小灌頂能遍、(仁)、
法印權大僧都覺成

後鳥羽
元暦元年二年八月十四日改元、（十日イ）
長者權僧正定遍
後七日法行之、二月十九日補仁和寺圓敎寺別當、
九月廿八日兼法務、禎喜替、十二月六日、院御逆修萬
荼羅導師勤之、廿七日灌頂、小灌頂頁賢、
法印權大僧都覺成
文治元年乙巳
三月廿四日、平家一族於門司關滅亡、尼二品奉抱安
德八歲、入海、寶劍同失畢、
長者權僧正定遍法務、
後七日法行之、加持香水閑院殿、十一日被（補カ）法勝寺
別當、十三日轉正、四月八日院御祈不動法、結願
日有勸賞、以壇遍闍梨任權律師、八月廿五日東大
寺拜堂、廿八日大佛開眼御導師、蒙賞以辨曉權律
師任權少僧都、十月十四日被行五壇法、中壇勤
之、平家調伏、依法驗、以宗遍大夫闍梨叙法眼、十一月廿
一日西院依破損有修理、仍不動尊可被渡講堂云
云、而執行嚴慶申云、往古三百歲之間、未奉觸手、
有其恐之由三度申之、然而打モリ損トテ被渡講堂
之不動御前畢、同日有入堂、寶藏佛舍利一粒奉
請、而卽於寺內被失畢、自廿四日痢病之間、十二月
十六日六條以北、西洞院以東角、壇所有御幸、乍臥病床
拜天顏、十八日卒、五十三、不吉例也、號導壽院、寬遍前大僧
正入室瀉瓶弟子、左馬頭顯定息、中院入道右大臣子、平治元年
七月十九日任權律師、高野一切經供養御導師、寬
遍僧正賞讓、仁安二年正月十四日轉權少僧都、律師、
嘉應二年五月廿五日轉大、
法印權大僧都覺成
八月十日上﨟俊證加任之間、辭長者、以親覺闍梨
內大臣、叙法眼、辭大僧都、以隆遍闍梨任權律師、
法印權大僧都俊證心蓮院大輔、
八月十日、加任二長者十八、宣下、十二月十二日執
行嚴慶參賀、有對面、綾被物一重、白布三段賜之、
在酒肴菓子等、十九日寺務、廿一日執行嚴慶、相具印鎰、被
成寺務吉書、權六條西洞院內裏增坊有此義、被
物一重上白布三段賜之、在酒肴菓子等、中綱一人、白布一
段賜之、今一段訴申之、追可給之、云々、職掌二人、各白布一段、
廿七日（六イ）拜堂、導師俊耀闍梨、咒願行晏法橋、于時凡僧
別當、官符未到之間、用白紙、御前三綱四人、老臈之
上大雪之間拜堂、灌頂寺圓、乘腰講堂、北幄ハ用

私輿、乘遷寺家輿、

同二年

十月五日三十(太元覺鏡、)帖雙子、幷西院萬荼羅、自御室被渡大敎院、(仁和寺、)御使行晏法橋、(于時凡僧別當、)自御室御誦經、上絹一匹、自長者黄上絹一匹、被渡灌頂院、執行取之、

長者法印權大僧都俊證

後七日法行之加持香水閑院殿、十五日報(執カ)行檢納御道具、被物一重賜之、(在酒肴菓子等、)中綱一人、白布二段、職掌二人、各白布一段、(在酒肴雜菓子、)五月十八日官符到來、廿九日兼法務、十二月護持御影供行之、

執事性海入寺(相模、)

法印權大僧都仁證(大敎院師、)

十二月廿四(五イ)日准長者、(七十四、)宣、執行嚴慶十勞之人人勸進之、致修造大工、寺家修理番匠安次也、七月三日棟上、大工被物一重、馬一匹、小工八人、絹四丈各賜之、鐘釣日白布五段、汲木ニ懸之、番匠等取之、饗膳酒肴等同賜之、六月十六日灌頂院北面蓮出生三葉、一兩日之間六七十葉、一月計ニ二百餘本、凡非直也事、貴賤群集、同五年、文覺上人修造、(院御沙汰、)奉行之時、如辻堂蓮出生不審也、建久六年、不見一本失畢、十月廿六日、御室觀音院結緣灌頂行之、兩院有御幸、

同三年

長者法印權大僧都俊證(法務、)

御影供行之、執事辨晏入寺、(下野、)月日除目 御修法行之、五月廿七日任權僧正、(八十二、)七月廿五日、去年神泉御讀經賞、以寬瑜任權律師、十二月三日高野拜堂、十二月十八日灌頂、(小灌頂親嚴、(小野)、)

法印權大僧都仁證

正月七日官符宣下、後七日行之、加持香水閑院殿、十五日執行嚴慶檢納御道具、上絹一匹賜之、(在酒肴菓子等、)中綱一人、白布一段賜之、(今一段訴申之所、追可有沙汰云々、)職掌二人、各白布一段(酒肴如常、)抑七日官符之使、一官掌一人、文殿一人、主殿一人、衣冠賜祿畧定也、大敎院北庇敷高麗爲座、普通ニハ一官掌、被物一重、水干袴、文殿、主殿、ウツホ衣一領水干袴也、雜箱持白布一段、有酒肴、官掌高器從料酒一瓶子肴等也、而今度畧定之間訴申之、仍出眞言院可有沙汰云々、同日執行、、參賀、一重追可有沙汰云々、七月十一日、神泉御讀經、自十三日三箇日降雨、十五

日結願、依法驗豪賞、廿五日以祐尊闍梨任權律
師、
權僧正勝賢醍醐、
十二月三日、加二長者、廿一日宣下、超仁證、
同四年
自十一月八日西院修理、御室御沙汰、日記在判、月日三條
宮御出家、十二月六日東大寺御受戒、扈從二人、前
駈廿人、
長者權僧正俊證法務、
後七日法行之、加持香水閑院殿、伴僧交名載法務字、御道具
加點祿、黃絹一疋四丈、被物代ニ給之、中綱白布一
段、職掌同前、菓子如常、三綱、中綱、不勤仕御前、
權僧正勝賢
三月十六日、執行嚴慶參賀、有對面、被物一重賜
之、在饗膳酒肴等、十九日所司初參、於醍醐三寶院南面有此義、三綱五人、
不參四人、中綱十三人、上白布各三段、職掌廿一人、小
所司十八人、鐘突二人、番匠一人、維那一人、已上當參、各布
一段、勸盃、初度實繼法眼、左大臣、第二度印海內供、三位、
第三度靜遍闍梨、大納言、三月廿一日拜堂、御影供行
之、執事敎嚴入寺、少納言、自慶賀門內乘手輿、綱食堂
之後入御西院、然而御前三綱々々已下如常、導師
行晏、于時凡僧別當、咒願覺鏡僧都、慈尊院、官符讀布施、靜遍
大納言闍梨取之、池大納言子、十二月廿五（六イ）日灌頂、初年、親
嚴灌頂之後、長者着付衣自西院退出、
法印權大僧都仁證
同五年　六年四月十一日改元、御齋會、御前三綱二人、貞慶、嚴慶、
十二月廿四日當寺修理、院御沙汰、御使、播磨目代對馬前
司清業、裝束之指貫、勅使、河內守清長、定長子、裝束束帶、文覺上人、墨染布付衣、香五帖袈裟、已上三人、
長者權僧正俊證法務、
御影供行之、執事寬禪闍梨少納言、五月廿八日補
東大寺別當、雅寶替、八月依賴朝之命、陸奧國御館、秀
衡、父太郎、泰衡、母太郎、爲被討之、被行調伏法、九月日
兩御館被討畢、賴朝沙汰也、前長覺成同修之、各勸賞、十
月廿六日、以證尊申任權律師、覺成者復任長者
畢、九月廿八日、爲山階寺南圓堂開眼下向、
權僧正勝賢
後七日法行之、加持香水閑院殿、十五日檢納御道
具、執行嚴慶、被物一重、在酒肴菓子等、從料酒肴如常、中綱一人、白
布一段、今一段訴申之、追可有沙汰云々、職掌二人、各白布一段、

法印權大僧都仁證

六月十一日辭長者幷大僧都、申置阿闍梨一口於私坊舍那院、即以圓印補之、廿三五イ六イ日卒、六十七、初參拜無之、中納言太宰權帥俊忠息、二品親王灌頂弟子、長寛二年七月十三日、任權律師、後入道親王公家御修法賞讓、承安三年正月十二日轉少僧都、律師一、治承四年正月十四日轉大、少僧都一、壽永元年十二月卅日叙法印、御祈賞、

權僧正覺成保壽院中納言、

十月廿六日、復任二長者、六十四、泰衡追討御祈賞、去五月廿八日任權僧正、十二月十四日爲護持僧、廿七日灌頂、初年、小灌頂賢清辨、

建久元年庚戌 太元宗嚴、

十月十九日東大寺棟上、十一月十七日賴朝入洛、

長者權僧正俊證法務、

五月廿八日轉正、超任日上臈勝賢、十月十六日東大寺拜堂、御前三綱二人、房官十人、中綱四人、

權僧正覺成

後七日法行之、加持香水入大內裏之建禮門、不經中門、西行テ又北ヘ向テ行テ、入自日花門、西向右近陳也、其後紫宸殿西端小門ヨリ入若著カ座清涼殿、諸僧參會、先加持香水、次論義作法如常、十五日御道具奉納之時、先酒肴菓子在之、次合點、次被物一重給之、中綱白布一段、職掌同、御影供行之、執事寛秀入寺、侍從、七月日神泉御讀經修之、七箇日不雨降、九箇日延修之、雷雨甚、追賞、寺家紀六俊證行之、十二月廿八日灌頂、小灌頂榮舜、(駿河)有小灌頂、嘆德任繼律師勤之、

權僧正勝賢長者三人共僧正初例也、

同二年

長者僧正俊證法務、

御影供行之、執事賢俊入寺少輔、十二月廿日所司初參、勸盃、初度俊遍律師、宰相、第二度兼信已講、少將、第三度俊性阿闍梨、治部卿、十二月廿八日灌頂院供養、依修理也、但兩界萬荼羅新摸也、大壇金剛カ對界對之、片壇延杲、依別仰也、色衆卅口、布施公家御沙汰、委記在別、又十二天屛風新奉寫、依朽損也、繪師宅間法橋勝賀、種子御室二品親王守覺、本新相違之所在之、今日被安置之、

權僧正覺成

權僧正勝賢

五月十七日、於醍醐寺、爲祈雨修孔雀經法、伴僧廿口、廿三日小雨間降、其夜自亥刻至于今朝辰刻、大雨如渡、(瀧カ)滿七箇日、今日結願、勸賞、追申寄阿闍梨五口於淸瀧宮、

權大僧都延杲(六條宰相、尋任例被成四人、)

正月六日淮長者宣、上﨟長者依故障爲非長者、後七日法行之、加持香水閑院殿、十四日官符宣下、六十九、十五日執行嚴慶檢納御道具、被物一重賜之、(在酒肴菓子從料酒肴等、)中綱一人白布二段、職掌二人各白布一段、(酒肴如常、)御影供行之、五月十四日神泉御讀經、十七日降雨、十八日結願、以此賞九月十八日敍法印、十二月十一日、執行嚴慶參賀、於南面有對面、勸盃之後、被物一重、色々布三段賜之、廿八日拜堂、灌頂初年、(小灌頂、)同日灌頂院供養、片壇勤之、布施公家御沙汰、長者被物裹物料五石、請僧廿口、(相違端顯灌頂色衆等參勤之、)僧綱絹裹一、饗料二石、凡僧紙裹一、饗二石、佛具被用灌頂具足、內陣懸幡花幔、無勤(勸カ)賞、十二天屛風新寫、此長者結構歟、

同三年

二月廿日文覺上八、(○脫字歟、)三月十三日、後白河法皇崩、六十六、依天下穢氣、無稻荷御輿迎祭禮、賀茂祭同無其沙汰云々、

長者僧正俊證(法務、)

三月十七日卒、(五イ)八十七、(正カ)住念結密印、世豪法印受法灌頂資、中務大輔源能明息、保延三年十二月廿日補東寺定額被下官符、應保元年十月廿五日東寺小灌頂、(灌頂勞、)承安三年正月十二日任權律師、壽永元年正月八日、轉權少僧都、二年正月十三日敍法印、(護持勞、)

權僧正覺成

三月廿日寺務、六十七、同日被成寺務吉書、執行嚴慶、相具印鎰參上、綾被物一重賜之、(在酒肴菓子等、)中綱一人白布二段、職掌二人各白布一段、務吉書ニハ不載末長者署、御影供行之、(但延杲歟、不審カ)執事定證闍梨、(美乃、)十月八日兼法務、(俊證替、經七箇月、)同日辭東大寺別當、十日天變御祈、於閑院內裏、修孔雀經法、十六日結願、勸賞以弟子道於禪師、(松殿前殿下御子、)任權少僧都、護摩壇尊律師、

權僧正勝賢

後七日法行之、拍手職掌不勤仕之、僧正坊政所法

師勤之、不吉也、十月八日補東大寺別當、十二月
十八(七イ)日灌頂、小灌頂覺敎左大臣、御齋會、三綱二人、嚴慶、實
俊、

同四年

四月廿日殿下賀茂詣、雜色料、東寺職掌十八、被召
之、而裝束不具之間、六八參之、內末國、國重、國正、
兼貞、堂鐘兼之、參內大臣殿畢、

長者權僧正覺成法務、

後七日行之、加持香水閑院殿、依被召具綱所、東
寺三綱略之、伴僧交名載法務字、三月十六(五イ)(廿九イ)日轉
正、超任日上臈勝賢、御影供行之、執事性緣少輔入寺、十二
月廿五日灌頂、小、

權僧正勝賢

三月十六(五)(廿九イ)日辭僧正幷長者、以成賢補律師、建久六
年　十六日、東大寺供養、咒願勤之、有勸賞、以
定範任權律師、七年六月廿二日卒、少納言通憲子、

法印權大僧都延杲

權大僧都印性

七月廿七日、加任六十二、宣下、十二月廿三日拜堂、導
師俊遍律師、宰相、咒願賢清已講、辨于時凡僧別當、

同五年

長者僧正覺成法務、十二月十五日灌頂、小灌頂賢海、

法印權大僧都延杲

權大僧都印性

後七日法行之、初年、加持香水閑院殿、十五日執行
嚴慶、檢納御道具、被物一重賜之、酒肴如常、中綱一人、
白布一段、職掌二人、各白布一段給之、御影供行
之、執事勝圓入寺、但馬、七月十六日修神泉御讀經、
廿日降雨、廿一日結願、以覺敎已講、左大臣、直敍法
眼、

同六年

三月十六(十二イ)日(丁酉イ)、東大寺供養三千僧、咒願前僧正勝賢、
于時別當、勸賞以定範東南院院主、任權律師、導師權僧正覺憲、
證誠二品親王、仁和寺、以御弟子無品親王道法、爲二品、有
行幸、關白幷太政大臣參會、前右大將賴朝同、

長者僧正覺成法務、

後七日法行之、加持香水閑院殿、御前三綱、中綱、以下、略之、御
影供行之、執事舜海入寺、侍從、八月五日中宮御產
御祈、普賢延命法行之、

法印權大僧都延杲

權大僧都印性

十二月廿四日灌頂、小灌頂隆性、自性房、今年當寺造營之間、講堂北面材木多之、仍衆會假屋講堂之西、廻廊打之、是成就院僧正寛〇寛下恐脫助字之時例也、凡僧別當賢請難申云、有材木者可取除之、何背先例哉、寺家重代人也、何又背先例哉云々、執行嚴慶答申云、昔尊勝寺被置結緣灌頂、東寺天台相廻勤之、而成就院之時以孔雀經法賞、始被申置此寺、以此巡學任權律師□例也、然去灌頂之先規專可守成就院之例歟、又勸修寺寛信法務之時、被打講堂北畢、且爲舊例、且有材木之煩、何可不打講堂之西哉云々、寛助例在端、

同七年

長者僧正覺成法務、

後七日法行之、加持香水閑院殿、御前三綱以下又略之、御影供行之、執事寛善入寺、加賀、七月八日補東大寺別當、勝賢替、十二月廿八日灌頂、小灌頂、任賓、觀音院靜遍隆性替、

法印權大僧都延杲

七月九日神泉御讀經、十一日戌刻降雨、翌日至巳刻、已潤九州云、十三日結願、可有勸賞之由被仰下、

權大僧都印性

同八年

四月三日塔九輪上之、六日八幡宮御正體奉渡新社、執行嚴慶渡之、餘人不寄、廿二日金堂瓦葺畢、十月廿八日西寺塔心柱上之、文覺上人沙汰、

長者僧正覺成法務、

後七日法行之、加持香水閑院殿、依被召具□□□綱所三綱中綱以下略之、御影供行之、執事祐範、改還前入寺、十二月九日東大寺拜堂、

法印權大僧都延杲

閏六月廿日神泉孔雀經御讀經、廿五日廿四日壬寅イ自辰刻、降雨、次日結願、夜於神泉菴屋任權僧正、先例不及僧正、初例也、仍可募去今兩年之賞之由、被仰下畢、

權大僧都印性

十二月廿七日灌頂、小寛詮、觀音院任賓、

同九年土御門十年七月廿七日改元、

正月八日講堂御佛二、金堂佛等修理始之、十一日天皇受禪、四歲、五月六日八幡宮御正體、如元奉渡御殿、夜半執行嚴慶之沙汰、七日講堂御佛ヨリ舍利出給畢、十八日講堂五佛五菩薩梵天帝釋如元奉居之、十

九日文覺流罪、諸停奉勤放歟云々、廿八日金剛力士
新奉作居之、佛師運慶涉法也、

長者僧正覺成(法務、)

後七日法行之、受禪以後、依不被行佛事、無加持
香水内論義、御影供行之、執事乘圓、入寺兵部卿、
御影供以後長者築地(クツレヨリ)退出、不吉也、三月廿
九日轉大、(實慶辭替、)十月廿一日卒、(七十三、)號保壽院、永嚴
法印入室付法弟子、高野二品親王灌頂資、中納言
藤忠宗息、長寬二年閏十月十三日叙法眼、(元内供寬遍、)
(辭大僧都申任云々、)承安二年三月十三日叙法印、去長寬二年
後入道親王孔雀經法賞讓、治承二年十月十二日
任權大僧都、中宮御產御祈、北院二品親王孔雀經
法賞讓、

權僧正延杲

三月廿九日轉正、東寺長者正大相雙初例也、十月
廿一日寺務護持僧宣下、廿六日執行嚴慶成寺務
吉書、綾被物一重賜之、(酒肴如常、)中綱一人、白布一段
賜之、(今一段訴申之迄可有沙汰云々、)職掌二人、白布各一段、十二月
十九日所司初參、廿八日灌頂、(小灌頂行守、觀音院、良遍、)

權大僧都印性

正治元年(己未)

正月一日蝕御祈、二品法親王令修北斗法給、有賞、
親覺法眼任權少僧都、七月十六日前權僧正眞圓、於
薗城寺、爲祈雨修金剛童子法、二旬之間一雨不降、

長者僧正延杲

後七日法行之、御前三綱以下略之、出眞言院綱所
參賀、寺務吉書行之、十三日轉大兼法務、同日宣
下、希代例也、御影供行之、執事最賢入寺、(仲與、)八
月三日神泉孔雀經御讀經、六日雨降、七日結願、
廿五日依件賞蒙牛車宣旨、廿八日宣下、又高野山
建立孔雀明王堂、寄御願寺、申置阿闍梨三口、今
年月日補神護寺別當、寺領一所被付之、十月廿七
日御賀、十二月二日爲高野拜堂下向、十二月十八
日灌頂、(小灌頂教源、)但去十一月廿三日、始三摩耶戒之
後俄延引、古今初例也、

權大僧都印性

六月廿日神泉御讀經、七月八日小雨、即結願、

法印權大僧都隆曉(勝寶院、)

正月十三日、大僧都并長者(六十八、)宣下、依爲上﨟、超
印性爲二長者、

同二年太元藏有法橋、三年二月十三日改元、

二月日二品親王修轉法輪法、勸賞以法眼覺敎任少僧都、九月十一日二位殿御産、第二皇子誕生、二品法親王孔雀經法賞、法印成寶、律師行守、十月十七日蓮華光院供養、御導師二品親王、賞成賢律師轉僧都、

長者大僧正延杲法務、

後七日法行之、十二日伴僧宗元轉大、爲大僧都、勸伴僧初例也、加持香水閑院殿、御前三綱略之、御影供行之、執事覺賢兼イ入寺、侍從、十月十日熊野詣、本宮許、有職四人、眞惠、寛禪、顯譽、敎延、御供、

法印權大僧都隆曉

六月十五日、依所勞辭長者幷大僧都、寛曉入室受法灌頂資、太皇太后宮權亮源俊隆息、嘉應二年五月廿五日叙法橋、東寺修造功、承安二年六月廿六日、叙法眼、前大僧正禎喜建春門院御祈、孔雀經法賞讓、建久五年五月廿二日轉法印、御祈勞、建仁三年五月十九日御祈賞、以定豪法橋叙法眼、元久三年二月一日卒、七十二、未拜堂、所司初參無之、

權大僧都印性正月十二日叙法印、爲二長者、

法印權大僧都仁隆上乘院、

七月十五日加任、五十一、去正月十二日叙法印、但官符不載法印字、七月十九日神泉御讀經、廿三日降雨、廿四日結願、十一月三日執行嚴慶參賀、如常、五日所司初參、勸盃、初度賢淸律師、幷第二度成遍、侍從、第三度不知名字、廿五日拜堂、導師賢淸律師、咒願眞惠律師、凡僧別當、三綱、權上座嚴慶、同成賀、權寺主慶秀、同兼慶、十二月十八日灌頂、小定尋、勅使右少辨藤原光親父權中納言光雅卿去三月十日薨、然而光親重服出仕畢、

建仁元年辛酉

長者大僧正延杲法務、今年護持僧、

法印權大僧都印性

十二月廿六日灌頂、小灌頂靜曉、觀音院灌頂同行之、

法印權大僧都仁隆

後七日法行之、加持香水用院殿、執行嚴慶、檢納御道具、被物一重、在酒肴菓子等、中綱一人白布二段、職掌二人各白布一段、御影供行之、執事尊海、助、非入寺、倍膳有職、役送從僧饗膳沙汰者、立東面妻戸前、土取傳于從僧、

同三年

正月十三日執行嚴慶叙法橋、二月六日於二條殿、二品親王修孔雀經法、十三日結願賞、權少僧都親覺轉大、十二月廿五日、文覺上人召返宣旨、

長者大僧正延杲法務、

御影供行之、執事能遍少僧都、少將、倍膳影譽闍梨、役送從僧 猊沙 汰者、立東面妻戸前、土取傳子從僧、七月十三日補東大寺別當、辨曉替、十二月廿九日灌頂、小灌頂行讃、有嘆德永遍已講勤之、

法印權大僧都印性

後七日法行之、加持香水閑院殿、觀音院灌頂行之、小灌頂光寶、靜曉暇替、

法印權大僧都仁隆廿八イ

同三年四年二月廿廿イ日改元、

十一月卅日東大寺惣供養千僧、導師前大僧正信圓、咒願菩提山僧正前大僧正延杲、證誠二品親王、有行幸、一院七條院御幸、勸賞證誠道弘僧都叙法印、別當賞、賴惠已講任權律師、寺家賞、權少僧都定勝轉大、別當擧申之、導師賞增寬任權律師、

長者大僧正延杲法務、

後七日法行之、加持香水閑院殿、御前三綱略之、二月十七日辭大僧正、以眞惠權律師申任權少僧都、御影供行之、執事宗元大僧都、大納言、十一月十六日東大寺拜堂、

法印權大僧都印性

十二月廿五日灌頂、小灌頂親守、今年灌頂、去夜廿四日已被行鎭守讀經畢、而俄延引、上卿辨、不參之間、被尋綱所之處、不參之時被行之條、無其例之由申之、而久安四年十二月十日、寛遍初年勤行之時、上卿辨等雖不參被行之由、執行申之、然而綷已及遲々、明日可被行之由、奏聞畢、仍次日行之、上卿辨獨不參也、無鎭守讀經、昨被行之故也、

法印權大僧都仁隆

元久元年甲子

七月十二日丁卯、於神泉爲祈雨、被行孔雀經 御讀經、三長者、、以下、請僧廿口、當日御讀經以前、雨降、始經之後天 晴不被 處法雨、十八日滿七箇日、不雨降、二箇日延引、廿日猶不雨降、滿九箇日結願、

長者前大僧正延杲法務、

後七日法行之、加持香水閑院殿、御前三綱略之、

月廿二日、於東寺灌頂院、爲祈雨被行孔雀經法、伴僧廿口、不雨降之間、二箇日延行、當結願日、小雨降、然而不及普潤、仍八月七日又於同道場、二長者印性修同大法、十日大降雨、卽結願、蒙賞了、

法印權大僧都印性

御影供行之、執事範賢權少僧都、石山座主、七月二日神泉御讀經、第七日降雨、卽結願、蒙賞、追承元三年五月廿二日道忠任律師、十二月廿八日灌頂、小灌頂尊雲、

法印權大僧都仁隆

三月廿日募去正治元（二カ）年祈雨御讀經賞、以靜遍申任權律師、今年觀音院灌頂、阿闍梨勤之、

同二年 三年四月廿六（二月廿イ）日改元、

正月三日主上御元服、十一、依甚雨無庭儀、閏七月廿五日、朝雅京守護、被討之間、依觸穢、石淸水當寺八幡宮放生會延引、九月十五日被行之、八月廿日造寺奉行新宰相、長房卿、以行事上人觀阿彌陀佛被示云、東寺講堂五佛等、奉居違歟、故何者寬平法皇御子法三御子被寫講堂五佛、件日記、以東方阿閦如來奉居辰巳方云々、而當時奉居丑寅方云々、然者此條以外有沙汰、若文覺上人之時奉居違歟云々、執行嚴慶返答云、件事於文覺之時者不奉居違也、本自以阿閦佛奉居丑寅方事也、爭如此御佛可奉居違哉云々、文覺修造奉行之時、建久九年正月八日講堂御佛修理始也、五月十八日五佛五菩薩梵天帝釋如元奉居之、執行嚴慶同奉行之、自建久九至元久二、首尾八箇年也、

長者前大僧正延杲法務、

七月廿二日、於東寺灌頂堂、爲祈雨修孔雀經法、伴僧廿口、閏七月六日、滿二七箇日、大雨降、仍結願、廿二日蒙賞、以敎延闍梨任權律師、

法印權大僧都印性

後七日法行之、加持香水大內裏淸涼殿、御影供行之、執事仁顯入寺、大和、閏七月七日、於東寺灌頂堂、又爲祈雨修孔雀經法、伴僧廿口、今朝雖止雨脚、陰雲猶不晴、而間自酉刻降雨、至亥刻始行之、其後霖雨、十（九イ）日結願、以舍弟法橋練性叙法眼、十二月廿二日灌頂、小灌頂俊性、

法印權大僧都仁隆

正月十日夜半卒、六十二、北院二品親王付法灌頂弟子、仁證法印權大僧都入室弟子、皇后宮權亮成隆

息、

法印權大僧都隆遍（慈尊院、）

二月十四日加任三長者、七月十二日神泉祈雨御讀經、一七箇日、不雨降、今二箇日延行、猶不降、天下旱魃、九月廿一日、執行嚴慶參賀、被物一重賜之、十二月十七日卒、（六十一、）權右中辨藤原光房息、大僧正覺成受法灌頂資、未拜堂、所司初參無之、文治元年八月十日任律師、（覺成辭大僧都、申任之、）建久八年五月廿二日、任少僧都、覺成僧正祈雨御讀經賞讓、建仁二年正月十三日、轉大、（幻淸身、）（替カ）三年五月十九日叙法印、

東寺長者補任卷第三（自建永元年至永仁六年）

建永元年丙寅（二年十月廿五日改元、）

長者前大僧正延杲（法務、）

三月十二日卒、（八十四、）正月七箇日修正食堂牛王、任先例進寛之處、爲正立用返牛王畢、今古無其例、而今入滅不吉々々、右少辨能忠息、禎喜灌頂資、承安四年五月廿九日任權律師、禎喜前大僧正神泉御讀經賞讓、壽永二年八月廿日任凡僧別當、文治元年正月十三日任少僧都、（律師一、）十一月十一日轉大、法皇御祈五壇法之內大威德法賞、

法印權大僧都印性

後七日法行之、加持香水閑院殿、三月十五日寺務宣下、十六日護持僧宣下、十九日法務宣下、同日成寺務、吉書被物一重賜之（如常於住房有此儀、）御影供行之執事敎兼入寺大進、十月十六日任權僧正、（七十五、）十二月廿四日灌頂、（小灌頂顯位、有嘆德、三綱不烈立云々、觀音院灌頂同被行之、）

法印權大僧都親覺（圓樂寺、）

三月十五日加任二長者、（五十一、）六月十一日執行參賀

如常、十一月十四日拜堂、導師定兼法眼、咒願性兼闍梨、凡僧別當、御前三綱四人、成賀、賢慶、祐嚴、兼慶、

法印權大僧都成寶勸修寺、

三月十五日加任、四十八、同日權法務、但去建仁三年八月廿一日補權法務云云、可尋決之、四月一日執行參賀、勸盃之後有對面、被物一重賜之、十六日所司初參、勸盃如常、十一月三日拜堂、導師永遍律師、咒願性兼闍梨、于時凡僧別當、御前三綱四人、今度不打幄之間、誦經物内陳阿伽棚置之、

承元元年丁卯

長者權僧正印性法務、

後七日法被行之、加持香水閑院殿、依被召具綱所三綱以下略之、依先例也、但寛信法務之時綱所三綱共召具之、御影供行之執事寛濟入寺、周防、三月廿五日上皇御幸高野賞、法眼練性任權少僧都、檢校勝成叙法橋、去御位之後經十箇年御之、七月三日卒、七十五、從三位左京大夫藤長輔卿息、任覺灌頂資、承安二年十月十三日任權律師、北院二品親王公家御祈孔雀經法賞讓、壽永元年正月八日轉權少僧都、律師一、建久元年五月廿八日轉大、少僧都一、

法印權大僧都親覺

法印權大僧都成寶權法務、

權僧正道尊安井、

七月五日直寺務、三十三、同日法務宣下、十一日護持僧宣下、七月八日執行、參仁和寺南院成寺務吉書、生綾被物一重賜之、八月廿一日綱所成吉書、廿三日御拜賀、依被召具綱所三綱略之、同日被始御加持、十二月九日拜堂、御其(前カ)僧綱二人、權少僧都行守、權律師證覺、導師眞惠權少僧都、咒願親守律師、御前三綱四人之內、二人長途供奉、二人儲門內本供役、三綱一人被加之、十二月九日補仁和寺別當、

十二月廿五日灌頂、小融賢、

同二年

十一月廿七日夜閑院殿燒失、十二月廿五日春宮御元服、

長者權僧正道尊法務、

御影供行之、執事寛海入寺、中納言、十一月十三日東大寺拜堂、

法印權大僧都親覺後七日法行之、初年加持香水閑院殿、

法印權大僧都成寶權法務、十二月廿五日灌頂、(初年)、小灌頂長海、

同三年

十二月五日仁和寺舍利會兩院御幸、被寄置阿闍梨三口畢、

長者權僧正道尊法務、六（七イ）月十三日轉正、

法印權大僧都親覺

御影供行之、初年倍膳有職役送、從僧執事隆圓入寺、卿十二月廿五日灌頂、小灌頂理除、觀音院大之同勤之、

法印權大僧都成寳權法務、

後七日法行之、初年加持香水大炊御門內裏、五月十九日寂勝講證誠、綱所幷東寺三綱以下供奉、廿二日任權僧正、辭權法務、可爲寺務之處、自御室依令執申給、道尊轉正如元寺務、仍爲二長者、廿九イ廿餘日不見寺務、十二月二日辭僧正幷長者六十九、

法印權大僧都成賢任、十二（十一イ）月二日加（四十八）遍知院、

順德院
同四年

十一月廿五日讓位、春宮受禪、十五、五年三月九日改元、太元藏秀、

長者僧正道尊法務、

四月日辭東大寺別當、十月廿三日高野拜堂、十二月十三日爲新帝護持僧、

法印權大僧都親覺後七日法行之、加持香水大炊殿、

法印權大僧都成賢

三月十一日所司初參、廿一日拜堂、導師光寳法眼、咒願親守律師、共僧綱二人、定範權大僧都、勝海權少僧都、各前駈四人、自食堂中門直至講堂後戸、不經馬道、不打幄、灌頂之時同不打之、御影供行之、執事顯晏前入寺、大夫倍膳西之三綱播磨寺主、不知實名、役送從僧、十二月廿九日灌頂、小灌頂信綱、有喚、德、靜曉律師勤之抑執行法橋成慶重服、去六月七日親父死去、出仕爲先例之上、僧侶遭父母之喪已經三十箇日之後、從寺役不可有其憚之由、明法博士明政勘法了、

建暦元年辛未

四月十日仁和寺御影堂棟上、廿九日於安示心院御所二品親王修大北斗法、五月八日結願、賞追以行遍任權律師、同三年閏九月廿六日任、十月十九日仁和寺御影堂供養、

長者僧正道尊法務、

後七日法行之、初年、加持香水大內、御卽位以後未被行佛事、仍於南殿有此義、綱所三綱共召具之、抑執行成慶可參御道具合點之役之處、去年六月

七日先師嚴慶歸泉之間重服也、而今年 主上御代
始也、我又爲初爲羊始事、仍今年者不可參勤、但
於執行重代之勤役者餘人不可叶、長者門弟可勤
仕云々、仍不能參勤、即合點宗全闍梨御門弟大納言、信顯
闍梨二位興福寺大僧正弟子、等也、合點執筆行守權大僧都、于
時奉納寶藏中綱職掌供奉、如常、御影供行之、執事
覺敎入寺、大輔、御影供之時執行成慶出仕畢、
法印權大僧都親覺
六月十四日甲午 神泉孔雀經御讀經請僧廿口、十八
日結願、雨不降、
法印權大僧都成賢
自六月十八日始行清瀧御讀經、雨不降、七月十三
日於醍醐寺三寶院修孔雀經法、伴僧廿口、十七日
降雨、廿日結願、任權僧正、剩任超親覺爲第二、十
二月廿八日灌頂、小灌頂賢秀、
同二年壬申 三年十二月六日改元、
正月廿八日金堂講堂 食堂諸尊汗出如懸水、壇水落
積之、
長者僧正道尊法務、
御影供行之、執事朝遍入寺、上總、 八月一日神泉御
讀經、六七兩日雨甚、蒙賞以道瑜禪師前左大臣隆忠息、敍
法眼、十二月廿二日灌頂、小灌頂定暹、信奝替、 執 盖 執綱被
用諸大夫、觀音院灌頂大々同行之、
權僧正成賢後七日法行之、加持香水三條殿、
法印權大僧都親覺
建保元年癸酉
今年雨不足之間、自八月八日於神泉前二長者前法
務權僧正成寶始行請雨經法、第二日(九日)降雨、蒙賞結願了、四月廿六日丁西法勝寺塔供養、
長者僧正道尊法務、
後七日法行之、加持香水三條殿、御影供行之、執
事聖尊闍梨、侍從、十二月廿七日 灌頂、小灌頂信奝
觀音院之大行之、
權僧正成賢
七月廿六日於高陽院修仁王經法、
法印權大僧都親覺
五月廿六日依病辭大僧都幷長者、以寛紹昭イ法眼 任
權少僧都、九月廿九日卒、五十八、北院二品 親王灌頂
資、覺成付法弟子、入道内大臣藤忠親息、文治元
年八月一日廿六イ敍法眼、北院二品親王孔雀經法賞讓、

正治元年正月十三日任權少僧都、後高野法親王
日蝕御祈北斗法賞讓、建仁二年五月十七日轉大、（二月十三日任僧正綱神任）
同親王去二月上皇御祈孔雀經法賞讓、三年五月
十九日叙法印、大僧正覺成（若延杲歟）神泉御讀經賞讓、（此注不審、）

法印前權大僧都寬瑜
六月廿七日加任三長者、今年七月日可修神泉御
讀經之由被仰下之間辭長者、任中不過三十箇日
歟、十月十二日還任權大僧都、長嚴大僧正去年正
月熊野御幸御先達賞讓、建保二年二月八日卒、
（八十三、）伊賀守源憲明息、法印能寬付法弟子、靜觀灌
頂弟子、文治三年七月廿五日任律師、僧正俊證文
治二年神泉御讀經賞讓、正治元年九月廿三日轉
權少僧都、上皇初御幸法勝寺檢校法親王賞讓、元
文元年五月廿七日轉大、（少僧都一、）建永二年五月廿三
日止職、以親守申任律師、承元二年閏四月四日叙
法印、後高野法親王守護經法賞讓、

法印權大僧都祐尊（西方院、）
七月卅日加任、（六十七、寬瑜替、）八月二日官符到來、自八月
一日神泉御讀經、七日降雨、蒙賞、建保二年六月
廿一（二イ）日以權律師道寬被任權少僧都、十二月六日
拜堂、導師定暹已講、咒願實俊僧都、（于時凡僧別當、）

同二年
長者僧正道尊（法務、）
御影供行之、執事顯祐入寺、（伊與、）六月五日始行神
泉讀經、九日雨降、十一日滿七箇日結願、十五日
以顯寬被任權律師、十二月廿五日灌頂、（小灌頂、顯幸有嘆德、）
（信脅已講、）觀音院灌頂大之同被行之、

權僧正成賢

法印權大僧都祐尊（後七日法行之、加持香水閑院殿、造營之後今年始也、）

同三年（太元藏有僧都復任）
長者僧正道尊（法務、）
御影供行之、執事眞尊入寺、（少納言、）五月五日神泉御
讀經、九日降雨、即日結願、十一月以道瑜法眼叙
法印、

權僧正成賢
後七日法行之、加持香水閑院殿、五月日上皇御逆
修勤護摩、六月七日於神泉修請雨經法、十三日雨
澤滂沱、即日結願、廿日依件賞以淨眞任權律師、

法印權大僧都祐尊
五月廿一日辭長者幷大僧都、以尊遍任權律師、承

久四年五月廿七日卒、（七十六、）法橋長尊子、（御室房官、）仁證法印受法灌頂弟子、文治三年七月廿五日任權律師、仁證神泉御讀經賞讓、建仁三年五月十九日任權少僧都、（律師一、）承元四年五月十五日轉大、（少僧都一、）建保元年五月廿六日叙法印、後高野法親王去年三月廿二日普賢延命法賞、

法印權大僧都親嚴（隨心院越後、）

七月十二日加任、（六十五、）十月十九日拜堂、導師權律師親寬、咒願行瑜入寺、（凡僧、別當代宮、）御前三綱四人、十二月廿七日灌頂、（初年、小灌頂仁忠、）

同四年

二月五日夜强盜入當寺寶藏盜取佛舍利道具等、自同九日依宣旨、付公私被始種々御祈等、同廿九日盜人露顯、四五人搦取之、檢非違使秀能、執行成慶等也、仍佛舍利等出來畢、三月（九イ）一日御拜見御室御參、同九日被返納寶藏、先當日朝奉隨身御袈裟御念珠、參上高陽院殿、一長者宮僧正道尊御參、（入自西洞院四疋（恐四間歟））着廣御所、（五間上御簾母屋御簾被之、）御室同御參、兩御所共懸御尻於長押、向北御座、二長者權僧正成賢、三長者法印權大僧都親嚴、着長押之下、公卿着座、御道具唐櫃自東中門奉入之、職掌二人、蒕染狩衣白袴冠持素狀參御唐櫃之前、留居中門之內、（左右、）至御所正面庭、凡僧別當權律師實俊、執行法橋成嚴、參上廣御所前庇、捧御唐櫃奉居御前庇、（東西行、）殿下以下諸卿殿上人皆參、（南北貫首可然僧綱等群集、）其後實俊成慶兩人退出、依召執行成慶參御前、頭辨定高朝臣居御唐櫃北、（向東、）執行成慶居御唐櫃北、（向西、）成慶開御道具唐櫃、取出御袈裟御念珠、以頭辨進入御前、其後御唐櫃覆蓋、（聊居退、）數刻有御拜見、其後又成慶進參、盜人所奉取之佛舍利道具等、（被入小長櫃、）幷御袈裟御念珠以定高給之、（盜人所奉取之佛舍利道具等、曰未宮人直進上御所、）奉返納御唐櫃畢、無合點賜御封三、先御道具箱、次御袈裟箱、次御唐櫃、口次第付之、其後定高與成慶奉捧御唐櫃、如元奉出之、其後入御當寺、（自南大門、）勅使幷長者三人、門徒僧綱（鈍色、）居寶藏南堀邊、大衆群集、（裹頭、）居大芝、（具記、在別、）四月二日（子刻）般富門院崩、（七十、）十四日於當寺御誦經、（被廳沙汰、）執行奉行之、

長者僧正道尊（法務、）

十二月廿日被寄置光明心院阿闍梨三口之內、東寺分一口被移加當寺、灌頂院官符宣下、當院有職首尾十七口也、

權僧正成賢
法印權大僧都親嚴
後七日法行之、(初年)加持香水閑院殿、八日今年若天下泰平五穀成就者、雖無先規可有勸賞之由、以左大辨宰相宗行被仰下畢、二月爲盜人露顯、於當寺西院修五大虛空藏法、依法驗追有賞、以伴賞安貞元年十一月八日寄置阿闍梨三口於西院畢、御影供行之、執事範禪入寺、五月廿六日募去年院五壇法賞、以俊嚴申任權律師、十二月廿八日灌頂小成耀、備中、

同五年
長者僧正道尊法務、
六月廿二日募護持身、以親寬闍梨任權律師、十二月廿四日灌頂、小隆禪、乞戒性兼闍梨、爲凡僧別當勤仕始例也、
權僧正成賢
法印權大僧都親嚴
後七日法行之、加持香水閑院殿、十日官符到來云、去年修此賞、以小野本坊隨心院寄進御願永被寄置阿闍梨一口、賜法橋一人成功所修造也云々、始例也、御影供行之、執事濟尊入寺、越前、十一月廿五日院宣云、今年後七日法賞以權律師嚴海可被任權少僧都、院御祈等賞以阿闍梨賢遍嚴後改可被任權律師、右兩條以事次可被仰下也、早可令存知給、判、謹上三長者法印御房、兩人共十二月廿九日宣下畢、二箇年賞相續希代例也、

同六年七年四月十二日改元、
正月十三日成賢於大炊殿爲修明門院御祈修孔雀經法、伴僧廿口、廿一日結願、以靜譽申任權律師、
長者僧正道尊法務、
後七日法行之、加持香水閑院殿、御影供行之、執事定算入寺、參河、五月十九日神泉御讀經、廿二日小雨降、廿四日雨降廿七日滿九箇日、大雨降、結願、六月三日被行賞、以宗全任權律師、十二月一日灌頂、小灌頂性瑜、觀音院、、大、同勤之、
權僧正成賢
八月辭長者幷權僧正醍醐座主等、寬喜三年九月十九日卒、七十、勝賢付法灌頂弟子、民部卿成範息、建久四年五月廿九日任權律師、勝賢辭權僧正申任之、正治二年十月十七日轉少僧都、後高野法親王殷富門院御塔供養導師賞讓、承元元年五月廿

三日叙法印、清瀧御讀經賞、二年三月廿八日轉大僧都、後高野法親王寂勝四天王院藥師堂供養導師賞讓、承久元年九月八日於水無瀬殿修普賢延命法、十五日結願、有賞、悉地成就讀摩壇座主權大僧都光寶也、委記在別、

法印權大僧都親嚴

法印權大僧都良遍 理智院(越中、)十二月廿九日加任、(六十九)成賢替、

承久元年己卯 安居供養法胎藏(每年同前也)執事定以、(卿)

正月廿七日實朝爲讎敵被害、七月十三日賴茂被誅之間放火於大內、仍往代寶物等成灰燃了、四月八日前權僧正成寶於神泉苑修請雨經法、十五日雨降、仍結願、廿二(六イ)日依件當任僧正、

長者僧正道尊 法務、

十一月十五日月蝕御祈一字金輪法、天陰雨降、十九日結願、蒙賞、以道全闍梨任權律師、

法印權大僧都親嚴 正月十四日轉權僧正(六十九)

御影供行之、執事親杲入寺、大輔、 七月十五日神泉御讀經、十八日雨降、十九日結願、賞本房隨心院加置阿闍梨二口畢、十二月廿四日灌頂、小灌頂隆昭、

法印權大僧都良遍

後七日法行之、加持香水閑院殿、三月廿二日神泉御讀經、廿五日雨澤普灑然、而善苗難秀、猶可延行之由被仰下、廿八日結願、件賞承久三年十二月卅日以權律師賢隆申任權少僧都、又七月六日同御讀經雨不降、十四日結願、

同二年 安居執事承忍、

長者僧正道尊 法務、

後七日法行之、加持香水閑院殿、去々年修此法、賞以良瑜左大臣良輔子、直申叙法眼、二月十二日金剛峰寺新建立堂遂供養、三月四日於禁中修五大虛空藏法、十一日結願、御影供行之、執事光祐入寺、十二月廿九日辭長者幷法務護持僧、依病也、

權僧正親嚴 十一月十八日於高陽院殿修如法愛染王法、結願蒙賞、以宣嚴闍梨任權律師、

法印權大僧都良遍 十月十日辭長者、未拜堂、

勝遍律師入室受法灌頂弟子、越中守顯成息、建久八年十二月廿三日蒙東寺小灌頂宣旨、同九年十二月十三日改東寺爲觀音院小灌頂、建仁三年五月十九日任權律師、寬遍、御祈賞讓、承元元年五月廿二日任權少僧都、灌頂身、四年五月十五日轉大、修明門院御熊野詣大僧正長嚴御先達賞讓、建保元

年五月廿六日叙法印、上皇護持身、承久三年十二月卅日募、去年三月神泉御讀經賞、以權律師隆賢申任權少僧都、寛喜四年八月廿一日口卒カ八十三、平結印契口誦密語、臨終正念云々、

權僧正覺敎眞乘院、

十月十四日加任五十四、良遍替、十二月廿六日拜堂、導師權律師親寛、咒願實俊僧都凡僧別當、御共僧綱二人、權少僧都寛濟法眼敎除、御前三綱四人、權上座相圓寺主兼慶、都維那全惠仙嚴、南庭打幄本供之時三綱一人加之、同日灌頂、小灌頂辨晏、下野、嘆德權律師尊遍、

同三年四年四月十三日改元、

安居之、依天下動亂不被行之云々、不審、酒肴送文在之、若不行法會歟、 六月十四日官兵與東夷合戰、官兵落畢、七月十五日後鳥羽後下向隱岐國、廿日順德御下向佐渡、廢帝同國、閏十月十日土御門院御下向土佐、十二月一日後堀河院即位、

長者僧正成賢

正月一日還着、長者超親嚴覺敎即寺務兼法務、六十三、九日執行、參賀高陽院御檀所、被物一重賜之、十七日被行寺務吉書同御所、廿日拜賀內裏御室、廿七日院御所、十一月七日被止寺務法務、安貞元年十二月十七日卒、六十九、別當惟房息、法印雅寶受法灌頂資、治承三年爲三會講師、廿一、養和元年重勤後二會講師、南都僧侶依被止公請有儀勤之、壽永二年三月廿三日任權律師、講師一、建久七年正月十三日轉權少僧都、律師一、正治元年正月十四日補元興寺別當、十二月日遷法隆寺、二年正月十二日轉權大僧都、九月十一日叙法印、後高野法親王二條殿御產御祈孔雀經法賞讓、承元四年四月廿一日補東大寺別當、建保元年八月八日神泉請雨經滿一七箇日、結願小雨時々灑、十二月卅日辭東大寺別當、補大安寺別當、三年六月廿日募去々年請雨經法賞、以親實申任權律師、承久元年四月八日于時前長者、神泉請雨經法七箇日、無効驗、二七箇日延行、十六日大降雨、即日結願、廿六日依件賞任正僧正、

權僧正親嚴

權僧正覺敎

後七日法行之、加持香水閑院殿、十二月廿九日灌頂、小灌頂、

大僧正道尊

閏十月廿四日轉大、十一月七日丙辰可爲寺 務之由

被下院宣、頭右中辨藤原經奉書、未被下官符、同日護持僧、十二月二日宣下云々、

長者大僧正道尊法務、

後堀河 貞應元年壬午 太元長海僧都、安居、、禎尊、

正月四日御元服御祈愛染王法行之、後七日法行之、加持香水大嘗會以前於南殿有之、十四日牛車宣下、四十八、廿六日募御元服御祈賞、以良瑜法眼任權大僧都、二月廿三日嵯峨釋迦堂、號淸涼寺、供養御導師、自卿二品宿所自南天門南一町計、步儀、先所守、次綱掌六人、次中綱八人、次前駈八人、此內有職二人、次三綱四人、次威從四人、次長者腰輿、次侍二人、色衆卅口、綱僧十八口、凡僧十二口、有舞樂、有御幸、十二月廿六日灌頂、小灌頂覺濟、

權僧正親嚴

權僧正覺敎

同二年 三年十一月廿日改元、安居能禪入寺、

五月十四日後高倉法皇崩、四十五、天下諒闇、

長者大僧正道尊法務、

後七日法行之、加持香水閑院殿御影供行之、執事禪貞入寺、月日募去年御禊御祈賞、以隆審申任權律師、

權僧正親嚴 十二月十九日灌頂、小灌頂任顯、

權僧正覺敎

元仁元年甲申 二年四月廿日改元、太元光寶僧都、安居、、定憲、

長者大僧正道尊法務、

正月十四日募貞應元年御元服御祈佛眼法賞以親寬律師申任權少僧都、此條兩度歟不審、

權僧正親嚴

後七日法行之、加持香水閑院殿御影供行之、倍膳定嚴闍梨、役送從僧、五月十八日神泉御讀經、廿四日雨降、廿五日結願、蒙賞以賢長律師申任權少僧都、

權僧正覺敎

閏七月九日神泉御讀經、十三日雨降、仍結願、蒙賞本坊眞乘院阿闍梨二口申置之、十二月十八日灌頂、小灌頂聖禪、觀音院、小灌頂隆澄、

嘉祿元年乙酉 安居、、大輔、、

長者大僧正道尊法務、御影供行之、十二月廿五日灌頂、小灌頂敎俊乞戒仁顯已講勤之、

權僧正親嚴

七月十三日神泉御讀經、雨降、十七日結願、蒙賞、廿一日以嚴海僧都轉大、或本云、八月卅日募祈雨御讀經賞以光嚴申任權律師、

權僧正覺敎
後七日法行之、加持香水閑院殿、
權僧正定豪華藏院、又忍辱山、
十二月晦日加任三長者、依臈次越覺敎、長者四人
僧正始例也、
同二年三年十二月十日改元、
長者大僧正道尊法務、
二月廿八日募承久元年御祈賞、以實俊少僧都轉
大、御影供行之、執事寬喜入寺、倍膳役隆審僧都、
役送定瑜闍梨、宗海闍梨、親長闍梨、範儆闍梨、中
綱取繼之、傳役送之有職、三月廿四日神護寺供養
導師賞、四月八日以親玄申任權律師也、衆三十
口、僧綱十五口、凡僧十五口、十一月廿二日遷着東大寺別當、
權僧正親嚴十二月廿五日灌頂小灌頂經寬、(但道尊大阿闍梨之由、有異說、可尋決之、)
權僧正定豪
後七日法行之、加持香水閑院殿、五月一日拜堂、
御共定親已講、御前三綱四人、二人長途、二人儲寺門、
權僧正覺敎
安貞元年丁亥
四月廿三日大内燒亡、十二月十五日興福別當僧正
實尊補法務、春日行幸賞、
長者前大僧正道尊法務、
後七日法行之、加持香水閑院殿御影供行之、五月
廿三日御齋會、御本尊御衣木加持賞上如御導師
賞以敎遍律師申任權少僧都、七月七日食堂千手
顚倒、八日凡僧別當恭殿下申入之、以寺家住進狀
付藏人左衛門權佐藤信盛御奏聞、
權僧正親嚴
十一月八日寄置阿闍梨三口於東寺西院、去建保
四年爲本寺盜人露顯、參籠當院御五大虛空藏法
賞、
權僧正定豪十二月廿六日灌頂、(初年、小灌頂寬耀)、
權僧正覺敎
同二年三年三月五日改元、安居、、忠禪、(伊賀)、
長者前大僧正道尊法務、
御影供行之、七月廿三日辭長者、廿八日辭東大寺
別當、於護持僧者猶不及上表、八月五日卒、五十四、
號西院、三條宮以仁御子二品親王、守護受法灌頂弟
子、建久四年十月一日補一身阿闍梨、十九、元文元
年五月廿七日直叙法印、廿、十二月卅日任權僧
正、建永元年三月十六日補東大寺別當、

權僧正親嚴
七月廿八日寺務法務被仰下之、七十八、八月三日成寺務吉書、六日護持僧宣下、延命御修法、大行事親果闍梨勤之、始例也、十一月廿七日申寄阿闍梨三於高野大塔、臨時朝恩也、十二月廿七日灌頂、小灌頂敎性、有嘆德、寬耀已講勤之、
權僧正定豪
後七日法行之、加持香水閑院殿、八月二日補東大寺別當、
權僧正覺敎
寬喜元年己丑
天永四年改永久十二月十七日甲子東寺灌頂寬助被行之、其儀、禮堂五箇間敷滿廣莚、每間懸花縵彩幡、正面間南面立高座、上張蓋爲說戒座、高座前左右立机三脚、置鈴杵灑水器等、其前立禮盤、在前机、爲乞戒座、東第一二同行敷高麗端、一行各三枚、南北妻西面南上、爲持金剛讚衆座、同第一間南柱下敷紫端疊二端二枚爲上卿以下辨等座、同第五間傍北柱東西妻敷高麗端疊一枚、爲大阿闍梨座、高座昇降間暫居之所也、當東第一間第五間、庭中南北行各敷紫端疊二枚、爲堂童子座、當第六間東柱東西行懸

御簾爲上卿以下休息所、已上本寺勤之、講堂西庭諸司曳幔、南北行二帖、更西折東西行十帖、其內立獨床子一脚、大阿闍梨料南北妻傍東緣、立長床子十脚讚衆料東緣爲諸僧集會座、時刻打集會鐘、僧侶參入着床子座、上卿右衛門督藤原忠敎卿、參議左大辨源重資卿、左中辨顯隆朝臣着堂上座、次衆僧前五位二人能登介藤原朝臣政仲、散位平朝臣鋏國、六位二人、治部丞代圖書屬平群佐時、番允代主水令史佐伯香國、玄前行威從四人、威儀師靜算兼俊、從儀師實嚴玲嚴、螺吹二人、讚衆十人、賢圓入寺含香源意、、、灑水宗位、、任賢、、敎授、後朝讚增俊阿闍梨敎授、宛觀入寺頭覺雅、、、記錄覺顯內供實範阿闍梨敎授、賴譽入寺敎授、此中讚頭二人各持鉢持鐃、次持金剛十六人、忠緣法橋、乞戒導師後朝唄、行暹阿闍梨、小灌頂賢尊依所勞俄辭退前、定額慶嚴請補之、長朝阿闍梨、唄、兼成阿闍梨、壇、宬朝阿闍梨、尊號嘆德、覺智入寺、尊號朝供養法、覺譽阿闍梨、定覺阿闍梨、觀惠阿闍梨、兼意阿闍梨、兼覺阿闍梨、尊號後散花、定海阿闍梨、範覺阿闍梨、散花、永嚴阿闍梨尊號、寬伊阿闍梨記錄、次乞戒導師、次持幡童二人、左右相分、次大阿闍梨乘輿、輿持二人、駕丁六人、弟子等隨輿後、又執綱五位二人、散位藤原朝臣風仲、相模權守藤原朝臣正經、取蓋六位一人、左兵衛尉、藤原親衆、執蓋行烈畢讚頭發音、打鉢到堂南砌留立、此間打鉢吹螺、大阿闍梨下輿昇自東第二間、暫居北柱座、次立玉幡、持幡童留壇下、十弟子傳取之、讚衆立堂南砌、不止鉢音、持金剛衆入堂、行道三匝畢、讚衆相共着

座、次大阿闍梨登高座、乞戒師忠緣法橋着禮盤、次唄師長朝發音、次堂童子、前伊賀守藤原朝臣孝清、前阿波守藤原朝臣邦忠、縫殿頭藤原朝臣信俊、散位藤原朝臣定仲、永雅、盛仲、出雲權守藤原朝臣資文、相模權守藤原朝臣正經、着座唄了、堂童子分花筥散花、師範覺起座到佛面發音、手持座眞機敷之立其上發音、唱了對揚堂童子納花筥退出、散花師歸着座、次乞戒師表白敎化畢、大阿闍梨授戒作法如常事了、大阿闍梨乞戒師等、各着本座、次引布施、上卿以下堂童子等役之、次諸僧退下、如卷上儀、上卿以下退、於僧衆、爲行灌頂事、今夜留于此寺、以行遐爲小灌頂阿闍梨、依宣旨也、抑花嚴三論法相天台、以三會之講匠定終身之榮望、眞言宗者旣隔此道、爰先帝堀河院御宇建尊勝寺、旁訪祕密之奥旨、被置灌頂之大會、適雖慕彼賞被相加他門、況乎山僧之監濫カ訴逐年無絕、然則且恐祖師之起請、且思門徒之昇進、殊致丹情、今遂素懷也、向後之輩爲知事趣、慭染禿筆、粗記大概而已、

小灌頂阿闍梨行遐生年八十一、久終練行之人也、被撰衆徒進賜其請、而再三辭退、尙不被免、若是世俗不叶之故歟、然者至于可入物者、從院廳可下給、莫固辭者、隨十一月廿二日己亥被下宣旨、同廿五日壬寅慭受請了、同廿九日丙午拜賀、前駈四人有草座居莒庶扶等十二月八日乙卯饗膳料下給之、播磨守長實朝臣沙汰者、是又於道爲面目、仍重記之、

永久二年甲子灌頂、十月廿日辛酉被行小灌頂、阿闍梨依爲最初、不待僧事可蒙勸賞之由、令申請、有御沙汰被召問外記之處、無行幸之時、臨時被行勸賞之條、无先例之由、所勘申也、左右御沙汰之間、後朝之日徒過了、退尙令申請之處、同十月廿七日戊辰遂以小阿闍梨行遐彼補權律師畢、爲後代、

應德塔供養

先人々集會灌頂院、次着幄、次大阿闍梨於中門乘輿着健院、縠子袈裟持大師五古、其間示人舞人幷十二天等立烈迎諸僧上堂、作法如常、上卿內大臣藤原師道、行事右中辨源基綱、關白幷上達部十餘人、塔北面烈座、但左右大臣依重服自宮東別宿所被座、去四月八日母義逝去故也、供養儀式塔西面也、仍行法之間、十二天面東着座、抑此御塔者、天喜延長イ年中爲雷火燒失、而右大臣奉爲善仁親王壽命長遠、以丹波守顯仲令造立、仍勸賞顯仲重任國司、行事內匠頭章經賜受領功、大士常行爵一級、大阿闍梨賞追可申請云々、

寬喜元年己丑

九月三日奉爲前七條院成等正覺、於當寺有御誦經
執行奉之、十二月十七日於禁中入道二品親王修孔（雀カ）
省經法、廿五日結願、勸賞無品親王令叙二品給、法
印良惠任權僧正、
（隨心院）
長者權僧正親嚴（法務、）
後七日法行之、加持香水閑院門、御影供行之、執
事性嚴入寺、（大和、）倍膳敎惠闍梨、
權僧正定豪
月日被止傳法院座主、依寺僧訴也、
權僧正覺敎
權僧正眞惠
四月廿七日兼宣旨爲長者、（六十七、）同廿日宣下、十二
月十日拜堂、御前三綱四人、（祿物當座、）十月廿八日慕（募カ）長
日御祈、勞以後嚴權律師任權少僧都、十二月廿七
日灌頂、（小灌頂忠遍、）
寛喜二年（安居、定宴、太元行嚴僧都、）
長者權僧正親嚴（法務、）
今年興行修講堂修正絕而年八云々、五月廿日慕（募カ）
去四月日蝕御祈賞、以朝遍闍梨申任權律師、十二
月廿一日爲天變御祈、於東寺講堂修仁王經供、廿
八日結願蒙賞、寄置阿闍梨三口於彼堂、十二月廿
八日灌頂、（小灌頂行淸、）
權僧正定豪（八月廿日東大寺拜堂、）
權僧正眞惠
後七日行之、加持香水閑院殿、御影供行之、執事
實祐入寺、
權僧正覺敎
同三年（四年四月三日改元、安居定傑辭退、別當俊嚴沙汰之、）
長者權僧正親嚴（法務、）
後七日法行之、加持香水閑院殿、二月九日中宮御
産御祈修五大虚空藏法賞、加置阿闍梨二口於隨
心院、廿五日轉正、（八十一、）良尊轉大替御影供行之、執
事祐親入寺、六月一日如法愛染王賞以嚴遍權律
師申任權大僧都、十二月廿二日灌頂、（小灌頂親果、）
權僧正定豪
權僧正眞惠
二月廿五日中宮御産御祈賞、申置阿闍梨二口於
金剛幢院、
權僧正覺敎

貞永元年壬辰 二年四月廿五日改元、安居辨嚴、
閏九月廿七日彗星出現、於禁中二品親王勤修孔雀經法、廿四日結願、勸賞、十月二日覺敎權僧正轉正、實瑜少僧都轉大、十月四日御讓位東宮、三歲、
長者僧正親嚴法務、
正月十三日去年十月日蝕御祈賞、以定尊申任權律師、二月廿二日蒙牛車宣旨、三月十六日仁壽殿觀音供本尊供養御導師勤之、則觀音供依別勅往不動後七日法、每月參勤之、十七日於禁中如法愛染王法蒙賞、九月廿二日以俊嚴僧都轉大、御影供行之、執事辨嚴入寺、但安居執事歟兩役尤不審、十二月二日轉大僧正、十二月廿七日灌頂、小灌頂隆詮、
權僧正定豪
後七日法行之、加持香水閑院殿、四月五日轉正、剩任云々、超任日上﨟覺敎、
權僧正眞惠
三月九日一條太相國禪門於北山成就心院三十七墳愛染王供中墳勤之、十月二日轉正覺敎轉正之間被付上﨟、園城寺圓淨僧正因轉正、
權僧正覺敎
十二月轉正 爲權僧正一之上、二品親王孔雀經法賞讓、

四條院
天福元年癸巳 二年十一月五日改元、安居顯性、(伊與)、
六月廿一日於法勝寺圓堂被修十壇愛染王護摩、中壇二品親王蒙賞、以權少僧都隆快轉大、以奝助闍梨敍法眼、九月十八日藻壁門院崩、三十五御座也、天下諒闇、
長者大僧正親嚴法務、
御影供行之、執事嚴海法印、六月廿二日爲祈雨於禁中修如法愛染王法、依法驗蒙賞、件賞嘉禎三年五月十三日以敎性律師轉權少僧都、十一月十日爲天變御祈於東寺講堂修仁王經法、十八日結願蒙賞、十月十五日木像御影被安置西院御經藏之內、先年之比依宿願奉造立之云々、委細在曆記、十二月廿七日灌頂、小灌頂能禪、
僧正定豪
僧正眞惠
後七日法行之、加持香水閑院殿、
僧正覺敎
文曆元年甲午 二年九月十九日改元、
八月六日後堀河院崩、廿二、天下諒闇之間、當寺八幡

放生會延引、石淸水者依爲城外、爲宮寺沙汰如形執行之、舞スマイ略之、不及勅使、六條若宮同延引、九月十五日當寺放生會、但行講經許、御中陰之間神樂スイマ猶略之、御子等雖參伏拜于砌、

長者大僧正親嚴法務、

後七日法行之、加持香水閑院殿、御影供行之、五月廿八日以院宣募金輪法八箇度賞、以隆嚴闍梨申任權律師、十二月廿五日灌頂、小灌頂實位、

僧正定豪

七月日辭長者幷東大寺別當、自關東進辭狀之間、八月京着、

僧正眞惠

僧正覺敎

嘉禎元年乙未

長者大僧正親嚴法務、

後七日法行之、加持香水閑院南殿、御影供行之、三月十八日於禁中修仁王經法、蒙賞、追嘉禎二年五月十八日以宣嚴少僧都轉大、六月廿九日補東大寺別當、賴惠卒替、十一月廿一日爲東寺修造被寄肥後國畢、十二月十八日辭大僧正之上、募去天福元年仁王經法賞、以嚴海法印權權大僧都任權僧正、同日寒御祈賞、以勝心申任權律師、高野執行任權律師始例也、

僧正眞惠

八月六日於土御門堀河御所、後堀河院一周忌萬荼羅供御導師參勤之、色衆三十口、右大臣實氏以下臨法莚、十二月廿九日灌頂、小灌頂憲元、

僧正覺敎

同二年

長者前大僧正親嚴法務、

御供行之、八月二日御影供、執事可爲門從僧綱之巡役之由、被申置、

官符云、

左辨官下東寺、

應令門徒僧綱等每年勤行灌頂院弘法大師影供事、

右得彼寺去六月廿七日奏狀、偁、謹稽舊規、當寺者桓武天皇建大伽藍於帝都之南、祈四海八埏之靜謐、弘法大師ト阿蘭若於佛閣之右、餝二密兩部之壇場、寔惟國家鎭護之仁祠、佛法繁昌之靈地有

也、而大師天長之冬朝凌霜雪而入孤山、承和春摹（暮カ）座燒霞而閉禪窟、以降庭松悲而歷年、園華憂而依舊、公家之賜謚號也、灌頂休龍象避世之恨、遺弟之致傷嗟也、豈唯無龜獺致報之懷固、茲延喜年中觀賢僧正不堪遺風之難忍、每迎忌景之忽臻採山茗於南澗、拾林菓於甲宅、使就當寺灌頂之道場、新奠大師遺身之眞影、尊師之儀再盛、如在之禮永存、其後定額僧等各守其巡、互勤此役、慇懃之志隨分無懈、加之講堂安居之齋席者、邦家護持之御願也、又爲彼巡役同勤其執事、而近年件輩其身尫弱、其力叵覃、或雖有入寺之名、不隨本寺之役、或稱無檀那之訪、不抽蘋禮之誠、巡役及闕怠之時、寺家加催促之刻、修錬稽古之論輩、雖有志離本寺、學業器用之僧侶、依無力去所職、然間每年之勤臨期而闕、謂其云爲難責嚴整遺德之表徵職而由斯、是則以過分之兩役付定額之所致也、伏考本願祖師遷化之日、自門僧綱追福之例、東大寺僧正堂會者、良辨僧正忌日修之、延暦寺六月會者、傳敎大師遠忌日行之、園城寺十月會者、智證大師入滅之朝勤之、自餘之例不遑毛擧、今之影供其何不然乎、訪彼蹤跡寔足因准、抑又他門縱無先規、專寺豈不興行哉、其故如何、我大師者淸涼殿論談之莚勅駄放光、乾臨閣修法之砌眞龍現貌、祕密之効驗奇異難測、而而今門葉各傳其法樂、國華悉移彼群英、是則居銀漢而酌法水之師、出自十善萬乘之餘波矣、昇綱維而挑惠燒之輩、忽追一日九遷之遺塵焉、竊思四輩之聲價寧非曩祖之加被乎、其恩同于海嶽、誰不報酬、其勤比于涓露、誰致逋避、若寄事於縱橫、無故出故障者、且永被止公家之致請、且宜被放自門之交衆、蓋爲誡傍輩肅後昆之故也、望請鴻慈被下綸旨、以門從僧綱等、爲每年巡後令勤行灌頂院影供者、後素之眸縱不瞬、遙垂照覽於兜率之月、傅丹之唇縱不言、定開微咲於座禪之雲、不朽之御願與日月共懸、長生之聖運將天地無動者、權中納言藤原朝臣定雅宣、奉勅、使請者、寺宜承知依宣行之、

嘉禎二年八月二日　大史小槻宿禰在判

右中辨藤原朝臣在判

嘉禎二八月六日、於東寺講堂修仁王經法、以件賞役後

嘉禎三年三月九日被寄置阿闍梨、於本坊密花園

院、嘉禎二、十一月二日卒、八十六、長日延命法本尊奉渡
八條東洞院弘誓院、彼法爲無斷絶也、飛騨前司入
道子、掃部頭中原廣季朝臣猶子、尊念僧都灌頂
資、顯嚴僧都受法灌頂弟子、文治三年正月十三日
蒙東寺灌頂宣旨、正治元年正月十三日任權律師、
灌頂勞、元久元年五月下七日任少僧都、承久四年四月
廿五日五壇法大威德賞以嚴海申任權律師、建曆
二年正月十五日叙法印、建保二年正月十七日轉
權大僧都、御祈勞、

僧正眞惠
後七日法行之、加持香水閑院殿清涼殿、二月廿八
日於月輪殿被行後一條下周忌、法事萬荼羅供導
師色衆、廿日左相府以下公卿着座、十一月二日護
持僧宣下、卽可修長日延命法之由被仰下畢、非寺
務長者修此法始例也、同四日補東大寺別當、十二
月廿六日灌頂、小灌頂定憲、

僧正覺敎

大僧正定豪
十二月廿四日寺務法務宣下、八十五、自關東上洛遲々
之間、五十餘日無寺務之仁、去年十二月廿八日轉
大僧正、腰居之人也、仍出仕之時者乘敷皮、

法印權大僧都行遍 菩提院參河又尊勝院 十二月廿六日加任、(五十六)

同三年 四年十月一廿三日改元、太元成嚴僧都、

長者大僧正定豪
二月十八日還補傳法院座主、以法眼良全轉權少
僧都、七月二日件座主讓定親法眼、十月廿六日於
西院寺務吉書行之、十月廿七日護持宣下、延命法招眞惠
行之、長日金輪法始行之初例也、同日牛車宣下、

僧正眞惠
正月十四日募去年後七日法賞、以賴學闍梨任權
律師、八月廿四日九條前攝政御願八幡山上法花
三昧堂供養導師、色衆十二口、當山寶塔院供養例
也、自供養之日被置不斷之勤、

僧正覺敎

法印權大僧都行遍
後七日法行之、加香持水閑院殿、三月廿日拜堂、御
前三綱四人、權上座濟後、寺主全惠、都維那賴嚴、
權都維那聖瑜、御影供行之、執事定豪、大僧正親
嚴去年十一月入滅、灌頂資權少僧都嚴遍、已講尊
嚴圓章親某等、禁忌五箇月、中御影供出仕、依先例也、

自十月廿七日修長日尊勝法三壇御修法之外、定豪修金輪法之冋爲四壇、仍今一壇被修加之、十二月廿七日灌頂、(小灌頂濟慶、)

暦仁元年(戊戌)(二年二月七日改元、安居定用、)

長者大僧正定豪

法務、三月十六日高野拜堂、四月十八日辭大僧正、以良全權少僧都轉大、以定宗闍梨任權律師、三月十九日高野大塔供養之色衆百五十口、七月廿日募去年月日蝕御祈賞、以範乘闍梨申任權律師、之月十四日募後七日二箇年賞、以定染申任法眼、九月廿四日卒、(八十七、)前侍從民部權少輔源延俊息、法印良豪受法灌頂弟子、元暦二年五月十七日叙法橋、(卌四、)建仁三年五月十九日轉法眼、隆口口口承元三年五月廿二日轉法印、文治御元服御祈愛染王俊澄賞讓、承久元年五月十七日任權大僧都、(臨時、)三年十一月日補熊野三山新熊野檢校、月日爲高野山傳法院座主、貞應二年三月十七日任權僧正、

僧正眞惠

九月十五日可爲寺務之由被仰下之、十月三日被成寺務吉書、十一月廿三日大僧正法務宣下、被裁極宮於一紙之條、少比類者也、是先師延杲大僧正去建久十年貽此例、仍遂(逐カ)其跡所被仰下也、廿八日於講堂修仁王經法、十二月五日結願日蒙賞、東寺修造事隨申請有勅許、此門跡修此法始例也、

僧正覺敎

後七日法行之、加持香水大炊御門萬里小路里亭、三月十八日辭僧正幷長者、五月廿三日以房圓權大僧都叙法印、以齋助法眼任權少僧都、

法印權大僧都行遍

御影供行之、執事眞惠僧正、五月廿三日任權僧正、超自他門數輩、十二月廿六日灌頂、(小灌頂朗覺、)

權僧正嚴海

三月十八日加任三長者、覺敎替、四月廿八日拜堂、導師定憲、已講咒願定敎闍梨、(凡僧別當代、)扈從三人、遵嚴僧都、時嚴律師、嚴範闍梨、皆鈍色吾帖、

延應元年(己亥)(二年七月十六日改元、安居圓嚴、)

二月廿二日後鳥羽法皇於隱岐崩、(六十、)三月十九日大塔供養、一長者大阿闍梨、百五十口、十月廿五日禪定殿下於東大寺御受戒、和尚覺敎、

長者大僧正眞惠法務、月日般若寺別當、

後七日法行之、十三日牛車宣旨、十四日加持香水、次拜賀參內、先所守二人、持素枝、次綱掌六人、次中綱四人、源眞、圓尊、賀後、圓慶、次前駈六人、次三綱二人、權守生經延、仙毀、次威儀師二人、從儀師二人、次長者車、綸綱代長物見、懸下簾、牛童二人張綱、搯牛童持之、從僧三人、正月廿一日寅刻卒、七十七、右少將源通能子、延杲入室、上是弟子、能意法印弟子、建久九年十一月十九日爲東寺凡僧別當、正治元年九月廿三日任律師、廿七、大僧正延杲日蝕御祈賞讓、建仁三年二月十七日任權少僧都、延杲辭大僧正申任之、承元二年七月廿三日轉權大僧都、建保二年正月十七日叙法印、元仁元年十二月四日前太政大臣北山堂號西園寺、供養導師、二品親王色衆廿口、北白河院安嘉門院有臨幸、公家差中使修達嚫、一門三槐九棘、太政大臣公家左大臣公繼已下參會、誦經導師眞惠參勤、追有賞、權少僧都覺昭轉大、安貞二年十月廿日前太政大臣西園寺愛染王堂號成就心院、供養導師參勤之、色衆十二口、自今日始不斷行法、建保六年十二月廿九日中宮御產五壇法大威德法賞、以眞惠申任權律師、

貞應元年月日爲石山座主、嘉祿二年五月廿七日任權僧正、大僧正道尊止職申任之、

權僧正嚴海

御影供行之、執事覺敎前大僧正、倍膳隆喜闍梨役、

權僧正行遍送從僧、

七月五日入道攝政所惱祈尊勝法賞、以權少僧都寬耀申任權大僧都、

前僧正覺敎

正月廿一日寺務、幷護持僧宣下、前官長者第三度別也、廿三日兼法務、二月九日還任僧正、八月廿八日轉大、月蝕御祈依法驗蒙賞、五月九日東寺神護寺高野各阿闍梨一口中寄之、十月日高野拜堂、十二月廿九日灌頂、小灌頂堯圓、

僧正良惠

八月廿日加任三長者、去三月一日補東大寺別當、

仁治元年庚子

太元寬海律師、

今年炎旱神泉御讀經、長者四人皆辭退、仍任永久勝覺之例、非長者前權僧正實賢七月八日始行之、第二三日雷雨、其後無雨氣、依例延行之、十八日未刻大

雨、其後連日雨降、十九日結願、勸賞阿闍梨三口申
置本所醍醐尊師影堂畢、

長者大僧正覺教 法務、
五月廿七辭大僧正、六月十二日牛車宣旨臨時、九
月日辭表者、讓（護カ）持僧野性弟子、內大臣實房子、建
久五年七月廿一日叙法眼、元巳講印性大僧都神
泉御讀經賞讓、元久元年十月十五日任權大僧都、
二品親王卿三品堂 安樂心院、 供養導師賞、正治二年二
月日任權少僧都、二品親王轉法輪法賞讓、

僧正良惠
六月十二日轉大、覺教替、二長者大僧正始例也、九月十六日寺務法
務宣下、護持僧自元被仰之間、被渡延命法、十一
月廿二日拜堂、一長者之後拜堂始例也、導師法印權大僧都親
寬、咒願權少僧都定位、凡僧別當、扈從二人、權大僧都
實位、權律師忠海、御前三綱四人、吉書執行、祿當
座如常、十二月卅日辭大僧正、以道乘大僧都 孫王也、
任權僧正、

權僧正嚴海
後七日法行之、加持香水閑院殿、御影供行之、執
事良惠、六月十二日轉正、十二月廿六日灌頂、小灌頂、
卅日家御祈勞、以經嚴申任權律師、但無尻付、

權僧正行遍 十二月卅日轉正、
醍醐
權僧正實賢 十二月卅日還着權僧正、加任長者、

同二年 安居圓俊、
三月十七日相承御袈裟、爲宣陽門院御願間、修復被
所出之、四月十日被返納之、

長者前大僧正良惠 法務、
正月七日辭東大寺別當、定親補之、御影供行之、執事行
遍、正月二日勤主上御元服御祈、蒙賞、四月十六
日入道博陸於東寺傳法灌頂寺家賞、以當寺別當
權少僧都定位申任權大僧都、六月廿三日於神泉
孔雀經御讀經三箇日以後改之、同廿六日於東寺
灌頂院行之、第四五兩日大雨、卅日結願、蒙賞二
箇條、藏人左少辨定賴仰之、牛車宣旨今日以僧事
次被仰之、同賞十月七日以良禎法印權大僧都任
權僧正、祈雨賞二箇事、保元寬遍例也、十六日募去正月御元服御祈
賞、以實位權大僧都叙法印、

僧正嚴海
六月十四日於神泉孔雀經御讀經五箇日、不雨降、
二箇日申延之、猶不降、又三箇日申延之、遂不雨

降、仍第九日結願、

僧正行遍

四月八日補法務、十六日入道博陸於東寺灌頂院傳法灌頂、大阿闍梨勤之、十七日於後朝御仰賞、仁和寺傳法會衆一﨟限永代隨闕可被任權律師、于時靜範爲其巡被任之、爲未長者被用相承道具、

權僧正實賢

後七日法行之、加持香水閑院殿、六月十三日募清瀧御讀經賞、以教性權大僧都叙法印、九月七日辭長者、十月七日轉正、同日募去六月淸瀧御讀經賞、以禪海法眼申任權少僧都、寛治三年定賢法務兩度修祈雨法而次度無賞（一年中兩度勤仕之故也）、於今度之兩度蒙賞、（但他人申度勤仕無効驗、仍殊有息賞者歟）、曆仁元年八月廿八日任權僧正、延應元年十月辭之、以教性申任權大僧都、

法印權大僧都仁惠

十月七日加任、十二月廿五日拜堂、御前三綱四人、同日灌頂、（小灌頂、）去四月十七日入道博陸灌頂、、、賞、以定位轉權大僧都、有端爲之如何、

仁治三年（四年二月廿六日改元、安居成承、）

正月九日天皇崩、（四條院、）廿日即位、（廿二、邦仁、後嵯峨、）九月十二日順德於佐渡崩、（四十六、）

長者前大僧正良惠（法務、）

後七日法行之、但關白一時也、不及結願退出、（依四條院御事也、）二月廿三日辭長者、

僧正嚴海

二月廿日寺務、廿九日成寺僧吉書、三月廿九日仰護持僧、御影供行之、執事實賢僧正、四月廿五日補法務、

（仁治三）僧正行遍

法印權大僧都仁惠（十二月廿二日灌頂、小灌頂行憲、）

法印前權大僧都定親（十二月廿九日權法務自元帶之、加任前官長者第三度也、）

寛元元年（癸卯）

長者僧正嚴海（法務、）

正月十二日依高野喧嘩辭長者、五月卅日辭僧正、建長三年四月廿五日卒、（七十九、）刑部卿賴經子、前大僧正親嚴灌頂資、承元四年四月廿八日任權律師、親嚴大威德法賞讓、建保五年十二月廿九日任權少僧都、親嚴後七日法賞讓、嘉祿元年七月廿一日任權大僧都、親嚴神泉御讀經賞讓、寛喜二年五月廿日叙法印、嘉祿元年十二月十八日任權僧正、親

嚴辭大僧正之上慕去天福元年仁王經法賞申任之、

僧正行遍

正月後可寺務處、依爲傳法院座主本寺不許、此間延命法誰人哉、御影供行之、執事良瑜前大僧正、鎌倉、去正月寺務辭退之後無寺務之仁、仍御影供可被任長治例歟之由、寺家奏聞之處、院宣云、

御影供事、任長治之例爲寺家之沙汰、早可令遂行者、被仰下之旨如此、仍執達如件、

三月十九日申刻　勘解由次官判奉顯雅

東寺執行法眼御房

云長治之例者、依無末長者以色衆一臈勤仕供養法、至今度者可被催末長者乞之由、重奏聞之處、院宣云、

御影供爲寺家沙汰已催具云々、大阿闍梨早可令勤仕給之由、所被仰下候也、仍執啓如件、

三月廿日辰刻　勘解由次官顯雅上

謹上三川僧正御房

郎領狀畢、十二月十七日募中宮御産御祈如法愛染王法賞、以權大僧都嚴遍申叙法印、

法印權大僧都仁惠

正月十三日任權僧正、十二月十七日灌頂小灌頂後權大貳、

法印前權大僧都定親權法務、

後七日法行之、加持香水冷泉殿、六月廿八日拜堂、扈從內大臣巳講定濟、御前三綱四人、權上座濟後、寺主長扶、權寺主賴嚴、權都維那眞勝、

前大僧正良惠

六月廿日重任法務護持僧、同七月十九日二間初參、十月二日高野拜堂、

同二年安居殿助、

長者前大僧正良惠法務、

後七日法行之、加持香水冷泉殿、御影供行之、執事仁惠權僧正、十二月廿四日灌頂、初年小灌頂、當日參□□□參議左大辨經光、辨、左小辨親賴、後朝布施取公卿、經光、長門寺藤三位顯氏、殿上人隆範朝臣、越前之司前兵衛佐行家朝臣、高長朝臣、邦經、雅綱、雅廣、藏人公卿手長下家司手長季能、

僧正行遍

權僧正仁惠

六月十三日神泉御讀經、九箇日之間灌雨降、不及

普潤、仍廿五日結願、
法印前權大僧都定親權法務、
八月廿五日 募去年後七日法賞、以權少僧都守海
申叙法印、
同三年
長者前大僧正良惠法務、
四月十三日於 講堂修仁王經法、去二月客星出現
之御祈也、件賞被寄置阿闍梨五口於講堂、五月十
八日募護持勞以賞後申叙法眼、
僧正行遍
後七日法行之、加持香水閑院殿、
權僧正行惠
御影供行之、執事聖基權僧正、勸修寺、
法印前權大僧都定親權法務、
同四年五年三月廿八日改元、
三月廿一日卽位、久仁、
長者前大僧正良惠法務、
御影供行之、執事勝尊權僧正、山本松殿息、十二月廿四
日灌頂、小灌頂、
僧正行遍

正月十三日募 去朔日蝕御祈賞、以權大僧都敎遍
申叙法印、六月十九日神泉御讀經、廿三日廿五日
雨降、行事辨爲勅使有叡感、仍結願、蒙賞、以心海
任權律師、
權僧正仁惠
後七日法行之、加持香水閑院殿、
法印前權大僧都定親
後深草院
寶治元年丁未
長者前大僧正良惠法務、
御影供行之、執事道快僧正、東南院、六月廿九日於東
寺灌頂院爲祈雨修孔雀經法、七月一二兩日降雨、
三日又降雨、仍不滿七箇日結願、賞五日以權僧正
道乘轉正、今一箇條同三年以此賞、阿闍梨申叙
法印、
寶治元
僧正行遍
後七日法行之、加持香水閑院殿、
權僧正仁惠
七月十六日卒、七十三、安藝守隆親入道子、仁隆僧都灌
頂資、建保三年勤東寺灌頂、七年正月十四日任
權律師、灌頂一、安貞元年五月廿三日任權少僧都、先

師仁隆御祈賞讓、嘉禎元年十二月十八日叙法印、
權僧正良惠大佛頂法賞讓、延應元年八月廿八日
任權大僧都、
法印前權大僧都定親權法務、
十二月廿九日灌頂、小灌頂實祐、去十一月廿九日舍兄土
御門前内大臣薨、禁忌中行之、
醍醐僧正實賢十二月廿四日還補二長者、在官符、三年二月十八日改元、安居祐遍大輔、
同二年
長者前大僧正行遍法務、良惠歟
三月三日辭寺務、同日募去年五月蝕御祈賞、以賢
性申任權律師、募護持勞以經乘叙法眼、
僧正實賢
後七日法行之、加持香水閑院殿、御影供行之、但
不、執事道乘僧正、十二月廿九日寺務、法務同之
元護持僧歟、
僧正行遍
三月廿八日轉大、卽寺務、廿九日兼法務、四月四
日仰護持僧、十二月廿六日灌頂、小灌頂定雄、十二月日
高野與傳法院合戰之間、閏十二月廿九日被止寺
務畢、法橋仁尊子、後高野御室灌頂資、行延法眼
入室弟子、建曆三年閏九月廿六日任權律師、去建
曆元年二品親王大、北斗法賞讓、承久二年二月十
五日任權少僧都、入道二品親王仁王經法賞讓、建
長元年七月廿七日辭大僧正、同五年十二月廿二
日法勝寺阿彌陀堂供養咒願勤之、六年月日募去
建長四年普賢延命法賞、以權大僧都任遍申叙法
印、文永元年十二月十五日卒、八十四、
法印前權大僧都定親權法務、
隨心院法印權大僧都宣嚴閏十二月廿九日加任、六十一、
建長元年己酉安居行擧、宮内卿、
二月一日閑院内裏燒亡、
長者僧正實賢
後七日行之、加持香水大炊御門萬里小路、綱所三
綱以下初召具、十三日綱所參賀幷吉書、三月十九
日拜堂、御影供行之、執事道勝僧正、七月廿七日
轉大、主上御藥御祈、於禁中修普賢延命法賞、九
月四日卒、七十四、右馬頭基輔息、成寶灌頂資、嘉祿二
年二月廿九日任權少僧都、寬喜二年三月廿三日
任權少僧都、杲海大僧都興福寺講堂御佛開眼賞
讓、貞永元年十月二日叙法印、賢海轉法輪法賞

讓、嘉禎三年二月廿一日任權大僧都、五壇法內降三法賞、同四年八月廿八日任權僧正、延應元年十月廿九日辭權僧正以教性僧都申任大僧都、仁治元年七月八日於神泉修請雨經法、于時非長者、永久勝覺例也、第二三日雷雨、其後無雨氣、依例延行、十八日未刻大雨、其後連日雨降、十九日結願、勸賞申置阿闍梨三口於醍醐尊師堂畢、同十二月卅日還任權僧正加任長者、寛元二年六月廿六日於神泉修請雨經法、廿七八兩日雨降、被行賞、以法印勝尊申任權僧正、同日辭僧正、以權律師定俊申任權少僧都、同三年七月十二日還任僧正、日蝕御祈賞、同四年正月十三日募日蝕御祈賞、以權少僧都定淸申敍法印、同日同賞行遍僧正申々々如何可勘之、寶治元年四月廿日補護持僧、五月廿二日募月蝕御祈賞、以靜舜申任權律師、同日以去年祈雨賞申寄阿闍梨二口於淸瀧宮、同六月九日於神泉苑修請雨經法、今度二七日不雨降、十一月廿九日募中宮御祈如法愛染王法賞、以權律師經舜申任權少僧都、爲醍醐座主、主寺務長者事、定海以後十八代中絕、今度繼絕云々、

隨
法印權大僧都宣嚴
三月六日拜堂、十月卅日任權僧正、五壇法內降三世法賞、
今熊野
法印前大僧都定 權法務、
十二月廿六日灌頂、小灌頂宗眞、
前大僧正良惠
九月六日又重任長者幷法務、第三度初例也、十月卅日募五壇法中壇賞、以權大僧都定位敍法印、以權少僧都賴譽任權大僧都、
同二年庚戌 安居琳曉、(高雄)月日後嵯峨天皇御熊野詣、初度山伏實幸法印、
長者前大僧正良惠
權僧正宣嚴
後七日法行之、加持香水冷泉殿、御影供行之、執事同兼之、始例也、依爲長者越末役々上首俊嚴云云、大阿闍梨布施略之、十二月廿日灌頂、
法印前權大僧都定親權法務、
同三年辛亥
長者前大僧正良惠法務、
御影供行之、執事俊嚴權僧正、五月廿八日辭寺務、關白兼實息、後高野法親王道法弟子、元久二

年五月廿四日直任權少僧都、承元二年五月廿三日叙法印、後高野法親王上皇御祈五大虛空藏法賞讓、同十二月廿九日補一身阿闍梨、承久元年十二月十三日補東宮護持僧、寬喜元年十二月廿九日任權僧正、二品親王禁中孔雀經法賞讓、天福元年十一月三日仰護持僧、嘉禎元年十二月十八日募大佛頂法賞、以權少僧都仁惠申叙法印、同二年十一月廿三日募五大虛空藏法賞、以權律師實俊申任權少僧都、同四年三月十八日轉僧正、同五月廿三日募去年月蝕御祈賞、以法眼實位申任權少僧都、延應元年三月一日補東大寺別當、建長三年（辭寺務後、）六月募護持勞、以權律師仁基申任權少僧都、正元元年九月廿七日募春宮御元服御祈賞、以權律師定承任權少僧都、文應元年三月廿日募護持勞以公聖申叙法眼、文永三年十一月十八日募蓮（四月廿七日供養）花王院御、、賞、以權少僧都定承申任權大僧都、四年九月廿四日以去弘長三年普賢延命法賞、以權少僧都乘基申叙法印、五年十一月廿四日卒、（七十七、）

權僧正宣嚴

正月十三日募去年後七日法賞以權少僧都嚴惠申叙法印、八月廿七日卒、左大辨宣房息、親嚴灌頂資、承久三年三月廿九日任權律師、寬喜三年二月廿五日任權少僧都、中宮御產御祈五壇法內軍茶梨法賞嚴海讓、延應元年八月廿八日叙法印、

法印權大僧都定親（權法務、）

後七日法行之、加持香水冷泉殿、十二月十六日灌頂、（小灌頂、）

權僧正俊嚴

五月廿一日加任二長者、十一月廿七日拜堂、吉書寺主永勝、

（上乘院）大僧正道乘

五月卅日直位一長者幷法務、去廿六日轉大僧正、六月日護持僧、八月十九日拜堂、々々以後二日初參、

同四年

九月二日（安居禪長、）（寅刻）灌頂院炎上、年中十二月十六日供養造立灌頂之次有供養、

長者大僧正道乘

八月十四日蝕御祈不現法驗嚴重也、十月十二日

募護持勞以權大僧都仁敎申叙法印、

權僧正俊嚴

後七日法行之、加持香水閑院殿、御影供行之、執事聖寳權僧正、(東南院、)六月廿日修神泉御 讀經、廿一日以後連日降雨、廿四日結願、十月十三日轉正御讀經賞、

法印前權大僧都定親(權法務、)

自五月廿二日宸勝講證義、東寺長者兼顯宗、久安寛信、建曆成寳等也、十二月十六日灌頂、

同五年

長者大僧正道乘(法務、)(安居賴玄、)(美乃)、

後七日法行之、加持香水閑院殿、御影供行之、執事定親法印、八月十六日辭大、同日募去年月蝕御祈賞、以法眼經乘申任權少僧都、

僧正俊嚴

法印前權大僧都定親(權法務、)

御影供執事勤之、依爲長者越末役上方房圓勤之、八月十六日任權僧正、十月廿八日辭法務、以權少僧都定顯任權大僧都、十二月廿六日灌頂、

法印權大僧都房圓

五月十九日加任、爲修神泉御讀經也、廿六日任權僧正、御讀經賞、依臈次(超越)定親爲第三、

同六年

長者前大僧正道乘

僧正俊嚴

十一月廿九日卒、宰相俊經子、親嚴灌頂資、建保四年五月廿五日任權律師、五壇法親嚴賞讓、寛壽元年十月廿八日任權少僧都、眞惠僧正長日御祈賞讓、貞永元年九月廿二日轉大僧都、親嚴僧正如法愛染王法賞讓、嘉禎三年正月十三日叙法印、建長元年五月廿八日任權僧正、神泉御讀經賞、正嘉元年九月廿二日以公嚴任權律師、故俊嚴僧正御祈賞、正嘉元年十二月廿一日以尊嚴叙法印、去建長六年六月月蝕御祈、故俊嚴讓、正元元年九月廿七日以範瑜叙法眼、去建長六年大宮院 御産御祈如法愛染王法賞、故俊嚴讓、

權僧正房圓

正月十四日募去 建長四年軍荼利法賞、以權大僧都盛致申叙法印、十一月十一日拜堂青書、權上座相秀、御前三綱四人、權上座永勝、寺主宣祐、權寺

主成快兼祐、
權僧正定親
後七日法行之、加持香水閑院殿、御影供行之、執
事房圓權僧正、十二月十八日灌頂、小灌頂殿請大夫、
成就院權僧正實瑜十二月十一日加任三長者、
同七年八年十月五日改元、
長者前大僧正道乘法務、
十二月廿四日灌頂、初年小灌頂定有辨、
權僧正房圓
權僧正實瑜
十二月廿七日拜堂吉書、權上座永能、御前三綱四
人、權上座相秀、寺主宣祐、權寺主成快、都維那眞
勝、
權僧正定親
後七日法行之、加持香水閑院殿、正月十四日蒙去
年十二月十五日月蝕御祈賞、以定宗任權大僧都、
御影供行之、執事實瑜權僧正、
康元元年丙辰 二年三月十四日改元、安居源朝、侍從、
長者前大僧正道乘法務、
御影供行之、執事隆澄權僧正、理智院、四月廿七日蒙

護持勞、以權少僧都忠海申任權大僧都、八月廿五
日仁壽殿觀音御衣木加持勤之、
權僧正房圓
後七日法行之、初年加持香水閑院殿、御前三綱二
人、權寺主兼禪、權都維那深範、十二月廿一日灌
頂、小灌頂、
權僧正實瑜
權僧正實瑜月日補醍醐座主、
正壽元年丁巳 安居源朝入寺、
二月廿八日五條內裏燒亡、
長者前大僧正道乘法務、
御影供行之、執事報恩院憲深僧正、十二月廿六日灌頂、小灌頂能
海、
權僧正房圓
權僧正實瑜
後七日法行之、加持香水閑院殿、十月十二日辭長
者、
權僧正定親
七月十日修神泉御讀經、十四日雨降、其後連日雨
降、八月十一日蒙、去四月十四日月蝕御祈賞、以

權律師定憲申任權少僧都、
法印權大僧都隆助（鳴瀧、十月十二日加任實瑜替、）
同二年（三年三月廿六日改元、安居明暇、(伊與)太元兼惠、）
長者前大僧正道乘（法務、）
二月二日辭寺務、賴仁親王御子、良惠弟子、嘉祿
四年三月十八日直任權大僧都、仁治元年十二月
卅日任權僧正、良惠辭大僧正任之、二年十月七日
辭權僧正、以忠海權律師申任權少僧都、寶治元年
七月五日轉正、良惠祈雨孔雀經法賞讓、建長三年
五月廿六日轉大僧正、正嘉二年九月廿七日（寺務得替）
以後、募去康元元年仁壽殿觀音御衣木加持賞、以乘
雅申任權律師、文應元年正月十四日募去年東二
條院御産御祈五壇法中壇賞、以法眼公聖申權少
僧都、建治三年五月廿九日募去文永十年異國御
祈大佛頂法賞、以權少僧都有信申叙法印、同年十
二月十一日入滅、（五十九、）
權僧正房圓
二月三日寺務宣下、仰護持僧、三月高野御幸參會
蒙賞、以法眼房助任權少僧都、理趣三昧御導師、
檢校良覺叙法眼、又被寄阿闍梨三口於大塔、則以
此次拜堂、七月廿日仁壽殿觀音供養參勤之、有
賞、以深助申叙法眼、九月廿七日轉正、十一月廿
五日灌頂、（小灌頂成承、上綱、）
權僧正定親
十一月廿七日轉正、去年神泉御讀經賞、乃超實
瑜、
法印權大僧都隆助
後七日法行之、加持香水閑院殿、（但無加持香水、）御前三
綱二人、（權上座永勝、寺主宣祐、）有廻文如何、九月廿七日任權
僧正、
權僧正實瑜
二月六日還補長者爲二長者、定親轉正後又爲第
三、御影供行之、執事道融僧正安井、
正元元年（己未）（二年四月十三日改元、）
五月廿二日閑院殿燒亡、十二月廿八日卽位、（龜山、恒仁、）
長者僧正房圓（法務、）
御影供行之、執事隆助權僧正、十二月廿五日灌
頂、（小灌頂、）
僧正定親
後七日法行之、加持香水閑院、四月十五日月蝕御

祈勤之、効驗有賞、
權僧正實瑜
正月十四日轉正、爲二長者、十月十日募去建長八年御産御祈如法愛染王法賞、以權律師覺譽申任權少僧都、
權僧正隆助 十二月四日拜堂、
龜山院 文應元年庚申 二年二月廿日改元、安居印遍、七月十日成慶法師他界(執行也)、
長者僧正房圓 法務、
御影供行之、執事眞乘院宥助僧正、五月五日辭寺務法務、十八日募法務替、以成瑜權少僧都轉大、皇太后宮大夫成經息、覺教灌頂資、貞應二年三月十九日任權律師、入道二品親王孔雀經法賞讓、寛壽元年十月廿一日任權少僧都、印性僧正興福寺供養御佛開眼賞讓、嘉祿元年十二月十八日任權大僧都、僧正覺教日蝕御祈賞讓、四年五月廿三日叙法印覺教辭僧正、幷長者申叙之、建長元年十月卅日募軍荼利法賞、申寄阿闍梨二口於住房眞乘院、
僧正實瑜
後七日法行之、御即位以後依未被始御祈、被略加持香水、內論義了、仍御道具十四日入御本寺、三月卅日募大北斗法賞、以權律師顯暹申任權少僧都、五月十八日寺條法務宣下、文補護持僧、八月三日募普賢延命法賞、以權大僧都道俊申叙法印、十二月廿八日灌頂、小灌頂 定融、
僧正定親
三月卅日東寺修造賞、以權律師定寳申任權少僧都、七月十七日宗性補東大寺別當、
權僧正隆助 三月卅日辭長者、
僧正道勝
三月卅日加任、同日募普賢延命法賞、以法眼寛勝申叙法印、十二月九日所司初參於高雄納涼坊有此義、
弘長元年辛酉 安房 章遍、
長者僧正實瑜 法務、
御影供行之、執事親寛前權僧正、寳持院、十月廿二日辭長者、侍從公仲子道助親王弟子、承久三年閏十月廿四日任權律師、嘉祿三年五月廿三日權少僧都、貞永元年十月二日轉權大僧都、二品親王孔雀經法賞讓、嘉禎二年十一月廿二日辭大僧都、以行

惠申任權律師、同四年五月廿三日叙法印、正應元年八月廿八日還任權大僧都、寛元元年六月廿日摹中宮御産祈大威德法賞、以權少僧都禪海申任權大僧都、建長五年五月廿六日摹大威德法賞、以覺譽申任權律師、同六年正月十四日任權僧正、文永元年七月六日卒、六十四、

僧正定親

十月廿二日寺務法務護持僧、十二月廿六日灌頂、小灌頂行讐、後朝手長宗慶法師假名眞敬、非中綱、

勝 僧正道勝

後七日法行之、加持香水、五條大宮里內、若宮又蓮藏院

權僧正實深

三月三日加任、十月十一日拜堂、導師淸寛阿闍梨、兕願嚴盛大僧都、于時凡僧別當、吉書寺主宗圓、于時五﨟也、御前三綱四人、權上座永勝、寺主宗圓、權寺主兼神、權都維那永宗、

前權僧正隆澄十月廿九日還任權僧正、加任三長者、

同二年

長者僧正定親法務、安居長辨、

御影供行之、執事實深權僧正、手長役中綱等依申子細被放之、被補新中綱畢、五月廿五日寂勝講證義參勤之時、被聽陣中腰輿、十二月十八日灌頂、小灌頂覺弘、觀音院良澄、後朝饗役人二人師、上座信快、備中、上座教舜、手長、、法師、假名慶念、長者中間、長座饗役中綱勤之、同布施役人教舜、手長假名慶勝、非中綱、五月被與行舍利會、十二月廿六日摹皇后宮御産御祈五壇法中壇賞、以權大僧都定宗申叙法印、同日辭長者法務、內大臣通親公息、定豪灌頂資、行遍重受嘉祿元年勤維摩講師、同三年五月廿三日叙法眼、公請勞、寛喜元年十月廿八日任權少僧都、三會一、同三年勤御齋會重講、天福元年十二月廿九日轉權大僧都、嘉禎元年十二月十八日叙法印、公請勞、仁治二年正月八日補東寺別當、同十月十六日補權法務、文永元年七月廿八日於萬里小路仙洞修仁王經法、爲彗星御祈也、護摩壇仁基法印勤之、同十月廿一日摹五壇法中壇賞、以權大僧都仁基申叙法印、文永三年九月九日口卒カ六十四、同四年十二月卅日摹去弘長三年五壇法故定親僧正賞、以親範任權律師、弘安五年三月十三日摹故定親僧正仁王經法賞、以定賓叙法印、

僧正道勝
十二月廿六日轉大、補法務、卽寺務、又御護持僧、
同日募東二條院御產御祈如法愛染王法賞以權少
僧都俊耀申叙法印、
權僧正隆澄
後七日法行之、加持香水富小路里內、十二月廿六
日轉正、
權僧正實深
法印前權大僧都定濟十二月廿六日加任、于時權法務、
同三年四年二月廿八日改元、
長者大僧正道勝法務、
三月廿日拜堂吉書、上座恩暹、一臈、御前皆參、十一人、
長途也、拜堂以後二間初參云々、御影供行之、執
事良基權僧正、五月三日於灌頂院傳法灌頂、受者
道耀、御前四人、寺主兼禪、權寺主良賀、源範、都
維那眞祐、
僧正隆澄
僧正實深
十二月廿六日灌頂、初年、小灌頂印勝、覺弘、觀音院養勝、役
者三人、手長新中綱

法印前權大僧都定濟權法務、
後七日法行之、加持香水二條殿、御前三綱二人、
權上座永勝權都維那永宗、
文永元年甲子
七月廿八日僧正定親於萬里小路仙洞、彗星御祈修
仁王經法、
長者大僧正道勝法務、
御影供行之、執事定濟法印、加賀、六月廿二日於神
泉修祈雨御讀經、次同廿九日於東寺灌頂院修孔
雀經法、伴僧廿口、七月三日雷雨甚、四日結願、賞
追被申寄阿闍梨二口於高野山、十二月廿四日灌
頂、小灌頂賴耀、觀音院印勝不待巡年死去、
僧正隆澄
十一月廿六日拜堂吉書、一臈恩暹、御前三綱四人、
權上座永勝、相秀、權都維那永宗、全範、食堂本佛
拜之後不出正面、直至聖僧前、又直着座誦經、物
母屋東南角置之、不打幄、布代二百文、七月日依
彗星御祈五壇法中壇參勤之、當十月廿一日申置
阿闍梨二口於理智院、
權僧正實深

後七日法行之、加持香水二條殿、御前二八、權上座宣祐、權寺主良賀、十月廿一日辭長者幷權僧正、申置阿闍梨二口於蓮藏院、中納言公國子、憲深僧正灌頂資、元仁二年三月廿三日叙法眼、敎嚴止權少僧都申叙之、嘉禎三年正月十三日任權少僧都、同八月廿八日轉權大僧都、仁治二年十月廿八日叙法印、建長八年四月廿七日募大威德法賞、以權律印公惟申任權少僧都、正元二年三月卅日任權僧正、建治三年九月六日卒、七十、

法印前權大僧都定濟權法務、
十一月八日募去年淸瀧宮御讀經賞、以法眼俊譽申任權少僧都、十二月十四日拜堂吉書、權上座相秀、御前四八、權上座宣祐、權寺主良賀、權寺主深範、都維那眞祐、
前權僧正道融十一月廿一日轉任僧正、加任三長者、

同二年
長者大僧正道勝法務、安居俊瑜、
月日辭大、十二月十九日灌頂、小灌頂定乘、觀音院　隆淳
不待巡年死去、
僧正隆澄

正月朔日蝕御祈、小雨降蝕不現、二時以後天晴、法驗殊勝々々、御影供行之、執事盛敎法印、權大僧都宰相、宗聖法印、前權大僧都依辭退被放門徒籠居畢、

僧正道融
後七日法行之、加持香水二條殿、御前三綱權上座永勝權都維那全範、
法印前權大僧都定濟權法務、

同三年
長者前大僧正道勝法務、
三月十二日高野拜堂、四月廿七日蓮華王院供養咒願勤之、五月廿法務○南按二字衍、辭長者法務、太政大臣實氏子、道助灌頂弟子、天福二年月日補觀音院阿闍梨、件阿闍梨五口現住之間、爲被補之、一口被寄加之、尤爲規模、嘉禎元年十二月十八日叙法眼、二年五月十八日任權少僧都、同十一月廿六日轉權大僧都、延應元年十一月叙法印、寶治三年正月十四日任權僧正、廿八、建長四年十月廿三日辭權僧正、正嘉元年九月廿二日任僧正、文永三年十月廿一日、寺務得替之後、募護持勞、以權少僧都賢助申叙

法印、五年三月廿三日爲異國降伏御祈於東寺被行仁王經法勸賞追申請之、十年七月十三日卒、(五十二、)

僧正隆澄

五月廿八日寺務法務護持僧、十月十六日蒙去年正月朔日蝕御祈賞、以權少僧都深乘申任權大僧都、今年本中綱還補、十一月日辭長者法務、同十七日卒、(八十六、)五品長信息金剛定院御室灌頂資、元仁元年勸觀音院小灌頂、寬喜元年任權律師、(東寺灌頂但不)、嘉禎二年五月十八日轉權少僧都、延應元年十月廿七日轉權大僧都、仁治元年十月卅日敍法印、建長七年十二月十九日任權僧正、正嘉二年五月廿四日辭權僧正、

僧正道融

十一月廿八日蒙日蝕御祈賞、以權律師寬智申任權少僧都、十二月五日寺務法務護持僧、廿五日拜堂幷二間初參、同日灌頂、(小灌頂房賢、)觀音院信聖、

法印前權大僧都定濟(權法務、)

後七日法行之、加持之五條里內、綱所幷三綱以下被召具之、御影供行之、執事範乘法印任關東、

(眞乘院)

權僧正賴助(五月廿八日加任三長者、道勝辭退替、)

前權僧正隆助

十二月五日還補長者幷權僧正、隆澄替爲第二、(安居賴有、十二月九日前大僧正聖基入滅、東寺一門不任長者圭大僧正、寬曉例也、)

同四年

長者僧正道融(法務、)

二月日蝕御祈、日輪維現蝕不現、仍被仰賞云々、御影供行之、執事定濟權僧正信膳役深(乘二位、)役送增林房、都維那林寬、鈍色白裳指貫五帖袈裟、長座布施取三人執事儲之、侍從權都維那、少納言權都維那、、、鈍色白裳指貫五帖袈裟、所繼大童子、五月卅日蒙月蝕御祈賞、以權律師義慶申任權少僧都、

權僧正隆助

後七日法行之、加香持水大宮里內、[　]之、同日灌頂、(小灌頂深乘、)二觀音院影海、

權僧正賴助

十二月廿六日拜堂、御前四人、本供役三綱一大被加之、同日灌頂、(小灌頂深乘、)二位觀音院影海、

法印前大僧都定濟(權法務、)

正月十四日任權僧正、四月廿四日補東大寺別當、

理恭經替、五月卄日募文永二年五月月蝕御祈賞、以權
律師公嚴申任權少僧都、
同五年　安居朝惠、三月廿三日爲異國御祈、道勝於東寺講堂修仁王經法七箇(〇按日脫歟)伴僧廿口、
長者僧正道融法務、
權僧正隆助
權僧正賴助
後七日法行之、加持香水五條里內、安祥寺蝕御祈
正現御影供行之、執事道寶權僧正、倍膳房雅二位、闍
梨、十二月十五日灌頂、小灌頂亮繼三位、今年有
小灌頂、嘆德三可立莚道之由、數度(〇度歟)雖被責伏、
申子細之間、寺家觸申云、建永元年十二月廿四日
小灌頂有嘆德、莚二行色衆、其後中細職墨烈立莚
道、然而三綱不烈立之由申之、仍不被立三綱、今
年觀音院小灌頂嚴瑜籠居之間、被止巡勞畢、而亮
繼房舜昇進之後嚴瑜以巡一昇進畢、
權僧正定濟權法務、
同六年
長者僧正道融法務、
月日吉祥院塔供養御導師、自天神門勅正烈、先職
掌六人、次綱掌、次中綱四人、次三綱二人、都維那祐經、都維那祐圓、次長者手輿、荷輿丁着赤狩衣、次扈從僧綱着
鈍色、侍三人着鈍色小袈裟下緒深沓、次大童子鎌
取等左御輿邊、
權僧正隆助
權僧正賴助
十二月廿四日灌頂、小灌頂聖瑜、觀音院房舜信膳
房雅二位、闍梨手長侍林定房、上座圓兼乘善房、寺
主後算圓音房、寺主恩快土左、都維那定增、役中間
練行房良寛眞亮房命眞、御重(童カ)子右王丸、門王丸、
權僧正定濟
後七日法行之、加持香水五條里內、依日吉神輿事
被略御論議畢、御影供行之、執事聖兼權僧正、東南院、
長座布施取二人、執事儲之、林寛房成尊、林禪房
亮、後四月七日募東大寺御幸賞、以權律師聖禪申
任權少僧都、五月廿六日募去年淸瀧宮御讀經賞、
以權少僧都經舜申敍法印、
同七年　安居親瑜、四月廿日寅刻塔婆炎上、非累火非會雖思云々、
長者僧正道融法務、
後七日法行之、加持香水五條里內、御影供行之、
執事勝信權僧正勸修寺、五月廿日轉大、十二月廿二

日灌頂、小灌頂房憲、

權僧正隆助

五月廿日轉正、日蝕御祈勤之効驗、

權僧正斉助

五月廿日轉正、去文永五年神泉御讀經法賞、

權僧正定濟

五月廿日募 去文永四年東大寺御幸賞、以兼濟申任權律師、閏九月四日募去文永五年之賞、

同八年

長者大僧正道融 法務、

後七日法行之、加持香水二條御前、權上座眞祐、權都維那明法、御影供行之、執事道朝 教令院 權僧正、十二月廿一日灌頂、小灌頂遍宗、觀音院圓曉、

僧正隆助

僧正斉助 八月日蝕御祈正現、

權僧正定濟

同九年

正月十一日法皇御惱、御室性助如法愛染王法、伴僧十口、隆助斉助兩護摩、此外法不知其數、二月十五日申刻六波羅南方輔 式部大夫、被打、二月十七日 後嵯峨法皇崩、五十二、

長者大僧正道融 法務、

後七日法行之、加持香水二條里內、御影供行之、執事道耀權僧正、七月六日神泉御讀經、第六日廿雨降、有賞、後日十月廿二日以練融大僧都叙法印、十一月二日東寺爲異國降伏御祈始行佛眼法、

僧正隆助 七月十五日月蝕御祈、正現、

僧正斉助

八月一日蝕御祈、正現、十二月十九日灌頂、小灌頂源遍、大藏卿觀音院實撲、

權僧正定濟

法皇御禪僧、勝賢僧正例也、仍不勤長者役、

同十年

長者大僧正道融 法務、

後七日法行之、加持香水二條里內、二月十一日彗星御祈於禁中修仁王經法、勸賞申寄阿闍梨三口於蓮花光院、御影供行之、執事敎雅法印、大藏卿、十二月十六日灌頂、小灌頂聖秀、觀音院、源遍、廿五日兼東大寺別當、

僧正隆助

五月廿七日募文永七年日蝕御祈賞、申寄阿闍梨三口於高野山、七月依神泉御讀經辭退被止職畢、終不被行灌頂、隆衡大納言子、光臺院御室灌頂資、寛喜元年十月廿一日直叙法眼、嘉禎二年十一月廿二日任權少僧都、仁治元年十二月卅日轉權大僧都、寛元〔元イ〕二年正月十一日叙法印、建長六年七月廿九日募大宮院御產御祈大威德法賞、以權少僧都雅賢申權大僧都、建治二年九月辭僧正、弘安元年七月九日卒、六十六、

僧正脩助

七月廿七日神泉御讀經、廿八日雨降、有賞、後日八月十六日以成瑜大僧都叙法印、

權僧正定濟

六月廿四日請瀧御讀經結願、雨降、有賞云々、七月十六日月蝕御祈、不現、依賞廿八日轉正、十二月日讓醍醐座主於前權僧正道朝、

〔勸修寺〕僧正道寶

九月廿二日加任二長者宣下、去七月十日爲非長者修神泉請雨經法、十七日結願日大雨降、勸賞廿八日轉正、十二月十五日月蝕御祈、大雲隱而不見、

同十一年〔十二年四月廿五日改元、安居昊隆、〕

正月廿五日帝退位、三月廿八日卽位、〔本院、世仁、〕十月五日蒙古國軍兵侵對馬國、廿日於鎮西合戰、本朝軍士敗北、卽夜〔夷カ〕夾賊退去、神之冥助也、

長者大僧正道融

御影供行之、執事祐豪法印、〔任關東民部卿、〕上首敎親能禪勤仕安居頭之間、今年當其巡、布施取二人、致聞房寺主淨仙房也、正月十七日募護持勞、以弘舜申任權律師、七月十三日水天供勤之、長者三人幷檢校宮、十一月二日於東寺爲異國御祈被行佛眼法、

僧正道寶

後七日法行之、加持香水二條殿、二月日辭勸修寺長吏、權僧正勝信卽補檢校、六月望蝕御祈勤之、

僧正脩助

十二月廿九日灌頂、小灌頂定證、觀音院圓祐、

〔萬里小路殿〕僧正定濟

建治元年〔乙亥〕〔安居闕如、別當寛智大僧都沙汰之、各紙十帖也、〕

長者大僧正道融〔法務、〕

後七日行之、加香水二條殿、御影供行之歟、執事法

印權大僧都賴譽、中納言、六月一日蝕御祈正現、十二月廿四日高野拜堂、廿一日進發也、
僧正道寶十一月月蝕御祈正現、
僧正賴助
十二月廿九日灌頂、小灌頂元瑜、定然辭退替、觀音院新譽、
僧正定濟
自十一月一日立坊御祈修愛染王法、
同二年　安居榮濟、䆄、
閏三月五日御室於大聖院爲蒙古御祈令修孔雀經法給、伴僧一長者幷三長者勤之、十二日結願勸賞法印守助被補法務、
長者大僧正道融法務、
御影供行之、執事任宗法印轉十月十一月イ辭大僧正、十二月七日廿五日イ辭東寺別當、同十二日䒭御元服御祈愛染王法賞、以融信申任權律師、
僧正道寶
十二月十八日蒙寺務兼宣旨、同日觀音院灌頂行之、小灌頂榮能、
僧正賴助
閏三月仙洞廻御修法之間、御所押小路殿炎上、仍御祈於長者本坊修之、一不、灌頂行之、小灌頂能信、
僧正定濟
後七日法行之、加持香水二條殿、四月望蝕御祈不現、可有賞云々、
同三年　四年二月廿九日改元、安居能守、
長者前大僧正道融法務、
正月十日被召寺務、太政大臣公經子、御室道助弟子、無品親王道圓入室弟子、嘉禎四年三月十八日叙法眼、延應元年七月五日任權大僧都、不經少僧都、寬元元年正月十二日叙法印、同三月廿五日補一身阿闍梨、正嘉元年九月廿二日補法務、同十二月廿一日任權僧正、同二年二月十日辭法務、文永元年五月十八日辭權僧正、弘安元年六月廿七日寺務得替之後、補仁和寺別當、同二年正月十四日募護持勞、以教尊申任律師、同四年閏七月十五日卒、五十八、
僧正道寶
正月十一日寺務法務宣下、又爲護持僧被渡延命法、同十二日爲異國降伏御祈參籠太神宮三十箇

日云々、三月廿日二間初參、同日仙洞尊勝荼羅尼供養御導師參勤之、御影供行之歟、執事隆喜法印、（二位、）四月月蝕御祈法驗、五月十二日綱所參賀吉書、惣判被行之、十二月十二日募去文永九年月蝕御祈賞以法眼忠勝申任權少僧都、

僧正宥助

七月廿五日水天供三壇之內勤之、十二月九日灌頂、小灌頂宗勝、不得巡年被殺害了、觀音院寛承、

僧正定濟

後七日法行之、加持香水二條殿、御前權上座宣祐、寺主深範、

法印權大僧都了遍

正月十八日加任宣下、十月一日蝕御祈、陰雲覆、雨降、蝕不現有賞、

弘安元年（戊寅）（安居闕如、長者御沙汰、太元寛伊、八月廿日塔婆造營始之、）

長者僧正道寶（法務、）

正月十四日轉大、去年四月月蝕御祈賞超任日上﨟宥助定濟、同廿二日拜堂、御前六八、（恩還、相秀、朝增、有秀、眞祐、祐賢、）五月廿一日募先年月蝕御祈賞、以榮意申任權律師、六月廿六日補大安寺別當、七月四日辭寺務、十二月辭大僧正、左大臣良輔息、光明峯寺入道殿下猶子、成寶僧正弟子、寛典阿闍梨灌頂資、嘉祿三年五月廿三日補一身阿闍梨、貞永元年四月六日叙法眼、文曆元年勤三會講師、嘉禎二年勤御齋會重講、同三月十九日任權大僧都、（御齋會重講賞、）四年五月廿三日叙法印、文永五年正月十四日任權僧正、六月廿八日補法務、七年四月廿五日帝瘧病御祈修愛染王法、効驗、以此賞後日以榮尋闍梨任權律師、同九月月蝕御祈、雨下蝕不現、九年十月廿二日募六字法賞、以權少僧都道淳申叙法印、弘安二年正月十四日（長者得替之後、）募五大虛空藏法賞、以權律師深兼申任權少僧都、同四年三月十五日補東大寺別當、同八月八日卒、（六十八、）自四月廿五日於禁中修五大虛空藏法天變御祈、有賞、是何年號哉、

弘安四年八月七日卒、（六十八、）

僧正宥助

三月日宸筆心經供養御導師勤之、御影供行之、執事定宗法印、（二位、）七月六日寺務法務宣下、十一日護持僧宣下、十二月廿八日灌頂、小灌頂房基、觀音院行盛、

僧正定濟
正月十四日薨去 建治三年四月月蝕御祈賞、以權
律師定演申任權少僧都、
法印權大僧都了遍
後七日法行之、加持香水 二條里內、御前 能狀宗
憲、
法印權大僧都賴譽（普成佛院中納言）
七月五日加任起丁 遍爲第三、八月十五日月蝕御
所正現、
同二年
五月日石淸水神輿入洛、翌日奉渡當寺八幡拜殿、
長者僧正睿助（法務、）
正月日爲異國降伏御祈進發太神宮、御影供行之、
執事定俊法印、（宮內卿、）自今年三人護持僧三壇御修法
輪轉於禁中可勤行之云々、
僧正定濟
恒例灌頂行之、（小灌頂兼信、）觀音院 小灌頂嚴深、十一月
二日薨神泉御讀經賞、以定曉申任權律師、
法印權大僧都賴譽
正月八日拜堂、御前深範、能快、快禪、宗憲、事記

後渡眞言院、後七日法行之、加持香水、萬里小路
里內、御前（朝秀、深範、）同十四日任權僧正、二月十六日月
蝕正現、
法印權大僧都了遍
八月十四日月蝕御祈、暫時之間隆（降カ）□有勸賞、
十月十九日任權僧正、
同三年
長者僧正睿助（法務、）
後七日法行之、加持香水萬里小路里內、御前、（眞祐、能快、）加持香水 遲參之間、頭右兵衛督爲世 催促之
處、大僧正所望不達者不可參勤之由、被申之、仍
先被行僧事、聞書到來之後轉大、及曉天參內、同
日舍弟敎助列伴僧轉任 權大僧都、御影供行之
歟、執事了遍權僧正八月十日辭寺務、入道右大臣
實親子、金剛定院御室灌頂資、房圓僧正弟子、天
福元年六月廿八日叙法眼、二品親王愛染王護摩
中壇賞讓、嘉禎四年五月廿三日任權少僧都、覺敎
辭僧正幷長者申任之、仁治元年十二月卅日任權
大僧都、寬元二年五月廿七日叙法印、正嘉三年正
月十四日 任權僧正、弘安三年八月十四日（寺務得替之後、）

慕護持勞以圓猷已灌頂申權律師、四年正月十四日慕仁壽殿觀音供養賞、以行雅申任權律師、同閏七月廿五日補仁和寺別當、六年正月十四日慕轉法輪法賞、以權大僧都敎助申叙法印、同十二月七日慕去年二月五壇法中壇賞、以權大僧都嚴清申叙法印、正應三年十二月廿六日卒、（七十四、）

僧正定濟

八月六日至寺務、八月被仰護持僧、十日法務宣下、八月廿五日新女院御產御祈、五壇法中壇勤之、但不吉無賞、十二月十三日灌頂、小灌頂賴曉、觀音院祐深、

權僧正賴學

八月十五日月蝕御祈、皆虧正現、十二月七日卒、中納言賴資子、眞惠灌頂弟子、嘉禎三年正月十四日任權律師、眞惠僧正嘉禎二年後七日法賞讓、建長元年十月卅日任權大僧都、前大僧正良惠五壇法中壇賞讓、七年十二月廿九日叙法印、

權僧正了遍

二月二日拜堂吉書、相秀御前恩遲、朝秀、相秀、能快、宗憲、慶範、

（勸修寺）僧正勝信（八月六日加任二長者、宣下、）

（勝寶院）僧正道耀（十二月（十一イ）八日加任三長者、賴譽替、）

同四年

六月十三日爲異國御祈、御室於大聖院令修孔雀經法、伴僧廿口、廿口結願、賞同十二月廿九日實寶法印權大僧都補法務、

長者僧正定濟（法務、）

正月十九日爲異國降伏御祈參向太神宮、御影供行之、執事守助權僧正、五月十六日轉大、六月二日爲異國降伏御祈、於當寺西院修不動法、十八日結願、廿二日於講堂當修仁王經法、伴僧廿口、十月十三日灌頂、（小灌頂能有父死去之間、代官隆成勤之、本名隆雅、）觀音院隆辨、十月廿二日天台座主前大僧正公豪入滅之後、長日如意輪法被修之、日來延命法勤仕之上也、是土御門院御代覺成僧正例也、爲宗左爲面目、十二月十一日慕仁王經法賞、以權少僧都通海叙法印、

僧正勝信

後七日法行之、加持香水萬里小路里內、御前祐增、有賢、二月日爲異國降伏御祈、參籠不出寺、八

月四日補東大寺別當、
僧正道耀
閏七月日蝕御祈、陰雲覆而不現、有勸賞、申寄阿闍梨、二口於高野奥院、
權僧正了遍
同五年　安居賴驗、校寮、十二月廿三日執行(二位)行嚴僧都他界、淸寬(中納言)僧都補之、敎俊八歲也
長者大僧正定濟法務、
後七日法行之、加持香水萬里小路里內、御前、朝秀、眞祐、御影供行之、執事能嚴法印、宮內卿住關東、十月三日卒、內大臣定通子、定親弟子、寬元元年勤三會講師、二年十月廿六日叙法眼、三年九月廿七日任權少僧都、三會巡、寶治元年五月廿二日任權大僧都、公請勞、建長五年五月廿六日叙法印、公請勞、八年六月十八日補醍醐座主、正元二年三月卅日補法務、前權僧正憲深如法愛染王法賞讓、弘長元年八月三日募去正嘉元年淸瀧御讀經賞、以弘義申任權律師、
僧正勝信
八月六日募去文永四年如法愛染王法賞、以權少僧都賴助申叙法印、十二月十九日二間初參、十月十四日寺務法務宣、護持僧同之、
僧正道耀
權僧正了遍
七月日蝕正現、十二月廿五日灌頂、小灌頂能有、觀音院定隆、
五智院法印權大僧都深寬
十月十七日加任、十二月八日拜堂、吉書恩還一﨟、官府上座相秀、御前權上座相秀、權寺主眞祐、權都維那快禪、權都維那宗憲、
同六年　安居、禪信、
長者僧正勝信法務、
後七日法行之、加持香水近衛室町里內、御前、都維那能快、權都維那成覺、綱所幷東大寺々官被召具之、依召參二間、相承御袈裟有叡覽、五月十日九イ拜堂、自弘誓院導師嚴盛法印、吉書執行淸寬、御前四人、權寺主眞祐、都維那能快、都維那祐增、都維那有賢、長途供奉畢、東大寺仕丁六人、路次之間被召具之、自當寺門內被止之、被用職掌畢、導師法印權大僧都嚴盛咒願、五月十八日於禁中勤行如法愛染王法、結願日於南面有御加持、當座被行勸賞、以聖濟任イ闍梨申叙權律師、六月十五日月蝕御祈、正現、十

十七イ
二月十日轉大、廿八日御室御灌頂嘆德勤之、御前
二人、權上座朝秀、眞祐、十二月廿六日五イ灌頂、小灌
頂良壽、相模、當寺小灌頂禁忌之間、以明年觀音院
小灌頂被移之云々、觀音院潵遍、

僧正道耀 正月六日所司初參、

權僧正了遍
御影供行之、執事定寶 法印權大僧都、宰相、三月廿
六日於菩薩院授灌頂於深俊闍梨、

法印大僧都深寛
正月十四日蕞去年十二月 蝕御祈賞、以權律師定
乘申任權少僧都、

同七年 甲申

長者大僧正勝信
安居闕如、長者御 沙汰、但執事名代勝然權 少僧
都、御影供行之、執事靜嚴權僧正、四月廿日辭寺
務、於護持僧者猶帶之、同廿二日參勤仙洞北斗法、
又於禁中奉仕愛 染王護摩、廿三日藏人頭大藏卿
忠世街綸旨來壇所 御可爲加護持僧之由、去職之
後爲護持僧先蹤、翌日忠世送賀札畢、光明峯寺入
道殿下息、聖基前大僧正灌頂資、道寶弟子、寛元
三年五月十八日 直任權少僧都、寶治二年閏十二
月廿九日轉權大僧都、建長三年三月十三日 叙法
印、文永六年五月廿六日任權僧正、建治四年正月
十四日轉僧正、弘安九年二月七日 寺務得替後、募護持僧
勞以權少僧都深兼申叙法印、同十年 五月廿三日
牛車宣下、同七月四日卒、

僧正道耀
正月五日所司初參、後七日法行之、加持香水二條
里内御前、朝秀、眞祐、二月 廿六日 轉大、四月 廿二日寺
務、於宣下者相州逝去之間可爲三十箇日以後、仍
准長者宣也、閏四月十一日補法務、同廿二日被仰
護持僧、十月日大宮院 新御所冷泉殿鎮宅勤仕之
成功、幷賣兩條相兼、辭律師二人申之、敎守覺全
任之、十二月廿二日 拜堂自覺王院、針小路通角嚴盛法印坊、自
寺通拜堂初例也、導師嚴盛法印、吉書維催恩暹、
臨期不出仕之間、執行淸寛俄勤之、同日灌頂、小三位
灌頂正遍卿、誦經導師大輔權少僧都祐遍敟、戒阿
闍梨章遍末座也、二間初參被仰護持僧云々、

權僧正了遍 二月廿六日轉正、
法印權大僧都深寛 二月廿六日任權僧正、(五十九)

鳴瀧又相應院
權僧正守助 閏四月十一日加任 三長者、(四十六)

同八年 安居宗惠、(二位)自今年始以勞可任權律師之由、被定畢、此上不可遁御影供執事者哉、

長者大僧正道耀

正月十四日辭大、二月八日院尊勝茶羅尼供養御導師勤之、御前四人、權上座朝秀、權寺主眞祐、權寺主能快、權都維那慶範、各被物一重、代百五十疋、中綱四人、各布二段、段別廿疋、職掌六人、各布一段、段別同、三綱中院飯一具、代二百疋中中綱中具代百疋、職掌中一段代廿疋、任蓮花王院供養之時例、被遂寺家畢、安居執事昇進、院宣云

東寺定額僧無其人云々、早撰補其人可令勤仕、御願且任被申請、或募巡勞、或賞法咒三箇年一度可被任權律師、永爲恒規、宜勵後昆者、院宣如此、仍執達如件、

二月十一日　權中納言具房 當寺上卿也

謹上長者前大僧正御房

長者御敎書云、

安居敎事永　宣旨律師事、院宣遣之候、尤可被納置當寺寶藏之由、内々候也、恐々謹言、

弘安八 十一月廿四日　權律師敎守

謹上修理別當僧都御房

則初年執事宗惠八月十三日被任權律師畢、藏人治部少輔兼仲奉臨時宣下宗惠一人也、二月廿六日准后御賀七僧法會咒願、御前三綱六人、權上座朝秀、權寺主眞祐、能祐、權寺主能快、權都維那快禪、有賢、御影供行之、執事深覺權僧正、十月廿日高野拜堂、廿一日於山上奉都婆供養、色衆百五十人、十一月十四日辭長者、但御持僧猶帶之、入道大臣實氏子、大僧正道勝灌頂資、准三宮重受、寶治元年五月廿二日敍法眼、建長二年二月廿一日任權少僧都、六年正月十四日敍法印、文永六年三月二日補法務、七年八月七日任權僧正、今日辭法務、弘和二年十月十九日 正月十四日イ本 轉正、十一年三月廿八日於西園寺勤行普賢延命法、正應三年七月六日於禁中勤行大北斗法、十三日結願、有賞、以權少僧都實海任權大僧都、十九日宣下、五年七月十六日牛車宣旨、六年二月七日申拜賀、依爲前法務經奏聞召具威從以下、先例蒙此宣旨人刷行粧申拜賀自他門恒規也、而至一長者人、前大僧正道尊、覺敎、良惠、三代間、雖有先例不被遂其節、今被與廢尤爲壯觀、八月二日募去弘安六年坊御祈賞、以權少僧都深快申敍法印、永仁二年七月十七日於

禁中勤修普賢延命法、同廿四日結願、勸賞追可被申、嘉元二年十二月二日卒、

僧正了遍

十一月十六日寺務、十七日法務宣下、又補護持僧、十二月十五日拜堂、同日灌頂、小灌頂永尊、

權僧正深寛

後七日法行之、加持香水二條里內、御前快禪、宗憲、

權僧正守助 隨心院

前權僧正靜嚴 十一月廿六日加任宣下、（四十一）、安居豪兼、（治部卿）、

同九年丙戌

正月十四日轉大、去年五月月蝕御祈賞、二月廿九日於龜山殿尊勝茶羅尼供養御導師參勤之、御前權都維那祐增、權都維那慶範、御影供行之、執事實寶權僧正、四月廿三日辭大僧正、

長者僧正了遍法務、

權僧正深寛

十月廿六日轉正、去十六日月蝕御祈賞、十二月廿六日灌頂、小灌頂定憲（式部）、

權僧正守助

後七日法行之、加持香水二條里內、御前上座嚴增、權寺主能快、

前權僧正靜嚴

正月十四日還任權僧正、四月十五日月蝕御祈法驗、十一月廿六日轉正、

同十年 十一年四月廿八日改元、安居闕如、別當祐遍沙汰也、

十月廿日御讓位、

長者前大僧正了遍

二月廿四日高野拜堂、同日補東大寺別當、御影供行之、執事賴助權僧正、關東布施次年被引之、初例也、八月廿九日辭寺務、左大將實有息、大僧正行遍灌頂資、准三宮重受、仁治二年正月十四日叙法眼、寛元四年正月十三日任權少僧都、寛耀法印中宮御產御祈、軍茶利法賞讓、建長元年十月卅日任權大僧都、行遍辭大僧正申任之、正元二年三月卅日叙法印、文永七年正月十三日募去文永四年皇后宮御產祈、五壇法內大威德法賞、以賴耀已灌頂申任權律師、四月日帝瘧病御祈、五壇法內金剛夜叉勤之、建治二年十一月廿八日募金剛夜叉法賞、以寛實申任權律師、弘安十一年四月日寺務得替後、東大寺御幸賞、以

定春中任權律師、正應元年九月七日辭東大寺別當、嘉元二年八月十七日院御葉御祈、五壇法中壇勤仕之、

僧正守助

九月三日寺務、五日補法務、卅一日被仰護持僧、九月十五日月蝕御祈、正現、月日被仰新帝護持僧、十二月廿七日拜堂、長途導師能禪法印、吉書執行淸寛、御前三綱皆參、同日二間初參、同日灌頂、（小灌頂覺寳、嚴少輔、）誦經導師尭遍僧都、乞戒宗茶律師、別當法印隆澄、

僧正靜嚴

後七日法行之、加持香水二條里內、御前權寺主宗憲、權都維那祐禪、

權僧正深寛

正月十七日卒、（六十二、）正三位家信子、大僧正行遍灌頂資、建長元年十月卅日任權律師、法印寛耀五壇法內金剛夜叉法賞讓、康平元年十二月十七日任權少僧都、文應元年十二月十六日任權大僧都、文永三年十一月廿八日叙法印、前大僧正聖基皇后宮御產御祈、如法愛染王法賞讓、弘安五年十月十七日加任、

法印權大僧都覺濟（正月十四日加任、同十七日宣下、（三月十六日）十六イ 廿四イ）

權僧正賴助（九月廿五日加任三長者、）

正應元年（戊子）

（安居宗濟、闘諍之間終布施許沙汰之、関白中間者別當沙汰也、）

三月十五日卽位、十一月廿二日大嘗會、

長者僧正守助（法務、）

御影供行之、執事覺濟權僧正、三月廿七日轉大、八月三日辭大、十二月廿九日灌頂、（小灌頂覺寳、助經顯、）

僧正靜嚴（五月日被仰護持僧、）

權僧正賴助（八月三日轉正爲第二、）

權僧正覺濟

後七日法行之、依未被行御佛事、無加持香水內論義、

同二年

（安居支家、（高野）但関白者別當沙汰也、布施十一月廿四日遂之、）

二月彼岸太上天皇（龜山院、）御出家、御戒師了遍、七月十四日執行淸寛僧都死去、廿一日嚴伊阿闍梨補任之、

長者前大僧正守助

後七日法行之、加持香水萬里小路里內、正月十四日大僧正辭退替、以權少僧都定乘叙法印、御影供行之、執事有信權僧正、五月廿一日募護持勞、以

忠瑜直申任權大僧都、十月廿三日高野拜堂、十一月廿二日辭寺務、入道太政大臣實氏子、隆助弟、建長六年 正月十四日叙法眼、七年十二月廿九日任權少僧都、正嘉元年十二月廿一日任權大僧都、三年正月九日叙法印、法勝寺修正行幸檢校賞讓、建治二年閏三月十二日補法務、入道二品親王孔雀經法賞讓、弘安四年正月十四日任權僧正、今日辭法務、

僧正賴助

僧正靜嚴

十月廿日轉大、十二月六日寺務、護持僧自光帶之、廿七日拜堂、扈從覺喜法印、大納言、吉 書官符 執行嚴伊、御前三綱皆、○南按參脱歟同日灌頂、小灌頂賴賀、

權僧正覺濟 右大臣 咸德寺

僧正實寶 十二月六日加任三長者、

同三年庚寅 安居闕如、別當深兼關白中間沙汰之、純布施、次弟子兼勝爲執事可致其沙汰之由、雖申之終無沙汰也、

二月十一日太上天皇後深草院、法名素實、落飾、七月六日於禁中道耀修大北斗法、

長者大僧正靜嚴法務、

御影供行之、執事道性僧正、安井宮、八月廿九日募護持勞、以權律師賢基申任權少僧都、十二月卅日灌頂、小灌頂教嚴、(大夫)、

僧正賴助

正月十日 於關東將軍御所依御惱修大北斗法、伴僧廿口、御惱平癒、

僧正實寶

後七日法行之、加持香水富小路里內、御前上座覺院、都維那快禪、八月一日蝕御祈、法驗、被仰賞、

權僧正覺濟

正月十六日月蝕御祈、陰雲掩不現、被下叡感之綸旨、

被綸旨依曆術勘綸旨、奏有月蝕之謹愼、慕（暮カ）天晴而雖增澄朗之影、曉雲掩而不知現否之儀、所勤者一字金輪之修法也、所感者九重紫禁之叡襟也、効驗既以炳焉、追可申請勸賞者、綸旨如此、仍上啓如件、

正月十七日　　春宮權大夫仲親

謹々上　金剛王院僧正御房

二月五日轉正爲第二、

同四年 安居闕如、
長者前大僧正靜嚴 法務、
後七日法行之、加持香水富小路里內、十四日轉大僧正、同日蒙牛車宣、今夜參加持香水之間、依經奏聞有勅許云々、御影供行之、執事禪助權僧正、
六月日依炎旱被行水天供、七壇之內修之法驗之間、被下叡感綸旨偁、水天供事、浮雲忽起甘雨頻降、九天遍訪玄澤之惠、千里皆赤土之夏、〇有脫字歟法驗炳爲〇南按焉歟叡感尤深者、天氣如此、以此旨可令淺〇南按洩歟申隨心院僧正御房給、仍執達如件、
六月十六日　春宮大進仲親
謹上二位法印御房
七月十六日月蝕御祈不現、被仰賞、
被綸旨偁、秋雨遲晴望月不現、攝虧蝕於浮雲之中、顯法驗於智水之上、叡襟之所感追可申其賞者、綸旨如此、仍言上如件、仲親誠惶誠恐謹言、
七月十七日　春宮大進仲親上
進上東寺長者僧正御房
十二月廿九日灌頂、小灌頂宣旨、
僧正賴助
僧正覺濟 正月十五日月蝕御祈、正見、但不之、
僧正實寶 六年八月廿四日改元、安居辨基、

同五年
長者前大僧正靜嚴 法務、
正月五日辭寺務、圓明寺息、文永元年十月廿一日直任權少僧都、四年正月十四日任權大僧都、六年五月廿六日敍法印、弘安六年十二月十七日任權僧正、七年二月廿六日辭僧正、永仁七年正月七日卒、
僧正賴助
正月六日辭長者、同日任大僧正、武藏守經時息、准三宮灌頂資、文永二年十一月八日任權律師、四年五月卅日任權少僧都、六年五月廿六日轉權大僧都、十一年正月十七日敍法印、弘安八年正月十四日補法務、九年四月廿三日任權僧正、今日辭法務、正應五年二月廿七日辭大僧正、永仁二年補東大寺別當、永仁四年二月廿八日卒、
僧正覺濟 正月十一日至寺務法務護持僧同之イ本
正月五日寺務、九日法務宣下、二月廿七日轉大、
三月十九拜堂吉、書眞祐、御前權上座相尊、寺主宗深、權都維那成覺、權都維那祐

禪、御影供行之、執事道俊權僧正、六月十三日辭大僧正、十月廿八日募去年月蝕御祈賞、以權少僧都俊濟申叙法印、十一月廿六日辭寺務、三位兼季息、勝寺僧正弟子、正嘉元年十二月廿一日叙法眼、文永四年九月廿日任權少僧都、同十年五月廿七日叙法印、弘安二年正月十四日任權僧正、正應六年正月廿六日補醍醐座主、正安元年九月七日牛車宣下、

僧正實寳 法務、

六月十三日轉大、十月十八日辭大、十二月三日補法務、仰護持僧、則寺務宣下、廿八日拜堂、自覺王院步儀、導師祐遍法印呪願、吉書執行嚴伊、御前三綱皆參、抑吉書役三綱雖申之、依無許容、硯印鑑持役不勤仕之、而盛覺一人勤兩役畢、仍後日張本二人被罪科、科一﨟嚴増上座被改易畢、二﨟可爲同罪之由、有其沙汰之處、不張行之上、向後可抽忠勤之由令申之間、被免除畢、同日灌頂、小灌頂成尊、

眞光院
僧正禪助

正月六日加任宣下、去年十二月廿九日内々先被仰之、後七日法行之、加持富小路里內、依山門訴訟無內論義、

保壽院
權僧正勝惠

四月二日加任、四十五、（卅カ）十二月十九日所司初參於保壽院有此義、

理智院 右大臣
權僧正道俊 十二月十一日加任、（六十五）覺濟替、安居闕如、關白中間分二百疋別當敎杲沙汰、執事出來之後被遂立用畢

永仁元年 癸巳

長者前大僧正實寳 法務、

御影供行之、執事深助權僧正、眞乘院 九月十三日募月蝕御祈賞、以權少僧都敎杲申任權大僧都、十二月廿八日灌頂、小灌頂弘雅、

僧正禪助 八月廿一日轉大、

權僧正道俊

權僧正勝惠

後七日法行之、加持香水富小路里內、御前權上座眞祐、小灌頂能快、

同二年 安居行忠、高雄（播磨）、會日以前任權律師、

七月廿日、可被移寺宮等外院之屋敷拾七坪之由、被下綸旨畢、

長者前大僧正實寳

二月日辭寺務、右大臣公基息、准三宮灌頂資、正

嘉元年九月廿二日叙法眼、正元元年九月廿七日任權少僧都、弘長三年六月廿七日任大僧都、文永六年五月廿六日叙法印、弘安四年十二月廿九日補法務、無房付、但御室孔雀經法賞讓、八年正月四日任權僧正、正應二年正月十四日轉正、永仁五年十月廿四日申置阿闍梨二口於本坊畢、

大僧正禪助

二月七日寺務、八日補法務、卽寺務十、三月一日仰護持僧、十八日尊勝茶羅尼供養御導師參勤、御前三綱、靜暹、宗尋、城覺、中綱四人參勤之、職掌略之、同日二間初參、三月廿一日拜堂、自覺王院、吉書眞祐、御前、相尋、能快、永能、快禪、御影供行之、執事勝惠權僧正、五月日辭大僧正、七月日辭寺務、依高野訴訟也、正嘉三年三月十五日叙法眼、弘長元年八月三日任權少僧都、文永四年五月卅日任權大僧都、七年五月廿日叙法印、弘安九年四月廿三日補法務、十年十月九日任權僧正、正應元年五月廿五日轉僧正、

權僧正道俊

後七日法行之、加持香水富小路里內、御前靜暹、盛覺、十四日轉正、七月二日寺務法務護持僧、十月廿七日拜堂、自唐橋大宮大悲心院、扈從經譽、凡僧別當初例也、鈍色五帖袈裟、呪願之時者着替袍裳、吉書眞祐、御前能快、永能、快禪、眞延、十一月日辭寺務、二位中將基輔子、隆澄弟子、仁治二年十月廿日叙法眼、寶治二年三月廿八日任權少僧都、文應元年四月五日叙法印、正應四年正月十四日任權僧正、

權僧正勝惠

正月十四日轉正、十一月廿一日寺務法務、護持僧門之、廿四日御室御灌頂誦經導師勤之、十二月廿四日拜堂、自保壽院、長途晴儀也、而甚雨也、吉書能快、廿八日灌頂、十六日イ安本小灌頂什賴、大夫闕東住人、但拜堂同日云々

權僧正寬伊佛名院成井院二月二日加任四長者、去正月十四日月蝕御祈、正見初度、七月二日加任、

權僧正守譽慈尊院四カ(六十六)、禪助替、

法印權大僧都敎助十二月廿七日加任道俊替、

同三年乙未安居承宴、

四月十七日當寺大勸進願行上人於西八條入滅、五月六日西八條燒失、十二月十八日作所外院、下部依令殺害東大寺衆徒、被却作所畢、同十九日東大寺神輿御歸座、

長者僧正勝惠(法務)、
二月廿九日二間初參、御影供行之、執事聖忠前大僧正、(東南院、)七月九日轉大、十月十三日灌頂、(小灌頂長賢、)十二月廿九日辭大、

僧正寬伊
後七日法行之、加持香水二條富小路里內、(依神木事無內)論義、三月廿九日辭長者、未拜堂、四月廿五日卒、六十、大納言伊平子、權僧正兼惠灌頂資、建長八年四月廿七日叙法眼、法印寬海降三世法賞讓、文永三年十一月廿八日任權少僧都、七年五月廿日任權大僧都、建長四年正月七日太元師法宣下、弘安三年正月十四日叙法印、永仁元年八月廿一日任權僧正、

權僧正守譽(九月廿六日轉正、)
法印權大僧都敎助(成就院)(正月六日加任イ、十六イ)
僧正守惠(五十二)七月十九日加任、二長者、

同四年(丙申)
安居盛忠、(高雄、少輔)、會日以前任權律師、十月十三日寺官等住宅七拜燒失、
長者前大僧正勝惠(法務)、
御影供行之、執事守惠僧正、四月五日月蝕正見、十二月十二日灌頂、(小灌頂良豪、)

僧正守惠
僧正守譽(法務)、
後七日法行之、加持香水富小路里內、依南都訴訟御齋會延引、無內論義、二月十八日拜堂、三月廿五日仙洞尊勝荼羅尼供養御導師勤之、
法印權大僧都敎助(十二月卅日任權僧正、)

同五年
正月廿四日高野日輪寺法印良阿打入御影堂、飛行三古以下重寶等取之、御影引破之云々、四月十八日富小路里內燒失、
長者前大僧正勝惠(法務)、
御影供行之、執事守譽僧正、三月廿四日辭寺務、十月廿四日(募歟)以護持勞以敎緣申任權律師、太政大臣公相息、前大僧正道耀資、文永八年正月十四日叙法眼、十一年正月十七日任權少僧都、弘安三年正月十四日轉權大僧都、五年十一月廿五日叙法印、正應三年五月二日任權僧正、永仁七年二月八日卒、

僧正守惠
後七日法行之、加持香水富小路里內、依南都訴訟

御齋會無内論義、三月廿六日寺務宣下、四月四日法務、月日仰護持僧、十月廿四日轉大、同廿六日拜堂、白房後法印針小路通、步儀導師宗擧、青書能快、西院捧物雖無先例、廿七日灌頂小灌頂雲聽、可爲廿六日之處、依高野訴訟延引、辨上卿昨夜參會之間、今日悉不參、灌頂後朝以後二間初參、

僧正守擧四月一日蝕御祈正見、

權僧正教助

自性院

權僧正良圓七月一日加任四長者、去三月廿六日先以綸旨被仰下云々、七年四月廿五日改元、安居闕如、別當關白中間分沙汰之、而執事出來、然而別當得替之間、關白中間分不及糺返之沙汰、

同六年戊戌

七月六日稻荷祭禮、閏七月延引、希例歟、十月十三日御即位、胤仁、

長者大僧正守惠法務、

御影供行之、執事親玄僧正、于時在關東、五月廿日辭寺務、廿八日辭大、前左大臣實雄息、前大僧正道融灌頂資、准三宮重受、正嘉二年五月廿四日叙法眼、文應元年三月卅日任權少僧都、文永三年十一月廿八日轉權大僧都、同六年五月廿六日叙法印、正應五年六月十三日任權僧正、永仁二年八月廿七日轉正、七年七月七日寺務得替之後、薨去二月月蝕御祈賞、以權少僧都深俊申任權大僧都、

僧正守擧

五月廿四日法務、廿五日寺務、廿九日被仰護持僧、十月廿九日辭寺務、去十二日親父實藤大納言入道薨之間、依重服也、同日十月廿九日、以權上座相眞越中被加補仍十二口也、三綱畢、凡三綱加補事、承久四年二月廿三日一長者大僧正道尊嵯峨釋迦堂供養御導師之時、御前三綱四人之内一人不足之間、以經延被加補權都維那、仍十口也、元者九口、其後十口、中綱如元爲九口之處、寬元元年十二月廿八日長者前大僧正良惠之時、以永勝被任權都維那、仍又十口也、次長者定親僧正之時、被行舍利會之刻、三綱廻淸之處、寺主宗圓改名良賀、稱所勞故障之間、弘長二年五月十四日改宗圓以全範被補權都維那、而長者道勝時、良賀本名宗圓、訴申之間、同三年四月十六日良賀今還補畢、雖然不被改全範之間、始成十一口畢、其後文永元年兼禪寺主死去、以其闕面々雖望申、依無指所用不被補之、仍又十口也、而文永三年四月廿七日爲蓮花王院供養咒願一長者道勝出仕之時、三綱或

遠行或所勞之間、依人數之不足以能快被加補權
寺主畢、其後于今十一口之處、今度始臨時被加補
十二口畢、

權僧正敎助
後七日法行之、加持香水二條里內、御齋會內論義
無之、

權僧正良圓（依爲守譽僧正舍兄同表服也、然而未及辭退、爲長旨故歟、）

前權僧正深快
五月廿四日加任二長者、（七十二、）廿八日還任權僧正、
十一月三日寺務、四月補法務、十五日仰護持僧、
十二月（廿八安本）廿九日拜堂、（自勞後法印坊、）步儀、扈從長隆、（于時凡僧別當）
（尊師定嚴法印、）道俊、、吉書、權上座永能、御前三綱、權
上座眞盛寺主時例也、靜暹權寺主祐禪、、延聽、
同日灌頂、（小灌頂房守、）

東寺長者補任卷第四（自正安元年至應永廿六年）

（新院）正安元年（己亥）
同元年淸水寺塔炎上、
長者權僧正深快（法務、）
正月四日辭寺、四月十四日辭權僧正、少將實遠
子、前權僧正定淸灌頂資、正嘉元年十一月廿一日
任權律師、弘長二年正月十四日任權少僧都、三年
六月廿七日解却權少僧都、正應元年八月三日叙
法印、道耀僧正去弘安六年防御祈賞讓、三年五月
廿四日任權大僧都、永仁三年七月九日任權僧正、
同十二月廿九日辭權僧正、

權僧正敎助
正月四日寺務、七日法務宣下、後七日法行之、十
三日於眞言院參賀、吉書惣判行之、加持香水二條
里內、十六日仰護持僧、二月十四日轉正、二月廿
日拜堂、（自寺家坊）步儀吉書永能御影供行之、執事信忠
僧正、十月日得替入道右大臣實親子房眼弟子、文
永二年八月廿二日叙法眼、入道無品親王愛染王

法賞讓、七年五月廿日任權少僧都、弘安三年正月十四日轉權大僧都、六年正月十四日敍法印、前大僧正叡助轉法輪法賞讓、永仁四年十二月卅日任權僧正、

權僧正良圓

五月廿八日轉正、

權僧正守瑜

二月廿一日加任二長者、深快替、十月一日轉正、去八月日蝕御祈賞則寺務、十日仰護持僧、十三日補法務、十二月廿日拜堂、白房後坊、步儀吉書權上座眞盛、法前、貞盛、寺主靜暹、權寺主眞延、祐敎、同日灌頂小灌頂深惠誦經、導師定嚴法印、

成德寺法印權大僧都實伤

二月廿七日加任、守瑜同日云々可勘決、

寶滿院前權僧正有信十月廿五日加任、十二月卅日還任權僧正、

同二年庚子安居、尊譽、高雄、會日以前任權律師、

長者僧正守瑜法務、

後七日行之、加持、、二條殿、二月七日辭寺務、閏七月七日辭僧正、月日募法務辭退、替以仲遍、申任權律師、本證上人灌頂資、御室重受、文應元年八月三日敍法眼、建治四年正月十四日任權少僧都、弘安八年四月廿九日敍法印、正應四年十月九日任權大僧都、永仁六年十二月廿九日任權僧正、二品親王愛染王法賞讓、

權僧正有信

十二月卅日轉正、

僧正良圓

四月廿二日得替、閏七月七日辭僧正、大納言入道實藤子、道耀灌頂資、文永五年正月十四日敍法眼、建治二年正月十八日任權少僧都、弘安八年正月十四日敍法印、道耀辭大僧正替、正應元年三月廿七日任權大僧都、永仁四年十二月卅日任權僧正、道耀僧正去文永二年普賢延命法賞讓、

法印權大僧都實伤八月六日補權法務、

前大僧正守譽

二月八日重任、同日法務、護持僧、御影供行之、執事守瑜僧正、三月廿九日仙洞尊勝茶羅尼供養御導師勤之、則二間初參、閏七月廿七日辭寺務、八月十三日猶可寺務之由宣下、仍又寺務、十月廿二日灌頂、小灌頂守辨宮內卿、高雄法師、乞戒宗譽大僧

都、嘆德祐遍法印、廿四日佛舍利勘計、同日辭寺務、室町大納言入道、實藤子、文永七年正月廿五日叙法眼、建治三年十二月卅日任權少僧都、弘安四年三月二日轉大僧都、八年十二月十四日叙法印、十月廿八日任權僧正、辭權法務、永仁二年七月二日辭長者後、任大僧正、正安元年五月廿八日募護持勞以覺遍、申任權律師、嘉元二年五月十九日卒、

權僧正長遍

四月廿二日加任、日來爲前權僧正、而加任之時權僧正之由被仰下云々、不及宣下、內々以御敎書還補云々、八月日辭長者、十二月日還任長者、

僧正信忠

八月十五日加任二長者、十月廿八日寺務、十一月二日補法務、十二月五日興福寺供養開眼勤之、十二月廿三日轉大、同日二間初參、

同三年辛巳 四年十一月廿一日改元、安居嚴快、太元充譽、

正月廿一日讓位、八月廿四日立坊、十一月廿日大嘗會、

長者大僧正信忠法務、御影供行之、執事敎助僧正、

依爲大嘗以前、不被遂拜堂、寬信法務之例云々、

承保元年一長者良深權少僧都之例、又以如斯、更非新儀、七月一日仰護持僧、九月十日辭大僧正、十二月廿四日拜堂、自弘誓院、長途守師、大夫法印房俊、呪願如常、官符吉書執行嚴伊、御前三綱權上座兼秀、靜暹、寺主慶範、都維那成覺、同日灌頂、小灌頂嚴譽、大夫、當寺供僧也、

僧正有信後七日法行之、加持香水二條里內、

權僧正長遍

法印權大僧都實荷權法務、

後二條院

乾元元年壬寅 二年八月五日改元、安居嚴忠、小輔、當寺供僧也、

三月廿二日執行嚴伊得替、松丸濫〔濫カ〕訴之間不及一問一答、被付松丸畢、代官民部卿阿闍梨守兼松崎法師也、

長者前大僧正信忠法務、

後七日法行之、加持香水二條里內、御影供行之、執事益助僧正、上乘院宮、十二月廿七日灌頂、小灌頂成瑜、少將、當寺供僧也、

僧正有信

六月廿二日被召僧正、被任長遍畢、十二月廿八日長者得替、未拜堂、

權僧正長遍

六月廿二日轉正、越有信爲第二、七月九日卒、八十、未拜堂、二品長季子、永仁六年五月廿八日辭僧正、以敎懷申任權大僧都、

法印權大僧都實荕 權法務、

僧正良圓

九月五日還任長者、長遍替、日來爲前僧正、而今度同還任之由、綱所申之、

嘉元元年 癸卯 安居闕如、佛供木具未如形列、當沙汰、綠布施無之、十一月廿四日重瑜闍梨被申執行畢、

長者前大僧正信忠 法務、

御影供行之、執事嚴家僧正、十二月廿一日灌頂、

小灌頂賴基、伊與、

僧正良圓

四月十三日 辛未 拜堂、大納言實藤子、道耀僧正灌頂資、

法印權大僧都實荕 隨心院 權法務、十二月卅日任權僧正、法務如元、

僧正嚴家

正月七日加任宣下、廿九、去年十二月廿六日內々依被仰下、晦日領狀云々、後七日法行之、加持香水二條里內、依南都訴訟無內論義、十四日護持僧宣下云々、五月一日蝕正見、

權僧正成惠 閏四月十三日加任、三長眞圓替、

安居闕如、七月八日始供花、延□□例欵、開白佛供灯明許、別當沙汰了、

同二年

七月十六日後深草法皇 六十二、崩、

長者前大僧正信忠 法務、

御影供行之、執事遍海僧正、三寶院伏見僧正故障間、被放門徒畢、八月九日於仙洞被行愛染王法、自十四日被成護摩、件賞同三年三月十八日以勝圓任權大僧都、十二月廿五日灌頂、小灌頂叡遍、大藏卿、雖爲未宣下、勤仕之、

僧正嚴家

八月日院御藥御祈、修五大虛空藏法、自廿一日於本坊被成護摩、又修如法尊勝法、

權僧正成惠

後七日法行之、加持香水二條高倉里內、七月中旬被止僧正、十月々蝕御祈勤之、不正見云々、

權僧正實荕 權法務、月日辭法務、

同三年 乙巳 四年十二月十四日改元、

三月一日龜山法皇御幸當寺、記六在別、於灌頂院被行理趣三昧、八月廿四日嚴伊還補執行、九月十四日龜山

院崩御、五十七、禪僧禪助前大僧正、護摩、道順僧都、顯譽
法印、護摩、性玄法印、護摩、道順僧都、

長者前大僧正信忠

二月十五日辭寺務、元亨二年十月十九日於關東
入滅、

僧正嚴家

二月十六日可爲寺務之由、内々被仰下之、廿四日
宣下、法務同之、二月三日龜山法皇御灌頂、嘆德
咒願勤之、勸賞追可仰云々、三月日轉大僧正、
三十一、同拜堂、天晴、自覺王院、步儀、先所守二人、次職掌
六人、有友、重家、友重、國繼、行重、友貞、次綱掌四人前□六人、衍カ爲次中綱四
人、圓朝、圓勝、敬尊、源祐、次先駈四人、次三綱四人、權上座成覺、寺主祐禪、權
寺主良延、權寺主祐嚴、次御手輿、次侍二人、次大童子二人、
次扈從大納言法眼覺親、源大納言入道猶子、侍一人、大童子
一人、自慶賀門、長者步、烈如前、西院、打幔門、自日隱堂
上於階下脫鼻廣登階、於大床獻草鞋、自北妻戶
入御、扈從同登、日隱勤御簾之役、役畢後自北脇
戶參、前々自北小綠參儲、勤此役者也、
次奉行人、快乘、法印、召中綱送官府、次第如常、次食堂南打幄
屋、幔不足之間、不覆幔、立案一脚、置誦經物、正應二八現布也、今度ハナリベ、
次寺家申案內、行烈如前、但威儀僧二人相加、隆
賢、兼瑜、入自食堂廻廊西戶、至面堂上、獻草鞋、次官
符執行重瑜讀之、法則如常、祿被物一重自後戶經廻、東
佛壇置之、役人前駈、祿畢後入正面、立內陣之御座、拜
本佛、威儀僧入自西戶、置物具、次出面入自西戶、拜聖僧、職掌
儲御座、如常、次自內陣、直着座、西母座南端儲之、次備本供
饗、役三綱兩人、用御前三經、有暫徹之、於後戶渡大童子、次唱禮、導師登禮
盤、次導師、定嚴法印、登禮盤、所作畢、歸本座、西母屋北端儲之、
布施被物一重、自後戶徑廻、西佛壇置之、役人隆嚴、裹
物一、布三段裹之、役人兼瑜、次咒願、同隆導師床、宗惠法印、被物一
重、隆嚴置之、裹物一、兼瑜置之、其後出自第二間、聖僧間也、至正
面間下堂、次諸堂拜、如常、但灌頂院自東三之間堂、
至正面、還路如前、前々自正面間堂上、兩界幷御影拜、如常、今
度烈祖拜無之、次還烈西院、不動拜今度無之、次
於階下、御前三綱四人賜祿、今度長者無出御、
前□着座、中綱職掌祿當座儀略之、次長者出自障子東
端着座、前々出自障子西端、大童子立東庭、取松明、別當宗惠
着座東庇、自南第二之間、被物一重置之、役人兼瑜、從僧永賀、
登階經東南大床、入南面東端間、徹之、經本路退
出、前々登自南沓脫、經南大床、自東端徹之、出大床東南角給、大童子如元退出、多分例也、次執行重

瑜、行吉書次第如常、（視持成覺、□緣良延、）事畢着座南庇、（花形壇同、）執事被物一重置之、（役人兼瑜、）懸肩退出、御影供行之、執事教範前權僧正、（下河原、）七月廿一日龜山法皇御祈、於嵯峨殿修如法尊勝法、伴僧十口、廿七日結願賞追可仰云々、九月日於禁中修愛染王法、自十月九日、於西院不動八千枚、十五日願日、於當院北面、以常住寺僧等被行理趣三昧、祖師。親嚴之例也、布施厚紙百帖、閏十二月十二日灌頂、小灌頂賴源、□□□受請事於西院可爲當座之儀歟之由、綱取申之、而任正應之例、召請書於住坊、（隨心院、）仍同十五日被物内々被遂之、惣在廳被物二重、公文威儀師被物一重也、此儀於本寺、被行之時者、於西院山子房東四間在之、長者有着座、賜祿物云々、誦經導師定嚴法印、（宮内卿、）乞戒正嚴僧都、（大貳、）嘆德信海法印、（大貳、）布施僧綱二百疋、凡僧以下百五十疋、八幡二百疋、灌頂院大、、現被物、西院、、略之、執行事畢、別當法印宗惠、

前權僧正成惠

十月十五日月蝕御祈効驗、但他別蝕云々、十二月卅日還任權僧正、

權僧正實傍

後七日法行之、加持香水萬里小路里内、閏十二月廿九日辭長者幷權僧正、大納言公持子、實寶前大僧正灌頂資、

（松橋醍醐、）法印權大僧都公紹

三月十九日加任宣下、四月十五日月蝕降雨効驗、

閏十二月廿九日轉權僧正、月蝕御祈賞、

德治元年（丙午）（安居闕如、關白中間許、別當沙汰之、）

七月二日七祖御影爲修復、被渡萬里小路仙洞、嚴伊參仕、渡高二位重經畢、十月十六日如元被返渡本寺、於嵯峨殿普賢堂奉請取之、

長者大僧正嚴家（法務、）

三月十九日院尊勝茶羅尼供養、御導師參勤之、（寺官、官人供奉、）自昨爲勤修愛染王法、七箇日祗候仙洞、伴御本尊御等身木像、此法關白之日被遂供養、伴僧六人、（德治元、）御影供行之、執事前僧正忠瑜、（教令院、）三月日辭大僧正、自四月廿七日、被行水天供、依病所勞、被用御半代宗惠法印、依法驗被下叡感綸旨、（或本五月晦日云々、）八月十五日辭寺務、東大寺八幡宮遷宮七僧法會咒願辭退故也、延命法者爲護持僧、猶可被勤行

立烈殆初例也、拜堂灌頂共一重代百二十疋、布代十五疋、懸盤饗代百疋、机饗代五疋、大阿闍梨饗兩度分三百疋、但不荽調之間、代物可爲寺家得分別儀也、西院八幡宮略之、以外之次第也、但彼是當座先三分下行之、
取殘次年下行之時、改以前之式、一重代百疋、懸盤饗代八疋云々、不可說云々、

同二年丁未三年十月安居闕如、開白中間別當沙汰云々、九日改元、
結願法會、九月廿四日修之、承久三年闕如之外初例也、正月十三日、於石清水八幡被行結緣灌頂、可爲恒例云々、有御幸、大阿闍梨前大僧正禪助、眞光院、色衣十六口、法印權大僧都弘舜、誦經、實海、呪願、禪隆、唄、顯覺、小阿闍梨、道順、權大僧都嚴深、宗守、乞戒、權少僧都俊玄、經譽、權律師兼什、散花、已上持金剛衆、大法師了淸、宣遍、頭、朝嚴、頭、尋惠、四イ寂禪、猷嚴、已上讃衣、七月廿五日遊義門院崩、卅七七イ廿六日後宇多院落錺、御法名金剛性、御戒師禪助、十月廿日東大寺御受戒、
三月廿一日嚴伊執行得替、補重瑜、寺務代道惠之所行也、十月十三日改重瑜補榮信律師云々、又改榮信補嚴僧云々、皆不及訴陳、十二月十二日還補、

長者前大僧正親玄法務、十二月三日得替、々替有大將通親供法印補法務兼寺、
別當大僧都嚴深
前大僧正聖忠
後七日法行之御前、明貞、靜譽、今度被召具東大寺々官、仍東大寺三綱爲上首、東寺三綱下乎、小綱爲上首、中綱下乎、仕丁爲上首、職掌下畢、以外之次第、今年後七日中嚴伊祗候、仍爲寺家記錄、伴僧交名加點記等書寫之、加點之時、出自北面西第一間、經西大床、至廣庇着座、妻戸間南端東西行敷高麗、同東間敷同帖、定耀僧都着座、次第如常、
權僧正公紹
十月北斗法勤之、
權僧正定任
三月一日蝕御祈、自前日陰雲撓天雨降、自當日午刻、雖天晴不帶□蝕、宿曜師申云、他州蝕云々、陰陽師申云無其儀云、云カ以外參差也、仍歎申事之由之處、經數日、被下叡感綸旨、去朔蝕御祈事江、本ノマヽ輪影無虧、璧光猶明、灾異之不現、法驗之處致也、叡感尤深、勸賞依請者、綸旨如此、仍上啓如件、
三月廿一日　右衛門權佐資冬

謹上　大納言法印御房

御影供行之、執事宮僧正聖雲、（遍智院、）六月十六日北斗法參勤之、十一月廿日法皇御受戒、羯磨師勤仕、布施色衣二百疋、三綱百疋、十二月廿日灌頂、小灌頂宮內卿加點之時、別當親淳法印、乍別當出仕之身不參、仍一人勤此役初例也、長者門弟同木參勤之、

前大僧正禪助

十二月三日重寺務、八日法務宣下、

花園院
延慶元年（戊申）（安居執事閑如、）

自正月五日至廿八日、後宇多法皇御參籠當時、以西院爲御所、二月十三日西院兩家、（在寶藏、）被渡仙洞、廿六日傳法御灌頂也、大阿闍梨一長者禪助、色衣八十口、（記六在別、）八月廿六日主上、（後二條、）崩、（廿六、）閏八月觀音供、御本尊被渡一長者本坊醍醐阿彌陀院、十月日、本覺大師號被召返之、依山門訴訟也、

長者前大僧正禪助

正月廿六日奉授灌頂於後宇多法皇、勸賞、廿七日牛車宣旨、又補東寺座主、（初例也、）二月三日益信僧正大師號本覺并大僧正被送之、勅書在別、八日牛車拜賀、并二間初參御前、（寺主祐禪、權寺主延聽、）中綱四人、職掌六人、

三月十六日辭寺務、

前大僧正聖忠

正月廿四日拜堂、導師定嚴法印、咒願如常、吉書嚴伊、前驅二人、扈從一人、威儀僧二人、後騎一人、染裝束童二人、大童子二人、御前三綱四人、（權上座相尊、相眞、權都維那信快、成覺、）現被物、但御坊人者內々代百五十疋取之、布衣十五疋、饗代十疋、机五疋、大堂供千疋、誦經物代百疋、廿六日法皇御灌頂、色衆參勤之、二月日醍醐座主得替、三月廿一日寺務宣下、御影供行之、（從僧二人、袍裳五帖袈裟、大童子一人許也、）執事元瑜僧正、（大貳、住關東、）布施當日無之、其故者元瑜爲入寺僧、勤小灌頂之上者、可被免御影供頭之由、申之間、皆明寺僧正眞惠、眞乘院僧正房圓、勤小灌頂、又勤御影供、今度相叶彼例之由、寺家勘申畢、仍重以院宣被責伏之間、雖陳狀、期日近々、仍當日無之、五月廿日被引之、

權僧正公紹

正月廿三日拜堂、吉書上座永能、御前三綱四人、

權上座明眞、靜暹、權寺主靜兼、祐嚴、有職前駈二人、扈從一人、威儀僧二人、後騎一人、染裝束童一人、大童子二人、今度拜堂、稱爲門跡勝覺之例之祿、以下略之、以左道之注文、可有沙汰之由、被申之間、寺家寺官等抑留拜堂畢、仍寄事於御灌頂、色衣參勤、被經奏聞之間、有勅問、仍嚴伊參西院御所、以權辨隆長先規之次第、具申入之處、寺家所申非無謂之上者、無左右難被裁許、縱雖不可參色衣無力之由、被仰下之間、任例被遂拜堂畢、一重代百疋、布衣十疋、誦經物代五十疋、懸盤饗十疋、机代三疋也、略定無極、其上末下等有之、仍被出請受畢、左道之次第也、八月廿八日辭長者、依禁裏御前僧參勤也、十二月卅日辭權僧正、

權僧正定任

正月六日依後七辭退、被止職畢、廿六日法皇御灌頂之時、爲前長者參色衣、勤誦經導師、中御門大納言經任子、定勝法印灌頂資、通海僧正重受、延慶二年四月日補醍醐座主、八月廿日卒、

權僧正能助

正月六日加任、卅、後七日法行之、加持香水御前、

上座永能、寺主延聰、依神木入洛、無御齋會、八月十六日、月蝕御祈正見、

報恩院
權僧正憲淳

四月三日加任三長者宣下、八月廿三日卒、覺雅法印附法資、

同二年己酉 安居、依寺訴閣之、供夏法會不及行入、

今年灌頂猶延引、御影供同延引、同三年十一月廿日被行入之、二月廿九日東大寺八幡神輿三基入洛、七月廿日本覺大師號如元被返付、九月五日八幡御歸座、記六在別、十二月五日、日吉社神輿悉奉振陣頭、依大師號訴訟、(在別也)武士藤田於坂本被打了、

長者前大僧正聖忠 法務、

後七日行之、無加持香水幷御齋會、依寺訴也、嚴伊祇候眞言院之間、加點如先年、別當法印、

權僧正能助 九月廿八日轉正、

尊勝院
僧正定助 十二月廿八日加任、

同三年 四年四月廿八日改元、安居、貞憲、(刑部卿醍醐)

長者前大僧正聖忠 法務、

御影供行之、執事 成惠僧正、皆同百疋、去年 御影供、同日夕方被行入之、執事 定助僧正、皆同百疋、四月廿

三日、德治三年分灌頂被行入之、少僧正覺譽、治部卿當寺供僧、七月四日得替、近衛太閤基忠息、

僧正定助

後七日法行之、加持香水御前、上座永勝寺主良算、

僧正能助

十二月廿二日拜堂、自外院殿一ッイ御前四人、祐禪、延聽、靜兼、信快、同日年分灌頂、小灌頂禪深、

僧正成惠

二月廿二日還補二長者、六十九、去年十二月卅日轉正、七月四日寺務內々被仰之、十五日宣下、十一月廿日拜堂自亮禪法印、外院、吉書上座永能、御前三綱、權上座明眞、權寺主靜兼、權寺主靜證、權都維快祐、同日去年分灌頂被行入之、小灌頂仁然、高雄、十二月廿七日於眞言院、主上御元服御祈、修愛染王法、伴僧六口、但眞言院等、

權僧正宣覺七月日加任、十月廿日下向關東、二年三月廿日改元、安居、覺譽律師、會日以前任權少僧都、初例也、當寺供僧也、

應長元年辛亥

長者僧正成惠

後七日行之、加持香水御前、明眞、眞算、二月六日廣義門院御產御祈、六字法勤之、廿九日轉大、御元服御祈賞、御影供行之、執事能助僧正、五月十日辭大僧正、八月廿七日依鐘突訴訟、南田一町遂檢注被打定大數了、　十二月十日得替、弘安四年五月十六日任權律師、六年正月十四日任權少僧都、九年叙法印、正應二年十二月三日任太元別當、被下官符、自同三年、至正安二年、太元法行之、永仁三年任權大僧都、正安二年十二月廿三日任權僧正、正和四年十二月廿三日卒、七十三、

僧正定助

十二月十日寺務、廿七日拜堂、自寺家坊、吉書上座永能、御前、權上座明眞、權寺主朝慶、重改、權寺主眞算、持都〔口〕(〇權都維那カ)快祐、扈從別當兼之、同日灌頂、小灌頂貞瑜、大進、誦經導師法印正嚴、大貳、乞戒權少僧都有賀、大夫、散華權律師良嚴、後改潤惠宰相、讃頭俊葉、仲、有惠、後朝供養法尋守、散花宗深闍梨、甚雨之間、於堂上、嘆德指圖在別事畢、後不及加點、長者退出之間、寺家申子細處、依不知案內、裝束等已被渡仁和寺畢、被召寄者可及遲々歟之由被仰之間、以內々之儀、於北向御影、御前可有此儀歟之由計申畢、仍被著付衣加點如常、

應長元
僧正能助
權僧正宣覺
毘沙門谷
權僧正觀高
十二月十日加任、但前權僧正歟、追儺(還カ)任歟、
正和元年壬子
長者僧正定助
御影供行之、執事房憲權僧正、大輔、皆同百疋、御道具加點、又無沙汰、如去年、別當少僧都勝瑜、十二月廿八日灌頂、小灌頂經耀、大貳、晦日轉大、
僧正能助
權僧正觀高
後七日法行之、加持香水御前、靜兼、重慶、
權僧正宣覺
同二年　二月四日法琳寺太元堂、本尊共燒失、
長者僧正定助
正月二日得替、
僧正能助
正月六日寺務宣下、後七日法行之、加持香水御前、靜暹、祐禪、相承之袈裟近來不被着用、而法皇御灌頂之時、被修復畢、仍今年始又者(着カ)用之、御影供行之、執事經助僧正、住々日、關東住僧正、十二月廿八日灌頂、小灌頂隆舜、按察、
權僧正觀高
七月日轉正、同月辭長者、
權僧正宣覺
十二月十八日辭長者、下向關東、□□□醍醐座主於帶之□□□正中二年九月卅日轉大僧正、
權僧正隆勝
正月十三日(廿一日イ)加任云々、寺家不存知之、則辭退下向關東云々、
五智院
權僧正實海
三月廿日加任、隆勝替歟、四月八日轉正僧正、辭退下向關東云々、去應長元年廣義門院御産御祈、軍荼利法賞兩度、轉正不審々々、
寶持院
法印權大僧都顯譽
七月十九日加任宣下、觀高替、去應長元年廣義門院御產御祈、金剛藥叉法賞、十一月十六日月蝕御祈効驗、
同三年甲寅
長者僧正能助

御影供行之、執事光譽僧正、皆同百疋、

僧正實海

後七日法行之、加持香水御前、都維那宗寛、權都維那亘紹、兼東大寺別當、

法印權大僧都顯譽

閏三月廿五日任權僧正、去年十一月月蝕御祈賞、

僧正有助

閏三月廿五日加任、十二月廿五日拜堂、自外院一ツイ取、本ノマヽ導師嚴忠僧都、吉書上座明眞、御前、上座明眞、寺主靜猷、都維那、信快、權都維那、豪圓、鎮守拜略之、同日灌頂、小灌頂深叡、助、但色衆悉雖烈、御道具印鎰別當嚴深、依忘却不申渡之間、俄被進使者於御室御所、仍翌日廿六日未刻被始三摩耶戒、仍執蓋綱鎰カ取以下退出之間、被用職掌、是先例也、乞戒嚴忠僧都、誦經導師成瑜大僧都、拜堂灌頂被物代百疋、布代廿疋、懸盤饗代十疋、

同四年乙卯安居闕如、

六月廿日爲別當之沙汰、始供□□□夏廿二日蓮花會、廿六日執事出來、眞乘院全海、正月六日定嚴法印、於實相寺入滅、受法灌頂弟子圓仲法印以下數輩、稱非觸穢、長日御勤以下參勤之、他人忌之云々、

三月御影供面々同出仕了、八月五日夜本供僧寛葉宮内卿闍梨、大夫、於食堂前、令殺害新供僧寂禪僧都之間、寛葉被召出武家了、依寂禪之縁者訴也、仍當寺觸穢之間、放生會延引、九月十五日行之、寛葉宿所北小路猪熊也、仍檢斷事不及寺家之口入、於寛葉之供僧者、依爲非供僧之一﨟、被補房後僧正畢、房後本供僧也、而讓弟子後葉之後經兩三年、臨時又補之、十二月十八日東大寺神輿二基入洛、如前々、御座東寺、十二月廿六日嚴伊執行得替、號嚴增、無仁體掠賜院宣了、

長者僧正能助

御影供行之執事、觀高僧正、元亨四年五月二日卒、

僧正實海

十月日寺務、今年灌頂延引、嚴伊得替故也、仍同五年三月十九日被行入之、

僧正有助

三月十六日月蝕御祈、復末之後出山莱、他州蝕云云、

權僧正顯譽

後七日法行之、加持香水御前、良算、宗永、

同五年（六年二月三日改元、二月廿五日嚴伊執行還補、）

長者僧正實海

三月十九日拜堂、（自房後僧正坊、）吉書上座明眞、御前、（上座明眞、權上座靜暹、權寺主祐禪、都維那維宗、）導師宗深律師、咒願、別當、兼扈從、食堂拜、如常、（但不敷草座、）次入自脇間聖僧拜、（同、）次入自西間著座、同日去年分灌頂、小灌頂實清、（越前、）但每年遲々之間、翌日廿日辰刻被始三摩耶戒、上卿綾小路宰相有時、辨右少辨仲定、誦經導師潤惠（宰相）大僧都、（本名良嚴、）乞戒覺譽僧都、（治部卿、）布施、祿物、拜堂、灌頂共一重代百疋、御前役人布代二十疋、下部布代十疋、佛布施各五十疋、御弊軾代各三十疋、大堂供七百疋、莚道代十疋、（送寺家、仍用薦、）誦經物案代二十疋、大破子十疋、懸盤饗七疋、悉寂略也、別當法印深後御影供行之、執事宣覺僧正、布施當日延引、長座百五十疋、砂金二褁、（各一分、）五月廿八日轉大僧正、十二月廿九日當年分灌頂、小灌頂祐惠、但如去年、印鎰無沙汰之上、每事遲々之間、翌日卅日未刻始三摩耶戒、後朝色衣供僧嚴昌僧都、非供僧尋源（寶嚴院）闍梨、不參、初例也、抑三綱快祐小阿闍梨、官符難澁之間、當座改其儀、以從儀師寬俊、俄被補三綱、勤此役畢、不及參堂、其後寬俊不隨三綱役、

僧正賢助

去年十二月任云々、任日可尋、後七日法行之、自元權法務、延慶三年二月廿日任也、執行嚴伊得替之間、別當一人加點畢、初例也、

僧正有助

權僧正顯譽

二月廿一日轉正、爲第二二品親王如法愛染王法賞讓、

文保元年（丁巳）（太元良伊法印、）

正月三日大地震、四日又同、今夜東寺塔九輪折傾、灌頂院破損、五月十九日於御室御所、佛舍利御奉請、長者未拜堂故也、於南面西四間有此儀、御室出之後有勘計、執行嚴伊一人勤此役、別當不參、勅使四條宰相隆有、

長者大僧正實海

四月三日得替、同二年五月七日卒、

僧正顯譽

四月三日寺務、六月廿二日二間初參歟、御前、上座明眞、權上座靜暹、十二月廿五日拜堂、吉書權上座靜暹、御前、權上座祐禪、同重慶、靜然、寺主信快、同日灌頂、小灌頂、今年灌頂之時、御道具唐櫃於西院開之、其座席如佛舍利勘計之時、長者座敷高麗一帖 先御袈裟箱入蓋、次開御道具筥、取出念珠五鈷、置御袈裟之上、渡役人有職、袍裟 此事御室幷座主、眞光院、有御評定、向後可爲此式云々、於金堂廻廊被開之條、聊爾也云々、其後渡御道具唐櫃於灌頂院之後戶、取出御道具、居壇上、如常、次烈取乎輿、手方 儲廻廊之北端戶口、乘輿至散花机之間下輿、色衣烈主之後臨期俄有此儀、其後出讃行烈、至灌頂院東四足前、長者步行也、是又可爲向後之式云云、

僧正賢助

僧正有助

後七日法行之、御影供行之、執事實海大僧正、

僧正實弘

五月四日加任、

同二年戊午 三年四月廿八日改元、

同三年正月十八日夜中、東大寺八幡宮神輿一基入洛、奉振捨七條河原畢、任先例可奉入當寺之處、當寺老若依支申、覺譽任忠參仙洞、鈍色白裳、仍翌日十九日夜被奉渡蓮花王院畢、

長者僧正顯譽

御影供行之、執事月棄之、第二度例也、一重代百疋、十二月四日被渡延命法御本尊、廿七日灌頂小灌頂深須、廿九日寺務得替、元應元年七月廿八日轉大、禪助前大僧正孔雀經法賞讓、正中二年九月七日卒、

僧正賢助

七月十三日長者幷醍醐座主得替、座主道須補之、

僧正有助

僧正實弘後七日法行之、御前、權寺主頁紹、同維宗、

前權僧正公紹

九月三日重任賢助替、十二月廿九日轉正、則寺務內々先被仰之、

後醍醐院

元應元年己未 安居執事守我、辨、九月廿八日任權律師、

三月廿六日融圓補執行、勅裁也、代官忠乘闍梨房後僧正、門弟也、同二月東大寺神輿入洛、

長者僧正公紹

正月六日寺務宣下、十五日月蝕御祈、□□□但効
驗云々、御影供行之、執事如去年兼之、一重代百
疋、布代廿疋、八月日得替、中納言實世息、後響法
印灌頂資、元亨元年八月十日卒、

僧正有助

僧正實弘

十二月廿五日拜堂、吉書上座明眞、御前、權上座靜遷、權寺主寂暹、都維那豪圓、權都維那宗承、同日灌頂、小灌頂弘緣、刑部卿、

三寶院號報恩院

僧正道順

正月三日加任二長者、兼醍醐座主、去年十二月廿
九日轉正、後七日行之、御前、權上座重慶、權都維那快祐、九月廿
八日轉大、去七月十六日月蝕御祈賞、

前大僧正禪助

八月十九日重任寺務、三箇度寺務、第二度例也、
去七月廿一日、於龜山院修孔雀經法、同廿八日結
願、賞顯譽僧正轉大、於當座被仰之、

同二年 三年二月廿三日改元、安居□淳、七月十六日宣下、太元信耀法印、

七月廿三日寅刻石清水一基、大井、入洛、廿四日朝入
御當寺、十一月十四日御歸座、

長者前大僧正禪助

三月廿九日高野拜堂、廿六日進發、廿八日著日輪寺、四月二日大塔
供養、御導師勤之、七月日辭寺務、三條坊門內大
臣通成息、一品法親王性仁、附法瀉瓶弟子、

大僧正道順

六月十四日御持僧宣下、奉行藏人大進秀房、七月
廿二日□務宣下、上卿三條中納言公秀、奉行頭修
理權大夫光業、

僧正有助正月日得替、

僧正實弘

御影供行之、執專道順大僧正、十二月廿八日灌
頂、小灌頂文海、大貳醍醐、

花嚴院

前權僧正弘舜

正月八日加任宣下、後七日法行之、月日還任權僧
正、加任官符被載、□□權僧正了、八月二日辭權
僧正、

成就院

權僧正益守

十二月日加任云々、

元亨元年辛酉 安居實看、

九月十八日任權律師、尻付云東寺定額勞初例也、開
書在端、七月七日嚴伊執行還補畢、

長者大僧正道順

三月廿一日二間初參、同日拜堂、自冷泉萬里小路宿房長途、御前重慶、靜兼、信快、快祐、御影供行之、執事弘舜權僧正、十二月廿八日卒、

僧正實弘

十二月廿五日寺務、廿八日灌頂、小灌頂禪喜、宮內卿、

前權僧正弘舜十二月二日辭長者、

權僧正益守後七日法行之、六月一日蝕正見、安居弘瑜、仁和寺、十二月廿九日任權律師、尻付如去年弟、

同二年

長者僧正實弘

正月五日法務宣下、後七日法行之、御前權上座靜還、同祐禪、御影供行之、執事有助僧正、香隆寺、長座百疋、九月十五日月蝕御祈、依法驗被下叡感綸旨、十二月廿五日灌頂、小灌頂仲我大進、灌頂以後辭寺務、

權僧正益守十二月廿九日得替、勸修寺

僧正敎寬

正月九日加任二長者宣下、去正和三年十二月廿九日辭、僧正還任、可尋記之、六月一日々蝕御祈、依法驗、叡感被立勅使畢、

僧正道意五月十四日加任三長者、勝寶院

前權僧正弘舜十二月廿九日寺務法務宣下、實弘替、

權僧正有助

十二月廿九日加任四長者、益守替、同名香隆寺僧正、初例也、

上卿三條中納言
元亨二年十二月廿九日　宣下

前權僧正弘舜

權僧正有助

已上宜爲東寺長者

藏人中宮大進藤原爲宗奉

上卿三條中納言
元亨二年十二月廿九日　宣下

前權僧正弘舜

宜知行　法務事

藏人中宮大進藤原爲宗奉

同三年癸亥

四年十二月九日改元、安居隆濟、(兵部卿)關東住、

長者前權カ僧正弘舜

後七日法行之、御前、權上座重慶、同信快、三月廿日夜拜堂、自寺家坊、扈從成身院法印空惠、改名弘爲、至慶賀門、乘牛輿、前駈二人之內一人者目代也、稱非隨寺役之儀未參堂也、別當未拜堂之間、不及入寺、綱所二人參儲慶賀門、內

三綱四人、權上座重慶、靜兼、兼本供役、權寺主兼增、權都維那快祐、兼硯印役、中綱四人、圓俊、□驚、源祐、圓成、職掌六人、官符如常、卯□用案文、吉書執行嚴伊、以助成之役勤之、諷誦文無用、用白紙、意導師潤惠、宰相僧都助成云々、三位弘覺律師咒願、御影供行之、執事□□□道承僧正、二階堂、往關東、及豫儀當日無布施、而元亨四年十二月放門徒了、其所布施、正中二年三月廿一日御影供、次勸修寺敎寬被引之畢、十一月卅日得替、元亨四年九月二日慕、去元應元年十二月月蝕御祈賞、以弘覺律師申任權少僧都、

僧正敎寬

十一月卅日寺務宣下、十二月七日法務宣下、而到來遲々之間、十二月九日被觸寺家了、同廿七日拜堂、白寺家坊、官符、吉書執行嚴伊、導師潤惠大僧都、宰相同日灌頂、小灌頂寬雄、宰相、諷經導師敎嚴法印、大夫、乞戒潤惠、嘆德亮禪法印、轉、一重代百疋、布代十五疋、

僧正道意

權僧正有助

正中元年甲子　安居清我、助、東寺學衣、太元光譽、去年七月十八日宣下、

三月廿三日石清水行幸、四月十七日賀茂行幸、六月廿五日後宇多法皇崩、五十八、天下諒闇、當寺放生會相撲力撲略之了、十一月十九日夜、當寺末寺六條坊門西洞院不動堂燒失、於本尊者、先年被渡大覺寺靈無動院畢、

長者僧正敎寬 法務、

後七日法行之、御前、權上座靜惠、權都維那永暹、御影供行之、執事貫物僧正、九月二日轉大、去元亨二年六月日蝕御祈賞、十二月廿一日灌頂、小灌頂榮翌、式部、觀音院宣惠、

僧正道意

三月一日、日蝕御祈効驗、六月後宇多院崩御之間、參籠大覺寺、依爲御附法也、

權僧正有助

九月二日轉正、同日長者得替、

前僧正光譽

九月六日加任宣下、同日隨心院經嚴僧正加任、載一紙之宣下、有助辭退替云々、然而則辭退之、仍不及載補任者也、

同二年乙丑　三年四月廿六日改元、安居行賀(大藏卿勝寶院住、正中三年正月十四日住權律師、閑書行賀)

太元良伊法印、
長者大僧正教寛法務、
御影供行之、執事佐々目有助僧正、去々年執事分
同日被引之、寺務之御沙汰也、八月廿二日寺務辭
退、
僧正光譽
後七日法行之、御前、寺主宗承、快祐、八月廿三日
寺務宣下、別當高禪法印、十一月廿四日得替、未
拜堂、
僧正道意
法印權大僧都顯□
正月廿日加任宣下、九月一日日蝕御祈効驗、被下
叡感綸旨、勸賞同卅日權律師禪可任權少僧都、
法印權大僧都實助
九月上旬加任三長者、同十五日月蝕御祈効驗、勸
賞同卅日以房助任權律師、
僧正有助
十一月廿五日寺務宣下、別當介法印權大僧都賴寶寶
實、敎院元祖同廿八日法務宣下、目代重圓、十二月廿二日
拜堂、宿房金蓮院針少路通、吉書上座祐禪、御前祐禪、權上座
靜兼、權寺主快祐、權都維那嚴秀、官符執行嚴伊、
咒願別當賴寶法印、導師亮禪法印、有職前驅四
人、御後一人、扈從兵部卿僧都長瑜、同日灌頂、乞
戒嚴忠法印、誦經導師潤惠大僧都、嘆德敎嚴法
印、、經圓宰相、當寺供僧還烈之時於護摩堂、
被脫相承御袈裟念珠五古等、執行嚴伊參儲之、則
於灌頂院內陣納唐櫃、後朝之時渡御唐櫃於北一
間、妻戶間、內々取出之、進小子房、
嘉曆元年丙寅 安居靜守、
九月九日夜、執行權大僧都嚴伊死去之、仍子息忠救
入寺補執行畢、此金剛乘院僧都融圓、雖申謀訴、嚴
伊就相傳道理爲聖斷、忠救補件職畢、十一月九日太
元良伊法印、
長者僧正有助
後七日行之、御前寺主兼增、權寺主豪圓、十四日
轉大僧正、二月七日佛舍利勘計、同日二間初參、
寺司等被略、九日寺務辭退、
僧正道意
二月九日寺務、十一日法務宣下、十三日護持僧、十六日拜堂、同夜二間初參云々、
十六日延命法始行、七月日、中宮御產御祈、御影供大北

行之、執事實弘僧正一重代百疋、斗法勤之、而八月廿八日曉、母儀入滅、今日破壇退出、寺務上表、八月廿日別當賴惠入滅、稲荷祭禮延行、今十二箇日依春坊御事也、

法印權大僧都實助

中宮御産御祈、六月十一日五壇法内大威德勤之、十二月廿一日任權僧正、同廿九日辭長者、

法印權大僧都顯助

八月十六日月蝕御祈、正現、十二月五日任權僧正、同廿三日補法務、十二月廿四日拜堂、同日行灌頂、御前四人、小灌頂眞聖、當寺供僧也、

僧正經嚴

二月九日加任宣下、爲二長者、十五日月蝕御祈法驗、被下叡感綸旨、九月一日日蝕御祈、正現、嘉曆元九十七日八幡藥師堂囘祿、

道意事○今按此間有誤脱歟

三月七日所司初參、三綱十二人、今一人定内良紹權寺主依遠行不參、法眼平袈裟也、祿各一重、役人有職三人、仲緣、兵部卿阿闍梨、賴意、右衛門督阿闍梨、通遍中納言阿闍梨、也、饗料以代錢下行之、中綱七人裝束如常、祿各布二段、役人侍小所司三人、袍狩袴、職掌七人之内、今一人不參、淨衣鐘突三人、淨衣立頸各布一段、役人中間小所司、裝束袍狩袴、鐘突淨衣、立頸、饗料同爲代錢酒肴皆略之、

同十六日拜堂、自西園寺長途、官符執行嚴伊、咒願行賀律師、別當代官也、未拜堂之間□□□大藏卿、導師嚴昌法印、大進、下引續導師、咒願、布施、前駈取之、吉書一蕑、三綱袮禪、御前皆參、頁紹但一人依遠行不參、中綱四人、職掌六人、已上寺司、有職前駈六人、上童一人、染裝束童二人、大童子二人、御後一人、扈從御弟子法眼道聖、前駈二人、童一人、大童子二人、布施、祿物、現被物、三綱良紹分二重別當執行等分了、布代二百文、大堂供現未抑灌頂院西院八幡宮御捧物皆被略了、中綱現任七人之外又被略之了、垸飯一具納長櫃三合、自小子坊賜寺家了、殊勝之垸飯也、

前大僧正教寛

八月廿九日寺務宣下、別當同前榮海、中宮御祈如法愛染王法賞、

同二年丁卯　安居定教、太元頁伊法印、

同三年八月十四日歸座、十二月五日石淸水神輿一基御入洛云々、執行忠救寺家直被下御教書、當寺可

被安置由云々、取詮(本ノマヽ)奉行當、前中納言冬方子息、勘解由次官冬長也、

大貳東寺供僧、正月廿八日講堂修正、當堂供僧兩人、賴寶法印、潤惠大僧都、相加以上廿口也、

長者前大僧正敎寬

二月十四日月蝕御祈、皆虧正見了、三月廿一日御影供勤之、前日九條前關白薨之間、北政所被落餝、御戒師被勤之、仍有穢氣、於御影供阿闍梨者、可催第四長者之由、內々奏聞之處、依興福寺事、天下觸穢之上者不可有苦之由、被仰下之間勤之了、執事道意僧正、長座別當執行二百疋、三綱等百疋也、

僧正經嚴

權僧正實助

權僧正顯助

後七日行之、御前二人、信快、宗乘、

三寶院 僧正賢助

中宮御產御祈勤之、二月六日醍醐座主補之、正月十四日加任宣下、爲二長者實助替、

東南院東大寺 大僧正聖尋

四月十九日加任宣下、爲二長者、經嚴僧正替、凡僧別當岳西院法印道耀、同御產御祈六字法勤之、二月六日醍醐座主辭之、

權僧正成助

十二月十九日加任宣下、爲四長者、同廿五日、〇以下脫文歟

嘉曆二年十二月十九日　宣旨

法印權大僧都成助

宜爲東寺長者

藏人兵部少輔藤原經季奉

十二月廿七日拜堂、宿房ツイ殿、職掌六人、中綱四人、有職前駈四人、御後一人、大童子二人、力者十二人、扈從二位僧都尊仲、吉書權上座靜兼、御前三綱二人、權寺主有深、權都維那頁詮、權官符執行忠救、咒願別當法印定耀、導師法印嚴昌、名現被物當座引之、同日灌頂、小阿闍梨禪顯二位、當寺供僧、乞戒權大僧都潤惠、誦經導師法印嚴忠、後朝供養法已灌頂經圓、嘆德法印權大僧都敎嚴、讚頭禪我、淸禪、御拜堂之時、八幡宮拜殿石淸水神輿依御座、於四足北廻廊、拜社之儀有之、初例云々、拜堂灌頂共一重代百疋、大堂供五百疋、

同三年戊辰　安居朝弘、興福寺僧、太元頁伊法印、
二月十四日凡僧別當定耀他界、仍弟子定超僧都初
七日以後補別當職云々、棚守職掌重家、四月廿日權
少僧都寺忠補別當職了、棚守中綱敬尊、
長者大僧正聖尋
後七日法行之、十四日加持香水、御前三綱二人、
上座祐尊、權寺主豪圓、職掌四人、中綱四人、房官四人、侍一
人、大童子二人、中童子一人也、執行忠救、祗候眞
言院之間、加點義如先年、東大寺被相兼別當間、
彼寺之官等被召具云々、正月廿二日於禁裏清涼
殿二間、佛舍利御奉請、長者香染鈍色、同小袈裟
被着之、今度別當不參之間、寺務之扈從權少僧都
寺忠、執行忠救、隨御前之役畢、勅使二條前中納
言長隆也、今度相承御袈裟、被付勅封、初例歟、依
爲破損、向後不可着用之云々、
僧正賢助
十二月晦日寺務宣下、但本房到來正月一日也、
權僧正顯助
權僧正成助
十二月廿九日早旦、佛舍利乞二粒御奉請、勅使九
條前中納言光經、別當執行參向行灌頂、古長者之
間蘇物等無之、已灌頂助得業無心、東南院房八、
上卿洞院宰相中將實守、辨權右中辨光影、御影供
行之、執事東南院前大僧正聖守、一重代百疋、三
昧耶戒之時、金堂西廻廊ニ於テ、如恒例開御道具之
時、於相承御袈裟者、被付勅封畢、仍御着用難叶
之由令申間、臨期違亂出來之間、自廻廊則小子坊
ヘ令歸洛畢、其後眞光院ヘ被申合之後、扈從兼什法
印袈裟ヲ令着用給テ、又御出仕也、仍三昧戒及日中
畢、嘉暦四六月廿五日丑刻、本ノマヽ入盜人寶藏、取佛舍
利等畢、同月ニ出現了、
同四年己巳　元德元、安居太元頁伊法印、
長者僧正賢助
後七日行之、御前三綱二人、上座朝慶、權寺主宗
承、中綱四人、職掌六人、
權僧正顯助
權僧正成助
權僧正信助
前大僧正聖尋
嘉暦四年三月八日　宣旨

前大僧正聖尋

宜還補東寺長者令知行法務事

藏人右少辨藤原冬長奉

同月廿日拜堂、自金蓮院、御職掌六人、中綱四人、三綱四人、房官四人、法眼着小袈裟、御後一人、中童子一人、大童子二人、扈從別當僧都兼之、吉書官符執行忠救、咒願凡僧別當尋忠、導師法印嚴昌、御影供々養法執事隨心院僧正經嚴、長座以下一重代百疋、十二月廿日灌頂行之、三摩耶戒以前於小子房有受請、寺務無着座、威從賜祿役人房官無着座之條、先例云々、小阿闍梨有經、關東住人、佐々目門弟云々、

元德二年庚午 安居闕如、關白中間別當沙汰之後、行晤カ後勤之、祿物經入之、則任律師畢、

長者前大僧正聖尋

御影供行之、執事成就院僧正益守、

權僧正顯助

權僧正成助

後七日行之、

權僧正信助

權僧正榮海

八月廿一日加任、于時三長者、

大僧正經嚴

十一月廿一日拜堂、自實相寺步行、御前職掌六人、中綱四人、三綱四人、房官四人、侍一人、大童子一人、壬生ヲ北行、針小路ヲ東行、大宮ヨリ至賀門、任例着小子房、作法如常、導師實相寺法印教嚴、咒願別當權大僧都信意、扈從兼之、官符執行忠救、着座之後置祿物、綾被物一重、役人房官、事畢後任次第、巡禮至西院、行吉書、先別當不動堂東面第二間着座、南面花形壇前執行着座、先別當置祿物一重、役人房官、從僧取之、別當退出之後、長者着座、則可行吉書之間、硯印鎰役人、三綱以預相催之處、三綱等不可參勤之由申之間、背先例、不可參勤之條、甚以不可然、早可相從之由、問答雖及再三、一切不叙用、仍欲及曉天之間、不參勤者所詮可退三綱之由、責伏之間、令勤仕畢、着本座之後、綾被物一重置之、役人房官、自今夜於不動御前一七日、被行護摩、相當結願、被燒八千枚、次日於北面以常住寺僧等、被行理趣三昧、布施檀紙百帖被引之、門路例云々、

前大僧正道意

十二月廿八日灌頂行之、乞戒潤惠大僧都、誦經導師法印敎緣、散花權律師寛雄、小阿闍梨通遍中納言阿闍梨、長者門弟、後朝供養法深源律師、散花別當代仲緣、讃頭禪賀、加點作法如常、

元弘元
同三年辛未　安居闕如、八月廿五日當今依御事也、太元良伊法印、

長者前大僧正道意

自五月之比、禁裏御惱、仍被修佛眼法、則禁裏□候也、

僧正成助

御影供行之、執事兼之、十二月廿九日恒例灌頂行之、後朝正月一日小灌頂淸禪、當寺供僧也、

權僧正榮海後七日法行之、月日辭長者、

權僧正信耀月日辭長者、

僧正益守

十二月廿八日寺務事、內々被仰下云々、爲御祈、常盤井殿御壇所御祗候也、

正慶元
元弘二年壬申　安居闕如、開白別當沙汰之、其後香隆寺住有譽勤之、太元法光譽僧正、

長者僧正益守

正月二日寺務宣下、後七日法行之、依爲大甞會以前、加持香水無之、內論義同無之、正月十四日於眞言院舍利勘計、委細記有別紙、以其次御道具勘納也、御影供供養法勤仕之、依爲大禮以前、雖爲未拜堂被勤之、是又依爲先例也、執事金剛王院僧正實助、一重代百疋、今度於三綱者絹一疋各被引之、一疋別六十疋也、左道事也、十二月十三日拜堂、自金蓮院步儀、御前三綱四人、有職前駈二人、後騎一人、大童子二人、扈從寶持院權律師敎雅、官符忠救、咒願法印敎嚴、導師權大僧都潤惠、諸堂巡禮如恒例、至西院行吉書、三綱豪圓勤之、其後御退出前之小子房入御也、自其北門御退出常例也、而今度如元自慶賀門至金蓮院、自彼坊令歸仁和寺給畢、

僧正成助

十二月廿八日灌頂、小阿闍梨大貳、宗寶阿闍梨、十二月廿三日寺務宣下、

法印權大僧都良耀仁和寺跡功德院、

五月廿二日加任爲三長者、十二月日任權僧正、

前權僧正亮禪

正慶二年癸酉　五月七日以後者不用此年號、如元可爲元弘者也、

十二月廿九日加任宣下、然者良耀可退第四者也、

太元光譽僧正、安居、當年御影供依動亂被延引畢、依延慶之例也、以先例、自寺家申寺務之處、則被經奏聞畢、仍可延引之由、被下院宣畢、日野大納言資名卿奉行也、五月七日六波羅落畢、仍宮方軍勢亂入京中、每事元弘元年風儀ニ相同ス、仍先御代元弘元次○南按當作以來官符宣旨、任官敍位等一切不可用之由、被成御事書之間、如此所職以下如根本也、

長者僧正成助

法務先御代僞主之時、補任之間、如元第二退畢、

權僧正亮禪

後七日法行之、御齋會并內論義無之、加持香水許也、御前三綱二人、三月十六日、月蝕御祈勤之、別當少□□貞惠、關東住人、二月十日加任、

權僧正禪秀

權僧正良耀

前大僧正道意

明日當寺可成行幸之由、爲公明卿奉行、被仰下畢、御教書勝寶院僧正御房云々、此條現任公卿僧俗并諸職以下、可爲元弘元年之分旨、御事書炳焉之間、如元可爲寺務之由、被仰下歟、仍可爲寺務之由披露畢、就之西院可爲御所望之間、每事被奉行畢、供御以下悉御沙汰也、十二月廿六日灌頂行之、小阿闍梨全海、乞戒潤惠大僧都、別當法印、

僧正成助 如元爲第二長者、

權僧正亮禪

九月十四日月蝕御祈可勤仕之由、雖被仰下、固辭之間、可被許加任之由、被仰下之間、令領伏畢、仍則加任宣下、爲第三之長者、十二月廿日拜堂、白寶菩提院出立、御前三綱二人、權寺主快祐、之有深、中綱四人、職掌六人、扈從權少僧都眞聖、侍二人、大童子二人也、去三月廿一日御影供延引之間、今月廿一日ニ被行之、供養法參勤之執事菩提院僧正信助、一重代百五十疋也、當年執事豪親僧正、關東住、依無沙汰被放門徒畢、十一月六日被下綸旨、中辨宣明奉行之、

建武元 元弘四年甲戌 正月晦日改元建武云々、安居延朝、

九月廿一日石清水行幸、廿二日護國寺供養之色衣三十口也、御導師道意僧正、參勤之勸賞、覺信僧都被轉大畢、社家之賞、通淸、陶淸、曩淸、被任大僧都畢、同廿三日當寺行幸、次日塔供養、塔南ニ立頓宮、

自小子房行幸頓宮、足利宰相尊氏同者座也、導師寺務僧正、宿房自金蓮院出立、御前六人、前駈六人、扈從一人、上童一人、於中門着相承袈裟、忠救隨此役、（着イ）
導師賞被下牛車宣旨、

長者前大僧正道意

後七日法行之、御前三綱二人、（權寺主靜慶、都維那眞詮、）御影供供養法被參勤之、執事良宗於僧正山臥也、一重代百疋寂略也、四月五日引之、十二月廿九日灌頂行之、小阿闍梨能賢、（菩提院住人、）乞戒弘緣僧都、散花寬雄律師、片壇潤惠法印、

僧正成助

九月日辭長者、

權僧正亮禪

三月十六日月蝕御祈勤之、月日辭長者、

權僧正道祐

三月十八日加任宣下、四月一日、日蝕御祈勤之、

權僧正道我

九月十日加任宣下、同月十五日月蝕御祈勤之、

僧正弘眞

月日加任宣下、月日辭長者、

僧正益守

十二月卅日寺務宣下、

建武二年乙亥

長者僧正益守（法務、）

後七日法行之、御前三綱二人、（寺主快祐、權寺主經算、）前々自眞言院參內常例也、今度自洞院步行、初例也、加點之作法如常、事畢後被物（地紅梅羅衣、）一重拜領之、是則恒例之加點祿是也、但近年無沙汰也、二月日又遂拜堂、先年拜堂爲僞主之御代之間、重遂其節者也、

僧正弘眞

三月十五日寺務宣下、法務、同廿日遂拜堂、一重代百疋、宿房寶菩提院、於諸堂被行誦經畢、於寶藏同被行、導師亮禪僧正代眞聖僧都參勤之、執行祿絹二卷、錢一貫文、但玉連預下行佛供以下料也、導師絹一卷云々、御前三綱四人、官符忠救、御影供行之、執事兼之、長座以下一重代百疋也、十月廿一日於講堂被行之仁王經法、伴僧廿口、勅使藏人右少辨藤長、法會奉行忠救勤之、同廿八日、於當堂百座仁王會被行之、綱所催具之裝束、鈍色

白裳、五幅袈裟堂內四方懸百佛、各備香花、惣導師寺務參勤之、舞樂同有之、綱所參具法會、上卿參議實治、勅使藤長、同卅日於西院南面、舞樂曼茶羅供被行之、色衆十六口也、安御道具唐櫃於母屋之內、納佛舍利於金銅塔、置唐櫃上、其前立花形壇、被准舍利會儀也、悉寺務御沙汰也、十一月十三日被行灌頂、小阿闍梨寺務門弟宗用勤之、一重代又百疋也、乞戒深源 權少僧都、誦經 導師凡僧別當憲什 法印、嘆德潤惠法印、同讚弘雅 阿闍梨、

僧正實助 金剛王院、

權僧正道我

十二月三日拜堂、ヘツイ殿ヨリ、御前三綱二人、侍二人、大童子一人、從僧二人、吉書上座兼增、

權僧正道祐 報恩院、

同三年 丙子 二月廿九日改元延元、當年結緣灌頂無之、

長者僧正

法務後七日行之、但十日マデ三箇日勤之、棄眞言院參山門畢、御影供行之、但手代潤惠法印供養法勤之、手代之初例歟、執事榮海僧正、布施物當日無之、五日中可致其沙汰之由、被出請文畢、此事自寺務被免許畢、

僧正實助

權僧正道我

權僧正道祐

眞光院 僧正成助

九月十六日可爲寺務之由、被下院宣畢、仍則被觸寺家畢、

同四年 丁丑 太元隆雅、結緣灌頂無之、

長者僧正成助 法務、

六月十三日 亥初點 大雨雷鳴、卽雷落懸塔婆、乾角柱出火、諸人群集捨身命消之、柱火及忽滅了、

權僧正賢俊 三寶院醍醐座主兼之、

後七日法行之、加持香水依爲大禮、以前無之、正月六日僧正 宣下、同廿四日加任 宣下、然者後七日法爲非長者行之□不審之、結願爲十四日之間、加點同日也、祿物一重有色取之、

權僧正亮禪

御影供行之、執事水本僧正隆舜、當日無布施、但道場方并御捧物等被沙汰進之、

同五年戊寅 改元曆應、太元隆雅、結緣灌頂無之、
長者僧正成助
　眞光院法務、
　權僧正亮禪
　御影供行之、但無執事、仍闕如之間、臨期自武家
三千疋被沙汰進、灌頂院西院 八幡宮御捧物等百
疋、色衣執行等五十疋、
　權僧正賢俊
　後七日法行之、加持香水無之、眞言院破壞之間點
宿坊、中御門大宮北野長者宿所、每時自宿房參眞言院、於小行事
者任當院、御道具唐櫃被置宿房、仍加點同於宿坊
有此儀、作法如例、加點之祿被物一重、有職取之、
曆應元、八幡宮場炎上、貞觀勸請已後四百八十年
也、
曆應二年己卯 太元隆雅法印、
長者僧正成助法務、
　御影供行之、執事賴仲僧正、別當法印仲尊、
　權僧正亮禪
　權僧正賢俊
　後七日法行之、宿坊儀同去年、加點之作法同前、
加持香水參勤、
　正月十三日補權法務、仍召具綱所、
　法印權大僧都隆雅
　正月廿二日加任宣下、
　僧正賴仲
同三年庚辰 安居宗有阿闍梨、（香隆寺住人、）
長者大僧正成助
　僧正賢俊
　後七日法行之、十二月廿六日寺務宣下、上卿侍從
中納言藏人左少辨兼春宮大進藤原宗光、奉、
　權僧正亮禪
　後影供行之、執事賢俊僧正、二月廿八日重任宣
下、同三月四日、
　香隆寺僧正有助
　三月四日寺務宣下、同日法務宣下、
　法印權大僧都寬惠
　七月廿一日加任宣下、
同四年辛巳
長者僧正賢俊
　後七日法行之、御影供々養法勤之、執事良耀僧

正、三月廿一日早旦遂拜堂、自寶嚴院、
法印權大僧都寛惠
　能濟 後四月廿八日加任宣下、
權僧正覺雄 醍醐地藏院、
同五年壬午 四月廿七日改元康永、
長者僧正賢俊 法務、
御影供行之、執事俊覺僧正、
權僧正寛惠
後七日法行之、加持香水土御門里內、康永元三廿法勝寺塔炎上、四月廿三日於講堂被行仁王經法、大阿闍梨寺務僧正、伴僧廿口、護摩俊性法印、扈從松橋 法印賢季、伴僧兼之、御衣使藏人 將監仲名、五月一日結願、於後加持者被參仙洞勤之、伴僧廿口悉召具之、祖師定濟僧正例歟、
康永二年癸未
二月十一日マテ寺務、自二月十二日 經嚴僧正寺務重任、雖然同三月十九日賢俊僧正又任寺務云々、
長者大僧正賢俊 法務、
後七日勤之、三月十九日又寺務重任宣下、御影供供養法參勤之、執事隆雅僧正、
權僧正覺雄
隨心院 前大僧正經嚴
二月十二日寺務宣下、重任、同十四日法務宣下、
證聞院 權僧正俊覺
同三年甲申
八月十五日拂曉、東大寺神輿一基入洛、任例可奉入當寺之由、被下院宣畢、宣明卿奉行、仍同日入夜入御當寺了、
長者大僧正賢俊 法務、
御影供行之、執事覺雄僧正、十二月廿七日恒例灌頂行之、小阿闍梨弘雅、料足二萬疋、自武家被沙汰進了、凡僧別當岳西院大僧都定起、
松橋 權僧正賢季
正月五日加任幷權僧正宣下、後七日法行之、
同四年乙酉 十一月廿一日改元貞和、
長者前僧正榮海
正月四日寺務幷法務宣下、後七日法行之、依南都訴訟、無御齋會、但出加持香水者、依先例參勤之、
三月廿日拜堂御影供行之、執事賢季僧正、
前大僧正賢俊

十一月廿九日寺務重任、
貞和二年丙戌 安居果數、
長者前大僧正賢俊
後七日法行之、御影供行之、執事良譽僧正、三月
廿七日院尊勝陀羅尼供養、院寺 御導師參勤之、新大納
言資朝明卿亭ヨリ勅止烈綱所共奉之、
權僧正良譽 理智院、
權僧正賢季
同三年丁亥
長者前大僧正賢俊
後七日法行之、御影供行之、執事了賢僧正、
權僧正良譽
權僧正賢季
同四年戊子
長者前大僧正賢俊
後七日法行之、御影供行之、執事俊性僧正、
權僧正良譽
權僧正賢季 水本報恩院
權僧正隆舜
十月十八日加任宣下、上卿三條大納言、職事右少
辨教光、
同五年己丑
長者前大僧正賢俊 御影供行之、執事性弘僧正、
權僧正隆舜 水本
權僧正賢季
後七日法行之、依爲大禮、以前加持香水無之、
同六年庚寅 觀應元、太元隆雅、
長者前大僧正賢俊
御影供行之、執事親海僧正、
權僧正隆舜
後七日法行之、十一月廿七日寺務宣下、凡僧別當
文海法印、
權僧正賢季
觀應二年辛卯 太元隆雅、
長者僧正隆舜
御影供行之、執事定憲僧正、依爲大禮、以前爲未
拜堂、勤仕御影供養法、是又依先例也、
權僧正賢季
十一月將軍幷義詮卿、吉野綸旨以來治世改號正
平、仍十二月上表、然而不收云々、凡僧別當文海

法印、
長者前大僧正弘眞
治世改十一月以後也、凡建武以來相續議云々、凡僧別當弘雅大僧都、
僧正賴意
權僧正隆雅
後七日法行之、十二月廿三日始行、同廿八日結願加持香水無之、
同三年壬辰 文和元、九月廿六日改元、正平七年當也、
長者弘眞
後七日行之、去建武三年天下騷亂之時、後七日法三箇日以後、不及道具等檢納之儀、退出之間、今度先年伴僧交名等令書加繼紙中了、可謂老後本懷哉、
賴意
隆雅
太元行之、延文二八廿八入滅、光譽僧正付法、
閏二月廿日、南方官軍北山破武家、令體發向京都、即武家義詮引退江州、三月十五日令上洛、退南方軍勢、仍持明院殿御治世奉成之了、而三月以後雖爲持明院殿御治世、舊冬隆舜僧正辭退後、未及改補御沙汰、仍寺務未定加任、長者又無之、御影供闕怠了、
文和二年癸巳
長者未定 正月十四日、寺務隆舜僧正入滅以後、寺務未補、
權僧正賢季
後七日法行之、始加任、宣下無之、康和以後加任相續云々、御齋會無之、
御影供供養法定額、一﨟權僧正親海勤仕之、執事隨心院僧正通嚴、當界雖爲胎藏、爲去年分金剛界行之、兩壇供師、
四月五日依大風眞言院顚倒、
六月五日南方官軍亂入京都、武家義詮奉具主上引退濃州之後、治世改用正平號、
長者前大僧正道意
後任、去嘉暦元年補任、又元德二年復任、同三年重任、爾者加今度復任、及四箇度歟、但於元弘三年復任者、自元年猶相續儀歟、可諱之、凡僧別當堯海僧都、
權僧正賴意

同三年甲午
七月廿四日南方官軍引退了、九月廿一日自濃州主
上還幸、尊氏幷義詮卿供奉、長者未定、
寺務未補
去年眞言院顚倒カ例之後、修造于今不周備、武家料足
遲引之間、不及式日始行云々、
妙法院
權僧正定憲
正月六日加任、寺務雖爲未定、加任初例歟、後七
日法行之、自十日始行、十四日結願、加持香水無
之、太元安祥寺良嚴法印、道場官廳、八日始行、十
四日結願、御齋會無之、御影供、依執事違亂闕如
之處、料足自武家奉加之間、任曆應之例、俄入夜
行之、付衣供養法定額、一﨟親海僧正勤仕之、當
界雖爲金界、爲去年分胎藏界行之、
權僧正賢季
長者無品親王聖珍
九月廿八日宣下、親王寺務初例也、凡僧別當實遍
法印、十一月十六日大嘗會被行之、
權僧正定憲
權僧正賢季

十二月廿四日主上幷將軍尊氏以下引退江州、自其
已後京都無主、送數月畢、
同四年乙未
長者僧正賴意 號正平十年正月十六日僧後、凡僧別當賴惠大僧都、
正月十六日吉野方官軍桃井播磨守直常以下率大勢
自北國上洛、自其已後用正平號、三月十二日於京都
武家討官軍、直冬朝臣以下合戰數刻、翌朝官軍沒落
了、其已後治世如元、
長者無品法親王聖珍
自去年相續儀也、
權僧正定憲
權僧正賢季
□□□光濟
後七日行之、六月廿四日始行、同卅日結願、結願
日佛舍利勘計、千六百五十八粒、於內裏在此儀、
加持香水正親町里內、
延文元年丙申 安居深然、(高雄)
長者辭親王聖珍
僧正定憲
六月廿八日 寺務宣下、七月十五日月蝕御祈勤之

正現、凡僧別當性快僧都、
權僧正賢季
五月廿八日轉正、
□□□光濟
後七日行之、十二月十一日始行、同十七日結願、
太元安祥寺興雅大僧都、道場長講堂、正月十日始
行、御齋會無之、
同二年丁酉 太元興雅、
長者僧正定憲
七月十四日月蝕御祈勤之、施高名了、
僧正賢季
正月十六日月蝕御祈勤之、未之時分聊出現云
云、
權僧正光濟
後七日行之、十二月八日始行、同十四日結願、
同三年戊戌 太元興雅法印、
長者僧正定憲
六月一日日蝕御祈勤之、施法驗了、自早旦雨降、
時已天時、
僧正賢季
正月卅日入滅、
權僧正光濟
後七日法行之、十二月廿三日始行之、同廿九日結
願、
權僧正親海
十二月卅日宣下、于時二長者、
同四年己亥 太元興雅、上長講堂、
長者僧正定憲
四月十日辭退了、
權僧正親海
正月六日入滅、
光濟
後七日行之、正月八日始行、同十四日結願、
地藏院前大僧正覺雄
四月十二日寺務宣下、法務同日宣下、凡僧別當亮
忠大僧都、
上卿按察大納言
延文四年四月十一日　宣旨
前大僧正法印大和尚位覺雄
宜爲東寺長者
藏人頭右中辨藤原忠光奉

上卿同 延文四年四月十一日　宣旨
前大僧正法印大和尚位覺雄
宜令知行法務事
藏人頭右中辨藤原忠光奉
權僧正光濟
十二月廿三日將軍義詮引率畠山阿州禪門相模守以下諸軍兵、發向南方、爲朝敵對治也、

同五年庚子
長者前大僧正覺雄法務、
後七日法勤之、正月八日始行、同十四日結願、加持香水無之、神輿在洛之故也。同日及晩頭、於內裏佛舍利御奉請、委細見舍利勘計記矣、
權僧正光濟
三月十四日東大寺神輿歸座、自南門還御之儀如常、久我內府子息、任中納言令供奉、
五月廿四日將軍義詮阿州禪門相模已下歸洛、南方官軍引退金剛山城、
九月十五日ヨリ於三條坊門將軍家、五壇法始行、中壇寺務、

康安元 同六年辛丑
長者權僧正光濟法務、
後七日勤之、無御齋會幷加持香水、凡僧別當理性院大僧都宗助、
上卿坊城中納言 延文五年十二月廿九日　宣旨
權僧正法印大和尚位光濟
宜爲東寺長者
藏人右兵衛佐藤原嗣房奉
上卿 延文五年十二月廿九日　宣旨
權僧正法印大和尚位光濟
宜令知行法務事
藏人右兵衛佐藤原嗣房奉
西園寺任右大將、二月廿四日夜拜賀、大理中納言時光召具檢非違使章賴令供奉了、
六月廿八日於內裏、最勝講被行之、
權僧正性禪證圓院毘沙門谷、
康安元年八月十八日宣下、
上卿坊城中納言 康安元年八月十八日　宣旨
權僧正性禪
宜爲東寺長者
藏人左少辨藤原嗣房奉

同十二月七日　主上幷將軍義詮以下引退江州、翌日八日早旦南方官軍入洛、同廿七日自江州義詮率大勢、
南方官軍不及合戰沒落了、於江州內裏御惱、未無還御、
貞治元康元二年壬寅
長者僧正光濟法務、
後七日同十二月廿四日始行同廿九日後七日結願延引、御影供行之、執事兼之、先早旦被遂拜堂了、皆同百疋、宿房實相寺、別當宗助、同遂拜堂畢、宿房寺家坊、
權僧正性禪
去年八月十八日加任、文和四年以來當會中絕七箇年、四月廿一日自西園寺亭內裏還幸、今年再興也、
法印權大僧都仲玄
康安二年三月廿二日宣旨三長者、
上卿坊城中納言
康安二年三月廿二日　宣旨
法印仲玄
宜爲東寺長者
藏人左少辨藤原嗣房奉

十二月廿四日、後七日法行之、武家訪千疋有之、
同卅日結願、無加持香水、阿闍梨寺務僧正、
貞治二年癸卯
長者僧正光濟
後七日〔法〕行之、無加持香水、同結願日於內裏有舍利奉請、記錄在別、御影供行之、執事權僧正道淵、菩提院、
凡僧別當理性院宗助大僧都、
權僧正性禪
二月五日、月蝕御祈勤之、施法驗畢、但他州蝕歟、
〇按東寺修行日記、二月十五日月蝕可爲是、
權僧正仲玄
太元法、安祥寺興雅法印勤仕之、
權僧正道淵
貞治二年四月十三日加任宣下、可爲二長者、八月十六日、月蝕御祈勤之、聊出現、十一月廿五日辭長者、
上卿帥中納言
貞治二年四月十三日　宣旨
權僧正道淵
宜爲東寺長者
藏人治部權大輔藤原仲光奉

六月十七日乙卯辰刻石淸水神輿一基二宮御入洛、振捨七條猪熊訖、如嘉曆二年者、直被成下　勅裁於執行、以公人等奉當寺之處、於今度者、直爲武家沙汰、以他人等奉入訖、是初例歟、卽御座鎭守拜殿矣、同日武家爲沙汰、自侍所警固爲神輿守護也、

同八月廿九日酉刻　御歸座、先奉出金堂、禮堂伶人奏樂、自南大門還御、久我右大將供奉、

權僧正杲守石山虎就院

十月日加任宣下、仲玄替歟、仲玄辭退之條、不聞之、爲上被拔之歟、可決之、

同三年甲辰

太元興雅、三月十四日四條前大納言隆蔭入道圓家、

長者僧正光濟

後七日行之、加持香水無之、御影供行之、但依四條大納言入滅、爲繼父之間、三十日服十箇日暇也、供養法勤仕可有後難歟、云々、然而不可苦之由及沙汰了、執事前權僧正宋辨、皆同百疋也、新熊野前別當山臥也、法流三寶院流云々、號大悲寺、

權僧正性禪

權僧正仲玄

自去年猶相續、若然寺杲守加任誰人替哉不審、長者已滿四人、量知爲上無御簡別歟、尤以不審也、三月十五日執行定伊轉任被書入、矢月廿六日僧事畢、

凡御影供執事々宋辨初者辭退之間、二月廿三日雖被止門徒、號後者可勤仕之由捧請文之間、三月十五日被召返門徒、停廢綸旨訖、但二月廿三日綸旨遣宋辨方訖、於召返綸旨者止寺家了、

權僧正杲守

同四年

長者僧正光濟執事西方院仲我僧正、後七日、

權僧正仲我

三月十三日宣下二長者、執事兼之、同廿一日拜堂、權僧正仲玄、

同五年

長者僧正光濟

僧正弘賢後七日法、執事若宮別當弘賢、

同六年

長者大僧正定憲

後七日再任、上卿四條中納言、執事性禪毘沙門谷
人也、

應安元戊申

一長者光濟僧正三寶院加任、最初文和四、末長者無之、

同二年己酉

一長者同上

二長者宗助權僧正理性院、

口宣案
上卿藤中納言
應安二年三月廿日　宣旨

法印權大僧都宗助

宜爲東寺長者

藏人頭左近衞權中將藤原公時奉

私云、理院日比爲凡僧別當、今加任之後、以光信僧都申補之云々、

加任事、明日廿一日、御影供々養法參勤之料也、一長者僧正、先年已遂拜堂、仍御影供參勤無顚、雖然以此次殊更被申沙汰歟、同日任極官了、未公請僧輙不被許、極官是爲嚴法歟、然而長者僧正强被申請之間、勅許無相違、且御影供以後御修法一壇可參勤之由也云々、卽廿一日遂拜堂御影供奉仕了、三月比於內裏不動法七箇日、伴僧六口參勤了、是公請之初度而已、

同三年庚戌

一長者同上光濟

二長者同上宗助

正月後七日法、二長者參勤之、初度、自長者僧正木坊號法身院、土御門萬里小路、每日參行之、今年無加持香水、三月廿一日御影供々養法、同二長者參勤之、

同四年辛亥

一長者同上

二長者同上未長者無之、

今年又後七日法、幷御影供々養法、二長者參勤之、

同五年壬子

一長者同上

二長者同上未長者無之、

今年後七日法、幷御影供々養法、二長者參勤之、

同六年癸丑

一長者同上

二長者全海權僧正酉、大慈院、

三長者禪守權僧正仁、眞言院、

四長者宗助權僧正

口宣案

上卿中院中納言

應安六年三月十八日　宣旨

權僧正全海

禪守

已上宜爲東寺長者

藏人左少辨藤原仲光奉

今年後七日法、宗助權僧正爲二長者、又奉仕之、

三月御影供者、權僧正爲四長者參勤了、

同七年甲寅

一長者定憲前大僧正四月還補、（第三度）光濟僧正依神訴事辭退替、

二長者全海權僧正

三長者禪守權僧正

四長者宗助權僧正

今年又後七日、幷御影供々養法、四長者奉仕之了、

應安八永和元乙卯

一長者光濟僧正

二月、、還補、第三度、定憲僧正替、但不及辭申歟、長者カ全

二長者同上

三長者同上禪

四長者同上宗

今年後七日幷御影供、同四長者參勤了、

同二年丙辰

一長者光濟大僧正

二長者禪守僧正

六月六日轉正、後伏見殿結緣、水丁大阿闍梨參勤料、

三長者全海權僧正自是全海退爲第三、

四長者宗助權僧正

後七日法猶四長者奉仕、第七度也、御影供養法又參勤、

今年爲執事云々、

同三年丁巳

一長者光濟大僧正

七月一日、母儀他界、爲重服然而猶不及辭退、是

近者菩提院成助僧正之例也云々、

二長者禪守僧正十一、十五、月蝕御祈勤之、

三長者宗助權僧正今年初爲太元阿闍梨、

四長者隆源權僧正

後七日法印參勤之間、正月七日任極官、同八日加

第四長者、于時長者四人員滿、然而爲非長者後七日參勤、無例之間、忽退全海權僧正補之、全海兼不及辭申歟、不便事也、

口宣案

上卿　左衞門督嗣房（萬里小路一品仲房息）

永和三年正月八日　宣旨

權僧正隆源

宜爲東寺長者

藏人右少辨兼左衞門權佐藤原經重（勸修寺號小川）奉

三月御影供々養法、三長者僧正參勤之、

同四年（戊午）

一長者光濟前大僧正

二長者禪守僧正

三長者宗助權僧正（太元法奉仕之、）

四長者隆源僧權正（後七日法又參勤之、）

三月御影供三長者參勤之、

康曆元年（己未）

一長者光濟前大僧正（閏四月廿二日入滅、）

二長者禪守僧正（四月、、辭退之、）

三長者宗助權僧正（太元法勤之、）

四長者隆源權僧正（後七日法奉仕之、）

閏四月廿二日、前大僧正所勞危（險カ）兼之間辭長者職、卽同夜亥刻入滅了、

今日卽宗助權僧正長者職所望、就女房（二位局）、經內奏之處、不可有子細之由勅答云々、（前長者僧正遺命之由申之云々、比興之事）也、

自同廿八日、宗僧正籠居光僧正之中陰（京都坊法身院）了、一長者職已令治之者、爲長者護持僧而籠居穢所之段、如何之由人々難之、子細內々經奏聞云云、奏聞之子細不審々々、

後日私勘舊記、嘉應比、禎喜僧正一日追善堂供養導師勤之、忽被仰御修法御加持、俄以長幸僧都被加任云々、一日導師尙有禪、五旬籠居、暗故實者歟、宗僧正法流者、理性院間各別勿論、但三寶院方者、爲故岳西院法印定趣印可弟子、仍與光僧正同法一分也、然而互無受法之儀多傳聞、六月比於東寺角坊、（理性院同法賢耀法印坊）長日御修法、（延命）始七箇日、以手替光信僧都、（爲凡僧別當）令勤之云々、本尊者此間前長者坊安置之、而僧正入滅之刻自奉渡云々、御衣近年不被渡歟、今度之所爲不審々々、

又禪守僧正忽辭職了、下﨟超越之間辭退有其謂歟、

六月以後
一長者宗助權僧正
二長者隆源權僧正
十二月四日夜、東寺御影堂以下西院中悉以回祿、自西僧房中納言僧都、、部屋出火、彼僧都逐電云々、大師御入定以來、至當年五百卅五年之舊跡、化一時之灰燼之條、歎有餘、但不動像御作御影書カ以下、小子坊大黒像、兼一切經文車等悉奉取出之云々、西院之東向兩門并西四足大門燒失了、三古松又變赤葉云々、可悲々々、
私勘舊記、正曆年中東寺塔雷火出來、仍本堂僧房以下悉回祿、所殘者西院而已云々、其時一長者寛朝僧正、二長者元杲大僧都、三長者雅慶僧都也云云、今年又西院悉燒失了、古今之間舊跡忽改者歟、爲之如何、此事不審云々、猶可勘之、木堂以下回祿事自寂前無其分歟之條、勿論云々、此長者補任記不審々々、
康曆
同二年庚申
一長者宗助權僧正今年太元法、以賢耀法印令勤之、重服之故歟、
二長者道快權僧正醍醐地藏院、後七日法奉仕之、
三長者隆源權僧正

口宣案
上卿久我大納言
康曆二年正月六日　宣旨
權僧正道快
宜爲東寺長者
藏人勘解由次官平知輔奉安居院行知卿息
私云、今年後七日道快僧正奉仕之、仍令加任彼、爲上首之間、予退而爲第三矣、
三月御影供々養法、長者僧正參勤之、執事頭仁勝院僧正、
十一月十日、東寺西院御影堂新造之間、今日御影御遷壇、不動尊像同奉渡之云々、
同廿五日於同不動尊御前、不動御修法七箇日勤修之、依將軍家敎命、長者權僧正宗助奉仕云々、
晦日運時結願、伴僧六口、
永德元
同三年辛酉
一長者宗助權僧正
後七日法參勤之、太元者手替賢耀法印云々、但非手替儀歟、
二長者道快權僧正

三長者隆源權僧正
三月廿一日御影供、長者僧正宗助參勤之、如近年
云々、九月、、賴印權僧正加任、于時在鎌倉、後日長者
僧正語云、執進鎌倉殿御擧狀間、自武家執奏之
間、不及是非、御沙汰有　勅許云々、
傳聞長者僧正籌策也、賴印者爲上首之間、長者權
僧正忽轉正了、在國加任親玄僧正例也云々、其外
古今無例歟、
一長者宗助僧正
二長者賴印權僧正
三長者道快權僧正
蝕御祈事、自奉行許有催、付彼辭狀而辭申長者云
云、
四長者隆源十一月以後予辭退了、
權僧正光助加任、爲第四、
十一月廿六日、八幡仁王經法修中、加任事有勅許
云々、宣下日次可尋之、宣下之間可有存知之由綸
旨也、年內　宣下未到來之由、永德二年十二月十
三日物語有之、
永德二年壬戌
一長者僧正宗助太元法、以賢耀尙勤修之、
二長者權僧正賴印西號遍照院在鎌倉、
三長者權僧正俊尊大覺寺今年正月任之、宣下日可尋之、
四長者權僧正光助後七日法奉仕之、
傳門俊尊權僧正、金剛乘院大覺寺官執事今年七日可　勤仕之由、
有種々用意、宿房以下已點儲之、而光僧正又切之
所望之間、有勅許、舊冬十二月廿六日被下請書云
云、後僧正頗遺恨之由存之歟、定兼日伺天氣令用
意哉、而又光僧正有勅許事不審、爲武家若執奏之
時者、無念之間、無力被勅許之由也云々、俊僧正
雖無後七日之奉任加任了、此俊僧正者、大覺寺今
門主入檀御弟子也、加任今度始也、
同三年癸亥
一長者僧正宗助太元法以賢耀令奉仕之、御影供參勤之、
二長者權僧正賴印
三長者權僧正俊尊
四長者權僧正光助後七日奉仕之、
同四年甲子至德元
四長者如去年

十二月初、一長者職辭表之、同下旬道快僧正補之、以下之三長者無異、

至德二年乙丑

一長者道快僧正

後七日奉仕之、御影供參勤之、先兼日拜堂、

二長者賴印僧正西在國、

三俊尊權僧正仁

四長者光助權僧正西

同三年丙寅

一長者道快僧正西

御影供勤之、頭光助權僧正云々、

二長者通賢僧正西賴印闕後七日奉仕之、

三長者俊尊權僧正仁

四長者光助權僧正西

同四年丁卯嘉慶元

一長者道快僧正

自舊冬廿七至今年三日、御元服御祈、愛染王法參勤之、後七日奉仕之、

二長者通賢僧正

三長者俊尊權僧正

四長者光助權僧正

三月廿一日御影供、一長者參勤、頭役大覺寺覺頭、覺證院宣覺、新權僧正勤之、爲法印可勤仕之處、以此便極官事望申之間、被任之云々、

嘉慶二年戊辰

一長者道快大僧正御影供、

二長者通賢僧正

三長者光助僧正後七日、

四長者俊尊權僧正

同三年己巳康應元

一長者道快大僧正

二長者隆源正月七日還任、後七日參勤之、通賢闕、

三長者光助正十三入滅、

四長者俊尊

明德元年庚午康應二

一長者道快大僧正

二長者隆源僧正

三長者俊尊權僧正後七日勤之、

同二年辛未
一長者宗助前大僧正還任後七日、
二長者隆源僧正
三長者俊尊權僧正
同三年壬申
一長者宗助前大僧正
二長者隆源僧正
三長者俊尊權僧正
四長者定忠法印後七日法參勤之、
同四年癸酉
一長者宗助前大僧正後七日、
二長者俊尊僧正
三長者隆源僧正
四長者定忠法印
同五年
一長者宗助前大僧正
二長者俊尊僧正
三長者隆源僧正
四長者定忠權僧正後七日參勤之、
應永二年乙亥
一長者宗助前大僧正
二長者俊尊僧正十二月卅日寺務宣下、
三長者隆源僧正後七日法奉仕之、
同三年丙子
一長者俊尊僧正後七日、
二長者隆源僧正
同四年丁丑
一長者俊尊僧正後七日參勤之、
二長者隆源僧正
同五年戊寅
一長者俊尊僧正
二長者隆源僧正
同六年己卯
一長者俊尊僧正
二長者隆源僧正
後七日法、金剛王院光海僧正也、去年今年爲非長者參勤、未曾有事也、
同七年庚辰
一長者俊尊僧正後七日、
二長者隆源僧正

同八年辛巳
一長者俊尊僧正
二長者隆源僧正後七日法奉仕之、
同九年壬午
一長者俊尊僧正
二長者隆源僧正
三長者守快僧正石山
四長者超濟權僧正十二十八加任、
賴俊本名光海非長者、後七日參勤之、
今年御影供、頭光賢權僧正也、自元雖轉正、南方爲僧正之間、今度申入北山殿、先任權僧正了、供養法一長者參勤云々、
同十年癸未
一長者俊尊僧正
二長者隆源僧正
三長者超濟權僧正後七日奉仕之、
同十一年甲申
一長者俊尊僧正
二長者隆源僧正
三長者超濟權僧正後七日、

同十二年乙酉
一長者俊尊僧正後七日、
二長者隆源僧正
三長者超濟權僧正
同十三年丙戌
一長者俊尊僧正
二長者隆源僧正
三長者超濟權僧正後七日、
同十四年丁亥
一長者俊尊僧正後七日、
二長者隆源僧正
三長者超濟權僧正
同十五年戊子
一長者俊尊僧正
二長者隆源僧正後七日奉仕之、
三長者超濟權僧正
同十六年
一長者俊尊僧正後七日參勤、
滿濟前大僧正七月十四日加任、于時二長者、同月廿六日寺務宣下、
二長者隆源僧正

三長者超濟僧正妙法院、
四長者光覺權僧正號證菩提院、
同十七年庚寅
一長者滿濟前大僧正後七日、
二長者隆源僧正
三長者超濟僧正
四長者光覺權僧正
同十八年辛卯
一長者滿濟前大僧正
守融前大僧正仁　菩提院四月□不經加任、直補一長者、
邂逅之例也、
二長者隆源僧正
三長者超濟僧正後七日法奉仕之、
四長者光覺權僧正
同十九年壬辰
一長者守融前大僧正後七日法參勤之、
隆源僧正
三月十七日寺務宣下、同廿一日拜堂、幷御影供供
養法參勤了、
二長者超濟僧正妙法院、

三長者光覺權僧正證菩提院、
四長者宗觀法印今度隆源同時加任、
同廿年癸巳
一長者隆源僧正御七日御影供、
二長者超濟僧正
三長者光覺權僧正
四長者宗觀法印
同廿一年甲午
一長者前大僧正守融舊冬再任、後七日仕之、
禪守前大僧正仁、眞光院、四月四日補任、
二長者超濟僧正
三長者光覺僧正
四長者宗觀法印
同廿二年乙未
一長者禪守前大僧正
二長者超濟僧正實順云々
三長者寶眞權僧正慈尊院僧正、後七日法奉仕之、去年八月十七日加任三長者云々、
四長者宗觀法印
同廿三年丙申

一長者祐嚴前大僧正隨心院、後七日法參勤之、
二長者超濟前大僧正去年二月十日直任云々、
三長者寶眞權僧正
九月廿二日寺務宣下、十月三日入滅、
四長者宗觀權僧正
同廿四年丁酉
一長者滿濟前大僧正三寶院
後七日法參勤之、去年十月十九日再任、超濟入滅闕替、
二長者光海僧正
三長者實禪權僧正
四長者宗觀權僧正
同廿五年戊戌
一長者滿濟前大僧正
二長者實禪權僧正
三長者宗觀權僧正
四長者隆寬權僧正釋迦院、
後七日法奉仕之、舊冬十二月十八日加任、金剛闕分、
同廿六年己亥
一長者滿濟前大僧正
二長者
三長者宗觀權僧正
四長者隆寬權僧正

東寺長者補任卷第五 自應永廿七年 至寛永十一年

應安元年 執事、宋縁、(覺王院)
後七日法事、應安元、定憲、二光濟、三宗助、四宗助、五宗助、六宗助、七宗助、
長者光濟 至應安七年吉務、
應安二年
同三年 執事石山、
同四年
同五年 執事全海、(大慈院、)
同六年
同七年 執事、威德寺、
永和元年 執事禪守、眞光院、
後七日法事、永和元、宗助、二宗助、三隆源、四隆源、五隆源、
長者前大僧正光濟 至同四年寺務、
永和元、寶藏七祖御影修復、僧正宋縁、
御影堂七祖之筆者、自聖房弟子成寶上人筆也、
同二年

同三年 執事地藏院道快、
同四年 執事教令院定照、
康暦元年 執事遍照院賴印、
十二月四日、西院御影堂悉炎上、
長者前大僧正宗助 至同二年寺務、康暦元、法務宣旨、六月十七日、
同二年 執事菩提院守融、
永德元年 執事金剛乘院俊尊、
同二年 執事水本隆源、
同三年 執事西方院賢耀、
至德元年 執事松橋通賢、
長者僧正道快 至同三年寺務、至德元十二月廿九日長者宣下、
同二年
同三年 執事三光院隆鍐、
同四年 執事三寶院光助、
明德元年
同二年
同三年

後七日法延引、正月十四日始行、同廿日結願、法印
權大僧都定忠行之、
長者前大僧正宗助任、再
明德四年　八廿南禪寺炎上、九廿相國寺炎上、
應永元年
同二年
長者前大僧正俊尊
十二月卅日可爲寺務之由宣下、至同十四年、長者
執事寶幢院、

應永十六年
長者權僧正滿濟六月廿六日イ八月三日、可爲寺務之由宣下、
同十七年
長者權僧正滿濟
正月八日、後七日法勤仕之、三月廿一日拜堂如
常、御前職掌六人、中綱四人、三綱四人、房官四仁和寺輩
人、侍一人、大童子一人、諸堂拜事訖、於不動堂被
行吉書、執行榮曉勤仕之處、今度不及着座、未練

之至也、爲初度所作之上、依忿劇、舊記等依不引
勘、無才覺之間、無着座之儀、直參勤仕之由、奉行
人快玄大僧都清淨光院、申之間、從其意見畢、後日令勘
見舊記之處、先々執行令着座條、先規分明之上着
至、自今以後者可令着座者也、其儀委細見舊記座カ
了、
同十八年
長者大僧正滿濟
正月八日後七日法、水本隆源僧正勤仕之、三月廿
一日御影供行之、
同年
長者前大僧正守融四月五日寺務宣下、
同十九年
長者前大僧正守融
正月八日後七日法勤仕之、自同十六日、依爲病氣
以外、寺務辭退之、
同年
長者大僧正隆源
二月八日、寺務宣下、三月十七日法務宣下、上卿
花山院大納言辨家俊奉、三月廿一日御影供行之、

同三月廿一日、拜堂儀如常、宿坊實相寺、（割注：僧正住持也、）
御前職掌以下如例、三綱四人、東寺常住輩也、

同廿年（割注：癸巳）
長者前大僧正守融（割注：六月十一日再任、）

同廿一年
長者前大僧正守融
正月八日後七日法、寺務勤仕之、三月廿一日、拜
堂儀在之如常、御影供同行之、宿坊寶泉院、

同年
長者前大僧正禪守（割注：法務、）
五月十一日可爲寺務之由宣下、同十月廿日、拜堂
在之、宿房寶輪院、（割注：凡僧別當宣弘法印住坊也、）御前職掌六人、中
綱四人、三綱四人、（割注：仁和寺輩）有職前駈二人、侍二人、大
童子一人、諸堂巡禮事了、至不動堂被行吉書、執
行榮曉勤仕之、寺務着座、執行着座、（割注：東西第二間南面花形壇前、）
吉書之儀事訖、榮曉着本座、被物一重被置之、
（割注：役人有職、前駈内一人勤之、）次起座、出自不動堂西間三間目東、渡
被物於從僧、已後退出了、
（割注：上卿花山院大納言）
應永廿一年五月三日　宣旨
前大僧正禪守
宜知行法務事
藏人頭右大辨藤原定輔奉

同廿二年
（割注：眞光院）長者前大僧正禪守
正月八日、後七日法、實順僧正勤仕之、

同年
長者前大僧正祐嚴
二月十日寺務宣下、三月廿一日御影供行之、凡僧
別當宣弘法印、
僧正超濟
僧正實順（割注：同年八月廿九日、加任長者、在拜堂、）
法印權大僧都宗觀
三月廿日拜堂在之、御宿房寶輪院、（割注：凡僧別當也、）御前職
掌六人、中綱四人、三綱四人、（割注：東寺常住輩也、）房官二人、侍
一人、諸堂御拜如例、至不動堂被行吉書、寺務御
着座、別當着座、執行同着座、（割注：其座如先々、）先綾被物一
重、被置別當前、（割注：役人房印、）從僧撤之、次別當退出、次被
行吉書、執行榮曉勤仕之、事訖着本座、被物一重
被置之、懸左肩起座、於不動堂南面、渡從僧退出、
次寺務還御々宿房、

同八月廿九日加任長者、實順僧正拜堂、

同廿三年

長者前大僧正祐嚴

正月八日、後七日法、寺務御勤仕之、同九日北山
大塔炎上、香火、

三月廿一日御影供被行之、

僧正超濟

僧正實順

權僧正宗觀

同年

長者前大僧正超濟九月廿二日、可爲寺務之由、

應永廿三年九月廿二日　宣旨

前大僧正超濟

宜令知行法務事

藏人頭左大辨長門權守藤原時房奉

同年十月三日、不及拜堂、寺務前大僧正超濟入
滅、仍寺務未補、

同年

長者滿濟再任、十月九日可爲寺務之由、

僧正實順

權僧正宗觀

口宣案云

應永廿三年十月九日　宣旨

前大僧正滿濟

如舊宜爲東寺長者

藏人頭左大辨兼長門守藤原時房奉

同廿四年　凡僧別當法印賢長、

長者前大僧正滿濟三月廿一日、御影供々養法參勤、

前大僧正賴俊改光海、

僧正實順

權僧正宗觀太元法勤仕之、

同廿五年

長者前大僧正滿濟御影供參勤、

僧正實順

權僧正宗觀太元法勤仕之、

權僧正隆寛釋迦院水本僧正附弟、後七日法勤仕之、

同年正月八日、後七日法、釋迦院權僧正隆寛勤仕
之、

同廿六年

長者前大僧正滿濟山臥、執事隆敎僧正、

僧正實順慈尊院、
權僧正光超妙法院超濟僧正舍弟也、當年後七日法勤仕之、
口宣案云
應永廿五年二月廿八日　宣旨
權僧正光超
宜爲東寺長者
藏人右中辨兼近江守藤原藤光奉
權僧正隆寬釋迦院、水本
同廿七年
長者前大僧正滿濟
僧正光超
僧正成基大慈院、後七日法勤仕之、但於當坊者初例歟、
權僧正隆寬水本、
同廿八年
長者僧正光超妙法院、正月五日寺務宣下、
御影供々養法參勤、其日拜堂、執事大覺寺義昭、
別當寶淸法印、
上卿三條中納言
應永廿八年正月五日
僧正光超
宜令知行法務事
藏人權右少辨藤原俊國奉
僧正成基
同年
長者僧正房敎眞乘院
四月十日雖蒙寺務宣下、不能拜堂、改替畢別當
弘承僧都、目代良慶、宣旨房
禪信
去年六月加任、去年夏比、依炎旱、於神泉苑、被修
孔雀經法、爲勤仕阿闍梨、俄加任宣下云々、
權僧正隆寬
同廿九年九月十六日、仙洞御力男山都幸、
長者權僧正義昭大覺寺
八月宣下、同十一月廿九日拜堂、別當聖無動院定
意參賀、引物百匹、執行方兩座有之、後七日法行
之、三月廿一日、御影供々養法勤之、金剛界、執事東大
寺別當尊勝院光慶、顯密兼字學力三寶院滿濟弟子、還
御之次當寺八幡宮有社參、神馬三匹、銀鈥五振、
砂金二褁、被進之、凡僧別當寶淸法印一圓賜之、
其外神樂代千疋下行之、於西僧坊自寺家一獻有

之、
僧正成基（大慈院、）
僧正覺杲（菩提院、）
權僧正禪信（眞光院、）

同卅年
長者大僧正實順
後七日法行之、正月十四日、執行嚴眞、檢納御道具、被物代百疋賜之、月日護持僧宣下、去年十二月廿六日賜寺務宣下了、一於拜堂者 加任之時有沙汰云々、三月廿一日、御影供々養法勤之、執事覺杲僧正、（仁和寺菩提院、）五月九日大風吹、開不開門、希代怪異也、凡僧別當宗源、目代賢增、
僧正覺杲（菩提院、）
權僧正興繼（淨土院、二月廿九日加任、後號慈尊院、）
權僧正禪信
權僧正隆寬（釋迦院、）

同卅一年
長者大增正實順（慈尊院）
御影供々養法勤仕之、片壇宗海僧正、執事實池院義賢、後號三寶院殿、
僧正覺杲
權僧正興繼（後七日勤仕、宿房近衞東洞院、山科新中納言、）
權僧正禪信（眞光院、）

同年
六月二日寺務宣下、眞乘院、別當覺壽僧都、（號寶輪院）目代良慶、（金音房仁和寺住）
長者僧正房教（眞乘院、法務、大僧正、六月廿六日宣下云々、同日宣下云々、）
同九月五日拜堂、參賀引物、執行分依奉公無之、
此後者可申之、
僧正成基（大慈院、六月廿五日再任、）
權僧正性嚴（同日加任、）
權僧正興繼（同年九月五日長者、拜堂、宿房寶輪院、）

同卅二年
長者前大僧正房教
後七日參勤、（自眞乘院、）同三月廿一日御影供參勤、執事地藏院持圓、片壇重賢法印、
同八月十四日、相國寺悉炎上、
僧正成基
權僧正性嚴
權僧正興繼（依爲慈尊院付續）

同卅三年

十二月五日寺務宣下、參賀引物、執行分無之、榮曉奉公之時以例不出之、此儀已前者被出之歟、

長者法務前大僧正義賢(號寶地院、)

後七日參勤、(御坊法身院)執事小島山伏亮宋號覺王院、

三月廿一日灌頂院供養法參勤、同廿一日拜堂、如例、凡僧別當妙法院賢長、目代備前法眼源秀、

僧正成基

權僧正性嚴(九月圓寂云々、)

權僧正興繼(應永卅三十一月十四日轉正云々、)

同年十二月

長者僧正禪信(十二月間拜任、追可尋勘之、末長者依爲宿老面々辭退、)

同卅四年

長者僧正禪信(凡僧別當宗源大僧都、後七日法參勤、(自眞光院))

同三月廿一日灌頂院御影供々養法事、以定額一﨟令勤之、於拜堂者可有延引也、粗有其聽、別當方被相尋處、寺務御返事趣、舊冬寺務拜任刻、拜堂延引事所申請也、仍延引治定云々、加定額評定、先規更以無之旨、及度々雖申入、猶延引可有之由被仰、結句未拜堂輩、寺內出入例、先規有之云々、然者以其例、今度雖爲未拜堂、入寺々家而可勤供養法之由、被仰送畢、先規ト者寬信信忠例云々、於此兩條者、依爲大禮、以前雖爲未拜堂、寺內出入旨所見古記也、於今度自由延引、更以非准據、所詮及度々盡先規雖申入、寺務御返事只同篇而無落居、此上者先御室申不事行者、仙洞樣可申入、定額評議治定了、御室列參、兩人年預、寶嚴院寶清、法印寶泉院快壽律師、

御室御返事趣、寺務返事、同篇於無落居、取調一門門跡意見之狀、(相副)寺家(目安)武家樣申入、先以目安管領申入、則以奉行加賀守披露之處、折節三寶院室町殿御修法中間御所中御座間、從上樣以奉行加賀守有御尋處、先規無其例之由、有御返事、仙洞幷御室非例御沙汰也、依被思食、大覺寺殿有御再任、御影供々養法可有勤仕之由、仙洞御執奏、

同廿日宣下云々、　一意見狀人數、　三寶院、　大覺寺殿、　金剛乘院、　理性院、　水本、　慈尊院、　其外數通有之、

一敕書案

來廿一日東寺御影供寺務僧正參勤事、依遂拜堂、手代事仰定額申候之處、及異儀云々、先規之上者

何中子細哉、嚴密加下知、追忩々可遂拜堂之由、
可被仰含禪信僧正候也、謹言、
三月八日　御判
一御室御書案
御影供事、自仙洞如此被　仰出候、此上者忩々被
仰定額、可被執行候也、謹言、
三月八日　御判
東寺現住僧綱大法師等、謹言上、
請殊欲蒙一宗諸門跡御意見、當寺務依不被遂
拜堂、灌頂院御影供々養法、被擢(催カ)寺家供僧一﨟
之間事
右謹考故實、去延喜年中、觀賢僧正爲重尊師之儀
致如在之禮自掬潢潦之水、手拾禪林之菓、於灌頂
道場、奠大師眞影、已降事既成恒規、其儀于今新、
依之一門僧、經守﨟次致執事役、一宗長者、抽懇
精勤供養法、長者若有公儀幷病暇等故障之時、定
額一﨟致其沙汰事、古今之流例也、而今度當寺務
眞光院稱窮困、依不被遂拜堂、被擢(催カ)寺家一﨟之
條、前代未聞之新儀也、若今度被募此儀者、後代
無力之輩、雖居此職、引今之非儀爲例、豈可被遂
拜堂之節乎、若爾者職之零落、宗之陵遲、何事如
于此乎、因玆寺僧等致訴訟之處、稱有寬信法務幷
信忠僧正之例、雖爲未拜堂、出入寺中、可勤供養
法云々、是亦以外之參差也、如彼兩例者、依爲大
禮、已前雖爲未拜堂、被勤供養法、更非自由之義
者也、以此旨、重致愁訴之處、無其理之餘、忩被奉
掠天聽之條、言語道斷之次第也、所詮一宗之大
事、不可過于此、何偏費定額等苦勞乎、偏欲蒙一
門之御意見、若所申應其理者、早於此連署之奥、
各可被加御署、(御署次第不同)者也、然欲以一同之申狀、奉
仰　上裁、理訴若達　上聞者、裁訴何停滯乎、仍
現住僧綱大法師等、謹連署之狀如件、
應永卅四年三月日　私云聖淸之作
就寺務拜堂延引、連署狀令披閲候了、可得其意候
也、恐々謹言、
三月廿日　法印賢長
謹上　東寺供僧御中
就東寺々務拜堂延引事、寺家被歎申之趣承候了、
誠不違先規歟之由存候也、恐々謹言、
三月廿日　僧正宗觀

東寺供僧御中

就寺務拜堂延引事、寺家申狀之旨、加一見了、衆儀之趣可得其意候也、恐々謹言、

三月十八日　　僧正隆寛

東寺供僧御中

卅四
同年

長者前大僧正義昭 大覺寺

三月廿日宣下、臨期出仕之再任、御影供參勤之、執事慈尊院弘繼、凡僧別當定意僧正、初例也、

僧正與繼

權僧正良守

同年九月初比、石山座主職被改易畢、三月九日加任、眞光院禪信僧正、依御室御氣色、彼座主職拜任云々、

同卅五年

長者法務前大僧正義□

御影供參勤之、執事眞光院禪信勤之、

僧正與繼

權僧正定意

後七日法勤仕之、宿房北野觀音院、三月比辭退、

法印權大僧都賢長 同年後三月九日、宣下加任、同三月廿二日、權僧正宣下云々、

同年 四月廿一日改元正長、

長者法務前大僧正祐嚴 再任、正長元五月六日宣下、參賀引物無之、但初度許有之、

僧正弘繼

權僧正賢長

四月十八日三寶院滿濟大僧正被補准后畢、此門跡初例也、廳大谷法眼、七月廿九日補敕、准后廳初例也、同七月廿日勝定院殿依入滅、〔石清水、當寺、六條若宮、兩三箇所放生會延引、同九月有之、同八月十七日七僧法會有之、同廿三日萬荼羅供有之、四十九日云々、三寶院滿濟行之云々、同九月十一日於男山仁王經修法、導師觀智院宗海僧正、伴僧十口、各三百疋布施、導師五百疋、將軍家御沙汰了、同年十二月比於男山五日十座御論義、初被行之、每年之可爲儀也、將軍家被仰下、依後年每年二月十三日定十口、此內學頭二人、布施物各千疋、但學頭二千疋也、

正長二年 高野別當宗海僧正、是又末寺別當僧正、任事初例、隨意沙汰云々、

長者法務前大僧正祐嚴

後七日參勤、從一條殿亭出仕、御影供參勤、執事

觀智院宗海僧正、勤仕了、
僧正興繼（四月十日轉大、依爲臈次上首、加任辭退、）
權僧正賢長
權僧正房仲（金剛主院、正長二、四月加任、）
永享二年
長者法務前大僧正祐嚴
御影供勤之、執事勸修寺宮勤之、凡僧別當成心院
慈嚴、目代淨聽、（上野、）
權僧正房仲
權僧正賢長
後七日法勤之、宿房中御門西洞院常福寺、
（太元宗觀行之、已前年々同之、至法務者、永享三年二月日宣下、其間祐嚴知行之、）
同三年
長者法務大僧正成基
永享二十二月十七日宣下、參賀引物百疋、執行方
兩座有之、後七日勤之、長者拜堂、三月廿一日沙
汰之、如先例、寺務此院家初例歟、御影供行之、執
事寶幢院權僧正實法、
凡僧別當堯清法印、（增長院依重病無拜堂、）目代良清、（越後、）堯法清
印依爲別當、惣導師職長我律師讓與、仍同三年四
月四日拜堂云々、

權僧正房仲（金剛王院、）
永享三、六月十四日夜子刻、當寺鎭守後松、卒爾
根ヨリ三丈許、上折テ御殿ノ上ニ懸ル、晴天風吹ス、
權僧正賢長
依重病六月中辭退、同逝去、、、刻、轉正轉大、同
日宣下、從武家御執奏也、
同三年四月廿八日於等持寺八講堂、有結緣灌
頂、大阿闍梨滿濟准后、（三寶院、）色衆三十口、當寺々務
再任三度之間、寺家三綱上衆四人、各二貫文宛下
行之、中綱四人、上衆各百五十疋宛下行之、職掌
二人各百疋宛下行之、先例北山御塔供養之時者、
三綱各十貫文、中綱各五百疋、職掌各二百五十疋
也、
同三年五月八日於等持寺萬茶羅供行之、阿闍梨
聖護院滿意准后、色衆廿口行之、
權僧正定意
永享三年十二月廿九日　　宣旨
權僧正定意
宜爲如舊東寺長者
藏人右少辨兼右衞門佐藤原重政奉

同四年
長者法務大僧正宗觀理性院
永享三年十二月八日宣下、參賀引物百疋、執行方兩座有之、拜堂三月廿一日沙汰之、御影供勤之、執事禪那院賢珍僧正、凡僧別當宗濟大僧都、號西方院、三月廿日拜堂、別當代賢遍阿闍梨、目代淨聰、
上卿萬里小路大納言
永享三年十二月八日　宣旨
前大僧正法印大和尙位宗觀
宜令知行法務事
藏人頭右大辨兼長門權守藤原忠長奉
權僧正房仲金剛王院、八月轉正、
權僧正定意金剛乘院、後七日勤之、永享三年十二月廿九日、加任宣下、
永享四年六月十五日宮中眞言院事始、武家御沙汰也、公方奉行兩人、在所眞言院南面、飯尾肥前守爲種、松田對馬守、寺家奉行寶嚴院寶淸僧正、寶勝院、治部卿寶淸弟子重賢法印、聖淸僧都、嚴曉阿闍梨、少行事重祐、中綱悉五人三條大宮長福寺長老、大勸進曉推上人、大工國吉、手物十四人、三百疋下行之、少、、、鍛冶四人、同十六日、於十年堂、造作大工注進二千五百貫文、惣大工國吉注進之、東寺御大工也、同十一月十日眞言院立柱上棟、辰刻公方奉行、飯尾肥後、爲種○按前文作肥前不知二者孰是 松田對馬守、寺家奉行寶淸僧正、重賢法印、聖淸僧都、長我律師、嚴曉阿闍梨、中綱六人、職掌二人、三條大宮長福寺大勸進曉推上人、與連坊、番匠六十人、白壁十人、鍛冶宗次十八許、引馬人數、別紙有之、引馬三十六疋、

同五年　太元宗觀行之、
長者法務大僧正持圓
永享四年十二月十八日宣下、參賀引物百疋、執行方兩座有之、二百疋歟、後七日勤之、御影供行之、執事金剛王院房仲、三月廿一日拜堂、
應令大僧正持圓知行法務事
右權右少辨藤原朝臣長淳轉　宣
權大納言藤原朝臣俊宗　宣奉
敕件人宜知行之者
永享四年十二月十八日修理東大寺大佛長官左大史兼能登權介小槻宿禰國枝奉
僧正房仲
僧正定意
同六年　太元宗觀、

長者法務大僧正禪信
永享五年十二月廿七日長者宣下、法務同日、參賀引物、執行方許無之、後七日法勤之、拜堂、三月廿一日同御影供行之、凡僧別當宗賢法印、號觀智院、目代淨聰、
執事妙法院賢快
上卿中御門中納言
永享五年十二月廿七日　　宣
僧正禪信
宜爲如舊東寺長者
藏人頭左近衛權中將藤原隆遠奉
同法務宣下、有之、
僧正房仲
僧正定意
同年
長者僧正賢快
永享六年六月廿三日寺務宣下、同廿五日入滅、不及拜堂、病中宣下、別而所望云々、不及諸職定者也、
永享六年六月廿三日　　宣
僧正賢快
宜爲東寺長者
藏人左少辨藤原明豐奉
執行公人以下、不及參賀者也、
同年
長者大僧正禪信
永享六年七月十三日宣下、賢快入滅以後十八箇日、無寺務之再任、珍皇寺散錢以下知行之、諸職如元、
上卿日野中納言
永享六年七月十三日　宣旨
僧正禪信
宜爲如舊東寺長者
藏人左少辨藤原明豐奉
僧正房仲
僧正定意
同年
長者前大僧正弘繼法務、慈尊院、永享六年十二月十一日宣下
凡僧別當宗賢號觀智院、目代淨聰、
永享六年十二月十一日　宣旨
前大僧正弘繼
宜爲東寺長者

藏人左少辨藤原明豐奉

僧正房仲金剛王院、

僧正定意金剛乘院、

同七年

長者前大僧正弘繼

後七日法行之、三月廿一日拜堂、同御影供參勤之、執事實淸寶嚴院權僧正、

二月四日夜山門中堂、本尊悉燒失也、前當院依聖教納也悉炎上、大衆廿三人腹切、火入本尊藥師同炎上、傳教大師御作也、

僧正房仲

僧正宗意

同八年

長者大僧正弘繼法務、慈尊院、

後七日法行之、同御影供參勤之、執事小島智蓮光院僧正宣深勤之、

僧正房仲

僧正定意

六月十四日大雨、同雷恐衍字塔婆雷落懸、五重ノ乾角棟大破重々ノ乾角柱悉クサケ、一重ノ乾柱北面三分之一サケ、北ヘナク北面ノ上下ノナシハナレ落、西面ハ下ナゲシ許ロ落也、同北ノ平チリ破畢、本尊北面不空成就佛ノ御ムネ少破、各本尊前脇破了、建武四年六月十三日辰初雷乾角柱落懸、柱上下少失、自建武四年至永享八年一百年成、今度者水火無之、同日公方注進之、寺家使僧正寶淸、同十八日公方ノ見使兩人、飯尾三郎左衞門爲秀、松田九郎左衞門也、十月十一日御塔事始、未刻公方奉行二人、飯尾加賀守爲行、飯尾三郎左衞門爲秀、大勸進北野覺藏、寺家奉行六人、僧正寶淸、大僧都快壽、僧都融覺、僧都聖淸、僧都杲慶、律師嚴曉、于時別當法印宗賢、御塔南面有事始之、先奮也建武例、惣大工國吉、馬二疋給之、引頭長□□□□□□□□□御馬四疋之內、公方御馬一疋、寺務御馬一疋、寺家馬一疋、大勸進馬一疋、已上尾師祝百疋給之、

御塔造營事、自公方、寺家之造營奉行被定下、十月廿日、三人、法印重賢、僧都快壽、融覺也、

同廿一日ヨリ造營始沙汰之、惣大工國吉、十一月二日、同五日、兩日柱二本到來、相國寺柱也、

滝ヨリ同丸上之代立之、同十三日一重柱立之、長點、
大輪下ニ打樋五立之、同心ニ打之、壇ノ上打樋下
ニ大材木ヲ敷西面北面、也、同壇ノ下ニ西北、土ヲ如壇 ヒロク
ツキテ、壇ヲ少モクヅサズ
永享八年十一月九日夜、八坂塔、太子建立、雲古寺、同
極樂堂、水堂、草林寺、悉燒失、依淸水坂火出之、

同九年

長者大僧正弘繼法務、
後七日法行之、御影供不行之、寺務、三月廿日夜
違例之間、任先例供僧一臈行之、寶淸僧正也、御
道具不及取出、先例四箇度也、末長者 未拜堂之
間、不及⿵門曷ホンマヽ、申、執事十輪院權僧正朗巖、
僧正房仲五月十三日、法務宣下、
應令僧正房仲知行法務事
右權右少辨藤原朝臣長淳傳 宣
權中納言藤原朝臣宗豐 宣奉
敕件人宜知行之者
判奉
永享九年五月十三日主殿頭兼左大史小槻宿禰
僧正定意

同十年

長者僧正房仲法務、
後七日法修之、三月廿一日拜堂參賀、引物執行方
許無之、御影供行之、執事金剛乘院定意僧正、凡
僧別當權大僧都聖淸、目代淨聰、
僧正宗意
僧正成淳中性院、
十一月十日加任、同十一月十二日寺務宣下、同十
一月十七日寺務參賀、執行方引物百疋有之、

同十一年

長者僧正成淳法務、太元宗觀、
後七日法修之、三月廿一日拜堂、御影供行之、宿
房實相寺執事兼帶之、例三箇度云々、別當公杲僧
都、實相寺、目代淨聰、
僧正賢珍禪那院號觀心院、加任五月、
三月八日於淸涼殿一七箇日仁王經大法行之、大
阿闍梨義賢大僧正、伴僧廿口、一臈成淳僧正、于時一長
者、伴僧列初例歟、此法賞、賢珍僧正、長者加任被
成申云々、依成淳僧正上首、東山雲古寺阿彌陀、
六月九日事初、兩大佛師高辻東方、御首 御膝作 出之處

ニ、南京佛師有申子細、同八月廿七日重而南京佛師事初云々、又此佛師モ御首ヨリ御體悉雖作之、惡ニヨリテ後ニ福僧修分作之、于今有之、

同十二年

長者僧正成淳後七日法修之、御影供行之、執事勝寳院僧正公淳、

寳勝寺五大尊悉修理、大佛師高辻法橋、同御堂修理、本尊悉破損之間、當寺五大尊寫之、佛師高橋法橋、

僧正賢珍

同十三年辛酉 三月十七日改嘉吉元、

長者前大僧正祐嚴

永享十一、十二、十三、宣下三箇度也、初度參賀、引物百疋有之、後七日法行之、御影供不行之、當明於武家一壇御勤仕之間、供僧一臈僧正淸行之、執事宣明法印大僧都、理證院、

爲辛酉自三月廿二日、於淸涼殿仁和寺殿孔雀經大法御勤仕、伴僧廿口、一臈禪信大僧正、廿八日御結願、

僧正定意

僧正賢珍

僧正定意

四月九日前大覺寺殿義昭御頸、自九州上洛、島津取之、嘉吉元六月廿四日申刻於赤松屋形武家チ奉打、義敎也、御前大名打死手負多有之、其後屋形懸火、親子播州落、同九月九日山城ニテ赤松入道腹切、山名同廿一日頸大路渡懸、極門也、上卿日野新大納言藏人俊秀、九月十三日御德政行之、一國平均也、管領細川殿之時也、

嘉吉二年

長者法務僧正定意

宣下嘉吉元十月十一日、法務同日、後七日法行之、三月廿一日拜堂、同御影供行之、執事覺勝院僧正了助、別當聖淸僧都、

權僧正定紹

嘉吉二年三月九日宣下加任、目代淨聽法眼、上卿中山中納言、寺務參賀、執行方引物百疋有之、

權僧正守遍同日、

法印大僧都通海同日、

同三年

長者法務僧正定意

後七日法行之、御影供行之、執事慈尊院僧正、
七月廿一日將軍死去、童體號津雲院、十歲、九月廿三日子刻、大內悉燒亡、東西棟門計殘附火也、其夜近衞殿御幸、寶劔內侍所ハ三條殿取出被申進上之、神璽ハ此時ヨリ不見云々、三百人計亂入、付火之間、其後糺明之時、五十三人頸切之、殘者共山中堂籠之間、山門大押寄、大將南方高秀也、頸取之、其後日野東洞院親子搦捕切之、同意之人也、
權僧正定紹
權僧正守遍
法印大僧都通海
文安元年 二月五日改元文安元、太元宗觀、
長者法務僧正定意
後七日法行之、御影供參勤之、執事菩提院守遍僧正、
五月廿一日當寺爲修理、官符到來、官長者朝照於西院北面渡之、別當寶嚴院法印聖清、執行榮增律師、兩人奉請取之、袍裳平ケサ、其後千疋折紙、官務之靑侍渡之、寺家之大衆皆見物也、奏狀聖淸出之、別紙有之、先御室下河原官、其外諸門跡、武家諸大名、山城國中東寺門悉勸進之、
權僧正定紹
權僧正守遍
法印大僧都通海
文安二年
長者法務僧正定意
後七日法行之、御影供行之、執事威德寺僧都通海、
六月二日大風、鎭守乾檜皮、其外檜皮破之、塔二重三重カツラン五角落之、同十一日公方奉行人二人來、先鎭守計見之、飯尾加賀守、兵部大夫頭上野基照、依御鬮口有御座沙汰之、
權僧正定紹
權僧正守遍
法印大僧都通海
同三年
長者法務僧正定意
後七日法、御影供行之、執事安養院僧正實聰、住國伊勢、六月廿日比爲勸進大內分國、性永上人下向、
七月三日內裏東築地、畠山得本入道殿沙汰之、

權僧正定紹
守遍
法印大僧都通海
十二月五日清涼殿地引之、一色左京大夫殿、同十三日同殿立柱上棟、同十九日當將軍實名義成被撰申云々、童體、近衞殿當關白、
同四年
十一月廿日、理性院前大僧正宗觀入滅、太元宗觀、
長者法務僧正定意
後七日法行之、抑御影供延引子細者、當年執事ニ上乘院大僧正、義後其巡相當之間、差申入之處ニ、此門跡者代々宮門跡之間、勤仕無其例之由、御返答之間、先門主ノ御事者、代々親王ニテ御座之間不申入候、當門主者僧官ニテ御座間、嘉禎ノ任官符旨、可有御勤仕之由、度々雖申入、更依無御承引、仁和寺殿惣法務御座、其上依爲御門弟之間、寺家付申入候、御室度々依有御口入、可有勤仕之由御領狀、仍三月廿八日御影供行之、寺務勤之、
權僧正定紹
守遍
法印大僧都通海
同五年
長者法務僧正定意　太元法、宗濟僧正行之、
後七日法行之、執事理性院宗濟權僧正、但御影供延引、同廿四日行之、其子細者中綱十三人、下行物三貫文也、通例六貫文之由依申延引、雖然不事行三貫文下行之、
權僧正定紹
守遍十二月十八日、寺務宣下、
法印大僧都通海
七月八日於內裏佛舍利御奉請、寺務定意僧正、別當權律師宏清、三位、權少僧都榮增參內、路次者中綱職掌悉皆供奉仕、御奉請九粒、仙洞八粒、武家一粒、寺務已上廿一粒、具記在別、永德二年以後御奉請儀無之、
同六年　太元同、七月廿八日改寶德元、
長者法務僧正守遍
去年文安五年十二月十八日宣下法務、同日十二月廿九日參賀執行、引物百疋有之、後七日法勤行、自住坊凡僧別當宏清律師、三位寶清門弟、正月六拜堂、御影供行之、

執事寶池院殿、日代淨聴法眼、廿一日拜堂有之、
宿坊寶嚴院、惣在廳慶暹、牛車出仕、
法印大僧都通海、
法印權大僧都隆經 大教院、
寶德二年 太元同、
長者法務僧正守遍
後七日行之、御影供々養法、依蟲腹氣無出仕之
間、法印重耀參勤之、
僧正了助
法印大僧都通海
法印權大僧都隆經
同三年 了助寺務、去年十二月十七日宣下別當、同月廿九日拜堂、堯忠大僧都、
長者法務僧正了助
後七日法行之、別當權大僧都堯忠、號光明院有拜堂、日代淨
聴法眼、三月廿一日拜堂、宿坊金蓮院、御影供行
之、寺務參賀、去年十二月廿九日兩座、酒肴有之、
執行方分延引、其後九月廿四日百疋被出之、
權僧正隆經 去年十二月日、極官執事勤之、
同四年 七月廿五日改享德元、
長者法務僧正了助

後七日法行之、御影供行之、執事報恩院、號水本、
權僧正隆經
享德二年 太元宗濟、
長者法務僧正了助
後七日法行之、寶勝院下行、先師西方院任例、御
影供僧、一臈重耀法印參勤之、執事々重耀兼帶
之、寺務率爾依違例無出仕、片壇師隆遍法師、御
影供廿二日延引、中綱下行物依訴訟也、末長者權
僧正隆經、去年故障、依之加任無、一人了助僧正、
八月五日死去、中風、
同三年 太元宗濟、
長者前大僧正賢性
去年八月九日宣下法務、同日□□□□凡僧別當
僧都賢譽、松橋、號無量壽院、代觀智院律師宗杲、日代伊賀、
松橋青侍參堂出之、
日代々官淨聴法眼、寺務參賀、度々雖及催促延引
之、仍享德三年正月廿八日講堂修正可押之由、
內々宗杲申之間、正月廿六日參賀、執行方百疋、
兩座中百疋、鐘本代五十疋、自宗杲方下行之、三
年三月廿二日寺務別當拜堂、同夜入テ御影供行

之、廿三日朝成之、
僧正宗濟(理性院)
正月十九日加任宣下、後七日法延引之、延引之子細者、一長者依違例、此法故障、加任無之、宗濟僧正加任宣下、仍後七日法、正月卅日始行、同二月六日結願、自中御門亭出仕、延引事別紙有之、
御影供、執事々成兩頭之先不及口宣、仁和寺殿三寶院殿爲御意見差之、但三綱吉々時也、三綱人數之外着定之、戒光院法印隆增(上醍醐歲八十、戒六十五、)妙觀院法印隆遍(東寺歲七十、戒六十、)勤之、各三千五百八十疋定之、可爲每年之儀之由、供僧中寺務仁申定也、雖然影供延引者、當院預相論、淨林法師依不渡鎰、新預淨忍法師不隨其役、仍當會許、中綱一臈定金法師付申、鎰ヲ借出、廿二日曉天行之、其已前二別當僧都賢譽拜堂、次寺務拜堂(自觀智院)、其後預申定(定金法師)、領狀、仍法會行之、廿三日早朝法會事畢、其後本預淨忍法師鎰等渡之、三職治定之、
東寺大師御影供執事役事門徒近年有志無力云云、自當年頭役可爲兩人之由、可令下知寺家者、
天氣如此、仍上啓如件、

享德三年三月十六日　右中辨高淸
謹上東寺長者僧正御房

同四年(七月廿七日改康正元、)
長者前大僧正賢性
御影供々養法、依無寺務出仕、定額一臈隆遍法印勤之、片壇一臈番、當年片壇雖爲隆遍法印、牽爾依無寺務出仕、當界參勤之、仍片壇宏寬法印也、
執事兩頭隨心院殿、大僧都密嚴院嚴盛法印、
僧正宗濟(太元法行之、後七日法、一向當年無之、)

康正二年(丙子)(太元宗濟、)
長者前大僧正賢性
後七日法無之、御影供々養法、如去年、寺務依無出仕、定額一臈隆遍法印勤之、片壇師宏寬法印、執事兩頭全融法印(金剛幢院)、宏寬法印(寶菩提院)、當年片壇巡次、雖爲快壽法印、故障處、又牽爾寺務無出仕、仍如去年、兩人行之、片壇師者上首三人之役也、
享德四年分後七日法被入行之、自十二月廿七日始行之、同卅日結願、(□箇日、)自三寶院天神堂出仕、吉(寺カ)務賢性大僧正行之、
僧正宗濟(理性院、)

同三年丁丑 太元法同、九月廿八日改長祿元、

長者前大僧正賢性

後七日法無之、御影供々養法行之、胎藏界、執事々兩人、法印權大僧都承珍、白毫院、勸修寺方七十一、﨟五十七、法印權大僧都快壽、東寺寶泉院七十、﨟五十六、片壇融覺法印、定額四﨟、依先規行之、

僧正宗濟

權僧正隆濟 水本、號釋迦院又報恩院、

十月十六日加任宣下、于時二長者、

太政官牒東寺

權僧正法印大和尚位隆濟

右正三位行權中納言藤原朝臣敎秀宣、奉敕、件人宜爲彼寺長者、寺宜承知、依宣行之、牒到准狀、故牒、

長祿元年十月十六日

修理東大寺佛大長官正四位上左大史小槻宿禰、在判

從五位上守左少辨藤原朝臣、

南大門乾角柱一本、立替事始、四月廿六日辰刻、惣大工國政、修理大工宗理、兩大工各百疋給之、又兩方長引頭中百疋、造營奉行宗壽大僧都、寶輪院、同五月四日、卯日乾角柱立替之、長一丈九尺五寸、口二尺五寸、午刻替之、大工方各祝二百疋宛給之、國政方長藤原宗行左近太郎、引頭國吉兵衞五郎、國理方長兵衞次郎、引頭八郎、兩方長、引頭、四人中祝百疋給之、寺務賢性僧正、九月廿六日入滅、其後夜叉神方、所務先例當知、行之者言語道斷次第也、仍供僧中致談合、於向後者、寺務未補之時者、文和二年任例、供僧中可取沙汰之由、連署等別紙有之、幷執行方可存知之由之狀出之、目代今ハ執行方ヘ可分事定之、供僧中有之、案文此方有之者也、

長祿二年 太元同、後七日法無之、

長者前大僧正禪信

再三宣下、今度不可及參賀之由、被相觸之、去年十月十六日宣下別當宗杲僧都、去年十一月十三日拜堂、御影供々養法、寺務無出仕之間、供僧一﨟宏寬法印行之、大覺寺 片壇師公杲法印、仁和寺 定額四﨟行之、執事二人、寶幢院權僧正實乘、皆明寺權僧正能春、

權僧正能春 仁和寺皆明寺、

權僧正隆濟水本報恩院、
同三年太元同、後七日法無之、
長者前大僧正禪信
御影供無出仕、執事二八、聖無動院權僧正隆昭、尊壽院權僧正守
鍐、御影供々養法、一﨟宏寬法印行之、片檀師融
覺法印、
權僧正能春仁和寺皆明寺、
權僧正實乘寶幢院、
權僧正隆濟水本號釋迦院、
寛正元同四年太元同、
寺務未定、去年十二月九日、前大僧正禪信、故障
已後、未補之間、去長祿元年十月九日、任供僧中
連署之狀、廿八日修正、以折紙相觸之、
後七日法延引、三月六日、爲後七日法始行、先寺
務前大僧正禪信、別敕之由有奉書、仍同自八日於
內裏大里紫宸殿行之、同十四日結願之、於小御所加點
有之、如例差圖在別、
御影供、猶寺務依未補、供僧當座一﨟權僧正嚴忠
參勤之、從僧有之、片壇法印公杲、于時四﨟改公禪、
執事二八、大覺寺殿、年預注進狀持參之申、增長院權僧正嚴預注進渡之忠、
長者前大僧正禪信四月十九日宣下、同日寺務相觸之、不及參賀、
六月廿九日、食堂佛舍利、根本三粒外分散、根本水
輪納之不知數、小箱今寶藏納之、巨細別紙有之、
權僧正實乘
權僧正隆濟
寬正二年太元同、後七日法無之、〔去年十二月廿一日改寬正元、〕
長者法務大僧正宗濟
去年七月八日、寺務法務同日宣下、同十七日參
賀、執行百疋、又兩座百疋、三月廿一日寺務拜堂、
宿房自寶勝院、御影供同行之、執事二八、西南院
權僧正重怡、全勝院法印融覺、凡僧別當西方院少
僧都宗譽、拜堂三月廿日、宗譽後濫行、五月七日、心經供
養、三寶院御住坊、弘仁已後及四箇度云々、目代
淨聽法眼、
權僧正實乘
權僧正隆濟
同三年太元法行之、後七日法無之、
長者法務前大僧正宗濟
御影供行之、執事兩八、法印權大僧都圓譽、加茂寶幢院、

法印權大僧都公禪、寶相寺、凡僧別當重增大僧都、三月十七日拜堂、號寶勝院、重增後濫行、兩人濫行曲事、

權僧正實乘

權僧正隆濟

同四年 太元法行之、後七日法無之、

長者法務前大僧正宗濟

御影供々養法、一﨟增長院權僧正嚴忠行之、片壇法印公禪、執事兩人、法印權大僧都源僖、上醍醐寺大貳、法印權大僧都快圓、下醍醐寺櫻町、凡僧別當嚴照大僧都、三月十一日拜堂、號西坊、已上別當三人、已前兩人者依濫行也、祭文寺務方讀之、二位阿闍梨宗惠、

權僧正實乘

權僧正隆濟

十一月七日、於八講堂結緣水丁有之、大阿闍梨三寶院准后、色衆卅口、

同五年 太元法行之、後七日法無之、

長者准三宮前大僧正義賢

去年十月廿九日宣下法務、同日凡僧別當權大僧都賢譽、宗杲弟子代官宗永阿闍梨、大納言目代伊賀上座良在、寺務參賀、十一月四日百疋後日執行分給之、

御影供々養法寺務行之、片檀師僧正嚴忠、執事兩人、法印仁然、佛乘院、法印光爲、寶護院、

權僧正實乘寶幢院、

權僧正隆濟

灌頂院內陣死白寺務被敷之半分許歟、同院東方茶羅修理有之、同五年 宗濟僧正、四月廿二日死去、五十九歲、

同六年

太元法行之、理性院去年死去之間弟子行之、後七日法無之、

長者准三宮前大僧正義賢

御影供行之、片壇師仁然法印、執事兩人、成融法印、賀茂佛乘院、堯忠法印、東寺光明院、

權僧正實乘

權僧正隆濟

文正元年 慈尊院法務 太元法行之、後七日法無之、初二月廿八日改元、

長者前大僧正定昭

去年八月廿八日寺務宣下、法務宣下已後也、雖爲大禮已前拜堂有之、十月十七日、自觀智院宿坊、別當觀智院法印

宗杲、目代増祐、上總□□同四月九日定昭死去、六十六歲、

權僧正隆濟

上卷分、一長者四十六人、再任不入、下卷分、一長者八十八人、再任不入、合百卅四人歟、寺務無出仕、依長病中也、御影供々養法、一﨟法印融覺、片壇師法印公禪、執事寶池院殿、山上密敎院於弘典法印、文正元四月廿八日御影堂三古松東之枝一本切之、去年ヨリカヽル故也、

應仁元年 太元法於住坊行之、後七日法無之、三月五日改元、

長者前大僧正嚴寶

去年四月十一日、寺務法務同日宣下、加任無之、直任、四月十四日參賀、百疋給之、三月廿一日、御影供行之、同日先寺務拜堂如例、宿坊寶輪院、子持、別當宗壽法印、目代去年中ハ淨聽法眼、十二月廿六日夜死去、仍孫備後聽秀補之、

執事、寶生院杲覺、醍醐寺寶篋院寶瑜、片壇仁然法印、去正月十五日上京破初テ、大弓矢者同十八日已後每日弓矢也、八月廿三日大内勢等一萬餘人當寺ニ陣トル、廿四日北野ヘ陣替、九月十四日赤松方、細川方、播州、攝州、兩國勢五六千人當寺ニ陣トル、十六日陣替南禪寺山、此時自去年依動亂、如此彼寺悉燒亡、依之御道具等、悉九月廿一日奉入醍醐寺、每日記在之、十月ニ二三四之三箇日ニ悉相國寺燒亡、畠山右衞門佐殿勢燒之、自二條上者東西南北悉燒之、北畠ノ塔許殘了、

同二年戊子 太元法於住房行之、

長者前大僧正嚴寶 後七月法無之、加任無之、

依同亂、御影供之時、寺務無出仕、去年九月廿一日御道具等、悉奉入醍醐寺、供養法一﨟法印融覺行之、重衣、片壇師重衣、法印公禪、淸僧皆重衣、任例如此、三綱小衣、彼院床皆諸釬貫ノ構成間、土ノ上ニ疊敷之、榮增不及出仕也、同三月廿一日、寺中諸門閉之、朝之間者、南大門幷慶賀門開之處、稻荷ニ目付ノ道賢取籠間、甲斐朝倉大勢行向、道賢打之、彼社堂社人家寺悉燒之、此邊マテ物騷也、仍諸門木戶等不開、仍參詣者無一人、自辰初至午刻末マテ燒之、御眞體御輿、大師文殊等、次日廿二日此邊之頭人唐橋八條輿丁加之奉入、御輿下ノ御宿所ヘ悉入申之、午日ニテ廿二日ハ可有御出定日也、曲事共御

眞體三所ハ奉拜之、其後御撫物鏡箱入之二御劔三人ニ買留テ施入、又山上ノ上御前、同中御前、社等悉後日ニ破之取也、又御眞體二有之由申也、不拜見申、神人等悉皆無之、祭禮之儀ハ六座之御供悉備之、師子舞有之、御雜色不參也、十二月十五日稻荷五所、御輿五、同神體三所、大師文殊師子六頭、山神面一、法性寺ノ田中ノ社奉入之、八條ノ太頭座衆無力、本社ニ奉返之、御迎ノ足輕四五百人有之、

同三年己丑 太元法於住房行之、後七日法無之、加任無之、

長者前大僧正嚴寶

御影供、執事頭二人、智蓮光院小島光宣僧正、金蓮院逹杲法印、雖然小島依無通路、東山之留主代不致領狀、此分惣寺ニ披露之、依動亂無通路事者、無子細事トテ、堯杲同無領狀之間、法會之儀一向無之、上首ノ光宣致領狀者、堯杲可致沙汰云云、

三月廿三日稻荷御撫物、二神主公歲代公之、於影前別當執行ニ出合テ、以中綱定金渡之、

四月十三日雖爲卯日、稻荷祭一向無之、不及備御供也、

僧正隆濟

六月二日、寺務宣下、

上卿日野大納言

文明元年六月三日 宣旨

僧正隆濟

宣知行法務事

藏人右少辨兼文章博士藤原季光奉

文明二年庚寅

長者僧正隆濟

去年七月五日水本僧正隆濟、寺務之由相觸之、別當釋迦院賢深僧都代觀智院大納言阿闍梨、依爲敵方、一向無參賀之儀、目代上總御影供無之、不及拜堂、無執事沙汰也、加任無之、太元法、於住坊有之、後七日法行之、稻荷祭無之、寺務九月中死去云々、寺務方事爲供僧中、一向取沙汰之、

同三年辛卯

寺務御仁體不聞之、後七日法行之、御影供無之、稻荷祭無之、安居結願法會有之、供養法、仁然法印、散花堯杲法印、讃賴俊阿闍梨、

同四年壬辰

寺務無之、後七日法不行之、御影供無之、稲荷祭無之、安居結願法會無之、供夏無之、出舍利者於堂行之時ハ於堂吹之、木具不及行也、

同五年癸巳

寺務無之、後七日法不行之、御影供不行之、

二月三日夜、八幡宮御寶殿ニ盜人亂入申シテ、御内陣寶篋印塔之御舍利三粒、應永十五年寄進快玄等施入、無一粒取、塔斗有之、同十日御殿之内榮增奉爲掃除之處ニ、御身奉爲拜見之事思出至也、巨細別紙注之、今度宗杲法印、佛舍利三粒奉施入之、紙裹之、同兩界萬茶羅各一紙書之、白紙施入之、今度融覺法印、金勝院、仁然法印、佛乘院、宗杲法印、觀智院、榮增大僧都、勾當定增、已上五人奉拜之、稲荷祭無之、於御供者如去年、半濟分殘供之、安居結願法會、如去年無之、供夏者開白廿日有之、舍利講者、以支(木カ)具許堂内ニテ行之時ハ於住房吹之、夏衆一人豐後、

同六年甲午

寺務無之、後七日法不行之、御影供無之、稲荷祭無之、於御供者半分備之、近年如此、

同七年乙未

寺務無之、後七日法不行之、御影供無之、稲荷祭無之、御供者以半分備之、

同八年丙申

後七日法無之、稲荷祭無之、御影供無之、

同九年丁酉

後七日法無之、御影供無之、稲荷向御禮供之、四月六日、

同九年七月廿八日夜、寶藏盜人板敷破之亂入、印役三面鏡鉢等取之、供僧方物多取之、委日記有之、

同九月廿二日畠山右衛門佐殿、河内國在陣、

同十一月十一日大内介畠山右衛門佐殿、土揆同在國也、依之京中目出度人々申之、

同十年戊戌

後七日法無之、御影供不行之、稲荷祭四月十一日有之、天下秋無爲ニトル、

同十一年己亥

後七日法無之、御影供不行之、稲荷祭禮有之、十一月七日、

同十二年庚子

後七日法無之、御影供不行之、稲荷祭御出、十二月廿七日御札備之、

同十三年辛丑

後七日法無之、御影供不行之、四月十一日稲荷祭有

之、
太元法事理性院爲代官、宗深律師五智院、行之於住坊
也、ヶ年其後長享三年初、理性院僧正於禁中行之、
其後改元、八月廿一日、延德元、
上﨟中御門中納言
文明十三年十月九日　宣旨
權僧正公嚴
宜爲東寺長者
藏人左少辨藤原俊名奉
私云理性院公嚴僧正病中宣下也、
同十四年壬寅　後七日法無之、御影供同無之、
同十五年癸卯　後七日法無之、御影供同無之、
太元法、宗深律師住坊行之、七箇年、
上﨟中御門中納言
文明十五年六月廿日　宣旨
前大僧正守鑁
宜爲東寺々務
藏人頭右大辨藤原政顯奉
法務同日、
被綸言偁、可候二間夜居之由、宜
仰遣者、綸旨如此悉之、謹狀、

六月廿日　右大辨政顯
謹上東寺長者僧正御房
凡僧別當權律師宗承三位律師寶輪院弟子
七月二日寺務參賀、御宿房寶輪院僧正宗壽坊、
同十五年十二月廿一日、守鑁僧正未拜堂逝去、
年
同十六年甲辰　後七日法無之、御影供無之、
同十七年
後七日法無之、御影供無之、稻荷祭有之、寺務別
當無之、
同十八年
後七日法無之、御影供無之、稻荷祭有之、寺務別
當無之、
同十九年
後七日法無之、御影供無之、稻荷祭有之、寺務別
當無之、
長享二年　後七日法無之、御影供無之、稻荷祭有之
同二年十月廿六日法務宣下、大覺寺准三宮前大
僧正性深、
同二年十一月十日一長者宣下、御奉書ハ別當法

印隆賢正別當大勝院代、增長院法印俊惠、目代備後法橋
聰秀、同十一月廿一日寺務佘參賀、百疋執行方取
之、兩座中又百疋、五十疋カネツキ分、
同三年己酉
長者准三宮前大僧正性深
御影供々養法、寺務未拜堂之間、定額一﨟寶輪院
權僧正宗壽、參勤畢、寺務被經　奏聞治定畢、
御影供執事事亂後再興始也、兩頭報恩院僧正賢
深、四分一、金剛王院僧正隆海、四分一、後七日法無之、大
元法於宮中行之、理性院僧正、初度、御影供再興以
前之極官者、下行物可爲根本、四分一、再興以後極官
仁者可爲根本之牛頭、
延德二年　後七日無之、
長者同前　別當同前、御影供執事、觀心院權僧正賢譽、四分一、覺勝院權僧正亮助、
同三年　無後七日、
長者同前
別當同前、御影供執事、安祥寺權僧正隆快、四分一、和
州內山上乘院權僧正公濟、四分一、
供養法師、寶嚴院寶緣法印被勤畢、
明應元年　無後七日、

長者同前
別當同前、御影供執事、西林院僧正定珍、根本牛頭、一
方大覺寺寶幢院權僧正實尊、四分一、
寺務未拜堂之間、定額一﨟寶嚴院寶緣法印、被勤
供養法了、
同二年　無後七日、
長者同前
別當同前、御影供執事、一方醍醐妙法院權僧正賢
超、四分一、一方仁和寺理證性カ院權僧正光譽、四分一、供養
法師同前、
同三年　無後七日、
長者同前
別當同前、御影供執事、一方勝寶院權僧正道譽、
根本牛頭、一方眞乘院權僧正覺遍、四分一之頭、
御影供々養法同前、
僧正賢深水本、號釋迦院又報恩院、
二月廿三日　宣下、
明德三年十二月廿三日　宣旨
僧正賢深
宜爲東寺長者

同四年

藏人左少辨藤原守光奉 無後七日、

長者同前

別當同前、別當代脇阿闍梨秀濟、宗泉院弟子也、御影供執事、一方地藏院大僧正、四分一、一方菩提院權僧正、四分一、御影供々養法、寶嚴院宗緣法印也、

同五年 無後七日、

長者同前

別當同前、御影供執事、一方三寶院殿、根本之半分、一方當寺宓嚴院智海、四分一、供養法同前、

同六年 無後七日、

長者同前

法印權大僧都宗永□□宣案二月廿一日、理性院之同宿五智院持來、上卿中御門新大納言

明應六年二月十日　宣旨

法印權大僧都宗永

宜爲東寺長者

藏人頭右中辨藤原守光奉

明應六年、灌頂院執事、一方當寺寶嚴院法印寶緣、一方醍醐寺五智院法印宗典、

明應六年十一月十四日、講堂大日御造立、大日者中島ト云藏方者作也、以上一千貫入足歟、

同七年 無後七日法、

寺務同前執事々方、金剛王院權僧正空濟、三十餘貫文出之、

同八年 後七日等御修法無之、

寺務同前

御影供執事、一方上醍醐無量壽院法印俊惠、四分一、一方同圓明房法印宗鍐、四分一、各七十貫餘、供養法、五智院法印宗典御手代、

同九年 後七日等御修法無之、

寺務同前

御影供執事、一方仁和寺心蓮院法印、四分一、一方大覺寺遍明院法印、四分一、供養法妙觀院法印公遍、

文龜元年 後七日御修法等無之、

寺務同前

御影供執事、一方醍醐行樹院法印澄惠、一方寺家妙觀院法印公遍、供養法寶輪院法印宗承、南大門鉇始、鉇カ卯刻、文龜元年七月六日立柱、同十八日辰刻、

同二年 後七日等無之、

寺務同前

御影供執事、一方宓乘院法印宗詢、一方大覺寺新

門主、遮而有御所望勤仕之、別當代觀智院、供養法同前、

同前

長者大僧正賢深

十二月十八日寺務宣下、

上卿小倉中納言

文龜二年十二月十八日　宣旨

大僧正賢深

宜令知行法務事

藏人頭左中辨藤原守光奉

同日護持　宣下、

被綸言偁、可候二間夜居之由、宜仰遣者、綸命如此、仍執啓如件、

十二月十八日　左中辨守光

謹上東寺長者僧正御房

大覺寺殿未拜堂處ニ報恩院僧正賢深ヘ寺務被仰付之間、出後ニ誰人カ拜堂節ヲ可被遂哉之間、寺家談合アッテ、只今ノ事ハ雖卒爾、已ニ綸言トシテ報恩院被仰付者、於後々未拜堂ナラハ、別人ニ不可被仰之由執奏之處ニ、則寺家如所存、被成綸旨了、則正文寺家ニ有之、文龜三年寺務之事、報恩院ニ被仰出之、雖然法務之宣下ハカリヲ寺家ヘ被出之間、違先規之間、如先々、寺務知行之宣下、可被出之由、返答之處ニ、彼院家代々此分タル間、法務之宣下、直可知行寺務云々、數箇度雖有問答、寺家無承引、又彼院家ニモ無承引之間遂無落居、而文龜四年正月之末死去云々、然間文龜三癸亥、永正元、甲子、御影供執事等無之、永正元年三月ニ有閏月、然間稻荷御出之事可有如何哉之由、公人度々被相尋之間、四月卯日、寺家ヘ御出肝要也、其三七日以前ニ御山ヲ御出アッテ、御旅所ニ御座之間、定而閏月ニ可有御出之由返答畢、則閏三月十五日御山御出有之者也、

同三年

長者大僧正賢深

綸旨案云、

就當寺長者之事、寺解之旨被聞食畢、條々雖有所申、先蹤又不一巡歟、然不遂拜堂、寄事於左右辭退之儀、寔以不可然、爲後鑒堅可被加禁遏也、但於有子細者、當于時可及御沙汰者乎、聖斷殊無相違之上者、寺家令散欝結、彌可奉祈天

長地久寶祚無疆者、
綸命如此仍執達如件
文龜三年六月廿日　　左中辨判
敎王護國寺衆僧中

永正元年甲子
長者大僧正賢深正月廿九日入滅、
十一月四日理性院加任長者、辭退、
同二年
寺務無之
同三年
同前
同四年
同前
同五年
長者大僧正持嚴七月八日宣下、
別當理性院權僧正、加任辭退在之、于凡僧別當、
存知之儀ハ是初例也、于時別當代、寶菩提院弟子
少將阿闍梨賢仲、
上卿中御門中納言
永正五年七月八日　宣旨
大僧正持嚴

宜爲東寺長者
藏人左少辨藤原伊長奉
可令候二間夜居給者、依
天氣言上如件、伊長謹言、
七月八日　　左少辨伊長
東寺法務可令存知給之由、
天氣所候也、仍言上如件、伊長謹言、
七月八日　　左少辨伊長

同六年
長者同前後七日等御修法無之、
同七年
長者同前後七日等御修法、御影供執事無之、
十二月廿八日入滅、
同八年　　寺務未補、後七日執事等無之、
同九年　　同前
同十年　　同前
同十一年　同前
同十二年　同前
同十三年　同前
同十四年　同前

同十五年　同前
同十六年　同前
同十七年　同前
大永元年辛巳　寺務未補、後七日執事無之、
同二年　同前
同三年　同前
同四年　同前
同五年　同前
同六年　同前
同七年　同前
享祿元年戊子　寺務未補、後七日執事無之、
同二年　同前
同三年　同前
同四年　同前
天文元年壬辰　寺務未補、後七日執事無之、
同二年　同前
同三年甲午　後七日御修法不被行、加任長者無之、御影供執事等無之、
長者權僧正義堯正月廿六日宣下、直任一長者、
別當理性院權僧正嚴助、三月十八日拜堂畢、于時
別當代寶菩提院阿闍梨亮雅、

口宣案云
上卿師大納言
天文三年正月廿六日　宣旨
權僧正法印大和尚位義堯
宜爲東寺長者
藏人頭左中辨藤原兼秀奉
上卿師大納言
天文三年正月廿六日　宣旨
權僧正法印大和尚位義堯
宜令知行法務事
藏人頭左中辨藤原兼秀奉
可令候二間夜居
給者、依
天氣、執啓如件、
正月廿八日　左中辨兼秀
謹上東寺長者權僧正御房政所
權僧正法印大和尚位義堯
右少辨藤原朝臣資將傳　宣
權大納言藤原朝臣公條　宣奉
勅件人宜令爲東寺長者者
天文三年正月廿六日修理東大寺大佛長官主殿
頭兼左大史小槻宿禰于恒奉

權僧正法印大和尙位義堯
右少辨藤原朝臣資將傳　宣
權大納言藤原朝臣公條　宣奉
勅件人宜令知行法務者
天文三年正月廿六日修理東大寺大佛長官主殿頭兼左大史小槻宿禰于恒奉
同年三月八日轉任大僧正、
同三月十九日東寺拜堂被遂之、
同三月廿日高祖七百年遠忌、爲准御齋會、於東寺西院、被行庭儀曼荼羅供、舞樂、御導師令勤仕給、職衆三十四口着座、公卿三人、正親町大納言、甘露寺中納言、飛鳥井右衞門督、奉行廣橋左中辨兼秀、御誦經使四條中將隆重、引頭二人、威儀師隆契、從儀師行經、
觸課諸門徒　綸旨云
今年弘法大師七百年忌、來三月於東寺、一日法會准御齋會、可被執行之、豫相觸門徒中、都鄙諸寺、宜抽隨分懇(志カ)寺、令致无貳之報恩、萬一於有疎略之輩者、可及放門之沙汰者、依天氣執啓如件、
後正月十三日　左中辨兼秀
謹上　長者權僧正御房政所
今年弘法大師七百年忌、來三月於東寺一日法會准御齋會、可被執行之、報恩謝德事、豫被仰下都鄙門徒畢、當寺衆徒門人等、別而令勵力同心者、可爲神妙之由、天氣所候也、悉之以狀、
後正月十三日　左中辨判
根來傳法院衆徒中
來廿一日、東寺後夜御影供、衆門之輩各可被參勤之由、可有御下知之旨被仰下候、此等之旨内々可申入給候也、恐惶謹言、
三月十七日
理性院僧正御房
根本御影供者於灌頂院有之、但近代依退轉、此後夜御影供於西院被行之畢、後夜之御影供者宣陽門院御願也、至于今無闕怠行來者也、
同四年　後七日、御影供、結緣灌頂同無之、加任長者無之、
長者大僧正義堯
同五年　後七日等無之、
長者大僧正義堯
九月五日寺務辭退了、

同六年　寺務未補、後七日執事等無之、
同七年　同前、
同八年　同前、
同九年　同前、
同十年　同前、
同十一年　同前、
同十二年癸卯
長者權僧正源雅報恩院、四月五日直任一長者、加任長者無之、
上卿萬里小路中納言
天文十二年四月五日　宣旨
權僧正源雅
宜爲東寺長者
藏人右中辨藤原晴秀奉
東寺法務可令
存知給之由
天氣所候也仍執啓如件
四月五日　右中辨晴秀
謹々上報恩院僧正御房
可令候二間夜居
給者依
天氣執啓如件

四月五日　右中辨晴秀
謹々上報恩院僧正御房
官符云
權僧正法印大和尙位源雅
右中辨藤原朝臣晴秀傳　宣
權中納言藤原朝臣惟房　宣奉
勅件人宜令爲東寺長者
者
天文十三年七月五日修理東大寺大佛長官左大史小槻宿禰奉在判
權僧正法印大和尙位源雅
右中辨藤原朝臣晴秀傳　宣
權中納言藤原朝臣惟房　宣奉
勅件人宜令知行法務者
天文十三年七月五日修理東大寺大佛長官左大史小槻宿禰奉在判
東寺執行記云、天文十二年四月五日報恩院權僧正源雅寺務宣下、別當權律師深應、上醍醐行樹院、別當代當寺光明院弟子眞性院隆慶、
同十三年十二月廿四日寺務、權僧正源雅御拜堂

有之、下行物等嚴密ニ執行方ヘ當日送賜者也、勾當請取出之、翌日諸役者等下行之、別當行樹院深應ハ前日廿三日拜堂在之、下行物者、寺務御拜堂錢內別當自分捧物ニテ諸下行物申立也、已上、

同十三年　後七日法、御影供、結緣灌頂無之、加任長者同無之、

長者權僧正源雅

同十四年

同十五年

同十六年

同十七年

同十八年

同十九年庚戌

同廿年

同廿一年

同廿二年

同廿三年

弘治元年乙卯

同二年

同三年

永祿元年戊午

同二年

同三年

同四年

同五年　十二月八日前大僧正源雅入滅、

同六年

同七年甲子　二月十五日前大僧正義堯入滅、

同八年

同九年

同十年

同十一年

同十二年

元龜元年庚午

同二年

同三年

天正元年癸酉

同二年

同三年

同四年丙子

同五年

同六年
同七年
同八年
同九年　後七日法不行之、御影供無之、結願灌頂同無之、加任長者無之、
長者大僧正堯雅松橋、
三月十六日寺務宣下、同日法務宣下、凡僧別當權
大僧都俊典、
上卿四辻大納言
天正九年三月十六日　宣旨
大僧正堯雅
宣爲東寺長者
藏人左少辨藤原充房奉
上卿四辻大納言
天正九年三月十六日　宣旨
大僧正堯雅
宣令知行法務事
藏人左少辨藤原充房奉
御齋會眞言院後七日法者、被移月國漢朝風範、爲
萬國之厄難五穀豐饒、始自承之曆曆之カ青陽初節、三國
同日被修嚴重祕法之處、近年退轉被歎思食者也、
早爲當國之役被申沙汰者、尤可爲神妙之旨、依
綸命、執達如件、
天正八年三月十六日　右少辨
伊達左京大夫殿
同十年壬午
長者前大僧正堯雅
同十一年
長者同前
三月廿日東寺拜堂、同三月廿一日高祖七百五十
遠忌、導師勤仕、
同十二年
同十三年
同十四年
同十五年
同十六年
同十七年
同十八年
同十九年
文祿元年壬辰　十月八日長者前大僧正堯雅入滅、
同二年
同三年
長者准三宮前大僧正義演

七月十六日一長者并法務護持、同日宣下、同七月
廿一日東寺拜堂、同七月廿二日東寺塔供養、導師
令勤仕給、
口　宣案云
上卿今出川中納言
文祿三年七月十六日　宣旨
前大僧正准三后義演
宜爲東寺長者
藏人右中辨藤原光豐奉
上卿今出川中納言
文祿三年七月十六日　宣旨
前大僧正准三后義演
宜令知行法務事
藏人右中辨藤原光豐奉
被綸言偁、可候二一
間夜居給之由、　宜
仰遣者、
七月十六日　右中辨光豐
謹上大納言法印御房
官宣云
准三宮前大僧正法印大和尚位義演
右中辨藤原朝臣光豐傳　宣

權中納言藤原朝臣季持　宣奉
勅件人宜令爲東寺長者者
文祿三年七月十六日、修理東大寺大佛長官主
殿頭兼左大夫小槻宿禰朝芳奉
准三宮前大僧正法印大和尚位義演
右中辨藤原朝臣光豐傳　宣
權中納言藤原朝臣季持　宣奉
勅件人宜令知行法務者
文祿三年七月十六日修理東大寺大佛長官主殿
頭兼左大夫小槻宿禰朝芳奉
同年七月廿一日東寺拜堂、先早朝三箇吉事被行
之、出仕行列次第事、
先所守二人、二行、淨衣垂、尻持、白杖、次職掌六人、二行、白張、立烏帽子、藁沓、次綱掌四人、二行、法服五帖赤袈裟、打袴鼻莚、次中經（綱カ）四人、二行法眼白裟打袴小袈袈鼻莚、次坊官前駈四人、次力者二十人、二行直垂、長者乘手輿力者八人舁之、
鎰取六人、輿左右相從、笠袋持退紅手 洗水瓶
持、力者草鞋持、退紅鼻廣持、力者以上各輿左
右倍從
次威儀僧二人、居箱草座持之、各法服平袈裟二行列立、

次扈從僧綱二人、各法眼平袈裟、力者以上召具之、
後御侍一人、　中童子二人、二行、
大童子二人、二行、　侍等群行、
先食堂誦經等如例、　次講堂、　次金堂、　次經藏、　次塔、　次二天、　次鎮守、　次灌頂院、
次歸、　西院吉書行之、

諸職補任事

凡僧別當松橋大僧都一雅、　珍皇寺別當堯嚴法印、高野山上別當權僧正亮淳、　同山下奉行治部卿法眼長盛、　高野小別當寺高野學侶中任之、
別當代觀智院亮盛、　目代三河上座忠爲、
目代々上總、東寺、
同年七月廿二日、東寺塔供養、舞王萬茶羅供在之、導師令勤仕給、大檀那大相國、秀吉公、御母堂大政所號天瑞寺爲三回忌、被執行之、
職衆四十口、十弟子四人、引頭、威儀師從儀師各二人、持幡童、　鐃持、螺吹、以下悉以東寺役人也、
着座公卿

菊亭右大臣、晴季公、勸修寺大納言晴豐卿、中山大納言親經卿、
度者使　阿野少將實顯、
御誦經使　清原秀賢、極臈也、
執蓋、執綱、諸大夫役之、堂童子同兼帶了、

同四年

長者准三宮前大僧正義演

慶長元年丙申

同二年

同三年

同四年

同五年

同六年

同七年

同八年

同九年

同十年乙巳

同十一年

同十二年

同十三年

同十四年
同十五年
同十六年
同十七年壬子
同十八年
同十九年
元和元年乙卯
同二年
同三年
同四年
同五年
同六年
同七年
同八年
後七日法、自寛正二年至元和八年、凡百六十二年退
轉、
同九年
後七日法今年御再興、追長祿之例、出紫宸殿行之、
考甲乙胎藏被修了、
寛永元年甲子

同二年
同三年
閏四月廿一日、長者准三宮義演入滅、寺務凡三十
三年、後七日法勤修四箇年、
長者僧正堯圓醍醐松橋、
直任一長者、十二月廿八日宣下、凡僧別當權大僧
都宋倩、
口宣案云
上卿今出川大納言
寛永三年十二月廿八日　宣旨
僧正堯圓
宜爲東寺長者
藏人權左少辨藤原經廣奉
官符云
僧正法印大和尙位堯圓
權左少辨藤原朝臣經廣　傳宣
權大納言藤原朝臣宣季　宣奉
勅件人宜爲東寺長者者
寛永三年十二月廿八日中務大輔左大史小槻
宿禰判
同四年丁卯

後七日法請書云
後七日法、可令參勤給
者、依
天氣、執啓如件、
正月三日　兵部少輔俊完奉
謹上　松橋僧正御房
上卿中御門中納言
寛永四年正月八日　宣旨
僧正堯圓
宜令知行法務事
藏人權左少辨藤原經廣奉
僧正法印大和尙位堯圓
權左少辨藤原朝臣經廣傳　宣
權中納言藤原朝臣宣衡　宣奉
勅件人宜令知行法務者
寛永四年正月八日
中務大輔左大史小槻宿禰奉
同五年
同六年
閏二月十六日三箇吉事、於醍醐無量壽院行之、同月
廿日東寺拜堂、

同七年
長者前大僧正增孝　後七日法、四箇年相續參勤、寺務以上五年、
隨心院、十二月廿四日長者法務、同日宣下、
上卿日野新大納言
寛永七年十二月廿四日　宣旨
前大僧正增孝
宜爲東寺長者
藏人頭右近衞權中將藤原基音奉
東寺法務之事、可令存知
給之由、
天氣所候也、以此旨、隨心院前大
僧正可被申入之狀如件、
十二月廿四日　右中將基音
謹上大納言僧都御房
同八年辛未　後七日法無之、太元法在之、
長者同前
護持　宣下云
可令候二間夜居給之由、
天氣所候也、以此旨、隨心院前大
僧正可被申入之狀如件、
三月五日　右中將基音
謹上大納言僧都御房

閏十月十七日、三箇吉事、於小野住坊被遂其儀
了、同月廿日東寺拜堂、

同九年壬申

同十年

同十一年

三月廿日高祖大師八百年忌、准御齋會、於東寺西
院被行舞樂萬荼羅供、職衆五十四口、引頭威儀師隆
昌、從儀師幸慶、着座、公卿西園寺大納言實晴、柳原
中納言業光、滋野井中納言季吉、御諷經使、山科中將、
同廿一日、於同西院御影堂、御影供行之、宗門之侶
出座、同廿四日、於灌頂院新道場、結緣灌頂之職衆
卅口、奉爲大師八百年忌、兼又當堂再興新造、爲供
養意也云々、

以上三箇度法會導師、寺務前大僧正增孝勤仕了、

興福寺別當次第 付權別當

孝謙　慈訓少僧都（少僧都時任法務　寶龜八年入滅、）

天平寶字比、件人經廿餘年、良敏僧都弟子船氏也、件慈訓與行賀之間數多積、此間慈訓弟子仁秀寺主一人執行寺務、今案從寶字元年丁酉至于延曆十年辛未合卅四年也、或書云、天平寶字比爲別當于時少僧都也、從寶龜元年不載僧綱補任云々、或云、天平勝寶八年五月廿四日丁丑任少僧都、或記云、天平寶字元年任興福寺別當、寂始別當是也、治廿五年、　或記云、件人至于天平寶字七年（或記云停任之間）行政乖理、不能綱務、被停任畢、至于寶龜元年八月廿六日複任、（寺務執行慈訓弟子仁秀寺主也云々）至于同八年前後廿年、同九年以後至于天應元年合四年、慈訓僧都不見、　相傳云、慈訓僧都之時、高野天王停慈訓寺務、以道鏡爲別當云々、可尋之、

光仁　永嚴大僧都（凡僧時　或本大律師、）

良敏大僧都弟子也、又慈訓僧都弟子也、或云、寶龜十年爲別當、于時大律師也、又云、寶龜十年任山口忌寸、又云、寶龜元年八月廿六日任律師、同三年十一月四日任大律師、任日、又曰、件人不入別當、又云、僧綱補任中不見大僧都之列、治十三年、

桓武　行賀大僧都（大僧都時或少僧都　入唐人也、延曆廿一年二月八日卒、七十五、）

延曆十年比、（經十三年、）俗姓上毛野氏、大和國廣瀨郡人也、生年十五出家、廿受具足戒、永嚴大僧都弟子也、廿五入唐留學、唯識、法華兩宗學之、住唐卅一年、在唐之時居于百高座之第二、製作法花蹟弘贊略贊唯識僉議集四十餘卷、又寫得持來聖教要文五百餘卷、聖朝深嘉弘益、詔付門徒卅人令傳其業、授以僧綩（綱カ）、即延曆三年六月九日任少僧都、同十三年轉大、或云、十五年十二月廿四日轉大、同廿二年癸未二月乙未遷化、春秋七十五、　或云、延曆元年爲別當于時少僧都也、　又或云、延曆元年任別當、治四十年、　或云、延曆廿年、維摩會永修興福寺云々、

嵯峨　修圓大僧都（少僧都時、或云律師時　治十（廿イ）三年、或云承和元年卒、）

弘仁三年比也、或本云、弘仁十三年比也、自延暦廿二年至弘仁十三年所經廿年也、其間執行誰人哉云々、

賢憬大僧都弟子也、或云、弘仁十一年爲別當、于時律師也、又或書云、弘仁十三年權律師修圓任別當、治十三年、又或書云、弘仁十三年任賢憬大僧都資也、又宣敎大德弟子也、小谷氏、大和國人也、是大慈大悲大智之佛、六臂六面六足之尊也、特發弘誓創建傳法院、安置千佛千塔彌勒淨土、積納大小乘經律論章疏、以爲恒轉法輪之場、以爲鎭護衆生之處、以上深密會縁起文、

淳和天皇御卽位天長元年甲辰依旱魃奉勅弘法大師奉勅也於神泉苑可修請雨經之法、守敏大德奏狀云、守敏者已上臈也、同學此法須先勤仕令雨兩カ兩京者、依請早修、卽以勤仕、七箇日結願之朝、西京如暗夜雷響尤盛也、其雨成洪水、衆所感也、但遣使令實檢之處、只降兩京內、不及山外以上弘法大師傳、守敏與修圓同異、可尋之、然間木星久廻、花容漸衰、至承和二年乙未六月十三日早伏北首之床、忽現右脇之相、噫乎悲哉、龍穴山之上、俄屆鶴雙林之舊風、無漏或本蒲池之中忽駕拔提河之古浪、因玆古今門徒爲報本願上綱之無涯恩德、撰取究竟中道之鮮深密經、毎至遷化之今日、敬抽開演之忠節、卽號深密會、又故奥州大守藤原朝臣佐世、積善在身功德存意、遠投家財永宛供施、始從去寬平三年辛亥別副立義一人、紹隆佛法談論深義、必因此善根令萠佛種、已上縁起文、僧綱補任不載大僧都、任日注少僧都、

已上三人不歷三會講師、或本維摩云々

仁明　緒嗣　隆慧律師凡僧時、

承和元年任イ比也、或云、承和九年比也、從承和三年至同九年寺務執行誰人哉、承和四年維摩講師、同十年十一月九日任律師、或云、承和二年爲別當、同四年維摩講師、或云、修圓僧都之資也、

仁明　良房　壽朗律師律宗(師イ)凡僧、

承和十四年比也、經十三年、或云、廿年、俗姓□、本是元興寺僧也、後入修圓御弟子律宗也、不歷三會講師、或云、承和十四年爲別當、仁壽元年七月

任律師、或云、行基別正門徒也、貞觀五年卒、治六年、或云、不經三會講師、

正叡或本無之、

或云、貞觀三年爲別當、承和九年寺主、仁壽四年爲小別當、抑貞觀三年爲別當者、小字落失歟云々 或本不入別當、次第可尋之、

清和

亘房 少僧都時、或凡僧時（イナシ） 凡僧、大僧都、 壽朗辭別當、

興昭少僧都律宗

貞觀元年任、經廿四年、同四年 維摩講師、長者左大臣緒嗣宣、同六年十二月十六日超春德長賢兩人、任權律師、依爲寺別當也、同十六年十二月廿九日任少僧都、 元慶七年正月廿八日卒、治十三年、 本師修圓大僧都、 本師壽講已講、 貞觀十一年己丑二月三日西金堂修二月始之、

權別當孝忠權別當始也、

貞觀十一年任、

同

亘房（忠仁公）

孝忠律師或云已講、任イ

元慶七年比也、經六年、俗姓菅原氏、法相宗、元慶元年維摩講師、年六十三、長者左大臣基經宣、同三年十月廿三日任律師、 同六年八月卒、師明福大僧都、或書云、貞觀十一年權別當、同十三年爲別當云々、伊勢國人也、或兼律師云々或記 或云、貞觀十三年任、元慶三年十月廿三日超隆海任律師、同六年五月八日卒、生年六十八、治十二年、

陽成

基經（昭宣公）

房忠少僧都律師時、法相宗、

仁和寬平比也、經六年、俗姓藤原氏、法相宗、元慶六年維摩講師、長者基經宣、仁和元年十月七日超基秀、隆光、安海三人、已講任律師、已上無研學竪義以前也、師壽朗律師、又師孝忠律師也、或云、元慶七年 任權律師、寬平二年轉律師云々、又云、仁和二年任別當、治二年、或云、治八年云々、寬平四年十二月廿四日任少僧都、同五年七月廿一日卒、

宇多

亘世時平 凡僧時

仙忠少僧都同宗、

寬平五年任、經十三年、俗姓麻績氏、伊勢國人、法相宗、同三年維摩講師、同長者宣、同七年十月十四日任權律師、延喜二年三月廿三日轉正、同三年二月廿九日任少僧都、同五年六月四日卒、或云、同四年三

月廿九日、不歷研學立義、生年八十三、師

醍醐

時平　眞覺律師同宗、

延喜五年任、經十一年、或云、十五年、俗姓多治氏、右京人也、法相宗、東院住、寛平五年竪義、生年四十四、延喜四年講師、年六十四也、長者中納言時平宣、同疑云、延喜四年比、時平左大臣左大將也、中納言之條如何、六年十月七日任權律師、同十年三月廿二日轉正、

同十五年十二月一日卒、生年六十六、師

同

忠平（貞信公）　基繼少僧都凡僧時或記昌海和尚弟子、

延喜十五年任、俗姓紀氏、越前國人也、法相宗、寛平七年立義年五十一、同長者宣、延喜九年維摩講師、年六十、同長者宣、同十六年四月六日任權律師、延長三年四月八日轉正、同六年閏八月廿八日任少僧都、同八年二月四日卒、生年八十二、或書云、承平元年二月十六日卒、又云、延長六年之比爲別當、治十七年、

朱雀

忠平（貞信公）　平源大僧都凡僧時或記、道海大德舍弟、住新院本願、

延長八年比也、經廿年、或云、治十九年、又云、延長九年任、經十八年、又云、十年也、俗姓度會氏、伊勢國人、法相宗、延喜六年立義、年四十六、或云、四十二、延長二年講師、年六十四、長者權中納言忠平宣、承平元年十月廿七日任權律師、天慶元年八月廿七日任權少僧都、同八年十二月廿九日任權大僧都、天曆三年五月二日卒、年八十九、或云九十、師西大寺平恩大僧都、或云、師願安、金勝寺本願、

村上

實賴（淸愼公）　空晴少僧都

天曆三年十二月廿六日任、經九年、又云、十八年、俗姓伊勢氏平城人也或記元興寺西鄕人、法相宗、延喜十六年立義、年三十九、承平二年維摩講師、年五十五、同長者宣、天曆元年八月廿七日任權律師、同八年十二月廿四日、或云、廿七日轉正、天曆二年十月十九日任權少僧都、同三年十二月廿六日轉正、天德元年十二月九日卒年八十、大師勝延僧都、或記又隆光律師弟子、本師延賓已講喜多院本願、

權別當助精已講

天曆十年五月十日任、助精已講、

天德元年十二月十七日任、經五年、俗姓宮道氏、

法相宗、承平四年立義、年四十、天暦七年維摩講師、年五十九、長者左大臣實頼宣、應和元年四月十七日卒、年六十七、師神鏡大法師、或記云、榮祐已講弟子、

件助精已講、僧綱補任云、應和元年十二月廿八日任權律師、康保元年七月十日轉正、同二年十二月廿八日任權少僧都、同三年四月十一日卒去、若爾者應和二三、康保元二三、五箇年之間別當職者歟、可尋之、

同　實頼　延空大僧都律師時、

應和元年任、經七年、俗姓佐伯氏、日向國人也、法相宗、興福寺西唐院住、或記又住上階東英室、承平二年立義、年四十三、天暦二年維摩講師、年五十九、長者權中納言忠平宣、天暦七年十二月廿八日超二人任權律師、天德二年十月轉正、應和元年十二月廿八日任權少僧都、康保元年轉正、同二年十二月廿八日任少僧都、康保四年七月七日卒、年七十、或云七十九、師增利大僧都、

冷泉　實頼(謙德公)　伊尹　安秀少僧都

康保四年七月廿日任、經五年、或治四年、俗姓可尋之、美濃國人也、法相宗、興福寺住新院、承平六年立義、年四十七、天德二年講師、年六十六、或云六十九、長者太政大臣伊尹宣、實頼　康保元年七月廿日任權律師、同二年十二月廿八日轉正、同三年十二月廿七日或廿六日、任權少僧都、天祿二年或元年、或記云、去年辭退寺司歟云々、四月十六日或廿日、卒、生年八十、師平源大僧都、

權別當玄延大威儀師

或書云、天祿四年五月廿日都維那、奠算寺主叡悟上座、朝康權別當大威儀師玄延、別當律師定昭云云、

圓融　伊尹、(謙德公)　賴忠、(廉義公)　定昭大僧都兼眞言宗東寺長者法務、一乘院、

天祿二年比也、經六年、或云、天祿元年十月三日任、或治十二年、俗姓藤原氏、左京人也、法相宗兼眞言宗東寺長者、興福寺一乘院本願、天慶四年立義、年卅、應和二年講師、年五十一、同長者宣、康保三年十二月廿七日任權律師、同五年三月轉正、天延元年十二月廿二日任◎少僧都、貞元二年五月卅日轉正、
・權カ

天元二年十二月廿一日任大僧都、東寺長者、兼法務、同四年八月十四辭退寺司、永觀元年二月廿三日、（或云廿一日、）卒、（年七十二、或云七十三、）師仁斅僧都（或記云、寬空僧正受法弟子、）僕聞古老相傳云、僧都長顯密道、興法利生、晝夜誦法華、足爲佛使、況眞言之鏡浮五智影、唯識之玉放二空光、東寺爲長者弘闡密敎、專寺爲長官、興隆顯敎、其性忍賢、一生不犯、德行威德不可稱計、一乘院有橘木枝葉枯槁、已成枯木、依過（遲イ）數月、則爲截捨、爰僧都誦大佛頂眞言一遍加持、即日之內靑葉忽生、枯木還成滋茂樹、開花結菓倍增前々、是希有事也、壽蓮大威儀師爲僧都、有嫉妬心致誹謗詞、而間僧都任法務初參之日、大威儀師賜僧都盃盞、手乍捧盃盞、忽狂亂迷悶、將入死門、舁入蔀上將出寺外、則時死去、時人皆見之、誹謗淸淨聖人故蒙現罸、非業死耳、僧都忽有要事、從山階寺京上、朱（泰カ）蒼淀河玄風頻吹、河波極高、船不能往還、僧都依急事乘船渡河、衆人驚怖、皆言船可漂倒、僧都當汎水歎怖之間、天童十人許自河中出來、捧船不泛水不寄波、安穩着岸上竟、即天童於河中忽失不知所去、見人皆生感歎、流淚隨喜、是未曾有事也、僧都未（示カ）云、是法花經十羅刹還現天童渡我耳、或時不動明王現形與語云々、如此希事不遑毛擧、乃至寂後沐浴潔齋着新淨衣、右手執五鈷、左手持法華經、初結密印誦眞言、次誦法華經至于藥王品、於此命終、即往安樂世界阿彌陀佛大菩薩衆圍繞住處生蓮花中寶座之上、不復爲貪欲所惱、亦復不爲瞋恚愚癡所惱、乃至以是淸淨眼根見七百萬二千億那由他恒河沙等諸佛如來、於此文兩三遍誦竟、告弟子言、我尸骸假使燒失雖成炭灰、猶誦法華利益一切、言語已畢、手結定印、乍座入滅、誓有驗、迄于今其墓有誦法花之音、有振鈴之聲、以上雖無指文籍、世皆擧所聞傳也、僧都御度緣云、延長六年十九者、依之者天慶四年立義、（年卅二、）應和二年講師、（年五十三、）入滅年七十二、講師立義、其年相違可尋之、又承平七年授法師勅書云、年卅八者是廿八歟、廿字書卅歟、天元四年八月十四日大僧都自筆被辭寺司狀云、敬白謹辭申興福寺東寺金剛峰寺別當職事、右定昭從若年之時誦法華一乘、幷修念佛三昧、仍蒙往生極樂之記也、而近會夢中可生惡趣之由所見也、定知依奉仕件寺々別當所示現

也、仍如先年記爲往生極樂辭申如件、敬白、

天元四年八月十四日大僧都也、在判草案在一乘院經藏云々、已上僧都御自筆狀、

興福寺大僧都定昭誠惶誠恐謹言

不堪勸〔勤カ〕仕寺家別當職之狀

右定昭以去天祿元年故少僧都安秀辭退之替、依傍無人、忝預件職、而所護者三業之辜浮囊難惜、所持者一乘之敎寶珠易忘、況吏幹之途元來未慣、興隆非幾誤犯多端、爰蒲柳送七十之秋、桑楡待旦暮之景、前咎欲悔後過可遮、望請蒙鴻恩、辭退件別當職、靜慰餘喘、護於牟尼之蹤、暫扶頹齡、修於菩提之願、今勒辭狀、定昭誠惶誠恐謹言

天元五年七月八日　作者松室忠算云々、

權別當眞喜已講執行寺務

天延三年講師、卽二年十二月十九日蒙講師宣旨、

同二年八月八日任權別當、

同　賴忠、兼家、道兼、道長、眞喜僧正法務、

永觀元年任、經十九年、或云十八年、俗姓平氏、或云王氏、伊勢國多氣郡人也、法相宗、興福寺喜多院住、康保元年立義、年三十四、天延三年講師、年四十五、同長者宣、依字不審長者太政大臣兼通也權別當幷御導師勞、天元四年或云五年、三月日或云、十二月十五日、超千到法蓮二人已講、任權律師、年五十一、永延元年三月十二日任權少僧都、年五十七、永祚元年三月廿四日依春日行幸賞、轉任大僧都爲法務、年五十九、傍註云或記同年五月廿六日任法務、正曆二年十月任權僧正、同春日行幸賞、年六十一、正曆五年十一月轉正、長德四年月日轉正、長保二年或云元年、二月七日卒、年七十一、或本七十、師空晴大僧都、或本云、正曆二年閏七月任權僧正、關白左大臣道隆供養積善寺講師、於高座上蒙宣旨云々、讀師暹賀僧都、

權別當明久律師

俗姓佐伯氏、大和國葛下郡人也、法相宗、住角院、天元三年立義、正曆四年講師、年五十六、長者內大臣道隆宣、長保元年三月日長者詣春日社之次、於馬場殿依爲權別當任律師、同四年六月十八日卒、年六十、或六十五、

大師空晴、本師眞喜僧正、或記又基高僧都弟子、

或記云、長保四年三月廿一日公家寂勝講始行之、

一條 道長 少僧都時

定澄大僧都 法務、住中院、

長保二年八月廿九日任、經十七年、或六、俗姓丹生氏、左京人也、法相宗、天元二年立義、年四十五、永延二年講師、年四十五、長者太政大臣兼家宣、長德元年十月七日任權律師、長保二年八月廿九日任權少僧都、同五年十月十五日長者令參維摩會給之次任大僧都、寛弘八年四月廿七日轉正兼法務、長和四年十一月一日卒、年八十、或八十一、師空晴僧都、寛空僧正入室、空晴之資、付囑于眞喜僧正、長保四年、寛弘八年、長和四年、合十六年、

權別當律師明久 同上、

長保四年六月十八日卒、生年六十六、(五イ)

權別當扶公法橋

寛弘八年四月廿七日任、

後一條 道長 賴道

林懷大僧都 林範僧正或本

長和五年五月十五日任、經十年、俗姓大中臣氏、伊勢國人也、法相宗、喜多院住、永延元年立義、年三十七、長德四年講師、年四十八、長者左大臣道長宣、寛弘三年十二月十三日、或六、任權律師、同八年四月廿七日轉權少僧都、寛仁元年三月十五日轉大、傳燈云、或記治安元年十月十五日春日行幸賞讓弟子、永昭令任權少僧都、萬壽二年四月四日卒、年七十五、治十年、師眞喜僧正、

權別當扶公

同 賴通

扶公法印權大僧都

萬壽二年六月廿七日任寺司、經十一年、俗姓藤原氏、左京人也、法相宗、初住轉經院、後住上階東妻室、長德三年立義、年三十二、寛弘四年講師、年四十二、同長者宣、件年講師清春初二日勤仕、依病辭退、言上事由之間、第三日朝座平超律師勤之、夕座觀昭勤之、第四日朝座澄心勤之、夕座林懷勤之、降宣旨之後三箇日扶公勤之、長和三年十月廿八日依爲元興寺司興福寺權別當并帶法橋、超前已講仁也、并上階律師明憲敎靜朝壽懷壽實誓詩圓永圓七人任權少僧都、治安元年十月十四日行幸春日、以十五日朝任權大僧都、同年十二月任長谷寺司、萬壽二年任寺司、同四年辭退大僧都、長元四年十月廿日御塔供養之朝、還着大僧都、并叙法印、同

八年七月七日卒、（年七十、）師眞喜僧正、或云長保五年十二月卅日叙法橋、（元興寺能治賞、）長元四年十月廿日叙法印任大僧都、（元前大僧都、）御塔供養賞、依別當之能治有二恩無正（權）官故倶賜職位、先任本職、次叙法印云云、

權別當永昭大僧都

俗姓藤原氏、左京人也、大藏丞基業息也、法相宗、住喜多院、長和二年立義、（年廿五、）寛仁二年講師、（年三十、）長者左大臣頼通宣、件年講師安潤辭退替也、治安元年五月七日超日 觀融碩兩人、（或記日觀勅勘、融碩他行云々、）任權律師、同年十月十五日春日行幸賞依眞喜僧正讓任少僧都、長元々年十二月卅日任權大僧都、同三年三月廿一日卒、（年四十二、）師眞喜僧正入室、次師林懷大僧都、

同 經救大僧都（頼通 少僧都時）

長元八年八月廿七日任、治十年、俗姓當麻氏、大和國葛下郡人也、法相宗、住東院、寛弘四年立義、（年三十二、）寛仁三年講師、（年四十二、）同長者宣、萬壽四年五月十五日（或三月十日、）任權律師、（年五十三、）長元六年十月蒙探題宣旨、同年十二月廿二日（或六、）任權少僧都、（年五十六、）同八年任寺司、（年五十八、）長暦二年十二月廿一日依春日行幸任權大僧都、寛德元年五月二日卒、（年六十七、）元天台僧也、實因僧都弟子也、渡專寺之後以直（眞カ）喜僧正爲師、後大師林懷大僧都、

權別當眞範已講（治一年）

長元八年十二月廿二日任、（年五十、）

後朱雀 眞範僧正（頼道 少僧都時）

長久五年六月廿五日任、（或寛德元年、）治十年、（或云十一年、）俗姓平氏、播磨守生昌息也、左京人也、法相宗、住一乘院、寛弘八年立義、（年廿六、）萬壽三年講師、（年四十一、）同長者宣、長元八年十二月廿六日任權別當、（年五十、）長暦元年五月廿五日任權律師、（五十二、）同二年十二月廿日任權少僧都、（年五十三、春日行幸賞、）同三年閏十二月廿六日任元興寺別當、（年五十四、）寛德元年六月廿五日任寺司、（年五十九、）仍元興寺司辭退之、永承三年三月（或二、）二日任大僧都、（年六十三、御寺供養賞、）同四年十一月廿七日（丙辰）任權僧正、（六十四、春日行幸賞、）同五年十二月卅日轉僧正、天喜二年十二月五日卒、（年六十九、）清範律師入室、定

好已講依附之資也、

權別當道讃僧都

永承四年十月廿七日任、或五月任、俗姓藤原氏、伊豫守孝忠息、敎圓座主舍弟也、左京人、法相宗、寛弘四年立義、生年廿六、或云、七年立義、萬壽二年講師、生年四十一、同長者宣、長元八年八月廿七日任法華寺別當、同年十二月廿八日任權律師、永祿四年十月廿七日任權別當、同年十一月十七日任權少僧都、春日行幸賞、同七年四月廿三日卒、生年六十八、定澄大僧都資也、

後冷泉

賴道 圓縁大僧都 少僧都時

天喜三年正月廿三日任、生年六十六、或云三月廿三日、治六年、俗姓高階氏、左京人春宮亮業遠息、法相宗、住中南院、寛仁元年立義、生年廿九、或八、長元四年講師、生年四十三、或二、同長者宣、長暦四年閏十二月廿八日兼西大寺別當任大安寺司、長久四年十二月廿八日任權律師、五十四、永承四年十月廿七日任金峯山檢校、天喜二年五月廿九日任少僧都、六十五、同三年正月廿三日任寺司、如先法、同年月日蒙探題宣旨、同五年十二月廿八日任大僧都、六十八、康平二年五月日奉寂勝講證誠、同三年五月一日卒、生年七十一、大師仁和寺濟信大僧正、又師扶公法印、

同

賴通 敎通 明懷僧都 住西唐院、

康平三年六月十六日任、年七十三、治三年、

延久四年八月二日卒、生年八十四、

權別當賴信律師

康平五年八月五日任、

同

敎通 師實 賴信大僧正 兼法務、

康平五年八月十四日任、五十三、治十五年、甲斐守藤賴經息、承保三年六月廿七日入滅、年六十七、

權別當長昭大僧都 讃岐前司賴明息、

治暦三年月日任、延久五年二月廿日卒、五十六、

白河

師實 公範權僧正 法印大僧都時、

承保三年八月十七日任、年六十八、治十一年、

應德三年十月十九日入滅、年七十八、齋院長官平以康息、

權別當賴尊

永保元年四月十七日任、應德三年三月辭却權官、
權別當法印大僧都濟尋參議師成息、
應德三年三月十六日任、五十八、同蒙寺務執行宣、
堀河師實、師通、忠實 賴尊法印權大僧都左京大夫藤實康子、
寬治三年三月六日任、或本云、治十一年、康和二年七月廿五日卒、年七十五、
上座定深此間可執行之由奉大殿仰下向、
權別當法印權大僧都隆禪、大乘院本願、
嘉保三年三月十二日任、年五十七、
康和二年七月廿四日滅、年六十三、
忠實 覺信大僧都兼法務、一乘院貫種始也、無拜堂、京極大閤師實公息、
同
康和二年八月廿日任、年卅六、
保安二年五月八日入滅、五十七、治廿一年、
權別當權僧正範俊兼眞言宗上座仁朝子、兼東大寺長者、
康和二年十月七日任、六十二、天永三年四月廿四日入滅、年七十五、
權別當大僧都永緣、式部大夫藤永相息、
天永二年五月廿六日任、六十五、

鳥羽 忠通
權僧正永緣法印大僧都時無拜堂、華林院權僧正云々、
保安二年七月廿七日任、年七十四、治五年、
天治二年四月五日入滅、年七十八、
權別當權少僧都定圓住竹林院、
保安二年十月四日任、年六十四、伊豫守藤敦家子也、
同四年十二月七日卒、年六十六、
權別當權少僧都經尋
保安五年正月日任、六十五、

中算大德貞元元年十月十九日入寂、安和二年十月十九日云々（四十二歲）
眞喜僧正長保三年入寂、（七十一歲云々）
一永承元年四月四日興福寺燒、同三年造立供養、
同六年宇治平等院建立、
一治曆元年六月十日電□、　同廿四日氷雨降、旱百日、
一康和二年白河院春日一切經被如置發願導師、
權律師永緣、

崇德

忠通　法印玄覺（初度）（號中僧正、京極大閤師實公息、）

天治二年四月廿六日任、（年廿七、）俗姓藤原氏、京極前大相國殿下第十五息也、母石淸水淸圓法眼之女也、永久五年立義、（年十九、）保安二年十月廿九日生、年廿二叙法眼、（春日行幸賞、別當永緣法印讓、）同三年講師、（天治元年五月日參議勝講師）（年廿四、東大寺兼寛辭退替、）（天治也）同二年四月廿五日叙法印、（年廿七、）是別當權僧正存日、辭申權僧正、被申法印之時、可依請之由被下院宣故也、同廿六日任御寺司、同五月十一日蒙寂勝講證誠宣旨、（兼、）關白、同月十九日奉待賢門院御產御祈、於春日御社被供養金泥大般若經御導師、在題名僧卅口一日轉讀、上卿左衞門督藤通季、行事權右中辨顯賴、殿上人四十八人、諸大夫廿人、所司官人卅八人、同十月八日蒙探題宣旨、大治三年四月廿七日任大僧都、（春日行幸賞、年卅、）大治四年十一月十一日大佛師法眼長圓有御寺大佛師擧狀之望、依　院宣初參別當法印房、是則爲補淸水寺別當兼申請彼寺別當擧狀、爰西時許大衆亂發、追止長圓身、幷所從等散々淩礫、卽打縛長圓、追立于仕丁之前、到南大門之時、別當法印乞請大衆、免進畢、因之同十二日依院御勘當、彼（被カ）停職位幷寺司、隨又同日巳時下遣於檢非違使源光信等、被追捕當講惠曉上階西馬道住房、于時惠曉幷修學者公達皆悉昇天井逃去畢、講師所用聖寶僧正五師子如意爲下部等被取畢、凡官兵等從西御門打入寺中、種々監（濫カ）行不可勝計、捕上座維覺身歸洛、大衆始起、爲追止維覺身雖行向奈良坂邊、源爲義藤原盛道平正弘等四人有使　副下衆驚退歸、盛道捕尊智上洛畢、此間此院檜皮房、幷堂冷松房、佐保殿大湯屋等、放火燒失畢、僧房俗屋之輩迯散四方了、同十五日檢非違使盛道懸穀於法印御房宿所、（六條油小路重孝屋、）譴取惠曉已講身移鄕于播州書寫山、寺主信實賜檢非違使被渡院陣、恥辱　張本修學者十餘人同移鄕于諸國、　同十一日別當法印解官停任之由被宣下了、次年三月信實被免畢、其門權上座靜俊可執行寺務之由、被下長者宣、同三年正月十九日於東大寺社行千僧御讀　勤御導師、行事左少辨藤定成、天下泰平御祈云々、御寺僧五百口、殘呂（召カ）諸寺、同二月一日院大般若供

養御導師、三條殿、請僧卅口、公伊大僧都以下一日轉讀之、天治元カ三年五月十一日寂勝講證誠兼關白講師、同二年五月口日同前、同三年三月十三日白河殿女院御願供養御導師、同年五月日寂勝講證誠參勤之、同年六月十三日法勝寺千僧御讀經御導師、今度御寺僧二百口不召、若權別當勸賞大衆訴申故、同年十月廿二日於八幡宮供養一切經御導師、十僧、百僧、兩院御幸云々、

同

忠通 住菊園 權大僧都經尋 大僧都時、中納言藤伊房息也、

或本者五年五月十四日轉任正別當云々 大治四年十二月十日任、年七十、同廿九日或本者六年正月日叙法印云々 叙法印、天承二年六月三日入滅、年七十二、治三年、同二六カ年月日長者關白殿下御春日詣、不蒙勸賞也、

同

忠通 第二度 僧正玄覺重任、

天承二年七月八日複任、并還着大僧都、年卅四、保延元年九月廿二日補權僧正年卅七、講師勞、同三年正月權々僧正定海轉正、仍大衆以二月九日京上訴由、同十一日停定海職轉正畢、同四年二月三日庚申宇治大殿二男內大臣兼右近大將賴長師實爲春日祭上卿、

下向着御于佐保殿、夜中令渡馬場殿、同廿六日右大臣藤原定忠依所勞出家、同年五月二日戌時天有大光現、同廿五日公家寂勝講被始行、而院御氣色不宜之間、別當僧正不參證義、又權別當法印大權カ僧都口隆カ覺不被參、仍無顯定之證誠、結願之日有僧事、同六月卅日甲申御寺修理被始之、備前國重任、同四年二月廿七日春日御幸賞、以覺繼律師叙法眼、(年廿二)長者殿下御息、同年五月廿一日寂勝講證誠、同七月十八日中宮御塔壇被築始之、行事從三位顯輔息周防守重家朝臣、重任功也、弘覺淸眼惠曉已講被參之、同九月廿一日別當僧正入滅、生年四十、同廿八日辛亥權上座信實可執行寺務之由、被下長者宣、萬人成恠、同卅日法花會任例被始行、但不槌鐘始會畢、講下打磬畢、信實沙汰、供日代敎高、十月十日維摩會任例被始行、雖爲別當未任之間、大會儀式鐘、可槌之由宣下了、講師覺珍、但佛聖初後夜不槌鐘也、十二日寬譽法橋雖參會、依爲散位不始會、郎腹立從影向戶被出了、人々爲奇異之思、未曾有事也、十五日勅使房番論義三番、依僧綱等請、定供日代沙汰於客房被行之、廿七日中宮御塔棟上了、覺晴律師見住已講

同

擬講五師所司皆參之、他寺專寺探題隆覺法印獨勤仕之、

權別當權少僧都隆覺

長承二年七月十七日任、年　俗姓源氏、右大臣顯房息也、永長元年丙子立義、年廿二、嘉承元年丙戌講師、年卅二、保安元年十二月任律師、天承二年五月廿七日寂勝講之次任權少僧都、任日一、長承四年二月日任權大僧都、春日御幸賞、保延三年五月廿一日叙法印、

隆覺法印權大僧都、初度、同五年三月八日大衆追却、右大臣源顯房子、依叡慮殺害事、忠通

保延四年十月廿九日壬午任、十一月七日下向、參于御社被請取印鎰、於東室東妻室被行慈恩會、十一月四日聞可下向之由、已講得業 修覺者三百餘人罷向車東カ北邊、入夜延引空歸了、同日吹田庄米四十餘石運上、新別當下僧一得法師止之、仍信實所從等行向奪取了、於法花寺鳥居邊合戰、同五年正月十四日夜、西金堂踏歌職掌等依引率奏音樂、欲參入堂内正面樞之處、本堂童子置失其匙閉戸不開、因之咒師慶能下知之、以鍾木打破開之、仍本堂童子鍾木打開之、令入踏歌職掌了、以鍾木破戸之音響于堂内、同卅日或本廿三日夜大衆起、切燒公文目代從儀師俊賢住房了、修二月如例被行之、但第七夜西金堂行火天人々カ如例而走廻之後、政所已下南座人々引率從正面戸任例欲出之處、本堂童子失正面匙不開之、仍政所以下從北脇戸退出、是踏歌夜失匙不加其誡之所致歟、人々爲怍々、十四日覺樹僧都入滅、雖然被出常樂會月輪變加虹廻、同廿七日夜大衆欲發起之間、於南大門前池側修覺者英兼被殺害了、二月八日申時大衆起 燒拂別當法印西林院住房、次燒修理目代林盛房、次切會所目代覺融房、次切通目代智經房、次燒勝智房、是則去月廿七日夜英兼被殺害之故也、同十日大衆起、切落鐘槌木、幷切拂轉經院房恩覺房、其後大衆起連日不止、可被停任別當職之由奏狀畢、同廿六日奉下大明神 御榊、衆徒企參洛、件夜御神令着御于木津、同廿七日御神令着御于平等院、依 宣旨忠盛重時光保等五人、源氏平氏引率官兵、曳宇治河、橋中一間許不令通人馬、件夜衆徒宿于宇治、同廿八日申時殿下御使後別當祐經下向、大衆付進奏

訖了、同四月日 法橋實與權上座信實被付于檢非違使季範了、權寺主惠覺都維那覺救下勸學院了、同月四日、權永、信房、寛覺、法縁房、永玄、高山房、玄助、上重房、定源、香光房、從權別當法眼房、各賜於檢非違使四人了、寺主義朝逃去、從院被重召、仍九日從殿下令進院、於陣解所職、令晩平裝裹衣賜于檢非違使季範、其間恥辱不可勝計、同六年正月廿三日夜八幡宮皆燒失了、

權別當法眼覺繼 後改覺信、

保延五年二月十一日任、生年廿六、俗姓藤原氏、長者前攝政忠通第一子也、母陸奥前司基信女也、天承二年立義、年十九、長承四年二月廿七日 春日御幸賞、依別當法印玄覺讓叙法眼、同年講師、年廿二、定轉辭退、久安三年二月十三日 覺晴僧都超補寺司之時、籠居鳴川山寺難無出仕、同月廿二日春日 行幸賞補權少僧都、即辭退、保元元年九月廿日叙法印、保延五五八隆覺衆勸被燒彿房舍了、

同

忠通 法印權大僧都覺譽

保延五年十二月十五日任、生年七十二、俗姓藤原氏、刑部大輔師季息、康和元年立義、年廿二、天承三年講師、年廿五、大治五年正月十四日任權律師、年六十三、三會、長承元年五月廿七日轉法隆寺別當、保延三年五月廿一日轉權少僧都、七十、同五年十二月任本寺司、同卅日依請大乘院令請取印鑰、同六年二月廿七日大殿下御下向、或本云僧俗紹交前驅、同廿八日 金堂御誦經導師、同五月十六日 公家最勝講被始行 之時初參證義者、當日少僧都證誠無先例之由有御沙汰、未時宣下俄轉任、七十三、大僧都、同十二月廿九日 一院御願春日御塔供養御導師賞叙法印、同七年二月廿二日辛卯高陽院春日御幸賞、廿三日以延覺任少僧都、七、六十 久安二年十二月十七日酉時入滅、年七十九、本師權僧正頼信、康治二年十二月 日皇后宮御塔供養賞雖申僧正、四僧正不爲恒例之由有御定無承引、仍讓覺晴僧都之處、依 長者宣長谷寺 別當宗覺大法師讓之、久安三年三月日任權律師、五十四、法印入滅次年也、自得業任律師、爲代例也、初二年 保延六年 永治元年 專寺 他寺 探題 共勤仕之、康治元年讓他寺探題於權少僧都覺晴、天養元又勤仕他寺探題、長 久安元年專寺探題勤仕之、出、未曾有事也、 他寺 探題覺晴僧都

如本勤之、同二年維摩會爲勤專寺探題、初二日雖出會堂、不賦短尺即退出、覺晴僧都賦之、寂勝講證誠四年、保延六年、康治二年、天養元、勤仕之、皆案關白講師、
權別當法眼惠信法性寺殿御息、イ本、

近衛 忠通 權大僧都覺晴

久安三年二月十三日任、年五十八、俗姓菅原氏、入道右大臣宗忠息、天仁二年立義、年廿、永久二年講師、年廿五、天承二年五月廿七日任權律師、三會勞年卅二、月日任權少僧都、久安三年二月十三日丁未補寺司、同十六日下向、入從西御門着唐院、先出常樂會、次請取印鎰、同廿二日或三丙辰春日行幸賞轉任權大僧都、同四年五月十七日申時入滅于北京白河、年五十九、此間三箇年上座信實寺務執行、

忠通 頼忠 權僧正隆覺密嚴院第二度

久安六年八月十六日或十七日複任、年生、三箇年間依無別當、依大衆、訴還着複任、八月三日參着、氏院雖訴申數日無裁報、仍大衆奉留大明神、以十日下向之後還着了、凡覺與覺晴隆覺三代超權別當了、廿一日子時大明神還御于本社、仁平元年辛未五月廿六日寂勝講之次任權僧正、同三年八月廿八日乙酉辭權僧正、以弟子大法師定耀申叙法眼、保元元年五月日寂勝講被參證誠之時蒙牛車宣旨、顯宗長者蒙牛車之初也、左中辨藤雅教奉行、同二年月日爲藏人治部大輔源雅頼之奉行被下宣旨之大裏造營者國家之大事也、神社佛寺權門勢家領等不論有輸不輸所宛催也、以之不可爲向後之例、仍十二堂材木一分被宛寺家庄々之刻、傷無例之瑕瑾辭申寺司之處、長者殿下依有欲補惠信之志令納辭書了、上座信實奉寺務執行勤仕造大裏役云云、同三年戊寅六月四日入滅、年八十五、隆禪法印弟子也、又樂師寺隆信僧都弟子云々、

後白河 忠通 基實 法務僧正惠信從權轉正之時爲、法性寺攝政息、改覺繼爲惠信、

保元二年十月六日戊辰日、內會任、年卅四、同年十月十七日己酉雨降、未明從佐保田渡于西御門、入一乘院請取印鎰、同年十二月甲午入夜參御社、自西御門令出立、同三年二月廿八日己未春日行幸賞任權僧正、

(五僧正之始也、)權別當未補、仍無其實、同三年十二月廿九日癸卯補法務、永曆元年五月廿五日壬寅公家寂勝講被始行之時、令參證義者之處、蒙牛車宣旨、應保二年五月十九日超權別當覺忠(春日行幸賞)補法勝寺別當、(同カ)□年二月廿八日超覺忠轉正僧正、長寛元年癸未七月廿五日本寺衆徒押寄二(ヶ)各住房追捕其身畢、仍爲打入寺家、於法性寺宿房聚軍兵、或集房僧等、或語都鄙勇士、以法隆寺爲集會々所、先襲寄西京、於西田井三條口法花寺爲居東邊合戰、及三箇日、僧正方大將軍源八郎義基、(五郎兵衛義清子、)源忠國、(檜垣勾當息、)然而本寺衆徒忘身相禦之間、八月廿五日俗軍背北、仁安二年丁亥春三月十日戊申夜半、以僧千長等爲大將軍、打入寺家、燒失喜多院松室圓城房、仍大衆經奏聞、同年五月十五日被下遠流宣旨之後無出洛、仍大衆以八月廿五日欲參洛之刻、有追使出關外、遂下向伊豆國、承安元年辛卯九月廿五日於遠江國入滅云々、(或記長寛元七廿五衆勘、嘉應二九廿五配流伊豆國、於配所入滅、五十七、此間寺務大衆沙汰、)

權別當法印大僧都惠曉

保元四年三月八日己巳任、(年七十五、)同十二日長者宣到來、俗姓藤原氏、宮内卿家道息也、永久二年賜研學講、依所勞辭退畢、陽信補件替、同二年遂立義、大治四年講師、(生年廿五、)但十一月依佛師長圓之事蒙勘當、移鄕播州、不曆(歴カ)後二會久安二年丙寅五月十九日任權律師、(維摩講師勞、)仁平四年月日任權少僧都、保元元年九月廿五日轉權大僧都、長寛年月日入滅、

基實　法印時　僧正大乘院

二條　法務大僧正尋範(本名弘覺、爲少僧都之時、鳥羽院御出家、法名空覺、依人々亂彼御名改名、)

長寛二年五月十一日丁未任、(年六十四、)俗姓藤原氏、京極大相國殿下(師實公)第十七息也、母公(士カ)御門右大臣源師房女也、實覺僧都入室也、天永三年立義、(年廿、)天治三年講師、生年廿六、(林禪辭退替、)保延二年正月卅日叙法眼、(權少僧都賴實辭所職而申叙之、于時第四已講、)保延六年七月廿七日、或云廿六日、依三會一任權少僧都、是則爲三會一依漏度々之選大衆訴申所補任也、仁平元年五月廿六日轉大僧都、久壽二年五月廿四日叙法印、保元々年七月廿七日依左大臣賴長之事、被解官幷沒官所領、仍籠居于東小田原山寺、然間應保二年

五月七日癸卯春季御讀經之時、依惠信僧正之辭
退、初應公請參勤番役、先是雖被免勅勘、不向本
寺、從山門令參洛、長寛二年五月十一日補寺司、
同月十八日壬寅　公家最勝講被始行之時蒙證誠
宣旨、兼被下牛車宣旨、同年六月十四日丁卯請取
印鎰於廳屋、被行御閣食垸飯、是惠信之時依信實
法橋申行所被始也、鎰四柄也、而一柄不見、若失
歟如何、同年十二月十三日補權僧正、永萬元年乙
酉十二月十九日午可候二間夜居之由、蒙宣旨、奉
行藏人木工頭藤原重方朝臣也、顯定之人被召御
持僧之始也、仁安二年十月廿日轉正僧正、兼補法
務、嘉應二年庚寅春三月廿二日春日行幸賞弟子
信圓法性寺入道殿下御息、直補權少僧都、同四年月日令申御慶
給、先參內裏、次參一院、次參皇嘉門女院、次參長
者殿、四月廿九日己酉令參御社　前驅六人車御前二人顯玄長惠兩得業也承安二年壬辰春三月十三日轉大僧正、四月
廿九日乞參御社、共奉法印敎緣、權大僧都玄緣、
權少僧都信圓、法眼章玄、法橋藏俊、寬實、覺興、
已上乘車、已講覺憲、覺辨、弘雅、五師所司威從等濟々
焉、同年辭法務、同年癸巳六月、一寺大衆以十八
日下知東西兩堂衆、催國中勇士、先令燒多武峯山
鄉之時、軍兵行弘光遠等入山內、燒僧房少々、廿
五日重燒山內之刻、彼峯住僧等隱置大織冠御影
於他所、手自放火燒聖靈堂幷定惠和尚建五十三
重塔、卅日風聞云、去廿七日公卿僉議、長吏大僧
正依件過解官停任云々、同四年甲午夏四月九日
入滅于內山別所、人々各云老鳶蹴破障子飛入病
床、同十四日葬斂同山、

權別當法印覺珍

長寛二年五月十一日任、生年六十五、俗姓藤原氏、權中
納言實隆息也、元永三年立義、勝圓辭退替、生年廿二、保延五
年講師、生年四十一、但爲前別當法印隆寬之方、於春日
一鳥居令乞合戰、仍蒙長者御勘當、被追寺家沒官
所領、不歷後二會、仁平三年五月十四日補權律
師、依西大寺塔修造幷三會勞、同四年三月日任權少僧都、長寬
二年正月廿四日依公請勞叙法印、惠信僧正被追之處、爲妨其仁俄叙法印人々爲恠、尋範法印長吏之仁同年五月十一日任權別當、嘉應二年
三月日春日行幸賞補權大僧都、嘉應二年五月廿
五日任權僧正、六僧正始也、同年十二月晦日辭權
僧正、以弟子大法師公慶申叙法眼、

高倉

前權僧正覺珍基房　權中納言藤實隆息

承安三年癸巳八月廿四日任、年七十五、同月廿七日於東室西妻房請取印鎰、同年十月廿一日國母女院法住寺御堂供養爲御導師、延暦寺座主權僧正明雲參勤咒願、其奉少綱着赤袈裟、隆覺僧正爲寺司之時、彼山座主欲着赤袈裟於少綱之由風聞、南京僧正下知其奉中綱云、不可顧我身之安否、任心力之所及、可切山僧赤袈裟也、山座主得內告不令着赤袈裟、而尋範僧正爲長官之日、山座主後圓乞着少綱赤袈裟、其後座主共奉少綱着赤袈裟、但近衛院以前御宇之時無此例矣、從九月至十月、延暦寺大衆可發向南都之由、鼓動于天下久矣、而空送數十日、依無其音、一封大衆以中綱林增々海仕丁爲兼爲行季牒送延暦寺、然而不及返牒、爲對面十一日三日奉下大明神、着于木津、五日亥時別當右大辨俊經爲殿下御使來向加制止、大衆於木津河原沙上對面、六日大明神着宇治平等院、小松大納言平重盛奉院宣以筑前守平貞能等令止發向也、官兵等引宇治橋踏板三間許築楯、及深更自衆徒之陣一兩之輩凌渡河水、竊奪取橋上楯三枚、官兵睡臥之間忙然不知之、至朝驚異、尾籠之甚也、七日今日春日祭也、仍大衆別進法施、公家御祭止了、八日申時金峰山卅八所勝手大明神着御于平等院、供奉之人法橋春有幷所司七八人、十八鄉兵士千餘人也、大衆於平等院東廊對面于春有、八日酉時左少辨兼光朝臣爲御使下向、在于宇治橋北、先以神主時盛被觸案內、六方大衆東大寺幷吉野衆等集會相調之後、可令渡河之由申御使了、日沒之後左少辨着于平等院東中門東廊殿下、仰云院宣者、大明神出御旅宿歷日不便事也、至明雲者犯違勅罪之由不思食不處遠流、早奉渡大明神於本社、追可訴申子細也、廼時左少辨私詞者、山門惡僧張本等有沙汰之由、於法性寺邊所承也、十月戌時別當前權僧正、權別當法印敎緣、法印玄緣、權律師覺憲等、惣僧綱六人、着于平等院東中門透廊、卽仰云院宣之山僧徒西坂可下之由、依有風聞、以官兵令防之、從東路可向南都之旨、全無其議、結眉髮引入了、何强可發哉、次不論理非打止式目、春日祭幷我御熊野詣之祭謀叛事也、明日御進發之日也、尙乞障碍者爭不行違勅之罪哉、早奉返大明神於本社、麗可訴申也、十一日戌時着于本社、依

件事御熊野詣延引了、仍逆鱗甚深、遂可沒入七大寺十五大寺庄園之由被宣下了、同四年八月廿六日拜賀御社、同十月廿八日野田堂供養、導師法印玄緣、同五年十月廿四日入滅、（生年七十七、）叙尊已講弟子也、

權別當法印敎緣

承安三年癸巳九月日任、（年七十六、）俗姓源氏、前伊勢守俊重子也、大治三年竪義、（年廿、）永治元年講師、（年四十六、或本四十二、）年月日任權律師、年月日任權少僧都、嘉應二年五月廿五日寂勝講々次叙法印、承安三年九月任權別當、

同

基房（法印時）

權僧正敎緣（式部太輔源俊重子、號松林院、）

（安元二年）承安五年乙未十一月八日任、（生年七十七、）同日借請大乘院請取印鎰、補任之年不行卅講、安元三年三月六日補權僧正、治承元年十二月十七日（壬午）院蓮華王院御塔供養精定御導師、臨期構所勞俄辭退、仍三井寺權僧正公顯勤之、同二年閏六月辭權僧正、以大法師幸範令補權律師、治承三年己亥四月十二日辰時入滅、（春秋八十一、）

權別當法印玄緣

承安五年乙未十一月日●（任カ）（生年六十三、）俗姓高階氏加賀守定（宗カ）章朝臣息也、叙尊已講入室也、大治五年立義、（年十八、）久安九年講師、（年卅二、）永曆二年二月七日補權律師、（三會勞、）仁安二年十月廿日任權少僧都、嘉應二年十二月晦日轉大僧都、承安二年壬辰正月十三日金堂十僧勞一弟子覺宣擬得業叙法橋、同三年癸巳正月十二日罷大僧都叙法印、安元二年丙申三月日補長谷寺別當、治承二年閏六月日補權僧正、今年三月日春日行幸不預勸賞、仍大衆數月令訴申之故、

同

基房
基通

權僧正玄緣（俗姓加賀守高階宗章息、）

治承三年四月廿九日（或廿八日）任、（生年六十七、）廿八日夕長者宣使雖令下向不對面、依日次不宜也、同年八月廿二日拜賀御社、同年九月十八日於金堂供養唐本一切經、導師權別當權少僧都藏俊、咒願別當權僧正玄緣、有童舞、

權別當權少僧都藏俊（丸（凡カ）人贈僧正、俗姓縣中、大和國人也、）

治承三年己亥五月廿四日任、（生年七十六、）自同廿日被

始行公家最勝講參勤關白講師可被補權別當之由蒙兼宣旨、官符未到之處、廿一日隨身中綱出仕、而不審之由有天氣、仍廿二日廿三日兩日不參御講、廿四日被下官符、仍自其日參勤、巨勢氏大和國高市郡池尻村茅屋之子也、其父母憂無子祈請春日社、得夢想之告振（娠カ）而生之、自幼稚之時入御寺、以夜續日修學無撓、以良慶已講定淸長有兩得業爲師、又師事覺晴大僧都探法相祕賾、二明之才軼于時輩、久壽二年立義、年五十二、永萬元年十二月十五日寺家金堂十僧初被置、僧綱賞之時加補十僧、仁安三年講師、年六十五、承安二年正月十三日叙法橋、公請勞、安元々年十二月廿九日依金堂十僧勞、弟子惠範大法師申補法橋、超上臈公慶法師、同二年五月廿七日超三會上臈公慶覺海等補權律師、同年依玄縁法印之讓、蒙探題之旨、自大乘院出立、僧綱已下濟々而扈從信圓僧都長者殿下御舍弟、〇南濵按長者云々當作住圓僧都之註致師資之禮、成威儀之嚴、修學面目誠絕古今、同三年冬月補元興寺別當、治承二年閏六月七日轉權少僧都、同四年九月廿七日入滅、春秋七十七、

雅（推カ）權官

大威儀師玄延　法印隆禪　法印信忩　權僧正乘尋　法印實雅

律師明久　僧正範俊　法印信家　法印良寛

大僧都永昭　僧都定圓　法印圓經　權僧正能寛

律師道讃　法印惠曉　法印定宗　權僧正實源

大僧都長昭　贈僧正藏俊　法印乘範　前僧正範宗

法印濟尋　大僧都覺遍　權僧正印寛　權僧正範忠

安德 基通師家 基通兼實 前法務大僧正信圓菩提山本願兩院家統領之、

養和元年辛丑正月廿九日補任、廿九、惠信僧正入室、尋範大僧正付屬、依學師藏俊律師、法性寺殿下息、母三品權中納言國信女、永萬二年仁安元年也正月十九日補一乘院々主、仁安三年丙戌研學竪義、年十六、﨟六、嘉應二年庚寅三月廿二日直任少僧都、春日行幸賞、別當僧正尋範讓兩都、直任少僧都初例也、承安二年壬辰遂維摩講師、少僧都、以後遂講師之初例也、同年月日伊豆僧正以一乘院被寄進院御領云々、仍離彼院主畢、同三年癸巳正月十二日轉任大僧都、任日三御會々中、同四年甲午四月十九日補春日西御塔幷金峯山檢校金勝寺別當、治承元年乙酉三月六日以弟子顯玄得業令叙法橋、十僧第二﨟、同年八月十六日還補一乘院々主、大衆、往古寺領不可爲院御領之由、依訴申、被裁許也、同二年戊戌三月廿三日叙法印、春日行幸賞、別當權僧正教緣讓、大僧都如元、同四年庚子九月廿九日被他寺探題宣、藏俊辭退替、養和元年九月廿二日兼專寺探題、壽永元年壬寅十二月三十日任權僧正、年三十、同二年九月十日他寺探題讓覺憲、文治元年八月廿八日東大寺大佛開眼咒願勤之、同五年己酉五月十六日興福寺別當辭退、同年同月廿八日轉任僧正、三會一、建久元年五月廿八日轉任大僧正、同二年九月廿八日兼法務、同年閏十二月四日辭大僧正、以弟子權律師玄弘申任少僧都、法務同辭退之、同四年十月廿八日弟子良圓直任少僧都、建久二年中宮御惱之時不空羂索御讀經効驗之賞讓之、貞應三年十一月十九日於菩提山御入滅、七十二、法性寺殿御、御息、

權別當權少僧都覺憲

兼實 長者近衞殿

治承五年正月廿九日任、五十一、先仰正別當之後召寺家擧狀被補者例也、而今度當寺炎上之刻依爲火急事、正權別當同時被仰下畢、入道少納言藤原通憲第五息、母近江守高階重仲女、覺譽法印入室、覺晴大僧都門人也、以藏俊僧都爲依學師範、保元長者法性寺殿復任御時二年研學竪義、廿七、平治元年長者梅津殿御時講師、廿九、依天下大亂不遂後二會、長寬二年月日任東圓堂執行、承安三年正月十二日參任、御齋會聽衆之間、依三會勞任權律師、超巡年上﨟玄修已講、同五年三月九日補大安寺別當、安元二年正月十一日長者松殿御時補法勝寺講堂供僧、同二月廿九日任同寺學頭、同年十月卅日補法成寺學頭、

治承三年五月廿四日轉任權少僧都、同五年二月廿三日補院御塔幷一切經執行、壽永二年七月三日轉任權大僧都、請定法勝寺御八講證誠之間、任保延年中寂勝講例、當日朝被轉任權大僧都、舍兄大僧都澄憲同爲證誠當日被叙法印、兄弟相至奉仕證義者、纔公佽經尋例歟、同年九月十日蒙他寺探題宣旨、文治元年八月廿八日東大寺大佛開眼供養導師、依院宣奉仕、同二年五月廿四日寂勝講、證憲法印相至參勤講師兼證誠至第四日、廿七日、被行僧事之次被叙法印、

後鳥羽　兼實　法印大僧都時　月輪殿長者御時

權僧正覺憲　少納言通憲息、

文治五年五月廿八日轉任、五十九、僧事次同之、同年六月十四日蒙大安寺別當兼帶之院宣、同年九月四日蒙專寺探題宣旨、同年月七日蒙法相一座宣旨、同年十月廿九日春日行幸賞以慶隆得業大納言隆季息、讓、月輪殿長者御時、中叙法眼、建久元年五月廿八日補任權僧正、同五年九月廿二日被遂當寺供養、先廿一日午刻長者殿下着御佐保殿、今日有御參社、納言以下騎馬扈從、而御參社以前依召參入、以大織冠御髻中白銀

釋迦像御手被奉渡、件像者、木安置金堂上六像御首中、而治承炎上之後、[illegible]上其中不同來得、尊像[illegible]白銀不失、仍只件銀、[illegible]下御沙汰、[illegible]法成寺如前被本鑄了、其銀御身許滿足了、[illegible]光等猶加[illegible]銀之由、殿下被仰、師閑小野子被令拜見則給之、別當僧正散以齋持參詣金堂、奉收丈六御佛眉間了、供養日勤仕御導師、兜願園城寺法務大僧正實慶、供養事已之後、殿下并氏諸卿渡御長吏房、借用權別當法印範玄東室房、依爲寺中便宜也、勤力、勸賞以信憲已講被補權律師了、同六年三月十二日奉仕東大寺供養御導師、兜願異母舍弟被寺別當前權僧正勝憲、勤仕兩寺供養導師、雖未同長者御時、代可隨喜者歟、同年十月廿九日長者殿下御參宮、已前着御佐保殿、申刻御參社、同卅日辰刻着御馬場殿御所、競馬十番、每事嚴重、範圓已講依長吏讓被補權律師、當座改本座加僧綱末了、同年冬比以所勞次枉申身暇、早窮官職之榮、望頻歷希代之勝事、宿痾雖晴只思力口休退、仍權僧正幷興福大安兩寺別當皆以辭退、其狀云、

請被罷權僧正幷興福大安兩寺別當職狀

右覺憲剃染之質戒惠共踈、謬浴明時之恩、剩應希代之選、崇班厚祿、以恥以懼、爰頃年以來病與老迫、頭白秋蓬、力弱春柳、南北程遠不堪無止之公役、心神已疲、奈何有限之機務止足之思朝而暮也、況乎兩寺之潤澤多歲積、垢塵佛律之制罪報

可悲、嗚呼司伽藍於掌中、雖忝三千餘輩龍象之貫首、待涅槃於趺下、豈爲五十箇年修學之素懷者乎、伏願　天慈罷件等職、暫屬休閑之晦、聊廻懺悔之計、不耐寤寐懇欵之至、誠惶誠恐頓首頓首謹言、

建久六年十二月八日權僧正法印大和尚

者、朝家惜其德、頻有勸誘仰、複奏再三猶無勅許、仍十二月廿二日不堪懇誠籠居山寺、（六十五、）三箇官職乍避重任不擧他人、不申一事、淸潔之志緇素歎伏、仍隱遁之儀頗雖恐綸旨、剩同七年正月十三日以弟子信憲律師被補大安寺別當畢、

權別當法印權大僧都範玄（三藏院、）

文治五年五月廿八日補任、（年五十三、）伊賀守藤爲業息、嘉應二年寺分竪義、（年三十四、元興寺分、）同年十二月卅日敍法橋、承安三年正月十二日任權律師、（公請勞、）同五年三月四日補元興寺別當、安元元年維摩講師、治承元年月日依南都大衆訴停任、同三年三月廿六日任權少僧都、（法皇御熊野詣御經供養御導師賞、）同四年八月廿一日解却見任并所帶畢、同年九月日勅免、壽永元年六月三日補圓勝寺修理別當、同二年十二月四日解官所職、元曆元年五月廿一日還任、同年六月十三日補蓮花王院修理別當、同二年正月十三日任權大僧都、文治二年三月四日還補元興寺別當、同年八月十四日解退圓勝寺修理別當、同四年五月廿八日敍法印、（三會巡、）建久二年二月日解退蓮華王院修理別當、同年八月廿七日補法隆寺別當、（相傳元興寺、）

同（兼實基通）　權僧正範玄

建久六年十二月廿八日轉任別當、（年六十一五十九、）治四年、同九年三月廿九日任權僧正、同年十二月日解退興福寺別當并權僧正、籠居中山、（依中風也、）伊賀大主爲業息、正治元年六月一日入滅、

權別當法印權大僧都雅緣

建久六年十二月廿九日任、（內大臣雅通息、住藥師寺行惠得業房、）應保二年於維摩堂遂竪義、（是藥師寺最勝會竪義也、）仁安二年四月十日依長者宣着座、則十一日春日八講座始出仕、雖不遂本寺三階業、依於維摩堂遂最勝會竪義所被免着座也、是無先例新儀歟、嘉應元年維摩講師、承安五年五月廿五日敍法眼、（先師覺晴法隆寺修造功、）養和二年十二月卅日任權少僧都、（三會一、）元曆二年正月十

三日任大僧都、文治四年五月廿八日叙法印、

土御門基通家實　頁經法務大僧正雅縁初度、住西院、内大臣源雅通子、

建久九年十二月廿日轉任別當、年六十、兼藥師寺別當、同十年正月十三日解大僧都、以弟子圓雅申任權律師、同年五月日任權僧正、同年八月十八日補一切經執行、建仁二年七月十三日兼法務、建永二年正月日解別當、

權別當權大僧都覺辨

正治元年十月八日任、右左イ京大夫藤俊成息、イ皇太后宮大夫

同年十一月廿七日卒、六十八歲、

權別當法印權大僧都信宗東院住、大僧都覺長眞弟子、

正治二年閏二月日任、春日御幸賞、建永二年三月廿六日辭、同年八月二日卒、六十三、

同

家實　權僧正良圓初度廿九歲、

承元元年也建永二年正月廿二日任別當、御年、廿九、承元二年二月六日辭退、年卅、九條殿下兼實御息、信圓大僧正付屬、住一乘院、或者御寺連々不閑之上御所勞之故也、

權如元、

建永二三月之比依所勞辭了、

權別當法印權大僧都信憲

建永二年四月廿一日任、六十三、覺憲權僧正弟子、住寶積院、近江君信玄息、安元二年遂研學豎義、三十二、文治元年遂維摩講師、四十一、建久二年三月六日補法勝寺講堂供僧并學頭、建久四年二月日補法成寺學頭、建久五年九月廿二日任權律師、五十、御寺供養別當賞讓、同七年正月十三日補大安寺別當、五十二、正治二年正月十二日轉任權少僧都、三會巡、五十六、建仁二年十二月廿四日轉權大僧都、五十八、公請勞、元久元年五月廿七日叙法印、六十、同年八月十五日被他寺探題宣、借請東室爲出立所、僧綱已下扈從人濟々焉、實尊法印、松殿御息、出仕會堂、探題參入之時自會堂出値馬道邊被備威儀、世以爲修學面目矣、建永二年承元々年四月廿二日被始行院最勝講、奉仕兼證誠、同年五月十九日被始行公家最勝講勤仕兼證義、同年維摩會勤他寺探題、長吏一乘院權僧正御重服故也、承元三年追儺僧事　補權僧正、六十六、同四年三月五日修明門女院御幸　春日社權官賞、以信家律師申任權少僧都畢、同年八月廿日行幸當社權官賞、以權少僧都重信申任大僧都畢、

同

家實　前法務大僧正雅縁（第二度、治五年、）

承元二年二月十一日還任別當、（七十一、）大僧正頃年以來發淸淨大願、傳法院領大野鄕之內削平磐石半腹、奉彫彌勒立像、葢笠置石像以爲規模而已佛像神異靈驗濟々、而多承元三年（己巳）三月七日（庚子）被遂供養、以小田原住瞻空法師爲唱導、非有殊德人以不受之、供養之日有上皇臨幸、木像繪像者雖相好嚴麗、悵之非不朽至石像者殆可至遠、龍花三會之期雖不如笠置靈像、今當聖代奉彫數丈石像、豈非勝事哉、者殊疑叡信有御臨幸云々、卽當供養之日被行勸賞、依僧正讓以前權律師乘信令轉任權少僧都、（七十六、）建曆三年五月廿五日被行公家㝡勝講、當代始殊被淸撰之間、八旬（七十六、）衰老之後、雖公請頗希依　勅定參仕證誠、卽兼被下牛車之宣、廿三日夕大外記師重持參宣旨云々、（內山大僧正被蒙牛車宣之時、親父師元持參其例云々、）同年維摩會專寺探題勤仕之、出仕之間自東北院至湯屋辻、乘車出仕、寺中乘車依無先例人以不受、被聽牛車之長吏雖及兩三代未有此例、而十一日夜出仕之後、牛童遺歸車於二條房之間、於新乘院前邊裹頭輩少々散々破切車𨏍、

權（如元）

順德

家實　前權僧正信憲（住寶積院、號修禪院僧正、）

建曆三年（建保元）十二月四日任、（六十九、）建保二年三月廿六日當社行幸賞、以圓經律師申任少僧都畢、同四年閏六月十三日修明女院御幸當社、卽有七箇日御參籠、社頭無可然之御所、仍以爲一鳥居之內以寶乘院爲御所、初日幷御歸路朝覲儀有御幸、中間日々以御輿有宮廻之御幸、公卿殿上人等皆淨衣也、廿日朝有勸賞、正權別當被召着到殿公卿座、（中宮行啓修明門院前度御幸勸賞、於着到殿未申角庭仰之、今度被召堂上子細不審、）仰之、以兼遍律師申任權少僧都畢、同五年七月廿九日東御塔供養御導師奉仕之、勸賞以信經僧都申任講大僧都了、（無兒願賞、）同年十二月七日辭退畢、（七十三、）嘉祿元年九月十一日於修禪院入滅、（八十一、）

權別當法印權大僧都範圓

建保元年十二月廿八日任、（五十九、）覺辨大僧都門弟、信宗法印舍弟住黃薗、貞應元年正月補金峯山檢校、建久六年十月廿九日競馬御參宮之時、依別當

覺憲權僧正讓任權律師、建保二年三月廿六日行幸賞以範信律師申任權少僧都畢、同四年閏六月廿日修明門院御幸賞、遂可被仰之由被仰合畢、以弟子賢圓律師令申任權少僧都畢、同六年四月廿三日修明門院一員御幸賞有被申旨歟之間、兩度不被仰之、同七年正月十四日御齋會僧事之次補任權僧正畢、是去年修明門院一員御幸賞歟、

同

家久

前大僧正雅縁第三度、

建保五年十二月十二日複任、年十八、第三度、同十三日請取印鎰畢、卽被成卅講荒廻唱、自同廿四日被勤行之、同六年四月廿三日修明門院當社有一員御幸、事之嚴重頗絶上古歟、當社無先例、建春門院平野御幸有此例云々、別當賞以親緣法眼申任少僧都了、三綱賞一﨟參實法橋叙法眼、三綱法眼今度始也、已爲寺之珍事、同年十二月十九日辭退寺務畢、同年十二月十二日上洛、奉迎內姫宮可被奉養料也、先是野田住房邊家以相(轉カ)傳取之、爲被立宮御所云々、同十五日大衆蜂起、近習僧綱三人令處衆勘了、所謂東北院大僧都聖敎院僧都東北院律師也、僧侶濫行自昔雖有之、爲之傍事不立面、是卽當義也、至當別當者以息女令進院女房、頗以不尋常事歟、而至今度者奇代勝事也、顯宗長者爲宮御乳母之條、專寺之耻辱他門之謗訕、何事如之、佛法煙(堙カ)滅之期已至歟、東北院東門院爭不被制誡申乎、至親(雅カ)緣僧都者、此事骨張之根元也、仍令處衆勘了、其執連日騷動不止、可被奉返宮之由觸申衆徒之處、早可奉返云々、衆徒沙汰強々之間、同十九日以慶實寺主爲使者、被辭退寺務了、同廿三日下向使者被收辭事之由申之、仍其夜奉納印鎰於通庫了、今度複任不相叶神慮事歟、頃年以水田三十町進入二品之□、平可令還補之由所望之間、愁被補了云々、不善之沙汰遂以不空、及強々沙汰之間被避寺務了、

權別當法印權大僧都範圓

同

家實

權僧正良圓第二度、

建保六年十二月廿六日複任、四十一、承久元年四月廿二日令轉正僧正、但晦日被仰下歟、有子細別紙注之、同年仙洞御講并公家最勝講證誠、季御讀經番等、皆以

御勤仕了、同二年正月十四日於一乘院御入滅、四十二、

　權別當如前、

同 家實 道家 家實 前大僧正雅縁

承久二年正月十六日還補、八十三、第四度、四箇度複任未曾有珍事也、貞應二年二月七日辭退、八十六、同廿一日入滅了、

　權別當如前、

後堀河 家實 權僧正範圓 覺長僧都眞弟、西妻室、

貞應二年二月九日任、六十九、嘉祿二年六月廿七日辭退寺務、卽奉納印鎰於通庫了、凡執務散々之間、衆徒欲奉追之、仍辭退、頗非本望歟、七十二、寺務三箇年、承久三年十一月日依所勞上表僧正了、

　權別當法印權大僧都信家 西南院、

貞應二年二月十九日任、五十四、同三年四月八日入寂了、

　權別當法印權大僧都圓玄

貞應三年四月廿八日任、五十、建仁元年五月廿一日任律師、藥師寺修造功、別當雅縁讓、廿七、 承元三年講師卅五、同四年任少僧都、三十六、年月日任大僧都、元仁元年叙法印、寬喜二年五月廿日任權僧正、五十六、同年自五月十六日被始行㝡勝講證誠兼勤仕之、同廿日御結願以前任權僧正、着香深參勤之、希代眉目也、五十六、

同 家實 道家 法務大僧正 權僧正實尊 松殿禪定殿下(基房)御息、

建久八年五月廿一日任權少僧都、十八、正治元年講師、建仁元年五月廿一日任權大僧都、同二年閏十月廿三日叙法印、承元三年十月他寺探題、建保二年正月十七日任權僧正、三十五、嘉祿二年七月二日補興福寺別當、四十七、十三日請取印鎰於大乘院、同年十二月卅日任僧正、同三年十二月十四日後堀河院春日行幸賞、十五日於黑木屋叙法務、安貞二年四月廿三日大衆燒失多武峯、五月四日依此罪科停廢寺務職畢、八月十九日依大衆訴訟令還着別當職畢、寬喜元年五月廿七日任大僧正、〔同十月廿八日辭法務、讓與尊遍得業申補權律師、同二年二月九日辭別當幷大僧正、〕同日被渡印鎰於通倉畢、嘉禎二年二月十九日於菩提山酉刻御入滅、五十七、

　權別當如前

同　道家　法務大僧正　晋賢寺殿
　　教實　權僧正實信　近衞禪定殿下（基通）御息、住一乘院、

寛喜二年三月廿一日任、治二年、依大騷動、同三年五月廿四日御上表、則奉納印鎰於寺庫、然而無勅許之間、六月一日被還渡印鎰了、同四年二月十八日重御辭退、雖無分明勅答、同廿日奉納印鎰了、

四條　教實　權僧正圓玄　五十八、隆季大納言息、住東北院、

寛喜四年三月九日任、治一年、貞永二年三月廿日奉納印鎰於寺庫了、是大衆蜂起之間、執務不調之由、長者殿下被思食歟之間、爲上表忽以被納辭狀了、嘉禎元年十二月十八日辭權僧正、以尊定律師申補權少僧都、同四年三月十八日轉正、六十四、同廿八日止僧正、以圓憲僧都申任大僧都、同年五月廿三日任法務、

　權別當法印權大僧都定玄　定能大納言息、住法雲院、

寛喜四年三月十五日任、六十二、建仁二年講師、三十二、建永元年任律師、三十六、建曆二年正月十五日任少僧都、三會巡、四十二、年月日任大僧都、元仁元年正月十四日叙法印、五十四、嘉禎四年三月廿四日任權僧正、春日行幸權官賞、六十八、濫行權別當任僧正始也、同年四月廿一日依淸水寺法師猥籍解官停任、僧正權別當淸水別當也、

同　教實　實信權僧正第二度、

貞永二年三月廿八日還補、同四月八日被請取了、治二年、文曆二年二月廿二日御上表、則奉納印鎰了、

　權別當如前、

同　道家、兼經、眞實、大乘院　九條殿道家御息　圓實法印權大僧都　法性寺禪定殿下御息、年廿二、住大乘院、

文曆二年三月四日任、同七月日御上表、是八幡宮寺領薪庄、與當寺領大住庄、相論用水之間、蜂起衆徒、而差遣東西兩堂衆、燒失薪庄、依之八幡神輿欲有入洛、彼此之沙汰强々間、御辭退、然而衆徒猶確執申依、不被奉還印鎰、

　權別當如前、

曆仁元年四月廿四日依淸水寺喧嘩事權別當解官停任、仁治三年定玄前權僧正還補、範玄僧正眞弟、

　權別當法印前大僧都圓經

嘉禎四年五月三日任、六十七、建永元年任律師、三十五、建保二年三月十六日任少僧都、春日行幸、權別當信憲讓、同四年

講師、四十五、承久元年任大僧都、嘉祿元年三月三日叙法印、五十四、三會巡、寬喜三年十一月四日補元興寺別當、

〔後嵯峨〕頁實權僧正定玄大納言定能息、七十三、

寬元二年正月二日宣下同二日渡印鎰於塔院、朝拜□日遂之、同三年十一月廿九日辭之、寶治元年七月十一日入滅、七十七、

同　權別當權僧正覺遍

寬元二年二月廿七日宣下、

頁實僧正實信第三度、

寬元三年十二月二日還補、同十日被渡印鎰於修南院、寶治元年十一月廿四日辭之、治二年、

後深草　兼經權別當前、同

前權僧正覺遍宗覺僧都眞弟、太政大臣宗輔公孫、七十三、

寶治元年十二月廿八日宣下、渡印鎰於東院、

正嘉二年七月廿九日入滅、八十四、

權別當法印權大僧都公緣大納言實明息、

同　兼經大僧正實信第四度、

寶治元年十二月廿八日宣下、

同
寶治二年閏十二月十八日御還補、治一年、
建長元年七月十日夜依衆徒事奉納印鎰御辭退、
權別當如元、

同　兼經
前僧正圓玄第二度、
建長元年八月廿日還補、
同二年正月十日辭之、同十一月廿八日入滅、七十六、
權別當如元、

同　兼經
權僧正公緣東門院、六十七、
建長二年正月廿一日宣下、
同年十月廿八日奉納印鎰、治十箇月、
權別當法印權大僧都親緣

同　兼經
大僧正實信第五度、
同日宣下、
建長二年十月廿八日宣下、治三年、
康元元年十月十七日入滅、五十八、
權別當如元、

同　兼平
權僧正親緣内大臣通親息、法務大僧正、七十、孝養院、
建長五年十月十五日宣下、
權別當法印權大僧都良盛、五十七、
同日宣下、

同　兼平
權僧正良盛成經息、六十、佛地院、
建長八年二月廿一日宣下、
權別當法印權大僧都定宗源少將顯任息、五十八、
同日宣下、

同　兼平
前大僧正圓實第二度、
正嘉二年十月十八日宣下、治一年、
文永元年依衆勘配流丹波國、
權別當如元、

【龜山】　兼平
前權僧正尊信(九條)洞院攝政家御息、三十二、
正元元年十一月廿一日宣下、
同廿六日被渡印鎰於大乘院、
文永三年四月四日御辭退、治七年、
權別當如元、

依種々不調被停任了、
權別當法印權大僧都賴圓四十九、
弘長二年八月一日宣下、

同　實經 法印權大僧都賴圓良兼僧都眞弟、中納言兼光卿孫、法務權僧正、五十三、東光院、
文永三年七月二日宣下、治二年、
同九日渡印鎰於東室、
權別當法印權大僧都實性五十二、
同七月十七日宣下、

同　基忠 權僧正實性親縁僧正眞弟、法雲院、
文永五年十二月廿八日渡印鎰了、治五年、
同十年四月十六日夜奉納印鎰於寺庫、
權別當法印權大僧都性譽
同年十二月卅日宣下、

同　基忠 權僧正信昭岡殿ヵ攝政御息、號淸淨光院、法務、前大僧正、
文永十年四月廿一日被渡印鎰了、
建治元年十二月廿九日御辭退、治二年、
權別當如元、

後宇多　兼平 法印權大僧都性譽覺遍僧正眞弟、光明院、
建治二年八月日宣下、同十一月任權僧正、六十二、
同三年十二月廿九日奉納於印鎰、治二年、
權別當法印玄雅
建治三年六月日任權僧正、

同　兼平 前大僧正尊信第二度、
建治四年正月十七日宣下、治一年、
弘安六年七月十三日御入寂、五十八、
權別當如元、

同　兼平 法務僧正信昭第二度、
弘安二年十二月十日宣下、
同四年三月十九日奉納印鎰、治二年、
同九年六月十四日御入滅、四十、
權別當如元、

同　兼平 權僧正慈信圓明寺殿息、法務大僧正、
弘安四年四月十一日宣下、

同年十月四日奉納印鎰了、治七箇月、
　權別當 如元、

同
　兼平
　權僧正玄雅 眞宗法眼眞弟、(イ本、宗經息、)住中南院、
弘安五年十二月十九日被仰下、同廿三日渡印鎰、
同六年十二月八日入寂、六十九、
　權別當法印權大僧都宗懷
弘安五年十二月廿三日宣下、於京都蒙仰云々、

〔同〕
　兼平
　權僧正宗懷 圓經法印眞弟、住修南院、
弘安六年十月廿八日被仰下、同十一月四日渡印鎰、
同九年十二月十七日奉納印鎰、
正應二年三月廿五日入寂、二十七、
　權別當法印權大僧都乘範 前大納言資季息、
弘安六年十一月五日宣下、
同七年九月廿四日入寂 五十四、
　權別當法印尊淸
弘安七年十二月宣下、

同
　兼平
　權僧正慈信 第二度、
弘安九年閏十二月廿五日宣下、同廿八日渡印鎰、
正應元年五月廿三日御辭退、
　權別當 如元、

伏見
　師忠
　權僧正尊淸 三位長淸息、住修南院、
正應元年五月廿七日宣下、
同二年九月二日入寂 五十五、
　權別當法印實懷、
正應元年六月宣下、

同
　權僧正實懷 實綠僧都眞弟、左大臣公繼公孫、住西院、五十五、
正應二年八月十八日宣下、
同三年十二月廿七日雖辭之無勅許、
同四年正月三日返渡印鎰、同二月一日辭之了、
同年四月廿四日入寂、五十七、
　權別當法印印寬 法眼覺豪眞弟、
正應二年八月廿八日宣下、
永仁元年九月十七日解職、

同 忠教
前大僧正慈信第三度、
正應四年三月廿八日宣下、
同五年正月十四日夜上表之、
權別當如元、

同 忠教
權僧正性譽第二度、七十七、
正應五年六月六日還補、同晦日渡印鎰、
德治元年十二月廿二日入寂、九十二、
權別當如元、

同 家基
前大僧正慈信第四度、
永仁元年八月八日宣下、
同三年五月五日上表之、
權別當如元、
永仁元年九月十七日上表之、于時權僧正也、
權別當權僧正顯覺五十六、

同 家基
永仁元年九月廿三日宣下、
權僧正顯覺堀河內大臣具實公息通具公孫、五十八、西南院

永仁三年六月十一日宣下、
同五年三月三日入寂、六十、
權別當法印尊憲
永仁三年七月晦日宣下、

同 兼忠
法印權大僧都尊憲緣盛法印眞弟、
永仁五年三月十七日宣下、渡印鎰於松室了、
同六年上表之、
權別當法印實昭

同 兼忠
後伏見
正權同日宣下、
權僧正實昭中納言實尙息、東光院、
永仁六年六月三日宣下、
正安元年五月二日奉納印鎰了、
權別當法印範憲

同 兼基
正權同日宣下、
權僧正範憲尊憲法印眞弟、參議宗雅卿猶子、五十三、
正安元年六月二日宣下、
同月七日渡印鎰、治一年、

權別當經譽法印
正權同日宣下、

同　兼基 前大僧正慈信第五度、
正安二年十一月四日還補、同十二日渡印鎰了、治
一年、
同年十二月六日興福寺金堂供養遂之、導師別當
大僧正、
權別當如元、

後二條　兼基 權僧正經譽按察中納言經俊息、修學房、
正安三年九月十二日宣下、
同十月三日渡印鎰、治一年、
權別當法印宗親
正安四年十月廿八日宣下、

〔同〕　僧正範憲第二度、
乾元元年十一月十五日宣下、
權別當如元、

同　兼基 大僧正覺昭後清淨光院西谷殿御息、卅九歲、
嘉元元年十一月二日宣下、同日被渡印鎰於一乘
院、
同二年十二月廿一日上表之、治一年、
延慶元年五月十六日入滅、四十四、
權別當如元、

同　兼基 權僧正尋覺普門寺殿御息、廿三歲、
嘉元二年十二月廿九日宣下、
同三年正月五日被渡印鎰於大乘院、
德治元年四月廿四日上表之、治二年、
權別當如元、

同　師教 權僧正宗親東林院、
嘉元四年五月九日宣下、
同二年正月八日上表之、治九箇月、
權別當權僧正公壽
德治元年六月八日宣下、

〔同〕　師教 僧正範憲第三度、

德治二年正月八日還補、同四月任大僧正、年四箇月、

權別當如元、

同　師教
僧正良信後發心院、圓光院殿御息、法務大僧正、三十一歲、

德治二年四月廿三日宣下、同廿八日被渡印鎰於一乘院、

同十二月十二日御上表、治九箇月、

權別當如元、

同　師教
權僧正公壽權大納言實持息、五十八、尊光院、

德治三年七月四日宣下、同廿日渡印鎰、治三箇月、

正和四年十月十六日入滅、六十五、

權別當權僧正信顯

正權同日宣下、

花園　師教
僧正尋覺第二度、法務大僧正、

德治三年十月六日還補、同九日被渡印鎰、治二年、

權別當如元、

同　冬平
大僧正良信第二度、

延慶三年三月十五日宣下、

應長二年二月廿八日御上表、今夜奉納印鎰、治二年、

權別當如元、

同　冬平
僧正信顯大僧正、前內大臣源通成公息、福薗院、

應長二年三月四日宣下、治一年、

同三年正月十日入寂、

權別當乘尋資氏朝臣息、資季孫、

正權同日宣下、正和二年五月一日入寂、六十一、

權別當前權僧正實聰西南院、

正和二年五月五日宣下、

同
大僧正範憲第四度、

正和二年七月一日宣下、

同三年正月廿八日奉納印鎰了、治二年、

權別當如元、

同

冬平 大僧正詩覺第三度、

正和四年二月十一日宣下、同二月廿四日被渡印鎰、治一年、

文保二年八月十五日入寂、三十七、

權別當如元、

同

僧正實聰前大納言爲氏卿息、

正和四年十二月四日宣下、嘉曆三年正月四日入寂、七十九、

權別當權僧正隆遍

正權同日宣下、

道平 前法務大僧正良信第三度、牛車宣、

同

正和五年十一月廿五日宣下、治一年、

權別當如元、

道平 僧正良覺高山殿御息、

同

文保元年十一月卅日宣下、

同二年正月轉大僧正、同六月上表之、治七箇月、

權別當如元、

後醍醐

道平 權僧正隆遍大納言隆親卿息、四條鷲尾、六十一歲、住修南院、光明院、

文保二年七月十六日宣下、治五箇月、

建武五年閏七月十七日入寂、八十一、

權別當法印顯親

同

內經 大僧正良覺第二度、

文保二年十一月廿九日宣下、

同十二月十日渡印鎰、治一年、

權別當如元、

〔同〕

內經 僧正覺圓西園寺入道太政大臣實兼公息、法務前大僧正、四十二、東北院、

元應元年十二月廿二日宣下、

同二年十二月晦日上表之、治二年、

權別當如元、

〔同〕

內經 前大僧正良覺第三度、

元亨元年二月十六日宣下、治七箇月、

權別當如元、

同

内經
前權僧正顯親院、松洞

元亨元年九月宣下、治三十餘日、

權別當良寛參議從三位經業息、

元亨元年宣下、正中二年二月十三日入寂、

〔同〕

權僧正覺尊五大院、淨土寺殿御息、

元亨元年十一月六日宣下、

同三年四月十七日上表之、治二年、

權別當如元、

〔同〕

前大僧正慈信第六度、六十七、

元亨三年五月九日宣下、治四箇月、終不被渡印鎰、

正中二年閏正月廿六日入寂、六十九、

權別當如元、

正中二年二月十三日良寛入滅之間新補在之、

權別當法印顯昭

同年二月十四日宣下、

同

前法務大僧正良信第四度、

元亨三年八月十五日宣下、治三年、

嘉曆元年十二月廿四日奉納印鎰、

同四年二月九日入寂、五十三、

權別當如元、

同

冬平
前權僧正顯昭刑部卿藤範長息、六十三、住理趣院、

嘉曆元年十二月廿七日宣下、

同二年十一月十一日上表之、治一年、

同四年八月十六日入寂、六十六、

權別當法印乘圓竹林院、

正權同日宣下、

〔同〕

道平
前大僧正範憲第五度、八十一、

嘉曆二年十一月十八日宣下、

同三年三月三日奉納印鎰、治四箇月、

曆應二年十二月十七日入寂、九十三、

權別當如元、

同

道平
法務大僧正良覺第四度、三十九、

嘉暦三年三月三日宣下、
同四年二月九日奉納印鎰、治一年、
　權別當如元、

同　道平　大僧正覺尊第二度、
嘉暦四年三月廿八日宣下、
元德元年十二月廿日奉納印鎰、治一年、
暦應二年五月十一日入寂、四十五、配所、
　權別當如元、

同　經忠　法務大僧正良覺第五度、
元德二年二月三日宣下、
同三年五月十五日奉納印鎰、六月廿三日還着、
正慶元年八月十一日上表、治二年、
同十四日入寂、四十二、
　權別當如元、

光嚴　冬教　權僧正乘圓資氏中將息、竹林院、六十歲、渡印鎰於竹林院、(イ本)
正慶元年八月十八日宣下、依學侶逐電不渡印鎰、
同二年六月十日上表、治一年、同十四日被成還權官、

後醍醐院自隱岐御所還幸、其間年號并僧俗官途等皆被棄置、
　權別當憲信
正慶元　宣下、超實源法印亂採題次第有先例云々、

後醍醐（重祚）　經忠　僧正覺實喜光寺殿、廿八歲、
元弘三年六月十四日宣下、同廿六日被渡印鎰、治三年、
建武三年十一月十四日上表、
　權別當僧正乘圓
先皇還幸之後、不被用正慶任官之間還補了、但建武元年被下先寺務之綸旨前官治定了、
　權別當權僧正能寛
建武元年五月宣下、
康永元年上表之、同三年二月廿七日入寂、六十六、

同　冬教　前法務大僧正覺圓第二度、
建武三年十二月三日宣下、治六箇月、終不渡印鎰、

曆應三年六月廿九日入寂、六十四、

權別當如元、

同　前大僧正覺實第二度、冬教

建武四年六月十一日宣下、同九月廿六日被渡印鎰、

曆應二年十一月上表、同十四日還着、但不被渡印鎰、

同四年八月十九日御歸座之後還着、同年十一月十七日又上表、同五年三月一日上座法眼清舜蒙寺務執行宣、

同六月廿四日寺務還着略儀也、寬元建長之例、

同年十二月廿六日被渡印鎰、治六年、但中絕、

權別當僧正良曉

康永元年十一月十六日宣下、能寬辭退之所、

〔光明〕僧正孝覺己心寺殿、廿五、師平

康永二年八月五日宣下、同十九日被渡印鎰了、

同十一月廿一日奉納印鎰了、

同四年二月十六日有還着之儀、

權別當如元、

同　前大僧正覺實第三度、師平

貞和二年二月十七日宣下、同十二月廿六日奉納印鎰、

觀應二年五月廿一日入滅、

權別當如元、

同　僧正良曉覺曉得業眞弟、良基

貞和三年二月六日院宣到來、依南曹所勞三度長者宣未到、然而聞九日書見參了、院宣到來之間且如此ロ之新儀歟、可尋之、

權別當實源

〔同〕大僧正孝覺第二度、良基

貞和三年十月廿四日三度長者宣到來、今度不被渡印鎰、

同四年十二月廿一日上表、同五年三月還着、

貞治五年十二月廿四日奉納印鎰、治十八年、

權別當如元、

實源文和二年五月三日入滅、仍範宗權僧正任權
官了、同五月十日
範宗僧正延文五年閏四月十六日入滅、仍顯遍任
權官了、

權別當顯遍

〔後光嚴〕良基 前僧正懷雅 尊懷法印眞弟、六十七、松林院、

貞治五年十二月廿五日宣下、
同六年正月十三日渡印鎰了、
應安元年三月十一日奉納印鎰、

權別當

〔同〕冬通 法務大僧正孝覺 第三度、五十歲、

應安元年三月五日宣下、長者宣三月廿七日到來、
三度長者宣以前唯識講廻請還奉了、三月廿四日、
同年九月十九日入寂、五十、

權別當

〔同〕冬通 權僧正賴乘 安養院、室按察大納言賴藤卿息、

應安元年十月三日宣下、

權別當盛深

同年十月廿二日宣下、

〔同〕權僧正盛深 修南院、

應安三年二月十三日宣下、三度長者宣以前書見
參、

權別當僧正顯遍

應安三年三月廿九日成還權官了、宣下日不分明、
法雲院定玄僧正之例歟、可尋之、權別當參先度書
之間、今度略之云々、又寺務次座廻請等薦次難義
之間、正僧正之後同還權僧正了、先例不審也、

後圓融 師良 僧正顯遍 東林院、三位賴任息、

應安三年十二月廿九日三度長者宣到來了、但寺
務改補事未定之間、修南院盛源、未及奉納印鎰歟、

權別當僧正實遍

應安四年正月宣下、

後圓融　師覚僧正盛深第一度、
應安五年二月二日宣下、依神口機嫌不渡印鎰、
權別當權僧正實遍

同　師覚權僧正實遍法雲院、洞院按察大納言公敏息、六十歲、
應安六年十二月廿一日院宣到來、
同七年
權別當權僧正印覺六十八歲、
應安六年十二月廿九日院宣到來、
超範忠法印轉權僧正應安三正、權官又超越了、

同　師長權僧正印覺松洞院、
永和元年八月十二日宣下、同廿五日三度長者宣
到來、
同年九月五日渡印鎰於松室了、治三年、
同三年十二月廿四日當職謙退、同夜奉納印鎰了、
同四年正月十七日入滅、七十三歲、
權別當權僧正範忠
永和二年六月廿三日入滅了、

權別當法印權大僧都隆圓
永和二年七月廿九日宣下、

同　忠基權僧正隆圓慈恩院、六十一、
永和三年十二月廿七日寺務事被下内々綸旨了、圖書頭右大辨資康奉、
同四年正月十日於東室請取三度長者宣了、十二日渡印鎰、并西金堂着座致沙汰了、同四年正月廿
五日後光嚴院法皇御八講證義參勤了、
權別當法印權大僧都圓守五十四、
永和四年三月廿四日宣下、

同　師嗣法務僧正實遍第二度、六十九歲、
康暦元年六月五日於法雲院請取三度長者宣了、
見參不書之云々、
權別當如元、

同　師嗣法印權大僧都圓守東院、五十六歲、
康暦二年八月廿七日子刻長者宣到來、依神木御入
洛三綱等不參也、

權別當未補、
同
師嗣前法務僧正實遍第三度、
永德元年四月之比歟、寺務事雖被宣下、寺門衆徒
亦及確執之間、不及沙汰也、
權別當未補、
後小松
師嗣權僧正圓守第二度、五十八、
永德二年四月十五日三度長者宣到來、寺門於不
落居間三綱等不參也、
權別當法印權大僧都孝憲五十四、
永德三年七月□日宣下、
同年十月十七日官符衆徒令罪科、寺務後見下御
門口宿所破却、先代未聞之次第也、禪定院御領外
河庄事依違亂及御披露歟、同廿日令停廢寺務可等カ
被補新寺敎之由及言上云々、別令五以尊繼書上
云々、然而依歎申同廿三日免除了、
同
長基法印權大僧都孝憲來迎院、六十六、
至德元年十二月廿五日於東室請取三度長者宣
了、
權別當法印權大僧都覺成
同年十二月□宣下、
同
長基法印權大僧都覺成禪光院、六十八、
至德三年五月三日於東室請取三度長者宣了、
權別當法印權大僧都覺家
同年五月□日宣下、
同
兼嗣法印權大僧都覺家西南院、六十一、
至德四年正月廿八日於西南院三度長者宣請取
了、
權別當法印權大僧都圓兼
同
兼嗣法印權大僧都圓兼東北院、
嘉慶二年二月廿一日於東北院請取三度長者宣
了、同廿五日奉渡印鎰於東室了、
權別當法印權大僧都長懷
同三月一日宣下了、

同

法印大僧都良昭廿六、

嘉慶二年十月十七日於一乘院被請取三度長者宣、同十一月三日被渡印鎰於一乘院了、

康應二年二月廿八日亥刻被奉納印鎰了、

權別當如元、

同

僧正孝尋

康應二年三月十二日於禪定院被請取三度長者宣、同廿九日被渡印鎰於東室了、

權別當如元、

同

權僧正長懷松林院、五十一、

明德三年十二月廿三日宣下了、三度長者宣雖不到來、寺務事一向致沙汰云々、

同四年正月十七日於淨興院請取長者宣了、同二月五日奉渡印鎰於西院了、

權別當權僧正長雅

同

大僧正孝尋第二度、

應永元年十二月廿三日宣下了、三度長者宣着於京都被請取云々、

同二年十一月十八日上表印鎰自法雲院被奉納了、

權別當如元、

同

權僧正長雅北戒壇院、

應永二年十一月十七日宣下、同十四日於北戒壇院請取三度長者宣、同十二月二日奉渡印鎰於同所了、

同四年七月廿七日上表奉納印鎰了、

權別當法印權大僧都實惠修南院、

同

僧正圓乘第二度、

應永四年七月廿八日內々長者宣到來、同八月八日三度長者宣於東北院請取之、同十三日奉渡印鎰於東室了、

同五年六月二日上表、

權別當如元、

同

師嗣

前法務大僧正良昭第二度、

應永五年六月四日宣下、同廿三日三度長者宣到來、同七月六日被渡印鎰於一乘院了、
同七年三月十五日御上表、
權別當如元、

〔同〕 僧正實惠 修南院、六十七、

應永七年三月十六日三度長者宣、於修南院請取之、
同廿日渡印鎰於東室了、
權別當權僧正圓尋

〔同〕 法印大僧都孝圓 大乘院御方、

應永九年五月四日於禪定院三度長者宣被請取、
同廿八日被渡印鎰於東室了、
同十二年十二月十八日印鎰奉納了、
權別當如元、

〔同〕 權僧正圓尋 東門院、

應永十二年十二月十八日於東室請取三度長者宣、同十三年正月十一日奉渡印鎰於東室了、
同十四年二月十五日奉納印鎰了、
權別當法印權大僧都隆俊

〔同〕 權僧正隆俊 西南院、

應永十四年二月八日於西南院三度長者宣請取之、
同十五年十月二日奉納印鎰了、
權別當法印權大僧都實雅 松林院、

〔同〕 忠闕 大僧都良兼

應永十五年九月卅日於一乘院被請取三度長者宣了、同十二月十五日被奉渡印鎰於一乘院了、依樂所違亂延引了、
一□□御初任之時、被召新供目代之條有限規式也、然自今夜法花會可有始行之處、新供目代〃無之時、古供目代可爲何樣哉、然者法花會可有延引歟之由、及其沙汰之條、爲竪者不便也、只以古供目代被始行之、法花會以後可被召新供目代之由、學侶執申之旨、以其通被始行了、
同十月七日新供目代懷緣被召之、

權別當知元、
同十六年三月九日入滅了、
權別當法印權大僧都實照
同三月四日宣下了、
〔同〕經調
法印權大僧都實照法雲院、法務僧正實遍眞弟、
應永十八年二月二カ六日宣下、同九日官牒到來、同十
六日長者宣於法雲院請取之、則書見參了、
同十九年十二月十三日上表、
權別當法印權大僧都兼覺
同日宣下、
稱光
權僧正兼覺慈恩院、五十二、
應永十九年十二月廿三日於京都口宣拜領、
同廿三日官牒幷長者宣到來、於慈恩院請取之、則
書見參、
同廿年正月十九日渡印鎰於東室了、
同廿一年四月廿八日上表、
權別當權僧正光曉
應永廿年正月十七日宣下了、

權官宣下延引事、松林院權僧正光雅與東院光曉
致相論之謂也、所以者何、於先途之前後者、可守
探題之次第之條一段政代也、而光雅者雖爲年戒
上首、於遂講探題者、光曉孝俊乘雅空照數輩以後
勤仕了、仍光曉者任一段掟旨、亂探題之次第、不
被補權官之由申之、光雅者不依探題之臈、以年
戒之次第宣下、且舊例之由申之、兩方各雖立申其
理、輙不落居之間、爲遂僧綱之評定以連署光曉
理運之由雖執申、年內猶以不及勅許之間、明春重
而依付進運狀、於傳奏邊爲武家執奏、終任理運被
宣下了、公家ニハ光雅立申分モ凡有其故之樣ニ有
叡慮歟、少々又不次之例モ在之歟、今度之儀及强
論之間注巨細者也、
連署人數
一乘院 實照 兼覺 孝俊 乘雅 空照 以上
也、
〔同〕
權僧正光曉東院、五十二、
應永廿一年四月廿五日宣下、同廿八日三度長者
宣於東院請取之、同五月十日渡印鎰於東室了、印

鎰渡之時分南下、西金堂若座之時分、以外之大雨也、
同廿二年乙未十二月廿日上表、
權別當權僧正孝俊
同日宣下、同月三日長者宣到來云々、
〔同〕
權僧正孝俊仰地院、四十九、
同廿二年乙未十二月廿三日宣下、三度長者宣於仰地院請取之、見參書之、同廿七日渡印鎰於東室了、
同廿六年戊戌五月十三日上表、
權別當權僧正乘雅竹林院、三十四、
正權同日宣下、
應永廿四年丁酉九月等持寺御八講證義御請□□□故障申、其次權別當職同辭退申了、證義參勤爲欲治□後職可辭申之雖及御沙汰、非權官證義參勤連綿之上者、可同辭申之處、遮而一職共以上表未曾有之儀歟、
權別當權僧正空昭
同五月□日宣下、
〔同〕
滿教
僧正空昭喜多院、□□五、
同廿六年戊戌五月十九日、於喜多院二度長者宣請取之、同廿六日渡印鎰於喜多院了、
權別當權僧正光雅松林院、六十、
同日宣下、
〔同〕
滿教
僧正光雅
應永廿九年〔壬寅〕二月九日宣下、興寺
同卯月廿六日渡印鎰於兵西院、
權別當權僧正隆雅
〔同〕
持基
權僧正隆雅北戒壇院、久我太政大臣具通息、卅七、
應永卅一年甲辰五月一日宣下、同六月一日於北戒壇院渡印鎰了、
同卅二年十二月□日奉納印鎰、
文正□年二月入寂、七十九、
權別當僧正乘雅還補、
〔同〕
僧正乘雅平松中納言資綱息、五十、

尊鶴殿

同七年十二月廿六日辭退、奉納印鎰、

權別當如元、

〔同〕

權僧正兼昭松洞院、甘露寺大納言兼長息、〔五十一、

永享七年十二月廿六日宣下、

同八年正月十七日於淨名院三度長者宣請取之、

同三月十二日於東室渡印鎰、

同四月五日奉納印鎰了、同十月三日入寂、五十四、

權別當法印大僧都覺雅卅九歲、□名宣雅、

同日宣下、

〔同〕

持基

法印大僧都覺雅密嚴院僧正、久我左大將通宣息、

永享八年九月三日宣下、同十四日於北戒壇院三度長者宣請取之、同廿三日渡印鎰、

同九年十二月十三日爲師匠僧正隆雅沙汰、奉納印鎰了、

權別當法印權大僧都實意法雲院、

同日宣下、

依爲先途之上首、閣戒﨟上首之隆秀法印、任權官了、

〔同〕

持基

法印權大僧都隆秀光明院、四條管尼中納言隆敦卿息、

永享九年丁巳十二月十二日宣下、同十三日三度長者宣於東門院請取之、凡人直任希有也、依將軍家別段御執奏也、

同十九日渡印鎰於東門院、寬正六年九月廿三日入寂、七十三、

權別當如元、

〔同〕

法印權大僧都實意楊梅三位親家息、

嘉吉元年辛酉八月十五日宣下、三度長者宣於淨瑠璃院請取之、同卅日渡印鎰於東室、

同二年三月　日奉納印鎰、享德三年十二月八日入寂、六十二、

權別當法印權大僧都浚圓、

同日宣下、

〔同〕

權僧正俊圓本名光圓、日野裏松贈左大臣重光息、東北院大僧正、文明十六甲辰五月十二日入滅、八十四歲、

嘉吉二年壬戌三月十六日宣下、同廿七日於東北院

渡印鎰、使所司寺主玄兼、上座泰祐、母服也、
同三年七月廿一日慶雲院殿逝去之間、俄辭退了、
　權別當權僧正兼曉、
〔同〕　權僧正兼曉 慈恩院、准大臣兼宣(廣橋)息、
嘉吉五年癸亥七月廿九日宣下、三度長者宣於慈恩
院請取之、同八月十二日渡印鎰於東室、
文安二年四月　奉納印鎰、寶德二正九入寂、四十九、
　權別當權僧正貞兼
〔同〕　房嗣 權僧正貞兼 松林院、准大臣兼宣息、實者伊勢守貞行息、
文安二年乙丑四月廿一日宣下、同廿八日渡印鎰於
西院、
同五年四月廿三日奉納印鎰、寶德四四八日入寂、五十歲、
　權別當權僧正重覺
同日宣下
〔同〕　兼良 權僧正重覺 本名光覺、後圓舍弟、西南院、

文安五年戊辰四月十二日宣下、廿七日渡印鎰於西
南院、
寶德二年七月十六日入寂、四十七、
　權別當權僧正良雅
同日宣下、
〔同〕　權僧正良雅 勝願院、良清律師眞弟、兼宣(廣橋)猶子、
寶德二年庚午四月廿六日宣下、同五月十三日渡印
鎰於東室、
同四年三月廿七日奉納印鎰了、寛正丁戌十二廿四
日入寂、八十、
　權別當法印大僧都空俊 四十一、
〔同〕　僧正空俊 喜多院、德大寺太政大臣公俊息、
寶德四年壬申四月七日於喜多院三度長者宣請取
之、同十六日渡印鎰了、使所司權上座綱舜、
享德三年三月廿七日奉印鎰、應仁三正廿四入寂、六十、
　權別當法印權大僧都光政 改憲、

〔同〕　少僧都敎玄一乘院法務大僧正、鷹司關白房平公御息、號後昭光院、廿六、

享德三年甲戌三月廿八日於一乘院三度長者宣被請取、同四月十五日被渡印鎰於一乘院、依舞人訴訟入夜了、

同十六日佛生會行之、依未被渡印鎰延引歟、

康正二年四月十三日夜奉納印鎰、二月十日寺務事大乘院宣下、一乘院未及辭退之由被申之、同日京都□□□三月唯議講大乘院判出之、四月八日佛生會大乘院家判被出之□講廻請閅(同カ)之、

　權別當如元、

〔同〕　僧正尋尊大乘院、一條禪閤兼良三男、廿七、

康正二年丙子二月十一日宣下、十七日於禪定院三度長者宣請取之、七月八日於西院渡印鎰了、

長祿三年三月廿三日奉納印鎰於寺庫、

　權別當如元、

〔同〕　權僧正光憲修南院、兼曉僧正舍弟、文明十三年五(三イ)月廿二日入寂、七十一、

長祿三年己卯四月四日於修南院三度長者宣請取、

寬正二年正月十六日戌刻奉納印鎰於寺庫、

　權別當權大僧都兼圓

〔同〕　前大僧正經覺第三度、自永享九年八月七日隱居、

寬正二年辛巳二月廿二日宣下、同廿四日戌刻於禪定院三度長者宣被請取之、三月廿三日於東室被渡印鎰了、

同四年六月九日奉納印鎰於寺庫、

　權別當如元、

〔同〕　權僧正兼圓東院、右衛門督兼俊朝臣息、(廣橋)兼卿養子、

寬正四年癸未六月十三日宣下、同廿九日於東室渡印鎰、着座拜賀沙汰之、

同六年五月三日奉•(納カ)印鎰於寺庫、

　權別當權大僧都兼雅

〔同〕　法印權大僧都兼雅松林院、日野權中納言宣光息、改親光、卅二、改兼卿、文明十三五月入滅、四十八、

寬正六年乙酉五月十二日三度長者宣於松林院請取、

同六月六日於興西院渡印鎰了、

應仁元年五月四日夜奉納印鎰於寺庫、

同日宣下、

權別當權少僧都孝祐 廿九、

〔後土御門〕 兼良 法印權大僧都孝祐 東門院、飛驒國司古川左中將持言息、孝俊僧正弟子、

應仁元年丁亥五月廿日除服 去年九月母他界故也、 同廿二日於東門院請取三度長者宣、六月廿七日渡印鎰、使所司權上座寛貞、

同三年二月廿九日奉納印鎰於寺庫、

一除服宣下事先規希有云々、但一乘院良覺第五度御再任、元德二、御觸穢中云々、

權別當法印大僧都光淳 未探題、

同日宣下、

〔同〕 前大僧正經覺 第四度、七十五歲、

文明元改元四十七 應仁三年己丑三月卅日宣下、同四月廿一日於古市迎福寺被請取三度長者宣了、元應三年三月十八日一乘院良覺於超昇寺有此儀後御例云々、同四月廿三日早旦被鈞鐘木被用日次佛聖了、於印鎰者終不被渡也、

文明五年□月廿六日寺務上表之由仰公文目代云云、同年八月廿七日於迎福寺入寂、七十九、

權別當 如元、

〔同〕 政嗣 法印大僧都光淳 西南院、日野辨政光朝臣息、唯稱院左大臣勝光弟、

文明五年癸巳八月廿九日宣下、大亂中之間不及三度長者宣、口宣案幷傳奏奉書到來云々、

同八年三月 日奉納印鎰於寺庫、

權別當權少僧都任圓 未探題、

〔同〕 政基 法印權大僧都任圓 號淨法院、日野准大臣資任息、

文明八年丙申三月廿四日宣下、四月十一日於東北院渡印鎰、猶依大亂宣下到來略式也、

依西金堂□□着座遲々、同廿七日任權僧正、

權別當法印權大僧都尊譽

同年四月五日宣下、十月廿九日任權僧正、

〔同〕 政家 權僧正尊譽 號東林院、孝祐僧正舍弟、

文明十二年庚子四月廿八日宣下、

同五月一日於東門院見參書之宣下、猶以略式也、

同七月二日渡印鎰於東門院着座等同日、大乘院祇候之間、於當職中者以東門院稱寺家坊云々、

權別當法印權大僧都隆憲（未探題、）

正權同日宣下、同自四月廿九日於竹林院書見參、

政

〔同〕（尙通）權僧正政覺（二條大閤持通公息、未探題、）

文明十五年（癸卯）二月　日於京都宣下等令拜領趣云云、同廿二日於大乘院被付見參云々、

同卯月十五日於東室被渡印鎰幷御拜賀、御着座等被示之儀云々、明應三年三月十六日入滅、（四十口歲、）

明應二年（癸丑）十二月廿七日令上表了、奉號後智惠光院、

權別當（如元、）

〔同〕（尙通）權僧正隆憲（鷲尾大納言隆遠卿息、光明院、）

明應三年（甲寅）正月十六日宣下、幷三度長者宣等於以雜掌拜領了、同自廿二日付見參了、

一同二月廿二日渡印鎰於竹林院了、使所司兼乘法橋奉仕了、

一同日西金堂着座、金堂御誦經幷參社在之、

一心經會事、寺務未補之間、雖須有延行、以權官加判可被遂行之旨、學侶衆議之間、正月十三日如恒例被執行了、

同五年（辰）十二月廿七日上表、奉納印鎰於寺庫了、

權別當法印大僧都空覺

同年同月日宣下、同廿二日付見參了、

〔同〕（尙通）權僧正空覺（喜多院、德大寺右大臣公有公息、）

明應六（丁巳）正月十八日宣下、

同二月十六日渡印鎰於喜多院、着座參社等如例云々、使所司兼乘法橋奉仕之云々、

權別當法印權大僧都光慶

同日宣下云々、

〔同〕

權僧正光慶廣橋大納言綱光子、修南院住、

明應九年庚申二月十八日於修南院現參付之、
三月三日印鎰渡之、使所司、
同日之參賀着座、御誦經同沙汰之、
自明應九庚申至永正八辛未十二箇年執行、依維摩會武家亂入等之儀、不被施行、仍權官令闕如之間、未補次座也、

權別當權大僧都兼繼

同年月日於東院現參付之、三月五日參賀任圓曉之例步儀云々

〔後柏原〕

法印大僧都云々
僧正良譽近衛大閤政家公息、一乘院住、

永正九年壬申三月　日於一乘院見參被付之、
同三月十四日於一乘院印鎰渡之、西金室(堂カ)御誦經參社同日、

權別當如元、

〔同〕

權僧正兼繼宣下以後任權僧正云々、町大納言廣光卿子、

永正十六年己卯六月廿一日見參於東院付之、宣下日付六月十四日、
同廿八日印鎰於東室渡之、使所司泰弘相模上座、奉仕之、西金堂着座幷社參御誦經等同日沙汰之、

權別當法印大僧都圓深宣下同日、轉權僧正、仍見參等懸赤袈裟、

見參同日付之、西南院大門顛倒中門無之、於見參者於中屋付之、見參出入自小門沙汰之、
同七月十日西金室(堂カ)着座、幷社參在之、步儀之沙汰云々、

〔同〕

法印大僧都經尋住大乘院、九條關白尙經公息、

大永二年壬午三月十一日見參被付之、
同六年丙戌八月十八日入滅、廿九歲、號後大乘院、

權官如元、

〔同〕

權僧正圓深住西南院、（但寺外西南院沽却、於不動院沙汰之、日野左大臣勝光公息、彼坊號西南院〕

大永六年丙戌九月　日見參付之、

權別當權僧正孝緣

見參同日沙汰之、於東門院付之、
九月廿日西金堂着座、參社同日、步儀沙汰也、近

例、

〔後奈良〕　權僧正孝緣（住東門院、伊勢國司源政具子、）

享祿二年（己丑）九月八日宣下、見參從、同十一日於東門院付之、西金堂着座、

同十月二日印鎰於東門院渡之、使所司宣舜（伊與法眼、）奉仕之、西金堂着座、幷參社同日沙汰之、

同四年（辛卯）十二月廿六日上表、同廿七日印鎰奉納、

權別當法印大僧都實憲（於宣下者正大僧都、雖然權大僧都之由被（披カ）露之旨、諸廻請法印權大僧都載之、從家門被執申轉任者正大僧都也、）

宣下同日、見參同日也、於光明院沙汰之、

同九月廿三日西金堂着座、幷社參沙汰之、任近例步儀也、

〔同〕　權僧正實憲（又號菊□、號後法雲院）（關白殖家（近衞御方）住光明院、但以竹林院號光明院、同先師時、南曹左中辨兼秀（廣橋）今出川左大臣公息、）

享祿五年（壬辰）正月十七日口宣案、三度長者宣告書合五通、

同廿日到來、同廿六日見參付之、（權官同日見參所望處、依權官方見參事不調如此遲々、）

同三月五日印鎰渡之、（使所司宣舜法眼、）同日西金堂着座、

同社參沙汰之、

權別當法印權大僧都晃圓

宣下同日、見參別當與同日付之、二月十一日轉權僧正、

同日參賀、幷西金堂着座、步儀如近例、

〔同〕　權僧正晃圓（住東北院、町大納言廣光卿子、）

天文四年（乙未）二月廿三日任、

同五年（丙申）閏十月　日去別當、從一乘院依御初參如此、

權別當大僧都空實（未探題、）

同月日任、

〔同〕　大僧正兼繼（再任、住東院、）

天文五年（丙申）十一月　日見參付之、

遂不渡於印鎰者也、再任之時渡不渡於印鎰之例達歟、大乘院經覺第四度目之時者、不被渡之也、其例歟、

權官（如元、）

〔同〕 大僧都覺譽近衛關白尙通公息、住一乘院、未探題、
天文六年丁酉十一月十三日任、
權官如元、

〔同〕 僧正尋圓住大乘院、九條關白尙經公息、經尋舍弟也、宣下以後轉任僧正云々、
天文十九年庚戌三月廿九日印鎰於東室被渡之、西金堂着座、幷參社御誦經等同日沙汰之、社參者印鎰不被渡之、前大乘院ヨリ車ニテ沙汰之、從其車廻新乘院西御門、東室被移畢、社參之次第皆近例歟、使所司亮乘法眼奉仕之、
權別當同前、

〔正親町〕 僧正空實住喜多院、德大寺入道太政大臣實淳公息、
永祿六年癸亥閏十二月廿一日於喜多院見參付之、三度之長者宣等昨夕到來了云々、
同七年甲子十一月十二日渡印鎰於東室、同日早旦參社了、從喜多院至慶賀門、西御門、用手輿自慶賀門至社頭、車宿四方輿幷騎馬等如常、歸路者從東御門用手輿、移東室、請取於印鎰之後、西金堂着座、御誦經沙汰之、依舞人訴詔訟カ、及深更之間、各松明取之、自西金堂直喜多院仁歸院畢、使所司堯乘上座奉仕、
同十一年戊辰八月廿日上表、則印鎰奉納畢、

權官僧正光尊
永祿六年癸亥閏十一月廿一日於修南院見參付之、遂參賀幷西金堂着座、不能其沙汰者也、
永祿二年己未六月下旬比、攝津國侍松永彈正忠久秀當國江令亂入之間、國侍大略□□也、剩拵眉間寺山於城郭、從其國中在々所々持□續カ在之時、寺社歎有餘者也、改眉間寺山、令號多聞山城者也、
同四月、當國者令出張雖攻多聞山城、無其□、各牢人訖、同十年丁卯月、從堺津松永久秀出張畢、仍從去年當國之諸牢人衆、筒井順慶房陽舜等初而令出張多聞山攻詰、若宮祭禮等執行之、久秀自堺津卒率カ軍勢、多聞山歸城條、當國衆令敗軍訖、雖□□勢□當國之諸牢人□□三好同名之一類、攝津國山下也、他國之猛勢雖□□松永彈正少弼久秀者多聞山城眉間寺山事也、引籠、同息右衛門佐久通□□□□□□□□相拘□節中々也、無勢之條諸□□□□□寺

續々群書類從第一終

正誤　三〇四頁上段初須如左改

光格天皇（原本無今補之）

安永九　同十（天明元）　天明二　同三　同四

同五　同六　同七　同八　同九（寛政元）

寛政二　同三　同四　同五　同六

同七　同八　同九　同十　同十一

同十二　同十三（享和元）　享和二

明治四十年一月二十日印刷
明治四十年一月廿五日發行

非賣品

編輯兼發行者　東京市京橋區南傳馬町一丁目十二番地
國書刊行會代表者
市島謙吉

印刷者　東京市京橋區新榮町五丁目三番地
本間季男

印刷所　東京市京橋區新榮町五丁目三番地
內外印刷株式會社分工場